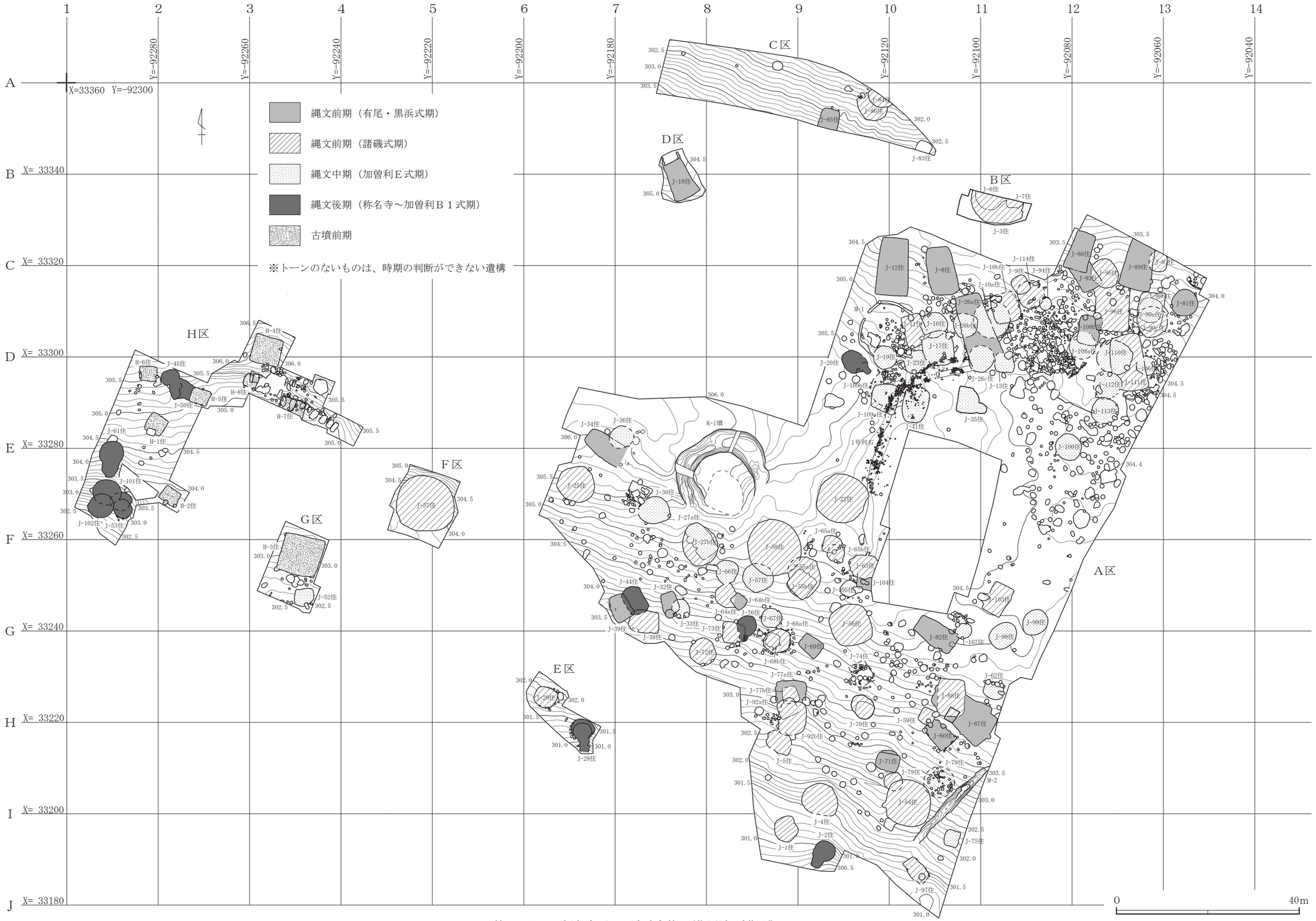
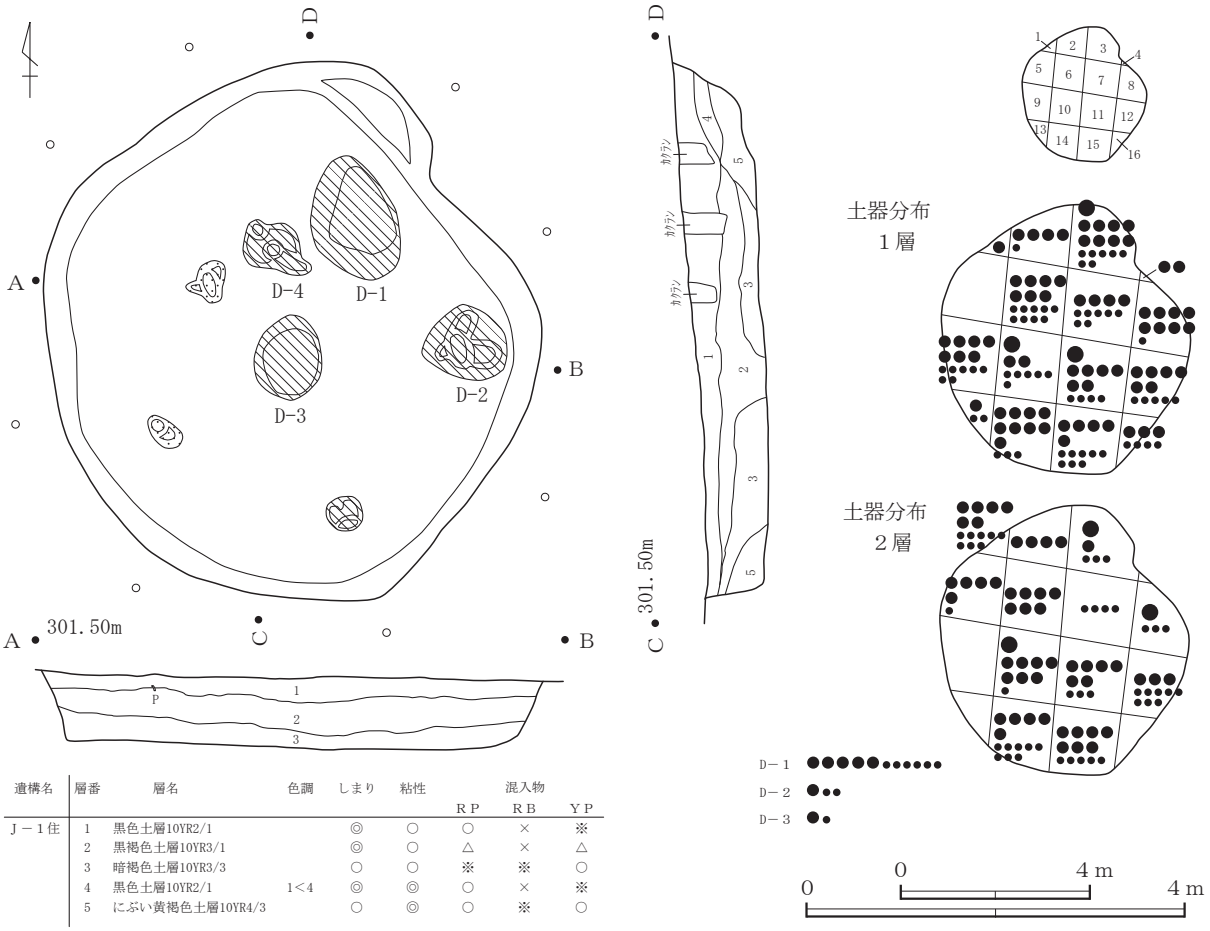
（４）遺構・遺物の実測図

ⅱ．二軒在家原田Ⅱ遺跡



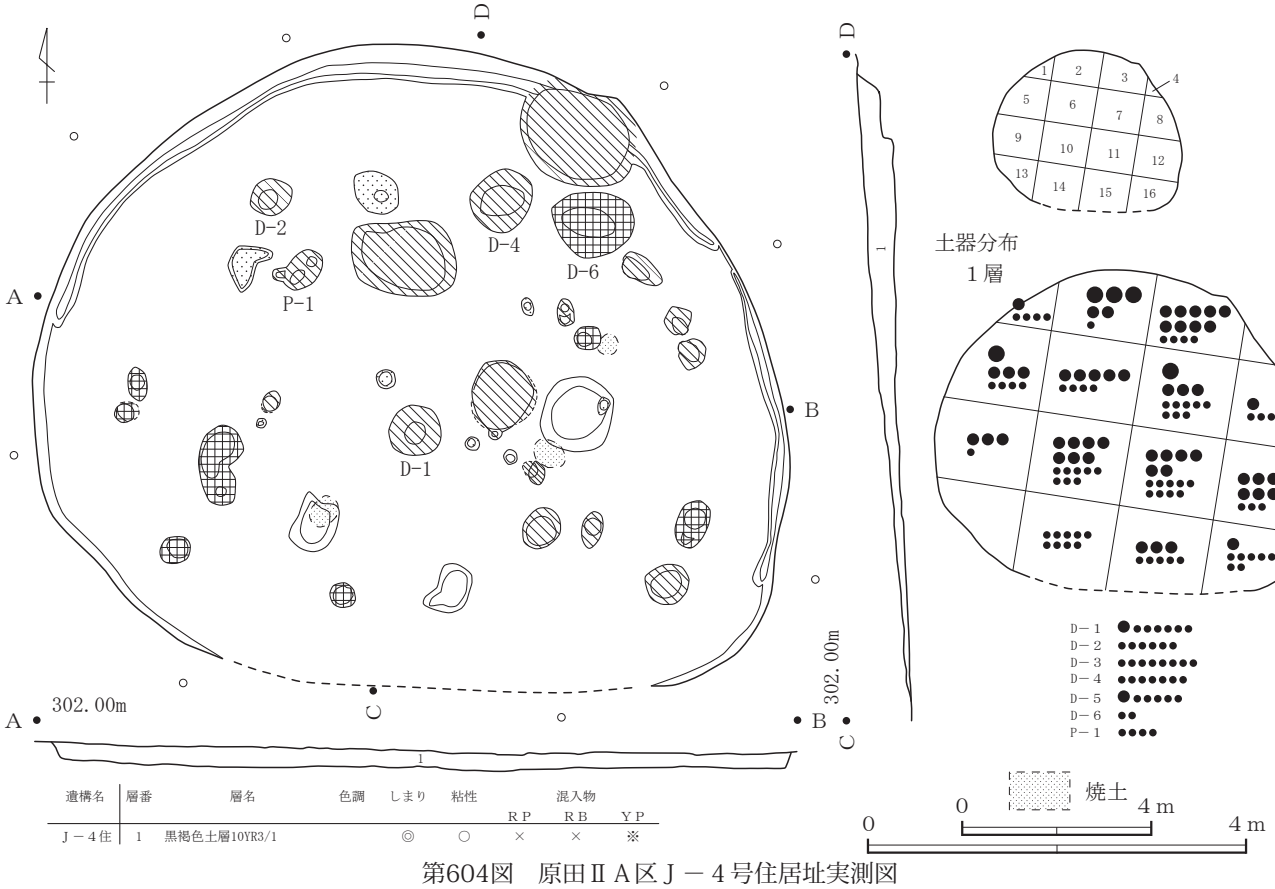
第601図　二軒在家原田Ⅱ遺跡全体図（住居址・時期別）

第602図　二軒在家原田Ⅱ遺跡全体図（住居址以外・時期別）



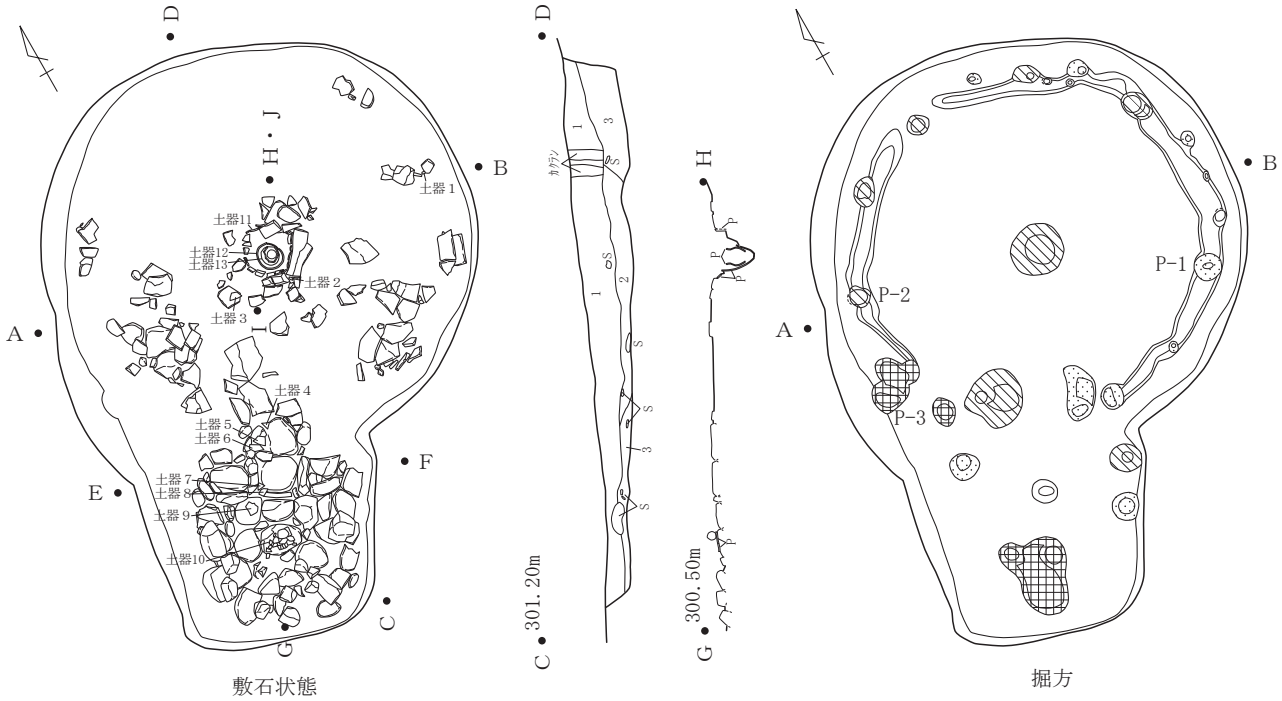
遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物		
						RP	RB	YP
J－1住	1	黒色土層10YR2/1		◎	○	○	×	※
	2	黒褐色土層10YR3/1		◎	○	△	×	△
	3	暗褐色土層10YR3/3		○	○	※	※	○
	4	黒色土層10YR2/1	1＜4	◎	◎	○	×	※
	5	にぶい黄褐色土層10YR4/3		○	◎	○	※	○

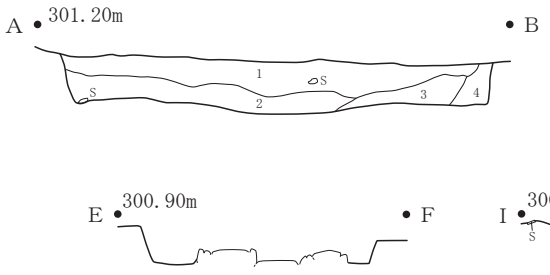
第603図　原田Ⅱ A区 J － 1 号住居址実測図

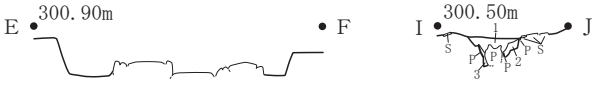


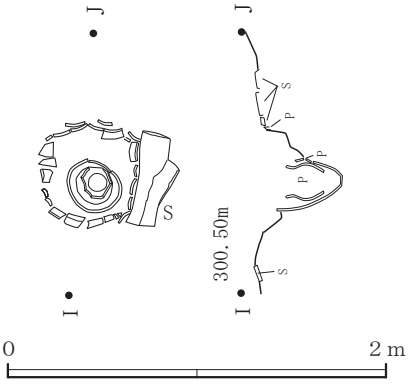
遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物		
						RP	RB	YP
J－4住	1	黒褐色土層10YR3/1		◎	○	×	×	※

第604図　原田Ⅱ A区 J － 4 号住居址実測図

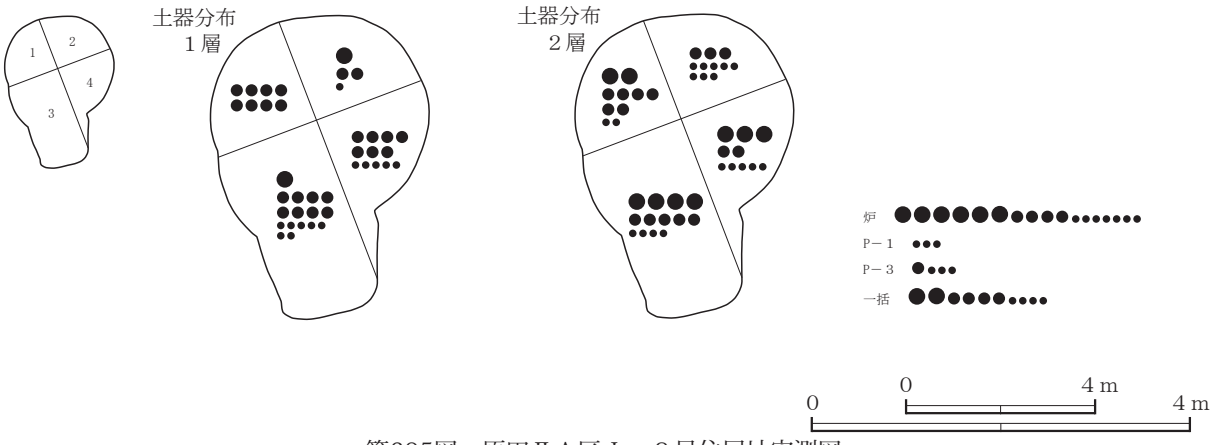




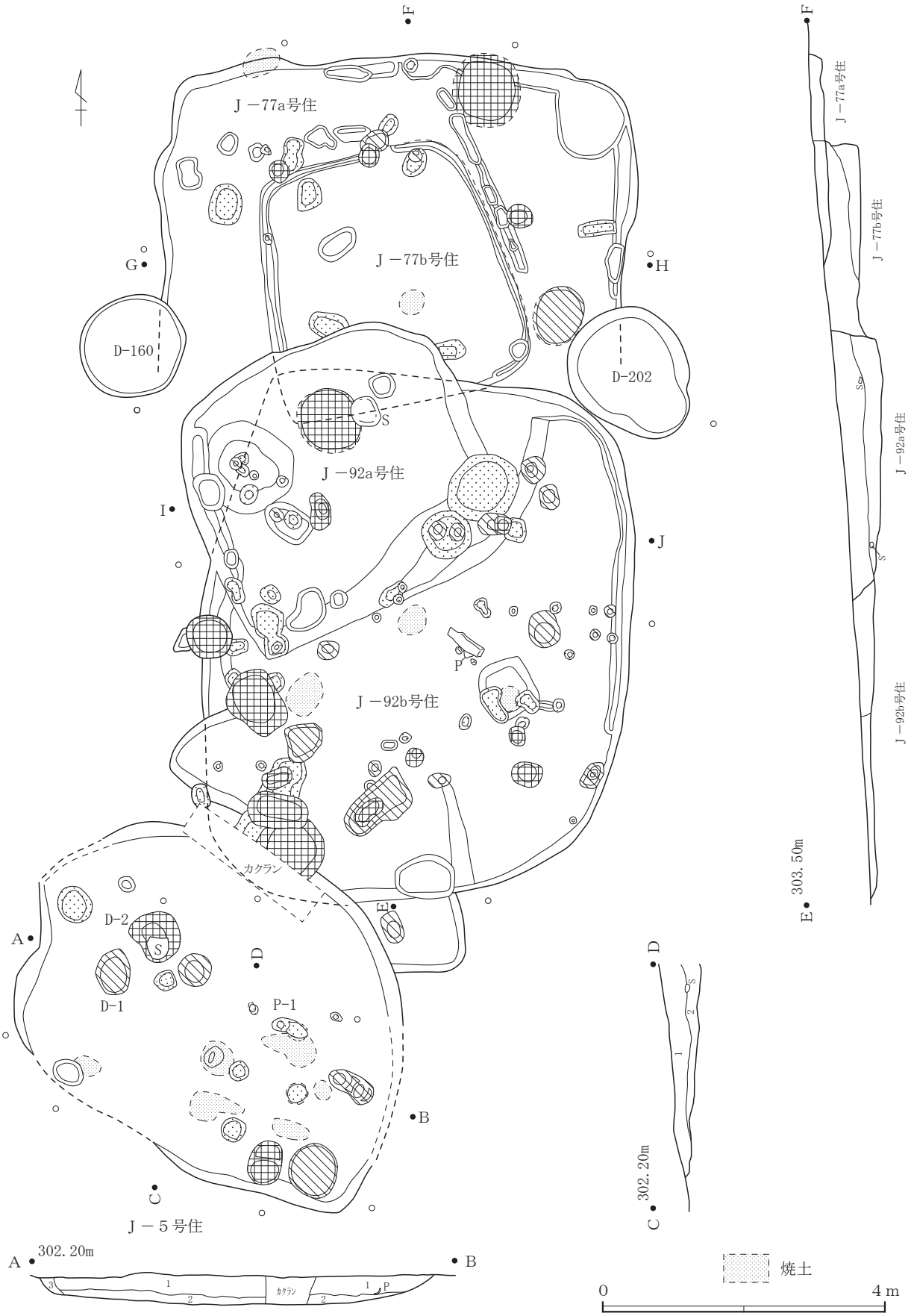




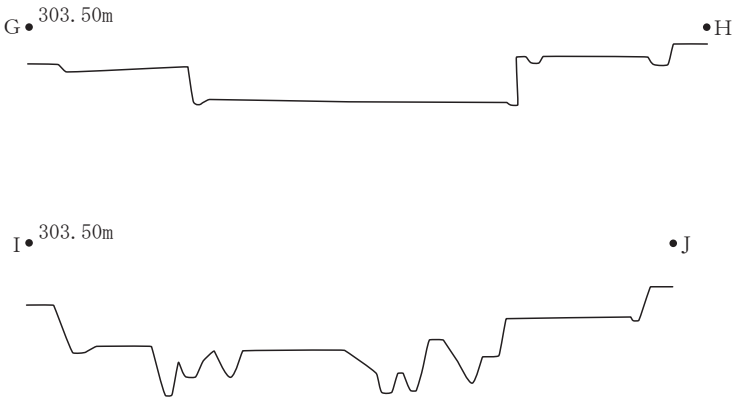
遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	混入物 RB	混入物 YP	炭化物	焼土
J－2住	1	黒褐色土層10YR3/1		◎	○	×	×	※		
	2	黒褐色土層10YR3/2		◎	◎	×	×	△		
	3	黒褐色土層10YR3/2	2<3	◎	◎	※	×	○		
	4	黒褐色土層10YR2/2		◎	◎	×	×	※		
炉	1	黒褐色土層10YR3/2		△	△	※	※	△	△	※
	2	にぶい黄褐色土層10YR5/3		△	○	○	○	※	※	△
	3	黒褐色土層10YR3/1		△	△	※	※	※	※	※



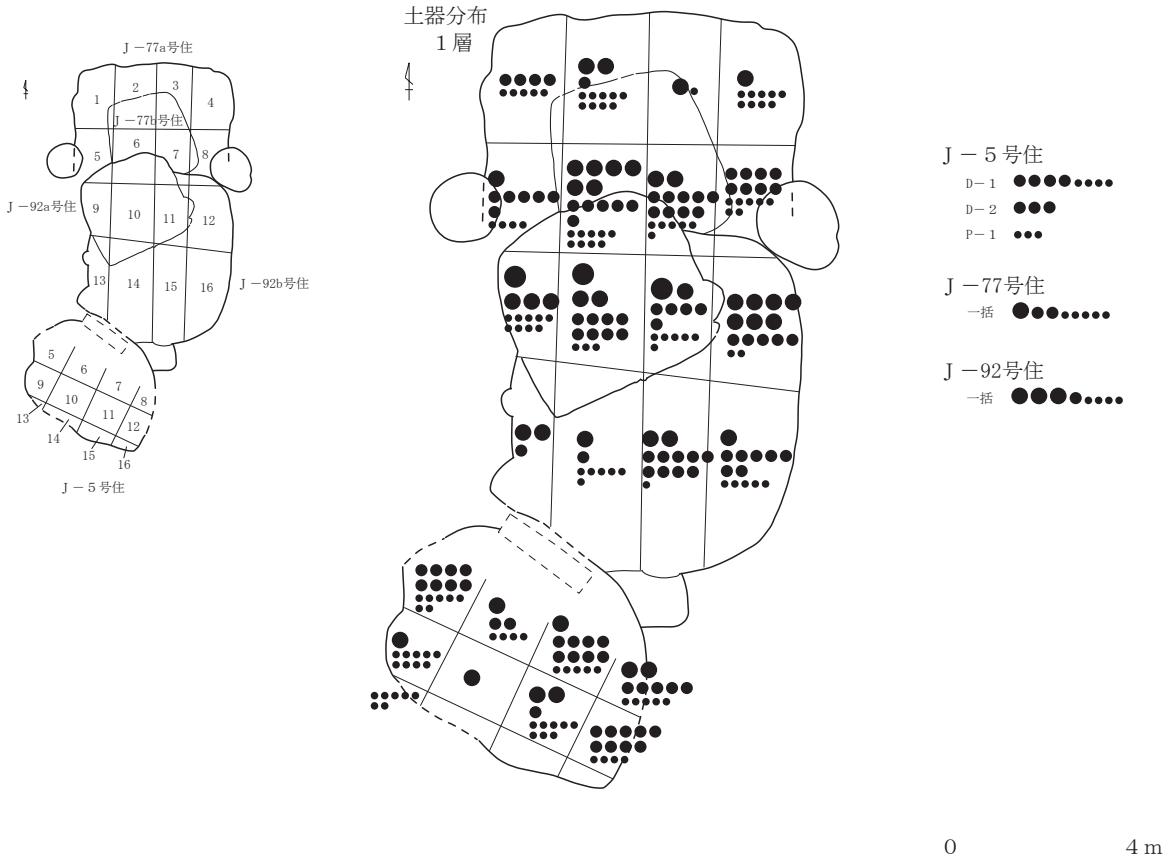
第605図　原田ⅡA区J－2号住居址実測図



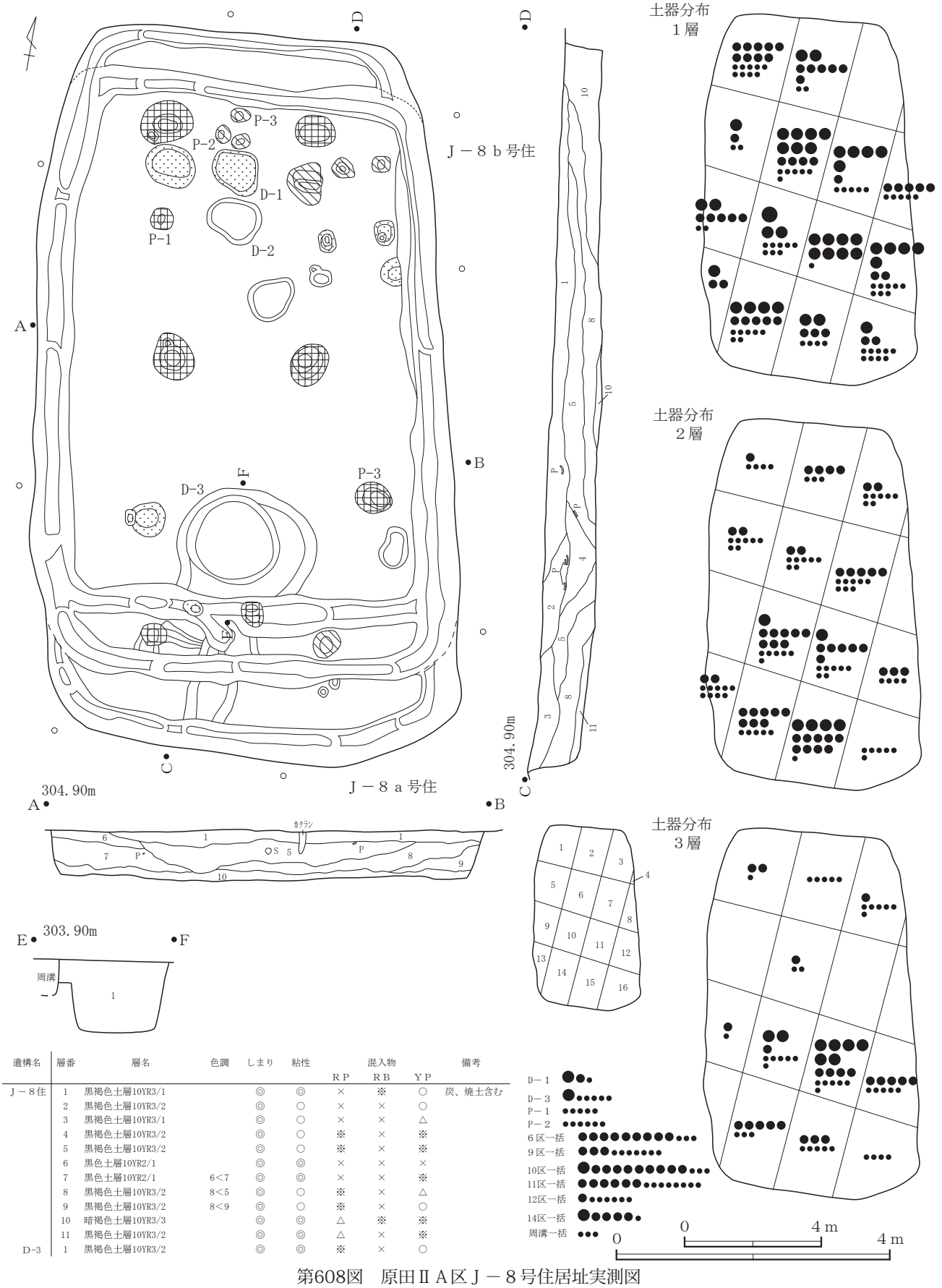
第606図　原田ⅡA区Ｊ－５号･77号･92号住居址実測図（１）



遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物		
						RP	RB	YP
J－5住	1	黒褐色土層10YR3/1		◎	◎	×	×	△
	2	黒褐色土層10YR3/2		◎	◎	※	×	※
	3	黒褐色土層10YR3/2	2＜3	◎	◎	×	×	○
J－77・92住		土層注記なし						

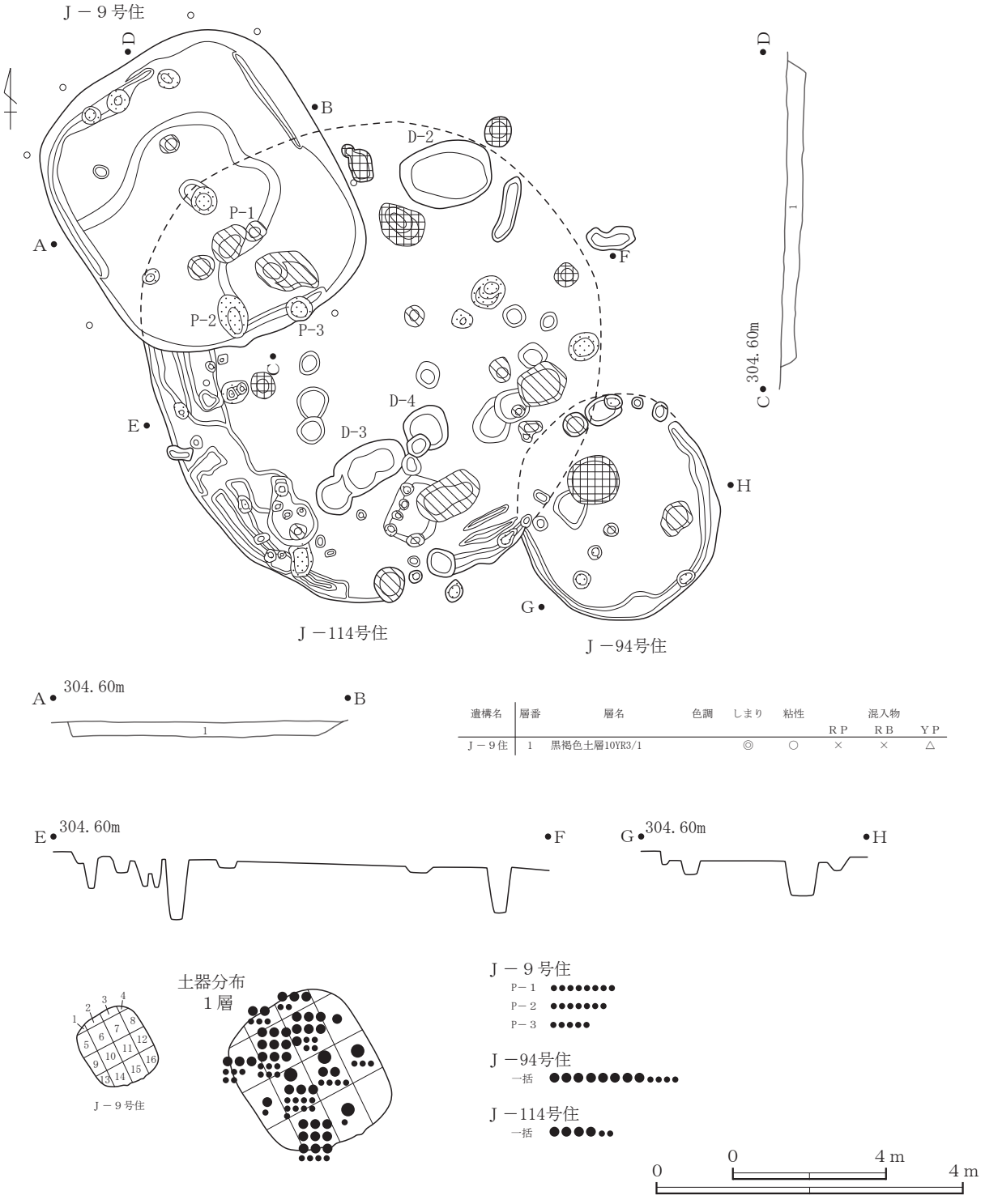


第607図　原田ⅡA区J－5号・77号・92号住居址実測図（2）

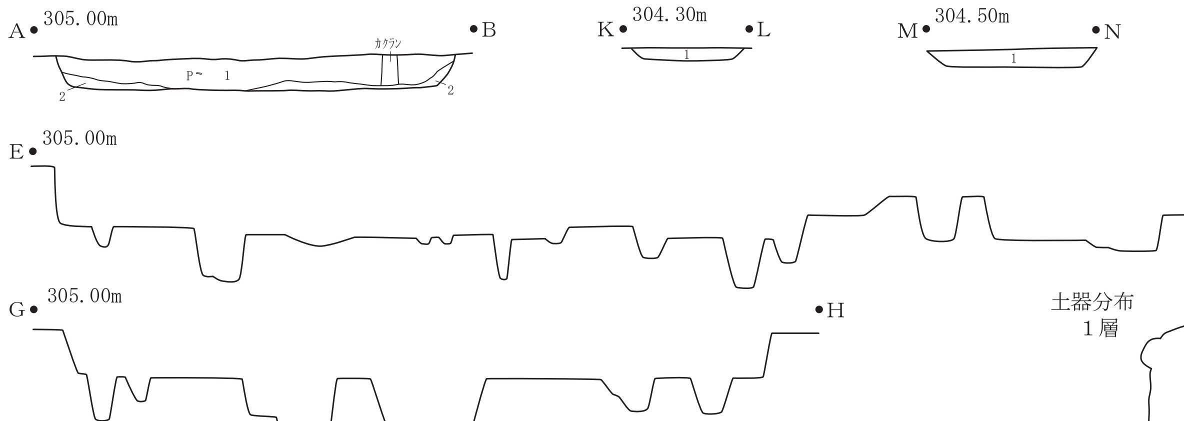


遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	混入物 RB	混入物 YP	備考
Ｊ－８住	1	黒褐色土層10YR3/1		◎	◎	×	※	○	炭、焼土含む
	2	黒褐色土層10YR3/2		◎	○	×	×	○	
	3	黒褐色土層10YR3/1		◎	○	×	×	△	
	4	黒褐色土層10YR3/2		◎	○	※	×	※	
	5	黒褐色土層10YR3/2		◎	○	※	×	※	
	6	黒色土層10YR2/1		◎	◎	×	×	×	
	7	黒色土層10YR2/1	6＜7	◎	◎	×	×	※	
	8	黒褐色土層10YR3/2	8＜5	◎	○	※	×	△	
	9	黒褐色土層10YR3/2	8＜9	◎	○	※	×	○	
	10	暗褐色土層10YR3/3		◎	◎	△	※	※	
	11	黒褐色土層10YR3/2		◎	◎	△	×	※	
D-3	1	黒褐色土層10YR3/2		◎	◎	※	×	○	

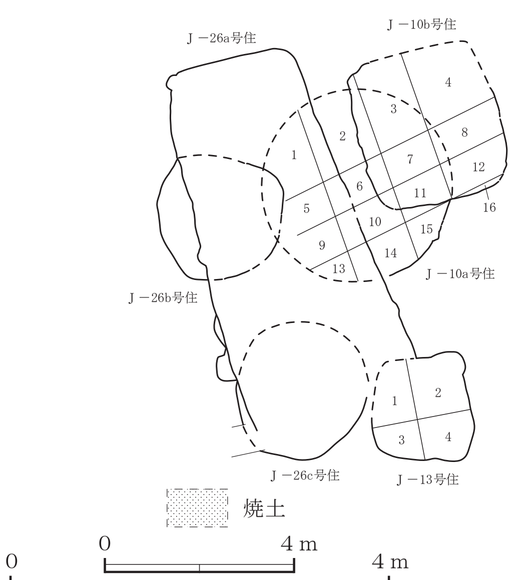
第608図　原田ⅡＡ区Ｊ－８号住居址実測図

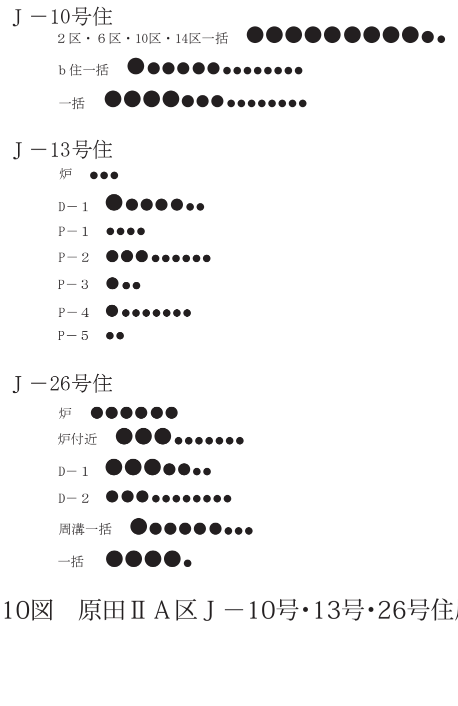


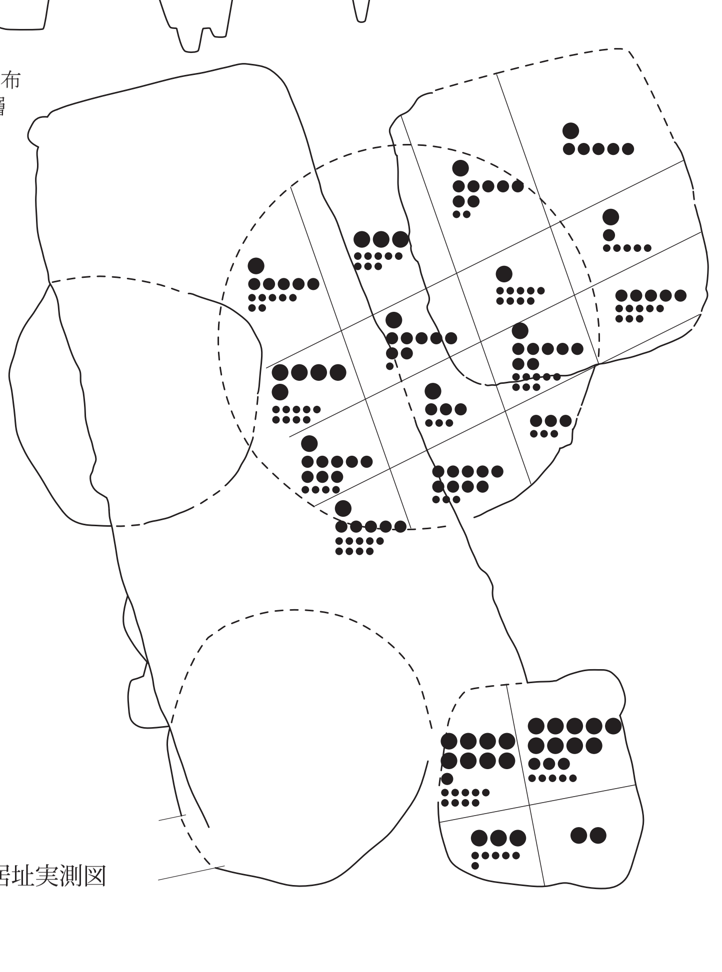
第609図　原田ⅡA区Ｊ－９号･94号･114号住居址実測図



遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	RB	YP
J－13住	1	黒褐色土層10YR3/1		◎	○	×	×	※
	2	暗褐色土層10YR3/3		◎	◎	△	×	※
J-26住炉2	1	にぶい赤褐色土層5YR4/4		○	◎	△	×	×
J-26住D-1	1	黒褐色土層10YR3/1		◎	◎	×	×	※

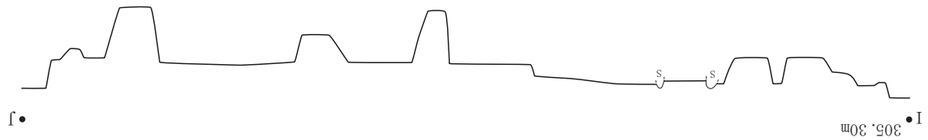


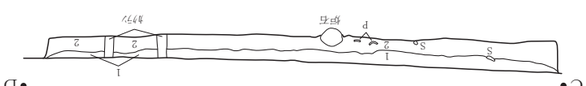


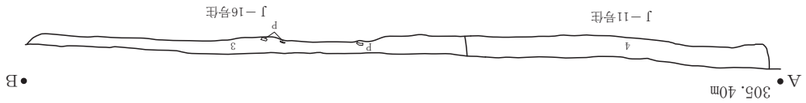


第610図　原田ⅡA区J－10号・13号・26号住居址実測図

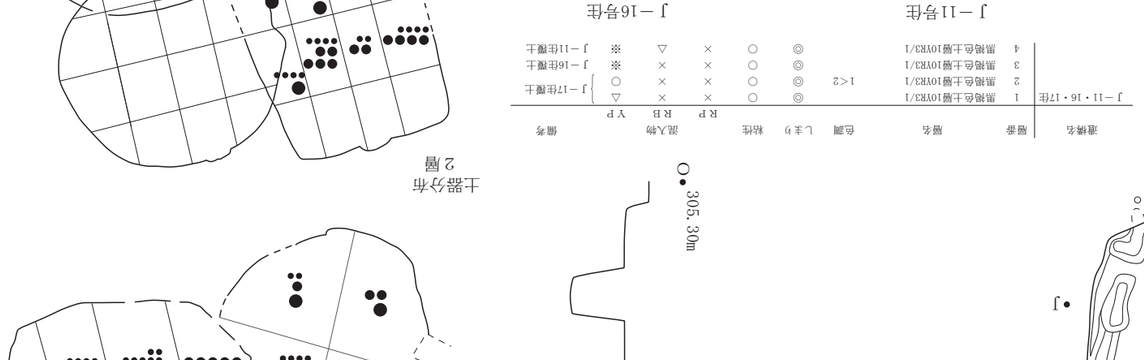
第611図　原田ⅡA区J－11号・16号・17号・23号住居址実測図

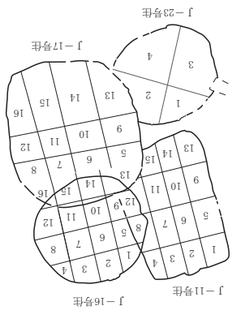


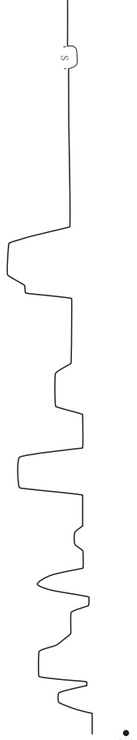


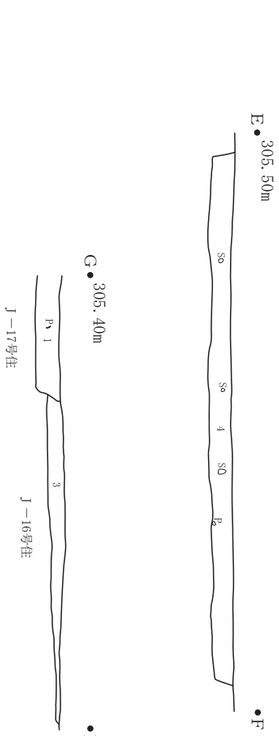


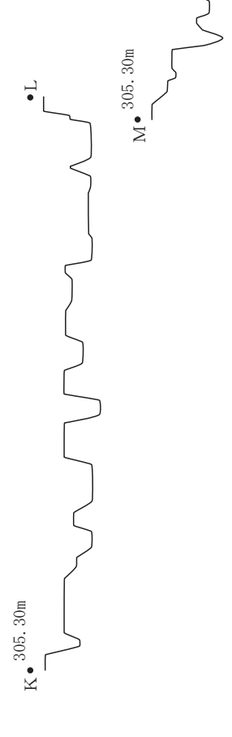
遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	混入物 RB	混入物 YP	備考
J－11・16・17住	1	黒褐色土層10YR3/1		◎	○	×	×	△	J－17住覆土
	2	黒褐色土層10YR3/1	1<2	◎	○	×	×	○	
	3	黒褐色土層10YR3/1		◎	○	×	×	※	J－16住覆土
	4	黒褐色土層10YR3/1		◎	○	×	△	※	J－11住覆土

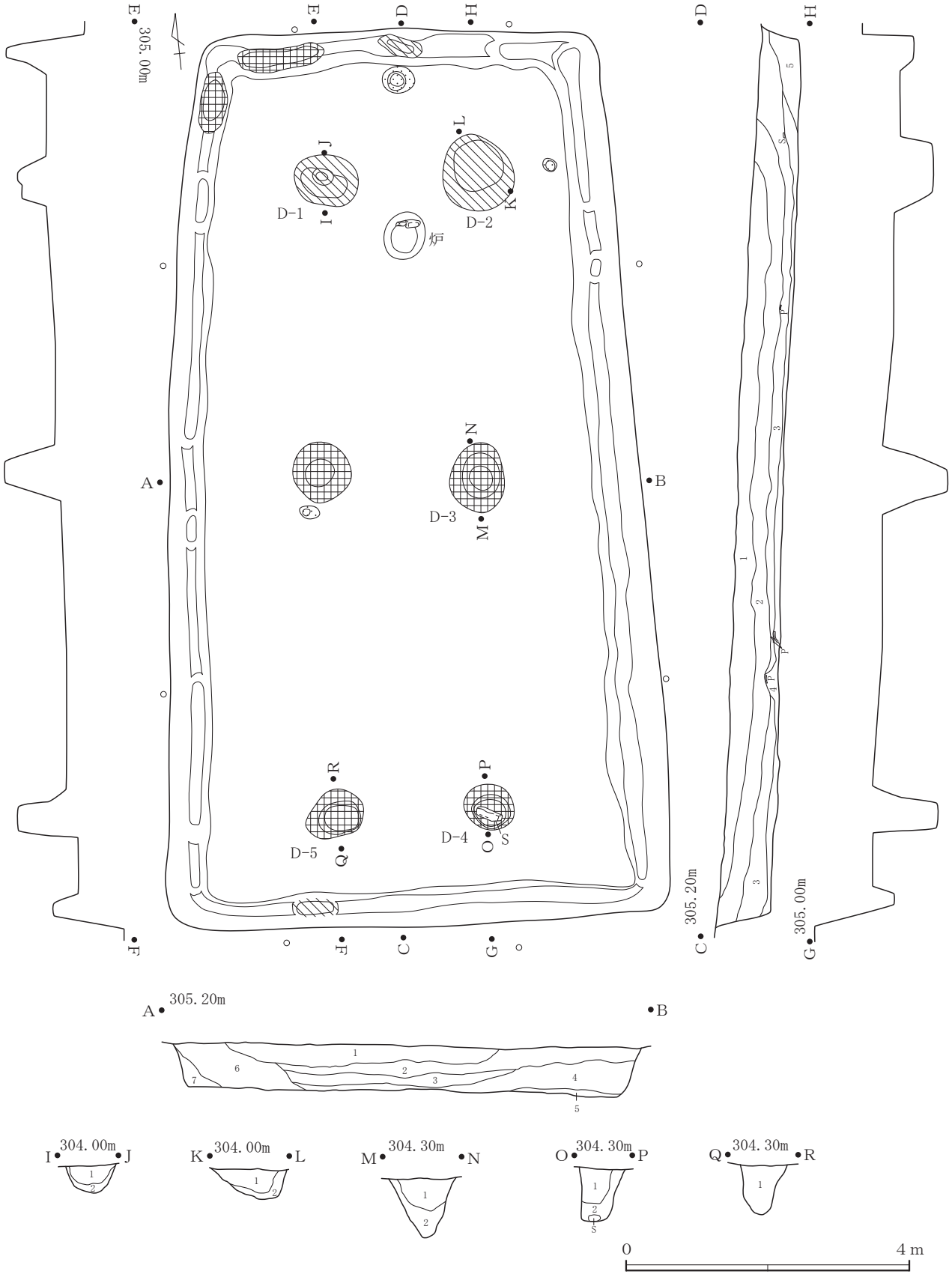






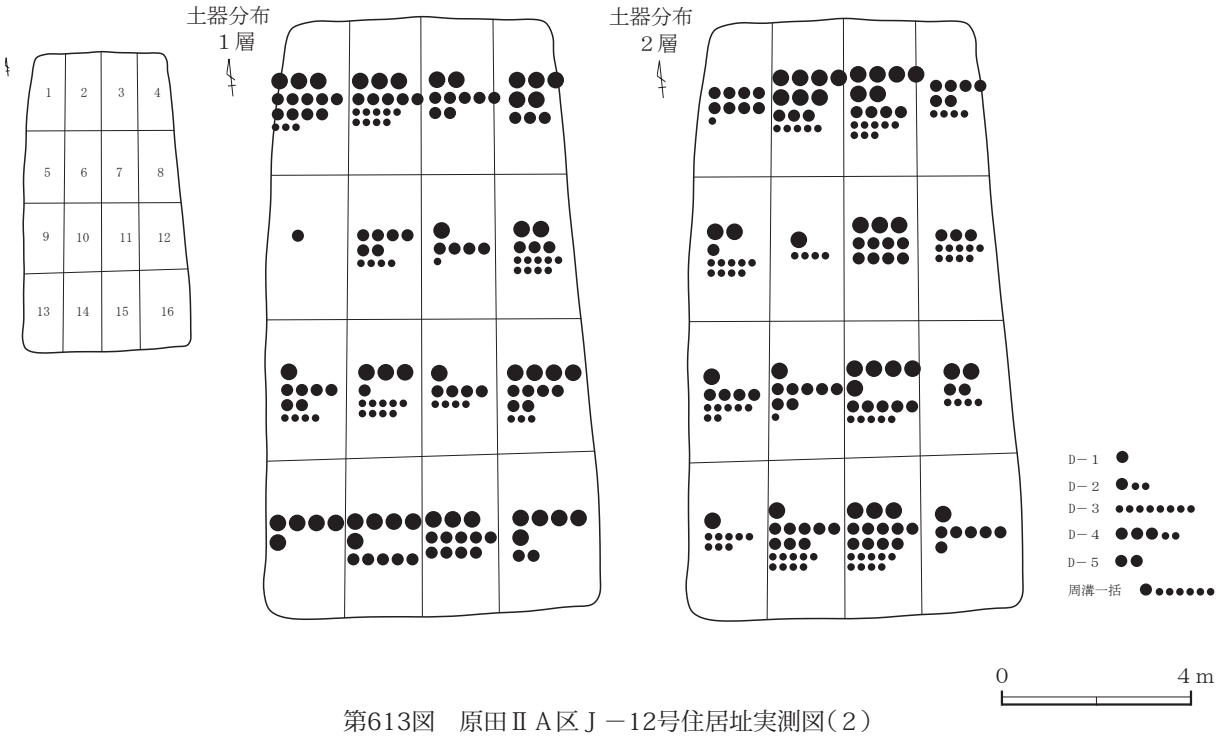




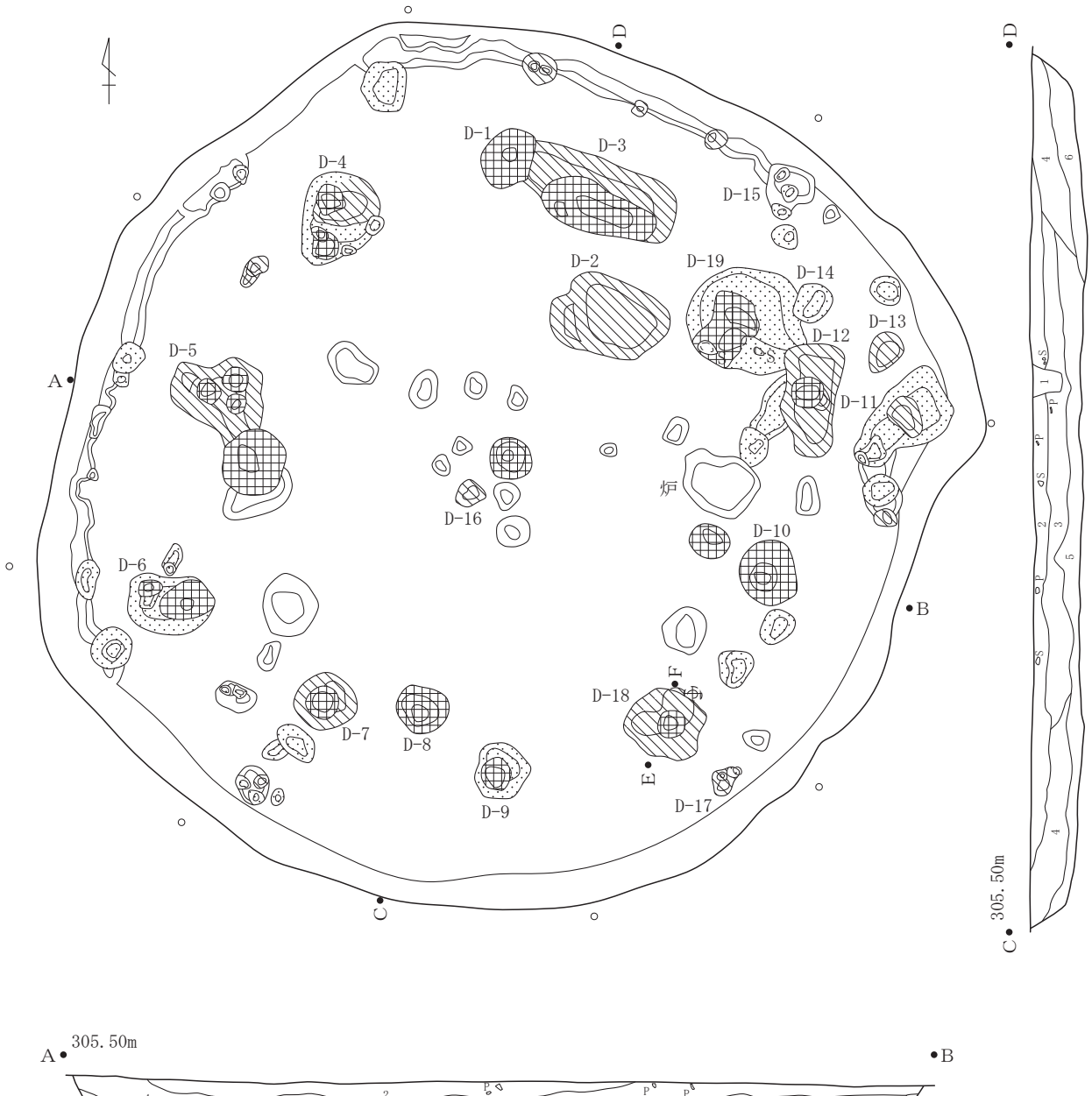


第612図　原田ⅡA区J－12号住居址実測図（1）

遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物			備考
						ＲＰ	ＲＢ	ＹＰ	
Ｊ－12住	1	黒褐色土層10YR3/2		○	○	×	◎	○	ロームブロック多い
	2	黒褐色土層10YR3/1		◎	○	×	×	※	
	3	黒褐色土層10YR2/2		◎	◎	×	×	※	２層よりも混入物少ない
	4	暗褐色土層10YR3/3		◎	◎	○	※	※	床直上の一部、炭と焼土含む
	5	黒褐色土層10YR3/2		◎	○	△	×	○	
	6	黒褐色土層10YR3/1		◎	○	×	×	※	
	7	黒褐色土層10YR3/1	6＜7	◎	○	※	×	※	６層よりYP多い
D－1	1	黒褐色土層10YR3/1		◎	○	×	×	※	
	2	暗褐色土層10YR3/3		◎	◎	△	×	※	
D－2		土層注記なし							
D－3	1	黒褐色土層10YR3/1		◎	○	×	×	※	
	2	暗褐色土層10YR3/3		◎	◎	△	×	※	
D－4	1	黒褐色土層10YR3/1		◎	○	×	×	※	
	2	暗褐色土層10YR3/3		◎	◎	△	×	※	
D－5		土層注記なし							



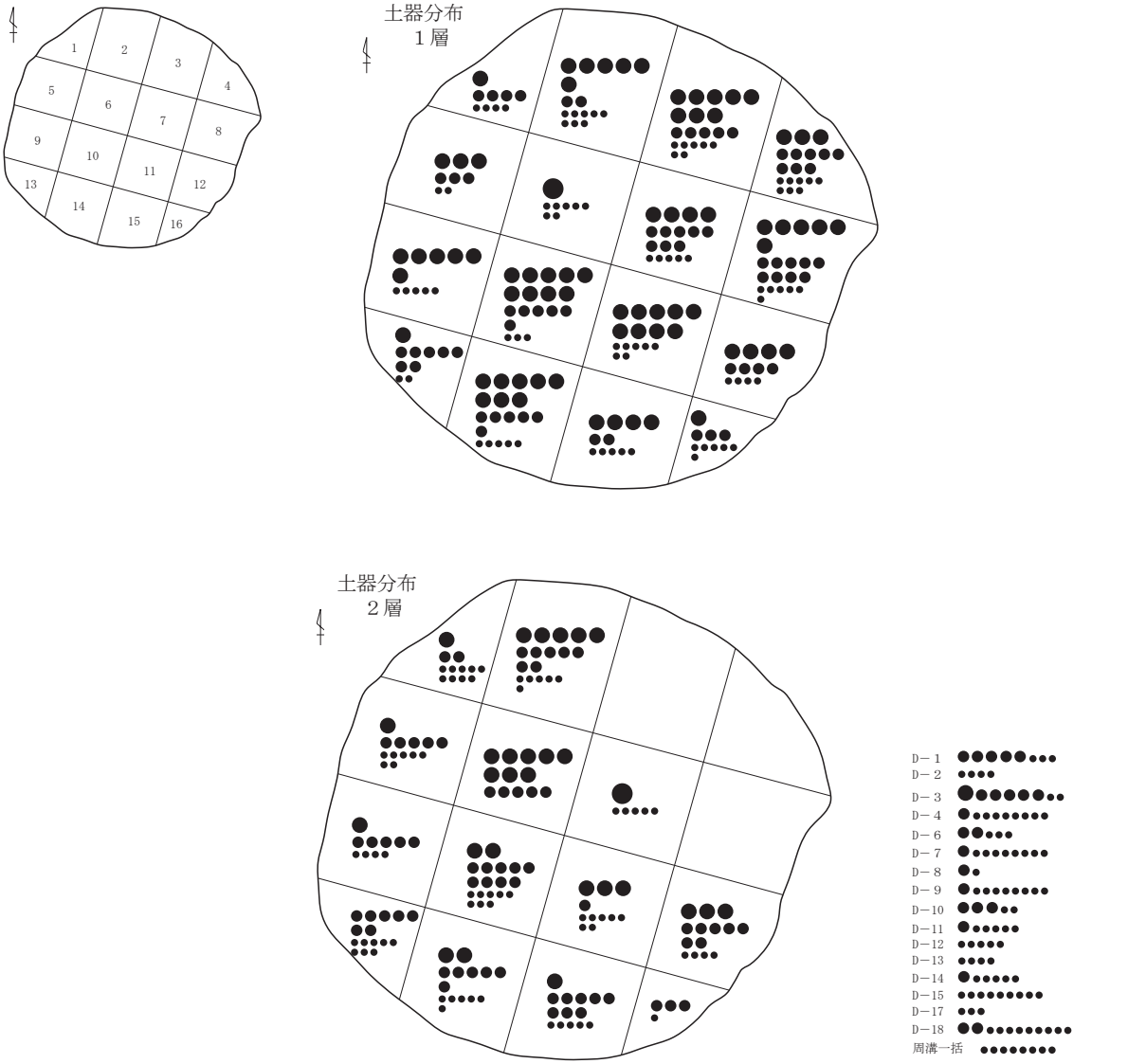
第613図　原田ⅡＡ区Ｊ－12号住居址実測図（２）



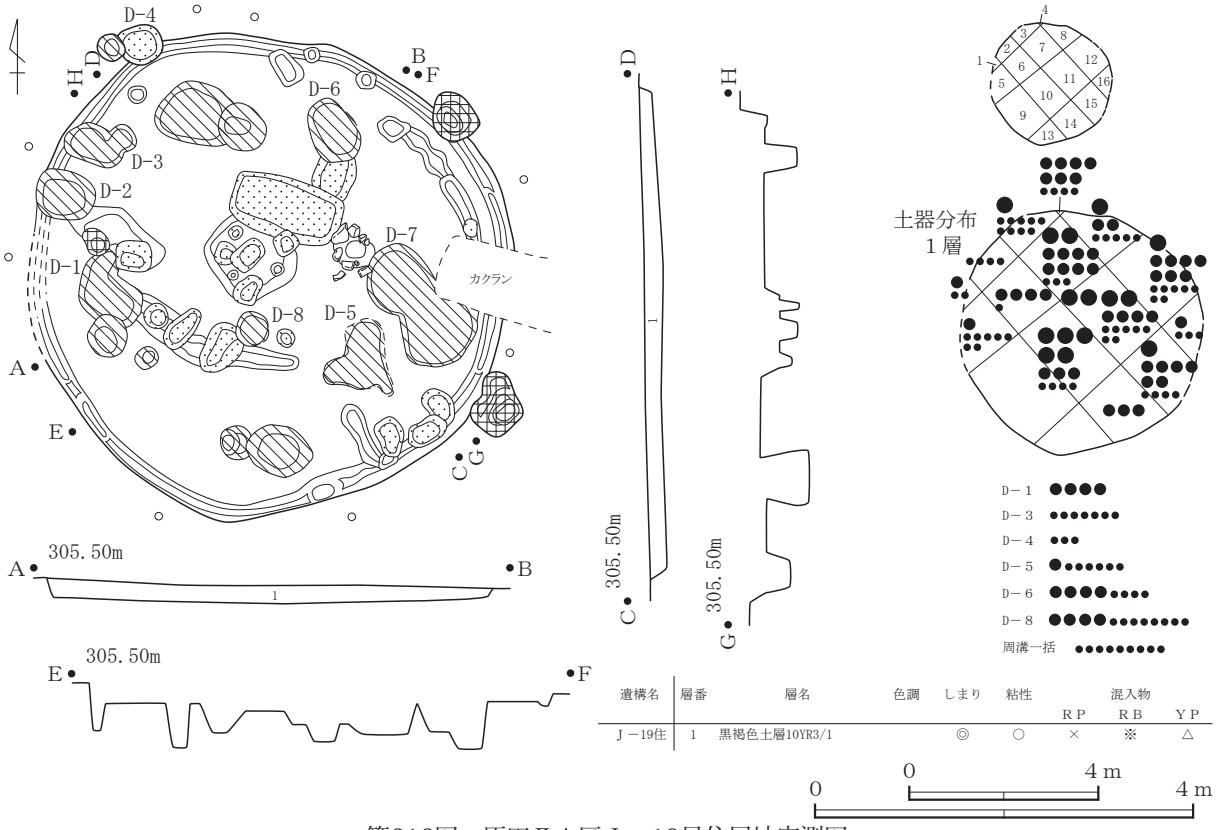
遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	混入物 RB	混入物 YP	備考
J－22住	1	黒色土層10YR2/1		◎	○	×	×	※	土坑覆土
	2	黒褐色土層10YR3/1		◎	○	×	※	※	
	3	黒褐色土層10YR2/2		◎	○	×	※	△	
	4	黒褐色土層10YR2/2		◎	○	×	※	※	２層よりYP少ない
	5	黒褐色土層10YR3/2		◎	◎	※	※	※	
	6	黒褐色土層10YR3/2	5＜6	◎	◎	△	※	※	
	7	暗褐色土層10YR3/3		◎	◎	△	×	×	
D-18	1	黒褐色土層10YR3/2		◎	◎	△	×	※	遺物は１層から出土
	2	褐色土層10YR4/4		◎	◎	◎	×	×	

0　4m

第614図　原田ⅡA区J－22号住居址実測図（1）



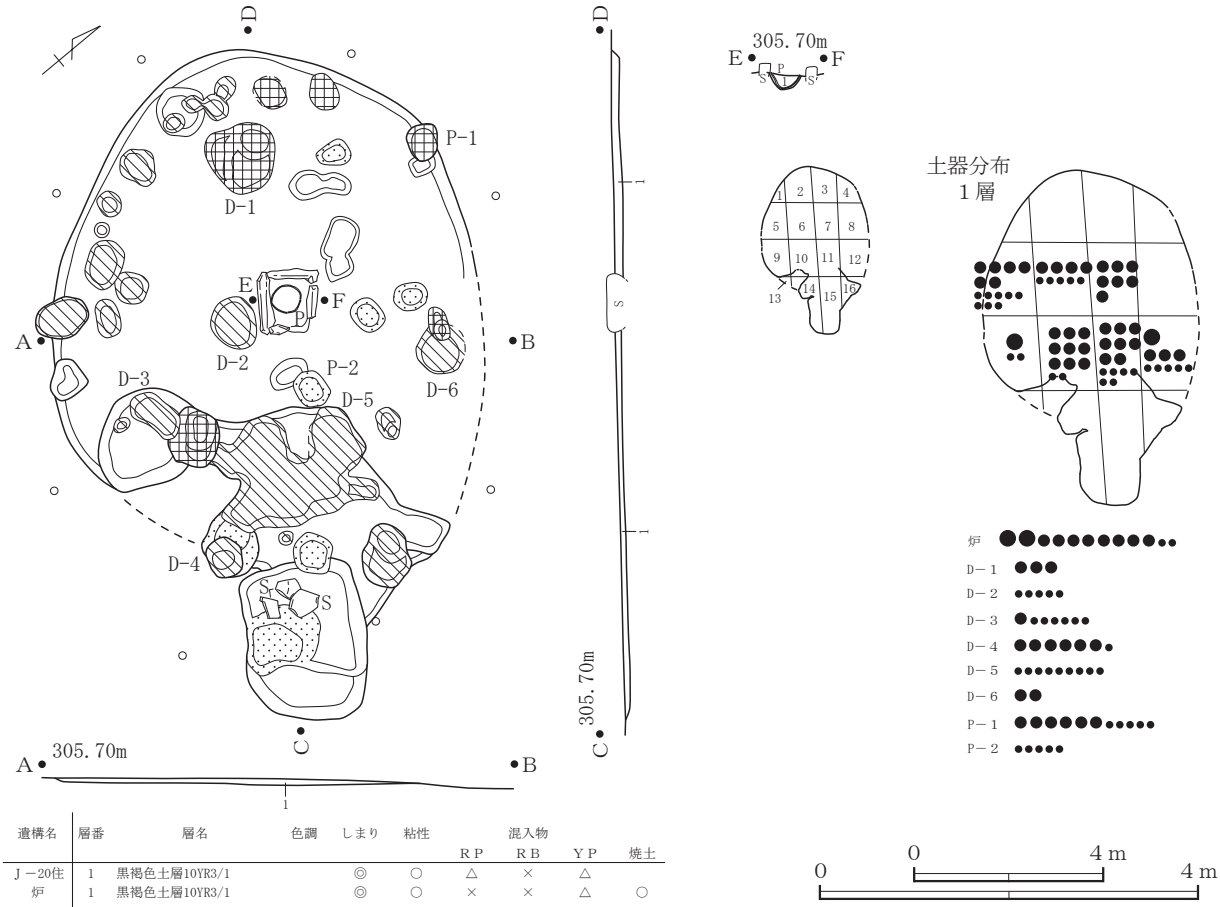
第615図　原田ⅡA区J－22号住居址実測図（2）



遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	混入物 RB	混入物 YP
J－19住	1	黒褐色土層10YR3/1		◎	○	×	※	△

0　4m

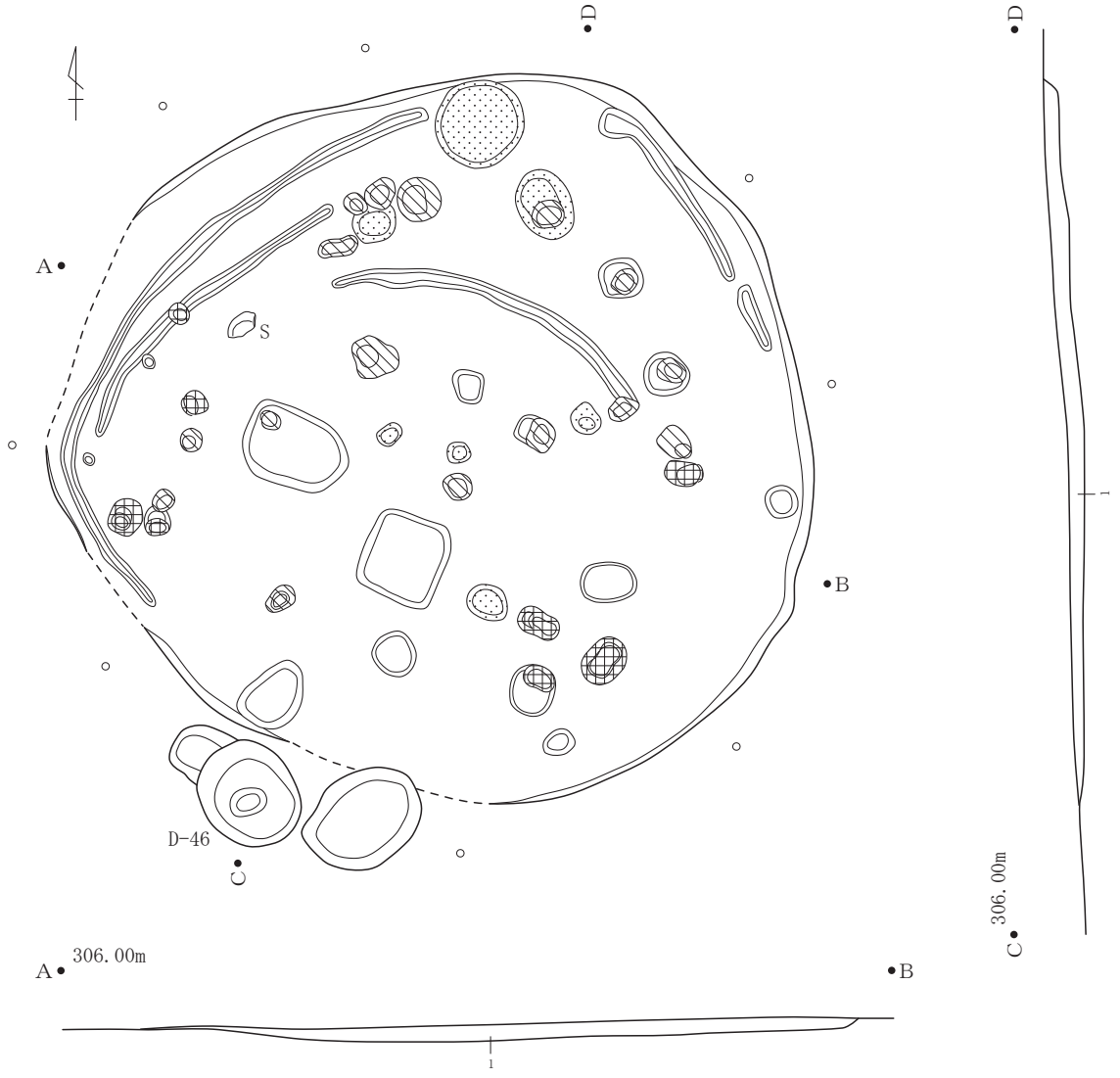
第616図　原田ⅡA区J－19号住居址実測図



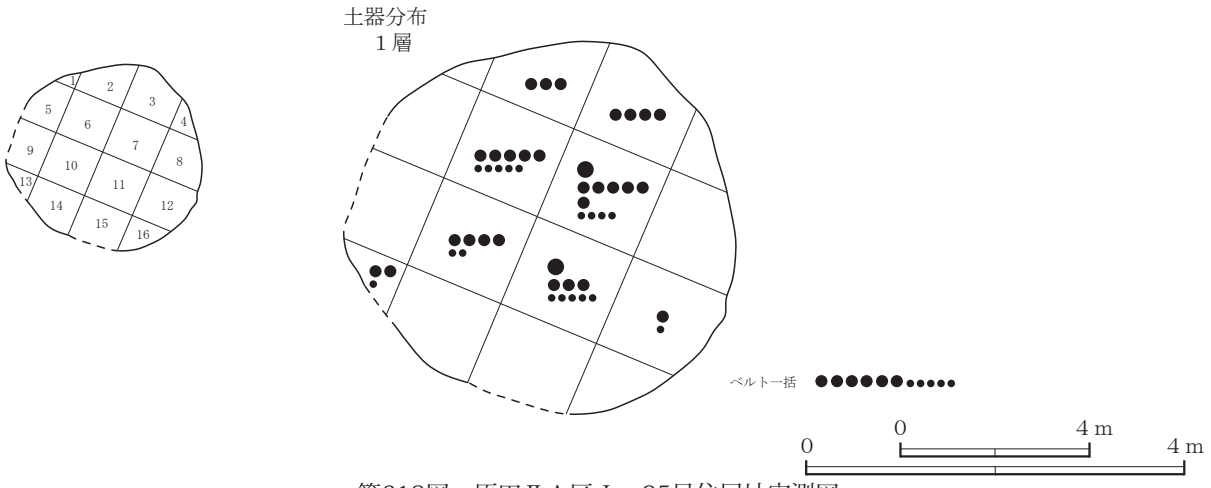
遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	混入物 RB	混入物 YP	焼土
J－20住	1	黒褐色土層10YR3/1		◎	○	△	×	△	
炉	1	黒褐色土層10YR3/1		◎	○	×	×	△	○

0　4m

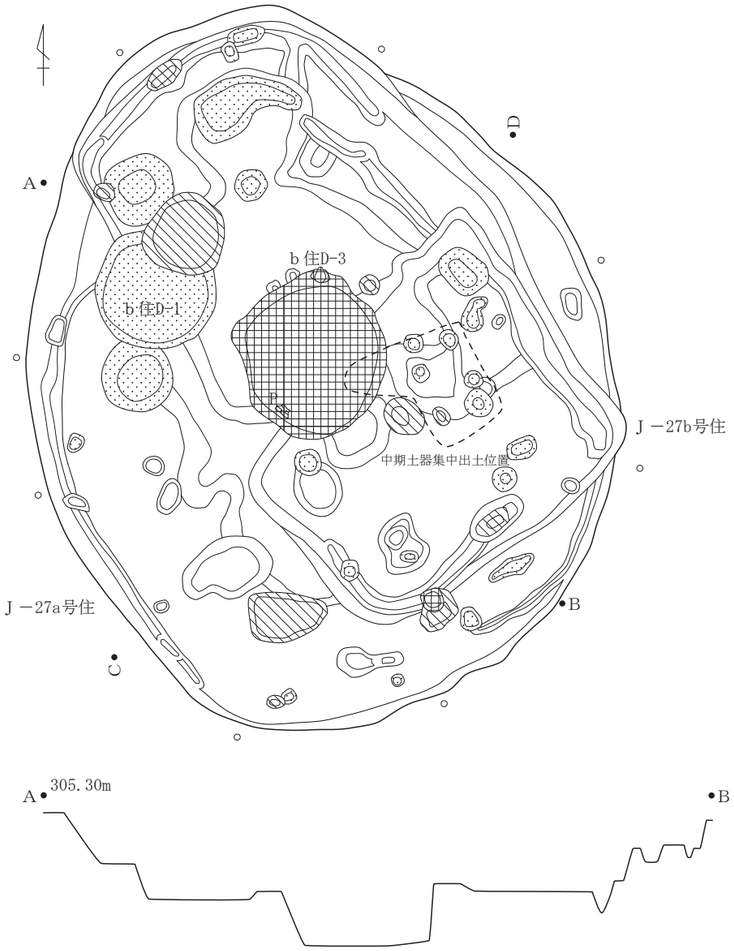
第617図　原田ⅡA区J－20号住居址実測図

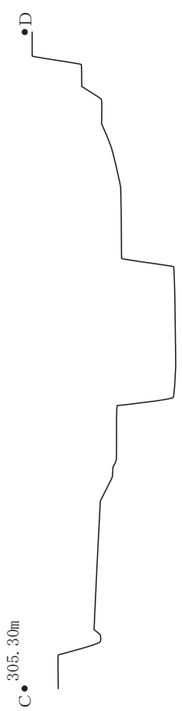


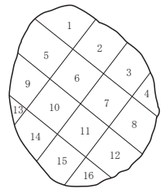
遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	RB	YP
J－25住	1	黒色土層10YR2/1		◎	◎	※	×	×



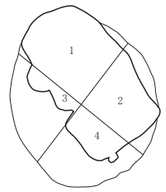
第618図　原田ⅡA区J－25号住居址実測図



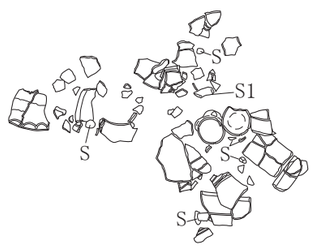




J －27a号住

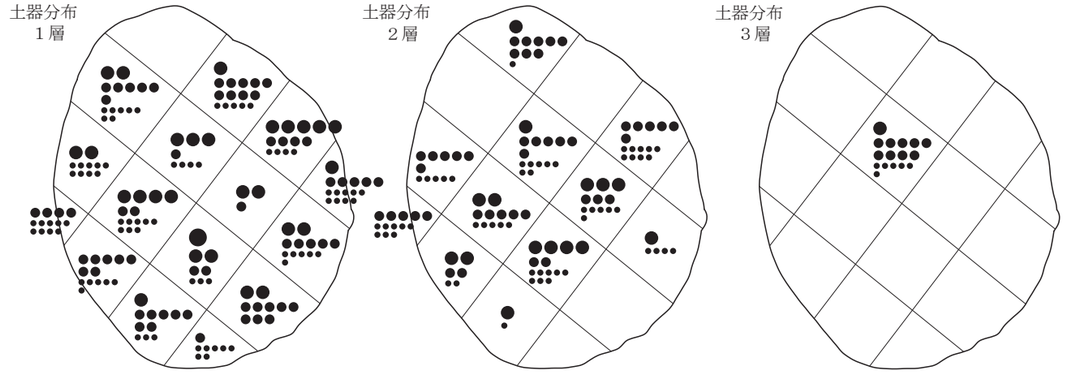


J －27b号住



0 50cm

中期土器集中出土状態



J －27b号住

D－1

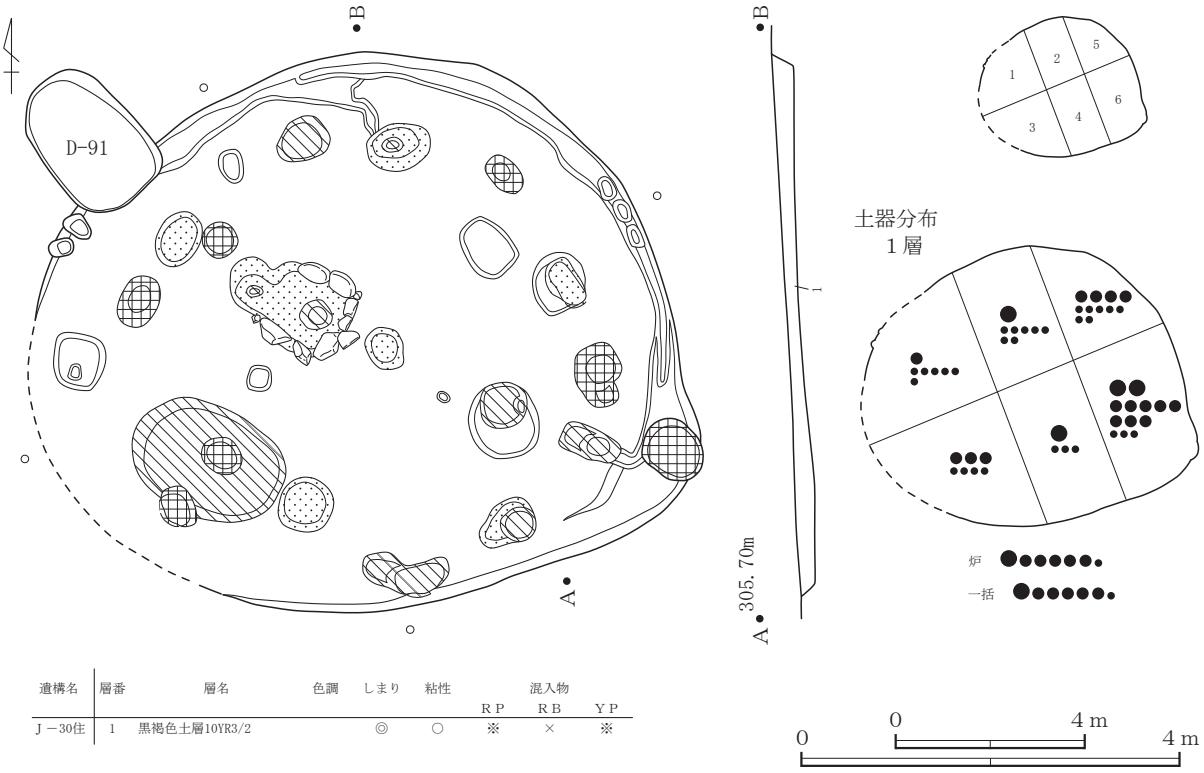
D－3

一括

0 4m

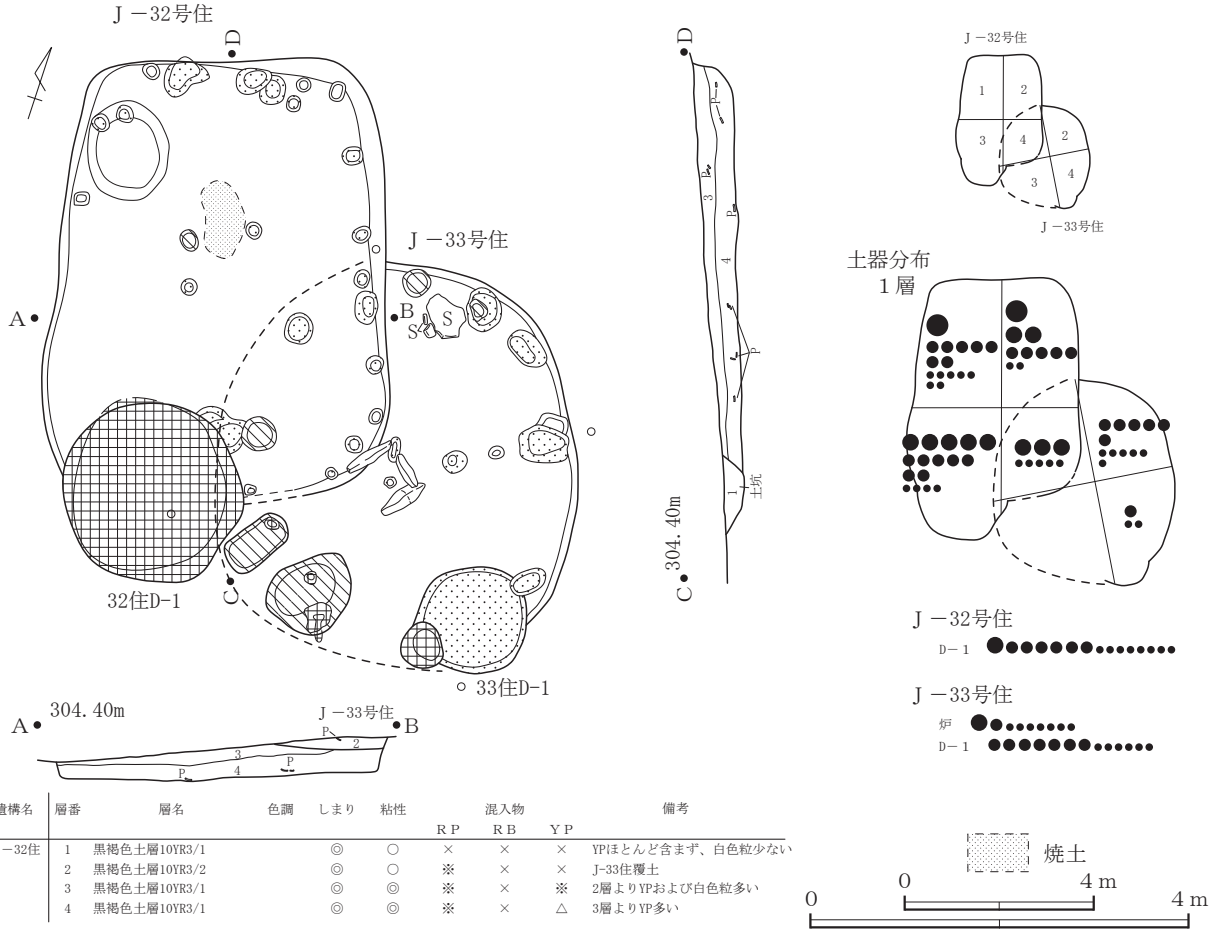
0 4m

第619図　原田ⅡＡ区Ｊ－27号住居址実測図



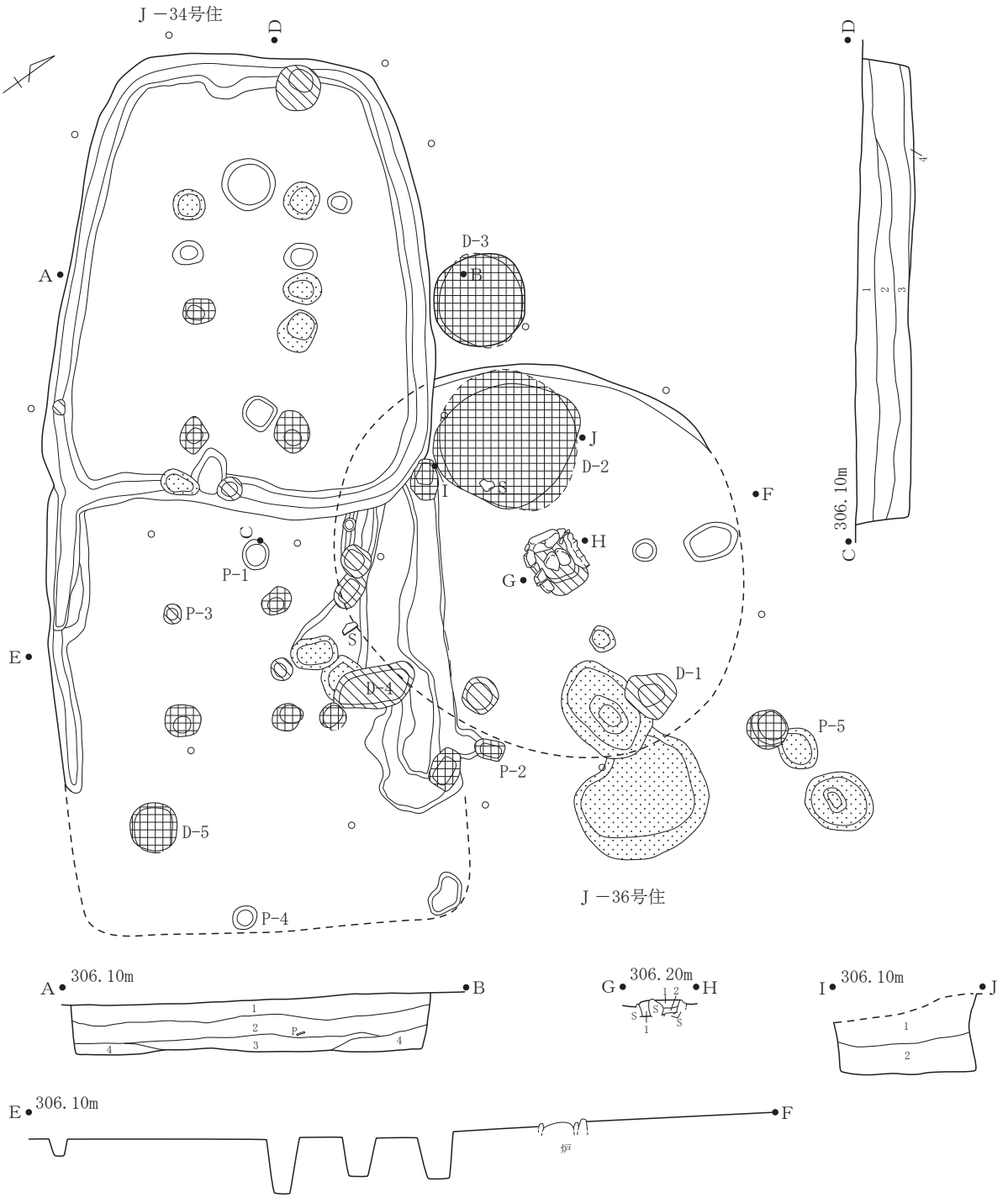
遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	混入物 RB	混入物 YP
J－30住	1	黒褐色土層10YR3/2		◎	○	※	×	※

第620図　原田ⅡA区J－30号住居址実測図



遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	混入物 RB	混入物 YP	備考
J－32住	1	黒褐色土層10YR3/1		◎	○	×	×	×	YPほとんど含まず、白色粒少ない
	2	黒褐色土層10YR3/2		◎	○	※	×	×	J-33住覆土
	3	黒褐色土層10YR3/1		◎	◎	※	×	※	2層よりYPおよび白色粒多い
	4	黒褐色土層10YR3/1		◎	◎	※	×	△	3層よりYP多い

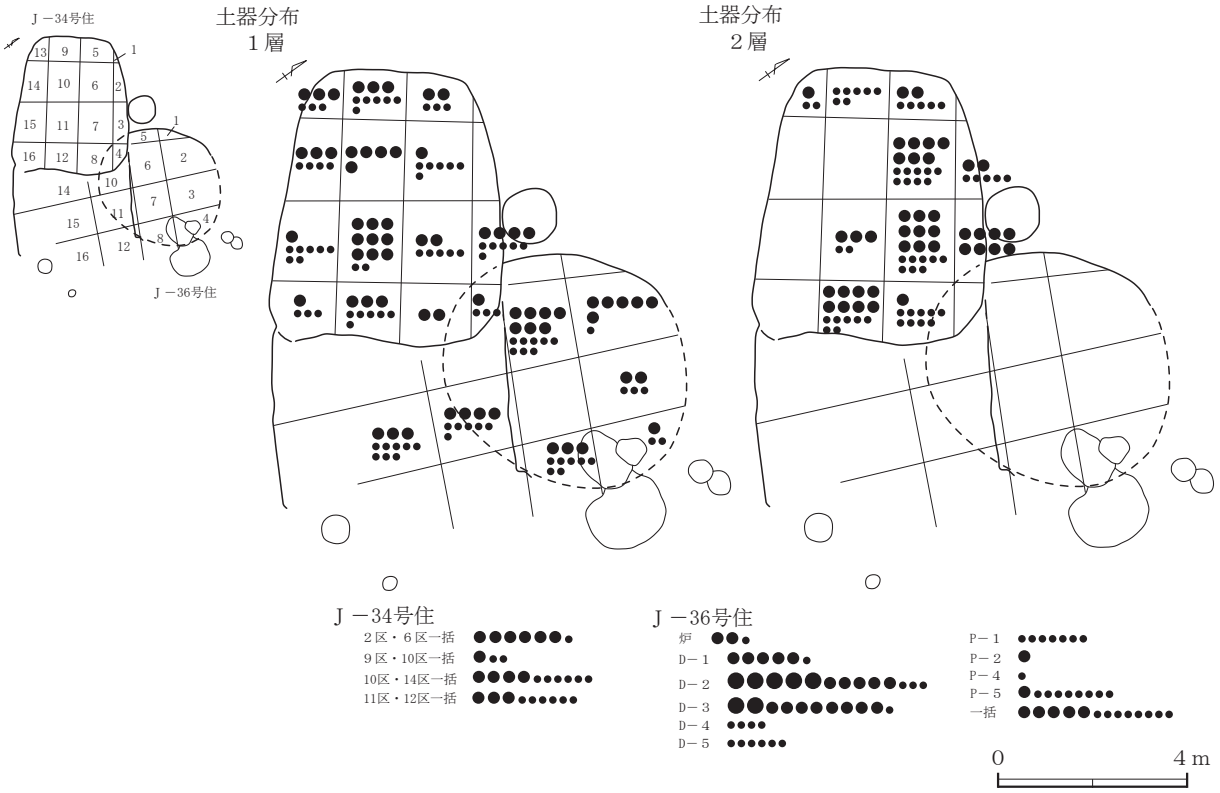
第621図　原田ⅡA区J－32号・33号住居址実測図



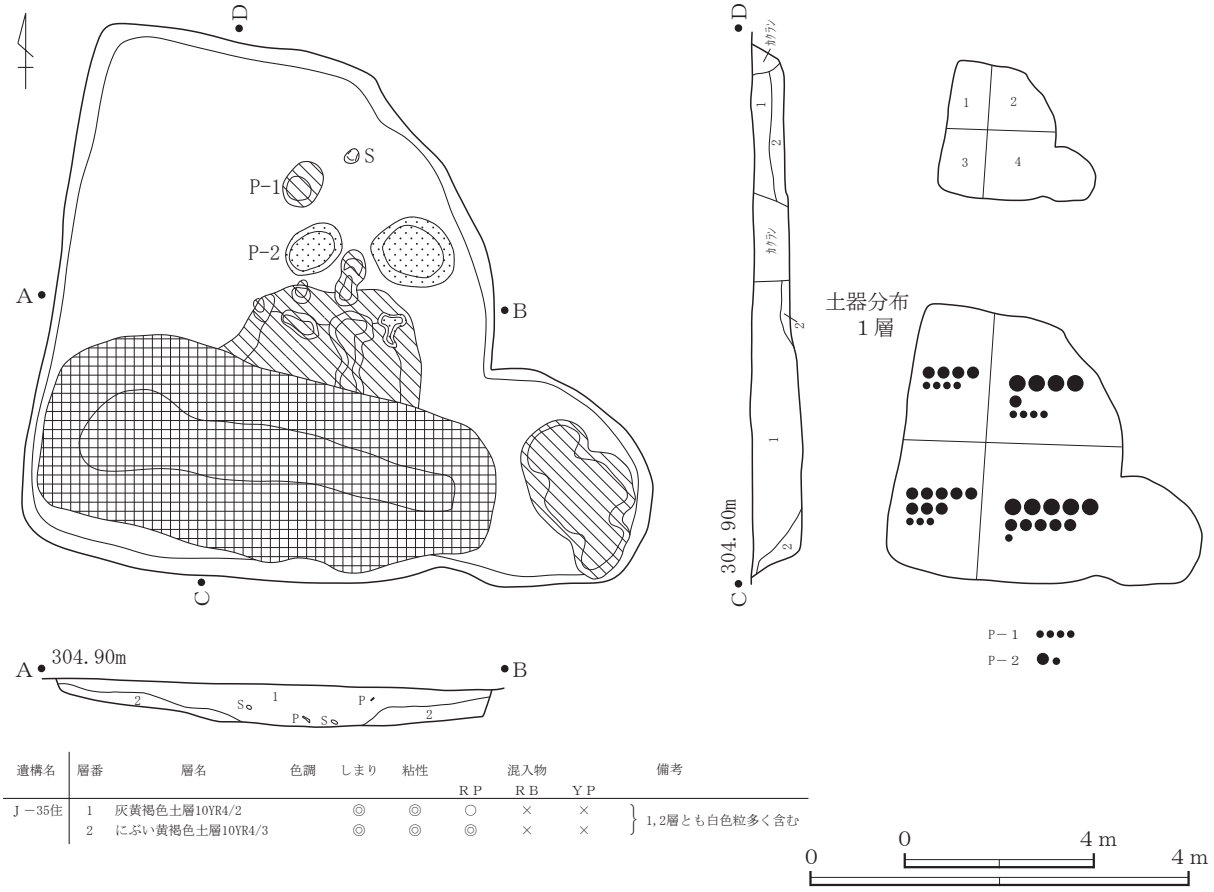
遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	混入物 RB	混入物 YP	備考
Ｊ－34住	1	黒色土層10YR2/1		◎	○	×	×	×	白色粒多い
	2	黒色土層10YR2/1		◎	○	×	×	※	１層より白色粒多い
	3	黒色土層10YR2/1		◎	○	×	×	△	２層よりYP多く、粒径が大きい
	4	暗褐色土層10YR3/3		◎	◎	△	×	※	ローム粒多い
Ｊ－36住炉	1	黒褐色土層10YR3/1		◎	○	×	×	※	
	2	黒褐色土層10YR3/2		◎	○	×	×	※	１層よりYP粒多い 焼土、炭はあまり見られない
Ｊ－36住D-2	1	灰黄褐色土層10YR4/2		◎	◎	◎	△	○	
	2	にぶい黄褐色土層10YR4/3		◎	◎	◎	△	△	１層よりYP少ない

0　4m

第622図　原田ⅡA区Ｊ－34号・36号住居址実測図（１）

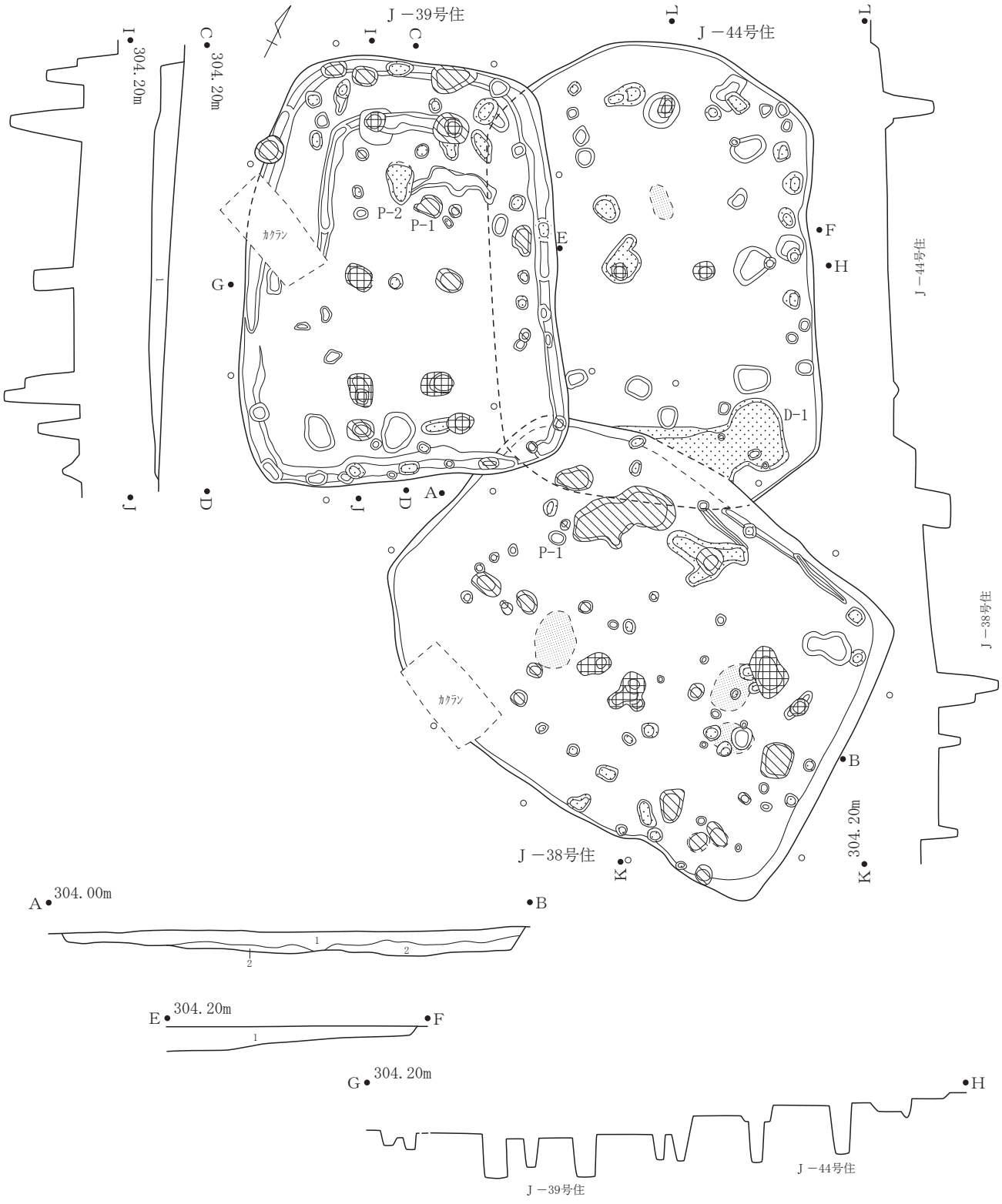


第623図　原田ⅡA区Ｊ－34号･36号住居址実測図（2）



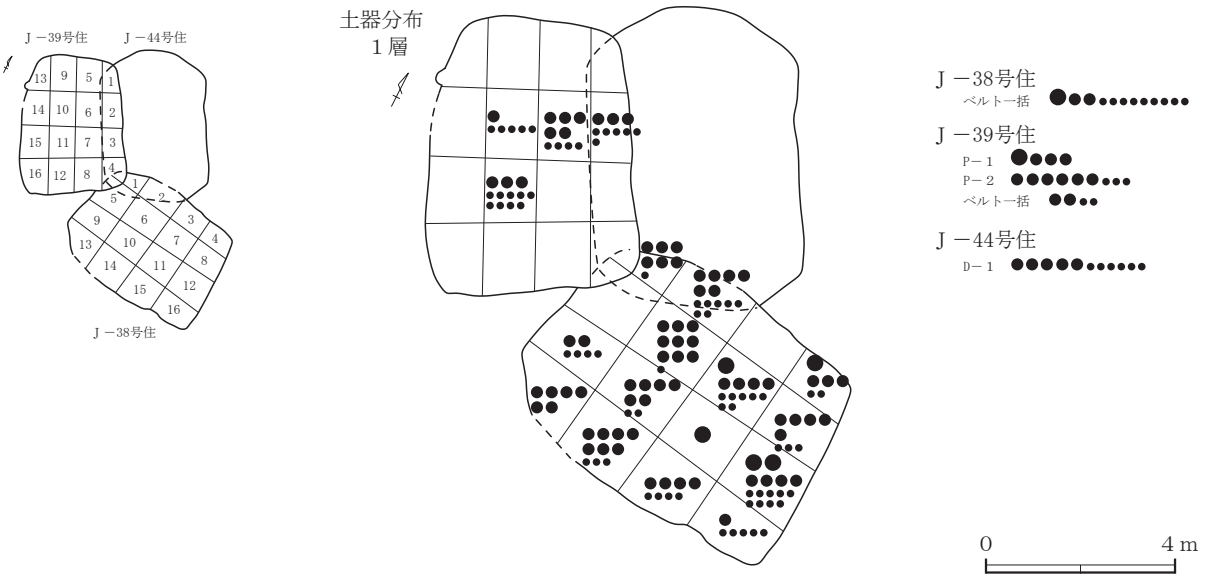
遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	混入物 RB	混入物 YP	備考
Ｊ－35住	1	灰黄褐色土層10YR4/2		◎	◎	○	×	×	1,2層とも白色粒多く含む
	2	にぶい黄褐色土層10YR4/3		◎	◎	◎	×	×	

第624図　原田ⅡA区Ｊ－35号住居址実測図

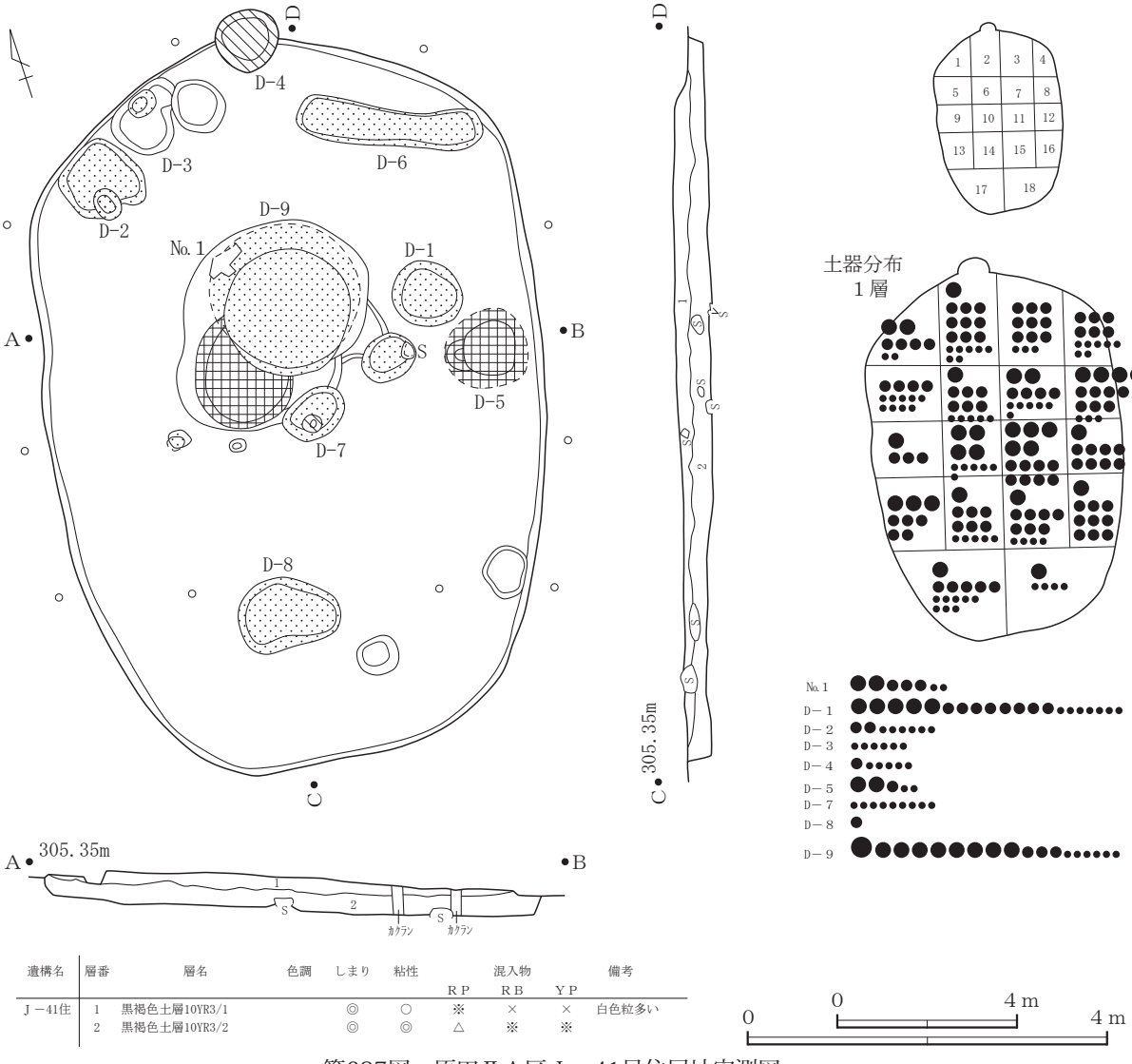


遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	混入物 RB	混入物 YP	備考
Ｊ－38住	1	黒褐色土層10YR3/1		◎	○	×	×	※	
	2	黒褐色土層10YR3/1		◎	○	×	※	△	
Ｊ－39住	1	黒褐色土層10YR3/1		◎	○	×	×	※	
Ｊ－44住	1	暗褐色土層10YR3/3		◎	○	○	○	※	ローム粒多い

第625図　原田ⅡA区Ｊ－38号・39号・44号住居址実測図（１）

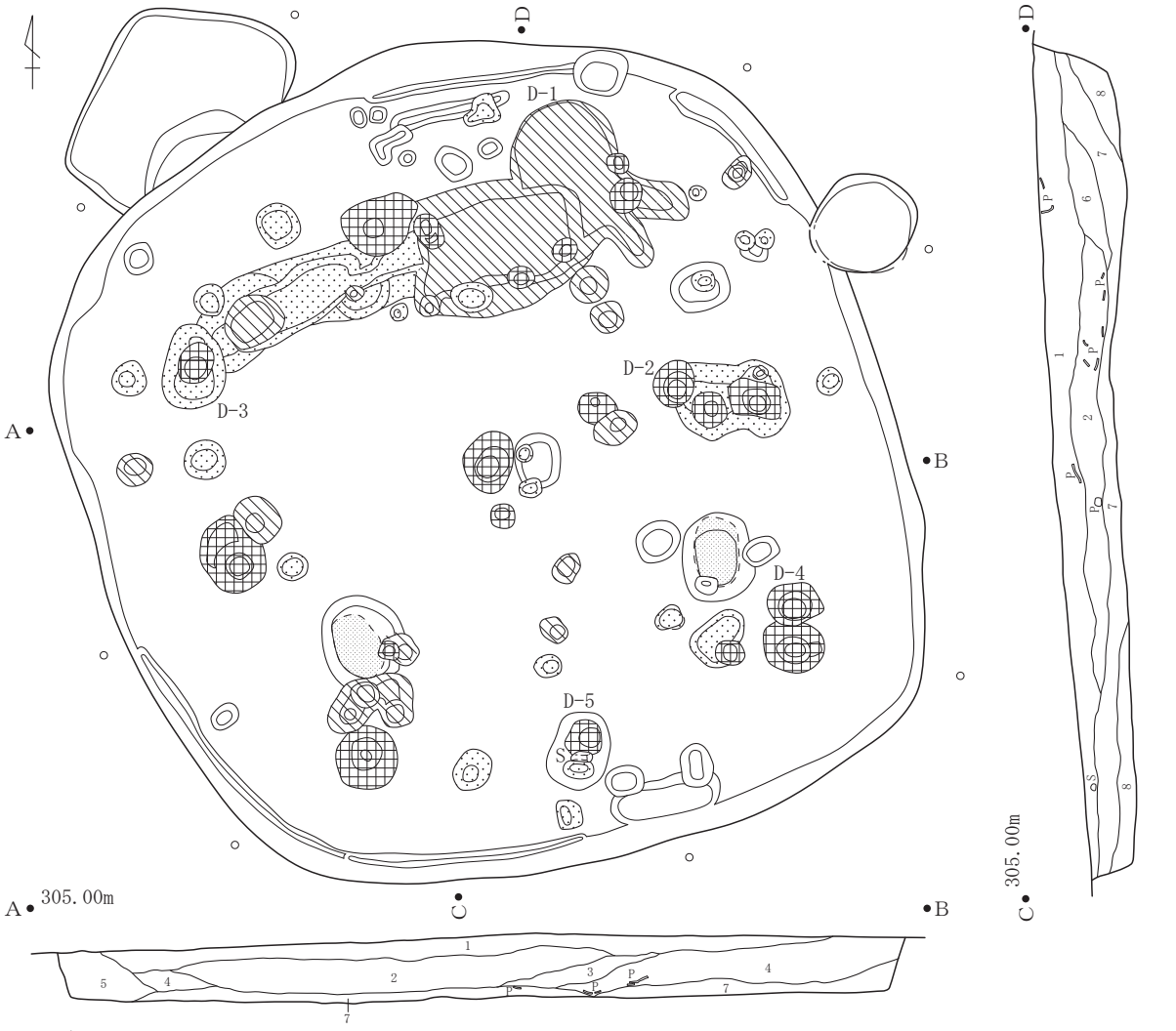


第626図　原田ⅡＡ区Ｊ－38号･39号･44号住居址実測図（２）

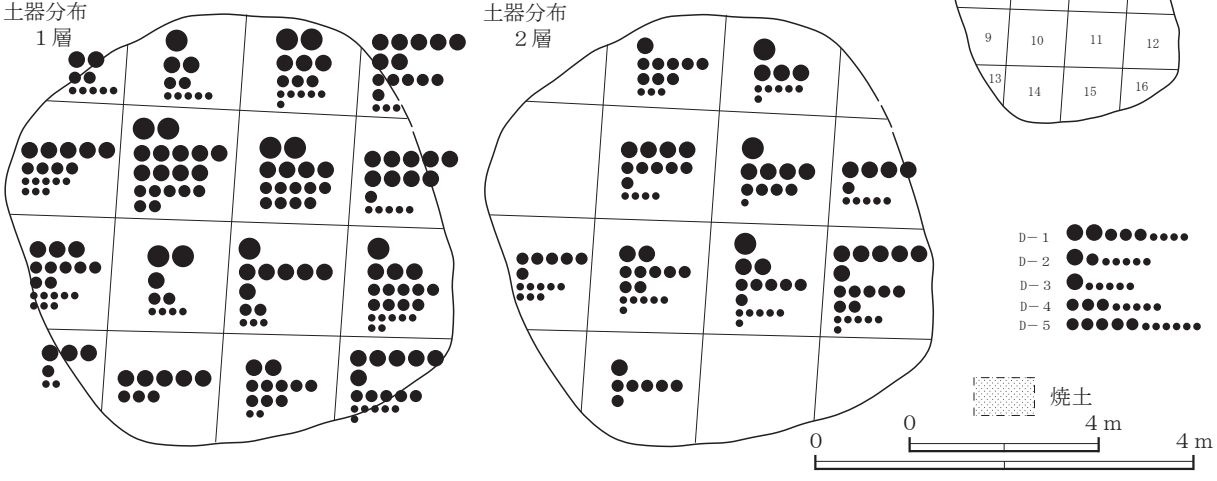


遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	混入物 RB	混入物 YP	備考
Ｊ－41住	1	黒褐色土層10YR3/1		◎	○	※	×	×	白色粒多い
	2	黒褐色土層10YR3/2		◎	◎	△	※	※	

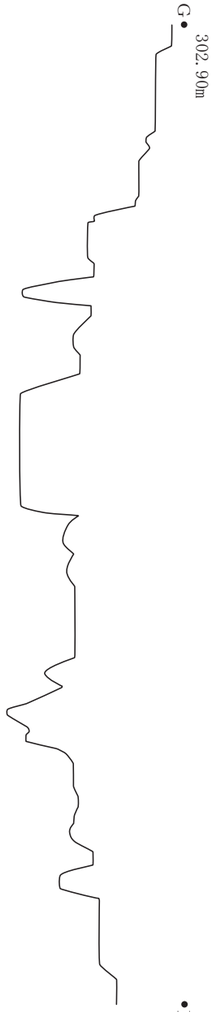
第627図　原田ⅡＡ区Ｊ－41号住居址実測図

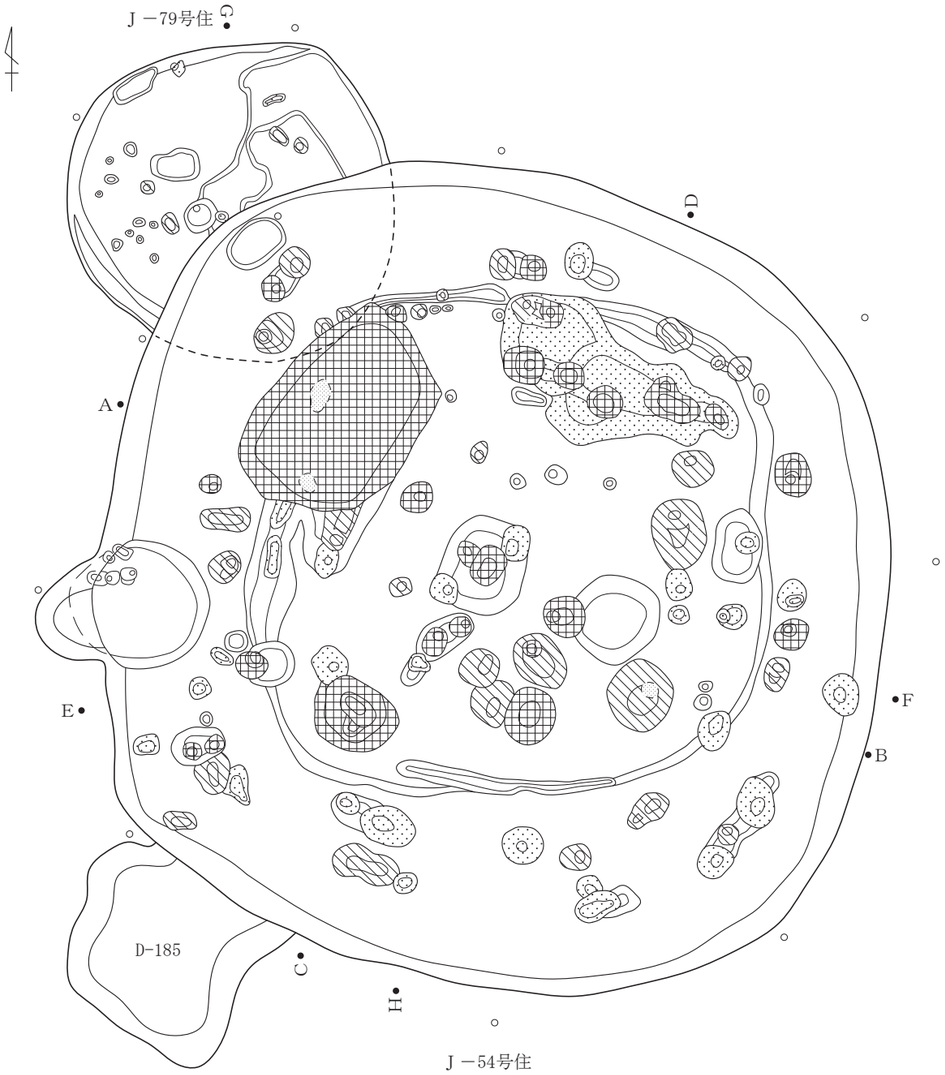


遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	混入物 RB	混入物 YP	備考
J－56住	1	黒褐色土層10YR3/2		◎	○	※	×	○	YP粒および白色粒多く含む
	2	黒褐色土層10YR3/1		◎	○	※	×	△	
	3	黒褐色土層10YR3/2		◎	◎	△	△	※	焼土混じる
	4	黒褐色土層10YR3/1		◎	○	※	×	△	
	5	黒褐色土層10YR3/1		◎	○	※	×	△	6層よりYP少なく、ローム粒少ない
	6	黒褐色土層10YR3/2		◎	○	※	×	△	1層より白色粒少ない
	7	黒褐色土層10YR3/1	4＜6	◎	○	×	×	○	
	8	暗褐色土層10YR3/3		◎	○	△	※	※	

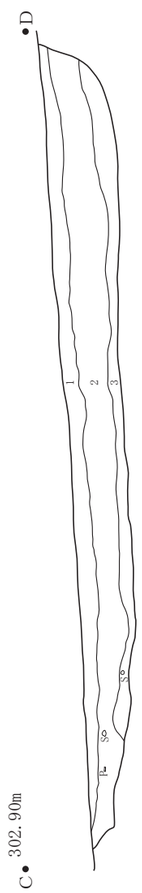


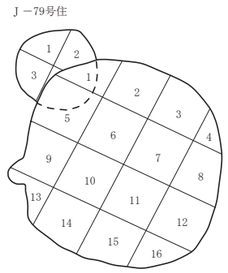
第628図　原田ⅡA区J－56号住居址実測図



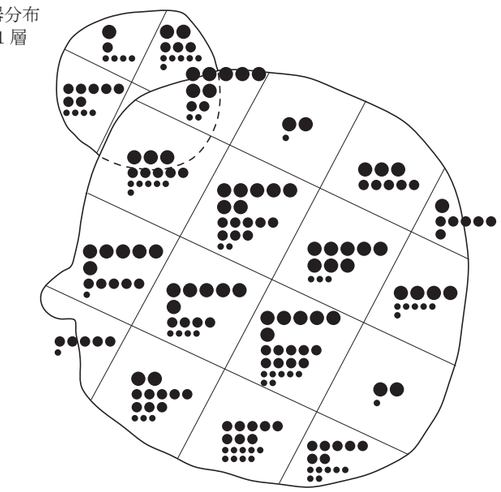


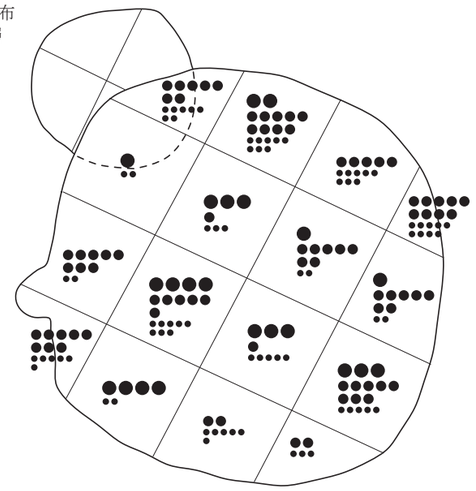
J－54号住

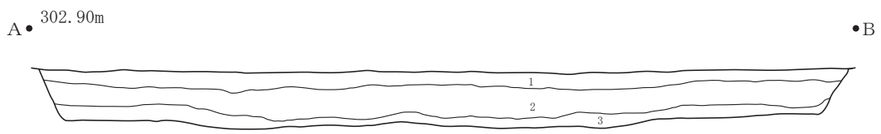


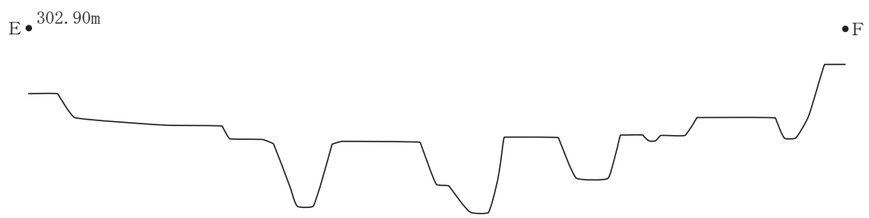


J－54号住

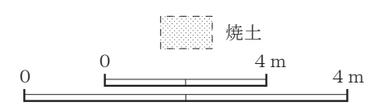




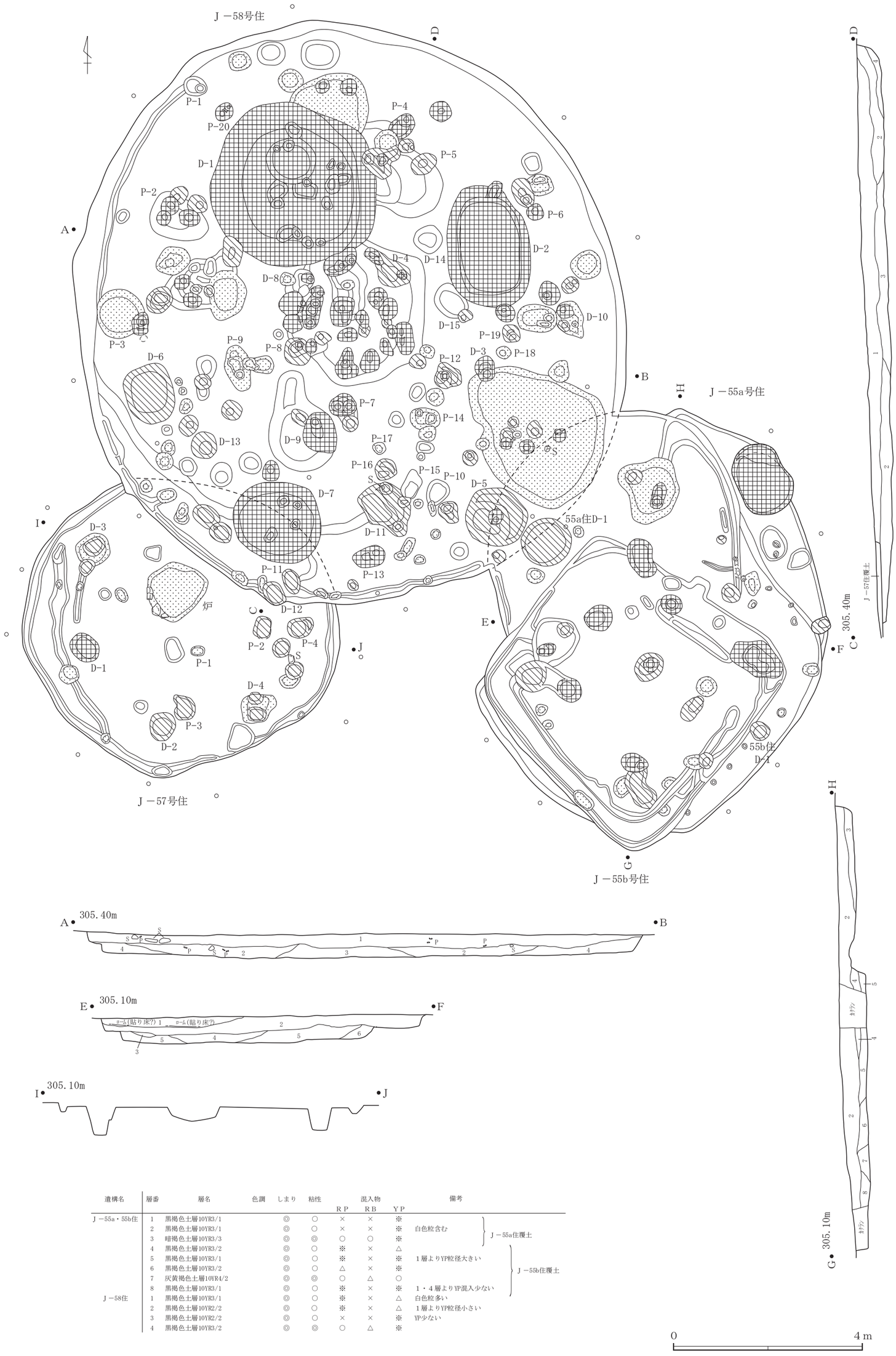




遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物		
						RP	RB	YP
J－54住	1	黒色土層10YR2/1		◎	○	×	×	△
	2	黒褐色土層10YR3/1		◎	○	※	×	○
	3	暗褐色土層10YR3/3		◎	◎	○	△	※

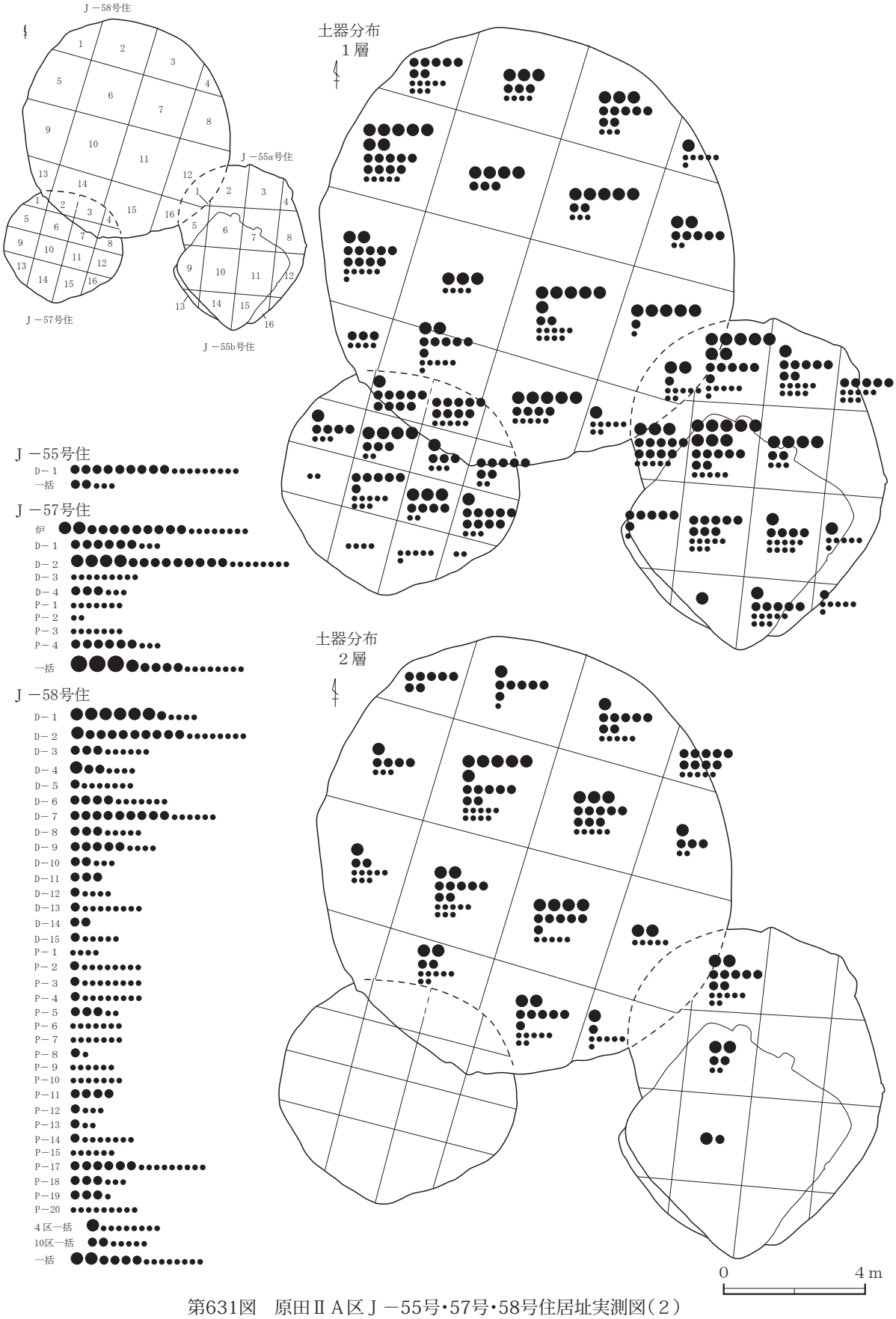


第629図　原田ⅡＡ区Ｊ－54号・79号住居址実測図

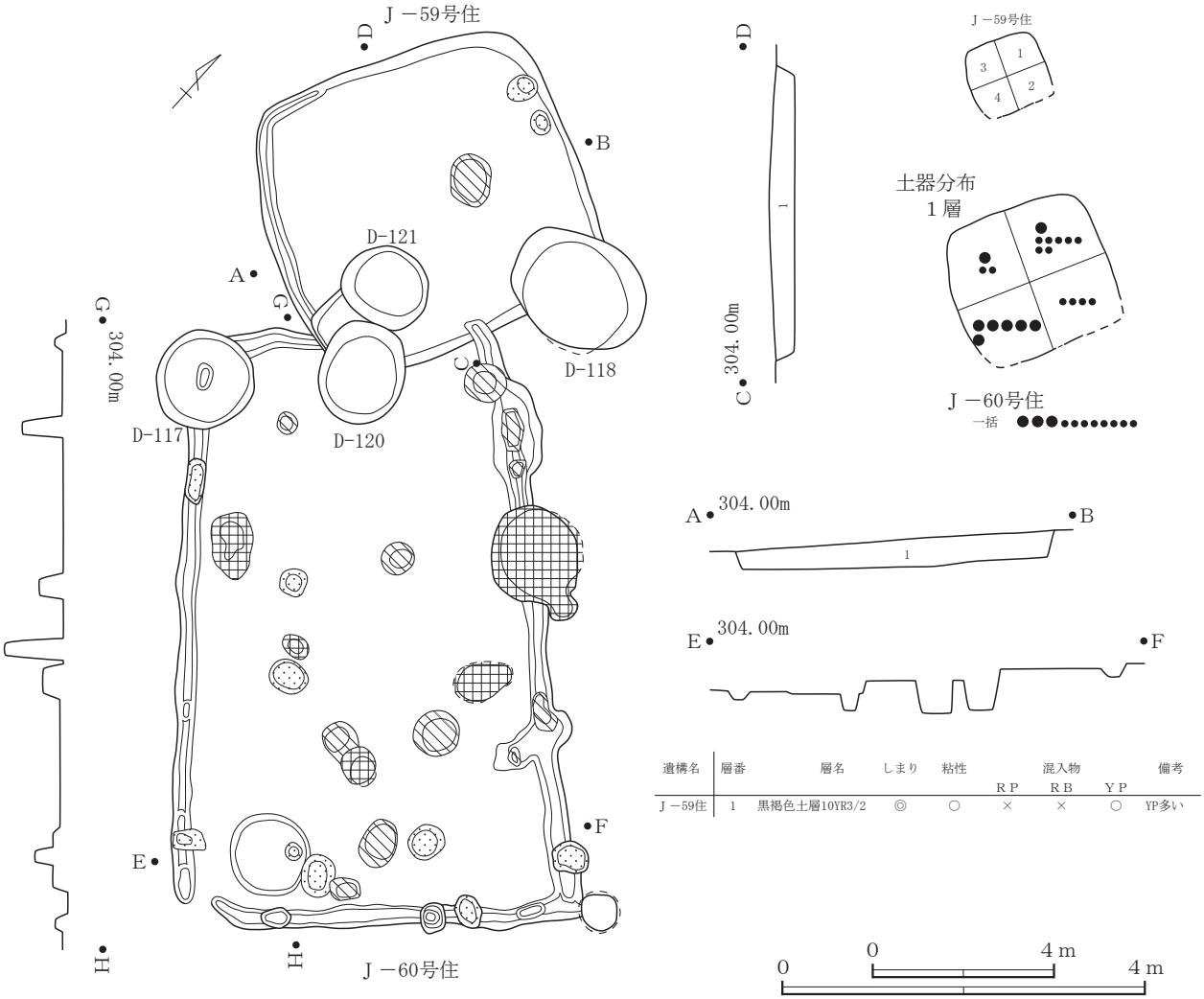


遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	混入物 RB	混入物 YP	備考	
J－55a・55b住	1	黒褐色土層10YR3/1		◎	○	×	×	※		
	2	黒褐色土層10YR3/1		◎	○	×	×	※	白色粒含む	J－55a住覆土
	3	暗褐色土層10YR3/3		◎	◎	○	○	※		
	4	黒褐色土層10YR3/2		◎	○	※	×	△		
	5	黒褐色土層10YR3/1		◎	○	※	×	※	1層よりYP粒径大きい	J－55b住覆土
	6	黒褐色土層10YR3/2		◎	○	△	×	※		
	7	灰黄褐色土層10YR4/2		◎	◎	○	△	○		
	8	黒褐色土層10YR3/1		◎	○	※	×	※	1・4層よりYP混入少ない	
J－58住	1	黒褐色土層10YR3/1		◎	○	※	×	△	白色粒多い	
	2	黒褐色土層10YR2/2		◎	○	※	×	△	1層よりYP粒径小さい	
	3	黒褐色土層10YR2/2		◎	○	×	×	※	YP少ない	
	4	黒褐色土層10YR3/2		◎	◎	○	△	※		

第630図　原田ⅡA区J－55号・57号・58号住居址実測図（1）

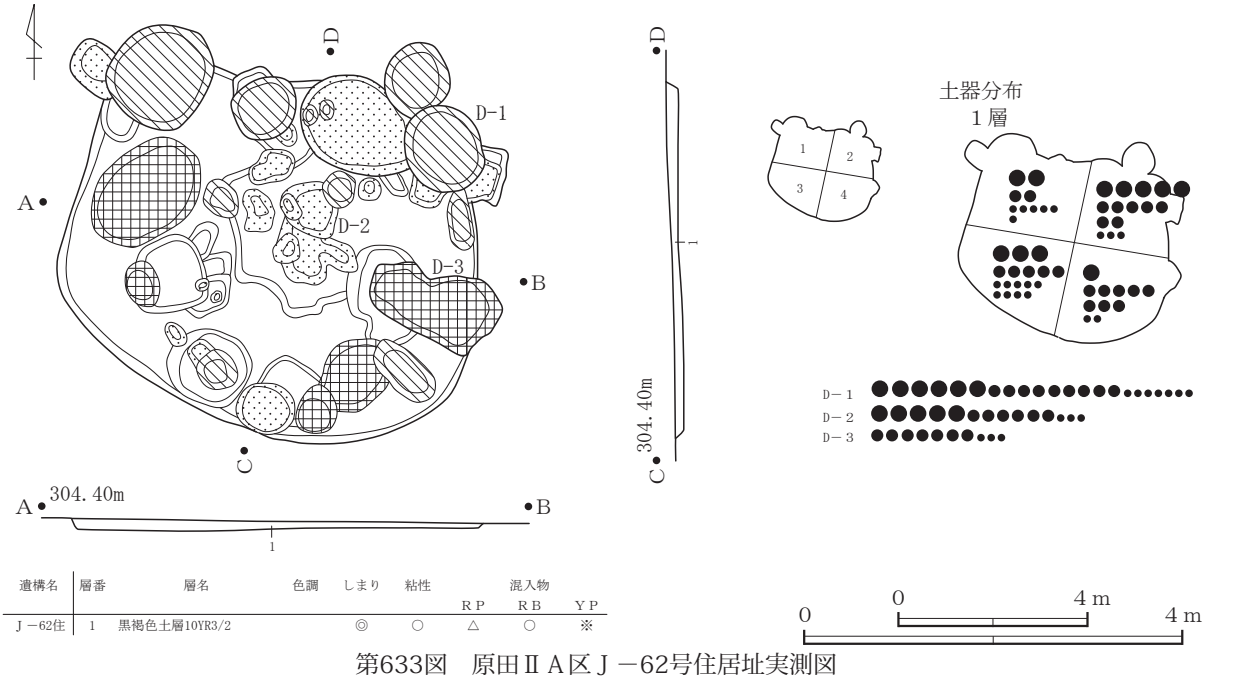


第631図　原田ⅡA区Ｊ－55号･57号･58号住居址実測図（２）



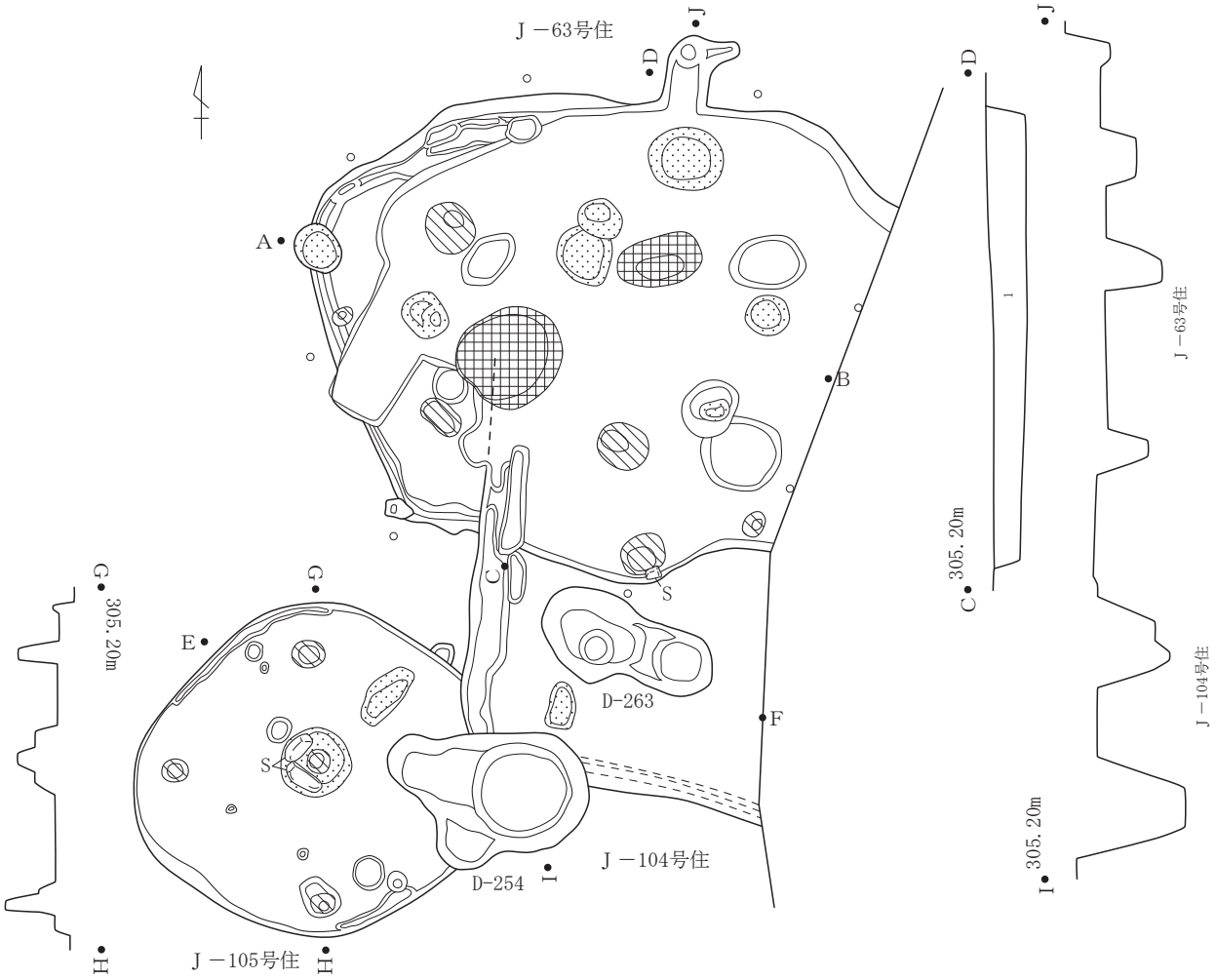
遺構名	層番	層名	しまり	粘性	混入物 RP	混入物 RB	混入物 YP	備考
Ｊ－59住	1	黒褐色土層10YR3/2	◎	○	×	×	○	YP多い

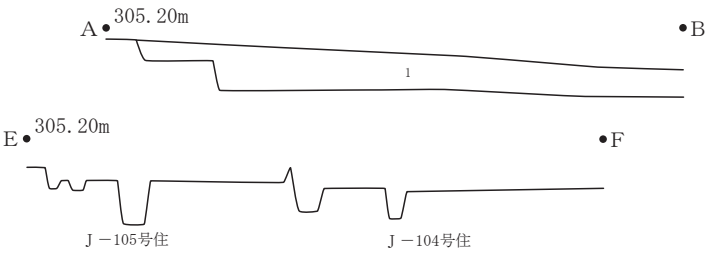
第632図　原田ⅡA区Ｊ－59号・60号住居址実測図



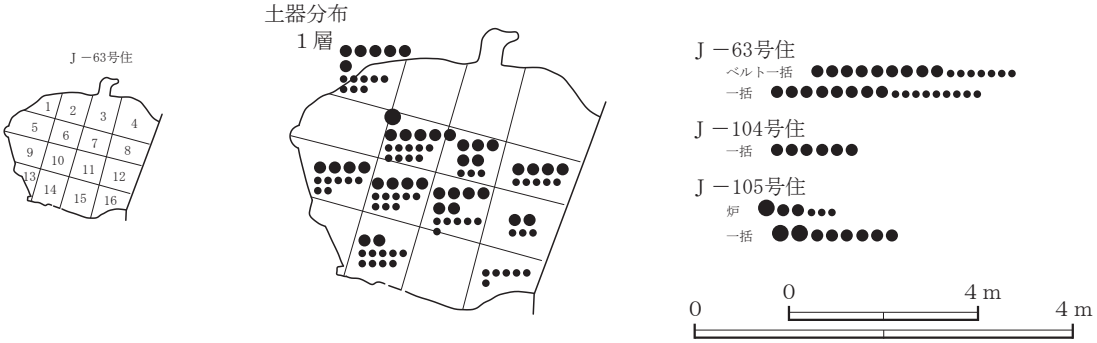
遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	混入物 RB	混入物 YP
Ｊ－62住	1	黒褐色土層10YR3/2		◎	○	△	○	※

第633図　原田ⅡA区Ｊ－62号住居址実測図

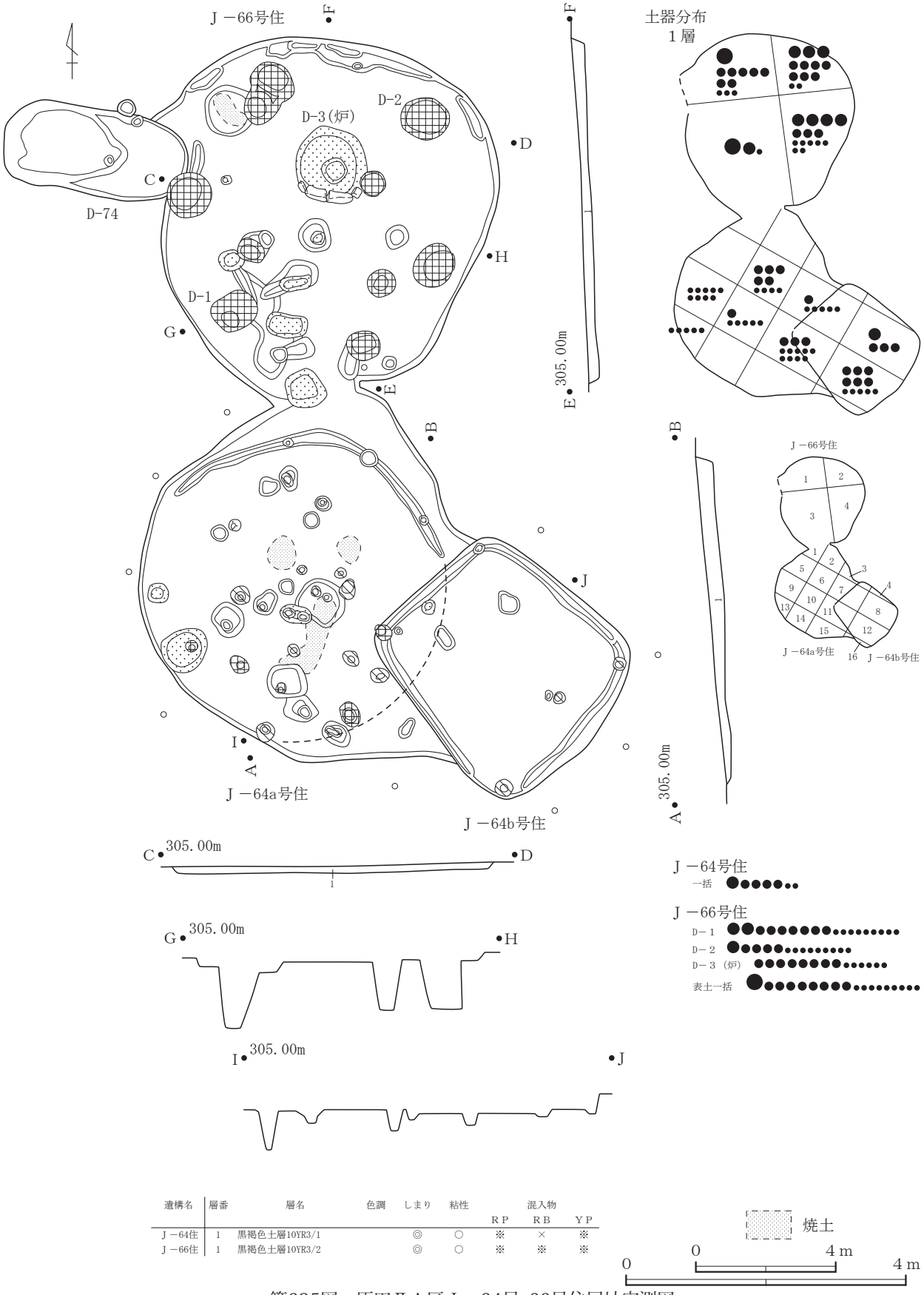




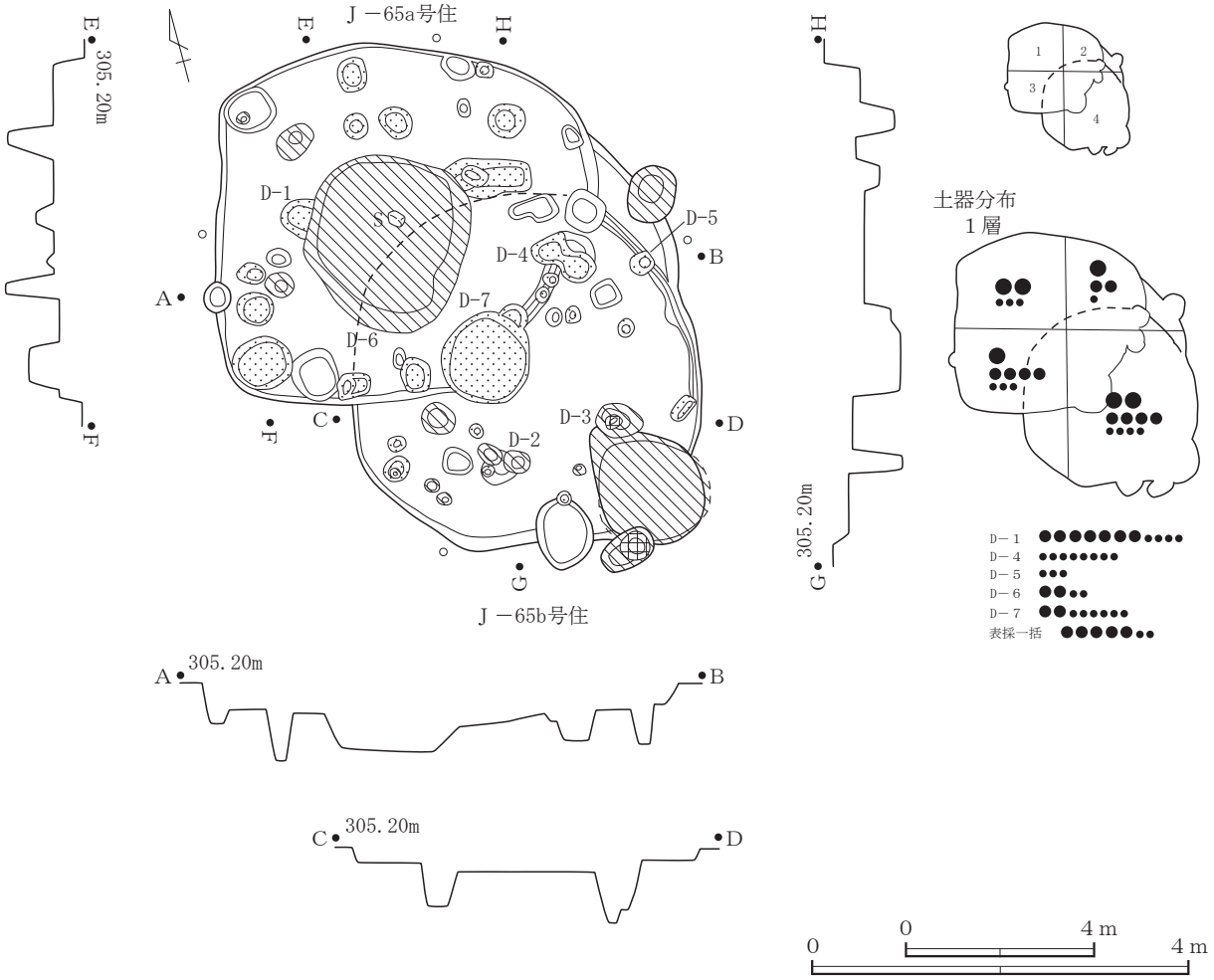
遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物		
						RP	RB	YP
J －63住	1	黒褐色土層10YR3/1		◎	○	※	×	※



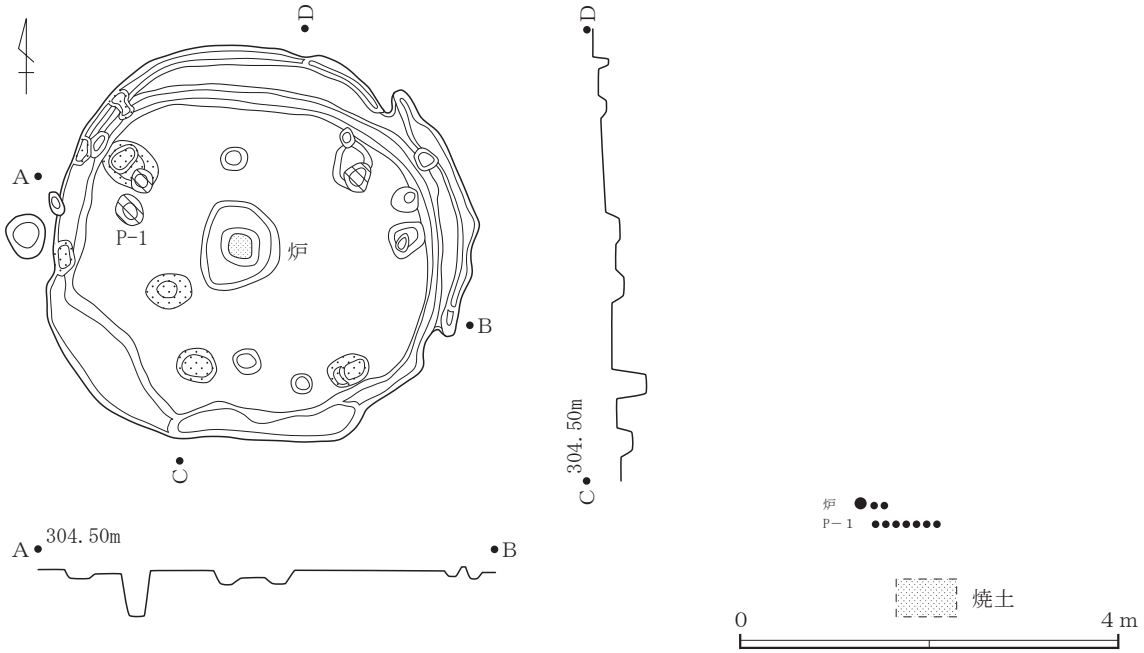
第634図　原田ⅡA区J －63号・104号・105号住居址実測図



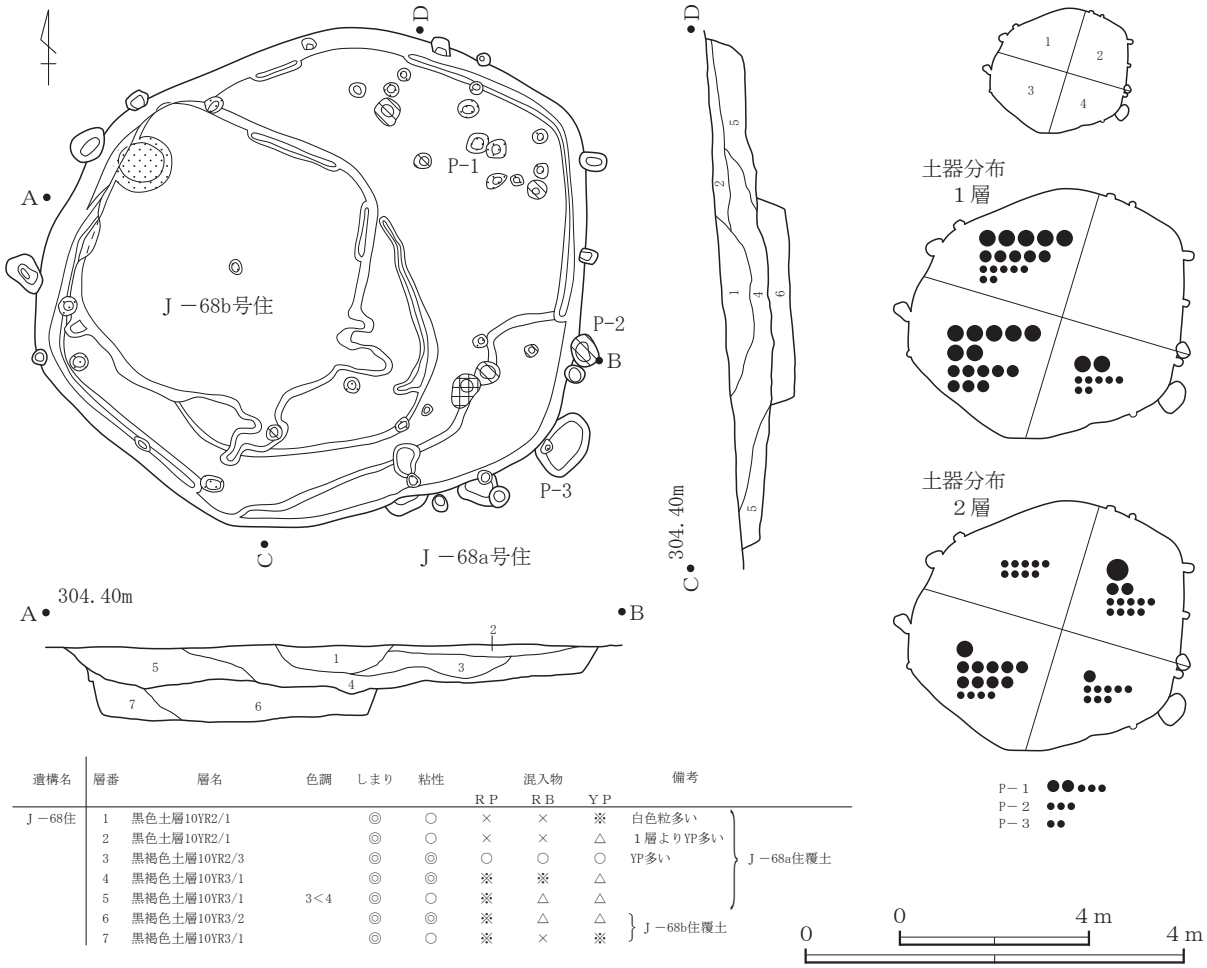
第635図　原田ⅡA区Ｊ－64号･66号住居址実測図



第636図　原田ⅡA区Ｊ－65号住居址実測図

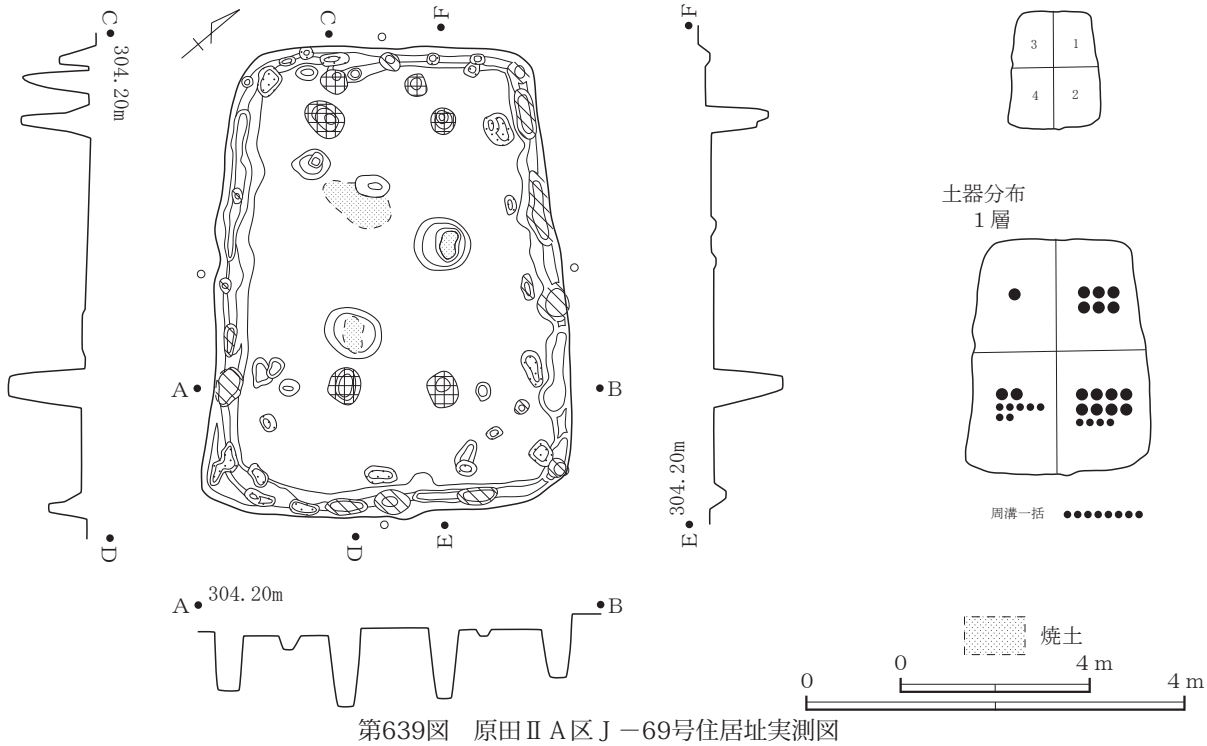


第637図　原田ⅡA区Ｊ－67号住居址実測図

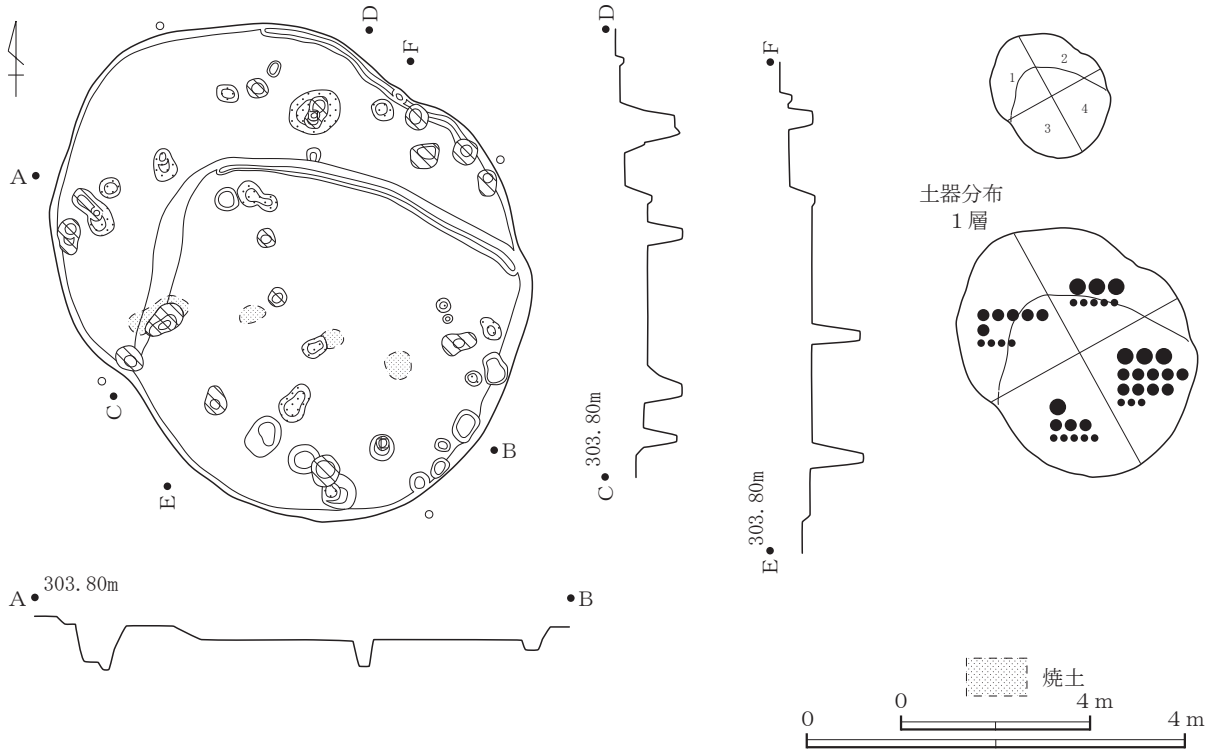


遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	混入物 RB	混入物 YP	備考	
J－68住	1	黒色土層10YR2/1		◎	○	×	×	※	白色粒多い	
	2	黒色土層10YR2/1		◎	○	×	×	△	1層よりYP多い	J－68a住覆土
	3	黒褐色土層10YR2/3		◎	◎	○	○	○	YP多い	
	4	黒褐色土層10YR3/1		◎	◎	※	※	△		
	5	黒褐色土層10YR3/1	3<4	◎	○	※	△	△		
	6	黒褐色土層10YR3/2		◎	◎	※	△	△		J－68b住覆土
	7	黒褐色土層10YR3/1		◎	○	※	×	※		

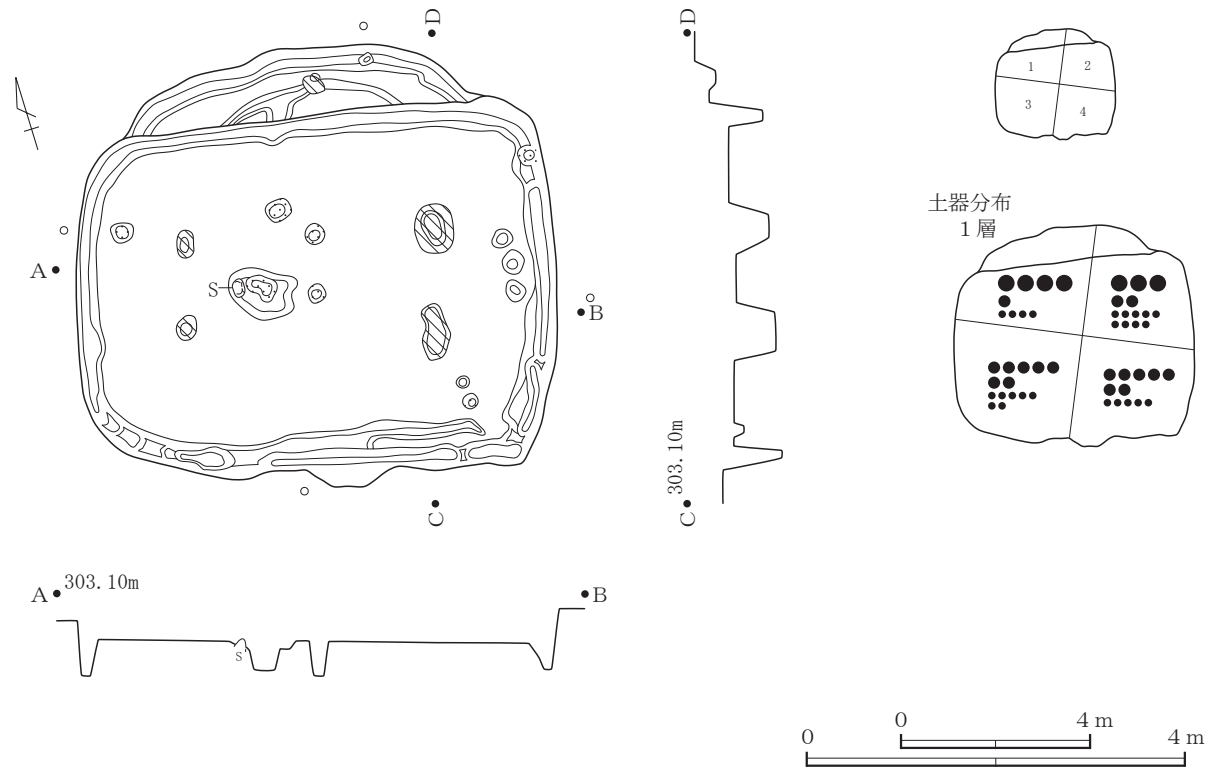
第638図　原田ⅡA区J－68号住居址実測図



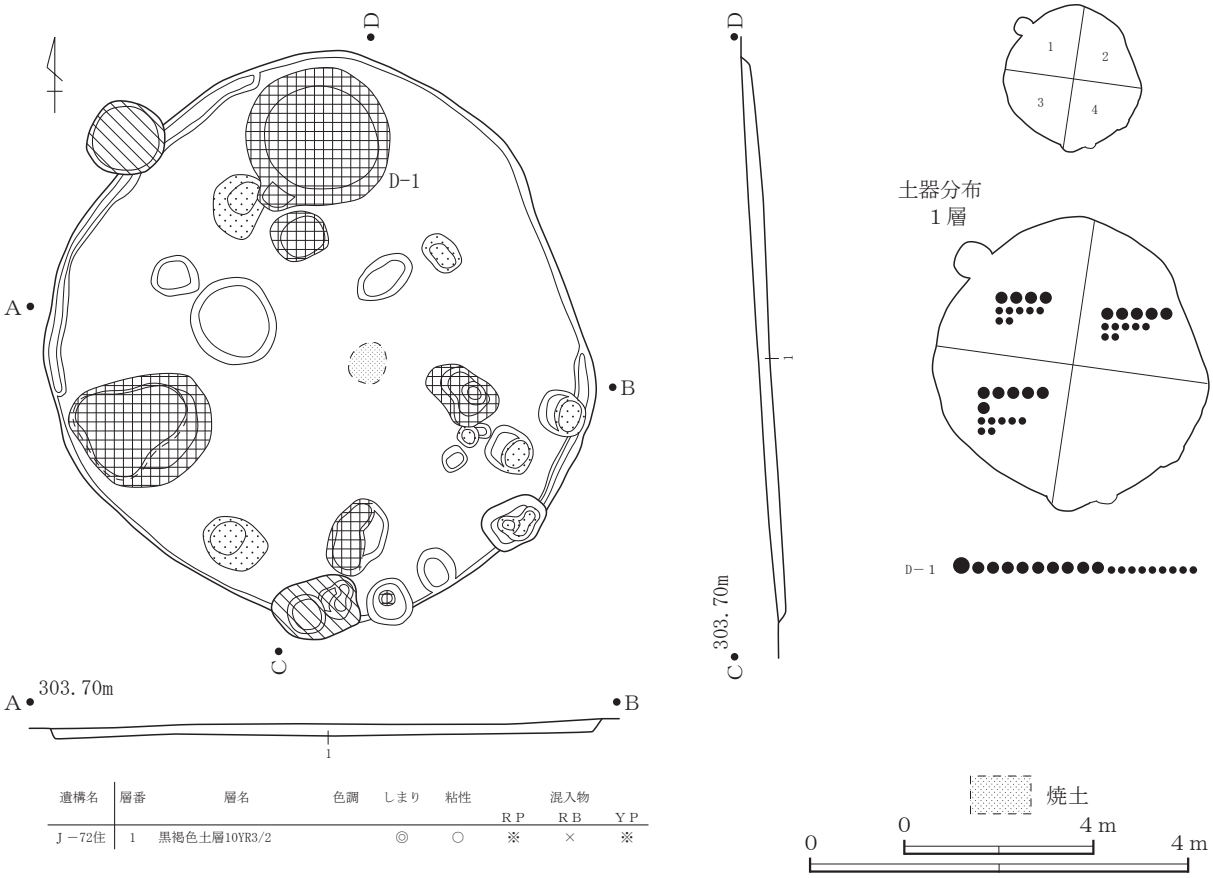
第639図　原田ⅡA区J－69号住居址実測図



第640図　原田ⅡA区J－70号住居址実測図



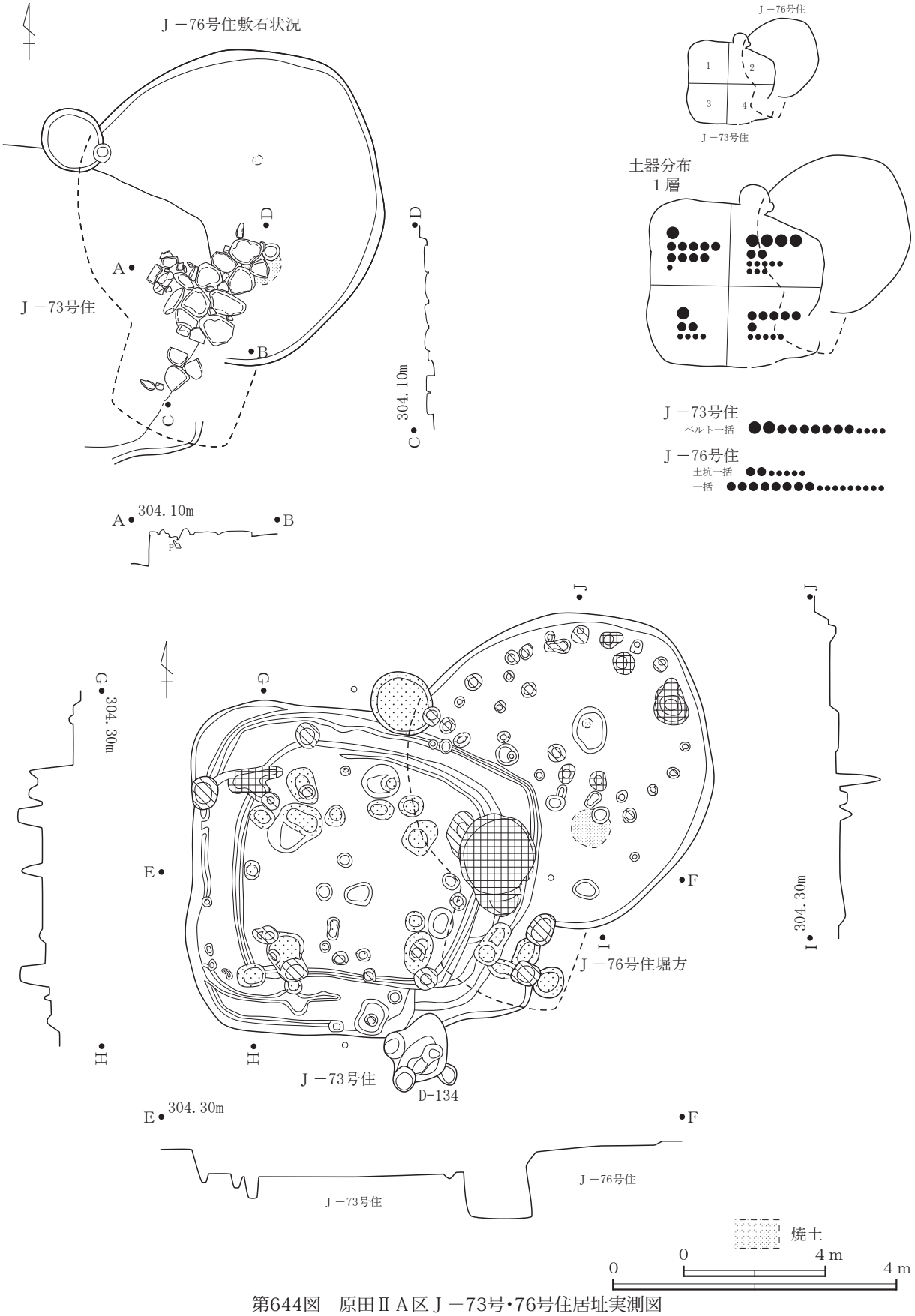
第641図　原田ⅡA区J－71号住居址実測図



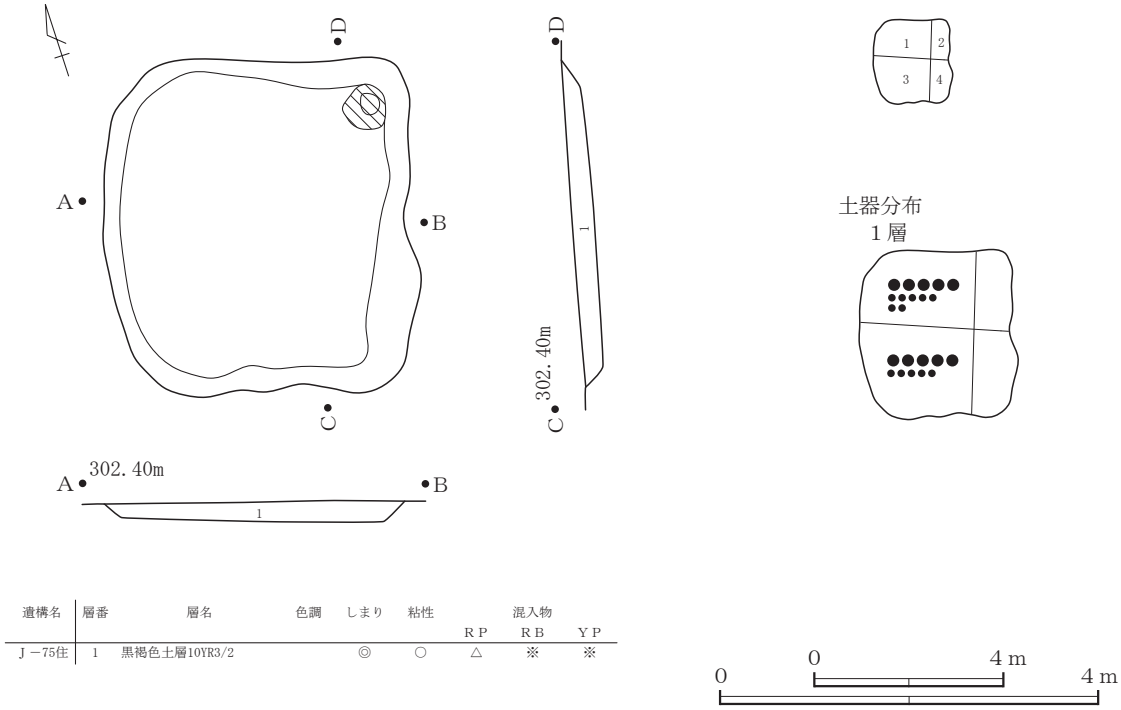
遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物		
						RP	RB	YP
J－72住	1	黒褐色土層10YR3/2		◎	○	※	×	※

第642図　原田ⅡA区J－72号住居址実測図

第643図　原田ⅡA区J－74号住居址実測図

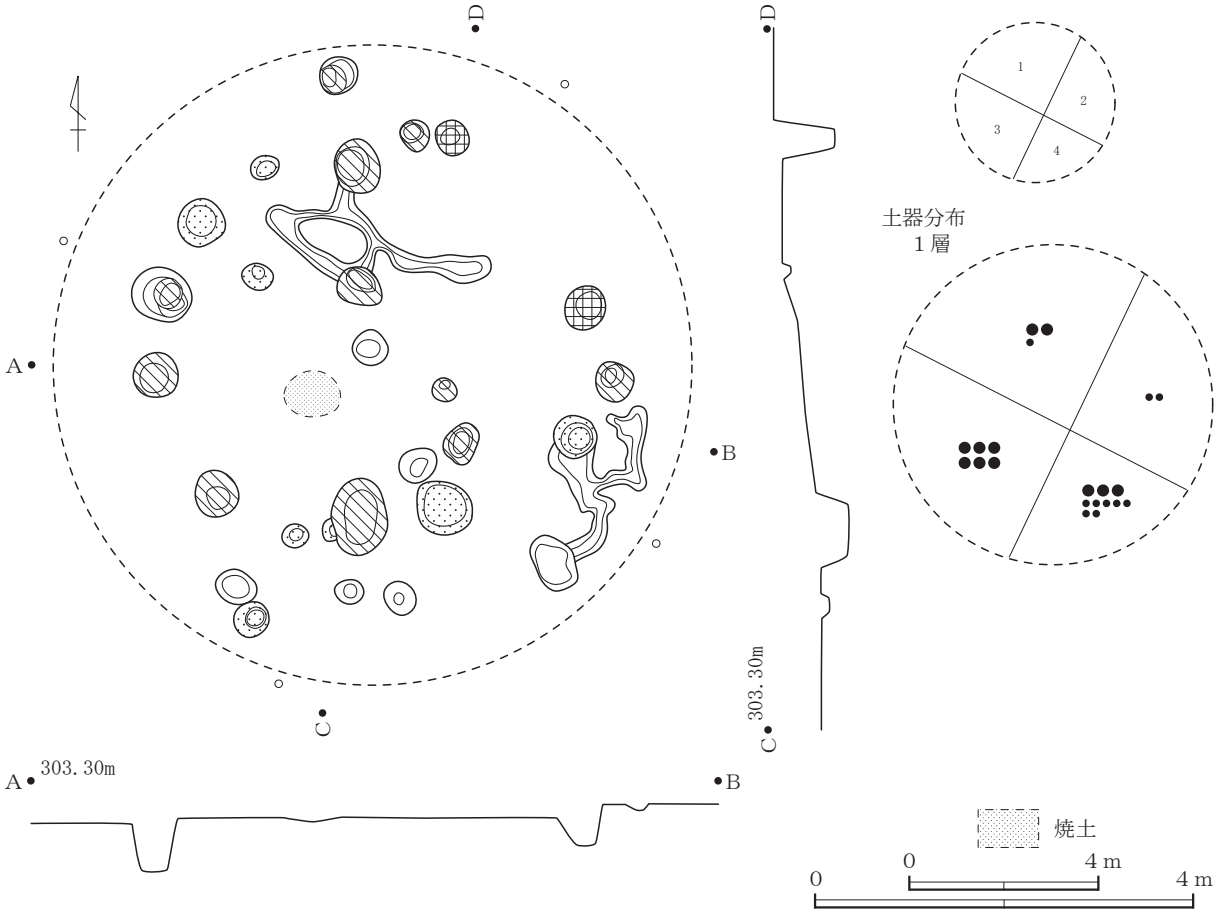


第644図　原田ⅡA区J－73号・76号住居址実測図



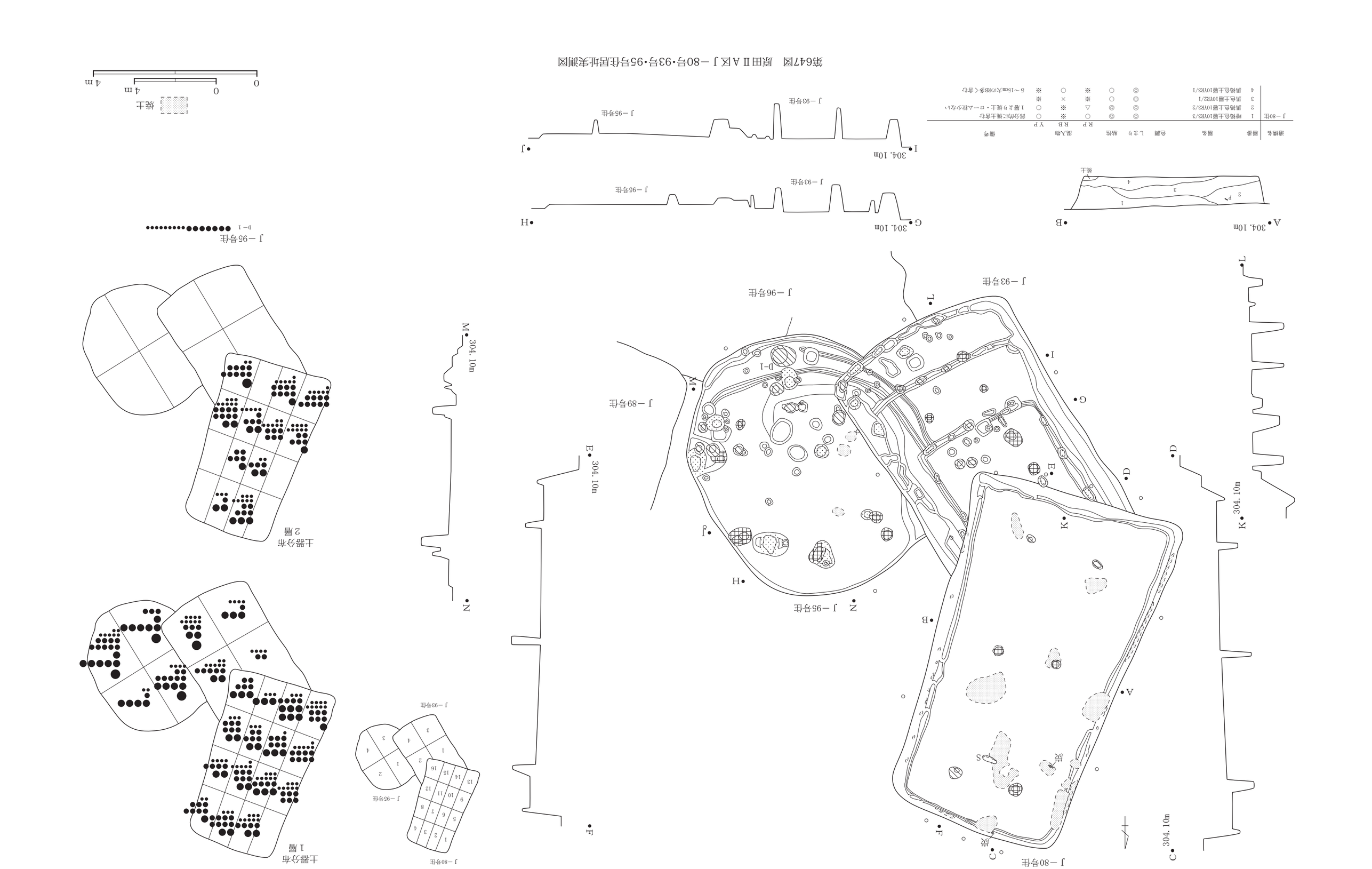
遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	混入物 RB	混入物 YP
J－75住	1	黒褐色土層	10YR3/2	◎	○	△	※	※

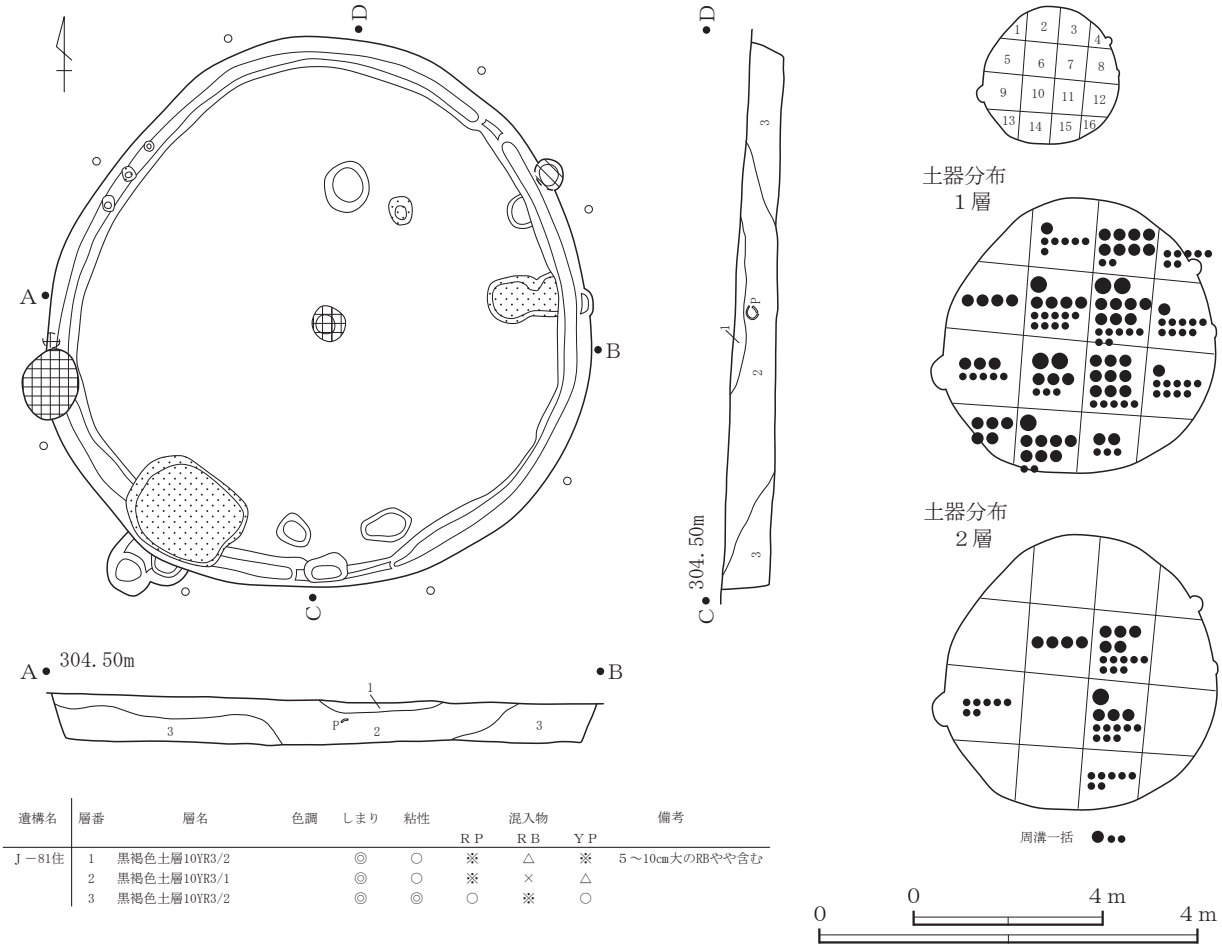
第645図　原田ⅡA区J－75号住居址実測図



第646図　原田ⅡA区J－78号住居址実測図

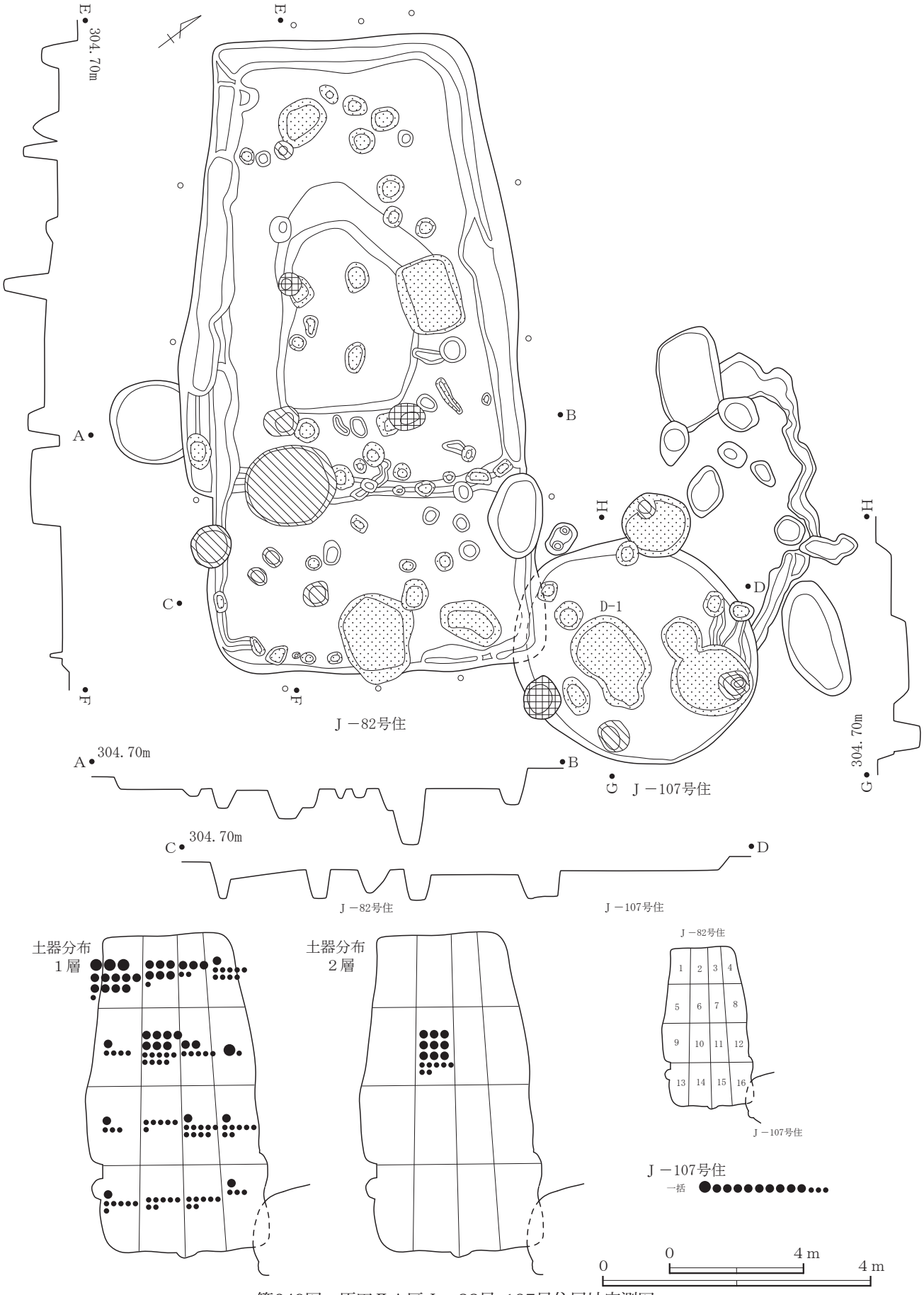
第647図　原田ⅡA区J－80号・93号・95号住居址実測図



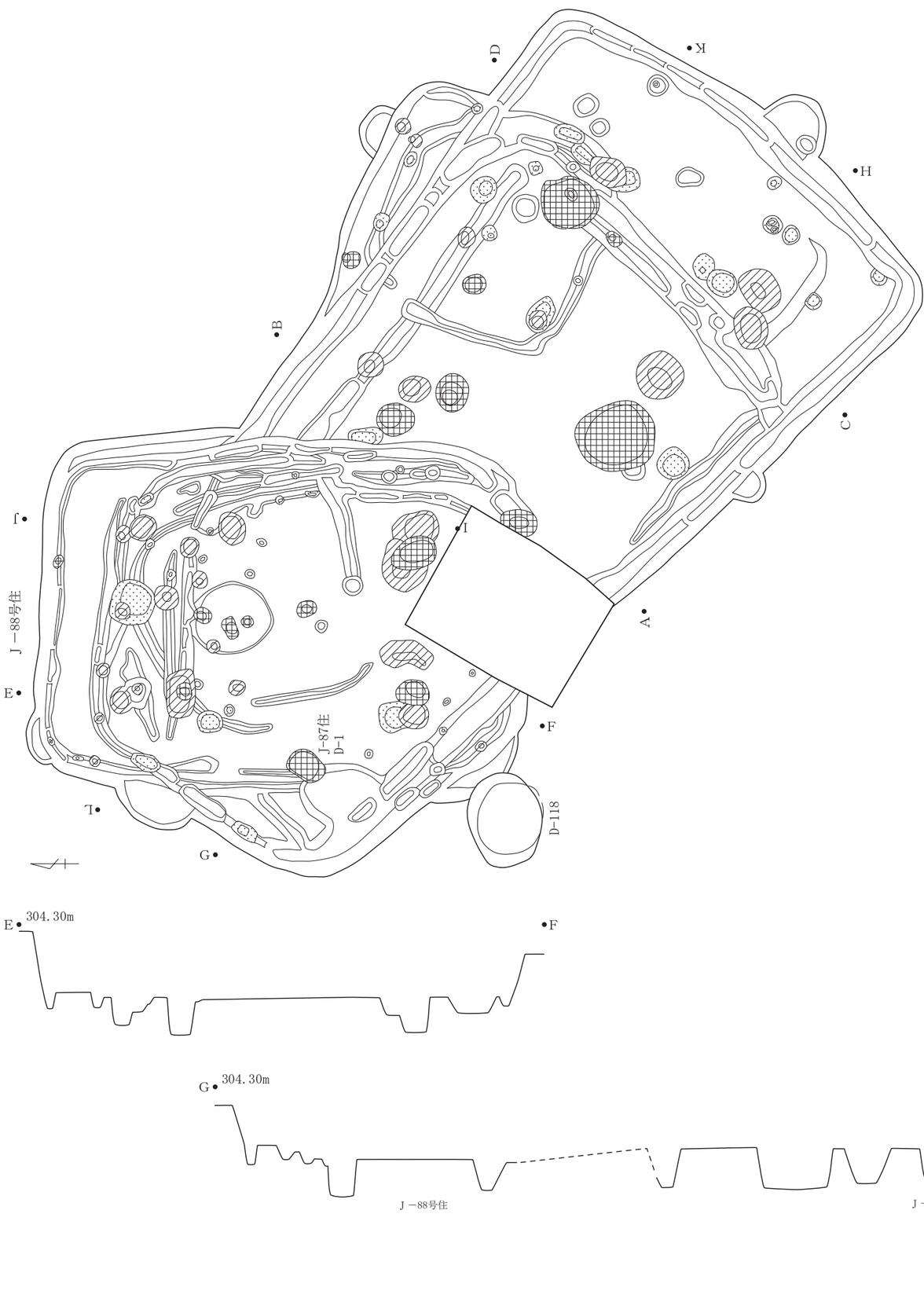


遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物			備考
						RP	RB	YP	
J－81住	1	黒褐色土層10YR3/2		◎	○	※	△	※	5～10㎝大のRBやや含む
	2	黒褐色土層10YR3/1		◎	○	※	×	△	
	3	黒褐色土層10YR3/2		◎	◎	○	※	○	

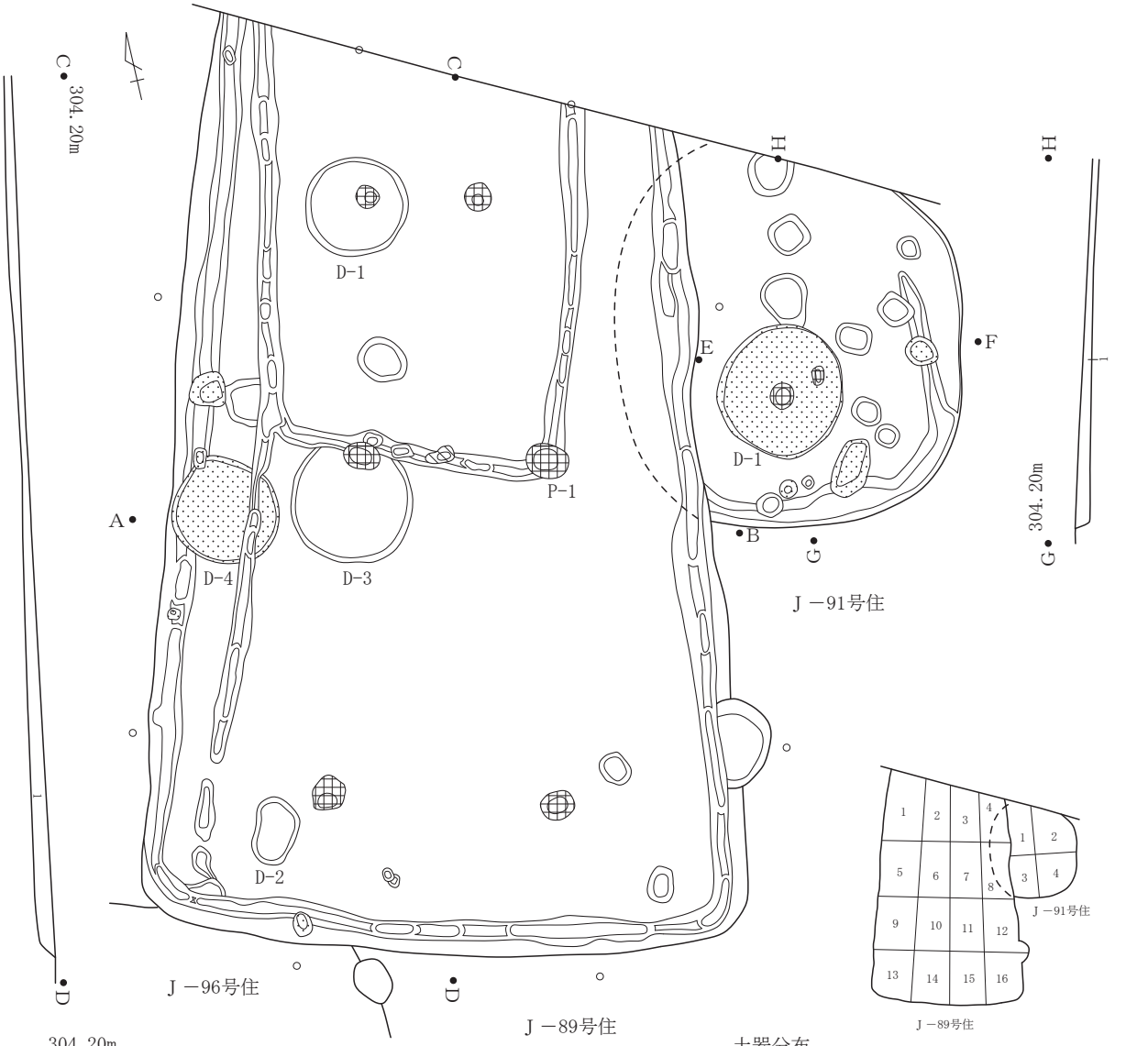
第648図　原田Ⅱ A区 J －81号住居址実測図

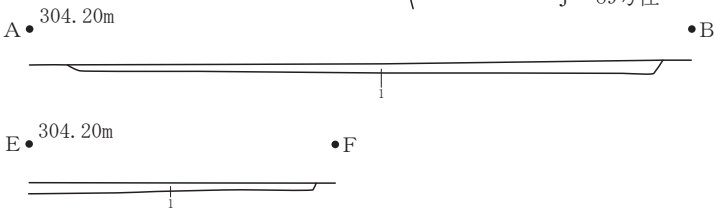


第649図　原田ⅡA区J－82号・107号住居址実測図

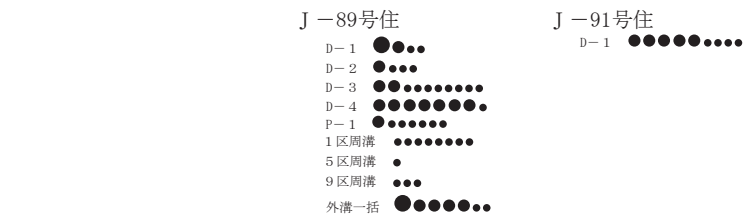


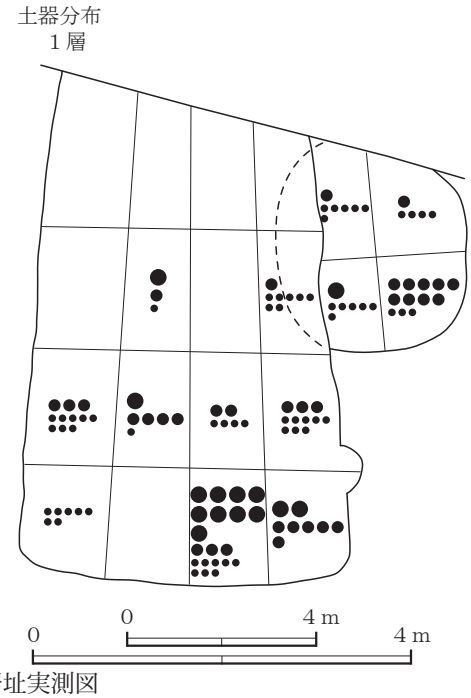
第650図　原Ⅲ A区 J－87号・88号住居址実測図





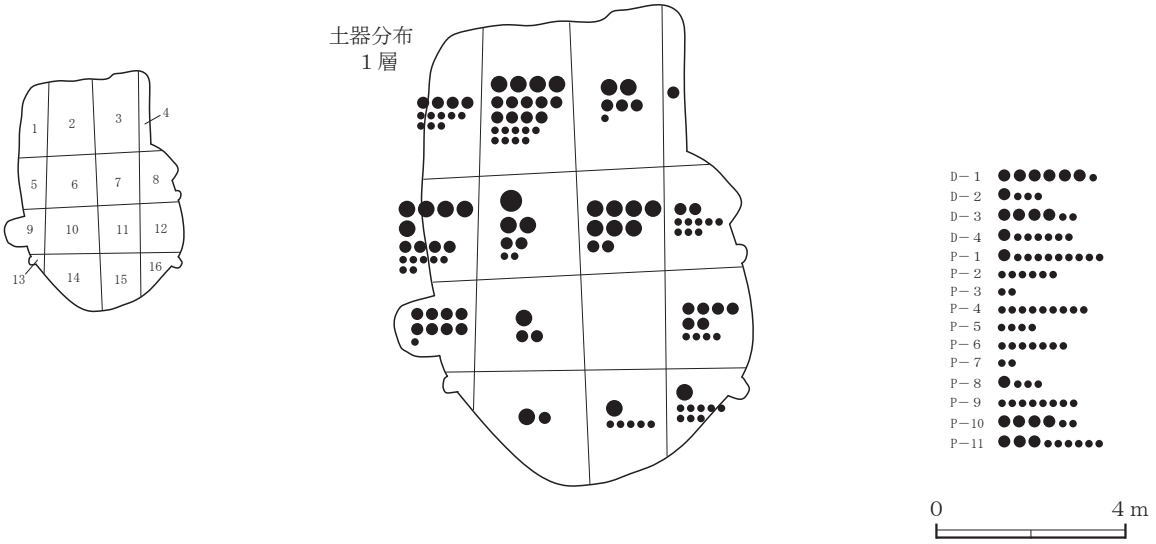
遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物			備考
						RP	RB	YP	
J－89住	1	黒褐色土層10YR3/1		◎	○	※	×	※	
J－91住	1	黒褐色土層10YR3/1		◎	○	※	×	※	YP粒径細かい 白色粒径細かい



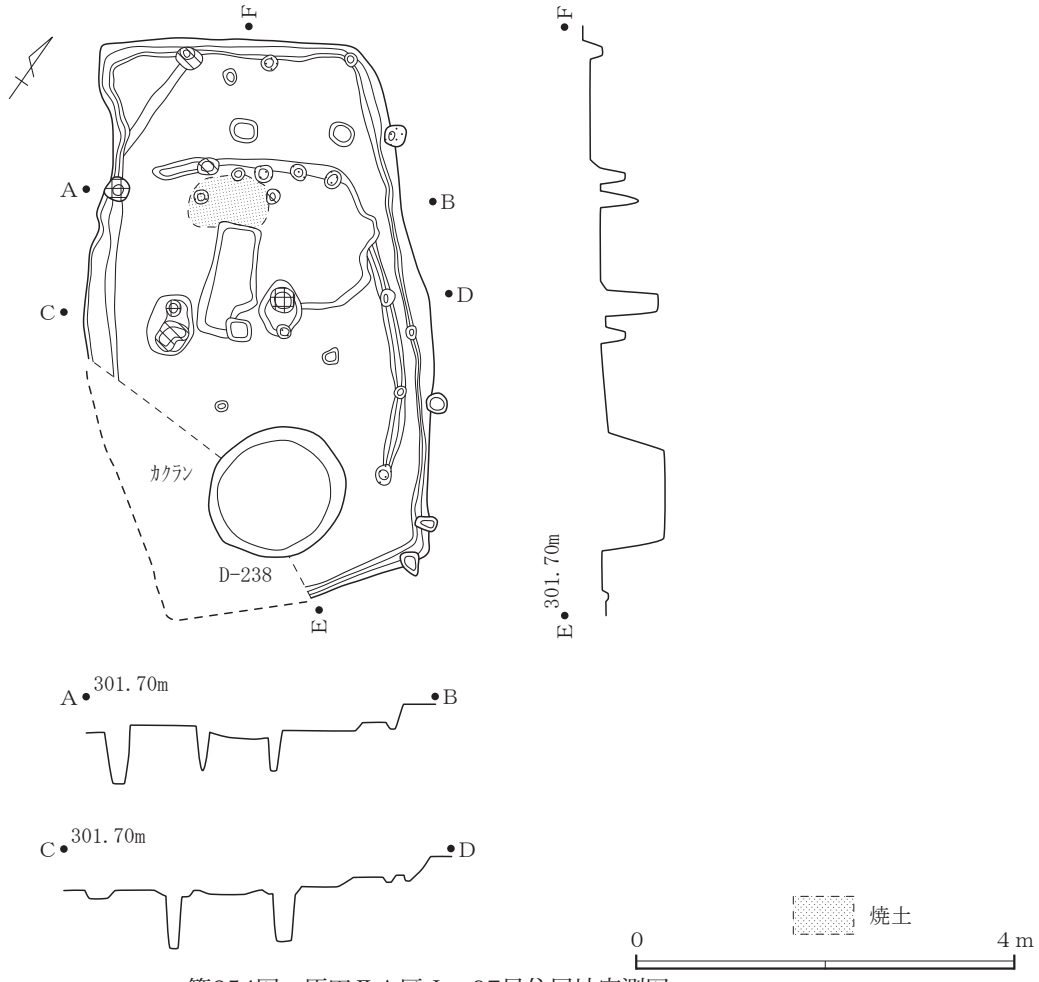


第651図　原田ⅡA区J－89号・91号住居址実測図

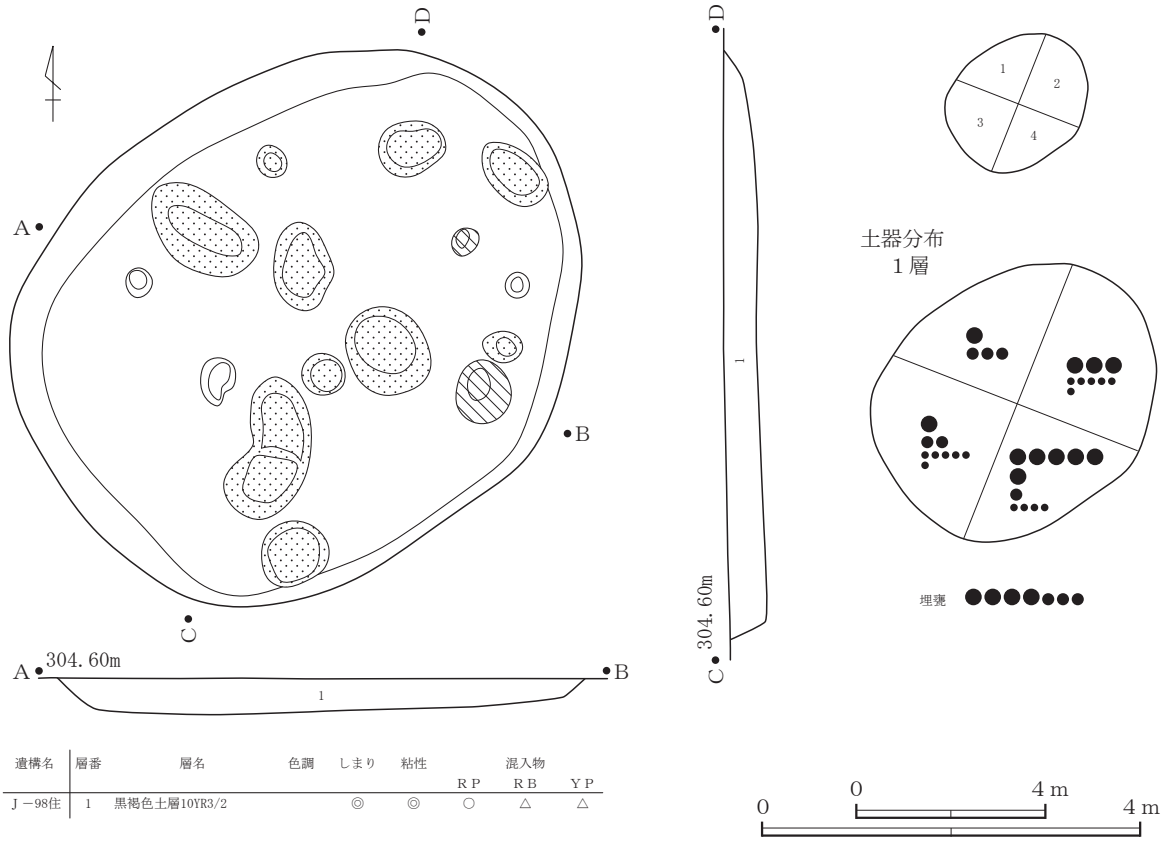
第652図　原田ⅡA区J－90号住居址実測図（1）



第653図　原田ⅡA区J－90号住居址実測図（2）

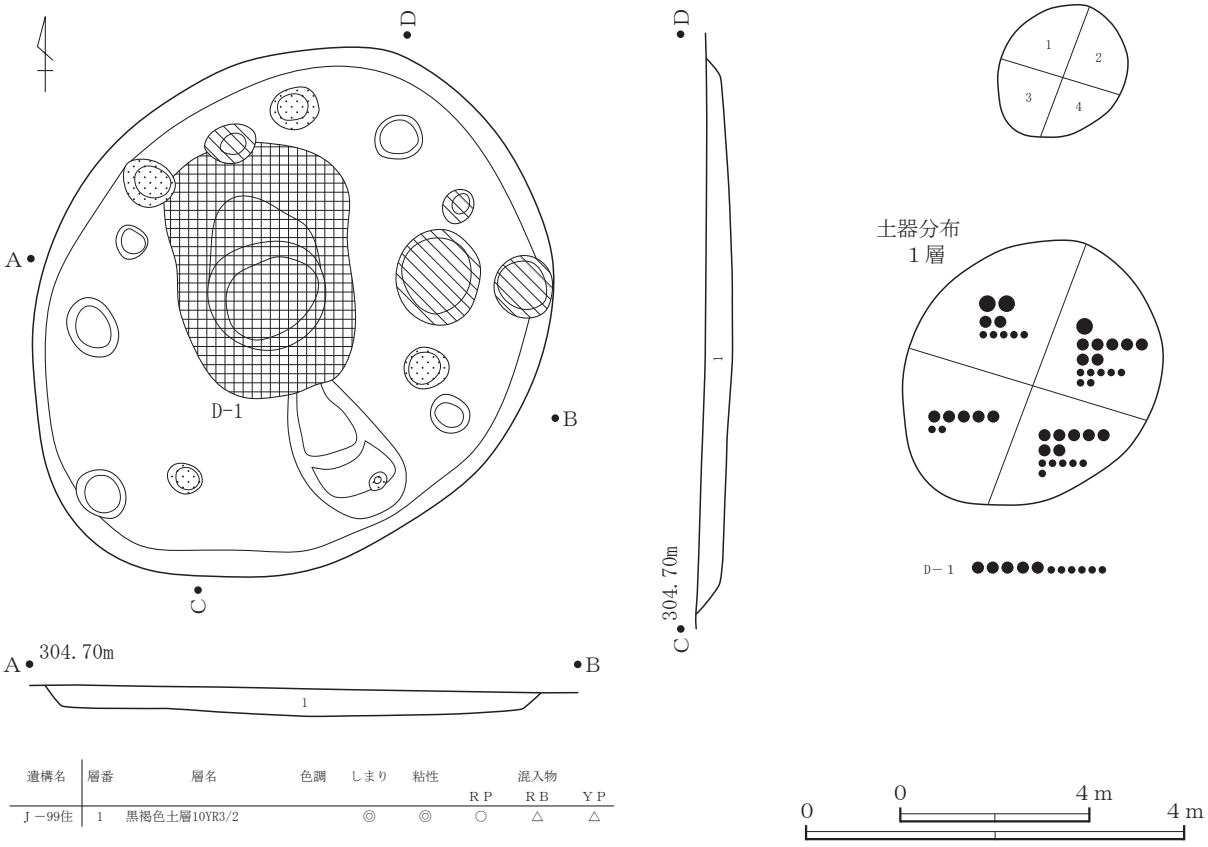


第654図　原田ⅡA区J－97号住居址実測図



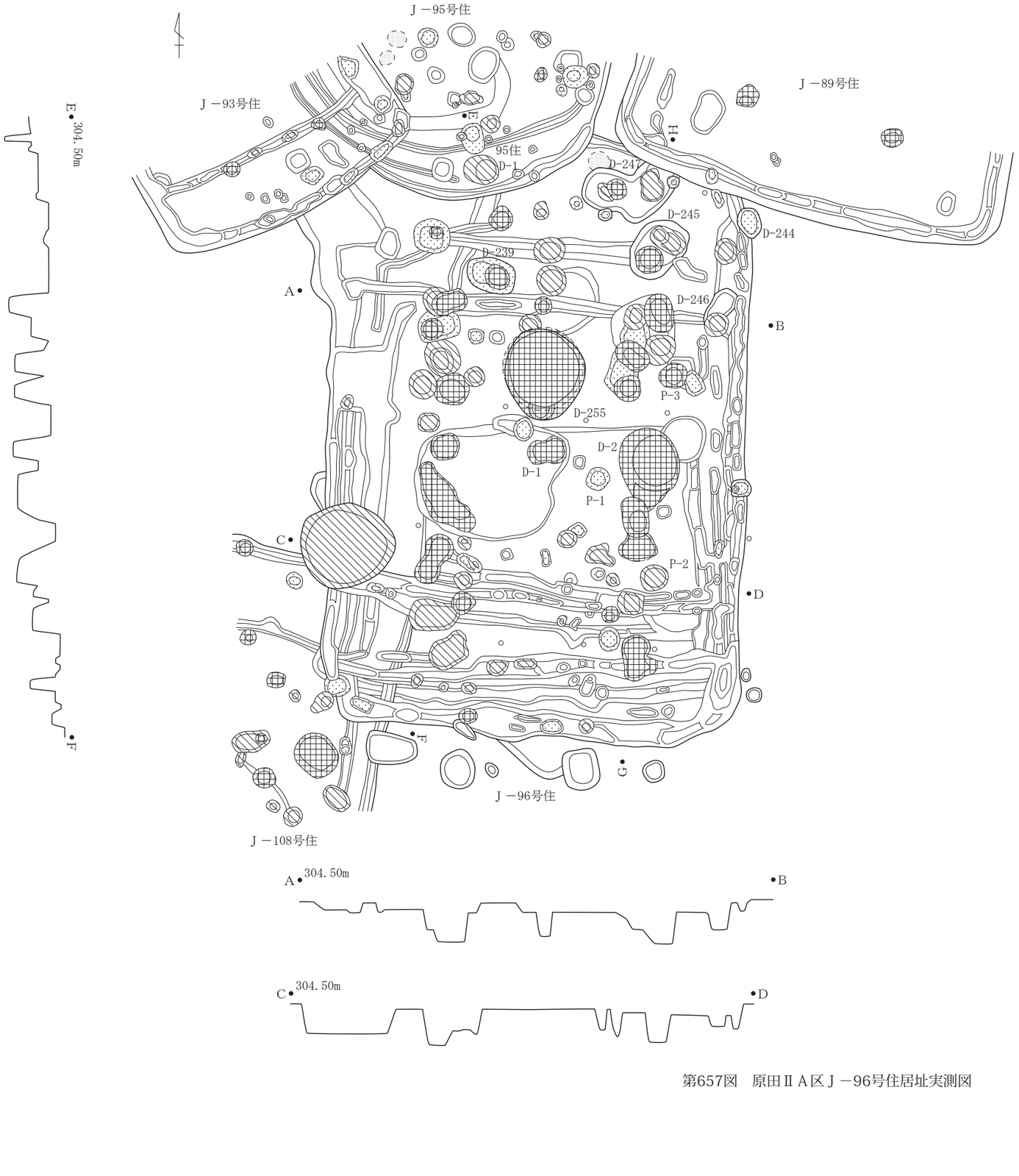
遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	RB	YP
J－98住	1	黒褐色土層10YR3/2		◎	◎	○	△	△

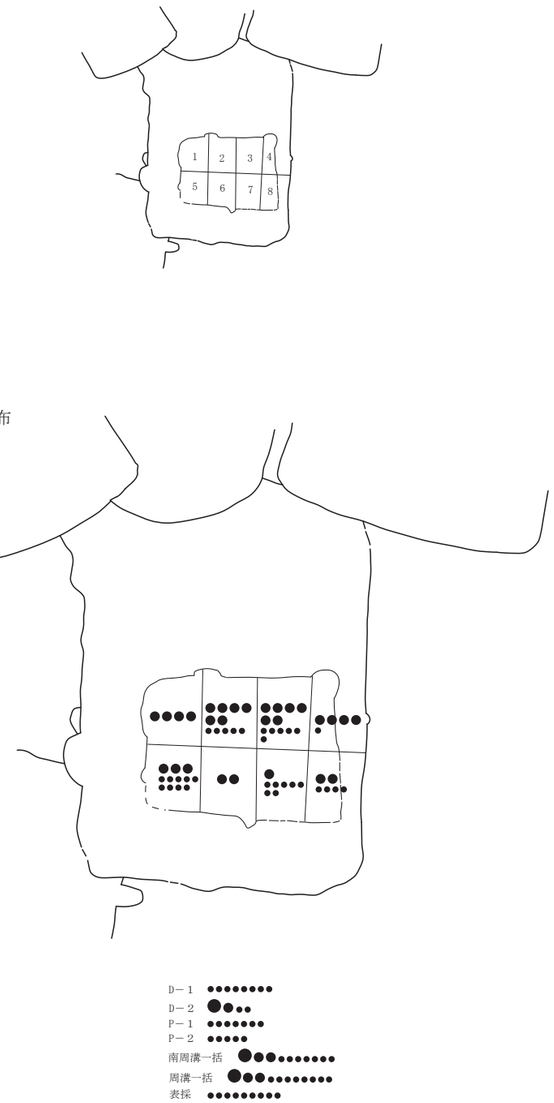
第655図　原田Ⅱ A区 J －98号住居址実測図



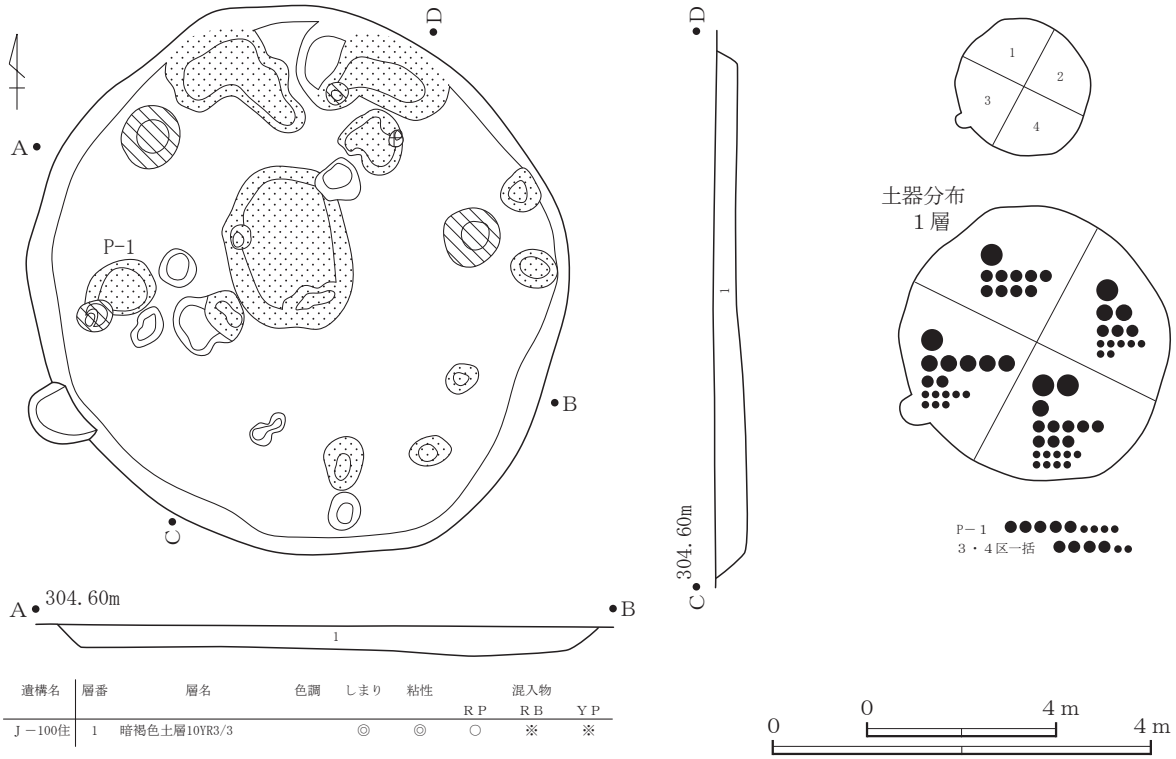
遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	RB	YP
J－99住	1	黒褐色土層10YR3/2		◎	◎	○	△	△

第656図　原田Ⅱ A区 J －99号住居址実測図



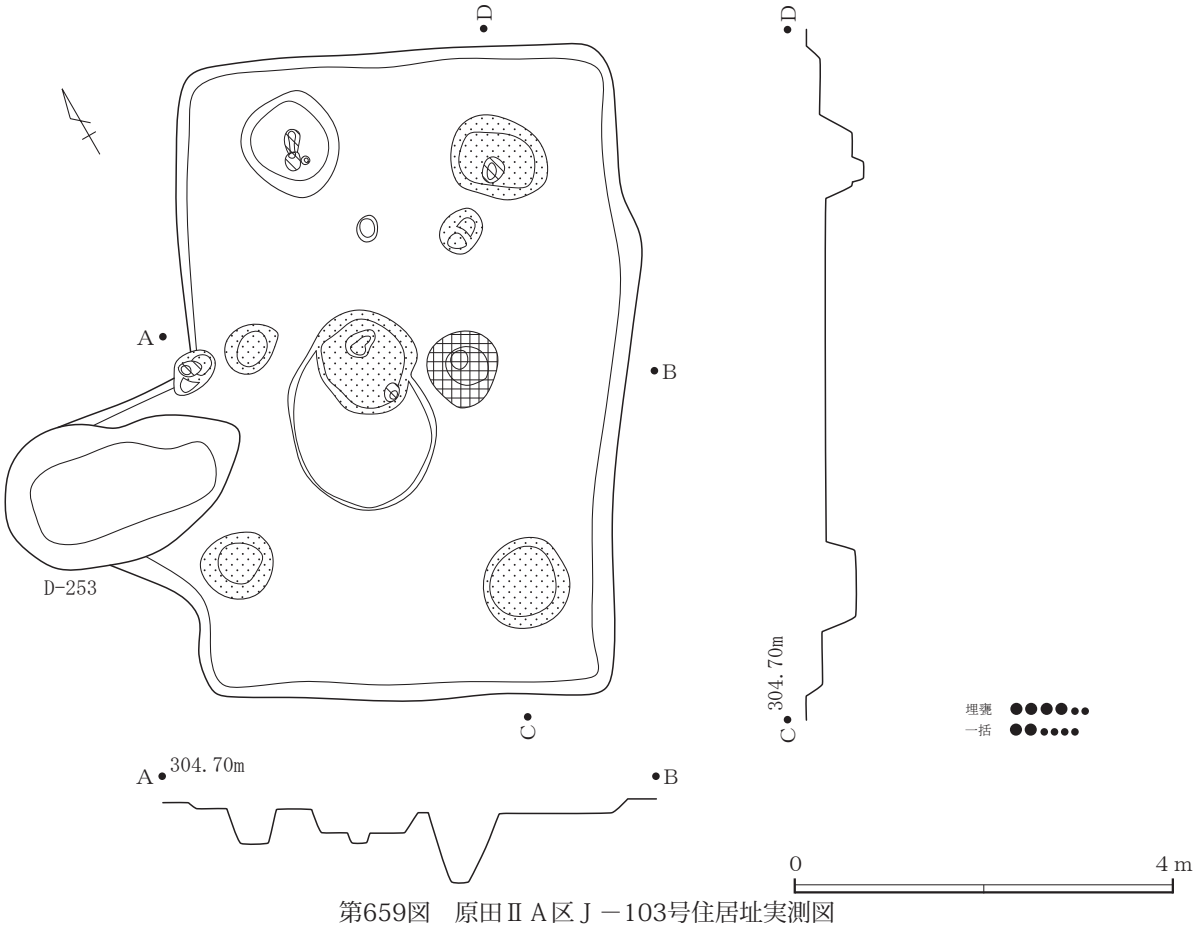


第657図　原田ⅡＡ区Ｊ－96号住居址実測図



遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物		
						RP	RB	YP
J－100住	1	暗褐色土層10YR3/3		◎	◎	○	※	※

第658図　原田ⅡA区J－100号住居址実測図



第659図　原田ⅡA区J－103号住居址実測図

第660図　原田ⅡA区J－108号住居址実測図

J－106号住
一括

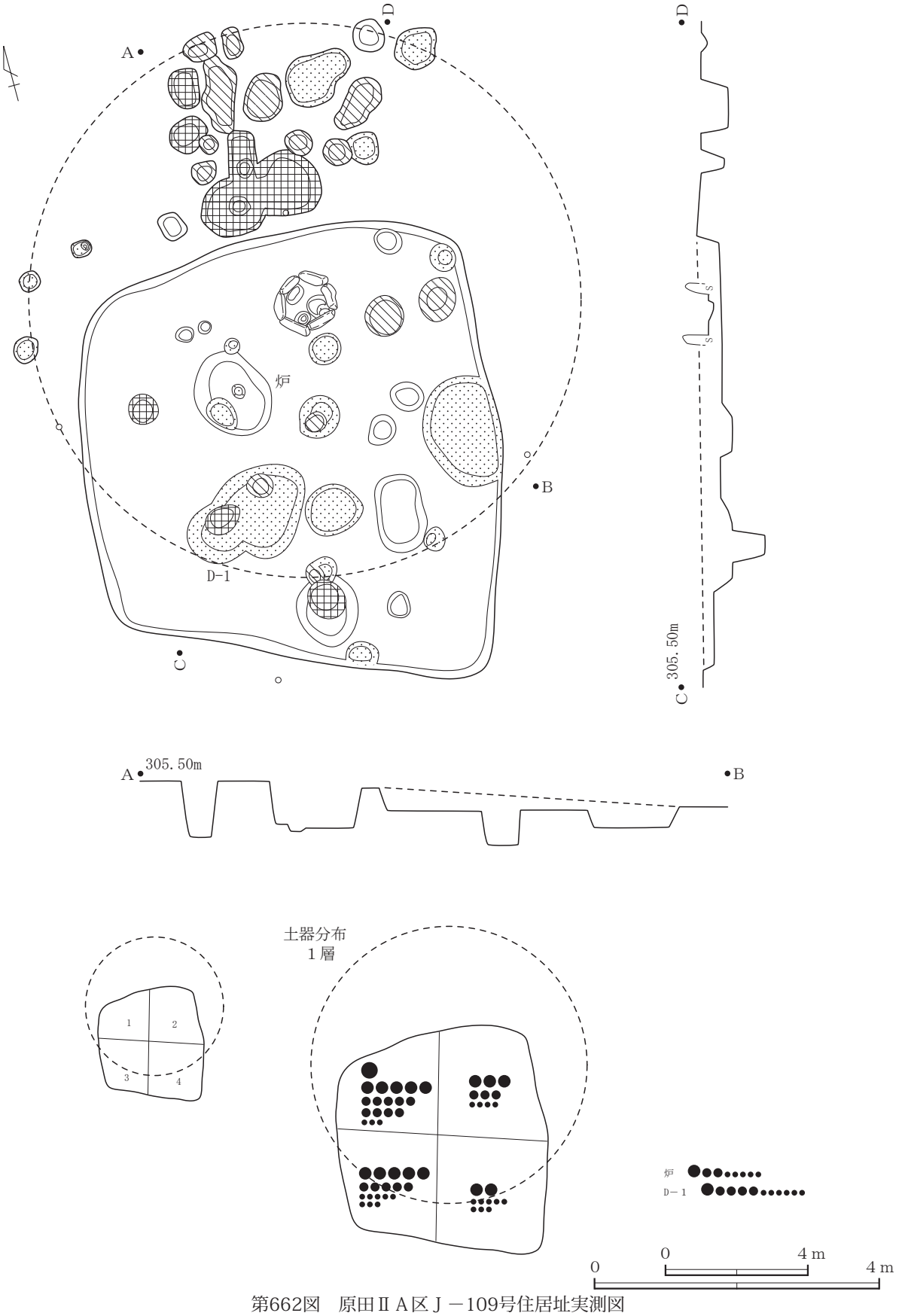
J－111号住
一括

J－112号住
炉一括
D－1
周溝一括
一括

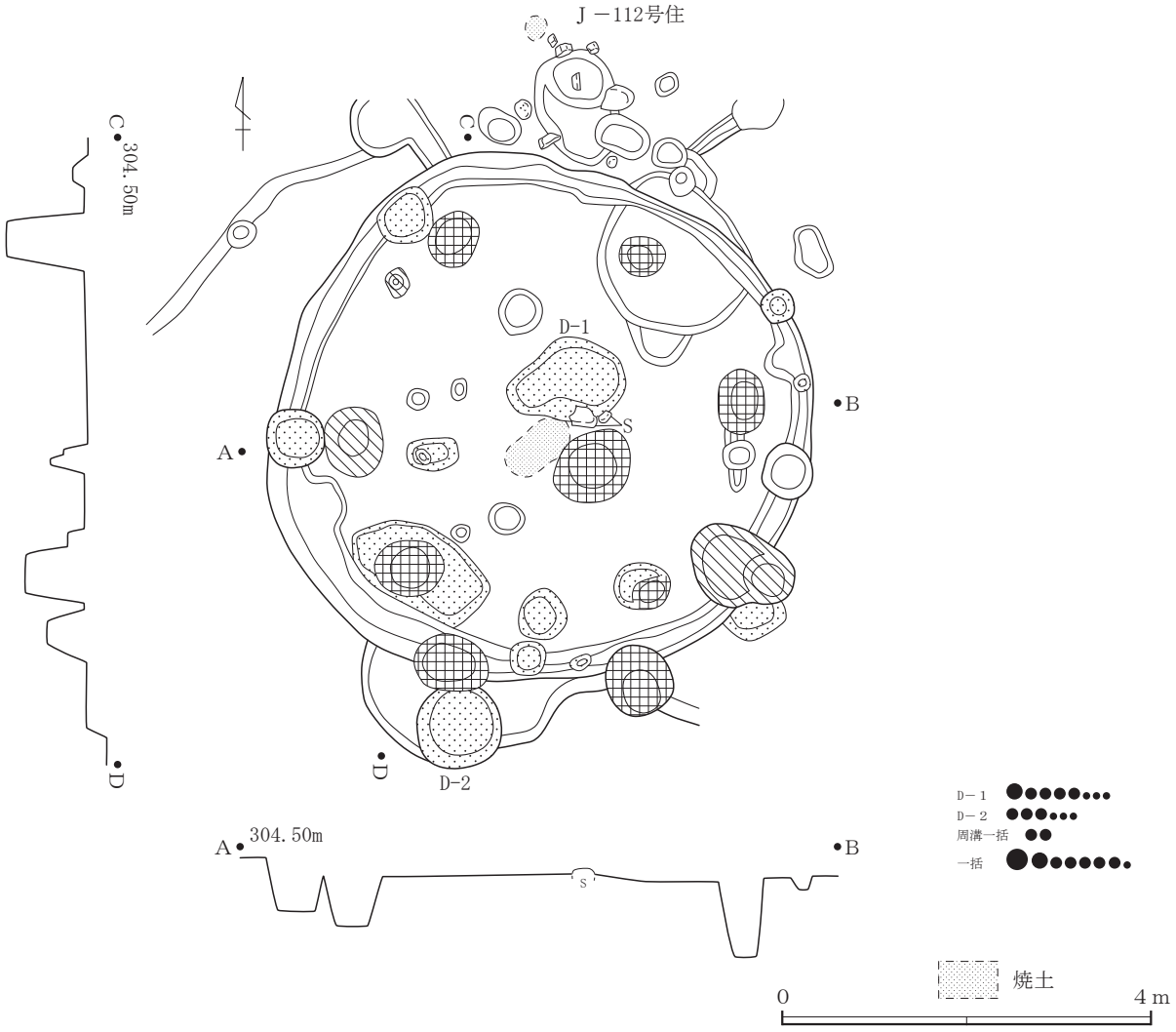
焼土

0　4 m

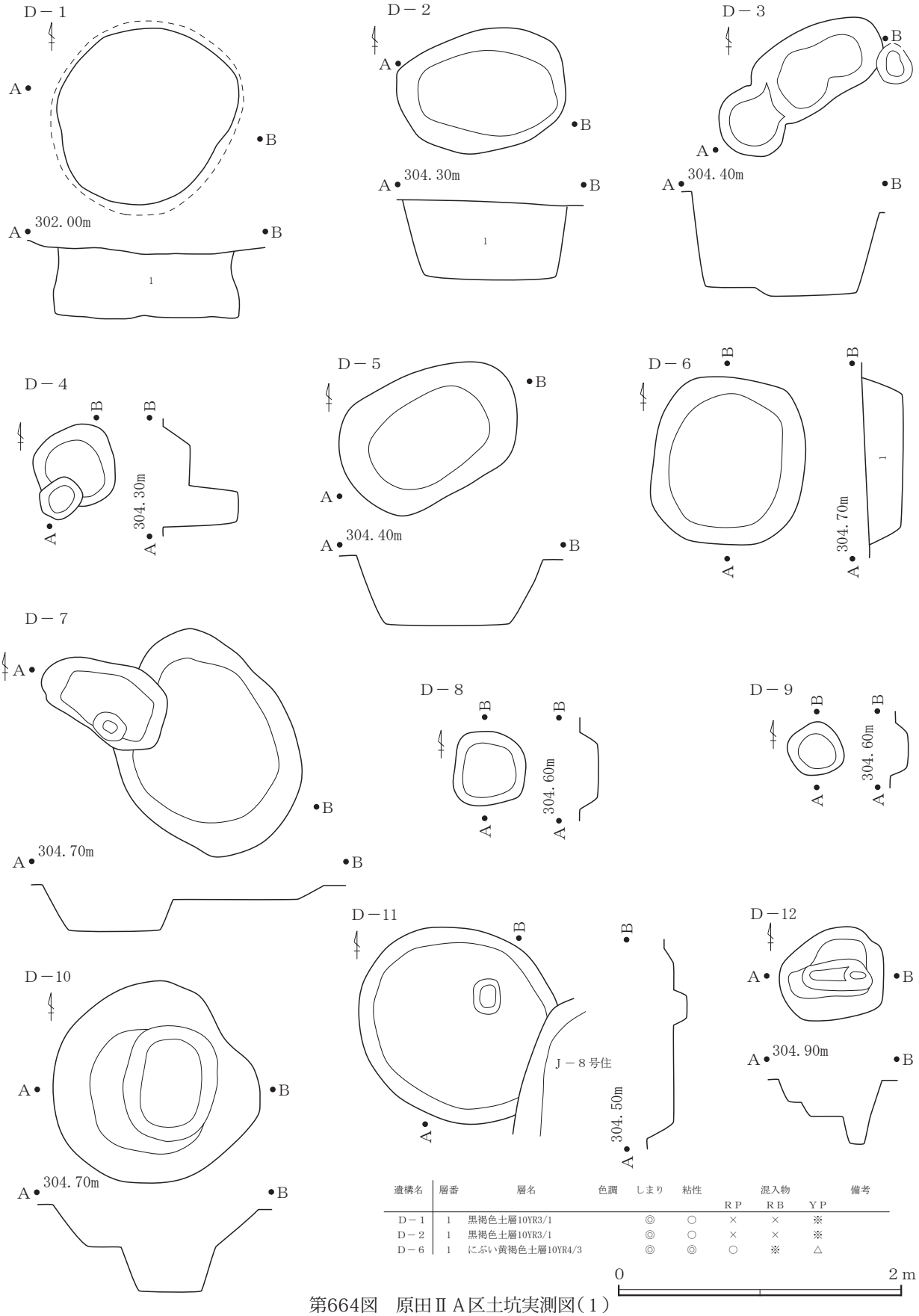
第661図　原田ⅡA区J－106号・110号・111号・112号住居址実測図



第662図　原田ⅡA区J－109号住居址実測図



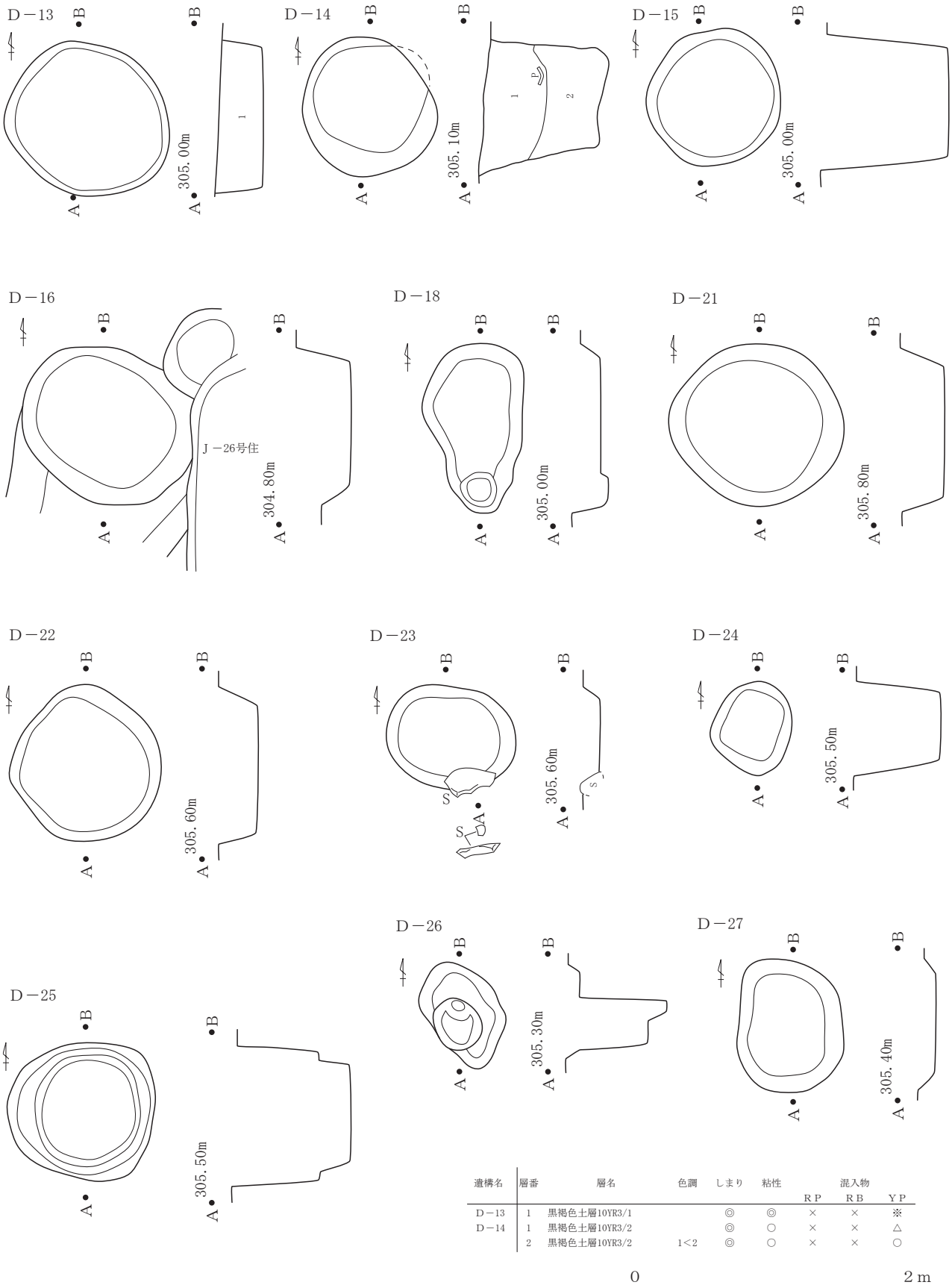
第663図　原田ⅡA区J－113号住居址実測図



遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	混入物 RB	混入物 YP	備考
D－1	1	黒褐色土層10YR3/1		◎	○	×	×	※	
D－2	1	黒褐色土層10YR3/1		◎	○	×	×	※	
D－6	1	にぶい黄褐色土層10YR4/3		◎	◎	○	※	△	

0　2m

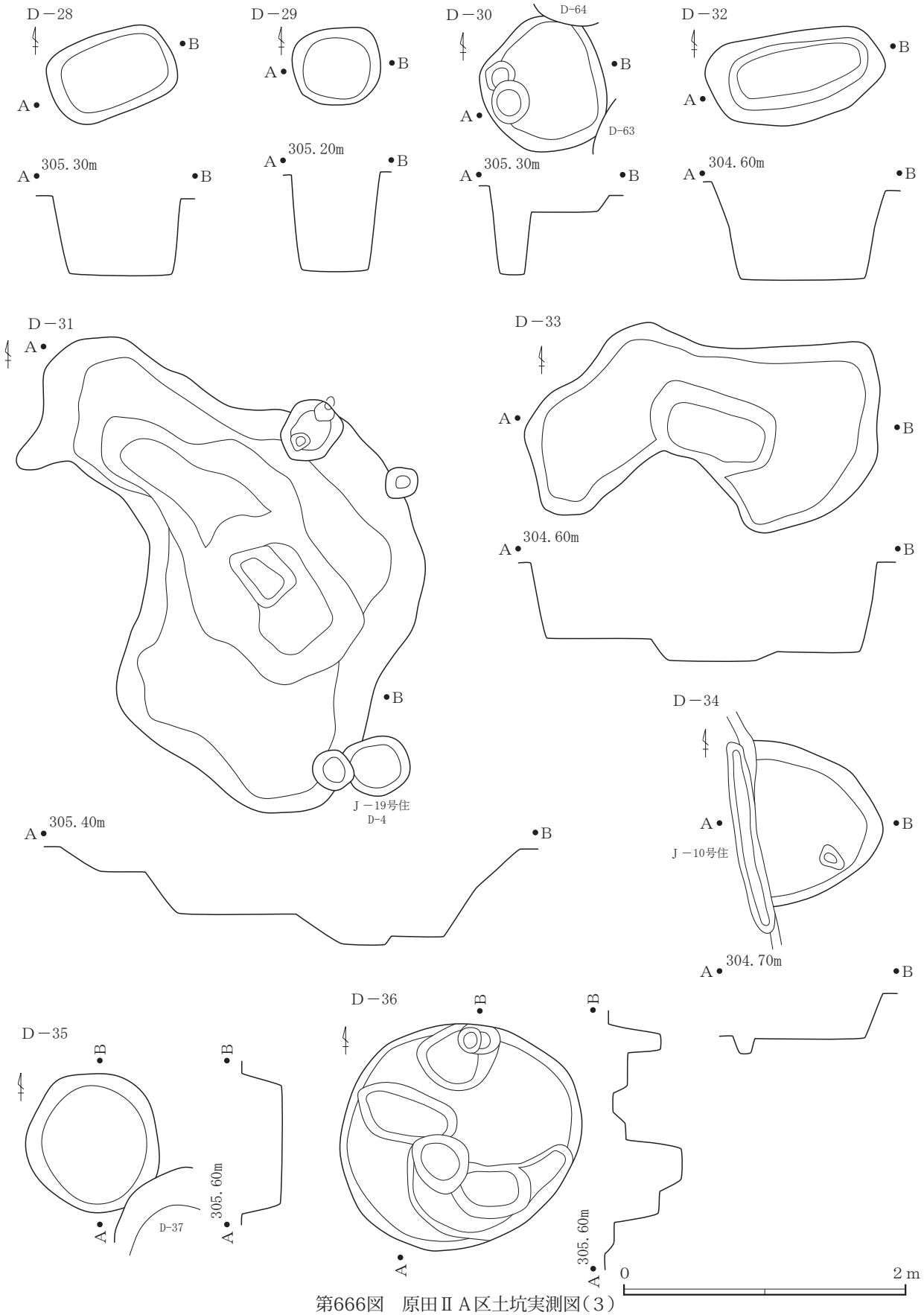
第664図　原田ⅡA区土坑実測図（1）



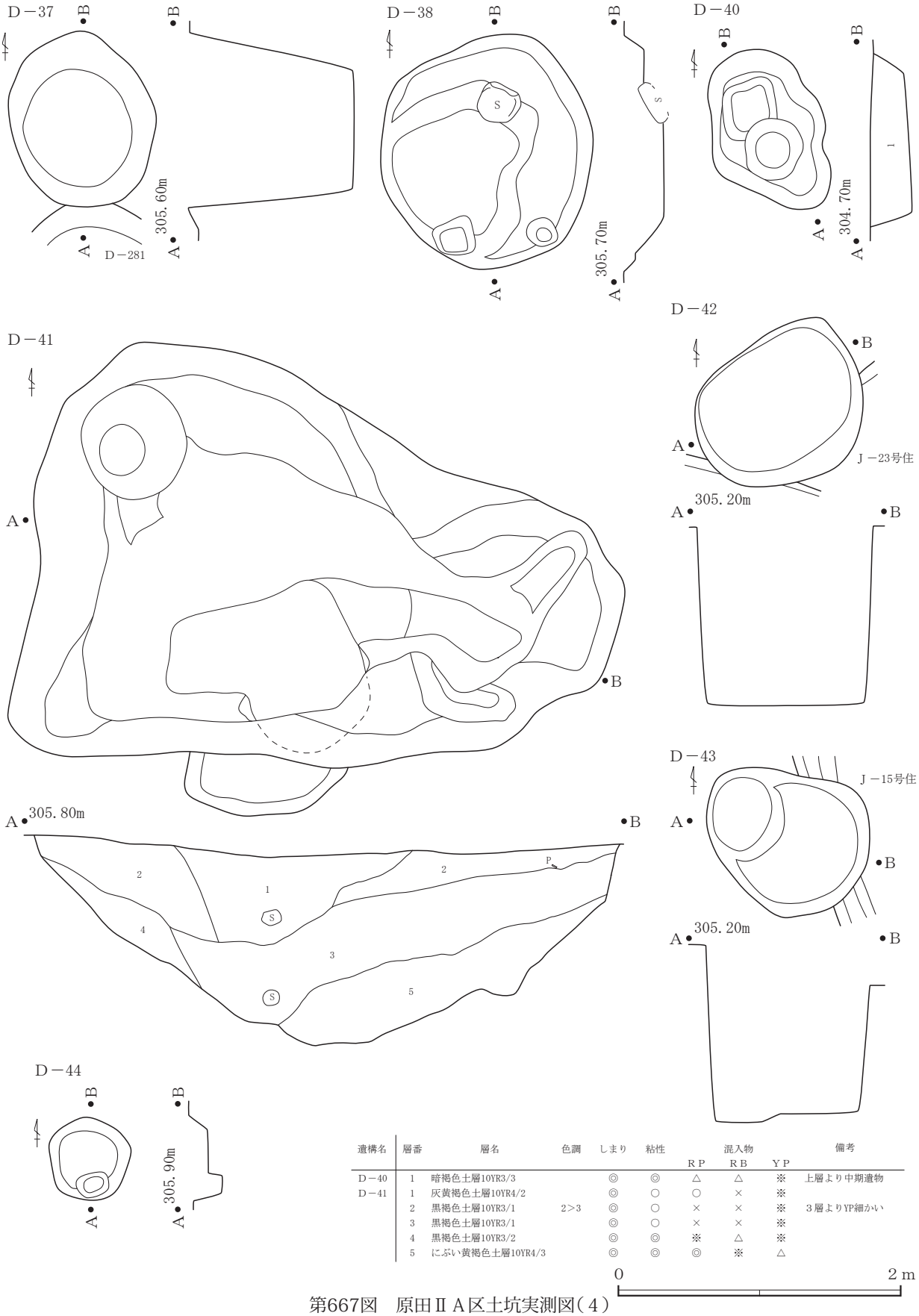
遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物		
						RP	RB	YP
D－13	1	黒褐色土層10YR3/1		◎	◎	×	×	※
D－14	1	黒褐色土層10YR3/2		◎	○	×	×	△
	2	黒褐色土層10YR3/2	1＜2	◎	○	×	×	○

0　2 m

第665図　原田ⅡA区土坑実測図（2）

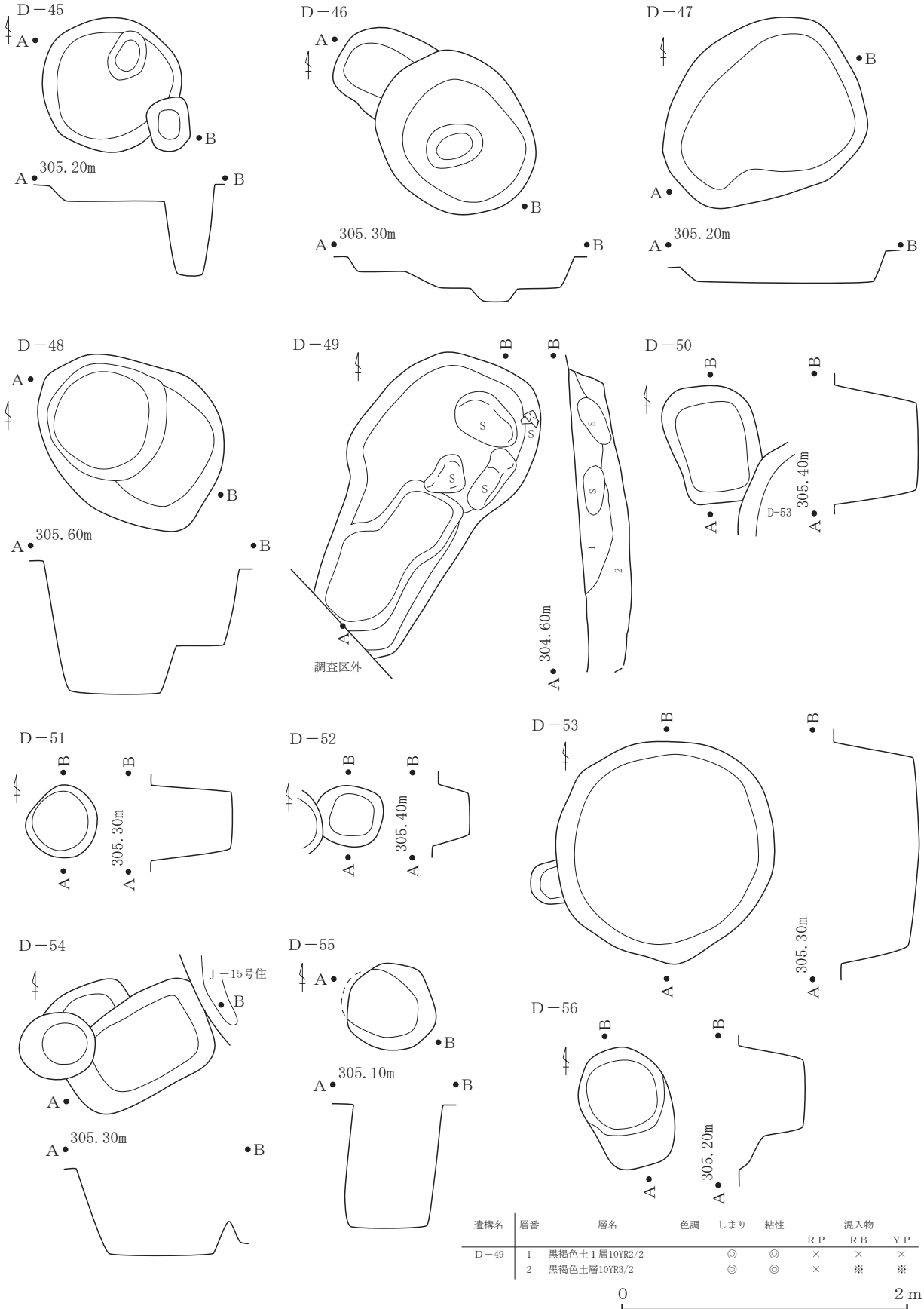


第666図　原田ⅡA区土坑実測図（3）



遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	混入物 RB	混入物 YP	備考
D－40	1	暗褐色土層10YR3/3		◎	◎	△	△	※	上層より中期遺物
D－41	1	灰黄褐色土層10YR4/2		◎	○	○	×	※	
	2	黒褐色土層10YR3/1	2>3	◎	○	×	×	※	3層よりYP細かい
	3	黒褐色土層10YR3/1		◎	○	×	×	※	
	4	黒褐色土層10YR3/2		◎	◎	※	△	※	
	5	にぶい黄褐色土層10YR4/3		◎	◎	◎	※	△	

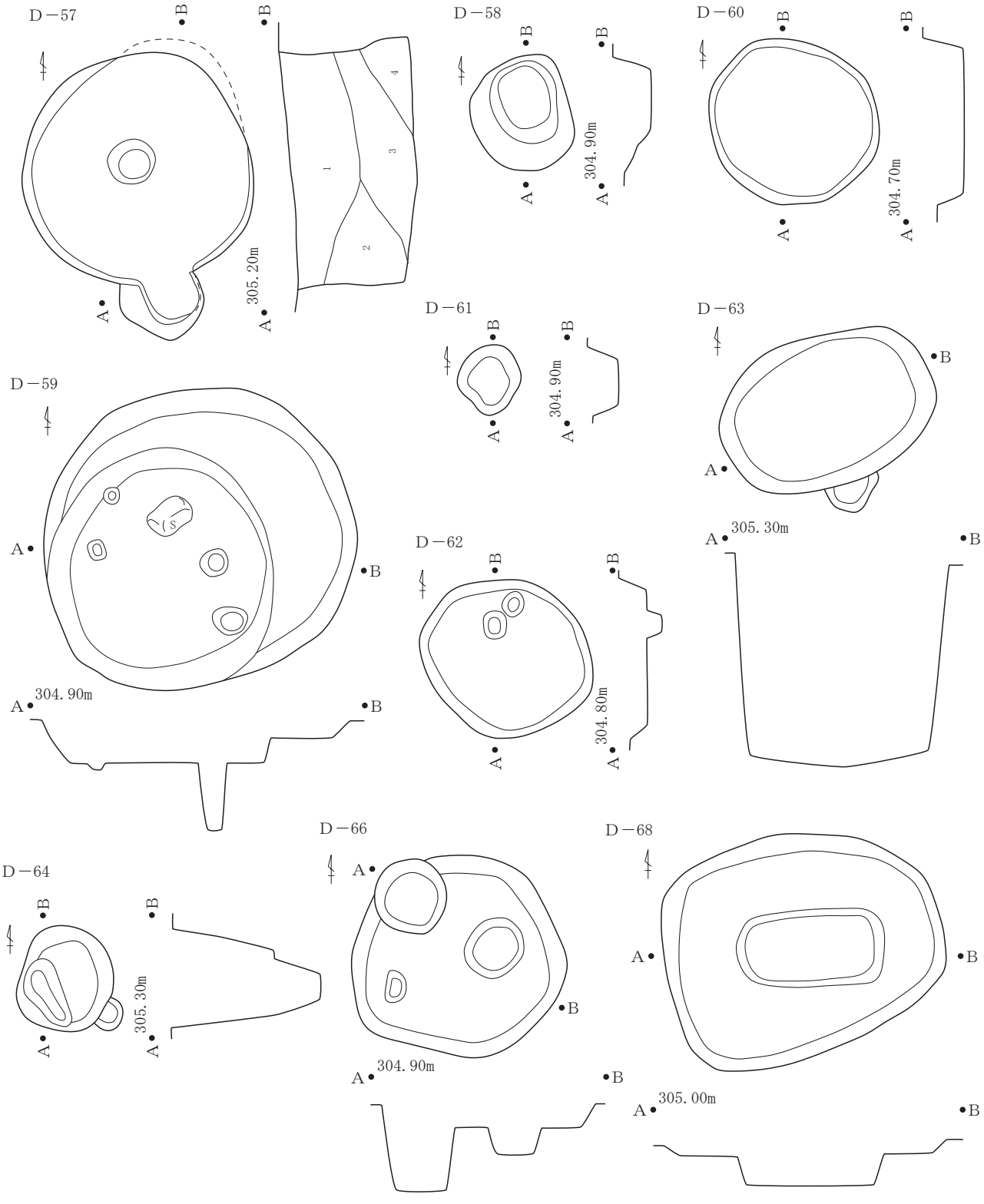
第667図　原田ⅡA区土坑実測図（4）



遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物		
						RP	RB	YP
D－49	1	黒褐色土1層10YR2/2		◎	◎	×	×	×
	2	黒褐色土層10YR3/2		◎	◎	×	※	※

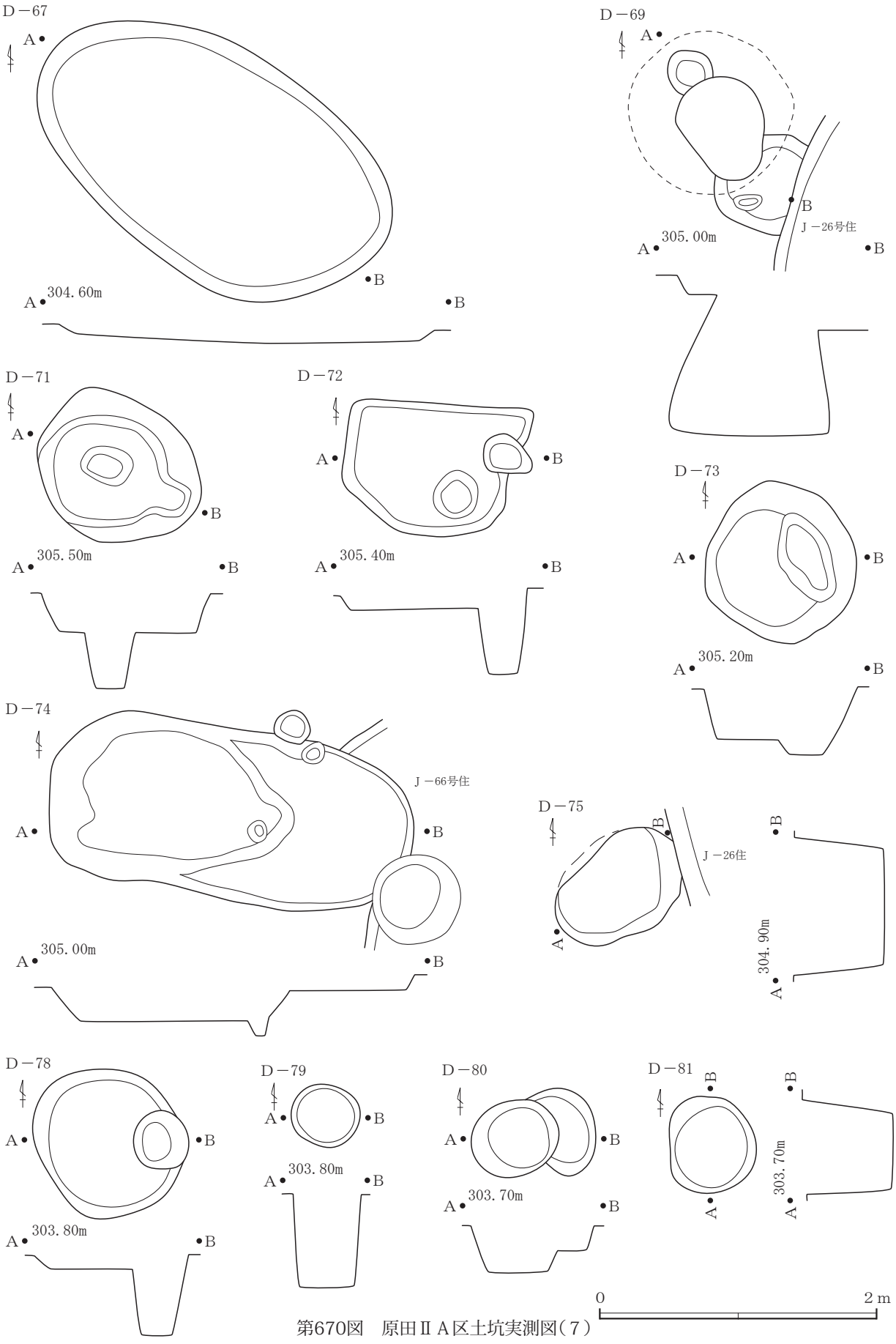
0　2m

第668図　原田ⅡA区土坑実測図（5）

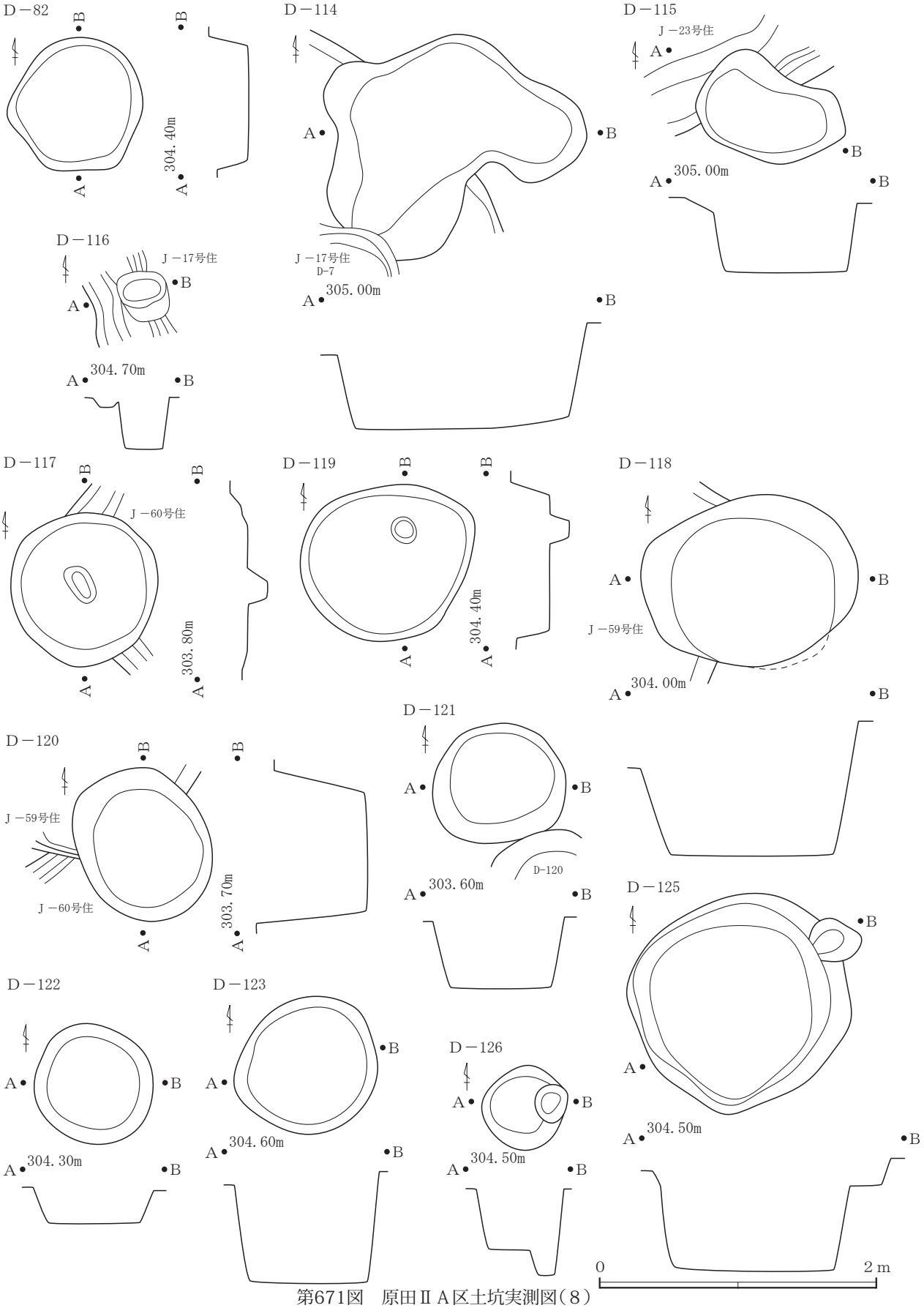


遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	混入物 RB	混入物 YP	備考
D－57	1	黒褐色土層10YR3/2		◎	○	×	×	※	
	2	にぶい黄橙色土層10YR6/4		○	◎	◎	○	○	
	3	黒褐色土層10YR3/2		◎	○	×	※	※	1層と土色似るが、よりRB多い
	4	暗褐色土層10YR3/4		◎	○	※	○	※	1、3層と土色似るが、よりRB多い

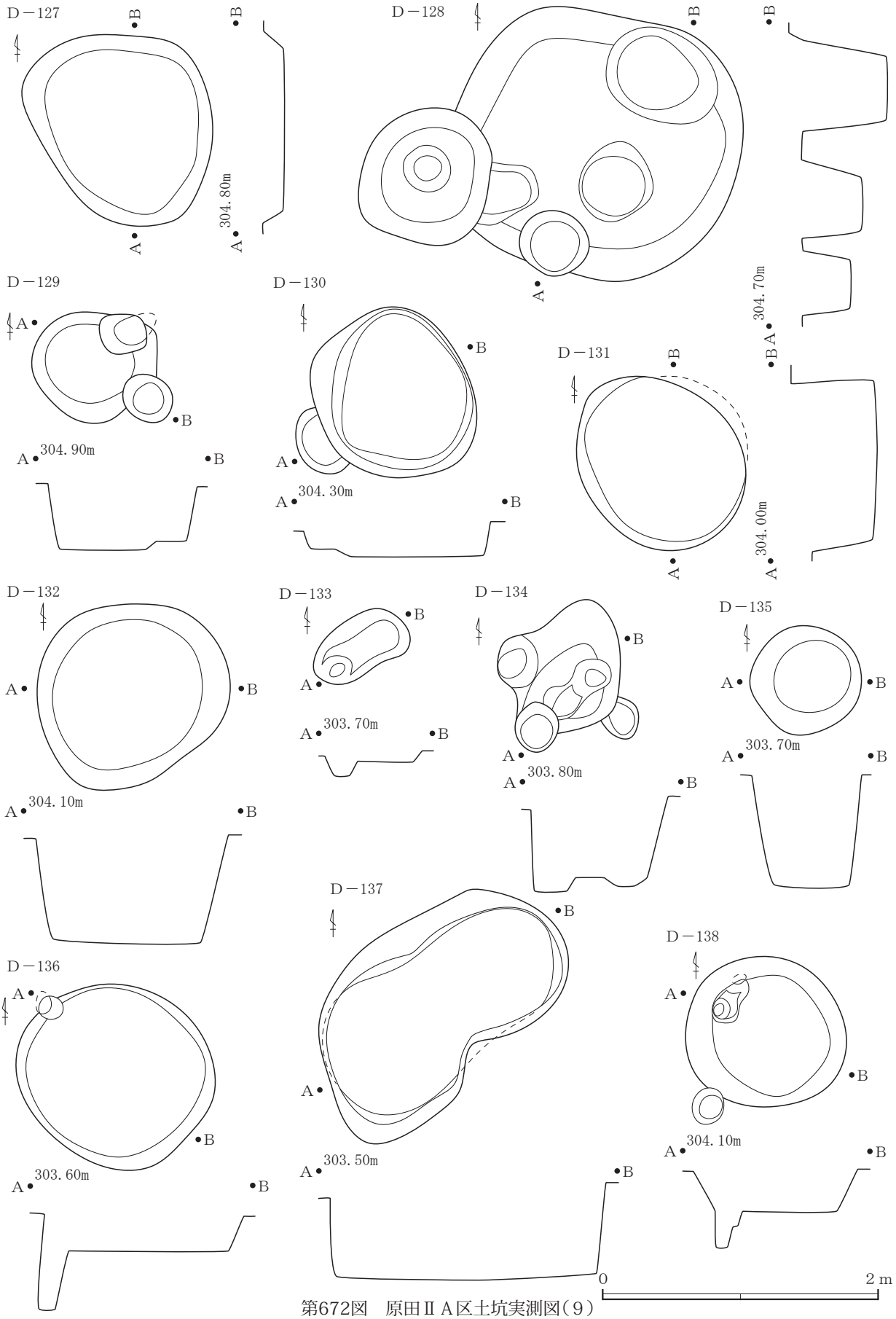
第669図　原田ⅡA区土坑実測図（6）



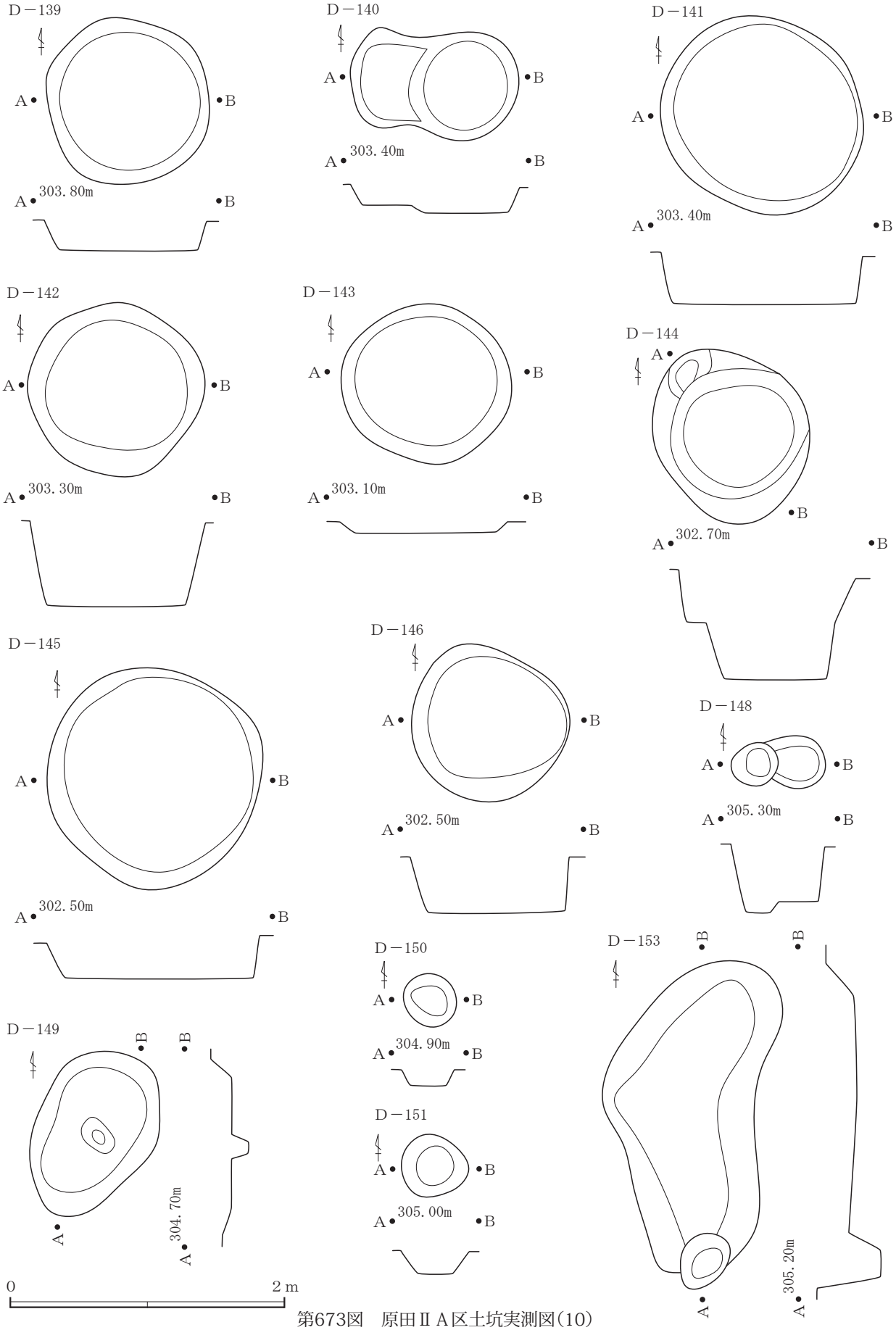
第670図　原田ⅡA区土坑実測図（7）



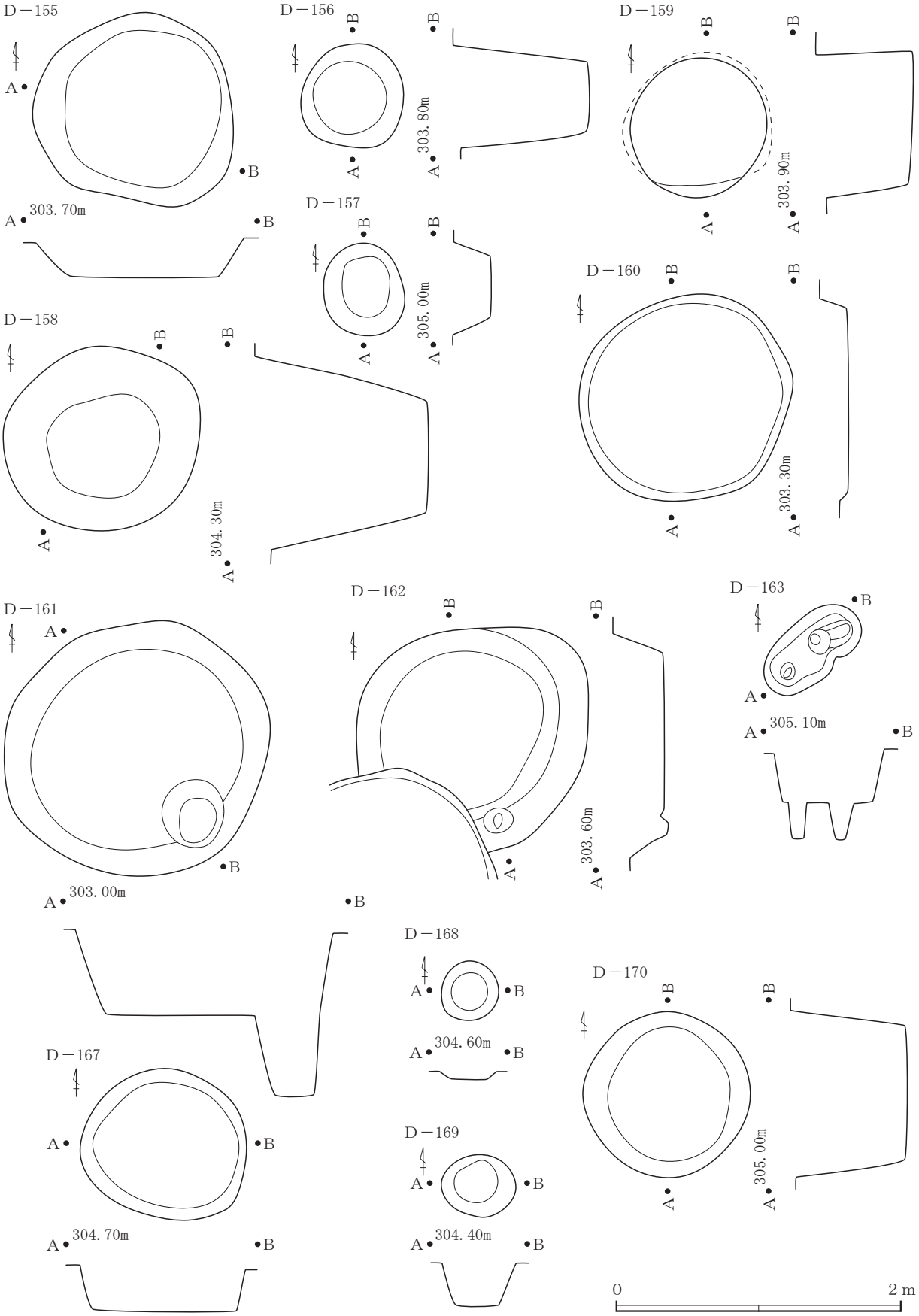
第671図　原田ⅡA区土坑実測図（8）



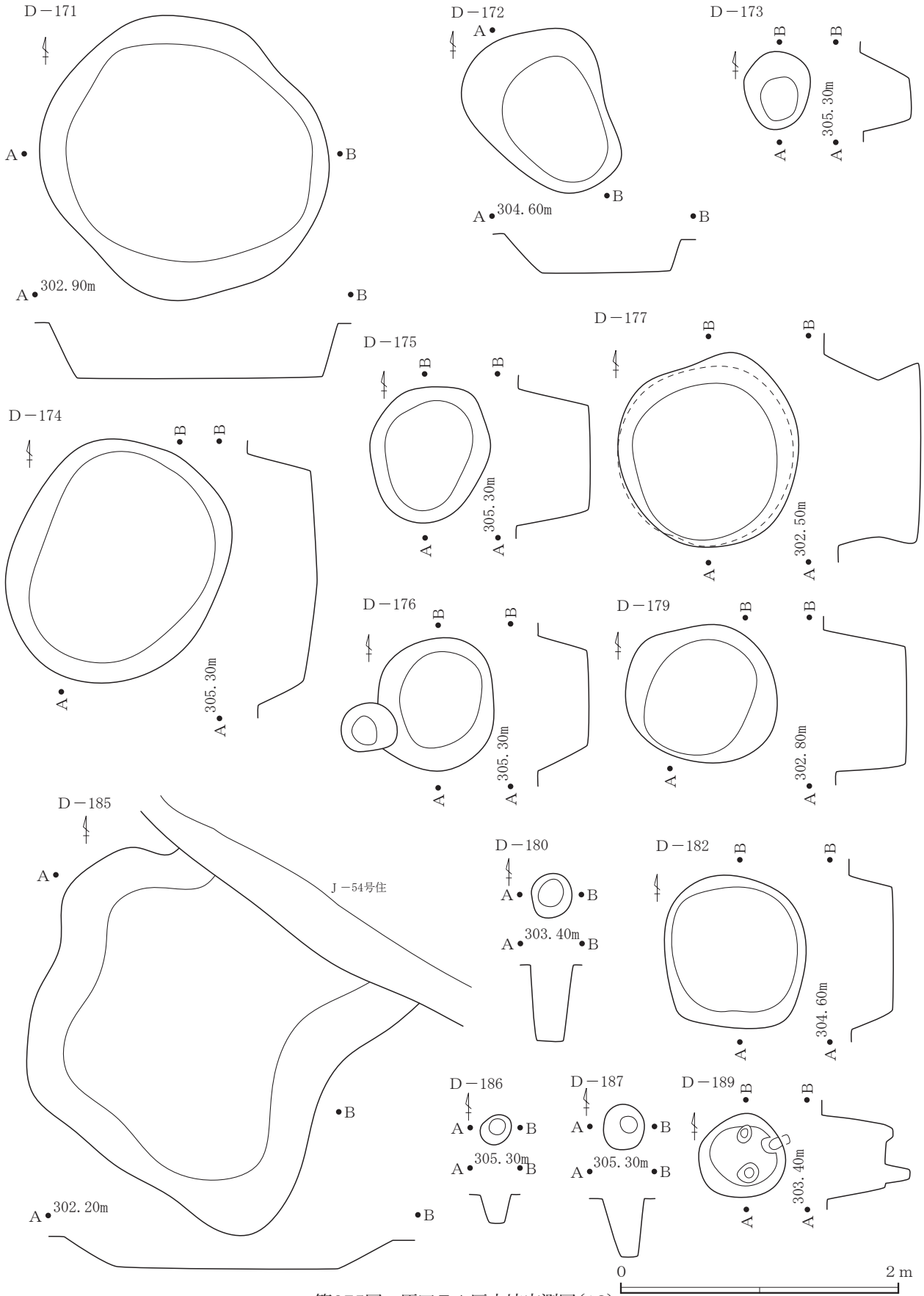
第672図　原田ⅡA区土坑実測図（9）



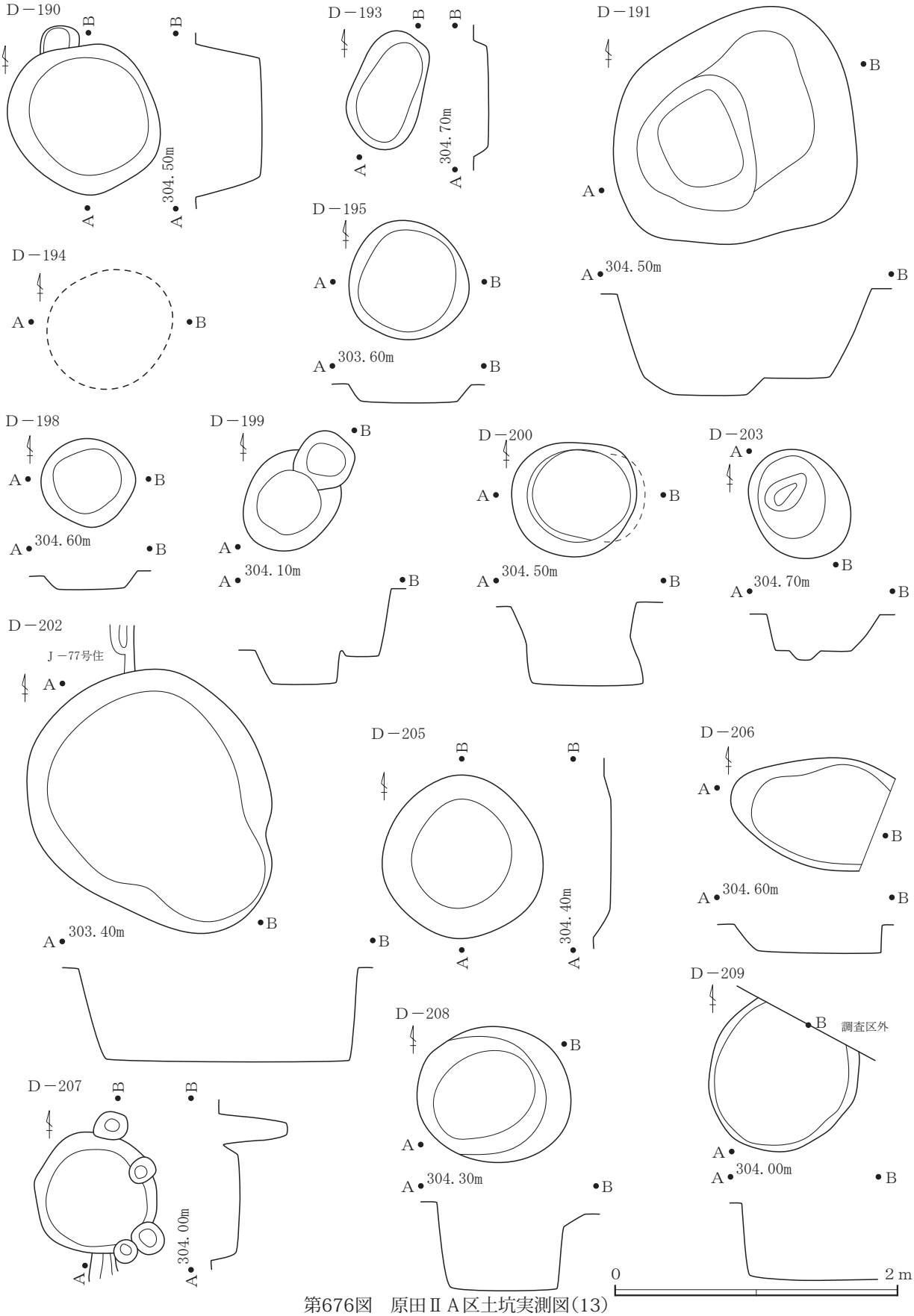
第673図　原田Ⅱ A区土坑実測図(10)



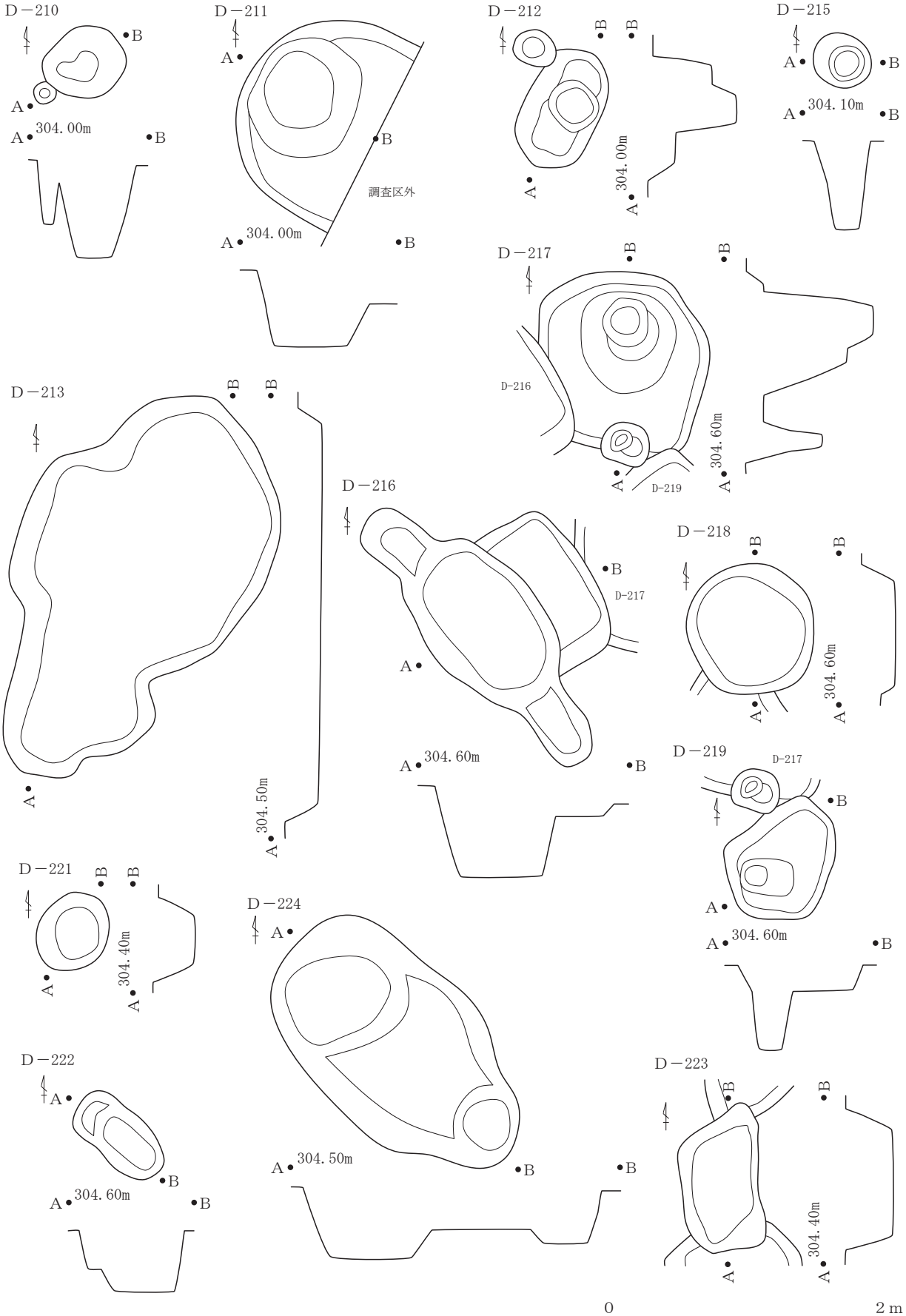
第674図　原田ⅡA区土坑実測図(11)



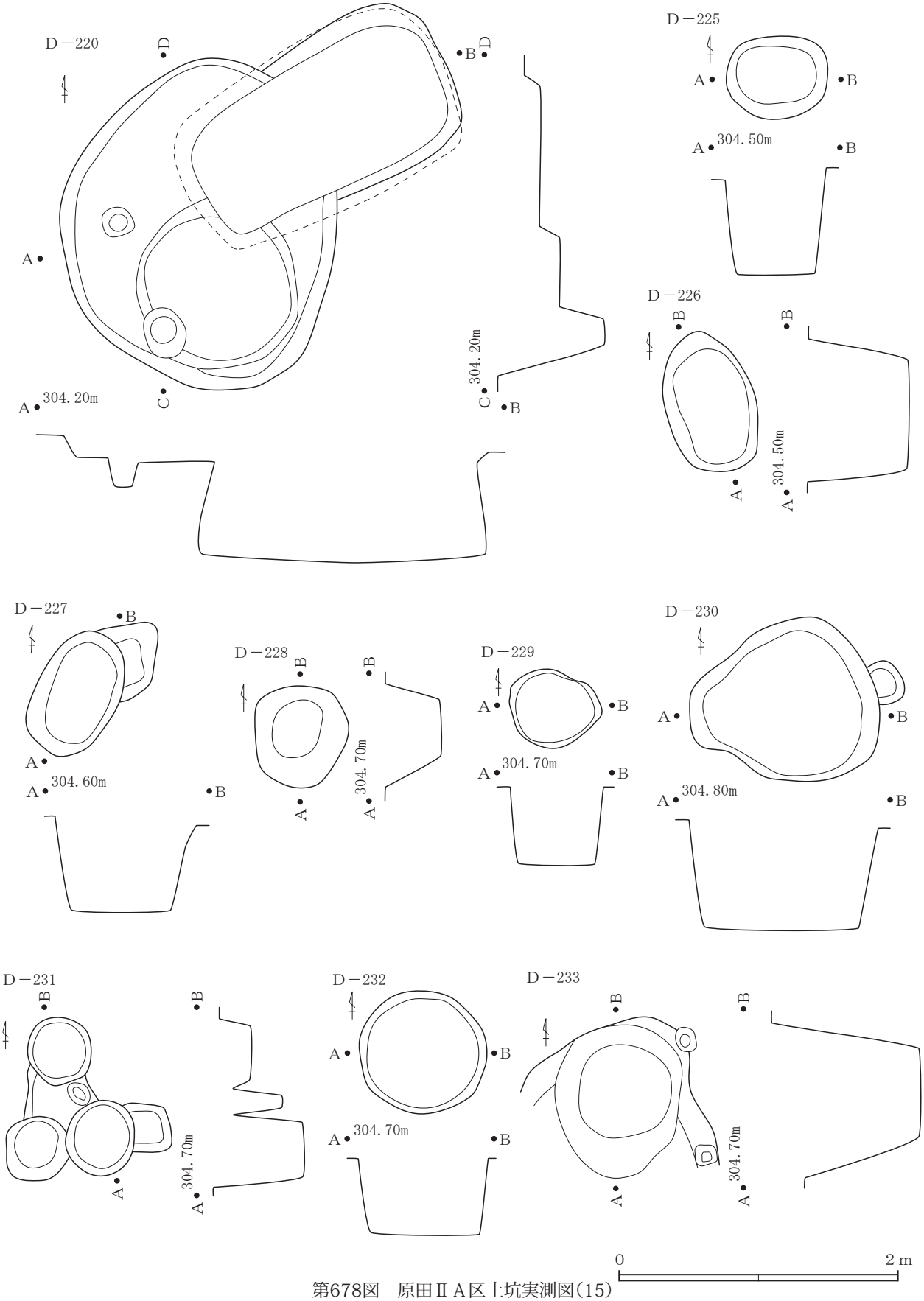
第675図　原田Ⅱ A区土坑実測図(12)



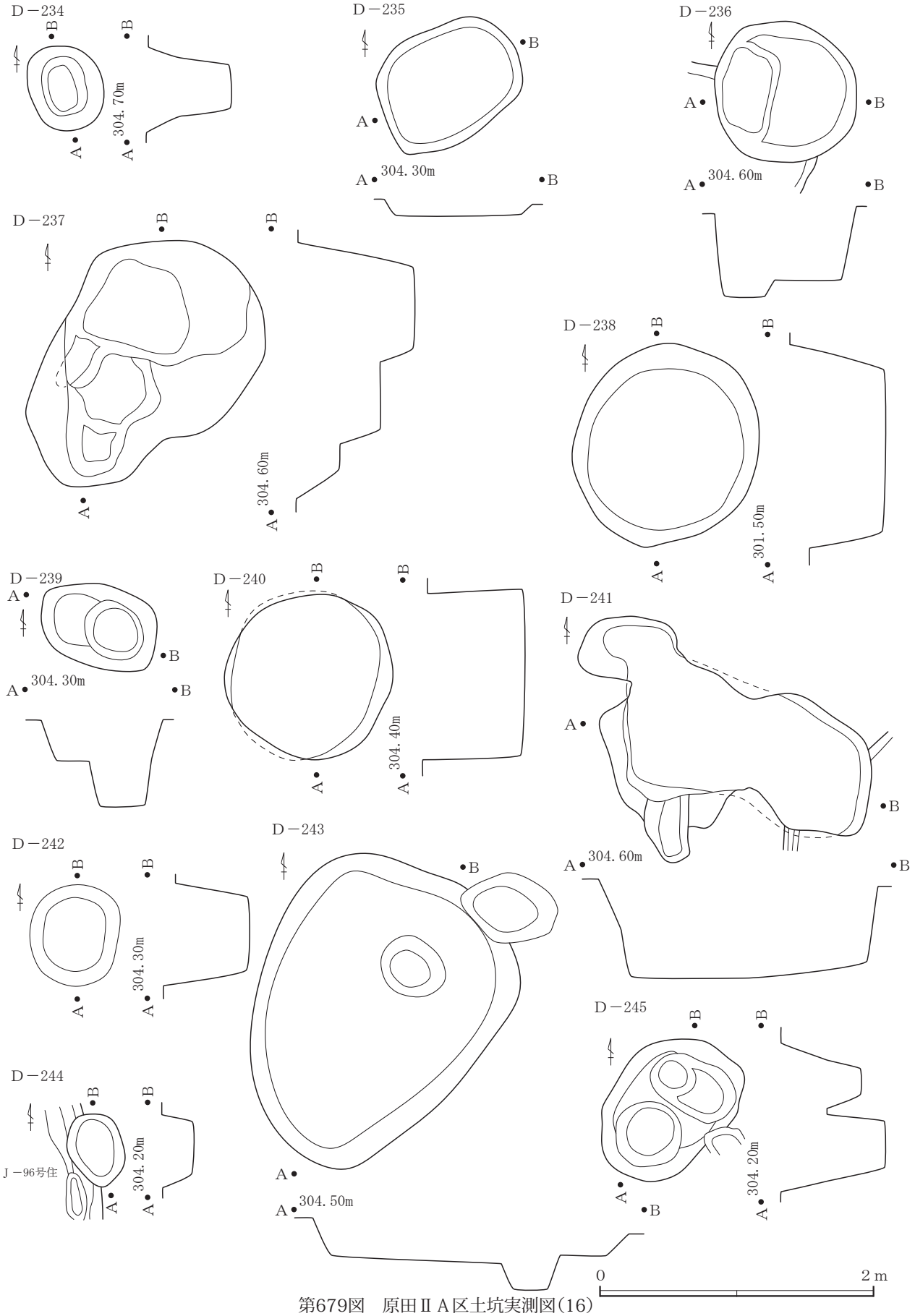
第676図　原田Ⅱ A区土坑実測図(13)



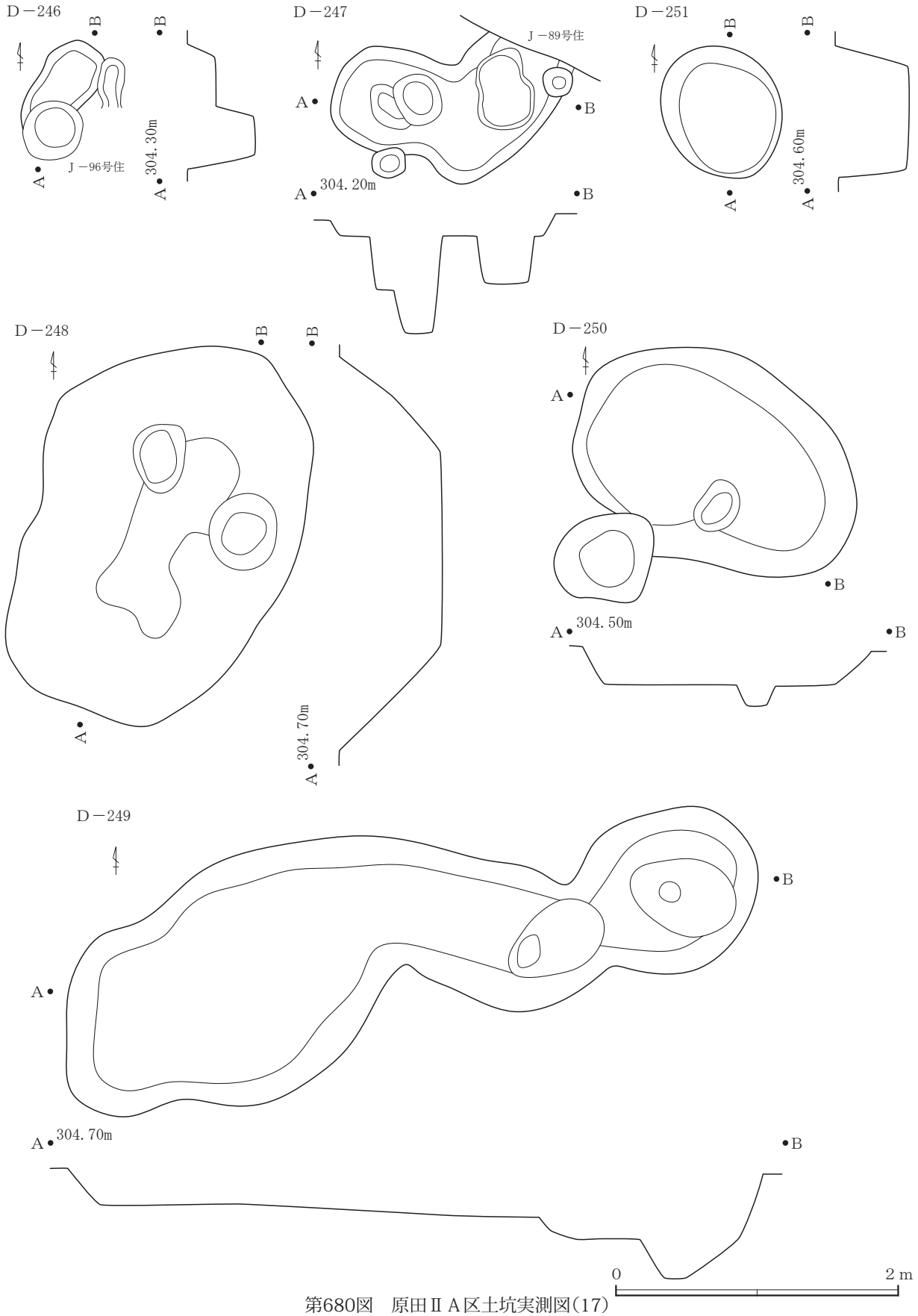
第677図　原田ⅡA区土坑実測図(14)



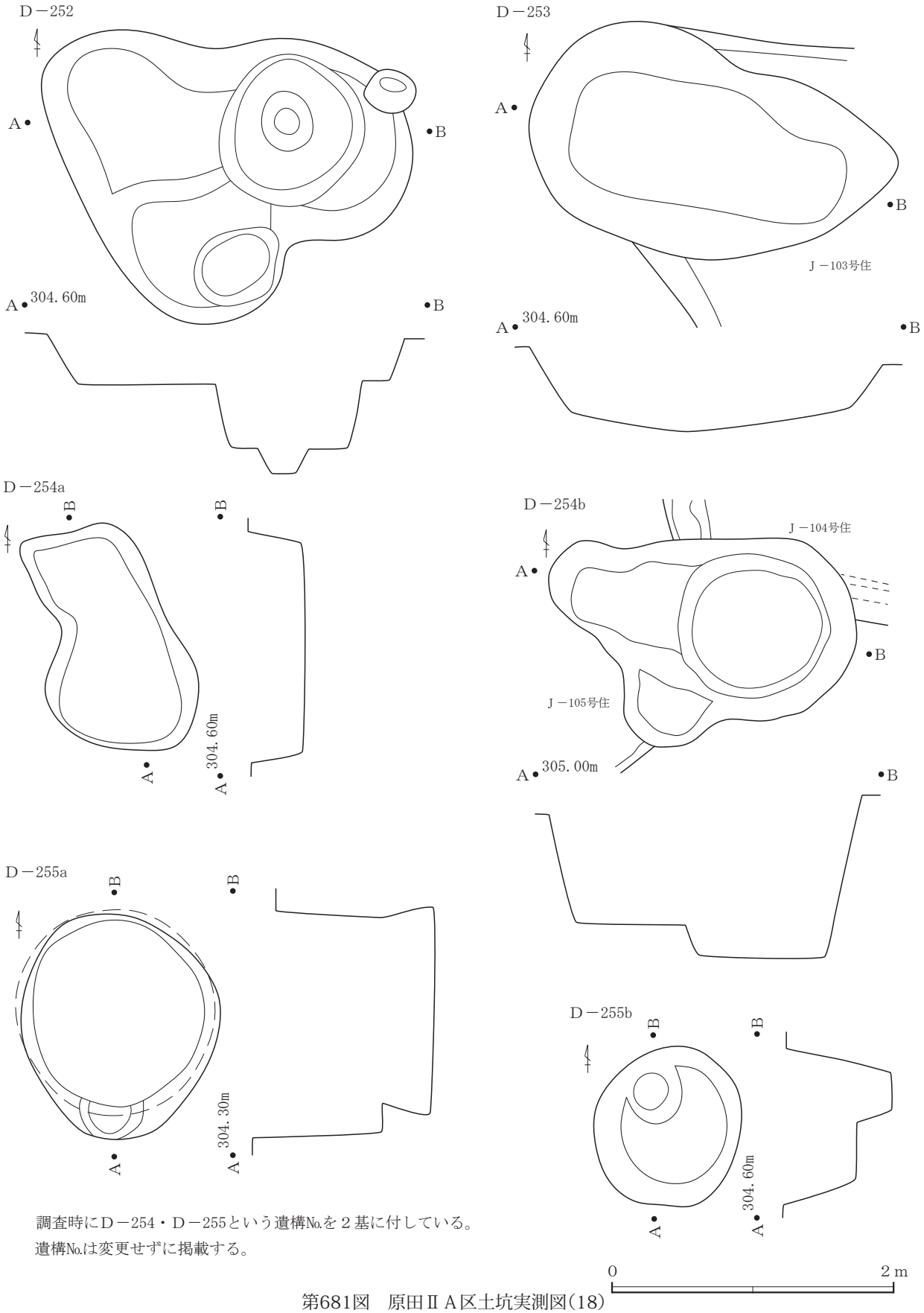
第678図　原田Ⅱ A区土坑実測図(15)



第679図　原田ⅡA区土坑実測図(16)

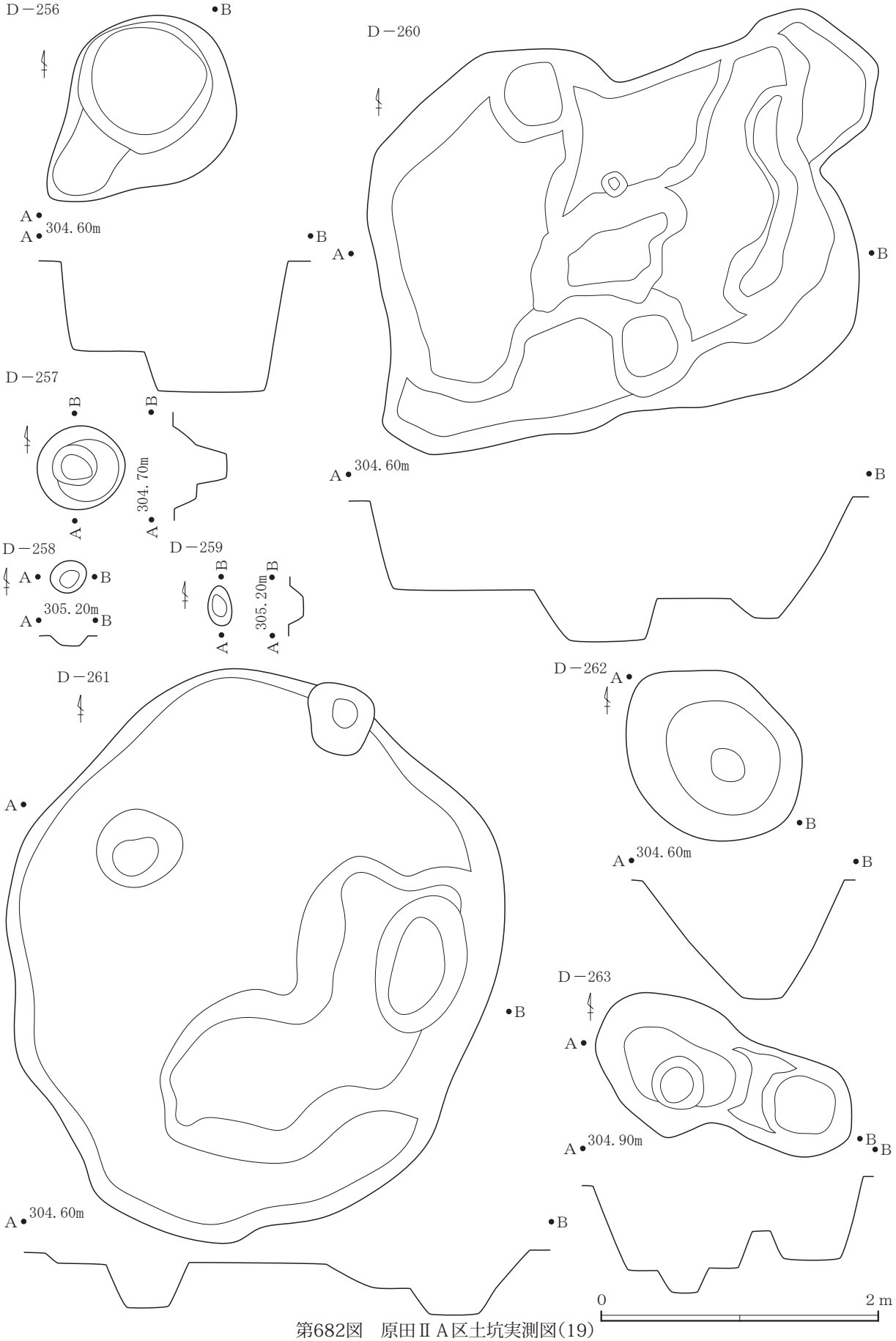


第680図　原田ⅡA区土坑実測図(17)

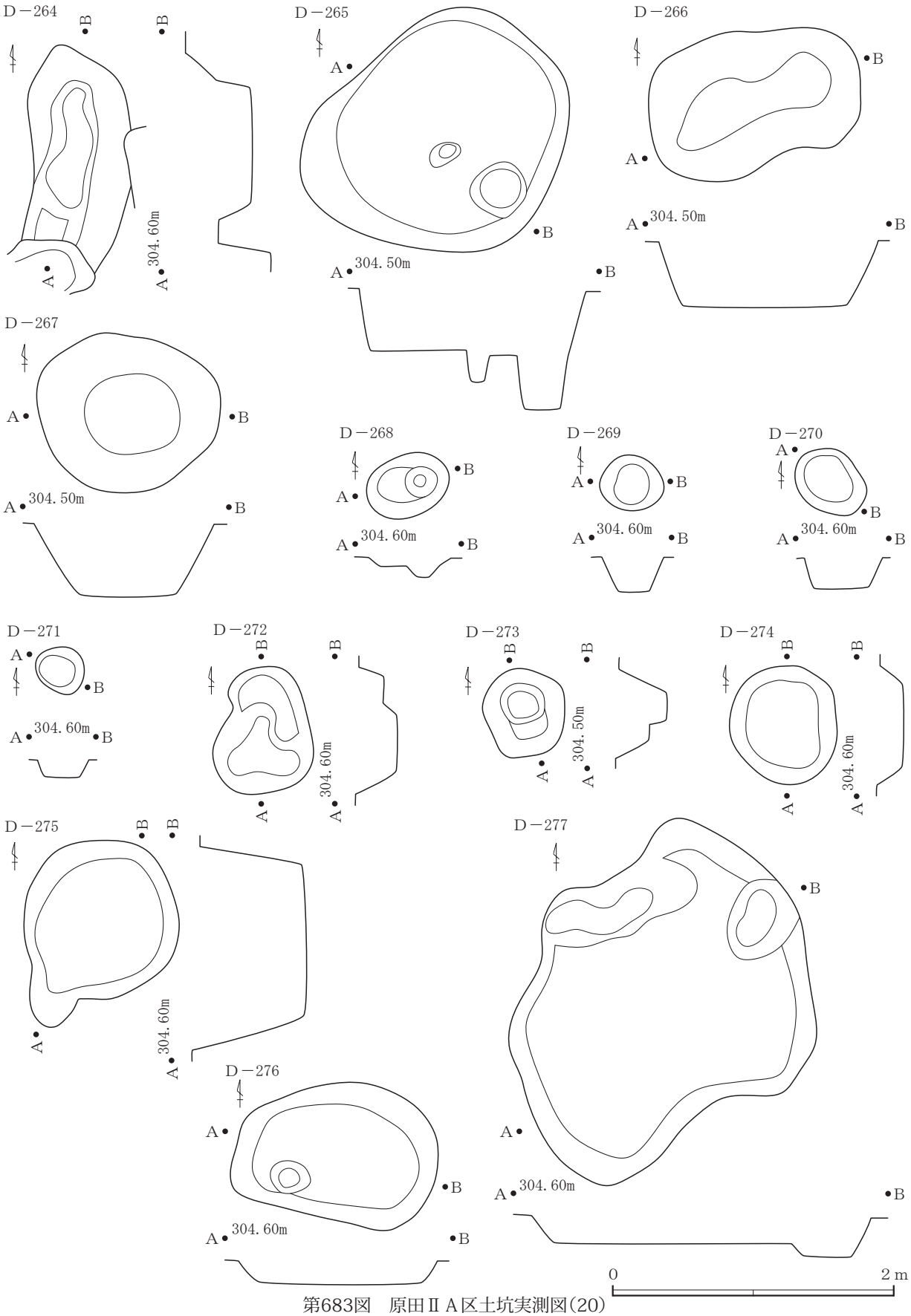


調査時にD－254・D－255という遺構№を２基に付している。
遺構№は変更せずに掲載する。

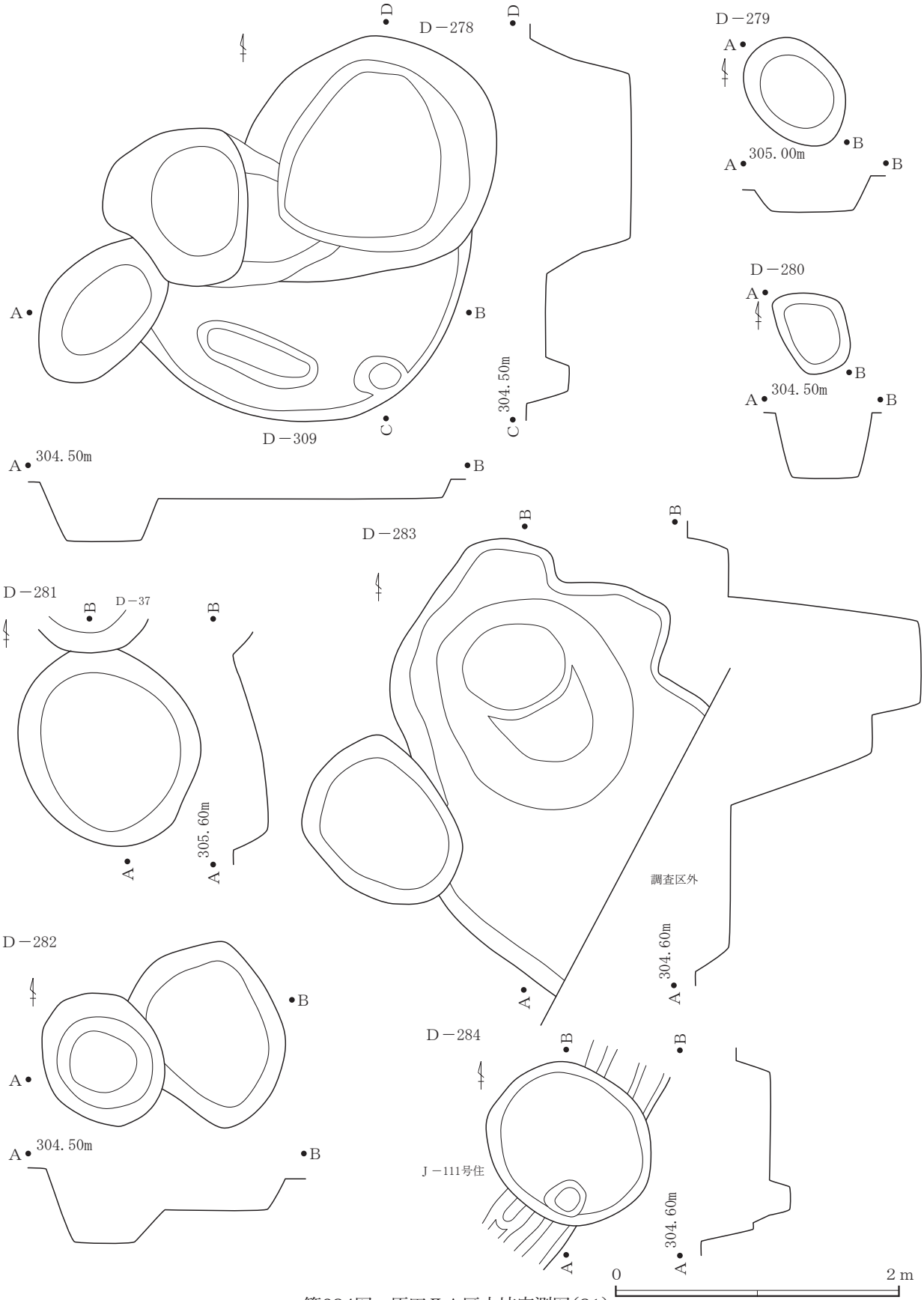
第681図　原田ⅡA区土坑実測図(18)



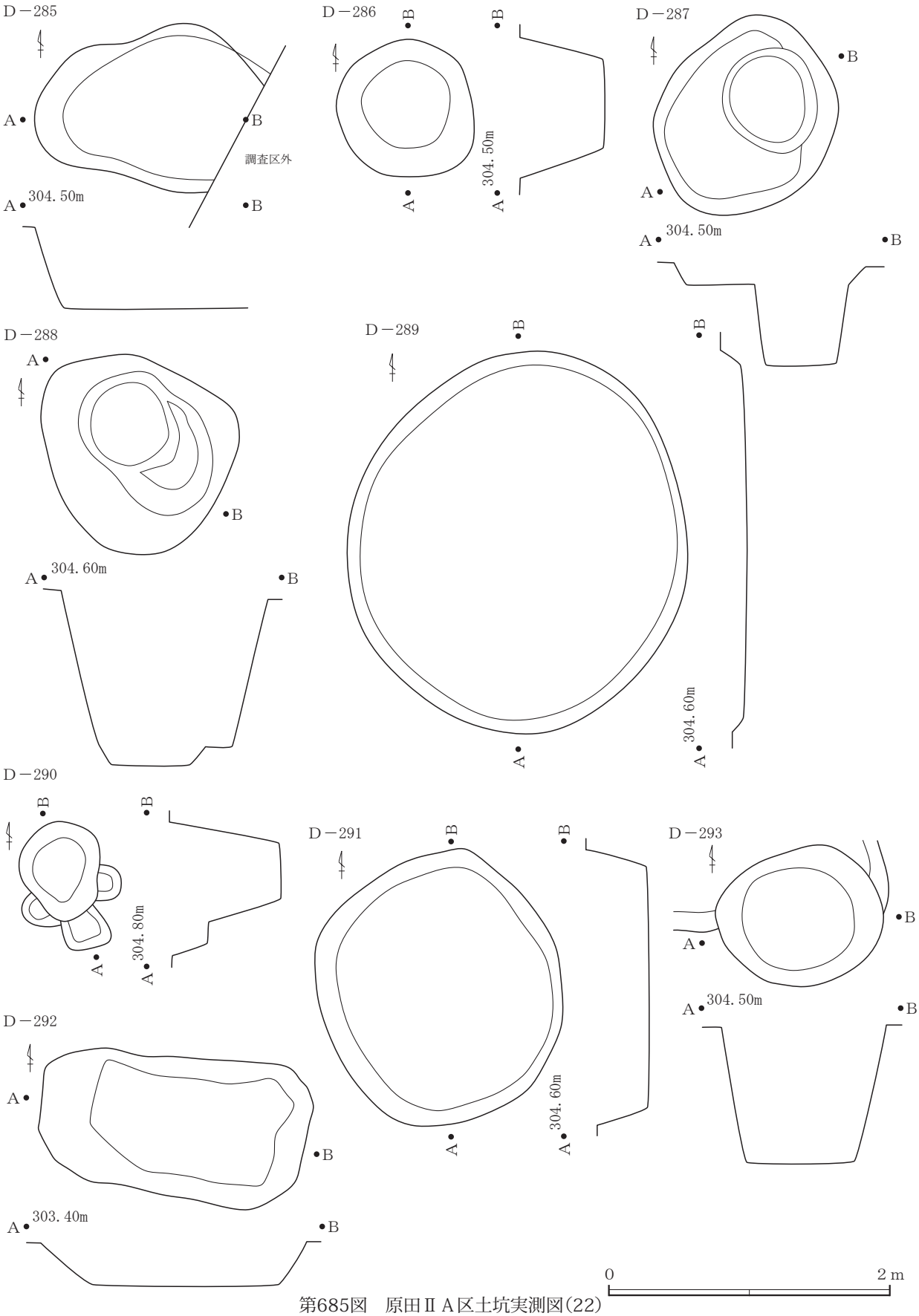
第682図　原田ⅡA区土坑実測図(19)



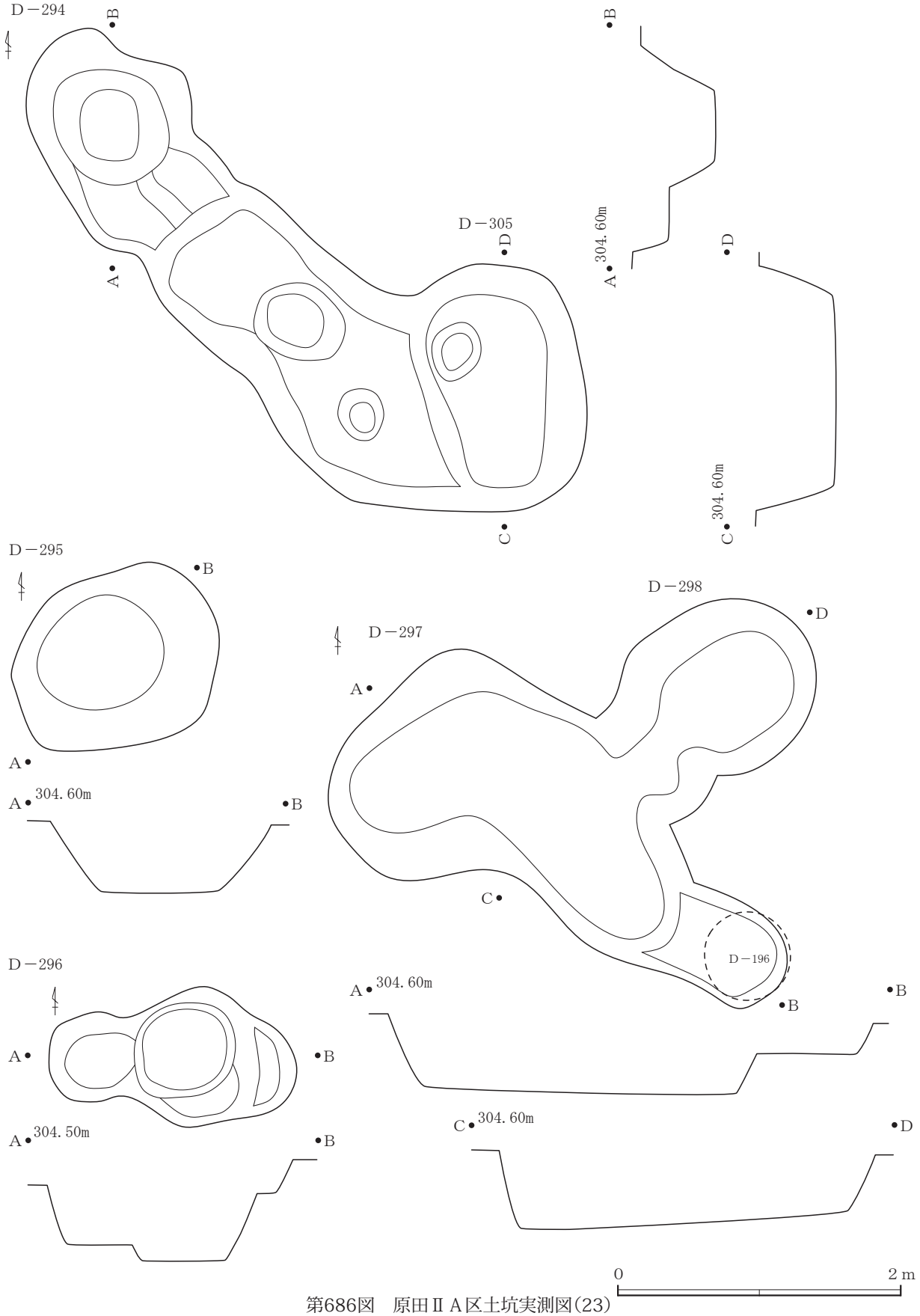
第683図　原田Ⅱ A区土坑実測図(20)



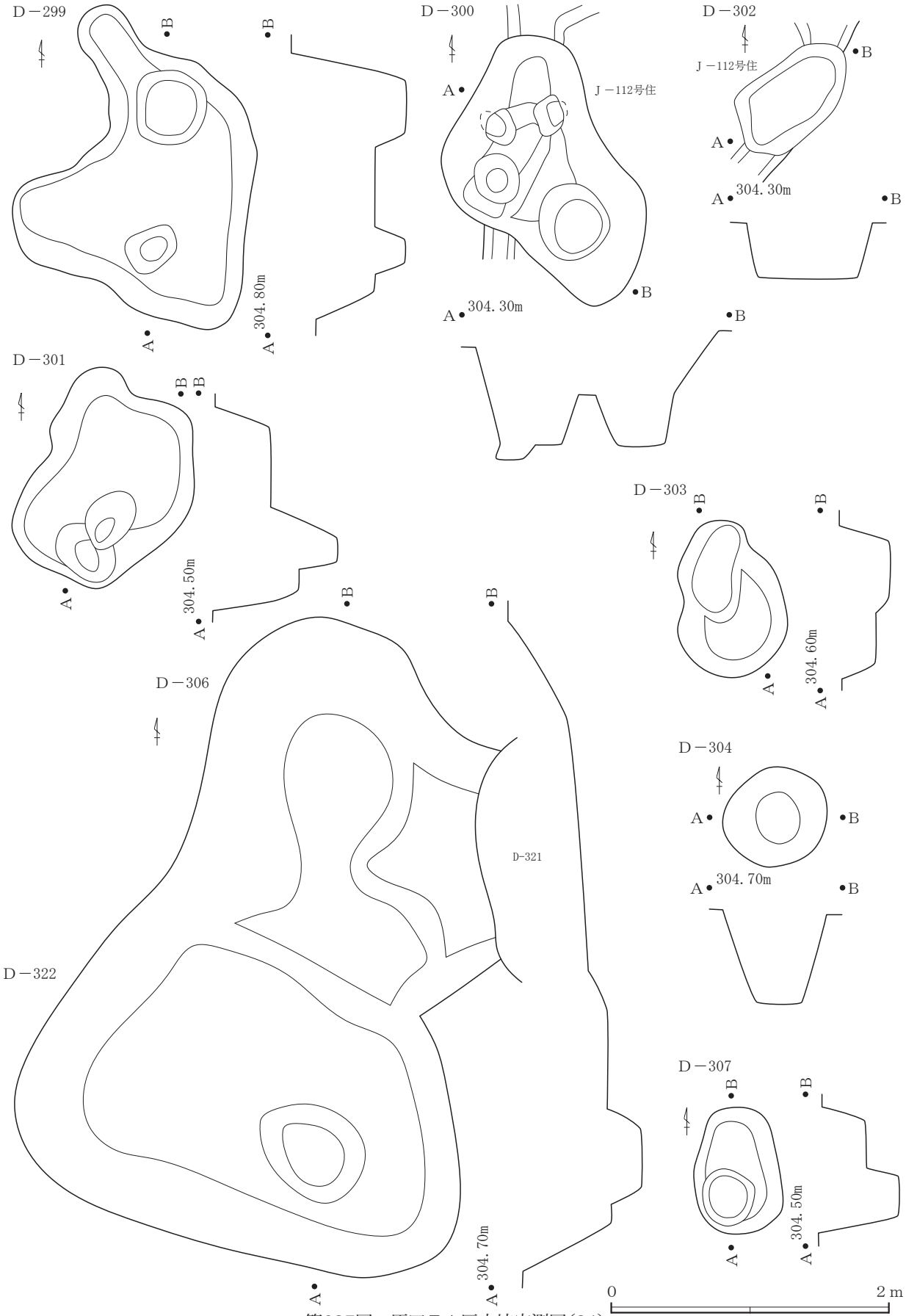
第684図　原田ⅡA区土坑実測図(21)



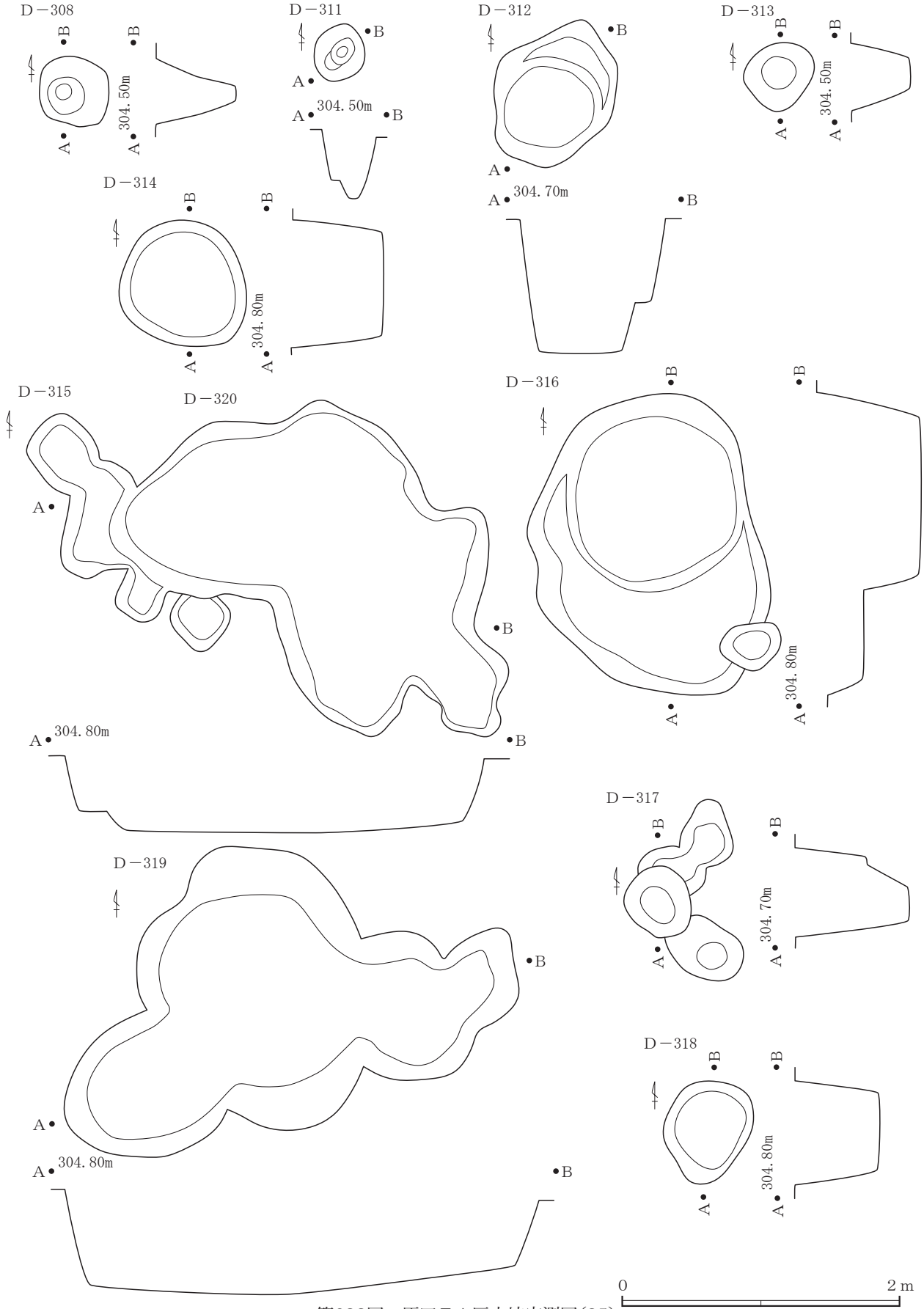
第685図　原田ⅡA区土坑実測図(22)



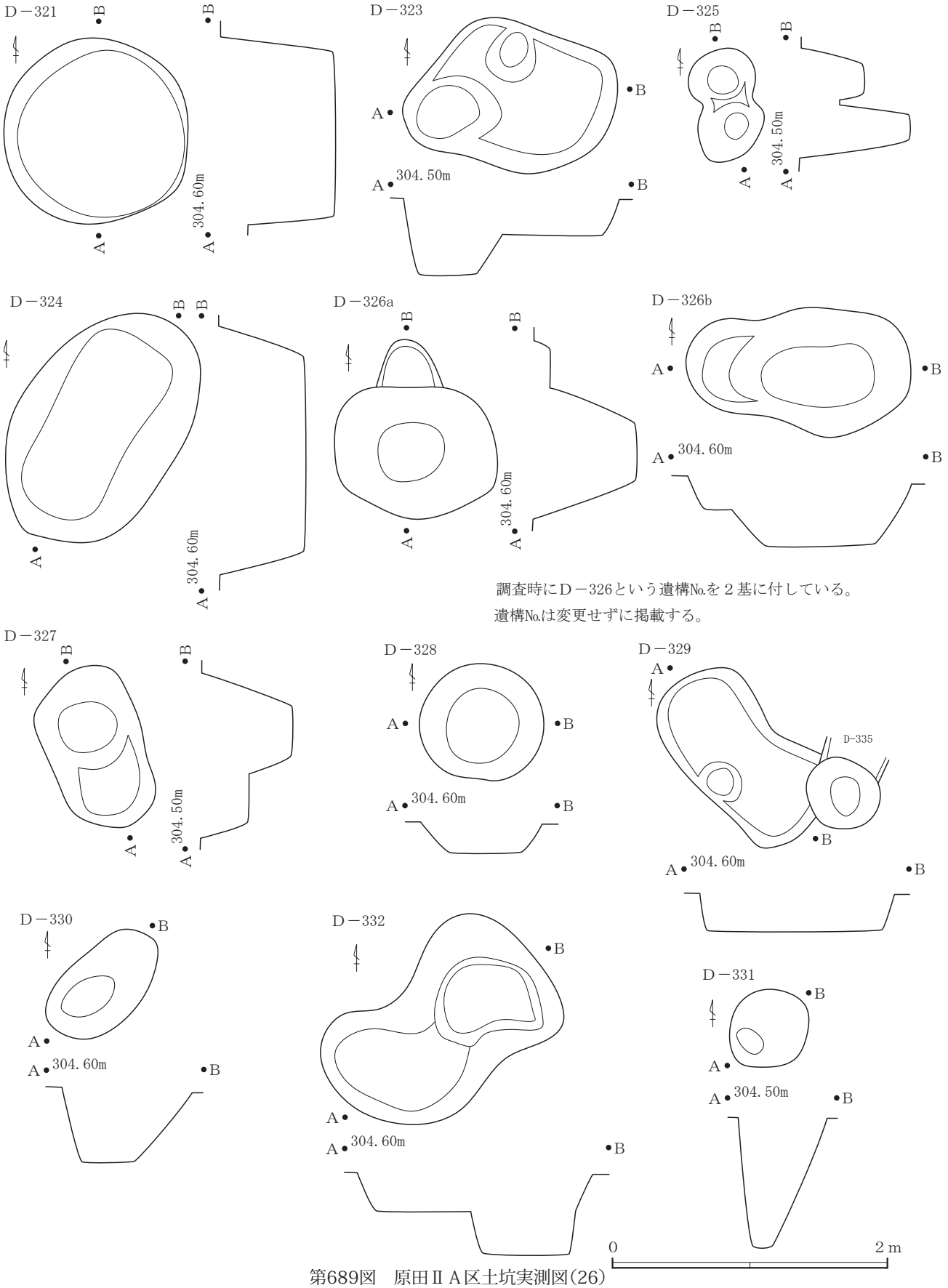
第686図　原田ⅡA区土坑実測図(23)



第687図　原田Ⅱ A区土坑実測図(24)

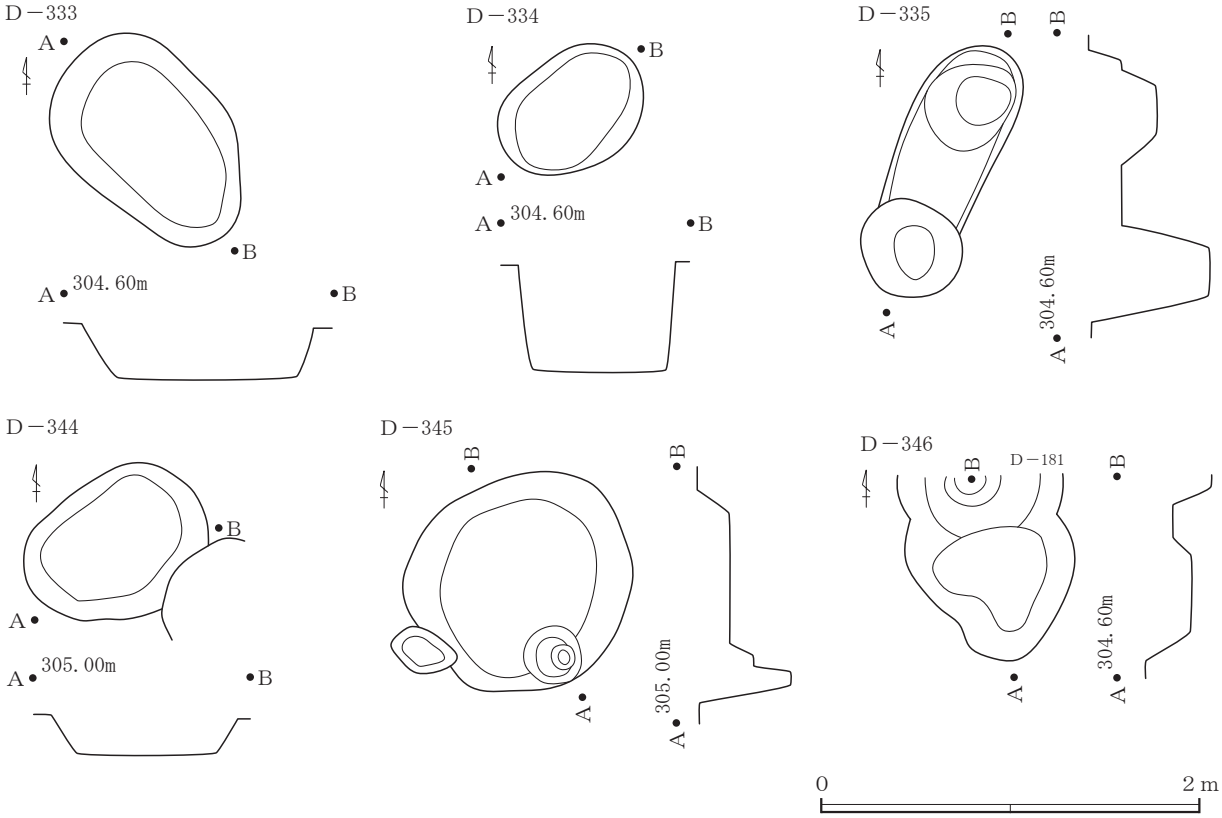


第688図　原田Ⅱ A区土坑実測図(25)

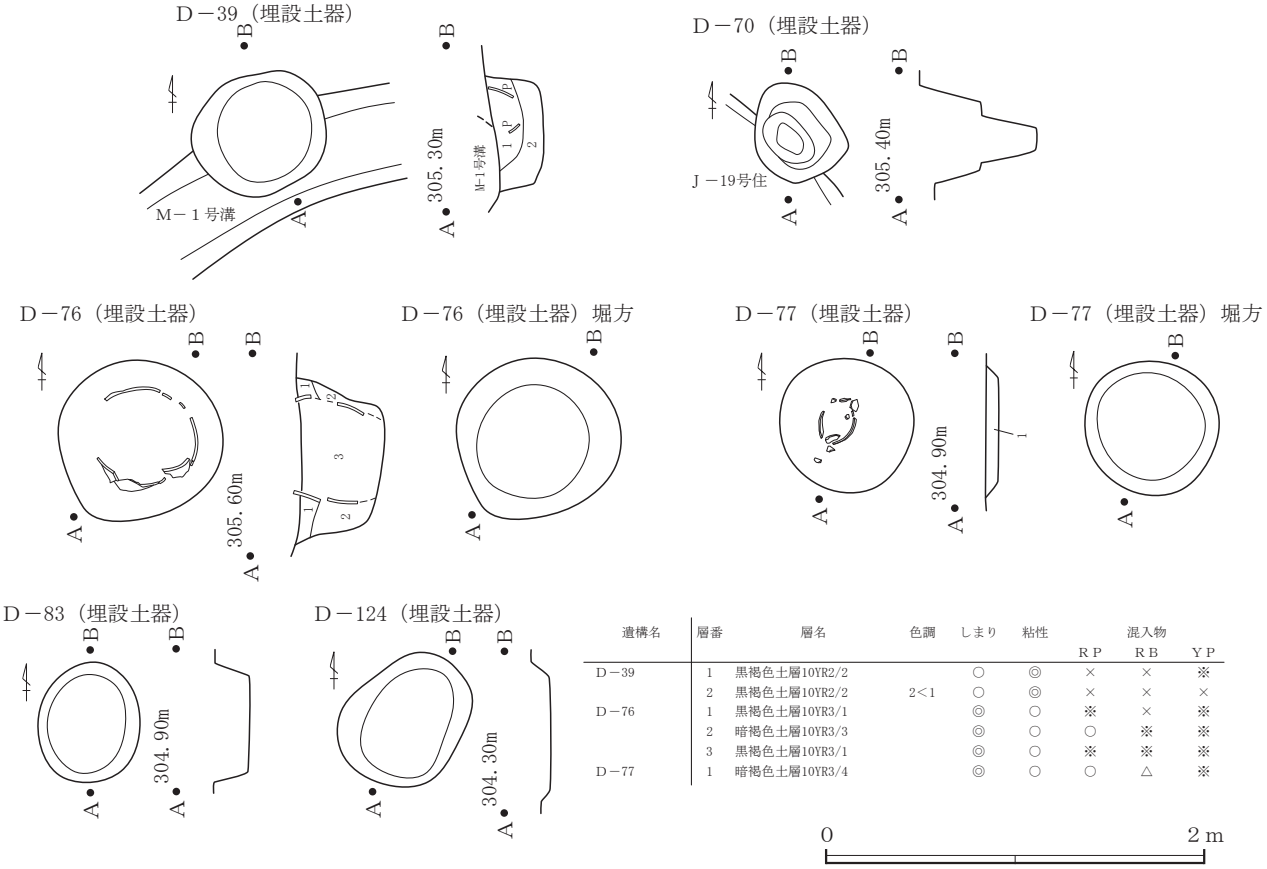


調査時にD－326という遺構№を２基に付している。
遺構№は変更せずに掲載する。

第689図　原田ⅡA区土坑実測図(26)

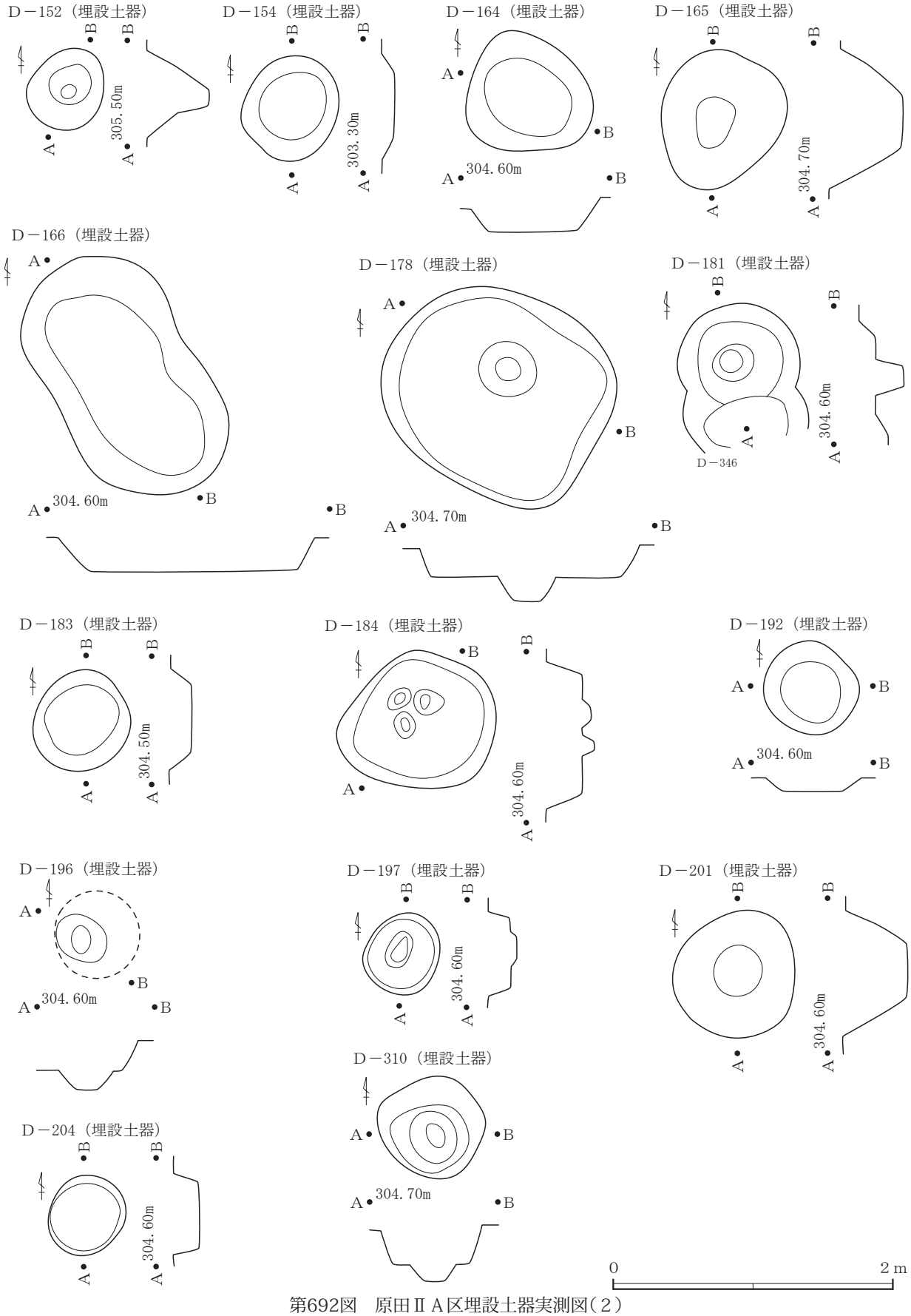


第690図　原田ⅡA区土坑実測図(27)



遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物		
						RP	RB	YP
D－39	1	黒褐色土層10YR2/2		○	◎	×	×	※
	2	黒褐色土層10YR2/2	2＜1	○	◎	×	×	×
D－76	1	黒褐色土層10YR3/1		◎	○	※	×	※
	2	暗褐色土層10YR3/3		◎	○	○	※	※
	3	黒褐色土層10YR3/1		◎	○	※	※	※
D－77	1	暗褐色土層10YR3/4		◎	○	○	△	※

第691図　原田ⅡA区埋設土器実測図(1)



第692図　原田ⅡA区埋設土器実測図（2）

縄文時代遺構観察表

A区住居址

住居名	位置	平面形態	規模（m）			主軸方向	施設			遺物量		時期	備考
			長軸	短軸	深さ		主柱穴	炉址		土器	石器		
								位置	構造				
J－1住	I－8	楕円形	4.9	5.6	0.8	—	4本 方形配列	中央？	—	◎	○	諸磯c	
J－2住	I－9	柄鏡形	6.4	4.6	0.5～ 0.6	N-25-E	10本 円形配列	中央	土器囲炉	◎	◎	堀之内1	柄鏡形敷石住居。円形部に壁周溝が巡る。張出部幅2.4 m。破砕した土器で炉の周囲を一～二重に囲む。張出部中央に埋設土器。
J－4住	H－9	楕円形	7.9	6.8	0.2～ 0.3	N-10-E	4本以上 方形配列	中央東・ 南	地床炉	◎	△	諸磯b	北半に壁周溝が巡る。床面に焼土痕3カ所。主柱穴周囲に、より小径の補助柱穴？を有す。
J－5住	H－8	不整形	6.0	4.4	0.4	—	—	中央 東？	地床炉	◎	○	諸磯b	床面に複数の焼土痕。
J－8a住	B－10	長方形	10.6	6.0	0.7～ 0.8	N-10-W	6本 方形配列	—	—	◎		有尾・黒浜	大形長方形住居。壁周溝は全周する。
J－8b住	B－10	長方形	8.8	6.0	0.3	N-10-W	6本 方形配列	—	—	◎		諸磯b	壁周溝は全周する。
J－9住	C－11	隅丸方形	4.0	3.6	0.2	N-30-W	—	—	—	◎	※	諸磯b	北半に壁周溝が巡る。
J－10a住	C－11	円形	(6.0)	(6.0)	0.1	—	—	中央	石囲炉	◎		加曽利E	南側の一部に壁周溝が巡る。
J－10b住	C－11	隅丸方形	(6.4)	5.8	0.1	N-14-W	—	—	—	○	※	諸磯b	南半に壁周溝が巡る。拡張住居か。
J－11住	C－10	隅丸長方形	7.0	5.2	0.3	N-20-W	6本 方形配列	—	—	◎		諸磯b	壁周溝は全周する。拡張住居か。
J－12住	B－9他	長方形	12.8	7.0	0.6～ 0.7	N-6-E	6本 方形配列	北	地床炉	◎	◎	有尾・黒浜	大形長方形住居。炉は枕石を伴う。遺物量多い。
J－13住	C－11	隅丸方形	4.4	4.4	0.3	—	6本 円形配列	中央	石囲炉？	◎	◎	加曽利E	
J－16住	C－10	楕円形	5.8	5.4	0.2	N-22-W	6本？ 円形配列	中央南	石囲炉	◎	◎	加曽利E	壁周溝は全周する。
J－17住	C－10	隅丸方形？	7.4	6.8	0.3～ 0.4	N-5-W	6本？ 円形配列	中央北	石囲炉	◎	◎	加曽利E	壁周溝は全周する。1号列石が南接する。
J－19住	C－9他	円形	5.2	5.1	0.2	N-33-E	6本？ 円形配列	中央	—	◎	◎	加曽利E	壁周溝は全周する。
J－20住	D－9	柄鏡形	7.2	4.6	0.1	N-55-W	10本？ 円形配列	中央	石囲炉	◎	○	後期初頭～ 前葉	柄鏡形敷石住居。円形部に柱穴が巡る。張出部幅1.3 m。
J－22住	E－9	円形	10.6	10.6	0.6	N-28-e	10本 円形配列	中央東	地床炉	◎	◎	諸磯b	遺物量多い。土偶出土。
J－23住	C－10	楕円形	5.4	4.8	0.2	N-17-W	6本？ 円形配列	中央	石囲炉	◎	◎	加曽利E	壁周溝が全周する。拡張住居か。
J－25住	E－6	楕円形	8.2	7.8	0.2	N-50-E	6本？ 不整配列	—	—	○	△	諸磯b	北半に壁周溝が巡る。
J－26a住	C－11	長方形	15.8	7.6	0.5	N-18-W	6本 方形配列	—	—	○		有尾・黒浜	大形長方形住居。拡張住居か。
J－26b住	C－11	楕円形	5.5	5.4	0.1	N-10-E	4本？ 不整配列	中央	石囲炉？	○		加曽利E	東側の一部に壁周溝が巡る。拡張住居か。
J－26c住	C－11	楕円形	5.8	5.6	0.1	—	—	中央東	石囲炉	○		加曽利E	
J－27a住	E－7他	楕円形	9.2	7.6	0.6	N-32-W	—	—	—	◎		諸磯b	遺物量多い。
J－27b住	E－7他	不整形	7.8	4.1	0.8～ 0.9	N-35-W	—	—	—	◎	△	前期中葉～ 後葉	一部に壁周溝が巡る。J－27住は最低2棟の重複。有尾・黒浜や加曽利E式も一定量混入する。最終的に4棟程度の重複が想定される。
J－30住	E－7	楕円形	7.0	6.2	0.2	N-27-E	6～8本 円形配列	中央	石囲炉	○	※	加曽利E	
J－32住	F－7	隅丸方形	4.6	3.6	0.4	N-16-W	—	中央	地床炉	◎	○	有尾・黒浜	
J－33住	F－7	円形	(4.2)	(4.2)	0.4	N-39-E	8本 円形配列	中央	石囲炉	△	※	加曽利EⅣ	壁際に柱穴を配す。南端のD－1号土坑（堀之内）は別遺構。
J－34住	D－6	隅丸方形	(5.8)	(4.8)	0.7	N-54-W	6本 方形配列	—	—	○	○	有尾・黒浜	壁周溝が全周する。住居南側、南北の壁周溝とピット列の延長が確認されており、別住居の存在が予想される。
J－35住	D－10	不整形	5.6	4.6	0.6	—	—	—	—	◎	△	加曽利EⅢ	住居址ではなく、竪穴状遺構の可能性あり。
J－36住	D－6	楕円形？	(5.4)	(4.8)	0.1	N-14-	4本？ 不整配列	中央	石囲炉	◎	△	加曽利EⅣ	
J－38住	F－7	隅丸方形	6.7	5.0	0.3～ 0.4	N-87-W	6本？ 方形配列	中央北・ 南	地床炉	◎	○	諸磯b～c	東側の一部に壁周溝が巡る。
J－39住	F－7	隅丸方形	5.9	4.4	0.3	N-27-W	6本 方形配列	—	—	○	△	有尾・黒浜	壁周溝が全周する。拡張住居か。
J－41住	D－10	楕円形	8.2	5.6	0.4	N-11-E	—	—	—	◎	◎	加曽利E	1号列石に北接する。
J－44住	F－7	隅丸方形	(6.3)	(4.5)	0.1	N-30-W	6本？ 方形配列	中央北	地床炉	△		加曽利E	遺物の大半は南側のD－1号土坑から出土。住居址ではない可能性あり。

第219表　二軒在家原田Ⅱ遺跡A区縄文時代住居址　遺構観察表（1）

住居名	位置	平面形態	規模（m）			主軸方向	施設			遺物量		時期	備考
			長軸	短軸	深さ		主柱穴	炉址		土器	石器		
								位置	構造				
J－54住	H－10	隅丸方形	10.1	9.7	0.9	N-9-E	10本？円形配列	－	－	◎	◎	諸磯b～c	諸磯cは特に6・7・10・11区に集中しており、2棟重複の可能性がある。
J－55 a住	F－9他	不整形	(8.3)	6.3	0.4	－	－	－	－	◎	(◎)	諸磯b	
J－55 b住	F－9他	隅丸方形	5.4	5.2	0.6	N-44-W	4本？方形配列	－	－	○	※	諸磯b	
J－56住	F－9他	隅丸方形	9.1	8.7	0.9～1.0	N-20-W	8本方形配列	南西・南東	地床炉	◎	◎	諸磯b	遺物量非常に多い。
J－57住	F－8	楕円形	6.7	6.2	0.1	N-25-W	8本？円形配列	中央	石囲炉	◎	◎	加曽利E	壁周溝は全周する。
J－58住	F－7他	楕円形	12.3	11.6	0.6	N-23-W	10本以上円形配列	中央？	－	◎	◎	諸磯c	大形住居址。遺物量多い。東側に壁周溝が巡る。
J－59住	G－10	隅丸方形	3.5	3.3	0.3	－	－	－	－	△	※	諸磯b	東側に壁周溝が巡る。
J－60住	H－10	長方形	6.6	4.5	0.1	N-43-W	6本？方形配列	－	－	△	※	有尾・黒浜	壁周溝は全周する。
J－62住	G－11	不整形	4.4	3.7	0.1	－	－	－	－	◎	○	加曽利E	
J－63住	F－9	不整形	〈5.9〉	5.3	0.5	N-20-W	6本？不整配列	－	－	○	△	諸磯b	東側に壁周溝が巡る。
J－64 a住	F－8	楕円形	5.3	4.7	0.2	N-39-W	－	中央	地床炉	△		諸磯c	北半に壁周溝が巡る。
J－64 b住	F－8	隅丸方形	3.3	3.0	0.3	N-42-W	－	－	－	○		有尾・黒浜	壁周溝は全周するが、炉跡や柱穴らしきピットは検出されなかった。
J－65 a住	F－9	隅丸方形	4.0	3.8	0.3	N-15-E	4本？方形配列	－	－	○	(○)	諸磯b	
J－65 b住	F－9	楕円形	3.7	3.7	0.3	－	4本？方形配列	－	－	○	(○)	諸磯b	
J－66住	F－8	楕円形	5.2	4.6	0.2	N-17-E	6本円形配列	中央北	石囲炉	◎	○	加曽利E	北側の一部に壁周溝が巡る。
J－67住	F－8	楕円形	4.5	4.1	0.1	N-3-E	4本方形配列	中央	石囲炉？	△	※	加曽利E	壁周溝は全周する。
J－68 a住	G－8	隅丸方形	6.2	5.0	0.5	N-9-E	－	－	－	◎		諸磯c	東側の一部に壁周溝が巡る。
J－68 b住	G－8	隅丸方形	3.0	3.0	0.8	N-19-E	－	－	－	◎		諸磯b	北側の一部に壁周溝が巡る。
J－69住	G－9	隅丸長方形	5.0	3.8	0.1	N-50-W	4本方形配列	中央・北・南	地床炉	○	※	有尾・黒浜	壁周溝は全周し、溝の中にピットを配す。
J－70住	G－9	不整形	5.6	4.6	0.3	－	4本方形配列	中央南	地床炉	○	△	諸磯b	北側の一部に壁周溝が巡る。有尾・黒浜式も一定量出土しており、2棟重複の可能性がある。
J－71住	H－9他	隅丸長方形	5.1	4.6	0.4	N-75-W	4本方形配列	中央東	地床炉	○	△	有尾・黒浜	壁周溝は全周する。楕円形の周溝もあり、同時期の住居址が重複している可能性がある。
J－72住	G－7	楕円形	6.0	5.7	0.2	－	4本方形配列	中央	地床炉	○	※	諸磯b	北側に壁周溝が残る。
J－73住	G－8他	隅丸方形	4.7	4.7	0.4	N-10-E	4本方形配列	－	－	◎	△	諸磯b	壁周溝は全周する。拡張住居か。
J－74住	G－9	隅丸方形？	(5.0)	(4.2)	0.1	N-34-W	4本方形配列	－	－			不明	形状と周辺住居址の状況から前期の可能性があるが不明。
J－75住	I－10	隅丸方形	3.6	3.3	0.2	N-18-E	－	－	－	○	※	加曽利E	壁周溝や炉、ピットは検出されなかった。
J－76住	F－8	柄鏡形	5.6	(4.4)	0.1	N-19-E	－	中央南	石囲炉？	○	※	堀之内2	柄鏡形敷石住居。張出部幅は1.8 m。
J－77 a住	G－8	隅丸長方形	6.4	〈4.4〉	0.2	N-7-E	－	－	－	○		有尾・黒浜	住居中央部を77 b号住居に破壊される。重複する5棟の中で最も古い。
J－77 b住	G－8	隅丸長方形	3.6	3.4	0.6	N-12-W	4本方形配列	中央	地床炉	◎		諸磯b	壁周溝は全周する。
J－78住	H－10	円形？	(3.7)	(3.7)	0.1	－	8本？円形配列	中央	－	○	※	加曽利E	壁の立ち上がりは未確認。
J－79住	H－9他	円形？	(4.2)	4.0	0.2	－	－	－	－	○	※	諸磯b	
J－80住	B－12	長方形	8.6	5.3	0.8	N-20-E	6本方形配列	北	地床炉	◎	◎	有尾・黒浜	大形長方形住居。壁周溝は全周する。床や壁面の多くが被熱しており、炭化材も散見された。本住居址とJ－12号住出土遺物が接合。
J－81住	C－13	円形	5.8	5.8	0.5	－	－	－	－	◎	○	有尾・黒浜	壁周溝は全周する。
J－82住	G－10	長方形	9.6	5.1	0.3	N-57-W	8本方形配列	－	－	◎	※	有尾・黒浜	壁周溝は全周する。拡張住居か。
J－87住	H－10	長方形	〈15.1〉	7.9	0.7	N-47-W	6本方形配列	－	－	◎	※	有尾・黒浜	壁周溝は全周する。拡張住居か。南東部に一辺4m程度の溝が方形に巡ることから、別住居が存在する可能性がある。
J－88住	G－10	隅丸方形	8.2	5.9	1.0	N-3-E	6本方形配列	－	－	○	※	諸磯b	壁周溝は全周する。拡張住居か。
J－89住	B－12	長方形	〈10.5〉	7.0	0.2	N-16-E	6本方形配列	－	－	◎	△	有尾・黒浜	壁周溝は全周する。拡張住居か。

第220表　二軒在家原田Ⅱ遺跡A区縄文時代住居址　遺構観察表（2）

住居名	位置	平面形態	規模（m）			主軸方向	施設			遺物量		時期	備考
			長軸	短軸	深さ		主柱穴	炉址		土器	石器		
								位置	構造				
J－90 a住	C－12	円形	5.4	5.4	0.2	―	6本？ 円形配列	中央？	石囲炉	◎		加曽利E	壁周溝は全周する。
J－90 b住	C－12	隅丸方形	8.0	5.8	0.1	N-11-E	6本？ 方形配列	中央？	地床炉	◎		諸磯a	南半に壁周溝が巡る。
J－90 c住	C－12	楕円形？	6.6	6.0	0.1	―	―	―	―	◎		諸磯b	
J－91 住	B－12	隅丸方形？	〈4.2〉	〈3.1〉	0.2	―	―	―	―	○	※	諸磯b	南側に壁周溝が巡る。
J－92 a住	G－8	隅丸長方形	4.2	〈3.8〉	0.6	N-24-W	―	―	―	◎		諸磯c	東側の一部に壁周溝が巡る。 重複する5棟の中で最も後出すると考えられる。
J－92 b住	G－8	隅丸長方形	7.4	6.2	0.6	N-4-E	6本 方形配列	中央・ 東	地床炉	◎		諸磯b	東側の一部に壁周溝が巡る。
J－93 住	C－12	長方形	〈6.1〉	4.6	0.2	N-32-W	6本？ 方形配列	―	―	◎	△	有尾・黒浜	壁周溝は全周し、溝中にピットを配す。複数回の拡張が想定される。
J－94 住	C－11	円形	〈2.8〉	2.6	0.1	―	―	―	―	△	※	加曽利E	南半に壁周溝が巡る。
J－95 住	C－12	楕円形	6.5	5.6	0.2	N-29-W	6本？ 方形配列	中央東	地床炉	◎	△	諸磯b	南側に壁周溝が巡る。
J－96 住	C－12	隅丸方形	10.7	7.3	0.2	N-1-W	10本以上 方形配列	―	―	○	◎	諸磯b	壁周溝が多数巡ることから、複数回の拡張あるいは重複が想定される。
J－97 住	I－10	長方形	6.0	3.7	0.2	N-40-W	6本？ 方形配列	中央北	地床炉			前期？	壁周溝は全周する。
J－98 住	G－11	楕円形	6.3	5.1	0.4	―	―	―	―	◎	△	加曽利E	
J－99 住	F－11	楕円形	6.1	5.1	0.3	―	―	―	―	○	※	加曽利E	
J－100 住	D－11	円形	5.8	5.7	0.3	―	4本？ 方形配列	―	―	◎	◎	加曽利E	出土遺物量における曽利式系土器の比率が高い。吊手土器、栃倉式も出土。
J－103 住	F－11	長方形	6.9	4.9	0.2	N-29-E	6本？ 方形配列	―	―	△	※	諸磯b	
J－104 住	F－9	隅丸方形？	〈3.3〉	〈3.2〉	0.2	N-6-E	―	―	―	△	※	有尾・黒浜	東側に壁周溝が巡る。
J－105 住	F－9	楕円形	3.6	3.5	0.2	N-40-W	4本 方形配列	中央	石囲炉	○	※	加曽利EⅢ	一部に壁周溝が巡る。
J－106 住	D－12	隅丸方形	4.2	4.0	0.1	N-23-E	4本 方形配列	―	―	○	※	加曽利E	壁周溝は全周する。
J－107 住	G－10	円形	3.5	3.4	0.2	―	5本？ 円形配列	―	―	○		加曽利E	
J－108 a住	C－12	楕円形	6.8	6.0	0.2	―	6本？ 円形配列	―	―	○		加曽利E	
J－108 b住	C－12	隅丸方形	6.4	5.0	0.1	N-13-E	6本？ 方形配列	―	―	○		有尾・黒浜	
J－109 a住	D－9	隅丸方形	6.4	5.9	0.3	―	―	―	―	○		諸磯b	
J－109 b住	D－9	円形？	(7.8)	(7.8)	0.1	―	―	中央	石囲炉	◎		加曽利E	
J－110 住	C－12	隅丸長方形	12.6	7.2	0.1	N-5-W	8本？ 方形配列	―	―			前期？	壁周溝は全周する。拡張住居か。
J－111 住	C－12	隅丸方形	7.5	7.1	0.1	N-28-E	8本？ 円形配列	―	―	◎		加曽利E	壁周溝は全周する。
J－112 住	D－12	楕円形？	(6.1)	(6.0)	0.1	N-9-W	8本？ 円形配列	中央	石囲炉	◎	◎	加曽利E	壁周溝は全周する。
J－113 住	D－12	楕円形	6.0	5.8	0.1	―	6本 円形配列	中央	石囲炉？	◎	※	加曽利E	壁周溝は全周する。
J－114 住	C－11	円形？	(6.0)	(6.0)	0.1	―	4本 方形配列	―	―	△	※	諸磯b	東側の一部に壁周溝が巡る。

※　J－14、15、21、24、31、40、46～49、51号住居址は欠番。

凡例

主軸　住居址の壁（壁周溝）または主柱穴と思われるピット、石囲炉などの長軸方向を基準とした。「°」記号は省略。

遺物　土器　※：1～100g、△：101～1,000g、○：1001～10,000g、◎：10,001g以上

石器・石製品　※：1～10点、△：11～20点、○：21～30点、◎：31点以上　()内は枝番住居においてどちらの帰属か不明なものを示す

第221表　二軒在家原田Ⅱ遺跡A区縄文時代住居址　遺構観察表（3）

A区土坑

土坑名	位置	平面形	規模（m）			時期
		断面形	長軸	短軸	深さ	
D－1 土坑	H－8	楕円形 浅い袋形	1.4	1.3	0.5	諸磯b
D－2 土坑	C－11	楕円形 浅い逆台形	1.2	0.9	0.6	諸磯b
D－3 土坑	C－11	不整形 逆台形	1.3	0.6	0.7	諸磯b
D－4 土坑	C－11	楕円形 逆台形	0.7	0.6	0.2	諸磯b
D－5 土坑	C－11	楕円形 逆台形	1.3	0.9	0.5	加曽利E
D－6 土坑	D－11	楕円形 浅い逆台形	1.2	1.0	0.3	加曽利E
D－7 土坑	C－10	楕円形 浅い逆台形	1.6	1.3	0.2	加曽利E？
D－8 土坑	C－10	隅丸方形 浅い逆台形	0.5	0.5	0.1	諸磯c
D－9 土坑	C－10	楕円形 浅い逆台形	0.4	0.4	0.1	後期？
D－10 土坑	C－10	楕円形 逆台形	1.4	1.4	0.6	諸磯b
D－11 土坑	B－10	楕円形 浅い逆台形	1.3	(1.3)	0.2	諸磯c
D－12 土坑	C－10	不整形 浅い逆台形	0.7	0.6	0.5	諸磯b
D－13 土坑	C－10	円形 浅い逆台形	1.1	1.1	0.3	称名寺
D－14 土坑	C－10	円形 浅い袋形	1.0	1.0	0.9	称名寺
D－15 土坑	C－10	円形 箱形	1.0	1.0	0.9	称名寺
D－16 土坑	C－10	楕円形 浅い逆台形	1.3	1.1	0.4	諸磯？
D－18 土坑	C－10	不整形 浅い逆台形	1.2	0.7	0.3	後期
D－21 土坑	D－9	楕円形 逆台形	1.2	1.1	0.3	加曽利E
D－22 土坑	C－9	楕円形 浅い逆台形	1.1	1.0	0.3	諸磯b
D－23 土坑	C－9	楕円形 浅い逆台形	0.9	0.7	0.1	諸磯b
D－24 土坑	C－9	楕円形 箱形	0.7	0.6	0.6	前期後葉
D－25 土坑	C－9	円形 箱形	1.1	1.0	0.8	加曽利E
D－26 土坑	C－9	不整形 不整形	0.8	0.5	0.7	前期中葉
D－27 土坑	C－9	楕円形 浅い逆台形	1.0	0.7	0.1	中期後葉？
D－28 土坑	C－10	楕円形 箱形	0.9	0.6	0.6	諸磯b
D－29 土坑	C－10	楕円形 箱形	0.6	0.6	0.7	称名寺
D－30 土坑	C－10	楕円形 浅い逆台形	〈1.0〉	0.9	0.6	諸磯c
D－31 土坑	C－9	不整形 不整形	3.7	2.4	0.7	称名寺
D－32 土坑	C－11	楕円形 箱形	1.3	0.7	0.7	諸磯b
D－33 土坑	C－11	不整形 箱形	2.5	1.3	0.7	諸磯b
D－34 土坑	C－11	楕円形？ 逆台形	1.2	〈0.9〉	〈0.3〉	諸磯c
D－35 土坑	D－9	円形 浅い逆台形	1.0	0.9	0.3	後期前葉
D－36 土坑	D－9	円形 不整形	1.8	1.6	0.5	加曽利E
D－37 土坑	D－9	楕円形 箱形	1.3	1.0	1.2	諸磯b
D－38 土坑	D－9	楕円形 不整形	1.7	1.5	0.3	加曽利E
D－39 土坑 (埋設土器)	C－9	円形 浅い逆台形	0.7	0.6	0.3	不明
D－40 土坑	D－11	不整形 浅い逆台形	1.2	0.9	0.3	加曽利E
D－41 土坑	D－9	不整形 すり鉢形	4.5	3.4	1.3	後期前葉

土坑名	位置	平面形	規模（m）			時期
		断面形	長軸	短軸	深さ	
D－42 土坑	C－10	楕円形 箱形	1.3	1.1	1.3	後期
D－43 土坑	C－10	楕円形 箱形	1.2	1.0	1.2	称名寺
D－44 土坑	E－6	楕円形 不整形	0.6	0.6	0.2	加曽利E
D－45 土坑	E－6	楕円形 浅い逆台形	1.1	1.0	0.2	後期
D－46 土坑	E－6	楕円形 不整形	1.6	1.3	0.3	加曽利E
D－47 土坑	E－6	楕円形 浅い台形	1.5	1.3	0.2	称名寺
D－48 土坑	E－6	楕円形 逆台形	1.4	1.1	0.9	称名寺
D－49 土坑	F－6	不整形 浅い逆台形	〈2.2〉	1.2	0.4	中期？
D－50 土坑	C－10	楕円形 箱形	0.8	0.7	0.6	加曽利E？
D－51 土坑	C－10	円形 箱形	0.5	0.5	0.6	諸磯b
D－52 土坑	C－10	楕円形 逆台形	〈0.5〉	0.4	0.3	加曽利E
D－53 土坑	C－10	円形 箱形	1.7	1.6	0.6	後期
D－54 土坑	C－10	不整形 逆台形	〈1.3〉	0.9	0.6	加曽利E
D－55 土坑	E－7	円形 箱形	0.7	0.6	0.9	中期？
D－56 土坑	E－7	楕円形 逆台形	0.9	0.6	0.5	後期？
D－57 土坑	E－7	円形 袋状	2.1	1.6	0.9	称名寺
D－58 土坑	F－7	楕円形 浅い逆台形	0.8	0.7	0.2	後期
D－59 土坑	F－7	円形 浅い逆台形	2.2	2.1	0.2	後期
D－60 土坑	F－7	楕円形 浅い逆台形	1.2	1.1	0.2	称名寺
D－61 土坑	F－7	楕円形 浅い逆台形	0.5	0.4	0.2	加曽利E
D－62 土坑	F－7	楕円形 浅い逆台形	1.2	1.1	0.2	諸磯c
D－63 土坑	C－10	楕円形 箱形	1.5	1.3	1.4	後期初頭？
D－64 土坑	C－10	楕円形 深い逆台形	0.8	0.7	1.1	不明
D－66 土坑	F－7	楕円形 不整形	1.5	1.4	0.2	諸磯a
D－67 土坑	F－7	楕円形 浅い逆台形	2.8	1.5	0.1	加曽利E
D－68 土坑	F－7	隅丸方形 浅い逆台形	2.0	1.7	0.3	加曽利E
D－69 土坑	C－10	楕円形 袋状	1.2	1.1	1.2	五領ヶ台
D－70 土坑 (埋設土器)	C－9	楕円形 深い逆台形	0.5	0.4	0.6	加曽利E
D－71 土坑	E－8	楕円形 浅い逆台形	1.2	1.0	0.3	不明
D－72 土坑	E－8	不整形 浅い逆台形	1.3	1.0	0.1	加曽利E
D－73 土坑	F－8	楕円形 逆台形	1.2	1.1	0.5	中期？
D－74 土坑	F－8	隅丸長方形 浅い逆台形	2.7	1.4	0.3	加曽利E
D－75 土坑	C－10	楕円形 箱形	〈1.0〉	0.7	0.6	諸磯b
D－76 土坑 (埋設土器)	D－9	円形 逆台形	0.9	0.9	0.4	加曽利EⅢ
D－77 土坑 (埋設土器)	D－10	円形 浅い逆台形	0.7	0.7	0.1	加曽利E
D－78 土坑	H－10	円形 浅い逆台形	1.1	1.0	0.1	加曽利E
D－79 土坑	H－10	円形 箱形	0.5	0.4	0.7	加曽利E

第 222 表　二軒在家原田Ⅱ遺跡A区縄文時代土坑　遺構観察表（1）

土坑名	位置	平面形 断面形	規模（m） 長軸	短軸	深さ	時期
D－80 土坑	H－10	楕円形 逆台形	0.9	0.6	0.3	後期
D－81 土坑	H－10	楕円形 箱形	0.7	0.6	0.6	加曽利E
D－82 土坑	G－11	円形 浅い逆台形	1.0	1.0	0.3	不明
D－83 土坑 (埋設土器)	D－10	楕円形 浅い逆台形	0.6	0.5	0.2	加曽利E
D－114 土坑	C－10	不整形 箱形	1.9	1.7	0.8	加曽利E
D－115 土坑	D－10	楕円形 箱形	1.1	0.7	0.5	中期後葉？
D－116 土坑	C－10	楕円形 逆台形	0.4	0.3	0.3	前期後葉？
D－117 土坑	H－10	円形 浅い逆台形	1.1	1.1	0.2	有尾・黒浜
D－118 土坑	G－10	楕円形 逆台形	1.6	1.3	1.0	有尾・黒浜
D－119 土坑	G－10	楕円形 浅い逆台形	1.3	1.1	0.4	加曽利E
D－120 土坑	H－10	楕円形 箱形	1.1	0.9	0.8	前期後葉
D－121 土坑	G－10	楕円形 逆台形	1.0	0.9	0.5	有尾・黒浜
D－122 土坑	G－10	円形 浅い逆台形	0.9	0.9	0.3	諸磯c
D－123 土坑	G－10	楕円形 箱形	1.0	0.9	0.8	有尾・黒浜
D－124 土坑 (埋設土器)	G－10	楕円形 浅い逆台形	0.8	0.6	0.1	加曽利E
D－125 土坑	G－10	楕円形 箱形	1.8	1.5	0.8	諸磯b
D－126 土坑	G－10	円形 逆台形	0.6	0.6	0.6	前期後葉
D－127 土坑	G－10	楕円形 浅い逆台形	1.5	1.2	0.2	堀之内
D－128 土坑	G－10	楕円形 不整形	2.9	2.0	0.7	堀之内
D－129 土坑	F－10	楕円形 箱形	1.1	1.0	0.5	諸磯b
D－130 土坑	G－10	楕円形 浅い逆台形	1.4	1.3	0.2	中期？
D－131 土坑	G－10	楕円形 箱形	1.4	1.2	0.6	有尾・黒浜
D－132 土坑	G－10	楕円形 箱形	1.5	1.3	0.8	称名寺？
D－133 土坑	G－8	楕円形 浅い逆台形	0.7	0.4	0.2	後期
D－134 土坑	G－8	不整形 箱形	1.2	1.1	0.6	堀之内
D－135 土坑	G－8	円形 箱形	0.8	0.8	0.8	有尾・黒浜
D－136 土坑	G－8	楕円形 浅い逆台形	1.5	1.3	0.3	中期後葉
D－137 土坑	G－8	不整形 箱形	2.1	1.1	0.6	諸磯c
D－138 土坑	G－8	円形 浅い逆台形	1.3	1.2	0.5	有尾・黒浜
D－139 土坑	G－10	円形 浅い逆台形	1.2	1.1	0.2	堀之内
D－140 土坑	H－10	楕円形 浅い逆台形	1.2	0.8	0.2	諸磯b
D－141 土坑	H－9	円形 浅い箱形	1.5	1.4	0.4	加曽利E
D－142 土坑	H－9	円形 逆台形	1.3	1.3	0.6	堀之内
D－143 土坑	H－9	円形 浅い逆台形	1.2	1.2	0.1	後期前葉
D－144 土坑	H－9	楕円形 逆台形	1.3	1.1	0.8	諸磯b
D－145 土坑	H－9	円形 浅い逆台形	1.6	1.5	0.3	後期
D－146 土坑	H－9	円形 箱形	1.1	1.1	0.4	堀之内
D－148 土坑	F－9	楕円形 箱形	0.7	0.4	0.5	後期
D－149 土坑	F－9	楕円形 浅い逆台形	1.3	0.9	0.2	諸磯b

土坑名	位置	平面形 断面形	規模（m） 長軸	短軸	深さ	時期
D－150 土坑	E－9	楕円形 浅い逆台形	0.4	0.4	0.1	前期後葉？
D－151 土坑	E－9	楕円形 浅い逆台形	0.5	0.4	0.2	中期後葉？
D－152 土坑 (埋設土器)	E－9	楕円形 すり鉢形	0.6	0.5	0.4	加曽利E
D－153 土坑	E－9	不定形 浅い逆台形	2.4	1.1	0.3	堀之内
D－154 土坑 (埋設土器)	H－9	円形 浅い逆台形	0.8	0.7	0.1	後期
D－155 土坑	G－7	楕円形 浅い逆台形	1.5	1.3	0.3	加曽利E
D－156 土坑	G－9	円形 箱形	0.7	0.7	0.9	加曽利E
D－157 土坑	E－9	楕円形 逆台形	0.7	0.6	0.3	堀之内
D－158 土坑	F－8	楕円形 逆台形	1.4	1.3	0.6	諸磯b
D－159 土坑	G－8	円形 袋状	1.1	1.0	0.7	加曽利E
D－160 土坑	G－8	円形 浅い逆台形	1.5	1.4	0.2	堀之内
D－161 土坑	G－8	円形 逆台形	1.9	1.8	0.6	中期
D－162 土坑	G－9	楕円形 浅い逆台形	1.6	〈0.3〉	0.3	加曽利E
D－163 土坑	F－9	楕円形 逆台形	0.8	0.4	0.5	加曽利E
D－164 土坑 (埋設土器)	E－12	楕円形 浅い逆台形	0.9	0.8	0.2	加曽利E
D－165 土坑 (埋設土器)	E－11	楕円形 すり鉢形	1.0	0.9	0.5	中期？
D－166 土坑 (埋設土器)	E－12	楕円形 浅い逆台形	1.8	1.1	0.2	加曽利E
D－167 土坑	E－11	楕円形 逆台形	1.2	1.0	0.3	称名寺
D－168 土坑	E－11	円形 浅い逆台形	0.4	0.4	0.1	加曽利E
D－169 土坑	F－8	楕円形 逆台形	0.5	0.4	0.3	中期後葉？
D－170 土坑	F－9	円形 箱形	1.2	1.2	0.8	諸磯
D－171 土坑	H－9	楕円形 浅い逆台形	2.1	2.0	0.4	諸磯b
D－172 土坑	D－11	不整形 浅い逆台形	1.3	1.0	0.3	加曽利E
D－173 土坑	F－9	楕円形 逆台形	0.6	0.5	0.3	諸磯b？
D－174 土坑	F－9	楕円形 逆台形	1.8	1.5	0.5	諸磯b
D－175 土坑	E－9	楕円形 逆台形	1.0	0.8	0.5	後期
D－176 土坑	F－9	楕円形 逆台形	1.1	1.0	0.4	加曽利E
D－177 土坑	H－9	円形 袋状	1.3	1.4	0.7	加曽利E
D－178 土坑 (埋設土器)	E－11	楕円形 浅い逆台形	1.6	1.4	0.4	加曽利E
D－179 土坑	H－9	楕円形 箱形	1.1	1.0	0.6	後期
D－180 土坑	H－10	円形 深い逆台形	0.3	0.3	0.6	諸磯b
D－181 土坑 (埋設土器)	E－12	楕円形 浅い逆台形	〈1.0〉	0.9	0.3	加曽利E
D－182 土坑	D－11	楕円形 箱形	1.1	1.0	0.3	加曽利E？
D－183 土坑 (埋設土器)	D－12	円形 浅い逆台形	0.7	0.7	0.2	加曽利E
D－184 土坑 (埋設土器)	D－11	楕円形 浅い逆台形	1.1	0.9	0.3	加曽利E
D－185 土坑	I－10	不整形 浅い逆台形	2.9	〈2.7〉	0.2	加曽利E
D－186 土坑	F－9	円形 逆台形	0.2	0.2	0.2	不明
D－187 土坑	F－9	円形 深い逆台形	0.3	0.3	0.4	不明
D－189 土坑	H－10	円形 逆台形	0.6	0.6	0.6	加曽利E

第 223 表　二軒在家原田Ⅱ遺跡A区縄文時代土坑　遺構観察表（2）

土坑名	位置	平面形 断面形	規模（m） 長軸	短軸	深さ	時期
D－190 土坑	G－10	楕円形 逆台形	1.2	1.1	0.5	有尾・黒浜
D－191 土坑	G－11	不整形 逆台形	1.9	1.7	0.7	加曽利E
D－192 土坑	E－11	円形 浅い逆台形	0.7	0.7	0.1	後期
D－193 土坑	E－11	楕円形 浅い逆台形	0.8	0.5	0.1	加曽利E
D－194 土坑	D－11	円形？ 不明	0.9	0.8	－	加曽利E
D－195 土坑	G－8	円形 浅い逆台形	0.9	0.8	0.1	中期
D－196 土坑 （埋設土器）	D－11	円形？ 浅い逆台形	(0.6)	(0.6)	(0.3)	加曽利E
D－197 土坑 （埋設土器）	D－11	楕円形 浅い逆台形	0.6	0.5	0.2	加曽利E
D－198 土坑	D－12	楕円形 浅い逆台形	0.7	0.6	0.1	加曽利E
D－199 土坑	D－12	楕円形 逆台形	1.0	0.6	0.6	加曽利E
D－200 土坑	D－12	楕円形 袋状	1.0	0.8	0.6	加曽利E
D－201 土坑 （埋設土器）	F－10	楕円形 すり鉢形	0.9	0.9	0.5	加曽利E
D－202 土坑	G－9	楕円形 箱形	2.0	1.7	0.7	諸磯c
D－203 土坑	F－11	楕円形 浅い逆台形	0.8	0.6	0.3	後期
D－204 土坑 （埋設土器）	F－11	円形 浅い逆台形	0.6	0.5	0.2	加曽利E
D－205 土坑	C－12	円形 箱形	1.1	1.1	0.6	加曽利E
D－206 土坑	F－11	楕円形 浅い逆台形	〈1.0〉	0.8	0.2	加曽利E
D－207 土坑	C－13	楕円形 浅い逆台形	1.0	0.9	0.2	諸磯？
D－208 土坑	C－12	楕円形 箱形	1.1	1.0	0.6	諸磯b
D－209 土坑	C－13	楕円形？ 箱形	1.0	〈0.9〉	0.6	諸磯b
D－210 土坑	C－13	不整形 深い逆台形	0.7	0.5	0.7	諸磯b
D－211 土坑	C－13	楕円形？ 逆台形	1.5	〈1.0〉	0.6	前期後葉
D－212 土坑	C－13	楕円形 不整形	0.9	0.7	0.6	諸磯b
D－213 土坑	C－13	不整形 浅い逆台形	3.0	1.7	0.2	加曽利E
D－215 土坑	C－13	楕円形 深い逆台形	0.4	0.4	0.6	諸磯b
D－216 土坑	C－12	不整形 逆台形	2.3	1.3	0.6	加曽利E
D－217 土坑	C－12	楕円形 不整形	1.4	〈1.1〉	0.9	加曽利E
D－218 土坑	C－13	円形 浅い逆台形	1.0	1.0	0.2	諸磯c
D－219 土坑	C－13	不整形 浅い逆台形	1.0	0.8	0.2	諸磯b
D－220 土坑	C－13	不整形 袋状	3.1	2.2	0.9	諸磯b
D－221 土坑	C－13	楕円形 逆台形	0.6	0.5	0.3	不明
D－222 土坑	D－13	楕円形 逆台形	0.7	0.4	0.4	諸磯b？
D－223 土坑	D－12	不整形 逆台形	1.1	0.6	0.3	加曽利E
D－224 土坑	D－12	不整形 逆台形	2.1	1.2	0.5	加曽利E
D－225 土坑	C－11	楕円形 箱形	0.7	0.6	0.7	加曽利E
D－226 土坑	C－12	楕円形 箱形	1.0	0.6	0.7	加曽利E
D－227 土坑	C－11	不整形 箱形	1.2	0.6	0.7	不明
D－228 土坑	C－11	楕円形 逆台形	0.7	0.6	0.4	堀之内
D－229 土坑	C－11	楕円形 箱形	0.7	0.5	0.6	中期

土坑名	位置	平面形 断面形	規模（m） 長軸	短軸	深さ	時期
D－230 土坑	C－11	楕円形 箱形	1.5	1.2	0.8	加曽利E
D－231 土坑	C－11	不整形 不整形	1.2	1.1	0.6	加曽利E
D－232 土坑	C－11	円形 箱形	0.9	0.9	0.6	加曽利E
D－233 土坑	C－11	楕円形 逆台形	1.1	0.9	1.1	堀之内
D－234 土坑	C－11	楕円形 深い逆台形	0.6	0.5	0.6	加曽利E
D－235 土坑	C－12	楕円形 浅い逆台形	1.1	0.9	0.1	諸磯b
D－236 土坑	C－11	円形 箱形	1.1	1.0	0.6	後期
D－237 土坑	C－12	不整形 逆台形	2.0	1.3	0.8	後期
D－238 土坑	I－10	楕円形 箱形	1.5	1.3	0.7	有尾・黒浜
D－239 土坑	C－12	楕円形 逆台形	0.9	0.6	0.6	諸磯b
D－240 土坑	C－12	円形 箱形	1.2	1.2	0.7	前期後葉
D－241 土坑	C－11	不整形 箱形	2.4	1.5	0.7	後期？
D－242 土坑	C－11	楕円形 逆台形	0.7	0.6	0.6	中期後葉
D－243 土坑	D－11	楕円形 浅い逆台形	2.3	1.7	0.4	加曽利E
D－244 土坑	C－12	楕円形 浅い逆台形	0.6	0.4	0.2	諸磯b
D－245 土坑	C－12	楕円形 不整形	1.1	0.8	0.7	諸磯b
D－246 土坑	C－12	不整形 逆台形	0.9	0.4	0.4	加曽利E
D－247 土坑	C－12	不整形 不整形	〈1.7〉	0.8	0.8	有尾・黒浜
D－248 土坑	D－11	不整形 すり鉢形	2.8	2.0	0.7	堀之内
D－249 土坑	E－11	不整形 浅い逆台形	5.0	1.7	0.7	不明
D－250 土坑	E－11	楕円形 浅い逆台形	2.1	2.1	0.4	称名寺
D－251 土坑	E－11	楕円形 箱形	1.0	0.8	0.5	後期？
D－252 土坑	E－11	不整形 逆台形	2.6	2.1	0.9	称名寺
D－253 土坑	F－11	楕円形 浅い逆台形	2.6	1.5	0.5	加曽利E
D－254 a 土坑	F－9	不整形 箱形	1.8	1.0	0.4	加曽利E
D－254 b 土坑	E－12	不整形 箱形	2.2	1.5	1.1	加曽利E
D－255 a 土坑	C－12	楕円形 袋状	1.6	1.4	1.2	堀之内
D－255 b 土坑	E－12	楕円形 逆台形	1.1	1.0	0.7	不明
D－256 土坑	E－12	楕円形 逆台形	1.6	1.2	0.9	称名寺
D－257 土坑	D－11	円形 逆台形	0.6	0.6	0.4	不明
D－258 土坑	E－9	楕円形 浅い逆台形	0.2	0.2	0.1	諸磯b
D－259 土坑	E－9	楕円形 浅い逆台形	0.3	0.2	0.1	諸磯b
D－260 土坑	E－12	不整形 逆台形	4.4	3.1	1.0	加曽利E
D－261 土坑	E－12	楕円形 浅い逆台形	4.1	3.6	0.4	加曽利E
D－262 土坑	E－11	楕円形 すり鉢形	1.4	1.1	0.9	後期
D－263 土坑	F－9	不整形 不整形	1.9	1.0	0.8	不明
D－264 土坑	D－12	不整形 逆台形	〈1.3〉	0.7	0.5	加曽利E
D－265 土坑	E－11	楕円形 逆台形	2.0	1.7	0.8	後期
D－266 土坑	D－12	不整形 逆台形	1.6	1.0	0.4	加曽利E

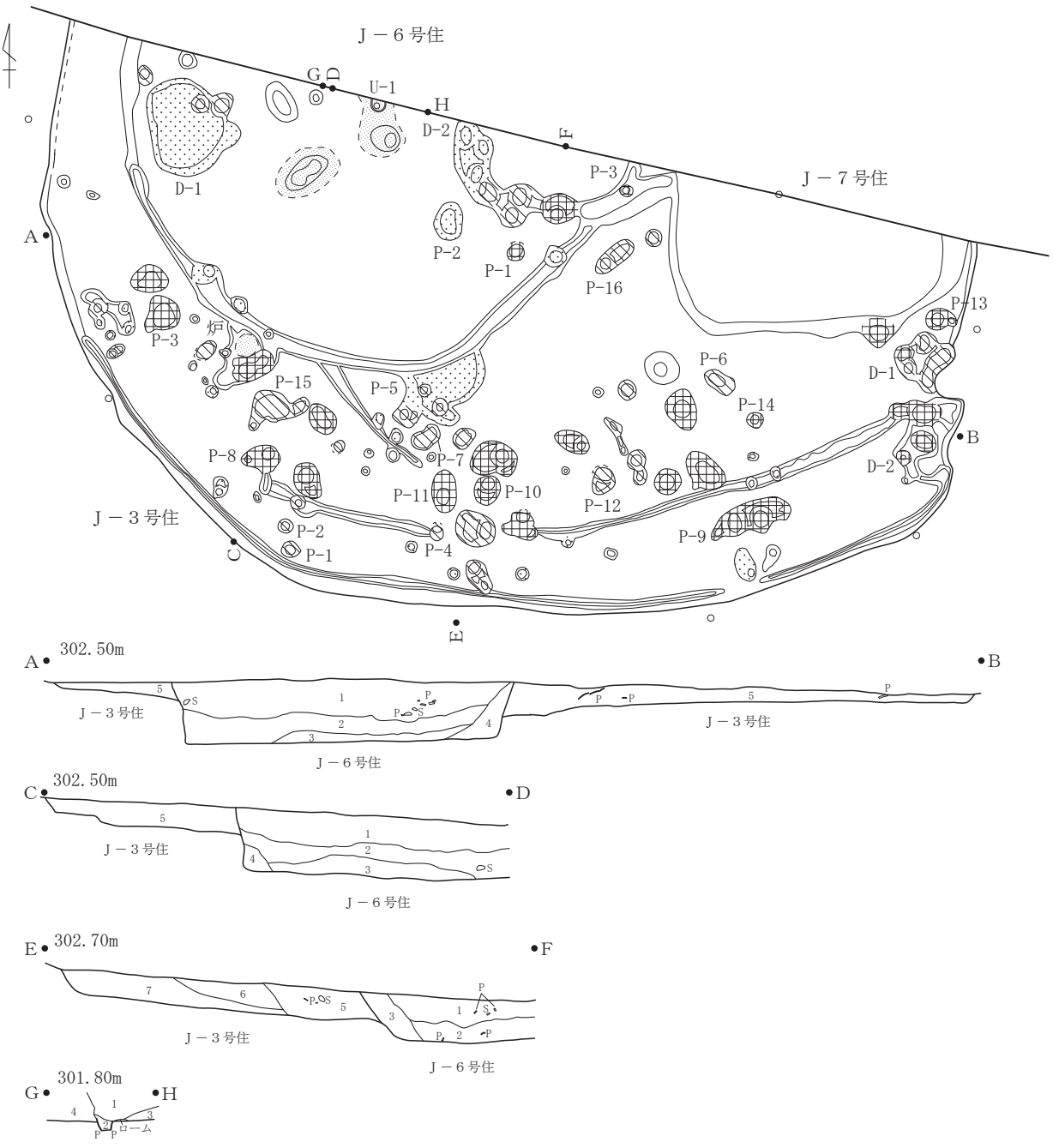
第 224 表　二軒在家原田Ⅱ遺跡A区縄文時代土坑　遺構観察表（3）

土坑名	位置	平面形 断面形	規模（m） 長軸	短軸	深さ	時期
D－267 土坑	E－12	楕円形 逆台形	1.3	1.1	0.5	五領ヶ台
D－268 土坑	F－11	楕円形 浅い逆台形	0.6	0.5	0.1	後期
D－269 土坑	E－11	円形 逆台形	0.5	0.4	0.2	中期
D－270 土坑	E－11	楕円形 逆台形	0.5	0.4	0.2	後期
D－271 土坑	E－11	円形 浅い逆台形	0.3	0.3	0.2	加曽利E？
D－272 土坑	E－11	不整形 逆台形	1.0	0.7	0.3	加曽利E
D－273 土坑	C－13	楕円形 すり鉢形	0.6	0.5	0.3	諸磯b
D－274 土坑	C－11	楕円形 浅い逆台形	0.8	0.7	0.2	不明
D－275 土坑	C－12	楕円形 箱形	1.4	1.1	0.8	諸磯b
D－276 土坑	C－13	楕円形 浅い逆台形	1.4	1.0	0.2	諸磯c
D－277 土坑	E－12	不整形 浅い逆台形	2.7	2.1	0.3	加曽利E
D－278 土坑	D－12	不整形 浅い逆台形	1.8	1.6	0.7	加曽利E
D－279 土坑	D－10	楕円形 浅い逆台形	0.8	0.6	0.2	加曽利E
D－280 土坑	D－13	楕円形 逆台形	0.6	0.5	0.5	加曽利E
D－281 土坑	D－9	楕円形 浅い逆台形	〈1.4〉	1.2	0.3	後期
D－282 土坑	D－12	楕円形 逆台形	1.7	1.3	0.5	加曽利E
D－283 土坑	D－12	不整形 不整形	2.9	〈2.2〉	1.6	加曽利E
D－284 土坑	D－12	楕円形 逆台形	1.2	1.0	0.6	諸磯b？
D－285 土坑	D－12	楕円形 逆台形	〈1.4〉	1.2	0.6	加曽利E
D－286 土坑	D－12	円形 逆台形	1.0	1.0	0.6	加曽利E
D－287 土坑	E－12	楕円形 逆台形	1.5	1.2	0.7	称名寺
D－288 土坑	D－12	楕円形 深い逆台形	1.4	1.4	1.2	諸磯b
D－289 土坑	D－12	楕円形 浅い逆台形	2.7	2.4	0.2	諸磯b
D－290 土坑	D－11	不整形 逆台形	0.9	0.6	0.8	堀之内
D－291 土坑	D－11	楕円形 逆台形	2.0	1.8	0.4	後期
D－292 土坑	D－12	楕円形 浅い逆台形	1.9	1.0	0.3	加曽利E
D－293 土坑	D－12	楕円形 深い逆台形	1.2	1.0	1.0	中期
D－294 土坑	D－12	不整形 逆台形	4.2	2.0	0.5	加曽利E
D－295 土坑	D－11	楕円形 逆台形	1.5	1.3	0.5	加曽利E
D－296 土坑	D－12	不整形 逆台形	1.7	1.0	0.7	加曽利E
D－297 土坑	D－11	不整形 浅い逆台形	3.4	1.3	0.5	加曽利E
D－298 土坑	D－11	楕円形 浅い逆台形	1.7	1.2	0.4	加曽利E
D－299 土坑	C－11	不整形 逆台形	2.4	1.8	0.8	加曽利E
D－300 土坑	D－12	不整形 不整形	2.0	1.1	0.8	加曽利E
D－301 土坑	D－11	不整形 不整形	1.6	1.2	0.9	加曽利E
D－302 土坑	D－12	楕円形 逆台形	1.0	0.6	0.4	加曽利E
D－303 土坑	E－11	楕円形 浅い逆台形	1.1	0.7	0.3	加曽利E

土坑名	位置	平面形 断面形	規模（m） 長軸	短軸	深さ	時期
D－304 土坑	D－12	円形 逆台形	0.7	0.7	0.6	後期
D－305 土坑	D－12	楕円形 逆台形	1.9	1.1	0.5	加曽利E
D－306 土坑	D－11	不整形 浅い逆台形	〈2.6〉	〈2.0〉	0.5	堀之内
D－307 土坑	D－12	楕円形 逆台形	0.9	0.6	0.5	不明
D－308 土坑	D－12	楕円形 深い逆台形	0.6	0.5	0.6	加曽利E
D－309 土坑	D－12	楕円形 浅い逆台形	2.4	2.1	0.1	加曽利E
D－310 土坑 (埋設土器)	E－11	楕円形 逆台形	0.8	0.7	0.4	加曽利E～ 称名寺
D－311 土坑	E－12	楕円形 深い逆台形	0.4	0.3	0.4	加曽利E
D－312 土坑	C－11	楕円形 深い逆台形	1.1	0.9	1.0	後期
D－313 土坑	D－12	楕円形 逆台形	0.5	0.5	0.5	加曽利E
D－314 土坑	C－11	楕円形 箱形	1.0	0.9	0.6	堀之内
D－315 土坑	C－11	不整形 不整形	2.0	0.8	0.4	加曽利E
D－316 土坑	C－11	楕円形 逆台形	2.2	1.7	0.7	後期
D－317 土坑	C－11	楕円形 深い逆台形	0.5	0.4	0.8	後期？
D－318 土坑	C－11	楕円形 箱形	0.7	0.5	0.6	堀之内
D－319 土坑	C－11	不整形 箱形	3.4	2.1	0.7	不明
D－320 土坑	C－11	不整形 箱形	3.0	1.8	0.5	加曽利E
D－321 土坑	D－11	円形 箱形	1.3	1.3	0.8	後期
D－322 土坑	D－11	楕円形 逆台形	3.3	2.2	0.8	堀之内
D－323 土坑	E－11	楕円形 逆台形	1.6	1.1	0.5	五領ヶ台
D－324 土坑	E－12	楕円形 逆台形	1.8	1.1	0.6	加曽利E
D－325 土坑	E－12	楕円形 逆台形	0.8	0.4	0.8	加曽利E
D－326 a 土坑	D－11	楕円形 逆台形	1.3	1.1	0.7	加曽利E
D－326 b 土坑	F－11	楕円形 逆台形	1.6	0.9	0.5	加曽利E
D－327 土坑	E－12	楕円形 逆台形	1.2	0.7	0.6	加曽利E
D－328 土坑	E－12	円形 浅い逆台形	0.9	0.8	0.2	後期
D－329 土坑	E－11	楕円形 浅い逆台形	1.4	0.8	0.3	不明
D－330 土坑	D－11	楕円形 すり鉢形	1.0	0.5	0.5	後期
D－331 土坑	E－11	楕円形 すり鉢形	0.6	0.5	0.9	称名寺
D－332 土坑	E－12	不整形 逆台形	1.8	1.2	0.6	加曽利E
D－333 土坑	E－11	楕円形 浅い逆台形	1.2	0.8	0.3	堀之内
D－334 土坑	E－11	楕円形 箱形	0.8	0.6	0.6	加曽利E
D－335 土坑	E－12	楕円形 逆台形	1.4	0.6	0.6	加曽利E
D－344 土坑	C－10	楕円形 浅い逆台形	1.3	1.0	0.2	不明
D－345 土坑	C－10	楕円形 浅い逆台形	1.2	1.1	0.4	不明
D－346 土坑	E－12	不整形 浅い逆台形	〈1.0〉	0.9	0.2	不明

※　D－17、19、20、147、188、214 号土坑は欠番。

第 225 表　二軒在家原田Ⅱ遺跡Ａ区縄文時代土坑　遺構観察表（４）

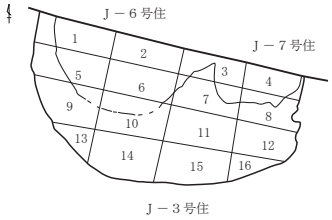


遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	混入物 RB	混入物 YP	炭化物	備考
Ｊ－３・６・７住	1	黒褐色土層10YR3/1		◎	◎	※	×	◎		Ｊ－６住フク土
	2	黒褐色土層10YR3/2		◎	◎	△	※	◎		
	3	黒褐色土層10YR3/1		◎	◎	※	×	○		
	4	黒褐色土層10YR2/2		◎	◎	×	×	△		
	5	黒色土層10YR2/1		◎	◎	※	※	※		
	6	黒褐色土層10YR3/2		◎	◎	△	※	※		
	7	黒色土層10YR2/1	5<7	◎	◎	※	×	※		
Ｊ－６住U-1	1	暗褐色土層10YR3/3		○	△	△	※	△	△	
	2	黒褐色土層10YR3/2		◎	△	△	※	※	※	
	3	にぶい黄褐色土層10YR4/3		◎	△	○	△	△	△	
	4	灰黄褐色土層10YR4/2		◎	△	○	○	△	△	

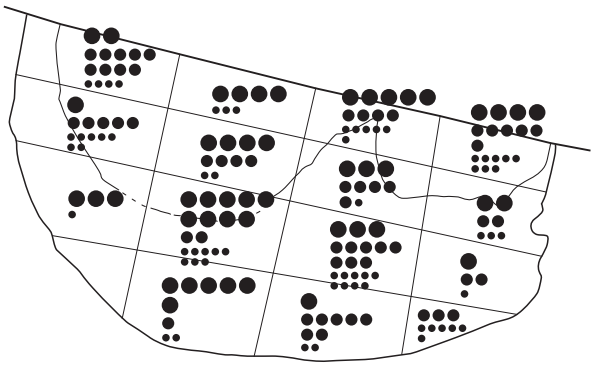
焼土

0　4m

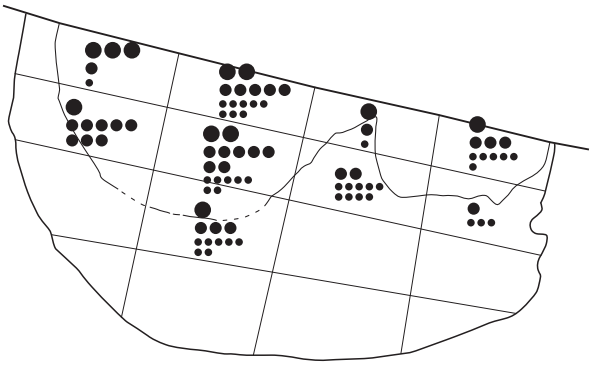
第693図　原田ⅡＢ区Ｊ－３号・６号・７号住居址実測図（１）



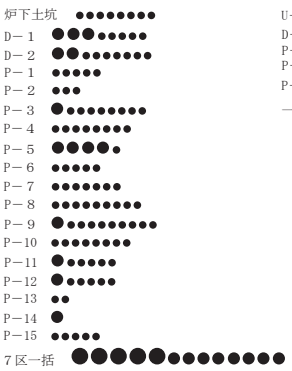
土器分布
1層



土器分布
2層



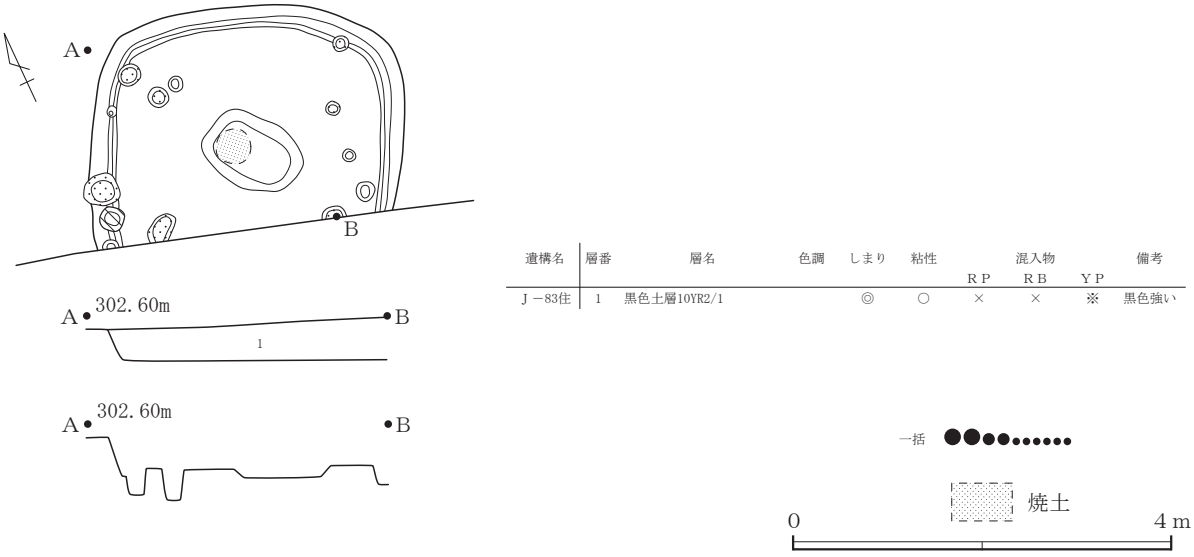
J－3号住



J－6号住

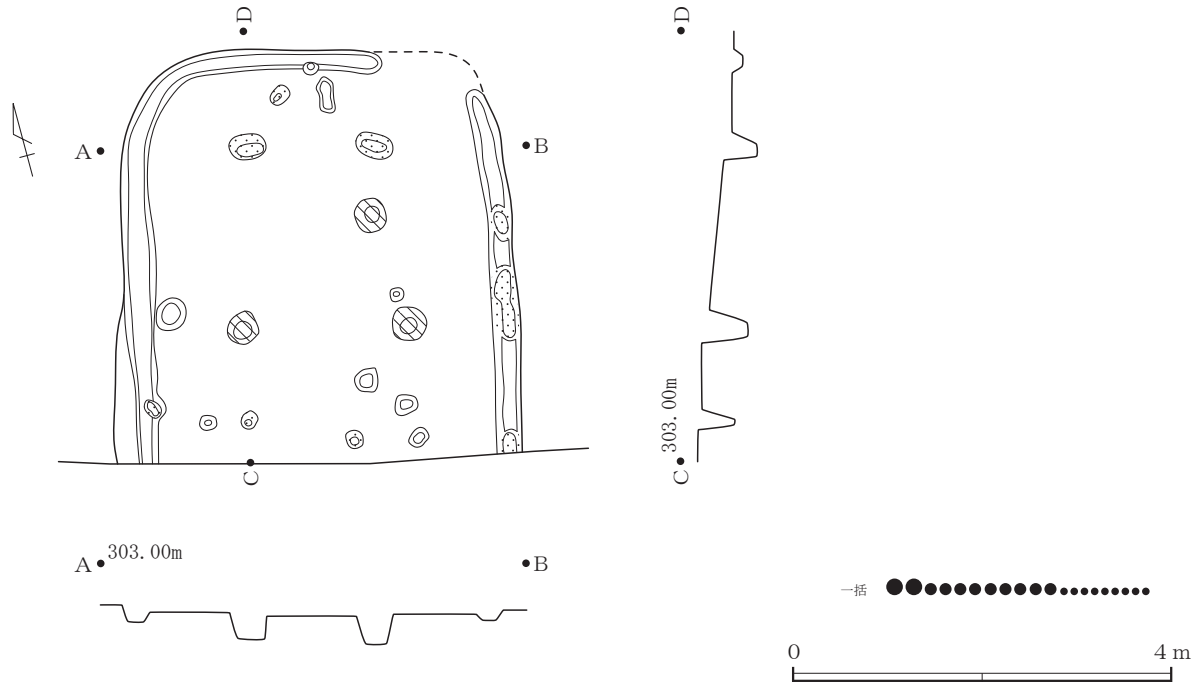
J－7号住

第694図　原田Ⅱ B区 J －３号・６号・７号住居址実測図（２）

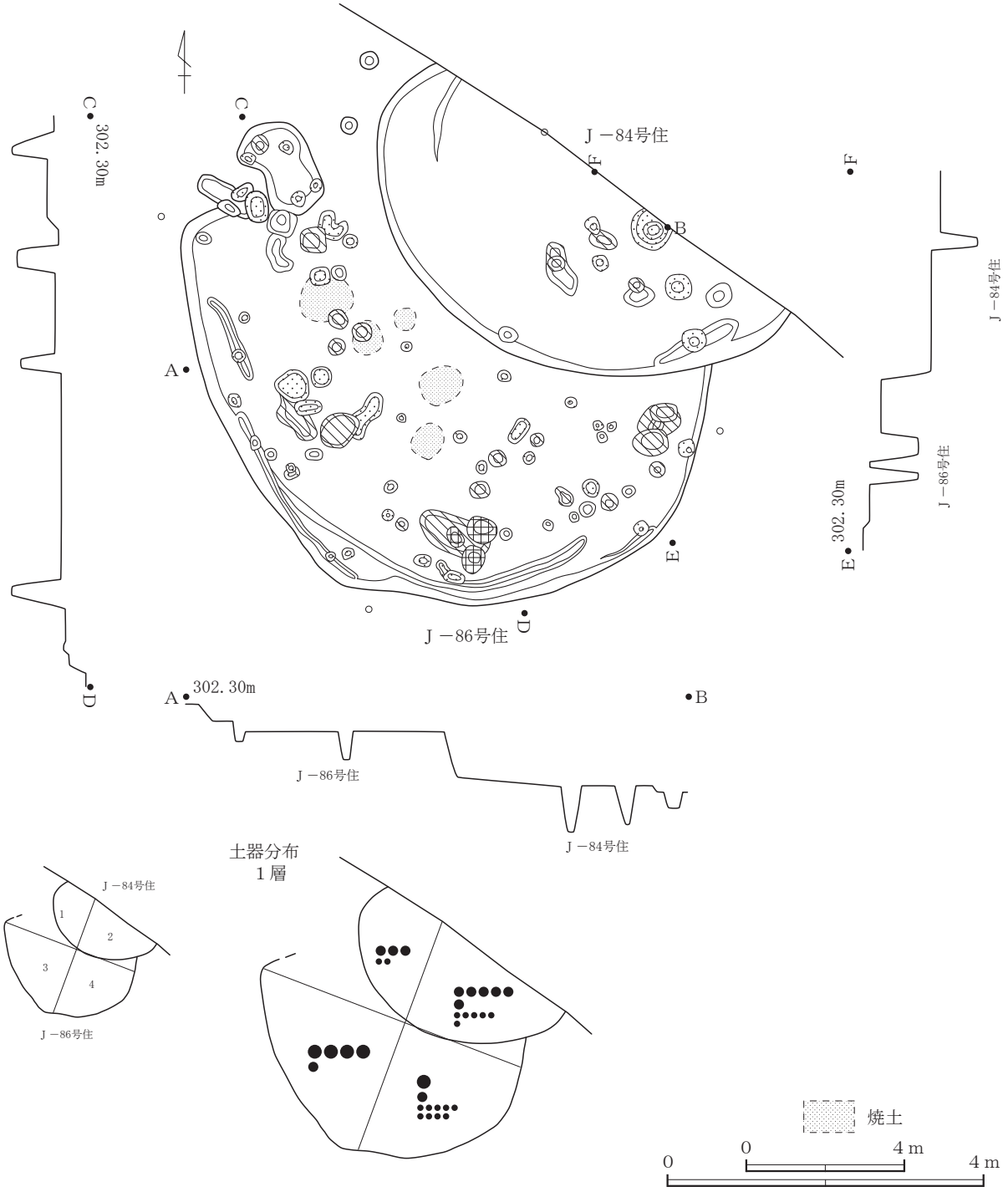


遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物			備考
						RP	RB	YP	
J－83住	1	黒色土層10YR2/1		◎	○	×	×	※	黒色強い

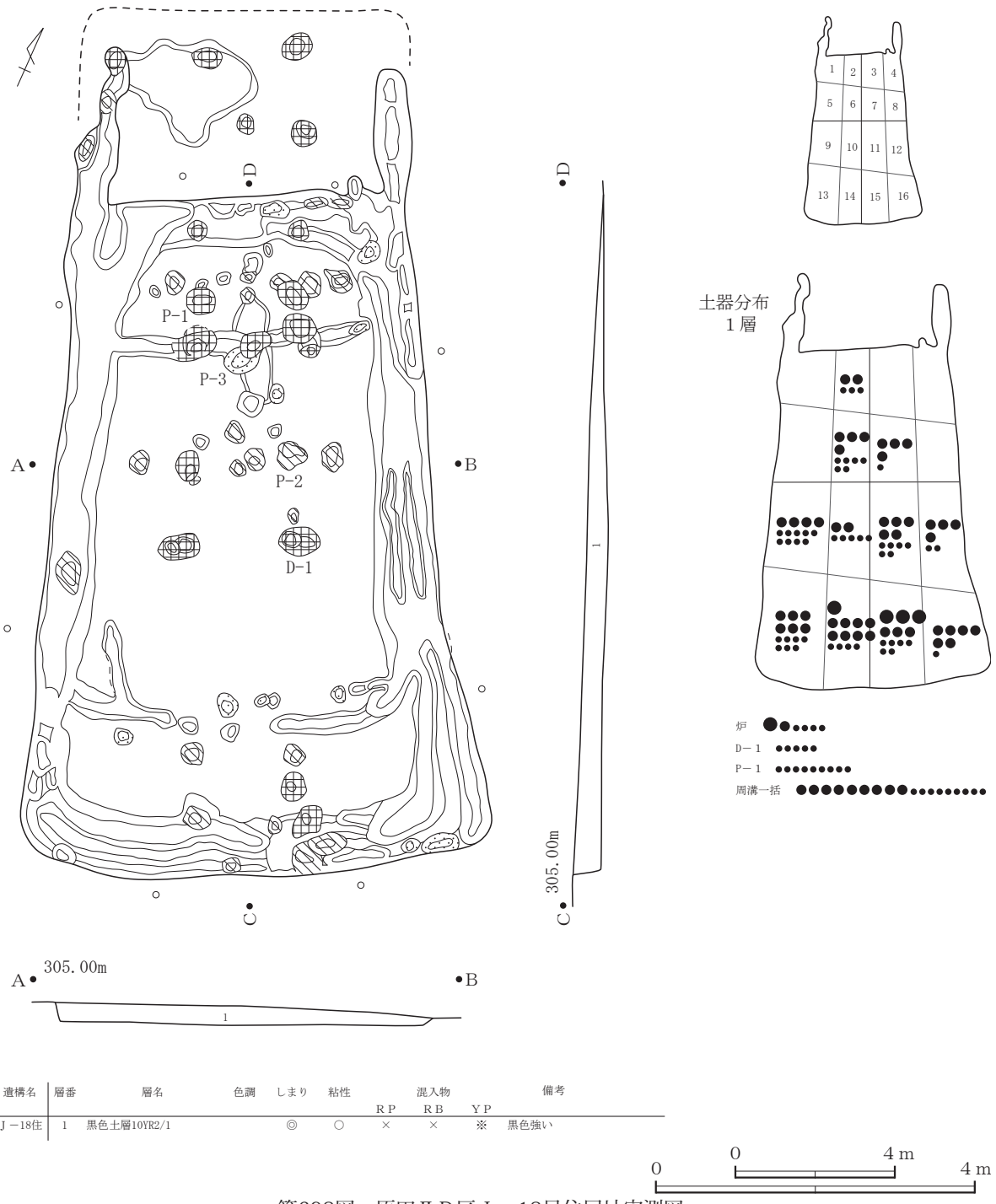
第695図　原田ⅡC区J－83号住居址実測図



第696図　原田ⅡC区J－85号住居址実測図

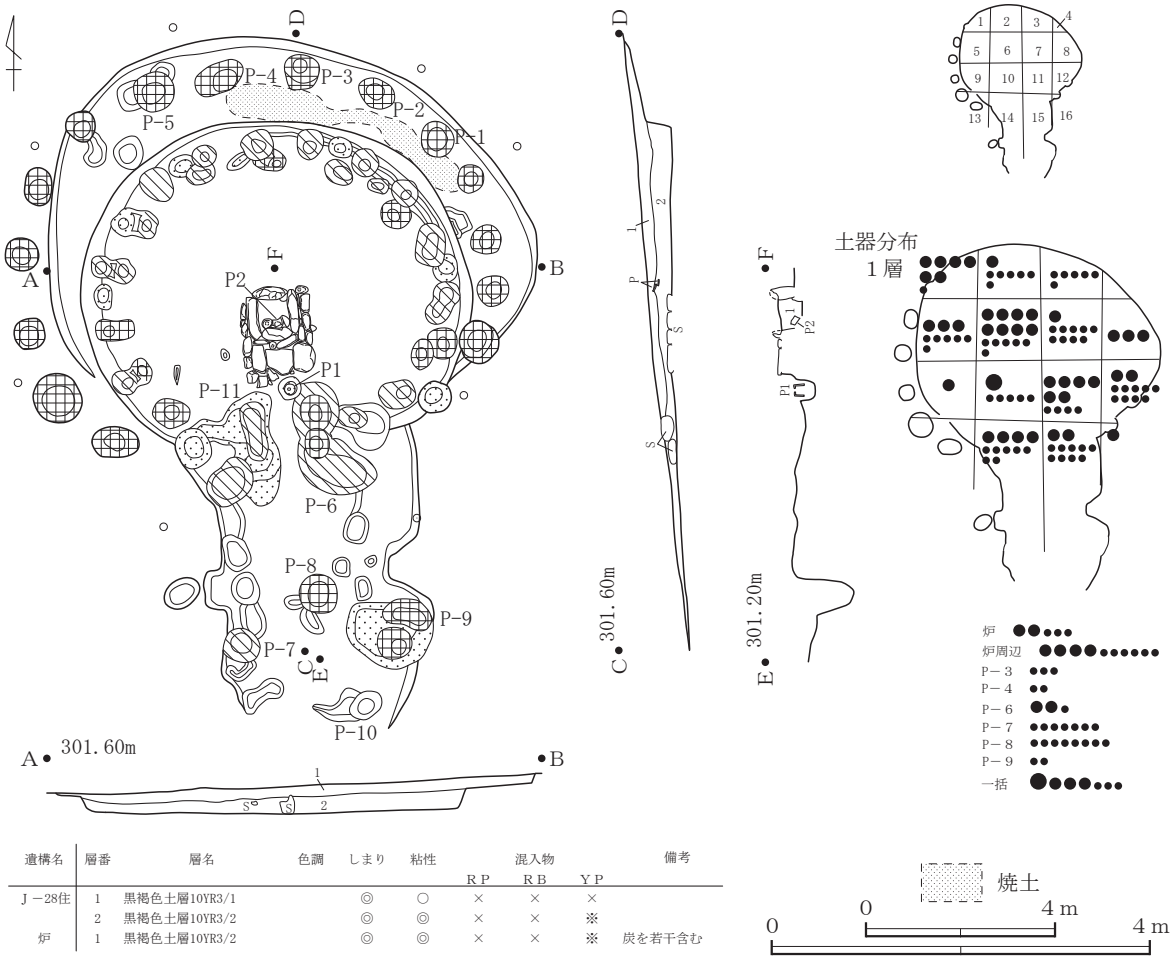


第697図　原田ⅡC区J－84号・86号住居址実測図



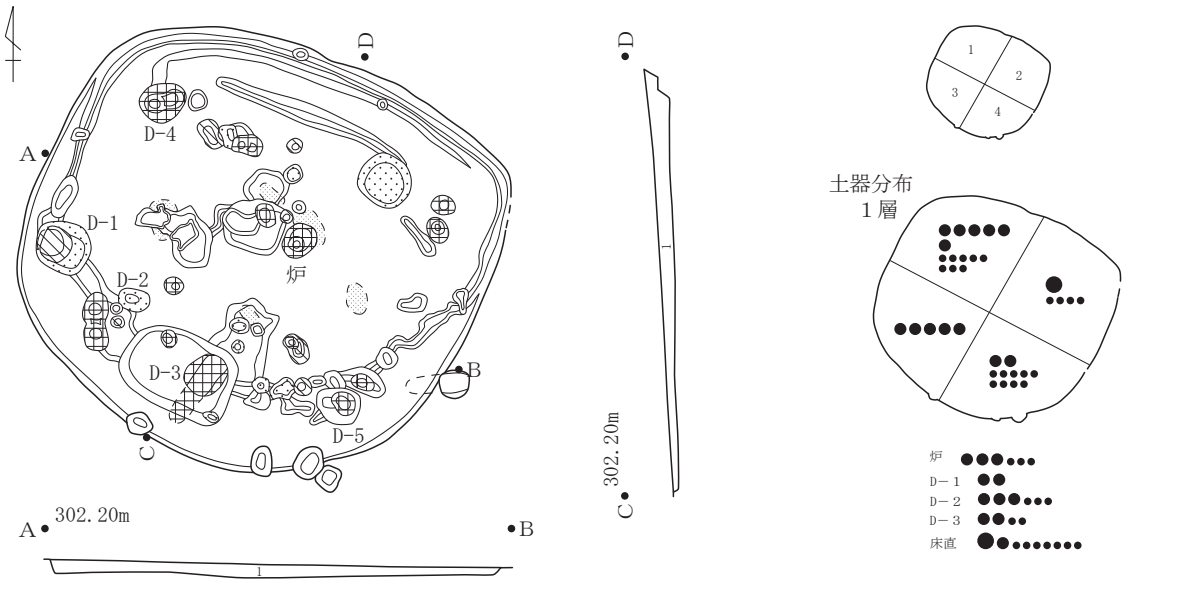
遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物			備考
						RP	RB	YP	
J－18住	1	黒色土層10YR2/1		◎	○	×	×	※	黒色強い

第698図　原田ⅡD区J－18号住居址実測図



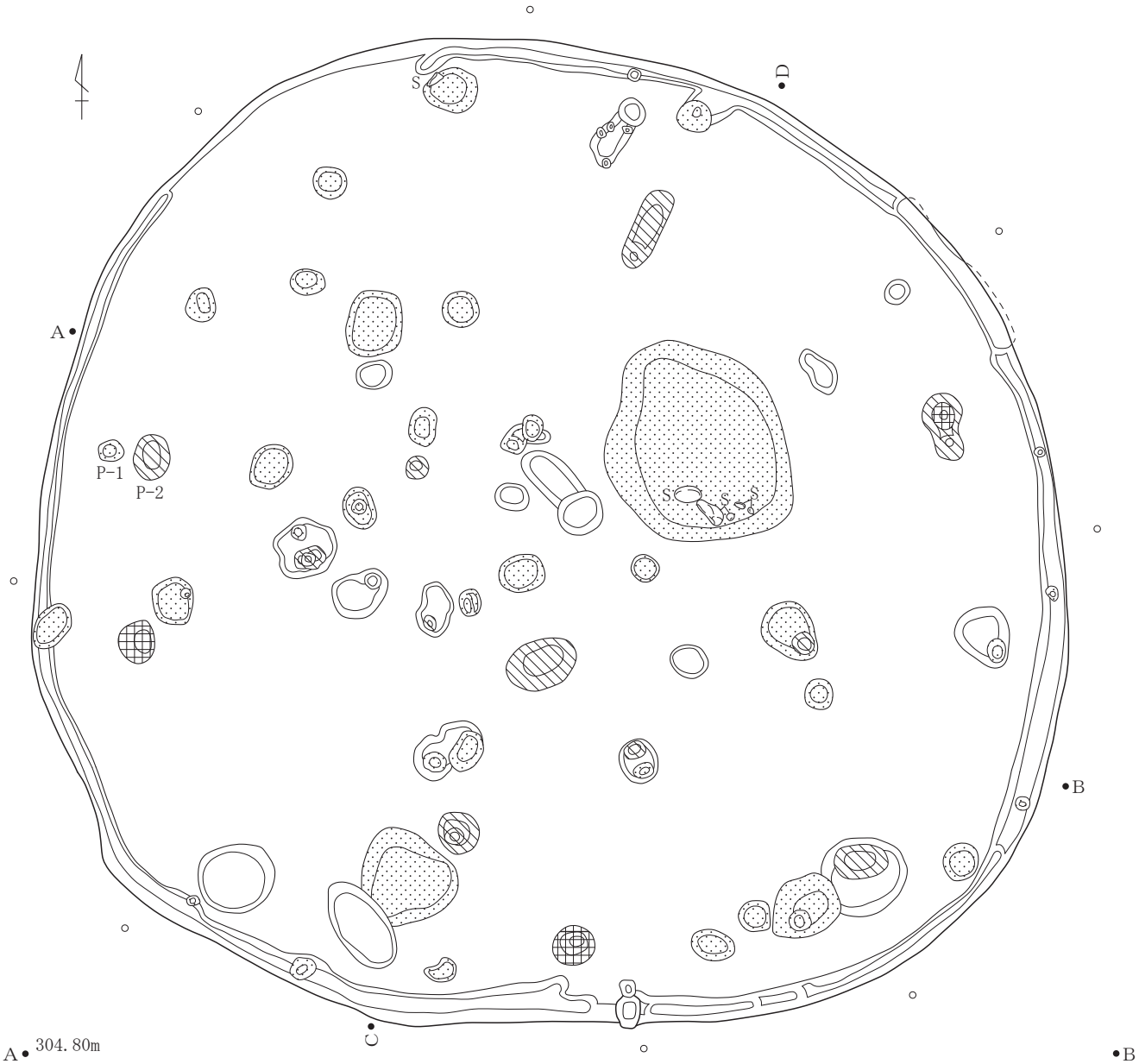
遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	混入物 RB	混入物 YP	備考
J－28住	1	黒褐色土層10YR3/1		◎	○	×	×	×	
	2	黒褐色土層10YR3/2		◎	◎	×	×	※	
炉	1	黒褐色土層10YR3/2		◎	◎	×	×	※	炭を若干含む

第699図　原田ⅡE区J－28号住居址実測図



遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	混入物 RB	混入物 YP	備考
J－29住	1	黒褐色土層10YR2/2		◎	○	×	×	×	白色粒多い

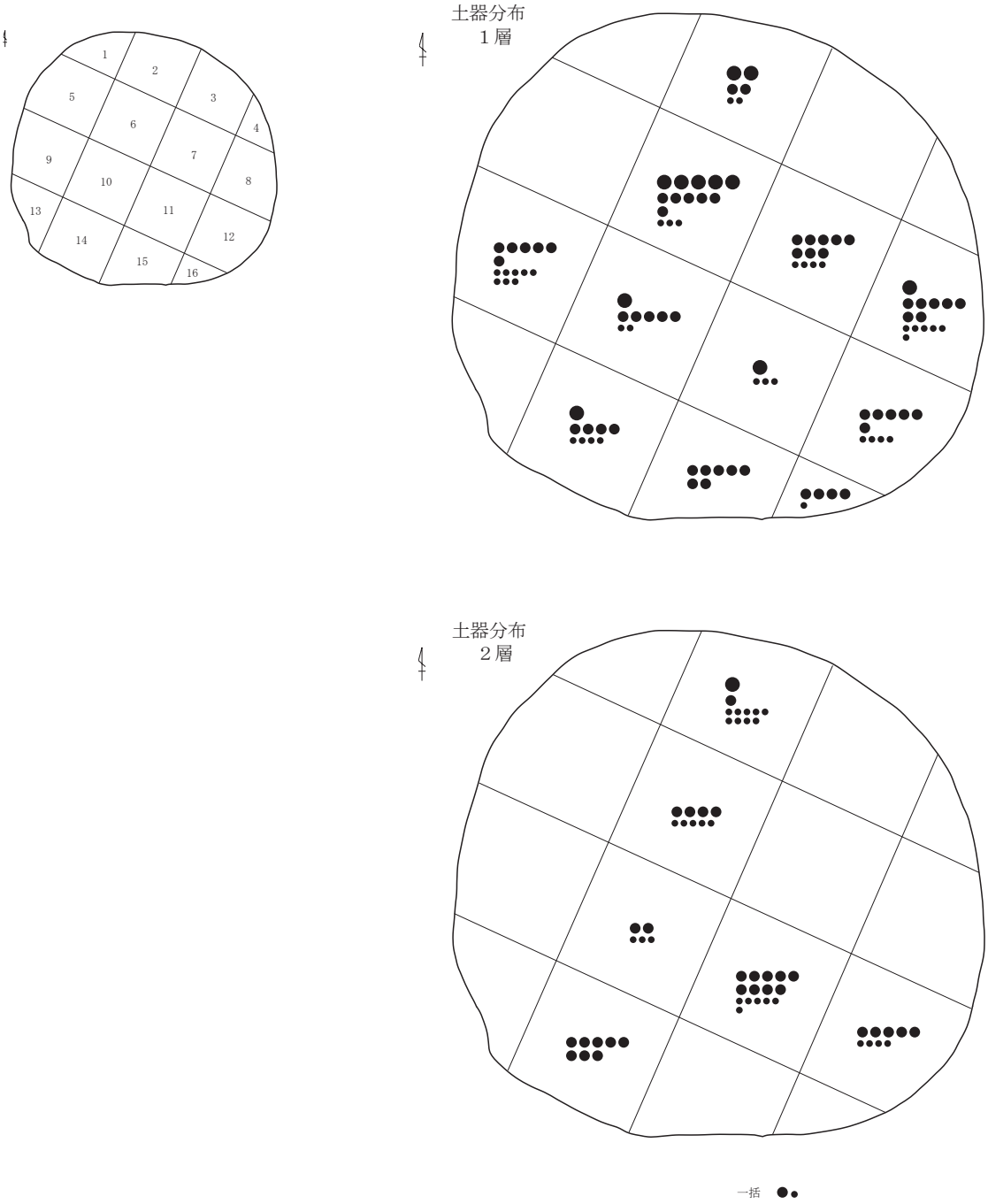
第700図　原田ⅡE区J－29号住居址実測図



遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	混入物 RB	混入物 YP	備考
J－37住	1	黒褐色土層10YR3/1		◎	○	×	×	※	白色粒多い
	2	黒褐色土層10YR3/2		◎	○	※	×	※	
	3	黒褐色土層10YR3/2		◎	◎	※	×	△	
	4	暗褐色土層10YR3/3		◎	◎	○	×	△	
	5	にぶい黄褐色土層10YR4/3		◎	◎	○	×	△	ローム粒のとけこみ多い

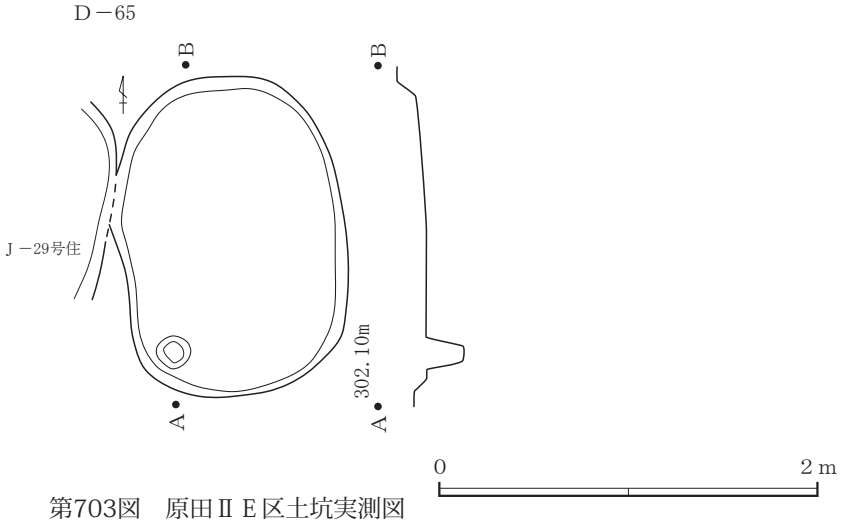
0　4m

第701図　原田ⅡF区J－37号住居址実測図（1）

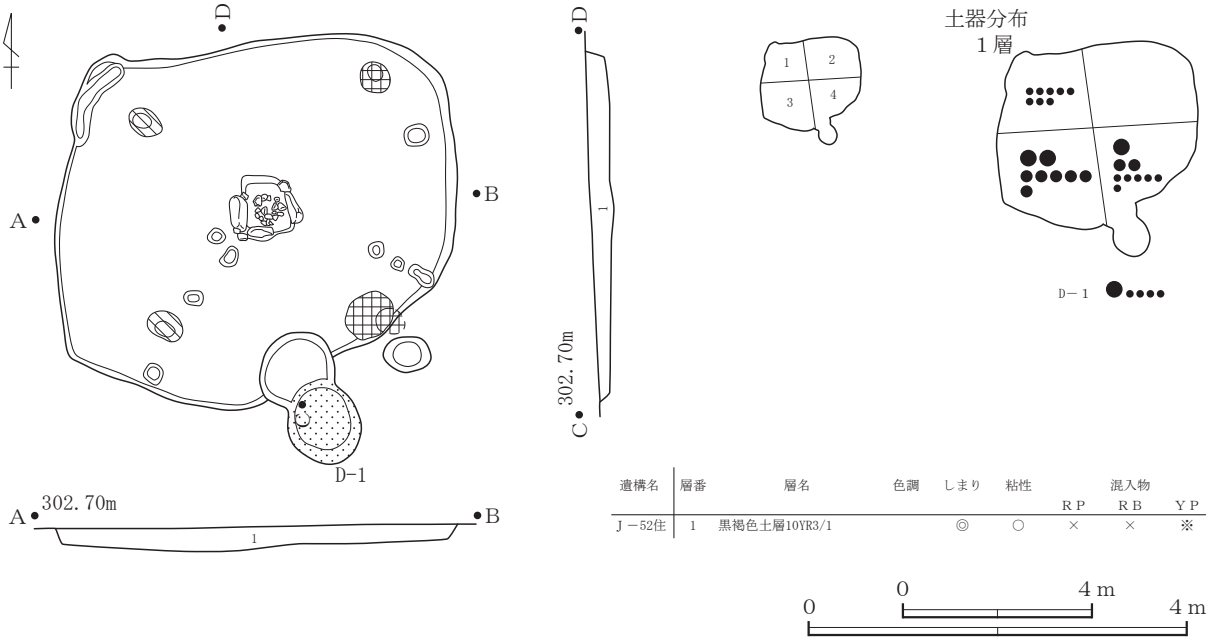


0　4m

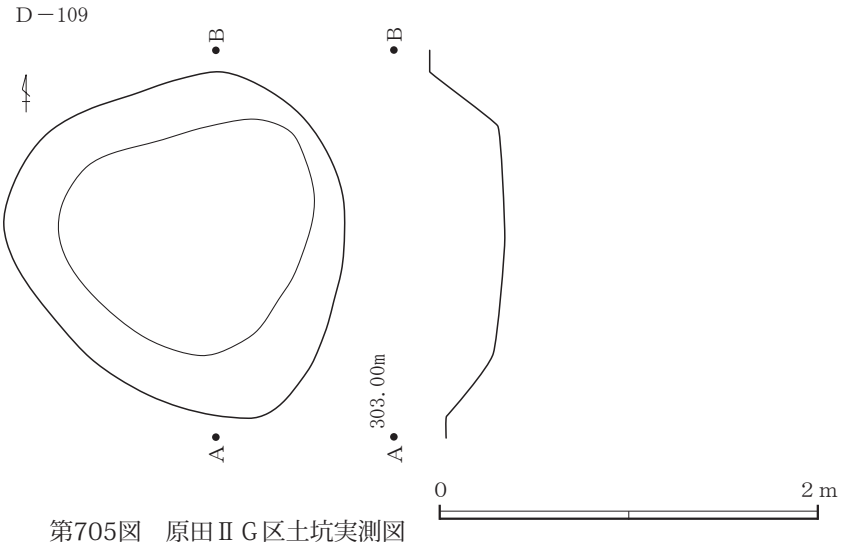
第702図　原田ⅡF区J－37号住居址実測図（2）



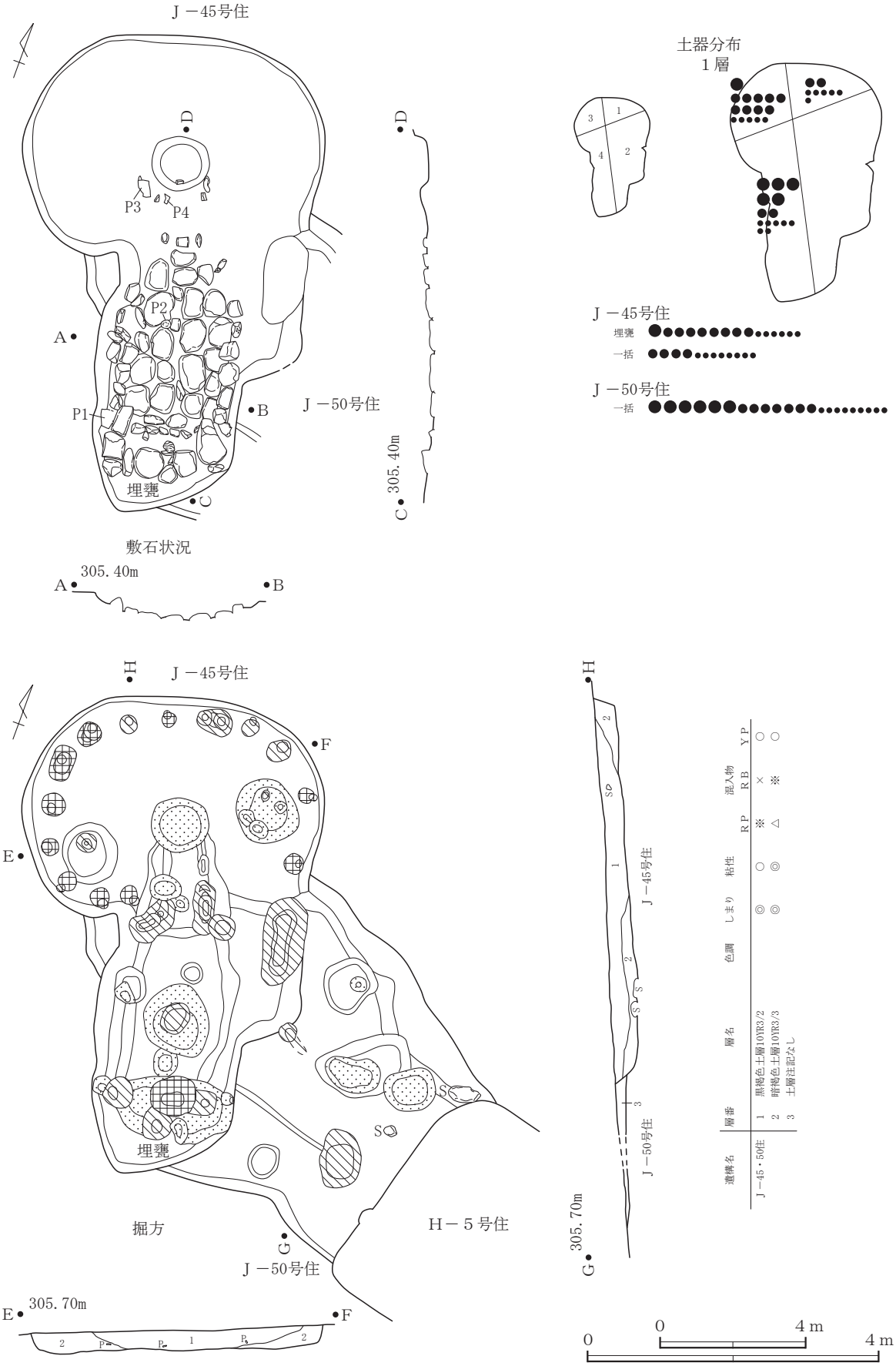
第703図　原田ⅡE区土坑実測図



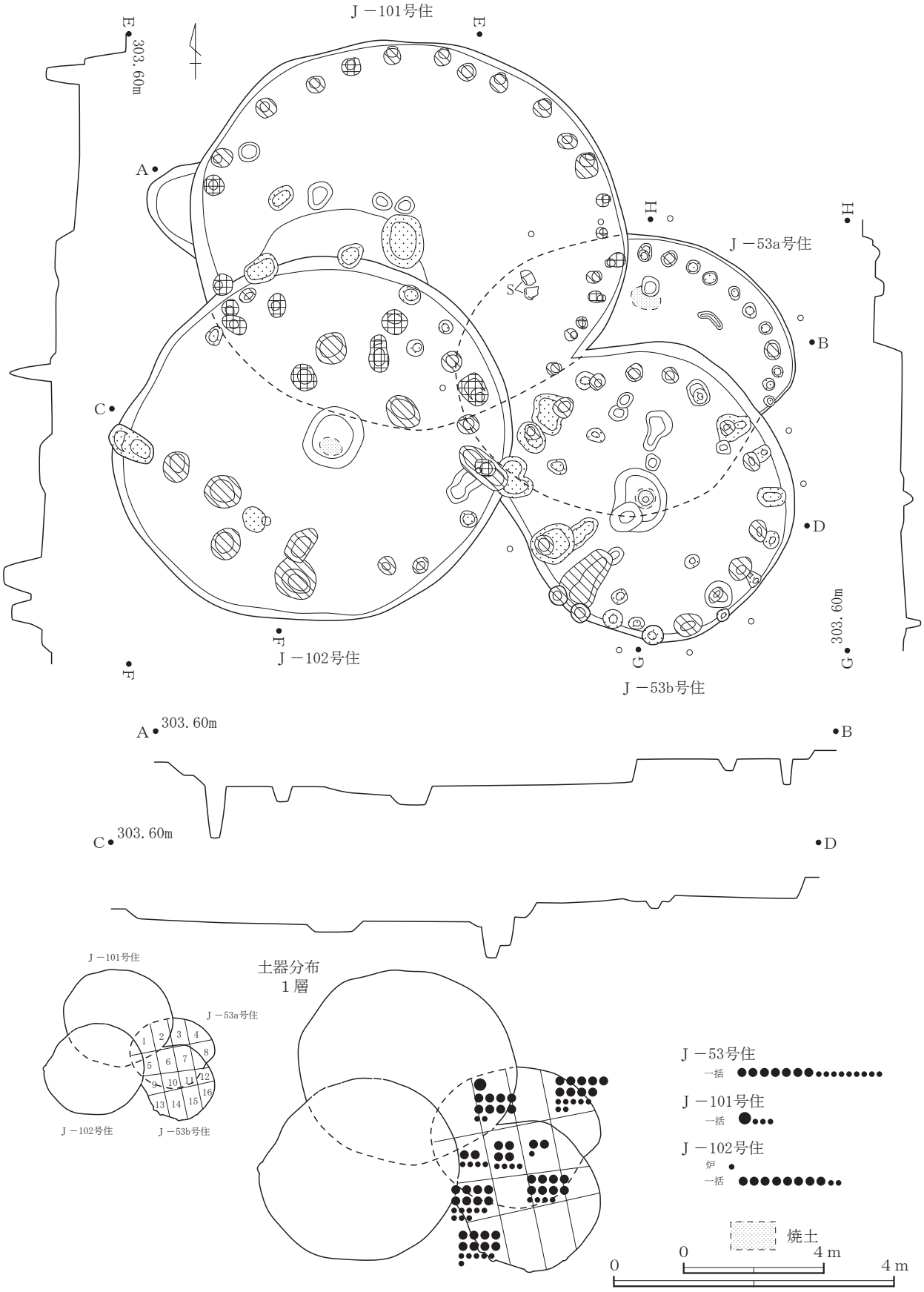
第704図　原田ⅡG区J－52号住居址実測図



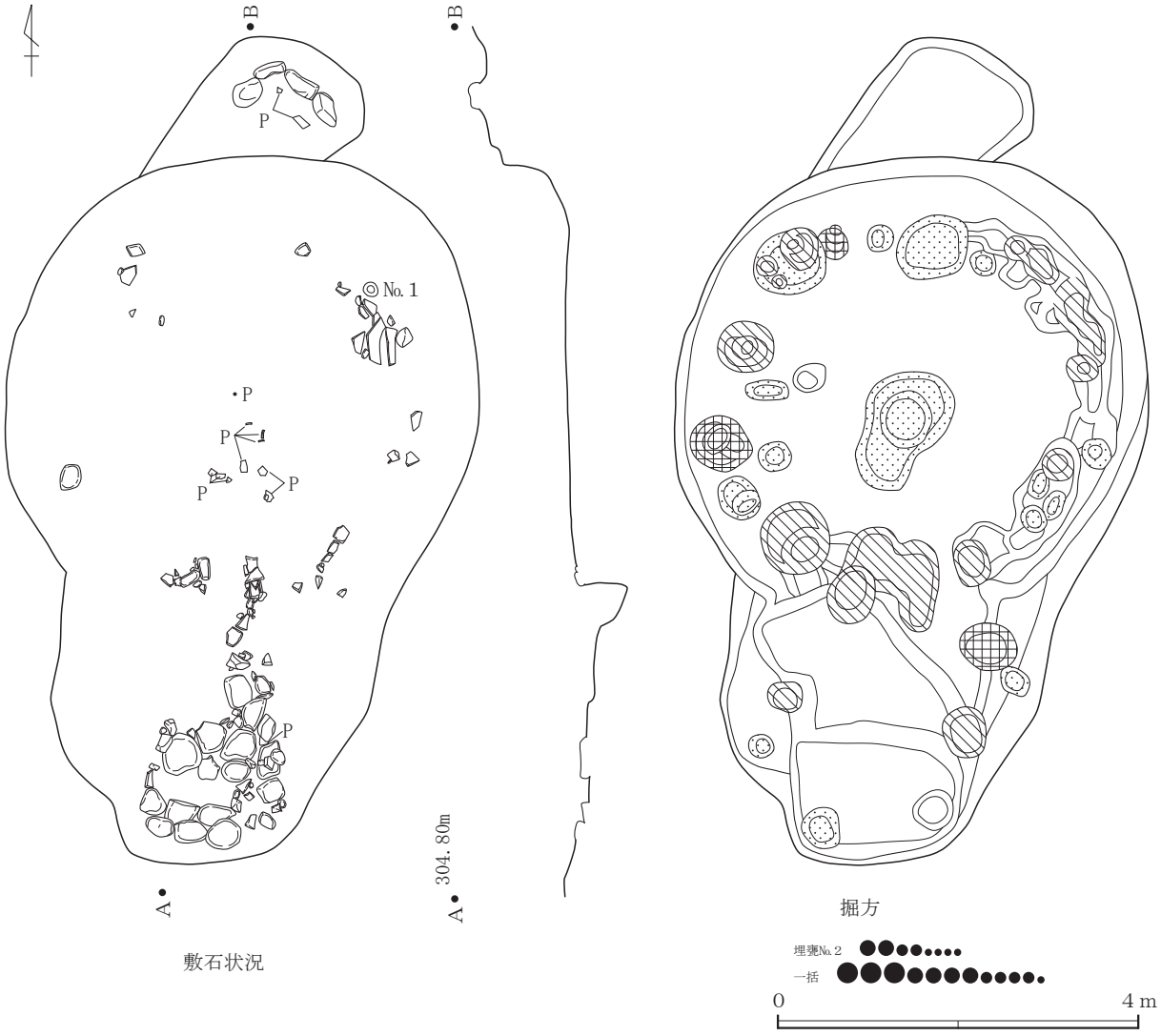
第705図　原田ⅡG区土坑実測図



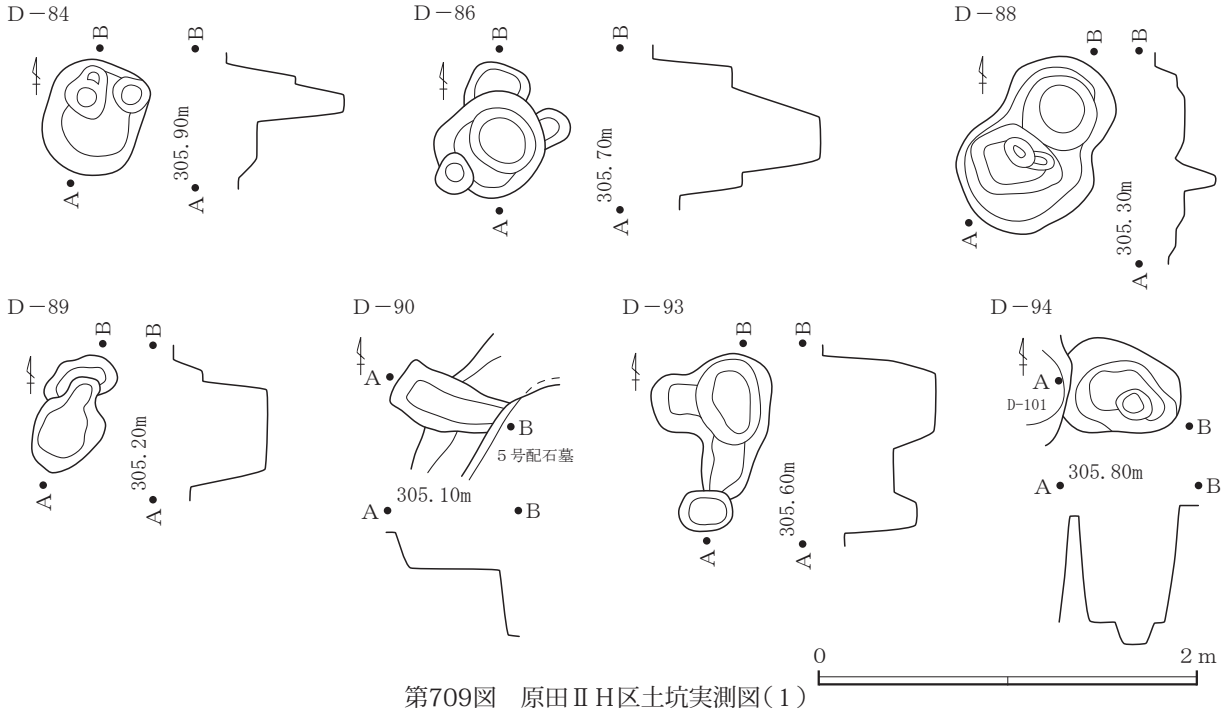
第706図　原田ⅡH区J－45号・50号住居址実測図



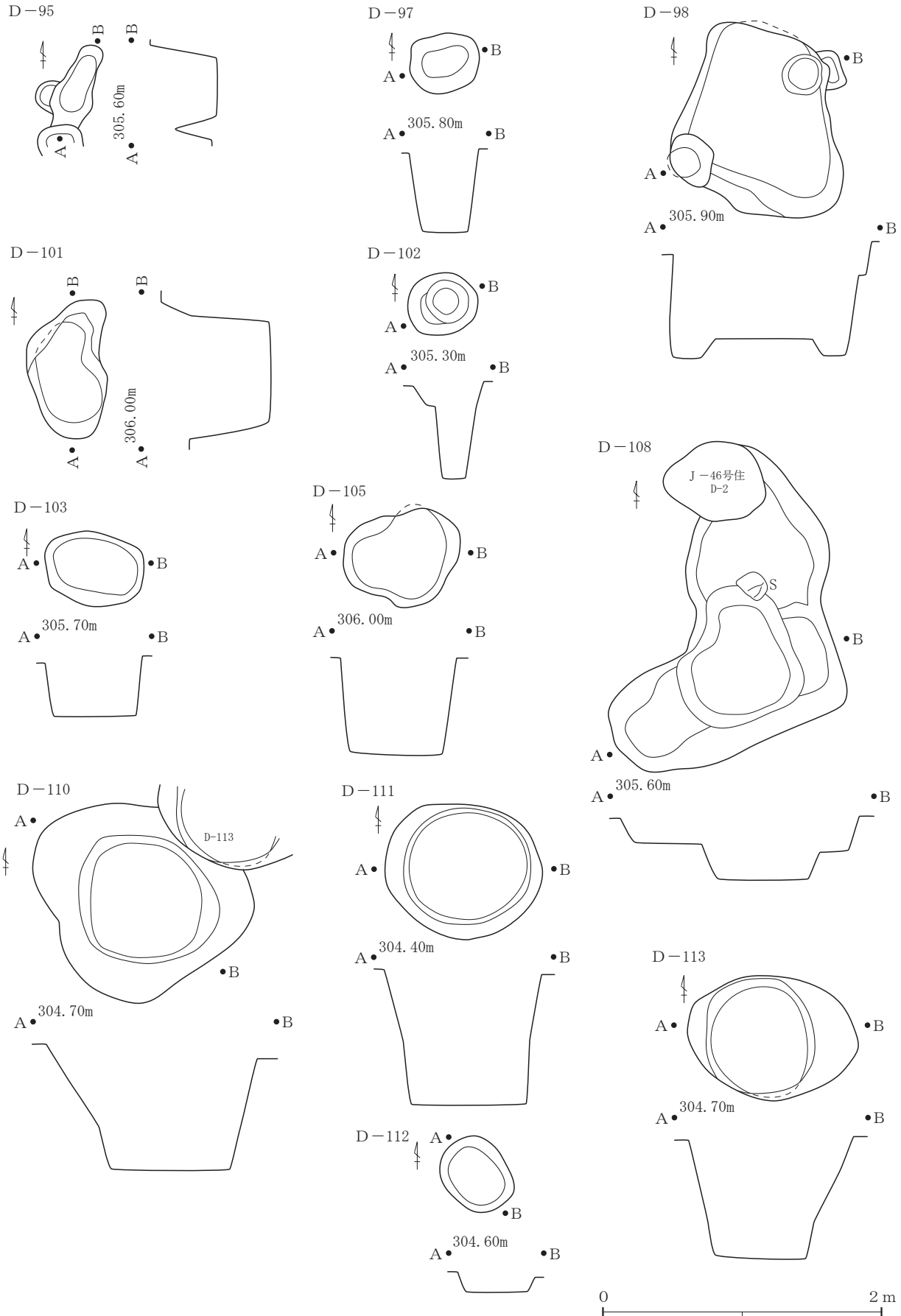
第707図　原田ⅡH区J－53号・101号・102号住居址実測図



第708図　原田ⅡH区Ｊ－61号住居址実測図



第709図　原田ⅡH区土坑実測図（1）



第710図　原田ⅡH区土坑実測図（2）

B区住居址

住居名	位置	平面形態	規模（m）			主軸方向	施設			遺物量		時期	備考
			長軸	短軸	深さ		主柱穴	炉址		土器	石器		
								位置	構造				
J－3住	B－11	楕円形？	〈12.4〉	〈6.0〉	0.4	—	5本以上 円形配列	—	—	◎	◎	諸磯c	壁周溝は全周する。拡張住居あるいはさらに1棟重複の可能性。
J－6住	B－11	楕円形？	(6.5)	〈3.3〉	0.8	—	—	中央？	地床炉	◎	※	諸磯c	壁周溝は全周する。
J－7住	B－11	隅丸方形？	〈3.7〉	〈2.0〉	—	—	—	—	—	○		諸磯b～c	J－3・6住と重複する。本住居が古く、次いで3→6住の順と想定される。

第226表　二軒在家原田Ⅱ遺跡B区縄文時代住居址　遺構観察表（1）

C区住居址

住居名	位置	平面形態	規模（m）			主軸方向	施設			遺物量		時期	備考
			長軸	短軸	深さ		主柱穴	炉址		土器	石器		
								位置	構造				
J－83住	A－10	隅丸方形	〈2.4〉	〈3.3〉	0.4	N-25-E	6本？ 方形配列	中央？	地床炉	○	※	諸磯b	壁周溝は全周する。
J－84住	A－9	楕円形？	〈5.6〉	〈2.4〉	1.0	—	—	—	—	△	※	諸磯b	
J－85住	A－9	隅丸方形？	〈4.4〉	4.3	0.1	N-13-E	6本？ 方形配列	—	—	○	※	有尾	壁周溝は全周する。
J－86住	A－9	楕円形	(6.0)	5.9	0.3	N-22-W	5本？ 円形配列	中央	地床炉	○		諸磯c	各柱穴は近接した2つのピットからなる。拡張住居か。

第227表　二軒在家原田Ⅱ遺跡C区縄文時代住居址　遺構観察表（1）

D区住居址

住居名	位置	平面形態	規模（m）			主軸方向	施設			遺物量		時期	備考
			長軸	短軸	深さ		主柱穴	炉址		土器	石器		
								位置	構造				
J－18住	B－7	隅丸長方形	〈10.8〉	5.9	0.3	N-24-W	10本？ 方形配列	—	—	◎	○	有尾	壁周溝は全周する。複数回の拡張が行われ、柱穴は6～10本程度と考えられる。

第228表　二軒在家原田Ⅱ遺跡D区縄文時代住居址　遺構観察表（1）

E区住居址

住居名	位置	平面形態	規模（m）			主軸方向	施設			遺物量		時期	備考
			長軸	短軸	深さ		主柱穴	炉址		土器	石器		
								位置	構造				
J－28住	H－6	柄鏡形	7.5	5.6	0.3	N-6-W	10本以上 円形配列	中央	石囲炉	◎	◎	堀之内2	柄鏡形敷石住居。主体部径約4m、張出部幅約2m。主体部との連結部には対ピットを有す。主体部端の柱穴は、内外2段の円形配列。石囲炉手前に底部穿孔の埋設土器（逆位）。
J－29住	G－6	隅丸方形	4.8	4.5	0.2	N-32-E	4本 方形配列	中央	地床炉	○	○	諸磯c	壁周溝は全周する。

E区土坑

土坑名	位置	平面形	規模（m）			時期
		断面形	長軸	短軸	深さ	
D－65土坑	G－6	楕円形 浅い逆台形	1.7	1.2	0.1	加曽利E

第229表　二軒在家原田Ⅱ遺跡E区縄文時代住居址・土坑　遺構観察表（1）

F区住居址

住居名	位置	平面形態	規模（m）			主軸方向	施設			遺物量		時期	備考
			長軸	短軸	深さ		主柱穴	炉址		土器	石器		
								位置	構造				
J－37住	E－4	楕円形	12.7	12.1	0.6	N-7-E	8本？ 円形配列	—	—	◎	◎	諸磯c	本遺跡最大の住居址。壁周溝は全周する。興津式・大木式系の土器が出土。五領ヶ台式の遺物は土坑重複によるものと考えられる。

第230表　二軒在家原田Ⅱ遺跡F区縄文時代住居址　遺構観察表（1）

G区住居址

住居名	位置	平面形態	規模（m）			主軸方向	施設			遺物量		時期	備考
			長軸	短軸	深さ		主柱穴	炉址		土器	石器		
								位置	構造				
J－52住	F－3	隅丸方形？	4.2	4.0	0.2	N-2-W	4本 方形配列	中央	石囲炉	○	※	加曽利EⅢ	

G区土坑

土坑名	位置	平面形	規模（m）			時期
		断面形	長軸	短軸	深さ	
D－109土坑	F－3	楕円形 浅い逆台形	1.8	1.7	0.3	称名寺？

第231表　二軒在家原田Ⅱ遺跡G区縄文時代住居址・土坑　遺構観察表（1）

H区住居址

住居名	位置	平面形態	規模（m）			主軸方向	施設			遺物量		時期	備考
			長軸	短軸	深さ		主柱穴	炉址		土器	石器		
								位置	構造				
J－45住	D－2	柄鏡形	6.4	4.1	0.4	N-16-W	10本以上 円形配列	中央	石囲炉？	◎	※	堀之内2	柄鏡形敷石住居。主体部径約4.1m、張出部幅約2m。主体部との連結部には対ピットを有す。張出部南端に埋設土器。
J－50住	D－2	不整形	〈5.5〉	4.2	0.1	－	－	－	－	○	※	堀之内	形態が判然としない。住居址でなく、竪穴状遺構の可能性もある。
J－53ａ住	E－1	楕円形	(4.8)	(4.0)	0.1	－	10本以上 円形配列	－	－	○	(△)	堀之内	柱穴とみられる小ピットが壁際に多数配置される。
J－53ｂ住	E－1	楕円形	4.3	4.2	0.3	－	10本以上 円形配列	中央	－	○	(△)	堀之内	ａ住と同様に小ピットが置される。近接したピットもあることから建て替えの可能性がある。
J－61住	E－1	柄鏡形	7.9	5.2	0.6	N-5-E	8本？ 円形配列	中央	－	◎	◎	堀之内	柄鏡形敷石住居。張出部幅約3m。主体部東側に壁周溝が巡る。他の敷石住居に比べ板石を多用する。
J－101住	E－1	楕円形	6.3	(5.5)	0.4	－	10本以上 円形配列	中央	－	○	※	堀之内～ 加曽利B	柱穴とみられる小ピットが壁際に多数配置される。
J－102住	E－1	楕円形	5.4	5.2	0.4	－	4本？ 方形配列	中央	－	△	※	堀之内	

※J－40号住は欠番（D－336・337号土坑として記載）、J－43号住は欠番（D－339・340号土坑として記載）

凡例

主軸　住居址の壁（壁周溝）または主柱穴と思われるピット、石囲炉などの長軸方向を基準とした。「°」記号は省略。

遺物　土器　※：1～100g、△：101～1,000g、○：1001～10,000g、◎：10,001g以上

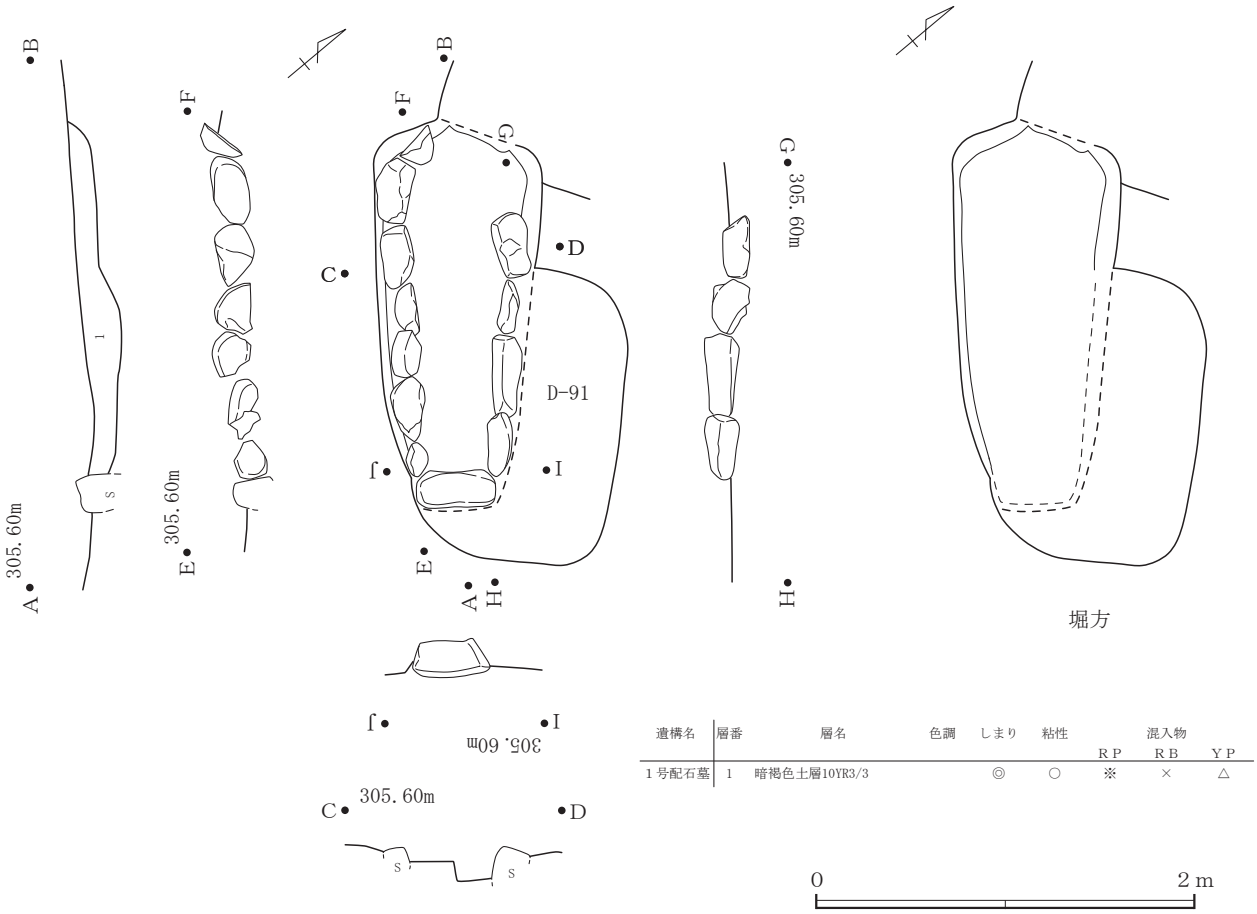
石器・石製品　※：1～10点、△：11～20点、○：21～30点、◎：31点以上　() 内は枝番住居においてどちらの帰属か不明なものを示す

H区土坑

土坑名	位置	平面形	規模（m）			時期
		断面形	長軸	短軸	深さ	
D－84土坑	D－3	楕円形 浅い逆台形	0.6	0.5	0.1	堀之内
D－86土坑	D－3	不整形 逆台形	0.7	0.7	0.8	加曽利E
D－88土坑	D－3	楕円形 浅い逆台形	1.0	0.7	0.3	堀之内2
D－89土坑	D－3	不整形 箱形	0.7	0.4	0.5	後期
D－90土坑	D－3	不整形 逆台形	〈0.5〉	0.3	0.2	後期
D－93土坑	D－3	不整形 箱形	1.0	0.6	0.6	後期
D－94土坑	D－3	楕円形 深い逆台形	〈0.6〉	0.5	0.7	堀之内2
D－95土坑	D－3	不整形 逆台形	〈0.6〉	0.4	0.5	不明
D－97土坑	D－3	楕円形 深い逆台形	0.5	0.4	0.6	後期？
D－98土坑	D－3	不整形 箱形	1.5	1.4	0.8	不明

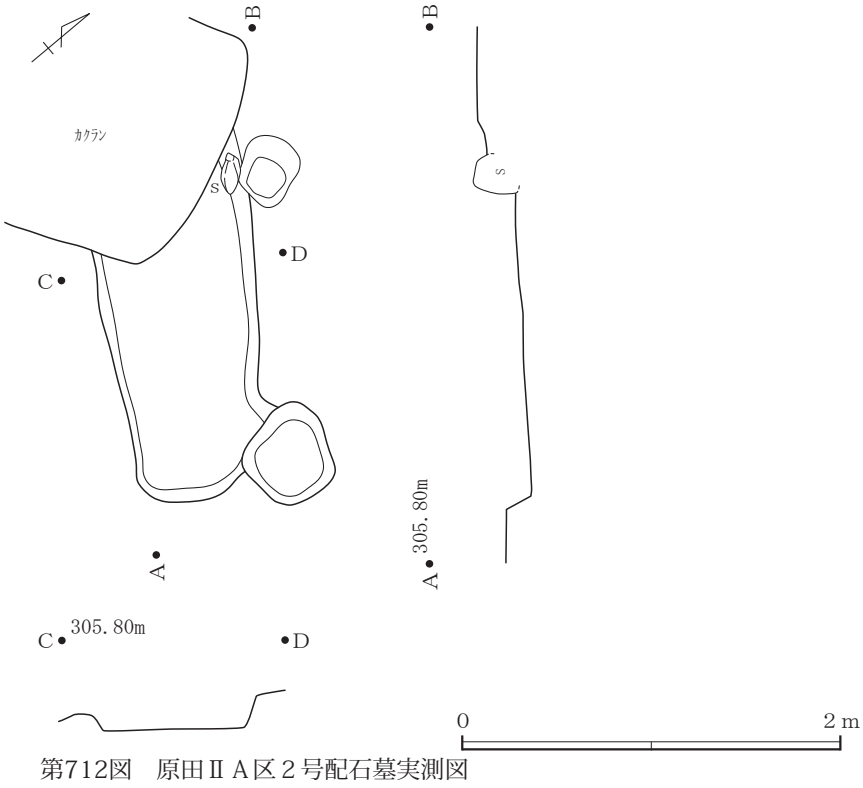
土坑名	位置	平面形	規模（m）			時期
		断面形	長軸	短軸	深さ	
D－101土坑	D－3	不整形 箱形	1.0	0.6	0.7	不明
D－102土坑	D－3	楕円形 深い逆台形	0.5	0.4	0.7	不明
D－103土坑	D－3	楕円形 箱形	0.7	0.5	0.4	後期？
D－105土坑	D－3	不整形 箱形	0.8	0.7	0.7	後期？
D－108土坑	D－3	不整形 浅い逆台形	2.0	1.7	0.4	後期？
D－110土坑	D－3	楕円形 逆台形	1.6	1.4	0.8	後期
D－111土坑	D－3	円形 箱形	1.1	1.0	1.0	加曽利EⅣ ～称名寺
D－112土坑	D－3	楕円形 浅い逆台形	0.5	0.4	0.1	堀之内2～ 加曽利B1
D－113土坑	D－3	楕円形 逆台形	1.2	0.9	0.8	堀之内

第232表　二軒在家原田Ⅱ遺跡H区縄文時代住居址・土坑　遺構観察表（1）

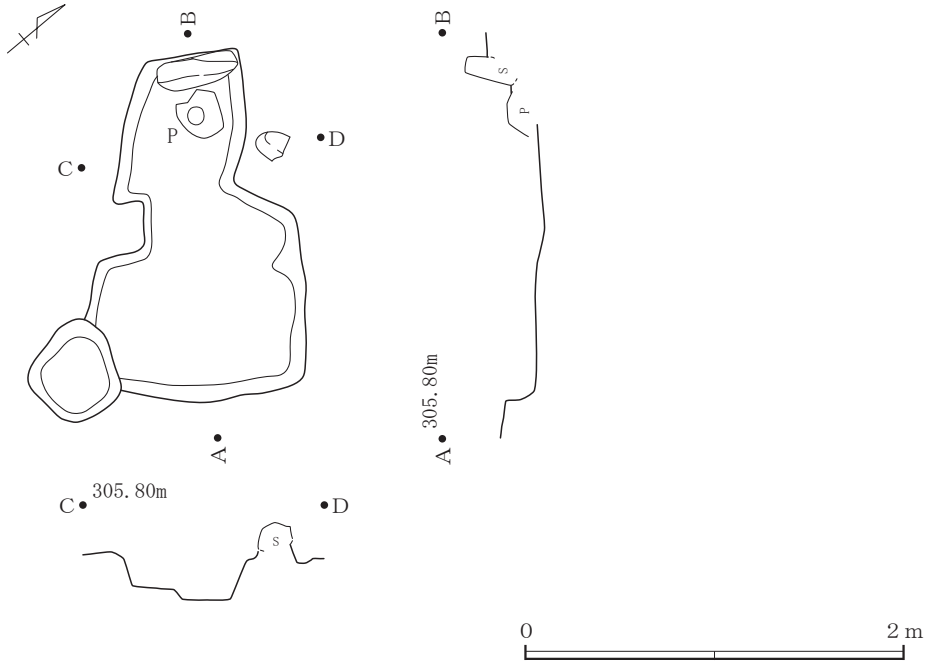


遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物		
						RP	RB	YP
1号配石墓	1	暗褐色土層10YR3/3		◎	○	※	×	△

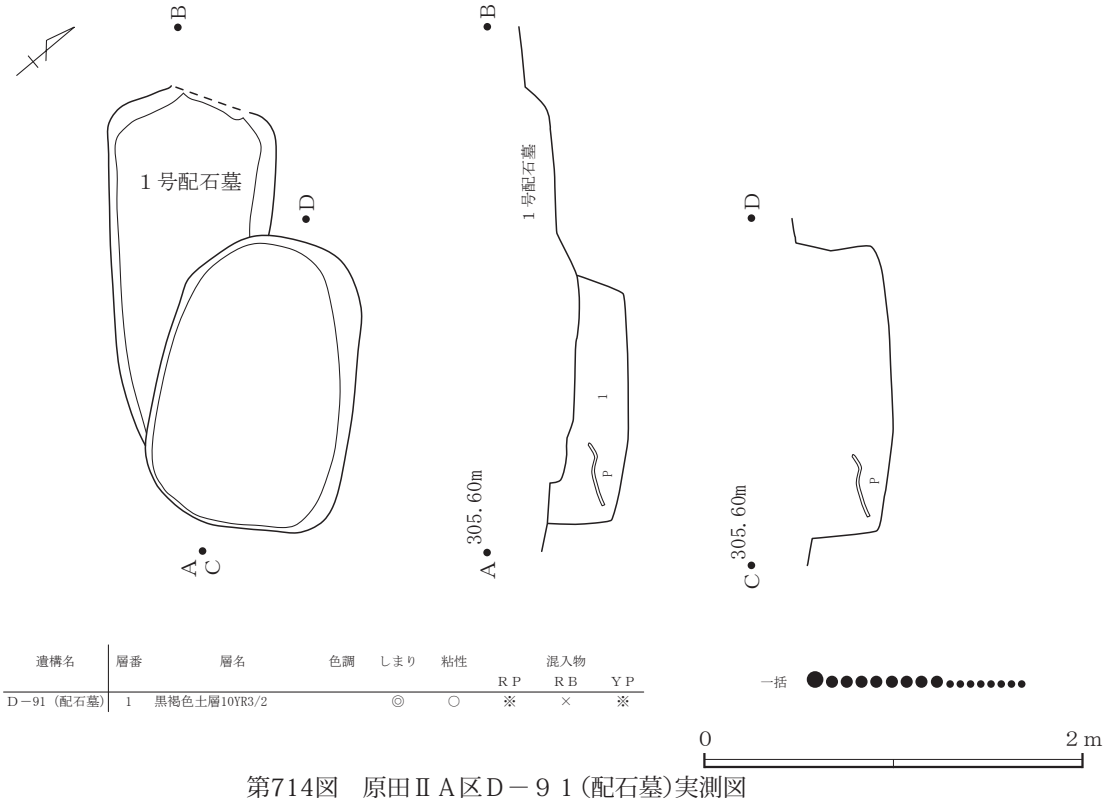
第711図　原田ⅡA区1号配石墓実測図



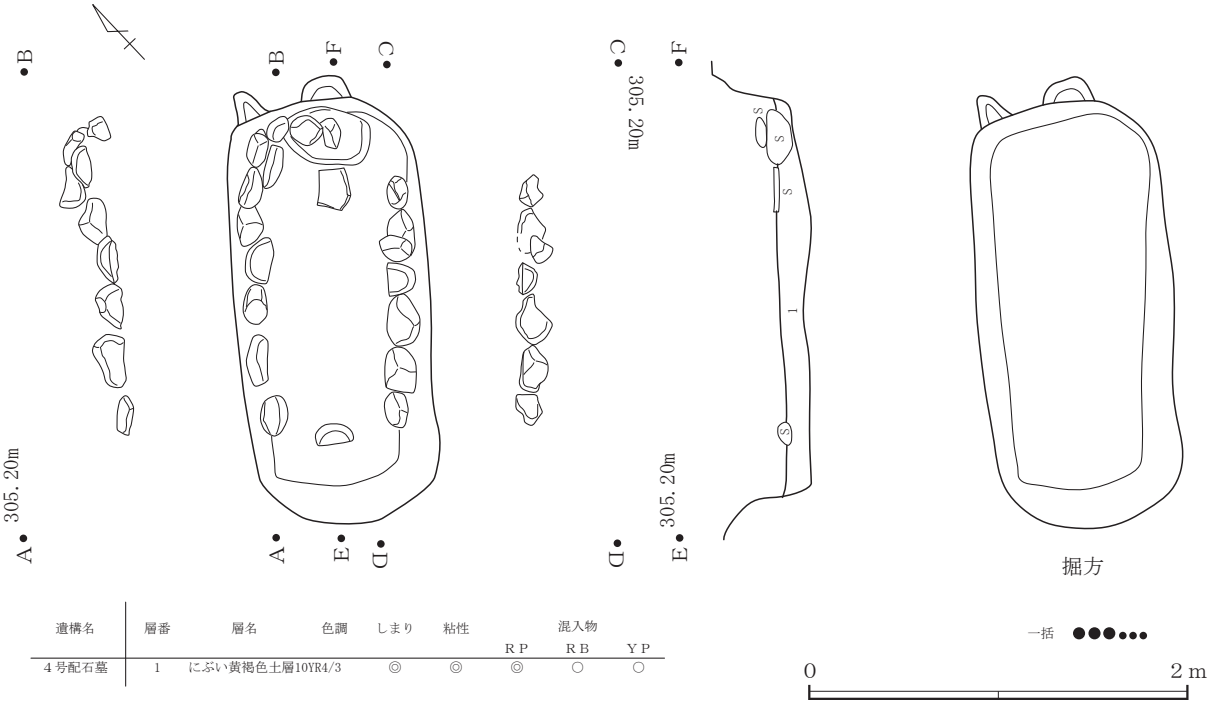
第712図　原田ⅡA区2号配石墓実測図



第713図　原田ⅡＡ区３号配石墓実測図

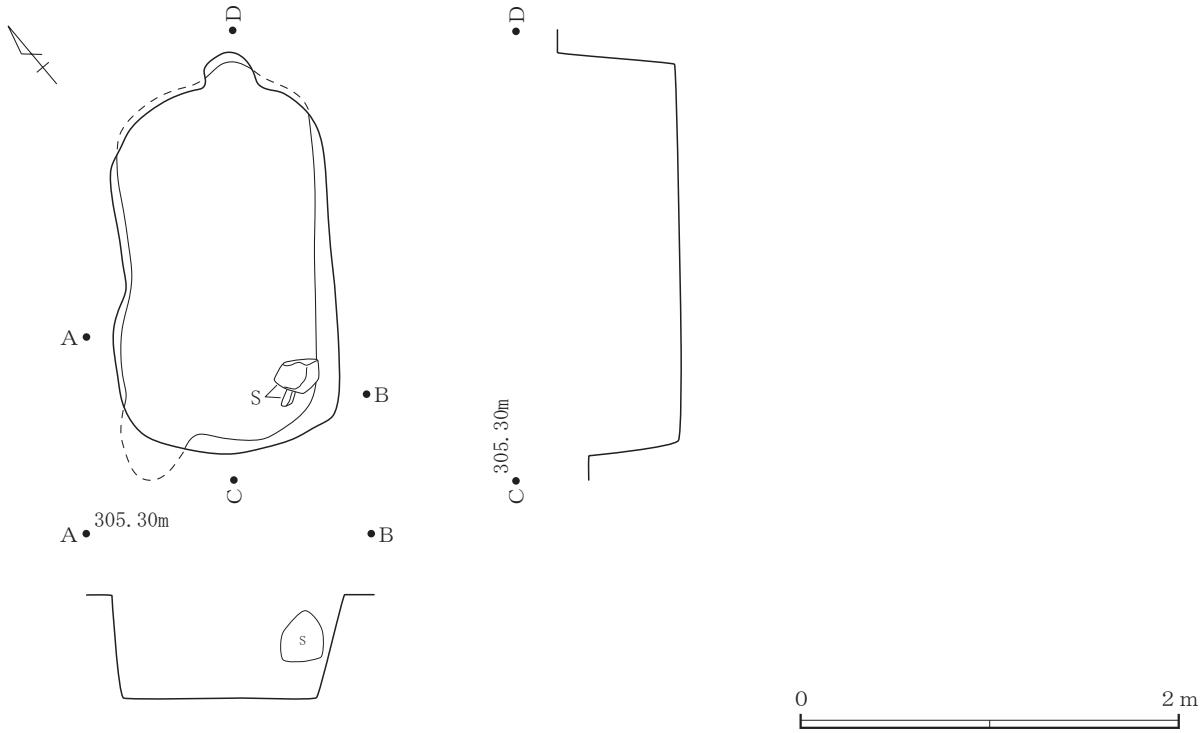


第714図　原田ⅡＡ区Ｄ－９１(配石墓)実測図

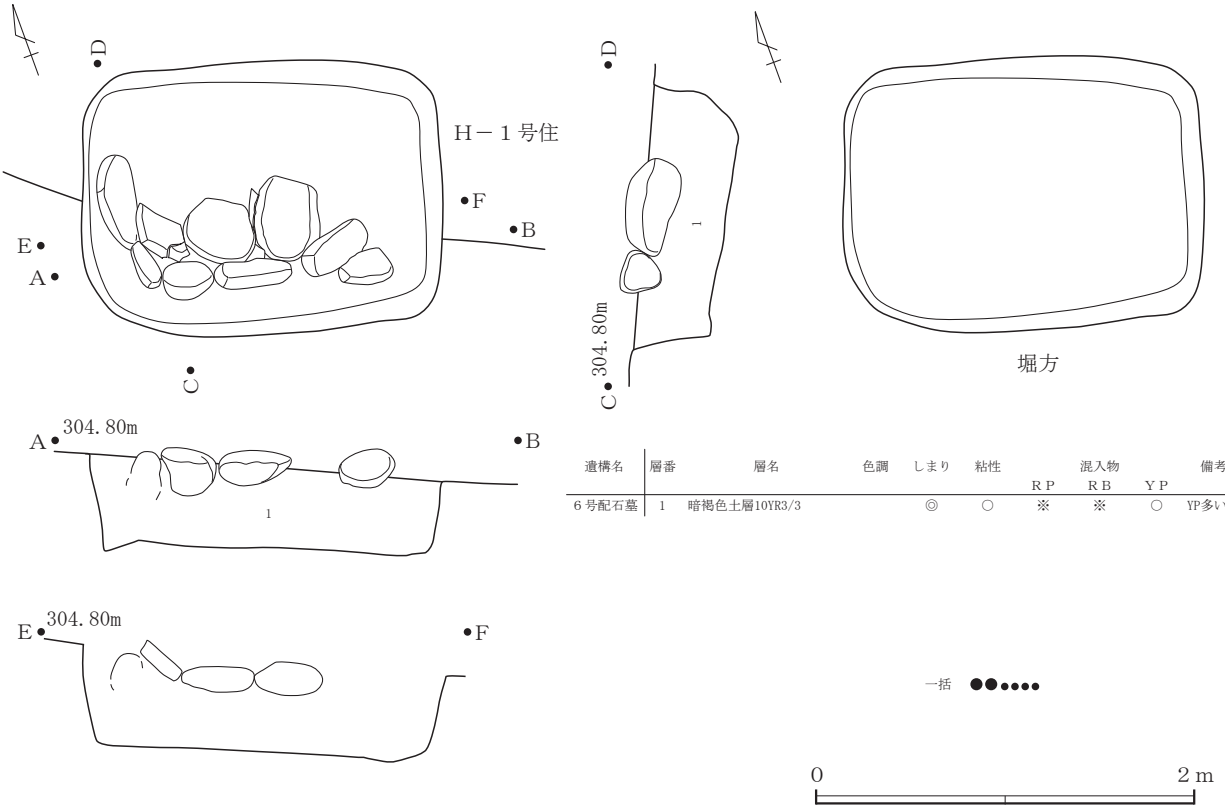


遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物		
						RP	RB	YP
4号配石墓	1	にぶい黄褐色土層	10YR4/3	◎	◎	◎	○	○

第715図　原田ⅡH区4号配石墓実測図

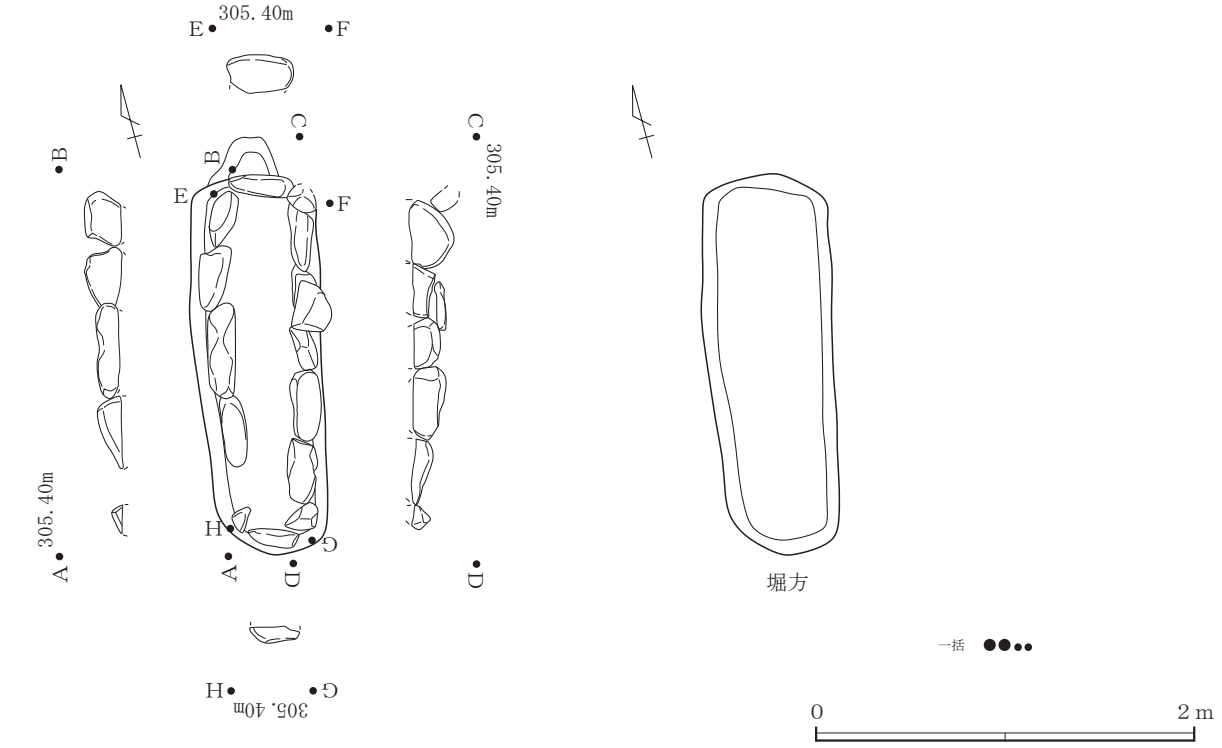


第716図　原田ⅡH区5号配石墓実測図

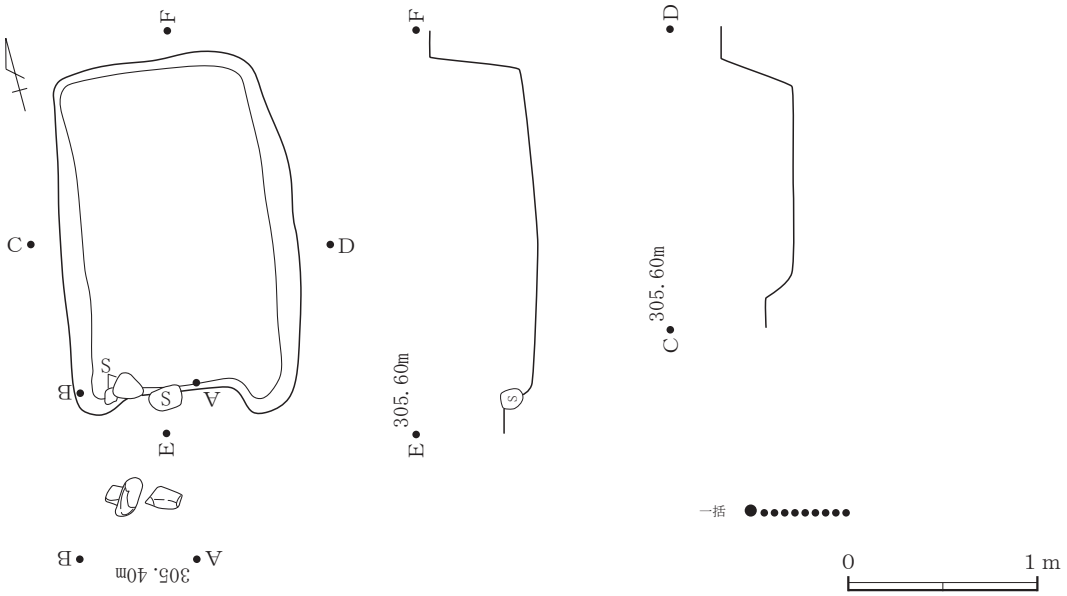


遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物			備考
						RP	RB	YP	
6号配石墓	1	暗褐色土層10YR3/3		◎	○	※	※	○	YP多い

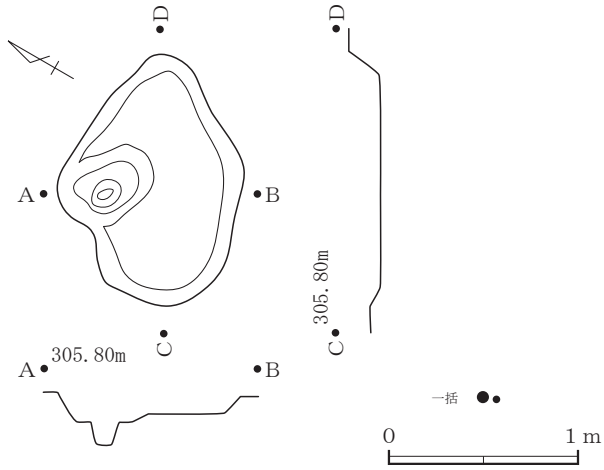
第717図　原田ⅡH区６号配石墓実測図



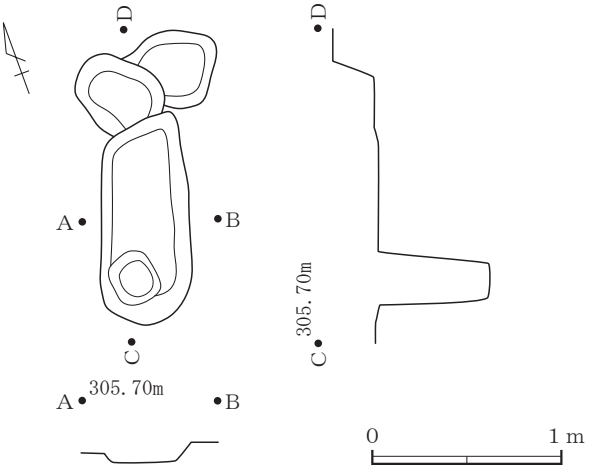
第718図　原田ⅡH区７号配石墓実測図



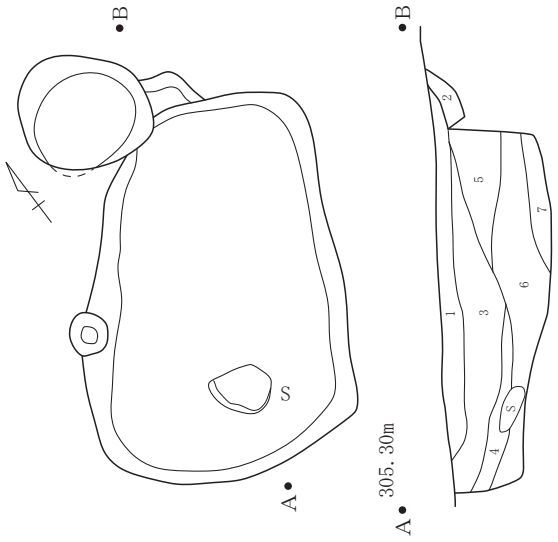
第719図　原田ⅡH区８号配石墓実測図



第720図　原田ⅡH区D－85(配石墓)実測図



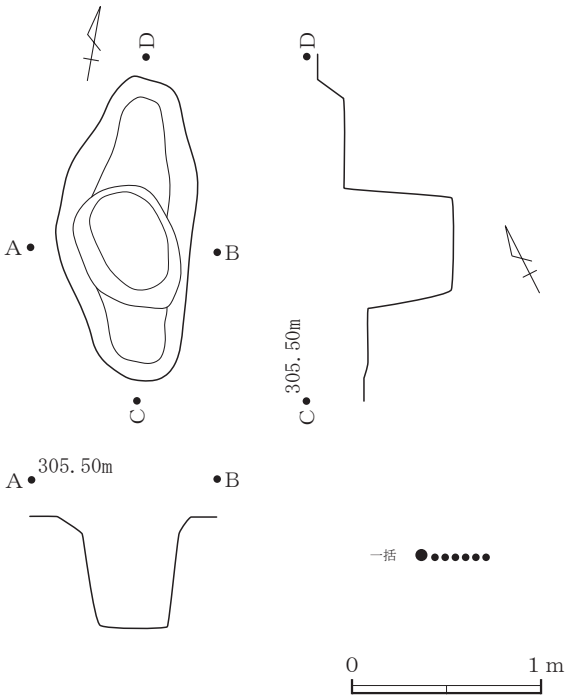
第721図　原田ⅡH区D－87(配石墓)実測図



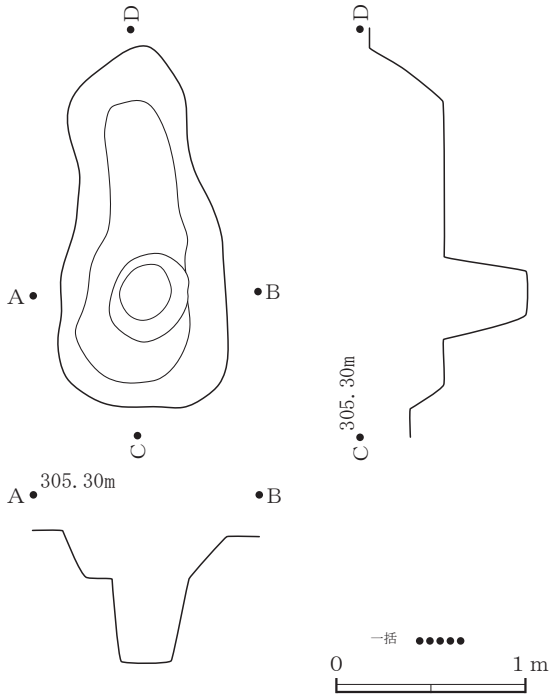
遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物		
						RP	RB	YP
D－92（配石墓）	1	暗褐色土層10YR3/3		○	○	※	※	※
	2	灰黄褐色土層10YR4/2	2＜3	○	○	△	※	※
	3	灰黄褐色土層10YR4/2	3＞2	◎	○	△	※	※
	4	にぶい黄褐色土層10YR5/4		◎	◎	△	△	△
	5	にぶい黄褐色土層10YR5/3		◎	◎	△	△	△
	6	黄褐色土層10YR5/6		◎	◎	○	○	○
	7	にぶい黄褐色土層10YR4/3		◎	◎	○	△	△

一括
0
1m

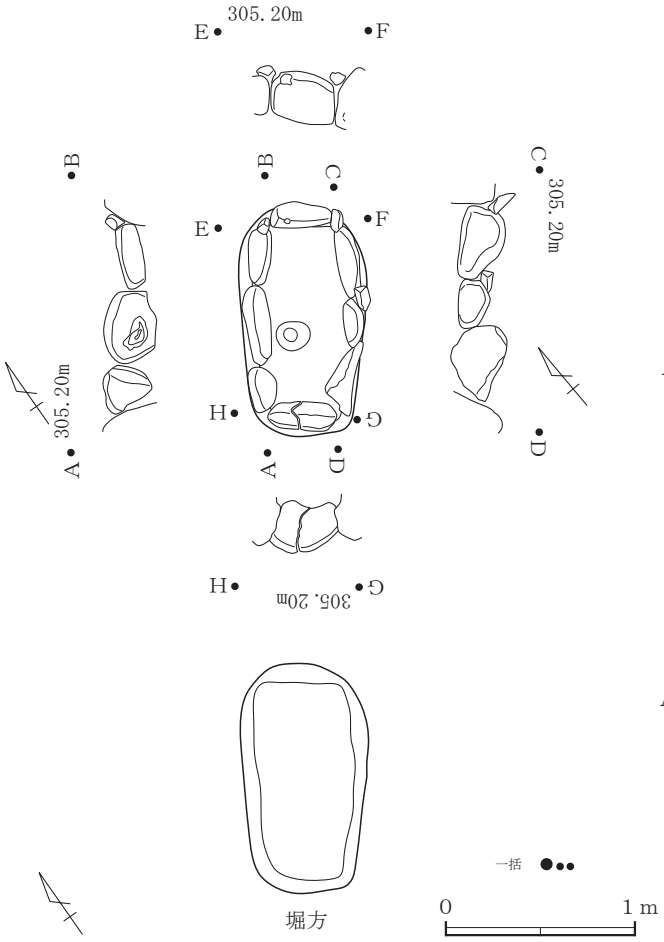
第722図　原田ⅡH区D－92(配石墓)実測図



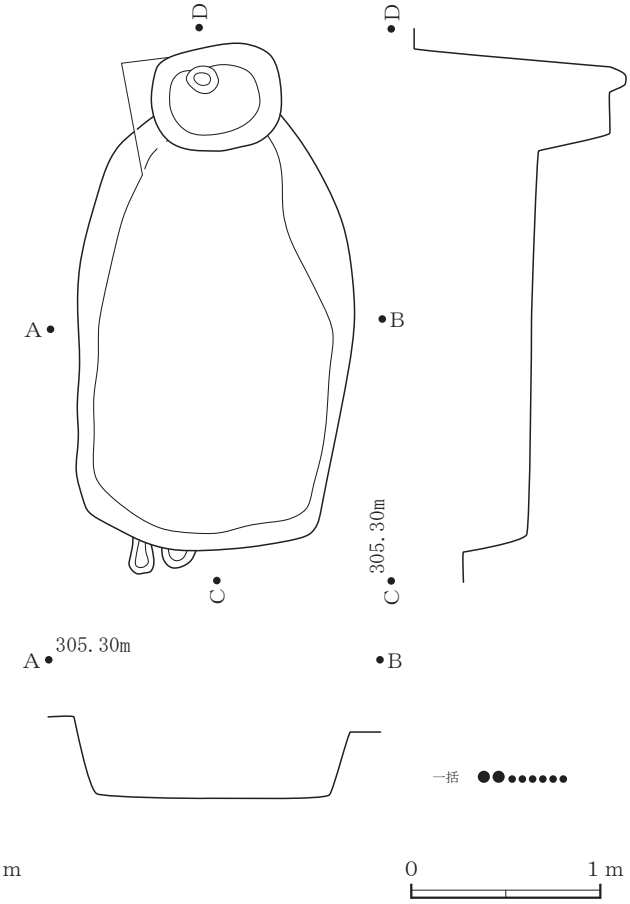
第723図　原田ⅡH区D－96(配石墓)実測図



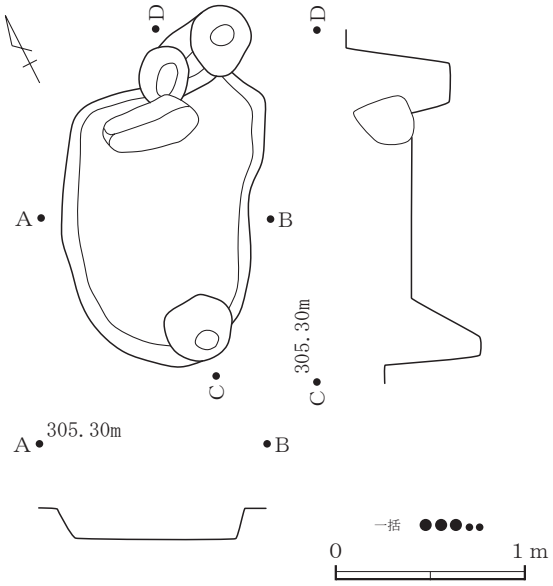
第724図　原田ⅡH区D－104(配石墓)実測図



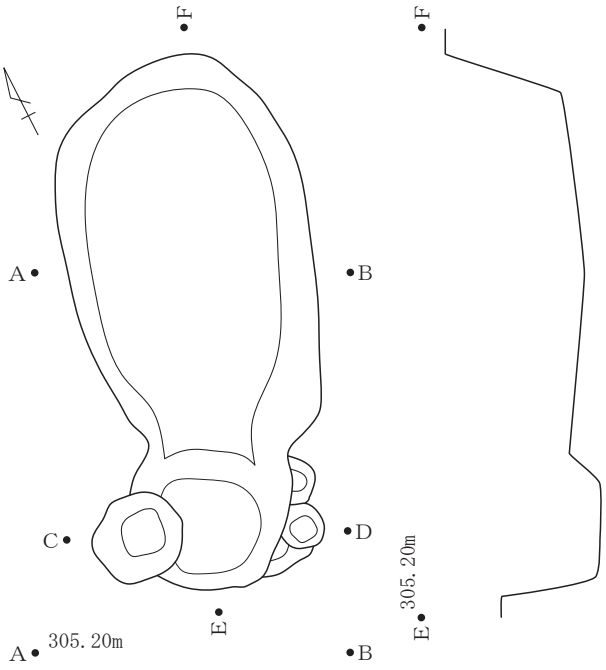
第725図　原田ⅡH区D－99(配石墓)実測図

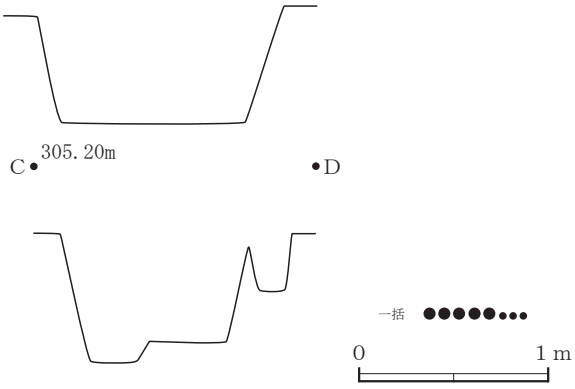


第726図　原田ⅡH区D－100(配石墓)実測図

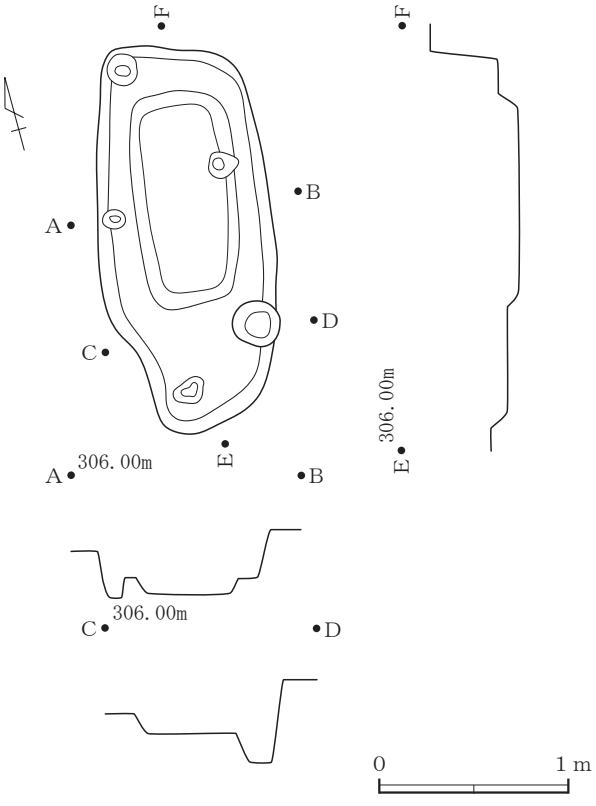


第727図　原田ⅡH区D－106(配石墓)実測図

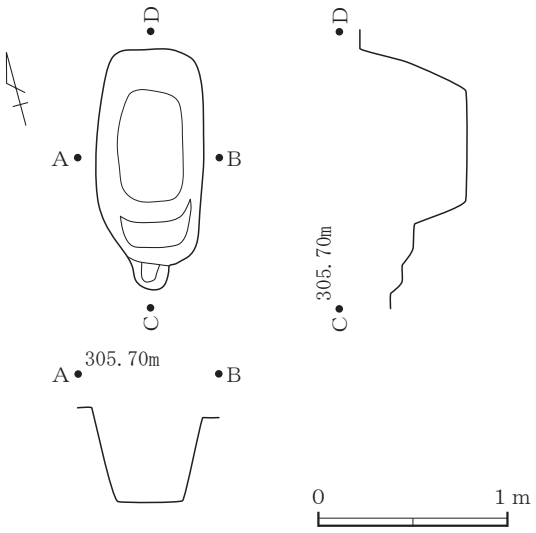




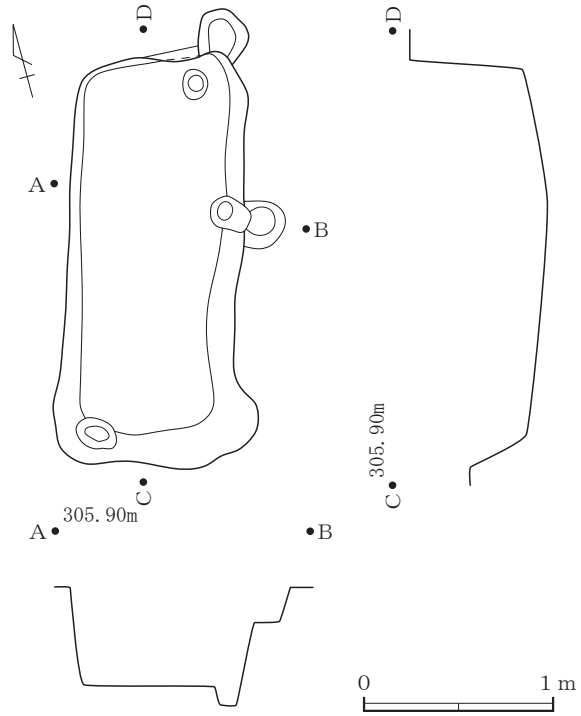
第728図　原田ⅡH区D－107(配石墓)実測図



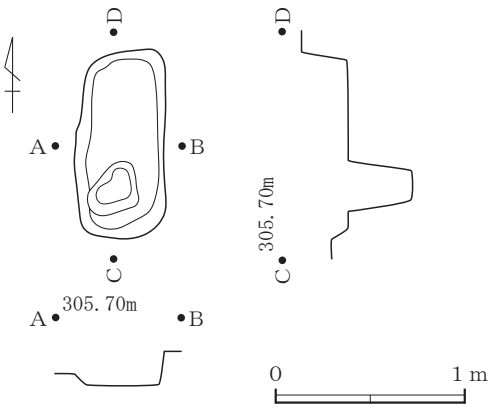
第729図　原田ⅡH区D－336(配石墓)実測図



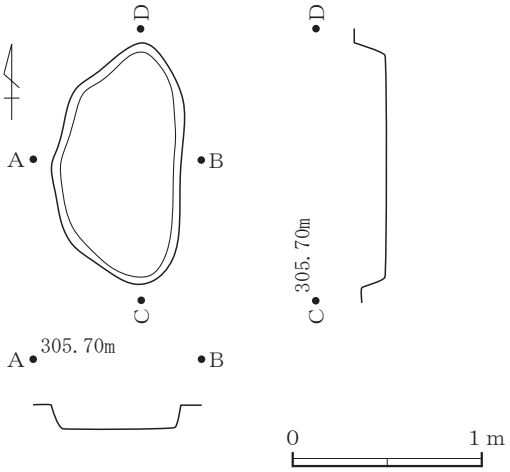
第730図　原田ⅡH区D－338(配石墓)実測図



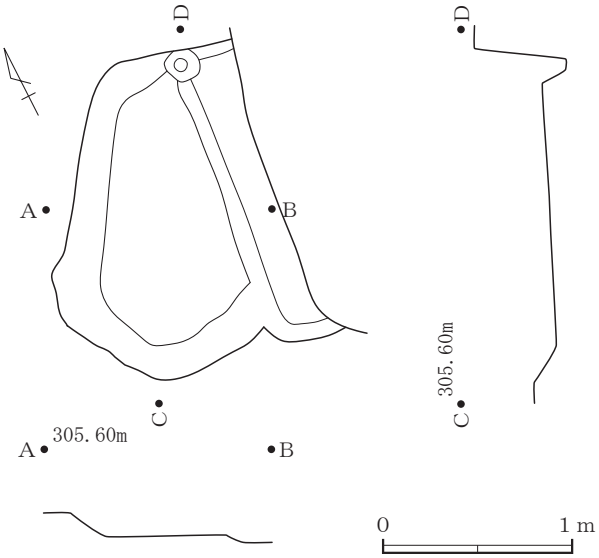
第731図　原田ⅡH区D－337(配石墓)実測図



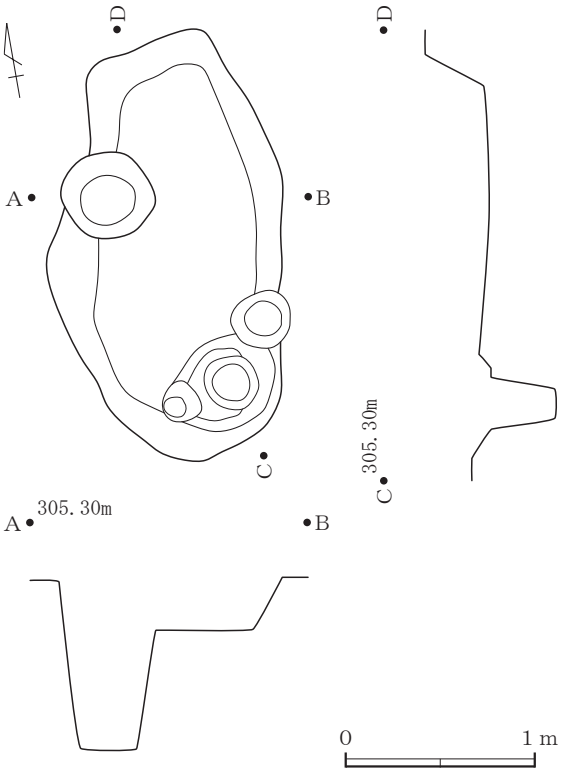
第732図　原田ⅡH区D－339(配石墓)実測図



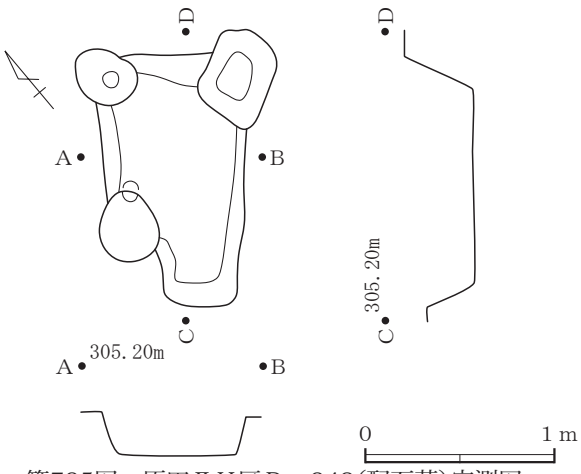
第733図　原田ⅡH区D－340(配石墓)実測図



第734図　原田ⅡH区D－341(配石墓)実測図



第736図　原田ⅡH区D－343(配石墓)実測図



第735図　原田ⅡH区D－342(配石墓)実測図

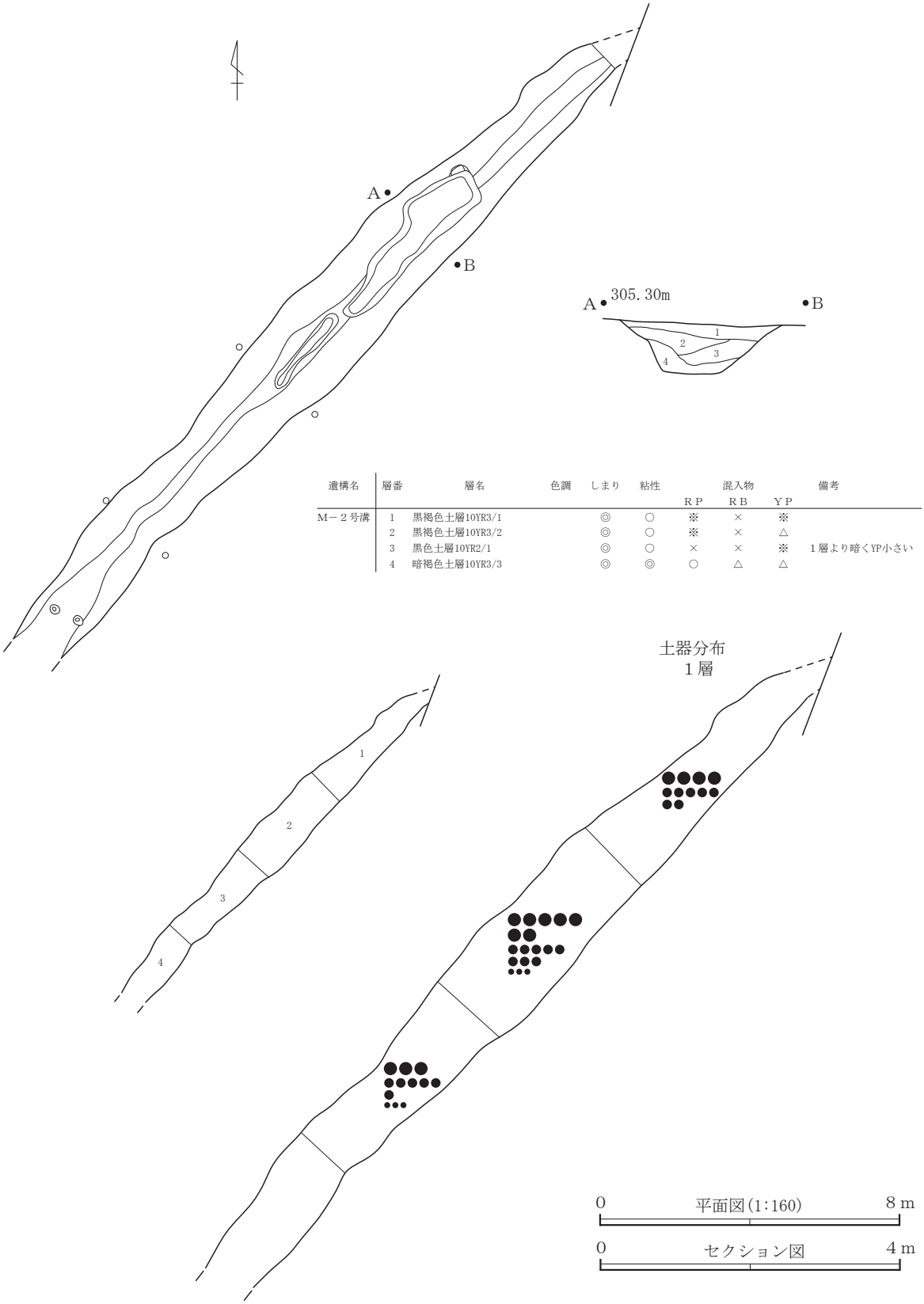
配石墓

配石墓名	位置	平面形態	規模（m）			主軸方向	時期	備考
			長軸	短軸	深さ			
A区1号配石墓	E－7	長楕円形	2.0	0.9	0.2	N-50-W	後期	遺物出土なし。墓坑の縁に沿って河原石の長辺同士が接するように横並べする。丸みを帯び幅広な北西側に対し、南東端は1石配置で狭くなっている。
A区2号配石墓	E－7	長楕円形？	〈2.0〉	0.9	0.2	N-59-W	後期	遺物出土なし。1号配石墓の東に並ぶ。北半は攪乱により欠損。河原石は1石のみ検出された。周辺の後出する遺構に抜き取られた可能性がある。
A区3号配石墓	E－7	長楕円形？	1.9	1.1	0.3	N-50-W	加曽利B1	北縁に1石を配す。南接して伏せ鉢が検出されており、北西頭位の「鉢かぶり」埋葬と判断した。1～3号配石墓は規模と主軸方向が似ており、1つのグループを形成していたものと考えられる。
A区D－91土坑	E－7	楕円形	1.5	2.0	0.3	N-39-W	堀之内1	1号配石墓に破壊される。1～3号配石墓とは規模と主軸方向が若干異なる。南側で「半裁」された深鉢片を検出。
H区4号配石墓	D－3	長楕円形	2.3	1.0	0.5	N-40-E	堀之内2	墓坑の縁に沿って河原石を並べる。北東端、石列の下に大きめの石を配す。さらに西接していた石を1枚並べる。板石下約0.2mの堀底付近から垂飾が検出されたことから、北東頭位埋葬と判断した。
H区5号配石墓	D－3	楕円形	2.1	1.2	0.5	N-40-E	堀之内2	4号配石墓に西接する。南東隅に1～2石あるのみで、周辺の後出する遺構に抜き取られた可能性がある。
H区6号配石墓	D－1	隅丸方形	1.9	1.4	0.5	N-70-E	堀之内1	墓坑に沿って河原石の長辺同士が接するように並べた後、一回り大きくやや扁平な石を上部に架け蓋状にする。H区配石墓群の中では単独で存在する。
H区7号配石墓	D－3	長楕円形	2.0	0.7	0.2	N-14-E	堀之内2	墓坑に沿って河原石の長辺同士が接するように並べる。他配石墓と比べて細長い形状をしている。
H区8号配石墓	D－3	隅丸方形	1.9	1.2	0.4	N-10-E	堀之内2	7号配石墓に東接する。南側に1～2石あるのみで、周辺の後出する遺構に抜き取られた可能性がある。
H区D－85土坑	D－3	楕円形？	1.3	1.0	0.3	N-60-E	後期	無文の粗製土器が数点出土。
H区D－87土坑	D－3	長楕円形？	1.5	0.6	0.2	N-20-E	後期？	出土遺物なし。
H区D－92土坑	D－3	隅丸方形？	2.0	1.4	0.6	N-36-E	後期	南側、堀底近くから1石検出。
H区D－96土坑	D－3	長楕円形	1.6	0.7	0.2	N-10-E	堀之内	中央に土坑が重複。
H区D－99土坑	D－3	楕円形	1.2	0.7	0.2	N-35-E	堀之内	小形の配石墓。
H区D－100土坑	D－3	楕円形	(2.3)	1.4	0.6	N-42-E	堀之内	
H区D－104土坑	D－3	長楕円形	1.9	0.8	0.3	N-28-E	後期	
H区D－106土坑	D－3	長楕円形	1.6	1.0	0.3	N-25-E	後期	北西に1石検出。
H区D－107土坑	D－3	長楕円形	2.8	1.2	0.6	N-22-E	後期	
H区D－336土坑	D－3	隅丸長方形	2.0	0.9	0.4	N-14-E	堀之内	堀底は段差を有する。
H区D－337土坑	D－3	隅丸長方形	2.1	1.0	0.6	N-18-E	後期？	D－336土坑に西接し、規模・主軸方向が似ている。
H区D－338土坑	D－3	隅丸長方形	1.3	0.5	0.5	N-15-E	後期？	D－87土坑に西接する。小形の配石墓か。
H区D－339土坑	D－3	隅丸長方形	1.0	0.4	0.2	N-3-E	堀之内？	小形の配石墓か。
H区D－340土坑	D－3	長楕円形	1.3	0.7	0.2	N-1-E	堀之内？	D－339土坑に西接し、主軸の方向が類似する。
H区D－341土坑	D－2	楕円形	1.7	〈1.3〉	0.3	N-29-E	後期？	7号配石墓に西接する。なお、同配石墓との間に長方形の凹みが確認されることから、もう1基存在する可能性がある。
H区D－342土坑	D－3	隅丸方形？	1.3	0.7	0.3	N-40-E	後期？	
H区D－343土坑	D－3	長楕円形	2.3	1.2	0.3	N-4-E	後期？	

凡例

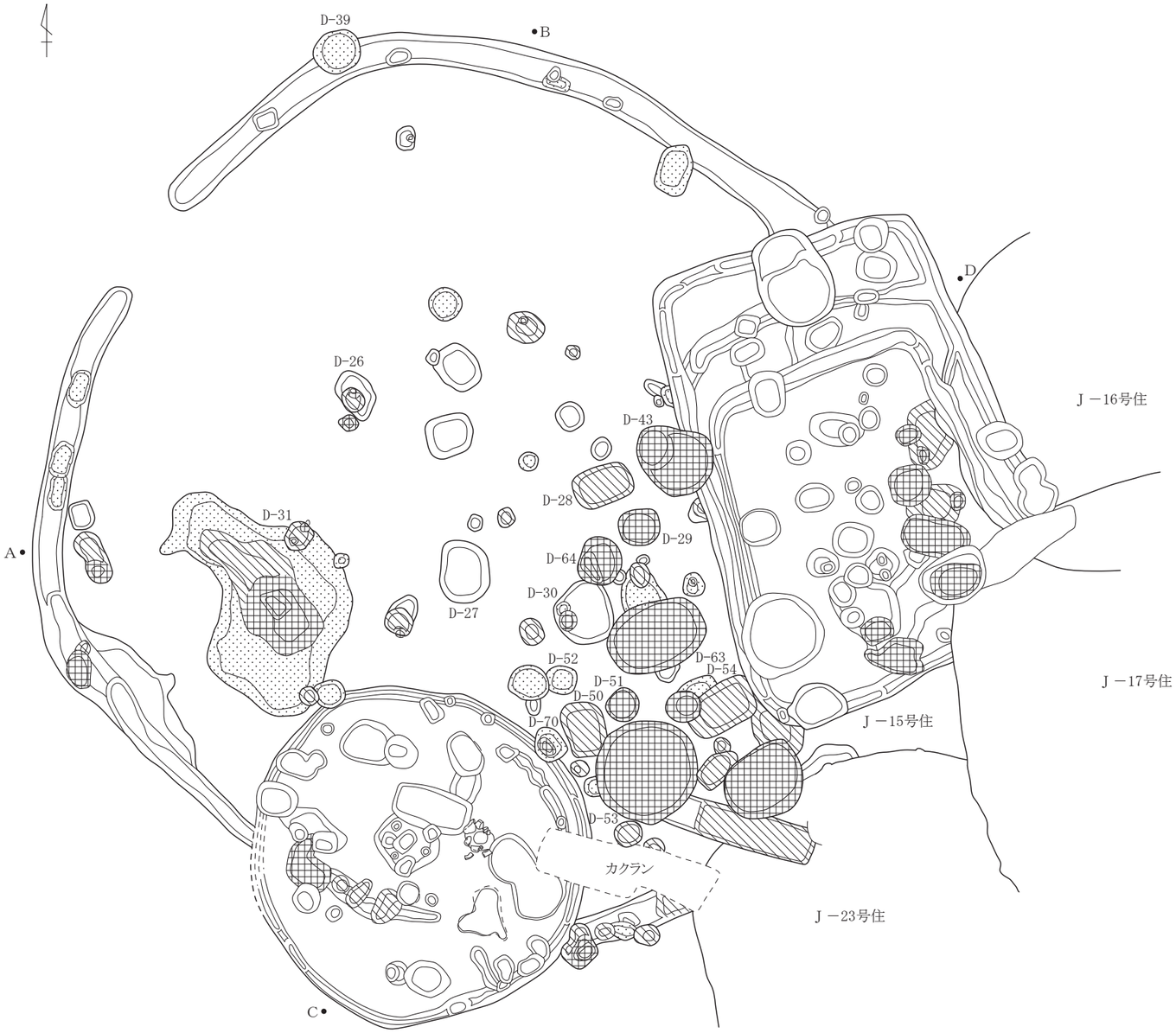
主軸　長軸方向を基準とした。「°」記号は省略。

第233表　二軒在家原田Ⅱ遺跡A・H区縄文時代配石墓　遺構観察表（1）



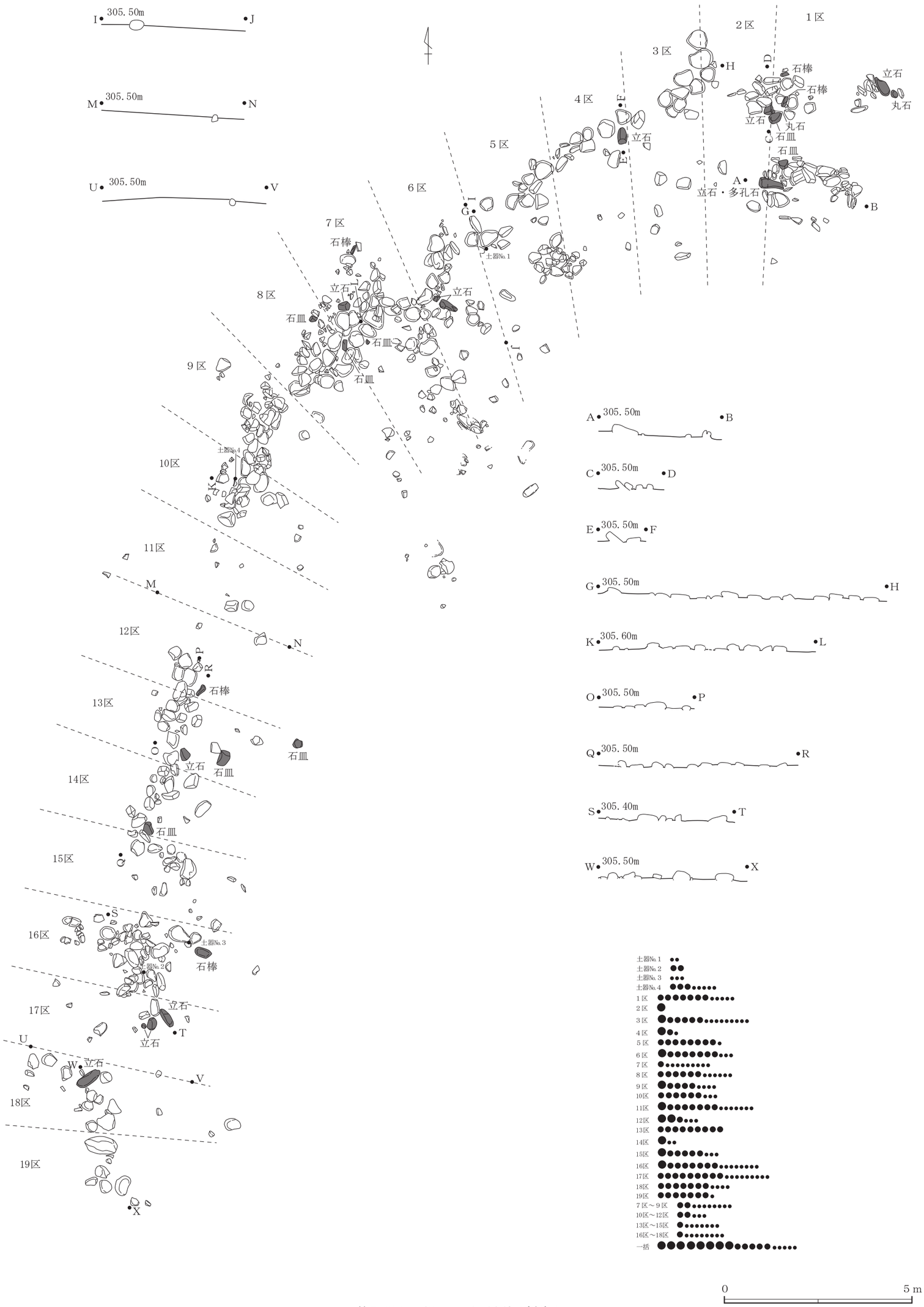
遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物			備考
						RP	RB	YP	
M－2号溝	1	黒褐色土層10YR3/1		◎	○	※	×	※	
	2	黒褐色土層10YR3/2		◎	○	※	×	△	
	3	黒色土層10YR2/1		◎	○	×	×	※	1層より暗くYP小さい
	4	暗褐色土層10YR3/3		◎	◎	○	△	△	

第737図　原田ⅡA区M－2号溝実測図

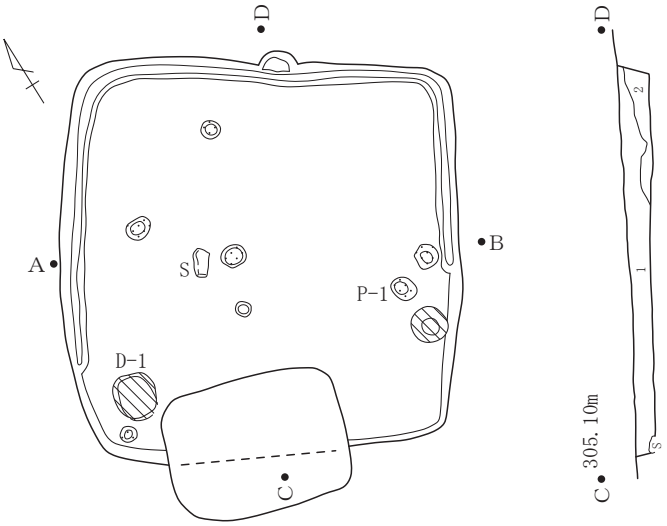


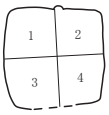
遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物		
						RP	RB	YP
M－1号溝	1	黒褐色土層10YR3/2		○	◎	※	×	×

第738図　原田ⅡA区M－1号溝実測図

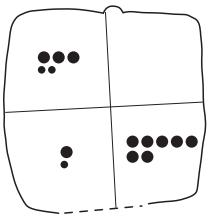


第739図　原田ⅡA区1号列石実測図

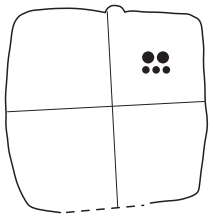




土器分布
1層

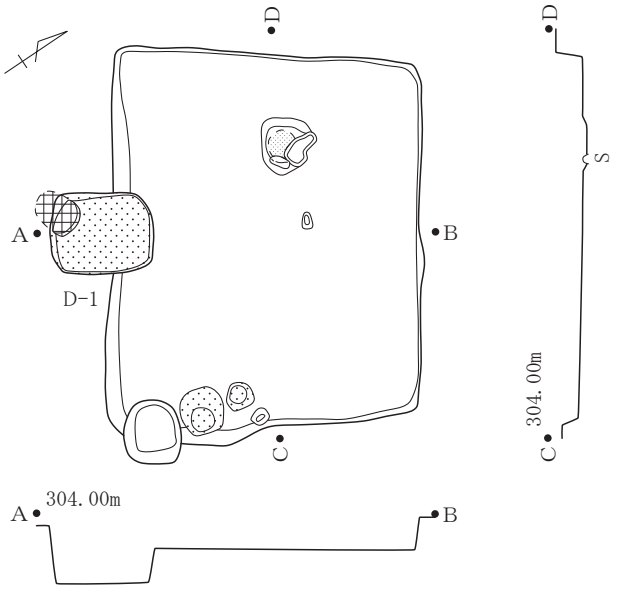


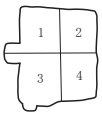
土器分布
2層



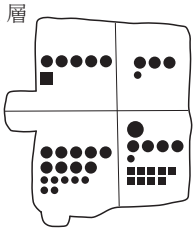
遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物		
						RP	RB	YP
H－1住	1	黒色土層10YR2/1		◎	○	×	×	※
	2	暗褐色土層10YR3/3		◎	◎	※	○	△

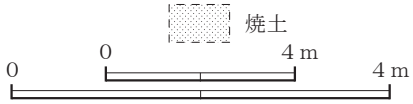
第740図　原田ⅡH区H－1号住居址実測図



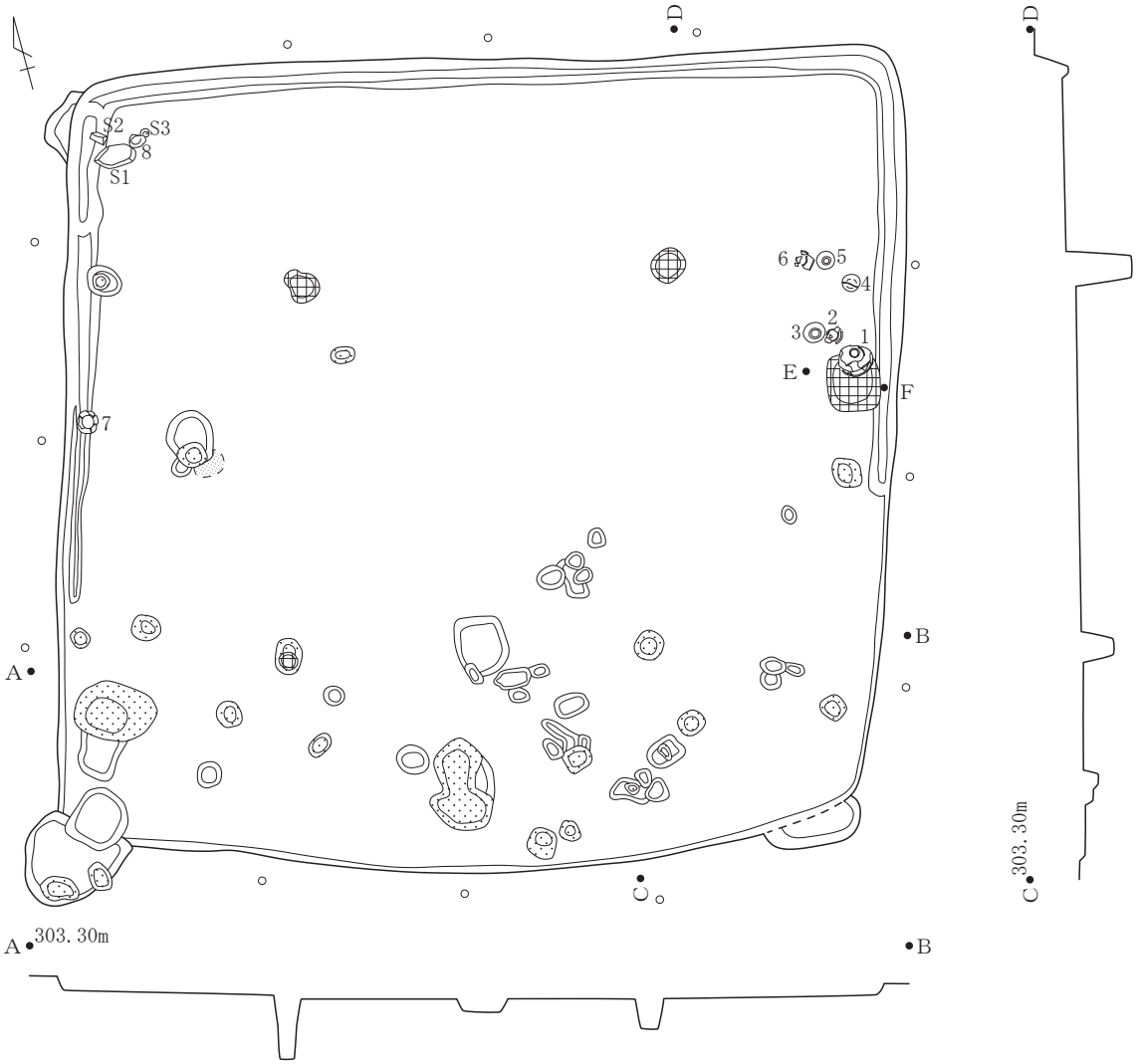


土器分布
1層



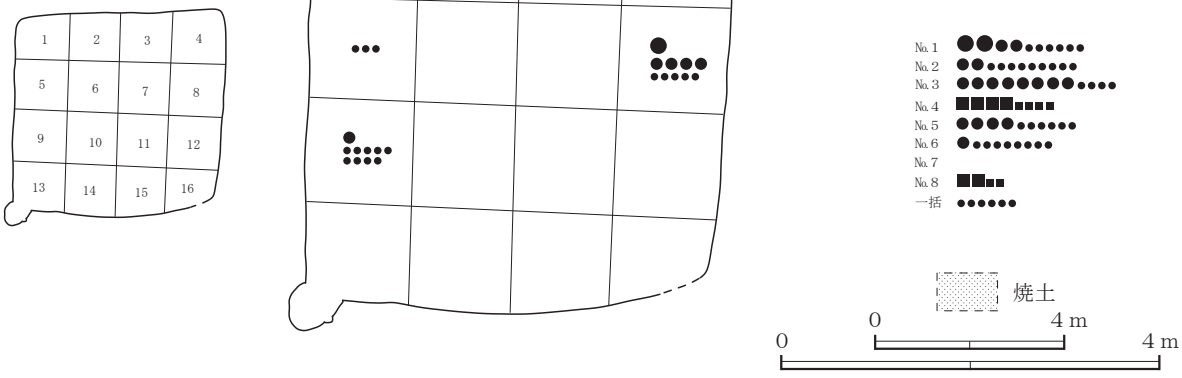


第741図　原田ⅡH区H－2号住居址実測図

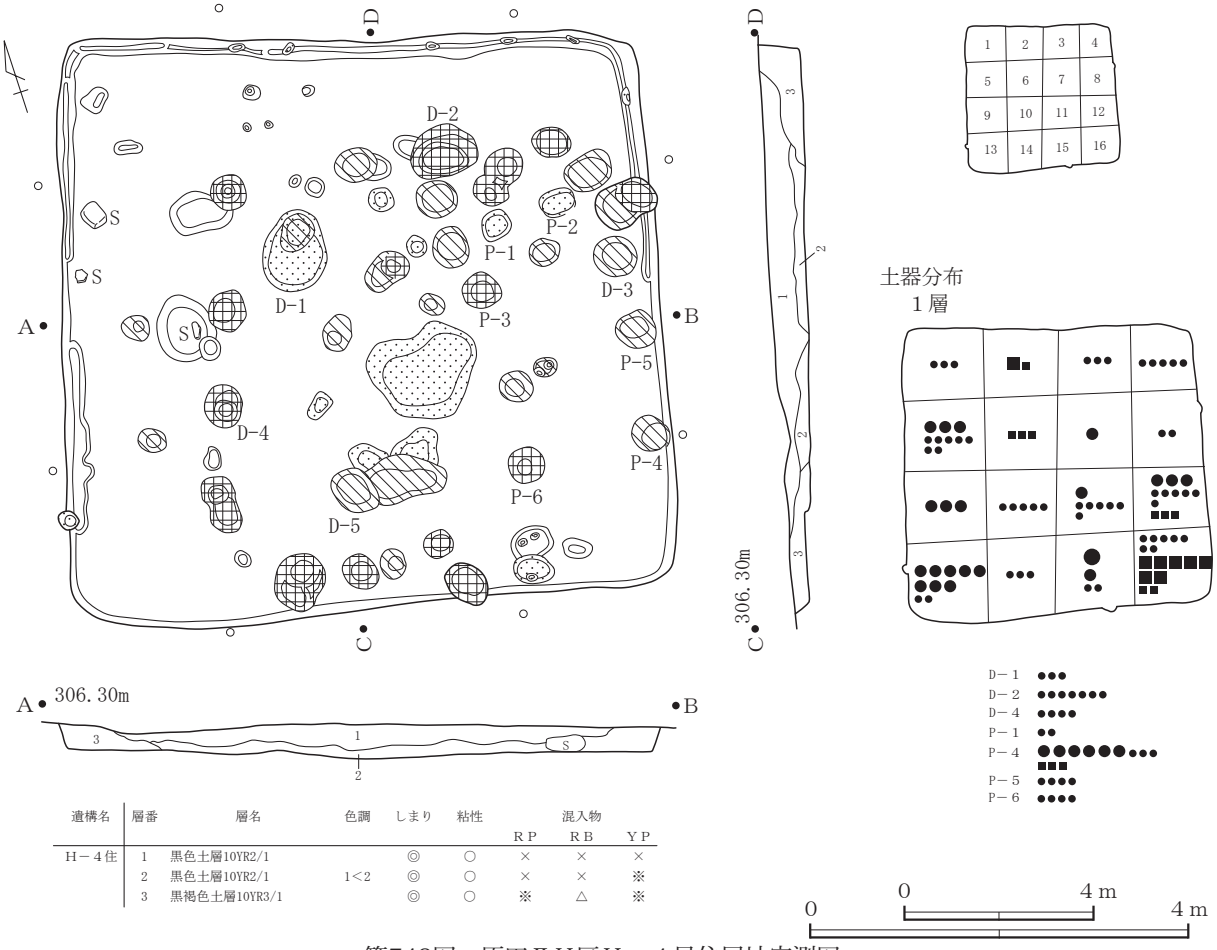


遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物		
						RP	RB	YP
H－3住	1	黒褐色土層10YR3/1		◎	○	※	×	×

土器分布
1層

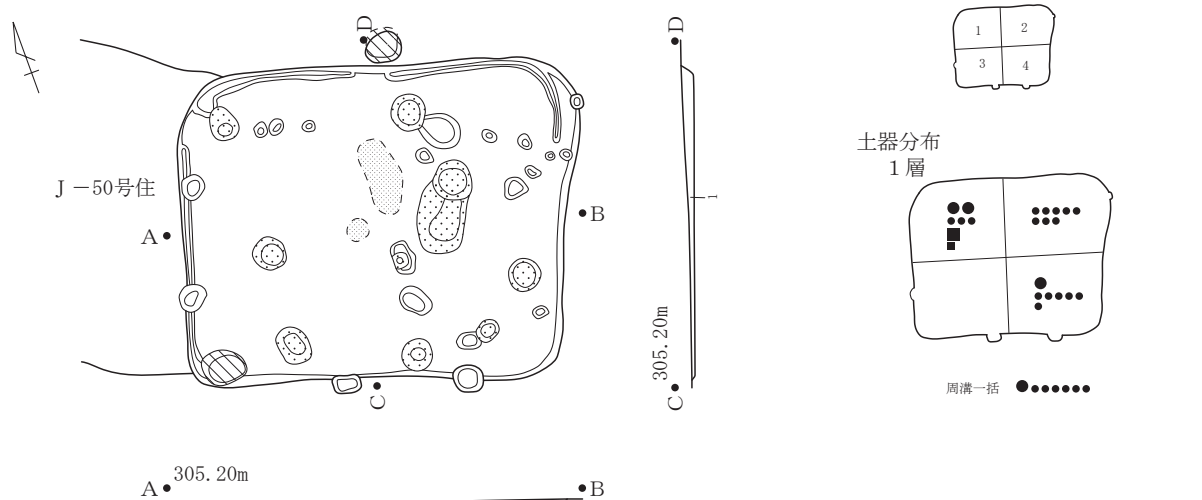


第742図　原田ⅡＧ区Ｈ－３号住居址実測図



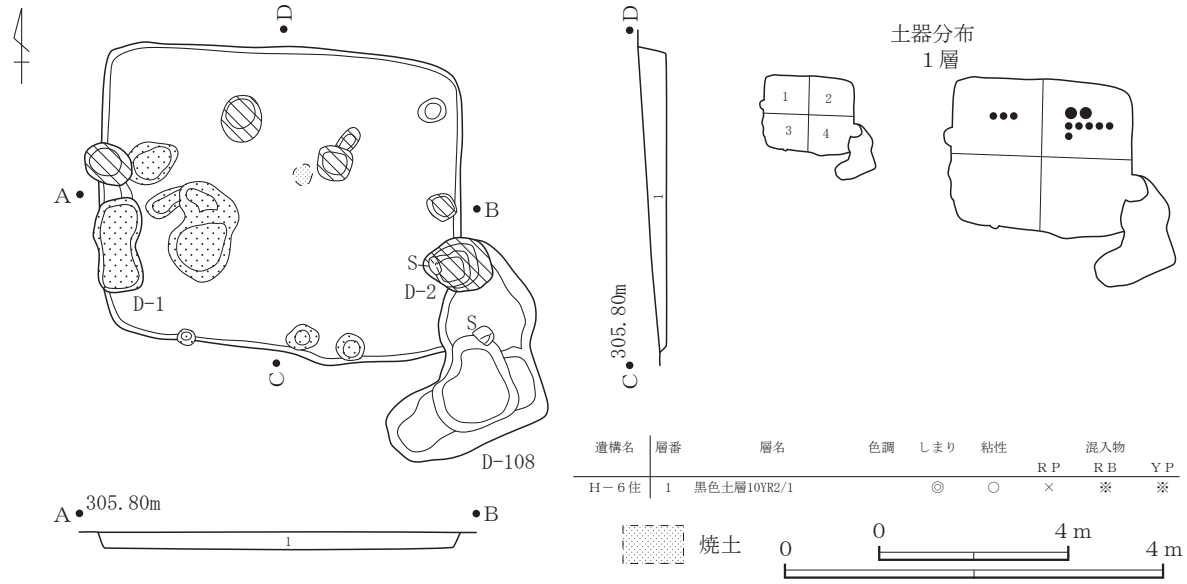
遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	RB	YP
H－4住	1	黒色土層10YR2/1		◎	○	×	×	×
	2	黒色土層10YR2/1	1＜2	◎	○	×	×	※
	3	黒褐色土層10YR3/1		◎	○	※	△	※

第743図　原田ⅡH区H－4号住居址実測図

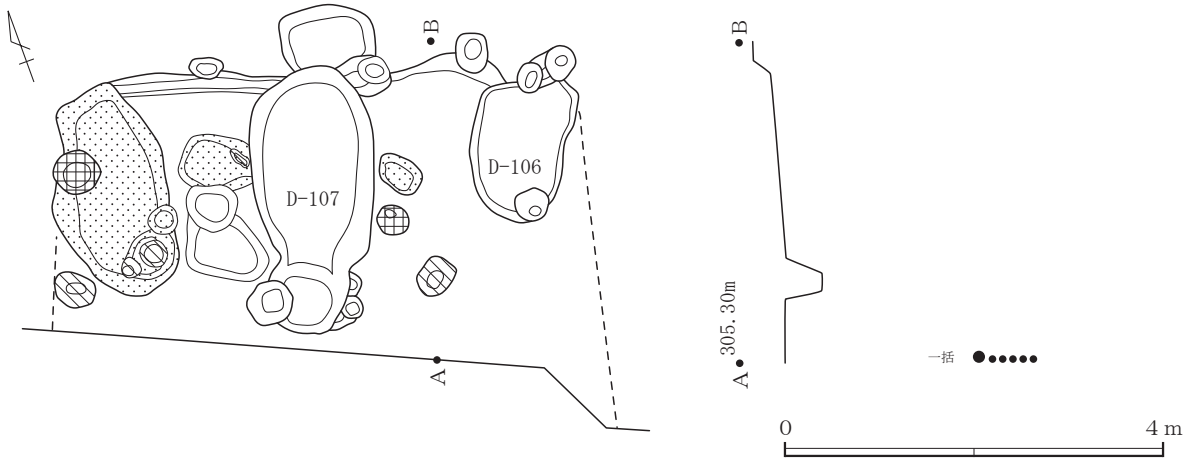


遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	RB	YP
H－5住	1	黒色土層10YR2/1		◎	○	×	×	×

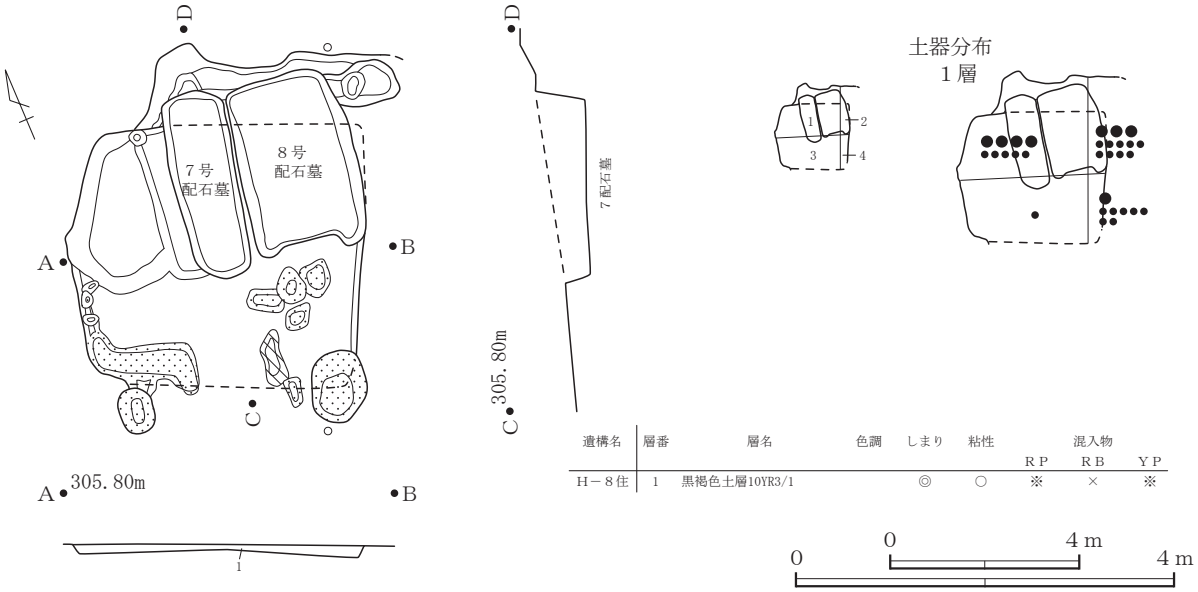
第744図　原田ⅡH区H－5号住居址実測図



第745図　原田ⅡH区H－6号住居址実測図



第746図　原田ⅡH区H－7号住居址実測図



第747図　原田ⅡH区H－8号住居址実測図

古墳時代住居址

住居名	位置	平面形態		規模（m）			主軸方向	施設				遺物		時期	備考
		規模	形態	長軸	短軸	深さ		貯蔵穴	主柱穴	炉・カマド	壁溝	土師	石器石製		
H－1住	H区D－1	C	正方形	4.3	4.2	0.3	N-30-E	南西	×	×	○	※		古墳前期	
H－2住	H区E－2	C	正方形	3.9	3.3	0.3	N-55-W	南西	×	中央北	×	△		古墳前期	
H－3住	G区F－3	A	正方形	8.9	8.6	0.3	N-16-E	不明	4	×	○	△	※	古墳前期	本遺跡内で最大。
H－4住	H区C－3	A	正方形	6.4	6.2	0.4	N-17-E	不明	6	×	○	△		古墳前期	土製紡錘車多い。
H－5住	H区D－2	C	正方形	4.2	3.4	0.1	N-17-E	不明	4	中央？	○	※		古墳前期	
H－6住	H区D－1	C	正方形	3.8	3.3	0.3	N-1-W	南東？	×	中央？	×	※		古墳前期	
H－7住	H区D－3	C	正方形	〈5.8〉	〈3.3〉	0.3	－	不明	×	×	○	※			配石墓と重複し、形状が判然としない。住居址でない可能性あり。
H－8住	H区D－3	D	正方形	3.0	〈2.8〉	0.1	－	不明	×	×	×				配石墓と重複し、形状が判然としない。住居址でない可能性あり。

凡例

平面形態　規模　長軸×短軸の値　A：30 以上、B：20 以上 30 未満、C：20 未満、D：10 未満

形態　長軸値での四方全周長と短軸値でのそれとの差が、住居全周長の何 % になるかによって分類した。

長方形：25% 以上、正方形：25% 未満

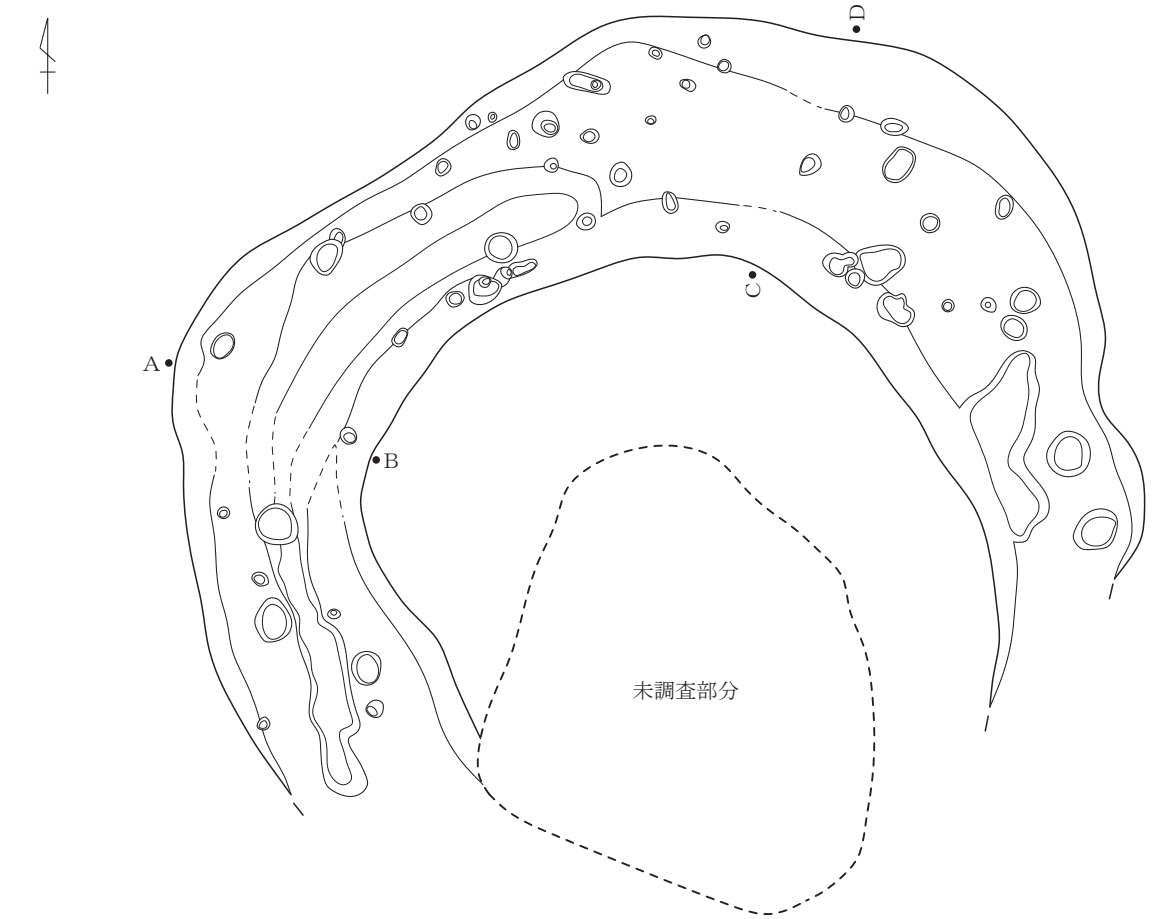
主軸方向は長軸を基準とした。「°」記号は省略。

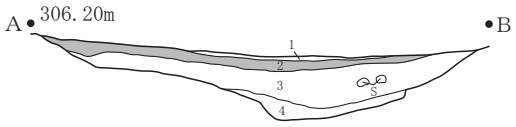
壁溝　◎：間仕切り溝を伴うもの、○：壁周溝のみ、×：壁溝なし

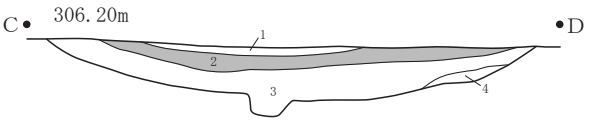
遺物　土器　※：1 ～ 1,000g、△：1,001 ～ 5000g、○：5,001 ～ 10,000g、◎：10,001g 以上

石器・石製品　※：1 ～ 10 点、△：11 ～ 20 点、○：21 ～ 30 点、◎：31 点以上

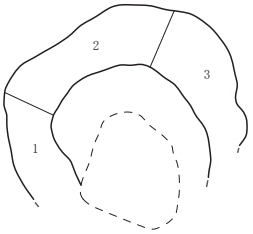
第 234 表　二軒在家原田Ⅱ遺跡古墳時代住居址　遺構観察表（1）



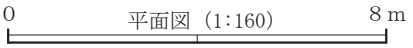




遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物			備考
						RP	RB	YP	
K－1号墳	1	黒色土層10YR2/1		◎	×	×	×	×	As-B混土
	2	灰白色土層10YR7/1		×	×	×	×	×	As-B
	3	黒色土層10YR2/1		◎	○	×	×	※	
	4	暗褐色土層10YR3/3		◎	◎	○	△	○	

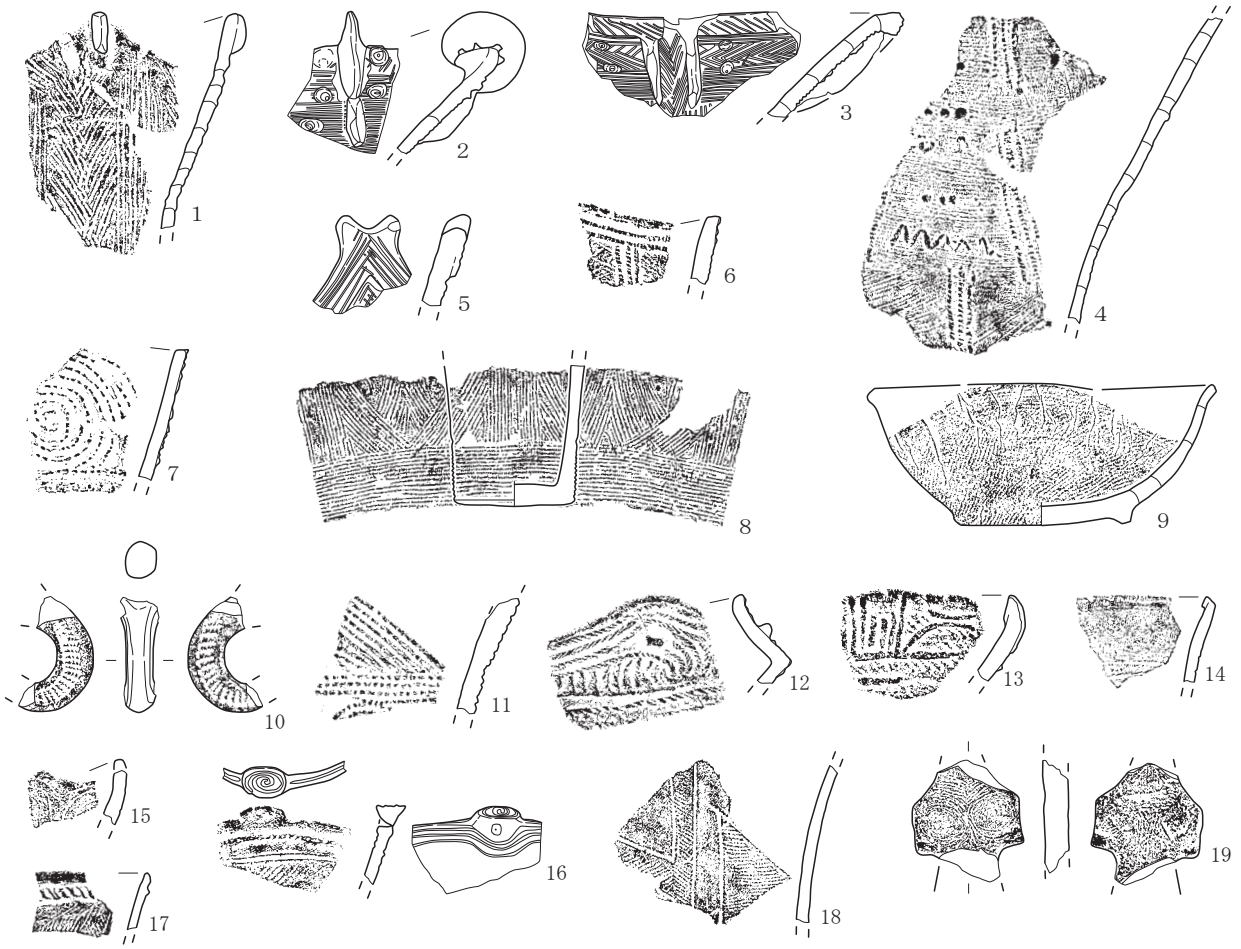


1区周溝一括　○○○○○○○○○
3区周溝一括　○○○○○○○

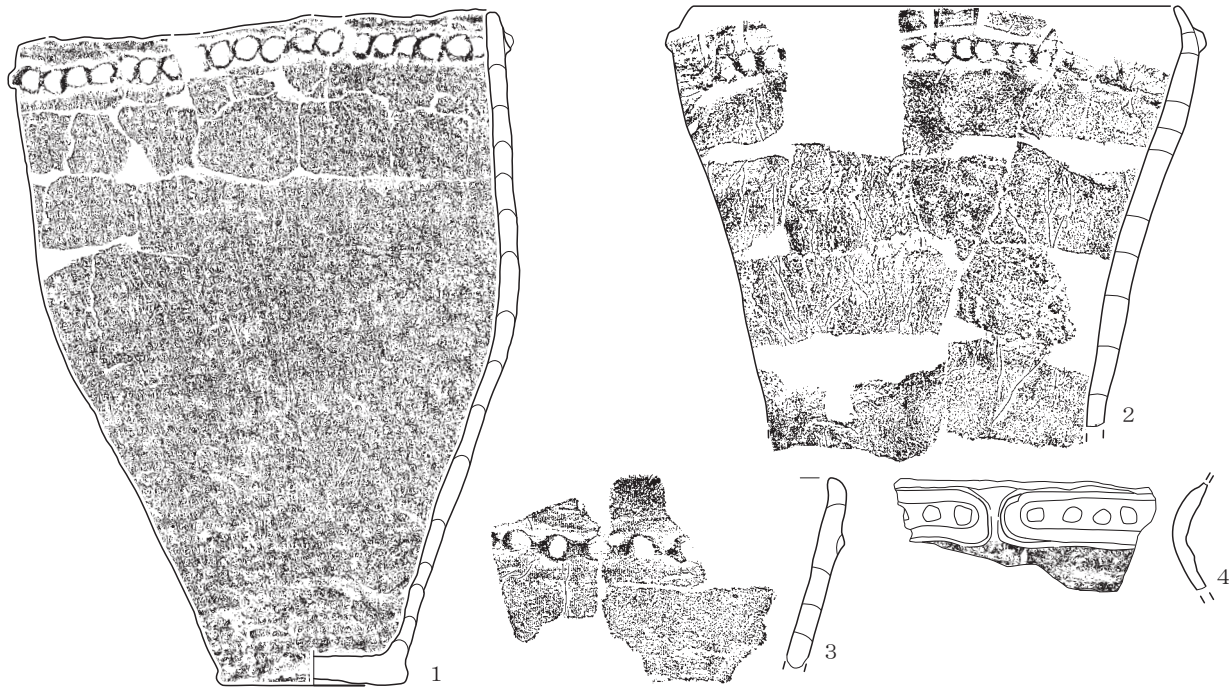


第748図　原田ⅡA区K－1号墳実測図

原田Ⅱ遺跡A区縄文時代住居址出土遺物実測図

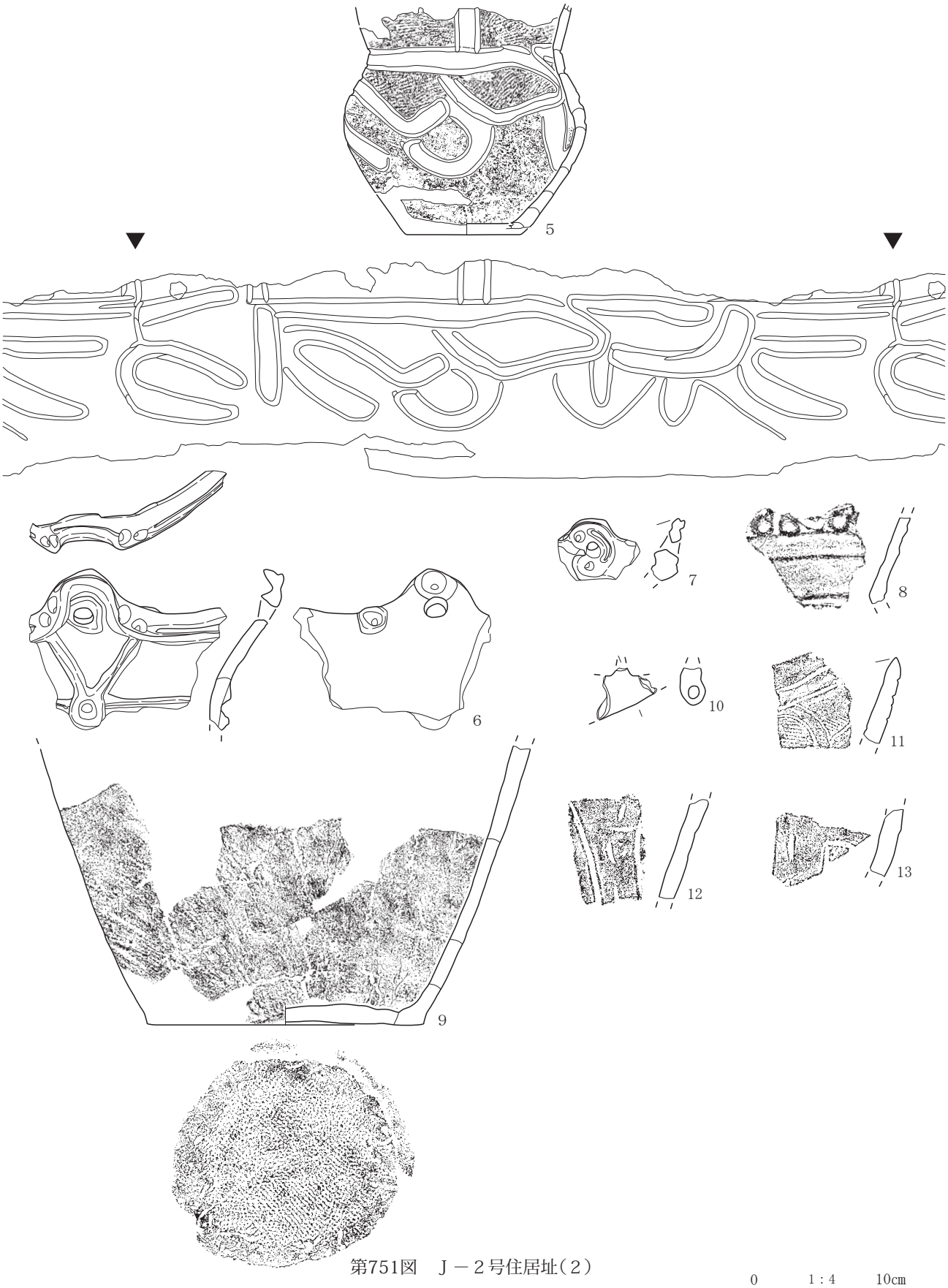


第749図　J－1号住居址



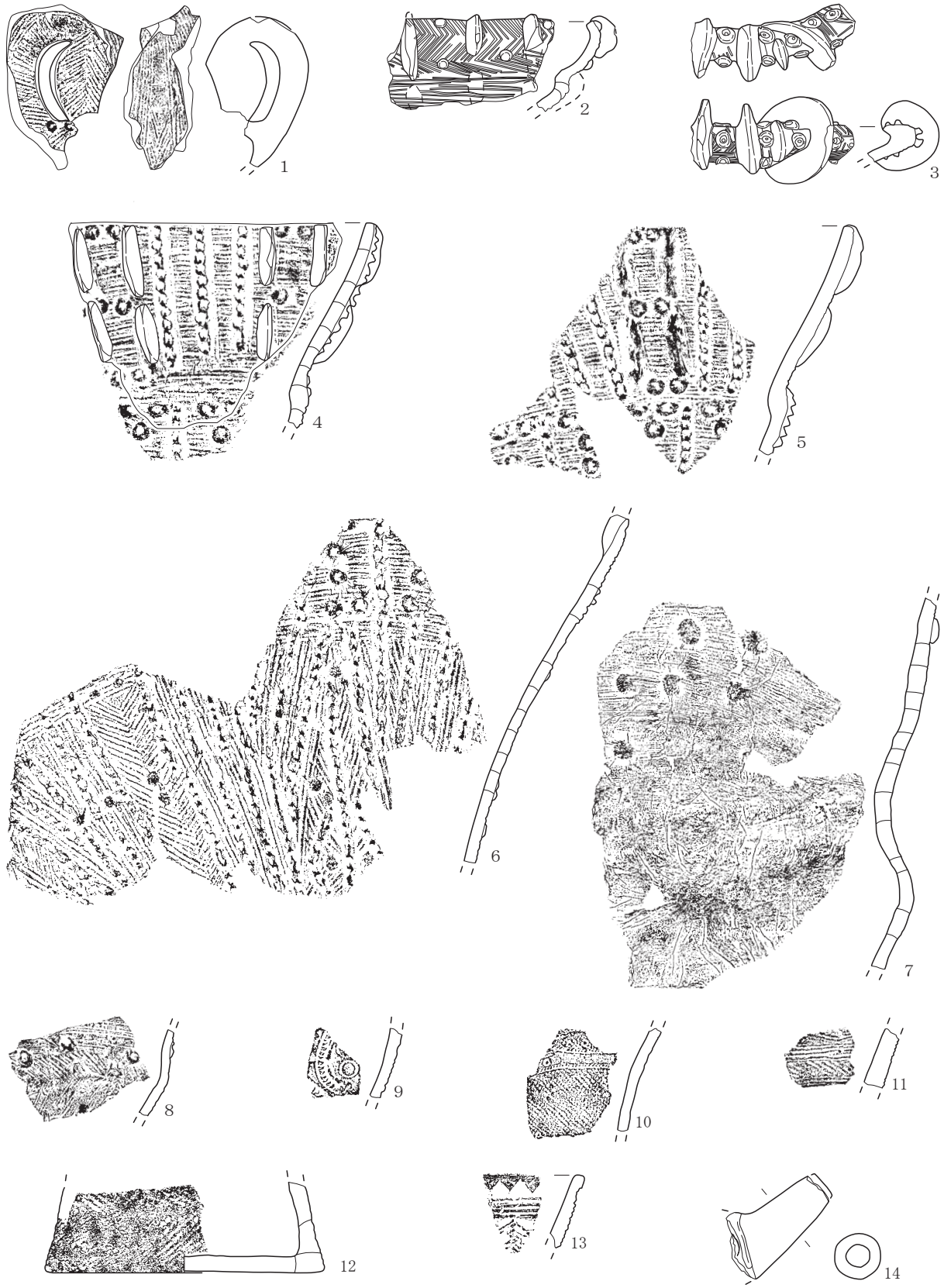
第750図　J－2号住居址（1）

0　1：4　10cm

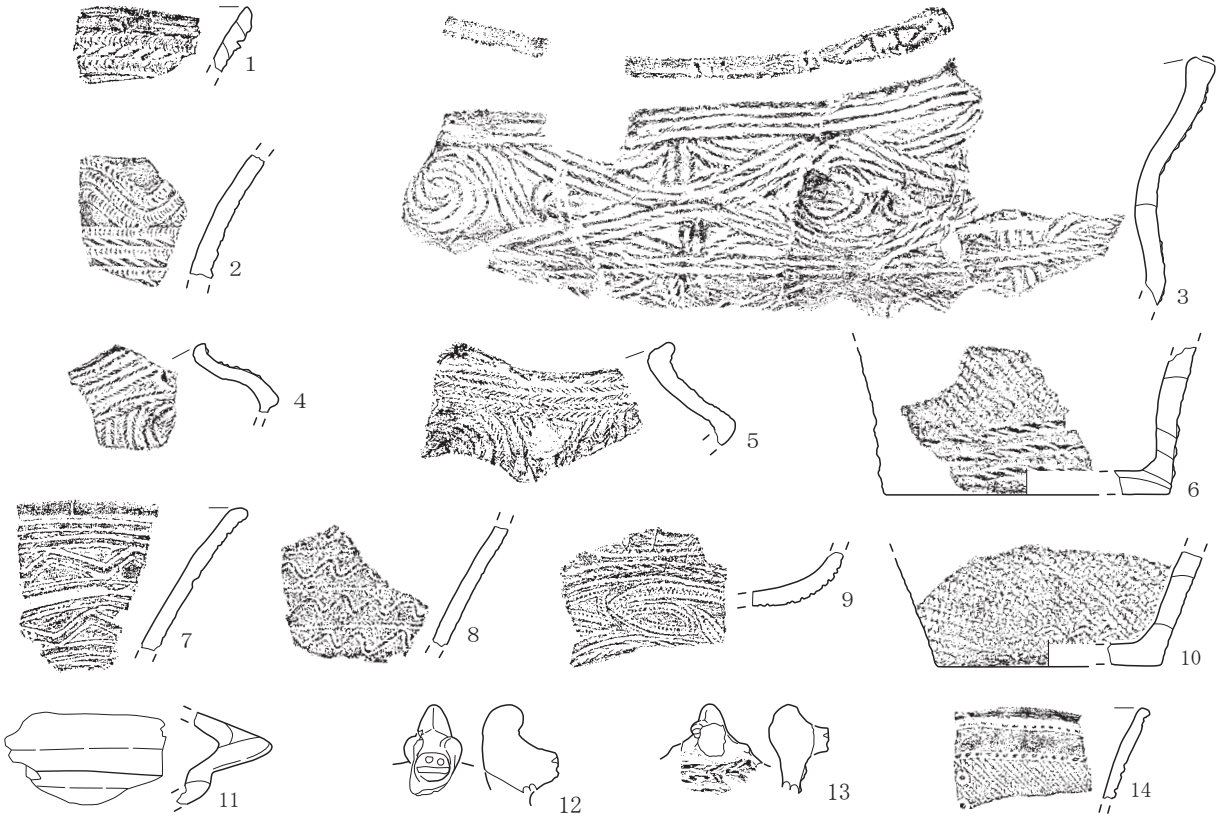


第751図　J－2号住居址（2）

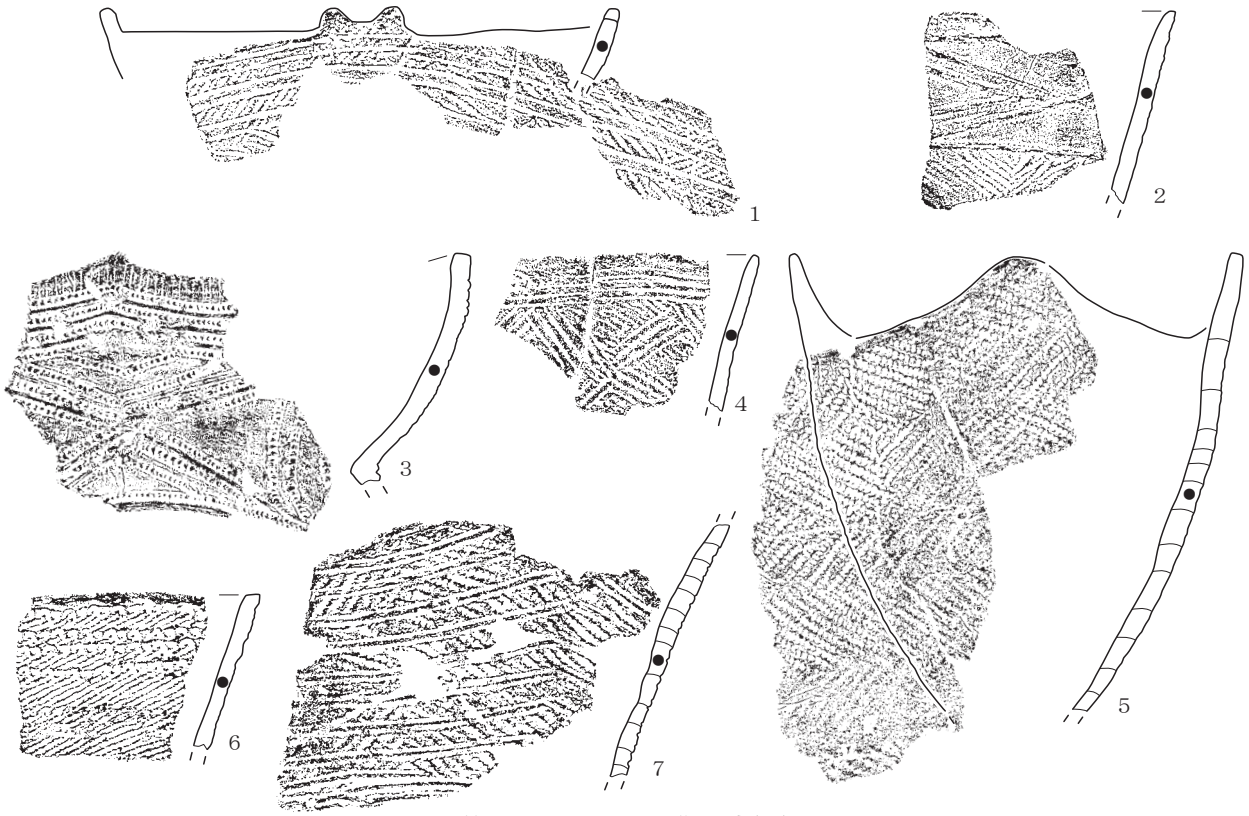
0　1：4　10cm



第752図　J－4号住居址



第753図　J－5号住居址

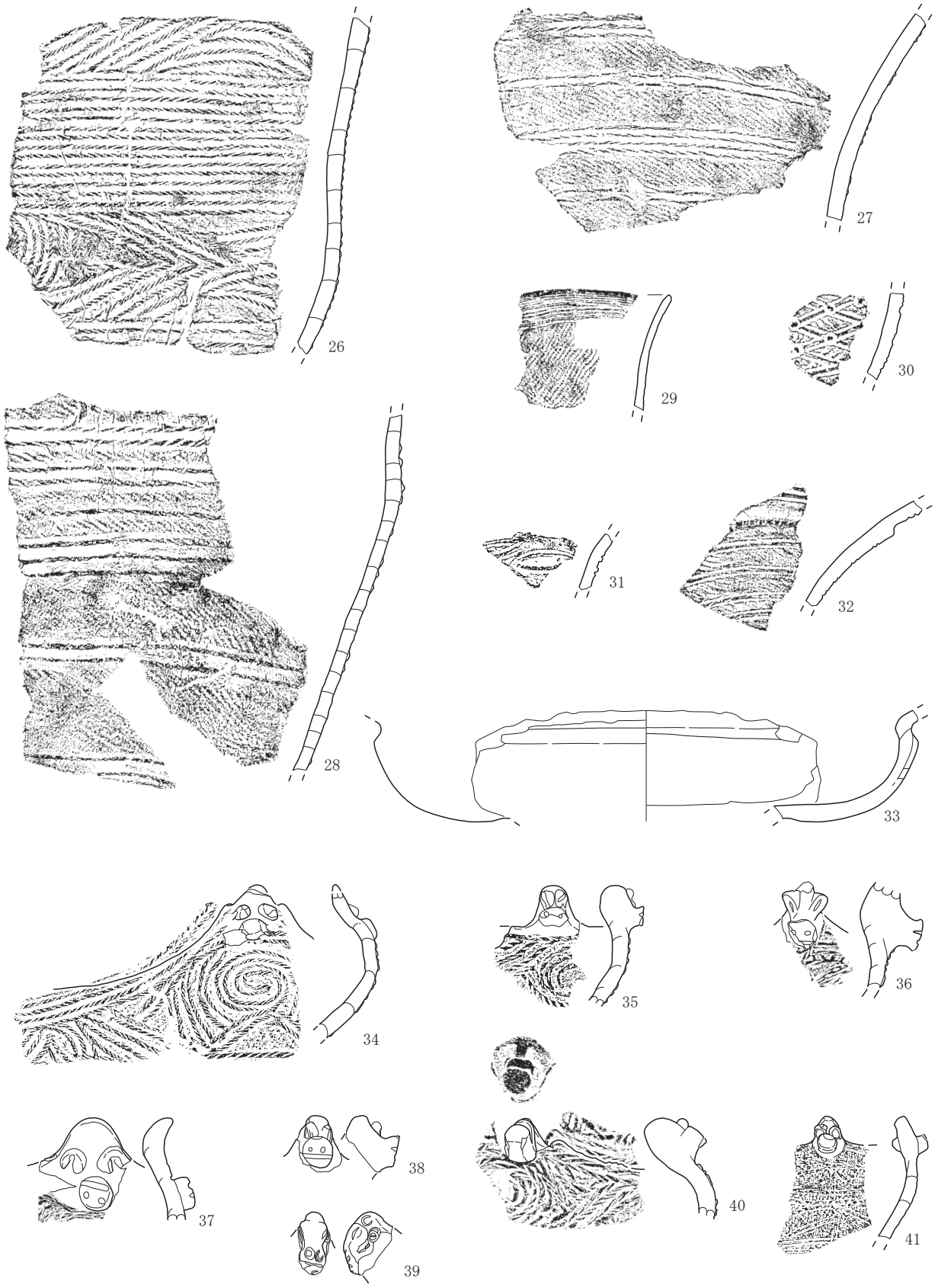


第754図　J－8号住居址（1）

0　1：4　10cm

第755図　J－8号住居址（2）

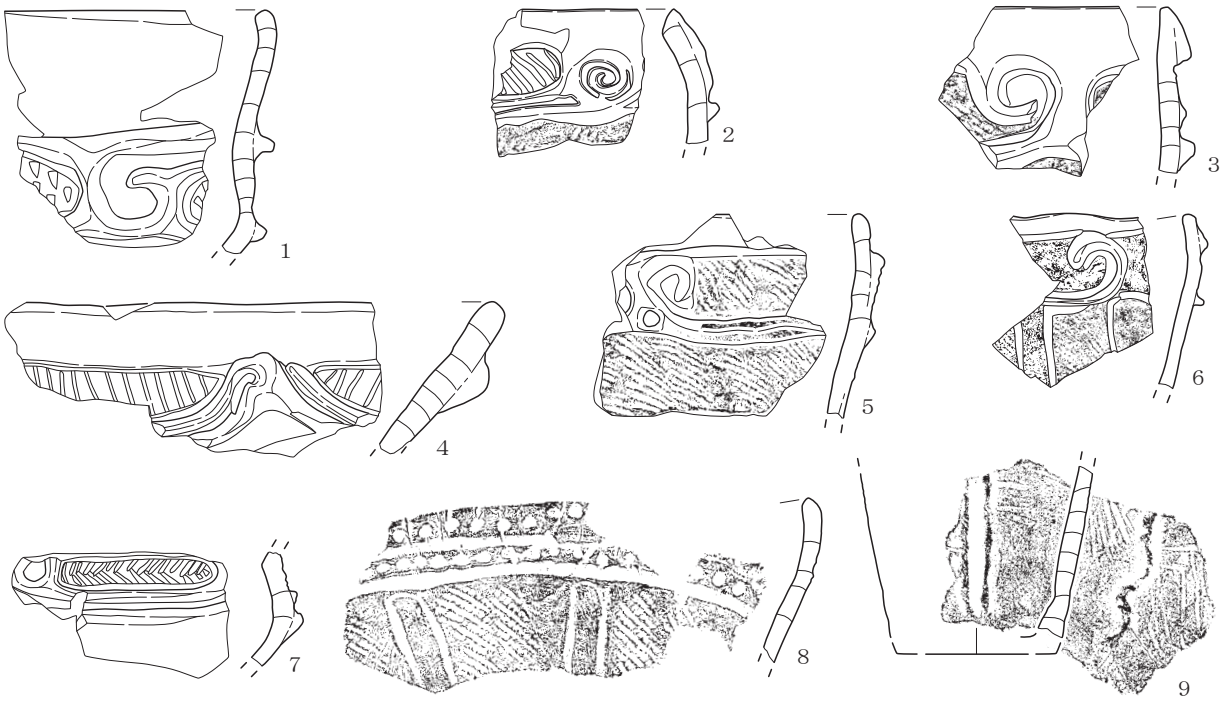
0　1：4　10cm



第756図　J－8号住居址（3）

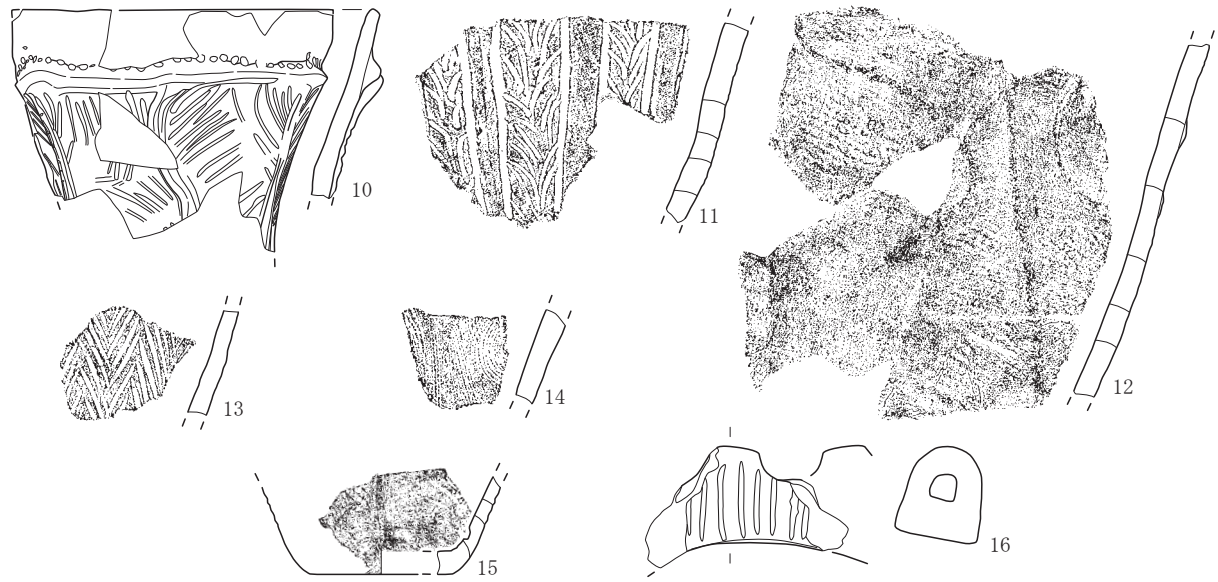
0　1：4　10cm

第757図　J－9号住居址

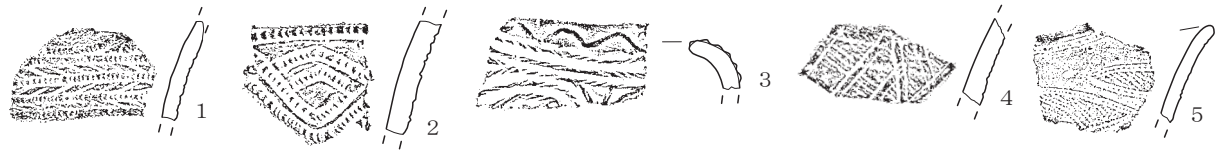


第758図　J－10a号住居址（1）

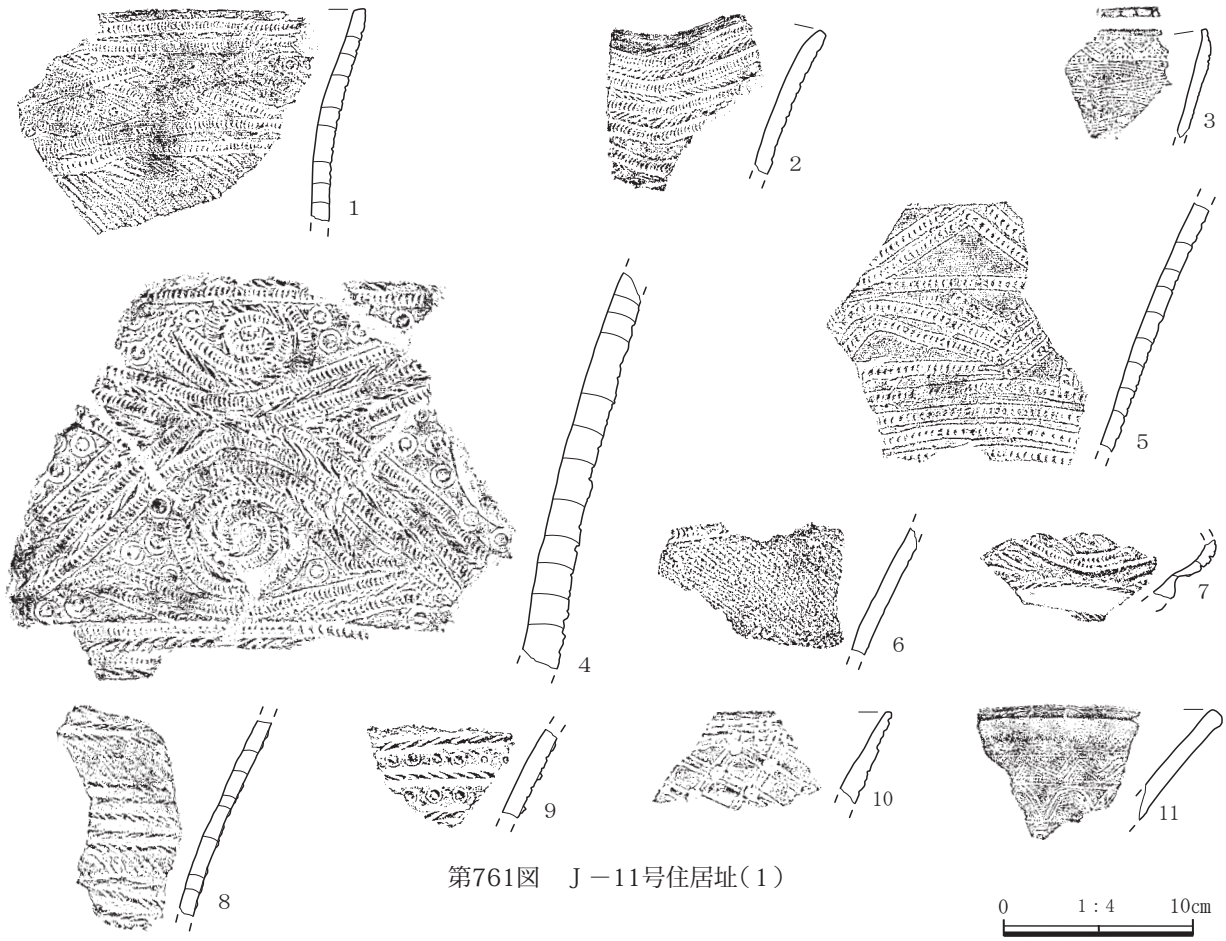
0　1：4　10cm



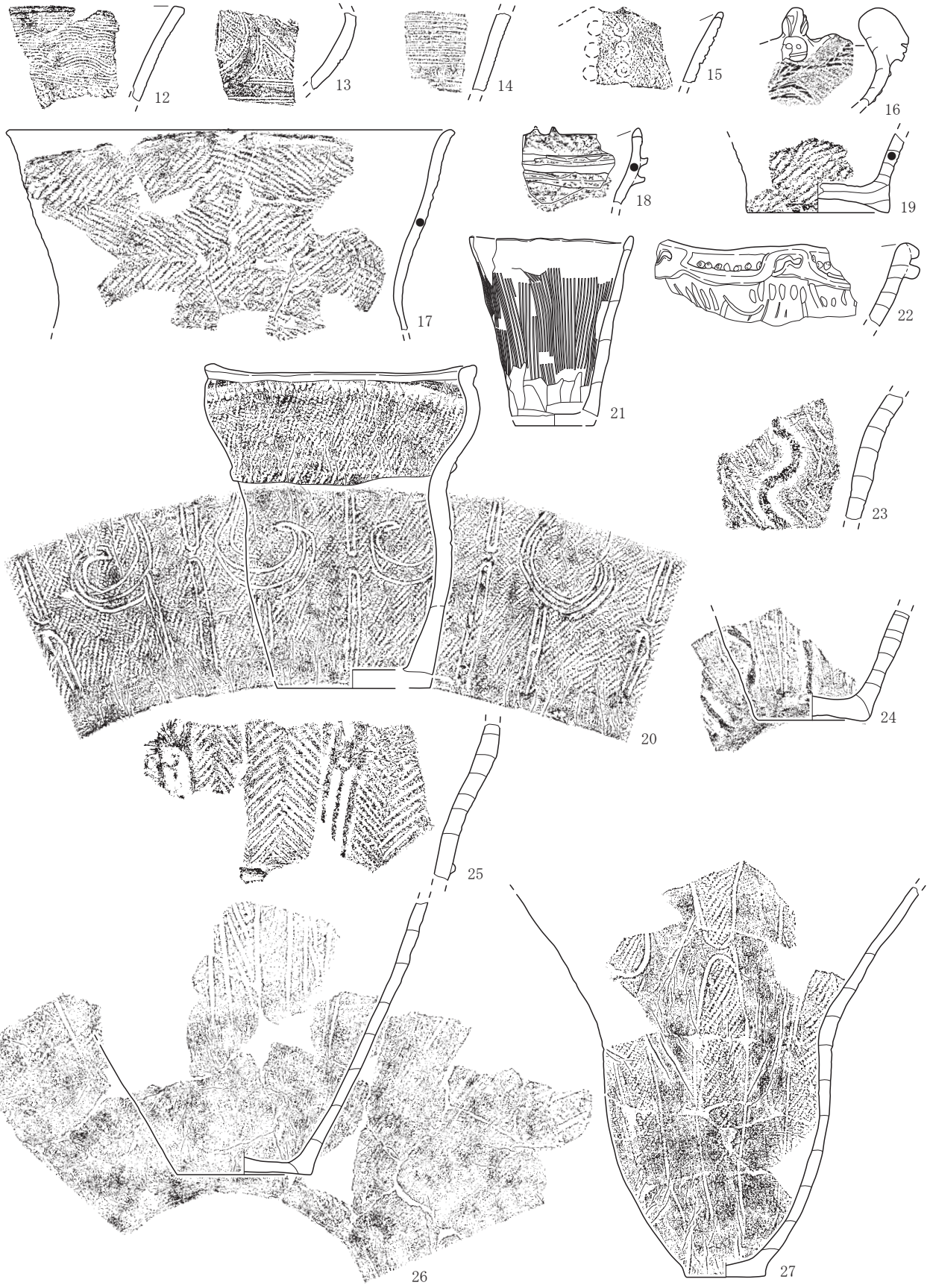
第759図　J－10a号住居址（2）



第760図　J－10b号住居址

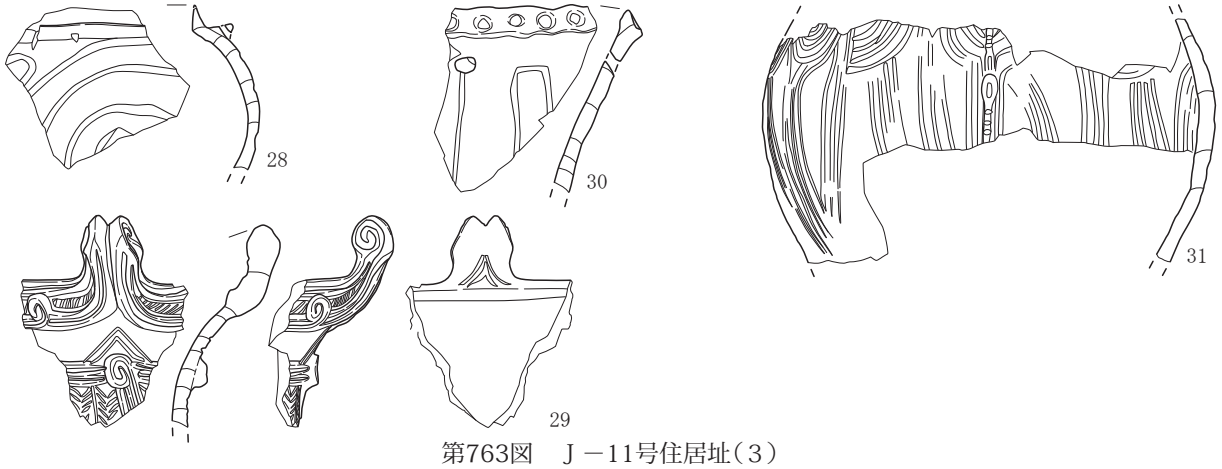


第761図　J－11号住居址（1）



第762図　J－11号住居址（2）

0　1：4　10cm



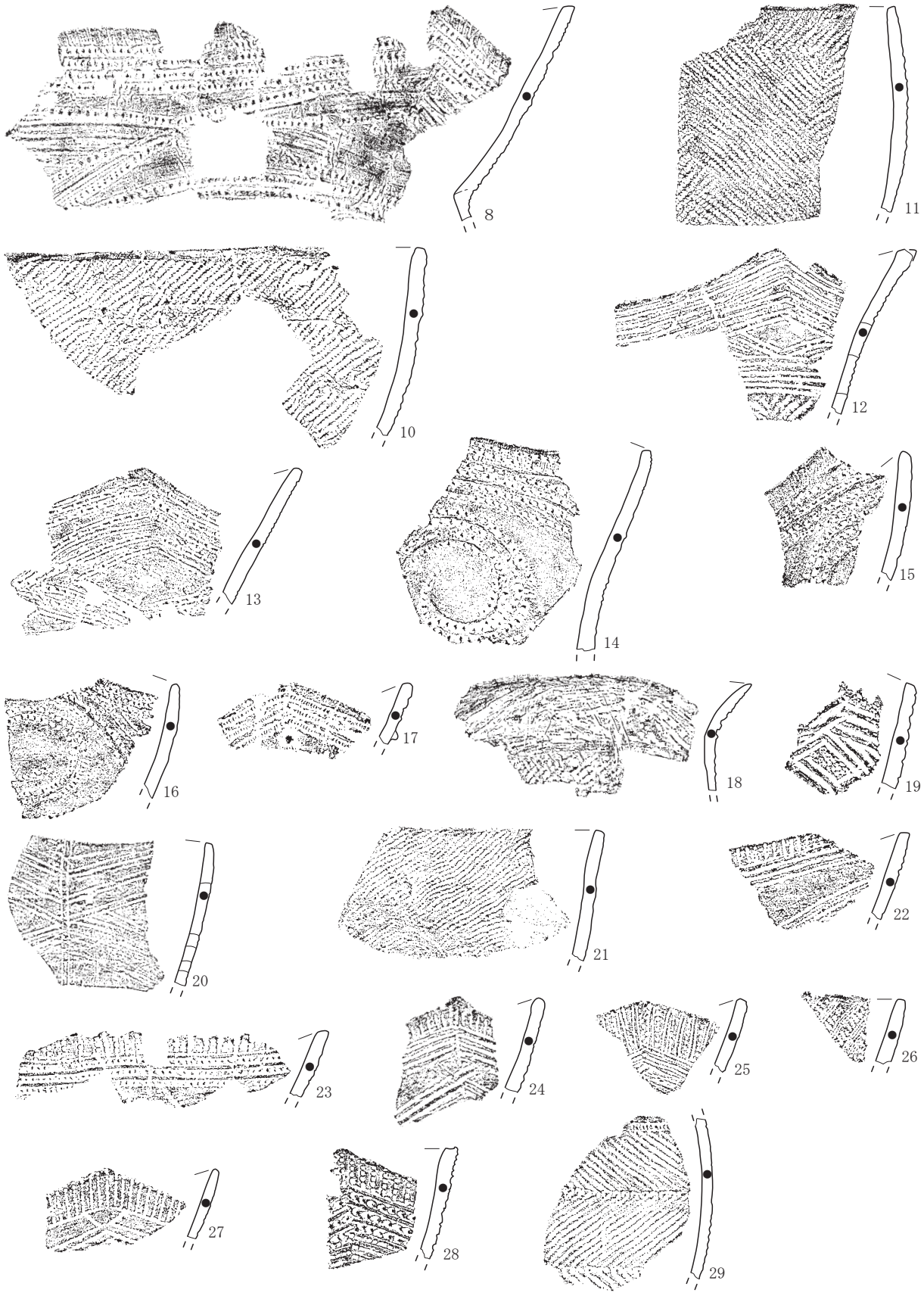
第763図　J－11号住居址（3）

第764図　J－12号住居址（1）

0　1：4　10cm

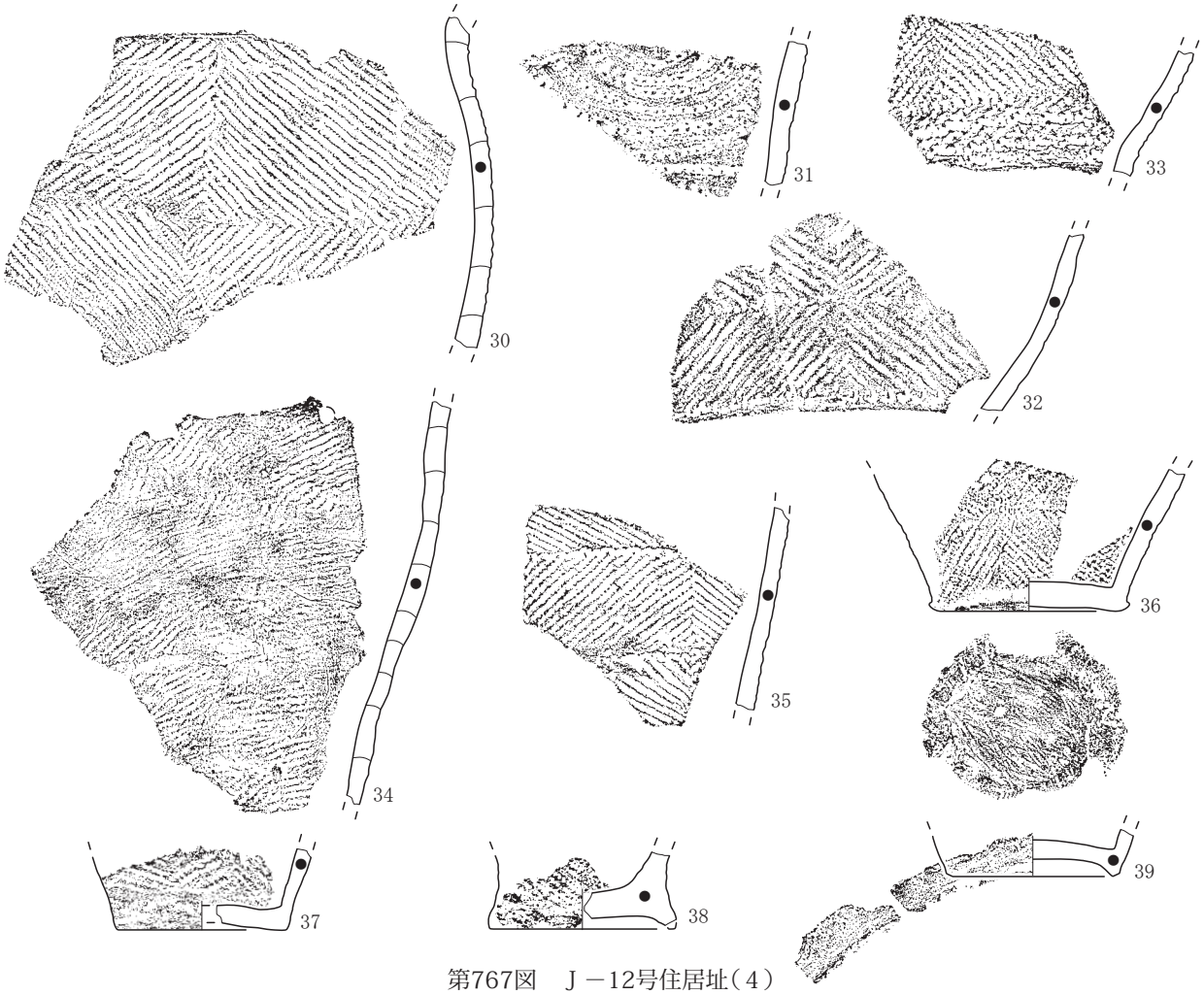
第765図　J－12号住居址（2）

0　1：4　10cm

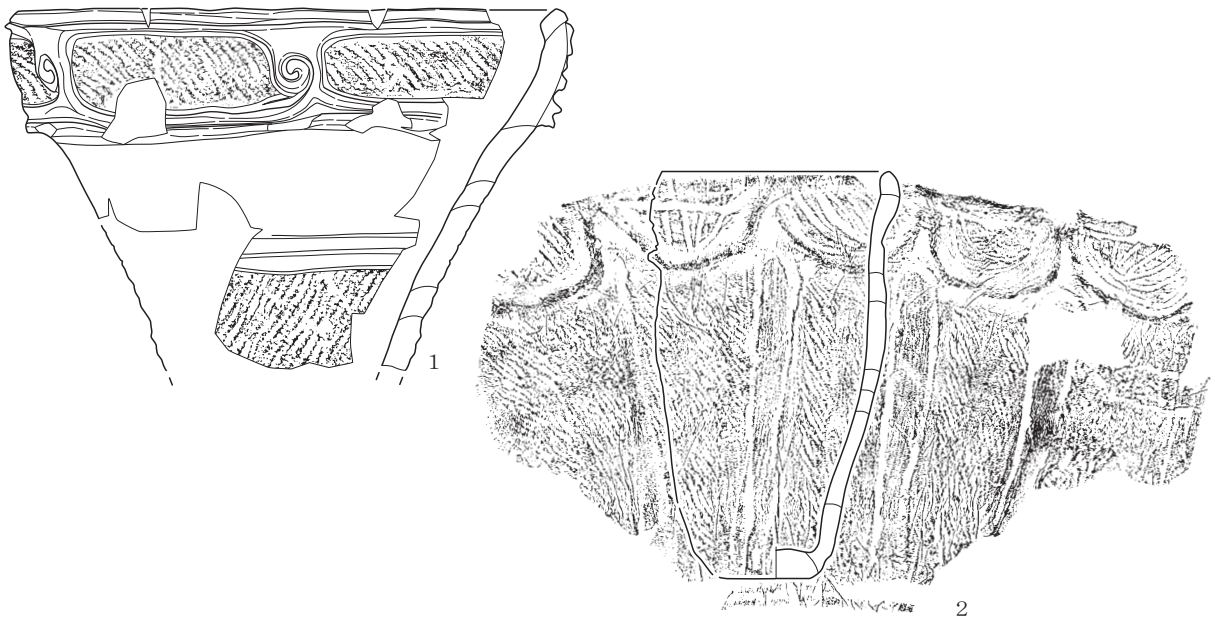


第766図　J－12号住居址（3）

0　1：4　10cm

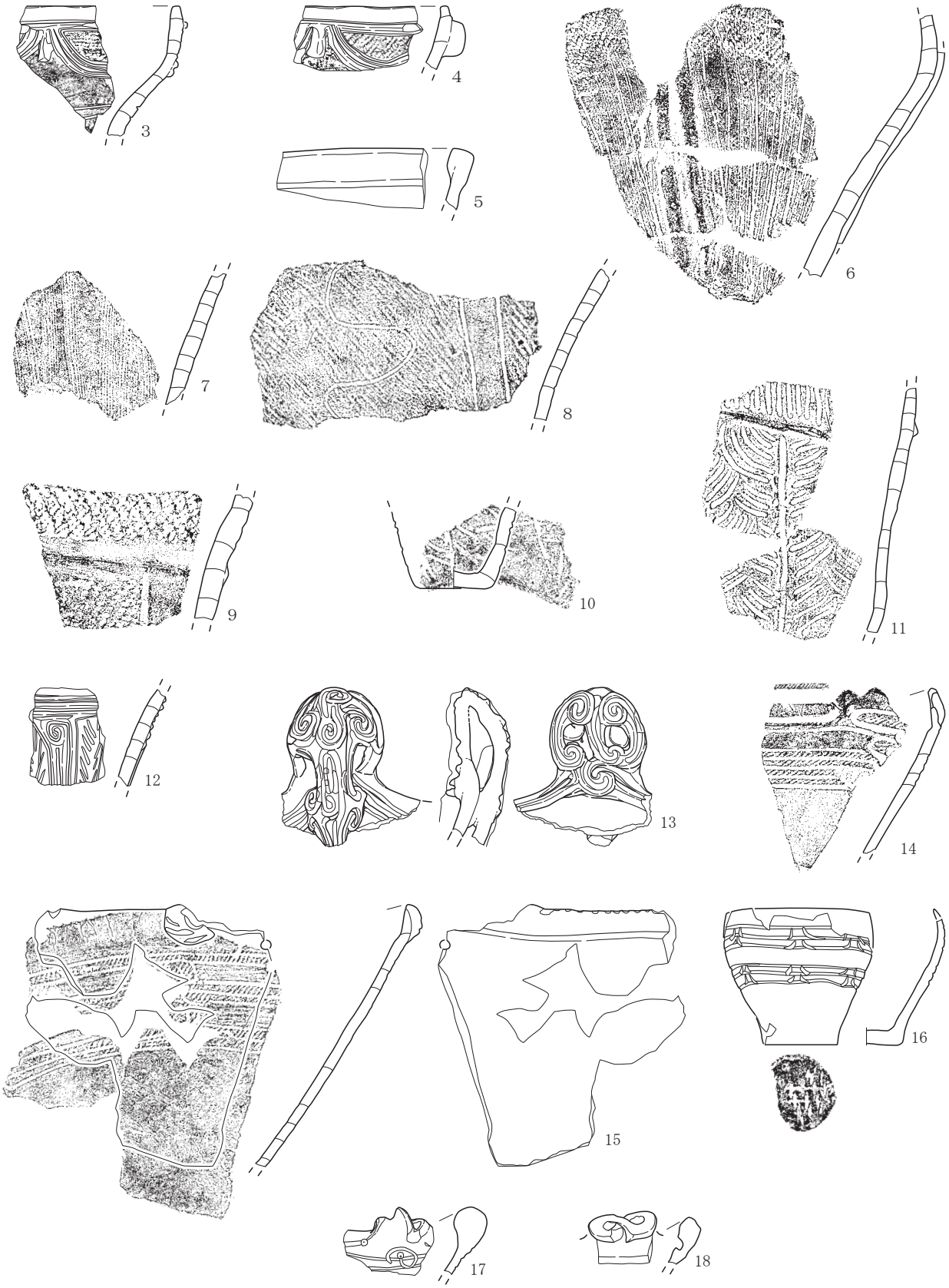


第767図　J－12号住居址（4）



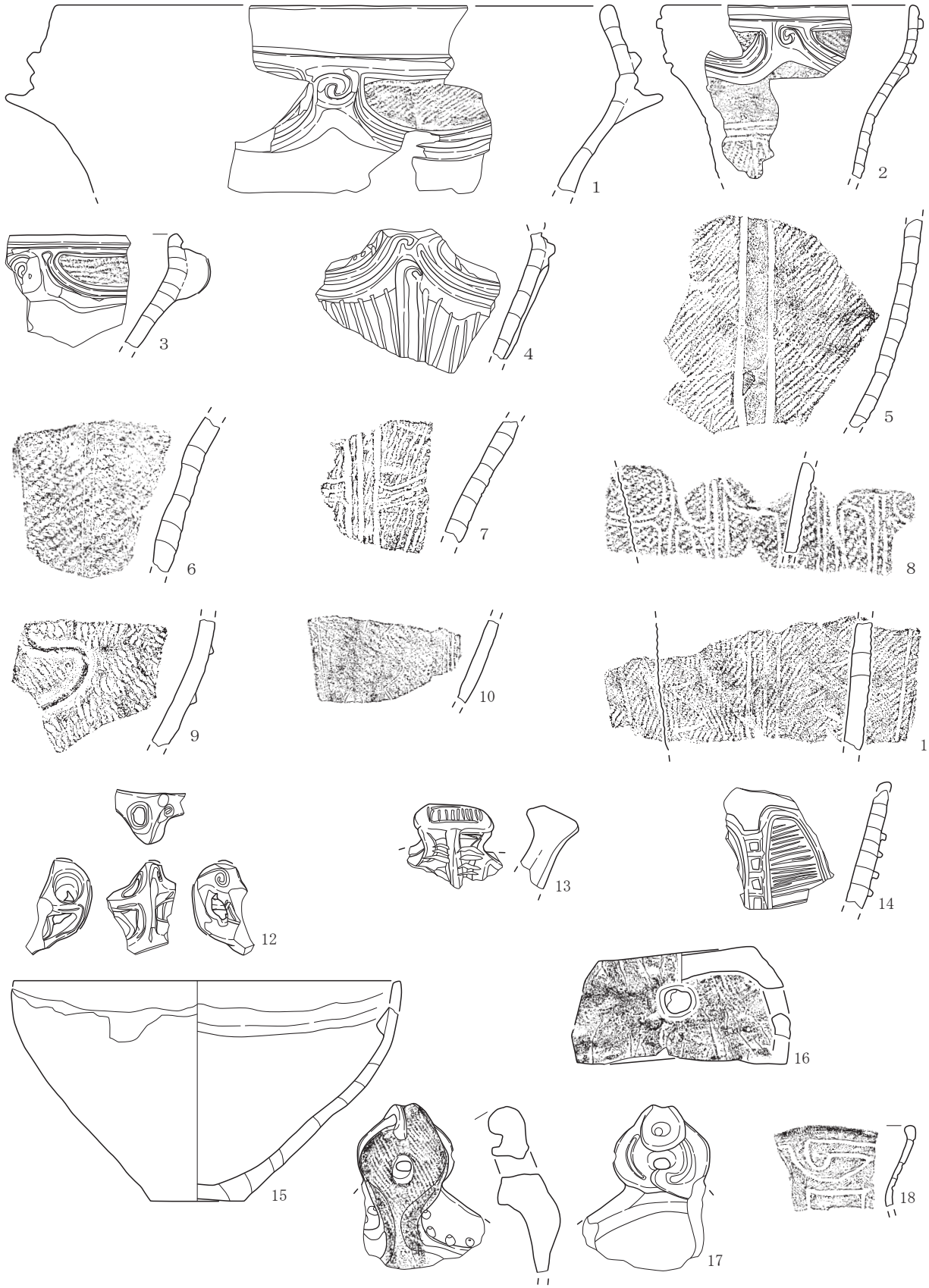
第768図　J－13号住居址（1）

0　1：4　10cm



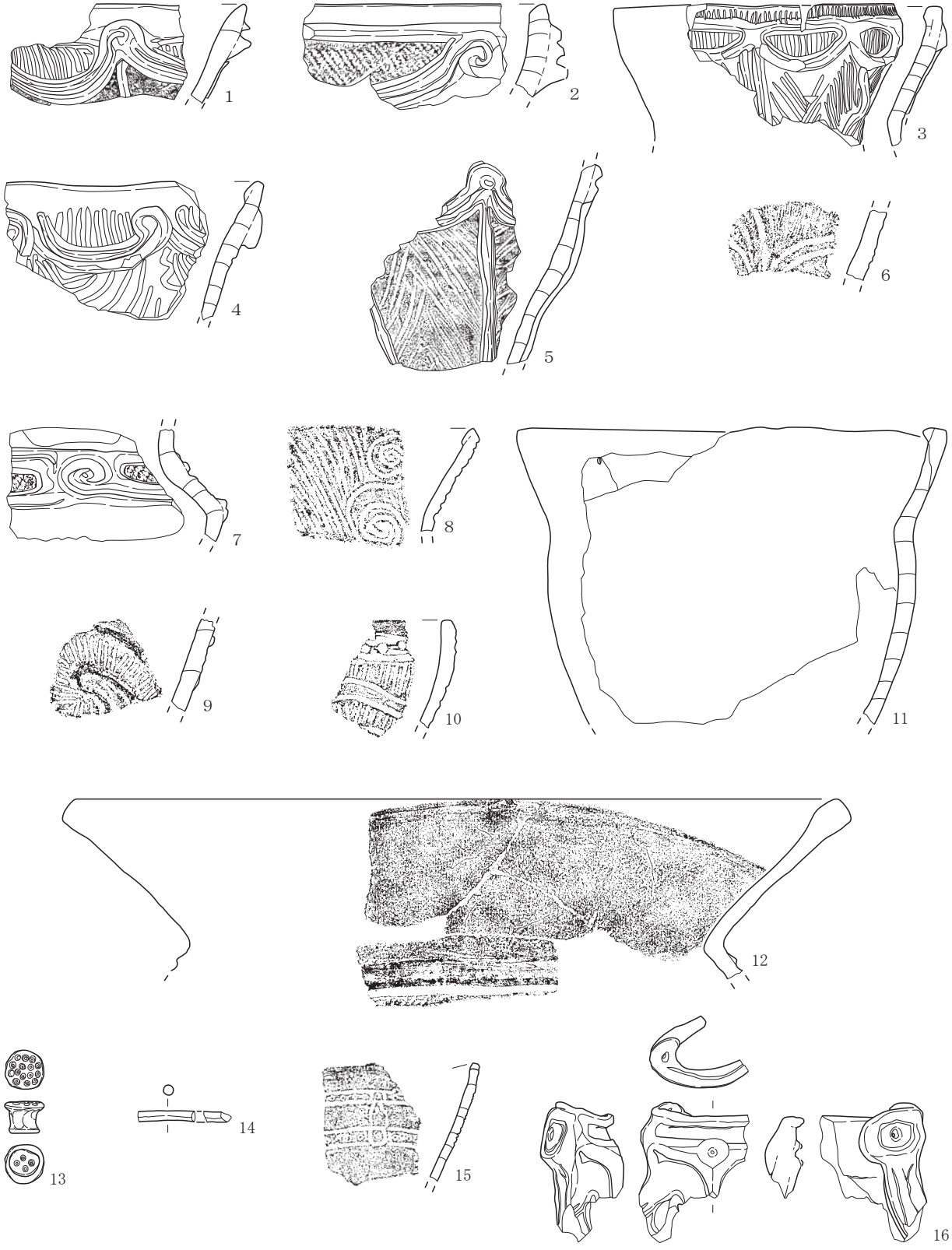
第769図　J－13号住居址（2）

0　1：4　10cm



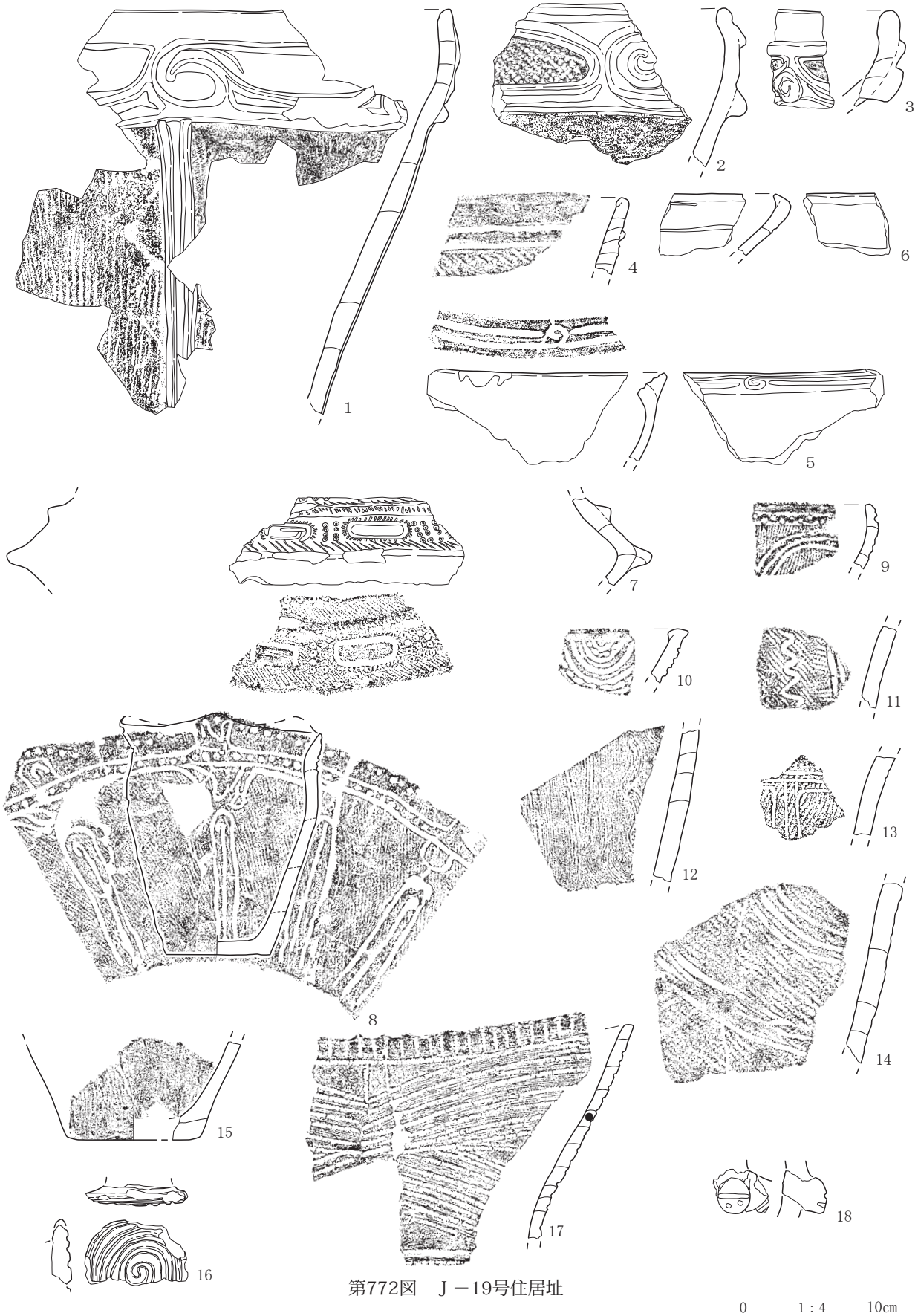
第770図　J－16号住居址

0　1：4　10cm

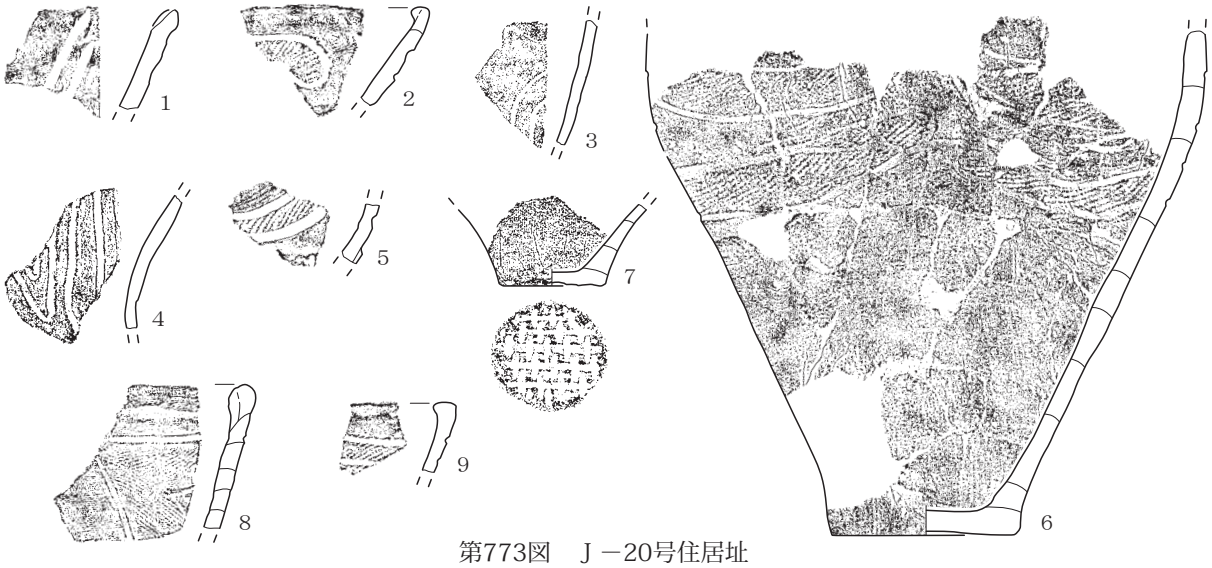


第771図　J－17号住居址

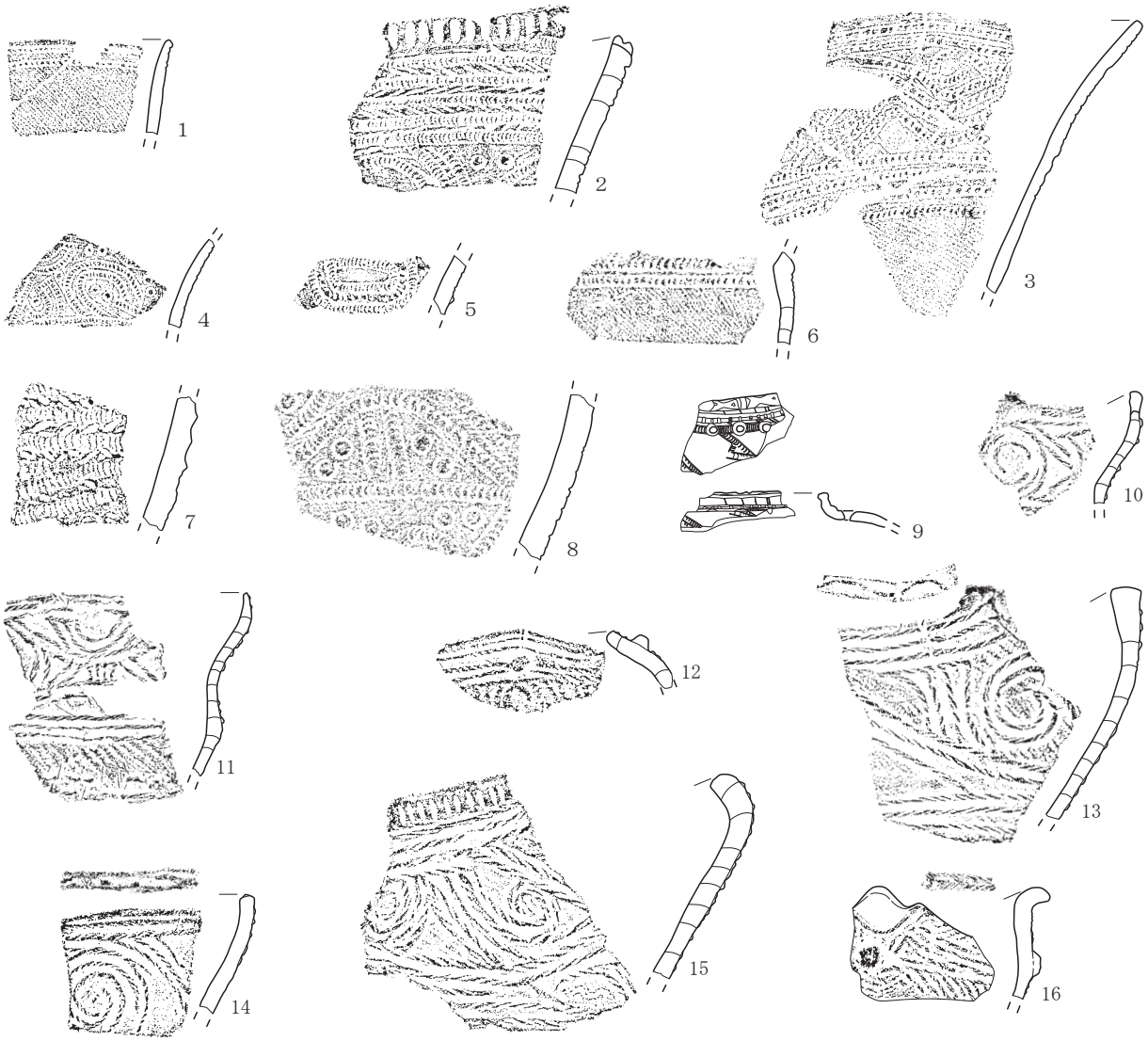
0　1：4　10cm



第772図　J－19号住居址

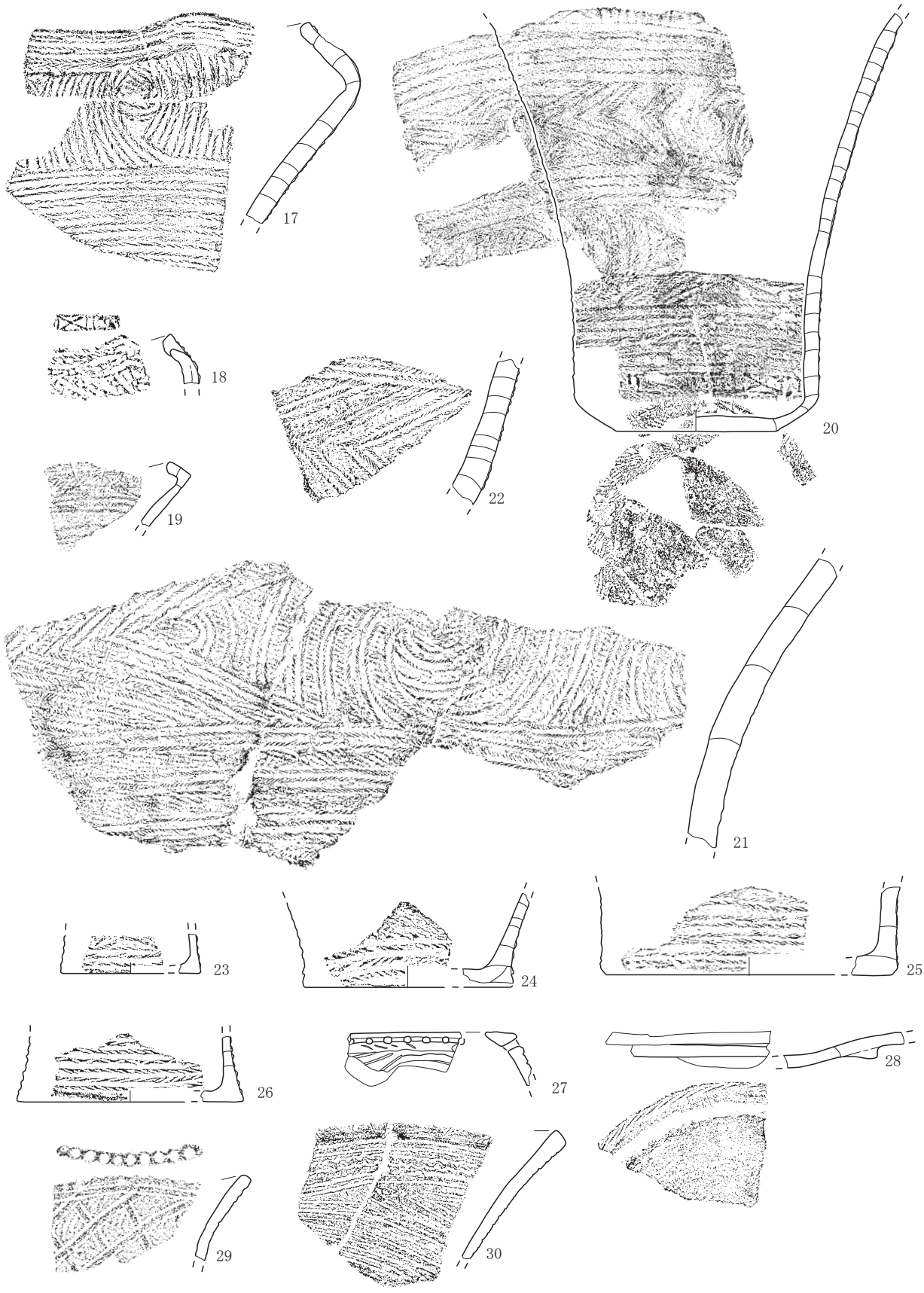


第773図　J－20号住居址



第774図　J－22号住居址（1）

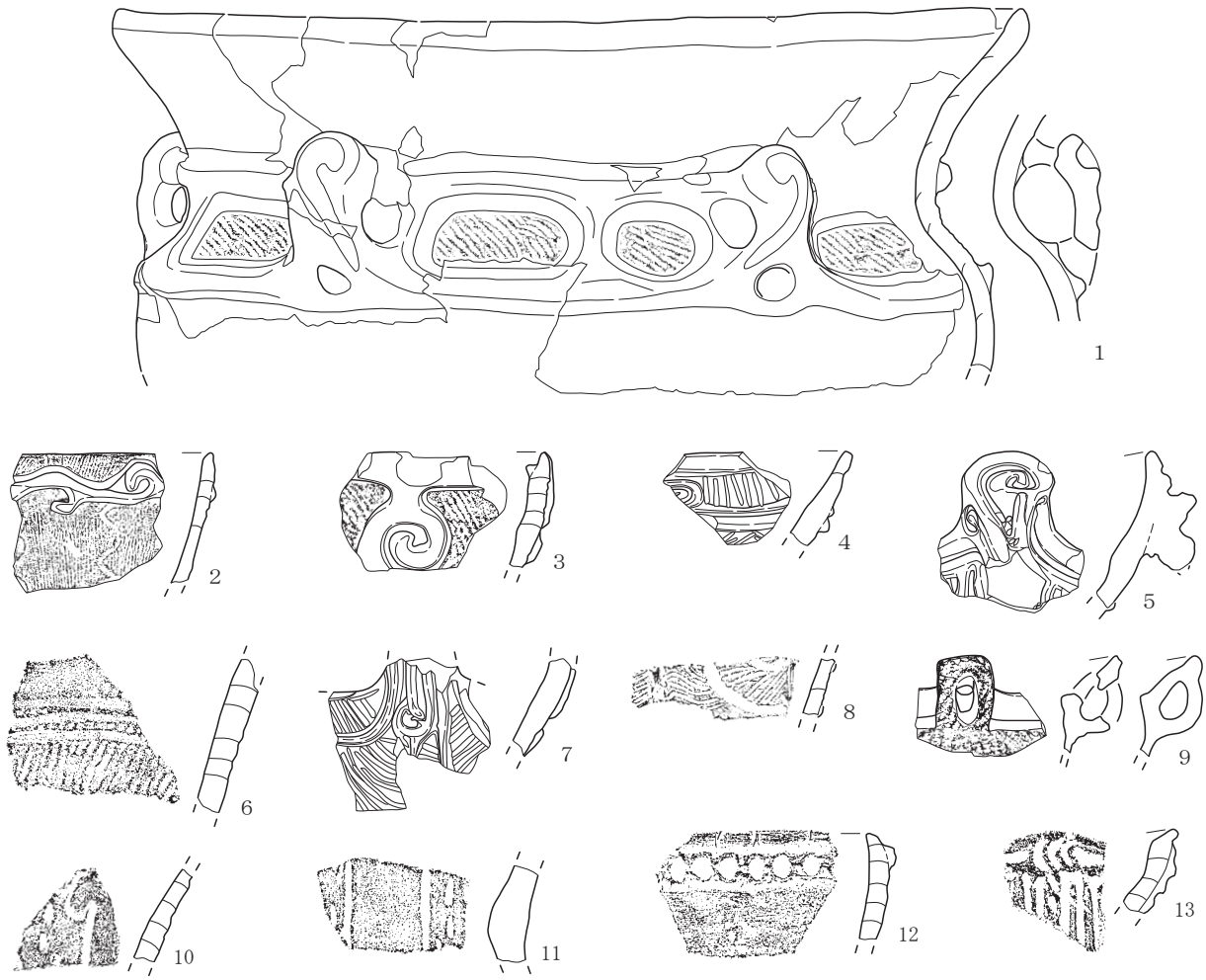
0　1：4　10cm



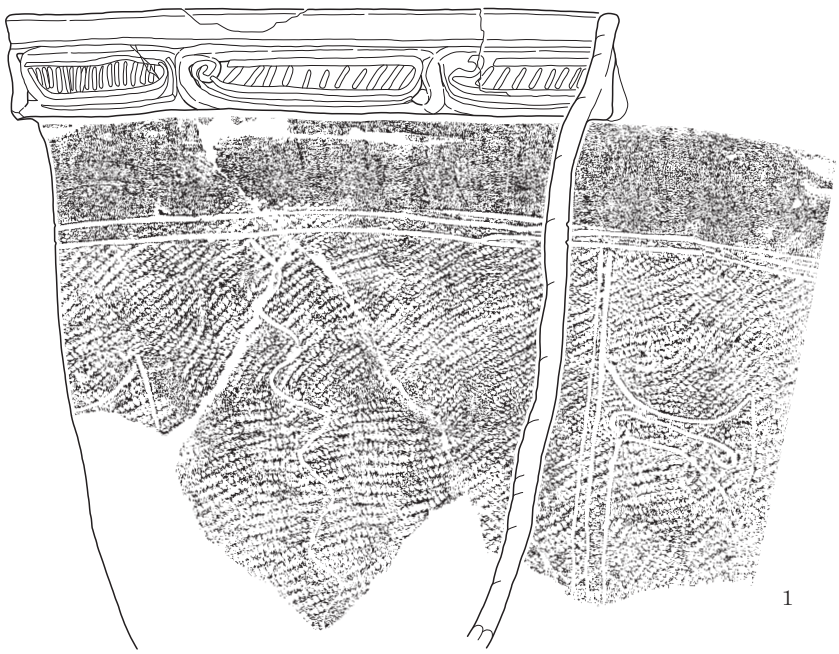
第775図　J－22号住居址（2）

0　1：4　10cm

第776図　J－22号住居址（3）

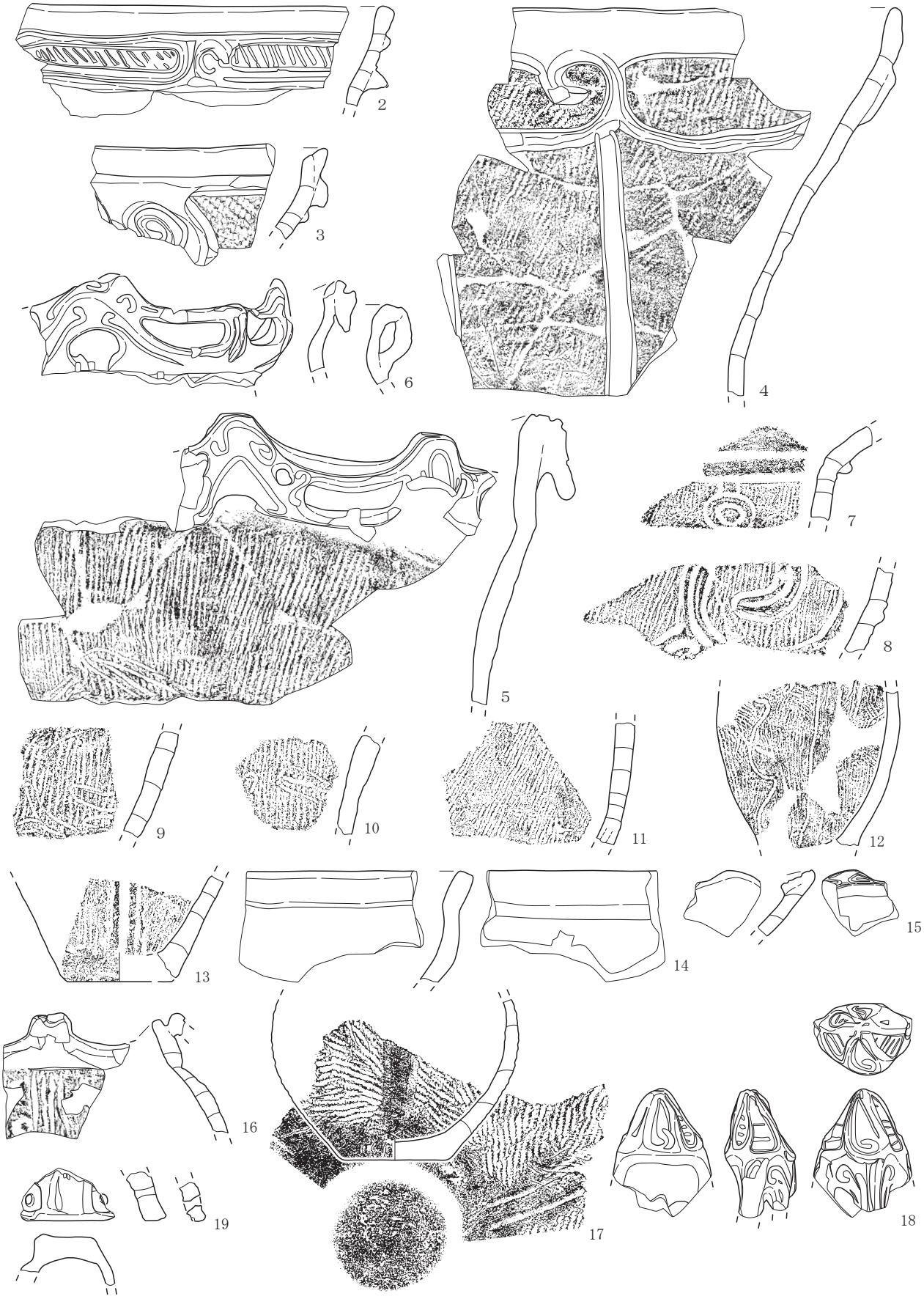


第777図　J－23号住居址



第778図　J－23号住居址周辺（1）

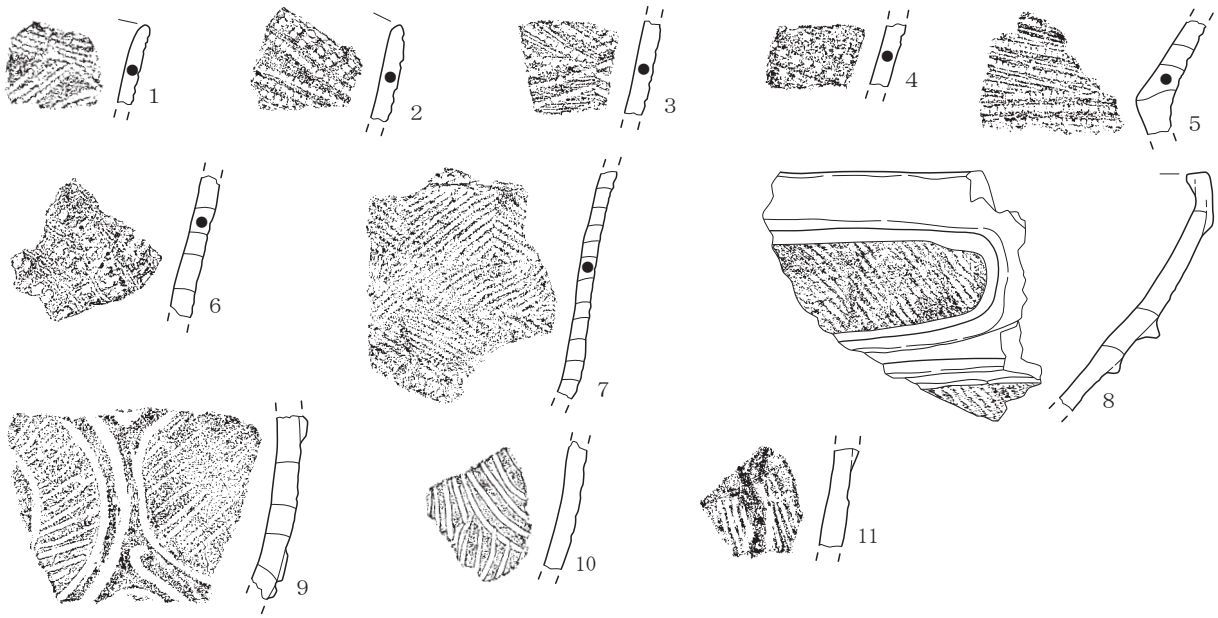
0　1：4　10cm



第779図　J－23号住居址周辺（2）

0　1：4　10cm

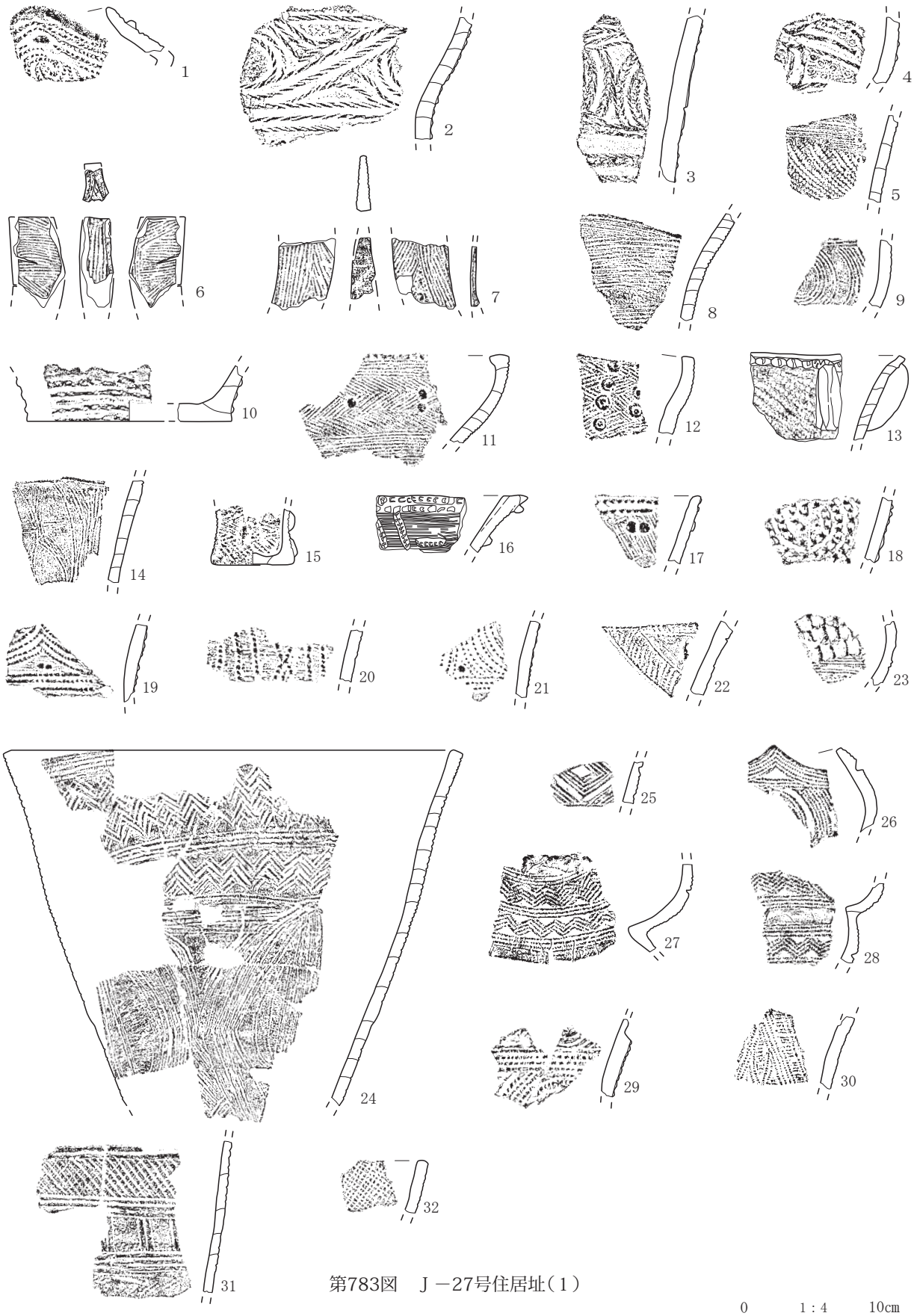
第780図　J－25号住居址



第781図　J－26号住居址

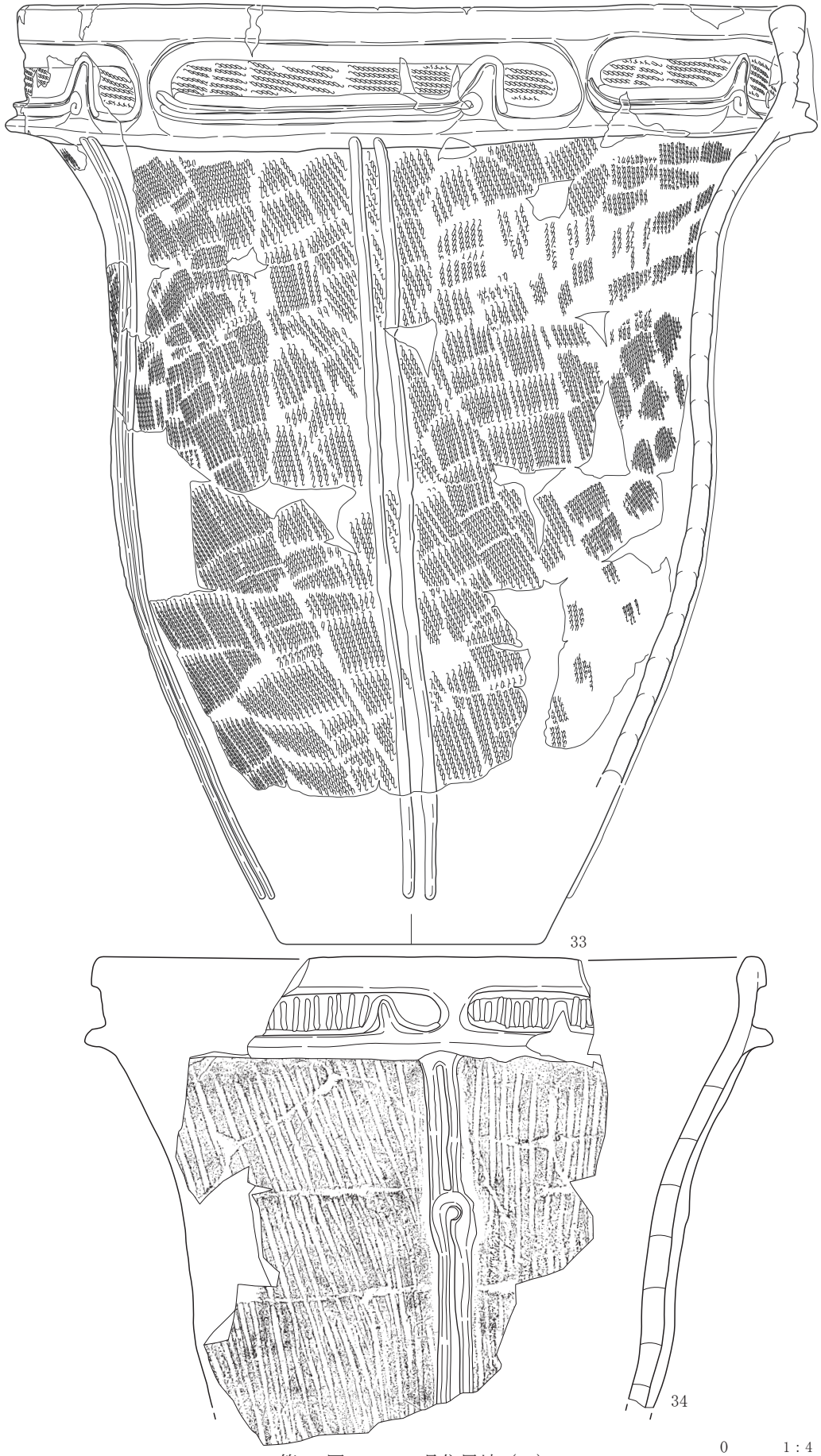
第782図　J－27b号住居址

0　1：4　10cm



第783図　J－27号住居址（1）

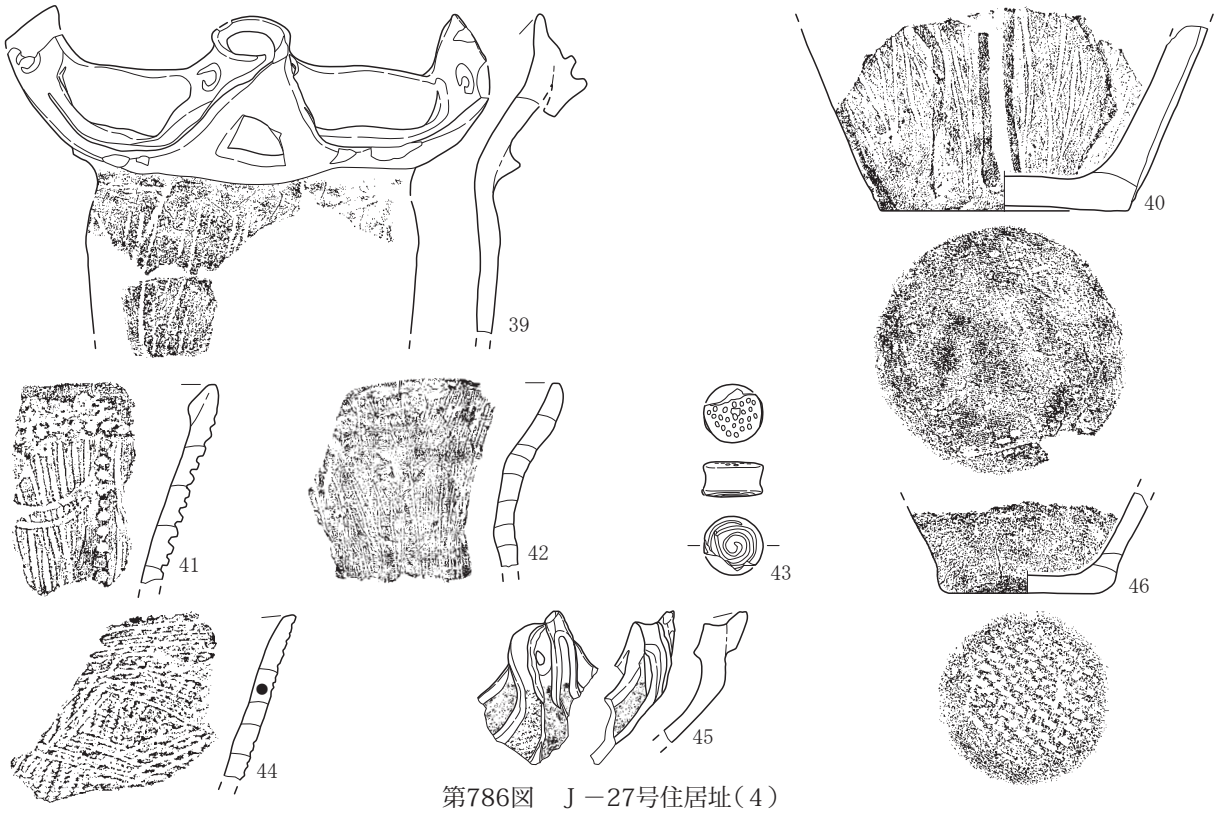
0　1：4　10cm



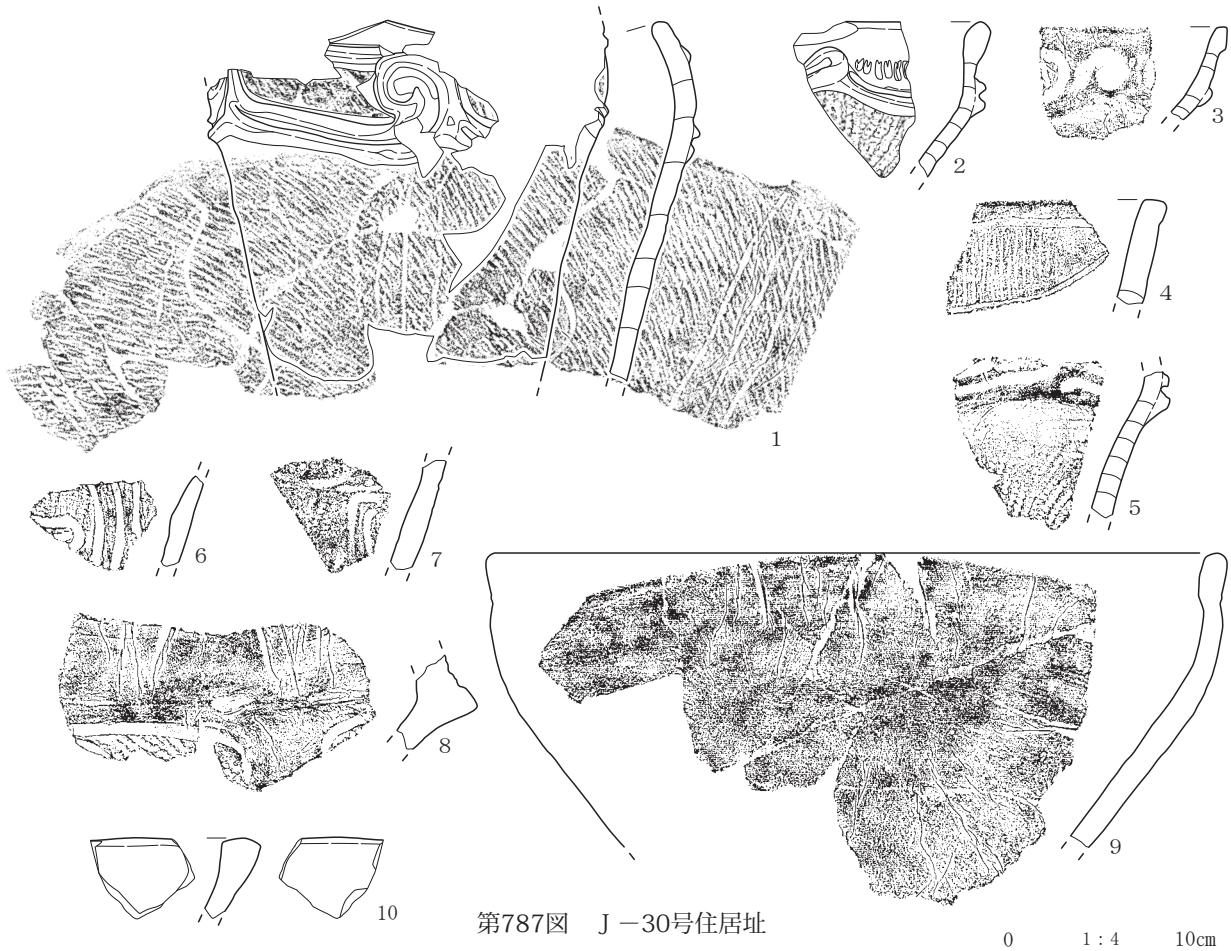
第784図　J－27号住居址（2）

第785図　J－27号住居址（3）

0　1：4　10cm



第786図　J－27号住居址（4）

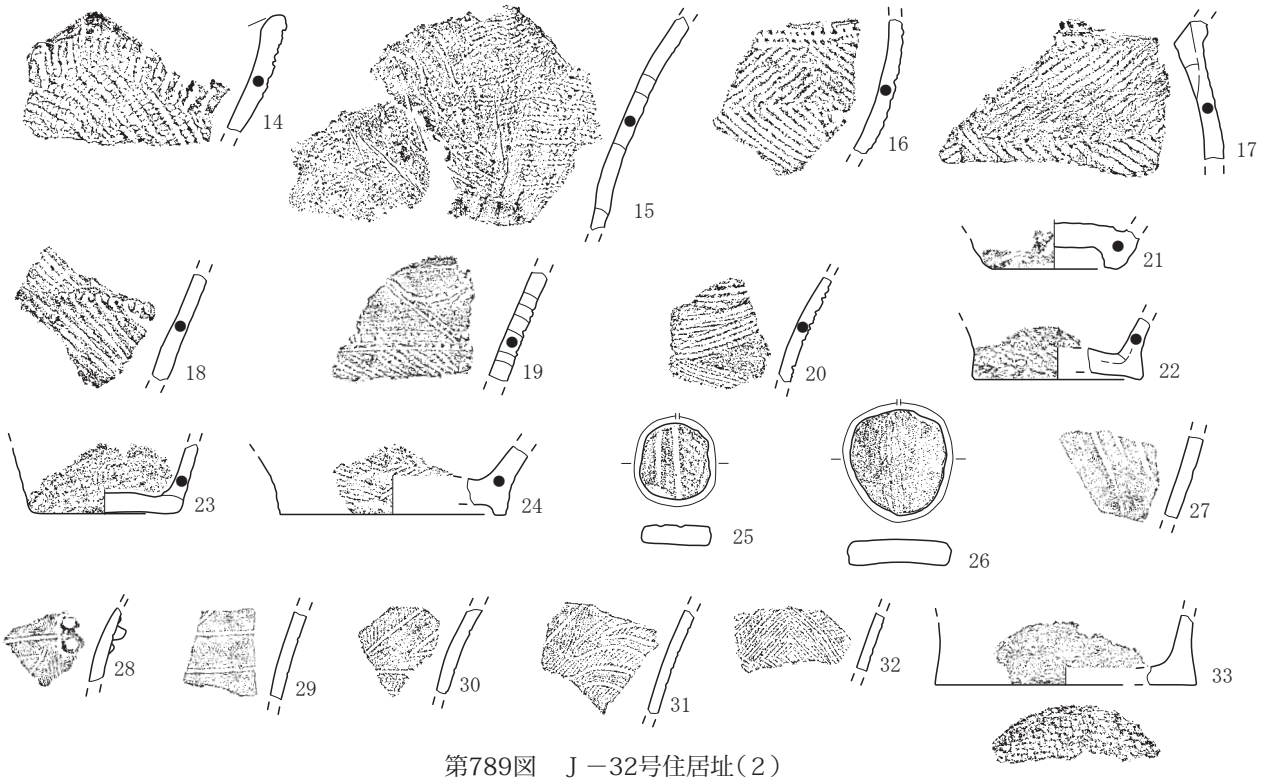


第787図　J－30号住居址

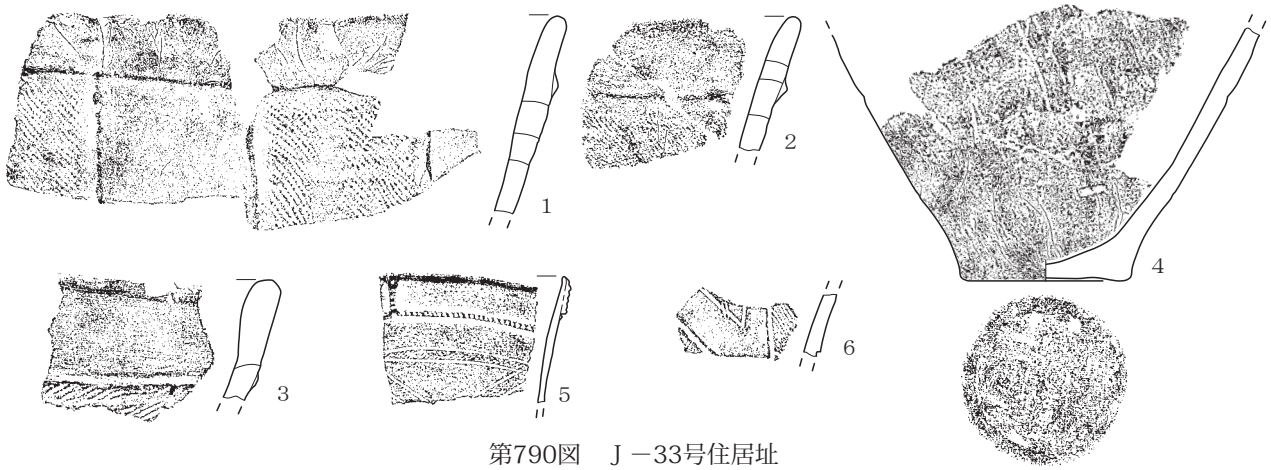
0　1：4　10cm

第788図　J－32号住居址（1）

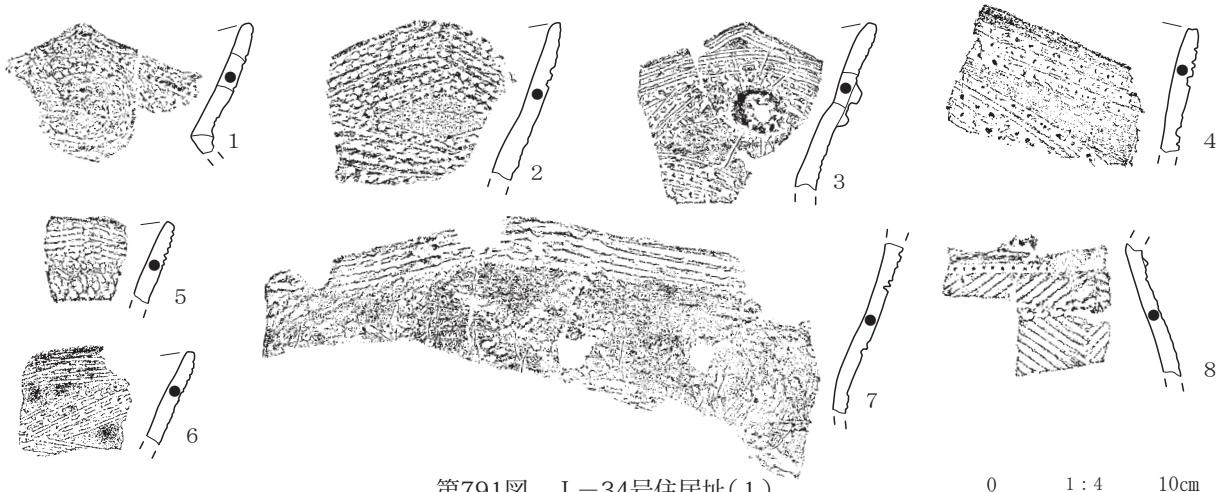
0　1：4　10cm



第789図　J－32号住居址（2）

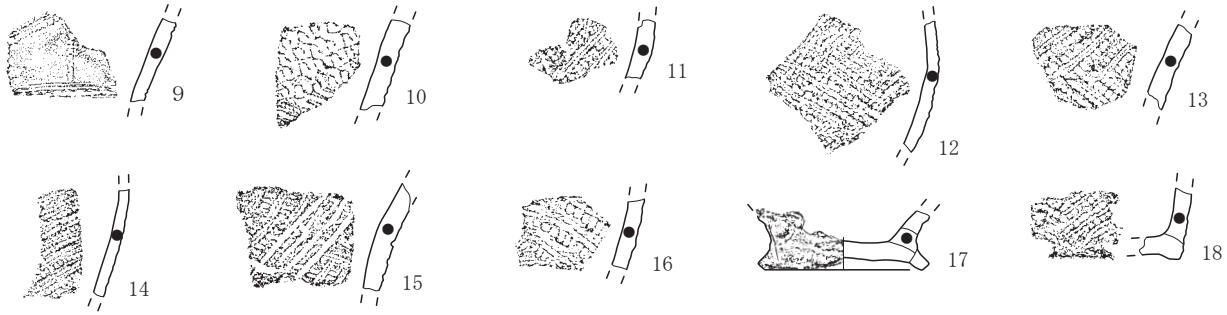


第790図　J－33号住居址

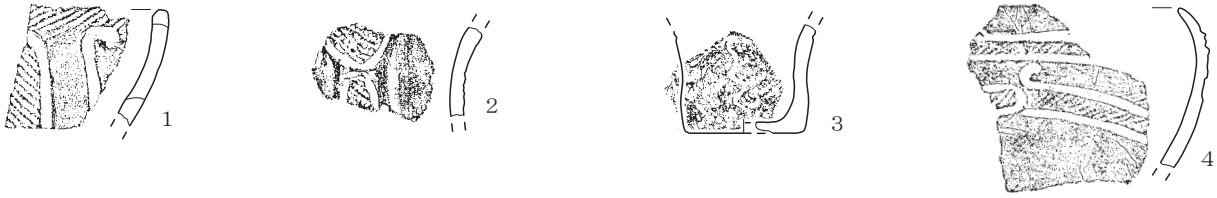


第791図　J－34号住居址（1）

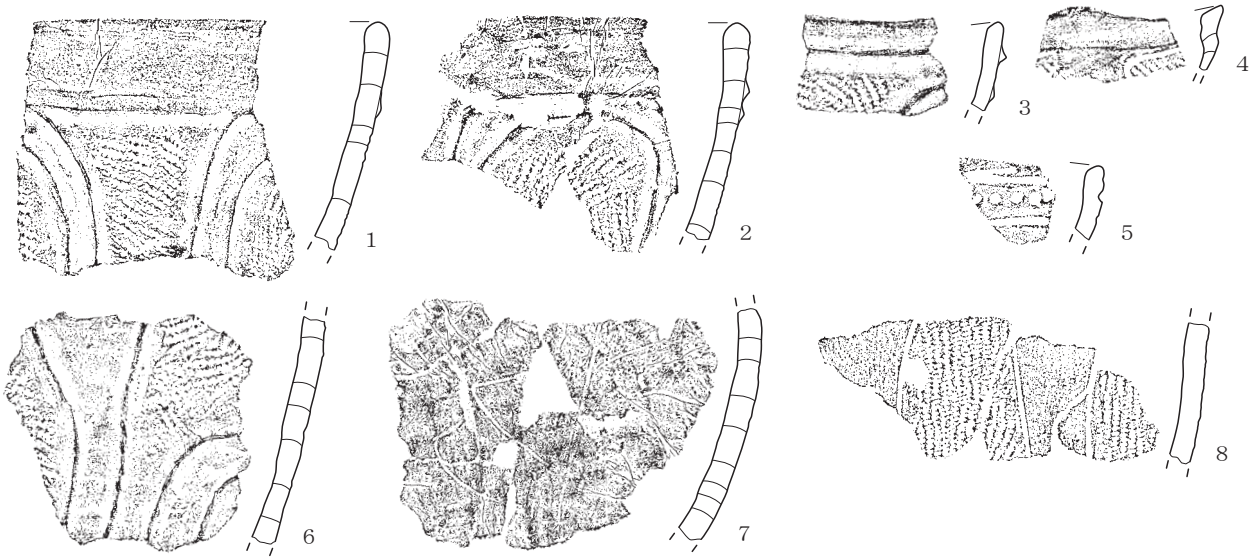
0　1：4　10cm



第792図　J－34号住居址（2）

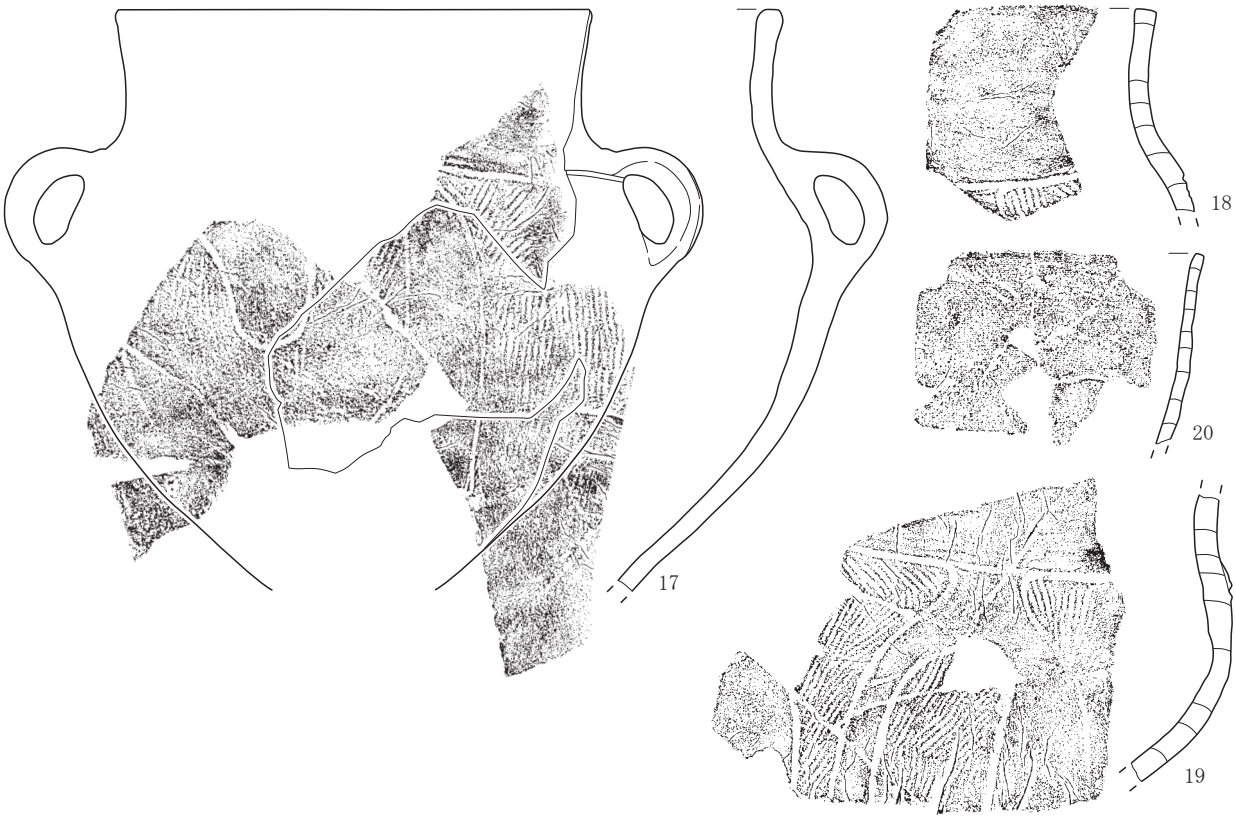


第793図　J－35号住居址

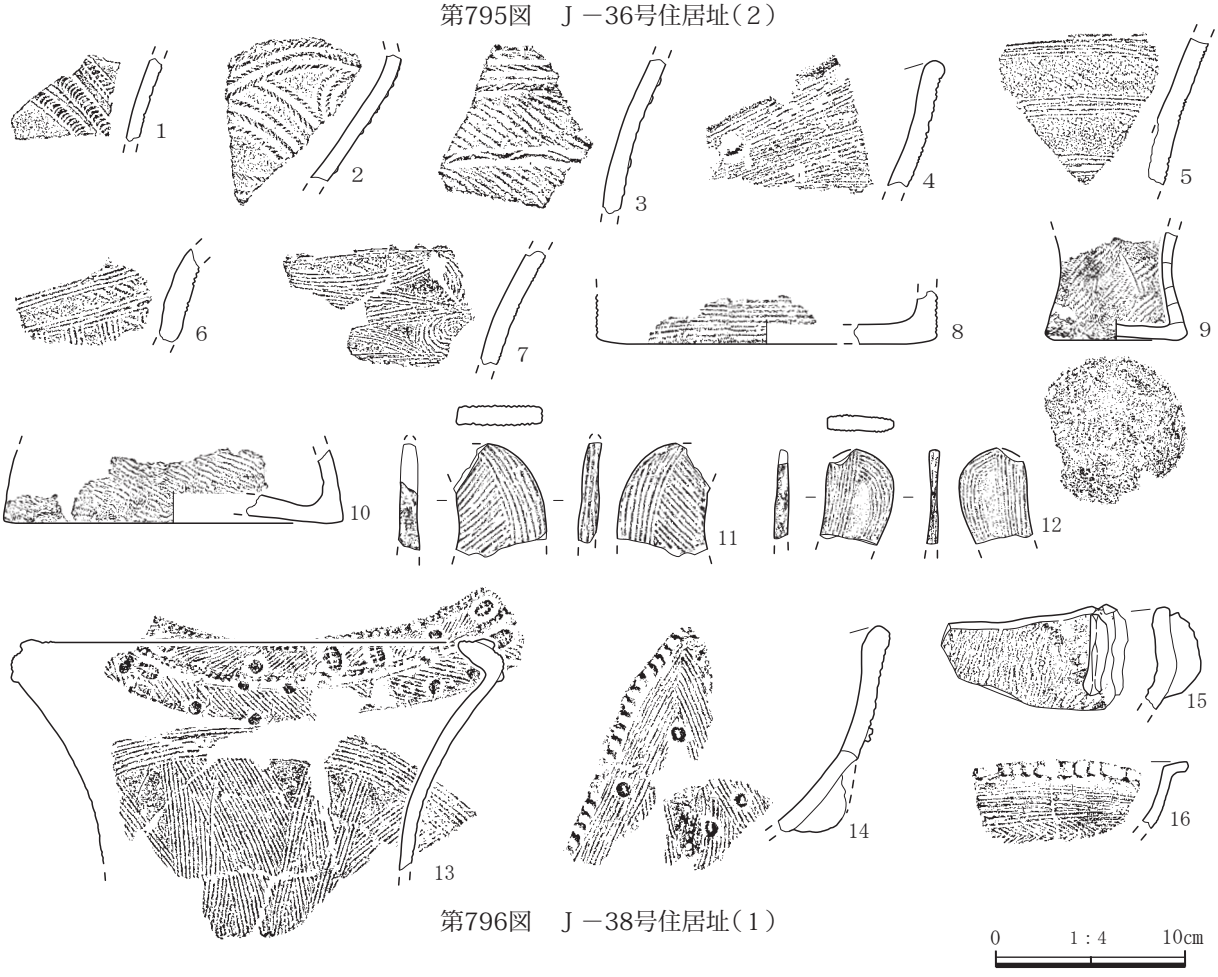


第794図　J－36号住居址（1）

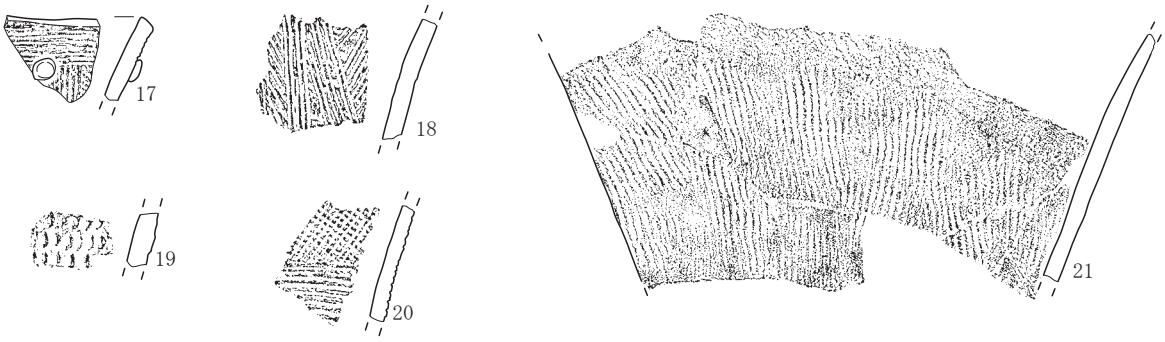
0　1：4　10cm



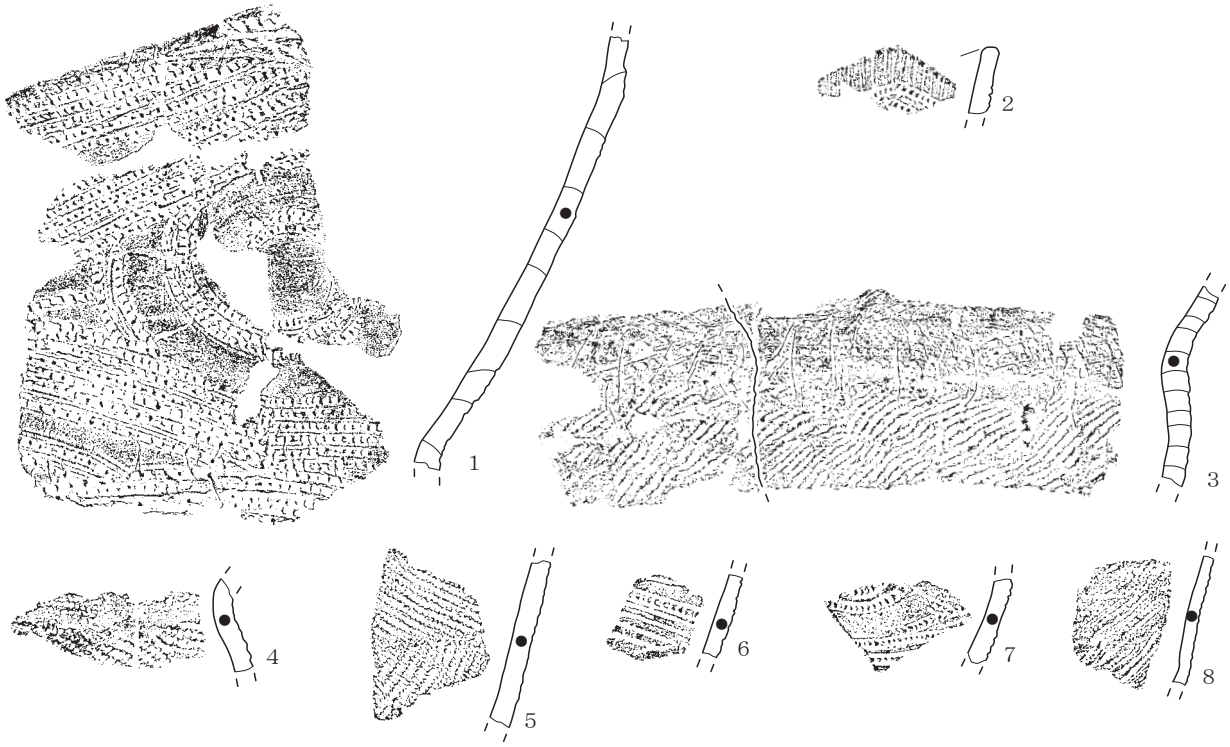
第795図　J－36号住居址（2）



第796図　J－38号住居址（1）



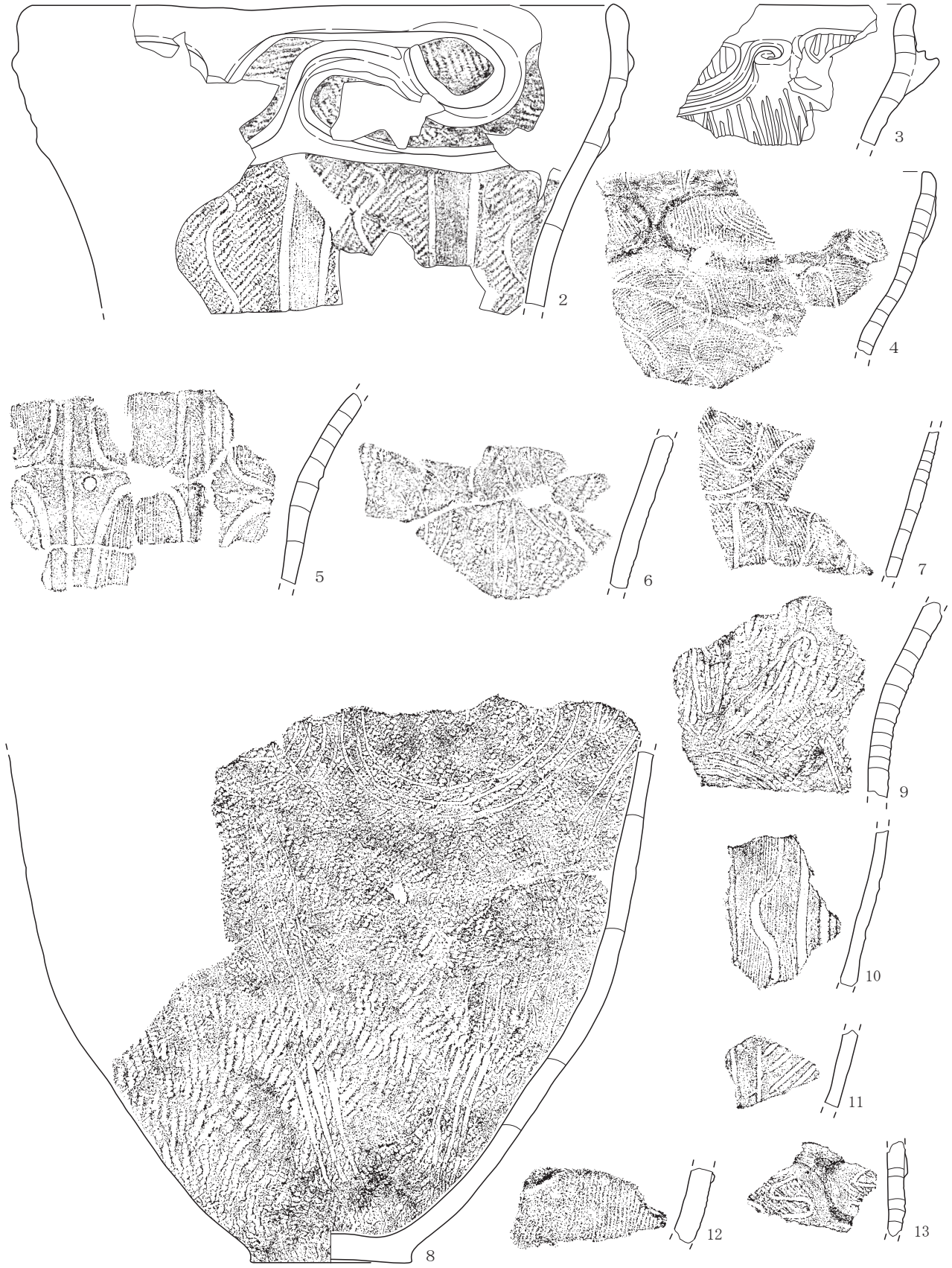
第797図　J－38号住居址（2）



第798図　J－39号住居址

第799図　J－41号住居址（1）

0　1：4　10cm

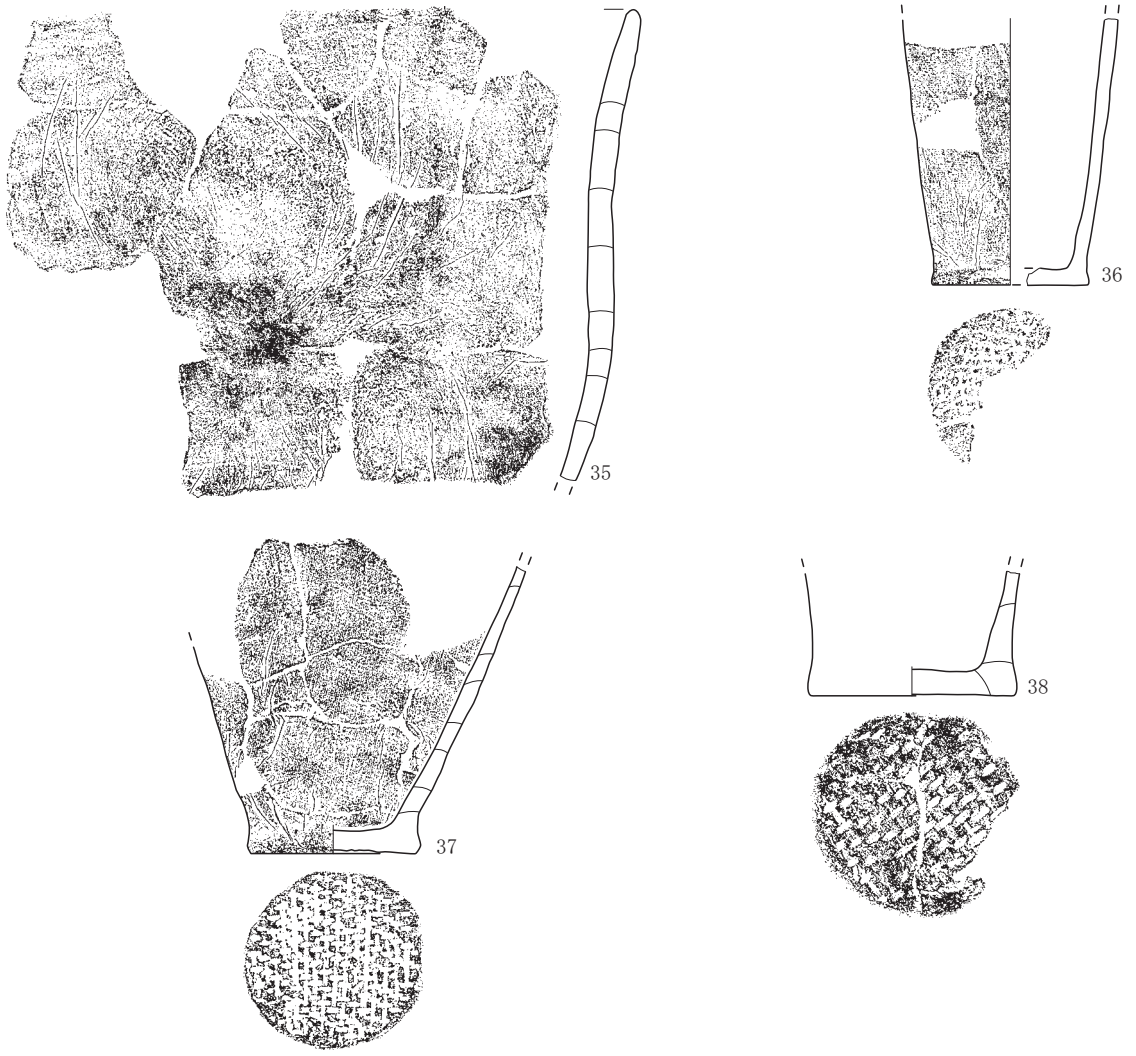


第800図　J－41号住居址（2）

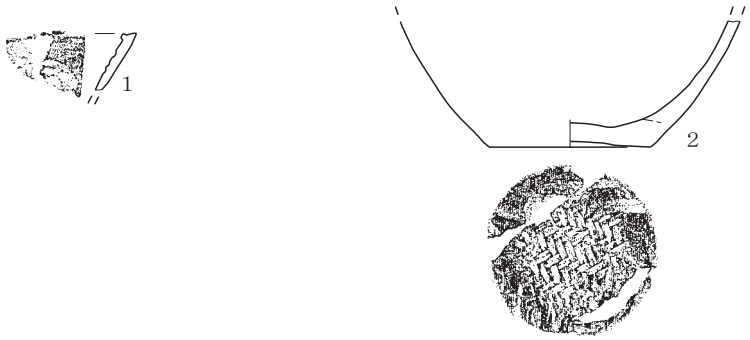
0　1：4　10cm

第801図　J－41号住居址（3）

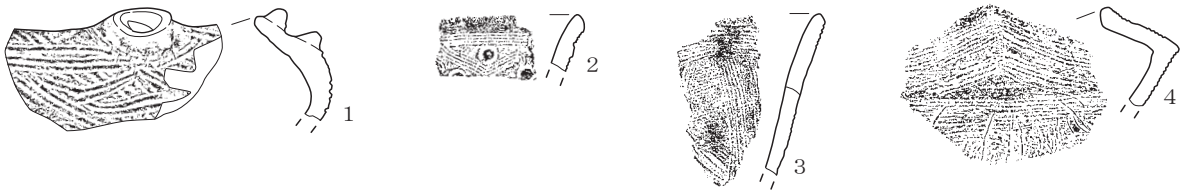
0　1：4　10cm



第802図　J－41号住居址（4）

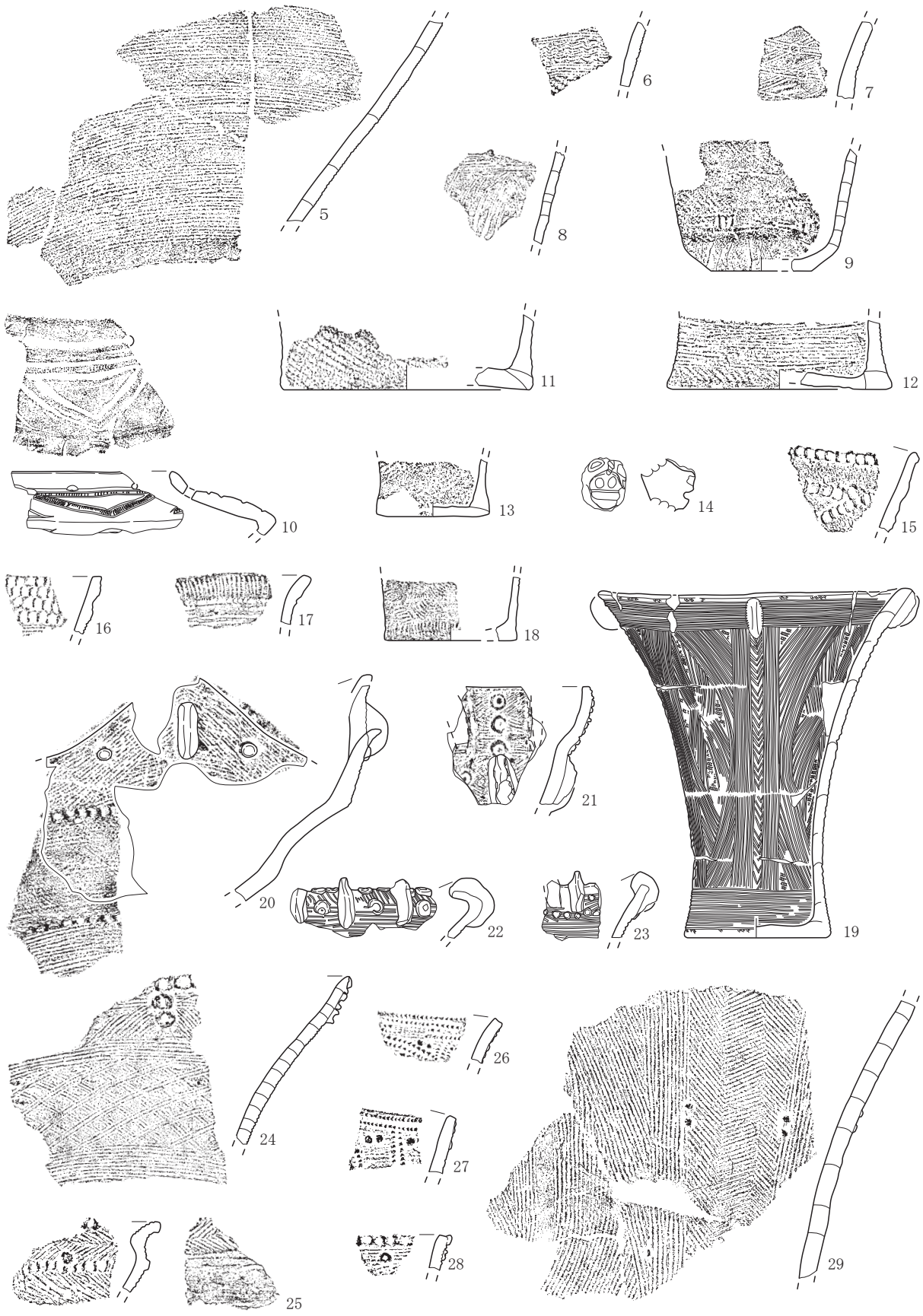


第803図　J－44号住居址

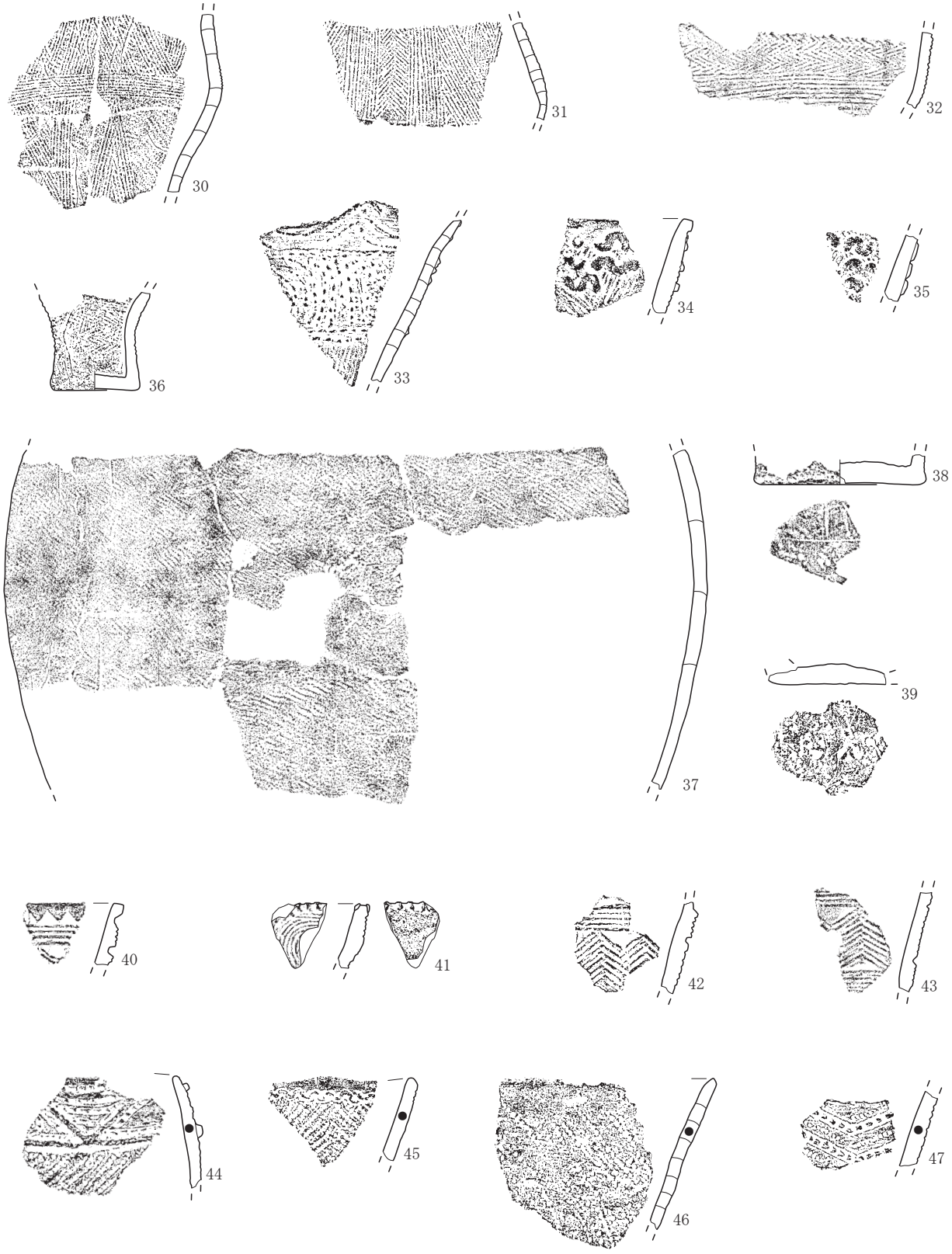


第804図　J－54号住居址（1）

0　1：4　10cm

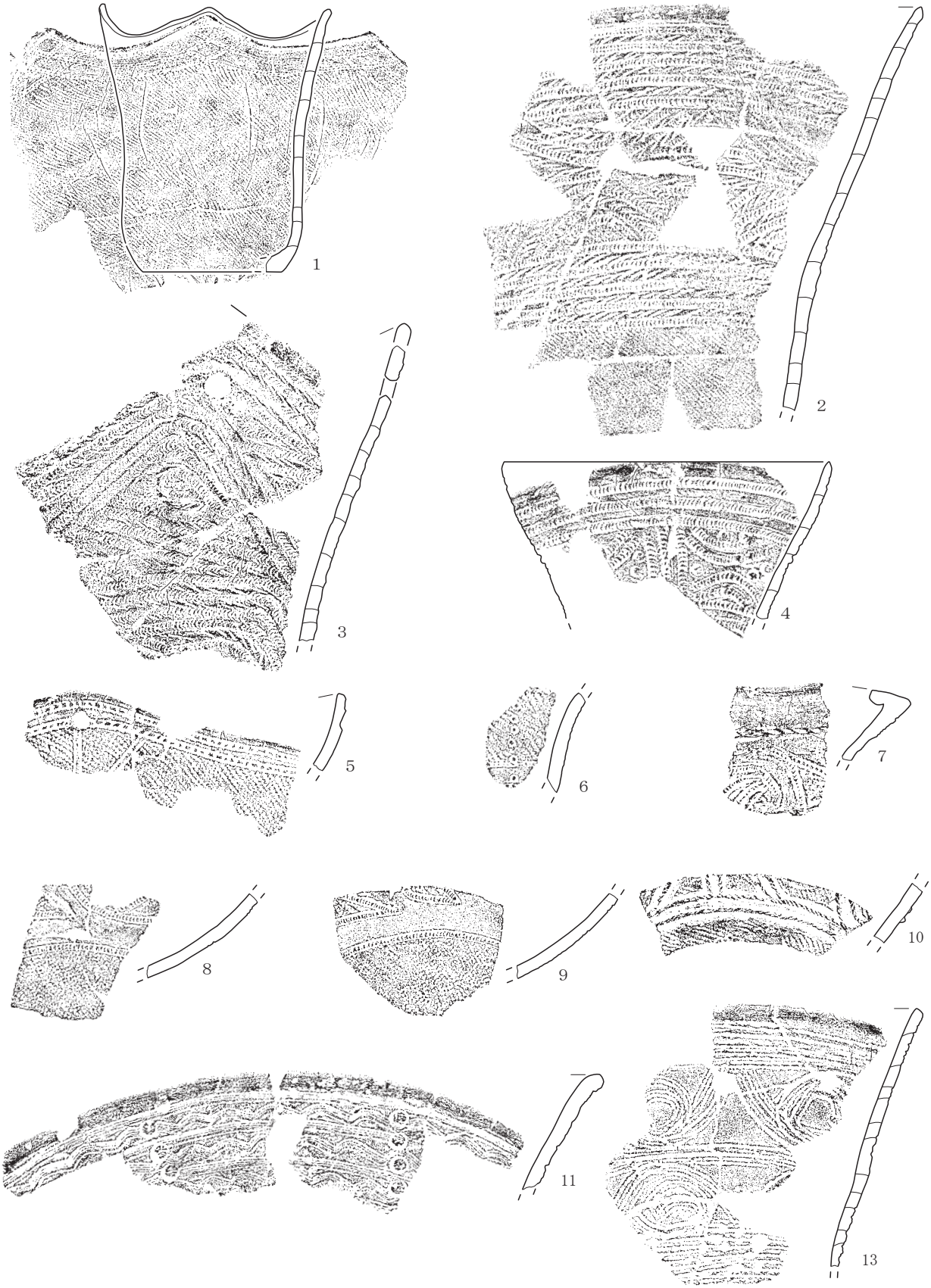


第805図　J－54号住居址（2）

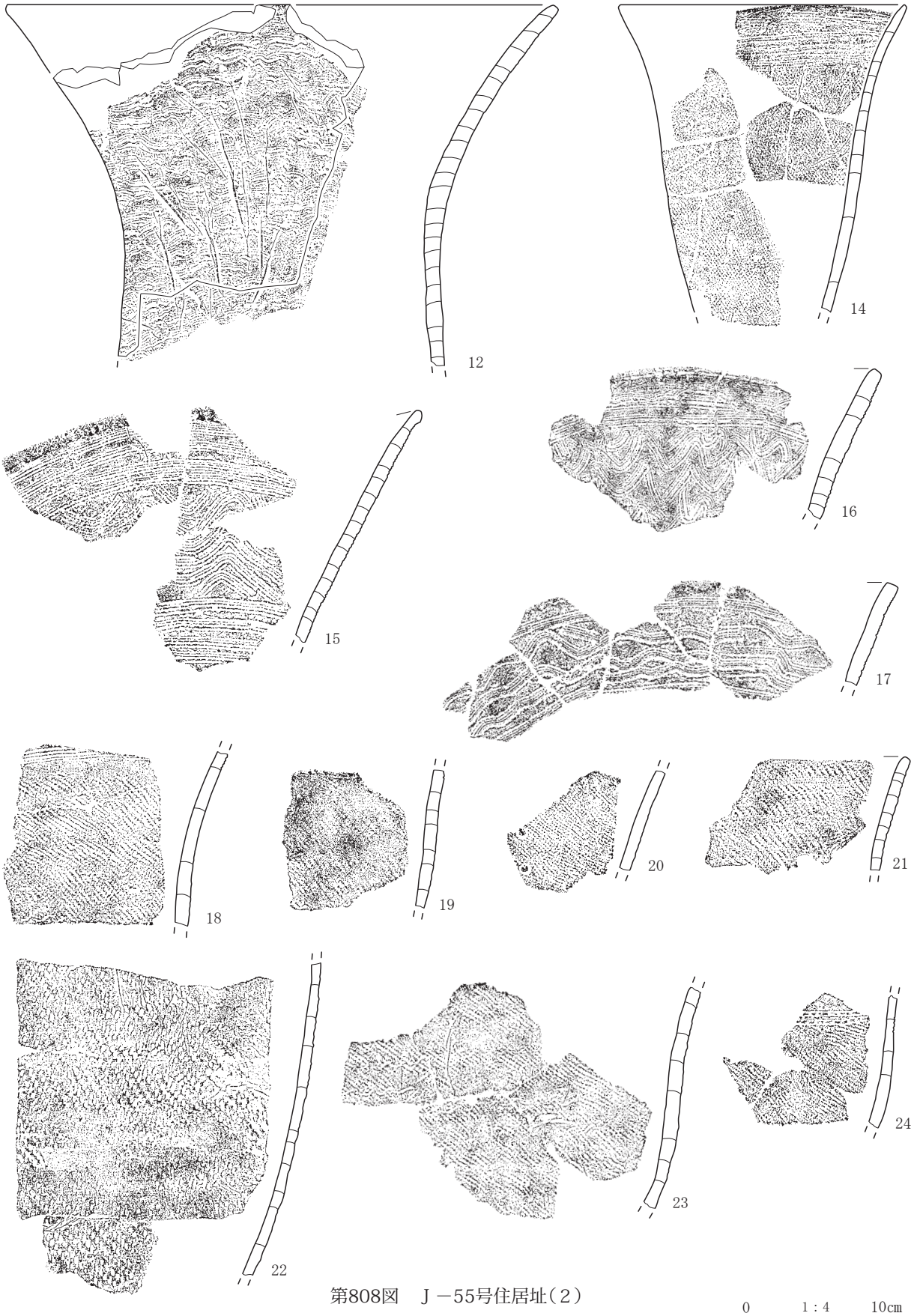


第806図　J－54号住居址（3）

0　1：4　10cm

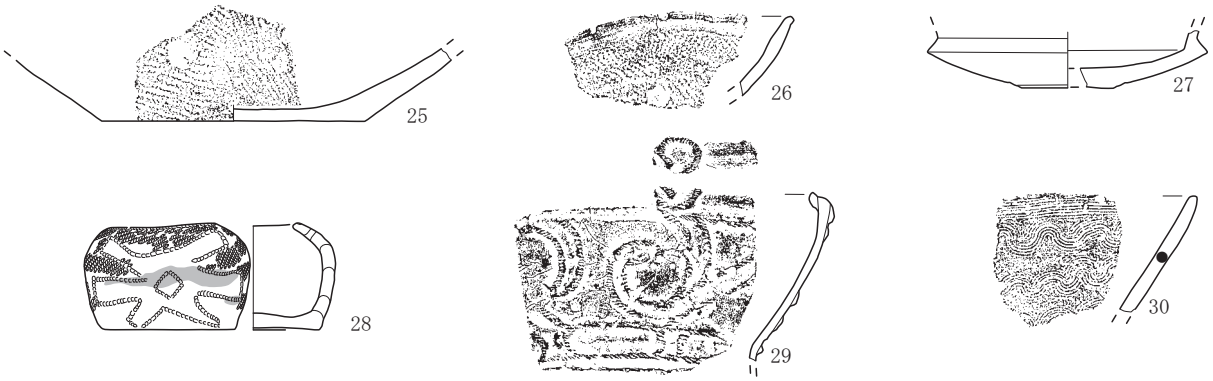


第807図　J－55号住居址（1）

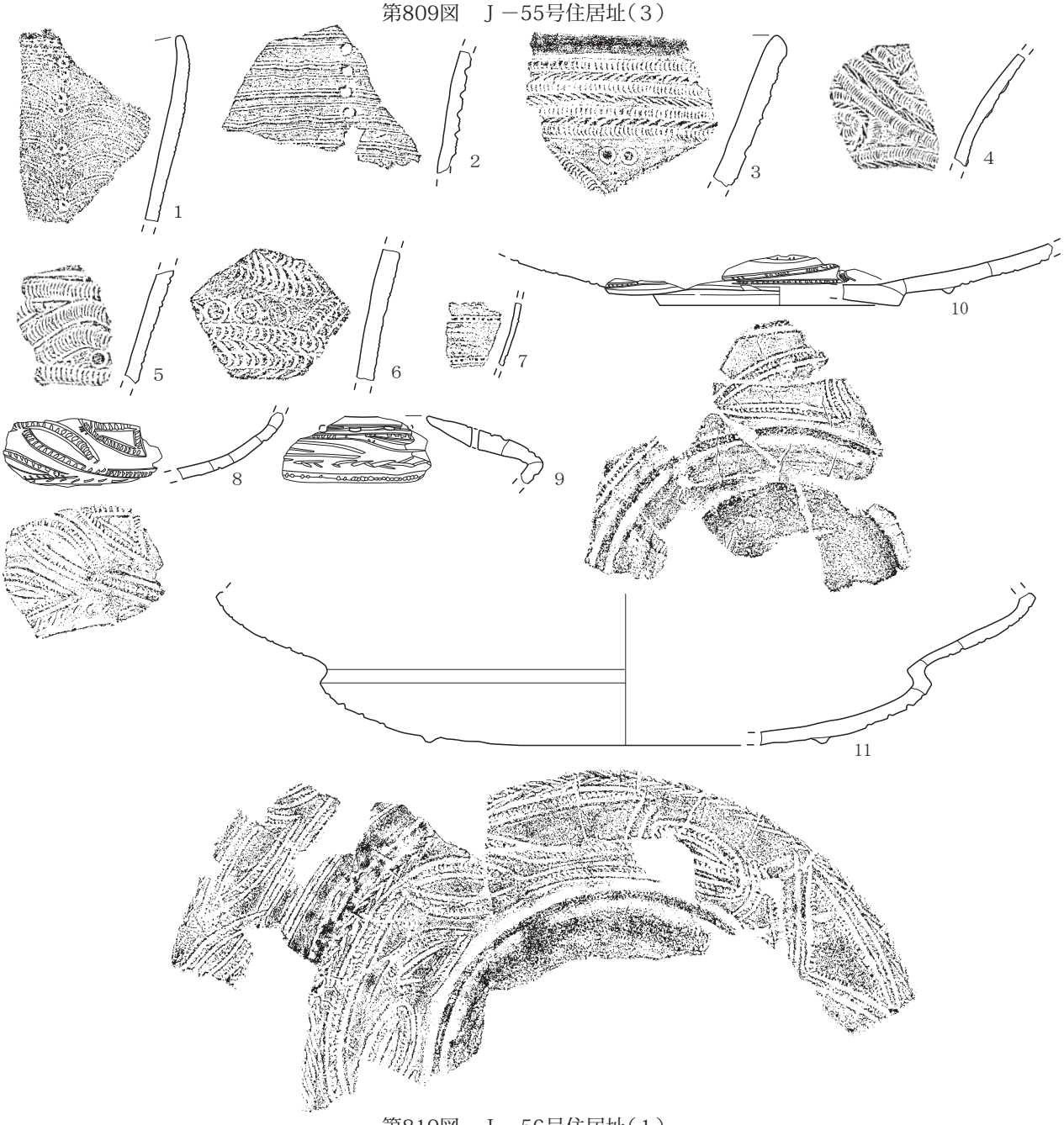


第808図　J－55号住居址（2）

0　1：4　10cm

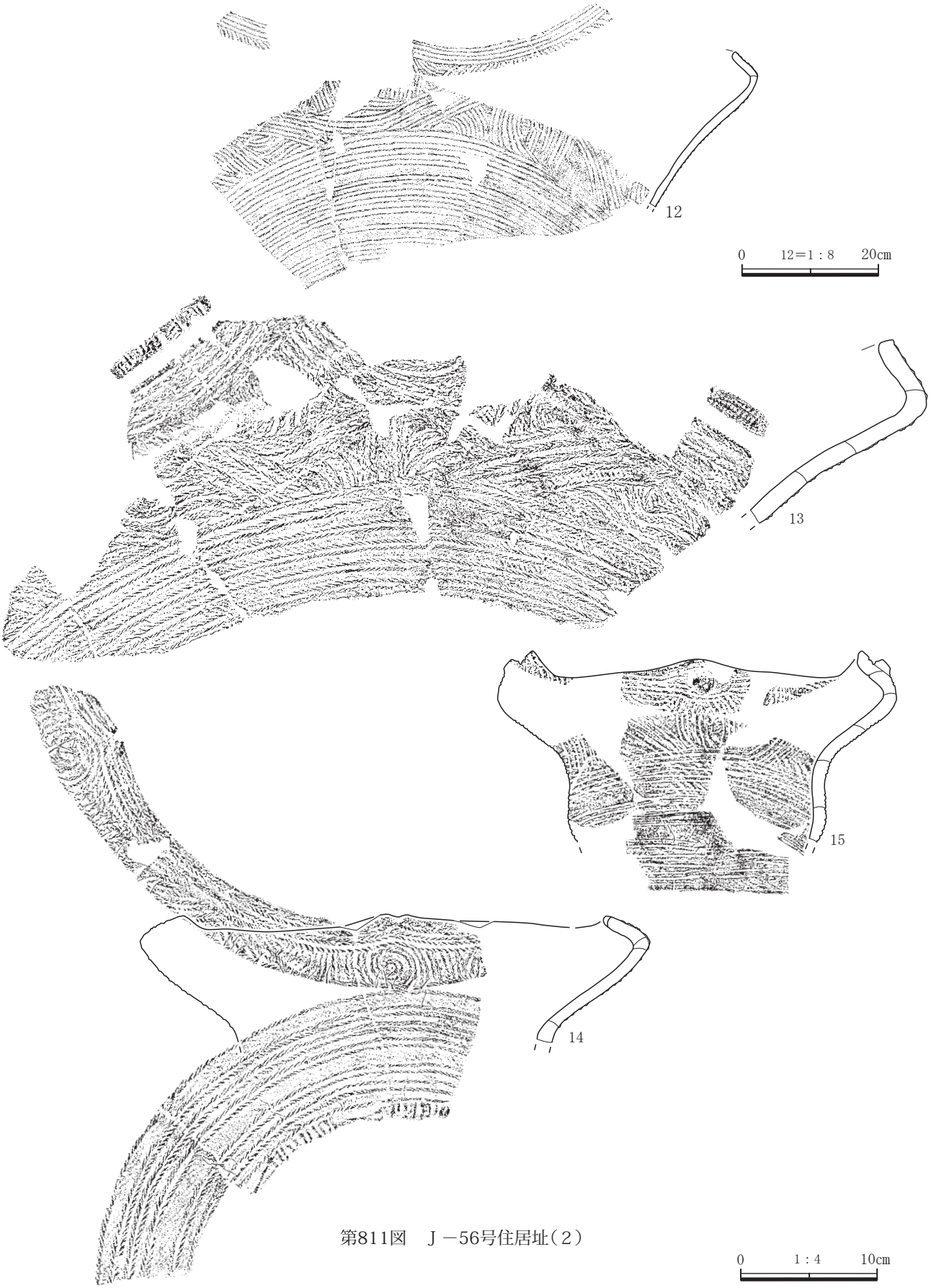


第809図　J－55号住居址（3）

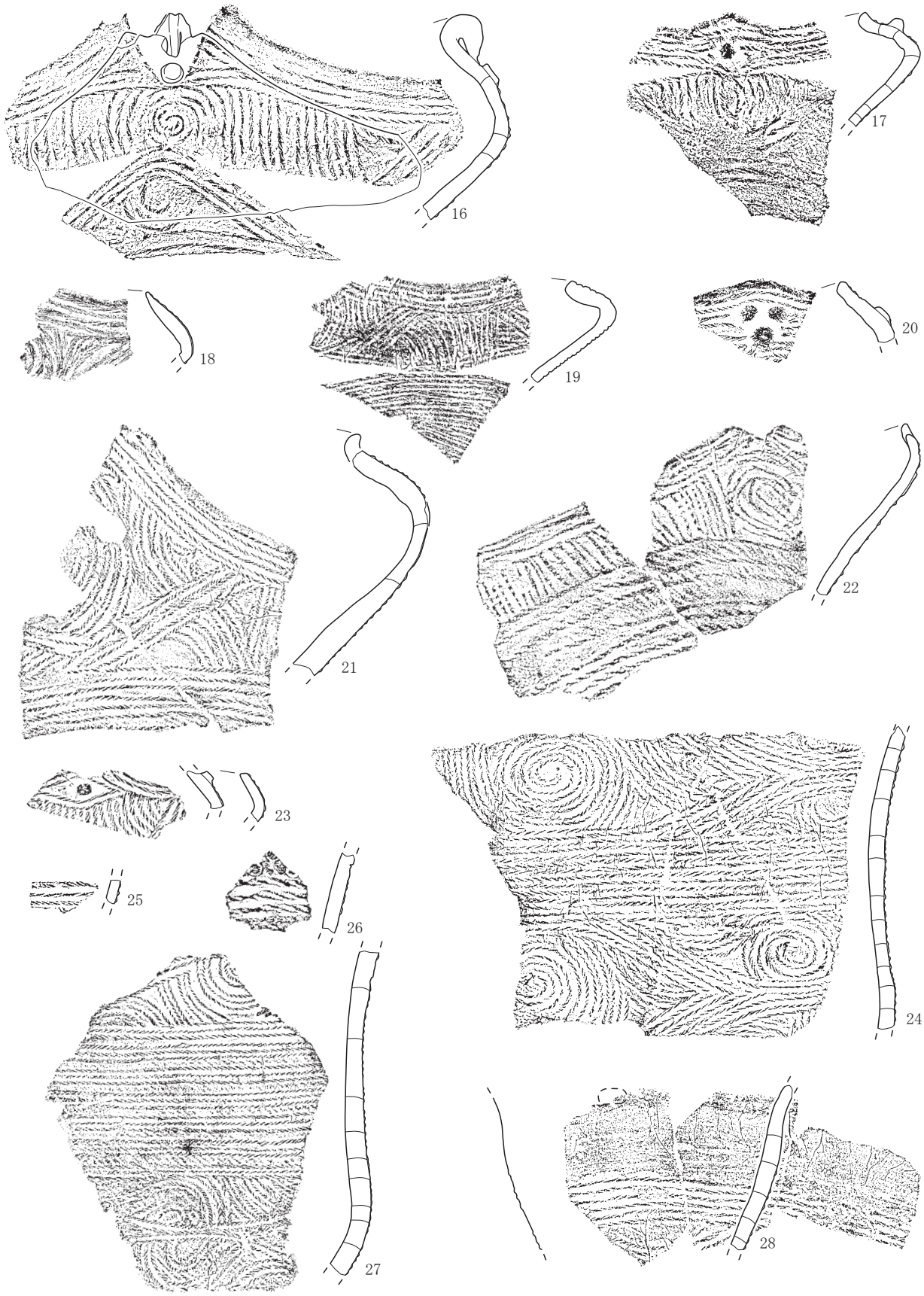


第810図　J－56号住居址（1）

0　1：4　10cm

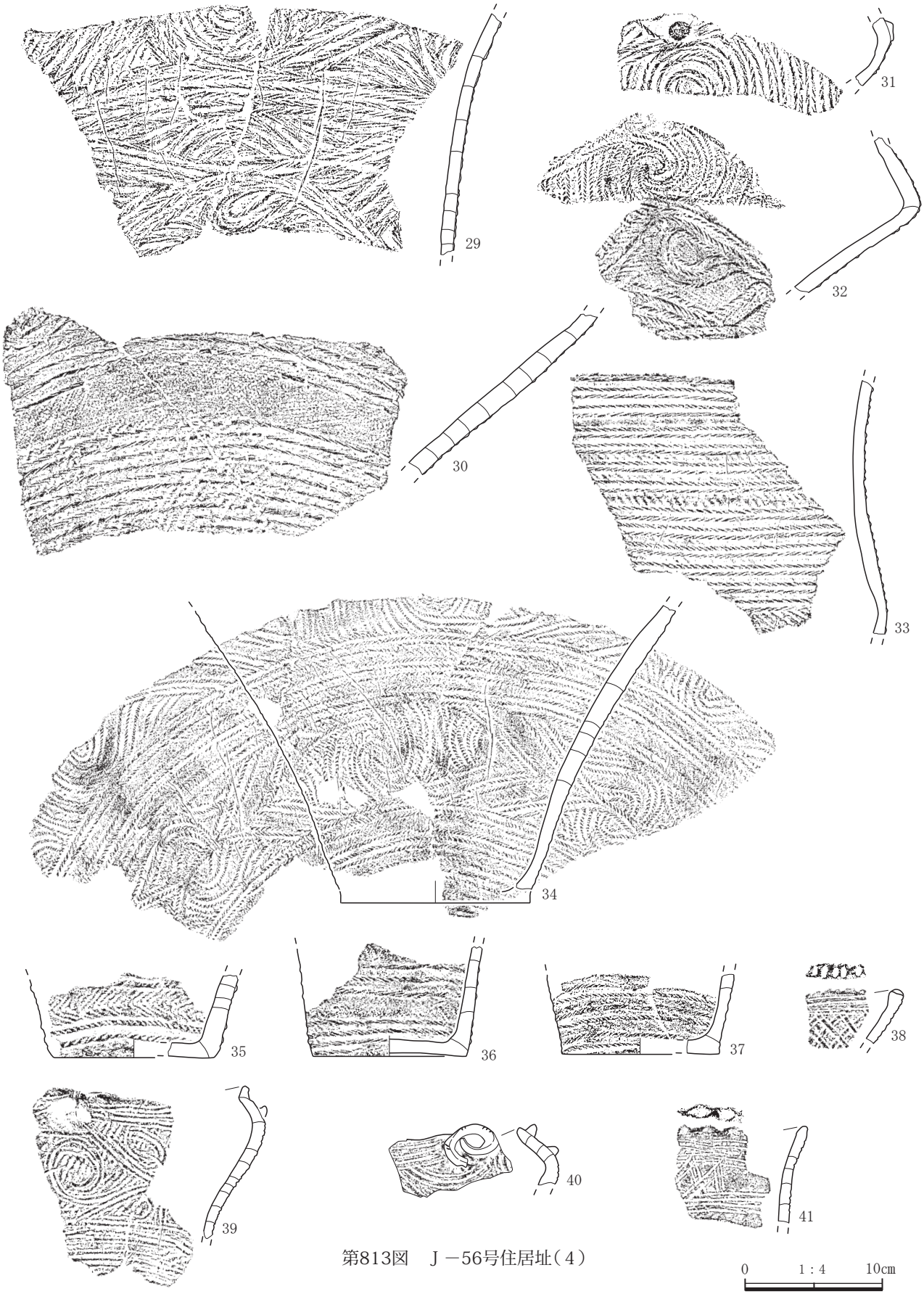


第811図　J－56号住居址（2）

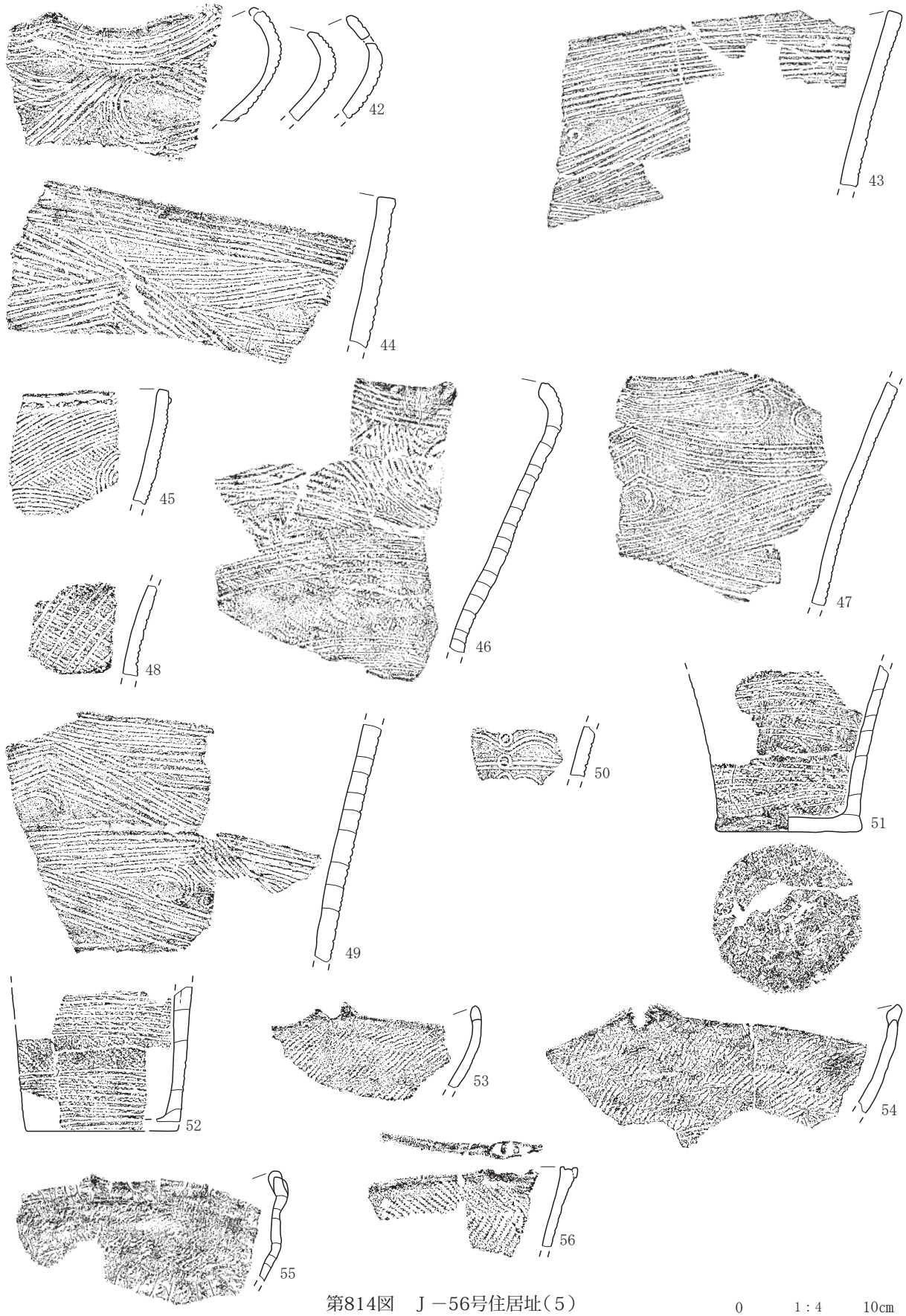


第812図　J－56号住居址（3）

0　1：4　10cm

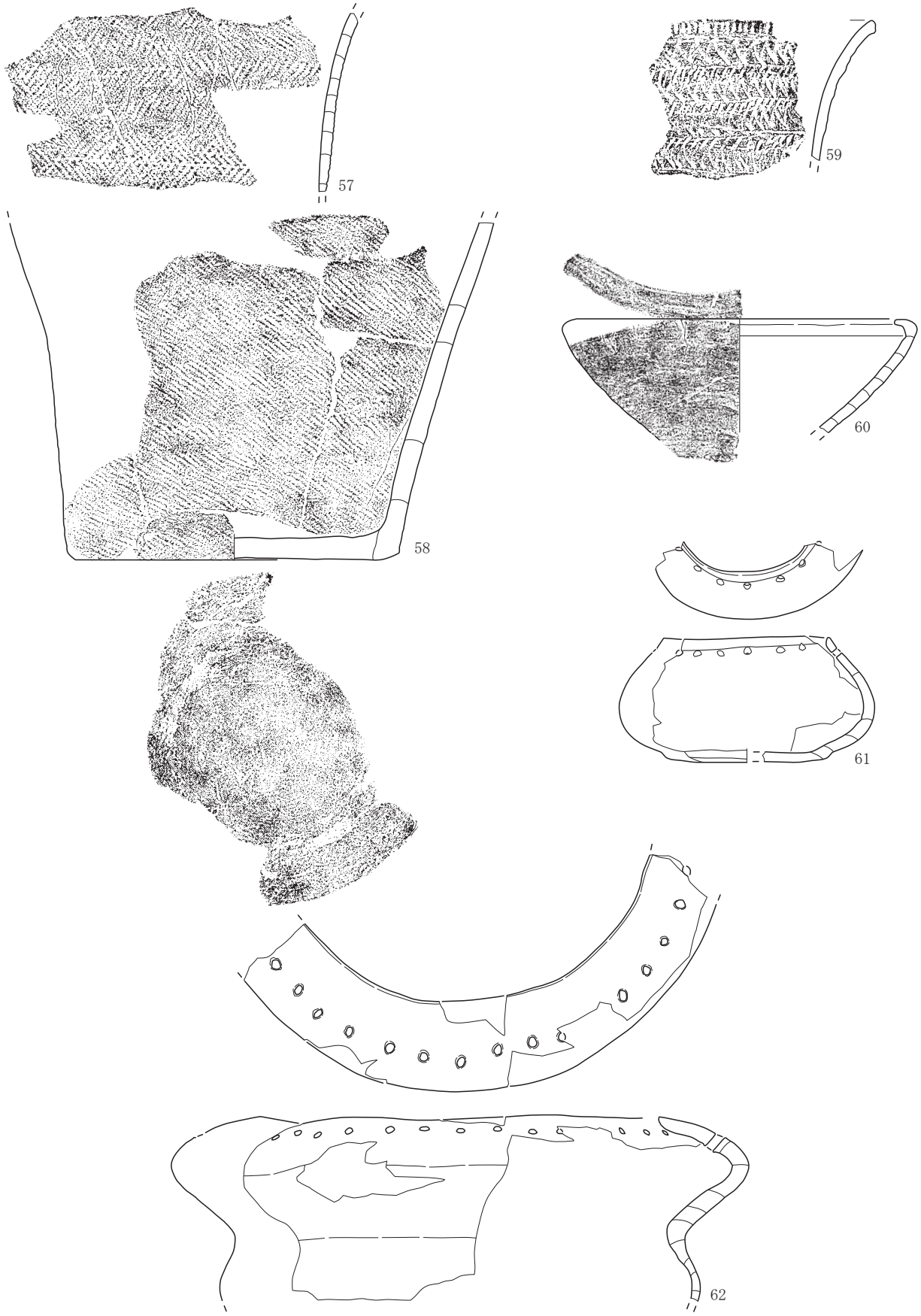


第813図　J－56号住居址（4）



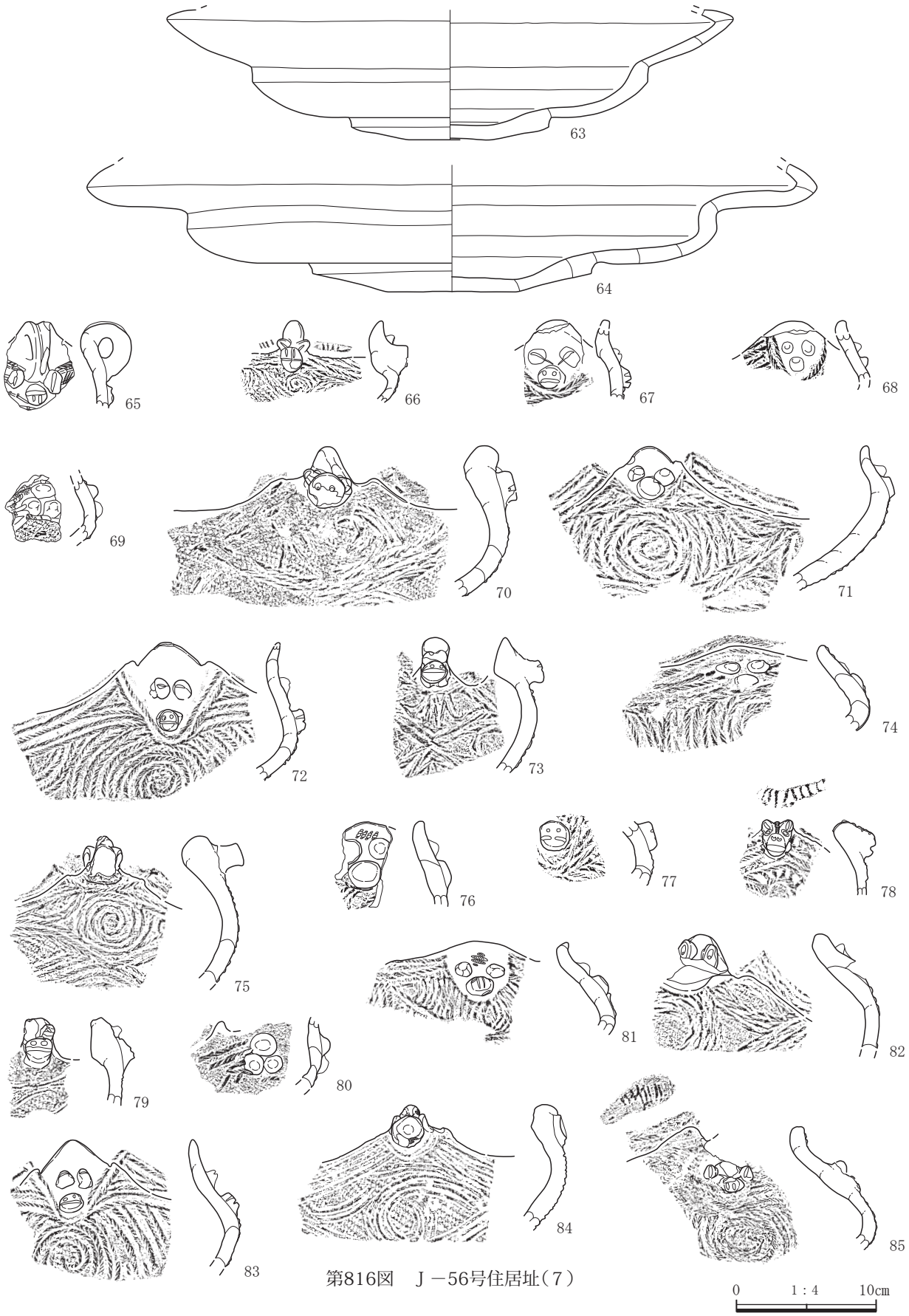
第814図　J－56号住居址（5）

0　1：4　10cm

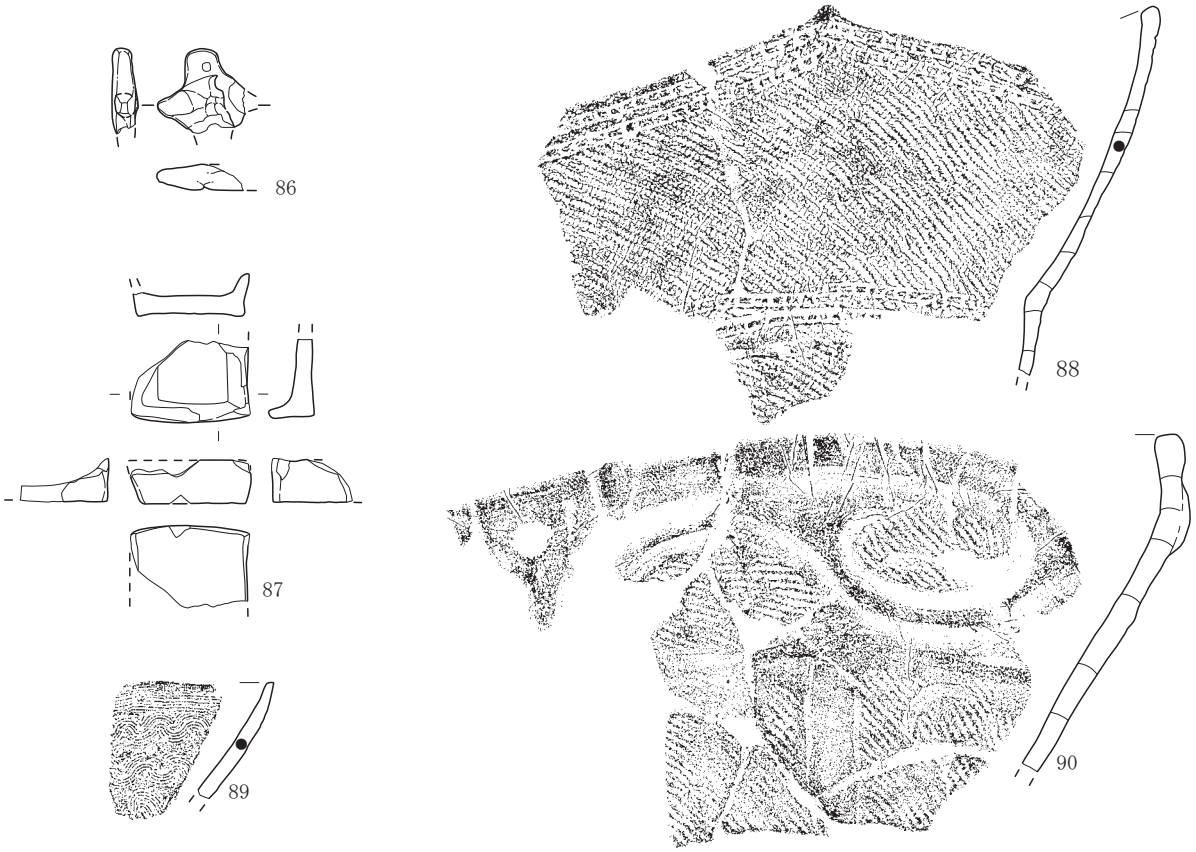


第815図　J－56号住居址（6）

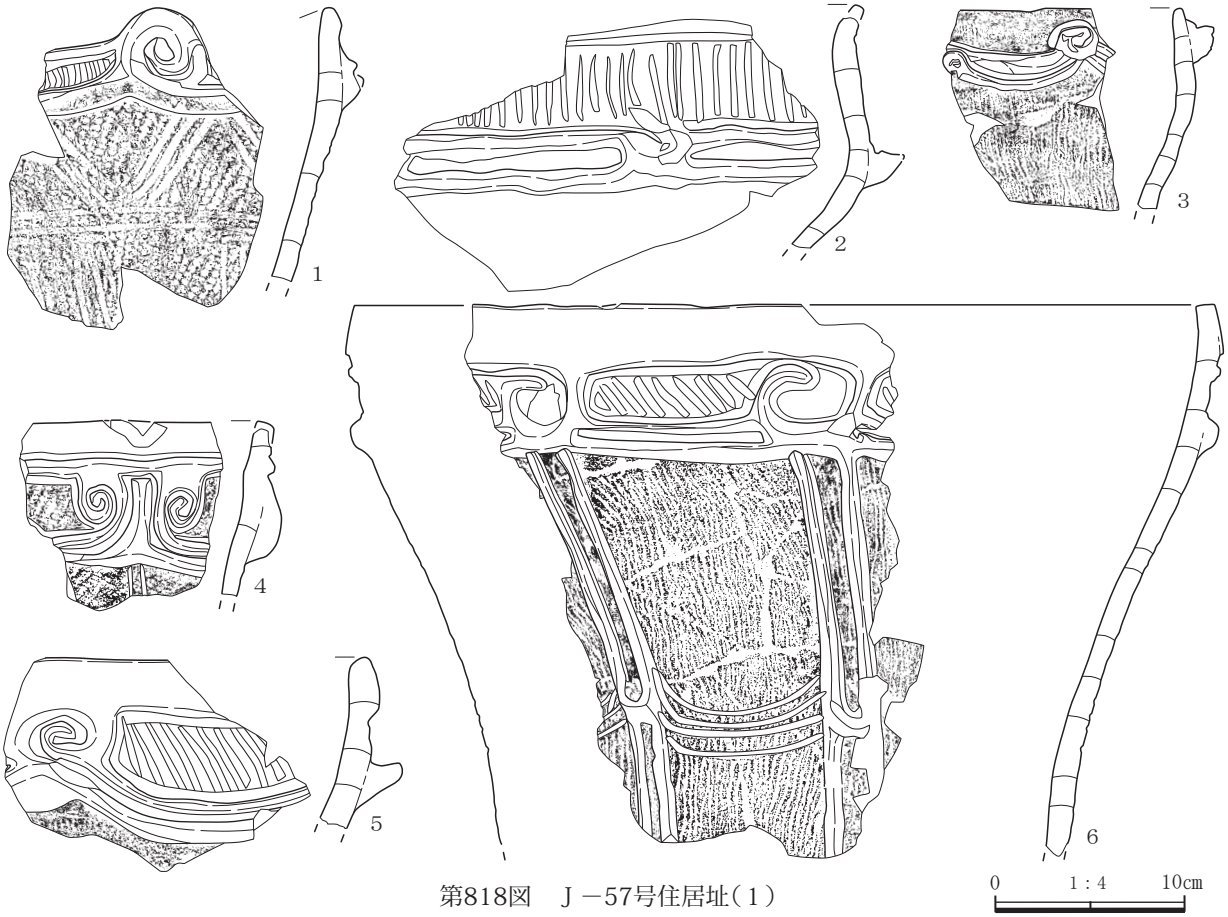
0　1：4　10cm



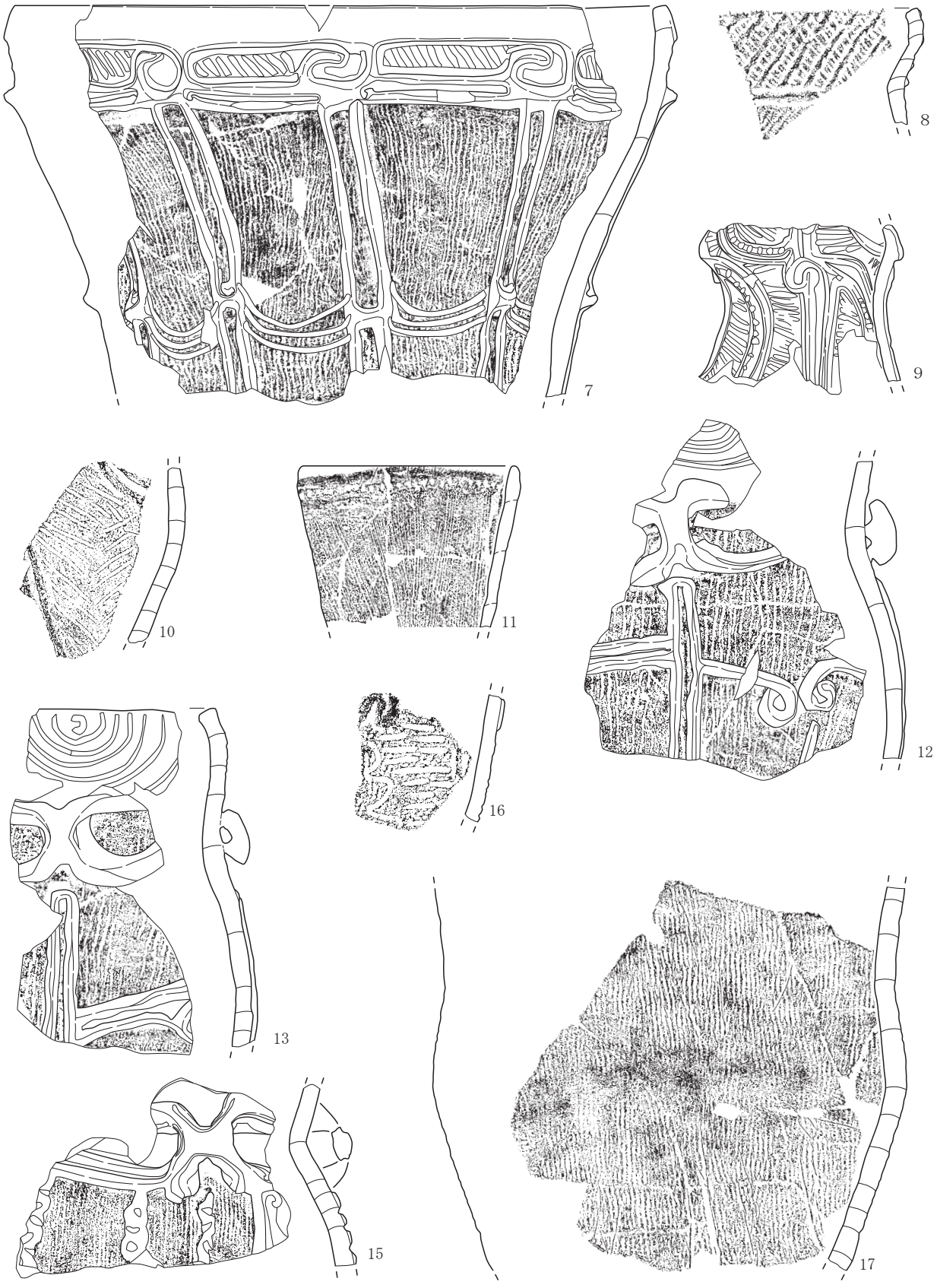
第816図　J－56号住居址（7）



第817図　J－56号住居址（8）

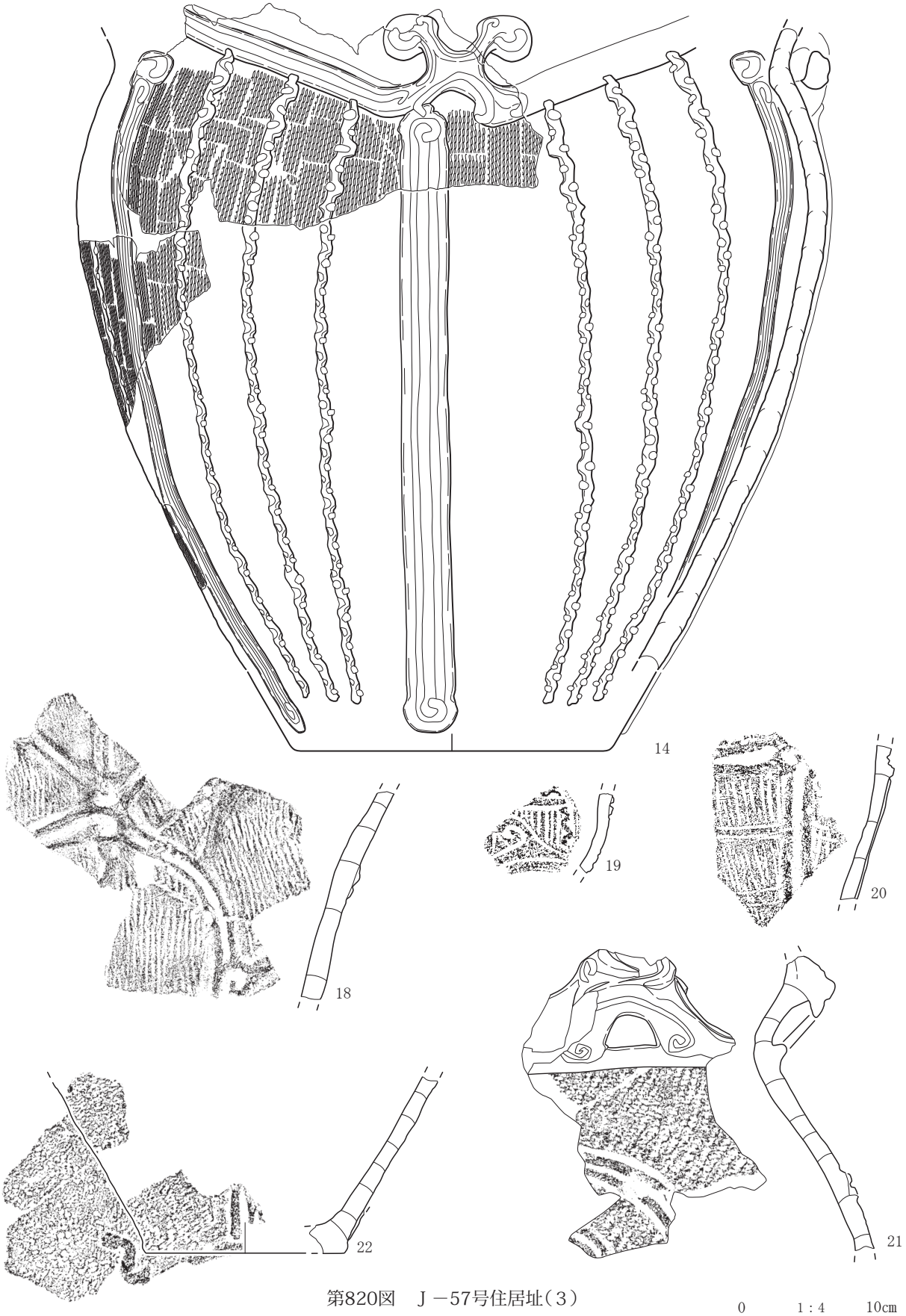


第818図　J－57号住居址（1）



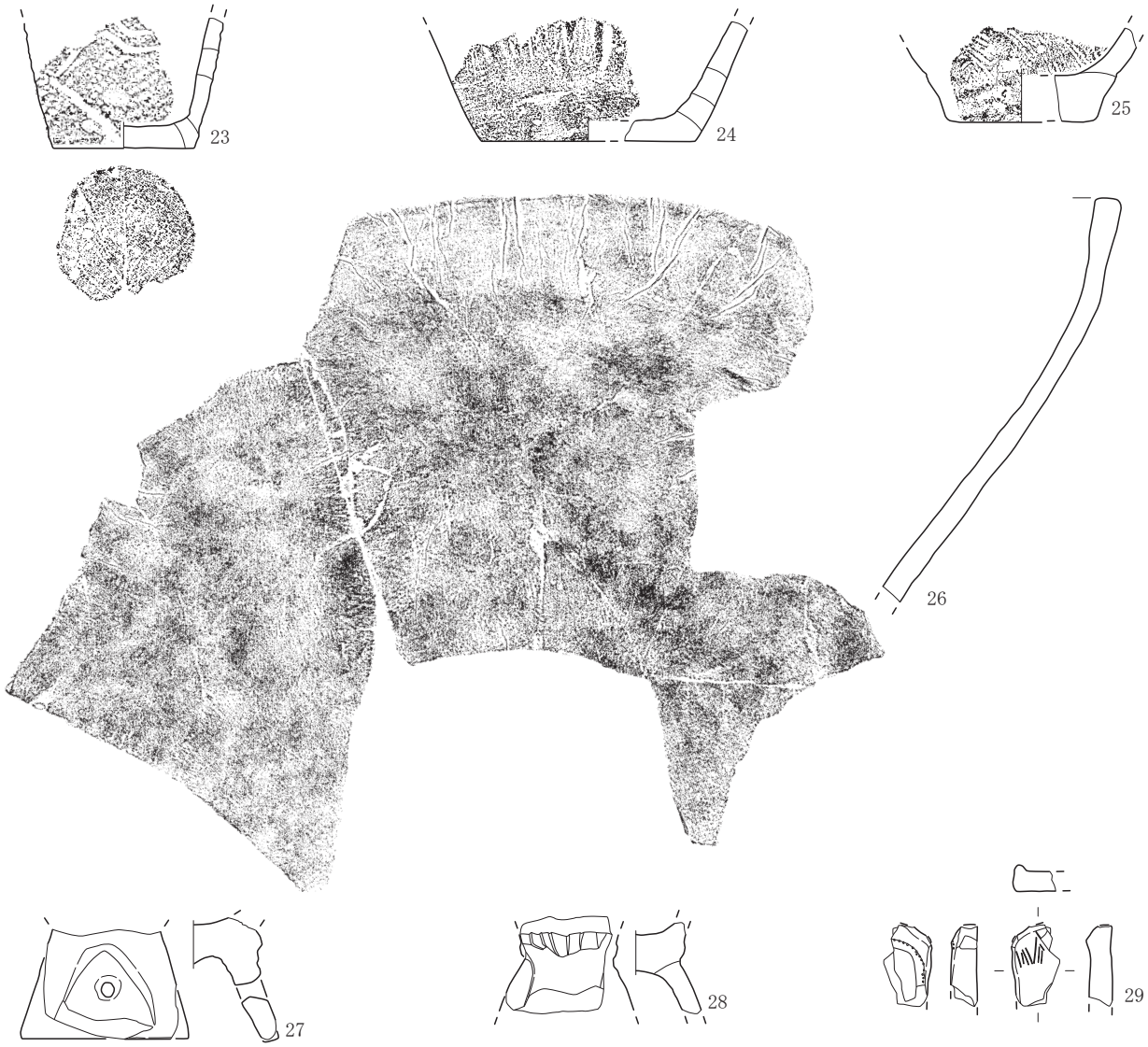
第819図　J－57号住居址（2）

0　1：4　10cm

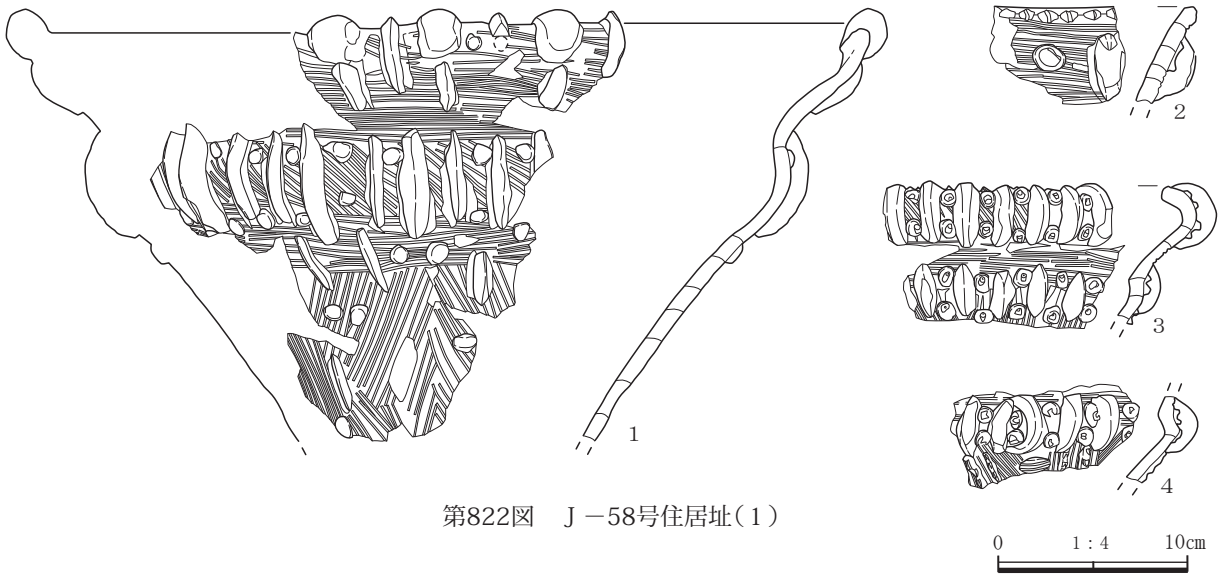


第820図　J－57号住居址（3）

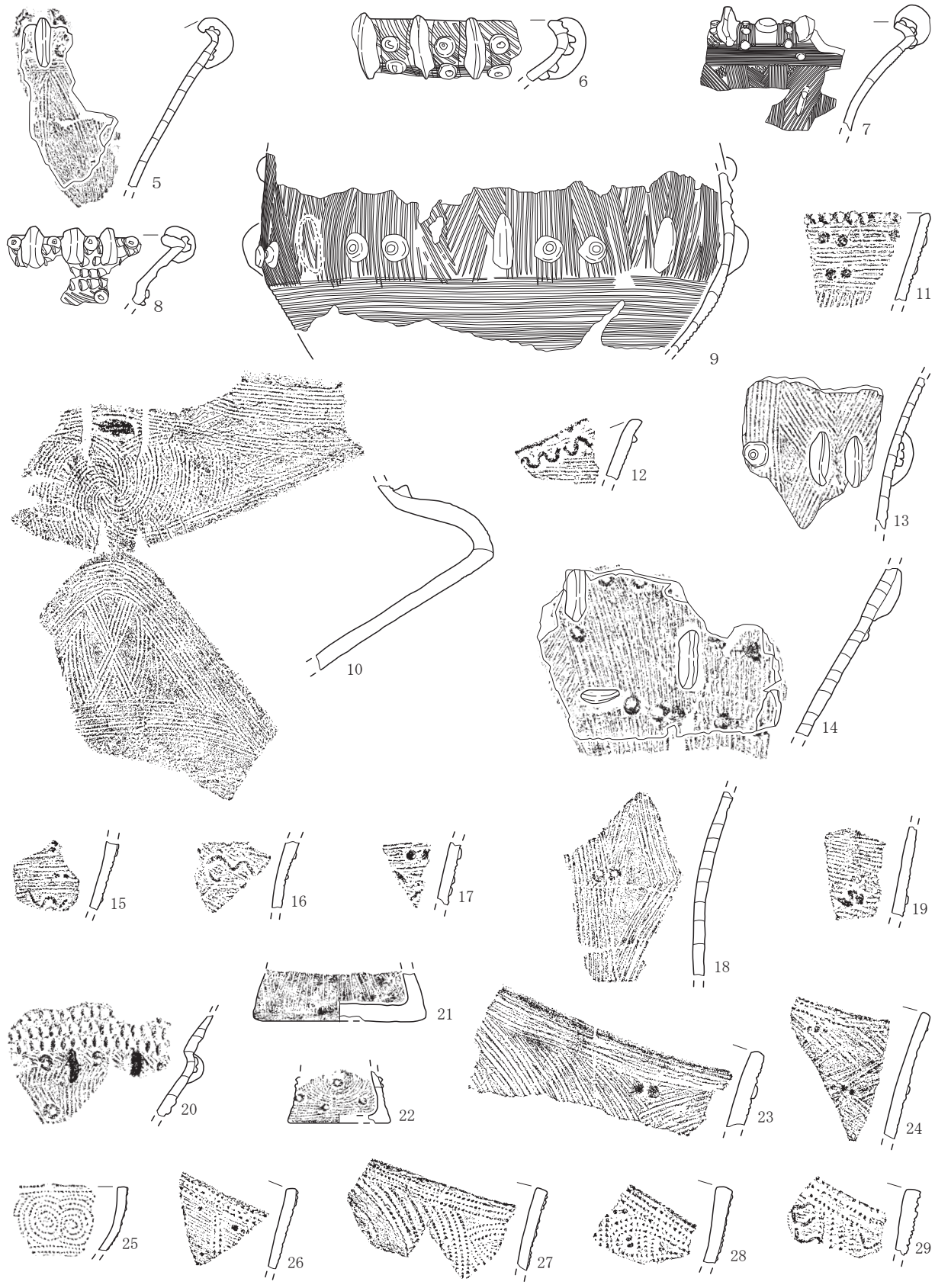
0　1：4　10cm



第821図　J－57号住居址（4）

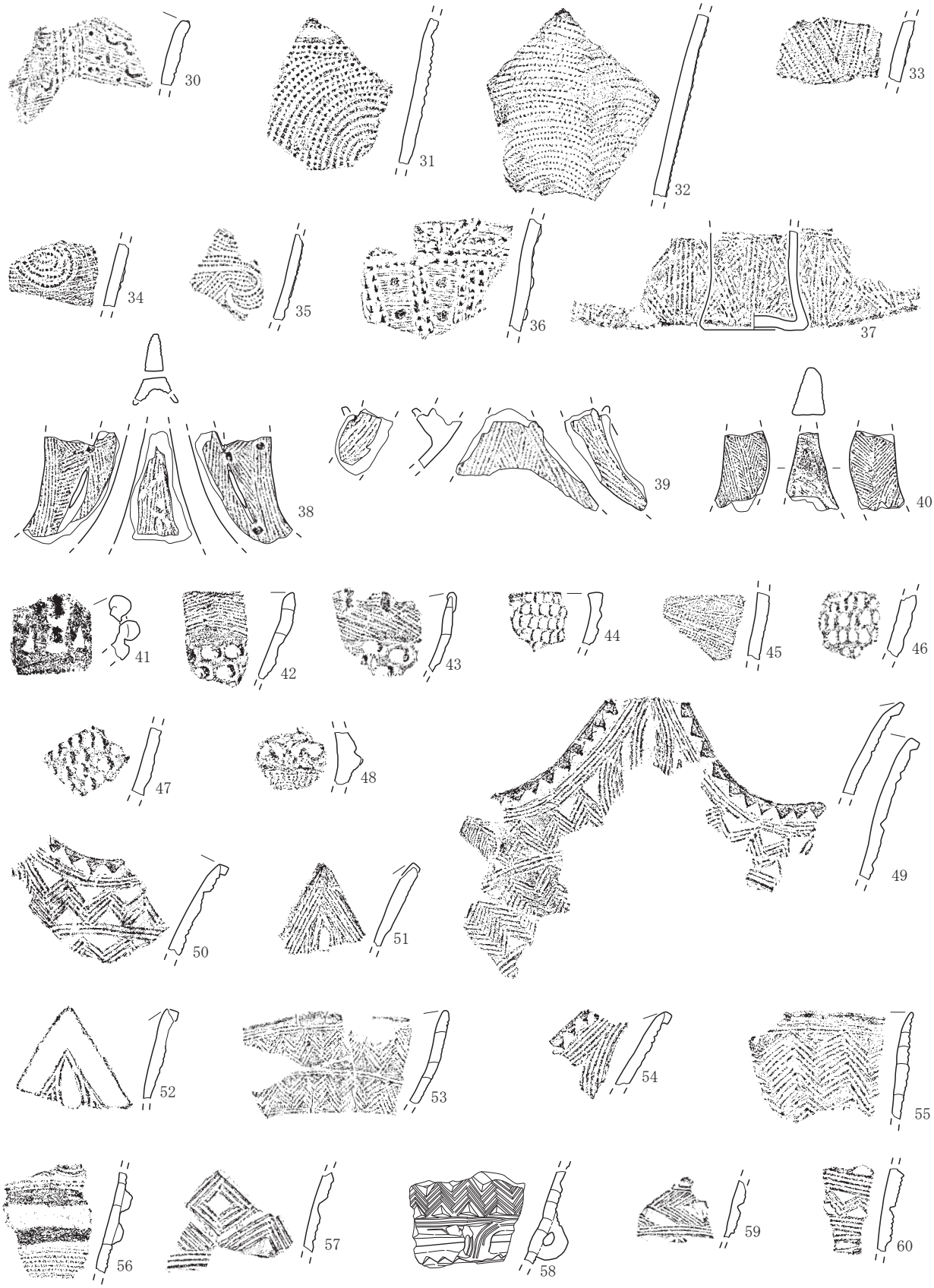


第822図　J－58号住居址（1）



第823図　J－58号住居址（2）

0　1：4　10cm



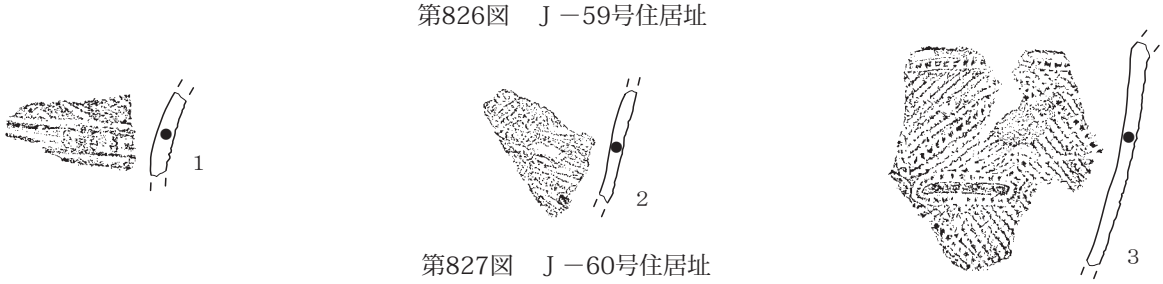
第824図　J－58号住居址（3）

0　1：4　10cm

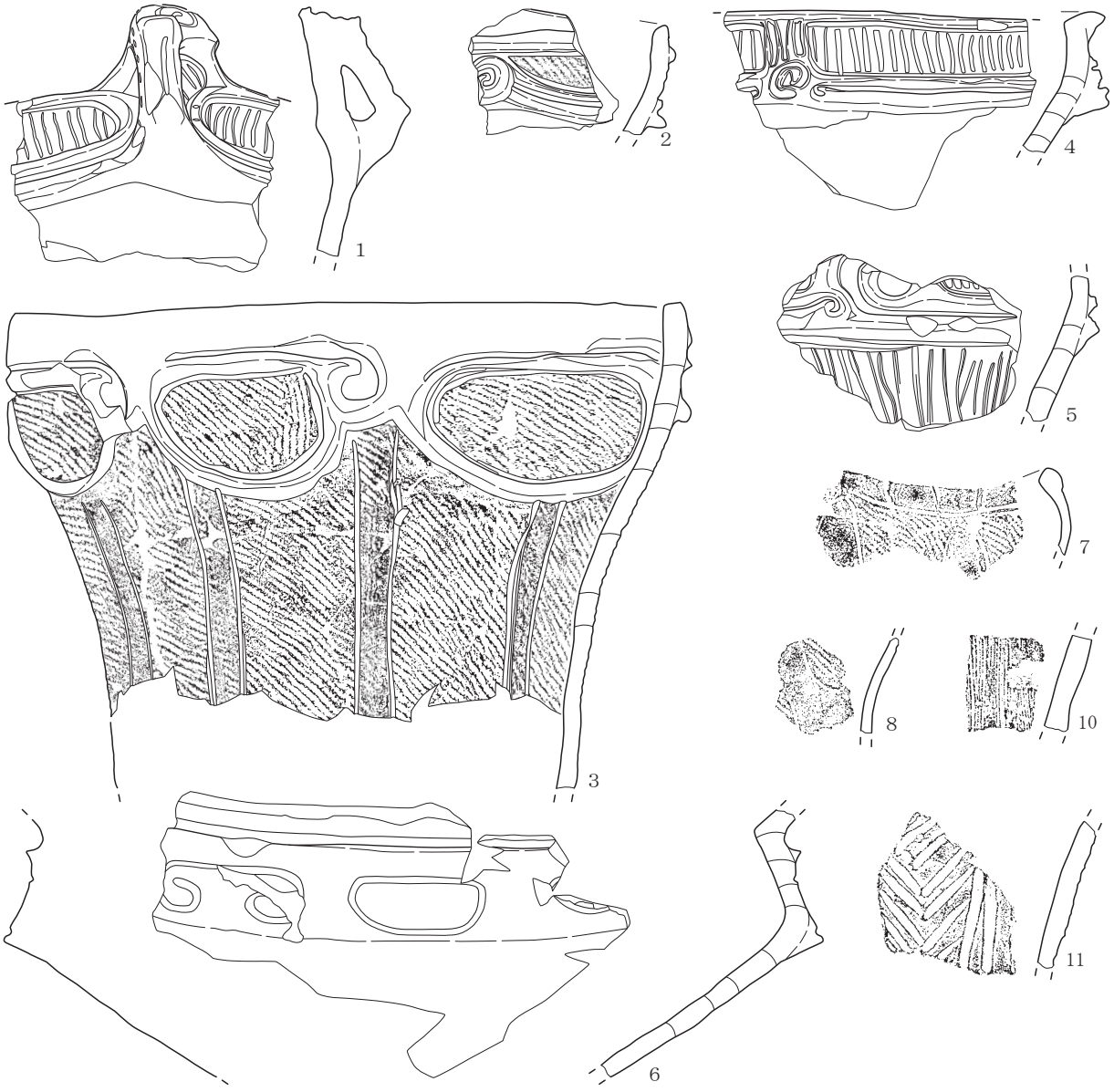
第825図　J－58号住居址（4）

0　1：4　10cm

第826図　J－59号住居址

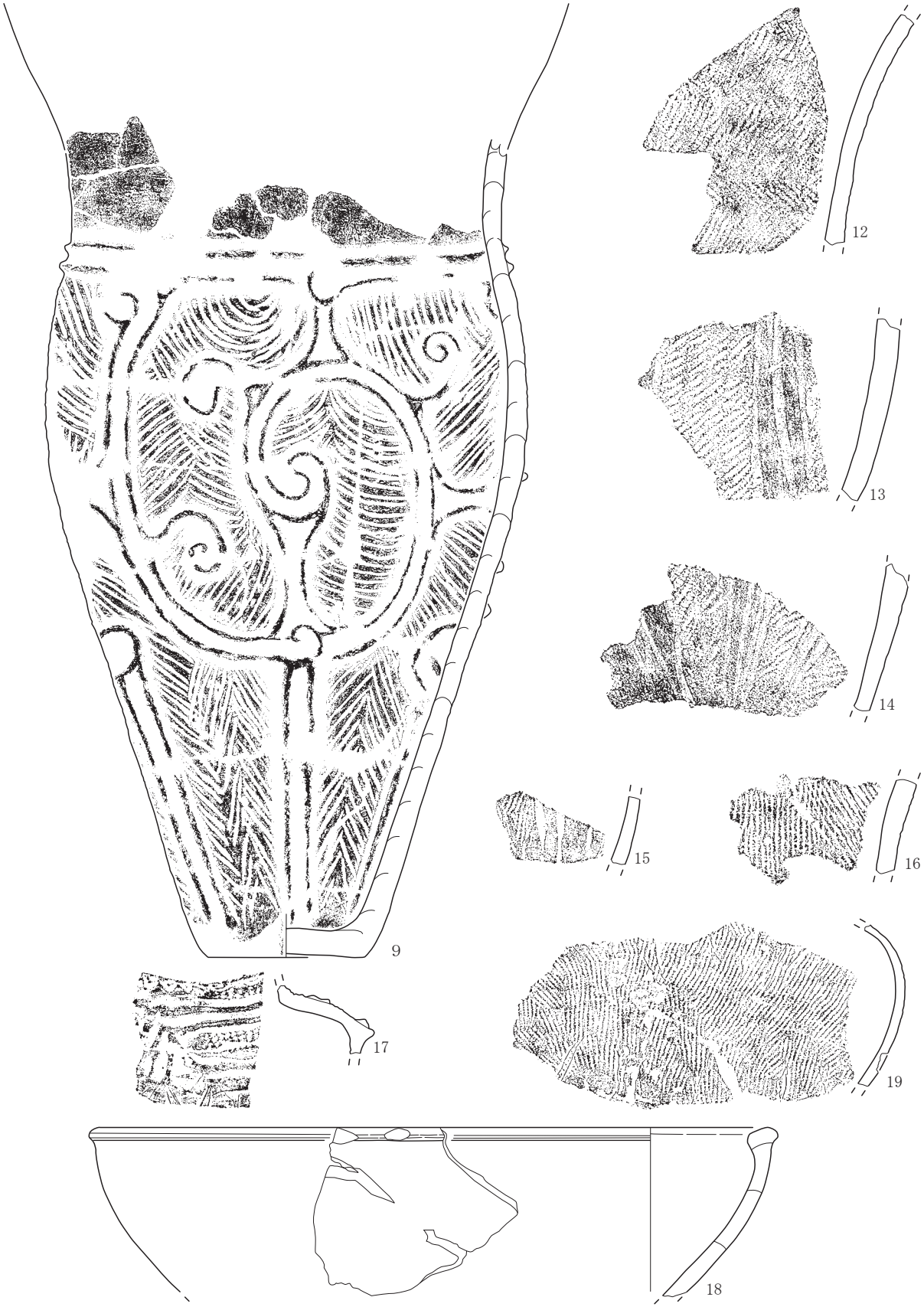


第827図　J－60号住居址



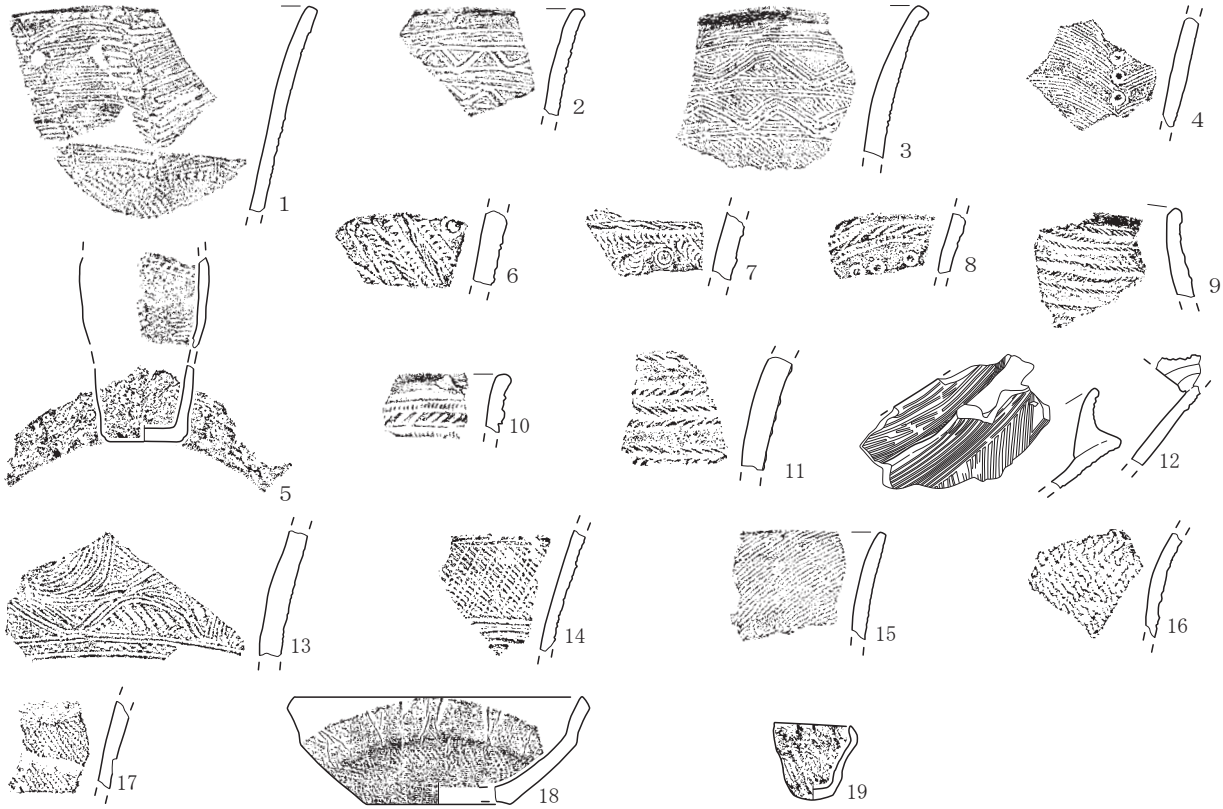
第828図　J－62号住居址（1）

0　1：4　10cm

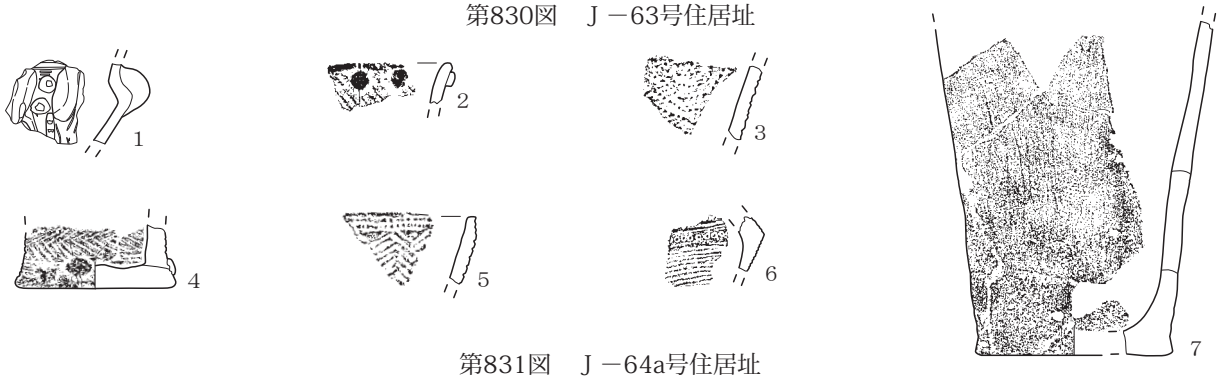


第829図　J－62号住居址（2）

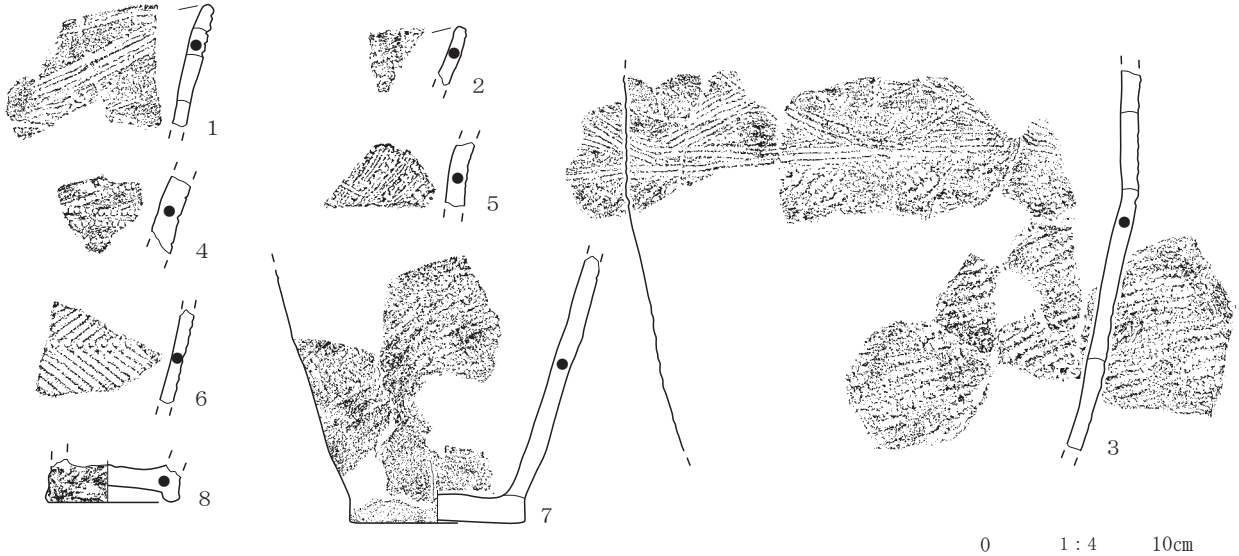
0　1：4　10cm



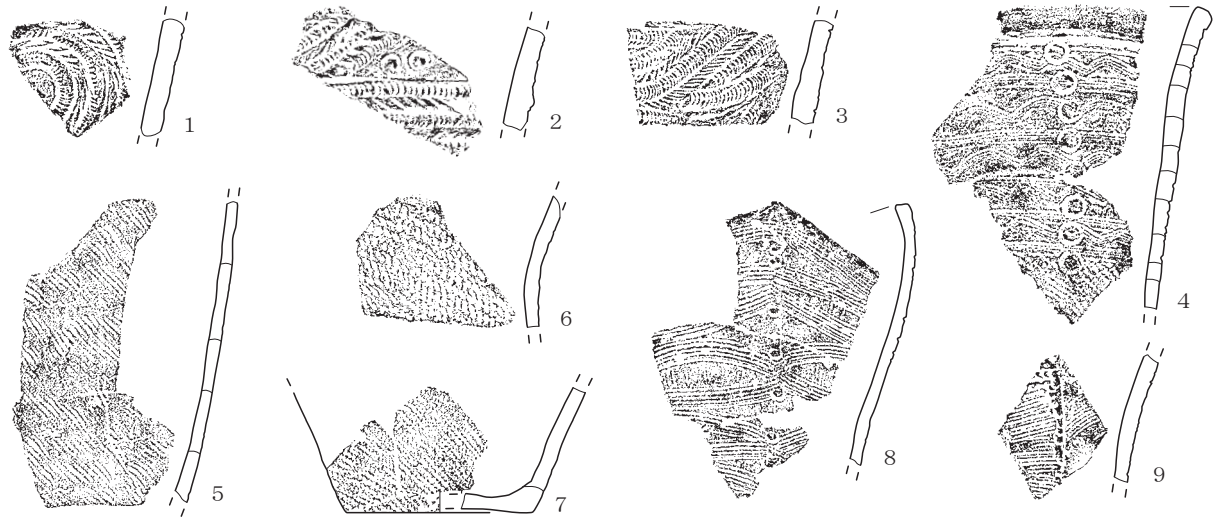
第830図　J－63号住居址



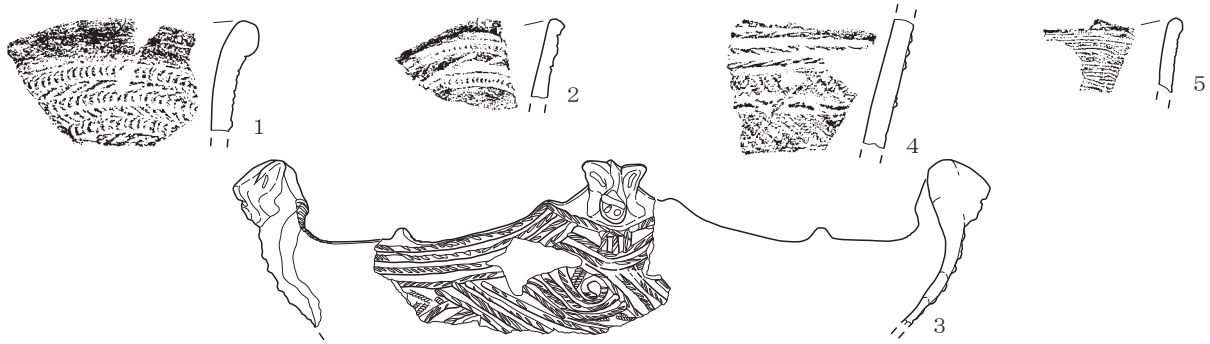
第831図　J－64a号住居址



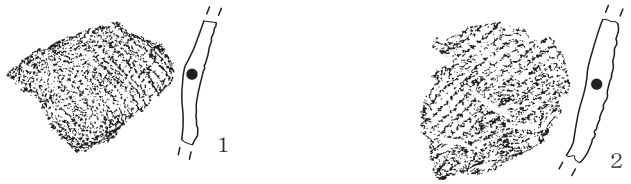
第832図　J－64b号住居址



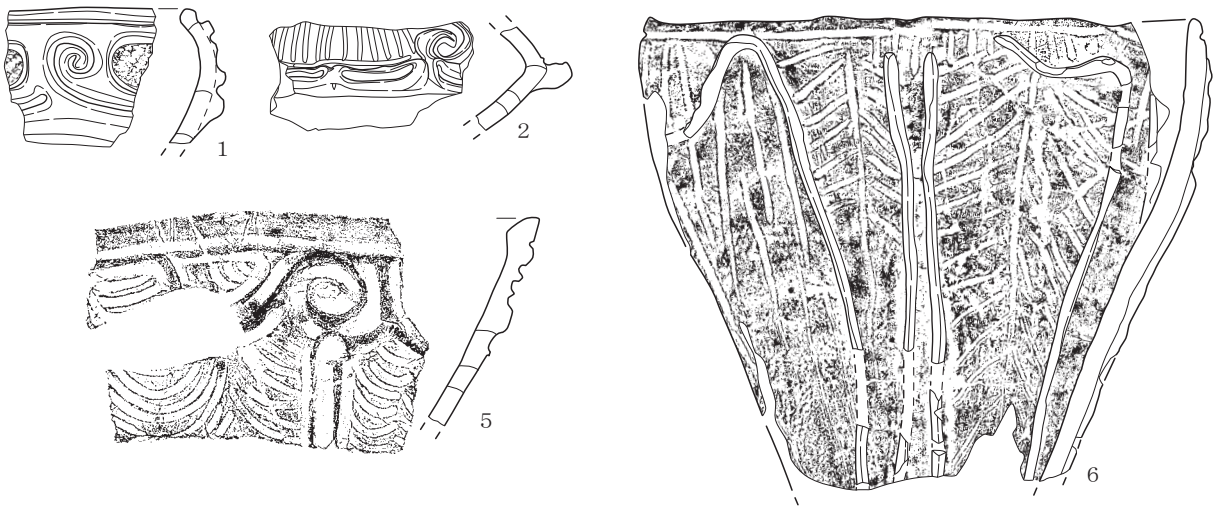
第833図　J－65a号住居址



第834図　J－65b号住居址

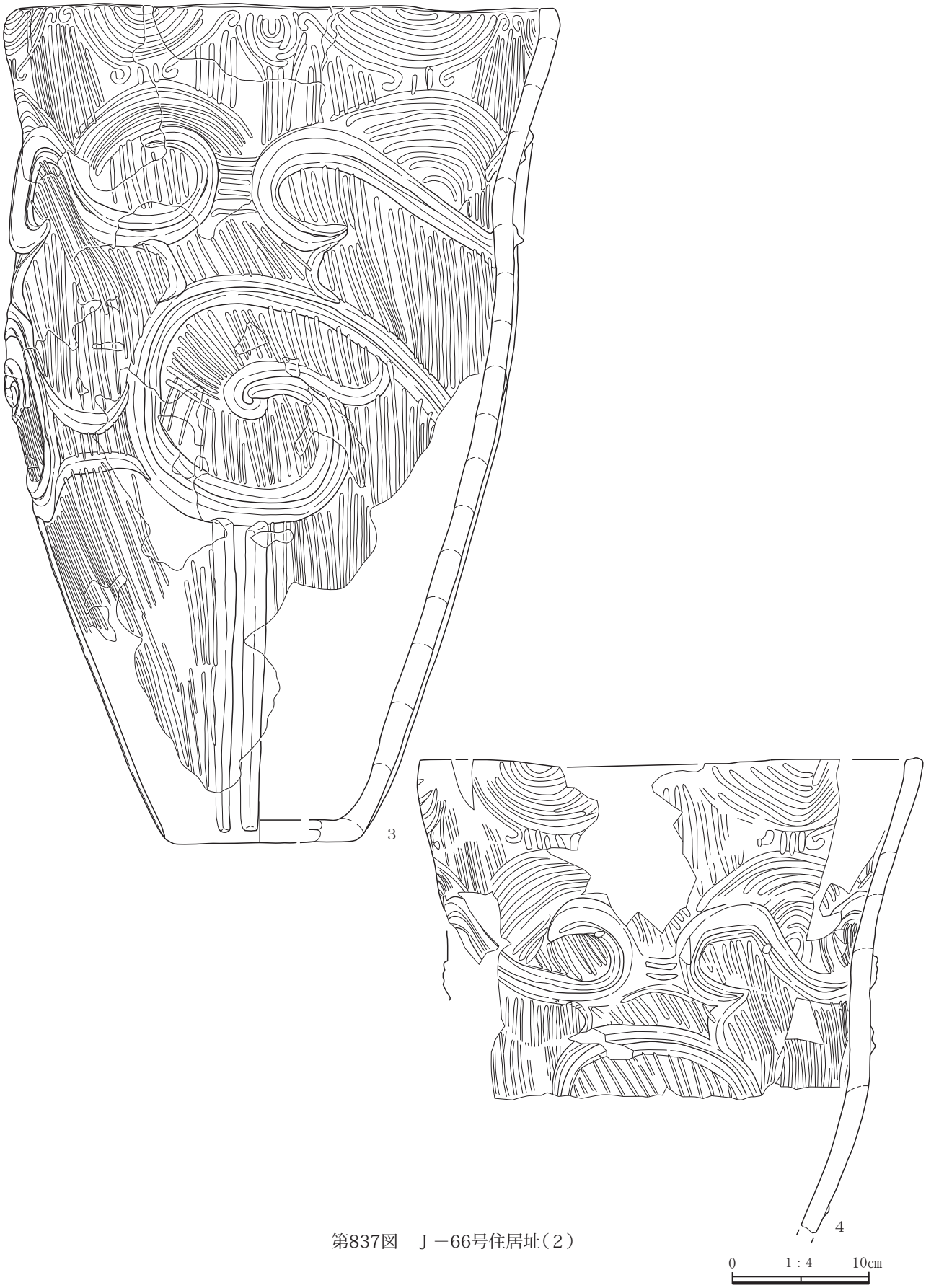


第835図　J－65号住居址

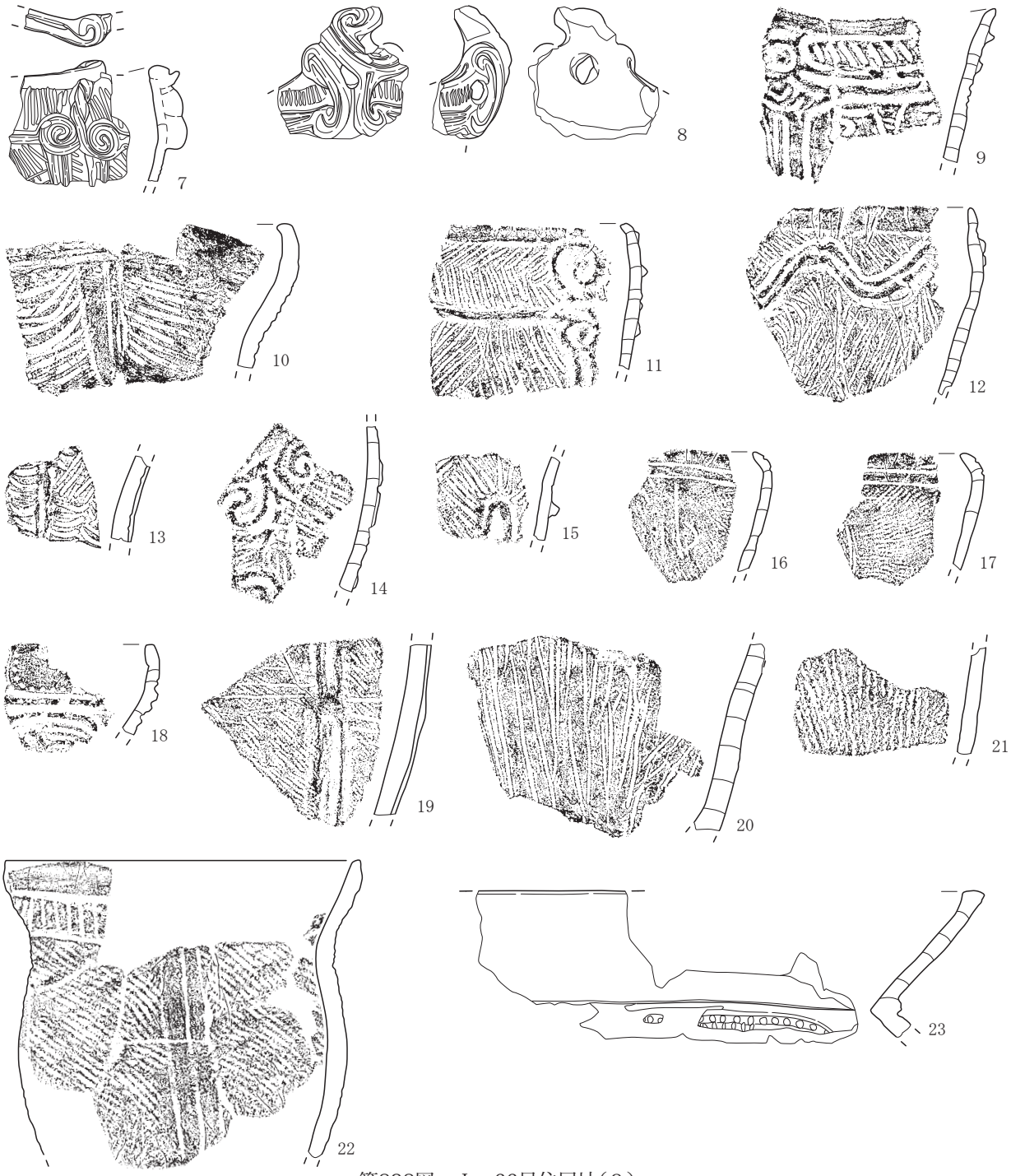


第836図　J－66号住居址（1）

0　1：4　10cm



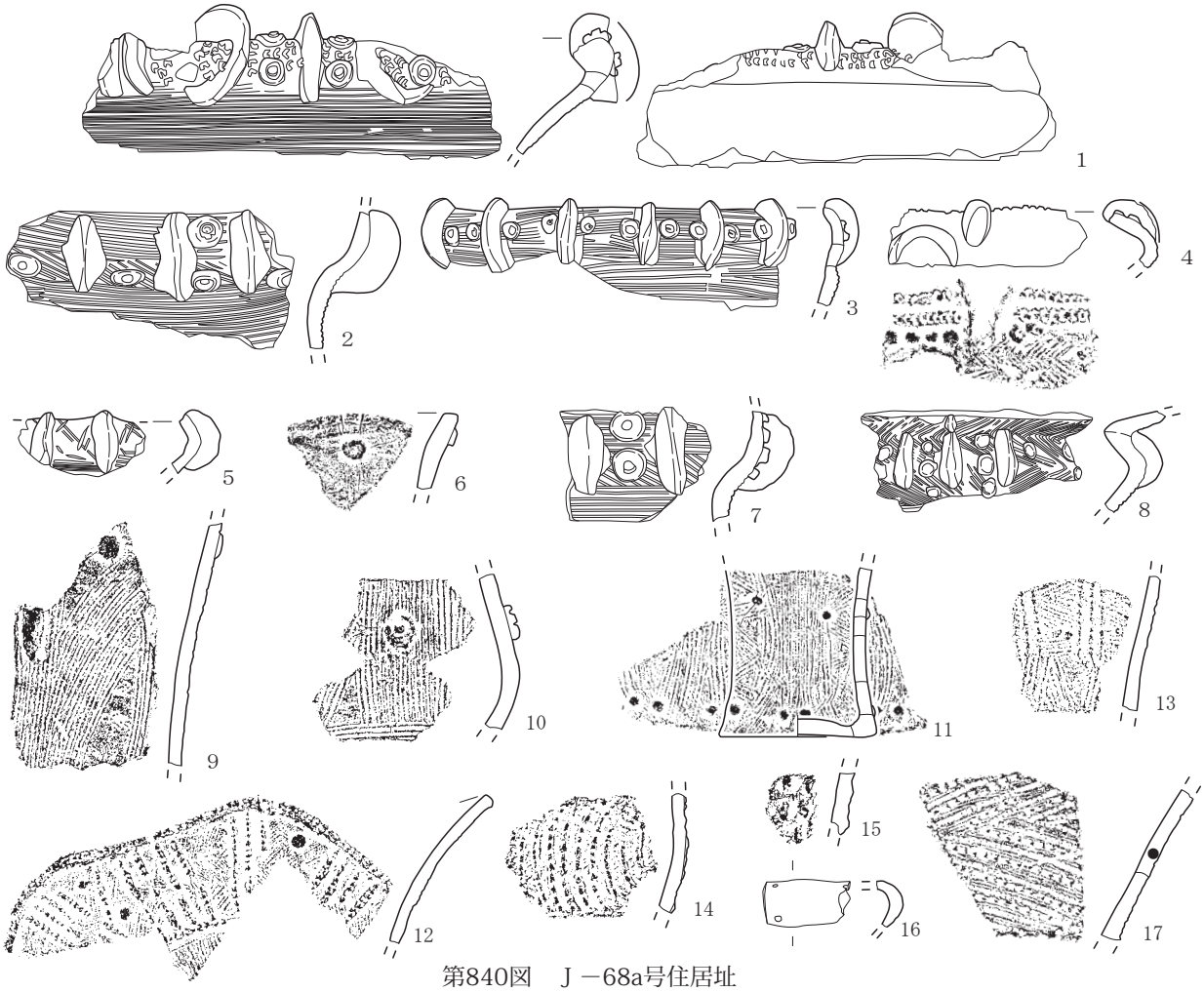
第837図　J－66号住居址（2）



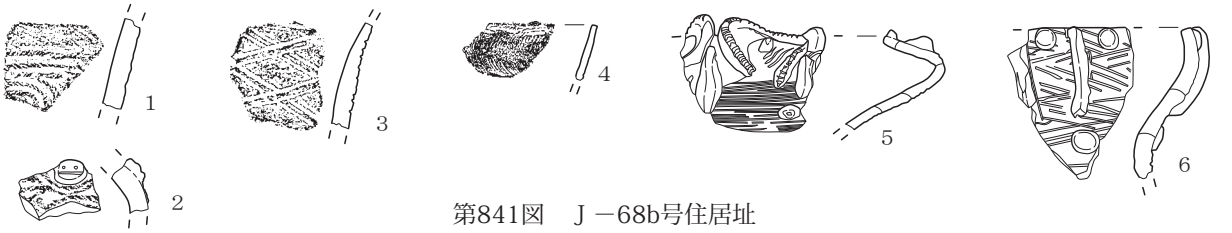
第838図　J－66号住居址（3）

第839図　J－67号住居址

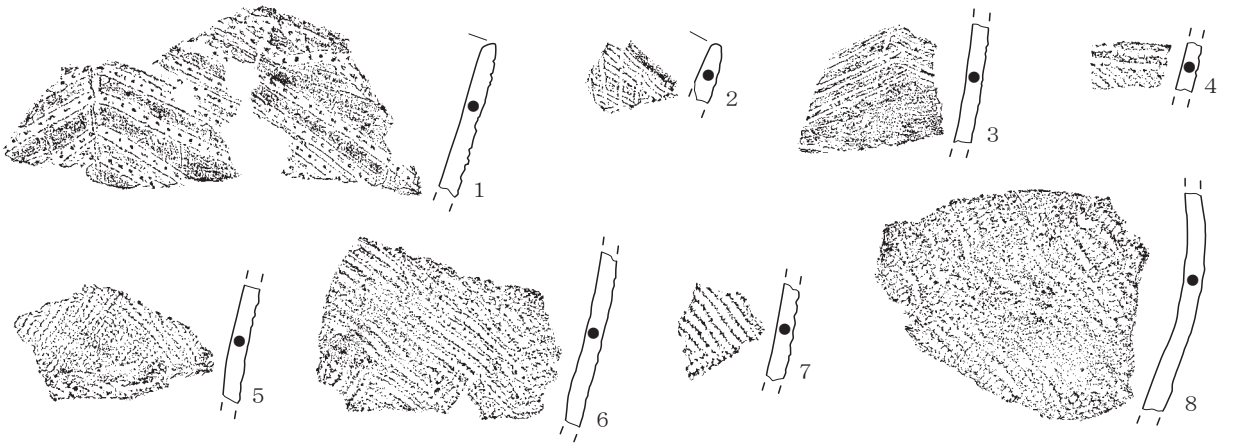
0　1：4　10cm



第840図　J－68a号住居址

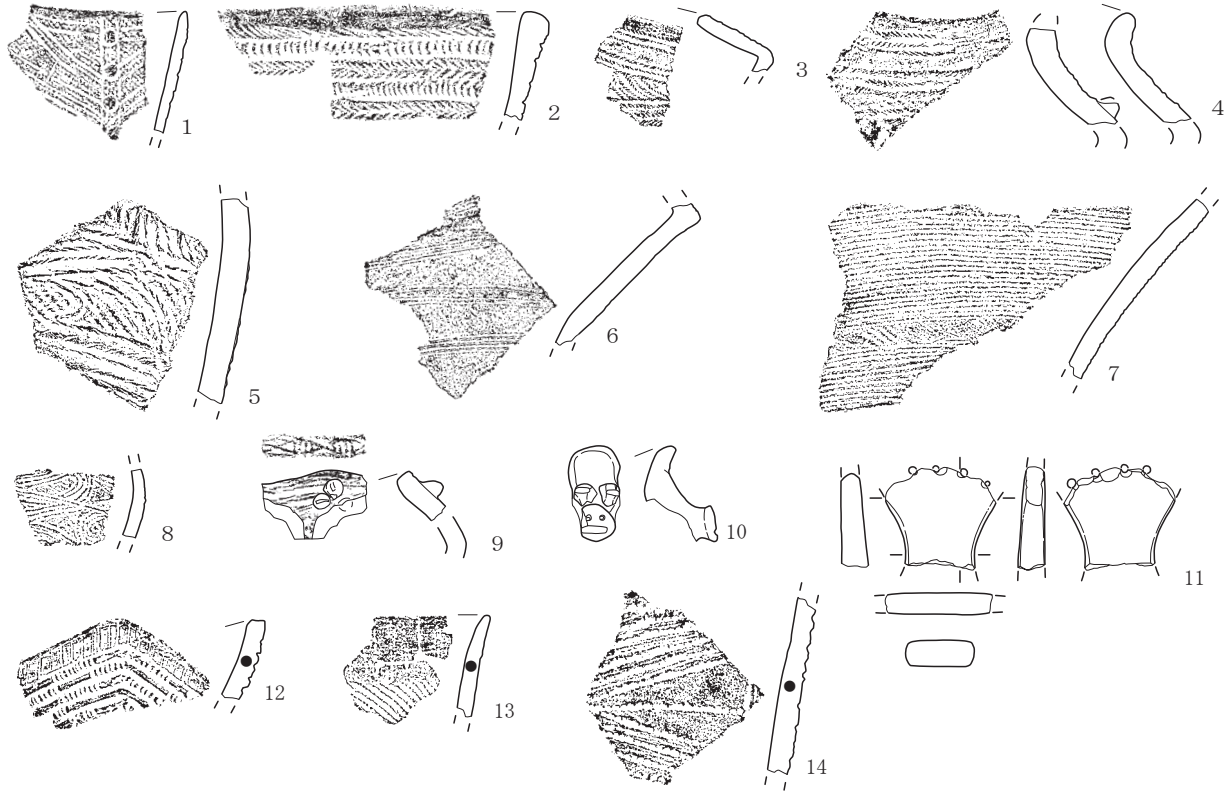


第841図　J－68b号住居址

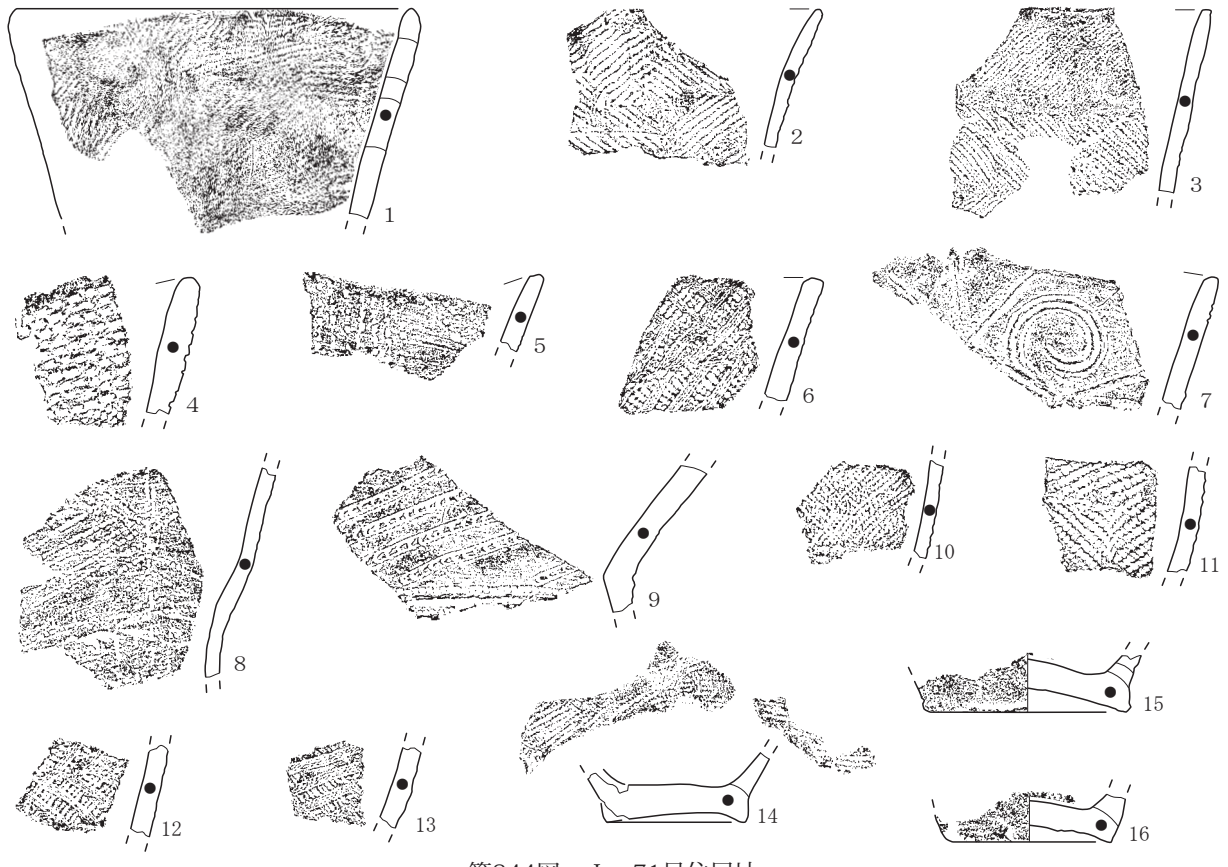


第842図　J－69号住居址

0　1：4　10cm

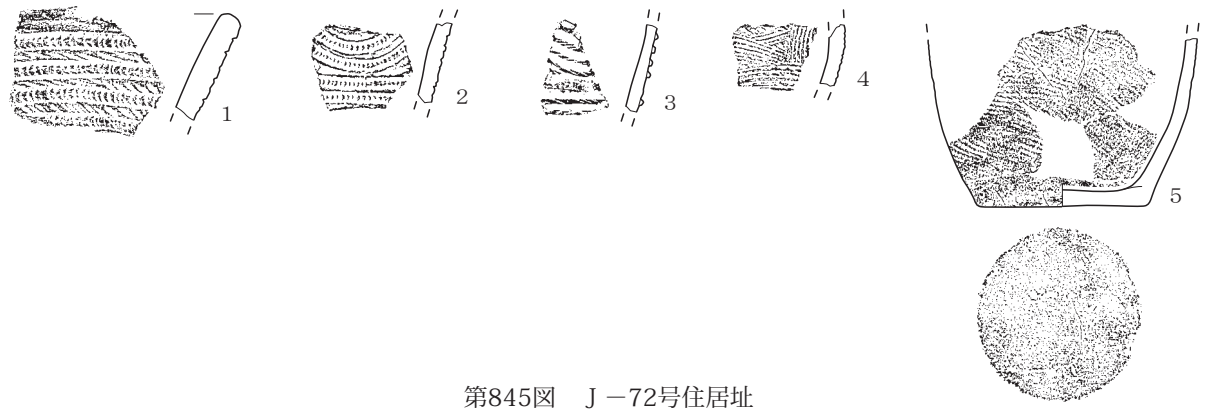


第843図　J－70号住居址

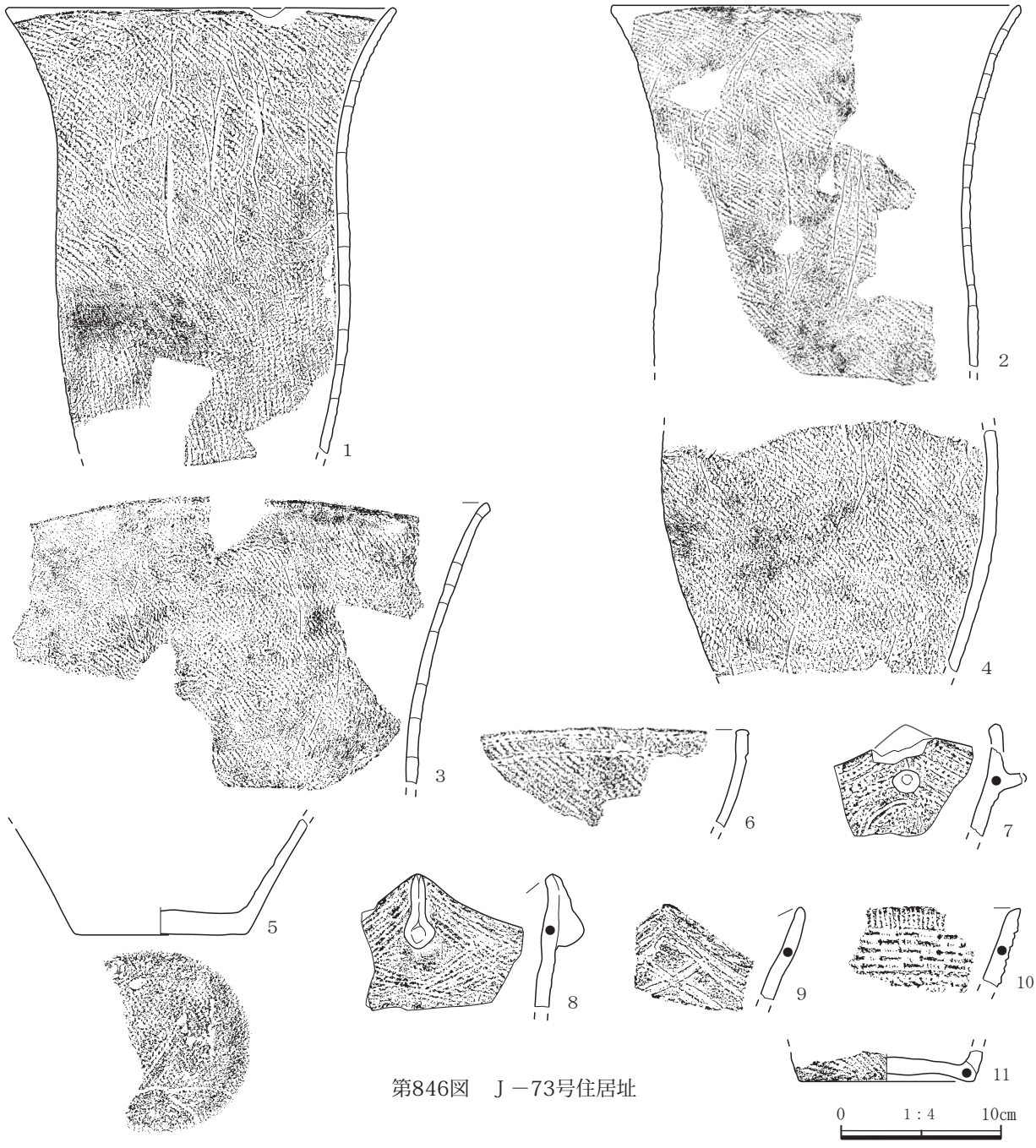


第844図　J－71号住居址

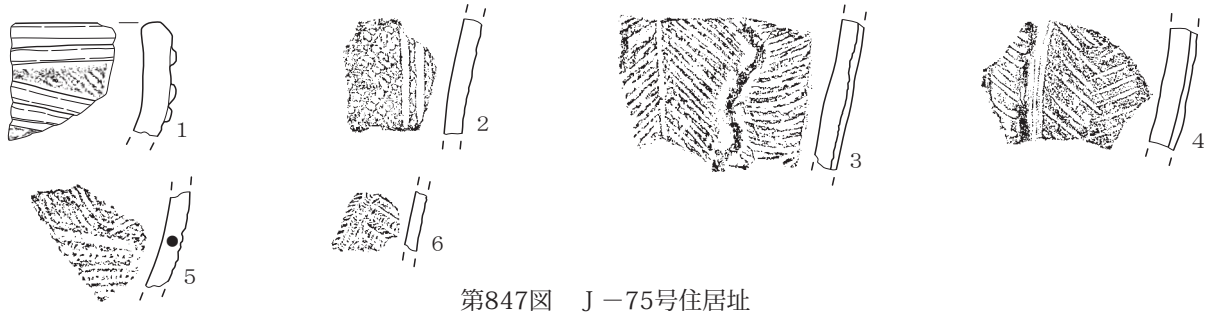
0　1：4　10cm



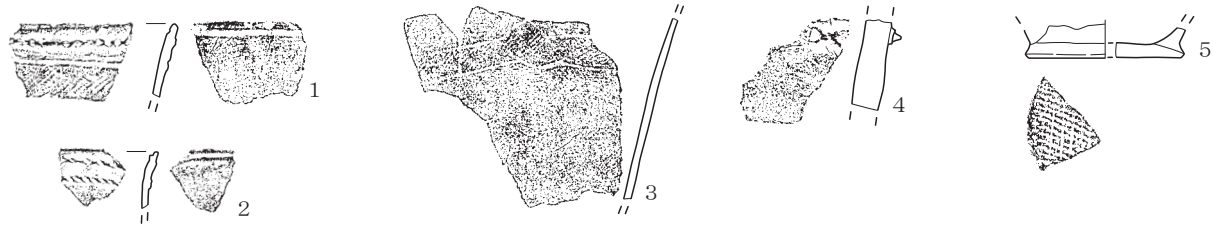
第845図　J－72号住居址



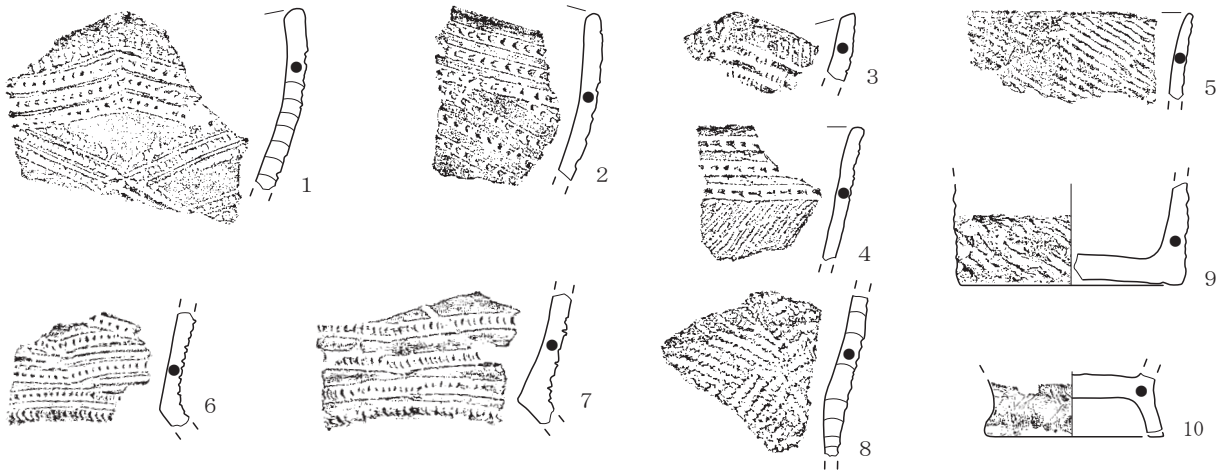
第846図　J－73号住居址



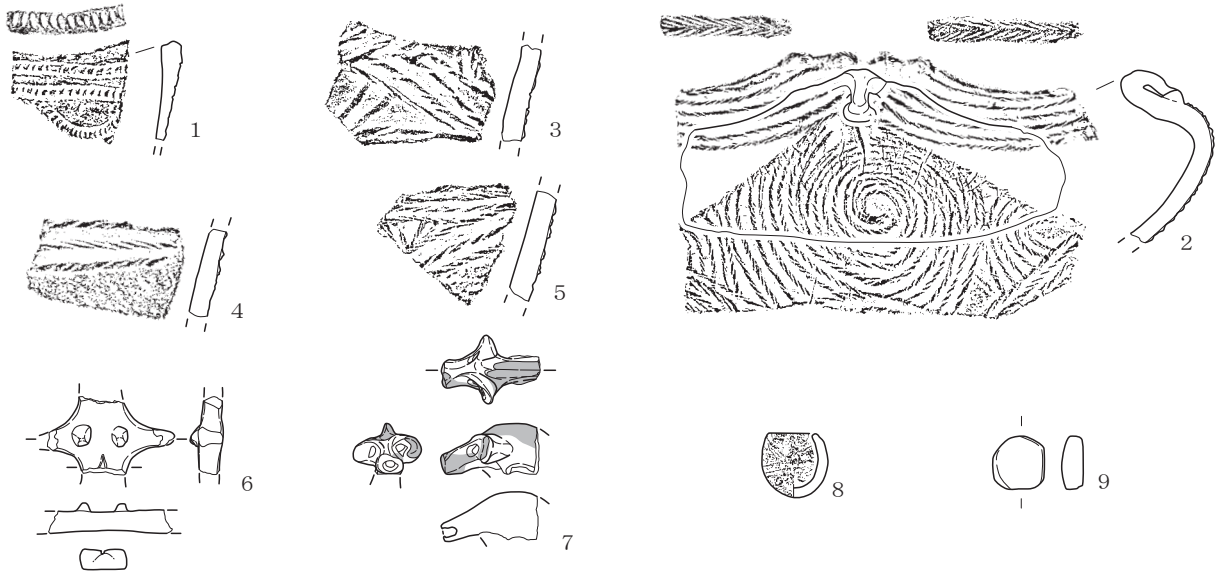
第847図　J－75号住居址



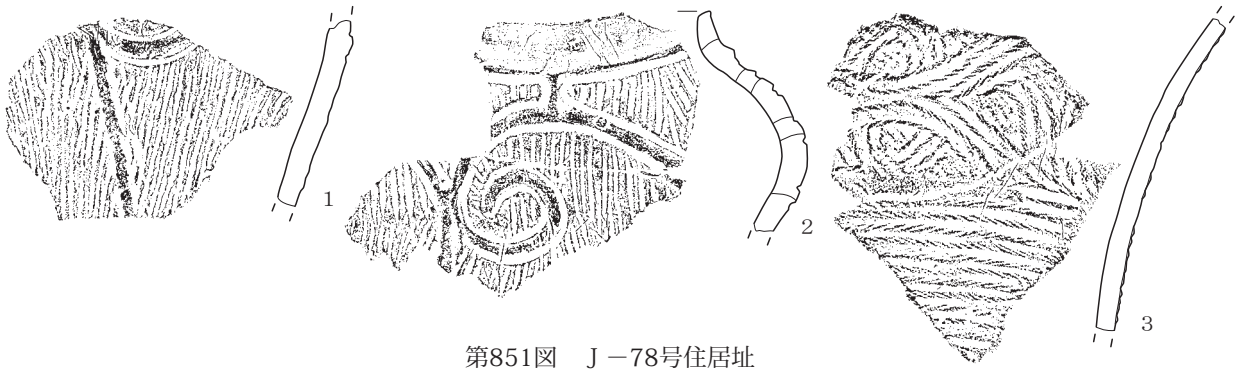
第848図　J－76号住居址



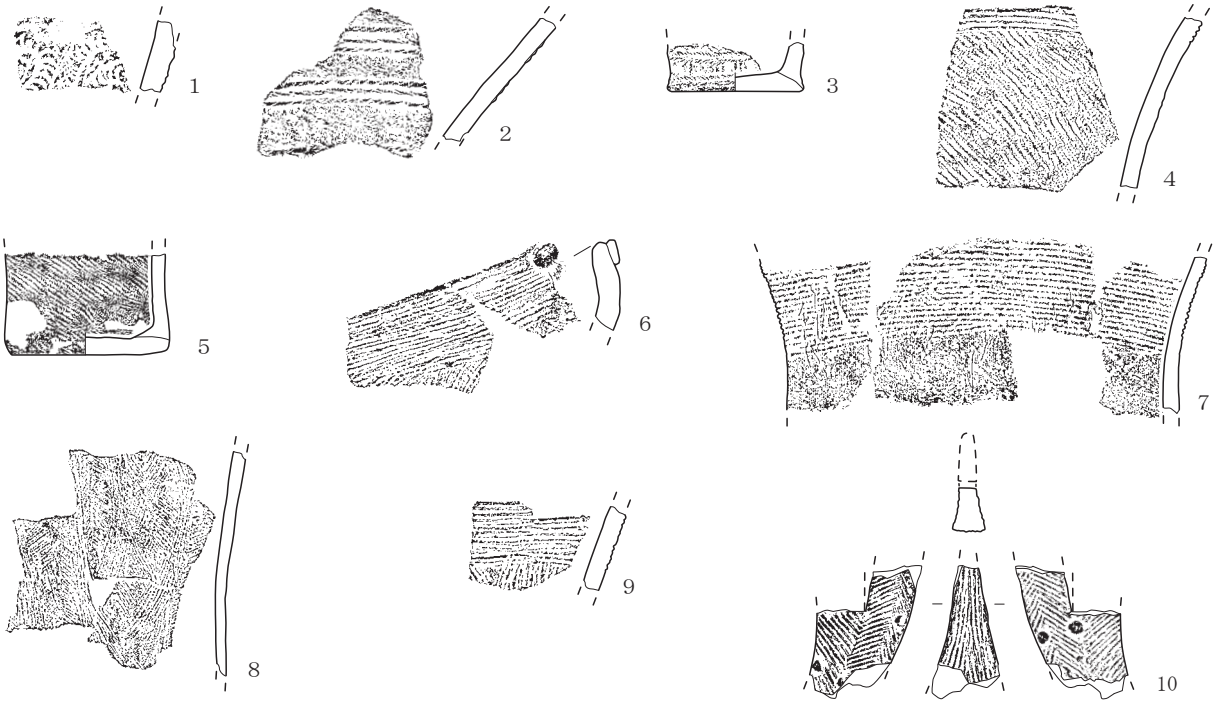
第849図　J－77a号住居址



第850図　J－77b号住居址



第851図　J－78号住居址



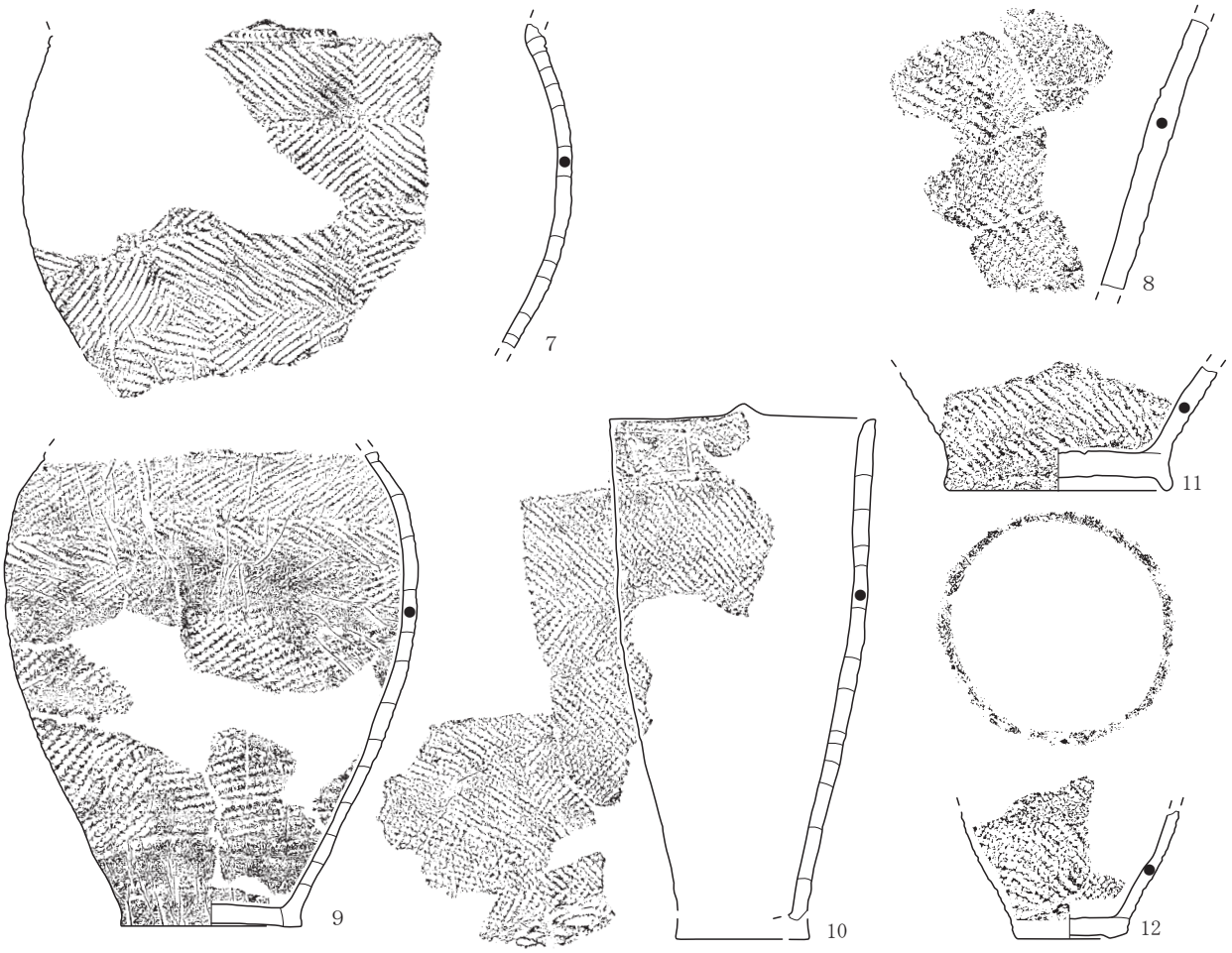
第852図　J－79号住居址

第853図　J－80号住居址（1）

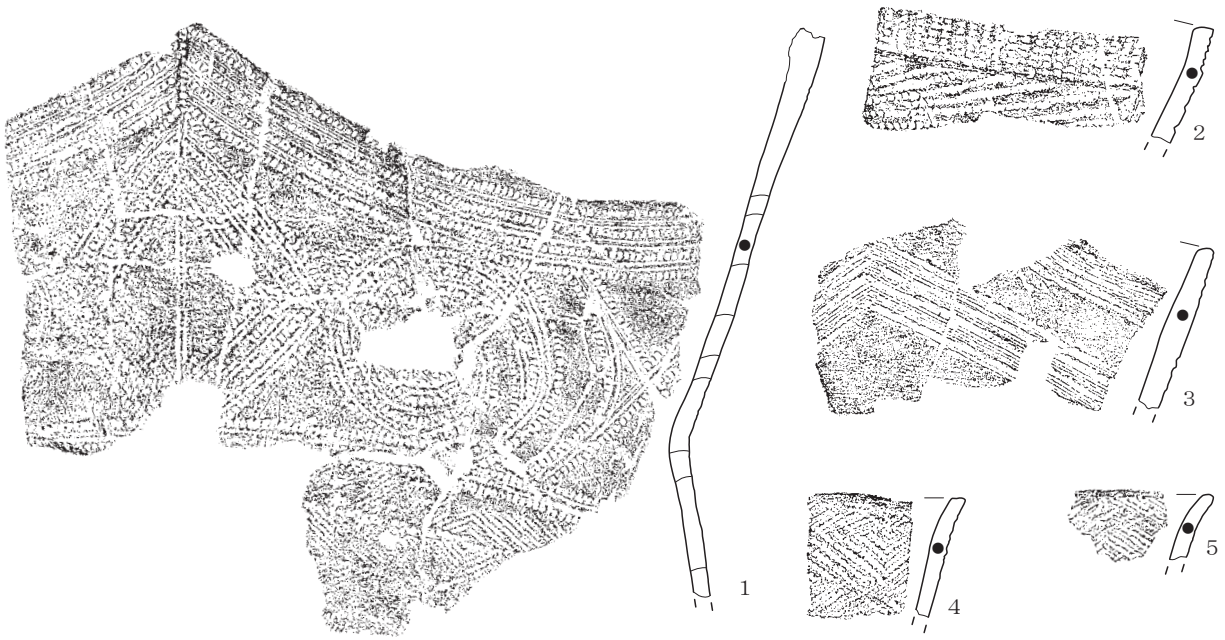
0　1：4　10cm

第854図　J－80号住居址（2）

0　1：4　10cm

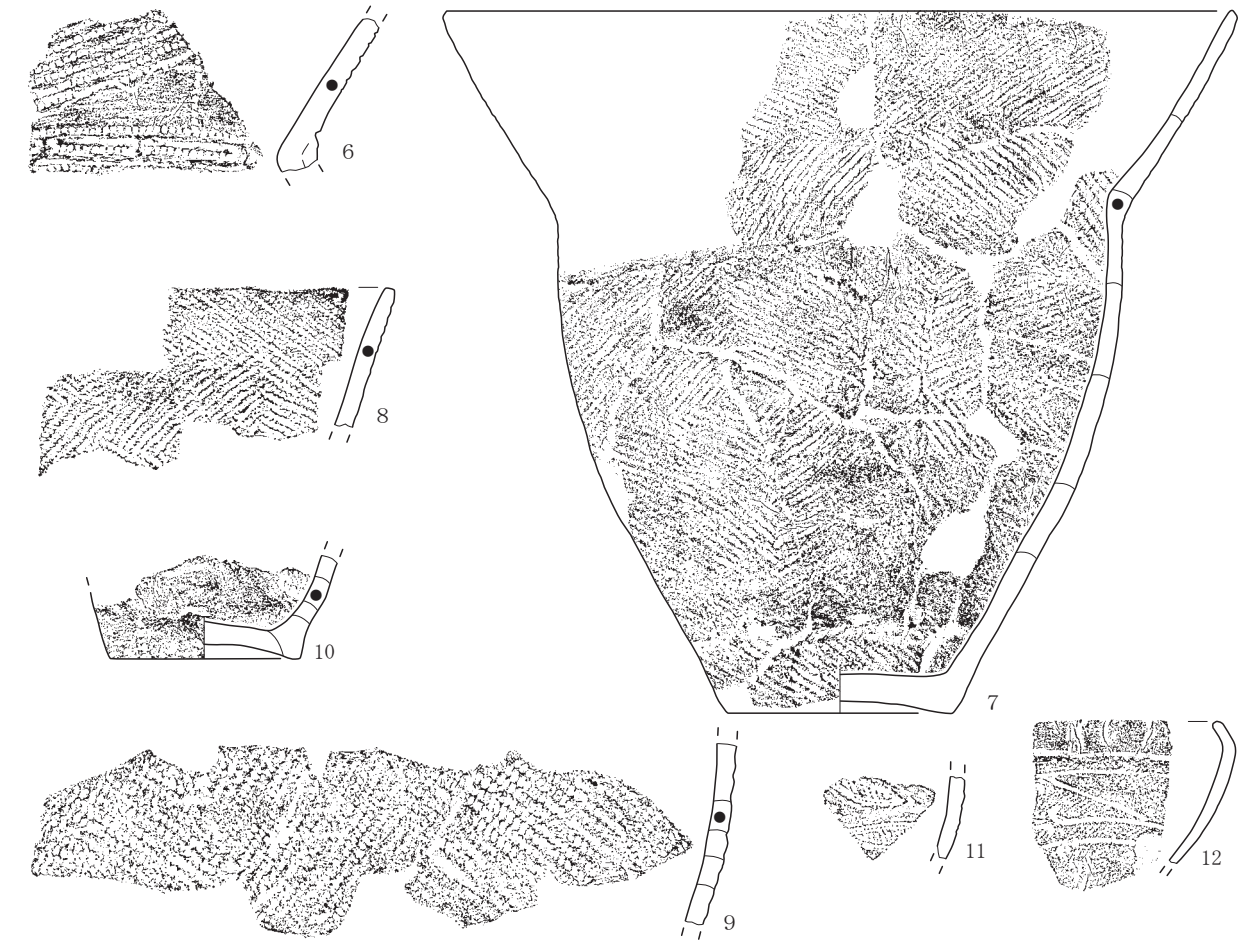


第855図　J－80号住居址（3）

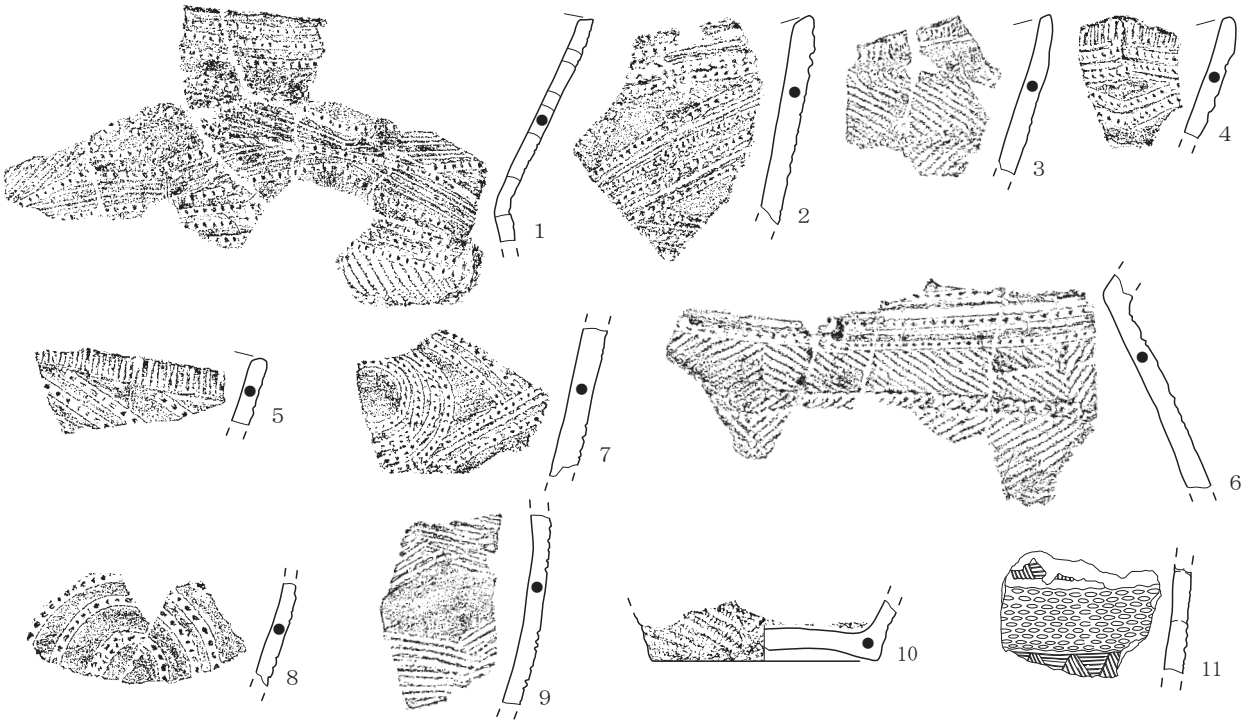


第856図　J－81号住居址（1）

0　1：4　10cm

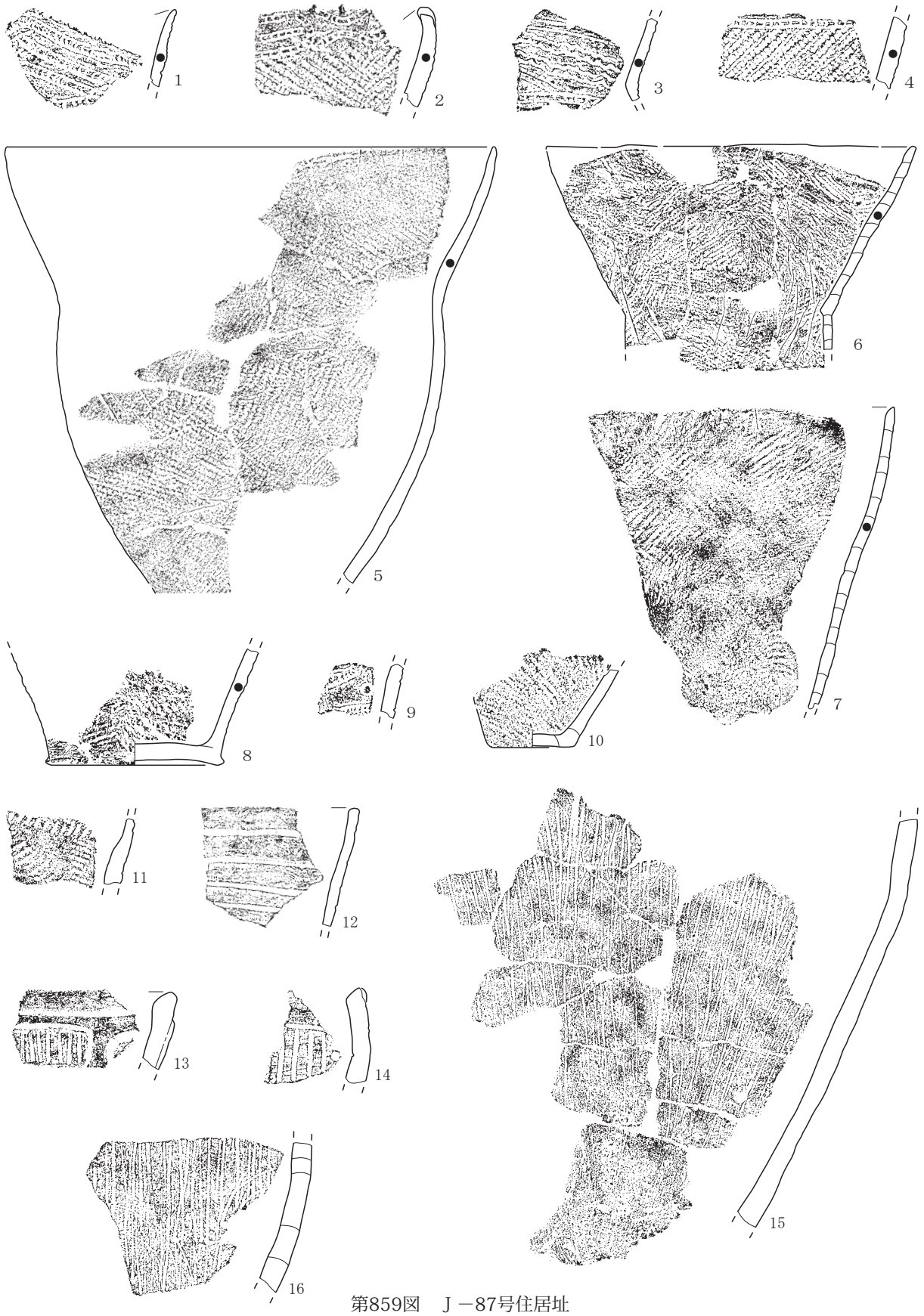


第857図　J－81号住居址（2）



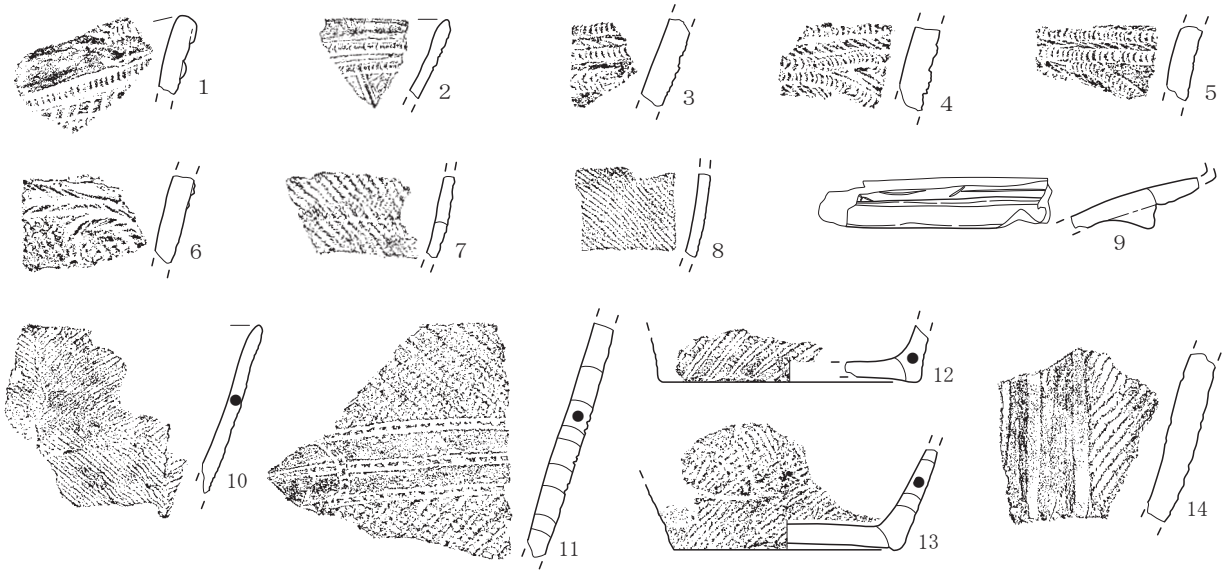
第858図　J－82号住居址

0　1：4　10cm

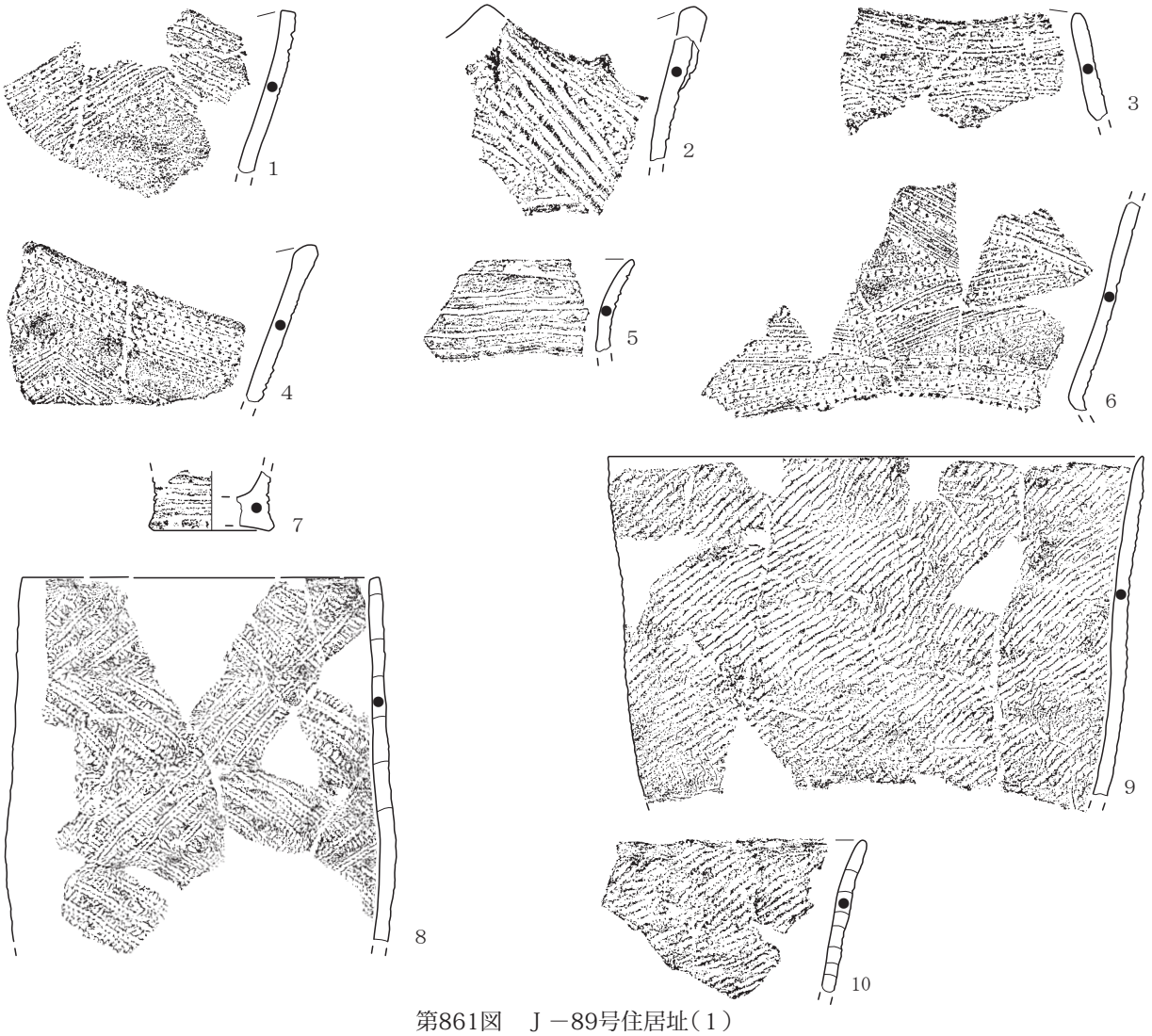


第859図　J－87号住居址

0　1：4　10cm

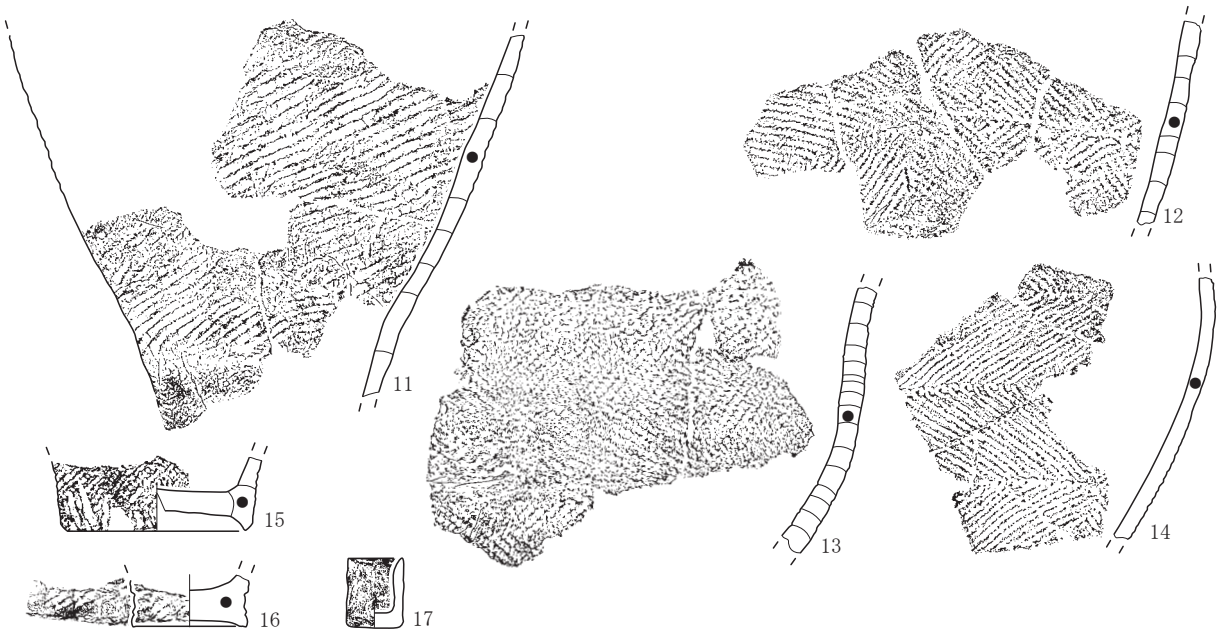


第860図　J－88号住居址

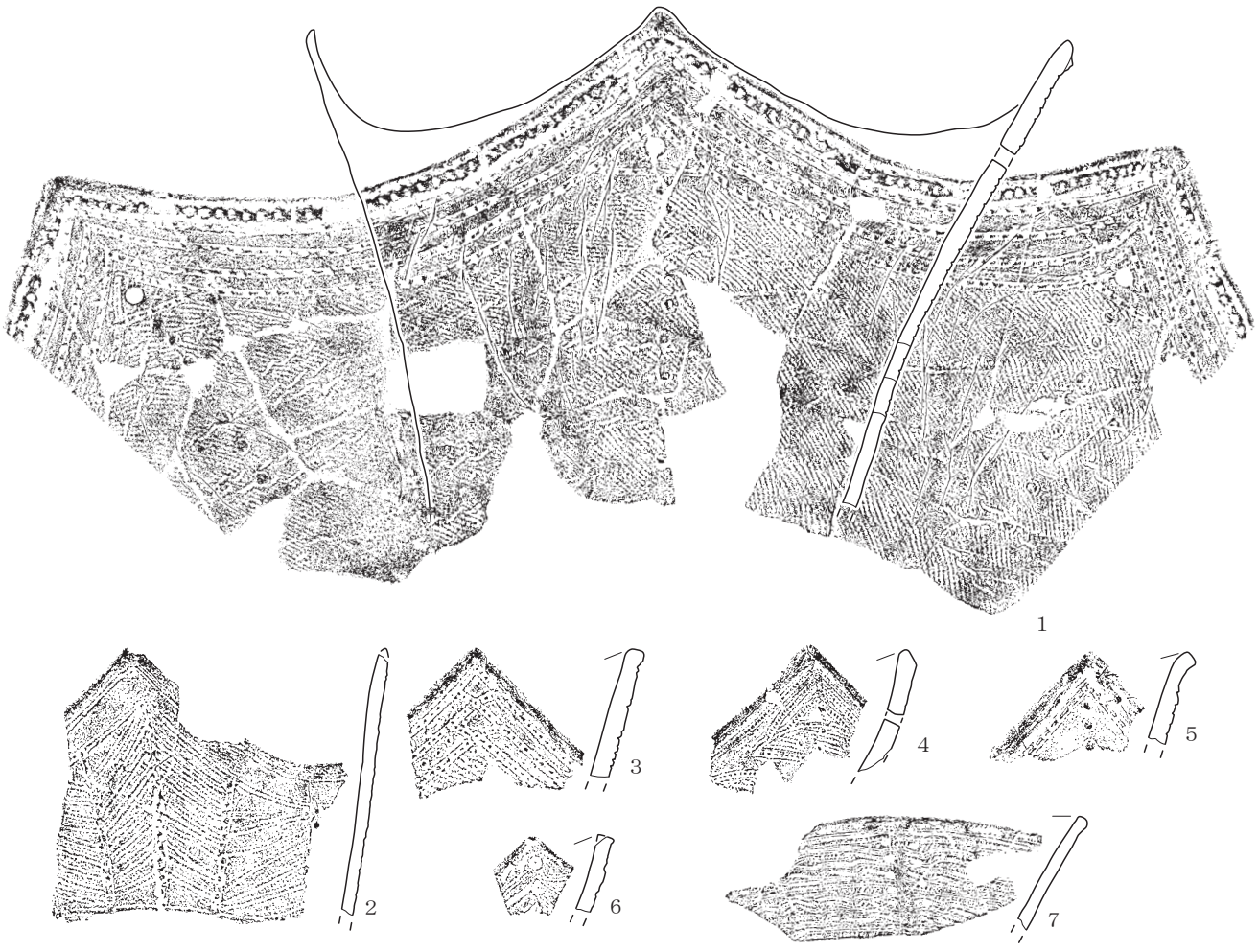


第861図　J－89号住居址（1）

0　1：4　10cm

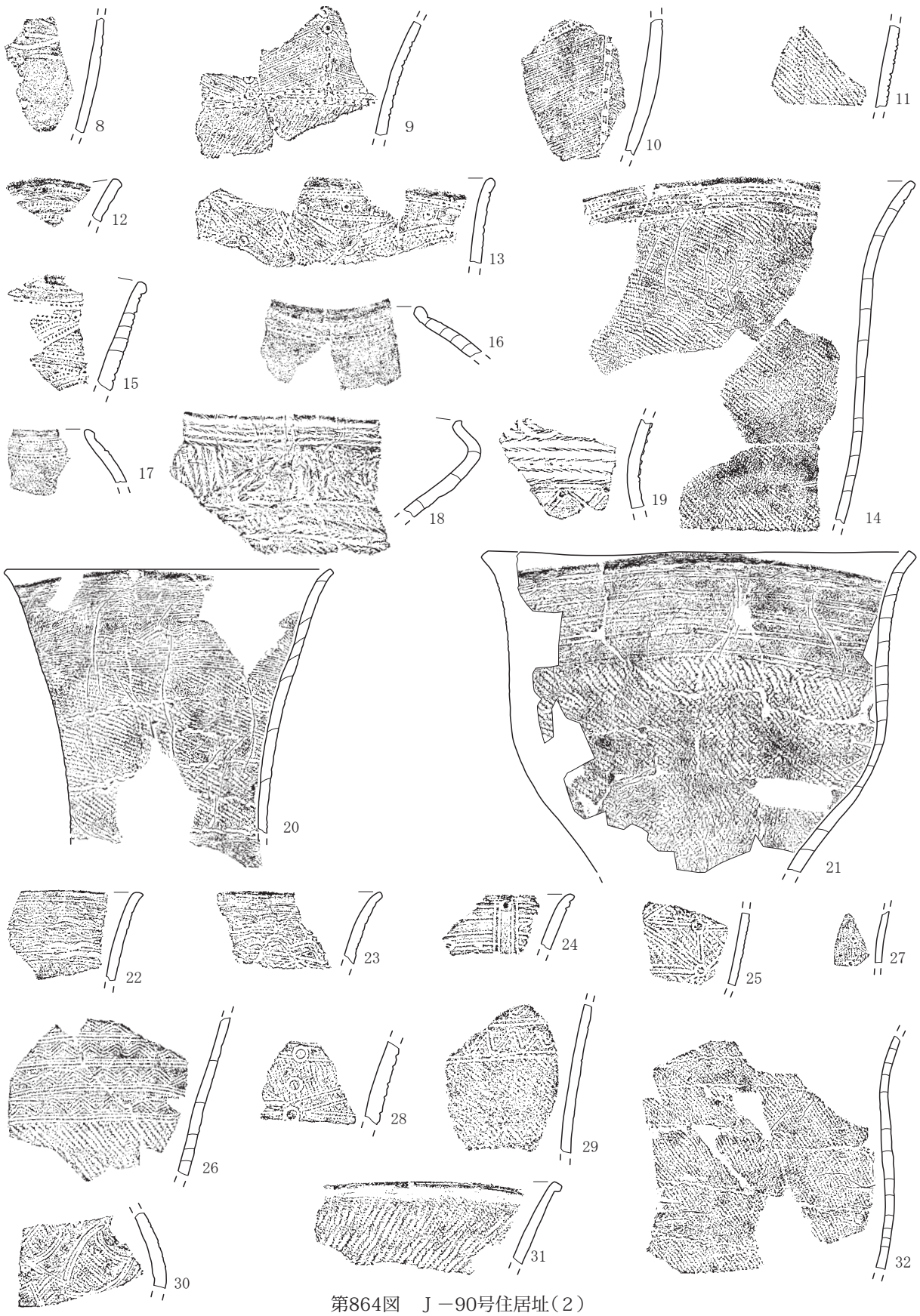


第862図　J－89号住居址（2）

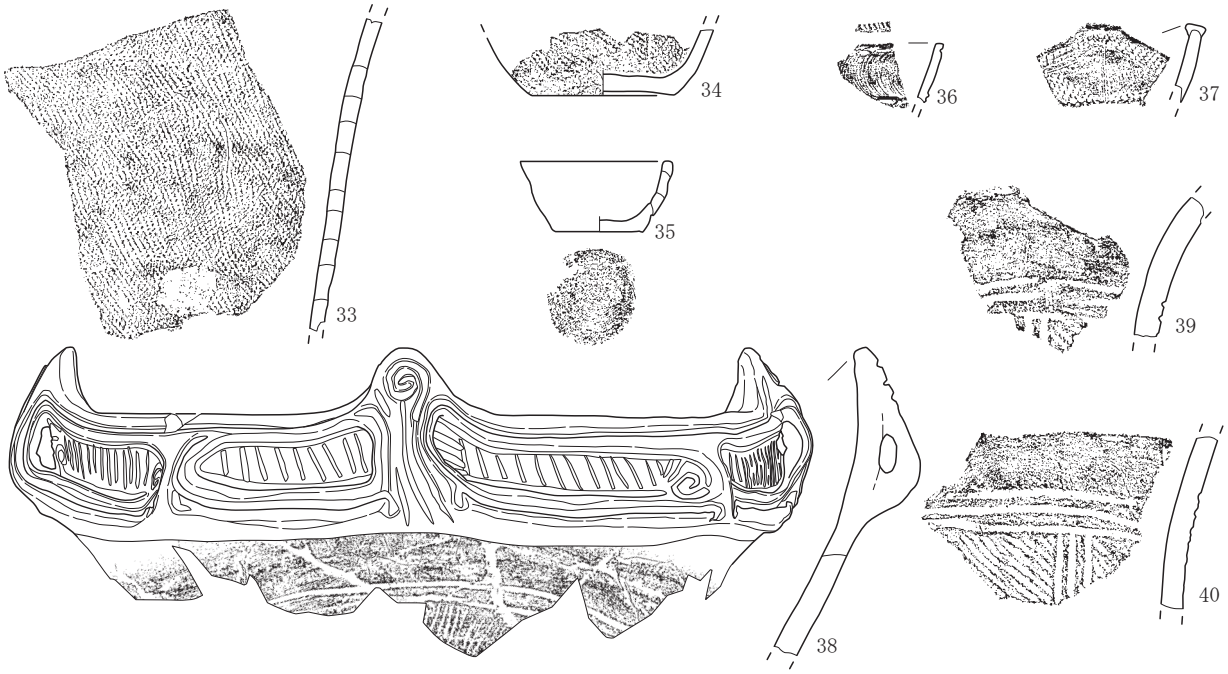


第863図　J－90号住居址（1）

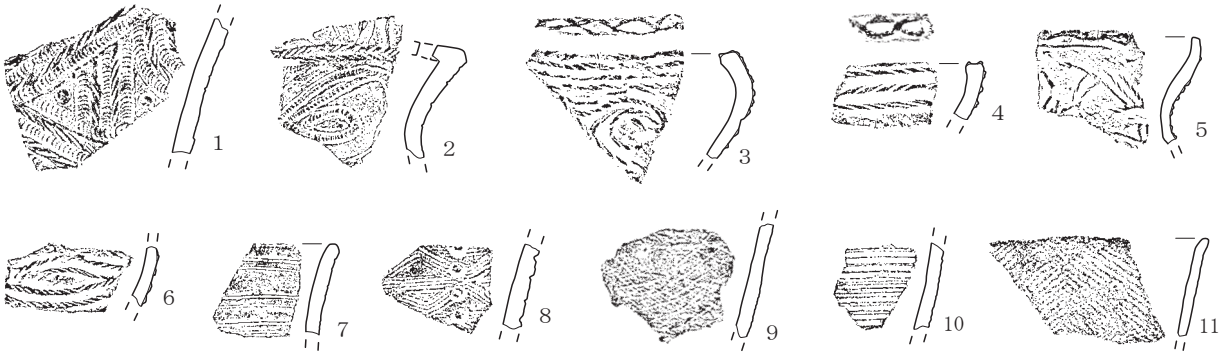
0　1：4　10cm



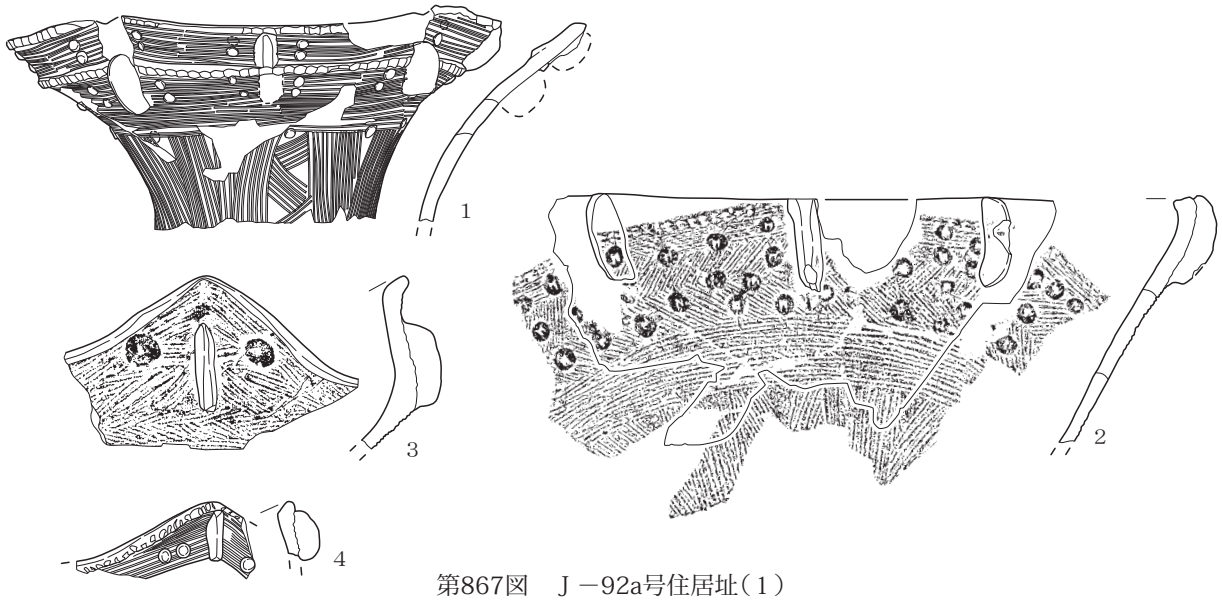
第864図　Ｊ－90号住居址（２）



第865図　J－90号住居址（3）

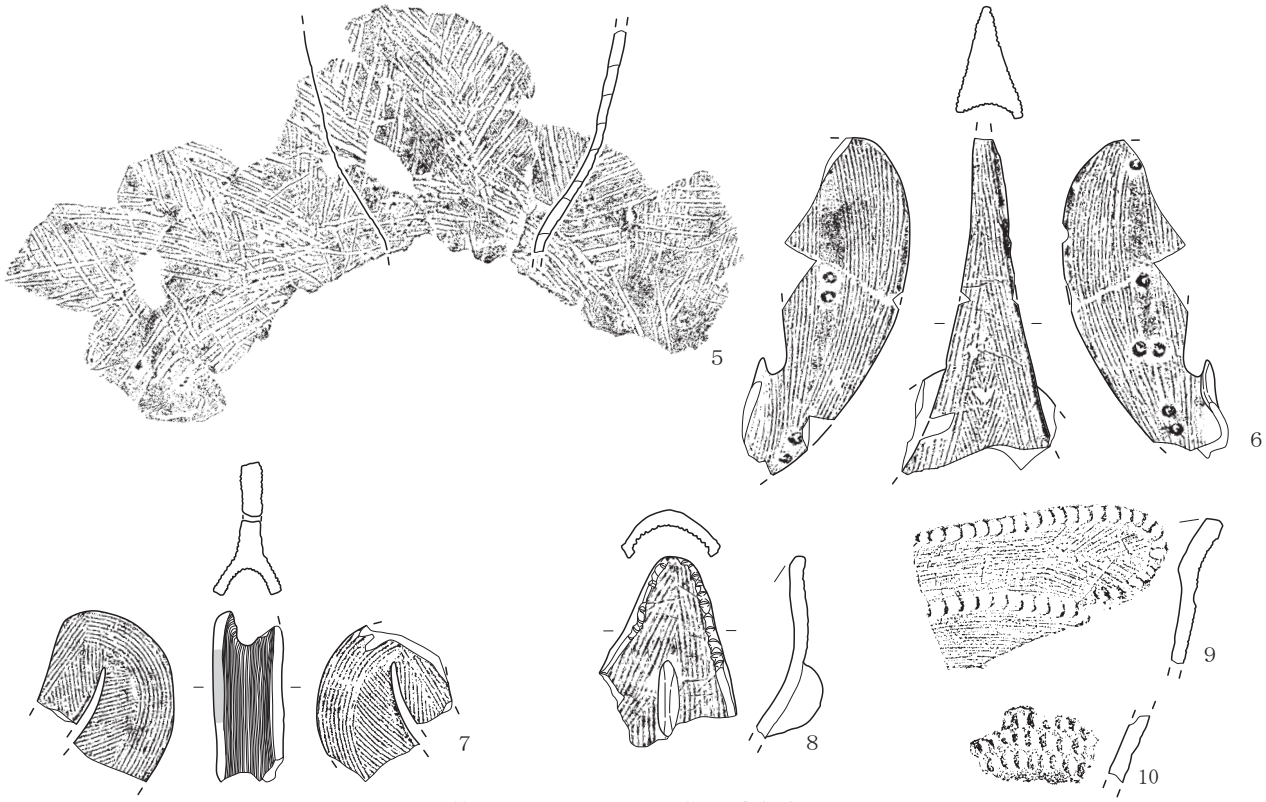


第866図　J－91号住居址

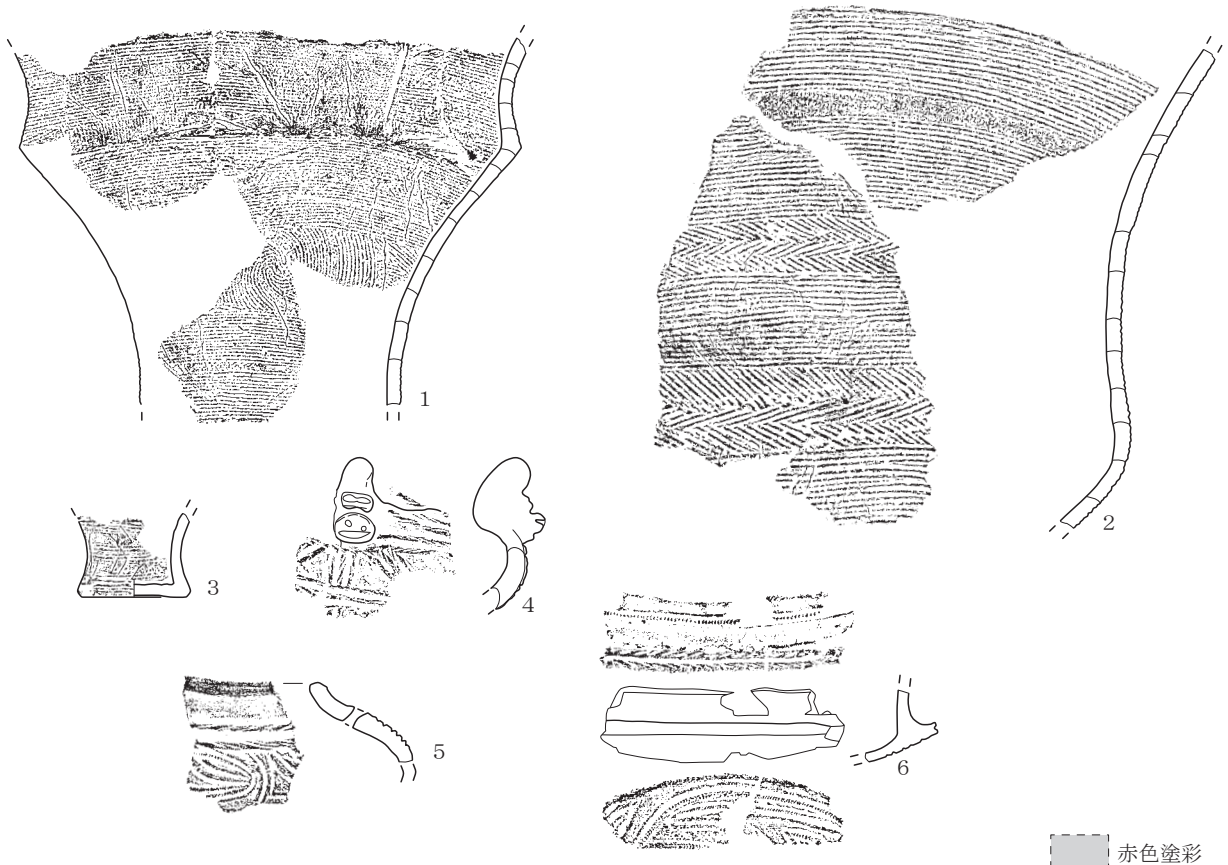


第867図　J－92a号住居址（1）

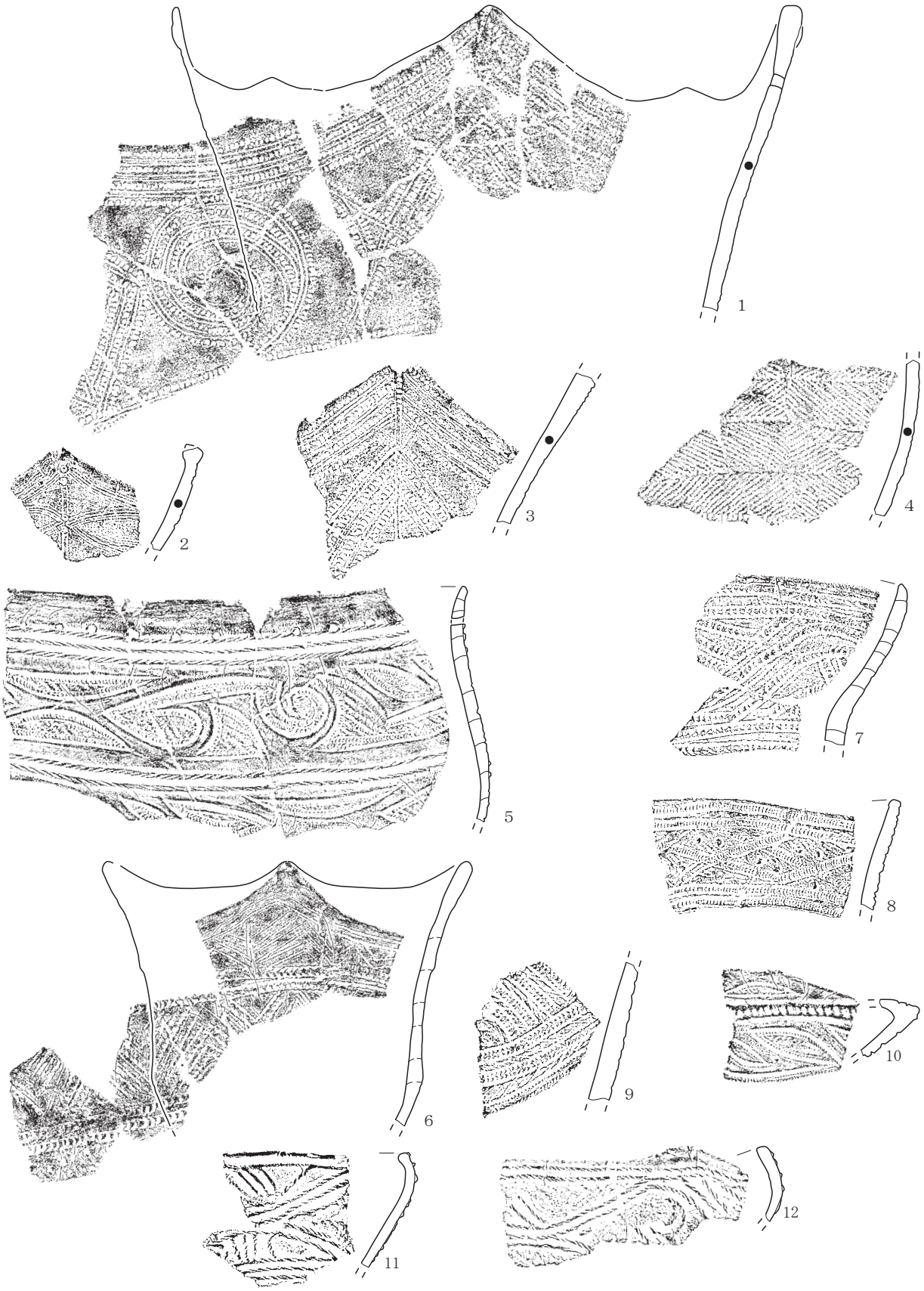
0　1：4　10cm



第868図　J－92a号住居址（2）

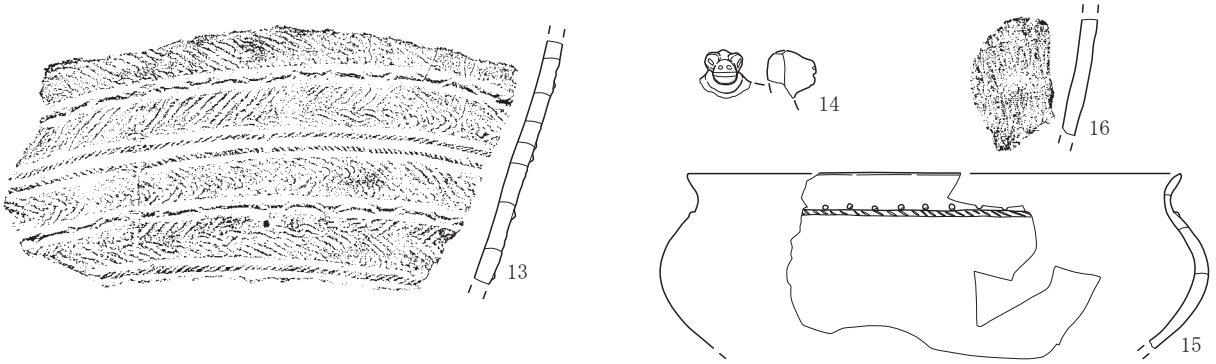


第869図　J－92b号住居址

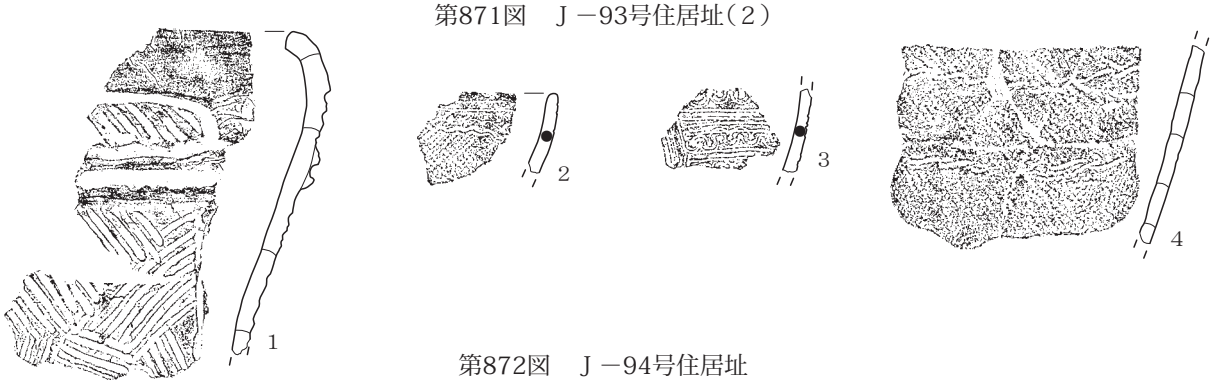


第870図　J－93号住居址（1）

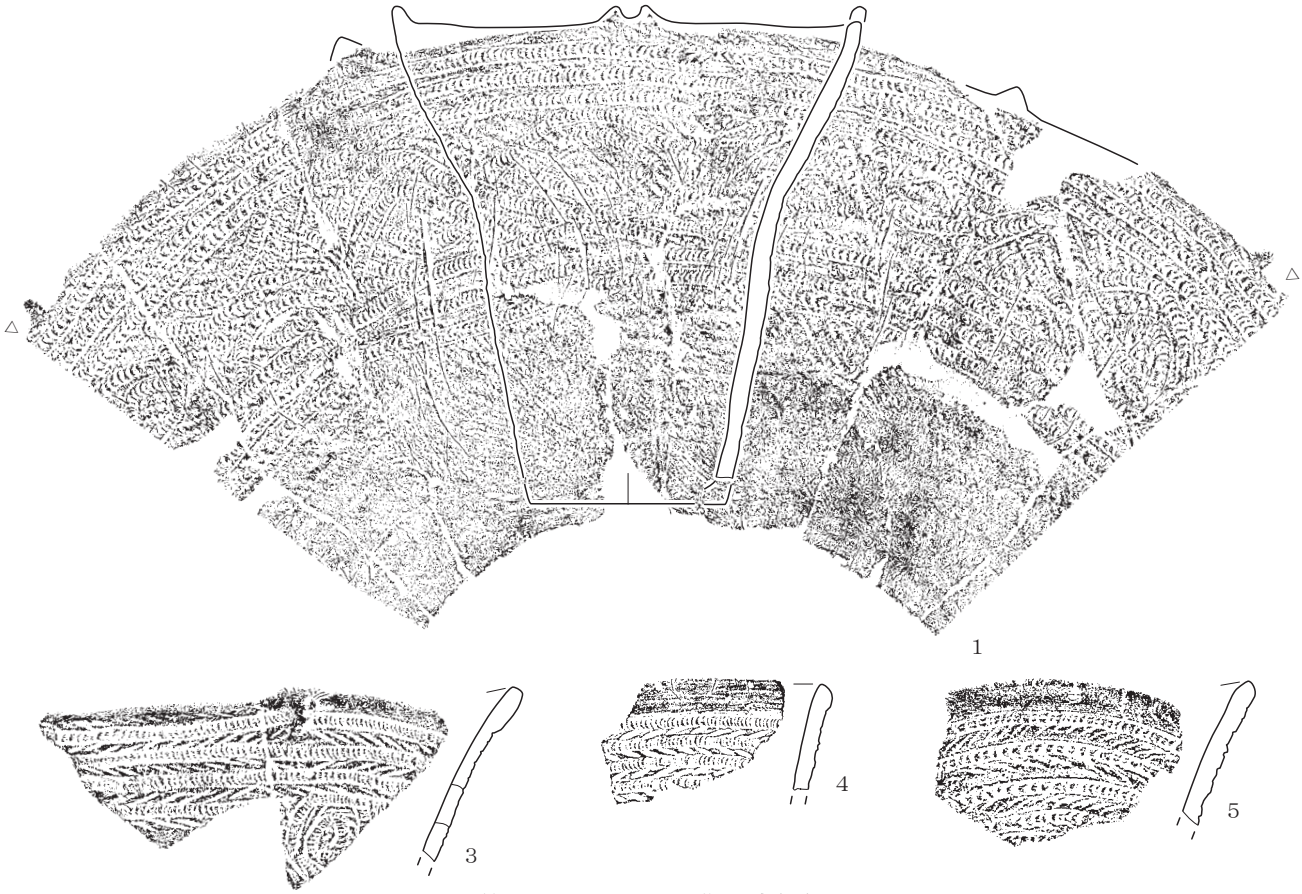
0　1：4　10cm



第871図　J－93号住居址（2）

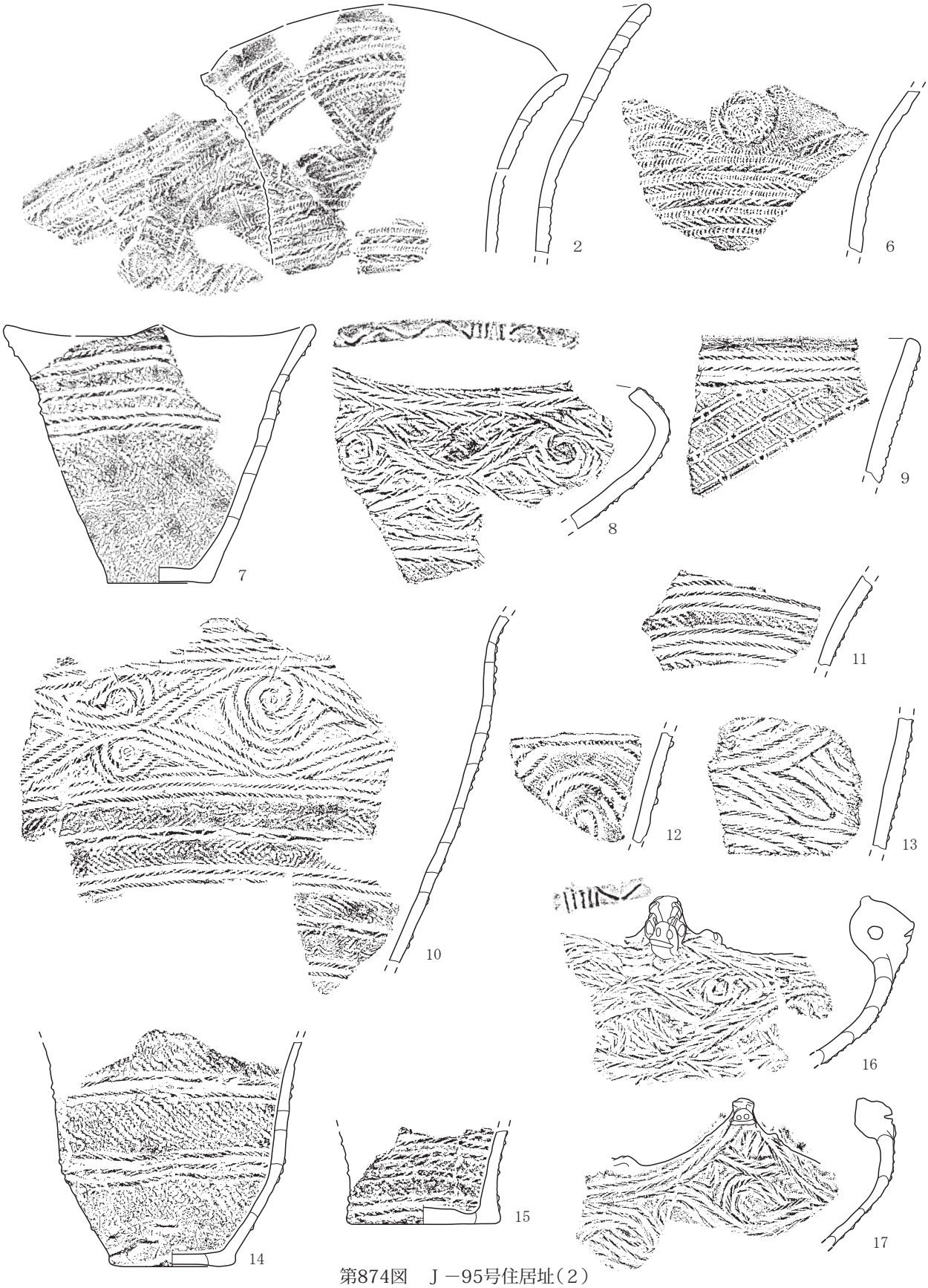


第872図　J－94号住居址



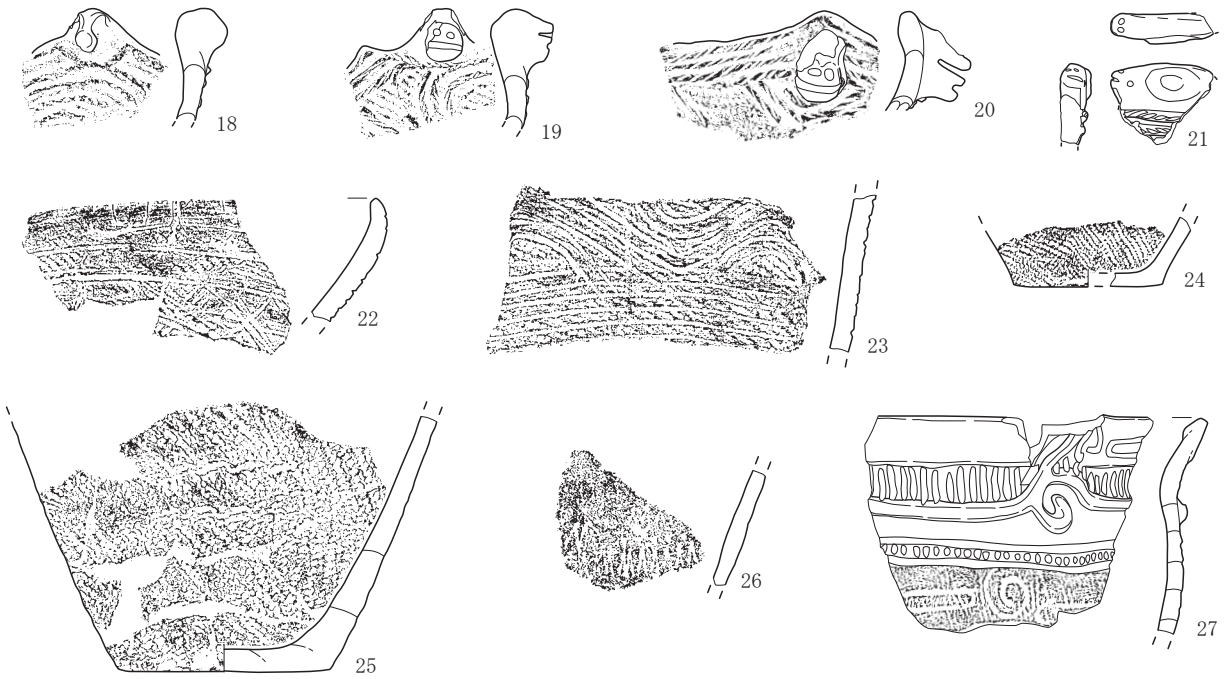
第873図　J－95号住居址（1）

0　1：4　10cm

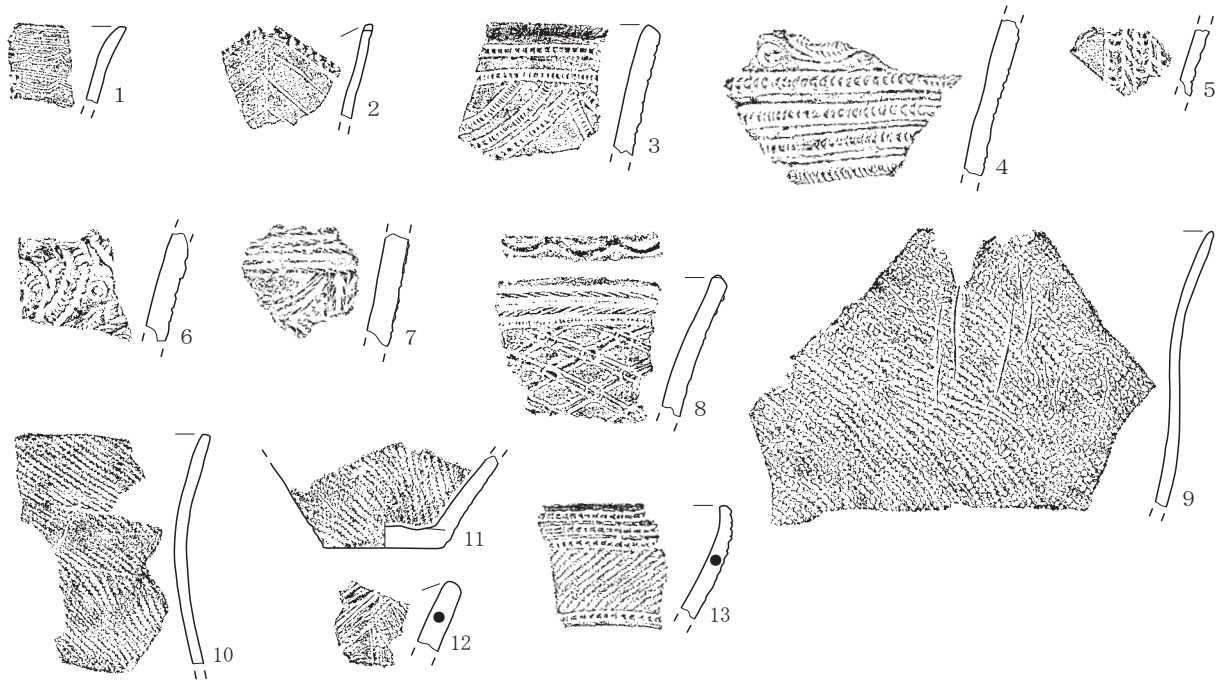


第874図　J－95号住居址（2）

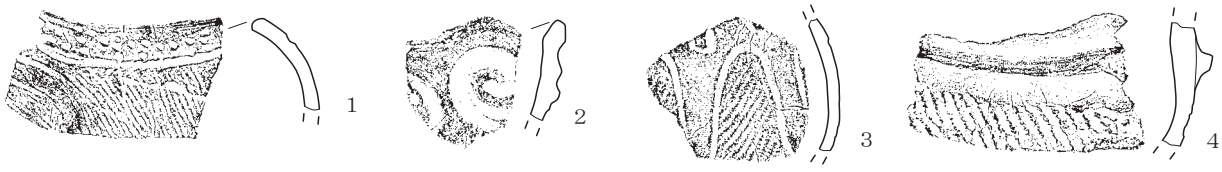
0　1：4　10cm



第875図　J－95号住居址（3）

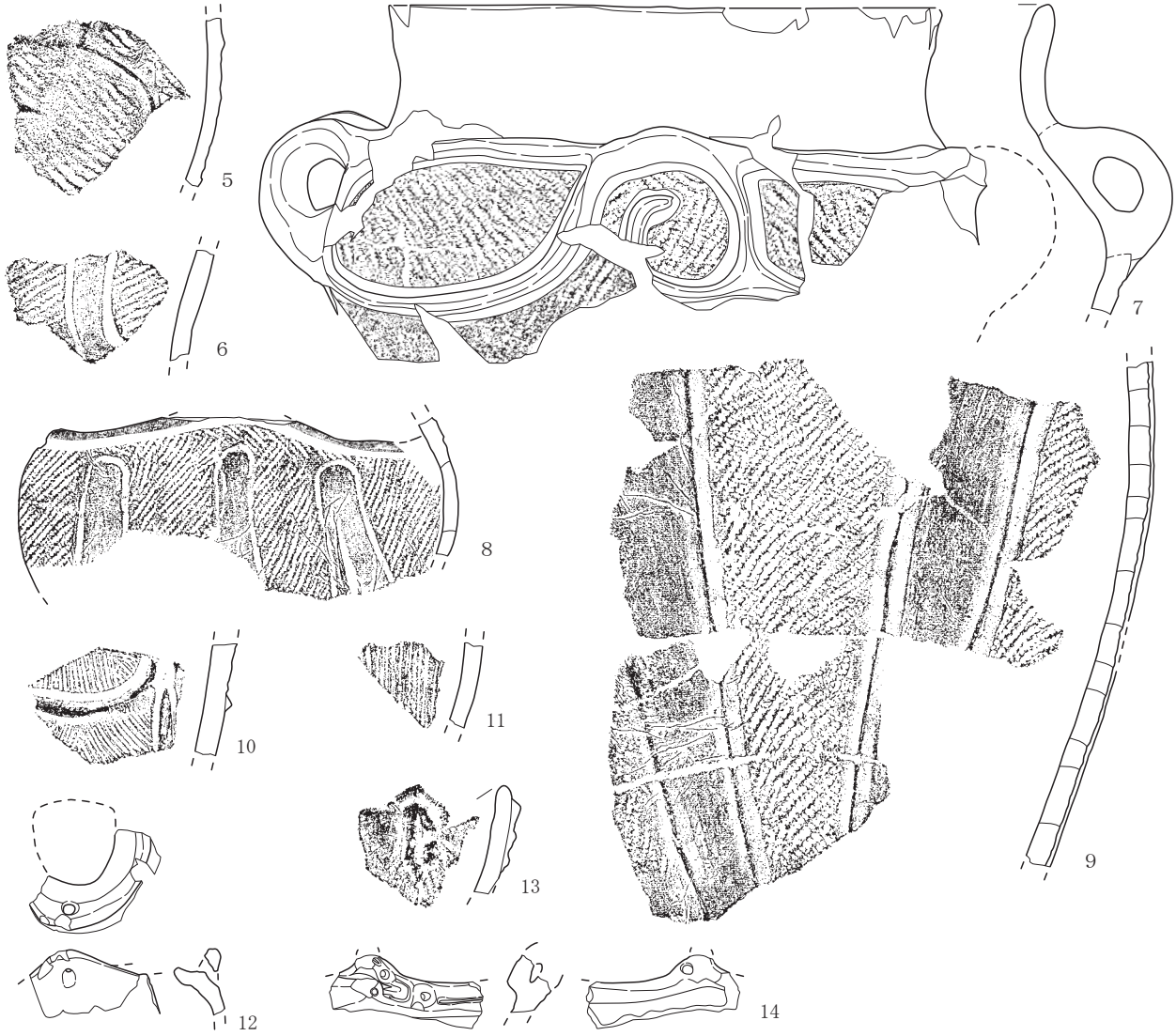


第876図　J－96号住居址

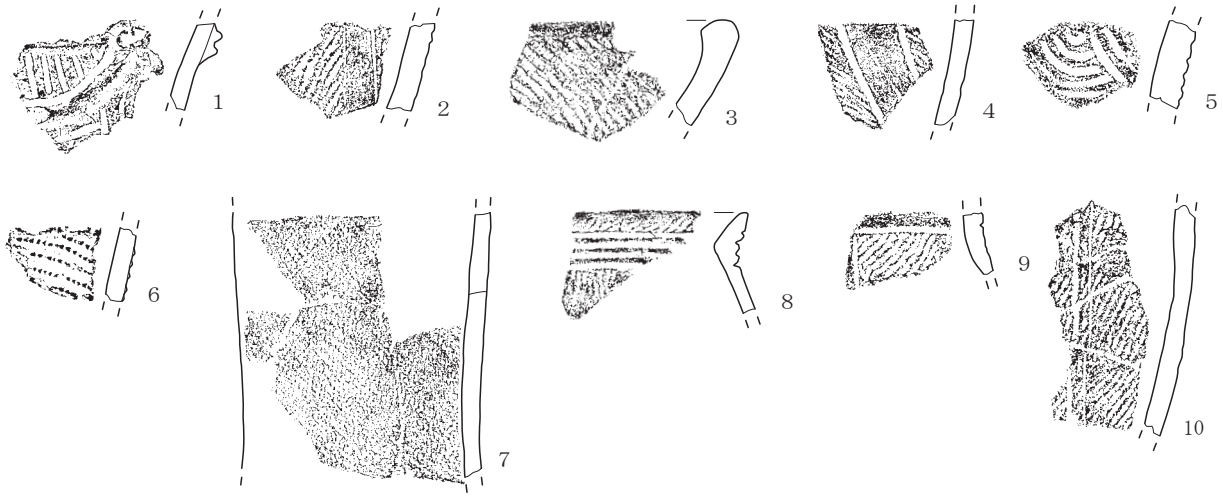


第877図　J－98号住居址（1）

0　1：4　10cm

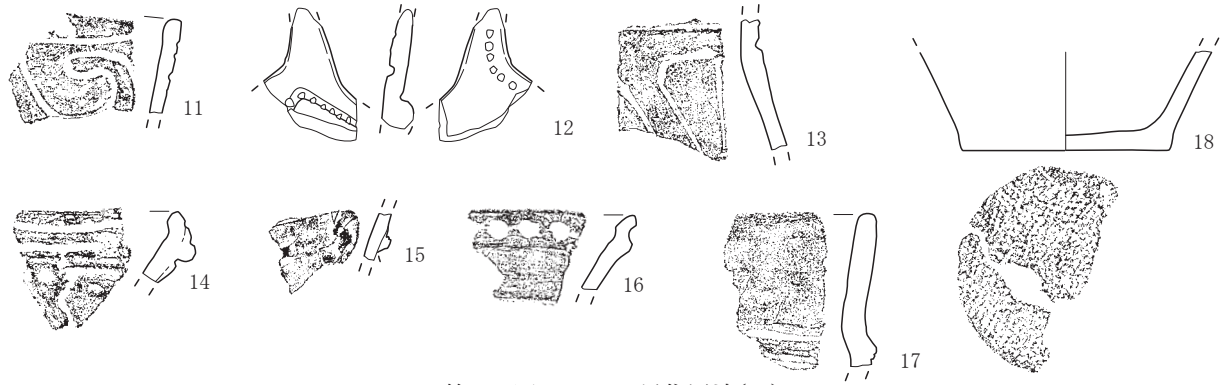


第878図　J－98号住居址（2）

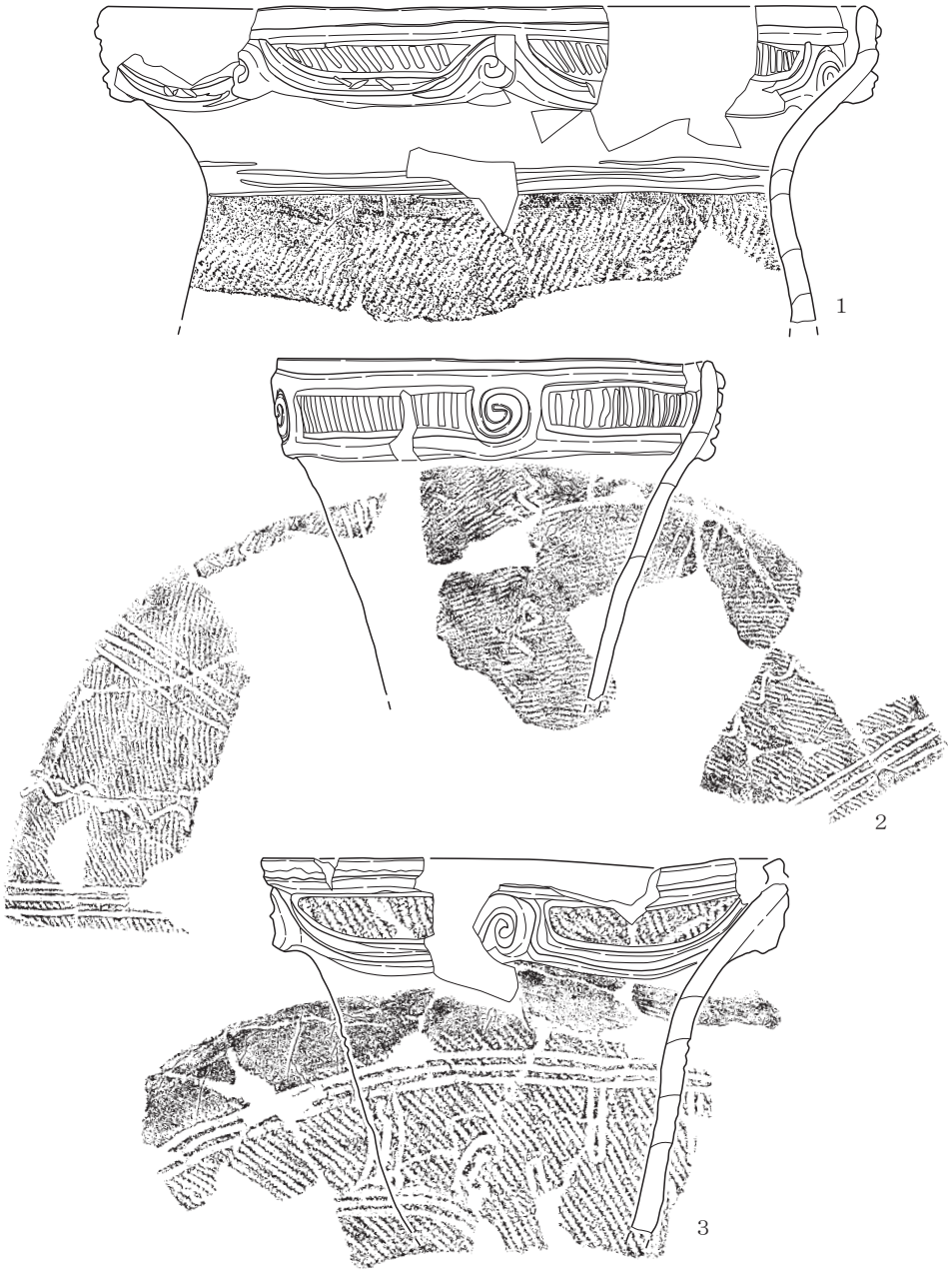


第879図　J－99号住居址（1）

0　1：4　10cm

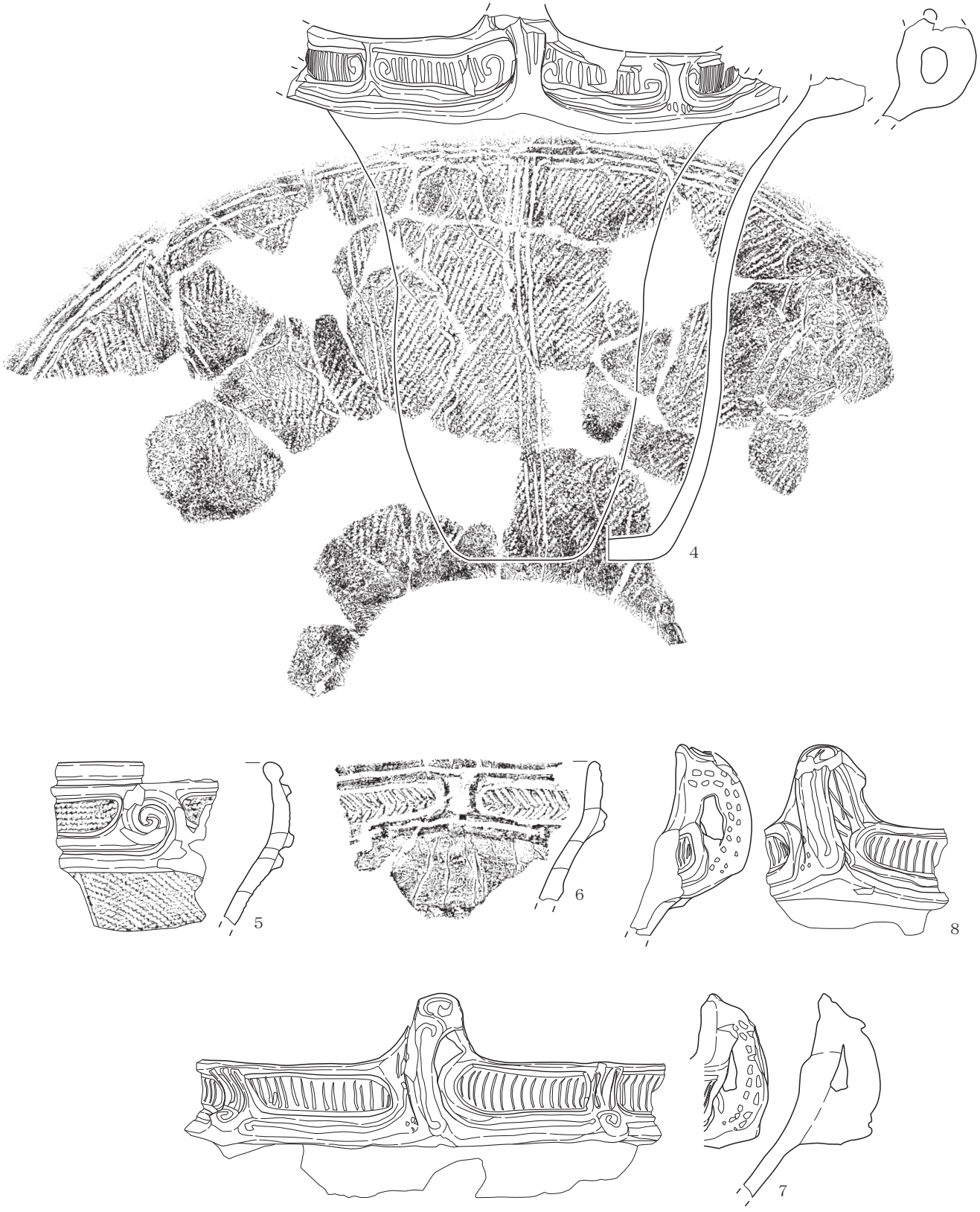


第880図　J－99号住居址（2）



第881図　J－100号住居址（1）

0　1：4　10cm

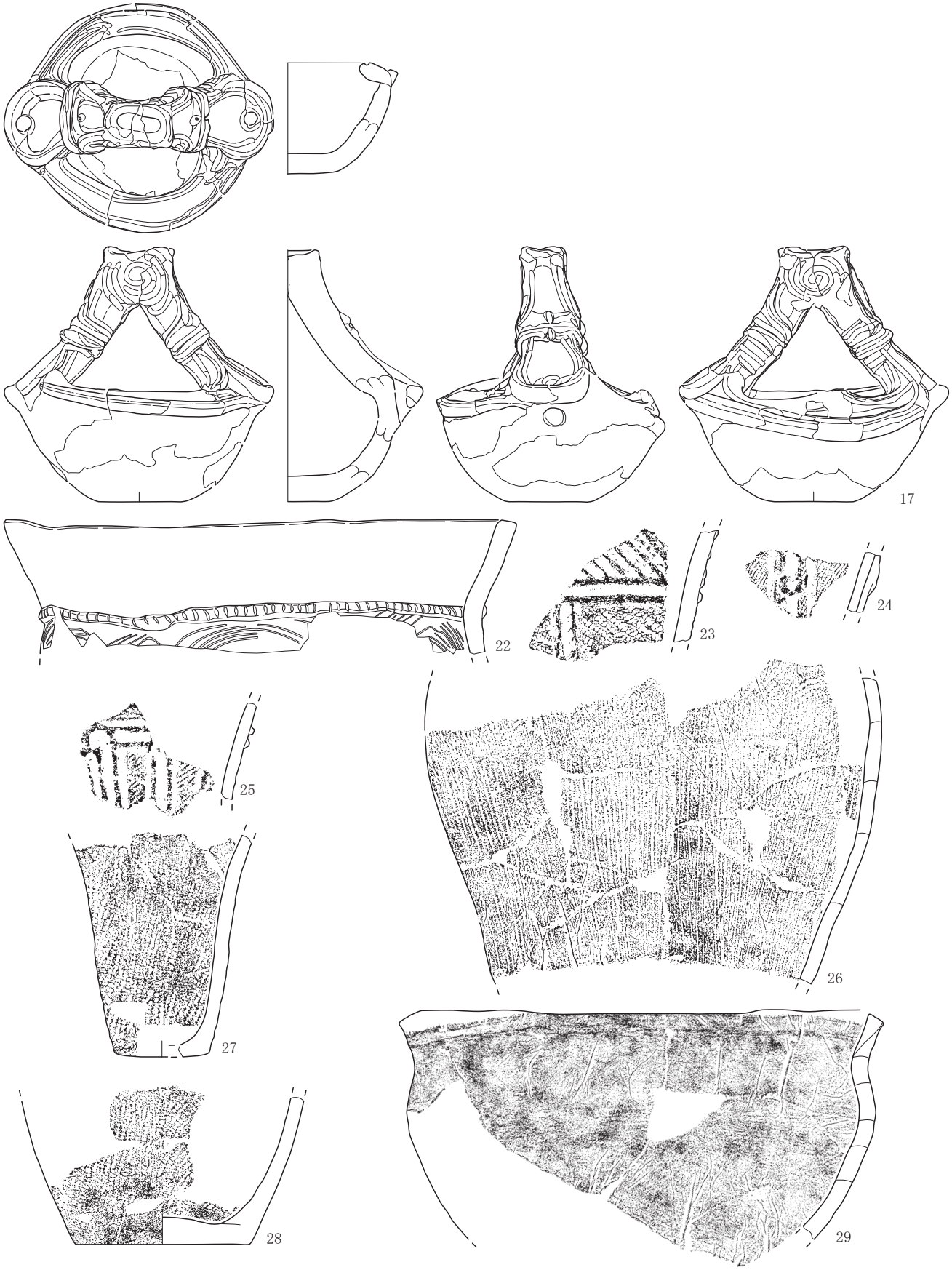


第882図　J－100号住居址（2）

0　1：4　10cm

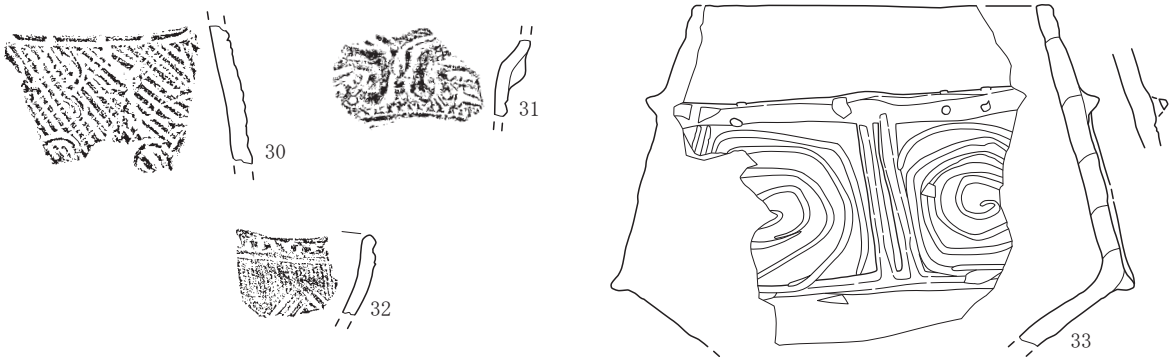
第883図　J－100号住居址（3）

0　1：4　10cm

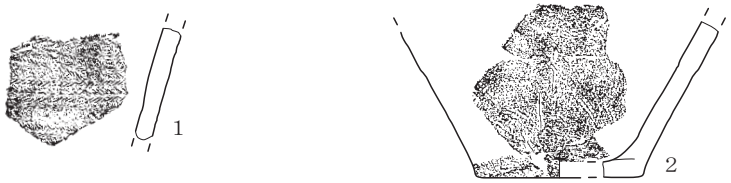


第884図　J－100号住居址（4）

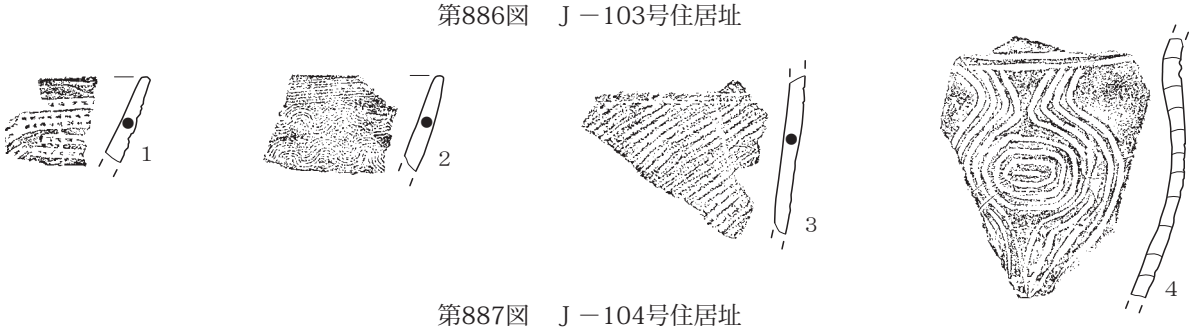
0　1：4　10cm



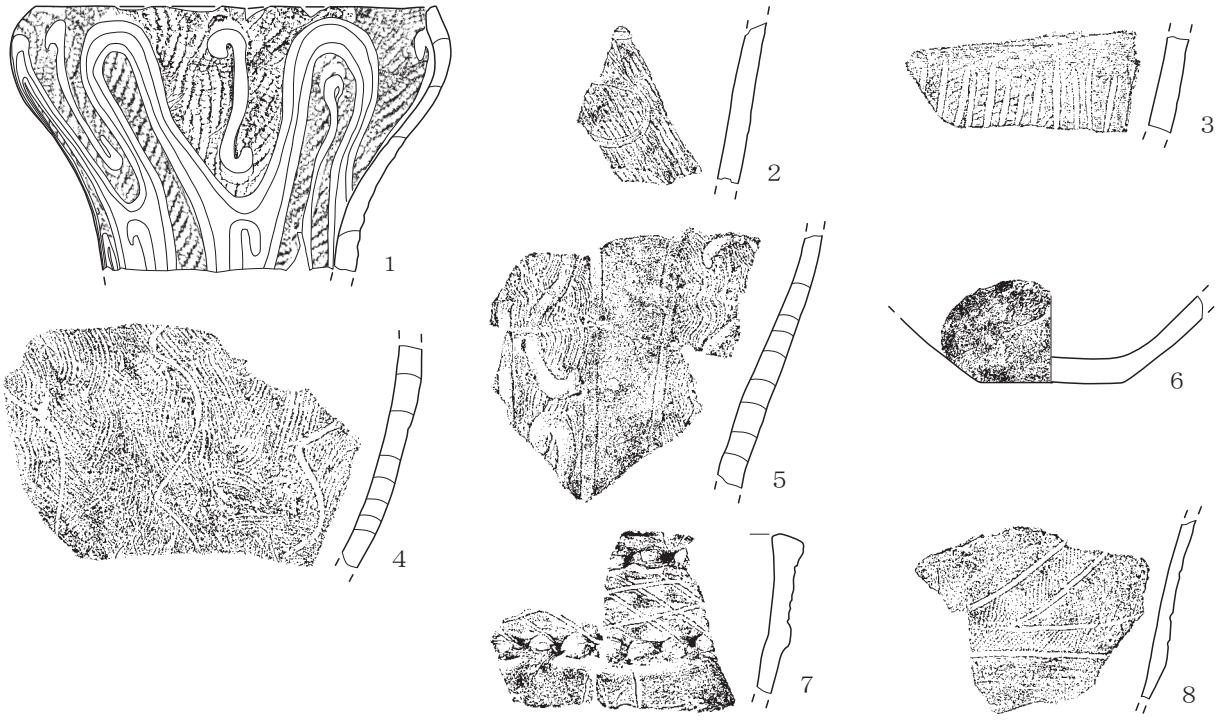
第885図　J－100号住居址（5）



第886図　J－103号住居址



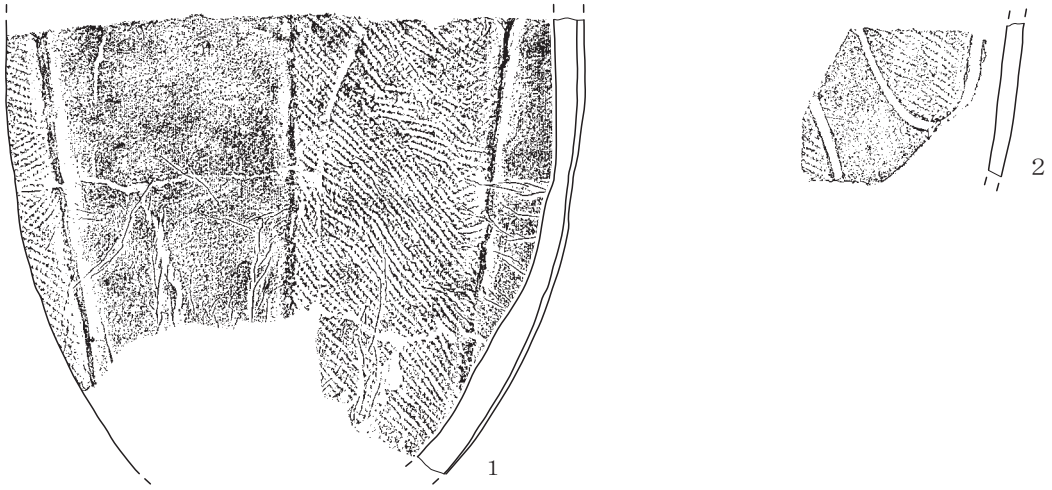
第887図　J－104号住居址



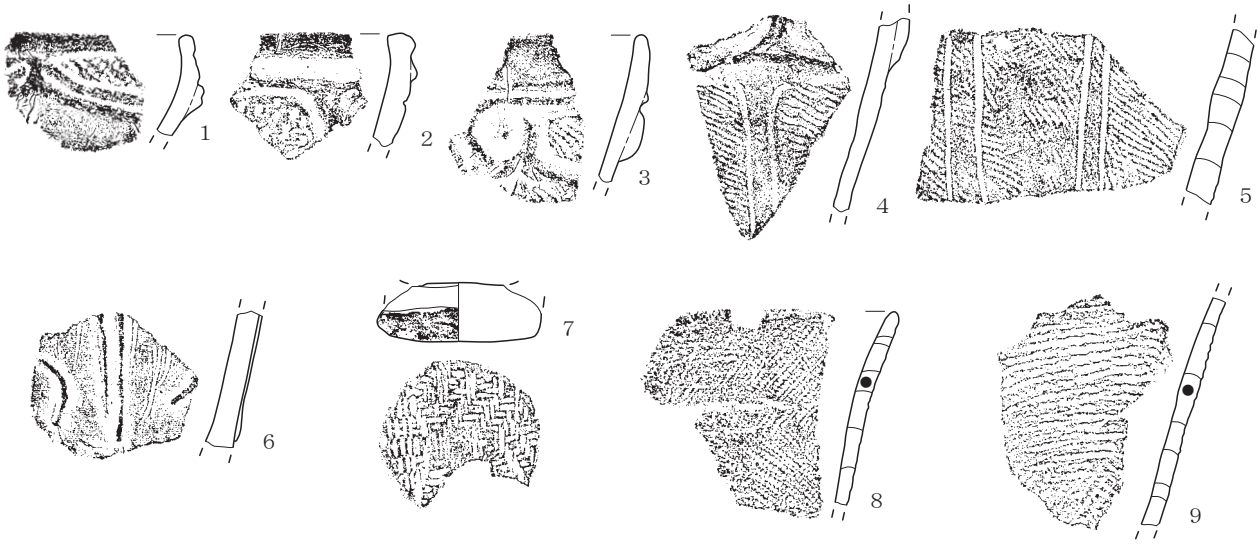
第888図　J－105号住居址

0　1：4　10cm

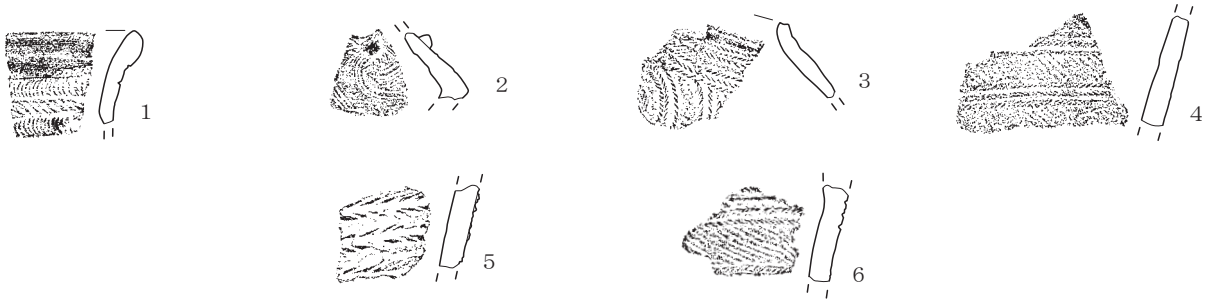
第889図　J－106号住居址



第890図　J－107号住居址

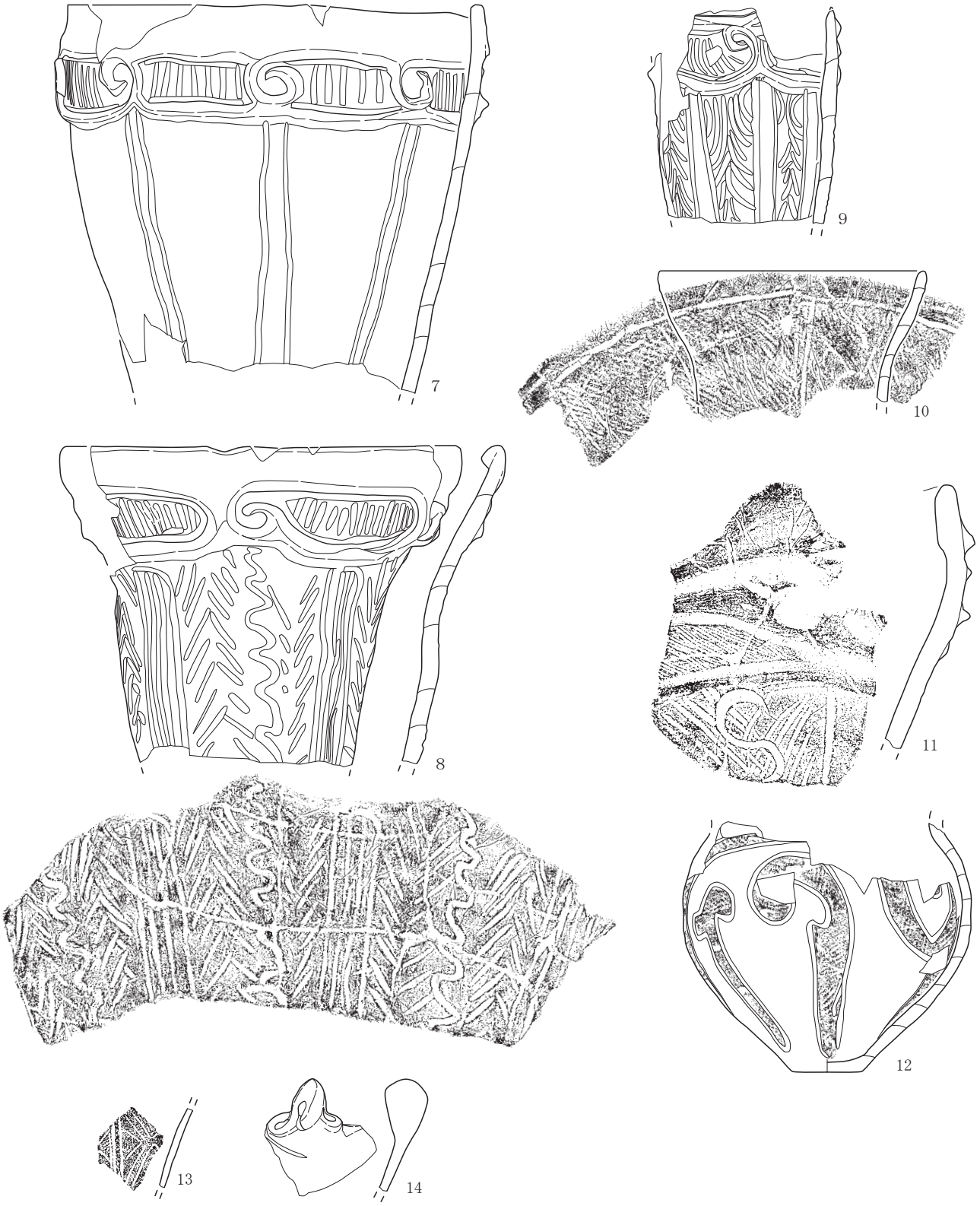


第891図　J－108号住居址



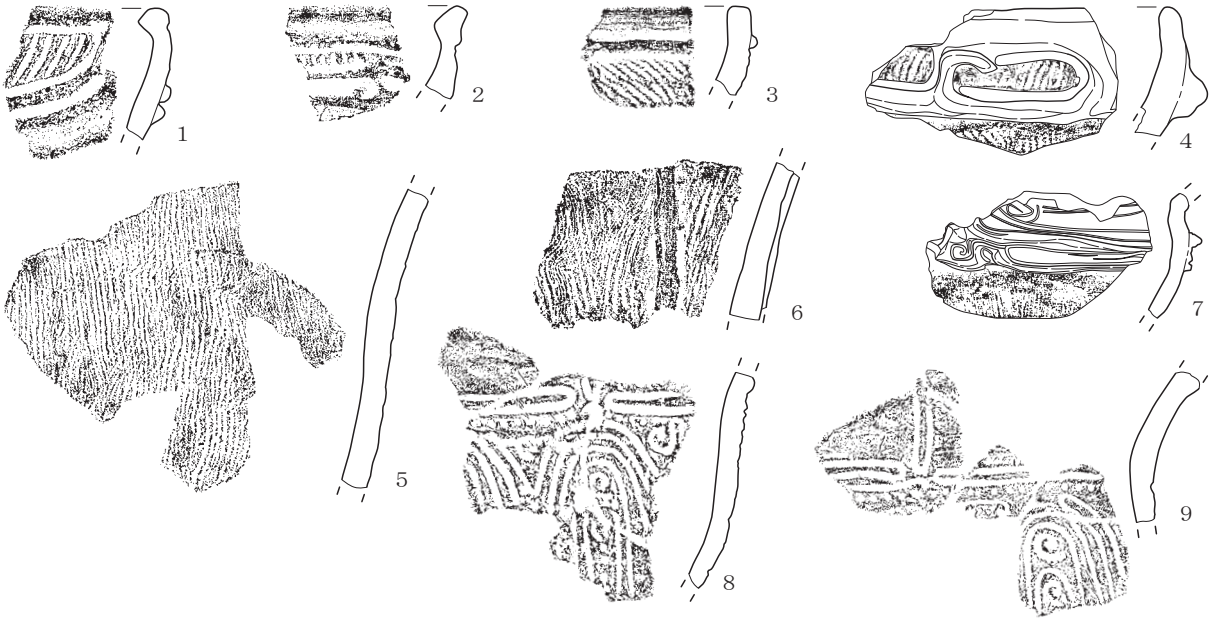
第892図　J－109号住居址（1）

0　1：4　10cm

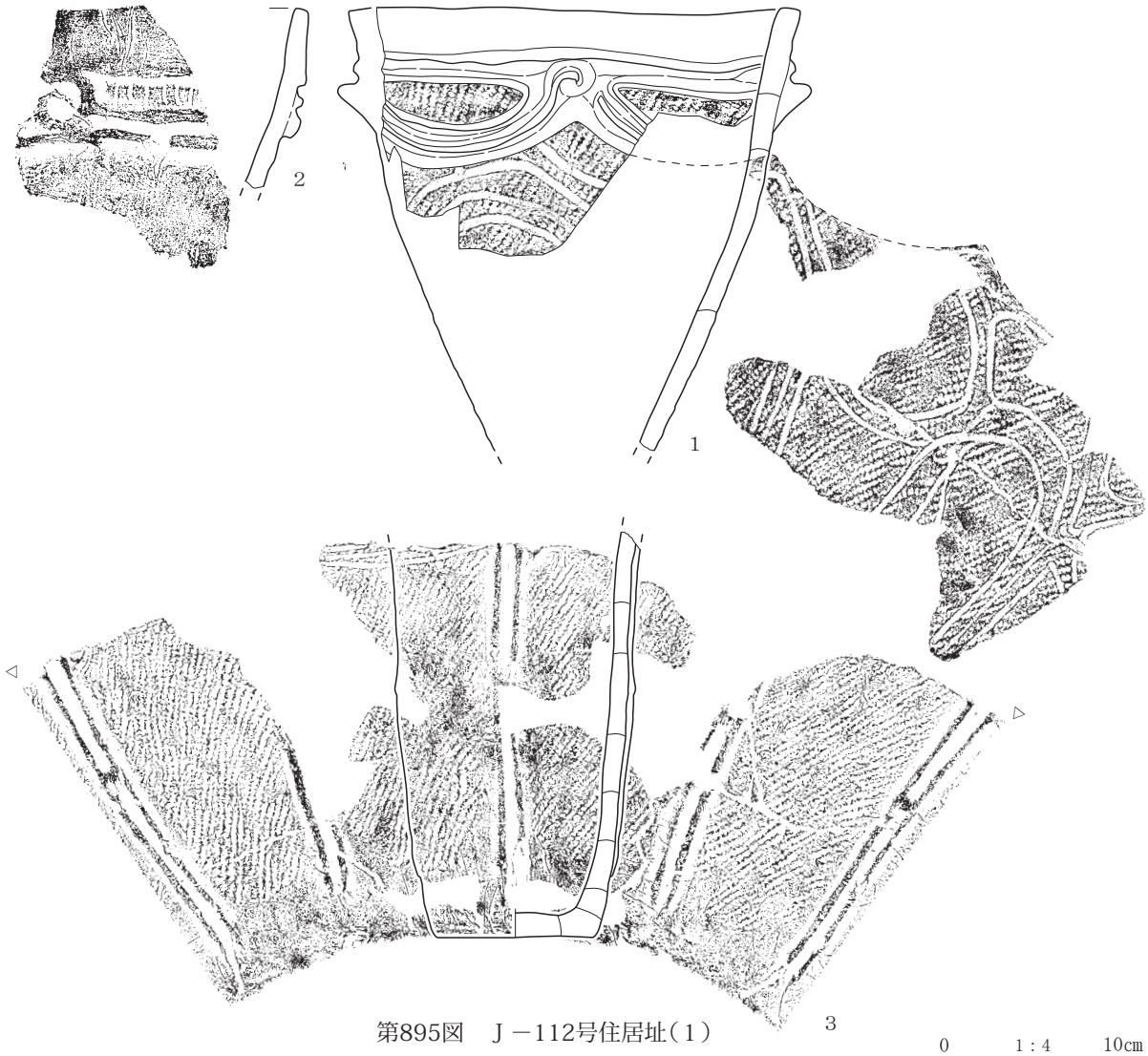


第893図　J－109号住居址（2）

0　1：4　10cm

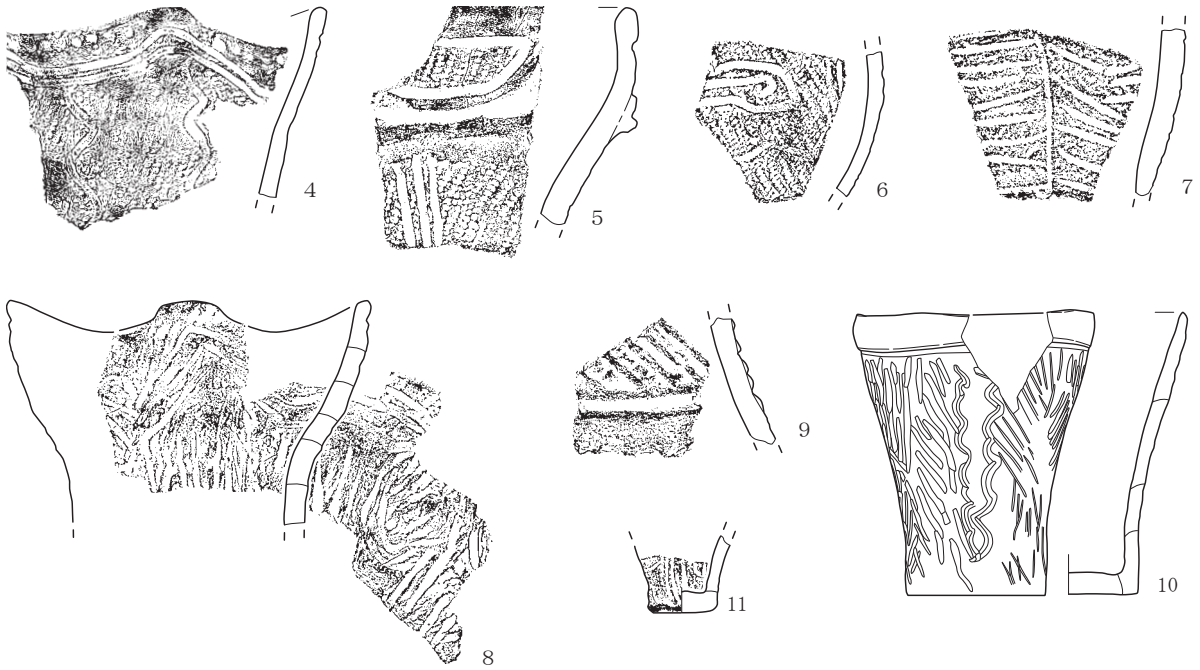


第894図　J－111号住居址

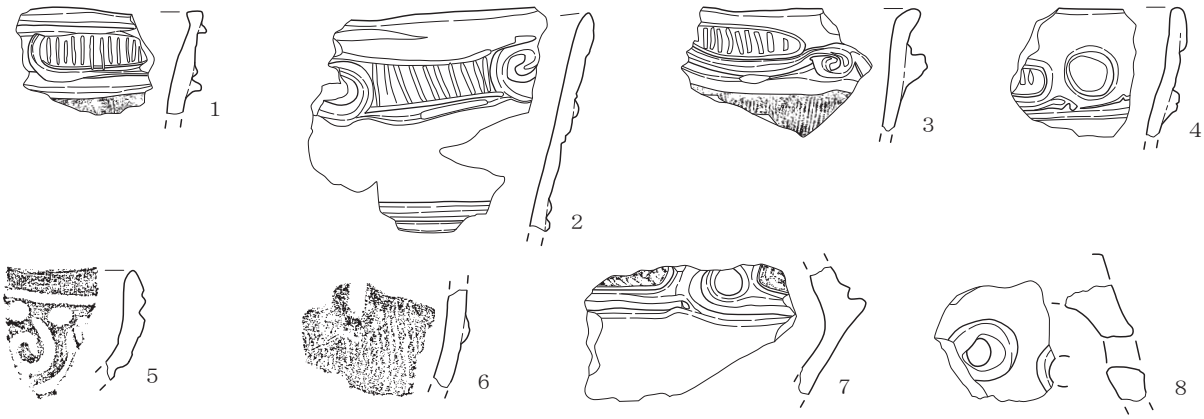


第895図　J－112号住居址（1）

0　1：4　10cm



第896図　J－112号住居址（2）



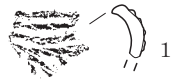
第897図　J－113号住居址

第898図　J－114号住居址

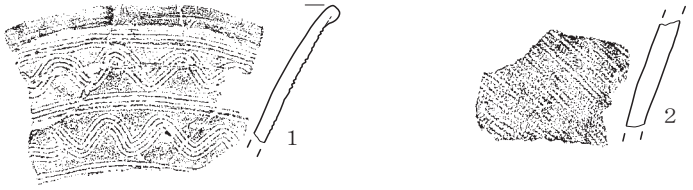
0　1：4　10cm

原田Ⅱ遺跡A区縄文時代土坑出土遺物実測図

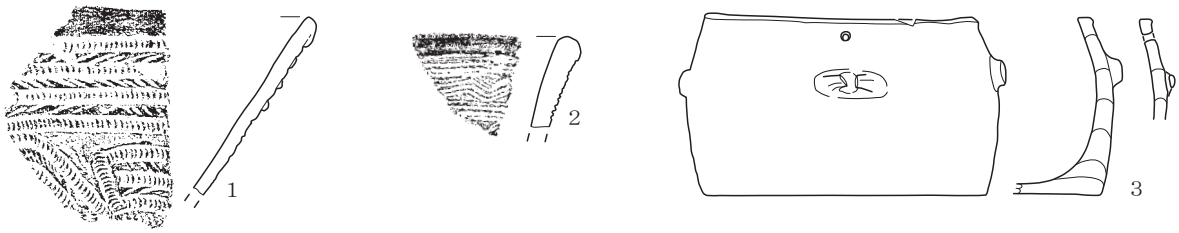
D－1号土坑



D－3号土坑

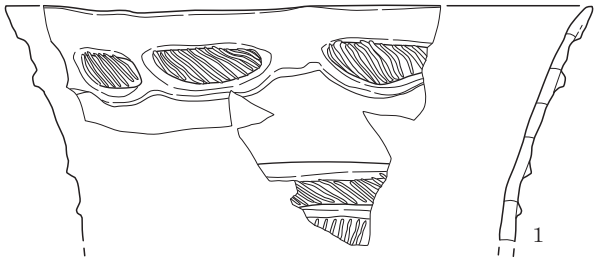


D－2号土坑

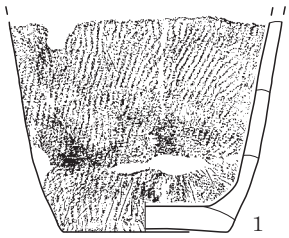


D－4号土坑

D－5号土坑



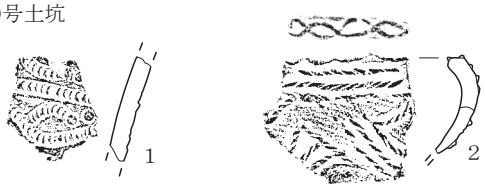
D－7号土坑



D－8号土坑

D－9号土坑

D－10号土坑

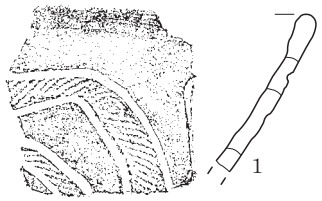


D－11号土坑

D－12号土坑

D－13号土坑

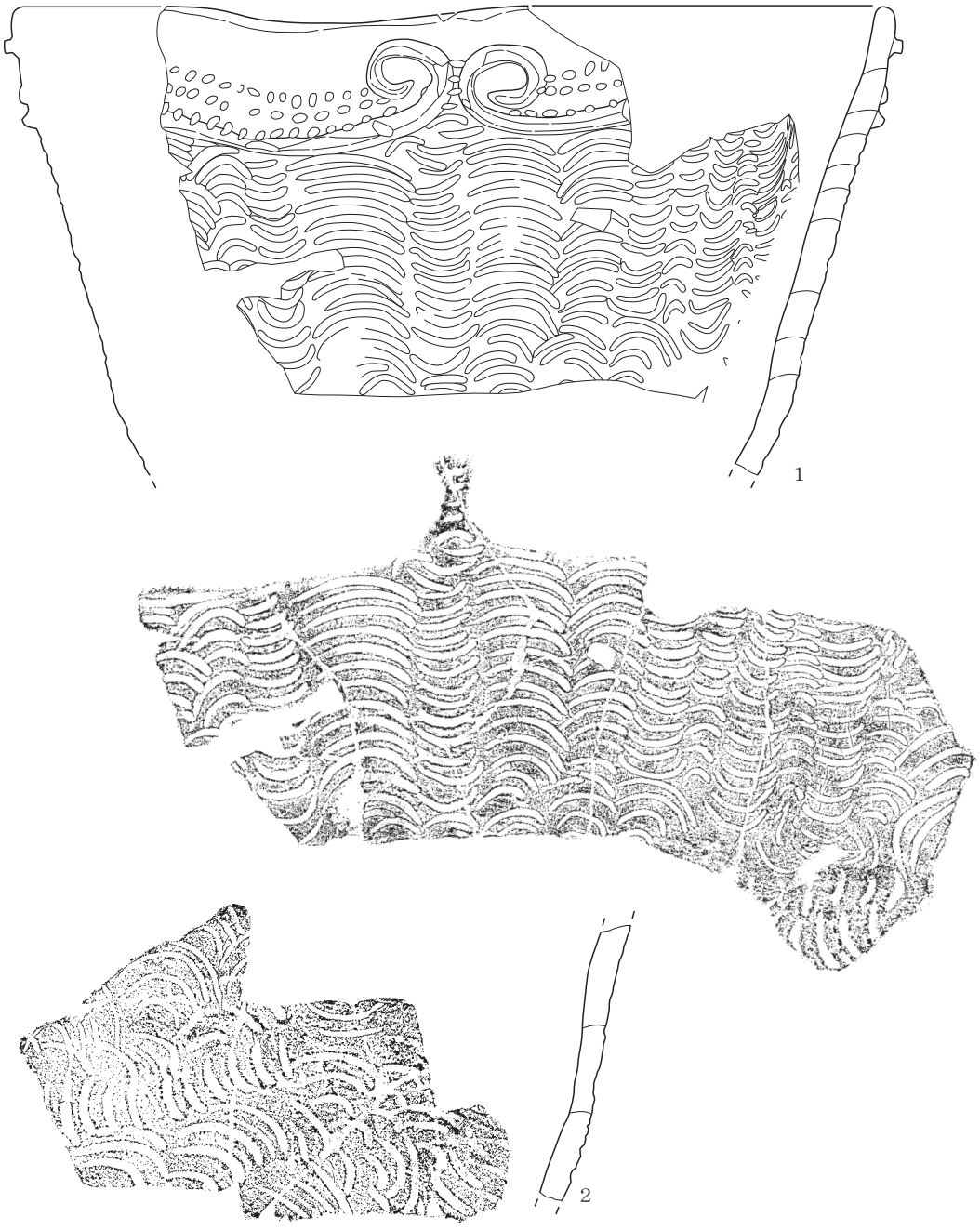
D－14号土坑



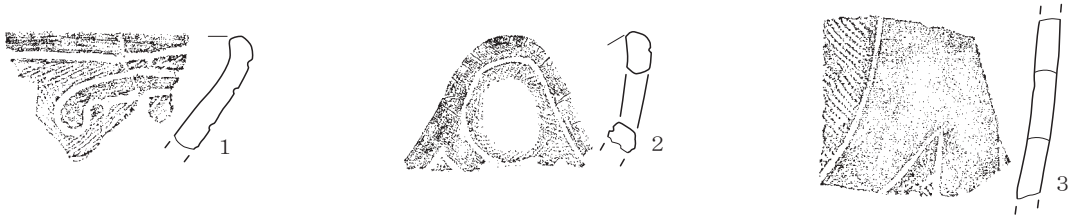
第899図　D－1～5・7～14号土坑

0　1：4　10cm

D－6号土坑



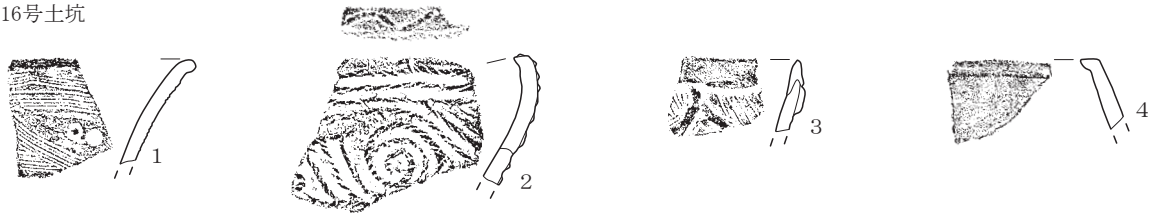
D－15号土坑



第900図　D－6・15号土坑

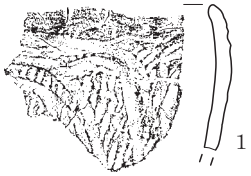
0　1：4　10cm

D－16号土坑



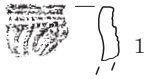
D－18号土坑

D－21号土坑



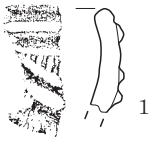
D－22号土坑

D－23号土坑

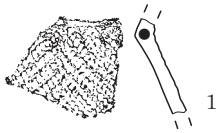


D－24号土坑

D－25号土坑

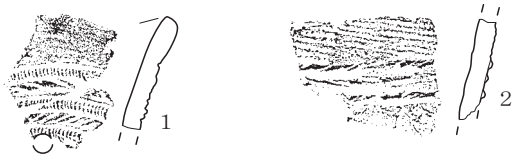


D－26号土坑



D－27号土坑

D－28号土坑

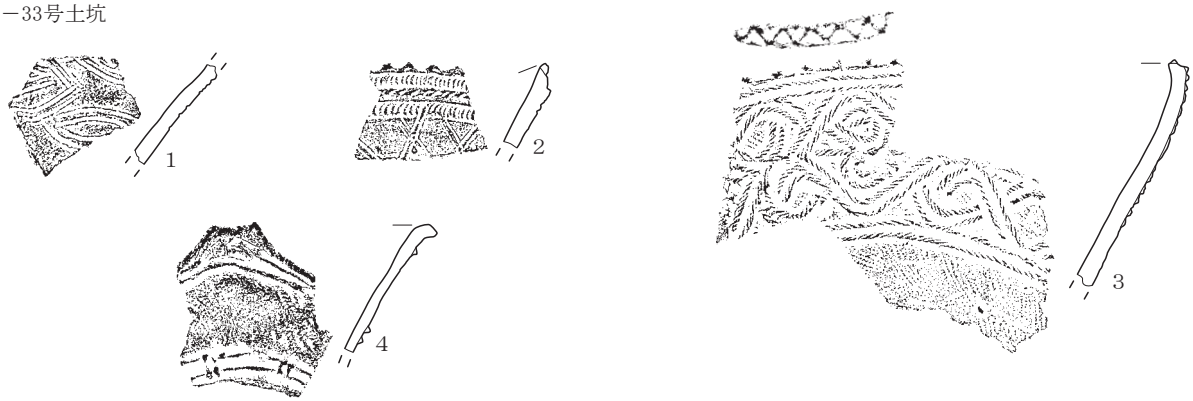


D－29号土坑

D－30号土坑

D－31号土坑

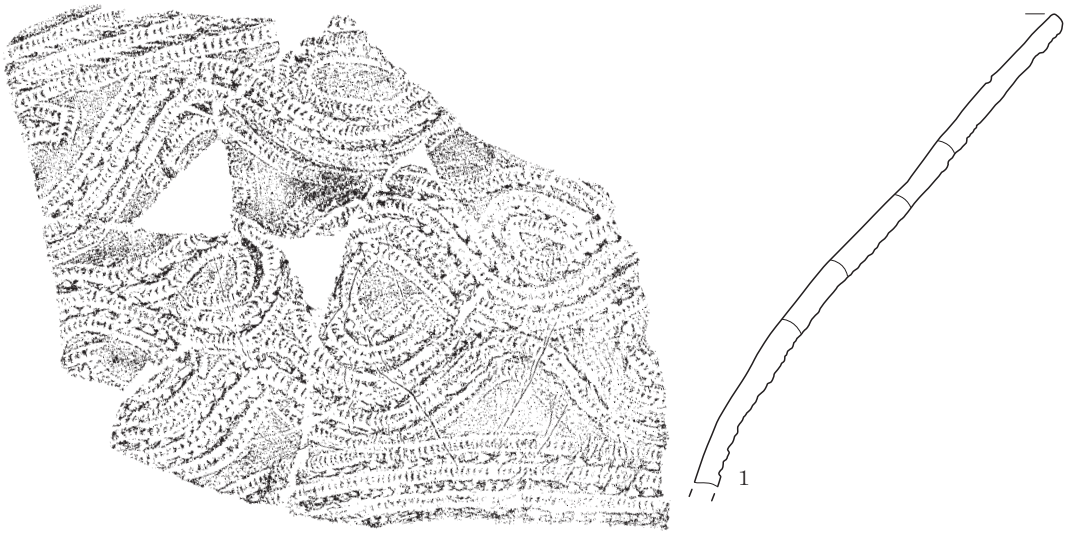
D－33号土坑



第901図　D－16･18･21～31･33号土坑

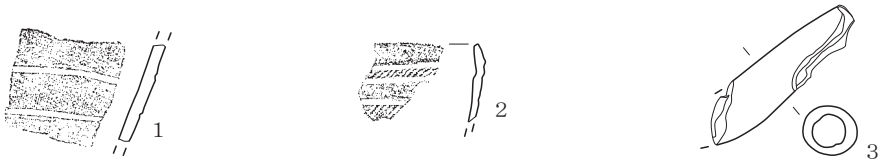
0　1：4　10cm

D－32号土坑



D－34号土坑

D－35号土坑

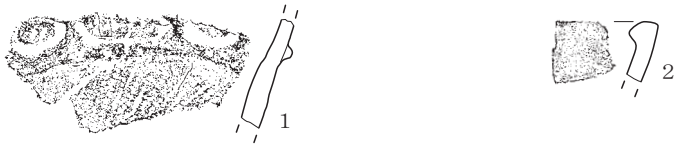


D－36号土坑

D－37号土坑

D－38号土坑

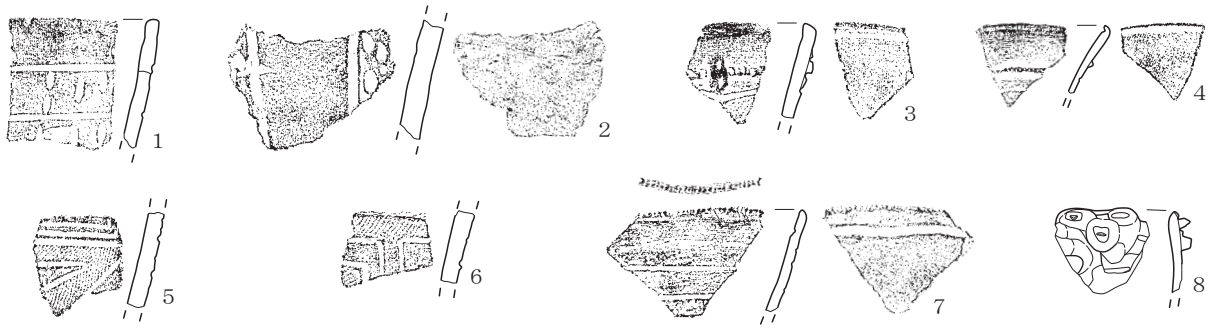
D－40号土坑



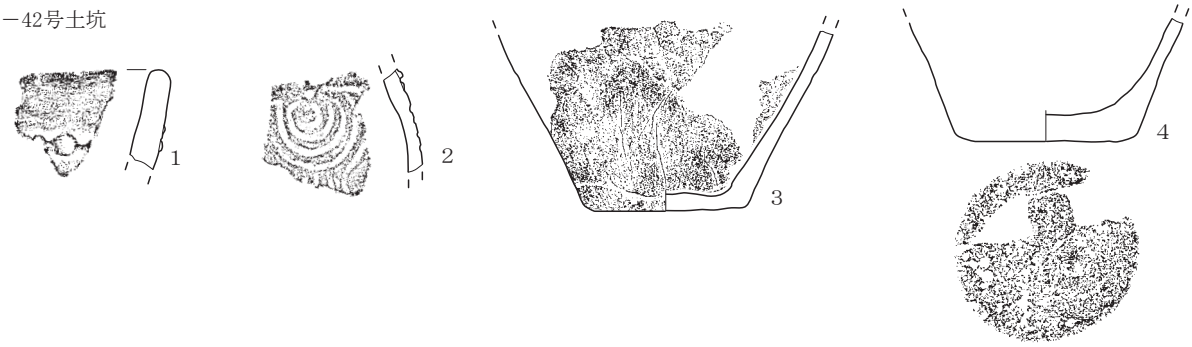
第902図　D－32・34～38・40号土坑

0　1：4　10cm

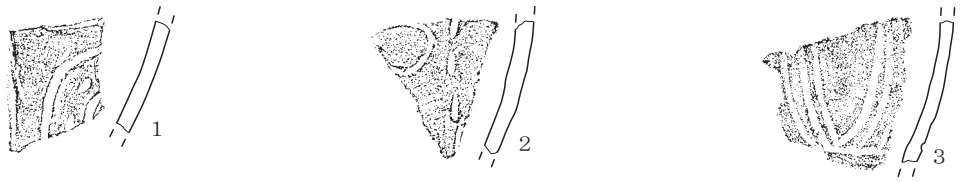
D－41号土坑



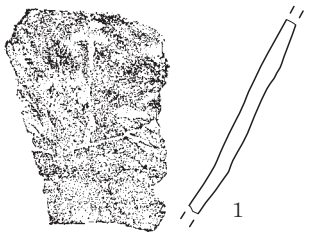
D－42号土坑



D－43号土坑



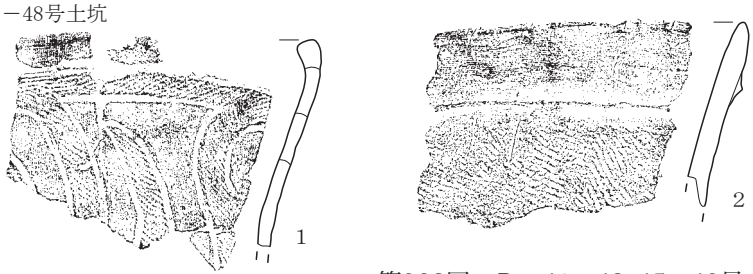
D－45号土坑



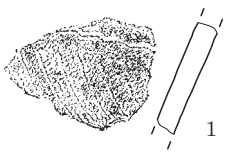
D－46号土坑

D－47号土坑

D－48号土坑



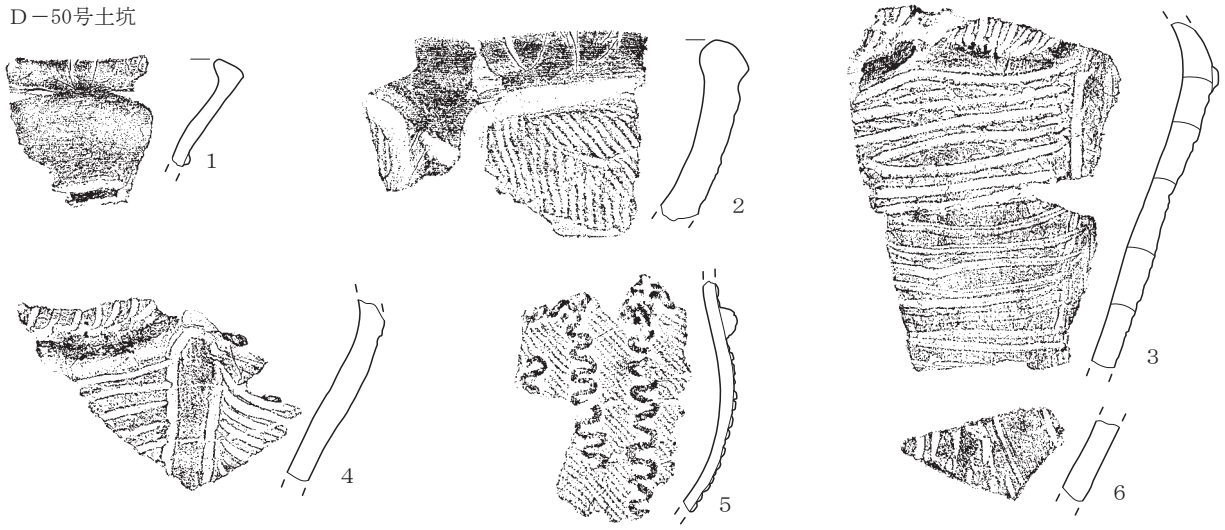
D－49号土坑



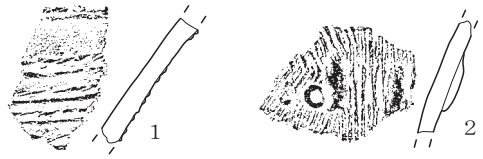
第903図　D－41～43･45～49号土坑

0　1：4　10cm

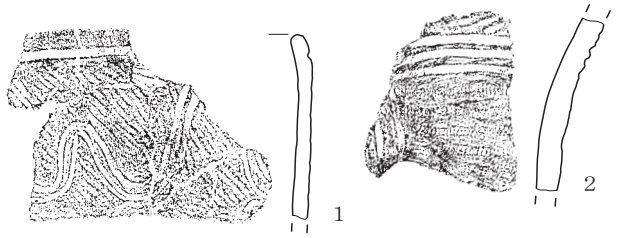
D－50号土坑



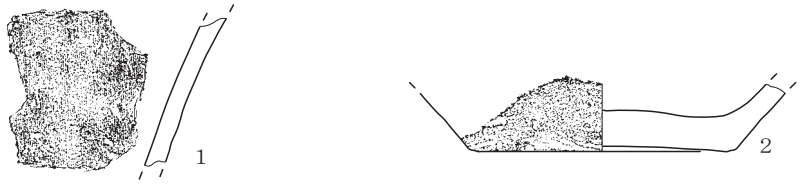
D－51号土坑



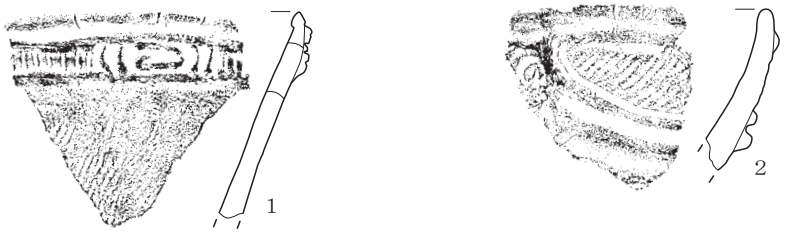
D－52号土坑



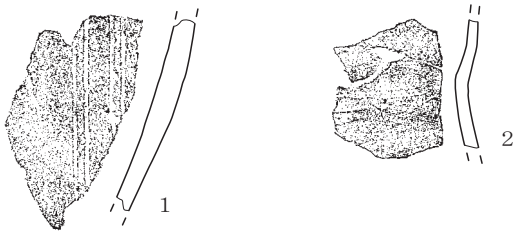
D－53号土坑



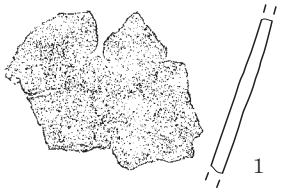
D－54号土坑



D－55号土坑



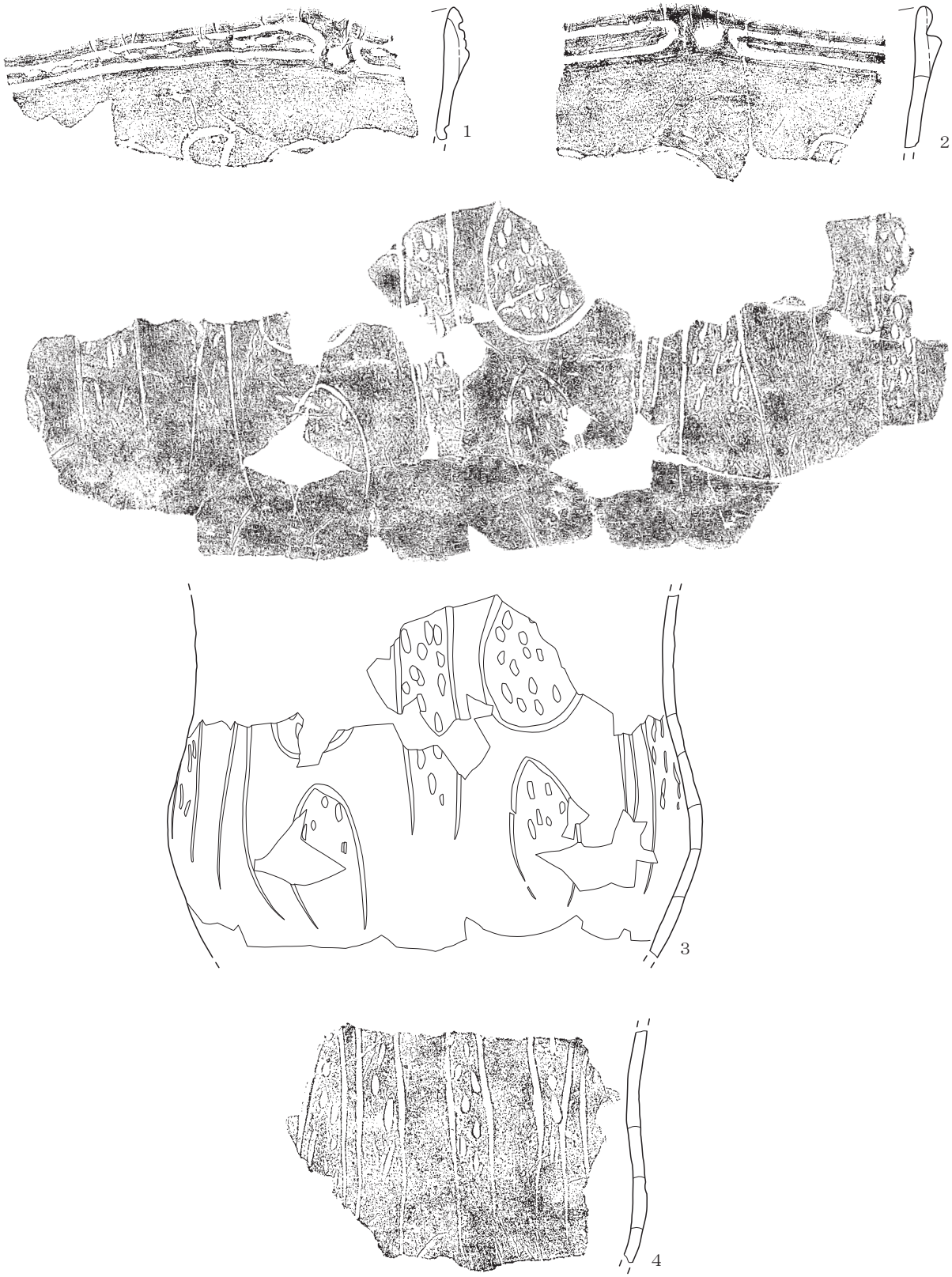
D－56号土坑



第904図　D－50～56号土坑

0　1：4　10cm

D－57号土坑

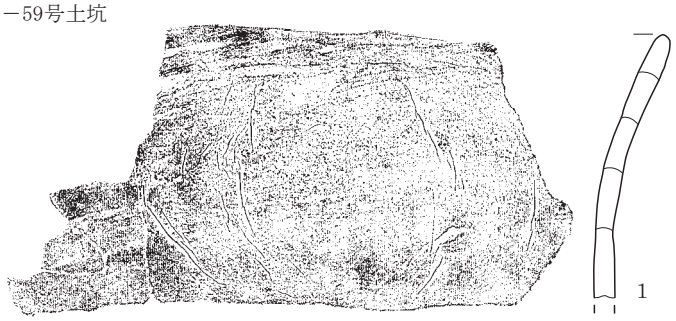


第905図　D－57号土坑

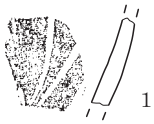
0　1：4　10cm

D－58号土坑

D－59号土坑

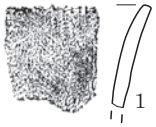


D－60号土坑

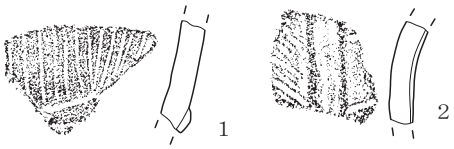


D－62号土坑

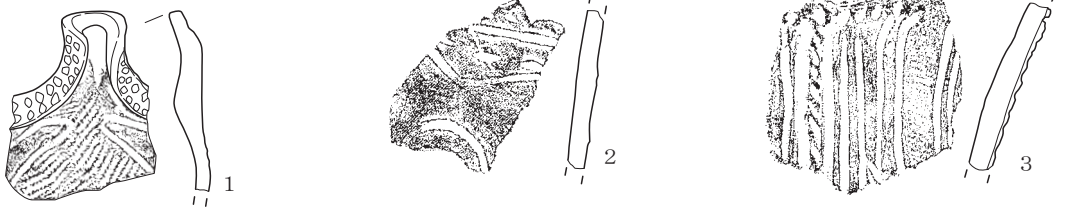
D－66号土坑



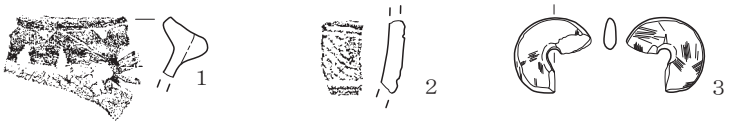
D－68号土坑



D－63号土坑



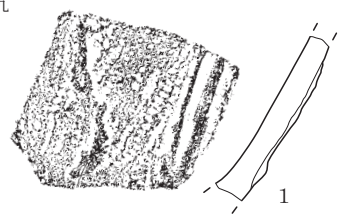
D－69号土坑



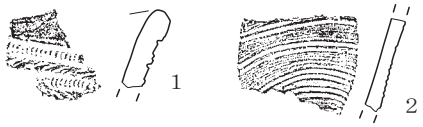
D－72号土坑

D－73号土坑

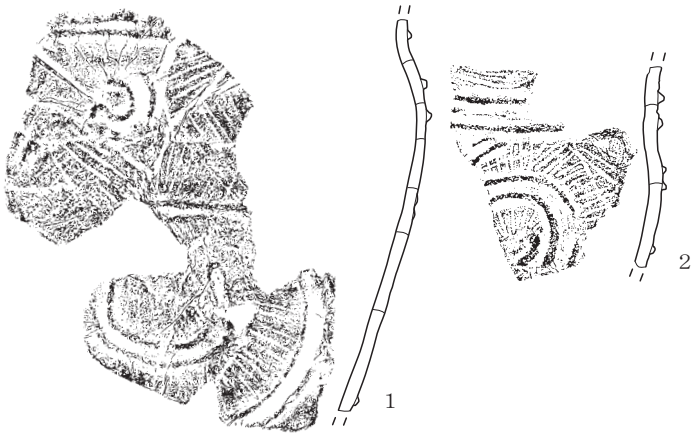
D－74号土坑



D－75号土坑



D－78号土坑

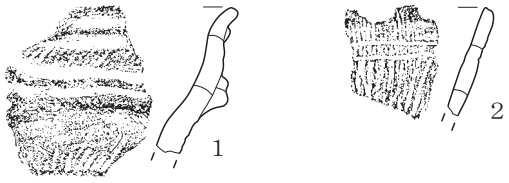


D－79号土坑

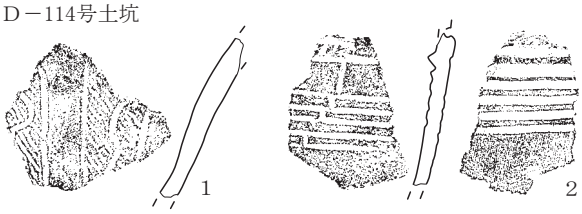
第906図　D－58～60・62・63・66・68・69・72～75・78・79号土坑

0　1：4　10cm

D－81号土坑

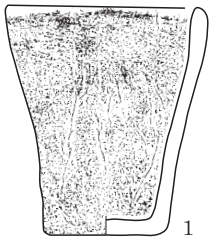


D－114号土坑

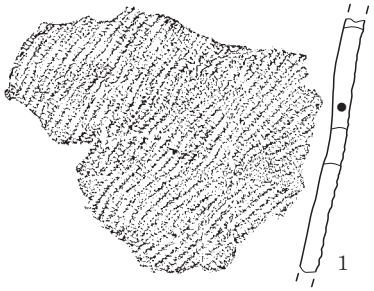


D－115号土坑

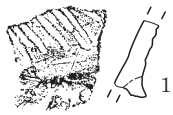
D－116号土坑



D－118号土坑

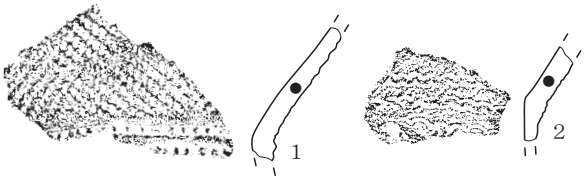


D－119号土坑



D－120号土坑

D－121号土坑

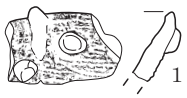


第907図　D－81・114～116・118～121号土坑

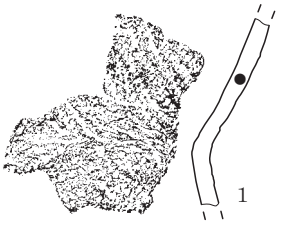
0　1：4　10cm

D－117号土坑

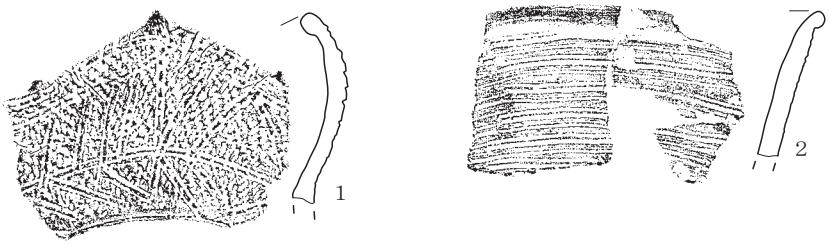
D－122号土坑



D－123号土坑



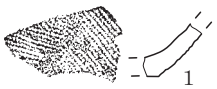
D－125号土坑



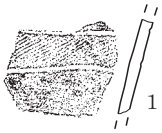
第908図　D－117・122・123・125号土坑

0　1：4　10cm

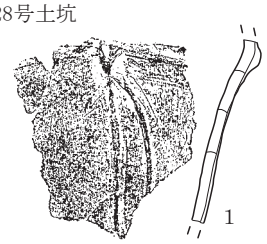
D－126号土坑



D－127号土坑

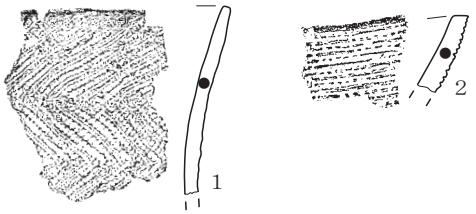


D－128号土坑



D－129号土坑

D－131号土坑



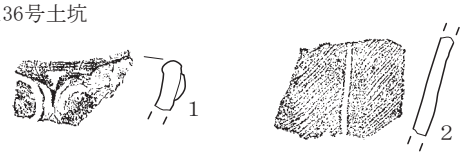
D－132号土坑

D－133号土坑

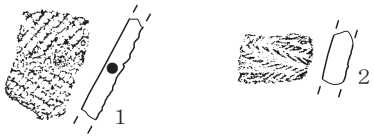
D－134号土坑

D－135号土坑

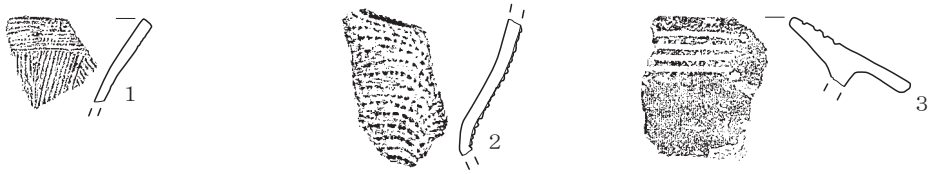
D－136号土坑



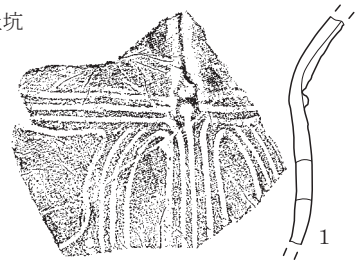
D－138号土坑



D－137号土坑



D－139号土坑

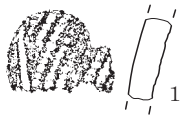


D－140号土坑

第909図　D－126～129･131～140号土坑

0　1：4　10cm

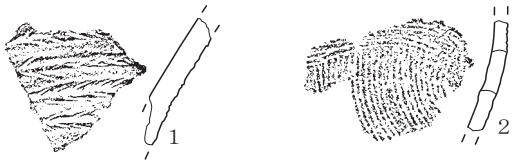
D－141号土坑



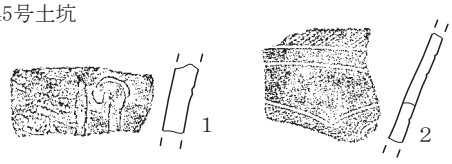
D－142号土坑

D－143号土坑

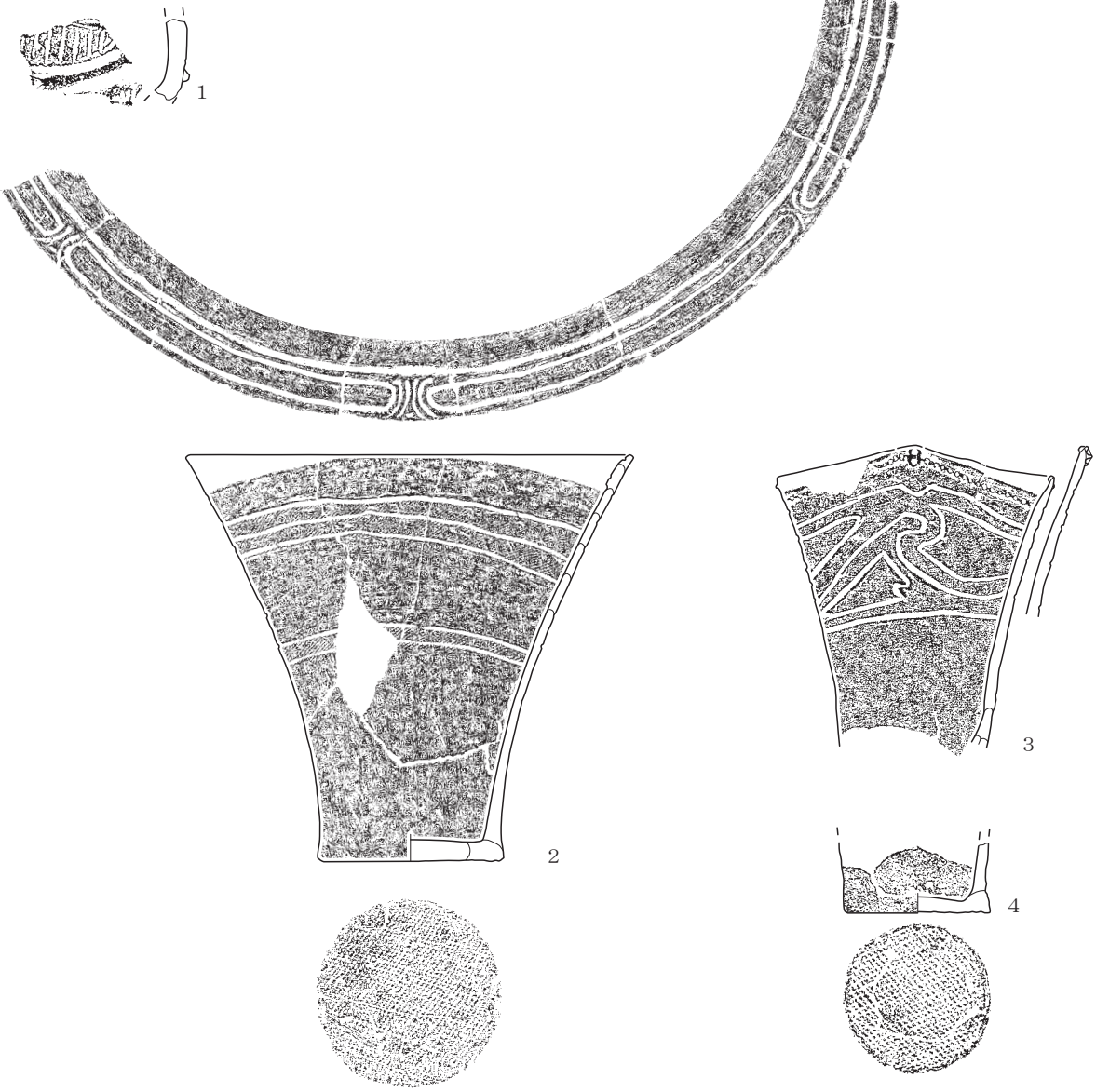
D－144号土坑



D－145号土坑



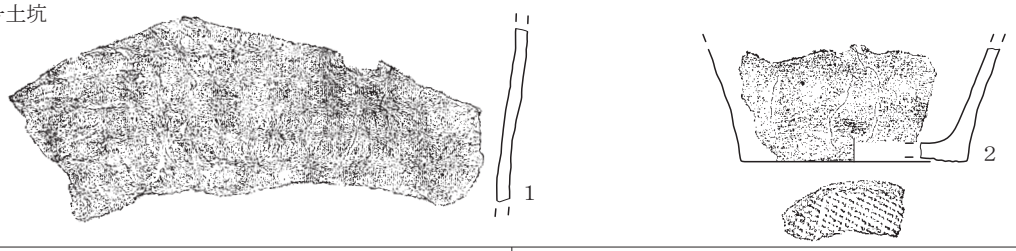
D－146号土坑



第910図　D－141～146号土坑

0　1：4　10cm

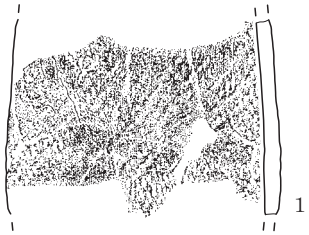
D－147号土坑



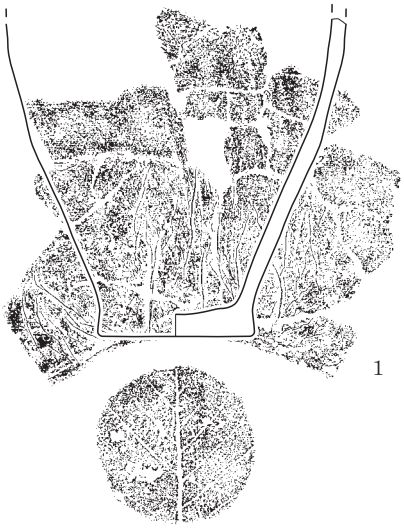
D－148号土坑

D－149号土坑

D－150号土坑

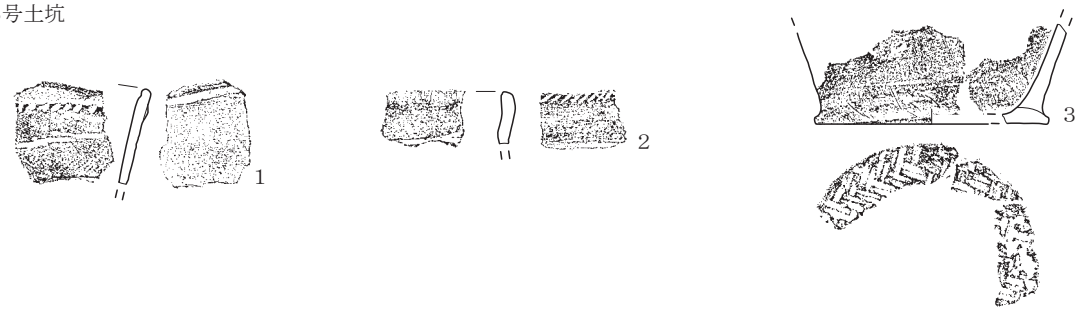


D－151号土坑



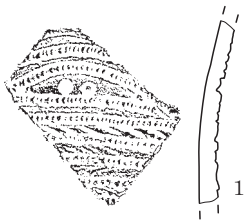
D－155号土坑

D－153号土坑



D－157号土坑

D－158号土坑



第911図　D－147～151・153・155・157・158号土坑

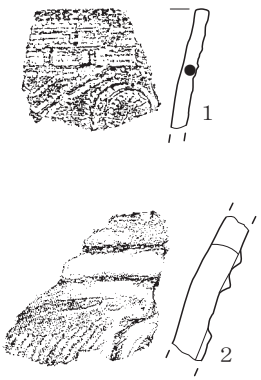
0　1：4　10cm

D－159号土坑

D－160号土坑

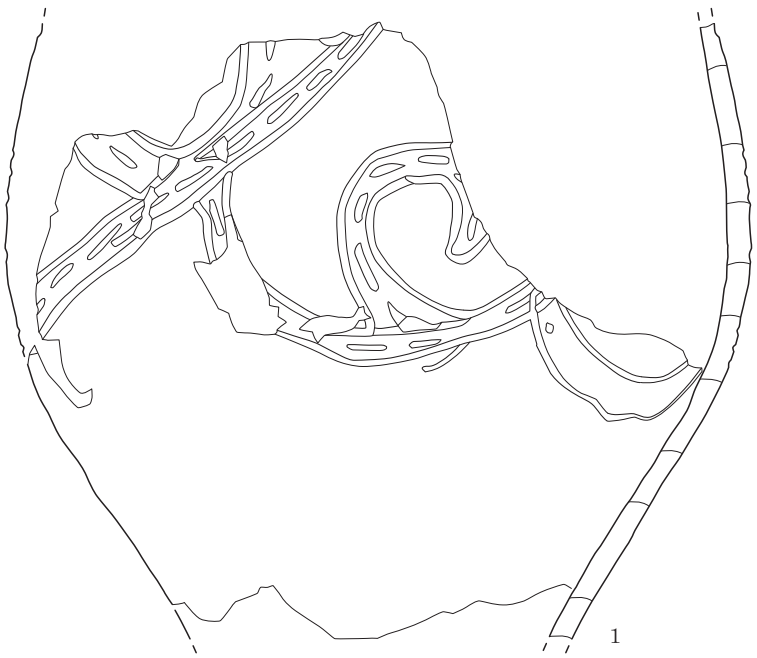
D－161号土坑

D－162号土坑



D－163号土坑

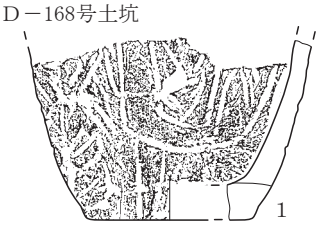
D－167号土坑



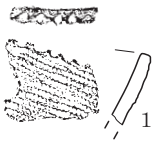
第912図　D－159～163･167号土坑

0　1：4　10cm

D－168号土坑

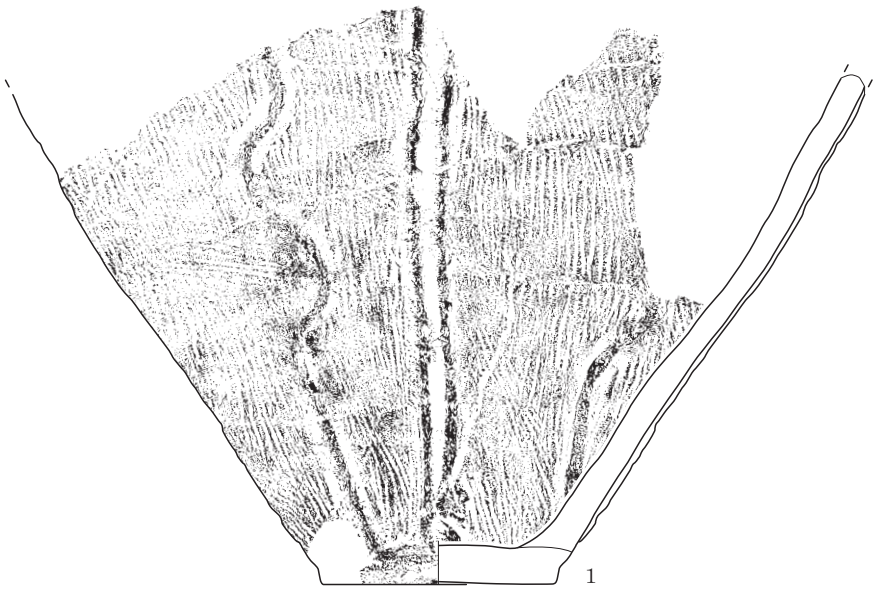


D－170号土坑

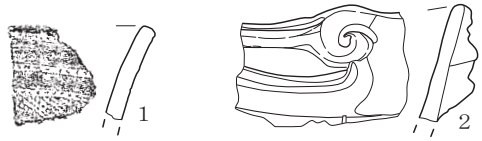


D－171号土坑

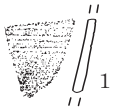
D－172号土坑



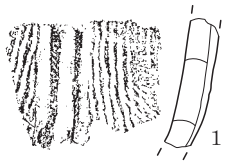
D－174号土坑



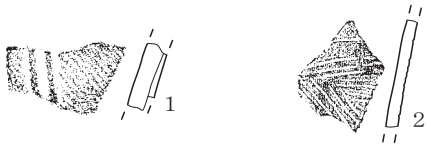
D－175号土坑



D－176号土坑

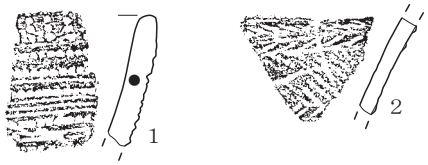


D－177号土坑

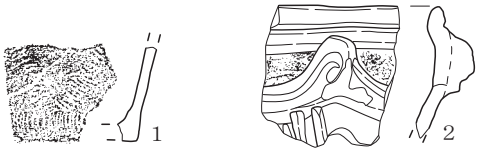


D－179号土坑

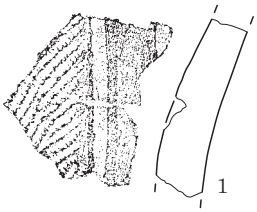
D－180号土坑



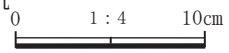
D－185号土坑



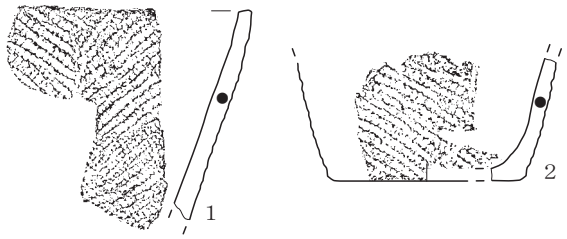
D－189号土坑



第913図　D－168・170～172・174～177・179・180・185・189号土坑

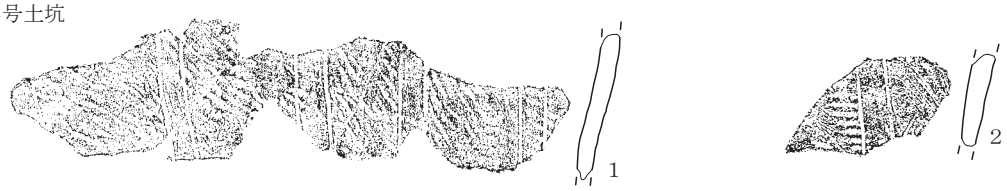


D－190号土坑



D－191号土坑

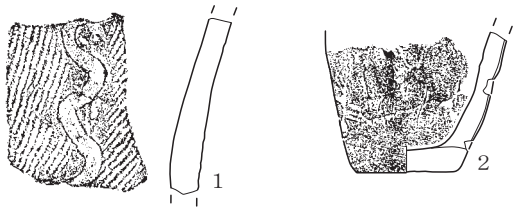
D－193号土坑



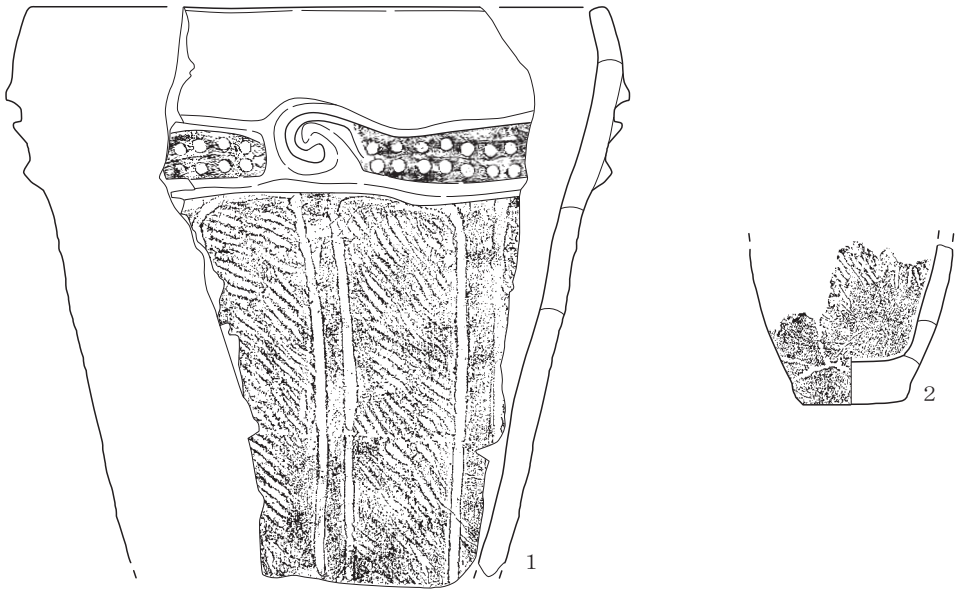
D－194号土坑

D－195号土坑

D－199号土坑



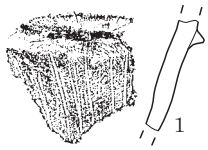
D－198号土坑



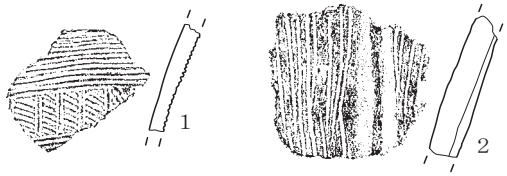
第914図　D－190・191・193～195・198・199号土坑

0　1：4　10cm

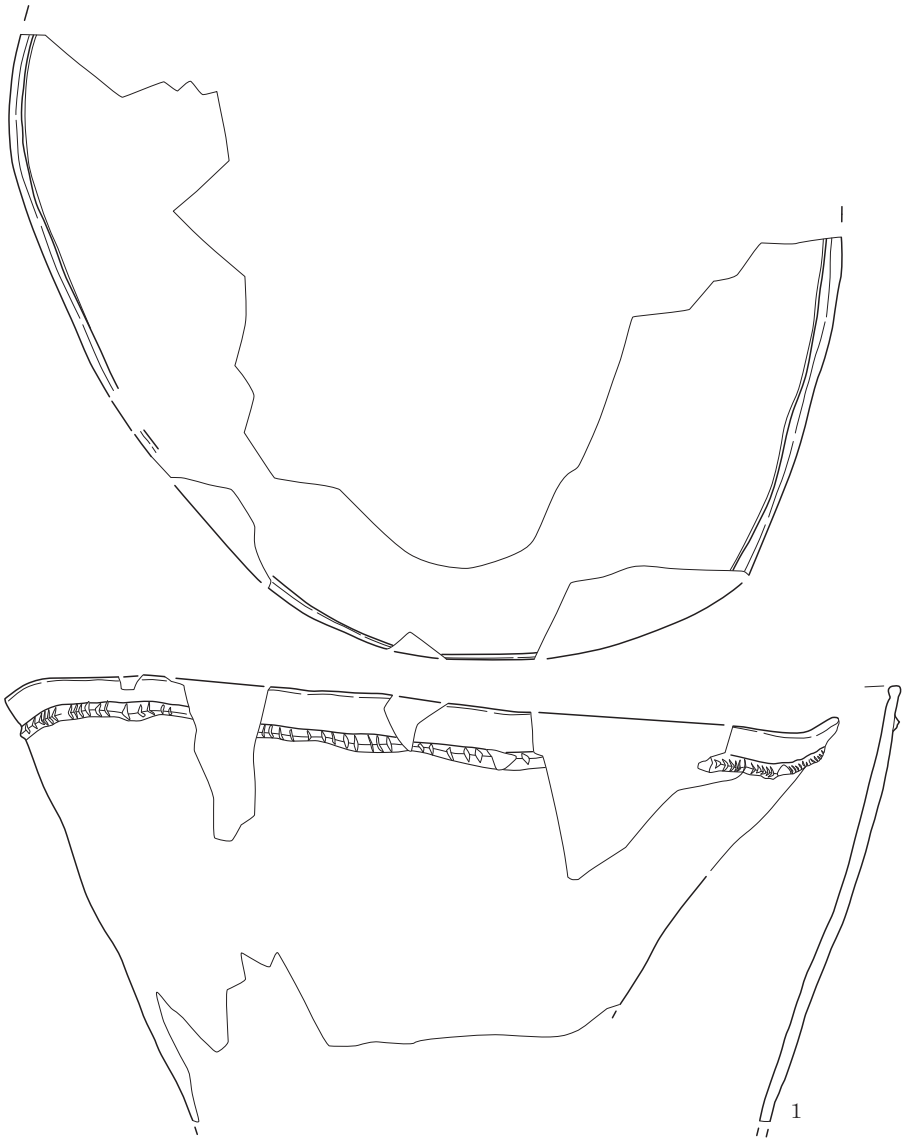
D－200号土坑



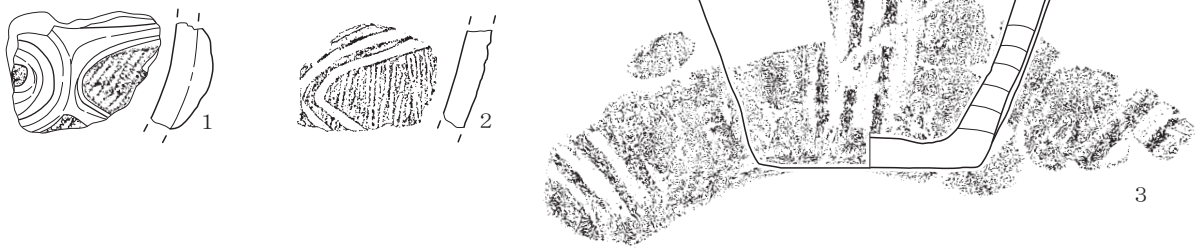
D－202号土坑



D－203号土坑



D－205号土坑



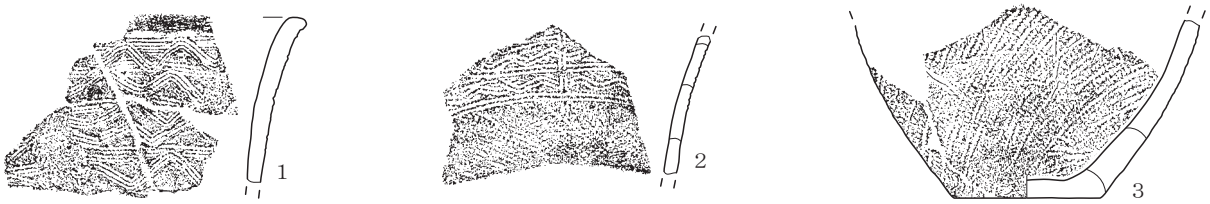
第915図　D－200・202・203・205号土坑

0　1：4　10cm

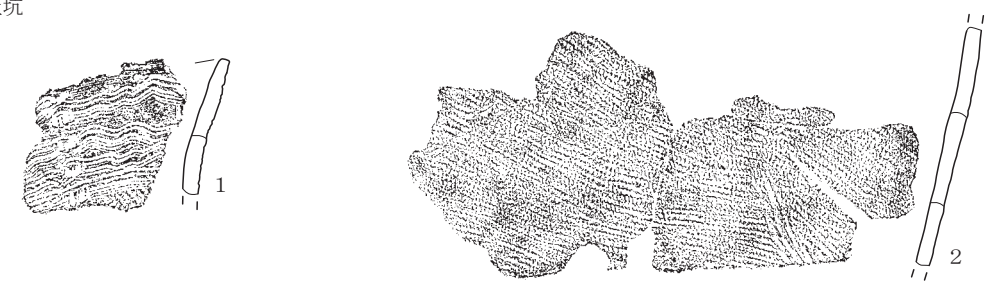
D－206号土坑

D－210号土坑

D－208号土坑

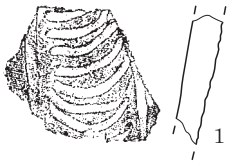


D－209号土坑

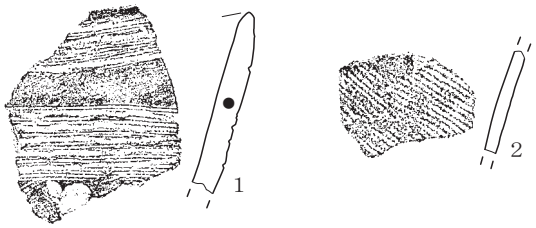


D－211号土坑

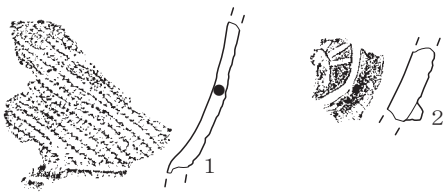
D－213号土坑



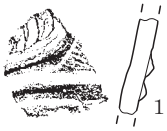
D－215号土坑



D－216号土坑

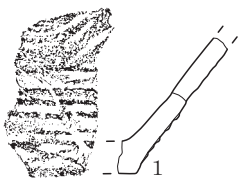


D－217号土坑



D－218号土坑

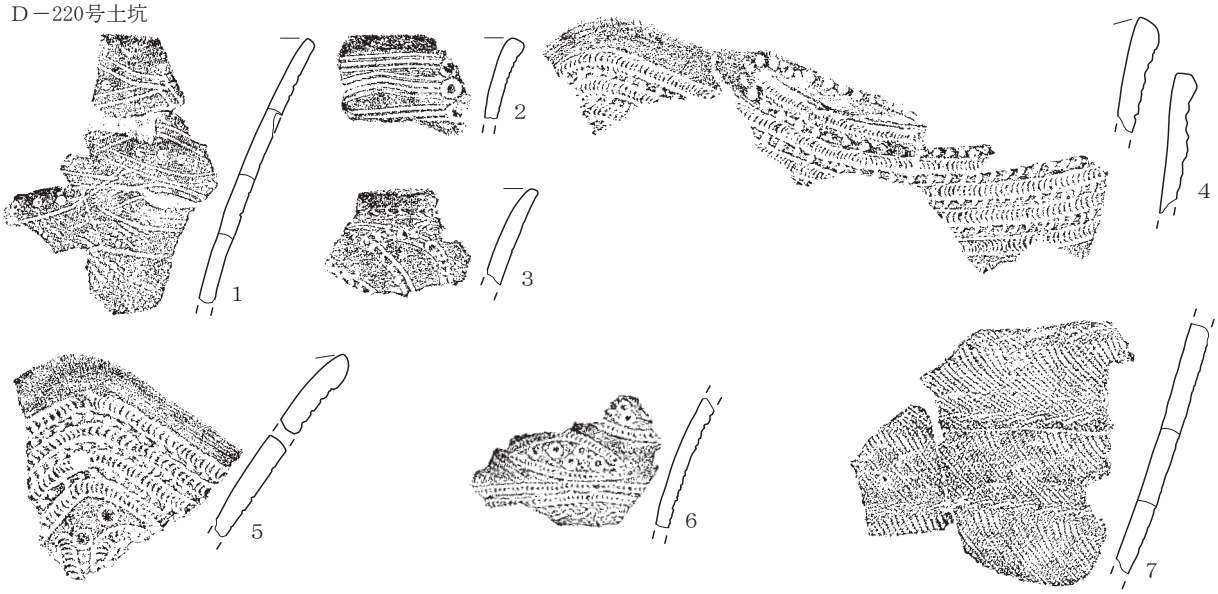
D－219号土坑



第916図　D－206・208～211・213・215～219号土坑

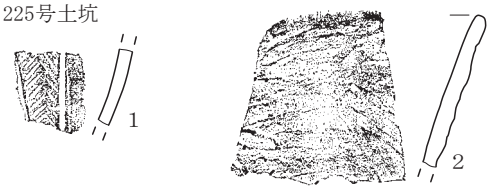
0　1：4　10cm

D－220号土坑

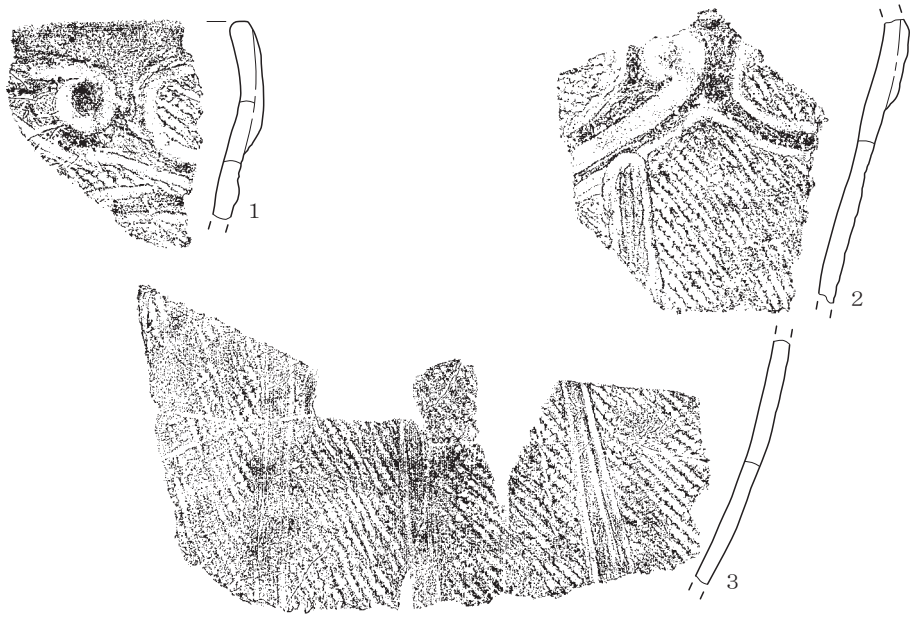


D－223号土坑

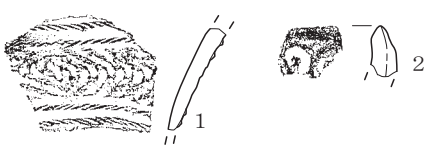
D－225号土坑



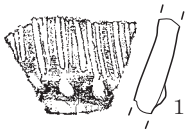
D－224号土坑



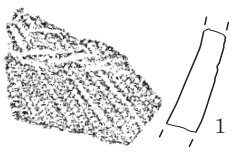
D－226号土坑



D－230号土坑



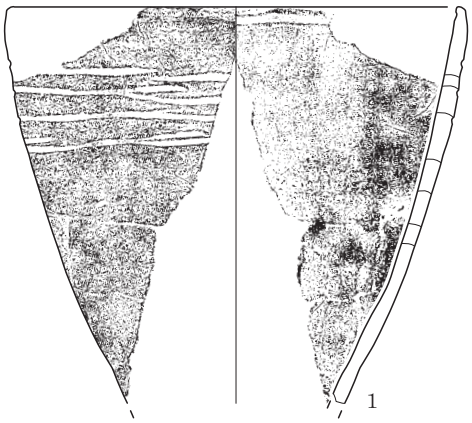
D－231号土坑



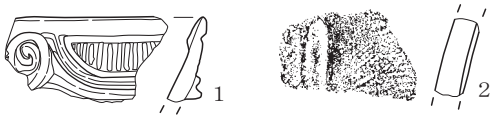
第917図　D－220・223～226・230・231号土坑

0　1：4　10cm

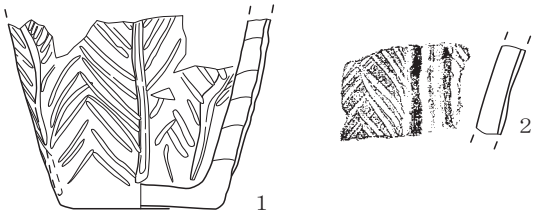
D－228号土坑



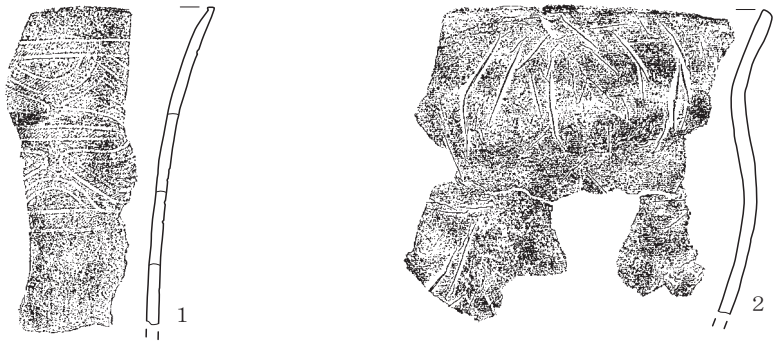
D－232号土坑



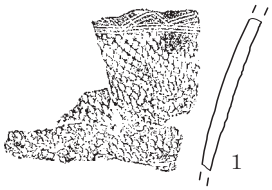
D－234号土坑



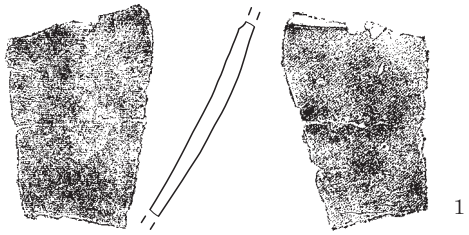
D－233号土坑



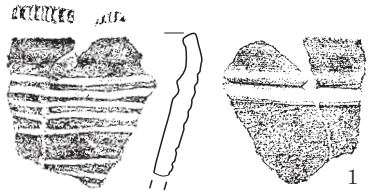
D－235号土坑



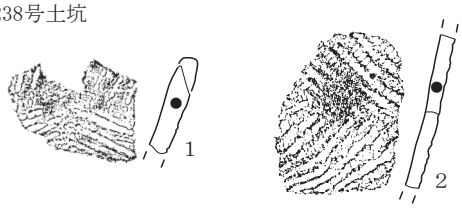
D－236号土坑



D－237号土坑

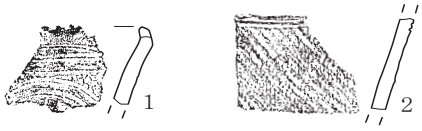


D－238号土坑



D－239号土坑

D－240号土坑

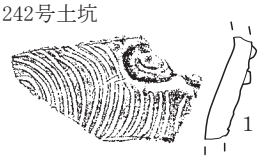


第918図　D－288･232～240号土坑

0　1：4　10cm

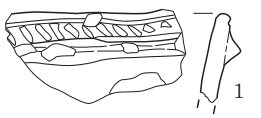
D－241号土坑

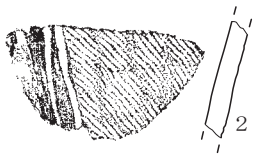
D－242号土坑



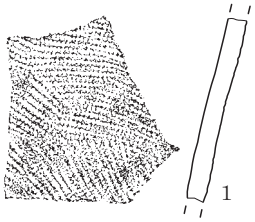
D－244号土坑

D－243号土坑



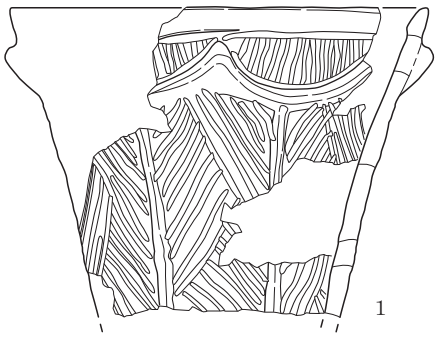


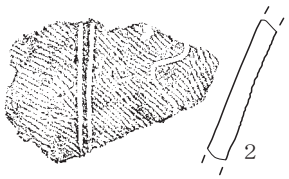
D－245号土坑

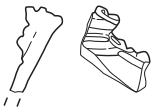


D－247号土坑

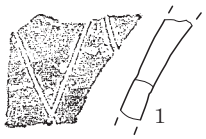
D－246号土坑

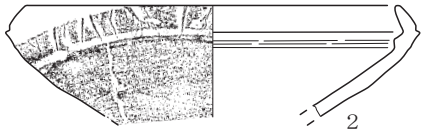






D－248号土坑

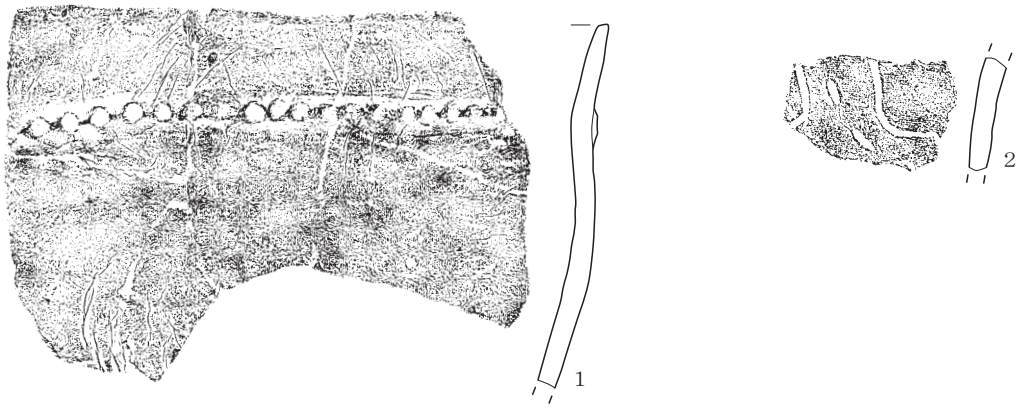




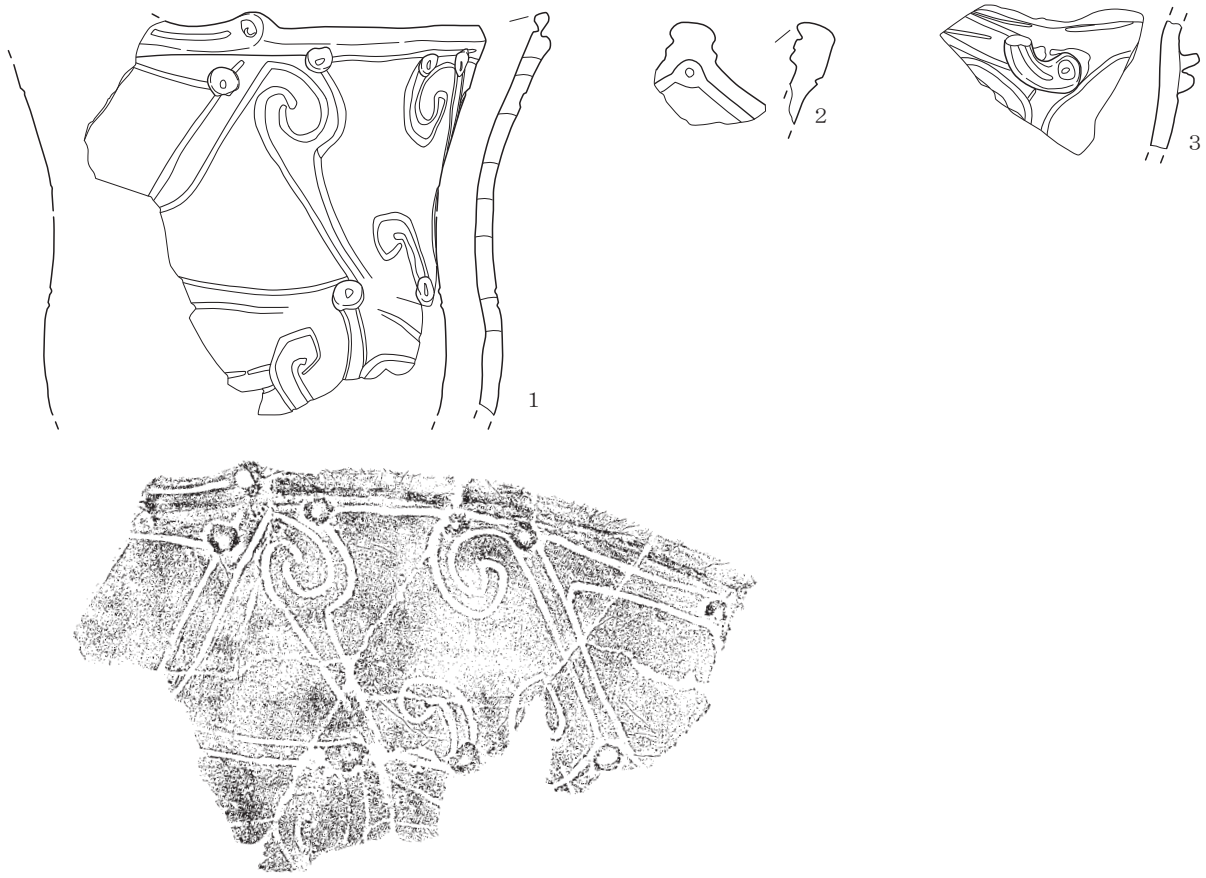
第919図　D－241～248号土坑

0　1：4　10cm

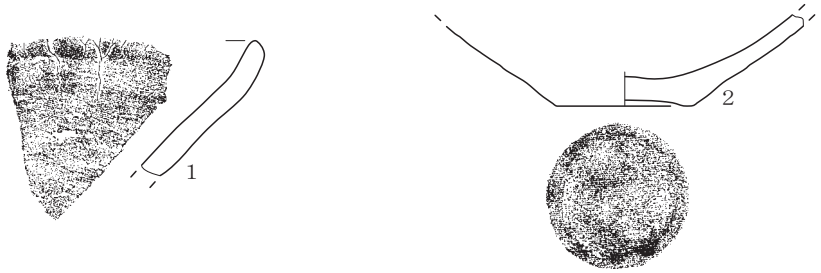
D－250号土坑



D－252号土坑



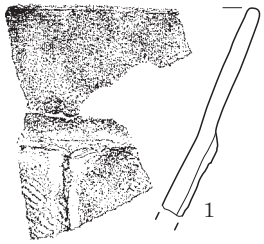
D－253号土坑

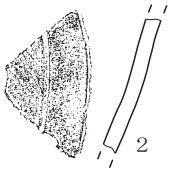


第920図　D－250・252・253号土坑

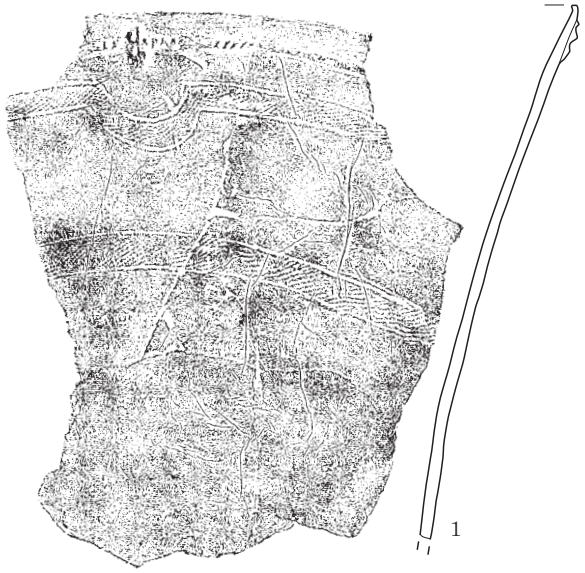
0　1：4　10cm

D－254号土坑

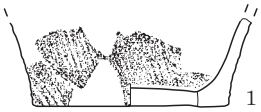




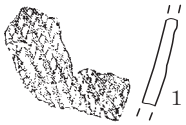
D－255号土坑



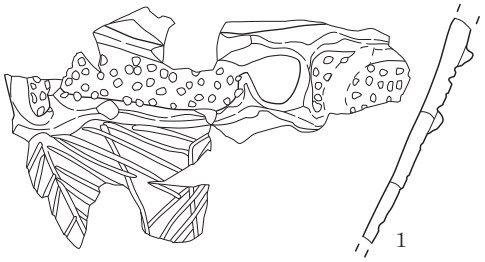
D－258号土坑

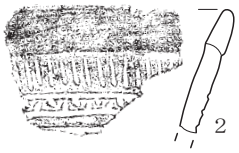


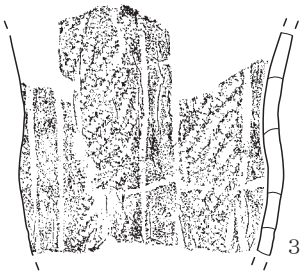
D－259号土坑



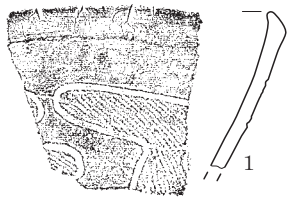
D－261号土坑

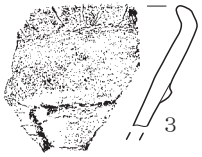




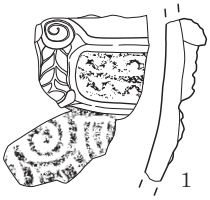


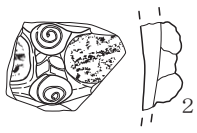
D－262号土坑





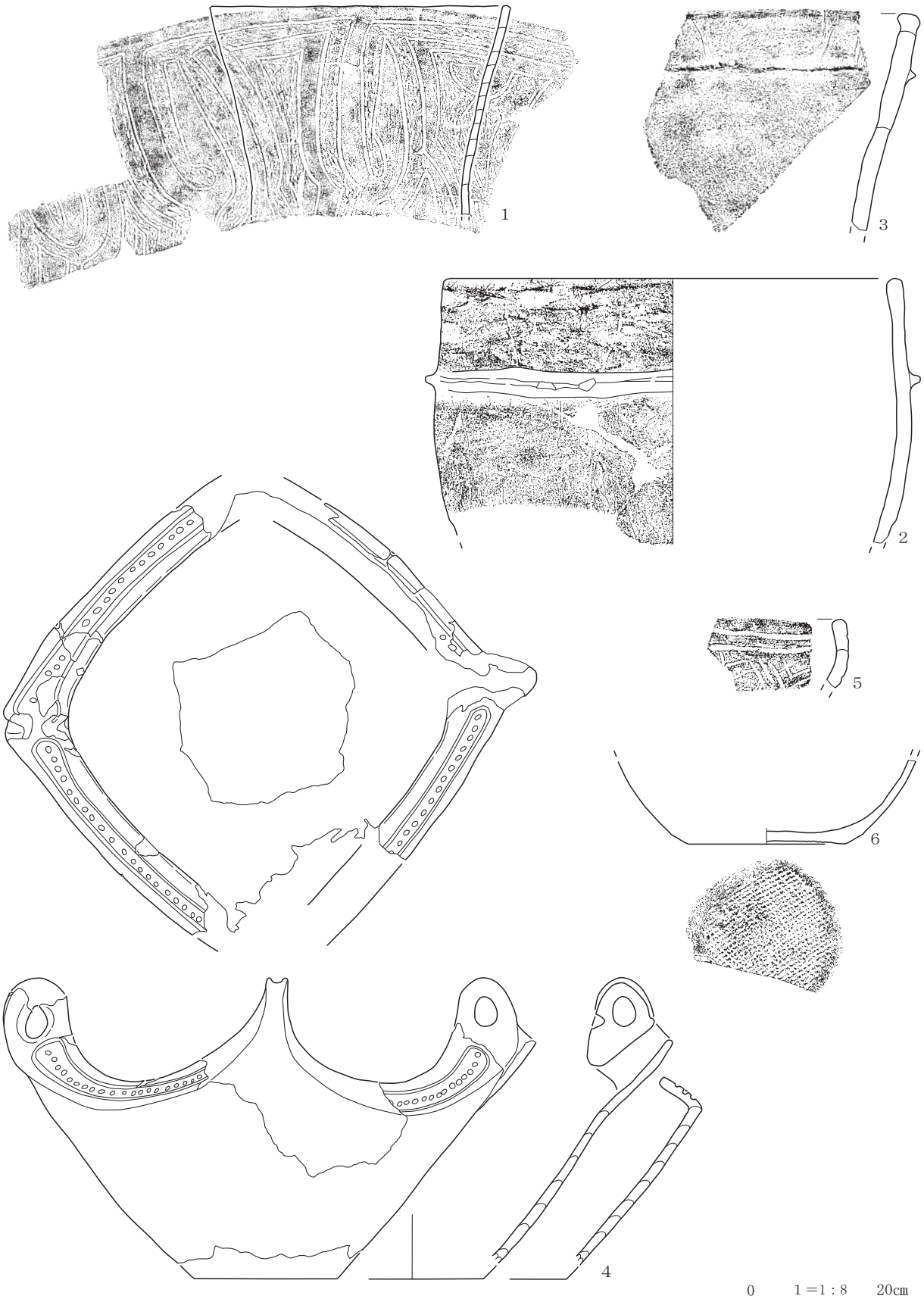
D－264号土坑



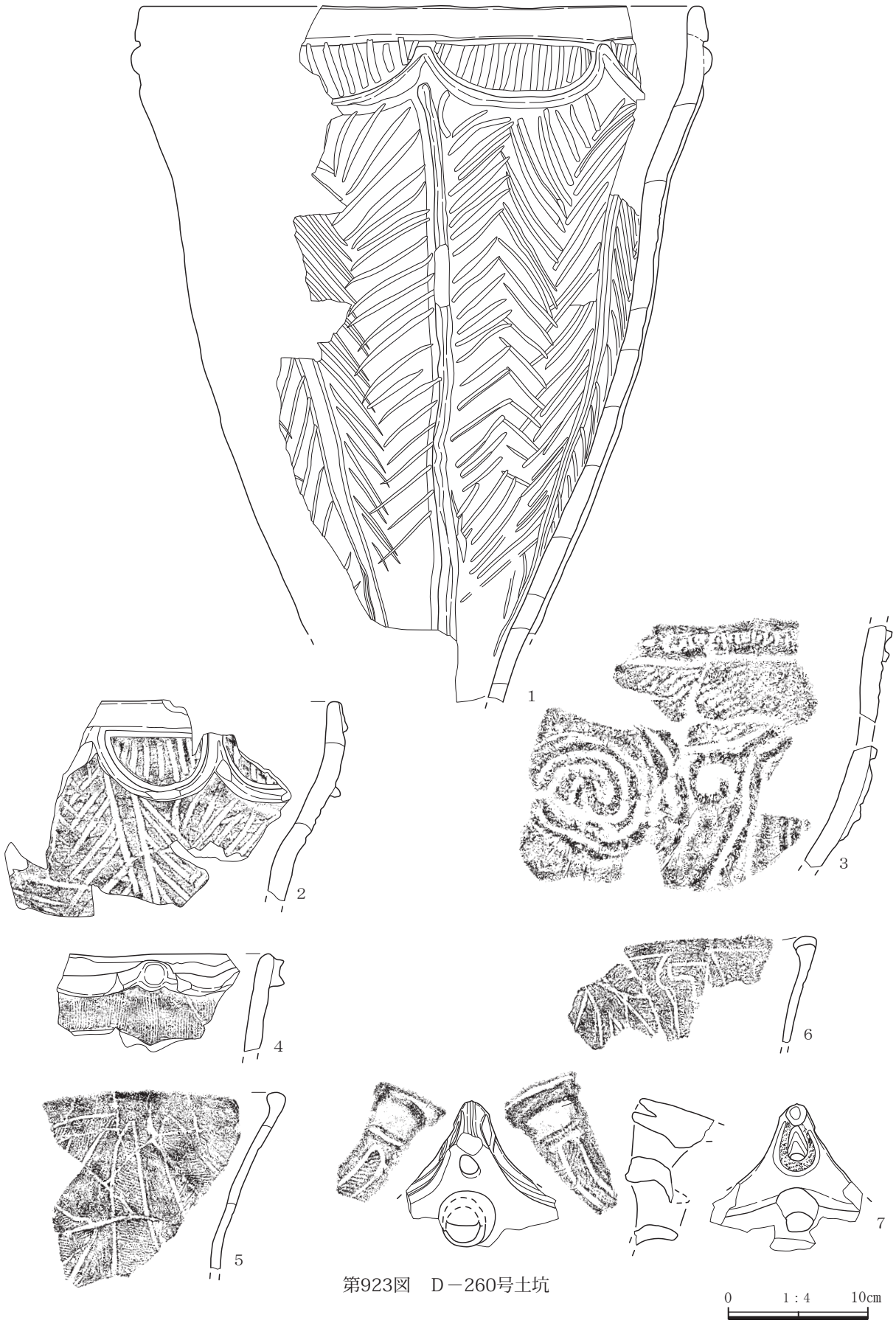


第921図　D－254・255・258・259・261・262・264号土坑

0　1：4　10cm

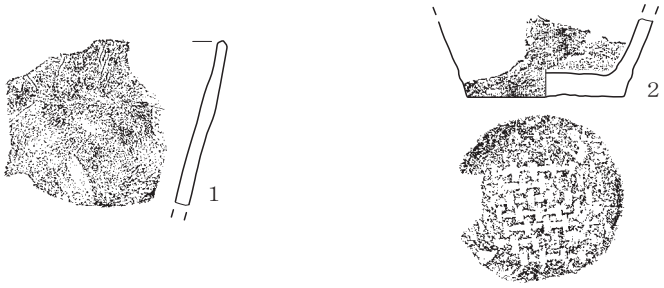


第922図　D－256号土坑

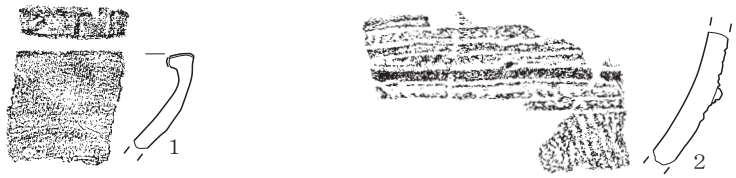


第923図　D－260号土坑

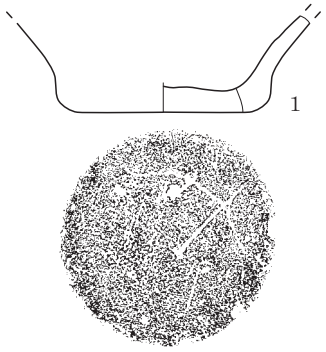
D－265号土坑



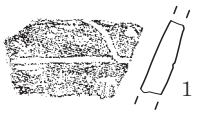
D－267号土坑



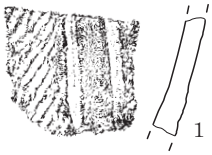
D－268号土坑



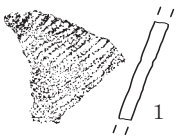
D－270号土坑



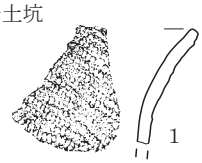
D－272号土坑



D－273号土坑



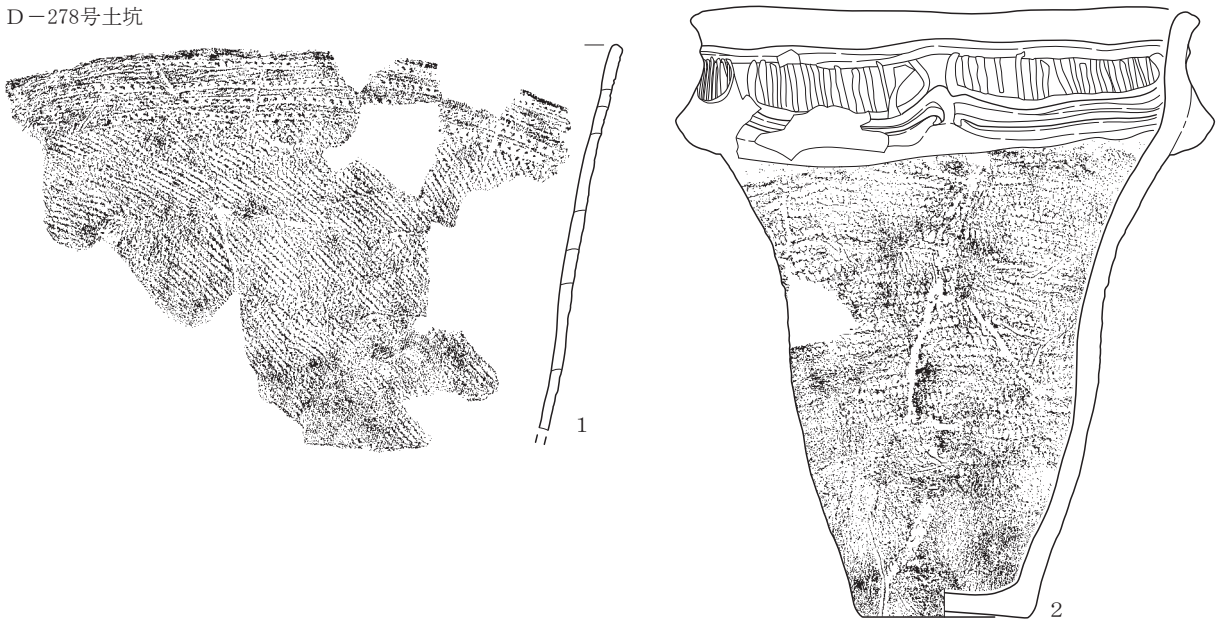
D－275号土坑



D－276号土坑

D－277号土坑

D－278号土坑

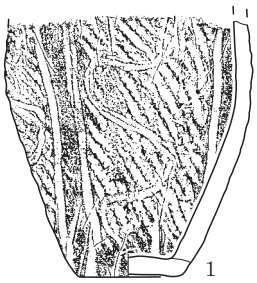


第924図　D－265・267・268・270・272・273・275・276～278号土坑

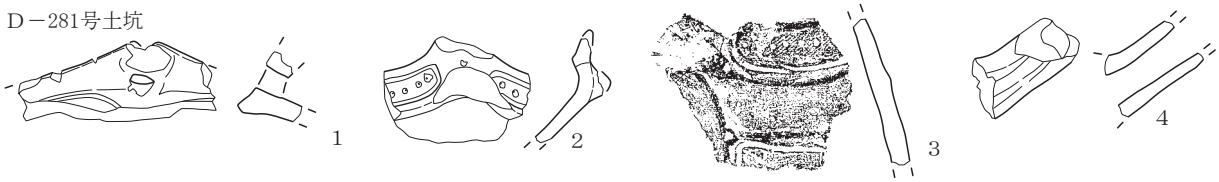
0　1：4　10cm

D－279号土坑

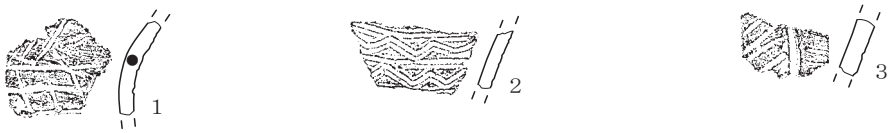
D－282号土坑



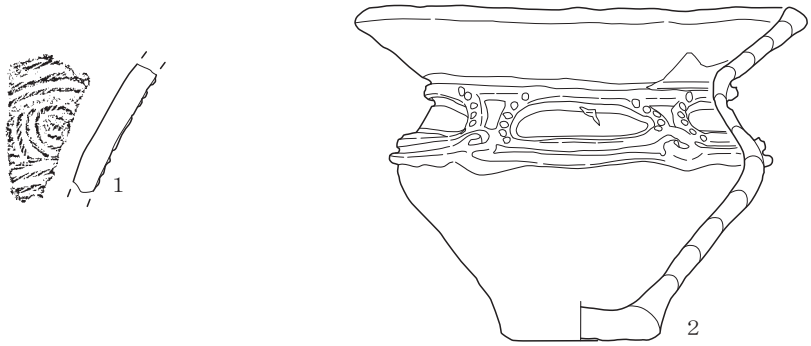
D－281号土坑



D－283号土坑

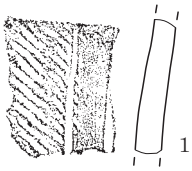


D－284号土坑

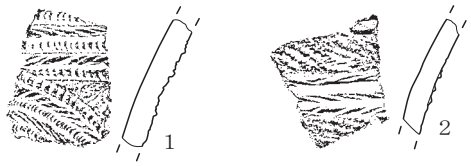


D－285号土坑

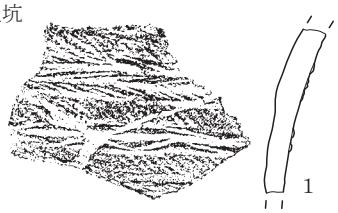
D－286号土坑



D－288号土坑

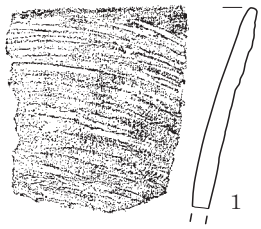


D－289号土坑



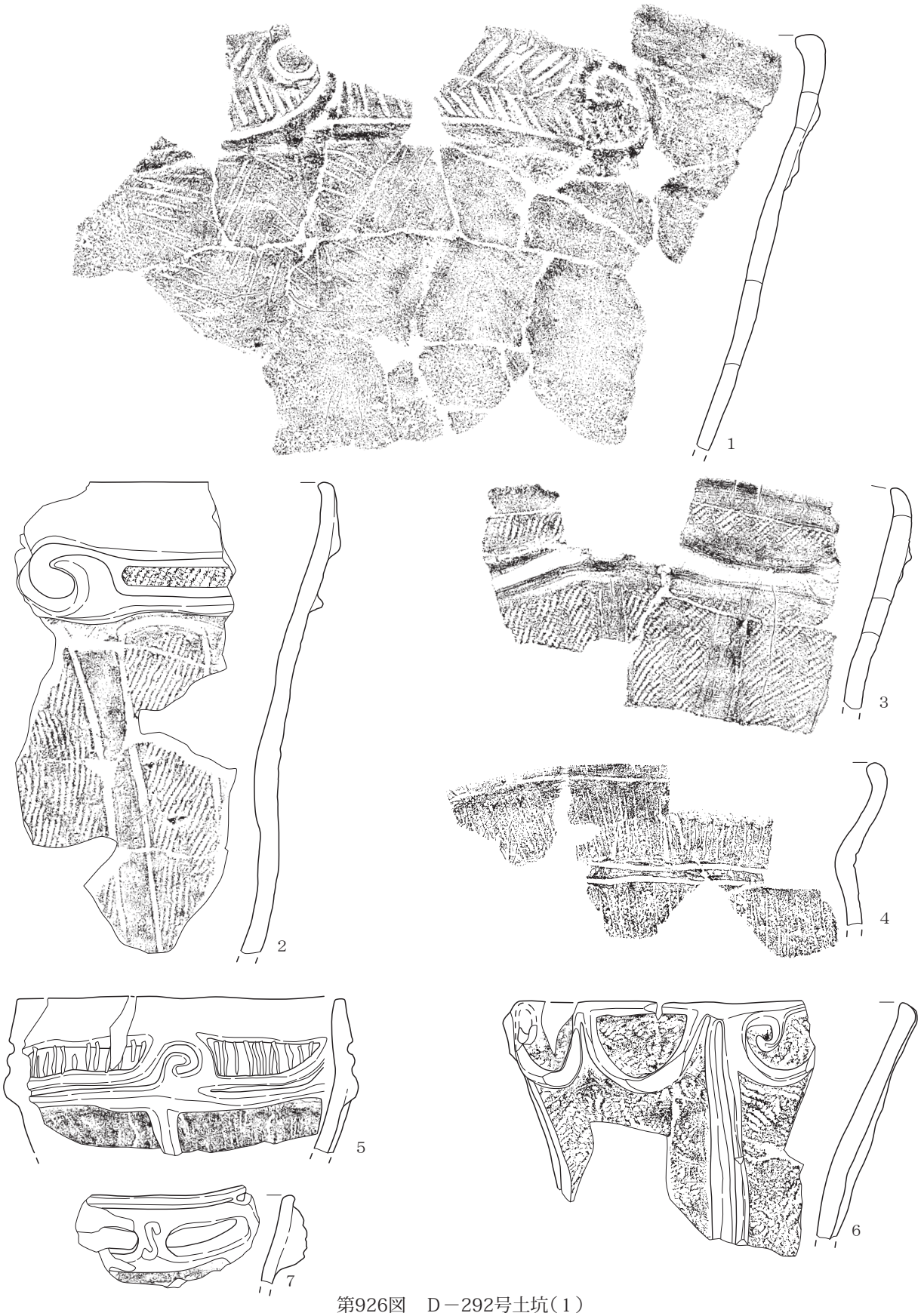
D－290号土坑

D－291号土坑



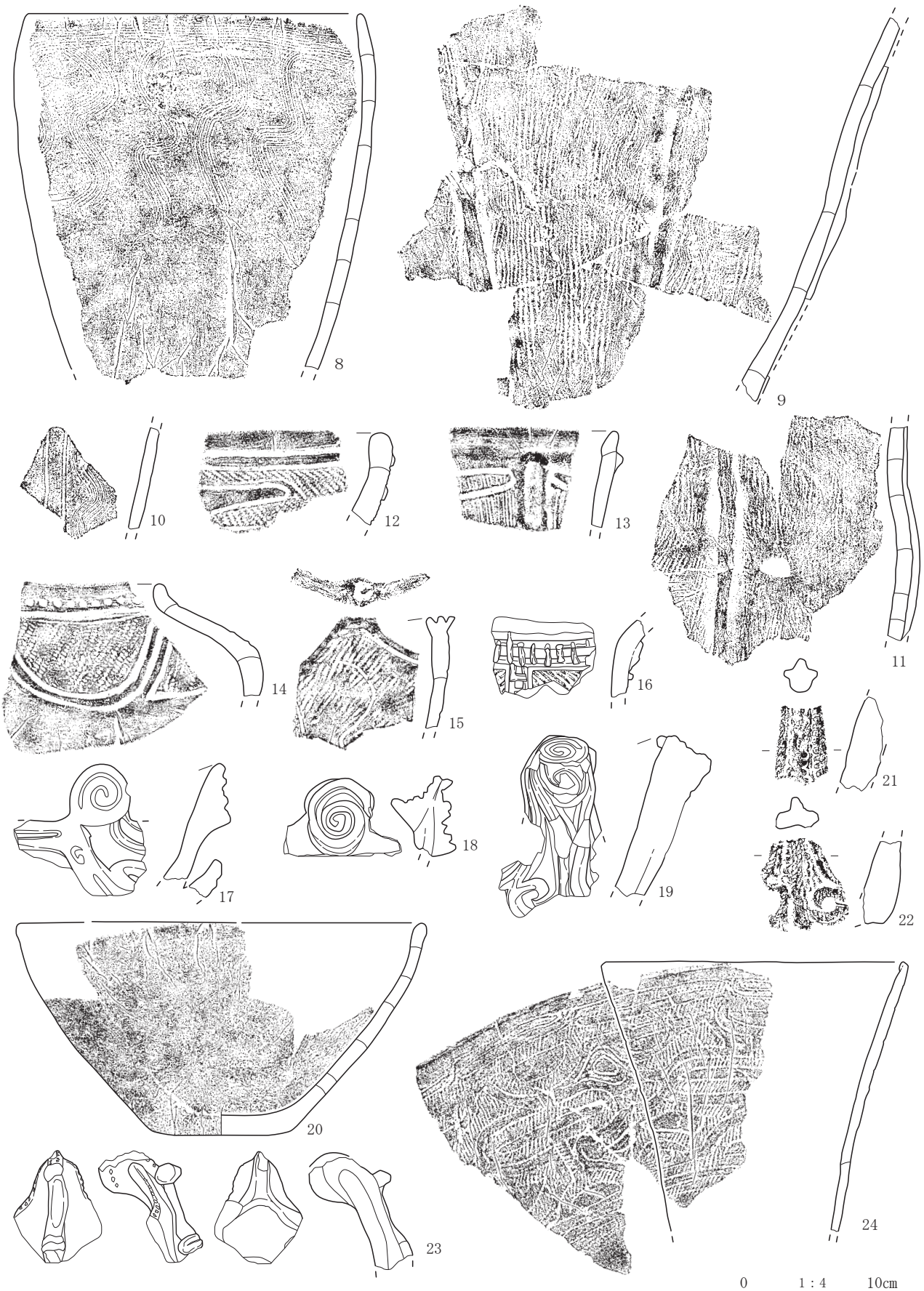
第925図　D－279・281～286・288～291号土坑

0　1：4　10cm



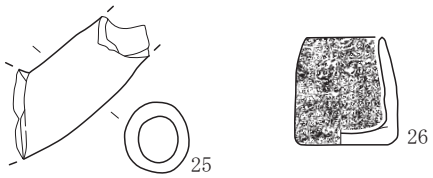
第926図　D－292号土坑（1）

0　1：4　10cm

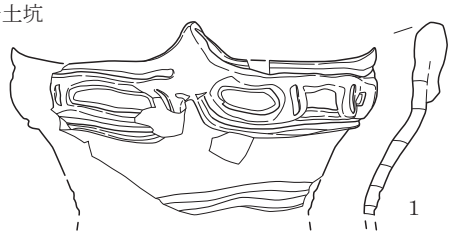


第927図　D－292号土坑（2）

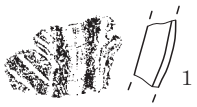
D－292号土坑（3）



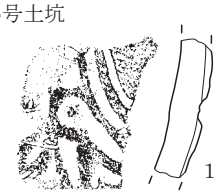
D－295号土坑



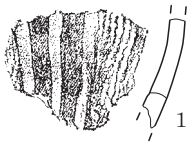
D－294号土坑



D－296号土坑

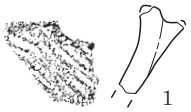


D－297号土坑

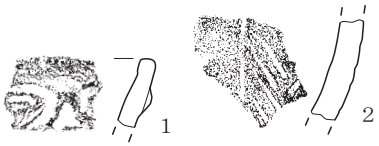


D－298号土坑

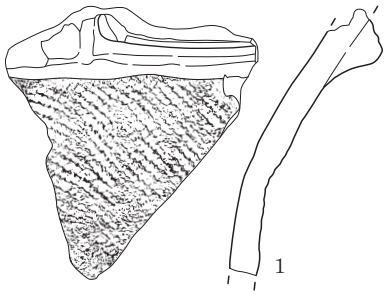
D－299号土坑



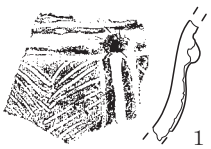
D－301号土坑



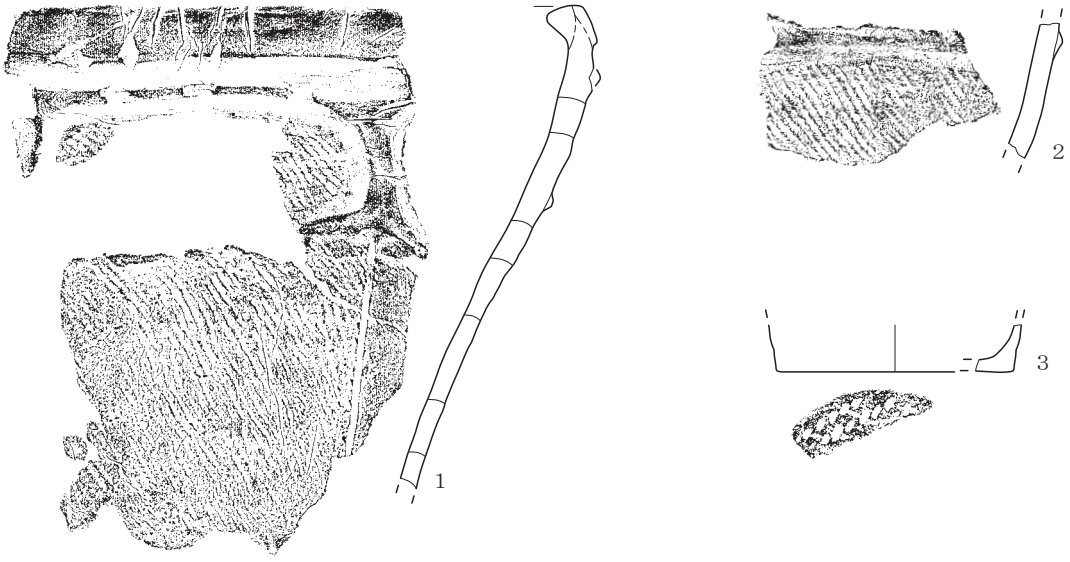
D－300号土坑



D－302号土坑



D－303号土坑



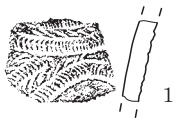
第928図　D－292（3）・294～301・303号土坑

0　1：4　10cm

D－304号土坑

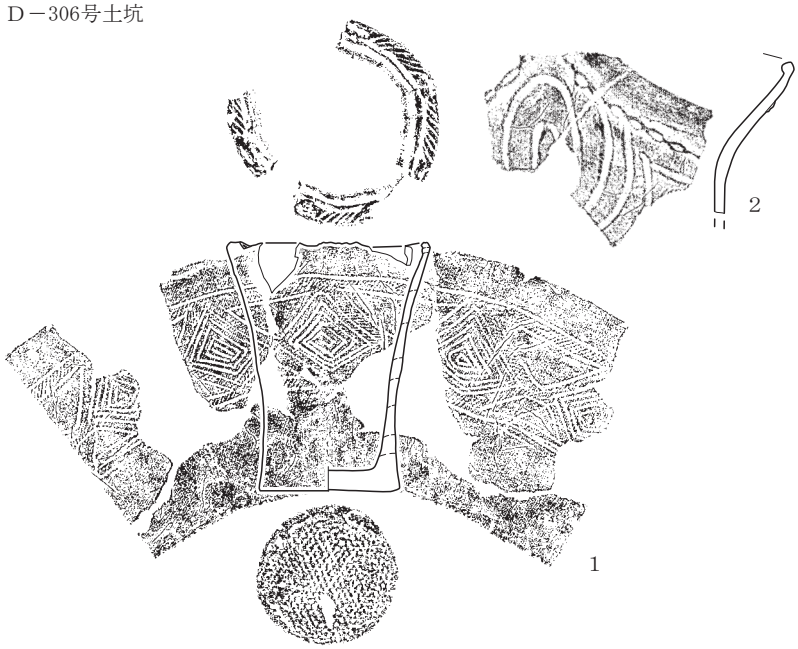
D－305号土坑

D－309号土坑

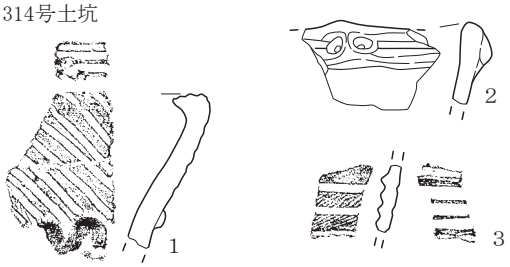


D－312号土坑

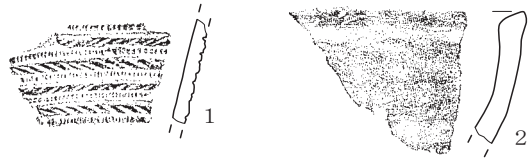
D－306号土坑



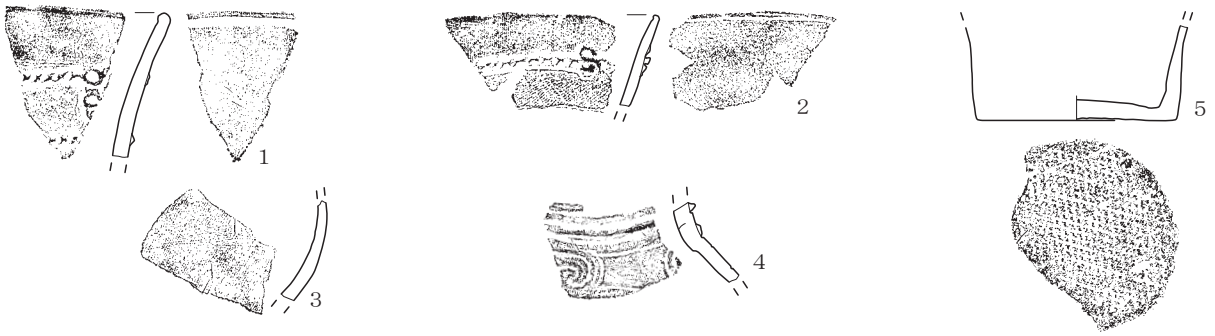
D－314号土坑



D－315号土坑



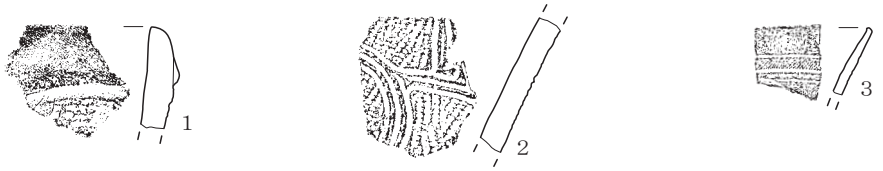
D－316号土坑



第929図　D－304～306・309・312・314～316号土坑

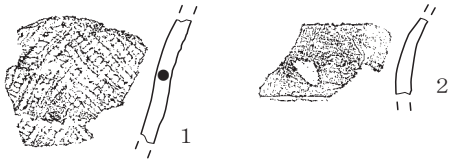
0　1：4　10cm

D－317号土坑

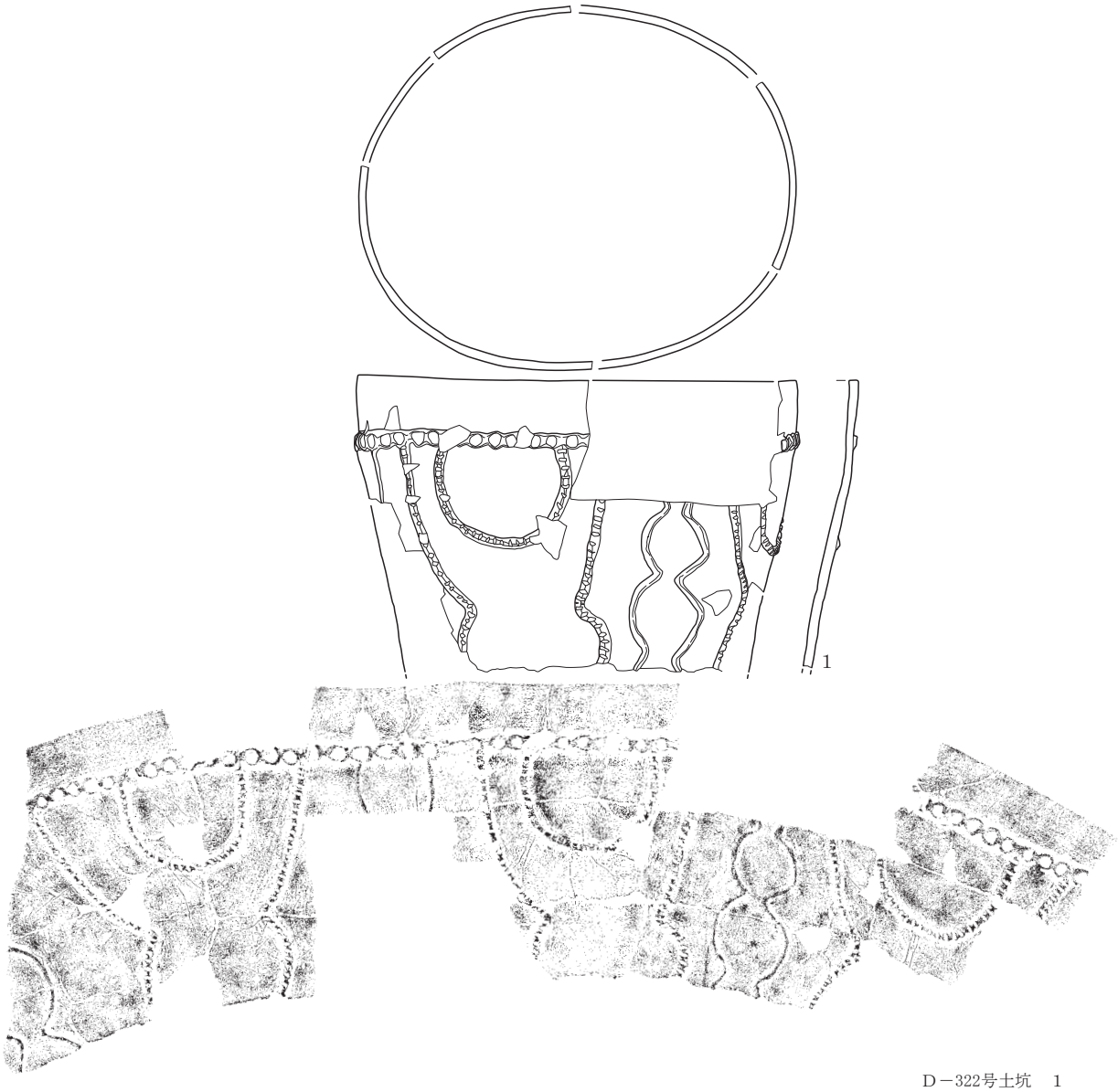


D－318号土坑

D－320号土坑



D－322号土坑（1）



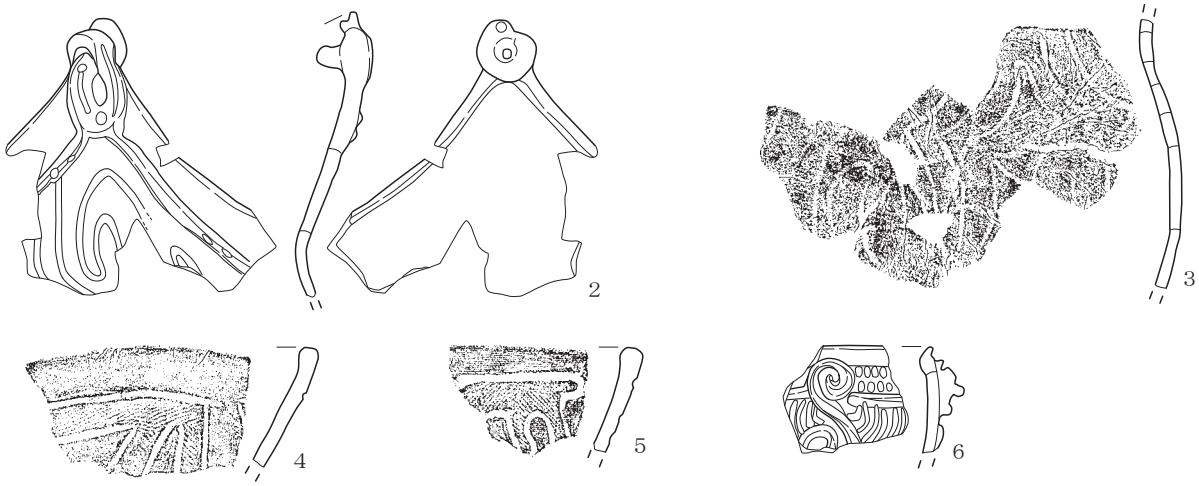
D－322号土坑　1

0　1：8　20cm

0　1：4　10cm

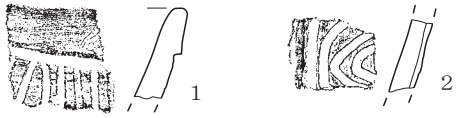
第930図　D－317･318･320･322(1)号土坑

D－322号土坑（2）

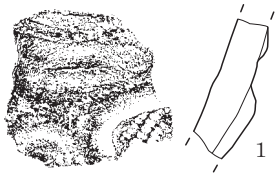


D－323号土坑

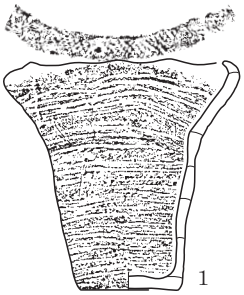
D－324号土坑



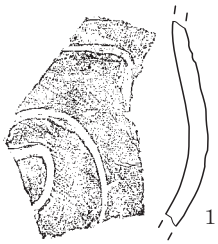
D－327号土坑



D－329号土坑



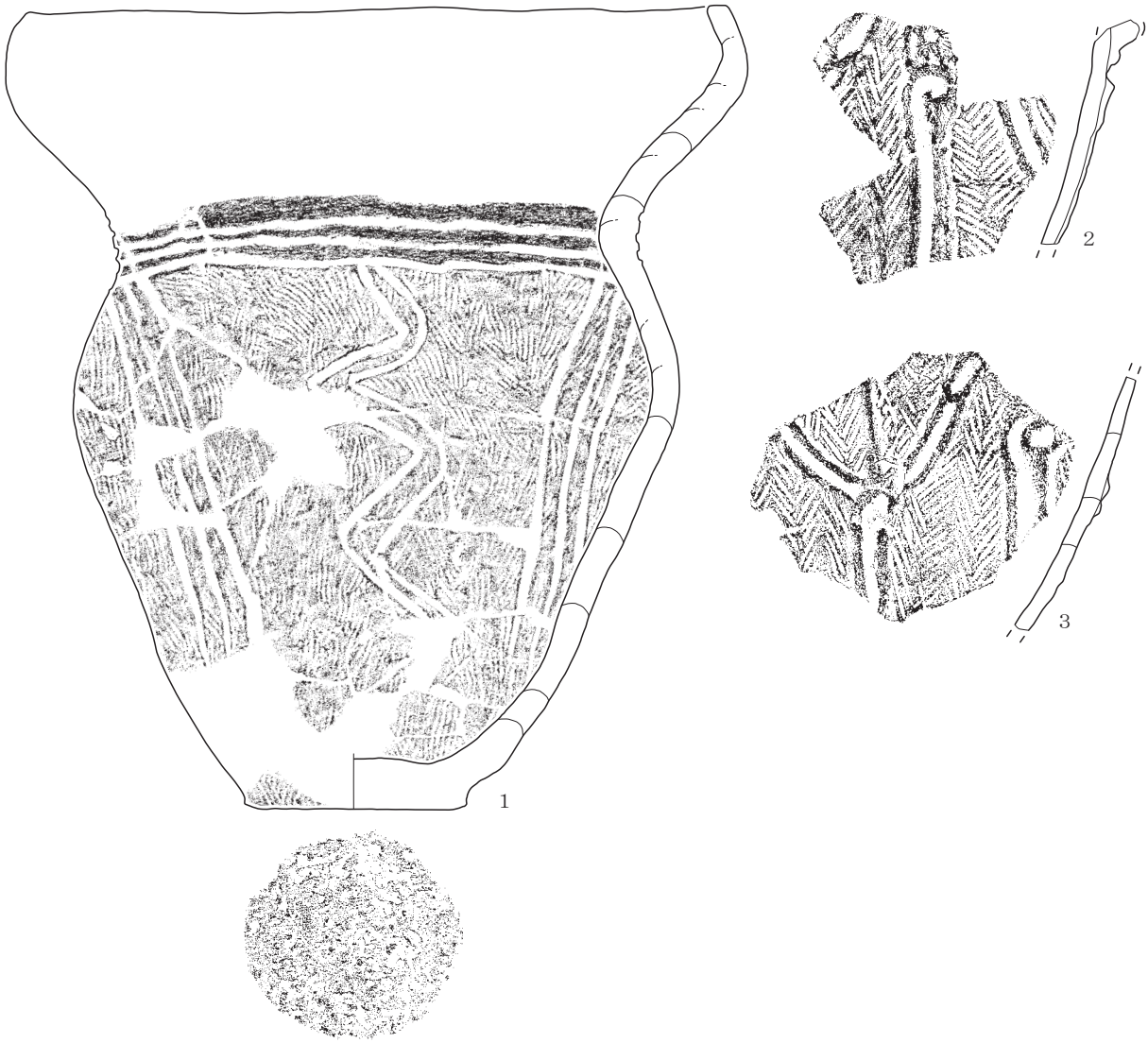
D－331号土坑



第931図　D－322(2)・323・324・327・329・331号土坑

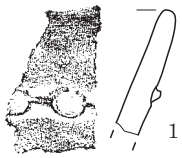
0　1：4　10cm

D－326号土坑



D－332号土坑

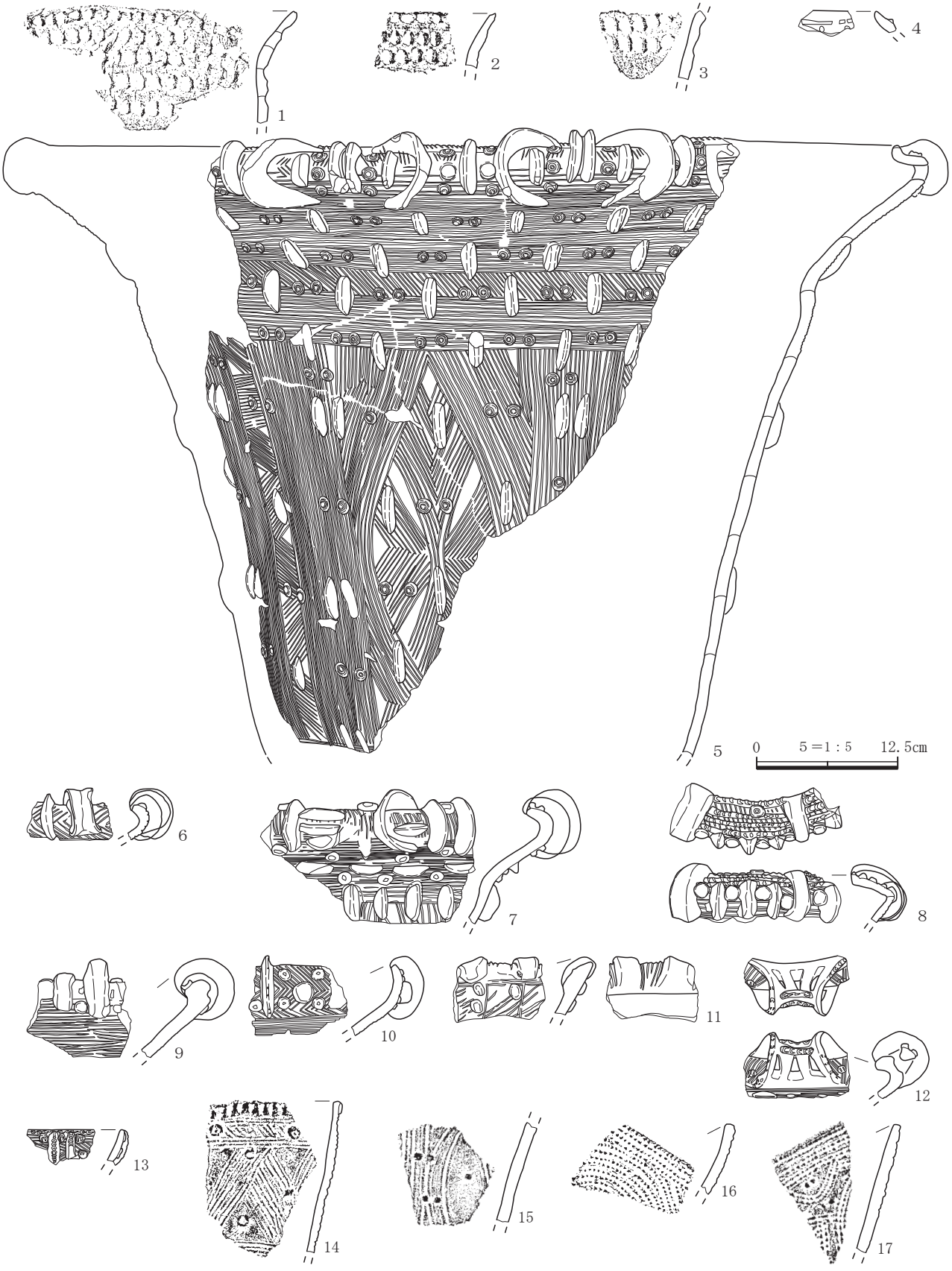
D－333号土坑



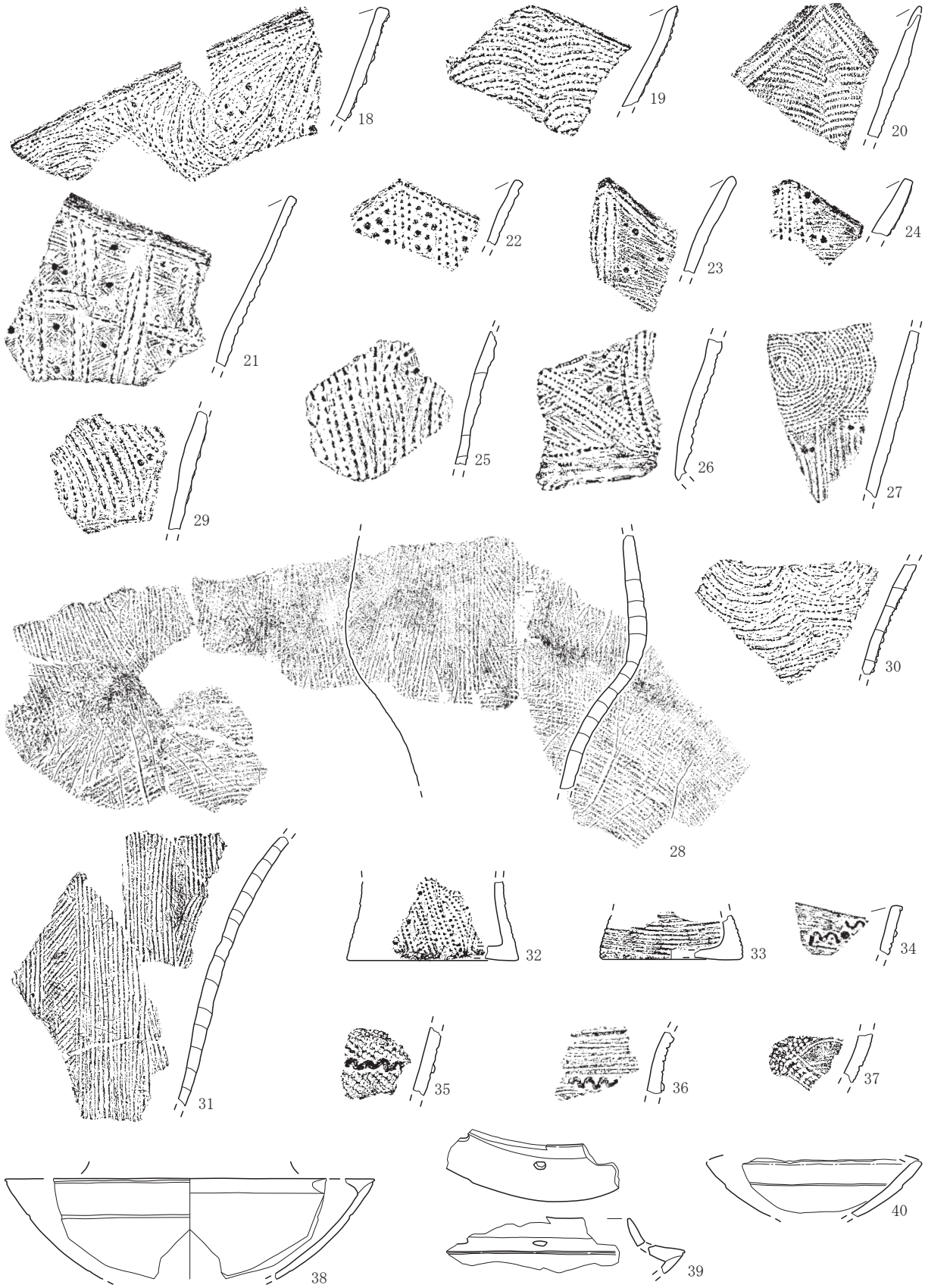
第932図　D－326･332･333号土坑

0　1：4　10cm

原田Ⅱ遺跡B区縄文時代住居址出土遺物実測図

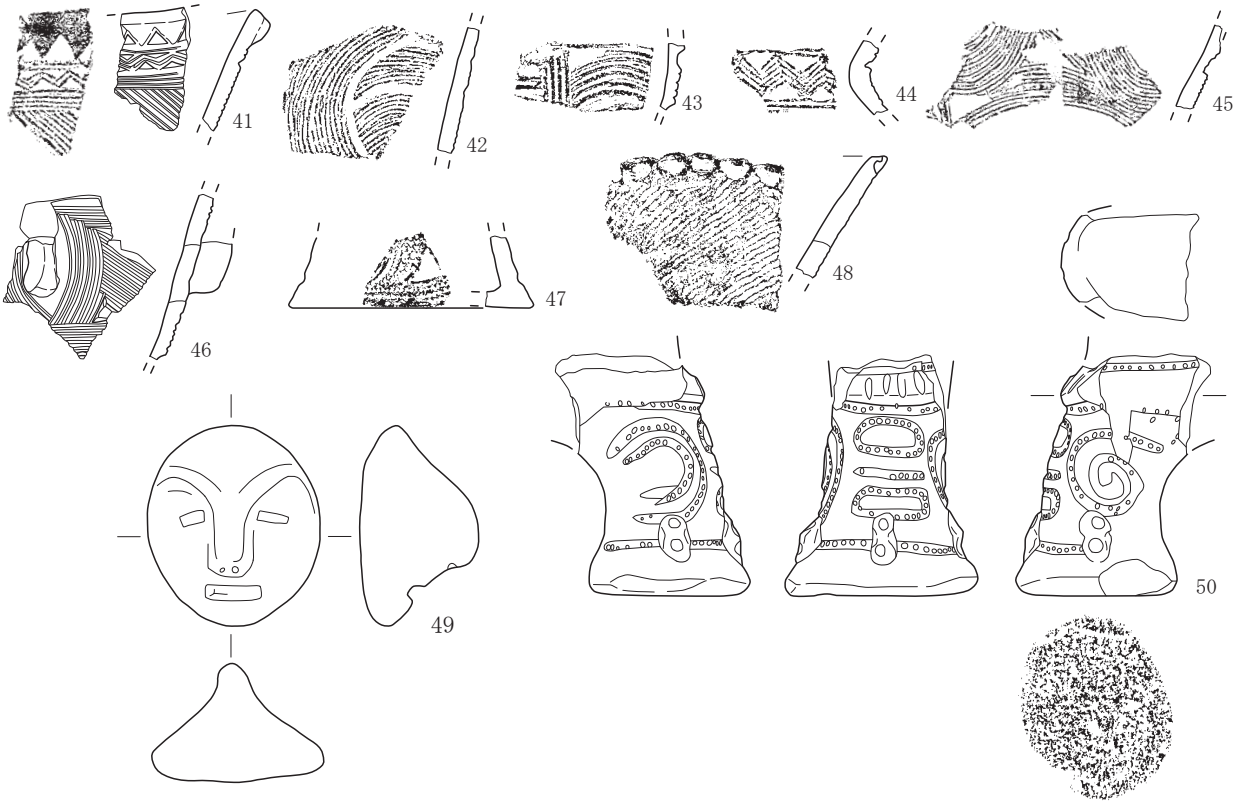


第933図　J－3号住居址（1）

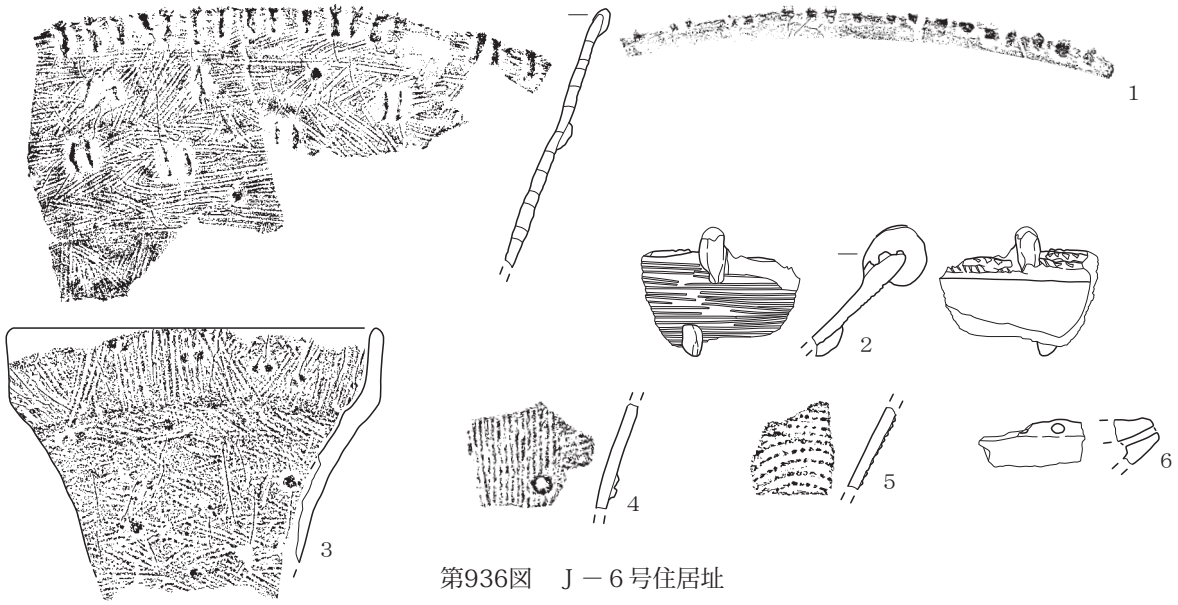


第934図　J－3号住居址（2）

0　1：4　10cm



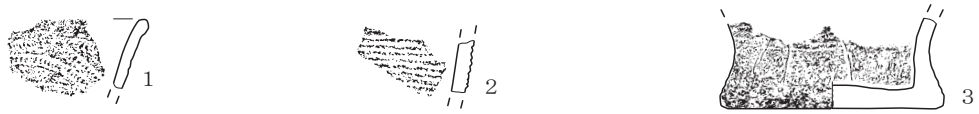
第935図　J－3号住居址（3）



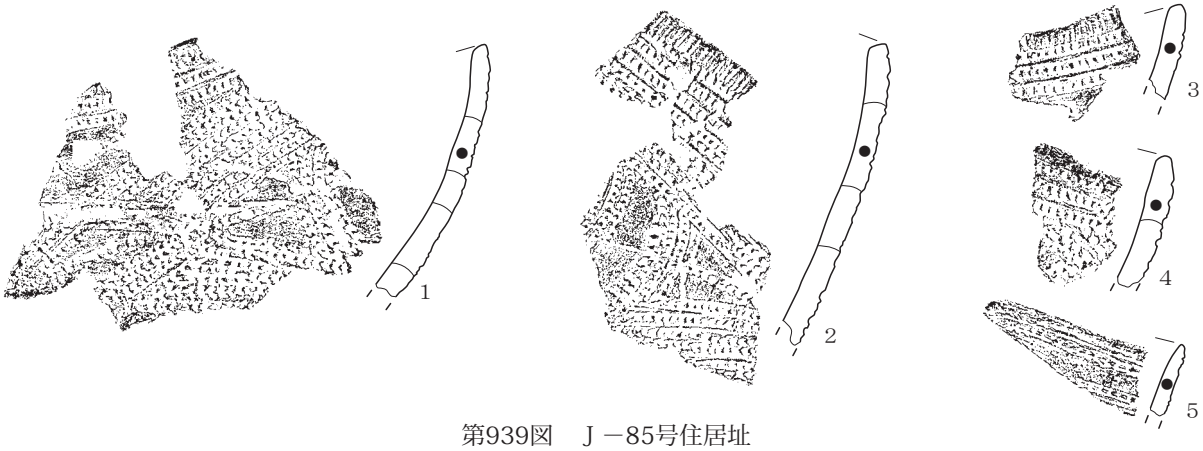
第936図　J－6号住居址

第937図　J－7号住居址

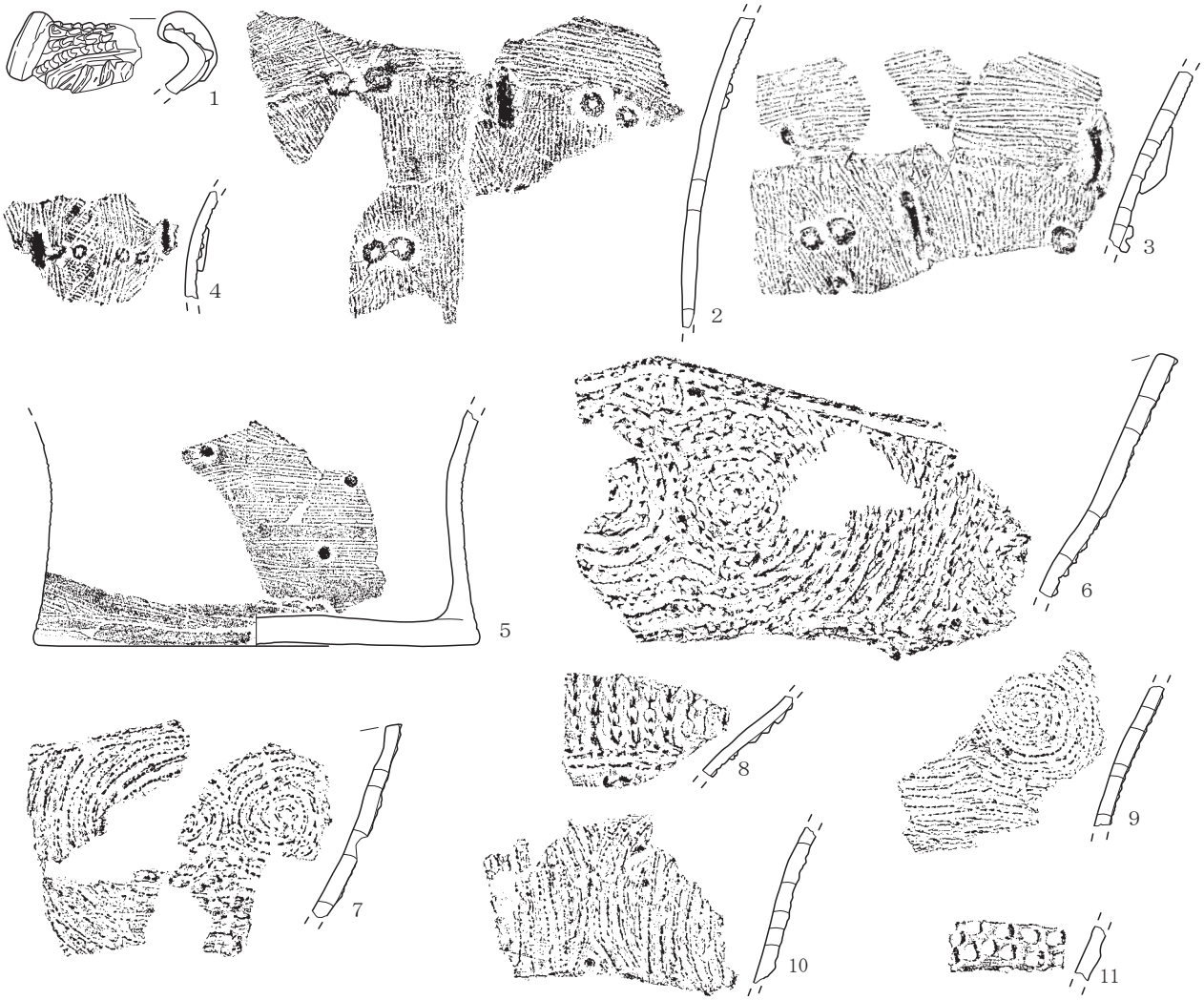
原田Ⅱ遺跡C区縄文時代住居址出土遺物実測図



第938図　J－84号住居址



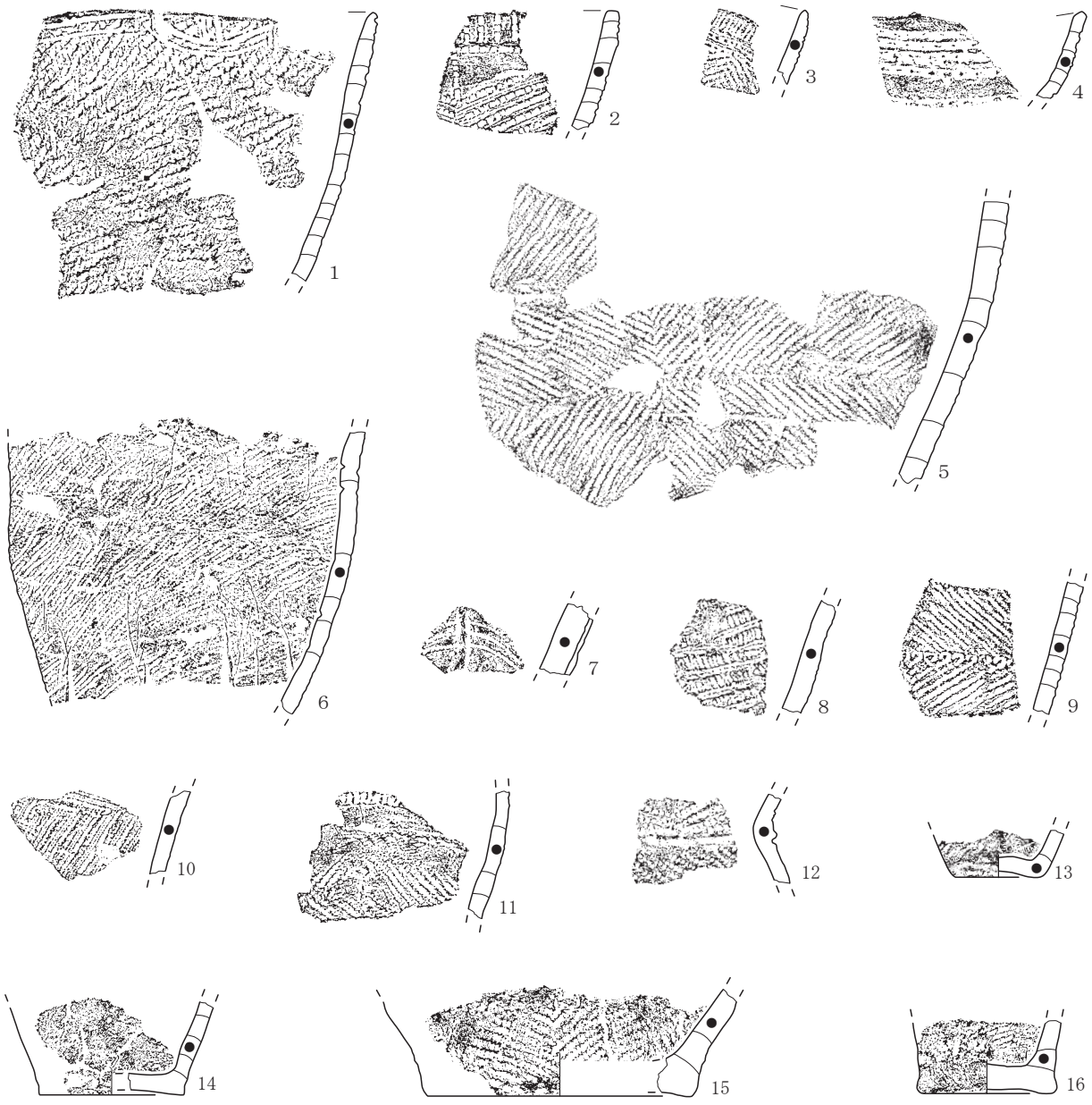
第939図　J－85号住居址



第940図　J－86号住居址

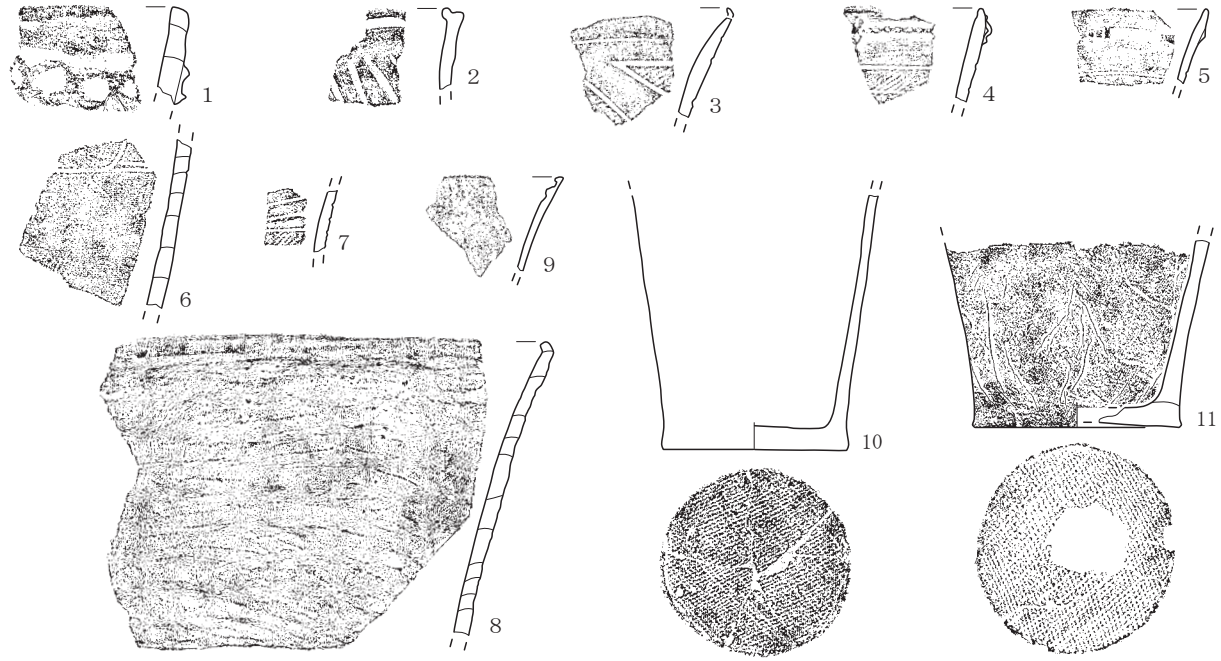
0　1：4　10cm

原田Ⅱ遺跡D区縄文時代住居址出土遺物実測図

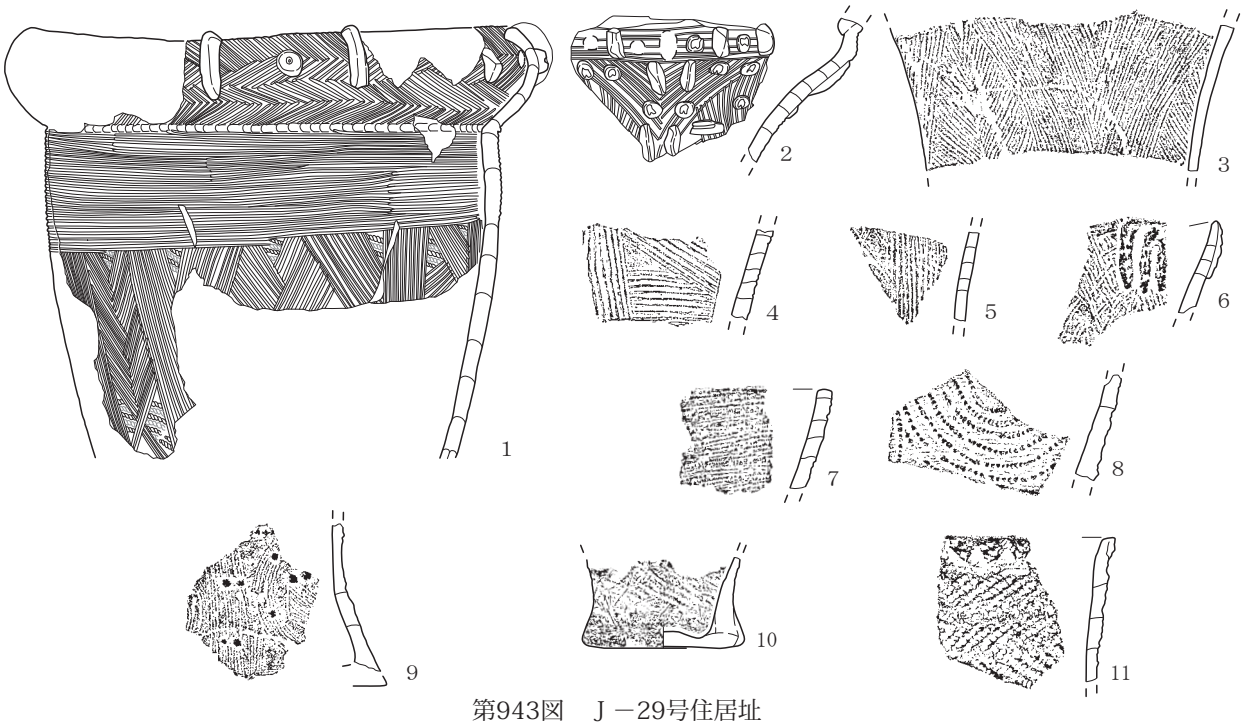


第941図　J－18号住居址

原田Ⅱ遺跡Ｅ区縄文時代住居址出土遺物実測図



第942図　Ｊ－28号住居址



第943図　Ｊ－29号住居址

原田Ⅱ遺跡Ｅ区縄文時代土坑出土遺物実測図

第944図　Ｄ－65号土坑

0　1：4　10cm

原田Ⅱ遺跡Ｆ区縄文時代住居址出土遺物実測図

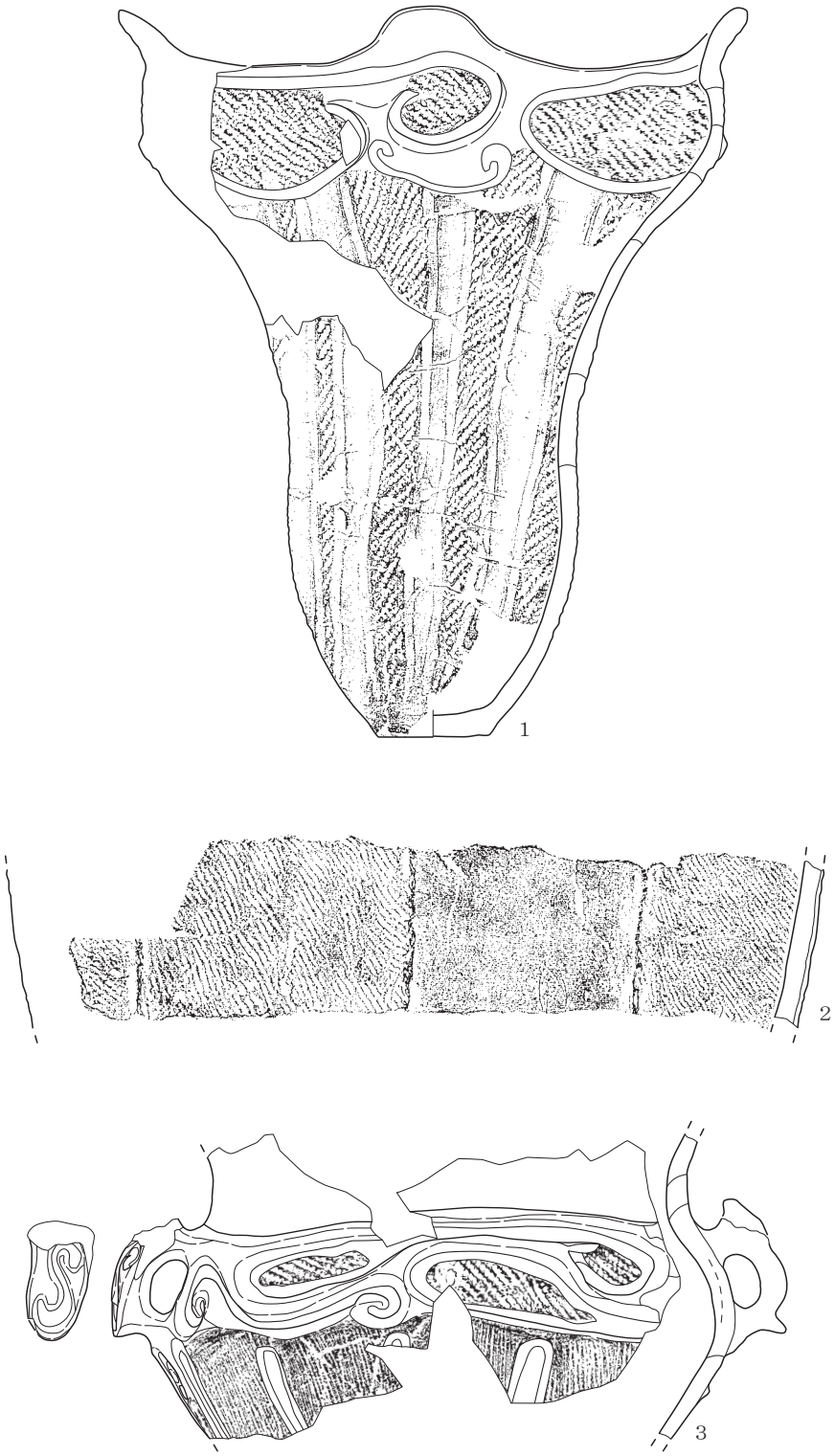
第945図　Ｊ－37号住居址（１）

0　1：4　10cm

第946図　Ｊ－37号住居址（２）

0　1：4　10cm

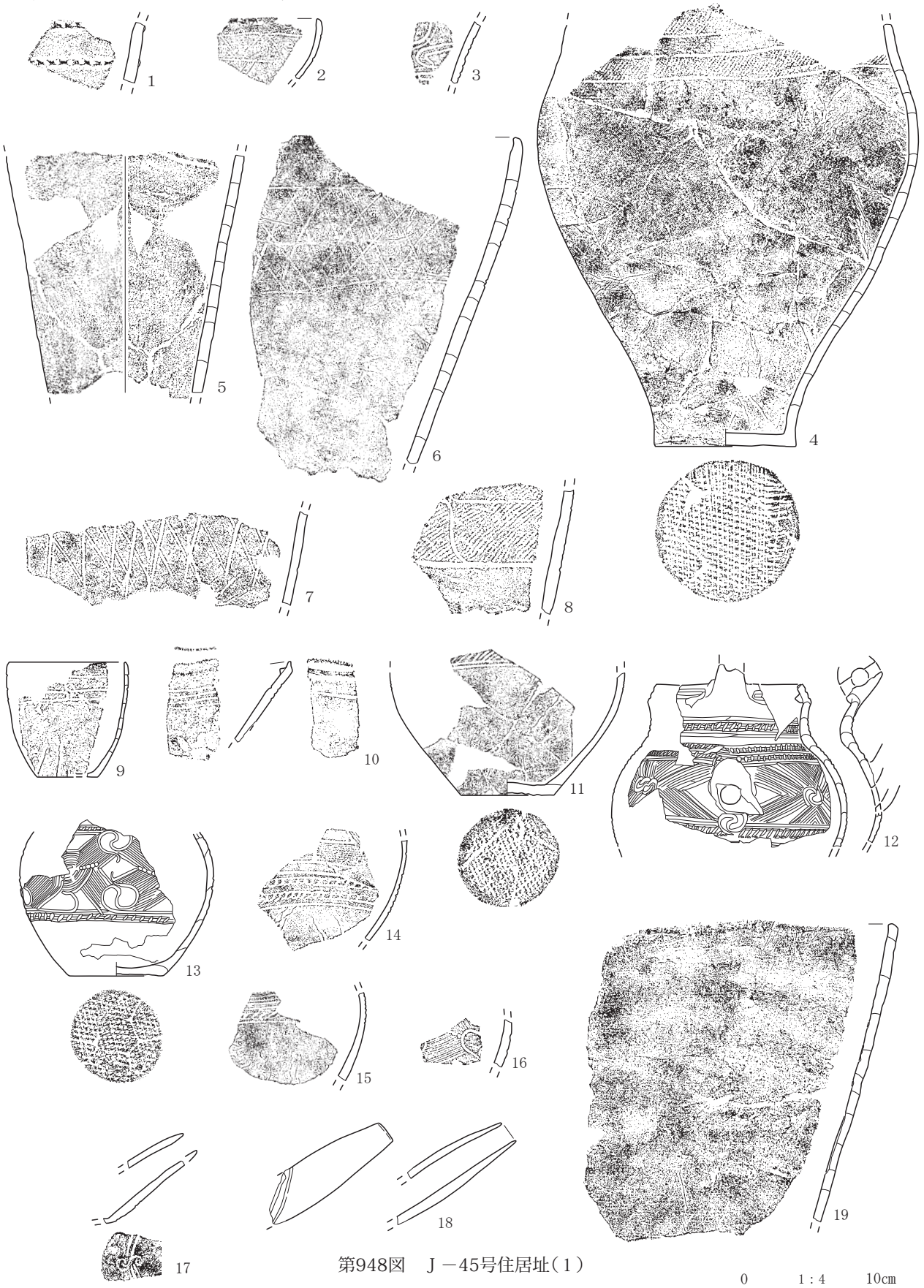
原田Ⅱ遺跡G区縄文時代住居址出土遺物実測図



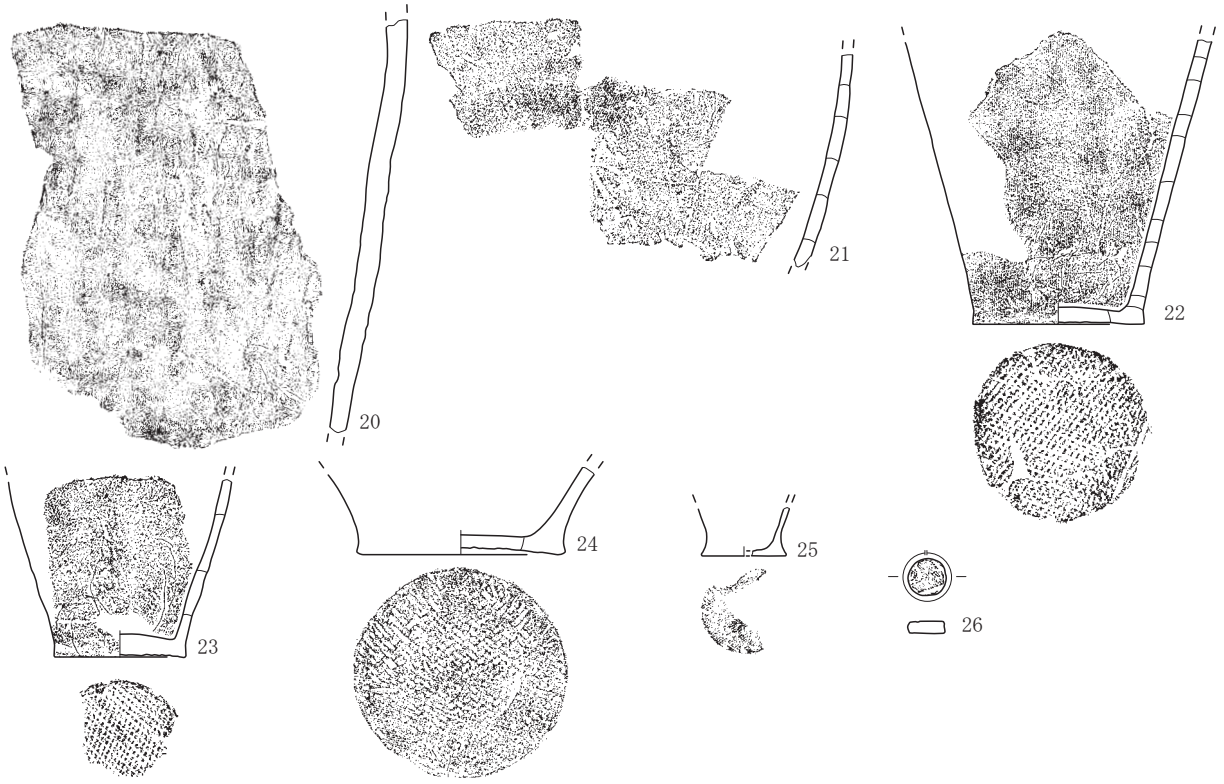
第947図　J－52号住居址

0　1：4　10cm

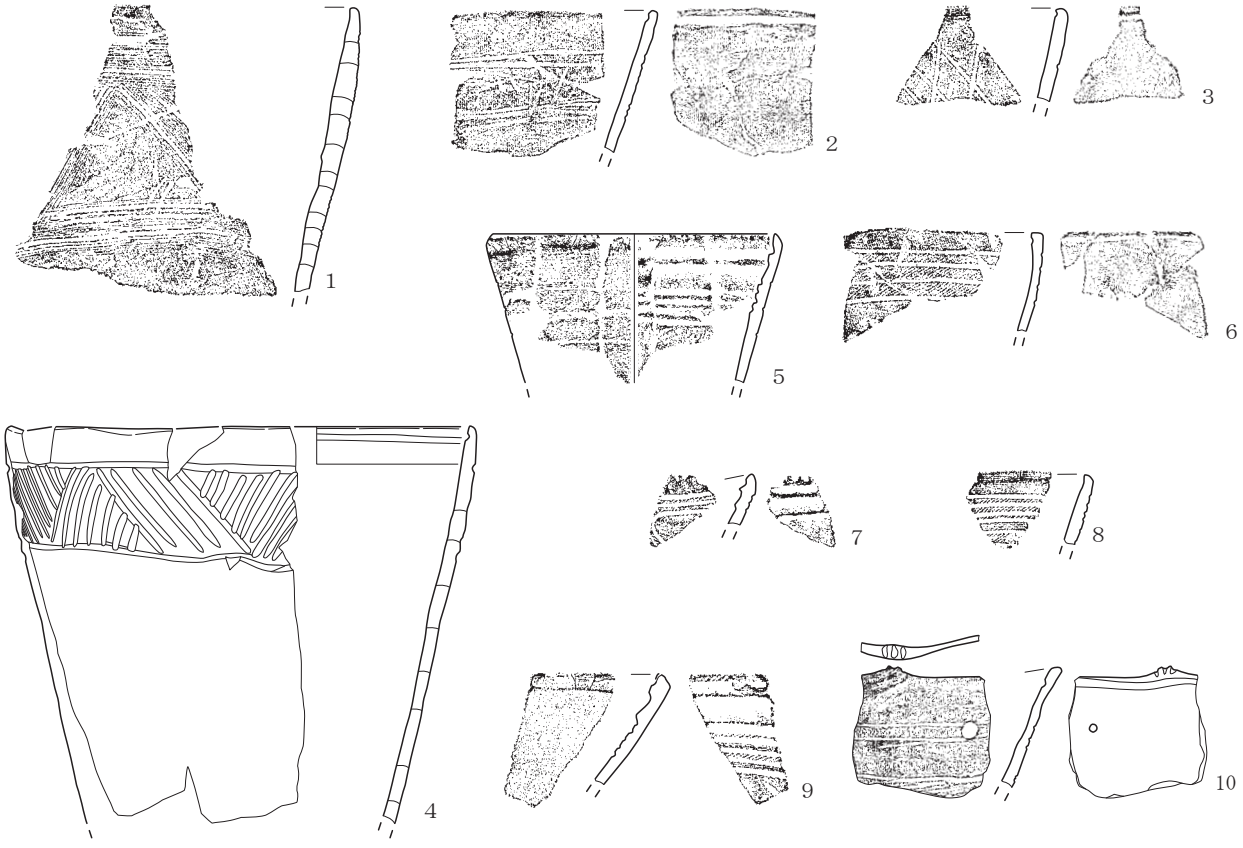
原田Ⅱ遺跡H区縄文時代住居址出土遺物実測図



第948図　J－45号住居址（1）



第949図　J－45号住居址（2）

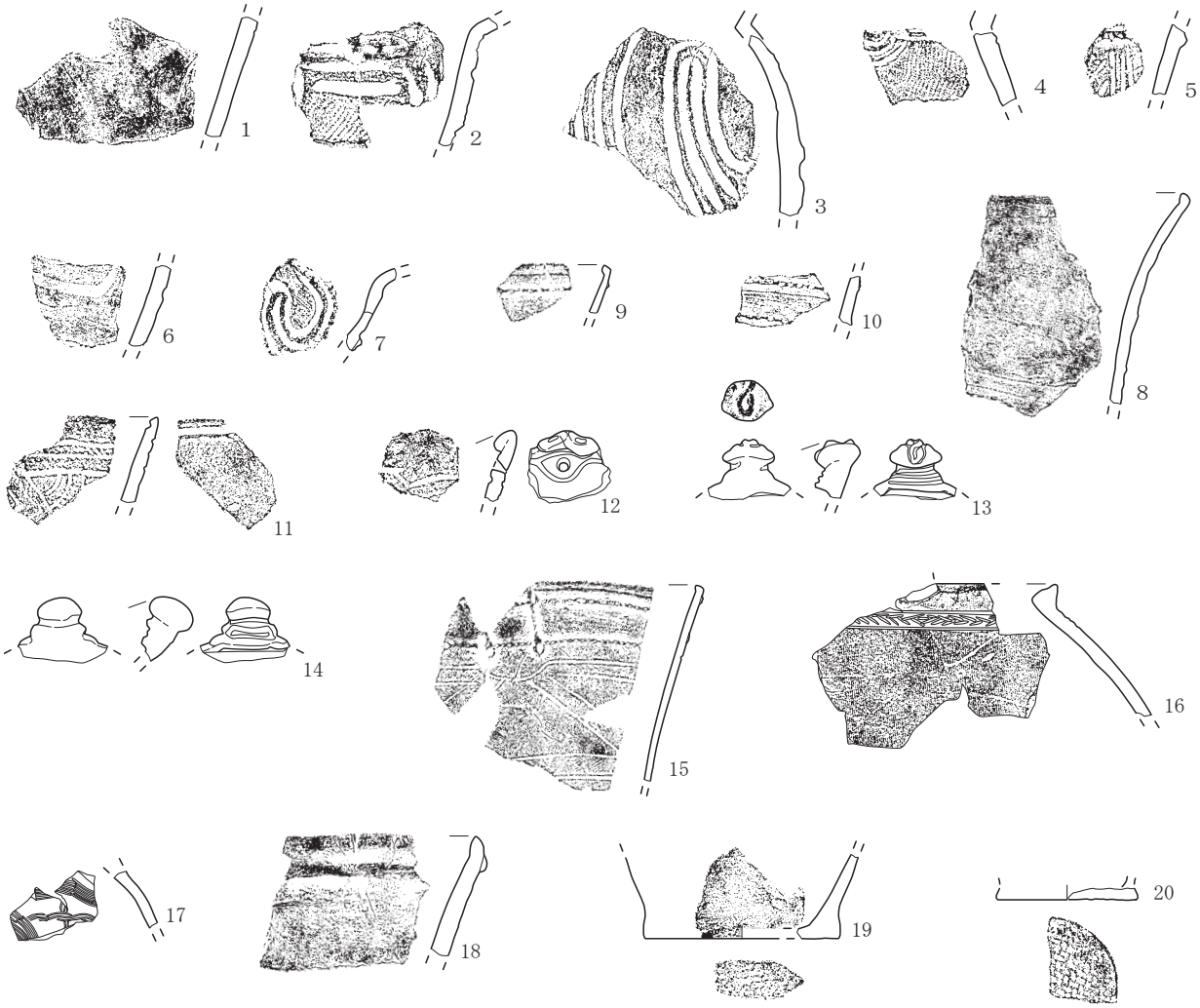


第950図　J－50号住居址（1）

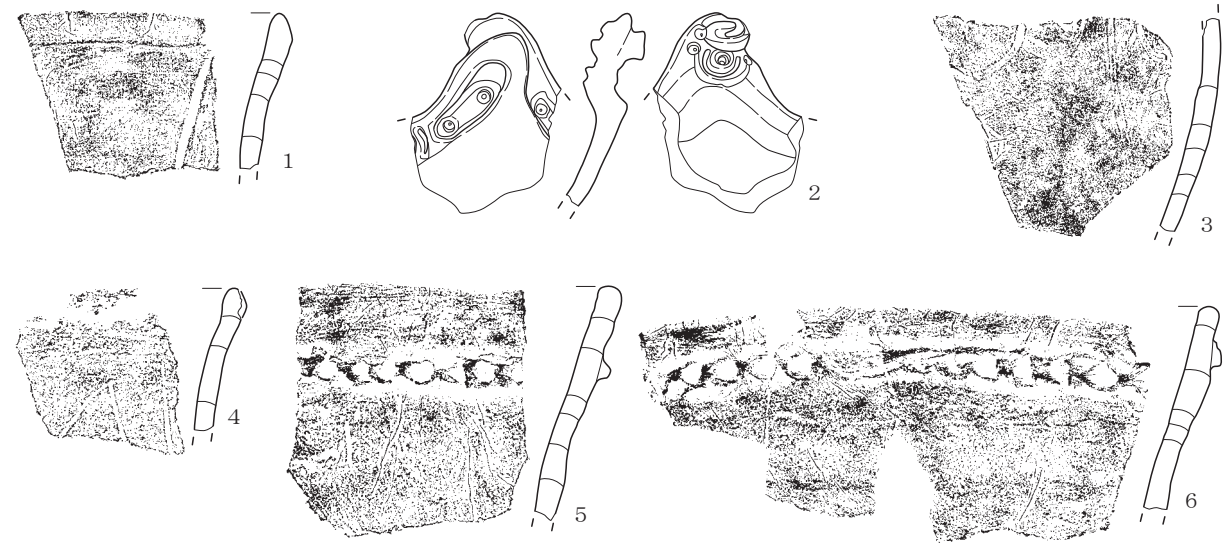
0　1：4　10cm

第951図　J－50号住居址（2）

0　1：4　10cm

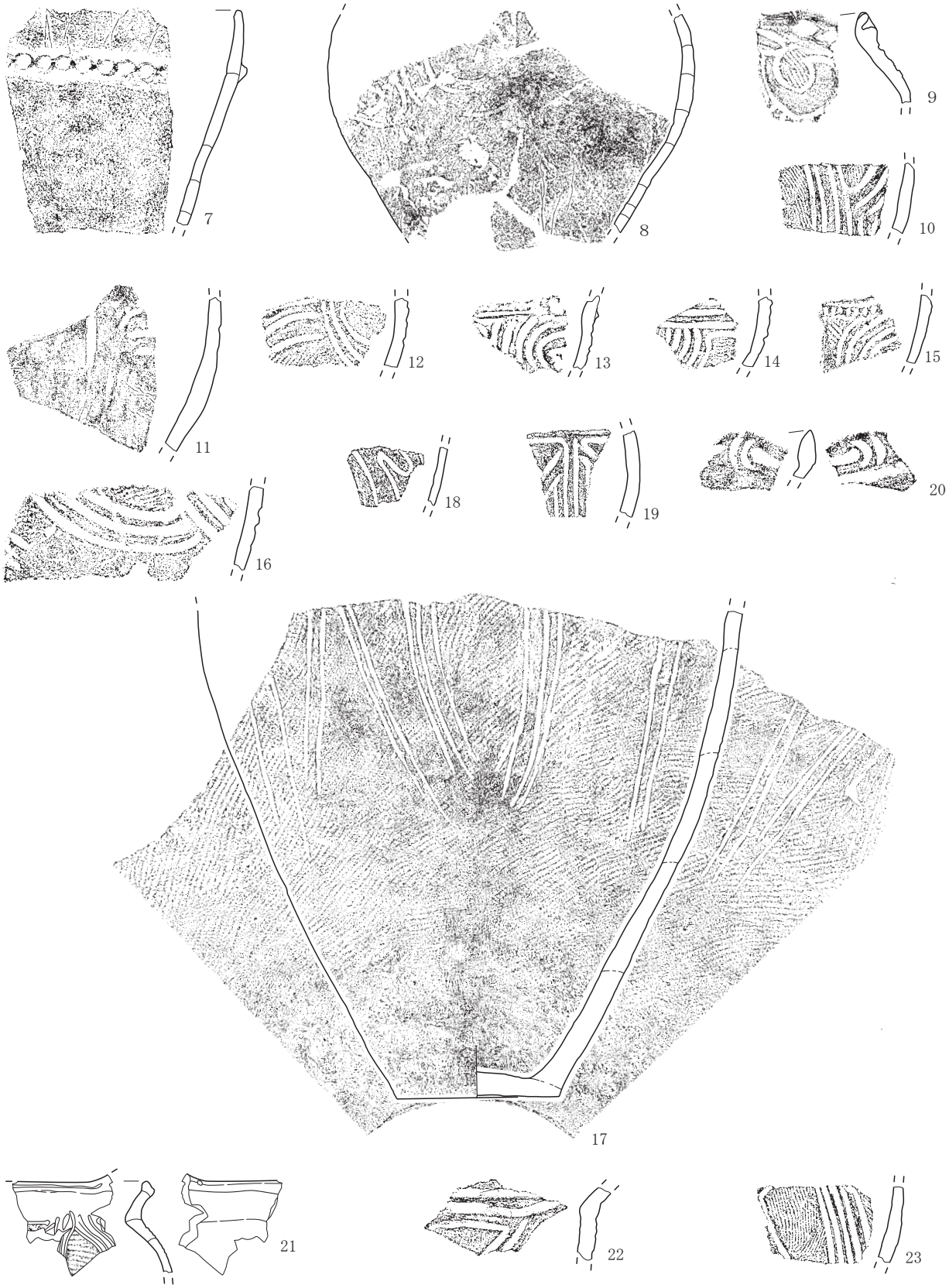


第952図　J－53号住居址



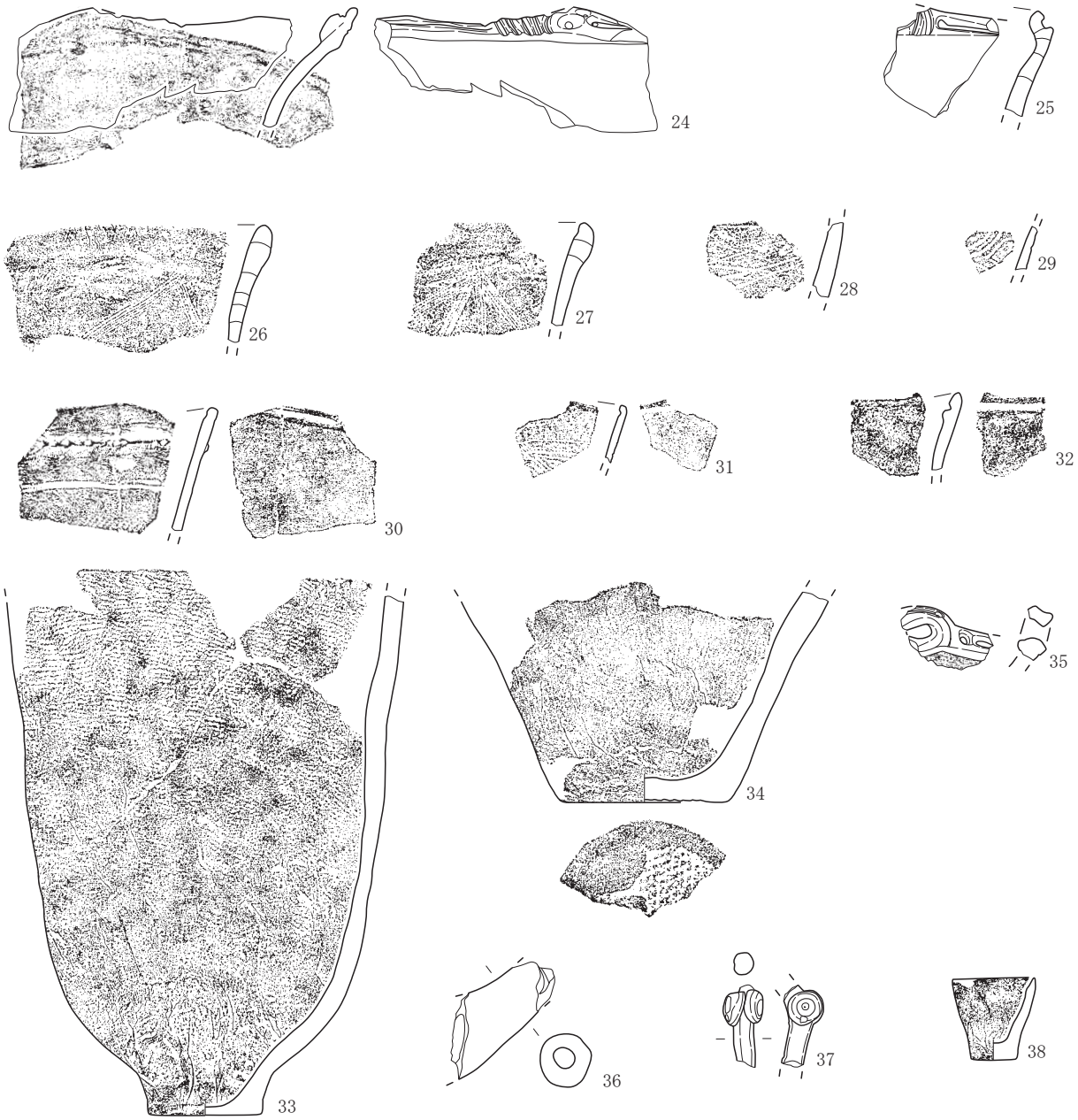
第953図　J－61号住居址（1）

0　1：4　10cm

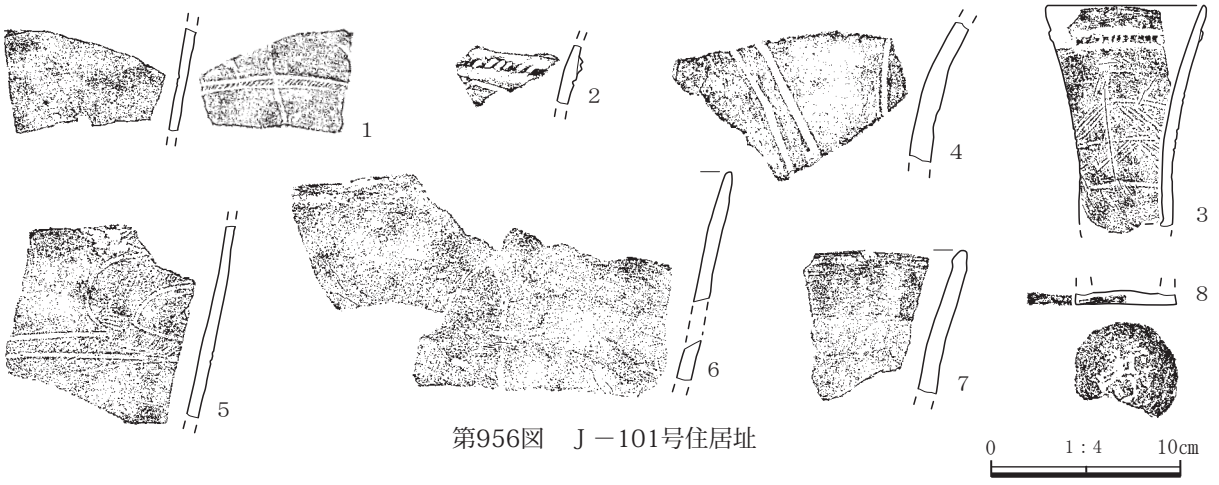


第954図　J－61号住居址（2）

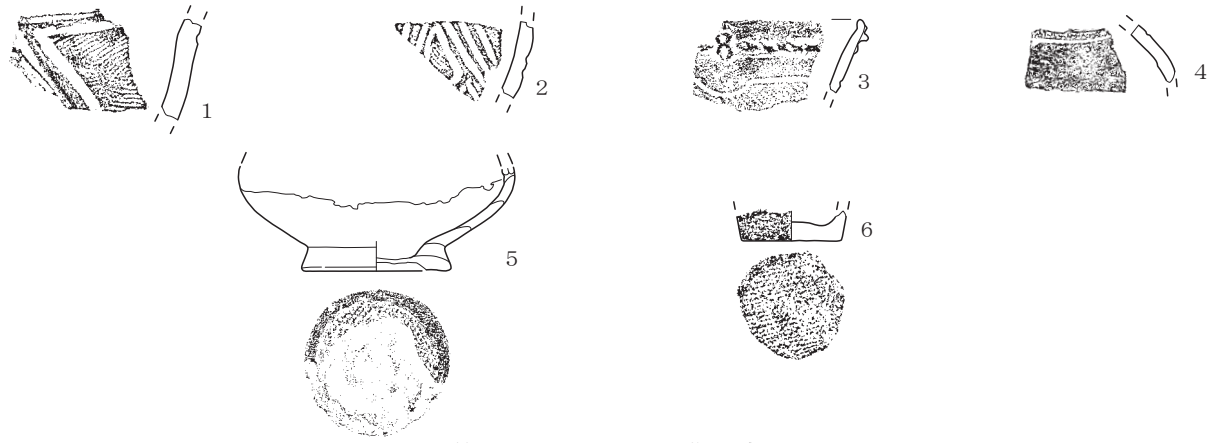
0　1：4　10cm



第955図　J－61号住居址（3）



第956図　J－101号住居址



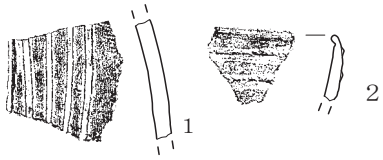
第957図　J－102号住居址

原田Ⅱ遺跡H区縄文時代土坑出土遺物実測図

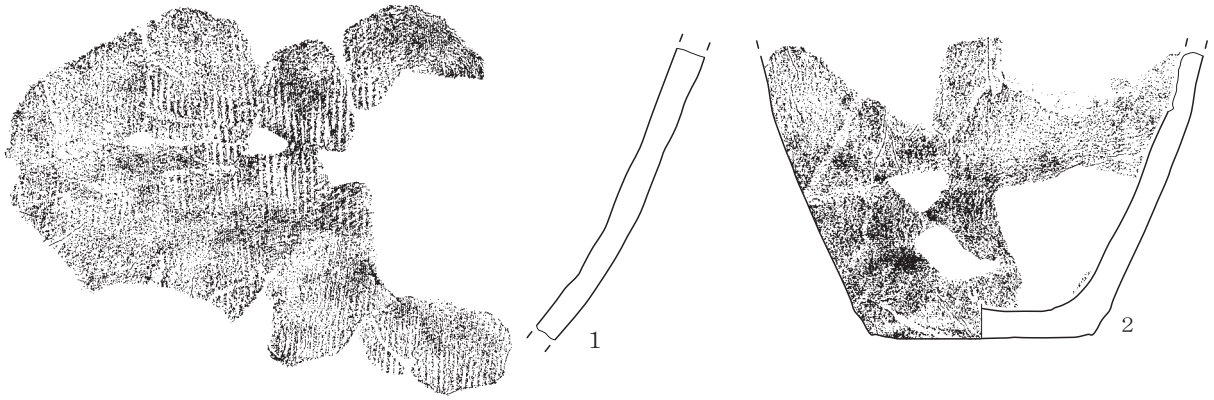
D－84号土坑

D－89号土坑

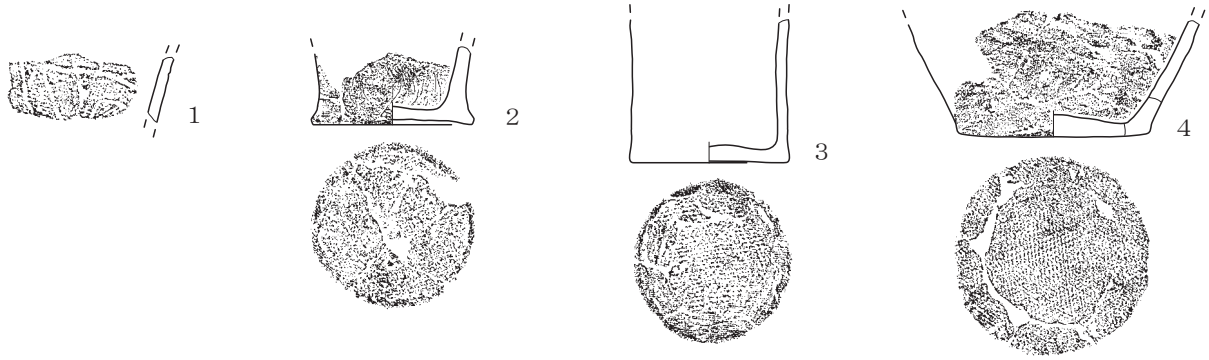
D－90号土坑



D－86号土坑



D－88号土坑

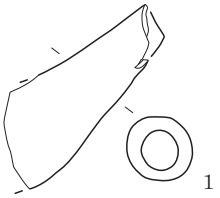


第958図　D－84･86･88～90号土坑

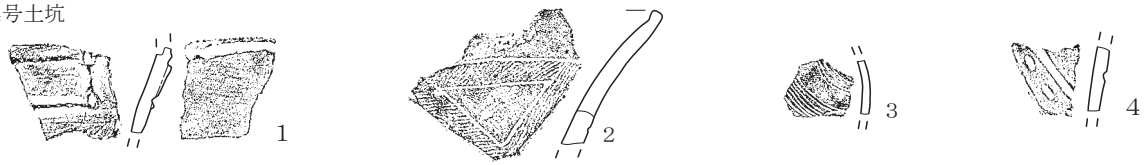
0　1：4　10cm

D－93号土坑

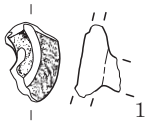
D－97号土坑



D－94号土坑

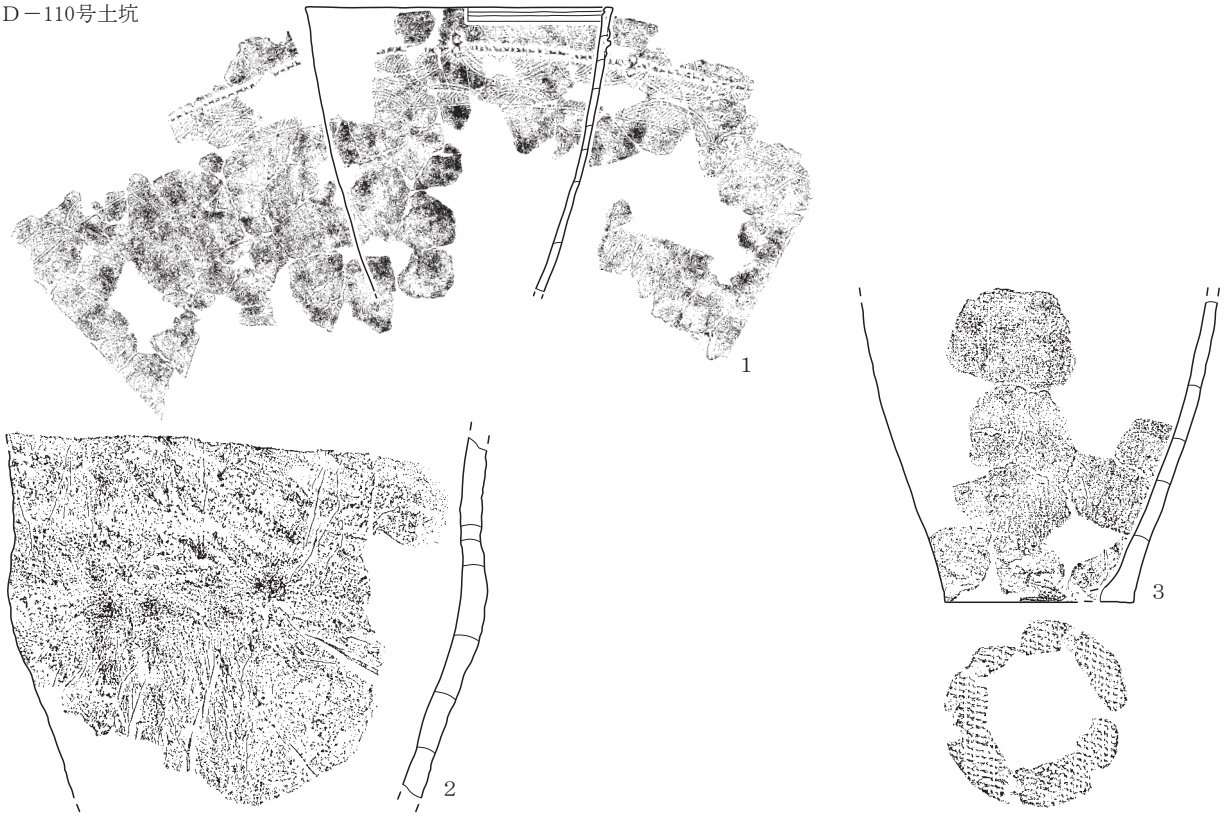


D－105号土坑

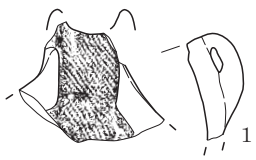


D－108号土坑

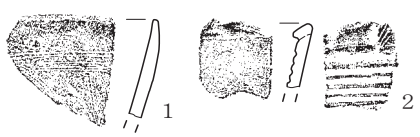
D－110号土坑



D－111号土坑



D－112号土坑



D－113号土坑

D－110号土坑　1

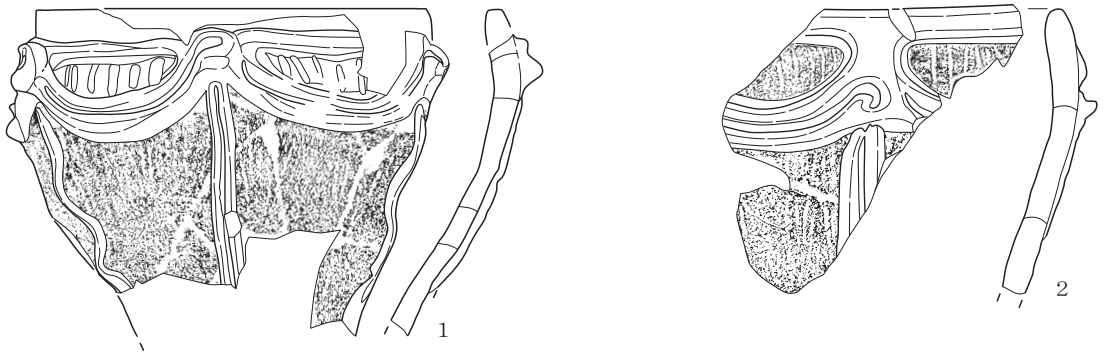
0　1：8　20cm

0　1：4　10cm

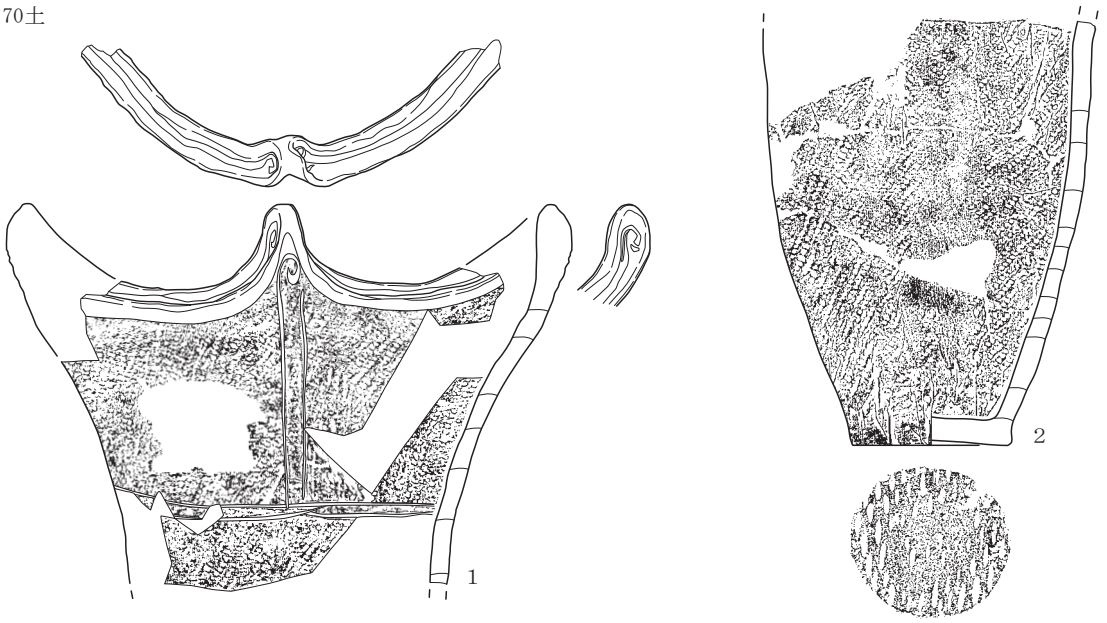
第959図　D－93･94･97･105･108･110～113号土坑

原田Ⅱ遺跡縄文時代埋設土器実測図

D－39土

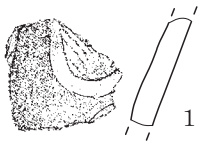


D－70土



D－77土

D－83土



D－124土

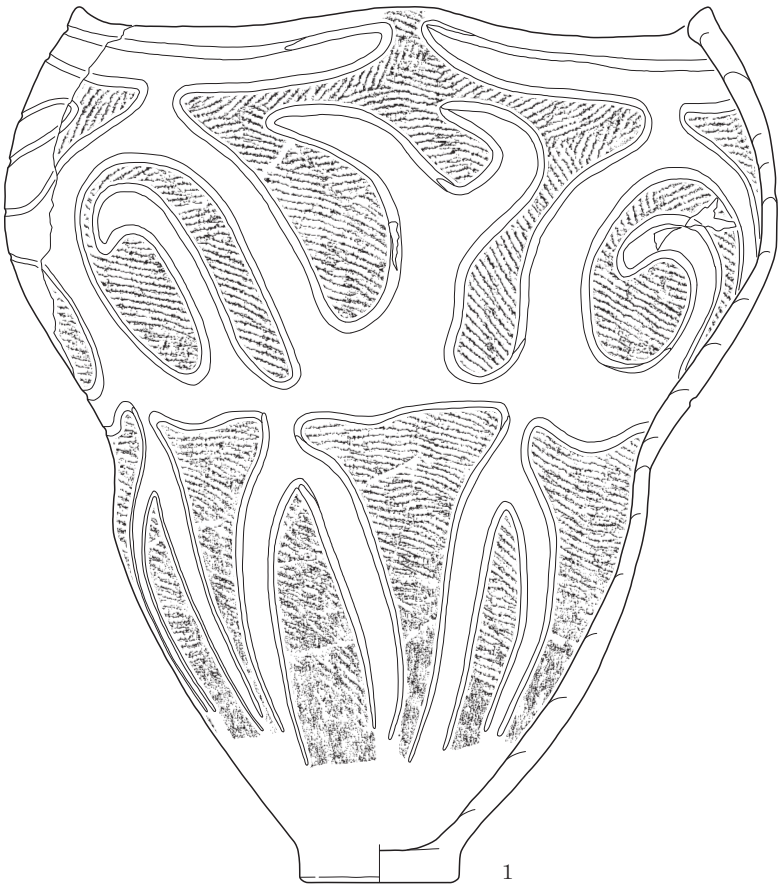
第960図　D－39土・70土・77土・83土・124土

0　1：4　10cm

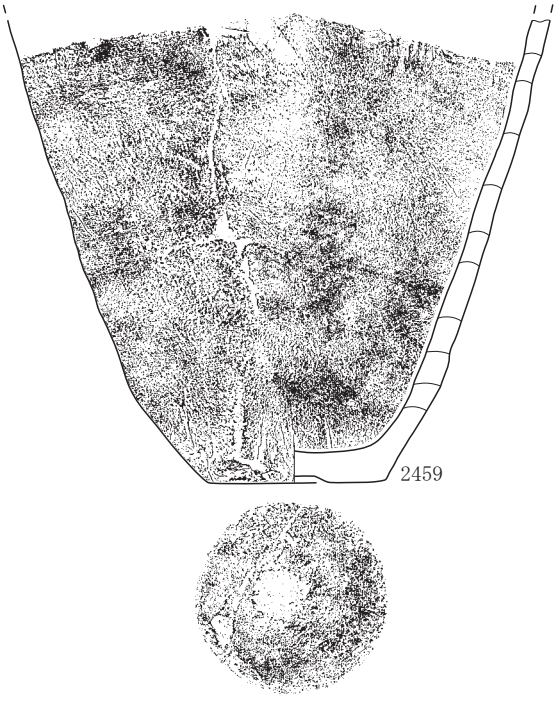
第961図　D－76土

0　1：4　10cm

D－152土

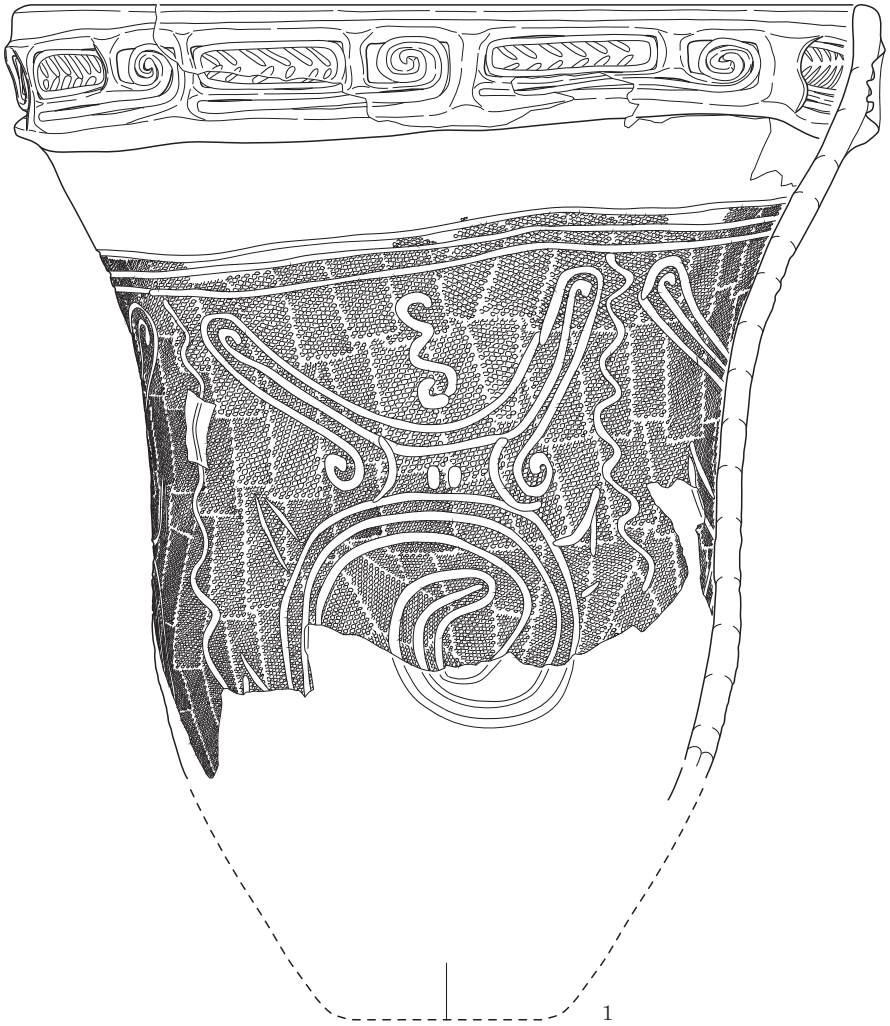


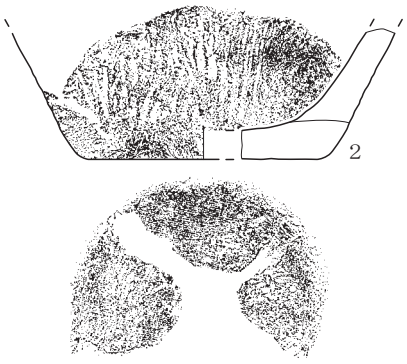
D－154土



第962図　D－152土・154土

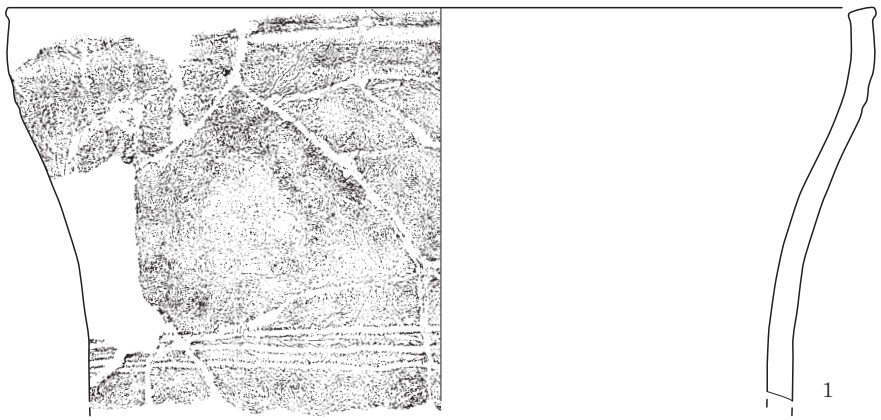
0　1：4　10cm

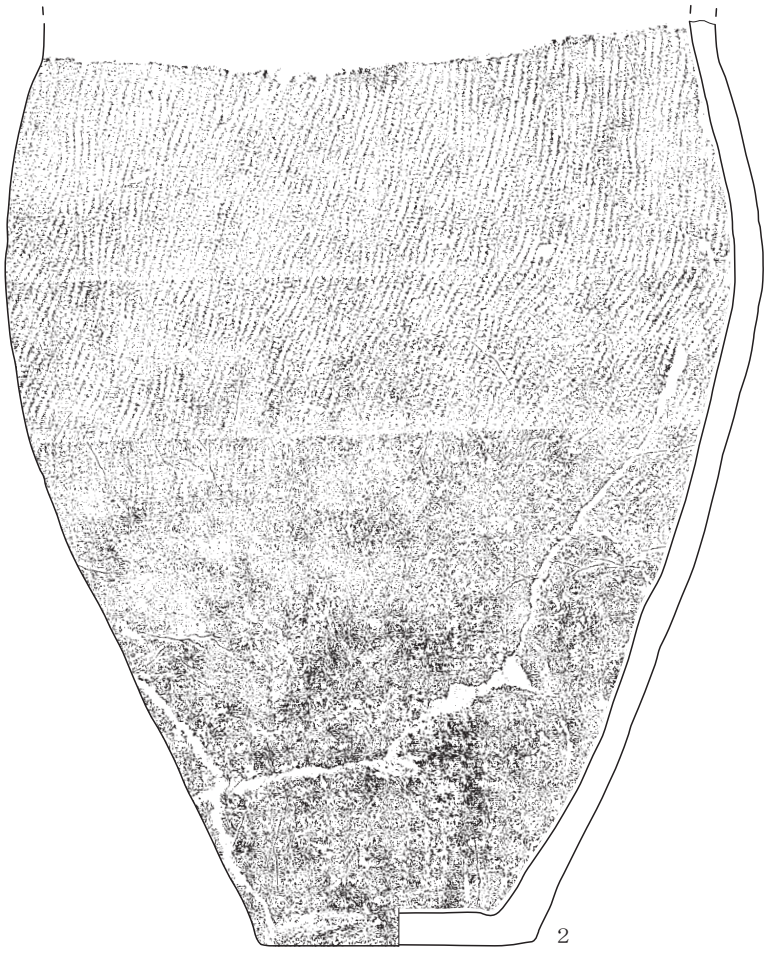




第963図　D－164土

0　1：4　10cm

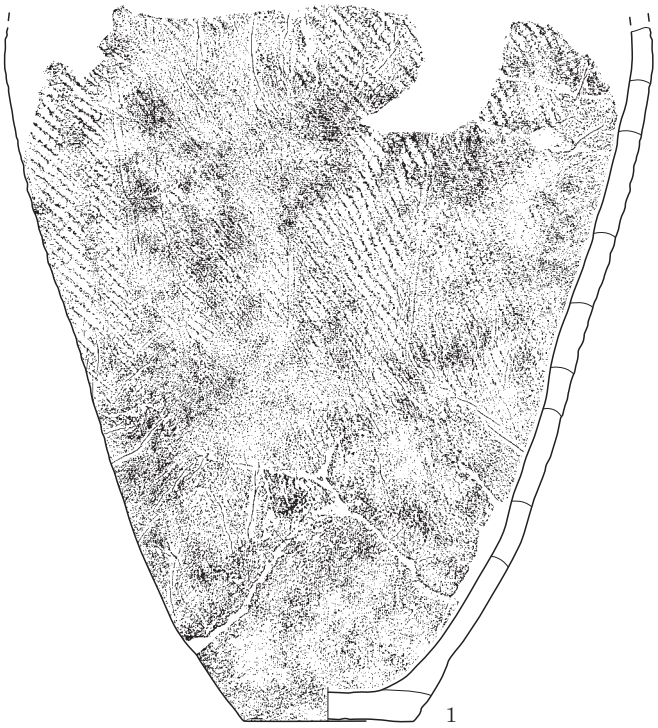




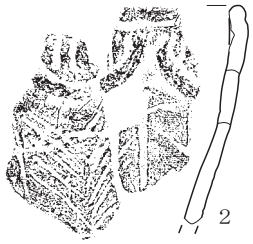
第964図　D－165土

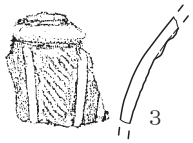
0　1：4　10cm

D－166土



D－178土





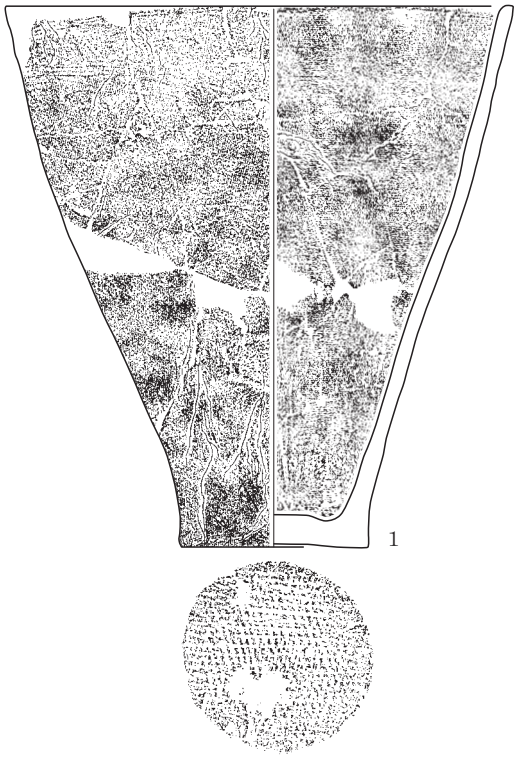
第965図　D－166土・178土

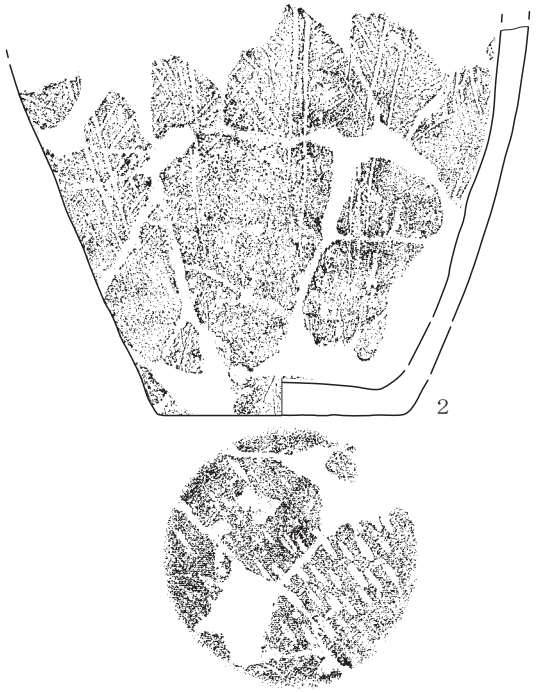
0　1：4　10cm

D－181土

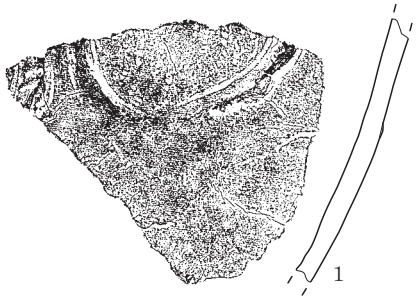
D－183土

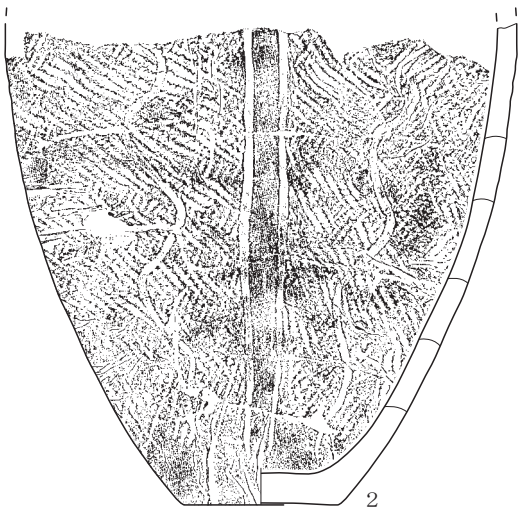
D－192土





D－196土



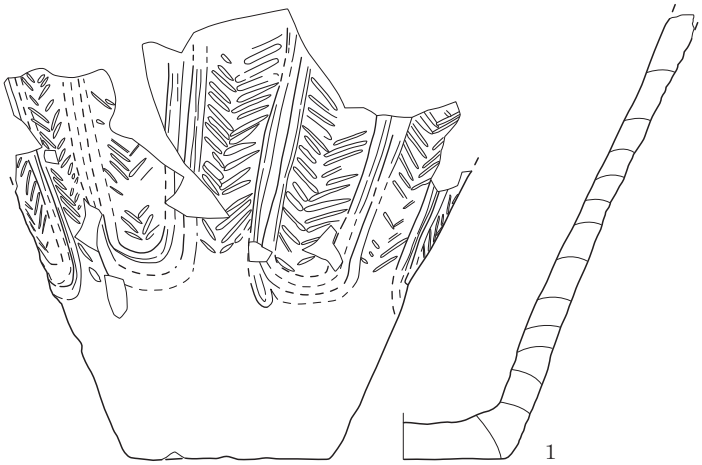


第966図　D－181土・183土・192土・196土

0　1：4　10㎝

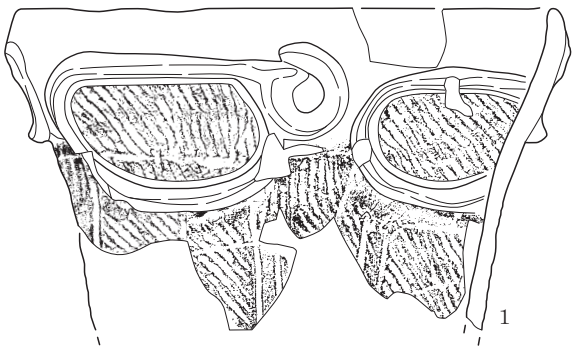
第967図　D－184土

D－197土



D－201土

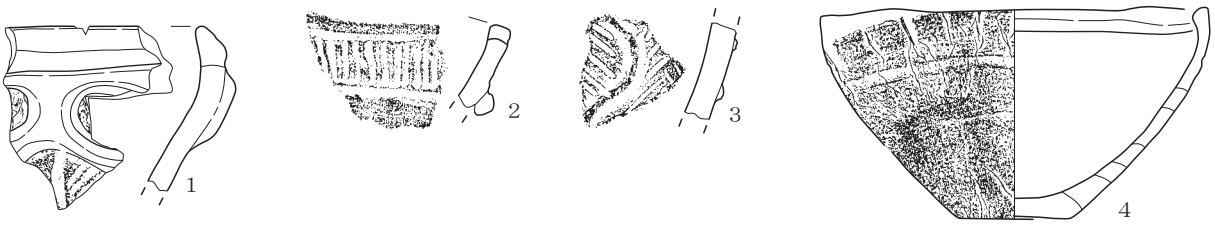
D－204土



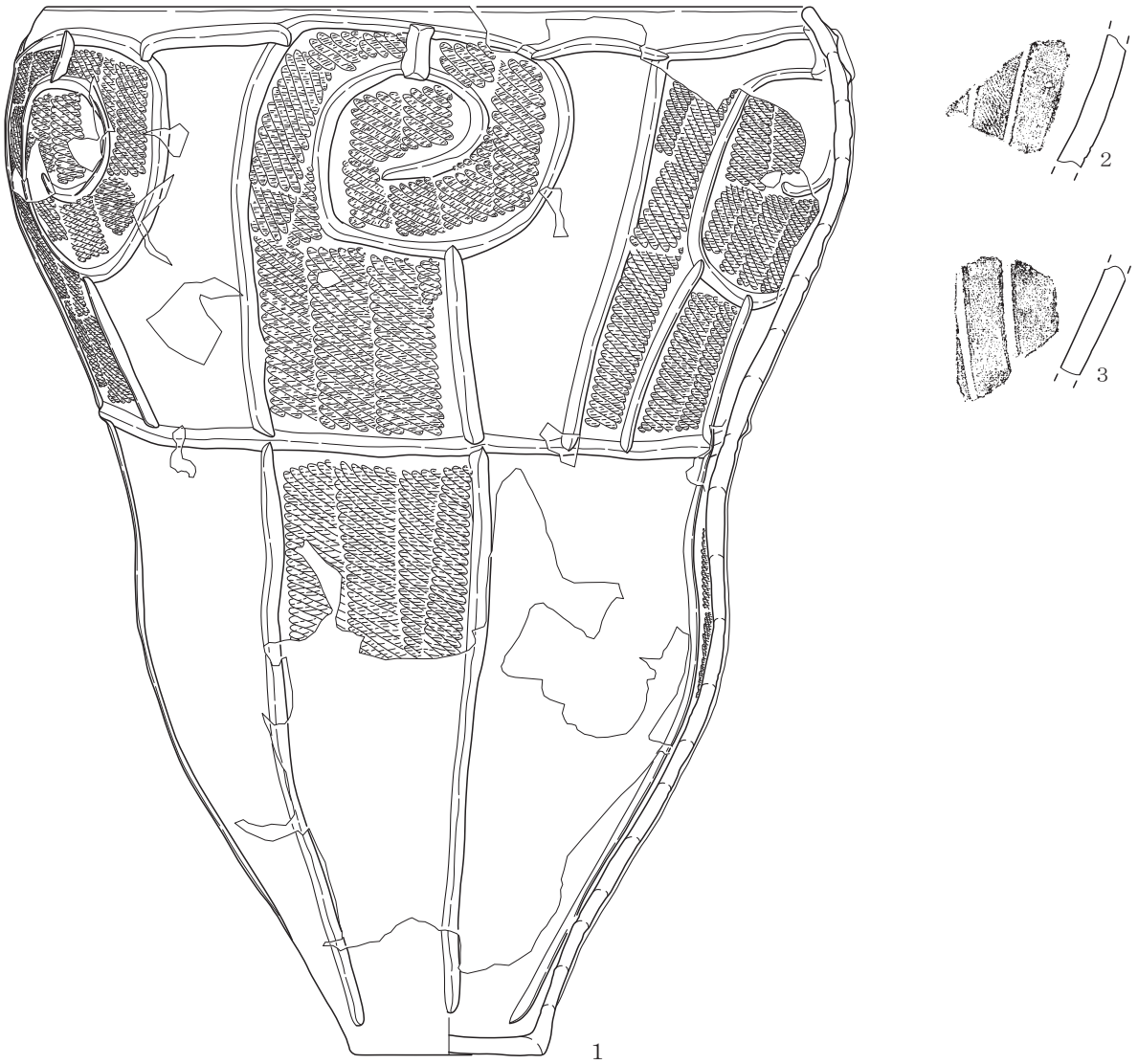
第968図　D－197土・201土・204土

0　1：4　10cm

D－214土

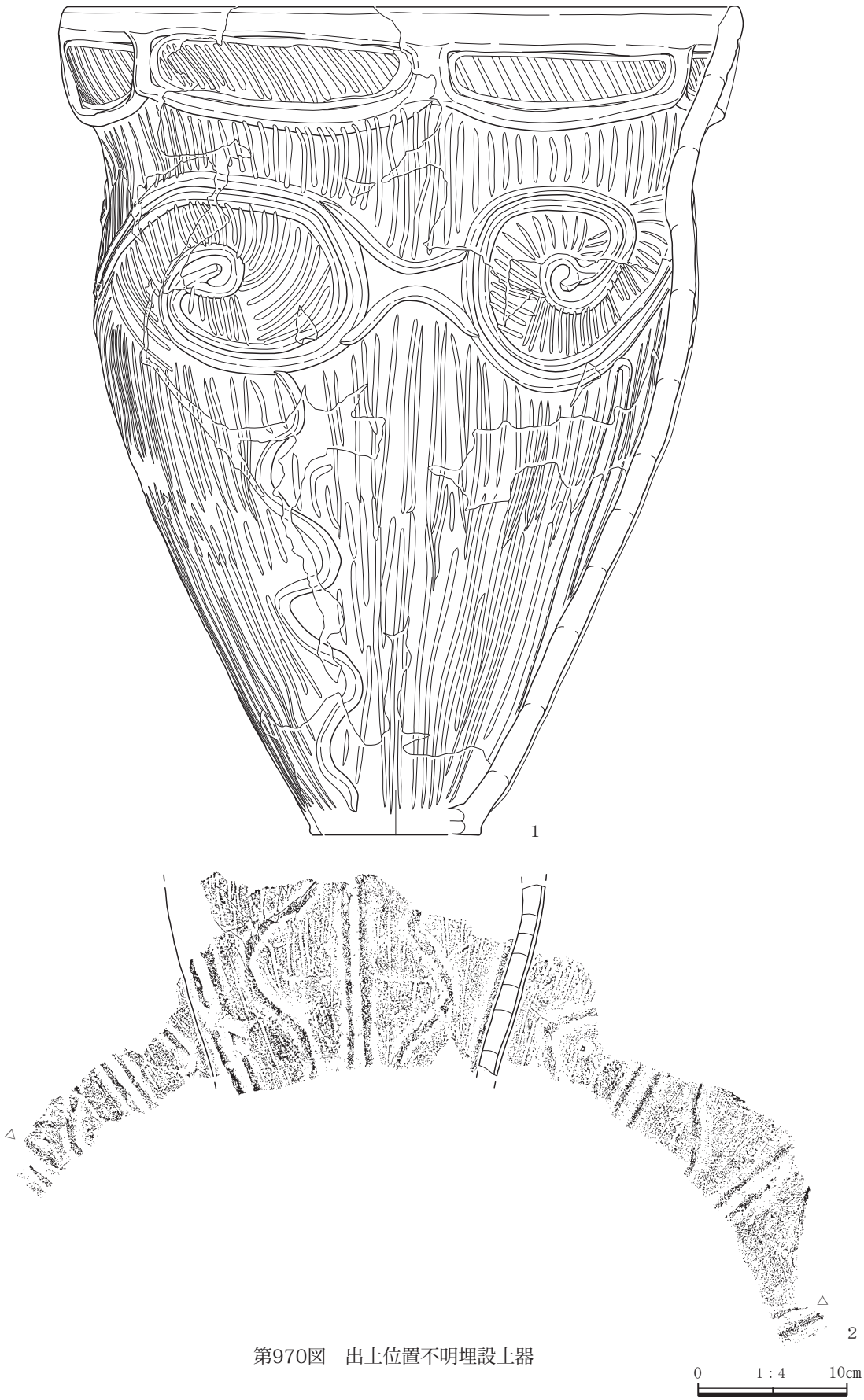


D－310土



第969図　D－214土・310土

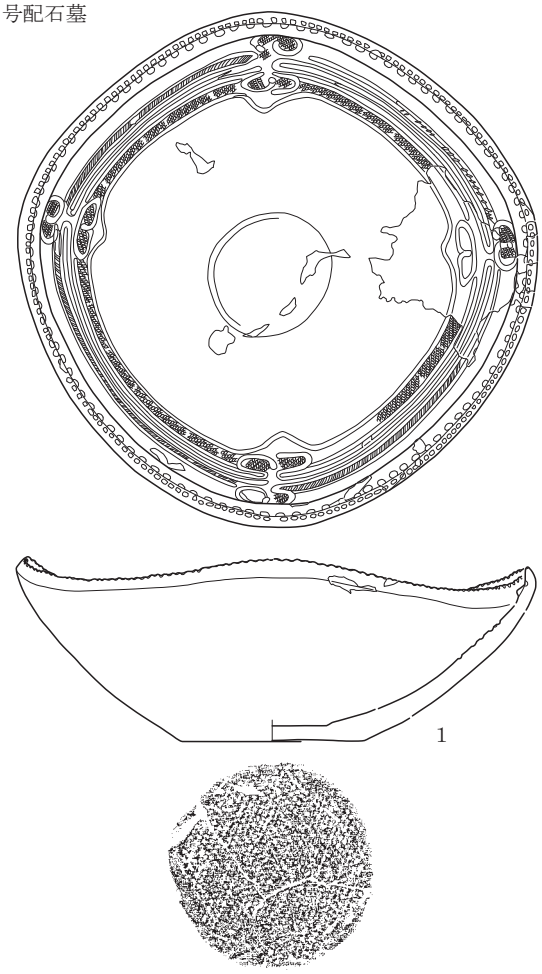
0　1：4　10cm



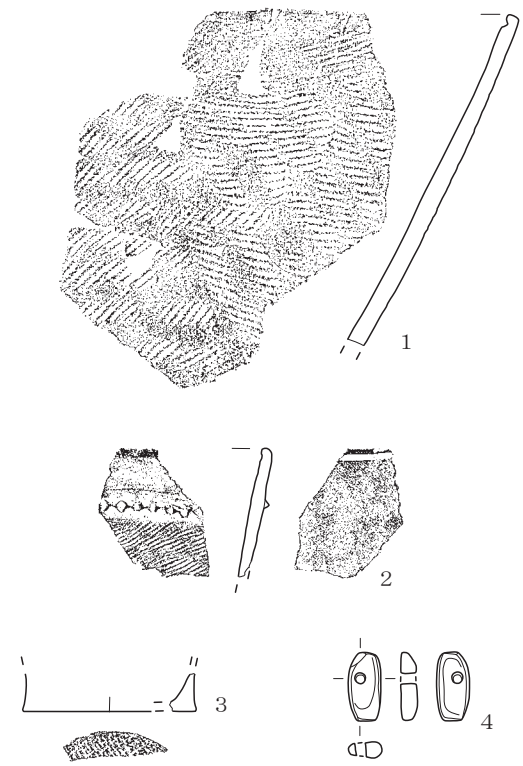
第970図　出土位置不明埋設土器

原田Ⅱ遺跡縄文時代配石墓出土遺物実測図

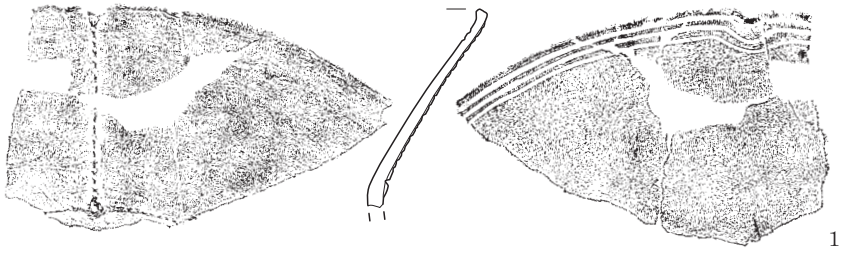
3 号配石墓



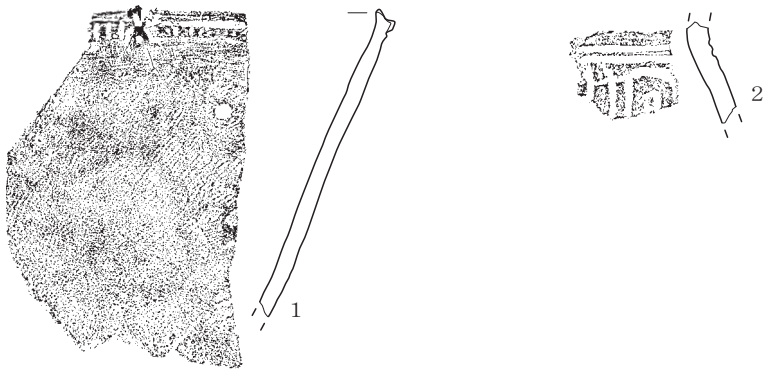
4 号配石墓



5 号配石墓



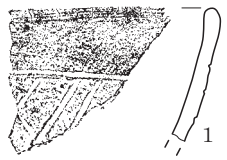
6 号配石墓



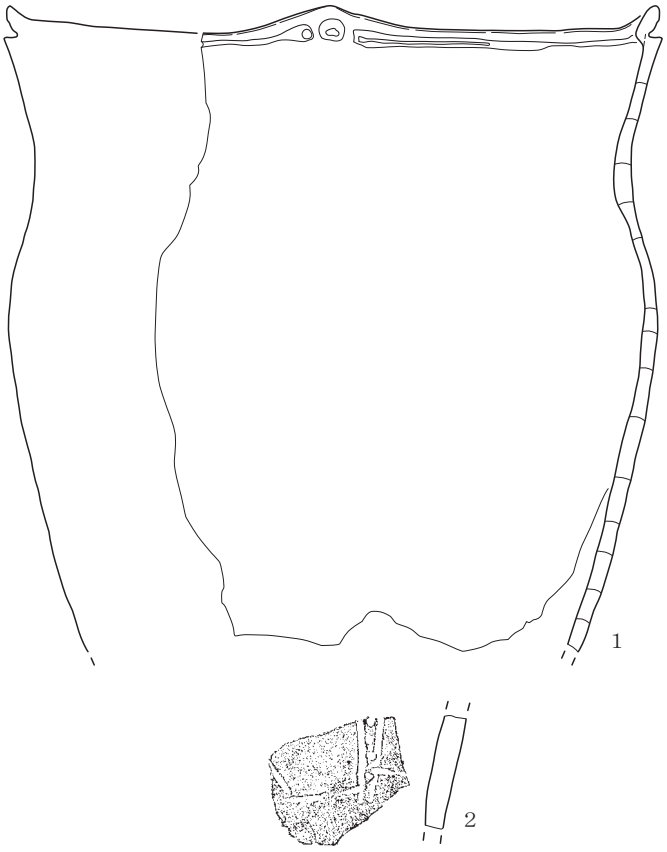
第971図　3～6 号配石墓

0　1：4　10cm

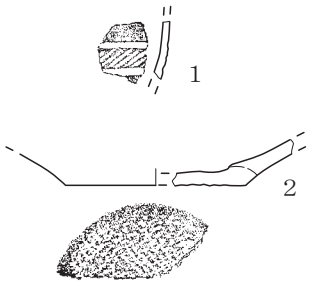
7・8号配石墓



D－91土（配石墓）

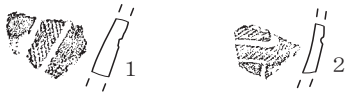


D－92土（配石墓）

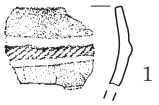


D－96土（配石墓）

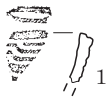
D－99土（配石墓）



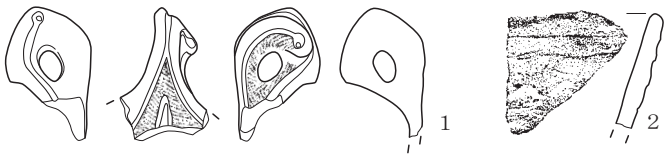
D－100土（配石墓）



D－106土（配石墓）

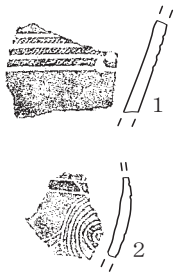


D－107土（配石墓）



D－336土（配石墓）

D－339・340土（配石墓）



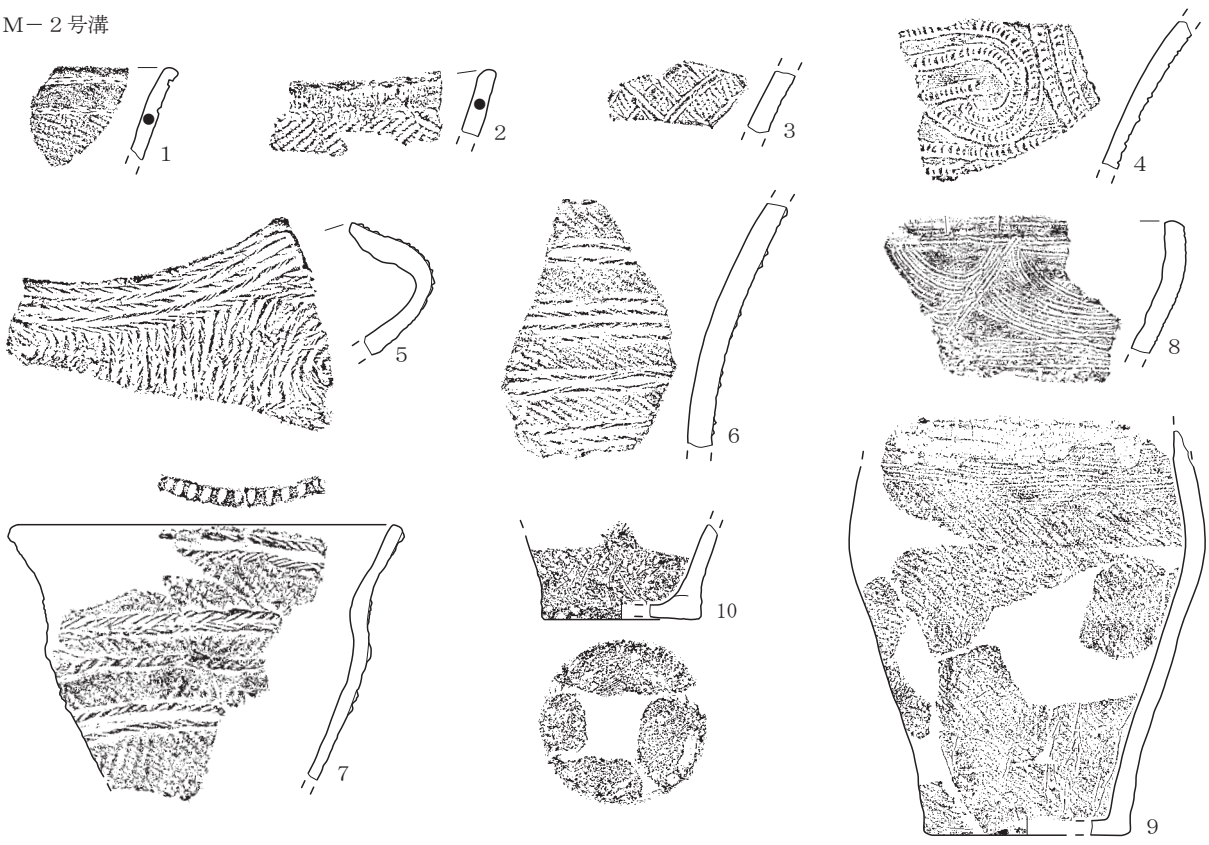
第972図　7・8号配石墓・91土・92土・96土・99土・100土・106土・107土・336土・339・340土（配石墓）

0　1：4　10cm

原田Ⅱ遺跡縄文時代溝出土遺物実測図

M－１号溝

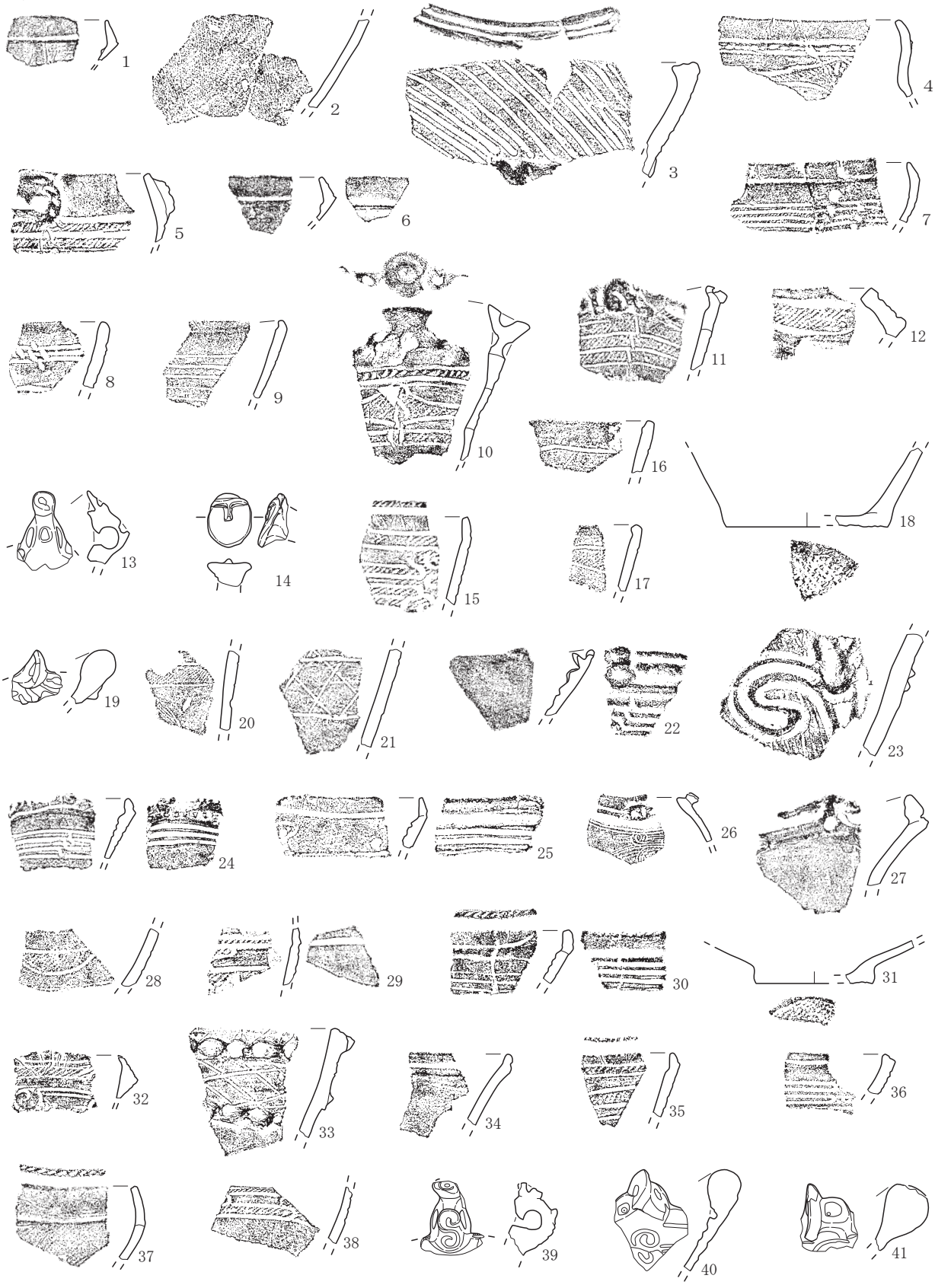
M－２号溝



第973図　M－１・２号溝

0　1：4　10cm

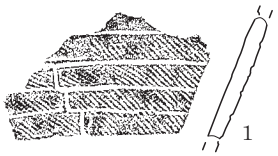
原田Ⅱ遺跡縄文時代列石出土遺物実測図



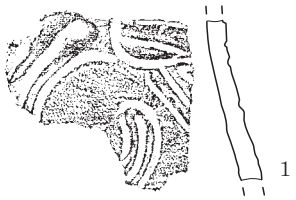
第974図　1号列石

原田Ⅱ遺跡Ａ区縄文時代一括遺物実測図

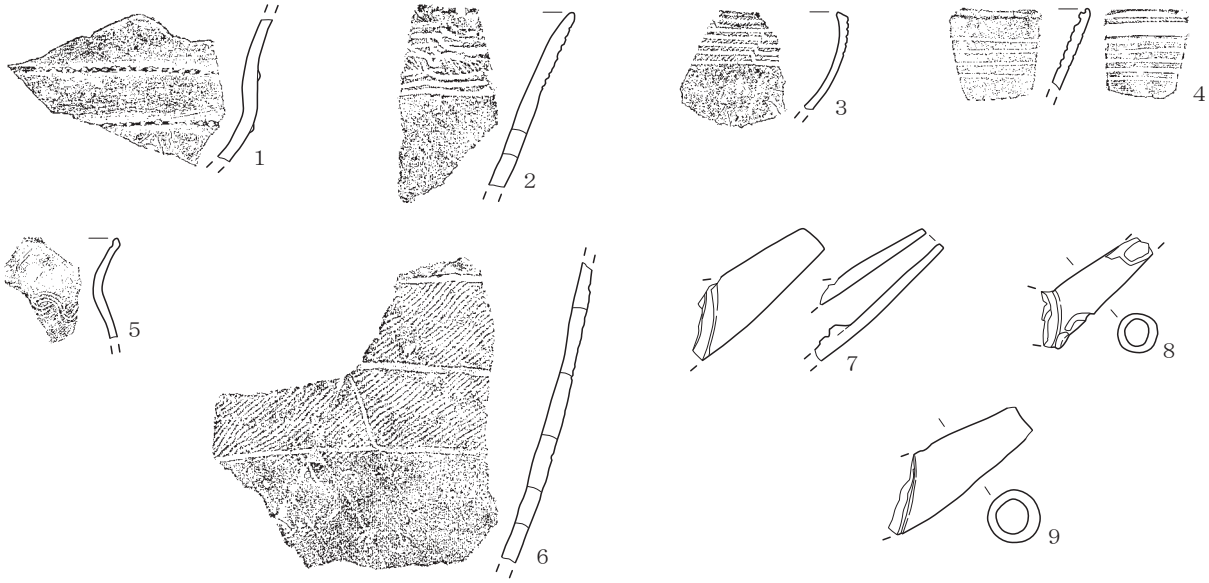
原田Ⅱ遺跡Ｂ区縄文時代一括遺物実測図



原田Ⅱ遺跡Ｇ区縄文時代一括遺物実測図



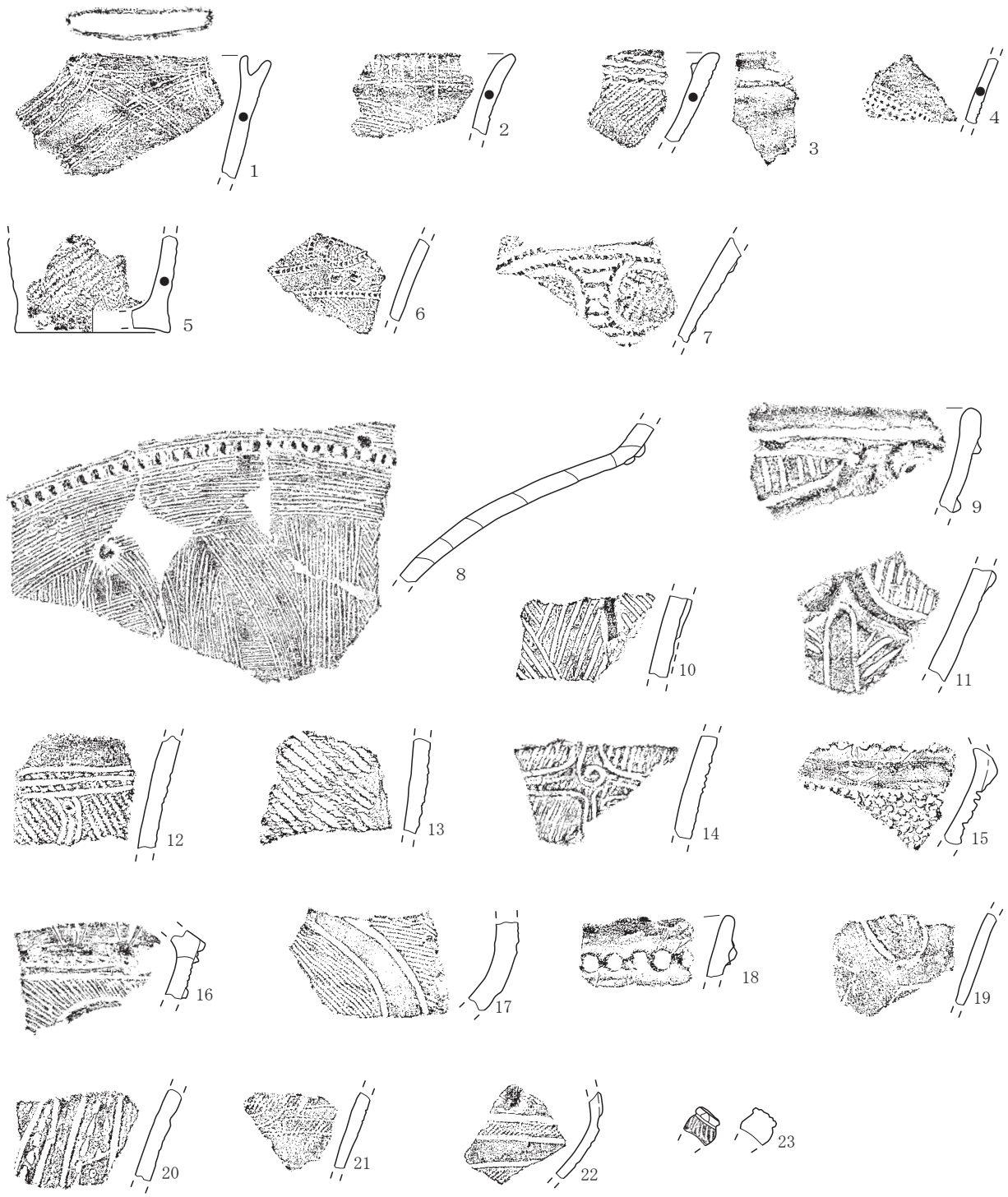
原田Ⅱ遺跡Ｈ区縄文時代一括遺物実測図



第975図　Ａ区・Ｂ区・Ｇ区・Ｈ区一括

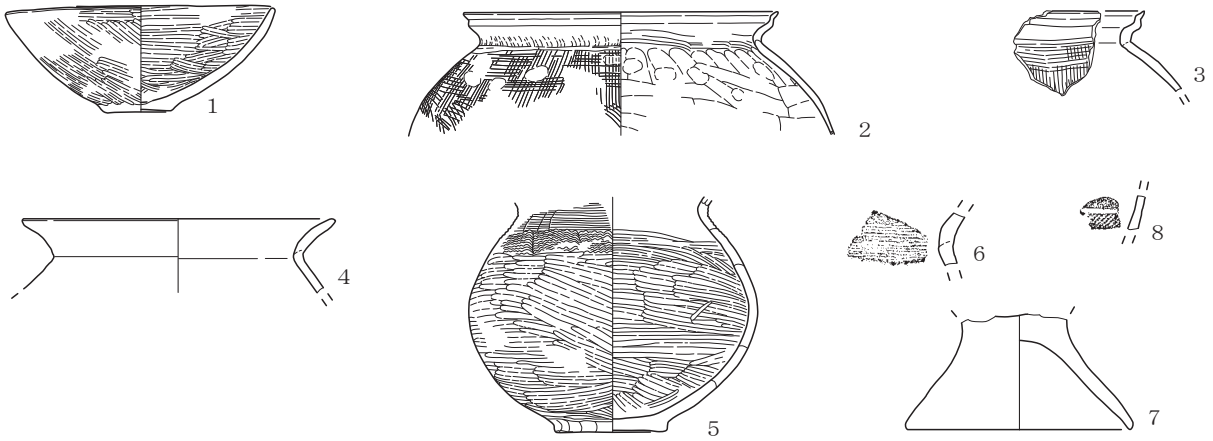
0　1：4　10cm

原田Ⅱ遺跡縄文時代調査区一括遺物実測図

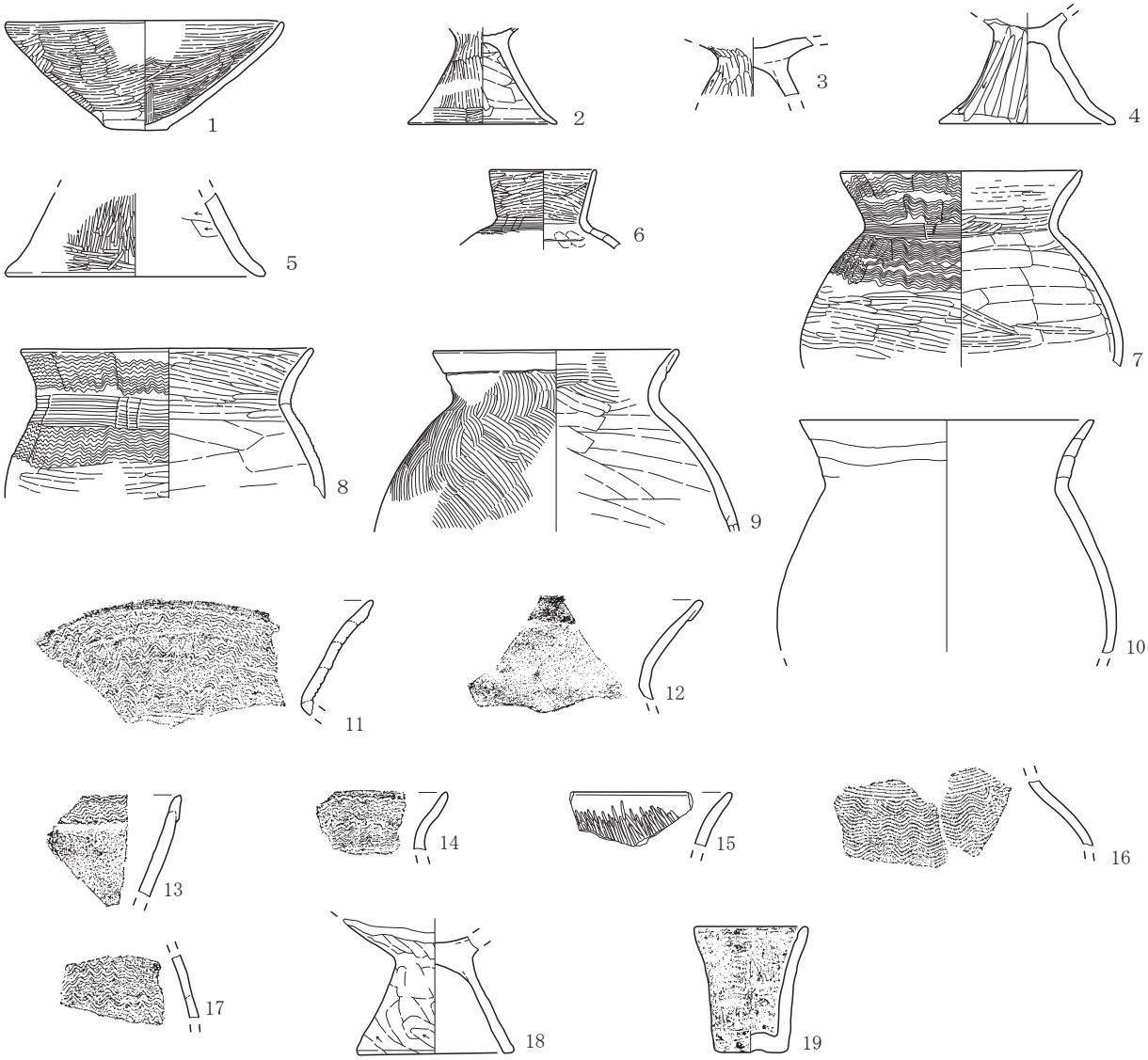


第976図　調査区一括

原田Ⅱ遺跡古墳時代住居址出土遺物実測図

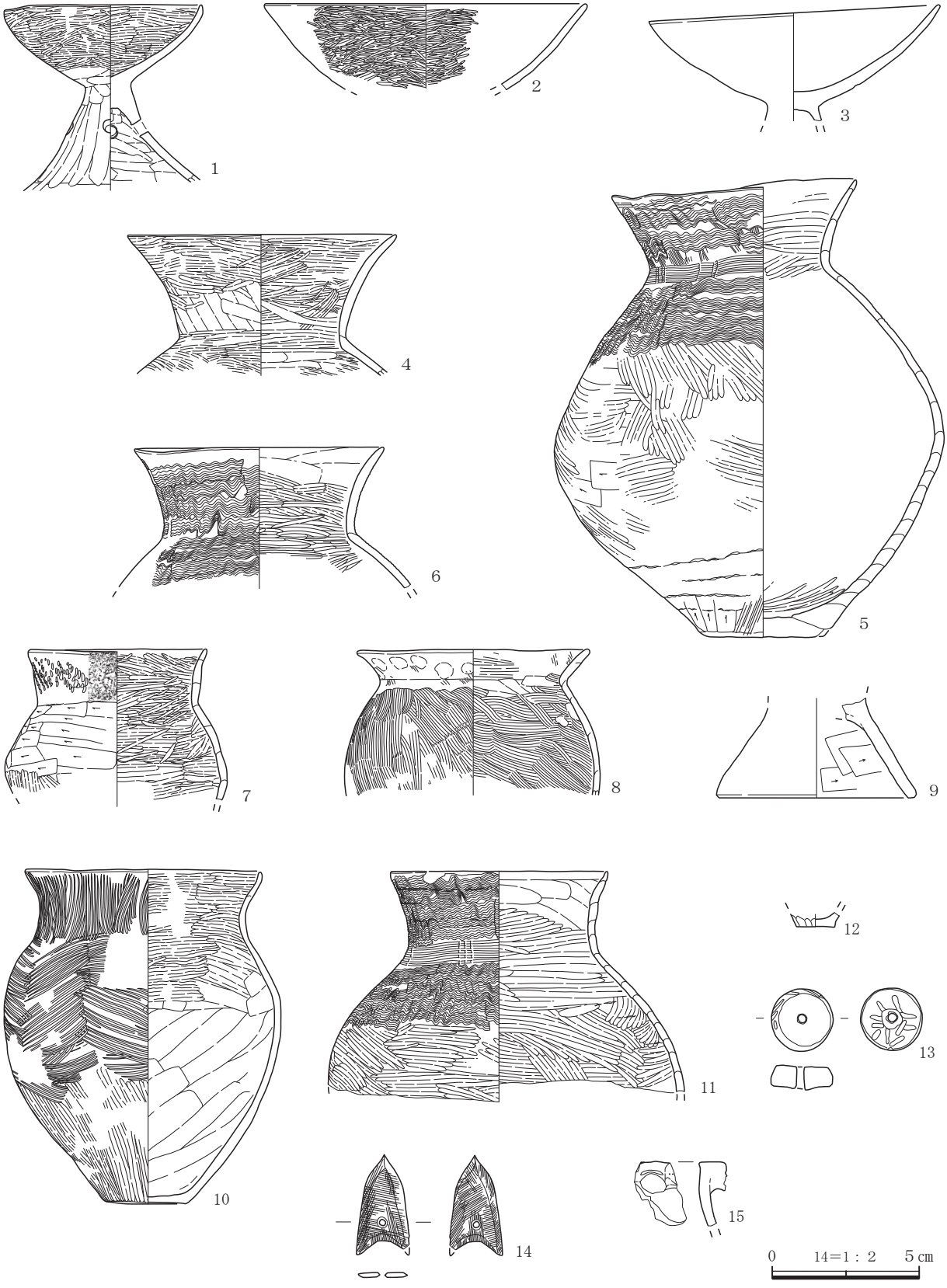


第977図　H－1号住居址

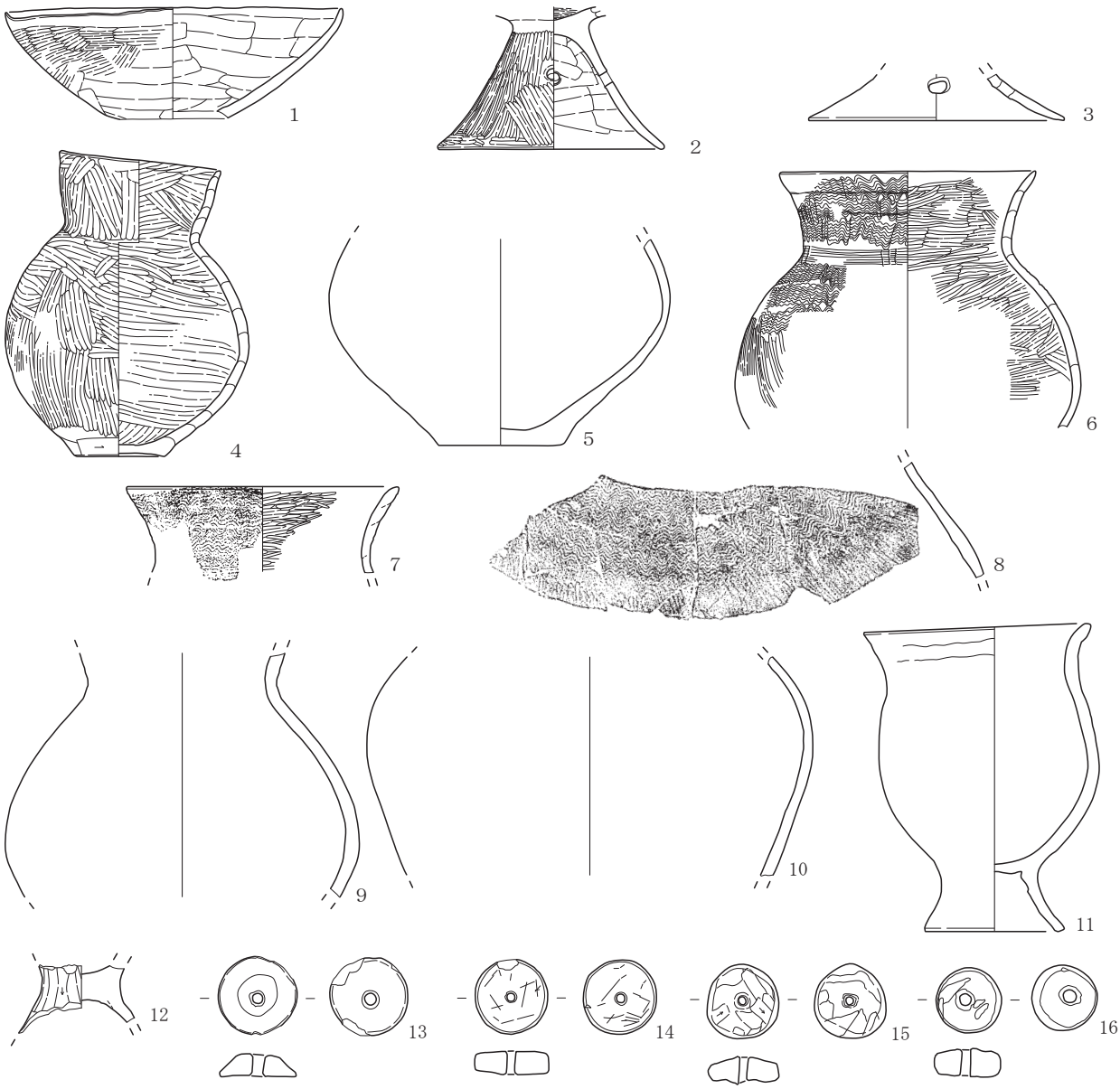


第978図　H－2号住居址

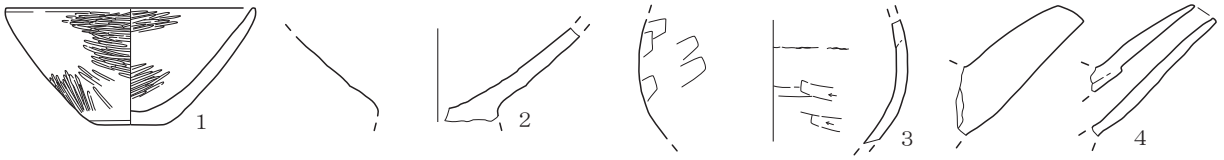
0　1：4　10cm



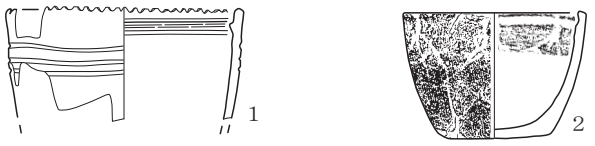
第979図　H－3号住居址



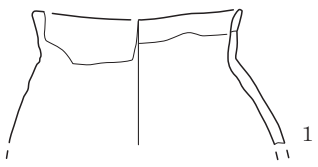
第980図　H－4号住居址



第981図　H－5号住居址



第982図　H－6号住居址



第983図　H－7号住居址

0　1：4　10cm

原田Ⅱ遺跡Ｋ－１号墳出土遺物実測図

第984図　Ｋ－１号墳

0　1：4　10cm

A区住居址

二軒在家原田Ⅱ遺跡Ａ区Ｊ－１号住居址

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
1	J-1 住 8 区 1 層	深鉢	普通	砂粒・白色鉱物混入	口縁部破片	4 単位波状口縁と想定される。波頂部に棒状貼付文を施す。半截竹管状工具による縦位平行沈線で区画し、区画内には同工具による綾杉状沈線を施す。	諸磯 c
2	J-1 住 8 区 2 層	深鉢	普通	砂粒・白色鉱物・雲母混入	口縁部破片	胴部上位において外反し、口端部が顕著に内湾する。半截竹管状工具による平行沈線を口端部は縦位に、胴部は横位に施す。さらに、一部に耳状・棒状・ボタン状貼付文を施す。	諸磯 c
3	J-1 住 5 区 2 層	深鉢	普通	砂粒・雲母混入	口縁部破片	胴部上位において外反する。口端部直下に横位隆帯を巡らす。隆帯上には半截竹管状工具による平斜位行沈線を施す。隆帯から 2 条の縦位棒状貼付文を垂下させ区画する。区画内には上位より横位・矢羽根状・横位・縦位平行沈線を施す。棒状貼付文間には綾杉状沈線施文。さらに、一部にボタン状貼付文を配す。	諸磯 c
4	J-1 住 14 区 1 層	深鉢	良好	砂粒・白色鉱物・雲母混入	胴部破片	胴部中位から下位片。横位・斜位細沈線施文後、3 条一組の浮線文状を呈する縦位隆帯・結節浮線文、横位鋸歯状貼付文、円形貼付文を施す。	諸磯 c
5	J-1 住 6 区 1 層	深鉢	普通	砂粒混入	口縁部破片	4 単位双頭波状口縁と想定される。波頂部下位に一段低い区画を配す。半截竹管状工具による斜位平行沈線を施す。	諸磯c併行
6	J-1 住 10 区 2 層	深鉢	良好	砂粒混入	口縁部破片	4 単位双頭波状口縁と想定される。斜位沈線施文後、口縁部に並行して短沈線を伴う結節浮線文状を呈する貼付文を 3 条巡らす。さらに、一部に同様の施文を施す縦位貼付文を 3 条垂下させる。	諸磯 c
7	J-1 住 3 区 1 層・3 区 2 層	深鉢	普通	砂粒混入	口縁部破片	4 単位波状口縁と想定される。横位細沈線施文後、渦巻き状結節浮線文を施す。遺存部最下位には結節浮線文を横位に施す。	諸磯 c
8	J-1 住D -1 土	深鉢	普通	砂粒・褐色礫混入	胴部～底部 1/5	胴部中位、半截竹管状工具による細い縦位平行沈線により、2 単位に区画する。区画内には斜位沈線を組み合わせて施す。胴部最下位には横位平行沈線を巡らす。底部がやや凸状に出ている。	諸磯 c
9	J-1 住 1 区 2 層床上	浅鉢	普通	砂粒・褐色礫混入	ほぼ完存	胴部下位から口縁近くまで単節縄文を施した後、口縁端部は半截竹管状工具による横位平行沈線をめぐらせる。底部は高台状の出っ張りをもつ。	諸磯
10	J-1 住 10 区ﾍﾞﾙﾄ 1	深鉢	良好	砂粒混入	口縁部破片	口縁把手部分。櫛歯状工具押し引きによる刺突文を両面に施す。	諸磯 c 併行
11	J-1 住 6 区 1 層	深鉢	普通	砂粒・白色鉱物混入	胴部破片	結節浮線文を斜位・横位直線状、又は渦巻き状に施す。一部に三角形印刻文を配す。	十三菩提
12	J-1 住 10 区 2 層	深鉢	普通	砂粒・黒色鉱物混入	口縁部破片	胴部上位において顕著に内屈する 4 単位波状口縁と想定される。口縁に並行して 3 条の浮線文を施す。その下位に弧状・渦巻き状浮線文、器形変換点下位には横位浮線文施文。また、波頂部下位に円形刺突文を施す。	諸磯 b
13	J-1 住 11 区ﾍﾞﾙﾄ 1	深鉢	普通	砂粒混入	口縁部破片	外面、縄文施文後、口端部に縦位・横位・弧状の細い隆帯を配す。内面口縁は粘土を肥厚させ、段を有す。	諸磯b

第 235 表　二軒在家原田Ⅱ遺跡Ａ区縄文時代住居址出土遺物観察表（１）

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
14	J-1 住 3 区 1 層	深鉢	良好	砂粒混入	口縁部破片	外反する口縁の深鉢と想定される。横位沈線により区画し、一部に縄文（単節 RL?）充填。内面上端部に隆帯状の稜を巡らす。	堀之内 2
15	J-1 住 3 区 1 層	深鉢	普通	砂粒混入	口縁部破片	波状口縁の深鉢と想定される。口縁に並行して沈線を施す。胴部にも弧状沈線施文。紛れ込みの遺物と想定される。	堀之内 2 ？
16	J-1 住 5 区 2 層	深鉢	良好	砂粒混入	口縁部破片	口端部上面に渦巻き状沈線を伴う把手を有する。把手は 3 単位か。把手以外の口端部上面には 1 条の沈線を巡らす。外面、横位刻み付き隆帯を巡らす。隆帯下位は単節 LR 縄文施文後、隆帯下位に横位沈線を施す。隆帯と沈線の間は磨り消し。内面、把手の下位に外面まで貫通する孔を有する。口端部下位に 3 条の沈線を巡らす。	堀之内 2
17	J-1 住 3 区 1 層	深鉢	良好	砂粒混入	口縁部破片	横位刻み付き隆帯を巡らす。隆帯下位は単節 LR 縄文施文。内面口端部下位に浅い 1 条の沈線を巡らす。	堀之内 2
18	J-1 住 3 区 1 層	深鉢	普通	砂粒混入	胴部破片	棒状工具による縦位・斜位沈線で区画する。区画のモチーフは三角形と想定される。一部の区画内に単節 RL 縄文充填。	堀之内 2
19	J-1 住 10 区 1 層	土偶	良好	砂粒・白色鉱物・角閃石混入	胴部破片	頭頂部の形態は不明。顔の左右は張出し、頸部はくびれる。棒状あるいは櫛歯状工具による連続した条線で楕円形の両目を表現する。背面は同工具により「＊」状に施文する。	堀之内

A区Ｊ－２号住居址

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
1	J-2 住炉	深鉢	普通	砂粒・白色鉱物・石英・角閃石混入	口縁部～底部 4/5	平口縁。口縁部横位の押捺隆帯を貼付。胴部櫛歯状工具による縦位の細条線→縦位のナデ。内面は縦・斜位のナデ。	中期後葉
2	J-2 住炉 (No11・No12)	深鉢	普通	砂粒・褐色礫・白色鉱物混入	口縁部～胴部 1/2	口端部やや内反する。口端部直下に棒状又は板状工具による刺突を伴う横位隆帯を巡らす。炉の周囲を六角形に囲むように並べられた土器片が接合したもの。遺構図中の土器 11 に対応。	後期
3	J-2 住 3 区 1 層	深鉢	普通	砂粒・雲母混入	口縁部破片	はぼ直立する平口縁と想定される。口縁部に 1 条の横位圧痕隆帯を巡らす。	後期
4	J-2 住 P-3	深鉢？	普通	砂粒・白色鉱物混入	口縁部破片	口縁部～胴部上位片。口縁直下、棒状工具による幅広の横位沈線にて区画し、内側に円形刺突を施す。上下沈線間の一部を粘土紐により繋ぐ。	後期前葉
5	J-2 住炉	深鉢	普通	砂粒・白色鉱物・黒色鉱物・褐色礫混入	胴部のみ全周	4単位の文様構成。平行し、端部でつながる2条1組の沈線によって文様が表される。くびれ部分の横位沈線により、文様は上下に区画される。胴部下半には、弧状のモチーフが配される。2条1組の沈線の外側の範囲に充填縄文（単節 LR）。外面ナデおよびミガキ、内面横位のナデ。	堀之内 1
6	J-2 住 1 区 2 層	深鉢	良好	砂粒・白色鉱物混入	口縁部破片	波状口縁の波頂部付近が遺存する。口端部上面には円形刺突文と沈線を施す。波頂部下位に円孔を配し、円孔の両脇付近より頚部へＶ字状隆帯を施す。Ｖ字状隆帯と頚部横位隆帯連結部には刺突を伴う円形貼付文を配す。さらに、内面波頂部・波頂部脇に円形刺突文を施す。	堀之内 1
7	J-2 住 3 区 2 層	深鉢	良好	砂粒混入	口縁部破片	口端部上面には円形刺突文と沈線を施す。波頂部下位に円孔を配し、円孔周囲に弧状沈線・円形刺突文を配す。	堀之内 1
8	J-2 住 1 区 2 層	深鉢	普通	砂粒混入	胴部破片	口縁部～胴部上位片と想定される。遺存部最下位に於いて器形が外屈する。ボタン状貼付文・横位隆帯を施す。	堀之内 1
9	J-2 住 No10	深鉢	普通	砂粒混入	胴部～底部 1/2	遺存部外面、斜め方向へラケズリ。底面に網代痕。	後期
10	J-2 住 P- 1	注口土器	良好	砂粒混入	注口部破片	遺存部においては無文。上面に突起を有す。	後期
11	J-2 住 1 区 1 層	深鉢	普通	砂粒混入	口縁部破片	波状口縁と想定される。棒状工具による深めの沈線で区画し、一部の区画内に単節 LR 縄文施文。	称名寺
12	J-2 住 3 区 1 層	深鉢	普通	砂粒混入	胴部破片	棒状工具による深めの沈線で区画し、一部の区画内に同工具による列点状短沈線を施す。内面の一部が剥落している。	称名寺
13	J-2 住 3 区 2 層	深鉢	普通	砂粒・白色鉱物混入	胴部破片	棒状工具による深めの沈線で区画し、一部の区画内に同工具による列点状短沈線を施す。	称名寺

第 236 表　二軒在家原田Ⅱ遺跡Ａ区縄文時代住居址出土遺物観察表（２）

A区Ｊ－４号住居址

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
1	J-4 住 D-1	深鉢	普通	砂粒混入	口縁部破片	波状口縁か。半截竹管状工具により矢羽状沈線を施した後、縁に平行沈線を配す。下位にボタン状貼付文。	諸磯 c
2	J-4 住 7 区 1 層	深鉢	良好	砂粒混入	口縁部破片	胴部上位で外反し、口端部が内屈する。口縁部、半截竹管状工具による平行沈線を矢羽根状に施し、耳状・円形貼付文を配す。胴部、同工具による横位平行沈線を施し、棒状 (?) 貼付文を配す。貼付文は剥落しているものがある。	諸磯 c
3	J-4 住 5 区 1 層	深鉢	良好	砂粒・白色鉱物混入	口縁部破片	胴部上位で外反し、口端部が内屈する。半截竹管状工具による平行沈線を口端部付近は斜位～縦位に、口縁部は横位に施す。大きさ・向きの異なる耳状貼付文、棒状工具による刺突を伴うボタン状貼付文を配す。	諸磯 c
4	J-4 住 2 区 1 層 NO1	深鉢	良好	砂粒・褐色礫・白色鉱物混入	胴部破片	半截竹管状工具による平行沈線（一部半隆起線状）施文後、縦位結節浮線文・棒状貼付文・ボタン状貼付文を配す。6 と同一個体。	諸磯 c
5	J-4 住 3 区 1 層・7 区 1 層	深鉢	良好	砂粒・褐色礫・白色鉱物混入	口縁部破片	胴部上位で外反する。半截竹管状工具による横位平行沈線を地文とし、同工具による刺突を伴う 2 個単位のボタン状貼り付け文を配す。口縁部には耳状貼付文を縦位に配置する。	諸磯c
6	J-4 住 2 区 1 層 NO1	深鉢	良好	砂粒・褐色礫・白色鉱物混入	胴部破片	半截竹管状工具による平行沈線（半隆起線状）を、遺存部上位は横位に、下位は縦位・斜位・綾杉状に施す。さらに縦位・斜位結節浮線文・ボタン状貼付文・円形貼付文を配す。	諸磯 c
7	J-4 住 2 区 1 層 NO2	深鉢	普通	砂粒・褐色礫・白色鉱物・雲母混入	胴部 1/10	遺存部上半、半截竹管状工具による平行沈線施文後、円形貼付文を配す。遺存部下半は無文。	諸磯 c
8	J-4 住 10 区ﾍﾞﾙﾄ 1 層	深鉢	良好	砂粒混入	胴部破片	半截竹管状工具による横位直線状・矢羽根状平行沈線を施す。一部に同工具による刺突を伴うボタン状貼付文、円形刺突文を配す。	諸磯 c
9	J-4 住 7 区 1 層	深鉢	普通	砂粒混入	胴部破片	半截竹管状工具押し引きによる爪形文で区画する。一部に竹管状工具による円形刺突文を配す。	諸磯 b
10	J-4 住 10 区ﾍﾞﾙﾄ 1 層	深鉢	良好	砂粒・白色鉱物・黒色鉱物・雲母混入	胴部破片	半截竹管状工具押し引きによる爪形文で区画する（木葉状入組文か）。一部の区画に単節 RL 縄文施文。さらに竹管状工具による円形刺突文を配す。	諸磯 b
11	J-4 住 9 区 1 層	深鉢	普通	砂粒・白色鉱物混入	胴部破片	単節 RL 縄文施文後、半截竹管状工具による横位・斜位平行沈線を施す。	諸磯 b
12	J-4 住 7 区 1 層	深鉢	良好	砂粒・白色鉱物・雲母混入	底部破片	胴部下位から底部にかけて外側に張り出す。底部は若干上げ底状を呈する。単節 RL と LR の結束縄文横転がし。	諸磯 b
13	J-4 住 11 区 1 層	深鉢	良好	砂粒・石英混入	口縁部破片	口縁部直下に印刻文を施す。遺存部中位は半截竹管状工具を用いた横位平行沈線を配し、下部に印刻文と同工具による綾杉状沈線を描く。	五領ヶ台
14	J-4 住 D-9No2	注口土器	良好	砂粒混入	注口部破片	遺存部においては無文。	後期

A区Ｊ－８号住居址

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
1	J-8a 住 10 区 1 層・14 区 2 層・14 区ﾍﾞﾙﾄ一括	深鉢	普通	砂粒・植物繊維混入	口縁部破片	4 単位双頭波状口縁と想定される。単節 RL と LR 縄文施文後、半截竹管状工具による横位平行沈線を施す。遺存部最下位には斜位沈線が認められる。	有尾・黒浜
2	J-8a 住 6 区 3 層	深鉢	良好	砂粒・植物繊維混入	口縁部破片	口端部、櫛歯状工具による縦位列点状刺突を巡らす。口縁部、同工具による列点状刺突と、それに並行する微隆帯により区画する。ﾓﾁｰﾌは三角形・菱形と考えられる。胴部、単節 RL と LR による結束縄文か。	有尾
3	J-8a 住 14 区 3 層	深鉢	普通	砂粒・植物繊維混入	口縁部破片	胴部上位において顕著に外屈する 4 単位波状口縁深鉢と想定される。口端部に半截竹管状工具による縦位短沈線を巡らす。口縁部、同工具押し引きによる爪形文で区画する。ﾓﾁｰﾌは三角形・菱形・渦巻き状と考えられる。	有尾
4	J-8a 住 10 区 3 層	深鉢	普通	砂粒・植物繊維混入	口縁部破片	ほぼ直立する平口縁と想定される。無節 L 縄文施文後、半截竹管状工具による平行沈線を横位・斜位に施し区画する。口端部にも同工具による単沈線施文か。全体的に摩滅・剥落している。	有尾・黒浜
5	J-8a 住D -2 土	深鉢	普通	砂粒・ﾁｬｰﾄ・植物繊維混入	口縁部～胴部 1/8	4 単位波状口縁と想定される。単節 RL による羽状縄文施文。	黒浜
6	J-8a 住 14 区 3 層	深鉢	良好	砂粒・植物繊維混入	口縁部破片	ほぼ直立する平口縁と想定される。環付末端縄横転がし。	有尾・黒浜
7	J-8a 住 15 区 2 層	深鉢	普通	砂粒・赤褐色礫・植物繊維混入	胴部破片	4 単位波状口縁深鉢の口縁部付近と想定される。単節 RL 縄文施文後、半截竹管状工具による平行沈線を口縁に並行して施す。	有尾・黒浜
8	J-8a 住 1 区 3 層	深鉢	良好	砂粒・植物繊維混入	胴部破片	遺存部最上位、櫛歯状工具による横位平行沈線を施す。平行沈線の下位は羽状縄文（単節 RL と無節 R 結束 ?）施文。	有尾・黒浜

第 237 表　二軒在家原田Ⅱ遺跡Ａ区縄文時代住居址出土遺物観察表（３）

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
9	J-8a 住 7 区 2 層・12 区 3 層	深鉢	普通	砂粒・植物繊維混入	胴部破片	単節 RL と LR 結束縄文横転がし。	有尾・黒浜
10	J-8a 住 16 区 1 層	鉢？	普通	砂粒・片岩・赤褐色礫混入	口縁部破片	体部上位に於いて顕著に内屈する。4 単位小波状口縁か。波頂部より棒状貼付文垂下。	有尾・黒浜
11	J-8a 住 1 区 2 層	深鉢	普通	砂粒・植物繊維混入	胴部～底部破片	胴部下位に単節 LR 縄文施文。底部は上げ底状。	有尾・黒浜
12	J-8b 住 10 区 1 層	深鉢	良好	砂粒混入	胴部破片	櫛歯状工具による横位弧状沈線施文（肋骨文）後、縦位沈線、さらには縦位沈上に竹管状工具による円形刺突を施す。	諸磯 a
13	J-8b 住 11 区 1 層 NO1	深鉢	良好	砂粒・白色鉱物・褐色礫混入	口縁部破片	単節 RL 縄文施文後、口縁部に並行して 6 条の横位浮線文を施す。胴部、斜位直線状・弧状浮線文を施文。口端部上面には X 字状を連結したﾓﾁｰﾌを基本とする貼付文を施す。	諸磯 b
14	J-8b 住 7 区 1 層	深鉢	普通	砂粒・白色鉱物混入	口縁部破片	胴部上位に於いて顕著に外屈する 4 単位波状口縁深鉢と想定される。単節 RL 縄文施文後、横位浮線文により区画する。区画内には斜位・渦巻き状浮線文を施す。一部の浮線文には細い棒状工具による列点状刺突が伴う。また波頂部付近に 2 個一対の孔を有する。	諸磯 b
15	J-8b 住 10 区ﾍﾞﾙﾄ一括	深鉢	普通	砂粒混入	口縁部破片	胴部上位に於いて顕著に内屈する 4 単位波状口縁と想定される。波頂部口端部に 1 条の沈線を施す。波頂部下位には刺突を伴う円形貼付文施文。胴部、単節 RL 縄文施文後浮線文を施す。	諸磯 b
16	J-8b 住 2 区 1 層	深鉢	良好	砂粒混入	口縁部破片	単節 RL 縄文施文後、横位・縦位・斜位浮線文を施す。口端部上面には浮線文施文の鋸歯状小把手を有する。	諸磯 b
17	J-8b 住 6 区 1 層	深鉢	普通	砂粒混入	口縁部破片	胴部上位に於いて顕著に内屈する 4 単位双頭（又は 3 単位か）波状口縁と想定される。単節 RL 縄文施文後、口縁部に並行して 6 条の横位浮線文を巡らす。器形屈曲部付近は縦位弧状・斜位直線状浮線文を施す。	諸磯 b
18	J-8b 住 10 区 1 層 NO1	深鉢	良好	砂粒混入	口縁部破片	胴部上位に於いて顕著に内屈する 4 単位波状口縁と想定される。単節 RL 縄文施文後、浮線文により区画する。	諸磯 b
19	J-8b 住 11 区ﾍﾞﾙﾄ一括	深鉢	普通	砂粒混入	胴部破片	半截竹管状工具押し引きによる爪形文で区画する。一部の区画内に竹管状工具による円形刺突文を配す。	諸磯 b
20	J-8b 住 15 区 1 層	深鉢	普通	砂粒・雲母混入	胴部破片	単節 RL 縄文施文後、横位浮線文により区画する。一部の区画内は半截竹管状工具押し引きによる爪形文及び沈線で渦巻き状・入り組み文状に施文する。	諸磯 b
21	J-8b 住 10 区 1 層	深鉢	良好	砂粒混入	胴部破片	遺存部上位、半截竹管状工具押し引きによる爪形文で木葉状に区画する。下位、横位に2つの円孔をあけた後、浮線文を配す。	諸磯 b
22	J-8b 住 2 区 1 層・6 区 1 層	深鉢	良好	砂粒・褐色礫混入	胴部上位～底部 1/2	単節 RL 縄文施文後、横位浮線文を施す。	諸磯 b
23	J-8b 住 10 区 1 層	深鉢	普通	砂粒混入	口縁部破片	波状口縁の深鉢と想定される。単節 RL 縄文施文後、半截竹管状工具による半刺突文状連続短沈線を口縁に並行して 2 条施す。	諸磯 b
24	J-8b 住 14 区 1 層	浅鉢	普通	砂粒混入	体部破片	有孔浅鉢の体部片と想定される。遺存部最上位に孔を連続して巡らす。横位浮線文により区画し、一部の区画内に半截竹管状工具押し引きによる爪形文を木葉状・三角形等に施す。	諸磯 b
25	J-8b 住 6 区 1 層	深鉢	良好	砂粒・白色鉱物・雲母混入	胴部破片	半截竹管状工具押し引きによる爪形文を横位・斜位・渦巻き状に施し区画する。一部の爪形文間には短沈線を連続して施し、浮線文状を呈する。さらに一部の区画内に竹管状工具による円形刺突文を配す。	諸磯 b
26	J-8b 住 10 区 1 層 NO1	深鉢	良好	砂粒・片岩・雲母混入	胴部破片	単節 RL 縄文施文後、横位浮線文により区画する。区画内には斜位直線状、弧状浮線文を施す。	諸磯 b
27	J-8b 住 11 区 1 層 NO2	深鉢	良好	砂粒混入	胴部破片	単節 LR 縄文施文後、横位浮線文により区画する。	諸磯 b
28	J-8b 住 11 区 1 層 NO2・12 区 1 層	深鉢	普通	砂粒・褐色礫混入	胴部破片	単節 RL 縄文施文後、横位浮線文で区画する。遺存部最上位区画内には弧状浮線文が施される。外面が全体的に摩滅している。	諸磯 b
29	J-8b 住 5 区 1 層	深鉢	良好	砂粒混入	口縁部破片	やや外反する平口縁と想定される。口縁部、櫛歯状工具による横位平行沈線施文。胴部には単節 LR 縄文を施す。	諸磯 b
30	J-8b 住 11 区 1 層	深鉢	普通	砂粒・白色鉱物・雲母混入	胴部破片	単節 LR 縄文施文。半截竹管状工具による平行沈線を格子目状に施す。交点に竹管状工具による円形刺突文を配す。	諸磯 b
31	J-8b 住 10 区 1 層	深鉢	普通	砂粒・白色鉱物混入	胴部破片	半截竹管状工具による平行沈線（半隆起線状を呈する）で木葉状に区画する。	諸磯 b
32	J-8b 住 10 区 1 層	深鉢	良好	砂粒・金雲母混入	胴部破片	単節 RL 縄文施文後、半截竹管状工具による横位平行沈線（半隆起線状を呈する）で区画する。一部の沈線部分に斜位短沈線を施す。浮線文の意識か。さらに器形変換点の稜状部分に縦位短沈線を連続して施す。	諸磯 b
33	J-8b 住 10 区 1 層	浅鉢	良好	砂粒混入	体部破片	浅鉢の体部中位片と想定される。遺存部最上位において顕著に外反する。遺存部最下位部分は高台状、又は外反する器形変換点か。遺存部においては無文。	諸磯 b

第 238 表　二軒在家原田Ⅱ遺跡Ａ区縄文時代住居址出土遺物観察表（４）

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
34	J-8b 住 10 区 1 層	深鉢	普通	砂粒・石英・角閃石混入	口縁部破片	波状口縁。隆帯による獣面把手貼付→単節RL縄文を横位施文→浮線渦巻文を施文→浮線文部にヘラ状工具によるキザミ。内面は横・斜位のミガキ。	諸磯 b
35	J-8 住 6 区 1 層	深鉢	普通	砂粒・白色鉱物・褐色礫混入	口縁部破片	単節 RL の縄文地文。浮線文で横位区画。区画内に同様の浮線文を入組文状に配置。浮線文上にヘラ状工具によるキザミを加える。口唇部に獣面把手。内面は横位のミガキ。	諸磯 b
36	J-8 住 11 区 1 層	深鉢	普通	砂粒・チャート・片岩混入	口縁部破片	縄文地文（撚りの種類は不明）。浮線文で横位区画。区画内に同様の浮線文を入組文状に配置。浮線文上にヘラ状工具によるキザミを加える。口唇部に獣面把手。内面は横位のナデ。	諸磯 b
37	J-8 住 10 区 1 層	深鉢	普通	砂粒・白色鉱物・褐色礫混入	口縁部破片	縄文地文の詳細は不明。浮線文区画内に同様の浮線文を入組文状等に配置。浮線文上に鋭く長いキザミを加える。口縁部付近に、円形貼付文による獣面状の装飾。内面は横位のナデ。	諸磯 b
38	J-8 住 6 区 1 層	深鉢	普通	砂粒・白色鉱物混入	口縁部破片	口唇部に獣面把手。	諸磯 b
39	J-8 住 7 区 1 層	深鉢	普通	砂粒・白色鉱物・褐色礫混入	口縁部破片	口唇部に獣面把手。円形竹管状工具による刺突文。	諸磯 b
40	J-8 住 10 区ﾍﾞﾙﾄ一括	深鉢	普通	砂粒・黒色鉱物・石英混入	口縁部破片	波状口縁。隆帯による獣面把手貼付→単節RL縄文を横位施文→浮線渦巻文を施文→浮線文部にヘラ状工具によるキザミ。内面は横位のナデ。	諸磯 b
41	J-8 住 10 区 1 層	深鉢	普通	砂粒・石英・角閃石・片岩混入	口縁部破片	波状口縁。獣面把手貼付→耳部に棒状工具による押捺、胴部単節 RL 縄文を横位施文→半截竹管状工具による鋸歯文を施文→同工具で縦位の区画文を施文。内面は横位のナデ。	諸磯 b

A区Ｊ－９号住居址

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
1	J-9 住周辺	深鉢	普通	砂粒混入	口縁部破片	緩やかな波状口縁と想定される。幅の広い半截竹管状工具押し引きによる爪形文を施す。	諸磯 a ～ b
2	J-9 住 3 区 1 層	深鉢	良好	砂粒・白色鉱物混入	胴部破片	半截竹管状工具押し引きによる爪形文を横位直線状・斜位弧状に施す。爪形文間は短沈線を連続して施し浮線文状を呈する。さらに一部の区画には円形刺突文施文。	諸磯 b
3	J-9 住 3 区 1 層	深鉢	普通	砂粒混入	胴部破片	単節 LR 縄文施文後、半截竹管状工具押し引きによる爪形文を横位・斜位直線状に施す。	諸磯 b
4	J-9 住周辺	深鉢	普通	砂粒混入	胴部破片	櫛歯状工具による肋骨文施文後、竹管状工具による円形刺突を縦位に配す。	諸磯 a
5	J-9 住 10 区 1 層	深鉢	良好	砂粒・白色鉱物・雲母混入	胴部破片	4 単位波状口縁の胴部上位片と想定される。単節 RL 結節縄文横転がし後、半截竹管状工具押し引きによる爪形文を縦位・横位・斜位直線状に施す。	諸磯 a
6	J-9 住 12 区 1 層・14 区 1 層	深鉢	普通	砂粒・雲母・植物繊維混入	口縁部～胴部 1/10	胴部上半が外反する 4 単位波状口縁と想定される。縄文（直前段合撚？）施文後、幅の広い半截竹管状工具によるコンパス文を、口縁に並行して 2 段巡らす。	黒浜
7	J-9 住 10 区 1 層	深鉢	普通	砂粒・褐色礫・植物繊維混入	口縁部破片	縄文（直前段合撚）施文後、半截竹管状工具によるコンパス文を横位に施す。	有尾・黒浜
8	J-9 住 11 区 1 層	深鉢	良好	砂粒・植物繊維混入	口縁部破片	波状口縁と想定される。複節縄文（?）施文後、口縁に並行して半截竹管状工具による平行沈線を施す。	有尾
9	J-9 住 P-2	深鉢	良好	砂粒混入	口縁部破片	波状口縁と想定される。櫛歯状工具による列点状刺突を施す。	有尾
10	J-9 住 5 区 1 層	深鉢	普通	砂粒・白色鉱物・白色礫・植物繊維混入	胴部破片	半截竹管状工具による横位・斜位平行沈線（半隆起線状を呈する）で区画する。	有尾
11	J-9 住 15 区 1 層	深鉢	良好	砂粒・白色鉱物・植物繊維混入	胴部破片	羽状縄文（単節 RL と LR の結束縄文横転がし）を施す。	有尾・黒浜
12	J-9 住 15 区 1 層	深鉢	普通	砂粒・植物繊維混入	胴部～底部破片	無節 R 縄文施文。底部は上げ底状を呈する。	有尾・黒浜

第 239 表　二軒在家原田Ⅱ遺跡Ａ区縄文時代住居址出土遺物観察表（５）

A区J－10a号住居址

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
1	J-10a 住 10 区 1 層	深鉢	良好	砂粒・褐色礫・雲母混入	口縁部破片	口縁部に幅の広い無文帯を巡らす。隆帯と沈線により口縁部文様帯を区画する。一部の区画内には刺突文施文。	加曽利ＥⅠ
2	J-10a 住 2 区 1 層	深鉢	普通	砂粒・白色鉱物混入	口縁部破片	隆帯により口縁部文様帯を区画する。区画は楕円形で連結部に渦巻き状沈線を配すと考えられる。楕円形区画内には棒状工具による斜位沈線を施す。胴部には単節 RL 縄文施文。	加曽利ＥⅡ
3	J-10a 住 5 区 1 層	深鉢	普通	砂粒・褐色礫混入	口縁部破片	隆帯と沈線により口縁部文様帯を区画する。区画内には単節 LR 縄文施文。区画連結部には渦巻き状ﾓﾁｰﾌを配す。	加曽利ＥⅡ
4	J-10a 住南北ﾍﾞﾙﾄ	深鉢	普通	砂粒・褐色礫・雲母混入	口縁部破片	隆帯と沈線により口縁部文様帯を半月状に区画する。区画内には縦位～斜位沈線を施す。	加曽利Ｅ
5	J-10a 住南北ﾍﾞﾙﾄ	深鉢	良好	砂粒・黒色鉱物混入	口縁部破片	口縁部直下の段差と隆帯により口縁部文様帯を区画する。区画の詳細は不明。一部に渦巻き状モチーフ・円形区画が認められる。区画内及び胴部には無節 L 縄文施文。	加曽利Ｅ
6	J-10a 住南北ﾍﾞﾙﾄ	深鉢	良好	砂粒混入	口縁部破片	隆帯と沈線により口縁部文様帯を区画する。区画内には単節 LR 縄文施文。胴部、単節 LR 縄文施文後、丸棒状工具による縦位沈線により区画。一部の区画内磨り消し。	加曽利ＥⅡ
7	J-10a 住 13 区 1 層	鉢	良好	砂粒混入	体部破片	体部上位において内屈し、口縁部が外反する鉢と想定される。隆帯と沈線により文様帯を区画する。楕円形区画内には丸棒状工具による羽状沈線を施す。遺存する文様帯の上下は無文と考えられる。	加曽利ＥⅡ
8	J-10a 住 5 区 1 層	深鉢	良好	砂粒混入	口縁部破片	緩やかな波状口縁と想定される。口縁部、丸棒状工具による 2 条の横位沈線で区画し、区画内に円形刺突文を列点状に施す。胴部、単節 LR 縄文施文後、丸棒状工具による逆 U 字状沈線で区画する。	加曽利ＥⅢ
9	J-10a 住 5 区 1 層	深鉢	良好	砂粒混入	胴部破片	胴部最下位が遺存する。2 条一組の縦位隆帯と蛇行隆帯を各 2 箇所ずつ施し、全体では縦位 4 単位に区画すると想定される。区画内には棒状工具による綾杉状沈線施文。ただし一部の綾杉状のﾓﾁｰﾌは乱れている（沈線が斜位と横位になっている）。	加曽利ＥⅡ～Ⅲ
10	J-10a 住 5 区 1 層	深鉢	普通	砂粒混入	口縁部～胴部 1/5	口縁部無文。無文帯下部に横位隆帯を巡らす。無文帯と隆帯の境界に、棒状工具による列点状刺突を巡らす。胴部、縦位隆帯により 6 単位に区画。各区画内に蛇行隆帯を垂下させる。さらに、鱗状沈線施文。	中期後葉（郷土系）
11	J-10a 住 5 区 1 層	深鉢	良好	砂粒混入	胴部破片	胴部下位片と想定される。丸棒状工具による 2 条一組の縦位沈線で区画する。区画内には同工具による綾杉状又は鱗状沈線施文。	加曽利Ｅ併行
12	J-10a 住南北ﾍﾞﾙﾄ	深鉢	普通	砂粒・白色鉱物・褐色礫・雲母混入	胴部破片	外面摩滅しており調整不明瞭。単節 RL 縄文施文後、縦位隆帯により区画し、区画内に蛇行隆帯を垂下させる。	加曽利Ｅ
13	J-10a 住 13 区 1 層	深鉢	普通	砂粒混入	胴部破片	胴部下半片か。丸棒状工具による斜位沈線を連続して施す。	加曽利Ｅ併行
14	J-10a 住 9 区 1 層	深鉢	良好	砂粒混入	胴部破片	櫛歯状工具による縦位直線状・弧状条線を施す。	加曽利Ｅ
15	J-10a 住南北ﾍﾞﾙﾄ	深鉢	良好	砂粒・雲母混入	胴部～底部破片	単節 LR 縄文施文後、2 条の縦位沈線を施文し、沈線間磨り消しか（遺存部が少なく不明瞭）。	加曽利ＥⅡ～Ⅲ
16	J-10a 住南北ﾍﾞﾙﾄ	吊手土器	良好	砂粒・白色鉱物混入	吊手	吊手部分。棒状工具により縦位沈線を配す。頂部は2つの突起を有すと思われる。	加曽利Ｅ

A区J－10b号住居址

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
1	J-10b 住 3 区 1 層	深鉢	普通	砂粒混入	胴部破片	半截竹管状工具押し引きによる爪形文を横位直線状・弧状に施す。爪形文間は斜位短沈線を連続して施文し、浮線文状を呈す。さらに一部に円形刺突文を配す。	諸磯ｂ
2	J-10b 住 8 区 1 層	深鉢	普通	砂粒・片岩・褐色礫・雲母混入	胴部破片	半截竹管状工具押し引きによる爪形文を横位直線状・くの字状に施す。	諸磯ｂ
3	J-10b 住 8 区 1 層	深鉢	良好	砂粒混入	口縁部破片	胴部上位に於いて顕著に内屈する 4 単位波状口縁と想定される。口端部に 1 条の鋸歯状貼付文を施す。口縁に並行し 3 条の浮線文を巡らす。その下位には弧状浮線文を施す。	諸磯ｂ
4	J-10b 住 4 区 1 層	深鉢	普通	砂粒・白色鉱物混入	胴部破片	縄文（不明瞭。単節 RL?）施文後、半截竹管状工具による平行沈線（半隆起線状を呈する）で格子目文を施す。格子のﾓﾁｰﾌが一部乱れている。	諸磯ｂ
5	J-10b 住 3 区 1 層	深鉢	良好	砂粒混入	口縁部破片	外反する波状口縁か。単節縄文施文後、半截竹管状工具による平行沈線で木葉状区画を複数描く。沈線間は同工具の押し引きによる爪形文を配す。	諸磯ａ？

第 240 表　二軒在家原田Ⅱ遺跡Ａ区縄文時代住居址出土遺物観察表（６）

A区J－11号住居址

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
1	J-11 住 5 区 1 層	深鉢	普通	砂粒・白色鉱物混入	口縁部破片	単節 RL 縄文施文後、半截竹管状工具押し引きによる横位爪形文で区画する。口縁部には同工具による爪形文で格子目文施文後、格子目区画内に円形刺突文を施す。胴部は縄文施文のみか。	諸磯 b
2	J-11 住 3 区 1 層	深鉢	良好	砂粒混入	口縁部破片	諸磯 b 式期 2 単位大波状口縁深鉢波底部と想定される。半截竹管状工具押し引きによる爪形文を口縁に並行して施す。一部の沈線文間には斜位短沈線を施文し、浮線文状を呈する。	諸磯 b
3	J-11 住 5 区 1 層	深鉢	良好	砂粒混入	口縁部破片	口縁部、細めの半截竹管状工具押し引きによる横位爪形文施文後、同工具による鋸歯状平行沈線、さらに沈線屈曲部に円形刺突文を施す。胴部、櫛歯状工具による横位基調平行沈線を施す。口端部上面には微隆起状突起を連続して配す。	諸磯 b
4	J-11 住 5 区 1 層	深鉢	普通	砂粒混入	胴部破片	半截竹管状工具押し引きによる爪形文を弧状・渦巻き状等に施す。さらに一部には円形刺突文施文。遺存部最上位及び最下位においては横位直線状爪形文で区画する。	諸磯 b
5	J-11 住 3 区 1 層	深鉢	普通	砂粒・白色鉱物混入	胴部破片	半截竹管状工具押し引きによる横位爪形文で区画し、区画内にさらに斜位・縦位爪形文を施す。	諸磯 b
6	J-11 住 8 区 1 層	深鉢	良好	砂粒混入	胴部破片	単節 RL 結節縄文横転がし後、半截竹管状工具押し引きによる横位爪形文を施す。	諸磯 b
7	J-11 住 5 区 1 層	浅鉢	良好	砂粒混入	体部破片	諸磯 b 式期浅鉢体部と想定される。半截竹管状工具押し引きによる爪形文、棒状工具による沈線を弧状・木葉状に施す。器形変換点付近には横位浮線文を巡らす。	諸磯 b
8	J-11 住 8 区 1 層	深鉢	普通	砂粒混入	胴部破片	縄文（単節 LR? 不明瞭）施文後、横位浮線文を施す。	諸磯 b
9	J-11 住 11 区 1 層	深鉢	普通	砂粒・白色鉱物混入	胴部破片	単節 RL 縄文施文後、横位浮線文で区画する。一部の区画内には竹管状工具による円形刺突文を施す。	諸磯 b
10	J-11 住 14 区 1 層	深鉢	普通	砂粒・白色鉱物混入	口縁部破片	口縁に並行し半截竹管状工具押し引きによる爪形文を 2 条巡らす。胴部、同工具による平行沈線で格子目文施文後、格子目交点に円形刺突文を施す。	諸磯 b
11	J-11 住 10 区 1 層	深鉢	普通	砂粒・白色鉱物・雲母混入	口縁部破片	外反する平口縁と想定される。口端部直下に稜状の隆帯を巡らす。胴部、半截竹管状工具により横位に区画し、区画内に同工具による鋸歯状・波状平行沈線を施す。	諸磯 b
12	J-11 住 4 区 1 層	深鉢	良好	砂粒混入	口縁部破片	やや外反する平口縁と想定される。口縁部、櫛歯状工具による横位直線状・波状平行沈線を施す。胴部、縄文（単節 RL?）施文。	諸磯 b
13	J-11 住 8 区 1 層	浅鉢	良好	砂粒・金雲母混入	体部破片	諸磯 b 式期浅鉢体部片と想定される。細めの半截竹管状工具による平行沈線で区画し、一部の区画内に単節 RL 縄文施文。	諸磯 b
14	J-11 住 5 区 1 層	深鉢	良好	砂粒混入	胴部破片	半截竹管状工具による横位平行沈線文を施す。	諸磯 b
15	J-11 住 12 区 2 層	深鉢	良好	砂粒混入	口縁部破片	4 単位双頭波状口縁と想定される。単節 RL 縄文施文後、竹管状工具による円形刺突を波頂部下位に縦位に配す。	諸磯 b
16	J-11 住 13 区 1 層	深鉢	普通	砂粒・白色鉱物混入	口縁部破片	単節 RL の縄文地文。浮線文で横位区画。区画内に同様の浮線文を入組文状等に配置。浮線文上に鋭く長いキザミを加える。口唇部に獣面把手。内面は横位のナデ。	諸磯 b
17	J-11 住 D-2 土・13 区 1 層・14 区 1 層	深鉢	普通	砂粒・植物繊維混入	口縁部破片	単節 RL と LR 結束縄文横転がし。羽状縄文を構成する。	有尾・黒浜
18	J-11 住 10 区 2 層	注口土器？	普通	砂粒・植物繊維混入	口縁部破片	黒浜式期の注口土器か。口端部の一部に山型突起を配す。口縁部には 2 条の横位隆帯を巡らす。一部に縄文（単節 RL?）を施文するが不明瞭である。	黒浜
19	J-11 住 4 区 1 層	深鉢	普通	砂粒・植物繊維混入	底部破片	無節 R 縄文施文。やや上げ底状を呈する。	有尾・黒浜
20	J-11 住 13 区 2 層	深鉢	良好	砂粒・褐色礫・雲母混入	口縁部～胴部最下位（底部は欠損）1/9	頚部に横位隆帯を巡らす。単節 RL 縄文施文後、口端部下位と頚部隆帯に列点状刺突を巡らす。U 字状・逆 U 字状沈線を縦位に配置し、4 単位に区画する。各区画内には弧状と縦位直線状沈線を組み合わせたモチーフを配する。各区画のモチーフが微妙に異なる。	加曽利ＥⅠ
21	J-11 住 5 区 1 層・17 区 1 層	深鉢	普通	砂粒・雲母混入	口縁部～胴部最下位 2/5	櫛歯状工具による縦位条線施文。胴部下位は篦状工具による削り。重複する J16 住・17 住の紛れ込みか。	加曽利Ｅ
22	J-11 住 17 区 1 層	深鉢	普通	砂粒・白色鉱物・雲母混入	口縁部破片	緩やかな波状口縁か。口縁部、隆帯で口縁部文様帯を区画し、区画内には棒状工具による列点状刺突を施す。区画連結部には勾玉状沈線を配す。胴部、棒状工具による縦位基調短沈線、横位弧状沈線施文。23 と同一個体か。	加曽利Ｅ

第 241 表　二軒在家原田Ⅱ遺跡Ａ区縄文時代住居址出土遺物観察表（７）

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
23	J-11 住 17 区 1 層	深鉢	普通	砂粒・白色鉱物・雲母混入	胴部破片	縦位直線状・蛇行隆帯により区画すると想定される。明瞭ではないが、遺存部左端が直線状隆帯か。区画内には半截竹管状工具による縦位・斜位平行沈線を施す。	加曽利 E
24	J-11 住 14 区 1 層	深鉢	普通	砂粒・褐色礫・赤褐色礫混入	底部破片	縦位直線状隆帯により胴部を 4 単位に区画すると想定される。区画内には蛇行沈線を垂下させ、計 8 単位に区画か。さらに区画内に棒状工具又は半截竹管状工具による縦位沈線を施す。	加曽利 E
25	J-11 住 8 区 1 層	深鉢	普通	砂粒・白色鉱物混入	胴部破片	2 条又は 3 条一組の縦位隆帯で区画する。遺存部最下位は横位隆帯で区画か。区画内は半截竹管状工具による平行沈線を綾杉状に施す。	加曽利 E 併行
26	J-11 住 12 区 1 層	深鉢	普通	砂粒・褐色礫混入	胴部～底部 1/10	遺存部上位、単節 LR 縄文施文後、丸棒状工具による縦位沈線により区画する。一部の区画内には同工具による斜位沈線施文。一部は縄文磨り消しか。遺存部が少ないために、正確な区画単位数・ﾓﾁｰﾌは不明である。	加曽利 E
27	J-11 住 9 区 1 層・13 区 1 層・14 区 1 層	深鉢	良好	砂粒・白色鉱物混入	胴部～底部 1/3	丸棒状工具による沈線で U 字状・逆 U 字状に区画する。一部の区画内に単節 RL 縄文充填。	加曽利 E Ⅳ
28	J-11 住 17 区 1 層	鉢または壺？	良好	砂粒・雲母混入	口縁部～体部破片	口縁部下位に鍔状の稜を巡らす。稜の一部に縦位に貫く孔を配す。遺存部においては 2 基の孔が確認でき、等間隔ではなく施されている。体部、棒状工具による弧状（渦巻き状？）沈線施文。一部に赤色塗彩が認められる。	中期後葉
29	J-11 住 14 区 1 層	深鉢	普通	砂粒・白色鉱物・雲母混入	口縁部破片	双頭波状把手を有する 4 又は 2 単位波状口縁深鉢と想定される。把手より隆帯と沈線を口縁部に垂下させ、口縁部文様帯を区画する。区画内には斜位短沈線を施す。また把手側面・口縁部文様帯内に渦巻き状ﾓﾁｰﾌを配す。頚部は無文を基本とするが、把手の下位に内外面共に 2 条の山型沈線を施す。胴部､山型沈線の下位に渦巻き状ﾓﾁｰﾌを配し､渦巻きから横位・縦位へと 3 条の隆帯で区画する。区画内には綾杉状沈線施文。	栃倉
30	J-11 住 15 区 1 層	深鉢	良好	砂粒・白色鉱物混入	口縁部破片	口縁部外面に稜状隆帯を巡らす。口端部には浅い円形刺突状の窪みを配す。胴部、丸棒状工具による逆 U 字状沈線で区画する。孔は焼成後のものであり、補修孔である可能性が高い。	称名寺
31	J-11 住 12 区 1 層	深鉢	普通	砂粒・褐色礫混入	胴部破片	胴部中位が遺存する。圧痕・8 字状貼付文を伴う縦位隆帯を施す。丸棒状工具による重弧文状沈線、縦位・斜位沈線を施す。	堀之内 1

A区 J － 12 号住居址

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
1	J-12 住 4 区 1 層・7 区 1 層	深鉢	普通	砂粒・植物繊維混入	口縁部～胴部 1/5	4単位波状口縁。口縁部に並行して半截竹管状工具押し引きによる爪形文を3条巡らす。また、口縁部文様帯と胴部の境界にも、同工具による爪形文（一部は押し引きを行わない半隆起線状を呈する）を3条巡らす。胴部、単節 RL と LR の結束縄文による羽状縄文施文。内面は丁寧な磨き。	有尾
2	J-12 住 4 区 2 層・7 区 1 層・9 区 2 層・10 区ﾍﾞﾙﾄ 2 層・11 区 2 層、J-80 住 15 区 1 層	深鉢	良好	砂粒・褐色礫・植物繊維混入	1/2	4 単位波状口縁で、波底部に2基の小波状突起を施す。口縁部、櫛歯状工具による列点状刺突文を三角形ﾓﾁｰﾌに施す。胴部、単節 RL と LR 縄文横転がしにより羽状構成とする。	有尾
3	J-12 住 2 区 2 層	深鉢	良好	砂粒・褐色礫・植物繊維混入	口縁部～胴部 1/10	4 単位波状口縁。半截竹管状工具による平行沈線施文後、沈線間に同工具による列点状刺突を施す。区画のﾓﾁｰﾌは菱形又は三角形。胴部は単節 RL 縄文施文。	有尾
4	J-12 住 10 区ﾍﾞﾙﾄ 2 層	深鉢	普通	砂粒・片岩・ﾁｬｰﾄ・植物繊維混入	口縁部 1/5	4単位波状口縁。櫛歯状工具による列点状刺突を施す。口縁部は縦位、その下位は菱形・三角形をモチーフとし区画する。	有尾・黒浜
5	J-12 住 15 区 1 層・16 区 1 層	深鉢	良好	砂粒・ﾁｬｰﾄ・植物繊維混入	口縁部破片	4 単位波状口縁と想定される。波底部に小突起を施す。半截竹管状工具押し引きによる爪形文（一部は押し引きをせず平行沈線）を三角形ﾓﾁｰﾌに施す。内面丁寧な磨き。	有尾
6	J-12 住 7 区 2 層	深鉢	良好	砂粒・褐色礫・植物繊維混入	口縁部破片	4 単位波状口縁と想定される。半截竹管状工具による横位・斜位平行沈線施文後、沈線間に同工具による列点状刺突文を施し、菱形・三角形の区画を構成する。波頂部下位と想定される菱形区画内には蕨手状沈線・列点状刺突文を施す。	有尾

第 242 表　二軒在家原田Ⅱ遺跡Ａ区縄文時代住居址出土遺物観察表（８）

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
7	J-12 住 15 区 1 層・15 区 2 層	深鉢	良好	砂粒・褐色礫・植物繊維混入	口縁部～胴部破片	4 単位波状口縁の波底部付近と想定される。波底部に突起を施すタイプか。口縁部、半截竹管状工具押し引きによる爪形文、又は押し引きをしない平行沈線を三角形・菱形モチーフに施す。胴部は単節 RL 環付末端縄横転がし。	有尾
8	J-12 住 15 区 1 層＋J-80 住 16 区 1 層	深鉢	普通	砂粒・植物繊維混入	口縁部破片	4 単位波状口縁。口縁端部に縦位短沈線を配す。さらに、口縁に並行して半截竹管状工具押し引きによる爪形文を 4 条巡らす。文様のモチーフは菱形と三角形。一部爪形文と並行して、同工具による半隆起状沈線を施す。	有尾・黒浜
9	J-12 住 11 区 2 層	深鉢	普通	砂粒・植物繊維混入	口縁部～胴部 1/8	4 単位波状口縁と想定される。無節 L 縄文施文。	有尾・黒浜
10	J-12 住 3 区 1 層・3 区 2 層・4 区 1 層	深鉢	普通	砂粒・植物繊維混入	口縁部破片	単節 RL 縄文施文。	有尾・黒浜
11	J-12 住 4 区 2 層	深鉢	普通	砂粒・褐色礫・植物繊維混入	口縁部～胴部破片	やや内反する平口縁と想定される。単節 RL と LR の羽状縄文を施す。	前期中葉
12	J-12 住 7 区 2 層・9 区 1 層	深鉢	普通	砂粒・白色鉱物・植物繊維混入	口縁部破片	4 単位波状口縁と想定される。口縁部に並行して半截竹管状工具による平行沈線を施す。波頂部下位には逆方向の斜位沈線を施文し、菱形モチーフとする。横位沈線で胴部と区画し、胴部には縄文（単節 RL と LR か）を施す。内面は丁寧な磨き。	有尾
13	J-12 住 7 区 2 層	深鉢	普通	砂粒・植物繊維混入	口縁部破片	4 単位波状口縁と想定される。半截竹管状工具による平行沈線、同工具押し引きによる爪形文を横位・斜位に施し、菱形・三角形の区画を構成する。	有尾
14	J-12 住 14 区 1 層	深鉢	良好	砂粒・褐色礫・植物繊維混入	口縁部破片	口縁部に並行して、半截竹管状工具による縦位平行沈線施文後、同工具押し引きによる爪形文を巡らす。口縁部文様帯、微隆帯・半截竹管状工具押し引きによる爪形文を斜位直線状、渦巻き状に施す。一部の爪形文は、押し引きが弱いために列点状刺突文状を呈する。	有尾
15	J-12 住 11 区 2 層	深鉢	良好	砂粒・植物繊維混入	口縁部破片	4 単位波状口縁と想定される。口縁部に並行して、半截竹管状工具による縦位平行沈線を巡らす。口縁部文様帯、同工具押し引きによる爪形文を斜位直線状、弧状に施す。一部の爪形文は、押し引きが弱いために列点状刺突文状を呈する。	有尾
16	J-12 住 14 区 1 層	深鉢	普通	砂粒・植物繊維混入	口縁部破片	口縁部に並行して、微隆帯と半截竹管状工具押し引きによる爪形文を巡らす。口縁部文様帯、微隆帯・半截竹管状工具押し引きによる爪形文を斜位直線状、渦巻き状に施す。一部の爪形文は、押し引きが弱いために列点状刺突文状を呈する。	有尾
17	J-12 住 14 区 2 層	深鉢	やや不良	砂粒・植物繊維混入	口縁部破片	4 単位波状口縁と想定される。口縁部に並行して半截竹管状工具押し引きによる爪形文を施す。波頂部下位の菱形と想定される区画内に円形貼付文施文。	前期中葉
18	J-12 住 8 区 1 層	深鉢	普通	砂粒・植物繊維混入	口縁部破片	やや外反する平口縁。口縁部文様帯には、半截竹管状工具による横位・斜位平行沈線、同工具押し引きによる爪形文を施し、菱形の区画を構成する。胴部は無節 L 縄文施文。	有尾
19	J-12 住 8 区 1 層	深鉢	普通	砂粒・植物繊維混入	胴部破片	口端部は鋸歯状を呈する。縄文施文後、半截竹管状工具による斜位平行沈線（半隆起線状を呈する）を施す。	前期中葉
20	J-12 住 9 区 1 層	深鉢	普通	砂粒・植物繊維混入	口縁部破片	4 単位波状口縁の波底部付近と想定される。半截竹管状工具による縦位・斜位平行沈線を施し、沈線部分に櫛歯状工具による列点状刺突文施文。一部では沈線部分以外にも列点状刺突文を施す菱形又は三角形モチーフを構成する。内面は丁寧な磨き。	有尾
21	J-12 住 3 区 2 層	深鉢	普通	砂粒・植物繊維混入	口縁部破片	無節 R 縄文施文。	有尾・黒浜
22	J-12 住 9 区 2 層	深鉢	普通	砂粒・植物繊維混入	口縁部破片	4 単位波状口縁と想定される。口縁部に並行して、櫛歯状工具による縦位列点状刺突文を巡らす。口縁部文様帯、半截竹管状工具による斜位平行沈線を施し、沈線部分に櫛歯状工具による列点状刺突文施文。	有尾
23	J-12 住 13 区 1 層	深鉢	良好	砂粒・褐色礫・植物繊維混入	口縁部破片	口縁部の一部が鋸歯状を呈する。口縁部に並行して、櫛歯状工具による縦位列点状刺突文を巡らす。口縁部文様帯、半截竹管状工具による横位平行沈線を施し、沈線間に同工具による列点状刺突文（爪形文状）施文。遺存部最下位には、櫛歯状工具による斜位列点状刺突文が認められる。	有尾

第 243 表　二軒在家原田Ⅱ遺跡Ａ区縄文時代住居址出土遺物観察表（9）

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
24	J-12 住 14 区ﾍﾞﾙﾄ 1 層	深鉢	良好	砂粒・植物繊維混入	口縁部破片	4 単位波状口縁の波頂部付近と想定される。口縁部に並行して、櫛歯状工具による縦位列点状刺突文を巡らす。口縁部文様帯、半截竹管状工具による斜位平行沈線施文後、一部の沈線に列点状刺突文を施す。さらに波頂部下位には縦位列点状刺突文施文。	有尾
25	J-12 住 12 区 1 層	深鉢	普通	砂粒・植物繊維混入	口縁部破片	4 単位波状口縁の波頂部付近。口縁部に並行して、櫛歯状工具による縦位列点状刺突文を巡らす。口縁部文様帯は、同工具による列点状刺突文を斜位に施し区画する。菱形又は三角形ﾓﾁｰﾌと考えられる。	有尾
26	J-12 住周溝一括	深鉢	普通	砂粒・植物繊維混入	口縁部破片	付加条縄文を施す。	前期中葉
27	J-12 住 13 区 1 層	深鉢	良好	砂粒・植物繊維混入	口縁部破片	4 単位波状口縁の波頂部付近。口縁部に並行して、半截竹管状工具による縦位平行沈線を施し、沈線間には櫛歯状工具による縦位列点状刺突文施文。口縁部文様帯は、半截竹管状工具による斜位平行沈線施文後、一部の沈線間に列点状刺突文を施す。	有尾
28	J-12 住 4 区 2 層	深鉢	普通	砂粒・石英・植物繊維混入	口縁部破片	4 単位波状口縁か。口縁部、櫛歯状工具による縦位列点状刺突を連続して施す。口縁部下位、半截竹管状工具による半隆起線で区画し、間に同工具による刺突を連続して施す。さらに下位に櫛歯状工具による列点状刺突。口縁部下位は菱形または三角形ﾓﾁｰﾌか。	有尾
29	J-12 住 15 区 2 層	深鉢	普通	砂粒・白色鉱物・雲母・植物繊維混入	胴部破片	単節 RL と LR 環付末端縄横転がし。遺存部最上位には半截竹管状工具押し引きによる横位爪形文施文。	有尾・黒浜
30	J-12 住 10 区床	深鉢	普通	砂粒・褐色礫・植物繊維混入	胴部破片	単節 RL と LR 縄文横転がしにより羽状縄文を構成。遺存部最上位に横位沈線が認められる。	有尾・黒浜
31	J-12 住 14 区 1 層	深鉢	普通	砂粒・褐色礫・白色鉱物・植物繊維混入	胴部破片	半截竹管状工具押し引きによる横位直線状・弧状爪形文を施す。	有尾
32	J-12 住 14 区 1 層	深鉢	普通	砂粒・褐色礫・植物繊維混入	胴部破片	単節 RL と LR 環付末端縄横転がし。	有尾・黒浜
33	J-12 住 3 区 2 層	深鉢	良好	砂粒・褐色礫・植物繊維混入	胴部破片	単節 RL と LR 環付末端縄横転がし。一部に半截竹管状工具による列点状刺突文施文。	有尾・黒浜
34	J-12 住 10 区 1 層	深鉢	普通	砂粒・植物繊維混入	胴部 1/10	無節 L 縄文施文。遺存部最上位に焼成後の穿孔あり。補修痕か。	有尾・黒浜
35	J-12 住 12 区 2 層	深鉢	良好	砂粒・褐色礫・植物繊維混入	胴部破片	単節 RL と LR 環付末端縄横転がし。	有尾・黒浜
36	J-12 住 3 区 2 層	深鉢	普通	砂粒・植物繊維混入	底部破片	無節縄文施文。底部に細かいヘラミガキを施し、やや上げ底状を呈す。	有尾・黒浜
37	J-12 住 10 区 1 層	深鉢	普通	砂粒・褐色礫・石英・植物繊維混入	底部破片	縄文（単節 RL とLR?）施文。底部は若干上げ底状を呈する。	有尾・黒浜
38	J-12 住 11 区 2 層	深鉢	普通	砂粒・植物繊維混入	底部破片	付加条縄文施文。底部は上げ底状を呈する。	有尾・黒浜
39	J-12 住 14 区 1 層	深鉢	普通	砂粒・褐色礫・植物繊維混入	底部破片	無節 L 縄文施文。底部は上げ底状を呈する。	有尾・黒浜

A区 J － 13 号住居址

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
1	J-13 住 1 区 1 層・1 区 1 層 NO1・3 区 1 層床上	深鉢	普通	砂粒・白色鉱物・褐色礫混入	口縁部～胴部破片	隆帯と沈線により口縁部文様帯を区画する。区画は隅丸長方形を基調とし、6 単位と想定される。区画連結部分には渦巻き状沈線を配す。区画内には単節 RL 縄文施文。頚部は無文。胴部上位に 3 条の横位沈線を巡らし、沈線下位は単節 RL 縄文施文。	加曽利ＥⅠ
2	J-13 住 1 区 1 層	深鉢	普通	砂粒・褐色礫・雲母混入	3/4	隆帯と沈線により口縁部文様帯を半円形に 5 単位に区画する。それぞれの区画内には、斜位・縦位・弧状等の沈線を施す。ﾓﾁｰﾌは区画ごとで統一性は認められない。胴部、逆 U 字状沈線で区画し、区画内に縄文（反撚 LL?）施文。一区画のみ異なる原体（異状斜縄文？）を使用している。全体的に施文の規格性・統一性が低い。	加曽利ＥⅠ～Ⅱ
3	J-13 住 2 区 1 層	深鉢	良好	砂粒・雲母混入	口縁部～胴部破片	隆帯と沈線により口縁部文様帯を半月形に区画する。区画内には単節 RL 縄文施文。区画連結部には棒状貼付文（一部欠損しており全体形状不明）施文。頚部は無文だが、一部に縄文が認められる。頚部下位に 2 条の横位沈線を巡らし、胴部には単節 RL 縄文施文。	加曽利ＥⅠ

第 244 表　二軒在家原田Ⅱ遺跡Ａ区縄文時代住居址出土遺物観察表（10）

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
4	J-13 住 2 区 1 層	深鉢	良好	砂粒・雲母混入	口縁部破片	隆帯と沈線により口縁部文様帯を半月形に区画する。区画内には単節 RL 縄文施文。区画連結部には棒状貼付文施文。頚部は無文だが、一部に縄文（?）が認められる。3 と同一個体か。	加曽利ＥⅠ
5	J-13 住 P-5	浅鉢	良好	砂粒混入	口縁部破片	加曽利Ｅ式古段階の浅鉢と想定される。口縁部、やや厚みを有する。遺存部全体に赤色塗彩が認められる。	加曽利ＥⅠ～Ⅱ
6	J-13 住 2 区 1 層	深鉢	普通	砂粒混入	胴部破片	単節 RL 縄文施文後、縦位条線を施す。さらに、2 条一組の縦位隆帯により区画する。	加曽利Ｅ
7	J-13 住 2 区 1 層	深鉢	良好	砂粒・雲母混入	胴部破片	縦位条線を施す。	加曽利Ｅ
8	J-13 住 1 区 1 層	深鉢	良好	砂粒混入	胴部破片	単節 RL 縄文施文後、丸棒状工具による 2 条一組の縦位沈線で区画する。沈線間は磨り消し。さらに区画内に蛇行沈線を垂下させる。	加曽利Ｅ
9	J-13 住 D-1 土	深鉢	普通	砂粒・褐色礫混入	胴部破片	幅広で低い横位隆帯を巡らし区画する。隆帯上位には付加条縄文施文。隆帯下位には単節 RL 縄文施文。さらに縦位沈線を施し、一部の区画内磨り消しか。	加曽利Ｅ
10	J-13 住 1 区 1 層	深鉢	普通	砂粒・赤褐色礫混入	底部破片	棒状工具による沈線で縦位に区画し、区画内に斜位沈線施文か。遺存が少なく全体の文様ﾓﾁｰﾌがはっきりしない。	加曽利Ｅ
11	J-13 住 2 区 1 層・4 区 1 層	深鉢	良好	砂粒混入	胴部破片	口縁部文様帯から胴部上位片か。横位隆帯を巡らし区画する。隆帯上位には丸棒状工具による縦位沈線を施す。隆帯下位は縦位沈線により区画し、区画内に鱗状沈線施文。	加曽利Ｅ併行（郷土系？）
12	J-13 住 3 区 1 層	深鉢	良好	砂粒・白色鉱物混入	胴部破片	深鉢の胴部上位片と想定される。遺存部最上位に 3 条の横位隆帯を巡らす。横位隆帯の下位は、渦巻き状ﾓﾁｰﾌの隆帯により縦位に区画し、区画内に綾杉状沈線を施す。	加曽利Ｅ併行（郷土系？）
13	J-13 住 3 区床直	深鉢	良好	砂粒・白色鉱物・石英・角閃石混入	口縁部破片	太隆帯による橋状把手。細隆帯を貼付→隆帯上面に丸棒状工具による沈線でS字状文を施文。内面は横位のミガキ。	中期中葉
14	J-13 住 D-1 土	鉢	良好	砂粒混入	口縁部破片	小波状口縁鉢か。外面、単節 RL 縄文施文後、沈線により区画し、一部の区画内は磨り消し。また口縁部の一部の区画内には短沈線を連続して施す。内面の口端部直下には横位沈線を巡らす。	加曽利 B1
15	J-13 住 D-1 土	鉢	良好	砂粒・片岩混入	口縁部～体部 1/8	口縁部に沈線を伴う三日月状隆帯を施す。体部上位、沈線を横位に施し区画する。一部の区画内に単節 LR 縄文施文。三日月状隆帯下位に「の」の字文を配す。内面口端部には列点状圧痕を施す。	加曽利 B1
16	J-13 住 1 区 1 層	鉢	良好	砂粒混入	3/4	やや内反する平口縁小型鉢。3条一組の横位平行沈線を2段巡らす。各沈線間に弧状短沈線（区切り文）を施す。底部網代痕。	加曽利 B1
17	J-13 住 2 区 1 層	深鉢	良好	砂粒・雲母混入	口縁部破片	3 単位波状口縁深鉢か。波頂部下位に横位沈線施文後、渦巻き状沈線を施す。横位沈線間は縄文を磨り消している可能性がある。また一部の口縁部に並行して沈線を施す。	加曽利 B1
18	J-13 住 2 区 1 層	深鉢	良好	砂粒・白色鉱物・雲母混入	口縁部破片	深鉢の把手部分。口端部上面に 8 字状ﾓﾁｰﾌ。内面には円形刺突文を施す。	加曽利 B

A区Ｊ－ 16 号住居址

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
1	J-16 住 7 区 1 層	深鉢	普通	砂粒混入	口縁部破片	隆帯と沈線により口縁部文様帯を半月形に区画する。区画内には単節 LR 縄文施文。区画連結部には渦巻き状沈線を配す。頚部は無文。	加曽利ＥⅠ
2	J-16 住 6 区ﾍﾞﾙﾄ	深鉢	普通	砂粒混入	口縁部破片	隆帯と沈線により口縁部文様帯を半月形に区画する。区画内には単節 RL 縄文施文。また区画連結部には渦巻き状沈線を配す。頚部は無文。胴部、単節 RL 縄文施文後、縦位沈線（逆 U 字状 ?）で区画する。	加曽利ＥⅠ
3	J-16 住 D-1 土	深鉢	普通	砂粒・白色鉱物・雲母混入	口縁部破片	やや内反する平口縁と想定される。隆帯と沈線により口縁部文様帯を半月状に区画する。区画内には単節 LR 縄文施文。区画連結部には渦巻き状沈線を伴う貼付文を配す。頚部は無文。	加曽利ＥⅠ
4	J-16 住 16 区 1 層	深鉢	良好	砂粒・雲母混入	胴部破片	口縁部文様帯の一部と胴部上位が遺存する。隆帯と沈線により口縁部文様帯を半月状又は楕円形に区画する。遺存部が少なく断定はできないが、区画内には縦位基調沈線施文か。区画連結部には渦巻き状ﾓﾁｰﾌを配す。胴部、区画連結部より 2 条一組の断面三角形の縦位隆帯を垂下させ区画する。内部に棒状工具による縦位基調沈線を施す。	加曽利Ｅ

第 245 表　二軒在家原田Ⅱ遺跡Ａ区縄文時代住居址出土遺物観察表（11）

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
5	J-16 住 10 区 1 層	深鉢	良好	砂粒・褐色礫混入	胴部破片	単節 RL 縄文施文後、丸棒状工具による 2 条一組の縦位沈線で区画する。沈線間は磨り消し。	加曽利 E
6	J-16 住 10 区 1 層	深鉢	良好	砂粒混入	胴部破片	単節 RL 縄文施文後、棒状工具による 2 条一組の細めの縦位沈線で区画する。区画内には縦位鋸歯状沈線を垂下させる。	加曽利 E
7	J-16 住 6 区 1 層	深鉢	普通	砂粒混入	胴部破片	撚り糸施文後、棒状工具による 3 条一組の縦位沈線で区画する。区画内を 3 条一組の横位直線状（又は弧状？）でさらに区画する。	加曽利 E Ⅱ 併行？
8	J-16 住 7 区 1 層	深鉢	普通	砂粒混入	胴部破片	単節 RL 縄文施文後、丸棒状工具による縦位沈線で区画する。さらに区画内に U 字状・逆 U 字状（両者を組み合わせ H 状を意識している？）等沈線を施す。	加曽利 E
9	J-16 住 10 区 1 層	深鉢	良好	砂粒・雲母混入	胴部破片	縄文（反撚り 2 段 LL?）施文後、蛇行隆帯を垂下させる。	加曽利 E
10	J-16 住 5 区 1 層	深鉢	普通	砂粒混入	胴部破片	単節 RL 縄文施文後、棒状工具による細めの縦位沈線で区画する。区画内には縦位鋸歯状沈線を垂下させる。	加曽利 E
11	J-16 住 6 区 1 層・6 区ﾍﾞﾙﾄ	深鉢	良好	砂粒混入	胴部破片	単節 RL 縄文施文後、丸棒状工具による 3 条一組の縦位沈線で区画する。さらに区画内に蛇行沈線を垂下させる。	加曽利 E
12	J-16 住 7 区 1 層	深鉢	普通	砂粒混入	口縁部破片	深鉢の橋状把手か。波頂部よりやや斜位に橋状貼付文を施す。さらに橋状中央部へ向かって左より横位に橋状貼付文を連結させる。橋状貼付文上には渦巻き状・円形・弧状等沈線施文。橋状貼付文以外にも沈線による区画が認められるが、ﾓﾁｰﾌは不明。	加曽利 E 併行
13	J-16 住 7 区 1 層	深鉢？	良好	砂粒混入	口縁部破片	波状口縁の突起部分。頂部平坦面、棒状工具により四角く区画した後、内側に連続して沈線を配す。外面、口端部から粘土紐を垂下させ、左右に横位沈線を複数描く。	加曽利 E 併行
14	J-16 住 10 区 1 層	深鉢	普通	砂粒混入	胴部破片	胴部上位片か。隆帯と沈線により逆 U 字状に区画する。一部の区画間は横位隆帯で連結する。逆 U 字状区画内には、半截竹管状工具による横位平行沈線施文。	中期後半
15	J-16 住一括	浅鉢	良好	砂粒・白色鉱物・黒色鉱物混入	体部～底部 1/3	口端部が欠損する浅鉢と想定される。外面は無文。内面遺存部最上位に稜状の隆帯を巡らす。	加曽利 E
16	J-16 住 13 区 1 層	器台	普通	砂粒・ﾁｬｰﾄ・褐色礫混入	ほぼ完形	4 箇所に穿孔を施す。器受部は若干傾斜を有する。図版正面部分の一部に沈線と縄文が施されるが、意図的施文かどうか疑問である。	加曽利 E
17	J-16 住 D-2 土	深鉢	良好	砂粒・白色鉱物混入	口縁部破片	口縁部の環状突起。外面、正面に縄文を施し、左右縁辺には棒状工具による刺突を行う。内面、頂部に円孔を配し、下部は渦巻き状に沈線を描く。本住居とは別遺構。	称名寺 1
18	J-16 住 D-2 土	深鉢	良好	砂粒・白色鉱物・雲母混入	口縁部破片	胴部上位において外反し、口端部が内反する平口縁深鉢か。棒状工具による深めの沈線で区画し、一部の区画内に単節 LR 縄文充填。本住居とは別遺構と考えられる。	称名寺

A区 J － 17 号住居址

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
1	J-17 住 14 区 1 層	深鉢	普通	砂粒・褐色礫・雲母混入	口縁部破片	隆帯と沈線により口縁部文様帯を半月形に区画する。区画内には縦位基調沈線を施す。また区画連結部には渦巻き状沈線を配す。渦巻き状沈線下位には断面三角形の縦位隆帯を垂下させる。胴部区画の一部に縄文施文か。	加曽利 E Ⅱ
2	J-17 住 10 区 1 層	深鉢	普通	砂粒・白色鉱物・雲母混入	口縁部破片	やや内反する平口縁と想定される。隆帯と沈線により口縁部文様帯を半月形に区画する。区画内には単節 RL 縄文施文。区画連結部には沈線と隆帯による渦巻き状ﾓﾁｰﾌを配す。	加曽利 E Ⅰ～Ⅱ
3	J-17 住 10 区ﾍﾞﾙﾄ	深鉢	良好	砂粒混入	口縁部破片	口端部内面に稜状隆帯を横位に巡らす。隆帯と沈線により口縁部文様帯を半月形に区画する。区画内には縦位沈線を施す。また口縁部文様帯上位にも縦位短沈線を列点状に巡らす。胴部、2 条一組の縦位隆帯・1 条の蛇行隆帯により区画する。区画内には斜位沈線（綾杉状）を施す。	加曽利 E Ⅱ
4	J-17 住 5 区 1 層	深鉢	普通	砂粒・雲母混入	口縁部破片	隆帯を蕨手状に折り返して口縁部文様帯を区画する。区画内には丸棒状工具による縦位沈線を施す。胴部、口縁部文様帯連結部下位に蛇行沈線を垂下させ区画する。区画内に弧状沈線（重弧文？）施文。	加曽利 E Ⅱ

第 246 表　二軒在家原田Ⅱ遺跡Ａ区縄文時代住居址出土遺物観察表（12）

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
5	J-17 住 11 区 1 層	浅鉢	良好	砂粒・白色鉱物・雲母混入	胴部破片	口縁部文様帯付近から胴部中位が遺存する。隆帯と沈線により口縁部文様帯を区画すると考えられる。区画は半月形か。区画連結部には円形刺突文を配し、その下位に縦位隆帯を垂下させる。縦位隆帯間には半截竹管状工具による斜位平行沈線を綾杉状（一部は鱗状？）に施す。	加曽利ＥⅡ
6	J-17 住 11 区ﾍﾞﾙﾄ	深鉢	普通	砂粒・雲母混入	胴部破片	縦位条線施文後、丸棒状工具による縦位沈線で区画する。さらに横位弧状沈線を施す。	加曽利ＥⅡ
7	J-17 住D -3 土	浅鉢	良好	砂粒混入	体部破片	体部上位において内屈し、口縁部が外反する鉢と想定される。隆帯と沈線により文様帯を区画する。楕円形区画内には単節 LR 縄文施文。区画連結部には渦巻き状沈線を配す。渦巻き中心部付近には刺突文を施す。一部に赤色塗彩の痕跡が確認できる。遺存する文様帯の上下は無文と考えられる。	加曽利ＥⅡ
8	J-17 住 14 区 1 層	深鉢	普通	砂粒・白色鉱物・雲母混入	口縁部破片	内面への折り返し状口縁。半截竹管状工具による斜位平行沈線（半隆起線状）施文後、渦巻き状沈線を施す。渦巻き状沈線による区画の一部磨り消し。	加曽利Ｅ併行（中部高地系）
9	J-17 住 14 区 1 層	深鉢	普通	砂粒・白色礫混入	胴部破片	隆帯により弧状・剣先状（全体のﾓﾁｰﾌは渦巻き状か）に区画する。区画内には沈線を充填する。	加曽利Ｅ併行（唐草文系）
10	J-17 住 9 区 1 層	深鉢	普通	砂粒・雲母混入	口縁部破片	口縁部、刺突を伴う横位隆帯を巡らす。胴部、撚り糸施文後、丸棒状工具による 2 条一組の沈線で区画する。沈線間は磨り消し。	中期後葉？
11	J-17 住 5 区 1 層・7 区 1 層	鉢	普通	砂粒混入	口縁部～体部 1/6	無文の鉢と想定される。内面口端部直下に稜状隆帯を巡らす。	加曽利Ｅ
12	J-17 住 9 区 1 層＋10 区ﾍﾞﾙﾄ	鉢	良好	砂粒混入	口縁部破片	頸部に隆帯を巡らせ、以下に縄文を施す。口縁部は無文。	中期？
13	J-17 住 12 区 1 層	土製耳飾	普通	砂粒・石英混入	ほぼ完形	表裏面ともに竹管状工具による刺突文。側面はナデ調整。重さ 9.87g。	中期後葉
14	J-17 住 12 区 1 層	土製品	良好	砂粒混入	形態不明	長さ約 4 ㎝、直径 0.8 ㎝の円柱状土製品。	不明
15	J-17 住一括	深鉢	普通	砂粒・褐色礫・雲母混入	口縁部破片	小波状口縁の深鉢。口縁部下位に 2 条の横位沈線による区画を 2 段巡らす。区画内には円形刺突文を列点状に施す。波頂部下位の刺突文を沈線で囲み、上下の区画を 2 条の向かい合う縦位弧状沈線により連結し、円形刺突文を配す。	堀之内 2
16	J-17 住 13 区 1 層	深鉢	普通	砂粒混入	口縁部破片	深鉢の把手と考えられる。外面、交点に刺突を伴う T 字状隆帯で区画する。区画内には弧状（渦巻き状？）沈線を施す。中心付近の沈線末端部には擂り鉢状孔を配す。内面、円形、縦位直線状・Y 字状沈線を施す。円形沈線の中心には擂り鉢状の孔を配す。口端部上面には沈線施文。	堀之内 1

A区Ｊ－ 19 号住居址

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
1	J-19 住 4 区 1 層・8 区 1 層	深鉢	普通	砂粒・雲母混入	口縁部～胴部破片	隆帯と沈線により口縁部文様帯を区画する。区画内は遺存部においては無文。胴部、2 条一組の縦位隆帯により区画し、区画内に撚り糸施文。	加曽利ＥⅠ
2	J-19 住土器集中	深鉢	良好	砂粒・白色鉱物混入	口縁部破片	やや内反する口縁。口縁部下位を隆帯により楕円形・渦巻き状に区画し、口縁部文様帯を構成する。区画内に単節 LR 縄文施文。頸部は無文。	加曽利ＥⅠ
3	J-19 住 15 区 1 層	深鉢	普通	砂粒混入	口縁部破片	隆帯と沈線により口縁部文様帯を区画する。区画は半月形か。区画内には縄文（無節 L?）施文か（不明瞭）。区画連結部には渦巻き状沈線を配す。頸部は無文。	加曽利ＥⅠ～Ⅱ
4	J-19 住 11 区 1 層	深鉢	普通	砂粒混入	口縁部破片	隆帯と沈線により口縁部文様帯を区画する。区画内には単節 RL 縄文施文。	加曽利ＥⅠ～Ⅱ
5	J-19 住土器集中	浅鉢	良好	砂粒・白色鉱物混入	口縁部破片	口端部に内斜する面を有し、渦巻き状・直線状沈線を施す。内外面に赤色塗彩。	加曽利ＥⅠ～Ⅱ
6	J-19 住 11 区 1 層	浅鉢	良好	砂粒・白色鉱物混入	口縁部破片	口端部厚みを有し、内面に稜状隆帯を巡らす。外面には 1 条の横位沈線を巡らす。また、外面口端部付近に部分的に浅い沈線が認められるが意図的施文かどうかは不明。内外面ともに赤色塗彩。	加曽利ＥⅠ～Ⅱ
7	J-19 住 D-1 土	浅鉢	普通	砂粒・白色鉱物混入	体部破片	体部上位に於いて内屈し、口縁部が外反する浅鉢と想定される。長めの斜位沈線と、短めの斜位沈線・棒状工具による沈線により区画する。一部には竹管状工具による円形刺突文を配す。	加曽利ＥⅠ～Ⅱ

第 247 表　二軒在家原田Ⅱ遺跡Ａ区縄文時代住居址出土遺物観察表（13）

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
8	J-19 住 11 区ﾍﾞﾙﾄ	深鉢	不良	砂粒混入	ほぼ完形	3 単位波状口縁か。口縁部下位の器形変換点（括れ部）に丸棒状工具による 2 条の横位並行沈線と、竹管状工具による円形刺突を列点状に施し、口縁部と胴部文様帯を区画する。口縁部文様帯、口縁部に並行し竹管状工具による列点状円形刺突を施す。波頂部下位に逆U字状又は不整形な沈線を施し、文様帯を 3 分割する。胴部文様帯、縄文施文後、波頂部下位に逆U字状沈線と蕨手状沈線を施し3分割する。さらに分割された区画の内 2 区画のみ、同様の文様で区画する。（つまり、胴部は本来 6 区画とするべきだが、実際は 5 区画）	加曽利 E Ⅲ
9	J-19 住土器集中	深鉢	普通	砂粒混入	口縁部破片	やや内反する口縁。口縁部、波状貼付文を施し、波状屈曲点には刺突文施文。胴部、撚り糸施文後弧状沈線を施す。	加曽利 E
10	J-19 住 11 区ﾍﾞﾙﾄ 1 層	深鉢	良好	砂粒・雲母混入	口縁部破片	口端部厚みを有する。重弧文状に沈線を施文し区画する。一部の区画内には棒状工具による列点状刺突を施す。	加曽利 E 併行
11	J-19 住 4 区 1 層	深鉢	普通	砂粒・白色鉱物・雲母混入	胴部破片	単節 LR 縄文縦転がし後、丸棒状工具による縦位沈線で区画する。区画内には蛇行沈線を垂下させる。	加曽利 E
12	J-19 住 8 区 1 層	深鉢	良好	砂粒・褐色礫混入	胴部破片	櫛歯状工具による縦位基調直線状・弧状・蛇行沈線を施す。	加曽利 E
13	J-19 住 10 区ﾍﾞﾙﾄ 1 層	深鉢	普通	砂粒・雲母混入	胴部破片	単節 RL 縄文施文後、丸棒状工具による縦位・横位沈線で区画する。	加曽利 E
14	J-19 住土器集中地点	深鉢	普通	砂粒混入	胴部破片	単節 LR 縄文施文後、丸棒状工具による弧状沈線を施す。	加曽利 E 併行
15	J-19 住 8 区 1 層	深鉢	普通	砂粒混入	底部破片	縦位条線を施す。	加曽利 E
16	J-19 住 15 区 1 層	土製品？	普通	砂粒混入	1/4 程度遺存？	所謂スタンプ型土製品か。通常のものより大型である。渦巻き状沈線を施す。摘み（？）部欠損。	加曽利 E
17	J-19 住 12 区 1 層・14 区床	深鉢	良好	砂粒・褐色礫・植物繊維混入	口縁部破片	4 単位波状口縁深鉢と想定される。口端部の一部に三角形小突起を施す。口縁部上位には櫛歯状工具による縦位列点状刺突文を巡らす。口縁部文様帯は同工具による列点状刺突により、三角形又は菱形のﾓﾁｰﾌとすると考えられる。胴部との境界部分には横位列点状刺突文を巡らす。内面は非常に丁寧な磨き。	有尾・黒浜
18	J-19 住 15 区 1 層	深鉢	普通	砂粒・白色鉱物混入	口縁部破片	口唇部付近に獣面把手。目を表現する貼付文が剥落。半截竹管状工具による平行沈線文。内面は横位のナデ。	諸磯 b

A区 J － 20 号住居址

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
1	J-20 住 D-6 土	深鉢	普通	砂粒・雲母混入	口縁部破片	口縁部付近片と想定される。棒状工具による縦位・斜位沈線を施す。	後期初頭～前葉
2	J-20 住 7 区 1 層	深鉢	良好	砂粒混入	口縁部破片	口端部内面に稜状の横位隆帯を巡らす。外面、棒状工具による沈線で区画し、一部の区画内に単節 LR 縄文充填。	後期初頭～前葉
3	J-20 住 6 区 1 層	深鉢	普通	砂粒混入	胴部破片	棒状工具による沈線で区画する。	後期初頭～前葉
4	J-20 住 9 区 1 層	深鉢	普通	砂粒・黒色鉱物混入	胴部破片	胴部中位片と想定される。棒状工具による深めの沈線で区画する。	後期初頭～前葉
5	J-20 住 5 区 1 層	深鉢？	良好	砂粒・白色鉱物混入	口縁部破片	波状口縁深鉢か。口縁に並行し 2 条の沈線を施す。沈線間には単節 RL 縄文施文。その下位には横位隆帯（圧痕を伴う？）を巡らす。	後期初頭～前葉
6	J-20 住炉	深鉢	普通	砂粒・白色鉱物混入	胴部～底部 2/3	遺存部上位、弧状・入り組み文状の沈線により胴部を区画。内側に縄文を施す。	後期初頭～前葉
7	J-20 住 10 区 1 層	深鉢	良好	砂粒・白色鉱物混入	底部破片	胴部、遺存部においては無文。底部網代痕。	後期初頭～前葉
8	J-20 住 7 区 1 層	深鉢	良好	砂粒混入	口縁部破片	口縁部に浅めの横位沈線を巡らす。胴部、棒状工具による深めの沈線で区画し、一部の区画内に単節 LR 縄文充填。	堀之内
9	J-20 住 5 区 1 層	深鉢	良好	砂粒混入	口縁部破片	口端部内面に稜状の横位隆帯を巡らす。外面、棒状工具による横位沈線で区画し、一部の区画内に単節 LR 縄文充填。	堀之内

第 248 表　二軒在家原田Ⅱ遺跡Ａ区縄文時代住居址出土遺物観察表（14）

A区J－22号住居址

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
1	J-22 住 7 区 2 層	深鉢	良好	砂粒混入	口縁部破片	ほぼ直立する平口縁と想定される。単節 RL 縄文施文後、半截竹管状工具押し引きによる横位爪形文を 2 条巡らす。	諸磯 b
2	J-22 住 15 区 1 層	深鉢	普通	砂粒・褐色礫・雲母混入	口縁部破片	口端部上面に幅広の短沈線を連続して巡らす。一部に把手状の小突起を有する。口端部～胴部、半截竹管状工具押し引きによる爪形文で区画し、一部に竹管状工具による円形刺突文を配す。	諸磯 b
3	J-22 住 6 区 2 層	深鉢	普通	砂粒・褐色礫混入	口縁部破片	やや外反する平口縁と想定される。半截竹管状工具押し引きによる横位爪形文で区画し、区画内には同工具による波状・渦巻き状等爪形文を施す。遺存部最下位の区画には単節 RL 縄文施文。	諸磯 b
4	J-22 住 9 区 2 層	深鉢	良好	砂粒・白色鉱物・雲母混入	胴部破片	半截竹管状工具押し引きによるによる爪形文で入り組み文状に区画する。一部の区画内には竹管状工具による円形刺突文を配す。	諸磯 b
5	J-22 住 4 区 1 層	深鉢	良好	砂粒混入	胴部破片	半截竹管状工具押し引きによるによる爪形文と浮線文により楕円形に区画する。施文ﾓﾁｰﾌは北白川下層式の影響か。	諸磯 b
6	J-22 住 4 区 2 層	深鉢	普通	砂粒混入	胴部破片	単節 RL 縄文施文後、半截竹管状工具押し引きによるによる横位爪形文を施す。	諸磯 b
7	J-22 住 8 区 1 層	深鉢	普通	砂粒・白色鉱物・金雲母混入	胴部破片	半截竹管状工具押し引きによる爪形文を横位・斜位に施す。一部の爪形文間は斜位短沈線を連続して施文し、浮線文状を呈す。さらに一部に円形刺突文を配す。	諸磯 b
8	J-22 住 9 区 1 層	深鉢	普通	砂粒・褐色礫・雲母混入	胴部破片	単節 RL 縄文施文後、半截竹管状工具押し引きによるによる爪形文で区画する。一部の区画内には竹管状工具による円形刺突文を配す。	諸磯 b
9	J-22 住 6 区 1 層	浅鉢	普通	砂粒混入	口縁部破片	浅鉢の口縁部付近が遺存する。口端部上面、X 字状ﾓﾁｰﾌの貼付文か。口縁部、梯子状貼付文施文後、貼付文上に斜位短沈線を連続して施す。また口縁部に並行して連続して孔を巡らす。胴部、半截竹管状工具押し引きによる爪形文で区画。内外面共に赤色塗彩。全体的に剥落・摩滅している。	諸磯 b
10	J-22 住 11 区 1 層	深鉢	普通	砂粒混入	口縁部破片	口端部がやや内反する小波状口縁。単節 RL 縄文施文後、並行する数条の横位浮線文で区画する。区画内に渦巻き状・弧状等浮線文を施す。	諸磯 b
11	J-22 住 11 区 1 層	深鉢	普通	砂粒混入	口縁部破片	口端部やや内反する。単節 RL 縄文施文後、並行する数条の横位浮線文で区画する。一部の区画内に弧状・斜位直線状等浮線文を施す。10 と同一個体。	諸磯 b
12	J-22 住 6 区 1 層	深鉢	普通	砂粒・白色鉱物・雲母混入	口縁部破片	胴部上位に於いて顕著に内屈する 4 単位小波状口縁と想定される。波頂部下位には円形貼付文を施す。口縁部には、口縁に並行して 4 条の横位貼付文を、その下位には弧状・渦巻き状貼付文を施し、単節 RL 縄文を貼付文上に押圧する。	諸磯 b
13	J-22 住 11 区 2 層	深鉢	普通	砂粒・雲母混入	口縁部破片	やや内反する波状（双頭波状？）口縁か。単節 RL 縄文施文後、横位浮線文で区画する。区画内には弧状・渦巻き状等浮線文を施す。	諸磯 b
14	J-22 住 9 区 1 層	深鉢	普通	砂粒混入	口縁部破片	やや内反する平口縁か。単節 RL 縄文施文後、口縁部に 2 条の横位浮線文を施す。胴部、弧状・渦巻き状浮線文施文。口端部上面に蛇行貼付文を施文するが、一部が剥落し不明瞭である。	諸磯 b
15	J-22 住 D-5 土	深鉢	普通	砂粒混入	口縁部破片	胴部上位において顕著に内屈する 4 単位波状口縁と想定される。口端部上面に連続して短沈線を巡らす。単節 RL 縄文施文後、横位基調浮線文で区画する。区画内には弧状・渦巻き状等浮線文を施す。	諸磯 b
16	J-22 住 15 区 1 層	深鉢	普通	砂粒・褐色礫混入	口縁部破片	4 単位波状口縁深鉢の波頂部付近。単節 RL 縄文施文後、浮線文を施す。波頂部下位には円形貼付文を配す。	諸磯 b
17	J-22 住 11 区 1 層・12 区 1 層・17 区 2 層	深鉢	普通	砂粒・灰色礫混入	口縁部破片	胴部上位に於いて顕著に内屈する 4 単位波状口縁と想定される。縄文（単節 RL?）施文後、横位基調浮線文で区画する。区画内には弧状・渦巻き状等浮線文を施す。	諸磯 b
18	J-22 住 11 区 1 層	深鉢	普通	砂粒混入	口縁部破片	胴部上位に於いて内反する波状口縁と想定される。波頂部は双頭、又は 3 単位か。口端部上面、直線状・X 字状貼付文。口縁部、2 条の横位梯子状貼付文を巡らす。一部の貼付文上に斜位短沈線を施文。胴部、斜位梯子状貼付文を施す。	諸磯 b
19	J-22 住 14 区 1 層	深鉢	普通	砂粒混入	口縁部破片	胴部最上位に於いて顕著に内屈する。浮線文と、それに並行する列点状刺突により区画する。	諸磯 b

第 249 表　二軒在家原田Ⅱ遺跡 A 区縄文時代住居址出土遺物観察表（15）

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
20	J-22 住 14 区 1 層	深鉢	普通	砂粒混入	胴部～底部破片	胴部から底部にかけて 2 段階に器形が変化する。胴部、浮線文施文。遺存部最上位はﾓﾁｰﾌは不明だが、斜位飾線状・弧状、中位に横位直線状、最下位には横位直線状の間に X 字状・縦位貼付文を施す。底部への器形変換点部分に単節 RL 縄文施文。	諸磯 b
21	J-22 住 14 区 1 層	深鉢	普通	砂粒混入	胴部破片	縄文施文後、横位平行・斜位・渦巻き状の浮線文を施す。	諸磯 b
22	J-22 住 9 区 1 層	深鉢	普通	砂粒・褐色礫混入	胴部破片	単節 RL 縄文施文後、横位浮線文により区画する。区画内には浮線文を羽状に施す。	諸磯 b
23	J-22 住 8 区 1 層	深鉢	普通	砂粒混入	底部破片	胴部下位から底部にかけて張り出す器形の小型深鉢と想定される。胴部最下位に 3 条の横位浮線文を施す。その上位のﾓﾁｰﾌは不明。内外面赤色塗彩。	諸磯 b
24	J-22 住 8 区 2 層	深鉢	良好	砂粒混入	底部破片	遺存部上半、単節 LR 縄文施文。下半、横位浮線文を 3 条巡らす。底部は剥落部分が多い。	諸磯 b
25	J-22 住 8 区 2 層	深鉢	普通	砂粒・褐色礫・雲母混入	底部破片	縄文施文後、横位浮線文を施す。地文の縄文は不明瞭。	諸磯 b
26	J-22 住 D-3 土	深鉢	良好	砂粒混入	底部破片	胴部下位から底部にかけて張り出す器形。横位浮線文を施す。	諸磯 b
27	J-22 住 2 区 1 層	浅鉢？	普通	砂粒・褐色礫・雲母混入	口縁部破片	浅鉢口縁部の可能性を想定した。口縁部内反し、口端部上面は平坦面を有する。口端部直下に連続して孔を巡らし、その下位には横位浮線文を施す。体部、半截竹管状工具による平行沈線施文。	諸磯 b
28	J-22 住 6 区 1 層	浅鉢	普通	砂粒・褐色礫・金雲母混入	体部破片	浅鉢の体部中位から下位が遺存する。遺存部最上位に浮線文を巡らす。	諸磯 b
29	J-22 住 D-10 土	深鉢	普通	砂粒・褐色礫・雲母混入	口縁部破片	やや外反する平口縁か。口端部上面、列点状に圧痕を施す。口縁部、単節 LR 縄文施文後、半截竹管状工具による平行沈線で格子目文施文。さらに口端部直下に同工具による横位平行沈線施文。	諸磯 b
30	J-22 住 2 区 2 層	深鉢	普通	砂粒・褐色礫混入	口縁部破片	やや外反する平口縁と想定される。口縁部、半截竹管状工具による横位平行沈線・コンパス文を巡らす。胴部、同工具による斜位平行沈線を施す。文様構成・胎土・施文具より 38 と同一個体か。	諸磯 b
31	J-22 住 3 区 2 層	深鉢	良好	砂粒混入	口縁部破片	やや外反する平口縁と想定される。口縁部、半截竹管状工具による横位平行沈線を施す。沈線間には斜位短沈線を施し浮線文状を呈する。その下位には単節 RL 縄文施文後、半截竹管状工具による横位平行沈線、さらには格子目文施文。	諸磯 b
32	J-22 住 2 区 1 層	深鉢	良好	砂粒・褐色礫混入	口縁部破片	内反する 4 単位小波状口縁と想定される。波頂部に貼付文施文。胴部、単節 RL 縄文施文後、細めの半截竹管状工具による横位平行沈線を 3 条施す。	諸磯 b
33	J-22 住 D-5 土・9 区ﾍﾞﾙﾄ 2 層	深鉢	普通	砂粒・褐色礫混入	口縁部破片	やや外反する平口縁と想定される。単節 RL 縄文施文後、半截竹管状工具による格子目文を施す。	諸磯 b
34	J-22 住 4 区 2 層	深鉢	普通	砂粒・褐色礫混入	口縁部破片	櫛歯状工具による横位直線状平行沈線施文後、同工具による波状沈線を施す。	諸磯 b
35	J-22 住 8 区 1 層	深鉢	普通	砂粒混入	口縁部破片	やや外反する平口縁と想定される。縄文施文（不明瞭）後、櫛歯状工具による横位直線状・波状平行沈線を施す。さらに一部に竹管状工具による円形刺突文を縦位に配す。	諸磯 b
36	J-22 住 14 区 2 層	深鉢	良好	砂粒混入	胴部破片	半截竹管状工具による縦位・斜位平行沈線を施す。諸磯 b 式期古段階の米字ﾓﾁｰﾌに由来する施文か。	諸磯 b ？
37	J-22 住 4 区 1 層	深鉢	普通	砂粒混入	胴部破片	櫛歯状工具による横位直線状・波状平行沈線施文後、竹管状工具による円形刺突文を縦位に配す。	諸磯 b
38	J-22 住 6 区 2 層	深鉢	普通	砂粒・褐色礫混入	胴部破片	胴部上位～中位が遺存すると想定される。遺存部上半、半截竹管状工具による横位平行沈線で区画し、区画内には同工具による斜位平行沈線を施す。その下位には半截竹管状工具押し引きによる横位爪形文を巡らす。遺存部下半、単節 LR 結節縄文横転がし。	諸磯 b
39	J-22 住 11 区 1 層	深鉢	普通	砂粒・白色鉱物混入	胴部破片	櫛歯状工具による横位直線状・波状平行沈線施文後、竹管状工具による円形刺突文を縦位に配す。	諸磯 b
40	J-22 住 11 区ﾍﾞﾙﾄ 1 層	深鉢	普通	砂粒・褐色礫混入	胴部破片	単節 RL 縄文施文後、半截竹管状工具による横位平行沈線を施す。	諸磯 b
41	J-22 住 12 区ﾍﾞﾙﾄ 2 層	深鉢	良好	砂粒・白色鉱物混入	底部破片	単節 RL 縄文施文。	諸磯 b
42	J-22 住 3 区 1 層	浅鉢	普通	砂粒混入	口縁部破片	浅鉢の口縁部付近が遺存する。口端部やや厚みを有する。口縁部に並行して連続して孔を巡らす。遺存部においては無文。	諸磯 b
43	J-22 住 3 区 2 層＋ 7 区 1 層＋ 13 区 1 層	鉢	普通	砂粒混入	底部破片	遺存部においては無文。底面、端部に断面三角形の粘土帯を配し高台状を呈す。	諸磯？

第 250 表　二軒在家原田Ⅱ遺跡 A 区縄文時代住居址出土遺物観察表（16）

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
44	J-22 住 10 区 1 層	深鉢	普通	砂粒・褐色礫混入	口縁部破片	4 単位獣面把手付波状口縁深鉢の波頂部付近。獣面部以外に縄文・浮線文を施すが、摩滅のため不明瞭。	諸磯 b
45	J-22 住 11 区 1 層	深鉢	普通	砂粒・白色鉱物混入	口縁部破片	単節 RL の縄文地文。浮線文で横位区画。区画内に同様の浮線文を入組文状に配置。浮線文上にヘラ状工具によるキザミを加える。口唇部に獣面把手。内面は横位の粗いミガキ。	諸磯 b
46	J-22 住 3 区 2 層	深鉢	普通	砂粒・角閃石混入	口縁部破片	単節 RL の縄文地文。浮線文で横位区画。区画内に同様の浮線文を入組文状に配置。浮線文上にヘラ状工具によるキザミを加える。口唇部に獣面把手。内面は横位のミガキ。	諸磯 b
47	J-22 住 7 区 1 層	深鉢	普通	砂粒・チャート・角閃石混入	口縁部破片	単節 RL の縄文地文。浮線文で横位区画。区画内に同様の浮線文を入組文状等に配置。浮線文上にヘラ状工具によるキザミを加える。口唇部に獣面把手。内面は横位のナデ。	諸磯 b
48	J-22 住 11 区 1 層	深鉢	普通	砂粒・チャート混入	口縁部破片	磨耗・風化のため詳細は不明。縄文地文。浮線文。口唇部に獣面把手。	諸磯 b
49	J-22 住 12 区 2 層	深鉢	普通	砂粒・白色鉱物混入	口縁部破片	単節 LR の縄文地文。浮線文で横位区画。区画内に同様の浮線文を入組文状等に配置。浮線文上にヘラ状工具によるキザミを加える。円形貼付文 3 つを用いた獣面状の表現。内面は横位のナデ。	諸磯 b
50	J-22 住 3 区 1 層	深鉢	普通	砂粒・白色鉱物・黒色鉱物・褐色礫混入	口縁部破片	浮線文に類似する文様を、多截竹管状工具による長いキザミで表出する。縄文地文の有無は不明。口唇部に獣面把手。内面は横位のナデ。	諸磯 b
51	J-22 住 6 区ﾍﾞﾙﾄ 2 層	深鉢	普通	砂粒・石英・角閃石混入	口縁部破片	口唇部に獣面把手。浮線文の剥落箇所あり。	諸磯 b
52	J-22 住 11 区 1 層	深鉢	普通	砂粒・白色鉱物・褐色礫混入	口縁部破片	口唇部に獣面把手。	諸磯 b
53	J-22 住 12 区ﾍﾞﾙﾄ 1 層	深鉢	普通	砂粒・白色鉱物混入	口縁部破片	器面の剥落により、縄文地文の詳細は不明。浮線文区画内に同様の浮線文を入組文状等に配置。浮線文上にヘラ状工具によるキザミを加える。口唇部に獣面把手。内面は横位のナデ。	諸磯 b
54	J-22 住 5 区 1 層	深鉢	普通	砂粒混入	口縁部破片	単節 RL の縄文地文。浮線文で横位区画。区画内に同様の浮線文を入組文状等に配置。浮線文上にヘラ状工具によるキザミを加える。口唇部付近に獣面把手（鼻の部分のみ残存）。	諸磯 b
55	J-22 住 7 区ﾍﾞﾙﾄ 2 層	深鉢	普通	砂粒・白色鉱物・褐色礫混入	口縁部破片	口唇部に獣面把手。目を表現する貼付文が剥落。	諸磯 b
56	J-22 住 6 区ﾍﾞﾙﾄ 1 層	深鉢	普通	砂粒・白色鉱物・黒色鉱物混入	口縁部破片	口唇部付近につく獣面把手の一部。50 と形状が酷似する箇所あり。	諸磯 b
57	J-22 住炉	土偶	普通	砂粒・黒色鉱物・石英・チャート混入	胴部～脚部破片	表裏面ともにナデ調整。重さ<20.64>g。	諸磯 b
58	J-22 住 6 区 1 層	土製品	良好	砂粒混入	破片（部位不明）	断面 U 字状の土製品。全体形状不明。U 字状外面篦削り。片方の側面には浅い沈線。	諸磯 b ？
59	J-22 住炉	土製品	普通	砂粒混入	不明	断面扁平な楕円形を呈し、掌で押しつぶしたような印象を受ける。	諸磯？
60	J-22 住 1 区 2 層・2 区 1 層・6 区ﾍﾞﾙﾄ 1 層・8 区ﾍﾞﾙﾄ 1 層	鉢	普通	砂粒混入	胴部破片	棒状工具による沈線で弧状・J 字状・渦巻き状等に区画する。また、一部には渦巻き状隆帯を配す。さらに円形刺突を伴う円形貼付文を配す。全体的に薄手の作りである。	称名寺
61	J-22 住 1 区 2 層・2 区 1 層・6 区ﾍﾞﾙﾄ 1 層・8 区ﾍﾞﾙﾄ 1 層	鉢	普通	砂粒混入	胴部破片	棒状工具による沈線で弧状・J 字状・渦巻き状等に区画する。また、一部には渦巻き状隆帯を配す。さらに円形刺突を伴う円形貼付文を配す。全体的に薄手の作りである。60 と同一個体。	称名寺

A区 J － 23 号住居址

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
1	J-23 住 1 区	深鉢	普通	砂粒・白色鉱物・褐色礫混入	口縁部～胴部 2/3	頸部から胴部上半にかけて幅のせまい横位文様帯。渦巻文を伴う 5 単位の橋状把手。把手の間、隆帯と横位回転押捺による単節 RL 縄文を順に加えた後、隆帯の脇に沈線を施し、枠状の区画をなす。内・外面とも、横位のナデおよび粗いナデ。逆位にて検出。	中期後葉
2	J-23 住 1 区	深鉢	普通	砂粒混入	口縁部破片	口縁部に蕨手状隆帯を組み合わせた貼付文を施す。貼付文上下には縦位基調条線を施文。さらに胴部は条線施文後、蛇行沈線を垂下させる。	加曽利 E

第 251 表　二軒在家原田Ⅱ遺跡 A 区縄文時代住居址出土遺物観察表（17）

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
3	J-23 住 1 区	深鉢	普通	砂粒・褐色礫混入	口縁部破片	内面口端部直下に稜状隆帯を巡らす。外面、口縁部に折り返し口縁状の扁平な隆帯を巡らし、胴部の渦巻き状隆帯と連結させる。胴部、渦巻き状隆帯以外は単節 RL 縄文施文。	加曽利 E
4	J-23 住 1 区ﾍﾟﾙﾄ	深鉢	普通	砂粒・雲母混入	口縁部破片	隆帯と沈線により口縁部文様帯を区画する。区画内には棒状工具による縦位沈線を施す。また、区画連結部に渦巻き状ﾓﾁｰﾌを配す。胴部、遺存部が少なく不明瞭だが、斜位沈線を施すと想定される。	加曽利 E 併行
5	J-23 住周溝	深鉢	普通	砂粒・雲母混入	口縁部破片	加曽利 E 式期深鉢の厚みを有する立体的把手。上面及び側面に渦巻きﾓﾁｰﾌの沈線を施す。胴部に隆帯を垂下させ区画するが、区画ﾓﾁｰﾌは不明。	加曽利 E 併行
6	J-23 住 D-1 土	深鉢	普通	砂粒・褐色礫・雲母混入	胴部破片	遺存部上位に無文帯（深鉢の頚部無文帯か）。無文帯下部、単節 RL 縄文施文後、丸棒状工具による横位並行沈線を 3 条施す。	加曽利 E Ⅰ～Ⅱ？
7	J-23 住ｻﾌﾞﾄﾚ・3 区ﾍﾟﾙﾄ	深鉢	良好	砂粒混入	口縁部破片	4 単位波状口縁深鉢と想定される。波頂部形状は不明だが、波頂部下位に隆帯を垂下させ区画するものと考えられる。波底部付近は隆帯と沈線により口縁部文様帯を区画し、区画内に斜位沈線を施す。胴部にも斜位沈線施文。内面、非常に丁寧な磨き。	加曽利 E 併行
8	J-23 住 4 区	深鉢	普通	砂粒混入	胴部破片	隆帯により区画する（大部分の隆帯は剥落）。ﾓﾁｰﾌは弧状・渦巻き状か。区画内には沈線を施す。中部高地系？	加曽利 E 併行
9	J-23 住 D-1 土	深鉢	普通	砂粒・雲母混入	口縁部破片	称名寺式期の深鉢把手部分か。4 方向に孔を有する橋状把手。外面部分に単節 RL 縄文施文。	称名寺
10	J-23 住 1 区	深鉢	普通	砂粒混入	胴部破片	沈線で区画し、一部の区画内に縦位短沈線を列点状に施す。	称名寺
11	J-23 住 D-1 土	深鉢	普通	砂粒混入	胴部破片	棒状工具による深めの縦位沈線で区画する。一部の区画内に縦位短沈線を列点状に施す。	称名寺
12	J-23 住サブトレ	深鉢	普通	砂粒・褐色礫・雲母混入	口縁部破片	やや内反する平口縁と想定される。口縁部に横位圧痕隆帯を巡らす。	称名寺～堀之内
13	J-23 住一括	深鉢	普通	砂粒混入	口縁部破片	4 単位小波状口縁深鉢と想定される。口縁部、波頂部下位に 3 条の縦位弧状沈線施文。その両脇には端部に円形刺突を伴う横位沈線を巡らす。胴部、列点状斜位短沈線を伴う縦位隆帯で区画する。区画内には縦位沈線を施す。	堀之内 1

A区 J － 23 号住居址周辺

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
1	J-23 住周辺	深鉢	普通	砂粒・白色鉱物・褐色礫混入	口縁部～胴部 2/3	6単位構成の口縁部文様帯。縦位ないし斜位の短沈線を、隆帯と沈線の組み合わせにより枠状に区画。単位部分に渦巻文。胴部上位は無文帯、胴部中位以下に胴部文様帯。単節 RL の縦位回転押捺による縄文地紋。胴部文様帯上端を2条の横位沈線で区画。横位沈線より、1条の蛇行文ないし2条1組の縦位沈線が垂下する。縦位沈線には、剣先文に類似のモチーフが付随する。	中期後葉
2	J-23 住周辺	深鉢	普通	砂粒・褐色礫混入	口縁部破片	ほぼ直立する平口縁か。口端部直下に幅の狭い無文帯を巡らす。隆帯と沈線により口縁部文様帯を区画する。区画内には棒状工具による斜位沈線を施す。頚部は無文。	加曽利 E Ⅰ
3	J-23 住周辺	深鉢	普通	砂粒・雲母混入	口縁部破片	口端部直下に幅の狭い無文帯を巡らす。隆帯と沈線により口縁部文様帯を区画する。区画内には単節 RL 縄文施文。	加曽利 E Ⅰ～Ⅱ
4	J-23 住周辺	深鉢	普通	砂粒・褐色礫混入	口縁部～胴部破片	沈線と隆帯により口縁部文様帯を区画する。区画連結部には渦巻き状隆帯を配す。区画内は単節 RL 縄文施文。胴部、単節 RL 縄文施文後、丸棒状工具による 2 条一組の縦位沈線を垂下させる。沈線間磨り消し。	加曽利 E Ⅱ
5	J-23 住周辺	深鉢	普通	砂粒混入	胴部破片	4 単位波状口縁か。波頂部と波底部に橋状把手を施す。把手状又は周辺には棒状工具による弧状・渦巻き状の沈線を施す。胴部は撚り糸施文後、棒状工具による弧状・U 字状沈線を施す。	加曽利 E
6	J-23 住周辺	深鉢	普通	砂粒・褐色礫・雲母混入	口縁部破片	4 単位波状口縁と想定される。波頂部と波底部に橋状把手を施す。把手状又は周辺には棒状工具による弧状・渦巻き状・直線状等沈線を施す。遺存部最下位付近には沈線が認められるため、ﾓﾁｰﾌは不明であるが、胴部は沈線により区画されている可能性がある。	加曽利 E
7	J-23 住周辺	深鉢	普通	砂粒・白色鉱物混入	胴部破片	深鉢の頚部付近が遺存する。頚部に 1 条の横位隆帯を巡らす。隆帯より上位は無文。下位は撚り糸施文後、棒状工具による沈線で円形ﾓﾁｰﾌに区画。	加曽利 E

第 252 表　二軒在家原田Ⅱ遺跡Ａ区縄文時代住居址出土遺物観察表（16）

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
8	J-23 住周辺	深鉢	普通	砂粒混入	胴部破片	撚り糸施文後、弧状（一部は渦巻き状か）隆帯を施す。	加曽利Ｅ
9	J-23 住周辺	深鉢	普通	砂粒・褐色礫混入	胴部破片	撚り糸施文後、棒状工具による弧状・U 字状沈線を施す。	加曽利Ｅ
10	J-23 住周辺	深鉢	普通	砂粒・褐色礫混入	胴部破片	撚り糸施文後、棒状工具による弧状・E 字状沈線を施す。9 と同一個体。	加曽利Ｅ
11	J-23 住周辺	深鉢	普通	砂粒・雲母混入	胴部破片	撚り糸を施す。	加曽利Ｅ
12	J-23 住周辺	小型深鉢	普通	砂粒混入	胴部 1/2	棒状工具による 2 条 1 組の縦位沈線により 4 単位に区画。さらに波状の縦位沈線にて区画内を分割する。区画内は櫛歯状工具による縦位・斜位短線文で充填するが、上部は横位短線文を用いる。	加曽利Ｅ
13	J-23 住周辺	深鉢	普通	砂粒混入	胴部破片	胴部最下位が遺存する。撚り糸施文後、2 条一組又は単一の縦位隆帯で区画する。8 と同一個体か。	加曽利Ｅ
14	J-23 住周辺	浅鉢	良好	砂粒・雲母混入	口縁部破片	加曽利Ｅ式期古段階の浅鉢と想定される。内外面共に赤色塗彩。	加曽利ＥⅠ～Ⅱ
15	J-23 住周辺	浅鉢	良好	砂粒混入	口縁部破片	加曽利Ｅ式期古段階波状口縁浅鉢の口縁部と想定される。外面は無文。内面、渦巻き状・弧状沈線を施す。	加曽利Ｅ
16	J-23 住周辺	鉢または壺？	普通	砂粒混入	口縁部破片	胴部上位から口縁部が内反する鉢又は壺か。口縁部は波状を呈し、一部に把手を配す。一部欠損するが、把手上面には渦巻き状沈線を施す。また剥落痕の状況より、把手の一部から胴部上位へ橋状貼付文が施されていた可能性がある。胴部は撚り糸施文後、一部に棒状工具による縦位沈線施文。	加曽利Ｅ併行
17	J-23 住周辺	深鉢	良好	砂粒・褐色礫混入	胴部下位～底部 1/10	棒状工具による浅い 2 条一組の縦位沈線により、胴部を 4 単位に区画する。区画内には単節 RL 縄文施文。底部の一部に網代痕か。	加曽利Ｅ
18	J-23 住周辺	深鉢	普通	砂粒混入	口縁部破片	深鉢の把手と考えられる。遺存部上半は六角錐状を呈する。各面の境界には隆帯を施し区画する。区画内には渦巻き状・弧状・直線状等の沈線を施す。遺存部下半外面は橋状を呈すると考えられる。加曽利Ｅ式期古段階併行の中部高地系土器か。	中期後半（中部高地系？）
19	J-23 住周辺	器台？	良好	砂粒混入	下半部 1/5	六角形の器台か。約半周、3 面が遺存する。各面の境界には縦位隆帯を施し区画する。遺存部両端の面には孔が 1 基ずつ遺存する。	加曽利Ｅ

A区Ｊ－25 号住居址

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
1	J-25 住ベルト一括	深鉢	普通	砂粒・角閃石混入	胴部破片	半截竹管状工具押し引きによる横位爪形文と、浮線文を並行して交互に配す。	諸磯ｂ
2	J-25 住 7 区 1 層	深鉢	普通	砂粒混入	口縁部破片	口端部は「く」の字に屈曲する。遺存部においては縄文施文後、櫛歯状工具による 4 条単位の横位沈平行沈線を施す。	諸磯ｂ
3	J-25 住 2 区 1 層	深鉢	普通	砂粒混入	底部破片	半截竹管状工具による平行沈線を矢羽状に配した後、2 個単位の円形状貼付文を施す。	諸磯

A区Ｊ－26 号住居址

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
1	J-26 住南北ベルト（炉 2 周辺）	深鉢	普通	砂粒・白色礫・植物繊維混入	口縁部破片	4 単位波状口縁深鉢と想定される。口縁部上位には櫛歯状工具による列点状刺突文を口縁に並行して巡らす。その下位は列点状刺突を斜位に施す。	有尾・黒浜
2	J-26 住一括	深鉢	普通	砂粒・褐色礫・植物繊維混入	口縁部破片	4 単位波状口縁深鉢と想定される。口縁部上位には櫛歯状工具による縦位列点状刺突文を巡らす。口縁部文様帯は同工具による列点状刺突により、三角形又は菱形のﾓﾁｰﾌとすると考えられる。	有尾・黒浜
3	J-26 住南北ベルト（炉 2 周辺）	深鉢	普通	砂粒・白色礫・植物繊維混入	胴部破片	口縁部付近が遺存か。櫛歯状工具による列点状刺突を斜位に施す。文様ﾓﾁｰﾌは三角形又は菱形か。	有尾・黒浜
4	J-26 住 D-1 土	深鉢	普通	砂粒・褐色礫・植物繊維混入	胴部破片	半截竹管状工具押し引きによる爪形文を斜位に施す。押し引きの圧が弱い部分は列点状を呈す。	有尾・黒浜
5	J-26 住一括	深鉢	普通	砂粒・褐色礫・植物繊維混入	胴部破片	口縁部下位から胴部上位にかけての頚部（器形変換点）付近が遺存する。口縁部、櫛歯状工具による列点状刺突を斜位に施す。文様ﾓﾁｰﾌは三角形又は菱形か。頚部付近には列点状刺突を横位に巡らす。	有尾・黒浜
6	J-26 住周溝一括	深鉢	普通	砂粒・植物繊維混入	胴部破片	付加条縄文施文。	有尾・黒浜
7	J-26 住周溝一括	深鉢	普通	砂粒・植物繊維混入	胴部破片	単節 RL 縄文（一部には環付末端縄使用）横転がしにより羽状縄文を構成する。	有尾・黒浜

第 253 表　二軒在家原田Ⅱ遺跡Ａ区縄文時代住居址出土遺物観察表（17）

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
8	J-26 住南北ﾍﾞﾙﾄ (炉 2 周辺 ?)	深鉢	良好	砂粒・白色鉱物混入	口縁部破片	内面口端部直下に稜状の横位隆帯を巡らす。外面、隆帯と浅い沈線により口縁部文様帯を隅丸長方形に区画する。区画内及び胴部には無節Ｌ縄文施文。	加曽利Ｅ
9	J-26 住南北ﾍﾞﾙﾄ (炉 2 周辺)	深鉢	普通	砂粒・白色鉱物・雲母混入	胴部破片	沈線を伴う隆帯により区画する（渦巻き状区画か）。区画内には棒状工具による沈線を施す。	加曽利Ｅ併行
10	J-26 住 D-1 土	深鉢	普通	砂粒混入	胴部破片	鱗状沈線を施す。	加曽利Ｅ （郷土系？）
11	J-26 住 D-1 土	深鉢	普通	砂粒・雲母混入	胴部破片	縦位基調撚り糸施文後、蛇行隆帯を垂下させる。	加曽利ＥⅠ～Ⅱ

A区Ｊ－27b 号住居址

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
1	J-27b 住床直 NO1	深鉢	普通	砂粒・褐色礫混入	胴部下位～底部 1/10	底部が外反する。数条の細い縦位沈線により、胴部を 4 単位に区画する。区画内には単節 RL 縄文施文。底部網代痕。内面におこげ状炭化物付着。	加曽利Ｅ
2	J-27b 住 D-1 土	深鉢	普通	砂粒・白色鉱物・石英・角閃石混入	口縁部～胴部 2/3	平口縁。口縁部に2個一対の突起4単位か。口縁～胴部単節 RL 縄文を横・斜位施文→口縁部浮線文による楕円形区画を施文し、横位に連繋させる。区画内、および胴部下端には同様の手法で横位の浮線文を施文。浮線文上面にはヘラ状工具によるキザミを加える。内面は横位のミガキ。	諸磯ｂ
3	J-27b 住 D-3 土	深鉢	普通	砂粒・角閃石混入	胴部破片	遺存部においては縄文施文。上部、わずかに半載竹管状工具押し引きによる横位爪形文が残る。	諸磯ｂ

A区Ｊ－27 号住居址

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
1	J-27 住 11 区ﾍﾞﾙﾄ 2 層	深鉢	普通	砂粒・白色鉱物・雲母混入	口縁部破片	胴部上位に於いて顕著に内屈する 4 単位波状口縁と想定される。棒状貼付文に半截竹管状工具による刺突を加えた浮線文状貼付文（一部は結節浮線文状）を施す。また波頂部下位には楕円形貼付文を配す。	諸磯ｂ
2	J-27 住 8 区 1 層	深鉢	普通	砂粒・白色鉱物混入	胴部破片	縄文（単節ＲＬか）施文後、横位・斜位・弧状等浮線文を施す。	諸磯ｂ
3	J-27 住 8 区 1 層	深鉢	良好	砂粒・白色鉱物混入	胴部破片	縄文（無節Lか）施文後、横位直線状、弧状等浮線文を施す。一部の浮線文間には細めの棒状工具による列点状刺突文を施す。	諸磯ｂ
4	J-27 住 7 区 1 層	深鉢	普通	砂粒混入	胴部破片	4 単位波状口縁深鉢の胴部上位内屈部分付近と想定される。縄文（単節 RL?）施文後、斜位弧状浮線文により区画する。さらに一部の区画内に円形刺突文を配す。	諸磯ｂ
5	J-27 住 15 区 2 層	深鉢	良好	砂粒混入	胴部破片	単節 RL 縄文施文後、櫛歯状工具による横位平行沈線施文。さらに円形刺突文を縦位に配す。	諸磯ａ～ｂ
6	J-27 住 14 区 2 層	深鉢	普通	砂粒・褐色礫混入	口縁部破片	4 単位波状口縁深鉢波頂部（把手）。細めの半截竹管状工具による平行沈線を、外面は縦位に、側面は横位・斜位・縦位弧状に施す。上面には刺突文施文。また内面には最低 2 箇所の抉りが認められる。	諸磯ｂ
7	J-27 住 10 区 1 層	深鉢	普通	砂粒・褐色礫混入	口縁部破片	4 単位波状口縁深鉢波頂部（把手）。側面に細めの半截竹管状工具による縦位・斜位平行沈線を施す。一部には同工具による列点状刺突（結節浮線文状）施文。内外面は無文。	諸磯ｂ～ｃ
8	J-27 住 10 区 1 層	深鉢	良好	砂粒・白色鉱物・雲母混入	胴部破片	単節 RL 縄文施文後、細めの半截竹管状工具による平行沈線を横位・斜位に施す。	諸磯ｂ
9	J-27 住 12 区ﾍﾞﾙﾄ 1 層	深鉢	普通	砂粒混入	胴部破片	単節 RL 縄文施文後、細めの半截竹管状工具による平行沈線を横位・弧状又は渦巻き状に施す。	諸磯ｂ
10	J-27 住 6 区ﾍﾞﾙﾄ 1 層	深鉢	普通	砂粒・雲母混入	底部破片	棒状貼付文を横位に巡らし、単節 LR 縄文を押圧する。	諸磯ｂ
11	J-27 住 6 区ﾍﾞﾙﾄ 1 層	深鉢	普通	砂粒・褐色礫混入	口縁部破片	内面口端部直下に稜状の隆帯を巡らし、口端部上面が平滑である。細めの半截竹管状工具による平行沈線を横位・斜位（矢羽根状）に施す。さらに一部に円形貼付文を配す。	諸磯ｃ
12	J-27 住 3 区 1 層	深鉢	普通	砂粒・雲母混入	口縁部破片	口端部上面と外面の境界稜上に結節浮線文を巡らす。口縁部から胴部、細めの半截竹管状工具による平行沈線を斜位（矢羽根状）に施し、円形刺突文を伴う円形貼付文を縦位に配す。	諸磯ｃ
13	J-27 住 15 区 2 層	深鉢	良好	砂粒・褐色礫混入	口縁部破片	単節 RL 縄文施文後、口端部直下に圧痕・刺突を伴う横位隆帯を巡らす。さらに一部に棒状貼付文を施す。	諸磯ｃ

第 254 表　二軒在家原田Ⅱ遺跡Ａ区縄文時代住居址出土遺物観察表（18）

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
14	J-27 住 6 区 2 層	深鉢	普通	砂粒・白色鉱物・褐色礫混入	胴部破片	半截竹管状工具による平行沈線で横位に区画する。区画内に同工具による縦位直線状・弧状、横位直線状平行沈線を施す。	諸磯 c
15	J-27 住 15 区 1 層	ﾐﾆﾁｭｱ土器	普通	砂粒混入	胴部～底部 2/3	半截竹管状工具による平行沈線を矢羽根状に配した後、耳状貼付文を千鳥状に付す。	諸磯 c
16	J-27 住 2 区ﾍﾞﾙﾄ 1 層	深鉢	普通	砂粒・褐色礫混入	口縁部破片	口端部直下に半截竹管状工具押し引きによる横位結節浮線文と、刺突文を伴う横位隆帯を各 1 条巡らす。さらに一部に結節浮線文を施す横位棒状貼付文施文。胴部、半截竹管状工具による横位平行沈線施文後、結節浮線文（一部は同工具による刺突文状を呈する）を施す縦位・横位棒状貼付文を配す。	諸磯 c
17	J-27 住 3 区 1 層	深鉢	普通	砂粒・雲母混入	口縁部破片	半截竹管状工具による斜位基調平行沈線施文後、口端部直下に 2 条の横位結節浮線文を巡らす。さらに一部に 2 個一対の円形貼付文を配す。	諸磯 c
18	J-27 住 10 区 2 層・11 区ﾍﾞﾙﾄ 2 層	深鉢	普通	砂粒混入	胴部破片	渦巻き状結節浮線文を施す。	諸磯 c
19	J-27 住 11 区ﾍﾞﾙﾄ 2 層	深鉢	良好	砂粒・白色鉱物混入	胴部破片	横位細沈線施文後、横位・斜位結節浮線文で区画する。遺存部上位は目玉状ﾓﾁｰﾌの一部と考えられる。さらに一部の区画内に円形貼付文を配す。	諸磯 c
20	J-27 住 6 区ﾍﾞﾙﾄ 1 層・7 区 2 層	深鉢	良好	砂粒・ﾁｬｰﾄ・片岩混入	胴部破片	横位細沈線施文後、縦位･斜位結節浮線文を施す。	諸磯 c
21	J-27 住 15 区 1 層	深鉢	良好	砂粒・褐色礫混入	胴部破片	横位細沈線施文後、横位結節浮線文により区画する。区画内には斜位弧状（全体的には目玉状ﾓﾁｰﾌか）結節府線文を施す。さらに一部に円形貼付文を配す。	諸磯 c
22	J-27 住 1 区 2 層	深鉢	良好	砂粒・雲母混入	胴部破片	沈線により菱形に区画するものと思われる。区画内に貝殻腹縁文を施す。瘤状貼付文の剥離痕あり	興津
23	J-27 住 15 区 1 層	深鉢	普通	砂粒・褐色礫混入	胴部破片	細めの半截竹管状工具による平行沈線で横位に区画後、刺突文を施す。	浮島
24	J-27 住 8 区 1 層・14 区 2 層・14 区 3 層	深鉢	普通	砂粒・褐色礫混入	口縁部～胴部 1/10	ほぼ直立する平口縁と想定される。口縁部～胴部上半、半截竹管状工具による横位平行沈線により区画し、区画内には同工具による鋸歯状沈線を施す。胴部下半、半截竹管状工具による縦位直線状・弧状、斜位直線状沈線を施す。	前期後葉？
25	J-27 住 2 区 1 層	深鉢	普通	砂粒混入	胴部破片	細めの半截竹管状工具による平行沈線（半隆起線状を呈する）で横位に区画後、菱形・三角形をﾓﾁｰﾌとし斜位沈線を施す。さらに菱形ﾓﾁｰﾌの中心・斜位沈線の一部に印刻文を施す。	十三菩提
26	J-27 住 9 区 1 層	深鉢	良好	砂粒混入	口縁部破片	波状口縁に沿って結節浮線文を配す。遺存部中位、横位浮線文にて区画し、下位に弧状浮線文を施す。口縁下に三角形印刻文。	十三菩提
27	J-27 住 6 区 1 層	深鉢	良好	砂粒混入	胴部破片	半截竹管状工具による平行沈線と結節浮線文を横位直線状に施し区画。内側に同工具による結節浮線文を連続して山形に描き一部、三角形印刻文を千鳥状に配す。26 と同一個体か。	十三菩提
28	J-27 住 9 区 1 層	深鉢	良好	砂粒混入	胴部破片	半截竹管状工具による平行沈線と結節浮線文を横位直線状に施し区画。内側に同工具による結節浮線文を連続して山形に描き一部、三角形印刻文を千鳥状に配す。26 と同一個体か。	十三菩提
29	J-27 住 11 区ﾍﾞﾙﾄ 2 層	深鉢	普通	砂粒・褐色礫混入	胴部破片	半截竹管状工具による平行沈線（半隆起線状を呈する）、平行沈線＋短沈線、結節浮線文を横位直線状または斜位弧状に施し区画する。一部に三角形印刻文を配す。	十三菩提
30	J-27 住 6 区 3 層	深鉢	普通	砂粒混入	胴部破片	半截竹管状工具による横位平行沈線を施した後、同工具押し引きによる爪形文を斜位・縦位弧状に配す。	十三菩提
31	J-27 住 11 区 1 層・12 区 1 層	深鉢	普通	砂粒・金雲母混入	胴部破片	半截竹管状工具による平行沈線で横位に区画する。区画内には同工具による格子目状・縦位沈線を施す。遺存部最下位の区画には縄文施文（不明瞭）。	五領ヶ台
32	J-27 住 8 区 1 層	深鉢	普通	砂粒混入	口縁部破片	半截竹管状工具による平行沈線を斜格子状に施す。	前期末葉
33	J-27 住 11 区 1 層	深鉢	良好	砂粒・白色鉱物・ﾁｬｰﾄ	口縁部～胴部 4/5	ｷｬﾘﾊﾟｰ形を呈する。口縁部 6 単位、胴部 4 単位の文様。口縁部に枠状区画、蕨手状文を伴う剣先文。胴部4単位の文様。地文に縦位回転押捺による撚糸文L。2 本 1 組の隆帯が垂下。内面、横位ないし斜位のナデ。	中期後葉
34	J-27 住土器集中 NO10	深鉢	良好	砂粒・褐色礫・黒色鉱物混入	口縁部～胴部 1/10	ほぼ直立する平口縁と想定される。隆帯と沈線により口縁部文様帯を区画する。区画内には丸棒状工具による縦位沈線を施す。胴部、2 条一組の縦位隆帯により区画する。区画内には丸棒状工具による縦位～斜位沈線を施す。	加曽利ＥⅡ

第 255 表　二軒在家原田Ⅱ遺跡Ａ区縄文時代住居址出土遺物観察表（19）

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
35	J-27 住土器集中 NO6・一括	深鉢	普通	砂粒・白色鉱物混入	口縁部～胴部下位 2/5	やや内反する平口縁。口縁部、隆帯と沈線により半円形に区画する。区画は 10 単位か。区画内及び胴部には、単節 RL 縄文横転がし。内面下位（遺存部の 1/4 程度）におこげ状炭化物付着。	加曽利ＥⅡ
36	J-27 住 11 区 1 層	深鉢	普通	砂粒・雲母混入	胴部～底部破片	隆帯と沈線により口縁部文様帯を区画する。区画は半円形を基調とする。区画内には丸棒状工具による縦位沈線を施す。胴部には縦位沈線を施す。内面口端部直下に稜状を呈する隆帯を巡らす。	加曽利ＥⅡ
37	J-27 住土器集中 No3・11 区 1 層	深鉢	普通	砂粒・褐色礫混入	口縁～胴部 1/5	ほぼ直立する平口縁。隆帯と沈線により口縁部文様帯を区画する。区画内には丸棒状工具による縦位沈線を施す。胴部は2条一組の縦位隆帯により区画し、さらに縦位波状の隆帯 1 条を等間隔に配す。区画内には丸棒状工具による縦位沈線を施す。	加曽利E
38	J-27 住集中 NO8・集中 NO13・11 区 1 層	深鉢	普通	砂粒・褐色礫混入	口縁部～胴部 1/10	やや内反する平口縁。口端部内面が稜状を呈する。棒状工具による縦位沈線を施す。	中期後葉
39	J-27 住土器集中 NO4	深鉢	良好	砂粒混入	口縁部～胴部 1/8	4 単位の渦巻き状モチーフ把手を有する。把手の両側面には逆 C 字状沈線施文。胴部撚り糸施文。	加曽利ＥⅠ併行？
40	J-27 住土器集中 No5	深鉢	普通	砂粒・褐色礫混入	胴部～底部 1/3	2 条 1 組の縦位隆帯により胴部を区画。内側に棒状工具による縦位沈線を施した後、波状隆帯を配す。底面に網代痕。	加曽利Ｅ
41	J-27 住土器集中	深鉢	普通	砂粒・雲母混入	口縁部破片	ほぼ直立する平口縁か。口縁部、外面は幅の狭い無文帯。その下位には列点状刺突を伴う横位隆帯を巡らす。内面には稜状隆帯を巡らす。胴部、列点状刺突を伴う縦位隆帯で区画し、区画内には棒状工具による縦位沈線を施す。さらに一部に横位弧状沈線施文。	加曽利Ｅ
42	J-27 住土器集中	深鉢	普通	砂粒混入	口縁部破片	半截竹管状工具による縦位基調平行沈線を施す。	加曽利Ｅ併行
43	J-27 住 11 区 1 層	土製耳飾	普通	砂粒・白色鉱物・褐色礫混入	3/4 残存	片面刺突文、もう片面に渦巻文。ナデ。	中期後葉
44	J-27 住 7 区 2 層	深鉢	普通	砂粒・植物繊維混入	口縁部破片	単節 RL 縄文施文後、半截竹管状工具による平行沈線を口縁部上位は横位に、口縁部は菱形に施す。	有尾
45	J-27 住 5 区 1 層	深鉢	良好	砂粒混入	口縁部破片	称名寺式期波状口縁深鉢波頂部（把手）と想定される。隆帯を立体的に交差させ、把手部を構成する。胴部、縄文（不明瞭）施文後、隆帯と沈線により区画する。	称名寺
46	J-27 住 1 区 2 層	深鉢	普通	砂粒混入	底部破片	外面、遺存部においては無文。底部網代痕。	後期？

A区Ｊ－30 号住居址

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
1	J-30 住炉体土器	深鉢	普通	砂粒・褐色礫混入	口縁部～胴部 1/4	隆帯と沈線により口縁部文様帯を区画する。区画は 6 単位と想定される。区画内には縄文（無節 R と L の R への合撚？）施文。区画連結部には渦巻き状モチーフを配す。胴部、縄文施文後、区画連結部下位に 3 条一組の縦位沈線と 1 条の蛇行沈線を交互に施す。	加曽利ＥⅡ
2	J-30 住一括	深鉢	普通	砂粒・白色鉱物・灰色礫混入	口縁部破片	隆帯と沈線により口縁部文様帯を半月形に区画する。区画内には縦位沈線を施す。胴部には単節 RL 縄文施文。	加曽利ＥⅡ
3	J-30 住 4 区 1 層	深鉢	良好	砂粒・雲母混入	口縁部破片	隆帯と沈線により口縁部文様帯を区画する。区画内には縦位沈線施文か。区画連結部には渦巻き状沈線を配す。	加曽利ＥⅠ～Ⅱ
4	J-30 住 4 区 1 層	深鉢	普通	砂粒・雲母混入	口縁部破片	沈線により口縁部文様帯を区画する。区画内には撚り糸施文。	加曽利Ｅ
5	J-30 住 2 区 1 層	深鉢	良好	砂粒・雲母混入	胴部破片	深鉢の口縁部文様帯下位～頚部が遺存する。隆帯と沈線により口縁部文様帯を区画する。頚部には単節 RL 縄文施文。	加曽利ＥⅠ～Ⅱ
6	J-30 住一括	深鉢	普通	砂粒・灰色礫混入	胴部破片	単節 RL 縄文施文後、丸棒状工具による沈線で区画する。	加曽利Ｅ
7	J-30 住 4 区 1 層	深鉢	普通	砂粒・褐色礫・雲母混入	胴部破片	単節 RL 縄文施文後、丸棒状工具による沈線で区画する。	加曽利Ｅ
8	J-30 住 2 区 1 層	鉢	普通	砂粒・灰色礫混入	体部破片	体部が内屈する鉢と想定される。屈曲部上位、単節 LR 縄文施文後、丸棒状工具による沈線を施す。屈曲部下位は無文。	加曽利ＥⅠ～Ⅱ
9	J-30 住一括	鉢	普通	砂粒・灰色礫混入	胴部破片	無文で粗いミガキを施す。口縁部はやや肥厚し、頸部は緩く屈曲する。	加曽利E
10	J-30 住 4 区 1 層	鉢	良好	砂粒・褐色礫混入	口縁部破片	加曽利Ｅ式期古段階の鉢と想定される。遺存部においては内外面無文。また内外面共に赤色塗彩を施す。	加曽利ＥⅠ～Ⅱ

第 256 表　二軒在家原田Ⅱ遺跡Ａ区縄文時代住居址出土遺物観察表（20）

A区J－32号住居址

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
1	J-32 住 4 区 1 層	注口土器（深鉢）	良好	砂粒・チャート・植物繊維混入	口縁部～胴部 3/4	2 単位波状口縁を呈する。胴部に単節 LR 縄文施文。口縁部直下に横位隆帯を添付後、口端部から横位隆帯にかけて縦位隆帯を配す。また、隆帯間にナデを施す。	黒浜
2	J-32 住 4 区 1 層	深鉢	普通	砂粒・植物繊維混入	口縁部～胴部 1/4	やや外反する平口縁。縄文（単節 RL と直前段合撚の結束縄文？）横転がし。	有尾・黒浜
3	J-32 住 1 区 1 層	深鉢	普通	砂粒・白色礫・植物繊維混入	口縁部～胴部 1/10	やや外反する平口縁と想定される。単節 RL と LR 縄文横転がし。	有尾・黒浜
4	J-32 住 1 区ﾍﾞﾙﾄ・2 区ﾍﾞﾙﾄ・3 区 1 層	深鉢	普通	砂粒・ﾁｬｰﾄ・白色礫・褐色礫混入	口縁部破片	やや外反する 4 単位波状口縁と想定される。波底部付近には三角形の小把手を複数配す。口縁部、櫛歯状工具による縦位列点状刺突を施す。また、単節 RL 羽状縄文施文後、同工具による列点状刺突を口縁に並行するように施す。	有尾古段階
5	J-32 住 4 区 1 層	深鉢	普通	砂粒・植物繊維混入	口縁部破片	4 単位波状口縁深鉢の口縁部か。無節縄文施文。	有尾・黒浜
6	J-32 住 2 区 1 層	深鉢	良好	砂粒・褐色礫・チャート・植物繊維混入	口縁部破片	組紐施文後、口縁部に棒状工具による縦位沈線を施す。	関山Ⅱ
7	J-32 住 4 区 1 層	深鉢	普通	砂粒・褐色礫・植物繊維混入	口縁部～胴部 1/10	半截竹管状工具押し引きによる爪形文を口縁に並行して 4 条 (?) 施す。また頚部には 2 又は 3 条横位に巡らす。その間は斜位に施し菱形・三角形の文様構成とする。胴部には単節 RL 縄文施文。	有尾
8	J-32 住 2 区ﾍﾞﾙﾄ	深鉢	普通	砂粒・白色鉱物・植物繊維混入	口縁部破片	櫛歯状工具による縦位列点状刺突を口縁に並行して施す。頚部には同工具による列点状刺突を横位に巡らす。その間は斜位に施し菱形・三角形の文様構成とする。	有尾
9	J-32 住 2 区 1 層	深鉢	良好	砂粒・褐色礫・植物繊維混入	口縁部破片	4 単位波状口縁深鉢の波底部付近か。半截竹管状工具押し引きによる爪形文を横位・斜位に巡らす。	有尾
10	J-32 住 2 区 1 層	注口？	良好	砂粒・植物繊維混入	口縁部破片	黒浜式期の注口土器か。口端部直下に 2 条の隆帯を巡らし、一部縦位隆帯で連結する。胴部、半截竹管状工具押し引きによる爪形文を施す。	黒浜
11	J-32 住 4 区 1 層	深鉢	良好	砂粒・褐色礫・植物繊維混入	口縁部破片	半截竹管状工具押し引きによる爪形文を口縁に並行して 5 条施す。	有尾・黒浜
12	J-32 住 4 区 1 層	深鉢	普通	砂粒・黒色礫・植物繊維混入	口縁部破片	口端部、櫛歯状工具による縦位列点状刺突を施す。その下位には半截竹管状工具による平行沈線（半隆起線状を呈する）、同工具押し引きによる爪形文を巡らす。さらに櫛歯状工具による列点状刺突を縦位・斜位に施し区画する。	有尾
13	J-32 住 2 区 1 層	深鉢	普通	砂粒・雲母・植物繊維混入	口縁部破片	口縁部、櫛歯状工具による横位平行沈線施文後、同工具による列点状刺突を横位・縦位に方眼状に施す。胴部、単節 RL 縄文施文。	有尾・黒浜
14	J-32 住 1 区ﾍﾞﾙﾄ	深鉢	普通	砂粒・植物繊維混入	口縁部破片	4 単位波状口縁の波頂部が遺存すると想定される。単節 RL 縄文施文後、櫛歯状工具による縦位列点状刺突を口縁に並行して施す。	有尾・黒浜
15	J-32 住 4 区 1 層	深鉢	普通	砂粒・白色礫・植物繊維混入	胴部破片	胴部中位から下位片と想定される。単節 LR 縄文施文。	有尾・黒浜
16	J-32 住 4 区 1 層	深鉢	普通	砂粒・褐色礫・植物繊維混入	胴部破片	胴部上位片と想定される。半截竹管状工具押し引きによる爪形文を横位に巡らす。その下位には単節 RL と LR による菱形状ﾓﾁｰﾌの縄文施文。	有尾・黒浜
17	J-32 住 2 区 1 層	深鉢	普通	砂粒・石英・植物繊維混入	胴部破片	深鉢の頚部から胴部上位が遺存。頚部には半截竹管状工具押し引きによる爪形文を横位に巡らす。胴部には縄文（無節 R と L の結束縄文か）施文。	有尾・黒浜
18	J-32 住 1 区ﾍﾞﾙﾄ	深鉢	普通	砂粒・植物繊維混入	胴部破片	単節 RL 環付末端縄横転がし。	有尾・黒浜
19	J-32 住 1 区ﾍﾞﾙﾄ	深鉢	普通	砂粒・植物繊維混入	胴部破片	半截竹管状工具押し引きによる爪形文を横位・斜位直線状、弧状に施す。遺存部下半は単節 RL 縄文施文。	有尾・黒浜
20	J-32 住 1 区ﾍﾞﾙﾄ	深鉢	普通	砂粒・植物繊維混入	胴部破片	口縁部付近が遺存すると想定される。櫛歯状工具による斜位平行沈線施文後、同工具による列点状刺突を施す。文様ﾓﾁｰﾌは菱形又は三角形か。	有尾
21	J-32 住 1 区ﾍﾞﾙﾄ	深鉢？	普通	砂粒・植物繊維混入	底部破片	底部上げ底状を呈する。底部より外側に広がる器形が想定される。遺存部においては無文。	有尾・黒浜
22	J-32 住 1 区 1 層	深鉢	普通	砂粒・褐色礫・植物繊維混入	底部破片	底部やや上げ底状を呈する。単節 RL 縄文施文。	有尾・黒浜
23	J-32 住 1 区 1 層	深鉢	普通	砂粒・白色礫・チャート・植物繊維混入	底部破片	底部やや上げ底状を呈する。単節 RL 縄文施文。	有尾・黒浜
24	J-32 住 1 区 1 層	深鉢	普通	砂粒・植物繊維混入	底部破片	底部上げ底状を呈する。無節 R 縄文施文。	有尾・黒浜
25	J-32 住 3 区 1 層	土製円板	普通	砂粒・白色鉱物混入	胴部破片を再利用	沈線により区画。一部に単節 RL 縄文施文。周囲を研磨。	加曽利 E

第 257 表　二軒在家原田Ⅱ遺跡 A 区縄文時代住居址出土遺物観察表（21）

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
26	J-32 住 3 区 1 層	土製円板	良好	砂粒・白色鉱物混入	胴部破片を再利用	遺存部においては無文。周囲を研磨。	中期後葉？
27	J-32 住 3 区 1 層	深鉢	普通	砂粒混入	胴部破片	2 条の並行する深めの沈線で区画し、沈線間に短沈線施文。	称名寺
28	J-32 住 3 区 1 層	深鉢	普通	砂粒・雲母混入	胴部破片	横位・斜位沈線により区画する。文様のﾓﾁｰﾌは三角形か。一部の区画内には単節 RL 縄文施文。さらに 8 字状貼付文を施す。	堀之内 2
29	J-32 住 3 区 1 層	深鉢	良好	砂粒混入	胴部破片	横位・斜位沈線により区画する。文様のﾓﾁｰﾌは三角形か。一部の区画内には単節 RL 縄文施文。	堀之内 2
30	J-32 住 3 区 1 層	深鉢	良好	砂粒・雲母混入	胴部破片	横位・斜位沈線により区画する。文様のﾓﾁｰﾌは三角形か。一部の区画内には単節 LR 縄文充填。	堀之内 2
31	J-32 住 3 区 1 層	深鉢	良好	砂粒・白色鉱物・雲母混入	胴部破片	沈線により区画し、一部の区画内には単節 LR 縄文施文。	堀之内 2
32	J-32 住 3 区 1 層	深鉢	良好	砂粒混入	胴部破片	沈線により菱形に区画する。一部の区画内には単節 LR 縄文施文。	堀之内 2
33	J-32 住 D-1 土	深鉢	普通	砂粒・白色鉱物・雲母混入	底部破片	外面、遺存部においては無文。底部網代痕。	後期？

A区 J － 33 号住居址

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
1	J-33 住 2 区 1 層	深鉢	普通	砂粒・雲母混入	口縁部破片	口縁部に無文帯を有する。胴部、縦位隆帯により区画し、単節 LR 縄文施文区画と無文区画を交互に配す。	加曽利 E Ⅳ
2	J-33 住炉	深鉢	普通	砂粒・灰色礫混入	口縁部破片	口縁部に無文帯を有する。胴部に単節 LR 縄文施文。	加曽利 E Ⅳ
3	J-33 住炉	深鉢	良好	砂粒・白色鉱物・雲母混入	口縁部破片	口縁部に無文帯を有する。胴部に単節 RL 縄文施文。	加曽利 E Ⅳ
4	J-33 住炉	深鉢	普通	砂粒・白色鉱物・灰色礫混入	胴部～底部1/ 4	遺存部上位、棒状工具による斜位沈線を施す。底面に網代痕。	加曽利 E
5	J-33 住 D-1 土	深鉢	良好	砂粒混入	口縁部破片	口縁部に細めの横位圧痕隆帯を巡らし、一部に口端部より刺突を伴う貼付文を垂下させる。胴部、沈線で区画し、一部の区画内に単節 LR 縄文充填。沈線による区画は三角形ﾓﾁｰﾌと考えられる。	堀之内 2
6	J-33 住 D-1 土	深鉢	良好	砂粒・白色鉱物混入	胴部破片	縦位・斜位沈線で区画し、一部の区画内に単節 RL 縄文施文。沈線による区画は三角形ﾓﾁｰﾌと考えられる。	堀之内 2

A区 J － 34 号住居址

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
1	J-34 住 3 区 2 層・7 区 2 層	深鉢	普通	砂粒・白色鉱物・片岩・植物繊維混入	口縁部破片	波底部に小突起を有する 4 単位波状口縁と想定される。半截竹管状工具押し引きによる爪形文を口縁に並行して施す。その下位には渦巻き状・斜位直線状等爪形文を施す。	有尾
2	J-34 住 9 区 1 層	深鉢	普通	砂粒・ﾁｬｰﾄ・片岩・植物繊維混入	口縁部破片	4 単位波状口縁と想定される。半截竹管状工具による平行沈線を口縁に並行して施す。その下位には斜位平行沈線を施し、菱形状ﾓﾁｰﾌを構成する。平行沈線間には丸棒状工具による円形刺突を列点状に施す。	有尾
3	J-34 住 10 区・14 区ﾍﾞﾙﾄ	深鉢	普通	砂粒・褐色礫・植物繊維混入	口縁部破片	4 単位波状口縁と想定される。波頂部下位に刺突を伴う円形貼付文を施す。半截竹管状工具による平行沈線を口縁に並行して施す。その下位には同工具押し引きによる爪形文を斜位に施文し、三角形又は菱形状ﾓﾁｰﾌを構成すると考えられる。施文が全体的に雑である。	有尾
4	J-34 住 7 区 2 層	深鉢	良好	砂粒・白色礫・雲母・植物繊維混入	口縁部破片	半截竹管状工具押し引きによる 3 条の爪形文を口縁部に並行して巡らす。その下位には爪形文を斜位に施文し、三角形又は菱形状ﾓﾁｰﾌを構成すると考えられる。	有尾
5	J-34 住 7 区 2 層	深鉢	普通	砂粒・植物繊維混入	口縁部破片	口縁部、櫛歯状工具による縦位列点状刺突を巡らす。同工具を押し引きしているため、文様が弥生の簾状文状を呈している部分がある。その下位には列点状刺突を横位に巡らす。胴部、単節 LR 縄文施文。	有尾
6	J-34 住 3 区 1 層	深鉢	良好	砂粒・褐色礫・植物繊維混入	口縁部破片	4 単位波状口縁と想定される。半截竹管状工具による平行沈線を口縁に並行して施す。その下位には同工具押し引きによる爪形文を斜位に施文し、三角形又は菱形状ﾓﾁｰﾌを構成すると考えられる。	有尾
7	J-34 住 13 区 1 層	深鉢	普通	砂粒・白色鉱物・植物繊維混入	口縁～体部 1/2	4 単位波状口縁と想定される。半截竹管状工具による平行沈線を口縁に並行して施す。沈線間には丸棒状工具による円形刺突を列点状に施す。その下位には同工具による密な刺突にて、菱形あるいは「＊」状ﾓﾁｰﾌを構成する。	有尾・黒浜

第 258 表　二軒在家原田Ⅱ遺跡 A 区縄文時代住居址出土遺物観察表（22）

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
8	J-34 住 2 区・ 6 区ﾍﾞﾙﾄ	深鉢	普通	砂粒・褐色礫・ 植物繊維混入	胴部破片	遺存部最上位が頚部付近と想定される。半截竹管状工具押し引きによる爪形文と断面三角形の隆帯を横位に巡らす。胴部は単節 RL と LR 結束縄文横転がしによる羽状ﾓﾁｰﾌを構成する。	有尾・黒浜
9	J-34 住 5 区 1 層	深鉢	普通	砂粒・植物繊維 混入	胴部破片	口縁部文様帯下位が遺存すると考えられる。櫛歯状工具による縦位・斜位列点状刺突を施す。頚部と想定される部分には半截竹管状工具による横位平行沈線施文。	有尾
10	J-34 住 3 区 1 層	深鉢	良好	砂粒・植物繊維 混入	胴部破片	環付末端 RL 縄文施文。	有尾・黒浜
11	J-34 住 2 区 2 層	深鉢	普通	砂粒・植物繊維 混入	胴部破片	付加条縄文（単節 LR ＋ 2 条の単節 LR 反方向 ?）施文。	有尾・黒浜
12	J-34 住 10 区 1 層	深鉢	普通	砂粒・植物繊維 混入	胴部破片	付加条縄文（単節 RL ＋ 2 条の単節 RL 正方向）施す。施文は菱形状ﾓﾁｰﾌを構成する。	有尾・黒浜
13	J-34 住 5 区 2 層	深鉢	普通	砂粒・植物繊維 混入	胴部破片	付加条縄文（単節 RL ＋ 2 条の単節 LR 正方向 ?）施文。	有尾・黒浜
14	J-34 住 3 区 1 層	深鉢	普通	砂粒・植物繊維 混入	胴部破片	付加条縄文施文。	有尾・黒浜
15	J-34 住 3 区 1 層	深鉢	良好	砂粒・植物繊維 混入	胴部破片	付加条縄文施文後、斜位沈線を施す。	有尾・黒浜
16	J-34 住 10 区・ 14 区ﾍﾞﾙﾄ	深鉢	良好	砂粒・植物繊維 混入	胴部破片	付加条縄文（単節 RL ＋ 2 条の無節 L 反方向 ?）施文。	有尾・黒浜
17	J-34 住 3 区 1 層	深鉢	普通	砂粒・植物繊維 混入	底部破片	底部はやや上げ底状を呈する。外面に単節 LR 縄文施文。	有尾・黒浜
18	J-34 住 3 区 1 層	深鉢	普通	砂粒・植物繊維 混入	底部破片	底部はやや上げ底状を呈する。外面に付加条縄文施文。	有尾・黒浜

A区 J － 35 号住居址

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
1	J-35 住 4 区 2 層	深鉢	良好	砂粒・雲母混入	口縁部破片	丸棒状工具による沈線で区画する（逆 U 字状 ?）。一部には蕨手状沈線施文。さらに口縁部及び一部の区画内に単節 RL 縄文充填。	加曽利 E Ⅲ
2	J-35 住 4 区 1 層	深鉢	普通	砂粒混入	胴部破片	胴部中位から下位片と想定される。沈線と隆帯により区画する。U 字状・逆 U 字状区画内には単節 LR 縄文施文。	加曽利 E Ⅲ
3	J-35 住 4 区 2 層	小型深鉢	普通	砂粒・雲母混入	胴部～底部 1/10	単節 RL 縄文施文後、縦位沈線・蛇行沈線で区画する。	加曽利 E
4	J-35 住 4 区 1 層	鉢？	良好	砂粒・片岩混入	口縁部破片	内反する口縁の鉢か。口縁部横帯文。一部の区画内には単節 LR 縄文施文。	加曽利 B1

A区 J － 36 号住居址

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
1	J-36 住 D-2	深鉢	良好	砂粒混入	口縁部破片	口縁部に無文帯を巡らす。胴部、断面三角形の隆帯で区画する。一部の区画内には複節 LRL 縄文施文。	加曽利 E Ⅳ
2	J-36 住 6 区 1 層・ D-3 土	深鉢	普通	砂粒混入	口縁部破片	口縁部に無文帯を巡らす。胴部には 2 条一組の並行する逆 U 字状隆帯により区画し、区画内に単節 LR 縄文施文。	加曽利 E Ⅳ
3	J-36 住 2 区 1 層	深鉢	良好	砂粒・褐色礫混入	口縁部破片	口縁部に幅の狭い無文帯を巡らす。胴部、断面三角形の隆帯で区画する。一部の区画内には単節 LR 縄文施文。	加曽利 E Ⅳ
4	J-36 住 D-3 土	深鉢	普通	砂粒・雲母混入	口縁部破片	緩やかな波状口縁か。口縁部に幅の狭い無文帯を巡らす。胴部、沈線により区画し、一部の区画内に単節 RL 縄文施文。	加曽利 E Ⅲ～Ⅳ
5	J-36 住 4 区 1 層	深鉢	普通	砂粒・褐色礫・ 雲母混入	口縁部破片	口縁に並行する 2 条の横位沈線施文。沈線間に列点状刺突文を施す。	加曽利 E
6	J-36 住 D-2	深鉢	良好	砂粒混入	胴部破片	断面三角形の隆帯で区画する。一部の区画内には複節 LRL 縄文施文。	加曽利 E Ⅳ
7	J-36 住 11 区 1 層	深鉢	普通	砂粒・白色鉱物・ 雲母混入	胴部破片	丸棒状工具による縦位・斜位沈線を施す。縦位に区画し、区画内に綾杉状沈線施文というﾓﾁｰﾌと考えられるが、全体的に稚拙な施文である。	加曽利 E
8	J-36 住 D-2	深鉢	普通	砂粒混入	胴部破片	胴部中位の括れから下位が遺存すると考えられる。沈線により区画し、一部の区画内に単節 RL 縄文施文。	加曽利 E Ⅳ
9	J-36 住 6 区 1 層	深鉢	普通	砂粒混入	胴部破片	棒状工具による沈線にて「U」または「∩」字状に区画し、内側に縄文を施す。	加曽利 E
10	J-36 住 D-2	深鉢	良好	砂粒混入	胴部破片	断面三角形の隆帯で区画する。一部の区画内には複節 LRL 縄文施文。	加曽利 E Ⅳ
11	J-36 住 D-2	深鉢	良好	砂粒混入	胴部破片	断面三角形の隆帯で区画する。一部の区画内には複節 LRL 縄文施文。	加曽利 E Ⅳ

第 259 表　二軒在家原田Ⅱ遺跡 A 区縄文時代住居址出土遺物観察表（23）

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
12	J-36 住 D-3 土	深鉢	普通	砂粒・褐色礫混入	胴部破片	弧状沈線により区画し、一部の区画内に単節 RL 縄文充填。	加曽利 E Ⅲ～Ⅳ
13	J-36 住 D-2 土	深鉢	普通	砂粒混入	胴部破片	U 字状沈線により区画し、区画内に単節 RL 縄文充填。	加曽利 E Ⅲ～Ⅳ
14	J-36 住 D-2 土	深鉢	普通	砂粒混入	胴部破片	U 字状沈線により区画し、区画内に単節 RL 縄文充填。	加曽利 E Ⅲ～Ⅳ
15	J-36 住 D-3	深鉢	良好	砂粒混入	胴部破片	沈線により U 字状に区画する。一部の区画内に無節 L 縄文施文。	加曽利 E Ⅲ～Ⅳ
16	J-36 住 D-2 土	両耳壺？	良好	砂粒・褐色礫混入	口縁部～胴部破片	E Ⅳ式期両耳壺と想定される。口縁部はほぼ直立し、無文。胴部は棒状工具による沈線で区画し、一部に単節 RL 縄文横転がし。胴部上位には隆帯上の高まりを巡らす。	加曽利 E Ⅳ
17	J-36 住 D-2 土	両耳壺	良好	砂粒・褐色礫・白色鉱物混入	口縁～胴部 1/3	片側の把手は破損。口縁部はほぼ直立し、無文。無文帯と胴部は横位沈線で区画。胴部はさらに棒状工具による U 字・弧状沈線で区画し、一部区画内は単節縄文施文。	加曽利EⅣ？
18	J-36 住 D-3 土	両耳壺？	良好	砂粒・雲母混入	口縁部破片	加曽利 E 式期新段階の両耳壺と想定される。外反する無文の口縁部と、胴部の境界に横位沈線を巡らす。胴部は弧状沈線により区画し、一部の区画内に単節 RL 縄文充填。	加曽利 E Ⅲ～Ⅳ
19	J-36 住 D-2 土	両耳壺	普通	砂粒・褐色礫混入	胴部破片	外反する無文の口縁部と、胴部の境界に横位沈線を巡らす。遺存部無文帯右端に厚みを有する部分が認められるが、橋状把手の貼付部分と想定される。胴部は逆 U 字状・弧状等沈線により区画し、一部の区画内に単節 RL 縄文充填。	加曽利 E Ⅳ
20	J-36 住 P-5	深鉢	普通	砂粒混入	口縁部破片	後期の粗製深鉢か。遺存部においては無文。薄手の作りである。	後期？

A区 J － 38 号住居址

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
1	J-38 住 11 区 1 層	深鉢	良好	砂粒混入	胴部破片	半截竹管状工具押し引きによる横位・斜位爪形文を施す。	諸磯 b
2	J-38 住 6 区 1 層	深鉢	良好	砂粒・白色鉱物混入	胴部破片	胴部上位片と想定される。遺存部上端より内屈する器形か。単節 RL 縄文施文後、浮線文により区画する。	諸磯 b
3	J-38 住 12 区 1 層	深鉢	普通	砂粒混入	胴部破片	単節 RL 縄文施文後、横位浮線文を施す。	諸磯 b
4	J-38 住 2 区 1 層	深鉢	普通	砂粒混入	口縁部破片	4 単位波状口縁と想定される。半截竹管状工具による横位・斜位平行沈線を施す。一部に孔（貫通していない。焼成前？）を 2 個施す。	諸磯 b
5	J-38 住 6 区 1 層	深鉢	普通	砂粒・褐色礫・白色鉱物・雲母混入	胴部破片	単節 RL 縄文施文後、半截竹管状工具による横位平行沈線で区画する。区画後、一部に縄文充填。	諸磯 b
6	J-38 住 2 区 1 層	深鉢	良好	砂粒・白色鉱物混入	胴部破片	半截竹管状工具による平行沈線で区画する。一部の区画に単節 RL 縄文施文。	諸磯 b
7	J-38 住 6 区 1 層・11 区 1 層	深鉢	普通	砂粒・褐色礫混入	胴部破片	単節 RL 縄文施文後、直線状・弧状・渦巻き状沈線を施す。	諸磯 b
8	J-38 住 7 区 1 層	深鉢	良好	砂粒・褐色礫混入	底部破片	半截竹管状工具による横位平行沈線を施す。	諸磯 b
9	J-38 住 12 区 1 層	深鉢	普通	砂粒・褐色礫混入	胴部下位～底部 1/10	胴部下位から底部にかけて張り出す器形。単節 RL 縄文施文。底部の一部に縄文押圧痕が認められる。	諸磯 b
10	J-38 住 11 区 1 層	深鉢	良好	砂粒・褐色礫・灰色礫混入	底部破片	胴部下位から底部にかけて張り出す器形。無節 R 縄文施文。	諸磯 b
11	J-38 住 11 区 1 層	深鉢	普通	砂粒混入	口縁部破片	深鉢の把手状波頂部。半截竹管状工具による平行沈線を施す。外面側には赤色塗彩を施す。	諸磯 b
12	J-38 住 11 区 1 層	深鉢	普通	砂粒混入	口縁部破片	深鉢の把手状波頂部。半截竹管状工具による平行沈線を施す。	諸磯 b
13	J-38 住11区1層	深鉢	良好	砂粒・白色鉱物混入	口縁部～胴部1/4	口縁端部は強く内傾し、ほぼ水平となる。口唇部に半截竹管状工具による刺突文、屈曲部には隆帯を配した後、刺突を巡らす。口縁部には円形・小判形の貼付文を規則的に付す。胴部は同工具による斜位・縦位沈線を施す。	諸磯 c
14	J-38 住 3 区 1 層・4 区 1 層	深鉢	普通	砂粒・褐色礫・白色鉱物・雲母混入	口縁部破片	4 単位波状口縁の波頂部付近と想定される。口端部に並行し刺突を伴う刻み状隆帯を巡らす。隆帯に並行し半截竹管状工具による平行沈線で区画する。内側に同工具による綾杉状沈線を施す。さらにボタン状・棒状貼付文を配す。棒状貼付文には半截竹管状工具による結節浮線文状の文様を施す。	諸磯 c
15	J-38 住 3 区 1 層	深鉢	普通	砂粒混入	口縁部破片	口縁部の一部を内側に屈曲させ、耳状貼付文施文。貼付文以外の部分には縄文（反撚 LL?）施文。	諸磯 c
16	J-38 住 11 区 1 層	深鉢	普通	砂粒混入	口縁部破片	口端部、外屈し外面に刺突を連続して施し、刻みを伴う横位隆帯状を呈する。胴部、半截竹管状工具による平行沈線を横位・羽状に施す。	諸磯 c

第 260 表　二軒在家原田Ⅱ遺跡 A 区縄文時代住居址出土遺物観察表（24）

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
17	J-38 住 3 区 1 層	深鉢	普通	砂粒・褐色礫・灰色礫混入	口縁部破片	口縁部、半截竹管状工具による横位平行沈線施文。胴部、同工具による縦位沈線で区画し、区画内に斜位（綾杉状か）沈線施文。さらに一部に円形貼付文を施す。	諸磯 c
18	J-38 住 12 区 1 層	深鉢	良好	砂粒混入	胴部破片	半截竹管状工具による平行沈線（半隆起線状）で区画する。	諸磯 c
19	J-38 住 3 区 1 層	深鉢	普通	砂粒・白色鉱物混入	胴部破片	遺存部においては、棒状工具による横位刺突文を 3 段以上配す。	諸磯 c 併行
20	J-38 住 15 区 1 層	深鉢	良好	砂粒・白色鉱物混入	胴部破片	半截竹管状工具による横位平行沈線（半隆起線状）で区画する。区画内に同工具による密な格子目状沈線施文。	五領ヶ台？
21	J-38 住 12 区 1 層＋13 区1層	深鉢	良好	砂粒・角閃石混入	胴部破片	遺存部においては撚り糸を施す。	中期？

A区Ｊ－ 39 号住居址

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
1	J-39 住 P-1	深鉢	普通	砂粒・植物繊維混入	口縁部破片	4 単位波状口縁と想定される。口縁部、半截竹管状工具押し引きによる爪形文で菱形モチーフに区画する。区画内には同工具による爪形文を渦巻き状に施す。器形変換点付近には横位爪形文を巡らす。	有尾
2	J-39 住 6 区 1 層	深鉢	普通	砂粒・褐色礫・白色鉱物混入	口縁部破片	4 単位波状口縁深鉢の波頂部。半截竹管状工具による縦位平行沈線を施す。その下位には、同工具押し引きによる爪形文施文。	有尾
3	J-39 住 P-2	深鉢	普通	砂粒・石英・白色鉱物・植物繊維混入	胴部破片	口縁部文様帯から胴部上位が遺存する。口縁部文様帯、半截竹管状工具による横位・斜位並行沈線施文後、一部の沈線に並行して櫛歯状工具による列点状刺突文を施す。胴部には無節 L 縄文施文。施文技術が稚拙である。	有尾
4	J-39 住 2 区 1 層・11 区 1 層	深鉢	普通	砂粒・植物繊維混入	胴部破片	胴部上位片と想定される。単節 LR 縄文を施す。	有尾・黒浜
5	J-39 住 6 区 1 層	深鉢	普通	砂粒・植物繊維混入	胴部破片	単節 LR 縄文を羽状に施す。	有尾・黒浜
6	J-39 住 2 区 1 層	深鉢	普通	砂粒・植物繊維混入	胴部破片	半截竹管状工具押し引きによる爪形文、同工具による平行沈線（半隆起線状）を横位・斜位に施す。	有尾・黒浜
7	J-39 住 2 区 1 層	深鉢	良好	砂粒・植物繊維混入	胴部破片	半截竹管状工具押し引きによる爪形文を直線状・弧状に施す。	有尾
8	J-39 住 11 区 1 層	深鉢	普通	砂粒・植物繊維混入	胴部破片	縄文（直前段多条 LR?）施文。	有尾・黒浜

A区Ｊ－ 41 号住居址

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
1	J-41 住 P-1・1 区 1 層・5 区 1 層・6 区 1 層	深鉢	良好	砂粒・黒色鉱物・褐色礫混入	口縁部～胴部 1/10	口端部に巡らした厚みを有する無文帯と、波状の隆帯と沈線により口縁部文様帯を半月形に区画する。内側に単節 RL 縄文施文。胴部、単節 RL 縄文施文後、丸棒状工具による縦位・蕨手状沈線を組み合わせたモチーフ、斜位直線状・U 字状沈線を施す。	加曽利ＥⅡ
2	J-41 住 D-9 土	深鉢	普通	砂粒・黒色鉱物混入	口縁部～胴部 1/4	隆帯と沈線により口縁部文様帯を楕円形に区画する。内側に縄文施文。一部隆帯は蛇行し、口縁と胴部の横位隆帯を繋ぐ。胴部は 2 条 1 組の縦位沈線にて区画し、内側に縄文を施す。	加曽利Ｅ
3	J-41 住 7 区 1 層	深鉢	普通	砂粒混入	口縁部破片	隆帯と沈線により口縁部文様帯を区画する。区画内には縦位基調沈線施文。区画連結部には渦巻き状モチーフを配す。胴部には縦位沈線を施す。	加曽利Ｅ
4	J-41 住 11 区 1 層	深鉢	良好	砂粒・褐色礫・雲母混入	口縁部破片	隆帯により口縁部文様帯を楕円形に区画する。区画内及び胴部には櫛歯状工具による不整方向平行沈線（条線状を呈する）施文。胴部には、逆 U 字状・蛇行沈線を施す。	加曽利Ｅ
5	J-41 住 8 区 1 層・11 区 1 層・12 区 1 層・D-5 土	深鉢	良好	砂粒混入	胴部破片	胴部中位片。丸棒状工具による縦位沈線で区画し、区画内にU字状・逆U字状沈線を施す。U字状・逆U字状の区画内には、櫛歯状工具による縦位条線又は丸棒状工具による弧状沈線施文。さらに一部の区画内に円形刺突を配す。	加曽利ＥⅢ
6	J-41 住 6 区 1 層・7 区 1 層・7 区 D-1 土	深鉢	普通	砂粒・褐色礫・雲母混入	胴部破片	単節 RL 縄文施文後、丸棒状工具による弧状・U 字状等沈線を施す。	加曽利Ｅ
7	J-41 住 D-9 土	深鉢	良好	砂粒・褐色礫混入	胴部破片	撚り糸施文後、丸棒状工具による直線状・弧状・逆 U 字状等沈線を施す。13、14 と同一個体か。	加曽利Ｅ
8	J-41 住 7 区 D-1 土	深鉢	普通	砂粒・黒色鉱物混入	胴部～底部 1/3	縄文施文後、遺存部上位において棒状工具による集合沈線を連弧文状に配す。さらに中位から下位にかけ、胴部を区画するように縦位沈線を施す。底面に網代痕。	加曽利Ｅ

第 261 表　二軒在家原田Ⅱ遺跡Ａ区縄文時代住居址出土遺物観察表（25）

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
9	J-41 住 16 区 1 層	深鉢	普通	砂粒・褐色礫・雲母混入	胴部破片	単節 RL 縄文施文後、丸棒状工具による弧状・U 字状・蕨手状等沈線を施す。	加曽利 E
10	J-41 住 7 区 1 層	深鉢	良好	砂粒混入	胴部破片	櫛歯状工具による縦位条線施文後、丸棒状工具による縦位沈線（3 条一組か）で区画する。一部の区画内に蛇行沈線を垂下させる。	加曽利 E
11	J-41 住 4 区 1 層	深鉢	良好	砂粒・白色鉱物・雲母混入	胴部破片	丸棒状工具による縦位沈線で区画する。区画内には斜位沈線施文。	加曽利 E
12	J-41 住 17 区 1 層	深鉢	普通	砂粒・雲母混入	胴部破片	撚り糸施文。一部に隆帯・沈線が遺存するが、モチーフは不明。	加曽利 E
13	J-41 住 D-9 土	深鉢	良好	砂粒・褐色礫混入	胴部破片	口縁部～胴部上位片か。隆帯により区画する。区画内には撚り糸施文後、棒状工具による蛇行沈線を施す。	加曽利 E
14	J-41 住 D-9 土	深鉢	良好	砂粒・褐色礫混入	胴部破片	撚り糸施文後、丸棒状工具による弧状・逆 U 字状等沈線を施す。	加曽利 E
15	J-41 住 7 区 1 層	深鉢	良好	砂粒・褐色礫・雲母混入	胴部破片	櫛歯状工具による不整方向平行沈線（条線状）施文後、2 条一組の縦位沈線で区画する。区画内には弧状（蛇行？）沈線を施す。4と同一個体か。	加曽利 E
16	J-41 住 D-9 土	深鉢	普通	砂粒・角閃石混入	底部破片	撚り糸施文後、2 条 1 組の縦位沈線により胴部を区画する。	加曽利 E
17	J-41 住 17 区 1 層・18 区 1 層	深鉢	普通	砂粒・褐色礫混入	胴部下位～底部破片	単節 RL 縄文施文後、縦位隆帯により区画する。	加曽利 E
18	J-41 住 D-3 土	深鉢	普通	砂粒混入	胴部破片	単節 RL 縄文施文後、半截竹管状工具による横位平行沈線で区画する。沈線に並行して三角形の列点状刺突を施す。	五領ヶ台Ⅱ
19	J-41 住 10 区 1 層	深鉢	普通	砂粒・雲母混入	胴部破片	単節 LR 縄文施文後、半截竹管状工具による横位・縦位平行沈線で区画する。一部の区画内には Y 字状沈線施文。さらに縦位沈線に並行して三角形の列点状刺突を施す。	五領ヶ台Ⅱ
20	J-41 住 D-3 土	深鉢	普通	砂粒・黒色鉱物混入	口縁部破片	遺存部においては無文。口端部、平面ドーナツ状の突起を付す。	称名寺
21	J-41 住 D-9 土	深鉢	良好	砂粒・石英・角閃石混入	口縁部～底部 2/3	3 単位の波状口縁。口縁上部に丸棒状工具によるキザミ隆帯を貼付→口縁部に同様の工具による沈線でS字状文を施文。S字状文部に無節L縄文を充填施文。無文部は縦位のミガキ。内面は口縁部横位のミガキ、胴部縦位のナデ。	堀之内 2
22	J-41 住 D-9 土	深鉢	良好	砂粒混入	口縁部～胴部 1/10	頚部から口縁部にかけて外反する。口端部は内屈。口端部上面の一部に巻き貝状貼付文施文。口縁部は無文。頚部には断面三角形の横位隆帯を巡らし、一部に縦位棒状貼付文施文。胴部弧状沈線で区画し、一部の区画内に単節 LR 縄文施文。	堀之内 2
23	J-41 住 D-9 土	深鉢	良好	砂粒混入	口縁部破片	朝顔形深鉢の口縁部と想定される。口端部の一部を内側に折り曲げている。外面、圧痕隆帯を巡らし、一部に 8 の字状貼付文施文。沈線で区画し、一部に縄文施文。内面、沈線を施す。4 箇所の孔を有する（1 つは貫通していない可能性あり）。	堀之内 2
24	J-41 住 D-9 土	深鉢	良好	砂粒混入	口縁部破片	波頂部に貼付文・穿孔を施す。胴部、横位沈線で区画し、区画内に弧状・斜位直線状沈線を施す。一部の区画内には単節 LR 縄文施文。	堀之内 2
25	J-41 住 D-9 土	深鉢	良好	砂粒混入	口縁部破片	横位沈線で区画し、区画内に「へ」の字状（菱形モチーフか）沈線を施す。一部の区画内には単節 LR 縄文施文。24 と同一個体か。	堀之内 2
26	J-41 住 D-9 土	深鉢	良好	砂粒・雲母混入	胴部破片	胴部中位片か。横位沈線で区画し、区画内に楕円状沈線を施す。一部の区画内に単節 RL 縄文施文。	堀之内 2
27	J-41 住 D-9 土	深鉢	普通	砂粒混入	胴部破片	胴部上位片と想定される。細めの圧痕隆帯を横位に巡らす。横位沈線で区画し、一部の区画内には単節 LR 縄文施文。	堀之内 2
28	J-41 住 D-9 土	深鉢	良好	砂粒混入	胴部破片	斜位又は「く」の字状沈線で区画する（菱形モチーフか）。一部の区画内に単節 LR 縄文施文。	堀之内 2
29	J-41 住 3 区 1 層	鉢？	普通	砂粒混入	胴部破片	半截竹管状工具による弧状・直線状平行沈線を施す。	堀之内？
30	J-41 住 1 区 1 層	深鉢	良好	砂粒混入	口縁部破片	口端部内屈する。器形変換点には斜位短沈線を連続して施す。胴部、縄文（単節 RL?）施文後、横位沈線で区画する。さらに区切り文を施す。内面には 1 条の浅い横位沈線を巡らす。また、内面口端部に斜位短沈線を連続して施す。	加曽利 B1
31	J-41 住 2 区 1 層	鉢	良好	砂粒・白色鉱物・雲母混入	胴部破片	波状口縁の鉢波頂部下位と想定される。遺存部最上位は円孔と考えられる。外面、単節 RL 縄文施文後、3条の横位沈線で区画する。さらに区切り文を施す。内面、口縁に並行して隆帯を巡らす。隆帯下位に 4 条の並行する沈線を施す。	加曽利 B1
32	J-41 住 2 区 1 層	深鉢	良好	砂粒混入	口縁部破片	深鉢の把手。中央に孔を有する。浅めの円孔文施文。口端部上面には斜位沈線を連続して施す。	加曽利 B1

第 262 表　二軒在家原田Ⅱ遺跡 A 区縄文時代住居址出土遺物観察表（26）

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
33	J-41 住（北）2 層	注口土器	普通	砂粒混入	口縁部破片	注口土器の吊り手装着部。	堀之内 2 ～加曽利B 1
34	J-41 住 1 区 1 層	深鉢	良好	砂粒・褐色礫混入	胴部破片	やや内反する平口縁。2 条の横位沈線で区画し、沈線間の区画に斜位沈線を格子目状に施す。	加曽利 B1
35	J-41 住 11 区 1 層	深鉢	普通	砂粒・褐色礫混入	口縁部～胴部 1/10	一部に沈線が認められるが、意図的施文かどうか疑問が残る。後期の粗製土器か。	後期？
36	J-41 住 1 区 1 層	深鉢	普通	砂粒・雲母混入	胴部～底部 1/10	遺存部においては無文。底部網代痕。	後期
37	J-41 住 1 区 1 層	深鉢	普通	砂粒・褐色礫混入	胴部～底部 1/5	胴部最下位から底部にかけてやや張り出す器形。胴部、遺存部においては無文。底部網代痕。	後期？
38	J-41 住D -9 土	深鉢	良好	砂粒・白色鉱物・雲母混入	胴部下位～底部 1/10	胴部最下位が外側に張り出す器形。胴部、遺存部においては無文。底部網代痕。（41 号住は中期の所産と推定されるので、1 号列石に伴う遺物である可能性が考えられる）。	後期

A区Ｊ－ 44 号住居址

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
1	J-44 住 D-1	浅鉢？	良好	砂粒・白色鉱物混入	口縁部破片	内外面共にヘラミガキ。内面、棒状工具による横位平行沈線を 3 条以上。口唇部にも沈線を巡らし、一部にボタン状貼付文を配す。	後期
2	J-44 住 D-1	深鉢	良好	砂粒・褐色礫混入	胴部～底部破片	外面、遺存部においては無文。底部網代痕。	後期？

A区Ｊ－ 54 号住居址

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
1	J-54 住 3 区 2 層	深鉢	普通	砂粒・石英・雲母混入	口縁部破片	胴部上位において顕著に内屈する 4 単位波状口縁深鉢と想定される。波頂部付近が遺存する。波頂部に蛸口状貼付文を施す。単節 RL 縄文施文後、半截竹管状工具による平行沈線を施す。	諸磯 b
2	J-54 住 2 区 1 層	深鉢	良好	砂粒・雲母混入	口縁部破片	櫛歯状工具による横位・斜位平行沈線を施す。一部に竹管状工具による円形刺突文を配す。	諸磯 b
3	J-54 住 16 区 1 層	深鉢	良好	砂粒・白色鉱物混入	口縁部破片	口縁部、半截竹管状工具による横位平行沈線を施す。胴部、単節 RL 縄文施文後、同工具による縦位弧状、斜位平行沈線施文。	諸磯 b
4	J-54 住 8 区 1 層	深鉢	普通	砂粒・白色鉱物・褐色礫・雲母混入	口縁部破片	胴部上位において顕著に内屈する。半截竹管状工具による平行沈線を施す。	諸磯 b
5	J-54 住 2 区ﾍﾞﾙﾄ 2 層・4 区 2 層・6 区ﾍﾞﾙﾄ 1 層	深鉢	普通	砂粒・褐色礫混入	胴部破片	単節 RL 縄文施文後、半截竹管状工具による横位平行沈線で区画する。	諸磯 b
6	J-54 住 11 区 1 層	深鉢	良好	砂粒・ﾁｬｰﾄ・片岩・雲母混入	胴部破片	櫛歯状工具による横位直線状・波状平行沈線を施す。さらに半截竹管状工具による刺突文を縦位に配す。遺存部最下位には単節 RL 縄文施文。	諸磯 b
7	J-54 住 2 区 2 層	深鉢	良好	砂粒混入	胴部破片	半截竹管状工具による平行沈線を格子目状に施す。沈線交点には円形刺突文を配す。	諸磯 b
8	J-54 住 12 区ﾍﾞﾙﾄ 1 層	深鉢	普通	砂粒・灰色礫混入	胴部破片	遺存部上位、半截竹管状工具による横位平行沈線を施す。遺存部下位、同工具による縦位弧状、斜位平行沈線施文。	諸磯 b
9	J-54 住一括	深鉢	普通	砂粒混入	胴部～底部破片	単節 RL 縄文施文後、浮線文を施す。浮線文は剥落部が多いが、梯子状・X 字状ﾓﾁｰﾌが認められる。	諸磯 b
10	J-54 住 1 区 1 層・5 区 1 層	浅鉢	良好	砂粒混入	口縁部破片	口端部直下に孔を巡らす。体部上位、沈線により三角形に区画する。区画内には短沈線を連続して施す。屈曲部下位にも沈線が認められるが、モチーフは不明。	諸磯 b
11	J-54 住 6 区 2 層	深鉢	普通	砂粒・褐色礫混入	底部破片	胴部から底部にかけて張り出す。単節 RL 縄文施文。内面に炭化物付着。	諸磯 b
12	J-54 住 5 区 2 層	深鉢	良好	砂粒・白色鉱物・雲母混入	底部破片	単節 RL 縄文施文後、半截竹管状工具による横位平行沈線施す。	諸磯 b
13	J-54 住 14 区 2 層・一括	深鉢	普通	砂粒・白色鉱物混入	底部破片	単節 RL 縄文施文。全体的に摩滅が著しく、外面の一部は剥落している。	諸磯 b
14	J-54 住 7 区 1 層	深鉢	普通	砂粒・ﾁｬｰﾄ混入	口縁部破片	口唇部付近に獣面把手。目の部分を浮線文で表現。顔の中央部分にも、丸棒状工具による刺突を伴う浮線文。	諸磯 b
15	J-54 住 7 区 2 層	深鉢	良好	砂粒・白色鉱物・雲母混入	口縁部破片	波状口縁と想定される。単節 RL 縄文施文後、口端部・口縁部にえぐり取るような刺突文を施す。	諸磯 b 併行（浮島系）
16	J-54 住 9 区 1 層	深鉢	普通	砂粒・白色鉱物・雲母混入	口縁部破片	口縁部、えぐり取るような刺突文を施す。胴部、半截竹管状工具による横位平行沈線施文。	諸磯 b 併行（浮島系）

第 263 表　二軒在家原田Ⅱ遺跡Ａ区縄文時代住居址出土遺物観察表（27）

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
17	J-54 住 10 区ﾍﾞﾙﾄ 2 層	深鉢	普通	砂粒混入	口縁部破片	口唇部、棒状工具により縦位条線を施す。中位から下位、同工具あるいは細い半載竹管状工具押し引きにより横位爪形文を配す。	興津
18	J-54 住 10 区 1 層	深鉢	普通	砂粒混入	底部破片	貝殻復縁部による刺突を斜位・横位に連続して施す。	諸磯ｂ～ｃ併行（浮島・興津系？）
19	J-54 住 1 区 1 層	深鉢	良好	砂粒・白色鉱物・チャート・片岩混入	ほぼ完存	単節 RL の縄文地文→口縁部、4単位の耳状貼付文→半截竹管状工具による半隆起線状の集合沈線文の順に施文。集合沈線は、小さな弧状→大きな弧状および綾杉状→縦位→口縁部・底部付近の横位の順に施される。3とは施文順序が大きく異なる。内面、胴部上位以上は横位ないし斜位、それより下は縦位ないし斜位のミガキ。	諸磯 c
20	J-54 住 6 区 1 層＋14 区 2 層	浅鉢	普通	砂粒・褐色礫混入	口縁部破片	4 単位波状口縁の波頂部で、端部はやや外反する。頂部下に耳状貼付文と、左右に円形貼付文を付す。胴部は、半載竹管状工具による平行沈線を斜位・横位に施す。遺存部においては 2 段の稜があり、横位爪形文を配す。	諸磯 c
21	J-54 住 2 区 1 層	深鉢	良好	砂粒混入	口縁部破片	半截竹管状工具による横位平行沈線で区画し、区画内には同工具による矢羽根状沈線を施す。口端部直下には 2 条の結節浮線文を巡らす。さらにボタン状貼付文、刺突を伴う棒状貼付文を配す。	諸磯 c
22	J-54 住 14 区ﾍﾞﾙﾄ 1 層	深鉢	普通	砂粒・褐色礫混入	口縁部破片	胴部上位において顕著に内屈する。半載竹管状工具による横位・斜位平行沈線施文後、耳状・ボタン状貼付文を配す。	諸磯 c
23	J-54 住 9 区 1 層	深鉢	良好	砂粒・白色鉱物・雲母混入	口縁部破片	半截竹管状工具による横位・斜位平行沈線施文後、耳状・円形貼付文を配す。	諸磯 c
24	J-54 住 3 区 1 層	深鉢	良好	砂粒・石英・金雲母混入	口縁部～胴部破片	口端部に圧痕隆帯を巡らす。胴部、単節 RL 縄文施文後、半截竹管状工具による横位平行沈線（半隆起線状）で区画する。区画内には斜位平行沈線、格子目状沈線を施す。さらに一部にボタン状貼付文を配す。	諸磯 c
25	J-54 住 7 区 1 層	深鉢	普通	砂粒・白色鉱物・雲母混入	口縁部破片	半截竹管状工具による羽状沈線施文後、口端部と胴部上位の器形屈曲点に刺突を連続して施す。さらに一部に円形貼付文・刺突文を配す。また内面上位にも羽状沈線を施す。	諸磯 c
26	J-54 住 7 区 1 層	深鉢	良好	砂粒・灰色礫混入	口縁部破片	横位細沈線施文後、口縁部に並行して 4 条の結節浮線文を施す。胴部には結節浮線文を弧状に施し、一部に 2 個一対の円形貼付文を配す。	諸磯 c
27	J-54 住 7 区 1 層	深鉢	良好	砂粒混入	口縁部破片	波状口縁と想定される。横位細沈線施文後、口端部に並行して 2 条の結節浮線文を巡らす。その下位は 2 条一組の縦位結節浮線文で区画し、区画内に 2 個一対の円形貼付文を配す。	諸磯 c
28	J-54 住 11 区 1 層	深鉢	普通	砂粒混入	口縁部破片	口端部に刺突を連続して施す。半截竹管状工具による横位・斜位平行沈線（半隆起線状）を施し、一部にボタン状貼付文を配す。	諸磯 c
29	J-54 住 9 区 1 層	深鉢	普通	砂粒・灰色礫・雲母混入	胴部破片	半截竹管状工具による縦位平行沈線（半隆起線状）で区画する。区画内、斜位平行沈線（一部は綾杉状）を施す。さらに一部に 2 個一対の円形貼付文を配す。	諸磯 c
30	J-54 住 2 区ﾍﾞﾙﾄ 1 層・2 区ﾍﾞﾙﾄ 2 層	深鉢	良好	砂粒・ﾁｬｰﾄ・片岩・雲母混入	胴部破片	単節 RL 縄文施文後、半截竹管状工具による横位平行沈線で区画する。さらに区画内に縦位・斜位平行沈線を施す。	諸磯 c
31	J-54 住 10 区 2 層	深鉢	良好	砂粒・白色鉱物混入	胴部破片	胴部中位～下位片と想定される。半載竹管状工具による平行沈線（半隆起線状）で縦位に区画する。区画内、同工具による斜位沈線（一部は綾杉状）を施す。遺存部最下位には横位沈線が僅かに認められる。	諸磯 c
32	J-54 住 10 区 2 層	深鉢	良好	砂粒混入	胴部破片	半截竹管状工具による平行沈線（半隆起線状）で横位に区画する。区画内、同工具による羽状沈線を施す。外面の一部が剥落している。	諸磯 c
33	J-54 住 6 区 1 層	深鉢	良好	砂粒混入	胴部破片	横位細沈線施文後、結節浮線文を施す。横位に区画し目玉状ﾓﾁｰﾌか。	諸磯 c
34	J-54 住 10 区ﾍﾞﾙﾄ 2 層	深鉢	普通	砂粒混入	口縁部破片	半截竹管状工具による横位・斜位平行沈線（半隆起線状）を施し、一部に鋸歯状貼付文配す。	諸磯 c 併行
35	J-54 住 7 区 1 層	深鉢	良好	砂粒・褐色礫混入	胴部破片	半截竹管状工具による斜位平行沈線（一部は半隆起線状）を施し、鋸歯状貼付文配す。	諸磯 c 併行
36	J-54 住 6 区 1 層	ﾐﾆﾁｭｱ土器	普通	砂粒・褐色礫混入	胴部～底部 1/3	深鉢か。半載竹管状工具にて矢羽状沈線を施した後、一部に円形貼付文を付す。内外面の一部に赤彩あり。	諸磯 c
37	J-54 住 1 区 1 層・1 区 2 層	深鉢	普通	砂粒・白色鉱物混入	胴部破片	遺存部においては末端結節縄文を施す。	諸磯？
38	J-54 住 14 区 2 層	深鉢	普通	砂粒・褐色礫・雲母混入	底部破片	底部木葉痕。	諸磯？

第 264 表　二軒在家原田Ⅱ遺跡Ａ区縄文時代住居址出土遺物観察表（28）

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
39	J-54 住 11 区 2 層	深鉢	普通	砂粒・褐色礫・雲母混入	底部破片	底部木葉痕。	諸磯？
40	J-54 住 6 区ﾍﾞﾙﾄ 1 層	深鉢	良好	砂粒・褐色礫混入	口縁部破片	口端部直下、三角形の印刻を連続して施す。口縁部、半截竹管状工具による横位平行沈線・斜位平行沈線を施し、一部を三角形に印刻する。	十三菩提
41	J-54 住 7 区 1 層	深鉢	普通	砂粒・白色鉱物・ﾁｬｰﾄ・雲母混入	口縁部破片	口端部上面両側（内外面最上位）に刺突を連続して施す。半截竹管状工具による弧状平行沈線（半隆起線状）を施す。	十三菩提
42	J-54 住 9 区 1 層	深鉢	普通	砂粒・白色鉱物混入	胴部破片	遺存部上位、半截竹管状工具による平行沈線（半隆起線状）を横位に施す。遺存部下位、同平行沈線を綾杉状に施し、一部を三角形に印刻する。	十三菩提
43	J-54 住 10 区ﾍﾞﾙﾄ 1 層	深鉢	普通	砂粒・石英混入	胴部破片	半截竹管状工具による横位平行沈線（半隆起線状）で区画する。区画内、同平行沈線を綾杉状に施し、一部を三角形に印刻する。	十三菩提
44	J-54 住一括	鉢（深鉢？）	普通	砂粒・植物繊維混入	口縁部破片	口縁部、横位・斜位隆帯で区画する。区画内には半截竹管状工具押し引きによる爪形文を施す。胴部、縄文（直前段多条 LR か）施文。	有尾・黒浜
45	J-54 住 2 区ﾍﾞﾙﾄ 2 層	深鉢	普通	砂粒・褐色礫・雲母・植物繊維混入	口縁部破片	羽状縄文施文後、口縁部に半截竹管状工具によるコンパス文を巡らす。	有尾・黒浜
46	J-54 住 9 区 1 層	深鉢	普通	砂粒・ﾁｬｰﾄ・片岩・植物繊維混入	口縁部破片	縄文（直前段多条 RL か）施文。	有尾・黒浜
47	J-54 住 9 区 1 層	深鉢	普通	砂粒・植物繊維混入	胴部破片	深鉢の口縁部文様帯片と想定される。櫛歯状工具による斜位・縦位列点状刺突文、半截竹管状工具押し引きによる斜位爪形文を施す。ﾓﾁｰﾌは三角形又は菱形か。	有尾

A区Ｊ－55 号住居址

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
1	J-55 住D -1 土	深鉢	良好	砂粒混入	9/10	やや外反する 4 単位波状口縁。口縁に並行して細めの半截竹管状工具押し引きによる爪形文を 3 条巡らす。波頂部下位に於いて爪形文を交差させているため、その部分が菱形状ﾓﾁｰﾌとなる。胴部、単節 RL 結節縄文横転がし。	諸磯 a
2	J-55 住 6 区 2 層	深鉢	普通	砂粒・片岩混入	口縁部～胴部 1/10	外反する平口縁と想定される。半截竹管状工具押し引きによる横位爪形文で区画する。爪形文間は斜位短沈線を連続して施し、浮線文状を呈する。区画内には半截竹管状工具押し引きによる弧状・渦巻き状爪形文を施す。遺存部最下位の区画内には単節 RL 縄文施文。	諸磯 b
3	J-55 住 7 区 1 層	深鉢	普通	砂粒・褐色礫混入	口縁部～胴部破片	4 単位波状口縁と想定される。波頂部下位に孔を有する。半截竹管状工具押し引きによる爪形文を施す。一部の爪形文間には短沈線を連続して施す。	諸磯 b
4	J-55 住 7 区 1 層	深鉢	普通	砂粒混入	口縁部～胴部破片	ほぼ直立する平口縁。口縁部、半截竹管状工具押し引きによる横位爪形文を 3 条施文。胴部、3 条一組の縦位爪形文で区画し、区画内に横位直線状・弧状爪形文を施す。さらに一部の区画内に円形刺突文を配す。	諸磯 b
5	J-55 住 11 区 1 層・12 区 1 層	深鉢	良好	砂粒混入	口縁部破片	やや内反する 4 単位波状口縁と想定される。半截竹管状工具押し引きによる 2 条の爪形文を口縁に並行して巡らす。波頂部下位には浅い円穴を穿つ。胴部、単節 RL 縄文施文後、半截竹管状工具による平行沈線を施す。	諸磯 b
6	J-55 住 10 区 1 層	深鉢	良好	砂粒混入	胴部破片	半截竹管状工具押し引きによる横位爪形文で区画する。一部の区画内には単節 RL 縄文施文。さらに竹管状工具による円形刺突文を縦位に配す。	諸磯 a ～ b
7	J-55 住 6 区 1 層	鉢	普通	砂粒混入	口縁部破片	口端部が顕著に内屈する。外面屈曲部に短沈線を連続して施す。体部には半截竹管状工具押し引きによる爪形文を施す。内外面の一部に赤色塗彩が認められる。	諸磯 b
8	J-55 住 12 区 1 層・16 区 1 層	鉢	良好	砂粒混入	体部破片	半截竹管状工具押し引きによる横位爪形文で区画する。遺存部上位の区画には木葉状等爪形文を施す。また遺存部下位の区画には単節 RL 縄文施文。	諸磯 b
9	J-55 住 12 区 1 層	鉢	良好	砂粒混入	体部破片	半截竹管状工具押し引きによる横位爪形文で区画する。遺存部上位の区画には木葉状・三角形等爪形文を施す。また遺存部下位の区画には単節 RL 縄文施文。8 と同一個体か。	諸磯 b
10	J-55 住 7 区 1 層	深鉢	良好	砂粒・褐色礫混入	胴部破片	浮線文により区画する。区画内には単節 RL 結節縄文施文。	諸磯 b

第 265 表　二軒在家原田Ⅱ遺跡Ａ区縄文時代住居址出土遺物観察表（29）

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
11	J-55 住 3 区 1 層	深鉢	普通	砂粒・褐色礫混入	口縁部破片	外反する平口縁と想定される。口端部、厚みを有する稜状を呈する。櫛歯状工具による横位直線状・波状平行沈線施文後、竹管状工具による円形刺突文を縦位に配す。	諸磯 b 古段階
12	J-55 住 6 区 1 層	深鉢	普通	砂粒・灰色礫・褐色礫混入	口縁部～胴部 1/8	外反する平口縁と想定される。櫛歯状工具による波状文を施す。	諸磯 b
13	J-55 住 2 区 1 層	深鉢	普通	砂粒・褐色礫混入	口縁部～胴部破片	外反する平口縁と想定される。半截竹管状工具による横位平行沈線で区画し、一部の区画内に同工具による弧状・渦巻き状沈線を施す。一部に縄文施文の可能性が考えられるが、表面の剥落もあり不明瞭である。	諸磯 b
14	J-55 住 14 区 1 層	深鉢	普通	砂粒混入	口縁部～胴部 1/4	やや外反する平口縁。単節 RL 縄文施文後、口縁部に半截竹管状工具による横位平行沈線を施す。	諸磯 b
15	J-55 住 7 区 1 層	深鉢	普通	砂粒・白色礫混入	口縁部破片	櫛歯状工具による横位平行沈線で区画する。区画内には同工具による波状平行沈線を施す。	諸磯 b
16	J-55 住 6 区 1 層	深鉢	普通	砂粒・褐色礫混入	口縁部破片	櫛歯状工具による横位・波状平行沈線を施す。施文技術が稚拙の感がある。	諸磯 b
17	J-55 住 2 区 2 層	深鉢	普通	砂粒・白色鉱物・褐色礫混入	口縁部破片	櫛歯状工具による横位平行沈線で区画する。区画内には同工具による波状平行沈線を施す。	諸磯 b
18	J-55 住 2 区 1 層	深鉢	普通	砂粒・チャート・片岩・雲母混入	胴部破片	単節 RL 縄文施文。遺存部最上位には櫛歯状工具による横位平行沈線施文。	諸磯 b
19	J-55 住 6 区 2 層	深鉢	普通	砂粒・褐色礫混入	胴部破片	単節 RL 結節縄文施文。遺存部最上位には横位沈線が認められる。	諸磯 b
20	J-55 住 12 区 1 層	深鉢	普通	砂粒・雲母混入	胴部破片	単節 RL 縄文施文後、竹管状工具による円形刺突文を縦位に配す。	諸磯 a ～ b
21	J-55 住 10 区 1 層	深鉢	良好	砂粒・褐色礫混入	口縁部破片	単節 RL 縄文施文。	諸磯 b
22	J-55 住 2 区 1 層	深鉢	普通	砂粒・白色鉱物・褐色礫混入	胴部 1/10	単節 RL 縄文施文。	諸磯 b
23	J-55 住 7 区 1 層	深鉢	普通	砂粒・褐色礫混入	胴部破片	単節 RL 結節縄文施文。	諸磯 b
24	J-55 住 10 区 1 層	深鉢	普通	砂粒・白色鉱物・褐色礫混入	胴部破片	単節 RL 縄文施文。遺存部最上位には半截竹管状工具押し引きによる横位爪形文が認められる。	諸磯 b
25	J-55 住 2 区 1 層	深鉢	普通	砂粒混入	底部破片	単節 RL 縄文施文。内外面共に部分的に剥落。	諸磯 b
26	J-55 住 3 区 1 層	鉢	良好	砂粒・褐色礫混入	口縁部破片	単節 RL 縄文横転がし。	諸磯 b
27	J-55 住 5 区 1 層	浅鉢	良好	砂粒混入	体部～底部破片	遺存部においては無文。	諸磯 b
28	J-55 住 12 区 1 層	浅鉢	良好	砂粒・石英・角閃石混入	口縁部～底部 4/5	平口縁。口縁部単節LR縄文を横位施文→半截竹管状工具による押引手法によるヒトデ状文を施文→文様部の地文を磨り消し。内面は横位のナデ。	北白川下層Ⅱ
29	J-55 住 2 区 1 層	深鉢	普通	砂粒混入	口縁部破片	口端部は粘土を肥厚させ、やや内側へ折り込む。口唇部の一部に浮線文で縁取りした渦巻き状貼付文を付す。口縁下、浮線文にて蕨手状に区画する。遺存部下位、横位浮線文を上下に配し、一部を粘土紐で連結する。一部区画内を除く内外面全面に赤彩。	北白川下層
30	J-55 住 10 区 1 層	鉢	良好	砂粒・白色鉱物・植物繊維混入	口縁部破片	口縁直下に櫛歯状工具による横位沈線文を施す。胴部は同工具によるコンパス文を横位に 3 段以上巡らせる。	前期中葉

A区 J － 56 号住居址

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
1	J-56 住 10 区ﾍﾞﾙﾄ	深鉢	普通	砂粒・白色鉱物・雲母混入	口縁部破片	口縁部、半截竹管状工具押し引きによる 2 条の爪形文を横位に巡らす。胴部、同工具による平行沈線で縦位に区画し、区画内に肋骨文施文。さらに円形刺突文を縦位に配す。	諸磯 a
2	J-56 住 3 区 1 層	深鉢	良好	砂粒混入	胴部破片	櫛歯状工具による平行沈線を横位に巡らす（直線状と緩やかな波状を交互？）。棒状工具による刺突文を縦位に配す。	諸磯 a ～ b
3	J-56 住 9 区 1 層	深鉢	普通	砂粒・白色鉱物・褐色礫混入	口縁部破片	半截竹管状工具押し引きによる爪形文を施す。一部の爪形文間には短沈線を連続して施す。さらに円形刺突文を配す。	諸磯 b
4	J-56 住 9 区 1 層	深鉢	良好	砂粒・褐色礫混入	胴部破片	半截竹管状工具押し引きによる密な爪形文を施す。一部の爪形文間には短沈線を連続して施す。施文が丁寧で精製の感が強い。	諸磯 b
5	J-56 住 12 区 1 層	深鉢	普通	砂粒・褐色礫混入	胴部破片	半截竹管状工具押し引きによる幅広の爪形文を施す。一部の区画内に円形刺突文を配す。	諸磯 b
6	J-56 住 10 区ﾍﾞﾙﾄ	深鉢	普通	砂粒・褐色礫混入	胴部破片	半截竹管状工具押し引きによる幅広の爪形文を施す。一部の爪形文間には短沈線を連続して施す。さらに円形刺突文を配す。	諸磯 b
7	J-56 住 8 区 2 層	深鉢？	良好	砂粒混入	胴部破片	半截竹管状工具押し引きによる横位爪形文を施す。外面赤色塗彩。	諸磯 b

第 266 表　二軒在家原田Ⅱ遺跡Ａ区縄文時代住居址出土遺物観察表（30）

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
8	J-56 住 11 区 1 層	浅鉢	良好	砂粒・金雲母混入	体部破片	沈線により木葉状・三角形等に区画する。沈線間には列点状刺突文を施す。	諸磯 b
9	J-56 住 9 区 2 層	浅鉢	普通	砂粒・褐色礫・雲母混入	口縁部破片	口縁部に並行して孔を巡らす。沈線で区画し、沈線間に列点状刺突文又は短沈線を施す。	諸磯 b
10	J-56 住 7 区 2 層	浅鉢	普通	砂粒・片岩混入 褐色礫混入	体部～底部破片	横位隆帯で区画する。一部の区画内に三角形状に沈線で区画し、沈線間には列点状刺突文を施す。	諸磯 b
11	J-56 住 3 区 1 層＋7 区 2 層	浅鉢	普通	砂粒・白色鉱物混入	口縁部～底部 2/5	体部中位は段差状の稜を有し、浮線文を付す。遺存部においては横位沈線のほか、木葉状・三角形に区画する。一部区画内は半截竹管状工具押し引きによる爪形文または、棒状工具による列点文を配す。底面端部に高台状の稜を有す。	諸磯 b
12	J-56 住 11 区 1 層＋11 区 2 層	深鉢	普通	砂粒・白色鉱物混入	口縁部破片	4 単位波状口縁か。遺存部においては縄文施文後、横位・斜位・渦巻き状に浮線文を配す。	諸磯 b
13	J-56 住 11 区 2 層	深鉢	普通	砂粒・白色鉱物混入	口縁部破片	4 単位波状口縁か。遺存部、横位・斜位・渦巻き状に浮線文を施した後、文様に沿って棒状工具による細かい刺突を行う。口縁端部、細い粘土紐を井桁状に付す。	諸磯 b
14	J-56 住 6 区ﾍﾞﾙﾄ 1 層	深鉢	良好	砂粒・褐色礫混入	口縁部 1/10	胴部上位において顕著に内屈する 4 単位双頭波状口縁と想定される。単節 RL 縄文施文後、浮線文で横位に区画する。区画内には斜位・弧状・渦巻き状浮線文を施す。遺存部最下位の区画には、縦位・X 字状貼付文施文。	諸磯 b
15	J-56 住 2 区ﾍﾞﾙﾄ＋6 区ﾍﾞﾙﾄ	深鉢	普通	砂粒・黒色鉱物混入	口縁部～胴部 1/3	4 単位波状口縁の直下に、それぞれ円形貼付文を付す。胴部は縄文施文後、横位・斜位・弧状に平行沈線を施す。	諸磯 b
16	J-56 住 11 区 2 層	深鉢	普通	砂粒・褐色礫・雲母混入	口縁部破片	胴部上位において顕著に内屈する 4 単位波状口縁と想定される。波頂部に橋状・円形貼付文施文。単節 LR 縄文施文後、浮線文で横位に区画する。区画内には斜位・渦巻き状浮線文を施す。	諸磯 b
17	J-56 住 6 区ﾍﾞﾙﾄ	深鉢	普通	砂粒・褐色礫・雲母混入	口縁部破片	胴部上位において顕著に内屈する 4 体波状口縁。単節 RL 縄文施文後、横位浮線文で区画し、区画内に渦巻き状・弧状等浮線文を施す。	諸磯 b
18	J-56 住 7 区 1 層	深鉢	普通	砂粒・褐色礫・灰色礫混入	口縁部破片	胴部上位において顕著に内屈する 4 単位波状口縁と想定される。口縁部に並行して浮線文を、その下位には弧状・渦巻き状浮線文を施す。	諸磯 b
19	J-56 住 8 区 2 層	深鉢	良好	砂粒・褐色礫・雲母混入	口縁部破片	胴部上位において顕著に内屈する。単節 RL 縄文施文後、半截竹管状工具による横位平行沈線で区画する。区画内に同工具による縦位・斜位・弧状等平行沈線を施す。	諸磯 b
20	J-56 住 5 区 1 層	深鉢	普通	砂粒・白色鉱物混入	口縁部破片	胴部上位において顕著に内屈する 4 単位波状口縁と想定される。波頂部下位のイノシシの簡略化表現。浮線文を施す。	諸磯 b
21	J-56 住 6 区ﾍﾞﾙﾄ 1 層	深鉢	良好	砂粒・白色鉱物・褐色礫混入	口縁部破片	胴部上位において顕著に内屈する 4 体波状口縁。単節 RL 縄文施文後、横位浮線文で区画し、区画内に渦巻き状・弧状等浮線文を施す。	諸磯 b
22	J-56 住 11 区 2 層	深鉢	普通	砂粒・褐色礫混入	口縁部破片	胴部上位において内屈する 4 単位双頭波状口縁。単節 RL 縄文施文後、横位浮線文で区画し、区画内に渦巻き状・縦位浮線文（紐状貼付文に単節 RL 縄文押圧）を施す。	諸磯 b
23	J-56 住 5 区 1 層	深鉢	良好	砂粒・白色鉱物混入	口縁部破片	胴部上位において顕著に内屈する 4 単位波状口縁と想定される。円形貼付文は、波頂部下位のイノシシの簡略化表現か。浮線文を施す。	諸磯 b
24	J-56 住 5 区 1 層	深鉢	普通	砂粒・褐色礫・雲母混入	胴部破片	単節 RL 縄文施文後、横位・渦巻き状・弧状等浮線文を施す。	諸磯 b
25	J-56 住 6 区 1 層	深鉢？	良好	砂粒・白色鉱物・褐色礫混入	胴部破片	横位浮線文を施す。外面赤色塗彩。	諸磯 b
26	J-56 住 10 区 1 層	深鉢	普通	砂粒混入	胴部破片	横位・斜位浮線文（紐状貼付文に単節 RL 縄文押圧）を施す。一部に円形刺突文を配す。	諸磯 b
27	J-56 住 10 区ﾍﾞﾙﾄ	深鉢	普通	砂粒・褐色礫混入	胴部破片	単節 RL 縄文施文後、横位浮線文で区画する。区画内に渦巻き状・弧状等浮線文を施す。	諸磯 b
28	J-56 住 3 区 1 層・3 区 2 層	深鉢	普通	砂粒・褐色礫混入	胴部破片	遺存部上位に孔の一部と考えられる部分が認められる。波状口縁の波頂部下位の孔か。遺存部上半無文。下半は単節 LR 縄文施文後、浮線文を施す。	諸磯 b
29	J-56 住 12 区 2 層	深鉢	普通	砂粒・褐色礫混入	胴部破片	単節 LR 縄文施文後、横位・渦巻き状・弧状等浮線文を施す。	諸磯 b
30	J-56 住 11 区 2 層	深鉢	普通	砂粒・褐色礫混入	胴部破片	単節 LR 縄文施文後、横位・弧状浮線文を施す。	諸磯 b
31	J-56 住 11 区 2 層	深鉢	良好	砂粒・褐色礫混入	胴部破片	胴部上位において顕著に内屈する 4 単位波状口縁と想定される。波頂部下位のイノシシの簡略化表現と考えられる。単節 LR 縄文施文後、弧状・渦巻き状浮線文を施す。	諸磯 b

第 267 表　二軒在家原田Ⅱ遺跡 A 区縄文時代住居址出土遺物観察表（31）

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
32	J-56 住 6 区 1 層	深鉢	普通	砂粒・褐色礫・雲母混入	胴部破片	胴部上位において顕著に内屈する 4 体波状口縁。単節 RL 縄文施文後、渦巻き状・弧状等浮線文を施す。	諸磯 b
33	J-56 住 6 区ﾍﾞﾙﾄ 1 層	深鉢	良好	砂粒・褐色礫混入	胴部破片	単節 RL 縄文施文後、横位浮線文を施す。	諸磯 b
34	J-56 住 10 区 1 層	深鉢	普通	砂粒・褐色礫混入	胴部 1/8	胴部下位が遺存する。単節 RL 縄文施文後、横位浮線文で区画し、区画内に渦巻き状・弧状等浮線文を施す。	諸磯 b
35	J-56 住 D-2 土	深鉢	普通	砂粒・褐色礫混入	底部破片	単節 RL と LR 結束縄文横転がし後、横位浮線文を施す。	諸磯 b
36	J-56 住 11 区 2 層	深鉢	普通	砂粒・褐色礫混入	底部破片	単節 RL 縄文施文後、横位浮線文を施す。	諸磯 b
37	J-56 住 7 区 1 層	深鉢	良好	砂粒・黒色鉱物混入	底部破片	単節 RL 縄文施文（不明瞭）後、横位浮線文を施す。遺存部内面最上位におこげ状炭化物付着。	諸磯 b
38	J-56 住 D-4 土	深鉢	普通	砂粒混入	口縁部破片	口端部上面に連続して短沈線を施す。口縁部、半截竹管状工具による横位平行沈線・格子目文を施す。	諸磯 b
39	J-56 住 14 区 1 層	深鉢	普通	砂粒・褐色礫混入	口縁部破片	胴部上位において内屈する。口縁部に小突起を施す。小突起の一部は剥落しているが、渦巻き状隆帯を施すと想定される。無節 L 縄文施文後、半截竹管状工具による横位平行沈線で区画する。内側に同工具による渦巻き状・弧状等平行沈線を施す。	諸磯 b
40	J-56 住 6 区 2 層	深鉢	普通	砂粒混入	口縁部破片	胴部上位において顕著に内屈する 4 単位波状口縁と想定される。波頂部に沈線を伴う渦巻き状隆帯を施す。口縁部、半截竹管状工具による平行沈線を口縁に並行して施す。胴部、単節 RL 縄文施文後、半截竹管状工具による弧状平行沈線を施す。	諸磯 b
41	J-56 住 6 区 1 層	深鉢	普通	砂粒・褐色礫・雲母混入	口縁部破片	口端部上面に圧痕を施す。半截竹管状工具による横位平行沈線で区画する。区画内に同工具による斜位平行沈線を施す。	諸磯 b
42	J-56 住 3 区 1 層	深鉢	普通	砂粒・白色鉱物混入	口縁部破片	胴部上位において顕著に内屈する。4 単位波状口縁で波底部に孔を有する小突起を配すと考えられる。単節 RL 縄文施文後、半截竹管状工具による横位・斜位・弧状等平行沈線を施す。	諸磯 b
43	J-56 住 2 区ﾍﾞﾙﾄ・3 区 2 層	深鉢	良好	砂粒・白色鉱物・褐色礫混入	口縁部破片	半截竹管状工具による平行沈線（一部は半隆起線状）を施す。一部の区画内には円形刺突文を配す。口端部上面と円形刺突文部分に赤色塗彩。	諸磯 b
44	J-56 住 6 区ﾍﾞﾙﾄ	深鉢	普通	砂粒・白色鉱物・褐色礫混入	口縁部破片	半截竹管状工具による横位・斜位平行沈線を施す。	諸磯 b
45	J-56 住 9 区 1 層	深鉢	普通	砂粒・白色鉱物混入	口縁部破片	口縁部に並行して刺突を伴う隆帯を巡らす。胴部、単節 RL 縄文施文後、半截竹管状工具平行沈線（半隆起線状）を施す。	諸磯 b
46	J-56 住 12 区 2 層	深鉢	普通	砂粒・褐色礫混入	口縁部破片	胴部上位において顕著に内屈する 4 単位波状口縁と想定される。単節 RL 縄文施文後、半截竹管状工具による横位平行沈線で区画する。一部の区画内には同工具による弧状平行沈線を施す。	諸磯 b
47	J-56 住 8 区 2 層	深鉢	普通	砂粒・石英・褐色礫・雲母混入	胴部破片	半截竹管状工具による縦位・斜位・弧状等平行沈線を施す。	諸磯 b
48	J-56 住 15 区 1 層	深鉢	普通	砂粒混入	胴部破片	半截竹管状工具による格子目文を施す。	諸磯 b
49	J-56 住 8 区 2 層	深鉢	普通	砂粒・褐色礫・灰色礫混入	胴部破片	半截竹管状工具による横位・斜位・弧状等平行沈線を施す。一部の区画内には円形刺突文を配す。	諸磯 b
50	J-56 住 9 区 1 層	深鉢	普通	砂粒・白色鉱物・褐色礫・雲母混入	胴部破片	櫛歯状工具による平行沈線を横位に巡らす（直線状と波状を交互）。竹管状工具による円形刺突文を縦位に配す。	諸磯 b
51	J-56 住 7 区 2 層・6 区ﾍﾞﾙﾄ	深鉢	良好	砂粒・白色鉱物混入	胴部下位～底部 1/8	単節 RL 縄文施文後、半截竹管状工具による横位平行沈線を施す。底部に網代痕・押圧縄文状の痕跡が認められるが、意図的施文かは不明。	諸磯 b
52	J-56 住 3 区 1 層・6 区 1 層・10 区ﾍﾞﾙﾄ	深鉢	普通	砂粒混入	胴部～底部 1/10	単節 RL 縄文施文後、半截竹管状工具による横位平行沈線を施す。	諸磯 b
53	J-56 住 9 区 1 層	深鉢	普通	砂粒・白色鉱物・灰色礫混入	口縁部破片	やや内反する双頭波状口縁。単節 LR 縄文施文。	諸磯 b
54	J-56 住 2 区ﾍﾞﾙﾄ	深鉢	良好	砂粒・褐色礫混入	口縁部破片	やや内反する双頭波状口縁。無節 L 縄文施文。	諸磯 b
55	J-56 住 6 区ﾍﾞﾙﾄ	深鉢	普通	砂粒・褐色礫混入	口縁部～胴部 1/8	口端部に三角形の小突起を有する。外面に疎らな不整方向沈線と縄文が認められるが、意図的施文かどうか疑問である。	諸磯？
56	J-56 住 2 区 1 層・5 区 1 層	深鉢	普通	砂粒・褐色礫混入	口縁部破片	単節 LR と RL 結束縄文横転がし。口端部上面の一部に目の字ﾓﾁｰﾌの貼付文施文。	諸磯？
57	J-56 住 7 区 2 層	深鉢	普通	砂粒・褐色礫・雲母混入	胴部破片	単節 LR 縄文横転がし。	諸磯 b
58	J-56 住 11 区 2 層＋11 区ベルト 1 層	深鉢	普通	砂粒・黒色鉱物混入	胴部～底部 1/3	遺存部においては縄文施文。	諸磯 b

第 268 表　二軒在家原田Ⅱ遺跡 A 区縄文時代住居址出土遺物観察表（32）

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
59	J-56 住 11 区 1 層	深鉢？	普通	砂粒・白色鉱物混入	口縁部破片	口縁端部に棒状工具による刻み目を施す。胴部は2条1組の横位沈線を3段以上配し、沈線間に棒状工具による斜位の刻み目を施す。区画内はﾛｯｷﾝｸﾞによる貝殻腹縁文。	諸磯 b 併行（浮島系？）
60	J-56 住 7 区 2 層	鉢	普通	砂粒・褐色礫混入	口縁部～体部破片	体部上位において顕著に内屈する。遺存部においては無文。	諸磯 b ？
61	J-56 住 9 区ﾍﾞﾙﾄ	浅鉢	普通	砂粒・褐色礫混入	1/4	口縁部に孔を巡らす。丸味を帯びた器形である。遺存部においては無文。	諸磯 b
62	J-56 住 10 区 2 層	浅鉢	良好	砂粒・灰色礫混入	口縁部～胴部 1/10	諸磯 b 式期の有孔浅鉢か。通常より縦位に長い器形と想定される。口縁部に円孔を列点状に巡らす。円孔以外は遺存部においては無文。	諸磯 b
63	J-56 住 11 区 2 層・11 区ﾍﾞﾙﾄ	浅鉢	普通	砂粒・褐色礫・金雲母混入	体部～底部 1/3	体部下位と中位に段差状の稜を有する。上位において顕著に内屈する。遺存部においては無文。有孔浅鉢と想定される。	諸磯 b
64	J-56 住 7 区 1 層＋2 層	浅鉢	普通	砂粒混入	体部～底部 1/3	体部下位と中位に段差状の稜を有する。上位において顕著に内屈する。遺存部においては無文。有孔浅鉢と想定される。	諸磯 b
65	J-56 住 11 区 1 層	深鉢	普通	砂粒・片岩混入	口縁部破片	尖頭状工具によるキザミを伴う浮線文。縄文地文の有無は不明。口唇部に橋状の把手、その直下に円形貼付文3つを用いた獣面状の表現。内面は横位のナデ。	諸磯 b
66	J-56 住 3 区 1 層	深鉢	普通	砂粒・チャート・片岩混入	口縁部破片	単節 RL の縄文地文。浮線文で横位区画。区画内に同様の浮線文を入組文状に配置。浮線文上にヘラ状工具によるキザミを加える。口唇部に獣面把手。内面は横位の粗いミガキ。	諸磯 b
67	J-56 住 12 区 1 層	深鉢	普通	砂粒・白色鉱物・チャート混入	口縁部破片	単節 RL の縄文地文。浮線文で横位区画。区画内に同様の浮線文を入組文状に配置。浮線文上にヘラ状工具によるキザミを加える。口縁部付近に、円形貼付文による獣面状の装飾。内面は横位のナデ。	諸磯 b
68	J-56 住 6 区 1 層	深鉢	普通	砂粒・白色鉱物混入	口縁部破片	単節 RL の縄文地文。浮線文で横位区画。区画内に同様の浮線文を入組文状に配置。浮線文上にヘラ状工具によるキザミを加える。口縁部付近に、円形貼付文による獣面状の装飾。内面は横位のミガキ。	諸磯 b
69	J-56 住 7 区 1 層	深鉢	普通	砂粒・白色鉱物混入	口縁部破片	単節 RL の縄文地文。浮線文が剥離し、地紋の痕跡が見える箇所が多い。浮線文上に、ヘラ状工具によるキザミを加える。口縁部付近に、円形貼付文による獣面状の装飾。内面は横位のナデ。	諸磯 b
70	J-56 住 3 区 2 層	深鉢	普通	砂粒・石英・角閃石混入	口縁部破片	波状口縁。隆帯による獣面把手貼付→単節RL縄文を横位を施文、鼻部に竹管状工具による刺突、耳部に同様の工具によるキザミ→浮線渦巻文を施文→浮線文部にヘラ状工具によるキザミ。内面は横位のミガキ。	諸磯 b
71	J-56 住 2 区 1 層	深鉢	普通	砂粒・黒色鉱物・褐色礫混入	口縁部破片	波状口縁。隆帯による獣面把手貼付→浮線渦巻文を施文→浮線文部にヘラ状工具によるキザミ。内面は横位のナデ。	諸磯 b
72	J-56 住 11 区 1 層	深鉢	良好	砂粒・石英・チャート・角閃石混入	口縁部破片	波状口縁。隆帯による獣面把手貼付→単節RL縄文を横位を施文→浮線渦巻文を施文→浮線文部にヘラ状工具によるキザミ。内面は横位のミガキ、波頂部ナデ。	諸磯 b
73	J-56 住 7 区 1 層	深鉢	普通	砂粒・石英混入	口縁部破片	波状口縁。隆帯による獣面把手貼付→単節RL縄文を横位施文→浮線文を施文→浮線文部にヘラ状工具によるキザミ。内面は横・斜位のナデ。	諸磯 b
74	J-56 住 11 区 1 層	深鉢	普通	砂粒・石英・角閃石混入	口縁部破片	波状口縁。隆帯による獣面把手貼付→浮線渦巻文を施文→浮線文部にヘラ状工具によるキザミ。内面は横・斜位のミガキ。	諸磯 b
75	J-56 住 5 区 1 層	深鉢	普通	砂粒・白色鉱物・石英混入	口縁部破片	波状口縁。隆帯による獣面把手貼付→単節RL縄文を横位施文→浮線渦巻文を施文→浮線文部にヘラ状工具によるキザミ。内面は横位のナデ・ミガキ。	諸磯 b
76	J-56 住 11 区 1 層	深鉢	普通	砂粒・石英・角閃石混入	口縁部破片	波状口縁。獣面把手貼付→単節 RL 縄文を縦・横位施文→浮線渦巻文を施文→浮線文部にヘラ状工具によるキザミ。内面は横位のナデ。	諸磯 b
77	J-56 住 7 区 1 層	深鉢	普通	砂粒・白色鉱物・石英・角閃石混入	口縁部破片	波状口縁。隆帯による獣面把手貼付→鼻部にペン先状工具による刺突・沈線→浮線渦巻文を施文→浮線文部にヘラ状工具によるキザミ。内面は横・斜位のナデ。	諸磯 b
78	J-56 住 2 区 2 層	深鉢	良好	砂粒・石英混入	口縁部破片	波状口縁。獣面把手貼付→鬣・耳・眼・鼻部に竹管状工具による刺突・キザミ→単節 RL 縄文を横位施文→口唇部に浮線文を梯子状に施文、口縁部は同様の手法で格子状の渦巻文を施文→浮線文部にヘラ状工具によるキザミ。内面は横・斜位のナデ。鬣・耳・鼻・口などの顔面表現が明瞭。	諸磯 b

第 269 表　二軒在家原田Ⅱ遺跡 A 区縄文時代住居址出土遺物観察表（33）

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
79	J-56 住 12 区	深鉢	普通	砂粒・白色鉱物・石英混入	口縁部破片	波状口縁。獣面把手貼付→耳・鼻部に丸棒上工具による沈線・刺突→単節 RL 縄文を横位施文→半截竹管状工具による弧状の沈線を施文。内面は横・縦位のミガキ。	諸磯 b
80	J-56 住 11 区	深鉢	普通	砂粒・白色鉱物・石英混入	口縁部破片	波状口縁。形骸化した獣面把手貼付→単節 RL 縄文を横位施文→浮線文を施文→浮線文部にヘラ状工具によるキザミ。内面は横位のナデ。	諸磯 b
81	J-56 住 6 区ﾍﾞﾙﾄ	深鉢	普通	砂粒・白色鉱物・石英混入	口縁部破片	波状口縁。獣面把手貼付→鼻部にヘラ状工具によるキザミ→単節 RL 縄文・無節 R 縄文を横位施文→浮線文を施文→浮線文部にヘラ状工具によるキザミ。内面は横位のナデ。	諸磯 b
82	J-56 住 12 区 2 層	深鉢	普通	砂粒・白色鉱物・石英・角閃石混入	口縁部破片	波状口縁。獣面把手貼付→耳部に竹管状工具による刺突→単節 RL 縄文を横位施文→浮線渦巻文を施文→浮線文部にヘラ状工具によるキザミ。内面は横位のナデ・ミガキ。	諸磯 b
83	J-56 住 11 区 2 層	深鉢	普通	砂粒・白色鉱物・石英混入	口縁部破片	波状口縁。獣面把手貼付→耳部にヘラ状工具によるキザミ→単節 RL 縄文を横位施文→浮線渦巻文を施文→浮線文部にヘラ状工具によるキザミ。内面は横位のナデ・ミガキ。	諸磯 b
84	J-56 住 12 区 2 層	深鉢	普通	砂粒・白色鉱物・黒色鉱物・石英混入	口縁部破片	波状口縁。獣面把手貼付→眼・鼻部にヘラ状工具によるキザミ・刺突→浮線渦巻文を施文→浮線文部にペン先状工具による刺突・キザミ。内面は横位のナデ・ミガキ。	諸磯 b
85	J-56 住 11 区 2 層	深鉢	普通	砂粒・白色鉱物・石英・角閃石混入	口縁部破片	波状口縁。隆帯による獣面把手貼付→耳・鼻部にヘラ状工具によるキザミ・刺突→浮線渦巻文を施文→浮線文部にペン先状工具による刺突・キザミ。内面は横位のナデ・ミガキ。	諸磯 b
86	J-56 住 12 区 1 層	土偶	普通	砂粒・石英・角閃石混入	口縁部～胴部 4/5	表裏面ともにナデ調整。重さ〈16.68〉g。	諸磯 b
87	J-56 住 4 区 1 層	土製品	普通	砂粒・白色鉱物混入	約 1/2?	方形の皿状土製品か。胎土・他の出土遺物より、諸磯式期の所産である可能性が考えられる。	諸磯？
88	J-56 住D -1 土	深鉢	普通	砂粒・ﾁｬｰﾄ・片岩・植物繊維混入	口縁部～胴部 1/10	4 単位波状口縁と想定される。単節 RL 縄文施文後、口縁部と頚部に半截竹管状工具押し引きによる爪形文を 2 条巡らす。（56 住は諸磯式期と想定されるので、D-1 土は単独の別土坑の可能性もあり）	黒浜
89	J-56 住 9 区 1 層	浅鉢？	良好	砂粒・白色鉱物・植物繊維混入	口縁部破片	口縁直下に櫛歯状工具による横位簾状文を施す。胴部は同工具によるコンパス文を横位に 3 段以上巡らせる。	前期中葉
90	J-56 住 7 区 1 層	深鉢	普通	砂粒・褐色礫・白色鉱物混入	口縁部～胴部 1/10	やや内反する平口縁と想定される。口縁部、隆帯と幅広の沈線により口縁部文様帯を区画する。一部の区画内には単節 LR 縄文施文。また一部には大きめの円孔文を施す。胴部、単節 LR 縄文施文後、2 条一組の縦位沈線施文。沈線間磨り消し。また一部には弧状沈線を施す。	加曽利 E Ⅲ

A区 J － 57 号住居址

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
1	J-57 住一括	深鉢	良好	砂粒・褐色礫・雲母混入	口縁部 1/10	波頂部下位に渦巻き状隆帯を施す。隆帯と沈線で口縁部文様帯を区画する。区画内には縦位沈線施文。胴部、単節 RL 縄文施文後、横位沈線で区画し、区画内には鋸歯状・縦位・横位沈線を施す。	加曽利 E Ⅰ～Ⅱ
2	J-57 住一括	深鉢	普通	砂粒・褐色礫・雲母混入	口縁部破片	隆帯と沈線により口縁部文様帯を横位に区画する。区画内には縦位沈線施文。頚部無文。	加曽利 E Ⅰ～Ⅱ
3	J-57 住 D-1 土	深鉢	良好	砂粒混入	口縁部破片	隆帯と沈線により口縁部文様帯を区画する。区画内の一部には撚り糸施文。胴部撚り糸施文。	加曽利 E Ⅰ～Ⅱ
4	J-57 住 10 区ﾍﾞﾙﾄ	深鉢	普通	砂粒・雲母混入	口縁部破片	口端部直下に幅の狭い無文帯を有する。隆帯と沈線により口縁部文様帯を区画する。区画内には単節 RL 縄文施文。胴部、単節 RL 縄文施文後、一部に縦位沈線を施す。	加曽利 E Ⅰ～Ⅱ
5	J-57 住一括	深鉢	普通	砂粒・褐色礫混入	口縁部破片	隆帯と沈線により口縁部文様帯を区画する。区画内には斜位沈線施文。胴部撚り糸施文（不明瞭）。	加曽利 E Ⅰ～Ⅱ
6	J-57 住 D-2	深鉢	普通	砂粒・褐色礫混入	口縁部～胴部 1/10	やや内反する平口縁。隆帯と沈線により口縁部文様帯を区画する。一部の区画内には丸棒状工具による斜位沈線を施す。 胴部、撚り糸施文後、口縁部文様帯連結部下位に2条一組の隆帯を垂下させる。胴部括れ部分において2条の隆帯を連結する。さらに、その部分を 4 条一組の弧状沈線により結ぶ。7 に酷似するが、連弧文が 4 条と 3 条で異なる。	加曽利 E Ⅱ

第 270 表　二軒在家原田Ⅱ遺跡Ａ区縄文時代住居址出土遺物観察表（34）

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
7	J-57 住 D-2	深鉢	普通	砂粒・褐色礫混入	口縁部～胴部 1/6	やや内反する平口縁。隆帯と沈線により口縁部文様帯を区画する。一部の区画内には丸棒状工具による斜位沈線を施す。 胴部、撚り糸施文後、口縁部文様帯連結部下位に2条一組の隆帯を垂下させる。胴部括れ部分において2条の隆帯を連結する。さらに、その部分を3条一組の弧状沈線により結ぶ。	加曽利ＥⅡ
8	J-57 住一括	深鉢	普通	砂粒・白色鉱物混入	口縁部破片	やや内反する平口縁。口縁部、斜位沈線と斜位貼付文による格子目文。胴部単節 RL 縄文施文。	加曽利Ｅ併行（曽利系）
9	J-57 住 12 区 1 層	深鉢	普通	砂粒・褐色礫・雲母混入	胴部破片	胴部は蕨手状の隆帯および沈線を 4 単位配し、内外を斜位～横位沈線で充填するこの隆帯と沈線は口縁部から垂下するものと考えられる。	中期後葉
10	J-57 住一括	深鉢	良好	砂粒・褐色礫混入	胴部破片	2 条一組を基本とする縦位・弧状（渦巻き状か）隆帯で区画する。区画内には斜位沈線を施す。中部高地系。	加曽利Ｅ併行
11	J-57 住一括	深鉢	普通	砂粒・褐色礫・黒色鉱物混入	口縁部～胴部 1/3	ほぼ直立する平口縁。口縁部に棒状工具による列点状刺突を巡らす。胴部には縦位条線を施す。	加曽利Ｅ
12	J-57 住 5 区 1 層	深鉢	普通	砂粒・褐色礫・雲母混入	口縁部破片	遺存部最上位に重弧文施文。頚部に X 字状貼付文を施す。胴部、撚り糸施文後、縦位・横位等隆帯で区画する。横位隆帯端部は渦巻き状を呈する。13 と同一個体か。	加曽利Ｅ併行
13	J-57 住一括	深鉢	普通	砂粒・褐色礫・雲母混入	口縁部破片	やや内反する平口縁と想定される。口縁部、重弧文施文。頚部に X 字状貼付文を施す。胴部、撚り糸施文後、2 条一組を基本とする縦位・横位等隆帯で区画する。	加曽利Ｅ併行
14	J-57 住一括	深鉢	良好	砂粒・白色鉱物・チャート混入	胴部 2/5	頸部無文。胴部6単位の文様。胴部最上位にX字状の把手、およびそれと一体化して横位にめぐるS字状の隆帯。 胴部、地文として縦位回転押捺による撚糸文R。把手の直下、腕骨文に類似する意匠の縦位隆帯。交互刺突により蛇行文と同様の文様効果を帯びた縦位隆帯。内面、横位ないし斜位のナデ。	中期後葉
15	J-57 住一括	深鉢	普通	砂粒・褐色礫・白色鉱物混入	胴部破片	頚部に X 字状把手を施す。X 字の側面には沈線施文。一部の沈線端部は蕨手状を呈する。胴部、撚り糸施文後、縦位隆帯（一部は左右からの交互刺突を伴う）で区画する。	加曽利Ｅ併行
16	J-57 住 D-1 土	深鉢	普通	砂粒・褐色礫・雲母混入	胴部破片	単節 RL 縄文施文後、縦位隆帯で区画する。区画内、蛇行沈線と横位短沈線施文。遺存部最上位には蛇行隆帯貼付。	加曽利Ｅ併行
17	J-57 住炉	深鉢	普通	砂粒・褐色礫・雲母混入	胴部 1/10	撚り糸施文。	加曽利Ｅ
18	J-57 住一括	深鉢	普通	砂粒・褐色礫・雲母混入	胴部破片	2 条一組を基本とする隆帯で区画する。隆帯間の一部の沈線は蕨手状を呈する。区画内には撚り糸施文。	加曽利Ｅ併行
19	J-57 住一括	深鉢	普通	砂粒混入	胴部破片	深鉢の口縁部文様帯付近と想定される。横位に区画し、区画内に縦位・渦巻き状沈線を施す。一部には蛇行隆帯施文。	中期後葉
20	J-57 住炉	深鉢	普通	砂粒・褐色礫混入	胴部破片	2 条一組を基本とする隆帯で区画する。区画内には縦位沈線を施す。さらに一部に 2 条一組の横位弧状沈線施文。	加曽利ＥⅠ～Ⅱ
21	J-57 住一括	深鉢	普通	砂粒・褐色礫・雲母混入	口縁部破片	頚部において顕著に外屈する大型深鉢。波頂部に二重の立体的把手を施す。胴部、単節 RL 縄文施文後、2 条一組の弧状（渦巻き状？）隆帯を施す。	加曽利Ｅ併行
22	J-57 住一括	深鉢	普通	砂粒・褐色礫・白色鉱物混入	胴部～底部破片	縄文（前々段反撚 RLL?）施文後、縦位隆帯で区画する。区画内の一部に蛇行隆帯を施す。	加曽利Ｅ
23	J-57 住 8 区 1 層・11 区ﾍﾞﾙﾄ	深鉢	普通	砂粒・白色鉱物混入	底部破片	単節 RL 縄文施文後、丸棒状工具による横位波状沈線を施す。底部木葉痕。	加曽利Ｅ
24	J-57 住一括	深鉢	普通	砂粒・褐色礫・白色鉱物混入	底部破片	縦位隆帯（3 条一組か）により区画する。遺存部には隆帯以外の施文は認められない。底部木葉痕。	加曽利Ｅ
25	J-57 住一括	深鉢	普通	砂粒・白色鉱物混入	底部破片	遺存部においては縄文施文。	加曽利Ｅ
26	J-57 住炉＋6 区 1 層＋一括	浅鉢	普通	砂粒混入	口縁部～胴部 2/5	遺存部においては無文。口縁内面、粘土帯を貼り付けやや肥厚させる。	加曽利Ｅ
27	J-57 住一括	台付土器	普通	砂粒・褐色礫混入	台部破片	加曽利Ｅ式期の台付き土器台部と想定した。3 箇所に穿孔を施し、孔周辺を三角形状に窪ませる。	加曽利Ｅ
28	J-57 住一括	台付土器	普通	砂粒・褐色礫混入	台部破片	2 箇所を逆 U 字状に窪ませると考えられる。遺存部最上に篦調整痕が認められる。	加曽利Ｅ
29	J-57 住 2 区ﾍﾞﾙﾄ	土製品	普通	砂粒混入	約 1/6?	楕円形の硯状を呈する土製品か。窪みを有する面には細かな列点状刺突を施す。逆の面には沈線を施す。	中期後葉？

第 271 表　二軒在家原田Ⅱ遺跡Ａ区縄文時代住居址出土遺物観察表（35）

A区J－58号住居址

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
1	J-58 住 5 区 1 層・ 6 区 2 層・ 9 区ﾍﾞﾙﾄ 2 層・10 区 ﾍﾞﾙﾄ 1 層	深鉢	普通	砂粒・白色鉱物・ 黒色鉱物混入	口縁部～胴部 1/10	半截竹管状工具による平行沈線を、上位より横位・斜位・横位・綾杉状に施す。口端部内外面には耳たぶ状・ボタン状貼付文。胴部にも同様の文様を施す。	諸磯 c
2	J-58 住 2 区 1 層	深鉢	普通	砂粒・褐色礫・ 灰色礫混入	口縁部破片	口端部側面に刺突文を連続して施す。半截竹管状工具による横位平行沈線を施し、棒状・ボタン状貼付文を配す。	諸磯 c
3	J-58 住 8 区 2 層・ 12 区 1 層	深鉢	普通	砂粒・褐色礫混 入	口縁部破片	口縁部が顕著に内反する。口端部付近に列点状刺突を巡らす。半截竹管状工具による縦位・横位・斜位平行沈線施文後、棒状・ボタン状貼付文を配す。	諸磯 c
4	J-58 住 2 区 1 層	深鉢	良好	砂粒・白色鉱物 混入	胴部破片	半截竹管状工具による横位・縦位・斜位平行沈線施文後、棒状・ボタン状・楕円形貼付文、縦位結節浮線文を配す。	諸磯 c
5	J-58 住 9 区 1 層	深鉢	普通	砂粒・褐色礫混 入	口縁部～胴部破 片	口縁部が内反する。口縁部、半截竹管状工具による斜位・横位平行沈線を施し、棒状・ボタン状貼付文を配す。胴部、同工具による縦位弧状平行沈線で区画し、区画内に斜位・縦位細沈線施文。	諸磯 c
6	J-58 住 4 区 1 層	深鉢	普通	砂粒・褐色礫混 入	口縁部破片	口縁部が内反する。半截竹管状工具による縦位・横位平行沈線を施し、棒状・ボタン状貼付文を配す。	諸磯 c
7	J-58 住 D-2 土	深鉢	良好	砂粒混入	口縁部破片	口縁部が内反する。半截竹管状工具による縦位・横位・斜位平行沈線で区画する。耳状・棒状・ボタン状貼付文を配す。さらに一部の区画には単節 RL 縄文施文。	諸磯 c
8	J-58 住 6 区 2 層	深鉢	普通	砂粒混入	口縁部破片	口縁部が顕著に内反する。遺存部上位～中位、刺突文施文後、棒状・ボタン状貼付文を施す。遺存部下位、半截竹管状工具による斜位平行沈線施文後、ボタン状貼付文を配す。	諸磯 c
9	J-58 住 14 区	深鉢	良好	砂粒・白色鉱物・ チャート・片岩	胴部 1/10	半隆起線状の集合沈線。横位集合沈線→斜位集合沈線→縦位集合沈線→棒状貼付文・2個1対のボタン状貼付文の順に施文。斜位集合沈線は左→右の順を基本としつつ、随所に破格・例外あり。内面は横位のナデ。	諸磯 c
10	J-58 住 P-7	深鉢	普通	砂粒・白色鉱物・ 褐色礫混入	口縁部破片	波状口縁の端部か。屈曲部頂部は沓先状を呈す。半截竹管状工具による横位・渦巻き・X 字状の平行沈線を施した後、頂部下に耳状貼付文を付す。	諸磯 c
11	J-58 住 7 区 1 層	深鉢	普通	砂粒・チャート・片 岩混入	口縁部破片	口端部直下に列点状刺突を施す。半截竹管状工具による横位・斜位平行沈線施文後、2 個一対の円形貼付文を配す。	諸磯 c
12	J-58 住 7 区 2 層	深鉢	普通	砂粒・褐色礫混 入	口縁部破片	4 単位波状口縁と想定される。半截竹管状工具による横位・斜位平行沈線施文後、口縁部に並行して鋸歯状貼付文を施す。	諸磯 c
13	J-58 住 15 区 2 層	深鉢	普通	砂粒・褐色礫混 入	胴部破片	半截竹管状工具による縦位平行沈線で区画し、区画内には斜位平行沈線を施す。また一部には単節 RL 縄文施文。さらに棒状・ボタン状貼付文を配す。	諸磯 c
14	J-58 住 2 区 1 層	深鉢	普通	砂粒・褐色礫混 入	胴部破片	半截竹管状工具による縦位・斜位平行沈線施文後、棒状・ボタン状・円形貼付文を配す。	諸磯 c
15	J-58 住 6 区ﾍﾞﾙﾄ 1 層	深鉢	良好	砂粒・褐色礫・ 雲母混入	胴部破片	半截竹管状工具による横位平行沈線施文後、円形貼付文と鋸歯状貼付文を施す。	諸磯 c
16	J-58 住 11 区 1 層	深鉢	普通	砂粒混入	胴部破片	半截竹管状工具による横位・斜位平行沈線施文後、鋸歯状貼付文を施す。	諸磯 c
17	J-58 住 7 区 1 層	深鉢	良好	砂粒混入	胴部破片	半截竹管状工具による横位・斜位平行沈線施文後、円形貼付文と鋸歯状貼付文を施す。	諸磯 c
18	J-58 住 7 区 1 層	深鉢	普通	砂粒・チャート混入	胴部破片	半截竹管状工具による縦位平行沈線で区画し、区画内に斜位平行沈線を施す。さらに一部に 2 個一対のボタン状貼付文を配す。	諸磯 c
19	J-58 住 11 区 2 層	深鉢	良好	砂粒・褐色礫混 入	胴部破片	単節 RL 結節縄文横転がし後、鋸歯状貼付文を施す。	諸磯 c
20	J-58 住 10 区 2 層	深鉢	普通	砂粒・褐色礫混 入	胴部破片	遺存部上位、刺突文施文。中位、半截竹管状工具による矢羽根状平行沈線を施し、棒状・ボタン状貼付文施文。下位、同工具による縦位・斜位平行沈線を施し、一部にボタン状貼付文施文。	諸磯 c
21	J-58 住 6 区 2 層	深鉢	良好	砂粒・褐色礫混 入	底部破片	胴部下位から底部にかけて張り出す器形。半截竹管状工具による縦位・斜位平行沈線を施す。	諸磯 c
22	J-58 住 11 区 1 層	小型深鉢	良好	砂粒・褐色礫混 入	底部破片	胴部下位から底部にかけて張り出す器形。半截竹管状工具による渦巻き状・横位平行沈線を施す。一部にボタン状貼付文を配す。	諸磯 c
23	J-58 住 7 区 1 層	深鉢	良好	砂粒・白色鉱物・ 雲母混入	口縁部破片	口縁部、半截竹管状工具による平行沈線を口縁に並行して施す。胴部、同工具による斜位平行沈線を施し、一部に円形貼付文施文。	諸磯 c

第 272 表　二軒在家原田Ⅱ遺跡A区縄文時代住居址出土遺物観察表（36）

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
24	J-58 住 D-7 土	深鉢	良好	砂粒・白色鉱物混入	口縁部破片	口端部に並行して結節浮線文を施す。胴部、半截竹管状工具による斜位平行沈線施文後、3 個一対の円形貼付文を施す。	諸磯 c
25	J-58 住 11 区 1 層	深鉢	良好	砂粒混入	口縁部破片	横位細沈線施文後、結節浮線文で横位に区画する。区画内に渦巻き状・弧状結節浮線文を施す。	諸磯 c
26	J-58 住 15 区 1 層	深鉢	良好	砂粒・白色鉱物・褐色礫混入	口縁部破片	横位細沈線施文後、結節浮線文で区画する。一部の区画内に円形貼付文を配す。	諸磯 c
27	J-58 住 12 区 1 層・15 区 1 層	深鉢	良好	砂粒・褐色礫混入	口縁部破片	横位細沈線施文後、結節浮線文を施す。	諸磯 c
28	J-58 住 15 区 1 層	深鉢	良好	砂粒・白色鉱物混入	口縁部破片	4 単位波状口縁深鉢と想定される。横位細沈線施文後、結節浮線文で区画する。一部の区画内に 2 個一対の円形貼付文を配す。口端部上面に赤色塗彩が認められる。	諸磯 c
29	J-58 住 12 区 1 層	深鉢	良好	砂粒・褐色礫混入	口縁部破片	4 単位波状口縁深鉢と想定される。半截竹管状工具による横位平行沈線施文後、結節浮線文で区画する。一部の区画内に鋸歯状貼付文を配す。	諸磯 c
30	J-58 住 7 区 2 層・11 区 2 層	深鉢	普通	砂粒・褐色礫混入	口縁部破片	波状口縁深鉢の波頂部付近と想定される。口端部直下に結節浮線文・浮線文を巡らすと考えられる（遺存部が少なく不明瞭）。半截竹管状工具による横位・斜位平行沈線を施し、4 条の縦位結節浮線文・鋸歯状貼付文・2 個一対の円形貼付文を配す。縦位結節浮線文上位が波頂部か。	諸磯 c
31	J-58 住 14 区1層	深鉢	良好	砂粒混入	胴部破片	半截竹管状工具による横位平行沈線施文後、同工具による結節浮線文を渦巻き状に施す。遺存部上位に横位に区画していると想定される幅の広い沈線が認められる。	諸磯 c
32	J-58 住 D-1 土	深鉢	普通	砂粒・褐色礫・チャート・片岩混入	口縁部破片	結節浮線文を弧状に施す。	諸磯 c
33	J-58 住 6 区 2 層	深鉢	普通	砂粒・チャート混入	胴部破片	横位細沈線施文後、斜位結節浮線文を施す。全体的に摩滅している。	諸磯 c
34	J-58 住 6 区 2 層	深鉢	普通	砂粒混入	胴部破片	横位細沈線施文後、渦巻き状結節浮線文を施す。結節浮線文の一部が剥落している。	諸磯 c
35	J-58 住 15 区 1 層	深鉢	良好	砂粒混入	胴部破片	結節浮線文を直線状・弧状等に施す。一部に結節浮線文に並行する沈線施文。	諸磯 c ～十三菩提
36	J-58 住 3 区 1 層	深鉢	良好	砂粒・白色鉱物混入	胴部破片	横位細沈線施文後、結節浮線文で区画する。一部の区画内に円形貼付文を配す。	諸磯 c
37	J-58 住 D-1 土	深鉢	良好	砂粒混入	胴部～底部 1/8	胴部下位から底部にかけて張り出す器形。遺存部最上位に横位結節浮線文を巡らし区画する。その下位は 5 条一組を基本とする縦位結節浮線文で 4 単位に区画し、区画内には浮線文を X 字状に施す。色調は灰褐色を呈する。	諸磯 c
38	J-58 住 P-15	深鉢	普通	砂粒・褐色礫・石英混入	口縁部破片	4 単位波状口縁深鉢の突起状把手と考えられる。透かし状の穿孔を 2 箇所に施す。半截竹管状工具による平行沈線（一部半隆起線状）施文。一部にボタン状貼付文を配す。	諸磯 c
39	J-58 住 7 区 1 層	深鉢	普通	砂粒・石英混入	口縁部破片	4 単位波状口縁深鉢の波頂部付近と想定される。靴先状口縁に突起状把手を施す部分と考えられる。半截竹管状工具による平行沈線（一部半隆起線状）を施す。	諸磯 c
40	J-58 住 12 区 1 層	深鉢	普通	砂粒・白色鉱物混入	口縁部破片	4 単位波状口縁深鉢の把手部。半截竹管状工具による縦位・斜位・綾杉状平行沈線を施す。	諸磯 c
41	J-58 住 6 区 1 層	深鉢	普通	砂粒・白色鉱物混入	口縁部破片	橋状把手か。断面三角形状の棒状工具を全面に刺突し、口端部と中位に、粘土粒を縦位に貼り付ける。	諸磯 c 併行
42	J-58 住 11 区 1 層	深鉢	普通	砂粒・褐色礫・雲母混入	口縁部破片	やや内反する平口縁と想定される。口縁部、半截竹管状工具による斜位平行沈線を施す。胴部、刺突文施文。	諸磯 b ～ c（浮島系？）
43	J-58 住 10 区ﾍﾞﾙﾄ 2 層	深鉢	普通	砂粒・褐色礫・雲母混入	口縁部破片	やや内反する平口縁と想定される。口縁部、半截竹管状工具による斜位平行沈線施文後、口端部に棒状貼付文施文。胴部、刺突文施文。42 と同一個体か。	諸磯 b ～ c
44	J-58 住 15 区 1 層	深鉢	良好	砂粒・褐色礫混入	口縁部破片	やや内反する平口縁と想定される。刺突文を施す。	諸磯 b ～ c 併行
45	J-58 住 D-11 土	深鉢	普通	砂粒・褐色礫混入	胴部破片	沈線と貝殻腹縁文を施す。ﾓﾁｰﾌは菱形か。	諸磯 c 併行（興津系？）
46	J-58 住 10 区 1 層	深鉢	普通	砂粒・褐色礫混入	胴部破片	刺突文を施す。	諸磯 b ～ c 併行
47	J-58 住 8 区 1 層	深鉢	普通	砂粒混入	胴部破片	刺突文を施す。	諸磯 b ～ c 併行
48	J-58 住 9 区 1 層	深鉢	普通	砂粒・褐色礫混入	胴部破片	横位隆帯を巡らし、隆帯上位を鋸歯状に切り取る。隆帯下位には貝殻腹縁文。	諸磯 c ～十三菩提併行（浮島・興津系？）

第 273 表　二軒在家原田Ⅱ遺跡 A 区縄文時代住居址出土遺物観察表（37）

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
49	J-58 住 7 区 2 層・ 10 区 1 層・11 区 2 層・ 14 区 1 層・ 15 区 1 層	深鉢	普通	砂粒・白色鉱物混入	口縁部～胴部 1/10	4 単位波状口縁と想定される。口端部直下に下位が鋸歯状の隆帯を巡らす。波頂部下位は半截竹管状工具による弧状平行沈線を施し一部を印刻する。胴部、同工具による平行沈線で横位に区画する。区画内、斜位沈線を組み合わせて鋸歯状とし一部を三角形に印刻する。	十三菩提
50	J-58 住 10 区 1 層	深鉢	良好	砂粒・褐色礫混入	口縁部破片	4 単位波状口縁深鉢の波底部付近と想定される。口端部直下に鋸歯状（貼付文の一部を連続して三角形に切り取る）貼付文施文。半截竹管状工具による平行沈線（半隆起線状）を施し、一部に三角形印刻文施文。	十三菩提
51	J-58 住 9 区 1 層	深鉢	良好	砂粒・褐色礫混入	口縁部破片	4 単位波状口縁深鉢の波頂部付近と想定される。半截竹管状工具による平行沈線（半隆起線状）を施す。一部に楕円形印刻文施文。	十三菩提
52	J-58 住 11 区 2 層	深鉢	良好	砂粒・褐色礫・チャート混入	口縁部破片	4 単位波状口縁深鉢の波頂部付近と想定される。半截竹管状工具による平行沈線（一部半隆起線状）を施す。一部に楕円形印刻文施文。口端部直下の鋸歯状（貼付文の一部を連続して三角形に切り取る）貼付文が剥落している。	十三菩提
53	J-58 住 7 区 1 層	深鉢	普通	砂粒混入	口縁部破片	小波状口縁か。半截竹管状工具による平行沈線で横位に区画する。区画内、斜位沈線を組み合わせて鋸歯状とする。	十三菩提
54	J-58 住 10 区 1 層	深鉢	良好	砂粒・褐色礫混入	口縁部破片	4 単位波状口縁深鉢と想定される。口端部直下に鋸歯状（貼付文の一部を連続して三角形に切り取る）貼付文施文。半截竹管状工具による平行沈線（半隆起線状）を施し、一部に印刻文施文。	十三菩提
55	J-58 住 7 区 1 層	深鉢	普通	砂粒混入	口縁部破片	半截竹管状工具による平行沈線（半隆起線状）で横位に区画する。区画内、斜位沈線を組み合わせて鋸歯状とする。	十三菩提
56	J-58 住 D-1 土	深鉢	普通	砂粒・褐色礫混入	胴部破片	所謂ﾄﾛﾌｨｰ型土器の胴部中位片と想定した。2 条の並行する横位隆帯を巡らす。隆帯上位、半截竹管状工具による弧状平行沈線を施す。隆帯側面には爪形文施文。隆帯下位、半截竹管状工具による横位平行沈線と爪形文施文。	十三菩提
57	J-58 住 6 区 2 層・ 14 区 1 層	深鉢	良好	砂粒・白色鉱物混入	胴部破片	半截竹管状工具による平行沈線（半隆起線状）で横位に区画する。区画内、斜位沈線を組み合わせて施し、三角形又は菱形ﾓﾁｰﾌの区画とする。さらに一部に三角形・菱形の印刻文施文。	十三菩提
58	J-58 住 15 区 1 層	深鉢	普通	砂粒・褐色礫・雲母混入	胴部破片	所謂ﾄﾛﾌｨｰ型土器の胴部中位片と考えられる。2 条の並行する横位隆帯を巡らし、一部に橋状把手を施す。隆帯上位、半截竹管状工具による鋸歯状平行沈線を施し、一部を三角形に印刻する。隆帯側面と橋状把手の一部に沈線施文。下位隆帯の一部を印刻。その下位は半截竹管状工具による横位平行沈線施文。	十三菩提
59	J-58 住 10 区 2 層	深鉢	普通	砂粒混入	胴部破片	半截竹管状工具による平行沈線（一部半隆起線状）で横位に区画する。区画内、斜位沈線を組み合わせて施し、三角形又は菱形ﾓﾁｰﾌの区画とする。さらに一部に印刻文施文。	十三菩提
60	J-58 住 9 区 1 層	深鉢	普通	砂粒・褐色礫混入	胴部破片	半截竹管状工具による平行沈線（半隆起線状）で横位に区画する。区画内、斜位沈線を施し、一部に印刻文施文。	十三菩提
61	J-58 住 7 区 2 層・ 10 区 1 層・ 14 区 1 層	深鉢	良好	砂粒・白色鉱物混入	胴部破片	半截竹管状工具による平行沈線（半隆起線状）で横位に区画する。区画内、斜位沈線を組み合わせて施し、鋸歯状又は三角形の区画とする。さらに一部に三角形印刻文施文。	十三菩提
62	J-58 住 8 区 1 層＋ 11 区 1 層	深鉢	普通	砂粒・雲母混入	胴部破片	櫛歯状工具押し引きによる平行刺突文を横位・弧状に配す。一部に楕円形印刻文施文。	十三菩提
63	J-58 住 11 区 1 層	深鉢	普通	砂粒・褐色礫混入	胴部破片	弧状結節浮線文を施す。一部に印刻文施文。	十三菩提
64	J-58 住 7 区 1 層	鉢？	普通	砂粒混入	口縁部破片	口端部上面と側面に結節浮線文を巡らす。頚部無文。胴部、横位直線状・弧状結節浮線文で区画し、区画内に単節 LR 縄文施文。	十三菩提？
65	J-58 住 12 区 1 層	深鉢	普通	砂粒・チャート混入	胴部破片	所謂ﾄﾛﾌｨｰ型土器の胴部中位片と想定した。2 条の並行する横位隆帯をつなぐ橋状把手か。半截竹管状工具による結節沈線（一部は爪形文状又は刺突文状を呈する）を施す。	十三菩提
66	J-58 住 7 区 1 層	深鉢	良好	砂粒・褐色礫・白色鉱物混入	口縁部破片	半截竹管状工具押し引きによる爪形文を施す。爪形文間には斜位短沈線施文。	諸磯 b

第 274 表　二軒在家原田Ⅱ遺跡 A 区縄文時代住居址出土遺物観察表（38）

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
67	J-58 住 2 区 1 層	鉢	普通	砂粒混入	口縁部破片	口縁部が顕著に内屈する鉢と想定される。口縁部には穿孔を施す。器形変換点に斜位短沈線を連続して施文。体部、半截竹管状工具押し引きによる爪形文を施す（木葉状ﾓﾁｰﾌか）。	諸磯 b
68	J-58 住 10 区 1 層	深鉢	良好	砂粒混入	胴部破片	幅の狭い半截竹管状工具による平行沈線で格子目文を施す。遺存部最下位には幅広半截竹管状工具押し引きによる横位爪形文施文。	諸磯 b
69	J-58 住 14 区 2 層	深鉢	良好	砂粒・褐色礫・雲母混入	口縁部破片	口端部上面が鋸歯状を呈する。浮線文を施す。	諸磯 b
70	J-58 住 14 区2層	深鉢	普通	砂粒・片岩混入	口縁部破片	4単位波状と想定される。半截竹管状工具による横位基調平行沈線を施す。	諸磯 b
71	J-58 住 7 区 1 層	深鉢	普通	砂粒・褐色礫混入	口縁部破片	胴部上位において顕著に内屈する。口端部直下に刺突を伴う円形貼付文を施す。口縁部、半截竹管状工具による横位平行沈線を口縁に並行して施す。胴部、単節 LR 縄文施文後、半截竹管状工具による平行沈線を縦位・斜位に施す。	諸磯 b
72	J-58 住 2 区 1 層	深鉢	普通	砂粒混入	胴部破片	半截竹管状工具による平行沈線で格子目文を施す。区画内には円形刺突文施文。	諸磯 b
73	J-58 住 14 区 2 層	鉢	普通	砂粒・白色鉱物混入	胴部破片	櫛歯状工具による横位沈線施文後、円形刺突文を横位列点状に施文。	諸磯 b
74	J-58 住 14 区床直	深鉢	普通	砂粒・白色鉱物混入	胴部上位～下位 3/4	単節RL縄文を器面全体に施す。剥離・摩滅が著しい部分が認められる。	諸磯 b
75	J-58 住 12 区 1 層	浅鉢	良好	砂粒混入	口縁部～体部 1/8	単節 LR 縄文横転がし。	諸磯 b
76	J-58 住 D-1 土	深鉢	普通	砂粒・褐色礫・雲母混入	口縁部破片	やや内反する平口縁と想定される。半截竹管状工具による平行沈線（半隆起線状）で横位に区画する。区画内、同工具による斜位平行沈線で三角形に区画する。内側には弧状・渦巻き状沈線、遺存部下位には刺突文施文。	諸磯 b（浮島系？）
77	J-58 住 11 区 2 層	深鉢	普通	砂粒・褐色礫・チャート混入	口縁部破片	4 単位波状口縁深鉢の獣面把手。獣面表現の周囲に浮線文施文。	諸磯 b
78	J-58 住 9 区 1 層	深鉢	普通	砂粒混入	胴部 1/5	口縁部上位から胴部下位が遺存。口縁部、幅広の沈線により口縁部文様帯を区画する。内側は櫛歯状工具による矢羽根状沈線を施す。胴部、縦位条線施文後、丸棒状工具による逆 U 字状沈線により区画する。さらに、一部に蛇行沈線を垂下させる。	加曽利 E
79	J-58 住 5 区 1 層	深鉢	普通	砂粒・褐色礫・雲母混入	胴部破片	頚部付近が遺存する。頚部上位は遺存部においては無文。頚部、2 条の横位隆帯を巡らし、隆帯間に縦位短沈線施文。頚部下位、隆帯で区画し、区画内に沈線施文。紛れ込み。	加曽利 E 併行
80	J-58 住 15 区 2 層	深鉢	普通	砂粒混入	胴部 1/3	遺存部においては撚り糸を施す。上位、口縁部文様帯を区画した隆帯の一部が残る。	加曽利 E
81	J-58 住 14 区 2 層	深鉢	普通	砂粒・褐色礫・灰色礫混入	胴部～底部 1/10	外面、遺存部においては無文。底部やや上げ底状。	後期？

A区 J － 59 号住居址

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
1	J-59 住 3 区 1 層	深鉢	良好	砂粒・片岩混入	胴部破片	単節 RL 結節縄文横転がし。	諸磯 b
2	J-59 住 4 区 1 層	深鉢	普通	砂粒混入	胴部破片	単節 RL 縄文横転がし。	諸磯？
3	J-59 住 4 区 1 層	深鉢	普通	砂粒・植物繊維混入	胴部破片	口端部直下から口縁部文様帯が遺存すると考えられる。口縁部に並行して櫛歯状工具による縦位基調列点状刺突文を巡らすと想定される。口縁部文様帯は、半截竹管状工具による平行沈線・櫛歯状工具による列点状刺突文を斜位に施す。J-60 号住居遺物の紛れ込みと考えられる。	有尾
4	J-59 住 4 区 1 層	深鉢	普通	砂粒・植物繊維混入	底部破片	縄文（不明瞭）を施す。底部は上げ底状を呈する。J-60 号住居遺物の紛れ込みと考えられる。	前期中葉

A区 J － 60 号住居址

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
1	J-60 住一括	深鉢	普通	砂粒・褐色礫・チャート・植物繊維混入	胴部破片	深鉢頚部付近と想定される。頚部上位には櫛歯状工具による斜位列点状刺突文施文。頚部には同工具による横位列点状刺突文・梯子状微隆帯を施す。	有尾・黒浜
2	J-60 住一括	深鉢	普通	砂粒・砂岩・植物繊維混入	胴部破片	単節 RL 縄文施文。	有尾・黒浜
3	J-60 住一括	深鉢	普通	砂粒・褐色礫・植物繊維混入	胴部破片	胴部中位片と想定される。縄文（単節 RL と LR か）施文後、半截竹管状工具押し引きによる爪形文を横位・縦位・斜位・楕円形に施す。また一部には円形刺突文を配す。	前期中葉

第 275 表　二軒在家原田Ⅱ遺跡 A 区縄文時代住居址出土遺物観察表（39）

A区J－62号住居址

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
1	J-62 住 2 区 1 層	深鉢	普通	砂粒混入	口縁部破片	隆帯と沈線により口縁部文様帯を区画する。一部の区画内には縦位沈線を施す。頚部、横位沈線施文。横位沈線下位には縦位沈線を施す。	加曽利 E
2	J-62 住 3 区 1 層	深鉢	普通	砂粒混入	口縁部破片	隆帯と沈線により口縁部文様帯を区画する。区画内には単節 RL 縄文を施す。頚部は無文。	加曽利 E Ⅰ
3	J-62 住D -2 土	深鉢	普通	砂粒・褐色礫混入	口縁部～胴部 2/5	やや内反する平口縁。隆帯と沈線により口縁部文様帯を区画する。区画は楕円形基調を呈し 6 単位。区画内には単節 RL 縄文施文。楕円形基調の区画連結部には渦巻き状モチーフを配す。胴部、単節 RL 縄文施文後、2 条一組の縦位沈線により 11 単位に区画する。沈線間は磨り消しの意図が看取できるが、一部の磨り消しが不十分で縄文が残る。	加曽利 E Ⅱ
4	J-62 住 2 区 1 層	深鉢	普通	砂粒・褐色礫混入	口縁部破片	隆帯と沈線により口縁部文様帯を隅丸長方形に区画する。区画内には縦位沈線を施す。区画連結部には縦位隆帯と渦巻き状沈線を配す。頚部は無文。	加曽利 E Ⅰ
5	J-62 住 2 区 1 層	深鉢	普通	砂粒・褐色礫混入	胴部破片	口端部上位がやや内湾する波状口縁。波頂部に渦巻き状沈線を施す。渦巻き状沈線下位から橋状把手を貼付する。把手の向かって左側面には棒状工具による列点状刺突文を 2 列施文。隆帯と沈線により口縁部文様帯を区画する。区画内には縦位沈線を施す。頚部は無文。4 と同一個体か。	加曽利 E Ⅰ
6	J-62 住 1 区 1 層・3 区 1 層	浅鉢	良好	砂粒・白色鉱物混入	体部破片	体部上位で内屈し、口縁部が外屈する浅鉢。楕円形と C 字状（両端部は渦巻き状を呈する）の沈線を交互に施文か。隆帯の一部を圧痕状に窪める。外面に赤色塗彩の痕跡が認められる。	加曽利 E Ⅰ～Ⅱ
7	J-62 住 2 区 1 層	深鉢	普通	砂粒・褐色礫混入	口縁部破片	口端が内湾する 4 単位波状口縁と想定される。口端部下位に無文帯を巡らす。胴部、沈線で区画し、一部の区画内に単節LR縄文施文。8と同一個体か。	加曽利 E Ⅳ
8	J-62 住 2 区 1 層	深鉢	普通	砂粒・褐色礫混入	胴部破片	胴部中位の括れ部分と考えられる。沈線で区画し、一部の区画内に単節 LR 縄文施文。	加曽利 E Ⅳ
9	J-62 住 D-1 土	深鉢	良好	砂粒・白色鉱物・褐色礫混入	胴部～底部 2/5	2 本 1 組の隆帯による装飾・区画が多用される。頚部ないし口縁部が無文帯となり、横位隆帯により胴部と区画 。胴部上半、唐草文と鱗状沈線。胴部下半 、縦位隆帯により8単位に区画、区画内に綾杉状沈線。外面頸部および内面、横位のナデ。	郷土
10	J-62 住 1 区 1 層	深鉢	普通	砂粒混入	胴部破片	縦位条線を施す。	加曽利 E
11	J-62 住 1 区 1 層	深鉢	普通	砂粒混入	胴部破片	縦位沈線で区画し、区画内に綾杉状沈線を施す。	加曽利 E
12	J-62 住 2 区 1 層・3 区 1 層	深鉢	普通	砂粒・褐色礫混入	胴部破片	胴部中位片。単節 RL 縄文横転がし。	加曽利 E
13	J-62 住 2 区 1 層	深鉢	普通	砂粒・褐色礫混入	胴部破片	縦位沈線で区画し、一部の区画内に単節 RL 縄文を施す。14 と同一個体か。	加曽利 E
14	J-62 住 2 区 1 層	深鉢	普通	砂粒・褐色礫混入	胴部破片	縦位沈線で区画し、一部の区画内に単節 RL 縄文を施す。	加曽利 E
15	J-62 住 D-3 土	深鉢	普通	砂粒混入	胴部破片	縦位沈線で区画し、一部の区画内に単節 RL 縄文を施す。	加曽利 E
16	J-62 住 D-3 土	深鉢	普通	砂粒混入	胴部破片	撚り糸を施す。	加曽利 E
17	J-62 住 1 区 1 層	鉢	良好	砂粒混入	体部破片	鉢の体部上位片と想定される。遺存部最上位に鋸歯状沈線施文。隆帯で区画し、一部に単節 RL 縄文を施す。	加曽利 E
18	J-62 住 2 区 1 層	浅鉢	普通	砂粒・褐色礫・白色鉱物・ﾁｬｰﾄ・片岩混入	口縁部破片	単節 RL 縄文を施す。	加曽利 E
19	J-62 住 4 区 1 層	鉢	普通	砂粒・褐色礫・雲母混入	体部破片	口端部上面を平滑とし、外面に稜状隆帯を巡らす。遺存部においては無文。歪みが著しい。	加曽利 E

A区J－63号住居址

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
1	J-63 住 6 区 1 層・ﾍﾞﾙﾄ一括	深鉢	普通	砂粒混入	口縁部破片	4 単位波状口縁と想定される。口縁に並行して細めの半截竹管状工具による連続刺突文（意識としては爪形文か）を巡らす。その下位には、同工具による肋骨文施文。さらにその下位に半截竹管状工具による連続刺突文を巡らす。胴部には単節 RL 縄文施文。肋骨文文様帯中に焼成後の孔を有す。補修痕の可能性が高い。	諸磯 a
2	J-63 住 6 区 1 層	深鉢	良好	砂粒・金雲母混入	口縁部破片	半截竹管状工具による横位直線状・鋸歯状平行沈線を施す。	諸磯 a ～ b
3	J-63 住 7 区 1 層	深鉢	良好	砂粒・褐色礫・灰色礫・雲母混入	口縁部破片	やや外反する平口縁と想定される。単節 RL 縄文施文後、櫛歯状工具による横位直線状・鋸歯状平行沈線を施す。	諸磯 a ～ b

第 276 表　二軒在家原田Ⅱ遺跡Ａ区縄文時代住居址出土遺物観察表（40）

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
4	J-63 住 10 区 1 層	深鉢	普通	砂粒・灰色礫・白色鉱物混入	胴部破片	櫛歯状工具による肋骨文施文後、円形刺突文を縦位に配す。	諸磯 a
5	J-63 住 12 区 1 層	小型深鉢	普通	砂粒・雲母・植物繊維混入	胴部～底部 1/5	遺存部最上位、細めの半截竹管状工具押し引きによる斜位爪形文を施す。爪形文下位から底部まで 2 列一組の縦位列点状円形刺突文で 5 単位に区画する。一部に無節 L 縄文施文。	諸磯 a
6	J-63 住 10 区 1 層	深鉢	普通	砂粒・雲母混入	胴部破片	半截竹管状工具押し引きによる爪形文を斜位に施す。一部の爪形文間には短沈線を連続して施文。さらに一部の区画内に円形刺突文を配す。	諸磯 b
7	J-63 住 9 区 1 層	深鉢	普通	砂粒・雲母混入	胴部破片	半截竹管状工具押し引きによる爪形文で区画する。一部の爪形文間には短沈線を連続して施文。さらに一部の区画内に円形刺突文を配す。	諸磯 b
8	J-63 住一括	深鉢	普通	砂粒混入	胴部破片	半截竹管状工具押し引きによる爪形文で区画する。爪形文間には短沈線を連続して施文。さらに一部の区画内に円形刺突文を配す。	諸磯 b
9	J-63 住一括	深鉢	普通	砂粒・ﾁｬｰﾄ混入	口縁部破片	胴部上位において顕著に内屈する 4 単位波状口縁と想定される。口縁に並行して 3 条一組の浮線文を巡らす。浮線文間には列点状刺突文を施す。	諸磯 b
10	J-63 住 7 区 1 層	深鉢	良好	砂粒・褐色礫混入	口縁部破片	半截竹管状工具押し引きによる横位爪形文で区画する。爪形文間には短沈線を連続して施す。	諸磯 b
11	J-63 住一括	深鉢	普通	砂粒・白色鉱物・雲母混入	胴部破片	横位浮線文を施す。	諸磯 b
12	J-63 住一括	深鉢	普通	砂粒混入	口縁部破片	胴部上位において顕著に内屈する 4 単位波状口縁と想定される。半截竹管状工具による平行沈線（半隆起線状）を施す。波頂部が角状把手になる可能性が考えられる。	諸磯 b ～ c
13	J-63 住一括	深鉢	良好	砂粒・褐色礫・雲母混入	胴部破片	単節 RL 縄文施文後、半截竹管状工具による横位平行沈線で区画する。区画内には同工具による弧状沈線を施す。	諸磯 b
14	J-63 住一括	深鉢	普通	砂粒・褐色礫混入	胴部破片	半截竹管状工具による横位平行沈線で区画する。区画内には同工具による斜格子目文を施す。	諸磯 b
15	J-63 住 7 区 1 層	深鉢	良好	砂粒・白色鉱物混入	口縁部破片	無節 L 縄文施文。	諸磯 b ？
16	J-63 住 10 区 1 層	深鉢	良好	砂粒混入	胴部破片	単節 LR 縄文を施す。	諸磯 b ？
17	J-63 住ﾍﾞﾙﾄ一括	深鉢	普通	砂粒混入	胴部破片	単節 RL 縄文施文後、円形刺突文を縦位に配す。	諸磯 a
18	J－ 63 住 6 区 1 層・9 区 1 層	浅鉢	普通	砂粒混入	口縁～体部 3/5	単節縄文施文。	諸磯 b ？
19	J-63 住 10 区 1 層	ﾐﾆﾁｭｱ土器	普通	砂粒混入	ほぼ完存	遺存部においては無文。	諸磯 b ？

A区 J － 64a 号住居址

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
1	J-64a 住 11 区 1 層	深鉢	普通	砂粒混入	胴部破片	胴部上位片と想定される。横位・縦位沈線施文後、棒状・ボタン状等貼付文を施す。	諸磯 c
2	J-64a 住 13 区 1 層	深鉢	普通	砂粒・褐色礫混入	口縁部破片	単節 RL 縄文施文後、円形貼付文を配す。	諸磯 c
3	J-64a 住 13 区 1 層	深鉢	普通	砂粒混入	胴部破片	横位細沈線施文後、弧状結節浮線文を施す。	諸磯 c
4	J-64a 住ベルト一括	深鉢	普通	砂粒・白色鉱物混入	底部破片	遺存部、半截竹管状工具による矢羽状沈線を施した後、下位に横位平行沈線を配す。一部にボタン状貼付文を付す。	諸磯 c
5	J-64a 住 10 区 1 層	深鉢	普通	砂粒・白色鉱物・雲母混入	口縁部破片	口縁部に並行して半截竹管状工具押し引きによる 2 条の横位爪形文を巡らす。その下位には同工具による鋸歯状沈線（半隆起線状を呈する）を施す。	十三菩提
6	J-64a 住 10 区 1 層	深鉢？	普通	砂粒・白色鉱物混入	胴部破片	半截竹管状工具による横位平行沈線施文後、一部に小さめの列点状円形刺突文を巡らす。	諸磯 b
7	J-64a 住 6 区 1 層	深鉢	普通	砂粒混入	胴部～底部 1/3	遺存部においては無文。	諸磯？

A区 J － 64b 号住居址

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
1	J-64b 住 8 区 1 層	深鉢	普通	砂粒・植物繊維混入	口縁部破片	櫛歯状工具による斜位列点状刺突文を施す。	有尾
2	J-64b 住 8 区 1 層	深鉢	普通	砂粒・植物繊維混入	口縁部破片	口縁部に並行して櫛歯状工具による縦位列点状刺突文を巡らす。	有尾
3	J-64b 住 8 区 1 層	深鉢	普通	砂粒・植物繊維混入	胴部破片	遺存部上半、櫛歯状工具による列点状刺突文と沈線で、菱形・三角形をﾓﾁｰﾌに区画する。遺存部下位は前々段多条か。	有尾
4	J-64b 住 12 区 1 層	深鉢	普通	砂粒・褐色礫・植物繊維混入	胴部破片	櫛歯状工具による横位・斜位列点状刺突文を施す。一部に貼付文施文か（不明瞭）。	有尾
5	J-64b 住 12 区 1 層	深鉢	普通	砂粒・植物繊維混入	胴部破片	付加条縄文を施す。	有尾・黒浜

第 277 表　二軒在家原田Ⅱ遺跡 A 区縄文時代住居址出土遺物観察表（41）

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
6	J-64b 住 12 区 1 層	深鉢	良好	砂粒・褐色礫・植物繊維混入	胴部破片	単節 RL と LR 結束縄文横転がし。	有尾・黒浜
7	J-64b 住 8 区 1 層	深鉢	普通	砂粒・植物繊維混入	胴部～底部 1/3	遺存部においては縄文施文。	有尾・黒浜
8	J-64b 住 12 区 1 層	深鉢	普通	砂粒・褐色礫・植物繊維混入	底部破片	全体的に歪みあり。無節 L 縄文を施す。底部、上げ底状を呈する。	有尾・黒浜

A区 J － 65a 号住居址

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
1	J-65a 住 1 区 1 層	深鉢	普通	砂粒・褐色礫混入	胴部破片	半截竹管状工具押し引きによる横位・斜位爪形文で区画する。爪形文間には短沈線を連続して施文。さらに一部の区画内に円形刺突文を配す。	諸磯 b
2	J-65a 住 1 区 1 層	深鉢	普通	砂粒・褐色礫混入	胴部破片	半截竹管状工具押し引きによる弧状爪形文で区画する。爪形文間には短沈線を連続して施文。さらに一部の区画内に円形刺突文を配す。	諸磯 b
3	J-65a 住 3 区ﾍﾞﾙﾄ	深鉢	良好	砂粒混入	胴部破片	半截竹管状工具押し引きによる横位・斜位爪形文で区画する。一部の爪形文間には短沈線を連続して施文。	諸磯 b
4	J-65a 住 2 区 1 層	深鉢	普通	砂粒・褐色礫混入	口縁部破片	単節 RL 縄文施文後、櫛歯状工具による横位直線状・波状（又は鋸歯状）平行沈線を交互に施す。大きめの円形刺突文を縦位に配す。	諸磯 b
5	J-65a 住 1 区 1 層	深鉢	良好	砂粒混入	胴部破片	単節 RL 結節縄文横転がし。	諸磯 b ？
6	J-65a 住 1 区 1 層	深鉢	普通	砂粒・褐色礫・片岩混入	胴部破片	単節 RL 縄文施文。	諸磯 b ？
7	J-65a 住 1 区 1 層	深鉢	普通	砂粒混入	底部破片	遺存部においては縄文施文。	諸磯
8	J-65a 住 1 区 1 層	深鉢	良好	砂粒・褐色礫・雲母混入	口縁部破片	4 単位波状口縁と想定される。口縁部に並行して櫛歯状工具による平行沈線を巡らし、沈線上に同工具による刺突文を連続して施す。胴部、櫛歯状工具による横位・斜位の弧状又は直線状の平行沈線を施す。一部の区画内に同工具による刺突文を施文。さらに波頂部下位に円形刺突文を縦位に配す。	諸磯 a
9	J-65a 住 1 区 1 層	深鉢	普通	砂粒・褐色礫・ﾁｬｰﾄ混入	胴部破片	櫛歯状工具による横位平行沈線施文後、半截竹管状工具による平行沈線と刺突文（爪形文ではない）を施す。	諸磯 a

A区 J － 65b 号住居址

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
1	J-65b 住 3 区ﾍﾞﾙﾄ 1 層・4 区 1 層	深鉢	普通	砂粒・褐色礫混入	口縁部破片	2 単位の大波状口縁か。口端部厚みを有する。やや幅広の半截竹管状工具押し引きによる弧状爪形文で区画する。爪形文間は短沈線を連続して施文。	諸磯 b
2	J-65b 住 4 区 1 層	深鉢	良好	砂粒混入	口縁部破片	2 単位の大波状口縁か。半截竹管状工具押し引きによる弧状爪形文で区画する。爪形文間には短沈線を連続して施文。	諸磯 b
3	J-65b 住 4 区 1 層	深鉢	良好	砂粒・白色鉱物混入	口縁部破片	4 単位波状口縁と想定される。波頂部には獣面把手。口縁端部に刻みを施す。胴部は単節 LR 縄文施文後、刻みを施した浮線文を添付。	諸磯 b
4	J-65b 住 4 区ﾍﾞﾙﾄ	深鉢	良好	砂粒・褐色礫混入	胴部破片	単節 RL 縄文施文後、横位浮線文を施す。	諸磯 b
5	J-65b 住 4 区 1 層	深鉢	良好	砂粒混入	口縁部破片	小突起状波状口縁。半截竹管状工具による横位直線状・波状平行沈線を施す。	諸磯 b

A区 J － 65 号住居址

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
1	J-65 住 D-3 土	深鉢	普通	砂粒・植物繊維混入	胴部破片	付加条縄文を施す。	有尾・黒浜
2	J-65 住 D-6 土	深鉢	普通	砂粒・褐色礫・片岩・植物繊維混入	胴部破片	単節 RL 縄文を施す。	有尾・黒浜

A区 J － 66 号住居址

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
1	J-66 住 1 区 1 層	深鉢	良好	砂粒混入	口縁部破片	口端部直下に 1 条の横位沈線を巡らす。隆帯と沈線により口縁部文様帯を楕円形に区画し、区画内には単節 RL 縄文施文。区画連結部には渦巻き状沈線を配す。頚部無文か。	加曽利 E Ⅰ
2	J-66 住 2 区 1 層	鉢	良好	砂粒・褐色礫混入	体部破片	鉢の体部中位器形変換点付近が遺存する。器形変換点に沈線を伴う隆帯を巡らす。隆帯上位には渦巻き状隆帯・沈線、縦位沈線を施す。下位は無文。	加曽利 E

第 278 表　二軒在家原田Ⅱ遺跡 A 区縄文時代住居址出土遺物観察表（42）

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
3	J-66 住 3 区 1 層	深鉢	良好	砂粒・白色鉱物・チャート	口縁部～底部 3/5	4 単位の文様。地文に縦位を主とし、一部鱗状をなす短沈線。口縁部、蕨手状文による半円状の区画。胴部上半、2 本 1 組の隆帯による横S字状文。胴部下半 、縦位隆帯による垂下文。内面、横位のナデ。	郷土
4	J-66 住表土一括	深鉢	普通	砂粒・褐色礫混入	口縁部～胴部 2/3	ほぼ直立する平口縁。口縁部、丸棒状工具により重弧文・蕨手状・直線状沈線を組み合わせて施文。胴部、横 S 字状隆帯を連結し、一部から弧状隆帯を垂下させ、胴部の渦巻き状隆帯へと区画を展開する。区画内には斜位・縦位沈線を施す。	加曽利 E 併行
5	J-66 住 1 区 1 層・D-1 土	深鉢	普通	砂粒・褐色礫・灰色礫・雲母混入	口縁部破片	口端部直下に 1 条の横位沈線を巡らす。隆帯と沈線により口縁部文様帯を区画する（基本的には半月形か）。区画内には弧状沈線等施文。区画連結部には渦巻き状隆帯・沈線を配す。胴部、2 条一組の縦位隆帯で区画し、区画内に鱗状沈線を施す。	加曽利 E 併行（郷土系）
6	J-66 住 D-1 土	深鉢	普通	砂粒混入	口縁～胴部 1/3	やや内湾する平口縁か。棒状工具による 2 条 1 組の縦位および口縁部で半月状区画を形成しつつ垂下する隆帯を配す。地文は縦位または綾杉文。	加曽利E併行（郷土系？）
7	J-66 住 3 区 1 層	深鉢	良好	砂粒・雲母混入	口縁部破片	波状口縁の口端部上面に沈線を施す。波頂部より縄状隆帯を垂下させ末端を渦巻き状とする。横位・縦位隆帯で区画し、区画内には縦位・斜位沈線を施す。	加曽利 E 併行
8	J-66 住 4 区 1 層	深鉢	普通	砂粒・褐色礫混入	口縁部破片	渦巻き状・C 字状等の沈線を伴う橋状把手。橋状把手部分に大きめの円孔文を配す。口縁部文様帯部分には縦位沈線を施す。	加曽利 E 併行
9	J-66 住 1 区 1 層	深鉢	普通	砂粒混入	口縁部破片	隆帯と沈線により口縁部文様帯を楕円形に区画する。区画内には斜位沈線を施す。胴部、横位弧状・逆 U 字状等沈線を施す。	加曽利 E 併行
10	J-66 住 3 区 1 層・ﾍﾞﾙﾄ一括	深鉢	普通	砂粒・褐色礫・灰色礫・雲母混入	口縁部破片	やや内湾する平口縁か。口縁部に無文帯を巡らす。無文帯下位には横位沈線を施す。胴部、縦位沈線（2 条一組か）により区画し、区画内に横位弧状・斜位直線状沈線施文。一部の縦位沈線間に刺突文施文か。	加曽利 E
11	J-66 住 3 区 1 層	深鉢	普通	砂粒・褐色礫混入	口縁部破片	やや内湾する平口縁と想定される。横位隆帯により口縁部文様帯を区画する。区画内には渦巻き状隆帯・矢羽根状沈線を施す。胴部、縦位隆帯で区画し、区画内に斜位沈線を施す。	加曽利 E 併行
12	J-66 住 1 区 1 層	深鉢	普通	砂粒・褐色礫混入	口縁部破片	口端部、帯状貼付文を巡らし、やや厚みを有する。貼付文下位に 2 条一組の波状隆帯を施し、その間を口縁部文様帯とする。文様帯内には斜位沈線を施す。一部には逆方向の斜位沈線を施し、斜格子文状を呈する。胴部、斜位弧状・直線状沈線を施す。一部には逆方向の斜位沈線を施し、斜格子文状を呈する。	加曽利 E 併行
13	J-66 住表土一括	深鉢	普通	砂粒混入	胴部破片	両側に沈線を伴う縦位隆帯により区画する。区画内には鱗状沈線施文。郷土式系。	加曽利 E 併行
14	J-66 住 3 区 1 層	深鉢	普通	砂粒・雲母混入	胴部破片	胴部上位片か。遺存部最上位のハ字状区画を口縁部文様帯と想定した。口縁部文様帯、隆帯と角押文により区画。区画内には沈線・刺突文を施す。胴部渦巻き状隆帯、横位・斜位沈線等施文。	中期後半
15	J-66 住 3 区 1 層	深鉢	普通	砂粒・白色鉱物混入	胴部破片	U 字状沈線・逆 U 字状隆帯により縦位に区画する。区画内には綾杉状沈線を施す。	加曽利 E 併行
16	J-66 住 3 区 1 層	深鉢	普通	砂粒・褐色礫混入	口縁部破片	やや内湾する平口縁と想定される。口縁部に並行して 2 条の横位沈線を巡らす。胴部、単節 RL 縄文施文後、6 字状・縦位直線状沈線を施す。	加曽利 E
17	J-66 住 3 区 1 層	深鉢	普通	砂粒・褐色礫混入	口縁部破片	やや内湾する平口縁と想定される。口縁部に並行して 2 条の横位沈線を巡らす。胴部、単節 RL 縄文施文後、縦位沈線を施す。16 と同一個体。	加曽利 E
18	J-66 住 3 区 1 層	深鉢	普通	砂粒・雲母混入	口縁部破片	沈線と列点状刺突文により口縁部文様帯を区画する。胴部には隆帯を施すが、遺存部寡少のためモチーフは不明。	加曽利 E 併行
19	J-66 住 D-2 土	深鉢	普通	砂粒・雲母混入	胴部破片	H 字状隆帯により縦位に区画する。区画内には単節 RL 縄文施文後、3 条一組の横位沈線を施す。	加曽利 E
20	J-66 住 2 区 1 層・ﾍﾞﾙﾄ一括	深鉢	普通	砂粒混入	胴部破片	縦位・斜位沈線を施す。	加曽利 E 併行
21	J-66 住 D-1 土	深鉢	普通	砂粒・褐色礫・雲母混入	胴部破片	撚り糸を施す。	加曽利 E
22	J-66 住 4 区 1 層	深鉢	普通	砂粒混入	口縁～胴部 1/ 4	単節縄文施文。棒状工具による 2 条 1 組の縦位沈線により 4 単位に区画すると思われる。同工具による沈線で口縁部を区画し、内部は縦位沈線を施す。縦位沈線延長上の区画連結部には円形とみられる隆帯を配す。	加曽利E
23	J-66 住 4 区 1 層	浅鉢	普通	砂粒混入	口縁部破片	口縁部は無文。器形変換点下位を刺突文を伴う沈線で区画する。区画内の一部に縦位沈線施文か。	加曽利 E

第 279 表　二軒在家原田Ⅱ遺跡 A 区縄文時代住居址出土遺物観察表（43）

A区J－67号住居址

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
1	J-67 住炉	鉢？	良好	砂粒・白色鉱物混入	体部破片	遺存部においては無文。	加曽利Ｅ？
2	J-67 住炉	深鉢	良好	砂粒混入	胴部破片	単節 RL 縄文施文。	加曽利Ｅ

A区J－68a号住居址

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
1	J-68a 住 2 区床直 NO1	深鉢	普通	砂粒・褐色礫・雲母混入	口縁部破片	口端部で顕著に内屈する。半截竹管状工具による横位平行沈線施文後、口端部内外面に同工具による刺突文を施し、耳状・ボタン状等貼付文を配す。	諸磯ｃ
2	J-68a 住 2 区 1 層	深鉢	普通	砂粒混入	口縁部破片	半截竹管状工具による平行沈線を横位・斜位に施した後、遺存部上位から中位にかけて耳状貼付文とボタン状貼付文を交互に横位に付す。ボタン状貼付文は中心を同工具にて押圧するものと、棒状工具による刺突を施すものがある。	諸磯ｃ
3	J-68a 住 P-1・2 区 1 土	深鉢	良好	砂粒混入	口縁部破片	半截竹管状工具による横位平行沈線施文後、棒状・ボタン状貼付文を配す。	諸磯ｃ
4	J-68a 住 2 区 1 層	深鉢	普通	砂粒・雲母混入	口縁部破片	口縁端部、耳状貼付文を等間隔に付す。その間に、半截竹管状工具による刺突を施した棒状貼付文を 2 条配す。以下、同工具による矢羽状沈線を施した後、ボタン状・弧状貼付文を付す。	諸磯ｃ
5	J-68a 住 4 区 1 層	深鉢	良好	砂粒混入	口縁部破片	やや内湾する平口縁と想定される。半截竹管状工具による格子目状・横位直線状平行沈線施文後、縦位楕円形貼付文を配す。	諸磯ｃ
6	J-68a 住 4 区ﾍﾞﾙﾄ	深鉢	普通	砂粒・褐色礫混入	口縁部破片	円形貼付文を施す。	諸磯ｃ
7	J-68a 住 4 区ﾍﾞﾙﾄ	深鉢	良好	砂粒混入	胴部破片	半截竹管状工具による横位・斜位平行沈線施文後、縦位楕円形貼付文・ボタン状貼付文を配す。	諸磯ｃ
8	J-68a 住 2 区 1 層	深鉢	普通	砂粒・雲母・結晶片岩混入	胴部破片	半截竹管状工具による平行沈線を矢羽状に施した後、耳形とボタン状貼付文を横位に交互に付す。	諸磯ｃ
9	J-68a 住 2 区 1 層	深鉢	普通	砂粒・黒色鉱物混入	胴部破片	半截竹管状工具による縦位・斜位平行沈線施文後、一部に耳状・ボタン状貼付文を付す。	諸磯ｃ
10	J-68a 住 2 区床直 NO1	深鉢	普通	砂粒混入	胴部破片	胴部中位から下位片と想定される。半截竹管状工具による縦位平行沈線（一部半隆起線状）で区画し、区画内には斜位平行沈線を施す。さらに一部に円形刺突を伴う円形貼付文を配す。遺存部最下位には横位平行沈線施文。	諸磯ｃ
11	J-68a 住 2 区 2 層	深鉢	普通	砂粒混入	胴部～底部 1/5	半截竹管状工具による縦位直線状・弧状平行沈線により区画する。区画内には同工具による縦位鋸歯状沈線を施す。胴部最下位には 2 個一対のボタン状貼付文を施す。さらに、胴部の一部にもボタン状貼付文を配す。	諸磯ｃ
12	J-68a 住 1 区 2 層	深鉢	普通	砂粒混入	口縁部破片	4 単位波状口縁か。口唇部に半截竹管状工具による押し引き文を施す。口縁部は同工具による矢羽根状沈線施文後、横位結節浮線文で区画。区画内は 4 条単位の縦位結節浮線文を施し、さらに千鳥状に円形貼付文を配す。口縁区画以下は縦位沈線を施す。	諸磯c
13	J-68a 住 1 区 1 層	深鉢	普通	砂粒・褐色礫・灰色礫混入	胴部破片	遺存部上半、半截竹管状工具による矢羽根状・横位直線状沈線施文後、縦位結節浮線文を施す。さらに一部に 2 個一対の円形貼付文を配す。遺存部下半、半截竹管状工具による斜位平行沈線（綾杉状か）を施す。	諸磯ｃ
14	J-68a 住 1 区 1 層	深鉢	普通	砂粒混入	胴部破片	半截竹管状工具による矢羽根状沈線施文後、横位結節浮線文で区画する。区画内には縦位弧状結節浮線文施文。	諸磯ｃ
15	J-68a 住 2 区 1 層	深鉢	普通	砂粒・褐色礫混入	胴部破片	棒状工具あるいは爪による刺突文を横位に施す。	諸磯ｃ
16	J-68a 住 2 区 1 層	土製品	良好	砂粒混入	体部破片	形態不明。外面は良く研磨する。遺存部の四隅に小孔あり。	諸磯？
17	J-68a 住 2 区 1 層	深鉢	普通	砂粒・植物繊維混入	胴部破片	半截竹管状工具と櫛歯状工具による平行刺突文を施す。モチーフは菱形か。	有尾・黒浜

第 280 表　二軒在家原田Ⅱ遺跡Ａ区縄文時代住居址出土遺物観察表（44）

A区J－68b号住居址

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
1	J-68b 住 3 区 1 層	深鉢	普通	砂粒混入	胴部破片	横位直線状・弧状浮線文を施す。一部に単節 RL 縄文施文。	諸磯 b
2	J-68b 住 1 区 1 層	深鉢	普通	砂粒混入	胴部破片	諸磯 b 式期獣面把手の鼻と口部分が遺存する。浮線文を施す。	諸磯 b
3	J-68b 住 3 区 1 層	深鉢	普通	砂粒混入	胴部破片	半截竹管状工具による格子目文を施す。交点には円形刺突文を配す。遺存部最上位には横位沈線が認められる。	諸磯 b
4	J-68b 住 2 区 1 層	深鉢	普通	砂粒混入	口縁部破片	幅広の半截竹管状工具にて横位爪形文を施し、上部に刺突文、下部に沈線を配す。器壁は薄い。内外面に赤彩を施す。	北白川下層
5	J-68b 住 3 区 2 層	深鉢	良好	砂粒混入	口縁部破片	口縁部で顕著に内屈する。半截竹管状工具による横位平行沈線施文後、耳状・棒状・ボタン状等貼付文を施す。	諸磯 c
6	J-68b 住 3 区 1 層	深鉢	普通	砂粒混入	口縁部破片	半截竹管状工具による矢羽根状平行沈線施文後、縦位棒状貼付文・円形貼付文を配す。	諸磯 c

A区J－69号住居址

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
1	J-69 住 2 区	深鉢	良好	砂粒・褐色礫・チャート・植物繊維混入	口縁部破片	4 単位波状口縁深鉢の口縁部文様帯付近と想定される。口縁部に並行して 2 条の微隆帯を巡らす。微隆帯間には半截竹管状工具押し引きによる鎖状爪形文を施す。口縁部文様帯、同工具による斜位爪形文と、縦位微隆帯により区画する。	有尾
2	J-69 住 3 区	深鉢	普通	砂粒・チャート・植物繊維混入	口縁部破片	4 単位波状口縁と想定される。櫛歯状工具による平行沈線、同工具による縦位列点状刺突文を施す。	有尾
3	J-69 住 2 区	深鉢	普通	砂粒・植物繊維混入	胴部破片	4 単位波状口縁深鉢の口縁部文様帯付近と想定される。半截竹管状工具による横位・斜位平行沈線を施す。	有尾
4	J-69 住 1 区	深鉢	良好	砂粒・雲母・植物繊維混入	胴部破片	単節 RL 縄文施文後、櫛歯状工具による横位列点状刺突文を施す。	有尾・黒浜
5	J-69 住 1 区ﾍﾞﾙﾄ	深鉢	普通	砂粒・植物繊維混入	胴部破片	単節 RL と LR 縄文施文。	有尾・黒浜
6	J-69 住 4 区ﾍﾞﾙﾄ	深鉢	普通	砂粒・雲母・植物繊維混入	胴部破片	付加条縄文を施す。	有尾・黒浜
7	J-69 住 1 区	深鉢	普通	砂粒・植物繊維混入	胴部破片	単節 RL と LR 縄文横転がしにより羽状構成とする。	有尾・黒浜
8	J-69 住 1 区	深鉢	普通	砂粒・褐色礫・植物繊維混入	胴部破片	直前段多条 LR を施す。	有尾・黒浜

A区J－70号住居址

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
1	J-70 住 4 区 1 層	深鉢	普通	砂粒混入	口縁部破片	4 単位波状口縁深鉢の波底部付近と想定される。単節 RL 縄文施文後、半截竹管状工具による横位・縦位・斜位平行沈線を施す。縦位沈線間には円形刺突文を施す。	諸磯 a ～ b
2	J-70 住 1 区 1 層	深鉢	良好	砂粒・褐色礫混入	口縁部破片	半截竹管状工具押し引きによる横位爪形文を施す。爪形文脇及び爪形文間には、同工具による刺突を斜位・綾杉状に施文。	諸磯 b
3	J-70 住 1 区 1 層	深鉢	良好	砂粒・チャート混入	口縁部破片	胴部上位において顕著に内屈する 4 単位波状口縁と想定される。浮線文を施す。	諸磯 b
4	J-70 住 3 区 1 層	深鉢	良好	砂粒・チャート混入	口縁部破片	胴部上位において顕著に内屈する 4 単位波状口縁と想定される。波頂部下位に貼付文を配す（橋状把手の可能性もあり）。貼付文周辺には横位浮線文を施す。一部には縄文が認められるが不明瞭。	諸磯 b
5	J-70 住 2 区 1 層	深鉢	普通	砂粒・褐色礫混入	胴部破片	単節 RL 縄文施文後、浮線文を施す。	諸磯 b
6	J-70 住 4 区 1 層	深鉢	良好	砂粒混入	胴部破片	胴部上位において顕著に内屈する 4 単位波状口縁と想定される。半截竹管状工具による横位・斜位平行沈線を施す。	諸磯 b
7	J-70 住 4 区 1 層	深鉢	良好	砂粒・褐色礫混入	胴部破片	半截竹管状工具による横位平行沈線（半隆起線状）を施す。一部の区画内には単節 RL 縄文施文。	諸磯 b
8	J-70 住 1 区 1 層	深鉢	普通	砂粒混入	胴部破片	単節 RL 縄文施文後、半截竹管状工具による平行沈線を施す。	諸磯 b
9	J-70 住 2 区ﾍﾞﾙﾄ 1 層	深鉢	普通	砂粒・褐色礫混入	口縁部破片	胴部上位において顕著に内屈する 4 単位波状口縁と想定される。波頂部下位に円形貼付文を三角形に配す（向かって右下は剥落）。獣面把手の意識か。貼付文周辺には浮線文を施す。	諸磯 b
10	J-70 住 2 区 1 層	深鉢	普通	砂粒混入	口縁部破片	波状口縁の獣面把手。額は凹ませた粘土で作出。目はボタン状に粘土粒を貼り付け、棒状工具を横位に押圧する。鼻先は平らにし、同工具による刺突 2 カ所と下位に横位押圧を施す。	諸磯 b

第 281 表　二軒在家原田Ⅱ遺跡 A 区縄文時代住居址出土遺物観察表（45）

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
11	J-70 住 4 区 1 層	土偶	良好	砂粒・白色鉱物・石英・角閃石混入	体部破片	表裏面ともに丁寧なミガキ調整。胸部に錐状工具による両側穿孔4か所。重さ〈45.52〉g。	諸磯 b
12	J-70 住 2 区ﾍﾞﾙﾄ 1 層	深鉢	良好	砂粒・植物繊維混入	口縁部破片	4 単位波状口縁深鉢の波頂部付近。口縁部に並行して縦位短沈線を巡らす。口縁部文様帯には半截竹管状工具押し引きによる爪形文（一部は押し引きせず半隆起線状を呈する）を施す。菱形ﾓﾁｰﾌと考えられる。	有尾
13	J-70 住 2 区ﾍﾞﾙﾄ 1 層	深鉢	良好	砂粒・植物繊維混入	口縁部破片	無節 L 縄文施文後、口縁部に並行して櫛歯状工具による平行沈線（不明瞭）・縦位列点状刺突文を巡らす。	有尾
14	J-70 住 1 区 1 層	深鉢	普通	砂粒・褐色礫・ﾁｬｰﾄ・植物繊維混入	胴部破片	4 単位波状口縁深鉢の口縁部文様帯と想定される。櫛歯状工具による平行沈線・列点状刺突文を施す。菱形ﾓﾁｰﾌと考えられる。	有尾

A区 J － 71 号住居址

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
1	J-71 住 1 区ﾍﾞﾙﾄ 1 層・4 区 2 層	深鉢	普通	砂粒・植物繊維混入	口縁部～胴部 1/10	ほぼ直立する平口縁。無節縄文施文。	有尾・黒浜
2	J-71 住 1 区ﾍﾞﾙﾄ 1 層	深鉢	普通	砂粒・植物繊維混入	口縁部破片	単節 RL と LR 縄文横転がしにより、菱形状の構成とする。	有尾・黒浜
3	J-71 住 3 区 1 層	深鉢	普通	砂粒・植物繊維混入	口縁部破片	直前段多条 RL（4 本）横転がし。	有尾・黒浜
4	J-71 住 2 区 1 層	深鉢	普通	砂粒・褐色礫・ﾁｬｰﾄ・植物繊維混入	口縁部破片	口縁部に並行して半截竹管状工具による列点状刺突文（意識は爪形文か）を巡らす。遺存部最下位には単節 RL 縄文施文。	有尾・黒浜
5	J-71 住 2 区 1 層	深鉢	普通	砂粒・植物繊維混入	口縁部破片	4 単位波状口縁深鉢と想定される。櫛歯状工具による縦位・斜位列点状刺突を施す。	有尾
6	J-71 住 4 区 1 層	深鉢	普通	砂粒・植物繊維混入	口縁部破片	平口縁か。付加条縄文により羽状を構成か。	黒浜？
7	J-71 住 1 区ﾍﾞﾙﾄ 1 層	深鉢	良好	砂粒・植物繊維混入	口縁部破片	4 単位波状口縁深鉢と想定される。櫛歯状工具による横位・縦位・斜位列点状刺突文で区画する。一部の刺突文に並行して微隆帯を貼付。また一部の区画内には渦巻き状沈線施文。	有尾
8	J-71 住 1 区ﾍﾞﾙﾄ 1 層	深鉢	普通	砂粒・植物繊維混入	胴部破片	4 単位波状口縁深鉢の口縁部文様帯から頚部付近が遺存する。口縁部文様帯、櫛歯状工具による縦位・横位・斜位列点状刺突を施す。頚部、櫛歯状工具による縦位列点状刺突文施文。	有尾
9	J-71 住 1 区 1 層	深鉢	普通	砂粒・褐色礫・ﾁｬｰﾄ・植物繊維混入	胴部破片	口縁部文様帯から頚部付近が遺存する。口縁部文様帯、半截竹管状工具押し引きによる爪形文（一部は平行沈線＋刺突）を斜位に施す。頚部、櫛歯状工具による横位列点状刺突文と、微隆帯を巡らす。	有尾・黒浜
10	J-71 住 2 区 1 層	深鉢	普通	砂粒・褐色礫・ﾁｬｰﾄ・植物繊維混入	胴部破片	直前段多条 RL（3 本）横転がし。	有尾・黒浜
11	J-71 住 1 区 1 層	深鉢	普通	砂粒・植物繊維混入	胴部破片	単節 RL と LR 縄文横転がし。	有尾・黒浜
12	J-71 住 2 区 1 層	深鉢	普通	砂粒・植物繊維混入	胴部破片	付加条縄文により羽状を構成する。	黒浜
13	J-71 住 2 区 1 層	深鉢	普通	砂粒・植物繊維混入	胴部破片	付加条縄文を施す。	黒浜
14	J-71 住 1 区ﾍﾞﾙﾄ 1 層	深鉢	普通	砂粒・植物繊維混入	底部破片	単節 LR と RL 縄文施文。底部やや上げ底状を呈する。	有尾・黒浜
15	J-71 住 2 区 1 層	深鉢	普通	砂粒・植物繊維混入	底部破片	遺存部においては無文。底部上げ底状を呈する。	有尾・黒浜
16	J-71 住 1 区ﾍﾞﾙﾄ 1 層	深鉢	普通	砂粒・植物繊維混入	底部破片	遺存部においては無文。底部やや上げ底状を呈する。	有尾・黒浜

A区 J － 72 号住居址

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
1	J-72 住 D-1 土	深鉢	良好	砂粒混入	口縁部破片	半截竹管状工具押し引きによる横位爪形文を施す。爪形文間には斜位沈線施文。	諸磯 b
2	J-72 住 D-1 土	深鉢	良好	砂粒混入	胴部破片	半截竹管状工具押し引きによる横位弧状・直線状爪形文を施す。遺存部最下位の爪形文下位には斜位沈線施文。	諸磯 b
3	J-72 住 2 区 1 層	深鉢	良好	砂粒混入	胴部破片	横位・斜位浮線文を施す。	諸磯 b
4	J-72 住 2 区 1 層	深鉢	普通	砂粒混入	胴部破片	単節 RL 縄文施文後、横位・縦位・斜位沈線を施す。	諸磯 b
5	J-72 住 D-1 土	深鉢	良好	砂粒混入	底部破片	遺存部においては縄文を施す。	諸磯

第 282 表　二軒在家原田Ⅱ遺跡 A 区縄文時代住居址出土遺物観察表（46）

A区J－73号住居址

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
1	J-73 住2区1層	深鉢	良好	砂粒・褐色礫混入	口縁部～胴部1/2	外反する平口縁。外面全体に結節単節RL縄文横転がし。内面は丁寧な磨き。	諸磯b
2	J-73 住2区1層・ﾍﾞﾙﾄ一括	深鉢	良好	砂粒・褐色礫混入	口縁部～胴部破片	やや外反する平口縁と想定される。単節RL縄文横転がし。	諸磯b
3	J-73 住4区1層	深鉢	良好	砂粒・石英混入	口縁部～胴部破片	胴部上位から口端部にかけてやや外反する平口縁。単節RL結節縄文横転がし。	諸磯b
4	J-73 住2区1層	深鉢	普通	砂粒・褐色礫混入	胴部2/3	遺存部においては縄文施文。	諸磯
5	J-73 住2区1層	深鉢	普通	砂粒・白色鉱物混入	底部破片	遺存部においては無文。底面に網代痕。	諸磯？
6	J-73 住3区1層・ﾍﾞﾙﾄ一括	鉢？	良好	砂粒混入	口縁部破片	ほぼ直立する平口縁か。細めの半截竹管状工具押し引きによる爪形文を横位に2条施す。	諸磯a？
7	J-73 住2区1層	深鉢	普通	砂粒・褐色礫・ﾁｬｰﾄ・植物繊維混入	口縁部破片	4単位波状口縁と想定される。半截竹管状工具による平行沈線、又は同工具押し引きによる爪形文を施す。波頂部下位には円形突起状貼付文施文。	有尾
8	J-73 住1区1層	深鉢	普通	砂粒・ﾁｬｰﾄ・植物繊維混入	口縁部破片	4単位波状口縁と想定される。半截竹管状工具による斜位平行沈線を施す。菱形ﾓﾁｰﾌと考えられる。波頂部下位には鼻状貼付文施文。	有尾
9	J-73 住1区1層	深鉢	普通	砂粒・褐色礫・ﾁｬｰﾄ・植物繊維混入	口縁部破片	4単位波状口縁と想定される。半截竹管状工具による斜位平行沈線施文後、沈線間に櫛歯状工具による列点状刺突文を施す。菱形ﾓﾁｰﾌと考えられる。	有尾
10	J-73 住1区1層	深鉢	良好	砂粒・褐色礫・ﾁｬｰﾄ・植物繊維混入	口縁部破片	口縁部に並行して縦位沈線を巡らす。沈線下位には半截竹管状工具押し引きによる爪形文（部分的には押し引きせずに平行沈線）を施す。遺存部最下位にはﾙｰﾌﾟ文施文。	有尾・黒浜
11	J-73 住3区1層	深鉢	普通	砂粒・植物繊維混入	底部破片	無節L縄文を施す。底部上げ底状。	有尾・黒浜

A区J－75号住居址

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
1	J-75 住3区1層	深鉢	普通	砂粒・白色鉱物・雲母混入	口縁部破片	隆帯により口縁部文様帯を区画する。区画内及び頚部には単節RL縄文施文。	加曽利E
2	J-75 住1区1層	深鉢	良好	砂粒・雲母混入	胴部破片	単節RL縄文施文後、縦位沈線で区画する。	加曽利E
3	J-75 住3区1層	深鉢	良好	砂粒・褐色礫・雲母混入	胴部破片	蛇行隆帯を垂下させ区画する。区画内中心に縦位沈線を施し、斜位直線状・弧状沈線施文。	加曽利E
4	J-75 住3区1層	深鉢	普通	砂粒混入	胴部破片	並行する縦位隆帯（2条一組か）と沈線で区画する。隆帯間には斜位短沈線を連続して施す。区画内には綾杉状沈線施文。	加曽利E
5	J-75 住1区1層	深鉢	普通	砂粒・褐色礫・植物繊維混入	胴部破片	口縁部文様帯下位部分が遺存すると考えられる。半截竹管状工具による平行沈線、又は同工具押し引きによる爪形文を施す。	有尾・黒浜
6	J-75 住3区1層	深鉢	良好	砂粒混入	胴部破片	半截竹管状工具押し引きによる斜位爪形文を施す。爪形文間には斜位短沈線施文。	諸磯b

A区J－76号住居址

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
1	J-76 住土坑一括	深鉢	良好	砂粒・褐色礫・白色鉱物・雲母混入	口縁部破片	波状口縁か。口縁部に圧痕隆帯と沈線を横位に巡らす。沈線下位には単節LR縄文施文。	堀之内2
2	J-76 住土坑一括	深鉢	良好	砂粒混入	口縁部破片	2条の横位圧痕隆帯を巡らす。	堀之内2
3	J-76 住土坑一括	深鉢	良好	砂粒・褐色礫・白色鉱物・雲母混入	胴部破片	単節LR縄文施文後、沈線で区画する。	堀之内2
4	J-76 住一括	深鉢	良好	砂粒・褐色礫混入	胴部破片	横位圧痕隆帯を巡らす。	後期？
5	J-76 住一括	深鉢	普通	砂粒混入	底部破片	外面は遺存部においては無文。底部網代痕。	後期？

A区J－77a号住居址

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
1	J-77a 住2区1層	深鉢	良好	砂粒・白色鉱物・植物繊維混入	口縁部破片	4単位波状口縁の波頂部付近が遺存する。口縁部に並行して櫛歯状工具による縦位列点状刺突文、半截竹管状工具による平行沈線＋列点状刺突文を巡らす。口縁部文様帯は、同工具による平行沈線と、沈線に並行する櫛歯状工具による列点状刺突文で区画する。菱形又は三角形ﾓﾁｰﾌと想定される。	有尾
2	J-77a 住2区1層	深鉢	普通	砂粒・石英・植物繊維混入	口縁部破片	口縁部に並行して半截竹管状工具押し引きによる3条の爪形文を巡らす。口縁部文様帯は、同工具押し引きによる爪形文を斜位に施す。	有尾

第283表　二軒在家原田Ⅱ遺跡A区縄文時代住居址出土遺物観察表（47）

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
3	J-77a 住 1 区 1 層	深鉢	良好	砂粒・白色鉱物・植物繊維混入	口縁部破片	4 単位波状口縁の波頂部付近が遺存する。口縁部に並行して半截竹管状工具による縦位平行沈線を巡らす。口縁部文様帯は、半截竹管状工具押し引きによる爪形文（一部は押し引きせず半隆起線状を呈する）で区画する。	有尾
4	J-77a 住 3 区 1 層	深鉢	普通	砂粒・植物繊維混入	口縁部破片	口縁部に並行して半截竹管状工具押し引きによる 3 条の横位爪形文を巡らす。胴部は付加条縄文施文。	有尾・黒浜
5	J-77a 住 2 区 1 層	深鉢	普通	砂粒・植物繊維混入	口縁部破片	ほぼ直立する平口縁と想定される。無節 L 縄文施文。	有尾・黒浜
6	J-77a 住 3 区 1 層	深鉢	良好	砂粒・植物繊維混入	胴部破片	口縁部文様帯から頚部が遺存する。半截竹管状工具による平行沈線（半隆起線状）・同工具押し引きによる爪形文を横位・斜位に施す。	有尾
7	J-77a 住 1 区 1 層	深鉢	良好	砂粒・褐色礫・植物繊維混入	胴部破片	口縁部文様帯から頚部付近が遺存する。半截竹管状工具押し引きによる爪形文を横位・斜位に施す。	有尾
8	J-77a 住 4 区 1 層	深鉢	普通	砂粒・片岩・植物繊維混入	胴部破片	単節 RL と LR 縄文横転がし。	有尾・黒浜
9	J-77a 住 2 区 1 層	深鉢	普通	砂粒・植物繊維混入	底部破片	無節 R 縄文施文。底部は若干上げ底状を呈する。	有尾・黒浜
10	J-77a 住 4 区 1 層	深鉢	良好	砂粒・石英・植物繊維混入	底部破片	顕著な上げ底状を呈する。遺存部においては無文。	有尾・黒浜

A区 J － 77b 号住居址

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
1	J-77b 住 7 区 1 層	深鉢	良好	砂粒混入	口縁部破片	ほぼ直立する波状口縁と想定される。半截竹管状工具押し引きによる横位直線状・弧状爪形文を施す。口端部上面には刻み状短沈線施文。	諸磯 b
2	J-77b 住 7 区 1 層	深鉢	良好	砂粒混入	口縁部破片	胴部上位において顕著に内屈する 4 単位波状口縁と想定される。波頂部には橋状把手を配す。縄文（無節 L?）施文後、浮線文を施す。口端部上面の一部に綾杉状沈線施文。	諸磯 b
3	J-77b 住 7 区 1 層	深鉢	普通	砂粒・褐色礫混入	胴部破片	胴部上位片か。横位・斜位・縦位浮線文（一部は浮線文ではなく紐状貼付文）を施す。	諸磯 b
4	J-77b 住 7 区 1 層	深鉢	良好	砂粒混入	胴部破片	単節 RL 縄文施文後、横位浮線文を施す。	諸磯 b
5	J-77b 住 7 区 1 層	深鉢	普通	砂粒・灰色礫・白色鉱物混入	胴部破片	単節 RL 縄文施文後、横位・斜位浮線文を施す。	諸磯 b
6	J-77 住 6 区 1 層	土偶	良好	砂粒・石英・角閃石混入	体部破片	突起による胸部表現。腹部には抉りによる妊娠線の表現。表裏面ともに丁寧なナデ・ミガキ調整。重さ〈29.20〉g。	諸磯 b
7	J-77b 住 10 区 1 層	深鉢	普通	砂粒・白色鉱物・石英・角閃石混入	口縁部破片	獣面把手。隆帯による耳・鼻部を表現→耳・鼻部に竹管状工具による刺突。表面ナデ調整。一部赤彩。重さ 20.44g。	諸磯 b
8	J-77b 住 6 区 1 層	ﾐﾆﾁｭｱ土器	良好	砂粒混入	ほぼ完存	外面は良く研磨する。底部は球状で安定性が悪い。内部は指の押し込みにより作出する。	諸磯 b ？
9	J-77b 住 6 区 1 層	土製品	普通	砂粒混入	ほぼ完存？	平面円盤状を呈す。表裏ともに研磨する。	諸磯 b ？

A区 J － 78 号住居址

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
1	J-78 住 3 区 1 層	深鉢	普通	砂粒・白色鉱物混入	胴部破片	縦位基調撚り糸施文後、斜位直線状・横位弧状隆帯を施す。遺存部下位破損面を丁寧に研磨。	加曽利 E
2	J-78 住 3 区 1 層	鉢	良好	砂粒・褐色礫・白色鉱物・雲母混入	口縁部～体部 1/10	口縁部がほぼ直立する鉢と想定される。口縁部は無文。体部､隆帯とその両脇の沈線により区画する。区画内には縦位・斜位沈線を施す。	加曽利 E
3	J-78 住 4 区 1 層	深鉢	普通	砂粒・褐色礫混入	胴部破片	単節 RL 縄文施文後、浮線文を施す。	諸磯 b

A区 J － 79 号住居址

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
1	J-79 住 3 区 1 層	深鉢	普通	砂粒・褐色礫混入	胴部破片	半截竹管状工具押し引きによる爪形文を施す。爪形文間には短沈線を連続して施文。	諸磯 b
2	J-79 住 3 区 1 層	深鉢	普通	砂粒混入	胴部破片	縄文（不明瞭）施文後、横位浮線文を施す。	諸磯 b
3	J-79 住 3 区 1 層	深鉢	普通	砂粒・雲母混入	底部破片	2 条一組の横位浮線文を巡らす。浮線文間には細めの棒状工具による列点状刺突文を施す。	諸磯 b
4	J-79 住 2 区 1 層	深鉢	普通	砂粒・褐色礫混入	胴部破片	単節 RL 縄文施文後、半截竹管状工具による横位平行沈線（半隆起線状）を施す。	諸磯 b
5	J-79 住 2 区 1 層	深鉢	普通	砂粒・褐色礫混入	胴部～底部 1/10	胴部下位から底部にかけてやや外側に張り出す。単節 RL 縄文横転がし。	諸磯 b

第 284 表　二軒在家原田Ⅱ遺跡 A 区縄文時代住居址出土遺物観察表（48）

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
6	J-79 住 2 区 1 層・3 区 1 層	深鉢	良好	砂粒・白色鉱物混入	口縁部破片	口端部がやや内湾する 4 単位双頭波状口縁か。双頭の一方が遺存すると想定される。半截竹管状工具による平行沈線（一部は半隆起線状）施文後、波頂部に円形貼付文を配す。	諸磯 c
7	J-79 住 2 区 1 層	深鉢	普通	砂粒・褐色礫混入	胴部破片	遺存部上位から中位にかけ、半截竹管状工具による横位平行沈線を巡らす。	諸磯 c
8	J-79 住 3 区 1 層	深鉢	良好	砂粒・白色鉱物混入	胴部 1/8	半截竹管状工具による縦位直線状・弧状平行沈線で区画し、区画内に斜位又は綾杉状沈線を施す。	諸磯 c
9	J-79 住 2 区 1 層	深鉢	普通	砂粒混入	胴部破片	半截竹管状工具による横位・縦位・斜位平行沈線（半隆起線状）を施す。	諸磯 c
10	J-79 住 1 区 1 層	深鉢（把手）	良好	砂粒・褐色礫混入	口縁部破片	4 単位波状口縁深鉢の把手部。半截竹管状工具による縦位・斜位・綾杉状平行沈線（半隆起線状）を施す。一部に円形貼付文を配す。遺存部上位にｽﾘｯﾄ状孔を有すると考えられる。	諸磯 c

A区Ｊ－80 号住居址

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
1	J-80 住 12 区 2 層・16 区 2 層・J-12 住	深鉢	普通	砂粒・褐色礫・植物繊維混入	口縁～胴部 1/2	外反する 4 単位波状口縁。口縁部は半截竹管状工具押し引きによる爪形文を施す。ﾓﾁｰﾌは菱形・三角形を呈す。胴部、単節縄文施文。J-12 住出土の破片と接合。	有尾・黒浜
2	J-80 住 5 区 1 層・6 区 1 層･11 区 1 層･J-12 住	深鉢	普通	砂粒・石英・植物繊維混入	口縁～胴部 1/3	外反する 4 単位波状口縁と思われる。口縁部は半截竹管状工具押し引きによる爪形文を施す。ﾓﾁｰﾌは菱形・三角形を呈す。胴部、単節縄文施文。J-12 住出土の破片と接合。	有尾・黒浜
3	J-80 住 9 区 2 層	深鉢	普通	砂粒・植物繊維混入	口縁部 1/3	外反する 4 単位波状口縁。口縁部に並行して半截竹管状工具押し引きによる爪形文を施す。ﾓﾁｰﾌは菱形・三角形・渦巻き状を呈す。一対の補修痕あり。	有尾・黒浜
4	J-80 住 2 区 2 層・10 区 1 層	深鉢	普通	砂粒・植物繊維混入	口縁部～胴部 1/10	外反する 4 単位波状口縁。波底部には小波状突起を配す。口縁部、半截竹管状工具押し引きによる爪形文を施す。ﾓﾁｰﾌは菱形･三角形を呈す。胴部、単節 RL 縄文施文。内面丁寧な磨き。	有尾
5	J-80 住 14 区 2 層	深鉢	普通	砂粒・褐色礫・石英・植物繊維混入	口縁部破片	4 単位波状口縁の波頂部付近。口縁部に並行して半截竹管状工具による平行沈線と、一部の沈線間に櫛歯状工具による列点状刺突文を施す。 波頂部下位は同様の施文方法で菱形に区画し、内側に半截竹管状工具押し引きによる渦巻き状爪形文施文。	有尾
6	J-80 住 13 区 1 層	深鉢	普通	砂粒・褐色礫・ﾁｬｰﾄ・植物繊維混入	口縁部破片	4 単位波状口縁と想定される。波底部付近には三角形の小突起を配す。口縁部に並行して櫛歯状工具による縦位列点状刺突文を巡らす。 口縁部文様帯は、櫛歯状工具による斜位列点状刺突文で菱形又は三角形に区画する。列点状刺突文施文前に半截竹管状工具による平行沈線を施す部分がある。	有尾
7	J-80 住 5 区 2 層・14 区 1 層・14 区 2 層	深鉢	良好	砂粒・褐色礫・ﾁｬｰﾄ・植物繊維混入	胴部破片	単節 RL と LR 結束縄文横転がし。遺存部最上位に半截竹管状工具押し引きによる横位爪形文施文。	有尾・黒浜
8	J-80 住 15 区 1 層	深鉢	普通	砂粒・植物繊維混入	胴部破片	外面遺存部においては縄文施文。内面にﾀｰﾙ状の付着物あり。	有尾・黒浜
9	J-80 住 13 区 1 層	深鉢	普通	砂粒・植物繊維混入	胴部～底部 1/5	頚部から下位が遺存する。頚部には櫛歯状工具による横位列点状刺突を巡らす。胴部、単節 RL 結節縄文横転がし。	有尾・黒浜
10	J-80 住 2 区 1 層	深鉢	普通	砂粒・褐色礫・ﾁｬｰﾄ・植物繊維混入	口縁部～胴部最下位 1/5	波状口縁と想定される。口縁部文様帯、半截竹管状工具による平行沈線と、沈線に並行する櫛歯状工具による列点状刺突文で区画する。胴部は単節 RL と LR 縄文横転がし。胴部最下位は篦状工具による横位撫で。内面は丁寧な磨き。	有尾・黒浜
11	J-80 住 16 区 2 層	深鉢	普通	砂粒・植物繊維混入	底部破片	遺存部においては縄文施文。底面端部は高台状を呈す。	有尾・黒浜
12	J-80 住 2 区ﾍﾟﾙﾄ	小型深鉢	普通	砂粒・植物繊維混入	胴部～底部 1/3	遺存部においては縄文を施す。	有尾・黒浜

第 285 表　二軒在家原田Ⅱ遺跡Ａ区縄文時代住居址出土遺物観察表（49）

A区J－81号住居址

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
1	J-81住11区床直	深鉢	普通	砂粒・褐色礫・植物繊維混入	口縁部～胴部1/10	やや外反する4単位波状口縁と想定される。波頂部下位は縦位に長く厚みを有する。波底部には1又は2箇所三角形の小波状を配す。半截竹管状工具による平行沈線と櫛歯状工具による列点状刺突により口縁部を区画する。 波頂部下位は菱形又は三角形をモチーフとする。波底部下位はX字状モチーフか。その間は渦巻き状モチーフ。胴部との境界は横位に区画する。胴部は単節RLとLR縄文の横転がしによる羽状縄文施文。	有尾
2	J-81住10区1層・12区1層	深鉢	普通	砂粒・褐色礫・植物繊維混入	口縁部破片	4単位波状口縁と想定される。口端部に並行する微隆帯を巡らし、その上位には櫛歯状工具による縦位列点状刺突文を巡らす。微隆帯下位には同工具による列点状刺突文を横位に施す。	有尾・黒浜
3	J-81住3区1層	深鉢	良好	砂粒・褐色礫・植物繊維混入	口縁部破片	4単位波状口縁と想定される。口端部上面に三角形の小突起を配す。口縁部文様帯、櫛歯状工具による平行沈線・列点状刺突文を施す。	有尾
4	J-81住6区1層	深鉢	普通	砂粒・植物繊維混入	口縁部破片	付加条縄文横転がし。	有尾・黒浜
5	J-81住9区1層	深鉢	普通	砂粒・植物繊維混入	口縁部破片	付加条縄文施文。	有尾・黒浜
6	J-81住3区1層	深鉢	普通	砂粒・褐色礫・灰色礫・ﾁｬｰﾄ・植物繊維混入	胴部破片	口縁部文様帯から頚部が遺存する。口縁部文様帯、櫛歯状工具による縦位・斜位列点状刺突文を施す。頚部、梯子状隆帯を横位に巡らし、隆帯間及びその上下に櫛歯状工具による列点状刺突文施文。	有尾
7	J-81住一括	深鉢	普通	砂粒・褐色礫・植物繊維混入	口縁部～底部2/3	頸部以上が外反する平口縁。単節縄文を施文。	有尾・黒浜
8	J-81住10区ﾍﾞﾙﾄ1層	深鉢	普通	砂粒・植物繊維混入	口縁部破片	ほぼ直立する平口縁と想定される。単節RL縄文横転がし。	有尾・黒浜
9	J-81住7区2層	深鉢	普通	砂粒・褐色礫・石英・植物繊維混入	胴部破片	外面摩滅・剥落部分有り。単節RLとLR縄文施文。	有尾・黒浜
10	J-81住14区1層	深鉢	普通	砂粒・植物繊維混入	底部破片	外面遺存部においては無文。底部，上げ底状を呈する。	有尾・黒浜
11	J-81住10区ﾍﾞﾙﾄ1層	鉢？	良好	砂粒混入	胴部破片	単節RL縄文施文後、細めの半截竹管状工具押し引きによる爪形文で木葉状に区画する。区画外は縄文磨り消し。	諸磯a
12	J-81住13区1層	鉢	普通	砂粒・褐色礫・白色鉱物・雲母混入	口縁部破片	体部上位において内屈する鉢と想定される。外面が摩耗しており調整不明瞭。横位・斜位沈線で区画し、一部に縄文（単節LR?）施文。さらに一部に弧状（?）短沈線を施す。	加曽利B2

A区J－82号住居址

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
1	J-82住1区1層・6区1層	深鉢	普通	砂粒・褐色礫・植物繊維混入	口縁部破片	4単位波状口縁の波底部付近と想定される。遺存部に2箇所の小突起を施す。半截竹管状工具押し引きによる爪形文、又は押し引きをしない平行沈線を三角形・菱形ﾓﾁｰﾌに施す。胴部は単節RL縄文施文。	有尾
2	J-82住1区1層	深鉢	普通	砂粒・褐色礫・ﾁｬｰﾄ・植物繊維混入	口縁部破片	口端部に口縁部に並行した隆帯・半截竹管状工具押し引きによる爪形文を施す。口縁部文様帯、同工具押し引きによる横位・斜位爪形文施文。	有尾
3	J-82住13区1層	深鉢	良好	砂粒・植物繊維混入	口縁部破片	4単位波状口縁深鉢と想定される。口縁部に並行して縦位沈線を巡らす。口縁部文様帯以下には単節RLとLR縄文横転がし。内面は丁寧な磨き。	有尾
4	J-82住6区1層	深鉢	良好	砂粒・植物繊維混入	口縁部破片	4単位波状口縁深鉢の波頂部付近と想定される。口縁部に並行して半截竹管状工具による縦位沈線を巡らす。波頂部下位には縦位棒状貼付文を配す。口縁部文様帯、同工具押し引きによる爪形文を菱形ﾓﾁｰﾌに施す。	有尾
5	J-82住1区1層	深鉢	良好	砂粒・褐色礫・白色鉱物混入	口縁部破片	口縁部に並行して半截竹管状工具による縦位沈線を巡らす。口縁部文様帯には同工具押し引きによる斜位爪形文を施す。	有尾
6	J-82住1区1層	深鉢	普通	砂粒・植物繊維混入	胴部破片	頚部から胴部上位片と想定される。頚部付近には半截竹管状工具押し引きによる横位爪形文と微隆帯を交互に巡らす。一部には縦位貼付文を配す。胴部、単節RLとLR環付末端縄横転がし。	有尾・黒浜
7	J-82住1区1層	深鉢	普通	砂粒・褐色礫・ﾁｬｰﾄ・植物繊維混入	胴部破片	口縁部文様帯が遺存すると考えられる。半截竹管状工具押し引きによる斜位直線状、弧状爪形文を施す。2と同一個体か。	有尾

第286表　二軒在家原田Ⅱ遺跡A区縄文時代住居址出土遺物観察表（50）

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
8	J-82 住 1 区 1 層	深鉢	普通	砂粒・褐色礫・植物繊維混入	胴部破片	口縁部文様帯が遺存すると考えられる。半截竹管状工具押し引きによる弧状爪形文を施す。	有尾
9	J-82 住 6 区 1 層	深鉢	良好	砂粒・植物繊維混入	胴部破片	口縁部文様帯が遺存すると考えられる。半截竹管状工具による横位・斜位平行沈線（一部は半隆起線状）を施す。菱形モチーフ。また一部の沈線上に櫛歯状工具による列点状刺突文施文。	有尾
10	J-82 住 6 区 2 層	深鉢	普通	砂粒・褐色礫・チャート・植物繊維混入	底部破片	単節 RL と LR 縄文を施す。底部は上げ底状を呈する。	有尾・黒浜
11	J-82 住 3 区 1 層	深鉢	良好	砂粒・褐色礫・石英・植物繊維混入	胴部破片	楕円文を横位施文後、上下に鋸歯状文を横位に配す。	早期前葉（日計式？）

A区 J － 87 号住居址

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
1	J-87 住一括	深鉢	やや不良	砂粒・植物繊維混入	口縁部破片	4 単位波状口縁と想定される。半截竹管状工具押し引きによる爪形文を斜位・横位に施す。三角形のモチーフか。	有尾
2	J-87 住一括	深鉢	良好	砂粒・褐色礫・植物繊維混入	口縁部破片	口端部上面に 2 個一対の小突起を配す。口縁部に半截竹管状工具押し引きによる横位直線状・弧状・U 字状等爪形文を施す。胴部には付加条縄文施文。	有尾・黒浜
3	J-87 住一括	深鉢	普通	砂粒・植物繊維混入	胴部破片	口縁部文様帯から頚部が遺存すると想定される。半截竹管状工具押し引きによる横位爪形文を頚部に巡らす。口縁部文様帯には半截竹管状工具による斜位平行沈線・コンパス文施文。	有尾・黒浜
4	J-87 住一括	深鉢	普通	砂粒・褐色礫・植物繊維混入	胴部破片	付加条縄文施文後、半截竹管状工具押し引きによる横位爪形文を施す。2と同一個体と考えられる。	有尾・黒浜
5	J-87 住 D-1 土	深鉢	普通	砂粒・植物繊維混入	口縁部～胴部 1/3	平口縁と想定される。遺存部においては縄文施文。	有尾・黒浜
6	J-87 住一括	深鉢	普通	砂粒・植物繊維混入	口縁部～胴部 1/10	頚部において大きく外反する平口縁。縄文（直前段合撚？）施文。	前期中葉
7	J-87 住一括	深鉢	普通	砂粒・褐色礫・植物繊維混入	口縁部破片	ほぼ直立する平口縁。単節 RL と LR 縄文横転がし。	有尾・黒浜
8	J-87 住一括	深鉢	普通	砂粒・植物繊維混入	底部破片	遺存部においては縄文施文。	有尾・黒浜
9	J-87 住一括	深鉢	良好	砂粒混入	胴部破片	半截竹管状工具押し引きによる爪形文で区画する。一部の区画内には円形刺突文を配す。	諸磯 b
10	J-87 住一括	深鉢	良好	砂粒・雲母混入	底部破片	単節 RL 縄文横転がし。底部は若干上げ底状を呈する。	諸磯 b ？
11	J-87 住一括	深鉢	普通	砂粒混入	胴部破片	口縁部文様帯付近が遺存すると考えられる。櫛歯状工具による列点状刺突文を横位・縦位・斜位に施す。	前期後半
12	J-87 住一括	深鉢	普通	砂粒混入	口縁部破片	棒状工具による横位沈線を施す。	前期後葉？
13	J-87 住一括	深鉢	普通	砂粒混入	口縁部破片	沈線と隆帯で口縁部文様帯を区画する。区画内には縦位沈線を施す。	加曽利 E
14	J-87 住一括	深鉢	普通	砂粒混入	胴部破片	口端部の一部が欠損すると考えられる。沈線により口縁部文様帯を区画し、区画内に縦位沈線を施す。一部に刺突文を配す。	加曽利 E
15	J-87 住一括	深鉢	普通	砂粒混入	胴部破片	棒状工具による縦位沈線を密に施す。	中期後葉
16	J-87 住一括	深鉢	良好	砂粒混入	胴部破片	縦位沈線施文後、並行する数条の弧状沈線を施す。	加曽利 E

A区 J － 88 号住居址

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
1	J-88 住一括	深鉢	良好	砂粒混入	口縁部破片	半截竹管状工具押し引きによる横位爪形文を施す。爪形文間には斜位短沈線を列点状に施文。また口端部上面の一部にも爪形文を施す。	諸磯 b
2	J-88 住一括	深鉢	普通	砂粒混入	口縁部破片	口縁部に並行して半截竹管状工具押し引きによる横位爪形文を 2 条施す。その下位には同工具による斜位平行沈線施文。	諸磯 b
3	J-88 住一括	深鉢	普通	砂粒・白色鉱物混入	胴部破片	半截竹管状工具押し引きによる横位爪形文を施す。一部の爪形文間には斜位短沈線を列点状に施文。	諸磯 b
4	J-88 住一括	深鉢	良好	砂粒混入	胴部破片	半截竹管状工具押し引きによる横位・斜位爪形文を施す。爪形文間には斜位短沈線を列点状に施文。	諸磯 b
5	J-88 住一括	深鉢	普通	砂粒・褐色礫混入	胴部破片	半截竹管状工具押し引きによる横位・斜位爪形文を施す。一部の爪形文間には斜位短沈線を列点状に施文。	諸磯 b
6	J-88 住一括	深鉢	普通	砂粒混入	胴部破片	縄文（不明瞭）施文後、浮線文を施す。	諸磯 b
7	J-88 住一括	深鉢	良好	砂粒混入	胴部破片	単節 RL 縄文施文。	諸磯 b ？

第 287 表　二軒在家原田Ⅱ遺跡 A 区縄文時代住居址出土遺物観察表（51）

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
8	J-88 住一括	深鉢	良好	砂粒・褐色礫混入	胴部破片	単節 RL 縄文施文。	諸磯 b?
9	J-88 住一括	浅鉢	普通	砂粒・褐色礫・金雲母混入	体部破片	浅鉢の体部下位から底部付近と想定される。体部下位に沈線・隆帯を施す。最下段の高まりは底部高台状の高まりと考えられる。	諸磯 b
10	J-88 住一括	深鉢	良好	砂粒・植物繊維混入	口縁部破片	ほぼ直立する平口縁と想定される。0 段多条施文。	有尾・黒浜
11	J-88 住一括	深鉢	普通	砂粒・褐色礫・植物繊維混入	胴部破片	直前段多条 RL 縄文施文後、半截竹管状工具押し引きによる横位直線状・縦位弧状爪形文（一部は平行沈線＋刺突文）を施す。爪形文間は磨り消しか。	有尾・黒浜
12	J-88 住一括	深鉢	普通	砂粒・植物繊維混入	底部破片	付加条縄文横転がし。底部、やや上げ底状を呈する。	有尾・黒浜
13	J-88 住一括	深鉢	普通	砂粒・片岩・植物繊維混入	底部破片	0 段多条 L 縄文横転がし。底部はやや上げ底状を呈する。	有尾・黒浜
14	J-88 住一括	深鉢	普通	砂粒・褐色礫混入	胴部破片	単節 LR 縄文施文後、縦位沈線（3 条 1 組か）を施す。	加曽利 E

A区 J － 89 号住居址

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
1	J-89 住 10 区 1 層	深鉢	普通	砂粒・褐色礫・チャート・植物繊維混入	口縁部破片	4 単位波状口縁深鉢の波頂部付近と想定される。口縁部に並行して半截竹管状工具による平行沈線施文。一部の沈線間に同工具による列点状刺突文を施す。	有尾
2	J-89 住 12 区 1 層	深鉢	良好	砂粒・植物繊維混入	口縁部破片	4 単位波状口縁深鉢か。縦位棒状貼付文の上位が波頂部と想定される。口端部上面の一部に三角形の小突起を配す。付加条縄文施文後、半截竹管状工具による平行沈線を斜位に施文。沈線間に同工具による列点状刺突文を施す。	有尾
3	J-89 住 15 区 1 層	深鉢	不良	砂粒・植物繊維混入	口縁部破片	4 単位波状口縁と想定される。口縁部に並行して半截竹管状工具による平行沈線施文後、櫛歯状工具による縦列点状刺突文を連続して巡らす。口縁部文様帯には半截竹管状工具による斜位平行沈線を施し、一部の沈線に並行して櫛歯状工具による列点状刺突文施文。菱形又は三角形のﾓﾁｰﾌか。	有尾
4	J-89 住 15 区 1 層	深鉢	普通	砂粒・褐色礫・灰色礫・植物繊維混入	口縁部破片	4 単位波状口縁深鉢と想定される。半截竹管状工具による平行沈線を縦位・斜位に施文。一部の沈線間に同工具による列点状刺突文を施す。菱形・三角形のﾓﾁｰﾌか。	有尾・黒浜
5	J-89 住 6 区 1 層	深鉢	普通	砂粒・植物繊維混入	胴部破片	半截竹管状工具による横位平行沈線を施す。	有尾・黒浜
6	J-89 住 15 区 1 層	深鉢	普通	砂粒・褐色礫・チャート・石英・植物繊維混入	胴部破片	4 単位波状口縁深鉢の口縁部文様帯から頚部付近が遺存すると想定される。口縁部文様帯、半截竹管状工具による平行沈線を斜位・縦位に施文。一部の沈線間に同工具による列点状刺突文を施す。ﾓﾁｰﾌは菱形・三角形と考えられる。頚部には列点状刺突文を横位に巡らす。	有尾
7	J-89 住 10 区 1 層	深鉢	普通	砂粒・植物繊維混入	底部破片	胴部下位から底部にかけて張り出す。半截竹管状工具による横位平行沈線を施す。底部は上げ底状を呈する。	有尾・黒浜
8	J-89 住 15 区 1 層	深鉢	普通	砂粒・植物繊維混入	口縁部～胴部 1/10	ほぼ直立する平口縁と想定される。遺存部全体に付加条縄文（無節 R ＋反方向単節 RL2 条）を施す。	黒浜
9	J-89 住 15 区 1 層	深鉢	普通	砂粒・植物繊維混入	口縁部～胴部 1/3	平口縁で、遺存部においては縄文を施す。	有尾・黒浜
10	J-89 住 10 区 1 層	深鉢	普通	砂粒・褐色礫・植物繊維混入	口縁部破片	ほぼ直立する平口縁と想定される。無節 L 縄文施文。遺存部右端に孔の痕跡あり。焼成後の穿孔。補修孔か。	有尾・黒浜
11	J-89 住 15 区 1 層	深鉢	普通	砂粒・褐色礫・植物繊維混入	胴部 1/10	無節 L 縄文施文。	有尾・黒浜
12	J-89 住 10 区 1 層	深鉢	普通	砂粒・チャート・石英・植物繊維混入	口縁部破片	胴部下位片と想定される。単節 RL と LR 結束縄文横転がし。	有尾・黒浜
13	J-89 住 10 区 1 層	深鉢	普通	砂粒・植物繊維混入	胴部破片	胴部中位片と想定される。複節 LRL 環付末端縄文横転がし。遺存部最上位に微隆帯と刺突文が認められる。この部分が頚部か。	有尾・黒浜
14	J-89 住 16 区 1 層	深鉢	普通	砂粒・褐色礫・石英・植物繊維混入	胴部破片	遺存部最上位単節 RL 縄文、それ以下は無節 L 環付末端縄文、いずれも横転がし。	有尾・黒浜
15	J-89 住 10 区 1 層	深鉢	普通	砂粒・植物繊維混入	底部破片	単節 RL と LR 縄文横転がし。胴部最下位には縦位沈線を連続して巡らす。底部は上げ底状を呈する。	有尾・黒浜
16	J-89 住 8 区 1 層	深鉢	普通	砂粒・植物繊維混入	底部破片	胴部下位から底部にかけて張り出す。縄文（不明瞭）を施す。底部は上げ底状を呈する。	有尾・黒浜
17	J-89 住 9 区周溝	ﾐﾆﾁｭｱ土器	普通	砂粒混入	ほぼ完存	平底の手づくね土器。内部は指を押し込んで作出する。	諸磯？

第 288 表　二軒在家原田Ⅱ遺跡 A 区縄文時代住居址出土遺物観察表（52）

A区J－90号住居址

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
1	J-90 住 6 区ﾍﾞﾙﾄ・7 区 1 層	深鉢	普通	砂粒混入	口縁部～胴部 1/4	外反する 4 単位波状口縁。口縁部に並行して 1 条の隆帯を巡らす。隆帯上位凹部と隆帯上凸部に半截竹管状工具押し引きによる爪形文を施す。隆帯上位は結節沈線状、隆帯上は結節浮線状を呈する箇所がある。隆帯下位には同工具押し引きによる爪形文を 4 条（一部 3 条）巡らす。胴部、単節 RL 結節縄文横転がし。波頂部下位には円孔を配し、円孔下位は横位爪形文を施し、孔周辺を三角形の区画とする。さらに、その下位に竹管状工具による円形刺突文を 8 ～ 9 箇所縦位に配す。	諸磯 a
2	J-90 住 7 区 1 層	深鉢	良好	砂粒・ﾁｬｰﾄ・片岩混入	口縁部 1/10	4 単位波状口縁と想定される。単節 RL 縄文施文後、口縁部に並行して半截竹管状工具による平行沈線を施す。沈線下位には半截竹管状工具による口縁部に並行する、又は斜位平行沈線施文。さらに同工具による縦位平行沈線で区画し、沈線間には円形刺突文を列点状に施文。	諸磯 a
3	J-90 住 3 区	深鉢	良好	砂粒混入	口縁部破片	4 単位波状口縁と想定される。口端部は隆帯状を呈する。口縁部に並行して半截竹管状工具押し引きによる爪形文（結節浮線状を呈する）を施す。波頂部下位の爪形文が交差する部分は、菱形のﾓﾁｰﾌとなる。遺存部最下位の区画には無節 R 縄文施文。波頂部下位及び一部の区画内に円形刺突文を配す。	諸磯 a
4	J-90 住 7 区 1 層	深鉢	良好	砂粒・褐色礫混入	口縁部破片	4 単位波状口縁と想定される。口縁部に並行して半截竹管状工具押し引きによる爪形文を施す。波頂部下位には山型爪形文・円孔文を配す。さらに口縁部文様帯に爪形文による木葉状区画を配し、区画内には単節 RL 縄文施文。	諸磯 a
5	J-90 住 6 区 1 層	深鉢	良好	砂粒・褐色礫混入	口縁部破片	口端部は隆帯状を呈する。口縁部に並行して半截竹管状工具による平行沈線を施し、沈線間に同工具による刺突文を連続して施す。波頂部下位には円形刺突文を縦位に配す。	諸磯 a
6	J-90 住 P-2	深鉢	良好	砂粒混入	口縁部破片	4 単位波状口縁と想定される。波頂部下位に半截竹管状工具による縦位平行沈線施文後、口縁部に並行する同工具による鋸歯状・直線状斜位平行沈線を施す。さらに波頂部下位の縦位平行沈線上に円形刺突文を配す。	諸磯 a
7	J-90 住 11 区 1 層・11 区ﾍﾞﾙﾄ	深鉢	良好	砂粒混入	口縁部破片	やや外反する平口縁。単節 RL 縄文施文後、櫛歯状工具による横位直線状・波状平行沈線を施す。さらに一部に縦位列点状円形刺突文を 2 条施文。刺突文間の平行沈線を撫でにより磨り消し。	諸磯 a
8	J-90 住 7 区 1 層	深鉢	普通	砂粒・褐色礫混入	胴部破片	遺存部上半、半截竹管状工具による横位直線状・弧状平行沈線施文。一部は木葉状の区画か。遺存部下半には単節 RL 縄文施文。さらに円形刺突文を縦位に配す。	諸磯 a
9	J-90 住 6 区 1 層	深鉢	良好	砂粒混入	胴部破片	4 単位波状口縁深鉢の口縁部文様帯から胴部上位が遺存すると考えられる。遺存部中央付近に半截竹管状工具による 2 条の横位平行沈線を施し、沈線間に同工具による刺突文を連続して施す。遺存部上半、同工具による縦位平行沈線で区画し、区画内には櫛歯状工具による斜位平行沈線施文。さらに縦位並行沈線状に円形刺突文を列点状に施す。遺存部間には単節 LR 縄文施文。	諸磯 a
10	J-90 住 7 区 1 層	深鉢	普通	砂粒・褐色礫混入	胴部破片	4 単位波状口縁と想定される。波頂部付近の口端部下位が遺存すると考えられる。口縁部に並行して半截竹管状工具による平行沈線を施し、沈線間に同工具による刺突文を連続して施す。櫛歯状工具による斜位（口縁部に並行）沈線施文後、半截竹管状工具による縦位平行沈線を施し、沈線間に円形刺突文を連続して施文。	諸磯 a
11	J-90 住 9 区 1 層	深鉢	良好	砂粒混入	胴部破片	単節 RL 縄文施文後、円形刺突文を縦位に配す。	諸磯 a
12	J-90 住 10 区ﾍﾞﾙﾄ 1 層	深鉢	良好	砂粒混入	口縁部破片	2 単位大波状口縁か。口縁部に並行して半截竹管状工具押し引きによる爪形文を施す。	諸磯 b
13	J-90 住 6 区ﾍﾞﾙﾄ・7 区 1 層・2 区	深鉢	良好	砂粒・白色鉱物・雲母混入	口縁部破片	ほぼ直立する平口縁と想定される。口端部直下に細めの半截竹管状工具押し引きによる横位爪形文を 1 条巡らす。胴部、爪形文で三角形・入組文状等に区画し、一部の区画内には単節 RL 縄文を施す。さらに円形刺突文を配す。	諸磯 a ～ b
14	J-90 住 7 区 1 層	深鉢	普通	砂粒・雲母混入	口縁部～胴部 1/10	やや外反する平口縁。口縁部、半截竹管状工具押し引きによる爪形文を横位に 3 条巡らす。胴部、単節 RL 縄文施文。	諸磯 b

第 289 表　二軒在家原田Ⅱ遺跡Ａ区縄文時代住居址出土遺物観察表（53）

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
15	J-90 住 7 区 1 層	深鉢	普通	砂粒・褐色礫混入	口縁部破片	4 単位波状口縁と想定される。細めの半截竹管状工具押し引きによる爪形文で区画し、一部の区画内には単節 RL 縄文を施す。さらに円形刺突文を配す。	諸磯 a ～ b
16	J-90 住 7 区 1 層	浅鉢	普通	砂粒・褐色礫混入	口縁部破片	口端部上面に隆帯状の高まりを巡らす。口縁部に並行して半截竹管状工具による平行沈線を 2 条施し、各沈線間に同工具による列点状刺突文を施す。	諸磯 a ～ b
17	J-90 住 3 区	浅鉢	良好	砂粒混入	口縁部破片	口端部上面に隆帯状の高まりを巡らす。口縁部に並行して半截竹管状工具押し引きによる爪形文を 2 条施す。体部には単節 RL 縄文施文。	諸磯 a ～ b
18	J-90 住 2 区 1 層	深鉢	普通	砂粒混入	口縁部破片	胴部上位において顕著に内屈する。縄文（単節 LR?）施文後、浮線文を施す。	諸磯 b
19	J-90 住 P-8	深鉢	普通	砂粒・褐色礫・白色鉱物混入	胴部破片	胴部中位が遺存すると想定される。遺存部上半には浮線文を施す。下半には半截竹管状工具による格子目文を施し、交点には円形刺突文を配す。	諸磯 b
20	J-90 住 7 区 1 層・6 区ﾍﾞﾙﾄ	深鉢	良好	砂粒混入	口縁部～胴部 1/3	やや外反する平口縁。口縁部、櫛歯状工具による横位平行沈線・波状沈線を巡らす。胴部、単節 RL 結節縄文横転がし。	諸磯 b
21	J-90 住 6 区ﾍﾞﾙﾄ	深鉢	良好	砂粒・白色鉱物混入	口縁部～胴部下位 1/3	外反する平口縁。口縁部、半截竹管状工具による横位平行沈線を 5 条巡らす。胴部、単節 RL 縄文施文。	諸磯 b
22	J-90 住 10 区ﾍﾞﾙﾄ 1 層	深鉢	良好	砂粒混入	口縁部破片	単節 RL 縄文施文後、半截竹管状工具による横位直線状・波状平行沈線を施す。	諸磯 a ～ b
23	J-90 住 7 区 1 層	深鉢	良好	砂粒・褐色礫混入	口縁部破片	やや外反する平口縁。半截竹管状工具による横位直線状・波状平行沈線を施す。	諸磯 a ～ b
24	J-90 住 7 区 1 層	深鉢	良好	砂粒・褐色礫・黒色鉱物混入	口縁部破片	半截竹管状工具による横位平行沈線施文後、同工具による縦位平行沈線で区画する。縦位平行沈線間は撫でによる磨り消し。磨り消し区画の口端部直下に円形刺突文施文。	諸磯 a ～ b
25	J-90 住 16 区	深鉢	良好	砂粒混入	胴部破片	付加条縄文施文後、半截竹管状工具による横位・縦位・斜位平行沈線で区画する。沈線交点には円形刺突文を配す。米字状ﾓﾁｰﾌか。	諸磯 a ～ b
26	J-90 住 6 区 1 層	深鉢	良好	砂粒・褐色礫・雲母混入	胴部破片	胴部中位片と想定される。遺存部上半、櫛歯状工具による横位直線状・波状平行沈線を交互に施文。遺存部下半、単節 RL 縄文を施す。	諸磯 a ～ b
27	J-90 住 P-11	深鉢	良好	砂粒混入	胴部破片	縄文（無節 L?）施文後、櫛歯状工具又は棒状工具による縦位・横位・斜位沈線を施す。さらに櫛歯状工具による列点状刺突文を施文し、一部には円形刺突文を配す。米字状ﾓﾁｰﾌを意識か。	諸磯 b 併行
28	J-90 住 7 区 1 層	深鉢	良好	砂粒・褐色礫・白色鉱物混入	胴部破片	単節 RL 縄文施文後、半截竹管状工具による横位・斜位平行沈線（一部半隆起線状で沈線間の縄文は撫でにより磨り消し）で区画する。さらに円形刺突文を縦位に配す。	諸磯 a ～ b
29	J-90 住 3 区	深鉢	普通	砂粒・褐色礫混入	胴部破片	胴部中位が遺存すると想定される。遺存部上位、半截竹管状工具による横位直線状・波状平行沈線を交互に施す。中位から下位、無節 R 縄文施文。	諸磯 a ～ b
30	J-90 住 1 区 1 層	浅鉢	良好	砂粒・片岩・雲母混入	体部破片	浅鉢の体部上位片と想定される。半截竹管状工具による平行沈線で区画し、一部の区画内に付加条縄文を施す。	諸磯 a ～ b
31	J-90 住 5 区 1 層・P-1	深鉢	良好	砂粒混入	口縁部破片	ほぼ直立する平口縁と想定される。口端部外面に隆帯状の高まりを巡らす。単節 LR 縄文を施す。	諸磯
32	J-90 住 P-11	深鉢	普通	砂粒・褐色礫混入	胴部 1/10	単節 RL 結節縄文横転がし。	諸磯 a ～ b
33	J-90 住 3 区床	深鉢	良好	砂粒混入	胴部破片	単節 RL 縄文横転がし。	諸磯 b ？
34	J-90 住 7 区 1 層	深鉢	良好	砂粒・褐色礫混入	底部破片	単節 RL 縄文施文。底部は若干上げ底状を呈する。	諸磯
35	J-90 住 14 区 1 層	ﾐﾆﾁｭｱ土器	普通	砂粒・白色鉱物・雲母混入	口縁部～底部 1/2	遺存部においては無文。浅鉢形を呈す。	諸磯？
36	J-90 住 1 区 1 層	深鉢	普通	砂粒混入	口縁部破片	口端部に刻み目を有す。幅広の半載竹管状工具にて横位爪形文を施し、遺存部上下端部に横位刺突文を配す。器壁は薄い。内外面に赤彩を施す。	北白川下層
37	J-90 住 14 区 1 層	深鉢	良好	砂粒混入	口縁部破片	4 単位波状口縁か。波頂部口端上面を楕円形の平坦面となす。口縁部に並行して櫛歯状工具による平行沈線と列点状刺突文を巡らす。口縁部、波頂部より沈線を垂下させる。櫛歯状工具による斜位列点状刺突文施文。菱形・三角形のﾓﾁｰﾌと考えられる。一部の区画内に櫛歯状工具による縦位沈線が認められるが、意図的施文かどうか疑問が残る。	前期中葉～後葉

第 290 表　二軒在家原田Ⅱ遺跡Ａ区縄文時代住居址出土遺物観察表（54）

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
38	J-90 住 2 区	深鉢	普通	砂粒・褐色礫・黒色鉱物混入	口縁部 1/10	4単位小波状口縁。波頂部に橋状把手貼付。隆帯と沈線により口縁部文様帯を区画する。内側に縦位沈線を施す。波頂部外面・口縁部文様帯の一部には渦巻き状沈線を施す。頚部は無文。無文帯下部に2条の横位沈線を巡らす。胴部に撚り糸施文。	加曽利ＥⅠ
39	J-90 住 2 区	深鉢	普通	砂粒・褐色礫・灰色礫混入	胴部破片	40と同一個体と考えられる。頚部無文帯下位に 3 条の横位沈線を巡らす。沈線施文後、撫でにより一部を磨り消している。胴部、単節 RL 縄文施文後、3 条一組の縦位沈線で区画する。	加曽利ＥⅠ
40	J-90 住 2 区	深鉢	普通	砂粒・褐色礫・灰色礫混入	胴部破片	頚部無文帯から胴部上位と想定される。頚部無文帯下位に 3 条の横位沈線を巡らす。胴部、単節 RL 縄文施文後、3 条一組の縦位沈線で区画する。	加曽利ＥⅠ

A区Ｊ－91 号住居址

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
1	J-91 住 3 区 1 層	深鉢	良好	砂粒混入	胴部破片	半截竹管状工具押し引きによる爪形文で区画する。爪形文間には短沈線を連続して施文。さらに一部の区画内に円形刺突文を配す。	諸磯 b
2	J-91 住 3 区 1 層	鉢？	普通	砂粒・褐色礫混入	体部破片	体部中位が括れ、上位において顕著に内屈する鉢を想定した。口縁部付近には円孔文を巡らすと考えられる。口縁部付近には浮線文を施す。内屈する器形変換点には矢羽根状短沈線を巡らす。体部、半截竹管状工具押し引きによる爪形文を施す。	諸磯 b
3	J-91 住 D-1 土	深鉢	良好	砂粒混入	口縁部破片	胴部上位において内屈する。口端部上面に鎖状隆帯を施す。口縁部から胴部、単節 RL 縄文施文後、浮線文を施す。4 と同一個体か。	諸磯 b
4	J-91 住 4 区ﾍﾞﾙﾄ	深鉢	良好	砂粒混入	口縁部破片	口端部上面に鎖状隆帯を施す。口縁部、単節 RL 縄文施文後、横位浮線文を巡らす。	諸磯 b
5	J-91 住 1 区 1 層	深鉢	普通	砂粒・白色鉱物混入	口縁部破片	単節 RL 縄文施文後、紐状貼付文・浮線文を施す。	諸磯 b
6	J-91 住 3 区ﾍﾞﾙﾄ	深鉢	良好	砂粒混入	胴部破片	単節 LR 縄文施文後、横位弧状浮線文を施す。	諸磯 b
7	J-91 住 3 区ﾍﾞﾙﾄ	深鉢	良好	砂粒・褐色礫混入	口縁部破片	やや外反する平口縁と想定される。半截竹管状工具による横位平行沈線を施す。	諸磯 b
8	J-91 住 3 区 1 層	深鉢	普通	砂粒混入	胴部破片	櫛歯状工具による横位直線状・波状平行沈線を交互に施す。一部に円形刺突文を縦位に配す。	諸磯 a ～ b
9	J-91 住 3 区 1 層	深鉢	普通	砂粒混入	胴部破片	半截竹管状工具による斜格子目文を施す。	諸磯 b ？
10	J-91 住 4 区ﾍﾞﾙﾄ	深鉢	良好	砂粒混入	胴部破片	半截竹管状工具による横位平行沈線を施す。	諸磯 b
11	J-91 住 3 区 1 層	深鉢	普通	砂粒・褐色礫・金雲母混入	口縁部破片	無節ＬとＲ縄文施文。胎土に金雲母を多量に含む。	諸磯 b ？

A区Ｊ－92a 号住居址

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
1	J-92a 住 9 区 1 層	深鉢	普通	砂粒・白色鉱物混入	口縁部～胴部 1/4	口縁部の一部（4 箇所か）が内側に屈折し、口端部上面が 4 単位の花びら状を呈すると想定される。口縁部、2 条の横位圧痕隆帯を巡らす。半截竹管状工具による横位平行沈線施文後、2 個一対のボタン状貼付文・耳状貼付文を施す。胴部、半截竹管状工具による縦位・斜位・横位平行沈線施文後、ボタン状貼付文を施す。	諸磯 c
2	J-92a 住 10 区 1 層	深鉢	普通	砂粒・白色鉱物混入	口縁部破片	口端部は短く内傾する。半截竹管状工具による刺突と横位沈線を口縁部に並行して施し、以下、矢羽状、横位、縦位などに配す。一部に耳状貼付文と、同工具による刺突を施したボタン状貼付文を付す。	諸磯 c
3	J-92a 住 11 区 1 層	深鉢	良好	砂粒・褐色礫・白色鉱物混入	口縁部破片	4 単位波状口縁の波頂部付近。半截竹管状工具による平行沈線を施し、一部に耳状・ボタン状貼付文を配す。	諸磯 c
4	J-92a 住 11 区 1 層	深鉢	良好	砂粒・白色鉱物混入	口縁部破片	4 単位波状口縁の波頂部把手。口縁部に並行して半截竹管状工具による刺突文を施文。半截竹管状工具による平行沈線を施し、一部に耳状・2 個一対の円形貼付文を配す。波頂部下位には大きめの孔（三角形又は菱形か）を施す。	諸磯 c
5	J-92a 住 14 区 1 層・15 区 1 層	深鉢	普通	砂粒・褐色礫混入	胴部 1/10	全体的に薄手の作り。棒状工具による斜位沈線を施す。遺存部最下位は横位沈線を施す。	諸磯 c
6	J-92a 住 9 区ﾍﾞﾙﾄ	深鉢	良好	砂粒混入	口縁部破片	4 単位波状口縁の波頂部把手。外面、半截竹管状工具による平行沈線施文。一部は綾杉状。両側面、半截竹管状工具による平行沈線施文後、一部に 2 個一対のボタン状貼付文を配す。	諸磯 c
7	J-92a 住 10 区 1 層	深鉢	良好	砂粒・灰色礫・白色鉱物混入	口縁部破片	4 単位波状口縁の波頂部把手。両側面を繋ぐように細長い孔を施す。半截竹管状工具による平行沈線施文。一部に赤色塗彩が認められる。	諸磯 c

第 291 表　二軒在家原田Ⅱ遺跡Ａ区縄文時代住居址出土遺物観察表（55）

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
8	J-92a 住 10 区 1 層	深鉢	良好	砂粒・褐色礫混入	口縁部破片	4 単位波状口縁の波頂部把手。口縁部に並行して半截竹管状工具又は板状工具による刺突文を施文。半截竹管状工具による平行沈線を施し、一部に耳状貼付文を配す。	諸磯 c
9	J-92a 住 10 区ﾍﾞﾙﾄ	深鉢	良好	砂粒・褐色礫混入	口縁部破片	変則的な波状口縁と想定される。半截竹管状工具又は板状工具による刺突文で区画する。区画内には半截竹管状工具による横位・斜位平行沈線施文。	諸磯 c
10	J-92a 住 10 区 1 層	深鉢	普通	砂粒・白色鉱物混入	胴部破片	遺存部においては棒状工具による横位刺突文を 3 段以上配す。	諸磯 c 併行

A区 J － 92b 号住居址

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
1	J-92b 住 (J-77 住 16 区 1 層)	深鉢	普通	砂粒・褐色礫混入	胴部 1/8	単節 RL 縄文施文後、半截竹管状工具による横位平行沈線で区画する。一部の区画内には同工具による渦巻き状・弧状等平行沈線を施す。	諸磯 b
2	J-92b 住 11 区 1 層 (J-77 住)	深鉢	普通	砂粒・片岩・ﾁｬｰﾄ混入	胴部破片	単節 RL 縄文施文後、半截竹管状工具による横位平行沈線で区画する。一部の区画内には同工具による綾杉状沈線を施す。	諸磯 b
3	J-92b 住 12 区 1 層 (J-77 住)	小型深鉢	良好	砂粒・白色鉱物混入	胴部～底部破片	胴部下位から底部にかけて張り出す器形。半截竹管状工具による横位平行沈線を施す。内面には赤色塗彩が認められる。	諸磯 b
4	J-92b 住一括	深鉢	良好	砂粒・白色鉱物・チャート・片岩	口縁部破片	単節 RL の縄文地文。浮線文で横位区画。区画内に同様の浮線文を入組文状に配置。浮線文上にヘラ状工具によるキザミを加える。口唇部に獣面把手。内面は横位の粗いミガキ。	諸磯 b
5	J-92b 住 13 区 1 層 (J-77 住)	浅鉢	普通	砂粒・褐色礫・金雲母混入	口縁部～体部破片	口縁部に並行して 2 条の浮線文を巡らす。浮線文間には円孔文を列点状に巡らす。体部、細めの半截竹管状工具による平行沈線、同工具押し引きによる爪形文を施す。	諸磯 b
6	J-92b 住 13 区 1 層 (J-77 住)	浅鉢	良好	砂粒・褐色礫混入	体部破片	遺存部中位に鍔状隆帯を巡らす。隆帯上位には細めの半截竹管状工具押し引きによる横位爪形文を巡らす。隆帯先端には 2 条の浮線文、下位には半截竹管状工具押し引きによる爪形文を施す。	諸磯 b

A区 J － 93 号住居址

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
1	J-93 住 3 区 1 層	深鉢	普通	砂粒・褐色礫・植物繊維混入	口縁部 1/10	外反する4単位波状口縁。波底部に小波状を有する。波頂部下位には櫛歯状工具による列点状刺突文を伴う棒状貼付文を施すものと想定される（剥落痕あり）。口縁に並行して 4 条の列点状刺突文を巡らす。さらに、波頂部下位には三角形・又は菱形ﾓﾁｰﾌとする列点状刺突文、波底部下位には渦巻き状ﾓﾁｰﾌの列点状刺突文を施す。器形変換点付近にも横位列点状刺突文を巡らす。	有尾
2	J-93 住 2 区 1 層	深鉢	良好	砂粒・植物繊維混入	口縁部破片	4 単位波状口縁と想定される。波頂部より半截竹管状工具による縦位平行沈線を垂下させる。櫛歯状工具による平行沈線で区画し、一部の区画内には同工具による縦位列点状刺突文施文。さらに波頂部下位の平行沈線上に円形刺突文を配す。内面は非常に丁寧な磨き。	有尾・黒浜
3	J-93 住 3 区 1 層	深鉢	普通	砂粒・褐色礫・植物繊維混入	口縁部破片	4 単位波状口縁と想定される。半截竹管状工具による波頂部より垂下させた縦位平行沈線、口縁部に並行する斜位平行沈線等で区画する。一部の平行沈線に並行して、櫛歯状工具による列点状刺突文を施す。	有尾・黒浜
4	J-93 住 3 区 1 層	深鉢	普通	砂粒・褐色礫・植物繊維混入	胴部破片	単節 RL と LR 環付末端縄横転がし。	有尾・黒浜
5	J-93 住 4 区 1 層	深鉢	普通	砂粒・黒色鉱物混入	口縁部～胴部 1/10	口縁部に無文帯を巡らし、無文帯最下位に列点状に円孔を施す。胴部、2 ～ 3 条の横位浮線文により区画する。区画内、半截竹管状工具押し引きによる爪形文を木葉状・渦巻き状等に施す。区画の一部には単節 RL 縄文施文。また、一部に赤色塗彩の痕跡が認められる。	諸磯 b
6	J-93 住 4 区 1 層	深鉢	普通	砂粒混入	口縁部～胴部 1/4	やや外反する 4 単位波状口縁と想定される。半截竹管状工具による平行沈線を口縁に並行して巡らす。胴部には同工具による 2 条一組の横位爪形文を巡らし区画する。各区画内には半截竹管状工具による山型状沈線・爪形文を施す。遺存部最下段の文様構成は摩滅のため不明瞭である。	諸磯 b

第 292 表　二軒在家原田Ⅱ遺跡Ａ区縄文時代住居址出土遺物観察表（56）

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
7	J-93 住 4 区 1 層	深鉢	普通	砂粒・白色鉱物混入	口縁部破片	やや内湾する口縁。半截竹管状工具押し引きによる横位爪形文で区画する。区画内には斜位・弧状爪形文を施す。	諸磯 b
8	J-93 住 2 区 1 層	深鉢	良好	砂粒混入	口縁部破片	ほぼ直立する平口縁と想定される。単節 RL 縄文施文後、半截竹管状工具押し引きによる横位爪形文で区画する。区画内には爪形文を格子目状に施す。さらに格子目区画内に円形刺突文を配す。また一部の爪形文間に、斜位短沈線施文。	諸磯 b
9	J-93 住 4 区 1 層	深鉢	普通	砂粒・白色鉱物混入	胴部破片	半截竹管状工具押し引きによる斜位爪形文で区画する。爪形文間には斜位短沈線施文。一部の区画内には円形刺突文を施す。	諸磯 b
10	J-93 住 3 区 1 層	浅鉢	良好	砂粒・白色鉱物混入	体部破片	浅鉢の体部上位片。細めの半截竹管状工具押し引きによる木葉状爪形文を施す。爪形文の輪郭部を深い沈線で再施文する。器形変換点には梯子状貼付文を巡らす。	諸磯 b
11	J-93 住 1 区 1 層	深鉢	良好	砂粒・褐色礫混入	口縁部破片	単節 RL 縄文施文後、横位・斜位・縦位浮線文又は紐状貼付文を施す。	諸磯 b
12	J-93 住 4 区 1 層	深鉢	良好	砂粒・褐色礫混入	口縁部破片	やや内湾する 4 単位小波状口縁と想定される。単節 RL 縄文施文後、横位・斜位・渦巻き状等浮線文を施す。	諸磯 b
13	J-93 住 4 区 1 層	深鉢	良好	砂粒・ﾁｬｰﾄ・片岩混入	胴部破片	単節 RL と LR 環付末端結節縄文横転がし後、横位浮線文を巡らす。一部に円形貼付文が認められるが、意図的施文か疑問が残る。	諸磯 b
14	J-93 住 4 区 1 層	深鉢	普通	砂粒・石英・褐色礫混入	口縁部破片	獣面把手。隆帯による耳・鼻部を表現→耳・鼻部にペン先状工具による刺突・キザミ。内面はナデ。	諸磯 b
15	J-93 住 4 区 1 層	浅鉢	良好	砂粒混入	口縁部～胴部 1/4	外形は壺型を呈す。頸部、棒状工具による横位の小穿孔を等間隔に巡らす。さらに横位浮線文を配す。内外面共に良く研磨する。	諸磯 b
16	J-93 住 4 区 1 層	深鉢	普通	砂粒混入	胴部破片	ﾛｯｷﾝｸﾞによる貝殻腹縁文を施す。	諸磯 b 併行（浮島系）

A区 J － 94 号住居址

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
1	J-94 住一括	深鉢	普通	砂粒・白色鉱物混入	口縁部破片	隆帯と沈線により口縁部文様帯を楕円形に区画する。区画内には斜位沈線を施す。胴部、縦位沈線で区画し、内側に斜位沈線（鱗状を意識か）施文。	加曽利 E
2	J-94 住一括	深鉢	普通	砂粒・褐色礫・植物繊維混入	口縁部破片	口縁部に半截竹管状工具による横位直線状平行沈線・コンパス文を巡らす。胴部には付加条縄文施文。	有尾・黒浜
3	J-94 住一括	深鉢	普通	砂粒・褐色礫・灰色礫・植物繊維混入	胴部破片	半截竹管状工具による横位直線状・U 字状等平行沈線及びコンパス文を施す。	有尾・黒浜
4	J-94 住一括	深鉢	普通	砂粒・ﾁｬｰﾄ・片岩・雲母混入	胴部破片	単節 RL 結節縄文横転がし。	諸磯 b ？

A区 J － 95 号住居址

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
1	J-95 住 1 区 1 層 NO1	深鉢	普通	砂粒・褐色礫・石英混入	口縁部～胴部最下位 9/10	双頭と単頭を交互に配す 4 単位波状口縁と想定される。単節 RL 縄文施文後、口縁部と胴部中位に 3 条の横位平行沈線 + 同工具による列点状刺突文を施し区画する。区画内は同様の方法で弧状・横 S 字状等に区画する。	諸磯 b
2	J-93 住 4 区 1 層 +J-95 住 1 区 1 層	深鉢	普通	砂粒・黒色鉱物・褐色礫混入	口縁部～胴部 1/8	2 単位大波状口縁と想定される。口縁部に並行して半截竹管状工具押し引きによる 4 条の爪形文を施す。爪形文間は斜位短沈線を連続して施し、浮線文状を呈する。遺存部下位も同様の施文である。中間部は半截竹管状工具押し引きによる弧状・渦巻き状爪形文を施す。	諸磯 b
3	J-95 住 3 区 1 層	深鉢	普通	砂粒・褐色礫混入	口縁部破片	口端部の一部に厚みを有する小把手状の突起を配す。半截竹管状工具押し引きによる横位爪形文と横位浮線文により区画する。遺存部下位には同手法による渦巻き状モチーフを施す。	諸磯 b
4	J-95 住 4 区 1 層	深鉢	良好	砂粒・褐色礫・雲母混入	口縁部破片	半截竹管状工具押し引きによる横位爪形文を施す。爪形文間には短沈線を連続して施文。	諸磯 b
5	J-95 住 3 区 1 層	深鉢	普通	砂粒・褐色礫混入	口縁部破片	2 単位大波状口縁と想定される。半截竹管状工具押し引きによる形文を施す。爪形文間には斜位短沈線施文。	諸磯 b
6	J-95 住 3 区 1 層	深鉢	普通	砂粒・褐色礫混入	胴部破片	半截竹管状工具押し引きによる横位爪形文と横位浮線文により区画する。遺存部上位には同手法による渦巻き状モチーフを施す。遺存部最下位の区画には単節 RL 縄文施文。3 と同一個体と考えられる。	諸磯 b

第 293 表　二軒在家原田Ⅱ遺跡 A 区縄文時代住居址出土遺物観察表（57）

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
7	J-95 住 1 区 1 層	深鉢	普通	砂粒混入	7/10	4 単位小波状口縁と想定される。結節 RL 縄文横転がし後、口縁部に 5 条の横位浮線を施す。全体が灰色を呈する。搬入品か。	諸磯 b
8	J-95 住 4 区 1 層	深鉢	良好	砂粒・褐色礫・赤褐色礫混入	口縁部破片	胴部上位において顕著に内屈する 4 単位波状口縁と想定される。単節 RL 縄文施文後、横位・斜位・弧状・渦巻き状等浮線文を施す。口端部上面には直線状・波状の紐状貼付文施文。	諸磯 b
9	J-95 住 1 区 1 層	深鉢	良好	砂粒・褐色礫混入	口縁部破片	単節 RL 縄文施文後、口縁部に並行して 3 条の横位浮線文を巡らす。浮線文下位には半截竹管状工具による平行沈線（半隆起線状を呈する）で格子目文を施す。格子目交点には半截竹管状工具の回転によると考えられる円形刺突文を配す。	諸磯 b
10	J-95 住 1 区 1 層	深鉢	良好	砂粒・片岩・チャート混入	胴部破片	胴部中位が遺存する。単節 RL 結節縄文施文後、横位浮線文により区画する。一部の区画内には菱形状・弧状浮線文を施し、さらに竹管状工具による円形刺突を配す。	諸磯 b
11	J-95 住 3 区 1 層	深鉢	良好	砂粒混入	胴部破片	単節 RL 縄文施文後、横位浮線文を施す。	諸磯 b
12	J-95 住 3 区 1 層	深鉢	良好	砂粒・褐色礫混入	胴部破片	単節 RL 縄文施文後、横位・斜位・弧状浮線文を施す。	諸磯 b
13	J-95 住 2 区ﾍﾞﾙﾄ 1 層	深鉢	普通	砂粒・褐色礫・灰色礫混入	胴部破片	単節 RL 縄文施文後、横位・斜位・弧状等浮線文を施す。	諸磯 b
14	J-95 住 1 区 1 層 NO2	深鉢	普通	砂粒・褐色礫混入	胴部～底部 1/5	単節 RL 縄文横転がし後、横位浮線文で区画する。浮線文の本数は上位より 2 条・3 条・2 条である。最下位の 2 条は浮線文状部分は少なく、大部分が横位紐状貼付文である。	諸磯 b
15	J-95 住 3 区ﾍﾞﾙﾄ 1 層	深鉢	普通	砂粒・褐色礫混入	底部破片	縄文（単節 RL と LR の結束縄文？）施文後、横位浮線文を施す。	諸磯 b
16	J-95 住 4 区 1 層	深鉢	良好	砂粒・白色鉱物・チャート・片岩混入	口縁部破片	単節 RL の縄文地文。浮線文で横位区画。区画内に同様の浮線文を入組文状に配置。浮線文上にヘラ状工具によるキザミを加える。口唇部に獣面把手。内面は横位の粗いミガキ。	諸磯 b
17	J-95 住 1 区 1 層	深鉢	良好	砂粒・白色鉱物・褐色礫混入	口縁部破片	単節 LR の縄文地文。浮線文で横位区画。区画内に同様の浮線文を入組文状に配置。浮線文上にヘラ状工具によるキザミを加える。口唇部に獣面把手。内面は横位のミガキ。	諸磯 b
18	J-95 住 2 区 1 層	深鉢	良好	砂粒・白色鉱物・褐色礫混入	口縁部破片	浮線文で横位区画。区画内に同様の浮線文を配置。浮線文上に単節縄文 RL が施される。口唇部に獣面把手。内面は横位のナデ。	諸磯 b
19	J-95 住 4 区 1 層	深鉢	良好	砂粒・白色鉱物・褐色礫混入	口縁部破片	単節 RL の縄文地文。浮線文で横位区画。区画内に同様の浮線文を入組文状に配置。浮線文上にヘラ状工具によるキザミを加える。口唇部に獣面把手。内面は横位の粗いミガキ。	諸磯 b
20	J-95 住 3 区 1 層	深鉢	良好	砂粒・白色鉱物・角閃石混入	口縁部破片	単節 RL の縄文地文。浮線文で横位区画。区画内に同様の浮線文を入組文状に配置。浮線文上にヘラ状工具によるキザミを加える。口唇部に獣面把手。内面は横位の粗いミガキ。	諸磯 b
21	J-95 住 4 区 1 層	深鉢	良好	砂粒・白色鉱物・褐色礫混入	口縁部破片	ヘラ状工具によるキザミを施された浮線文。口唇部に、獣面把手に類する突起。内・外面とも横位のナデ。	諸磯 b
22	J-95 住 1 区 1 層 +J-93 住 4 区 1 層	深鉢	良好	砂粒・褐色礫混入	口縁部破片	単節 RL 縄文施文後、横位・斜位沈線を施す。斜位沈線は、乱れてはいるが格子目文の意識か。	諸磯 b
23	J-95 住 3 区 1 層	深鉢	普通	砂粒・白色鉱物混入	胴部破片	単節 RL 縄文施文後、半截竹管状工具による横位・斜位・弧状・波状沈線を施す。	諸磯 b
24	J-95 住 2 区 1 層	深鉢	良好	砂粒混入	底部破片	単節 RL 縄文施文。	諸磯 b
25	J-95 住 4 区 1 層	深鉢	普通	砂粒混入	底部破片	遺存部においては末端結節縄文を施す。	諸磯 b ？
26	J-95 住 1 区 1 層	深鉢	普通	砂粒・雲母混入	胴部破片	ﾛｯｷﾝｸﾞによる貝殻腹縁文を施す。	諸磯 b 併行（浮島系？）
27	J-95 住 3 区 1 層	深鉢	良好	砂粒・白色鉱物混入	口縁部破片	口縁部文様帯の区画連結部上位に突起を配す小波状口縁か。隆帯により口縁部文様帯を区画し、区画内には縦位沈線を施す。区画連結部付近には渦巻き状隆帯・沈線を配す。また、口端部直下は無文を基本とするが、一部に横 U 字状沈線を配す。口縁部文様帯下位には幅の狭い無文帯を巡らす。胴部上位、丸棒状工具による横位平行沈線を施し、沈線間に同工具による列点状刺突文施文。その下位は撚り糸施文後、渦巻き状・楕円形等沈線を施す。混入品。	加曽利 E Ⅰ

第 294 表　二軒在家原田Ⅱ遺跡 A 区縄文時代住居址出土遺物観察表（58）

A区J－96号住居址

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
1	J-96 住溝	深鉢	良好	砂粒混入	口縁部破片	櫛歯状工具による横位直線状・波状平行沈線を交互に施す。一部に円形刺突文を縦位に配す。	諸磯a～b
2	J-96 住1区1層	深鉢	良好	砂粒混入	口縁部破片	4単位波状口縁と想定される。口端部上面から外面にかけて、短沈線を連続して施文。波頂部から沈線を垂下させ、沈線両側に口縁部に並行する斜位沈線施文。	諸磯a～b
3	J-96 住周溝一括	深鉢	良好	砂粒・赤褐色礫混入	口縁部破片	口縁部に並行して半截竹管状工具押し引きによる横位爪形文を2条巡らす。胴部には斜位爪形文を施す。	諸磯b
4	J-96 住周溝一括	深鉢	良好	砂粒混入	胴部破片	半截竹管状工具押し引きによる弧状・横位直線状爪形文を施す。一部にC字状（意識は円形か）刺突文を配す。	諸磯b
5	J-96 住2区1層	深鉢	良好	砂粒混入	胴部破片	半截竹管状工具押し引きによる縦位・斜位爪形文を施す。爪形文間には短沈線を連続して施文。	諸磯b
6	J-96 住溝	深鉢	良好	砂粒混入	胴部破片	半截竹管状工具による平行沈線施文後、同工具による連続刺突文を施す。一部に円形刺突文を配す。全体的に施文技術が稚拙である。	諸磯b
7	J-96 住5区1層	深鉢	普通	砂粒・白色鉱物混入	胴部破片	単節RL縄文施文後、横位・縦位・斜位浮線文を施す。	諸磯b
8	J-96 住3区1層	深鉢	良好	砂粒・褐色礫混入	口縁部破片	口端部上面、紐状貼付文を波状に施す。外面口端部直下には、2条の横位浮線文と半截竹管状工具押し引きによる1条の横位爪形文を巡らす。その下位には半截竹管状工具による斜格子目文施文。さらに交点には円形刺突文を配す。	諸磯b
9	J-96 住D-2 土	深鉢	普通	砂粒・褐色礫混入	口縁部破片	単節RL縄文を施す。内面の一部に炭化物付着。	諸磯b？
10	J-96 住4区1層	深鉢	良好	砂粒・雲母混入	口縁部破片	単節RL縄文横転がし。	諸磯b？
11	J-96 住2区1層	小型深鉢	普通	砂粒・褐色礫・角閃石混入	底部破片	遺存部においては縄文施文。	諸磯b？
12	J-96 住溝	深鉢	普通	砂粒・植物繊維混入	口縁部破片	4単位波状口縁と想定される。半截竹管状工具による平行沈線を口縁に並行して、又は縦位に施す。さらに沈線に並行する櫛歯状工具による列点状刺突文施文。	有尾
13	J-96 住南周溝一括	深鉢	良好	砂粒・褐色礫・植物繊維混入	口縁部破片	口縁部上位においてやや内湾する。半截竹管状工具押し引きによる横位爪形文で区画する。一部の区画内に直前段多条LR縄文を施す。	有尾・黒浜

A区J－98号住居址

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
1	J-98 住1区一括・2区一括	深鉢	良好	砂粒混入	口縁部破片	口縁部が内湾する4単位の緩やかな波状口縁と想定される。口端部を沈線により区画し、区画内に刺突文を施す。胴部、無節L縄文施文後、2条一組の弧状沈線施文。	加曽利EⅢ
2	J-98 住3区一括	深鉢	普通	砂粒・雲母混入	口縁部破片	小波頂部下位に渦巻き状隆帯と沈線を施す。一部に刺突文が認められる。	加曽利EⅢ
3	J-98 住4区一括	深鉢	普通	砂粒・白色鉱物混入	胴部破片	丸棒状工具によるU字状・逆U字状沈線で区画する。一部の区画内に単節RL縄文施文。	加曽利EⅢ～Ⅳ
4	J-98 住4区一括	深鉢	良好	砂粒・褐色礫混入	胴部破片	口縁部文様帯から胴部上位片か。単節RL縄文施文後、隆帯脇を撫で。	加曽利EⅢ～Ⅳ
5	J-98 住4区一括	深鉢	普通	砂粒混入	胴部破片	低めの隆帯で区画する。区画内には無節L縄文施文。	加曽利EⅢ～Ⅳ
6	J-98 住4区一括	深鉢	良好	砂粒・褐色礫・白色鉱物混入	胴部破片	単節RL縄文施文後、2条一組の縦位弧状沈線で区画する。沈線間は磨り消し。	加曽利EⅢ～Ⅳ
7	J-98 住埋甕	鉢	普通	砂粒・褐色礫混入	口縁部～胴部1/2	EⅢ式期の両耳壺。片側の把手は破損。胴部上位の把手間を隆帯と沈線で区画。区画内には単節RL縄文施文。	加曽利EⅢ
8	J-98 住2区一括	深鉢	良好	砂粒・褐色礫混入	口縁部～胴部1/10	波状口縁と想定される。単位は不明。口縁部に幅の狭い無文帯を有す。口縁部下位には丸棒状工具による横位沈線を巡らす。胴部、単節RL縄文施文後、丸棒状工具による沈線で区画する（遺存部の区画は逆U字状）。区画内磨り消し。	加曽利EⅣ
9	J-98 住4区一括	深鉢	良好	砂粒混入	胴部破片	単節RL縄文施文。断面三角形の2条一組の縦位隆帯により区画する。隆帯間は磨り消し。	加曽利EⅢ？
10	J-98 住3区一括	深鉢	良好	砂粒混入	胴部破片	口縁部文様帯から胴部上位が遺存する。隆帯と沈線により口縁部文様帯を区画する。区画内には縦位・斜位沈線施文。区画連結部から胴部に縦位沈線（2条一組か）を垂下。沈線間磨り消し。区画内には斜位弧状沈線施文。	加曽利E
11	J-98 住3区一括	深鉢	良好	砂粒混入	胴部破片	縄文施文後、縦位条線を施す。	加曽利E

第295表　二軒在家原田Ⅱ遺跡A区縄文時代住居址出土遺物観察表（59）

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
12	J-98 住 2 区一括・4 区一括	不明	普通	砂粒・褐色礫混入	口縁部破片	口端部下位に鍔状隆帯を巡らす。隆帯の一部は波状を呈し、波頂部下位に円孔文を配す。内外面全体に赤色塗彩を施す。遺存部から判断すると、口縁部が楕円形である可能性が考えられる。	加曽利 E 併行
13	J-98 住 1 区一括	深鉢	普通	砂粒・雲母混入	口縁部破片	4単位波状口縁と想定される。波頂部下位に刺突文を伴う楕円形貼付文を施す。貼付文剥落痕に単節 RL 縄文が認められる。	称名寺
14	J-98 住 1 区一括	深鉢	良好	砂粒・褐色礫混入	口縁部破片	波状口縁の波頂部付近が遺存する。口端部付近に沈線・刺突文を組み合わせて施文。波頂部付近には橋状把手を施す可能性がある。	称名寺Ⅱ

A区 J － 99 号住居址

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
1	J-99 住 2 区 1 層	深鉢	良好	砂粒・褐色礫・雲母混入	胴部破片	隆帯と沈線により口縁部文様帯を半月形に区画する。区画内には縦位沈線を施す。区画連結部には弧状沈線を配す。頚部には縦位・横位基調沈線施文。	加曽利 E
2	J-99 住 2 区 1 層	深鉢	良好	砂粒・褐色礫混入	胴部破片	2 条一組の細い縦位沈線で区画する。区画内には単節 RL 縄文充填。	加曽利 E
3	J-99 住 2 区 1 層	鉢？	普通	砂粒・雲母混入	口縁部破片	単節 RL 縄文横転がし。	加曽利 E
4	J-99 住 2 区 1 層	深鉢	良好	砂粒・褐色礫混入	胴部破片	2 条一組の深めの沈線で区画する。区画内には縄文（付加条？）施文。	中期末葉～後期初頭
5	J-99 住 2 区 1 層	深鉢	普通	砂粒混入	胴部破片	弧状（鱗状？）沈線を施す。郷土系？	加曽利 E 併行
6	J-99 住 D-1 土	深鉢	良好	砂粒混入	胴部破片	横位細沈線施文後、弧状結節浮線文を施す。	諸磯 c
7	J-99 住 2 区 1 層	深鉢	普通	砂粒混入	胴部破片	遺存部においては縄文施文。	諸磯？
8	J-99 住 2 区 1 層	深鉢	普通	砂粒・金雲母混入	口縁部破片	口縁部下位において外屈する。無節 L 縄文施文後、半截竹管状工具による横位平行沈線（半隆起線状を呈する）を施す。	五領ヶ台
9	J-99 住 2 区 1 層	深鉢	普通	砂粒・金雲母混入	胴部破片	無節 L 縄文施文後、半截竹管状工具による横位・縦位平行沈線（半隆起線状を呈する）を施す。	五領ヶ台
10	J-99 住 2 区 1 層	深鉢	普通	砂粒・金雲母混入	胴部破片	無節 L 縄文施文後、半截竹管状工具による縦位平行沈線を施す。	五領ヶ台？
11	J-99 住 3 区 1 層	深鉢	普通	砂粒・褐色礫混入	口縁部破片	緩やかな波状口縁か。沈線で区画し、一部の区画内に撚り糸（?）を施す。口端部付近の剥落部分中に刺突文の一部が認められる。	称名寺
12	J-99 住 1 区 1 層	深鉢	やや不良	砂粒混入	口縁部破片	リング状把手の一部と想定した。外面、隆帯とそれに並行する円形刺突文を施す。内面、円形刺突文を施す。	称名寺？
13	J-99 住 1 区 1 層	深鉢	良好	砂粒・褐色礫混入	胴部破片	胴部上位片と想定される。深めの沈線で区画する。	称名寺Ⅱ
14	J-99 住 3 区 1 層	深鉢	普通	砂粒混入	口縁部破片	口端部付近が顕著に内屈する。口端部外面に 2 条の横位沈線を施す。胴部には円形刺突を伴う貼付文施文。	堀之内
15	J-99 住 2 区 1 層	深鉢	良好	砂粒混入	胴部破片	隆帯・貼付文の一部が剥落している。横位圧痕隆帯を巡らし、一部に刺突･圧痕を伴う貼付文を配す。	堀之内 2
16	J-99 住 4 区 1 層	深鉢	良好	砂粒混入	口縁部破片	口端部やや厚みを有し、その部分に大きめの円形刺突文を巡らす。遺存部最下位に横位沈線が認められる。	後期
17	J-99 住 1 区 1 層	深鉢	普通	砂粒・褐色礫・雲母・角閃石混入	口縁部破片	口縁部無文。遺存部最下位付近に横位隆帯を巡らす。	後期？
18	J-99 住 1 区 1 層	深鉢	良好	砂粒・褐色礫・灰色礫混入	底部破片	遺存部においては無文。底部網代痕。	後期？

A区 J － 100 号住居址

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
1	J-100 住 3 区 NO2・1 区一括・3 区一括	深鉢	普通	砂粒・白色鉱物混入	口縁部～胴部 1/8	隆帯と沈線により口縁部文様帯を半月状に区画する。区画内及び一部の隆帯上には丸棒状工具による斜位沈線を施す。また、区画連結部には渦巻き状沈線を伴う貼付文を配す。頚部は無文。無文帯下部の器形変換点付近に 3 条基調の横位沈線を巡らす。沈線下位には単節 RL 縄文施文。	加曽利 E Ⅰ
2	J-100 住 1 区一括・2 区一括	深鉢	普通	砂粒混入	口縁部～胴部 1/4	隆帯と沈線により口縁部文様帯を長方形に区画する。区画内には丸棒状工具による縦位短沈線を施す。また、、区画連結部には渦巻き状沈線を配す。胴部、単節 RL 縄文施文後、丸棒状工具による 3 条一組の縦位沈線で区画し、区画内には蛇行沈線を垂下させる。口縁部文様帯を 5 単位、胴部を4単位に区画する。	加曽利 E Ⅱ

第 296 表　二軒在家原田Ⅱ遺跡 A 区縄文時代住居址出土遺物観察表（60）

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
3	J-100 住 1 区一括	深鉢	普通	砂粒・褐色礫混入	口縁部～胴部 1/5	隆帯と沈線により口縁部文様帯を区画する。区画は 5 単位か。区画内には単節 RL 縄文を施文し、区画連結部には渦巻き状沈線を伴う貼付文を配す。頚部は無文帯（厳密には一部に縄文あり）とする。胴部、単節 RL 縄文施文後、上位に 3 条の横位平行沈線を施し、頚部と区画する。さらに、丸棒状工具による弧状・U 字状沈線を施す。	加曽利ＥⅠ～Ⅱ
4	J-100 住 4 区 NO3	深鉢	普通	砂粒混入	3/4	橋状把手を 4 ヶ所に有する。橋状把手は孔を 2 ヶ所有する可能性が高い。口縁部文様帯は、把手間をさらに 2 分し、楕円形区画とする。区画内には両端渦巻き状の沈線と縦位沈線を施文。区画連結部下位に棒状工具による刺突文を施す（4 ヶ所のうち 3 ヶ所に施文）。頚部は無文。無文帯下部には 3 条の横位平行沈線を施す。胴部、単節 RL 縄文施文後､3 条一組の縦位沈線により 5 単位に区画する。つまり、口縁部文様帯は 4 単位、胴部文様帯は5 単位の構成である。区画内に蛇行沈線を垂下させる。	加曽利ＥⅠ
5	J-100 住 2 区一括	深鉢	良好	砂粒混入	口縁部破片	隆帯と沈線により口縁部文様帯を区画する。区画内には複節 RLR 縄文を施す。また区画連結部に渦巻き状モチーフを配す。胴部、縦位沈線で区画し、区画内には複節 RLR 縄文施文。	加曽利ＥⅡ
6	J-100 住 1 区一括	深鉢	良好	砂粒・雲母混入	口縁部破片	隆帯と沈線により口縁部文様帯を楕円形に区画する。区画内には矢羽根状沈線を施す。頚部は無文。	加曽利ＥⅠ
7	J-100 住 1 層 NO1・3 区 NO2	深鉢	良好	砂粒混入	口縁部破片	橋状把手を有する。把手正面には渦巻き状・蕨手状沈線を、向かって左側面には棒状工具による刺突を施す。隆帯と沈線により口縁部文様帯を区画する。区画内には棒状又は板状工具による縦位基調沈線を施す。区画連結部には 3 ～ 4 条の縦位隆帯・渦巻き状沈線を配す。頚部は無文。	加曽利ＥⅠ
8	J-100 住 1 区 NO1	深鉢	普通	砂粒混入	口縁部破片	深鉢の橋状把手。把手上面に渦巻き状沈線を施す。橋状部側面の施文は左右で異なり、向かって左に刺突文、右に沈線施文。口縁部文様帯は楕円形を呈し、区画内には縦位沈線施文。頚部は遺存部においては無文。7 と同一個体か。	加曽利Ｅ
9	J-100 住 3 区一括	深鉢	普通	砂粒混入	口縁部破片	隆帯と沈線により口縁部文様帯を不整形に区画する。一部の沈線端部は渦巻き状又は蕨手状を呈する。区画内には単節 RL 縄文を施す。頚部は無文。	加曽利ＥⅠ
10	J-100 住 P-1・2 区一括	浅鉢	普通	砂粒・褐色礫混入	口縁部～体部 1/8	遺存部においては無文。	加曽利ＥⅠ～Ⅱ
11	J-100 住 4 区一括	深鉢	良好	砂粒・褐色礫混入	口縁部破片	口縁部において顕著に内屈する。口縁部は無文。頚部、鋸歯状貼付文で区画し、区画内には沈線と紐状貼付文を斜格子状に施すと考えられる。	加曽利Ｅ併行（曽利系）
12	J-100 住 1 区一括	深鉢	普通	砂粒混入	口縁部破片	深鉢の橋状把手。把手上面に渦巻き状沈線を施す。橋状部上位に孔を穿ち、孔の周囲には弧状沈線を施す。	加曽利Ｅ
13	J-100 住 1 区一括	深鉢	普通	砂粒混入	口縁部破片	深鉢の橋状把手。把手上面に渦巻き状沈線を施す。橋状部上位には孔を穿ち、向かって左の孔の周囲には弧状沈線を施す。右の孔の周囲に沈線は施されない。12 と同一個体と考えられる。	加曽利Ｅ
14	J-100 住 2 区一括	深鉢	普通	砂粒・褐色礫混入	3/5	外反する平口縁と想定される。口縁部は無文で、無文帯下部に横位隆帯を巡らし胴部と区画する。胴部､2 条一組の縦位隆帯により 5 単位に区画する。さらに、縦位隆帯の上位・中位の 2 ヶ所に 2 条の隆帯を連結するように円形隆帯を貼付する。胴部の各区画内には、棒状工具による綾杉状沈線を施し、さらに区画中央には縦位沈線を垂下させる。	曽利Ⅱ～Ⅲ
15	J-100 住 4 区 NO1・3 区一括	深鉢	普通	砂粒・白色鉱物混入	胴部 1/5	胴部上位～下位が遺存する。遺存部上端に斜位短沈線を連続して巡らす。さらに、その部分を楕円形に区画し、区画内部に短沈線より傾きのある斜位貼付文を重ねる。楕円形区画の連結部には耳たぶ状の貼付文を配す。胴部、耳たぶ状貼付文下位に 2 条一組の渦巻き状・縦位直線状隆帯を施し区画する。さらに､区画内に U 字状･逆 U 字状隆帯を施す。隆帯により区画された部分には、棒状工具による斜位沈線を充填する。	曽利Ⅱ～Ⅲ
16	J-100 住 2 区一括	深鉢	良好	砂粒･白色鉱物･角閃石混入	口縁部～底部 4/5	4単位の波状口縁。向かい合う2か所に大きめの橋状把手。残る2か所は小波状口縁。小波状口縁に対応する位置の頸部に小さい橋状把手。口縁に沿い刺突と凹線。頸部無文。胴部 、波頂部に対応する位置に縦位の隆帯と沈線を用いた腕骨文を配し、4単位に区画。区画内に綾杉状沈線。外面口縁部･頸部、横位ナデ。内面口縁部～胴部上半、横位ナデ。内面胴部下半、縦位ナデ。	曽利Ⅱ併行（栃倉式）

第 297 表　二軒在家原田Ⅱ遺跡Ａ区縄文時代住居址出土遺物観察表（61）

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
17	J-100 住 1 区一括	吊手土器	普通	砂粒・石英・角閃石混入	口縁部～胴部 3/4	吊手部・口縁部に隆帯を貼付→吊手部隆帯脇に丸棒状工具による沈線、吊手上部には渦巻文を施文。両側面に上下 2 か所の穿孔。胴部横位のケズリ→ナデ。内面は横位のナデ。	加曽利ＥⅠ併行
18	J-100 住 3 区一括	深鉢	普通	砂粒・白色鉱物・雲母混入	胴部破片	2 条一組の縦位隆帯で区画する。区画内には綾杉状沈線を施す。	加曽利Ｅ併行
19	J-100 住 3 区一括	深鉢	良好	砂粒混入	口縁部破片	口端部直下にやや外反する無文帯を巡らす。単節 RL 縄文施文後、頚部付近に 3 条一組の横位沈線施文。さらに胴部には縦位沈線を施す。内面は丁寧な磨き。	加曽利Ｅ
20	J-100 住 1 区一括・4 区一括	深鉢	普通	砂粒混入	口縁部破片	口端部内面が稜状を呈する。横位・縦位隆帯と、それに並行する沈線で区画する。	加曽利Ｅ併行
21	J-100 住 4 区一括	深鉢	普通	砂粒混入	胴部破片	1 条の横位隆帯と、2 条一組の縦位隆帯で区画する。20 と同一個体と考えられる。	加曽利Ｅ併行
22	J-100 住 3 区 NO1・4 区一括	深鉢	普通	砂粒混入	口縁部～胴部 1/10	口縁部無文。頚部に斜位短沈線を伴う横位隆帯を巡らす。胴部弧状沈線施文。	加曽利Ｅ併行
23	J-100 住 3 区一括	深鉢	普通	砂粒・褐色礫混入	胴部破片	深鉢の頚部から胴部上位片と想定される。頚部、沈線と紐状貼付文を斜格子状に施す。胴部、横位・縦位隆帯で区画し、区画内には単節 RL 縄文施文。	加曽利Ｅ併行
24	J-100 住 1 区一括	深鉢	普通	砂粒・金雲母混入	胴部破片	2 条一組の縦位隆帯により区画する。隆帯の一部を渦巻き状隆帯により連結する。区画内には単節 RL 縄文を施す。また一部の隆帯上にも単節 RL 縄文施文。	加曽利Ｅ
25	J-100 住 1 区一括	深鉢	普通	砂粒・褐色礫混入	胴部破片	胴部上位から中位片と考えられる。2 条一組の横位・縦位隆帯により区画する。区画内には単節 RL 縄文を施す。	加曽利Ｅ
26	J-100 住 3 区 NO2・1 区一括・3 区一括	深鉢	普通	砂粒・白色鉱物混入	胴部 2/3	遺存部上半に単節縄文を施文後、全体に縦位条線を施す。	加曽利Ｅ併行
27	J-100 住 1 区一括	小型深鉢	普通	砂粒・褐色礫混入	胴部～底部 1/2	遺存部においては縄文施文。	加曽利Ｅ
28	J-100 住 1 区 No2	深鉢	普通	砂粒・角閃石混入	胴部～底部 1/3	縄文施文後、棒状工具による 3・4 条単位の細い縦位沈線を等間隔に配し、胴部を区画する。	加曽利Ｅ
29	J-100 住 3 区 NO1	鉢	良好	砂粒混入	口縁部～体部 1/8	体部上位に於いて内屈する。遺存部においては無文。	加曽利Ｅ
30	J-100 住 3 区一括	深鉢	普通	砂粒・金雲母混入	胴部破片	胴部上位片と想定される。頚部との境界付近に半截竹管状工具による横位平行沈線（一部は半隆起線状を呈する）を巡らす。胴部、同工具による斜格子目状平行沈線施文後、波状・弧状等平行沈線を施す。	五領ヶ台
31	J-100 住 3 区一括	深鉢	普通	砂粒・金雲母混入	胴部破片	深鉢の胴部上位片と想定される。2 個一対の弧状隆帯を施す。弧状隆帯間には縦位沈線を伴う貼付文施文。隆帯横・下位には半截竹管状工具又は竹管状工具による刺突文を横位列点状に巡らす。さらに周辺に刺突文・沈線文を施すが、全体的に不明瞭である。	五領ヶ台
32	J-100 住 1 区一括	鉢？	良好	砂粒混入	口縁部破片	口縁部に並行して半截竹管状工具による横位平行沈線を巡らす。上位の沈線間に上下交互刺突を施す。胴部、撚り糸施文後、一部に半截竹管状工具による平行沈線を山型に施文。	五領ヶ台？
33	J-100 住 4 区 NO2	鍔付土器	普通	砂粒・白色鉱物・黒色鉱物混入	口縁部～胴部 1/10	胴部下位において顕著に内屈する。口縁部下位と器形内屈点に横位隆帯を巡らす。鍔状の口縁部下位隆帯には隆帯を貫通する孔を施す。2条の横位隆帯間を2条の縦位隆帯・縦位沈線で区画し、区画内には棒状工具による渦巻き状沈線を施す。内外面共に赤色塗彩。内面の赤色塗彩の遺存は良好である。	中期後葉

A区Ｊ－ 103 号住居址

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
1	J-103 住	深鉢	普通	砂粒・黒色鉱物混入	胴部破片	縄文施文後、横位・弧状に浮線文を巡らす。さらに並行して、棒状工具による細かい刺突文を施す。	諸磯ｂ
2	J-103 住埋設土器	深鉢	普通	砂粒・白色鉱物混入	底部破片	遺存部においては縄文施文。	諸磯

第 298 表　二軒在家原田Ⅱ遺跡Ａ区縄文時代住居址出土遺物観察表（62）

A区J－104号住居址

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
1	J-104 住一括	深鉢	普通	砂粒・植物繊維混入	口縁部破片	半截竹管状工具押し引きによる爪形文を施す。	有尾・黒浜
2	J-104 住一括	深鉢	普通	砂粒・褐色礫・チャート・植物繊維混入	口縁部破片	口端部下位に櫛歯状工具による簾状文状を呈する沈線・刺突を巡らす。胴部、同工具による波状沈線を施す。	前期中葉
3	J-104 住一括	深鉢	普通	砂粒・白色鉱物・植物繊維混入	胴部破片	単節 LR 縄文施文後、一部に半截竹管状工具押し引きによる横位爪形文を施す。	有尾・黒浜
4	J-104 住一括	深鉢	普通	砂粒・褐色礫・白色鉱物混入	胴部破片	頚部から胴部中位片。頚部付近に丸棒状工具による2条の横位平行沈線を巡らす。胴部、同工具による蛇行沈線を垂下させ、一部に同心楕円形状沈線を配す。	堀之内1

A区J－105号住居址

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
1	J-105 住炉	深鉢	普通	砂粒・褐色礫混入	口縁部～胴部 2/5	内反する平口縁。単節 RL 縄文施文後、丸棒状工具による浅い波状・逆U字状沈線により区画する。一部の区画内磨り消し。さらに、一部に蕨手状（または逆S字状）沈線を施す。炉体土器として使用されたため被熱しており、口縁部は脆弱である。	加曽利EⅢ
2	J-105 住一括	深鉢	普通	砂粒・白色鉱物混入	胴部破片	無節L縄文施文後、丸棒状工具による直線状・弧状沈線を施す。	加曽利E
3	J-105 住一括	深鉢	普通	砂粒・黒色鉱物混入	胴部破片	丸棒状工具による横位・斜位沈線を部分的に施文後、縦位沈線を全体に施す。	加曽利E
4	J-105 住一括	深鉢	普通	砂粒・褐色礫混入	胴部破片	縦位直線状・蛇行、横位直線状等条線施文後、丸棒状工具による蛇行沈線を垂下させる。遺存部最下位、欠損後の研磨により疑似口縁状を呈する。	加曽利E
5	J-105 住一括	深鉢	普通	砂粒・褐色礫混入	胴部破片	丸棒状工具による縦位沈線で区画する。条線施文後、蛇行・逆U字状（蕨手？）沈線を施す区画と、無文の区画を交互に配す。	加曽利E
6	J-105 住一括	深鉢	普通	砂粒・褐色礫・白色鉱物混入	底部破片	遺存部においては無文。	加曽利E？
7	J-105 住4区1層	深鉢	良好	砂粒混入	口縁部破片	口縁部に2条の圧痕隆帯を巡らす。隆帯間には格子目状沈線を施す。胴部には部分的に沈線が認められるが、モチーフは不明。	堀之内？
8	J-105 住一括	鉢	普通	砂粒・白色鉱物混入	体部破片	鉢の体部中位片。2条一組の横位・斜位沈線で区画し、沈線間に単節 LR 縄文を充填する。外面の一部に赤色塗彩が認められる。内面は剥落が顕著。	堀之内2

A区J－106号住居址

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
1	J-106 住一括	深鉢	良好	砂粒・雲母混入	胴部破片	2条一組の縦位沈線で区画し、区画内に単節 RL 縄文施文。	加曽利E
2	J-106 住一括	深鉢	普通	砂粒混入	胴部破片	無節L縄文施文後、丸棒状工具による蛇行沈線を垂下させる。	加曽利E
3	J-106 住一括	深鉢	普通	砂粒・白色鉱物・金雲母混入	胴部破片	半截竹管状工具による横位・縦位平行沈線（半隆起線状を呈する）で区画する。一部の区画内に単節 RL 縄文を充填する。	五領ヶ台

A区J－107号住居址

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
1	J-107 住 D-1・一括	深鉢	普通	砂粒混入	胴部 1/5	ストライプ型深鉢。縦位隆帯により8単位に区画する。単節 LR 縄文縦転がしの区画と、無文の区画を交互に配す。	加曽利EⅣ
2	J-107 住一括	深鉢	普通	砂粒・褐色礫・雲母混入	胴部破片	丸棒状工具によるU字状・縦位（逆U字状？）沈線で区画する。区画内には単節 LR 縄文施文。	加曽利E

A区J－108号住居址

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
1	J-108a 住一括	深鉢	普通	砂粒・白色鉱物・黒色鉱物混入	口縁部破片	隆帯と沈線で口縁部文様帯を区画する。区画内には単節 RL 縄文施文。頚部は無文。	加曽利EⅠ
2	J-108a 住一括	深鉢	普通	砂粒・白色鉱物・赤褐色礫混入	口縁部破片	口端部やや厚みを有する。口端部下位には沈線状窪みを巡らす。隆帯と沈線により口縁部文様帯を楕円形に区画する。区画内には棒状工具による刺突文を施す。	加曽利E

第299表　二軒在家原田Ⅱ遺跡A区縄文時代住居址出土遺物観察表（63）

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
3	J-108a 住一括	深鉢	普通	砂粒・褐色礫混入	口縁部破片	口縁部に無文帯を巡らす。隆帯と沈線で口縁部文様帯を区画する。区画内には単節 LR 縄文施文。胴部にも単節 LR 縄文を施す。	加曽利 E
4	J-108a 住一括	深鉢	普通	砂粒・褐色礫・雲母混入	胴部破片	口縁部文様帯から胴部が遺存。隆帯で口縁部文様帯を区画する。区画内には縄文施文か。胴部、単節 RL 縄文施文。丸棒状工具による沈線で区画する。	加曽利 E
5	J-108a 住一括	深鉢	良好	砂粒・白色鉱物混入	胴部破片	単節 RL 縄文施文後、2 条一組の縦位沈線により区画する。	加曽利 E
6	J-108a 住一括	深鉢	良好	砂粒混入	胴部破片	胴部下位片と想定される。2 条一組の縦位隆帯で区画する。区画内には蛇行隆帯・縦位沈線を施す。	加曽利 E
7	J-108a 住一括	深鉢	良好	砂粒・褐色礫混入	底部破片	遺存部においては無文。底部網代痕。	加曽利 E ？
8	J-108b 住一括	深鉢	普通	砂粒・褐色礫・植物繊維混入	口縁部破片	ほぼ直立する平口縁と想定される。付加条縄文横転がし。	有尾・黒浜
9	J-108b 住一括	深鉢	良好	砂粒・黒色鉱物・植物繊維混入	胴部破片	0 段多条 R 縄文施文。	有尾・黒浜

A区 J － 109 号住居址

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
1	J-109a 住集中 NO1	深鉢	良好	砂粒・石英混入	口縁部破片	半截竹管状工具押し引きによる横位爪形文を施す。爪形文間には斜位短沈線を連続して施文。	諸磯 b
2	J-109a 住 1 区 1 層	小型深鉢	普通	砂粒・褐色礫・石英混入	胴部破片	上部において顕著に内屈する小型深鉢と想定される。櫛歯状工具による弧状・渦巻き状平行沈線を施す。波頂部下位と考えられる場所に円形貼付文を配す。	諸磯 b
3	J-109a 住 1 区 1 層	深鉢	良好	砂粒・褐色礫混入	口縁部破片	胴部上位において顕著に内屈する 4 単位波状口縁と想定される。口縁部に並行して浮線文を巡らす。波頂部下位付近には弧状・渦巻き状浮線文を施す。	諸磯 b
4	J-109a 住集中 NO3	深鉢	普通	砂粒・白色鉱物混入	胴部破片	単節 RL 縄文施文後、3 条一組の横位浮線文を施す。浮線文間には列点状刺突文施文。	諸磯 b
5	J-109a 住 1 区 1 層	深鉢	良好	砂粒・白色鉱物混入	胴部破片	横位浮線文を施す。	諸磯 b
6	J-109a 住 1 区 1 層	深鉢	普通	砂粒混入	胴部破片	単節 RL 縄文施文後、横位浮線文を施す。浮線文間には列点状刺突文施文。	諸磯 b
7	J-109b 住集中 NO2	深鉢	良好	砂粒・褐色礫混入	口縁部～胴部 1/3	口縁部に幅の狭い無文帯を有す。隆帯と沈線により口縁部文様帯を区画する。文様帯は渦巻き状隆帯により 9 区画している。区画内には縦位沈線施文。胴部、口縁部文様帯渦巻き状隆帯下位に、2 条一組の縦位沈線を垂下させる。	加曽利 E Ⅱ
8	J-109b 住 D-1・3 区 1 層	深鉢	普通	砂粒混入	口縁部～胴部 1/3	口端部内面折り返し口縁状を呈する。隆帯と沈線により、渦巻き状＋楕円形に口縁部文様帯を区画する。区画は 4 単位。楕円区画内には丸棒状工具による縦位～斜位沈線を施す。胴部、渦巻き状モチーフ下位に蛇行沈線を垂下させ区画する。区画中央に 4 条一組の縦位沈線を施し二分する。各区画内には綾杉状沈線を施す。	加曽利 E Ⅱ
9	J-109b 住炉	深鉢	普通	砂粒・白色鉱物・褐色礫混入	胴部 1/3	隆帯と沈線により口縁部文様帯を 4 単位に区画する。区画内には縦位～斜位弧状沈線を施す。区画連結部には渦巻き状モチーフを配す。胴部、各区画連結部及び区画中心付近より、2 条一組の縦位沈線を垂下させ区画する。区画内には綾杉状又は鱗状沈線施文。	加曽利 E Ⅱ
10	J-109b 住炉	深鉢	普通	砂粒・褐色礫混入	口縁部～胴部 1/10	口縁部に横位沈線を巡らす。沈線上位は幅の狭い無文帯。胴部、単節 LR 縄文施文後、2 条一組を基本とする縦位沈線を施す。	加曽利 E
11	J-109b 住 2 区 1 層	深鉢	普通	砂粒混入	口縁部破片	4 単位小波状口縁と想定される。隆帯と沈線で口縁部文様帯を区画する。一部の区画内には斜位沈線を施す。胴部、丸棒状工具による縦位沈線で区画し、区画内に綾杉状沈線を施文し、さらに蛇行沈線を垂下させる。	加曽利 E Ⅱ～Ⅲ
12	J-109b 住集中 NO1・1 区 1 層・3 区 1 層	鉢	普通	砂粒・白色鉱物混入	胴部～底部 1/3	器形は遺存部上端から外反すると想定される。丸棒状工具による深めの沈線により、弧状・釘状・不整形に区画する。一部の区画内に単節 RL 縄文施文。	称名寺
13	J-109b 住 4 区 1 層	深鉢	普通	砂粒混入	胴部破片	棒状工具による沈線にて菱形あるいは三角形状の区画を重ねる。一部区画内に縄文施文。遺存部中位、縦位隆帯を配し、刻み目を施す。	堀之内 2
14	J-109b 住 2 区 1 層	深鉢	良好	砂粒混入	口縁部破片	棒状工具又は竹管状工具による円孔文を施す。外面の一部に沈線状の浅い窪みを有する。精製の感が強い。	加曽利 B1

第 300 表　二軒在家原田Ⅱ遺跡 A 区縄文時代住居址出土遺物観察表（64）

A区J－111号住居址

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
1	J-111住一括	深鉢	普通	砂粒・白色鉱物混入	口縁部破片	やや内湾する平口縁と想定される。隆帯と沈線により口縁部文様帯を半月形に区画する。区画内には斜位沈線を施す。	加曽利E
2	J-111住一括	深鉢	普通	砂粒・褐色礫混入	口縁部破片	隆帯と沈線により口縁部文様帯を区画する。一部の区画内には縦位短沈線を施す。	加曽利E
3	J-111住一括	深鉢	普通	砂粒混入	口縁部破片	やや内湾する平口縁と想定される。隆帯と沈線により口縁部文様帯を区画する。区画内には単節RL縄文を施す。	加曽利E
4	J-111住一括	深鉢	普通	砂粒・褐色礫・灰色礫・雲母混入	口縁部破片	やや内湾する平口縁と想定される。隆帯と沈線により口縁部文様帯を区画する。区画内には単節RL縄文を施す。胴部にも同縄文施文。	加曽利E
5	J-111住一括	深鉢	普通	砂粒・褐色礫・白色鉱物混入	胴部破片	撚り糸施文。	加曽利E
6	J-111住一括	深鉢	普通	砂粒・褐色礫混入	胴部破片	撚り糸施文後、縦位隆帯により区画。一部の区画内及び隆帯上に、櫛歯状工具による条線を施す。	加曽利E
7	J-111住一括	鉢？	良好	砂粒・褐色礫混入	体部破片	小型の鉢か。口縁部下位から体部中位にかけて、隆帯と沈線により区画する。体部中位以下には縦位条線施文。	加曽利E
8	J-111住一括	深鉢	普通	砂粒・褐色礫・灰色礫混入	胴部破片	頚部から胴部上位が遺存する。頚部、遺存部においては無文。胴部との境界には横U字状沈線と、列点状刺突文を施す。胴部、丸棒状工具による弧状・渦巻き状等沈線で区画する。一部の区画内には刺突文を施す。	加曽利E併行
9	J-111住一括	深鉢	普通	砂粒・褐色礫混入	胴部破片	頚部、大部分は無文であるが、一部にU字状沈線を配す。胴部との境界には横U字状・蕨手状沈線と、列点状刺突文を施す。胴部、丸棒状工具による弧状・渦巻き状等沈線で区画する。8と同一個体。	加曽利E併行

A区J－112号住居址

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
1	J-112住D-1・一括	深鉢	普通	砂粒・褐色礫混入	口縁部～胴部1/4	隆帯と沈線により口縁部文様帯を半月状に区画する。区画は4又は5単位と想定。区画内には単節RL縄文を施文し、区画連結部には渦巻き状沈線を伴う貼付文を配す。胴部、単節RL縄文施文後、丸棒状工具による弧状・U字状等の沈線を施す。	加曽利EⅠ～Ⅱ
2	J-112住一括	深鉢	普通	砂粒・白色鉱物・角閃石混入	口縁部破片	口縁部下位に無文帯を有する。隆帯と沈線により口縁部文様帯を区画する。区画には縦位沈線を施す。胴部、撚り糸施文後、一部に櫛歯状工具による条線施文。	加曽利EⅠ～Ⅱ
3	J-112住一括	深鉢	普通	砂粒・褐色礫・雲母混入	胴部～底部2/3	2条一組の縦位隆帯により4単位に区画する。縦位隆帯の一部は梯子状に連結する。区画内には単節RL縄文施文。遺存部最上位に横位弧状沈線と弧状隆帯が認められる。隆帯は遺存部が少なく全体のﾓﾁｰﾌは不明。	加曽利EⅡ
4	J-112住D-1土	深鉢	良好	砂粒・褐色礫混入	口縁部～胴部破片	ほぼ直立する波状口縁。単節RL縄文施文後、波頂部を除き、口縁部に並行して列点状刺突文を施す。その下位には2条の沈線を巡らす。胴部には蛇行沈線を垂下させる。	加曽利E
5	J-112住炉	深鉢	普通	砂粒混入	口縁部～胴部破片	隆帯と沈線により口縁部文様帯を半月状に区画する。区画内には単節RL縄文施文。胴部、同縄文施文後、3条一組の縦位沈線で区画する。	加曽利E
6	J-112住炉	深鉢	良好	砂粒混入	胴部破片	単節RL縄文施文後、丸棒状工具による縦位沈線で区画する。区画内に同工具による横U字状・蕨手状・波状沈線を施す。	加曽利EⅡ
7	J-112住炉	深鉢	普通	砂粒混入	胴部破片	丸棒状工具による縦位沈線で区画し、区画内に横位～斜位沈線を施す。一部は綾杉状か。	加曽利E
8	J-112住一括	深鉢	普通	砂粒・褐色礫混入	口縁部～胴部1/10	単位数は不明であるが小波状口縁。単節LR縄文施文後、口縁部に並行して3条の鋸歯状（部分的には波状）沈線を巡らす。胴部、縦位・斜位直線状、弧状沈線を施す。全体的に施文が雑であり、ﾓﾁｰﾌも不明瞭である。	加曽利E併行
9	J-112住炉	深鉢	普通	砂粒・褐色礫混入	胴部破片	頚部から胴部上位片か。頚部、斜位沈線と隆帯による斜格子目文施文。胴部には単節RL縄文施文。曽利系。	加曽利E併行
10	J-112住D-1土	深鉢	普通	砂粒・金雲母混入	ほぼ完形	口縁部に幅の狭い無文帯を巡らす。無文帯下位には横位沈線を施す。胴部、蛇行沈線を垂下させ4単位に区画する。蛇行沈線は実測図中心部のみ2条、他は1条である。区画内には丸棒状工具による斜位沈線を施す。	中期後葉
11	J-112住D-1土	ﾐﾆﾁｭｱ土器	普通	砂粒混入	胴部～底部2/3	沈線により口縁部文様帯を半円形に区画し、内側に縦位短沈線を施す。胴部は縦位沈線にて区画し、一部横位沈線を配す。	加曽利E

第301表　二軒在家原田Ⅱ遺跡A区縄文時代住居址出土遺物観察表（65）

A区J－113号住居址

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
1	J-113 住一括	深鉢	良好	砂粒混入	口縁部破片	隆帯と沈線により口縁部文様帯を楕円形に区画する。区画内には縦位沈線を施す。胴部、単節 RL 縄文施文。	加曽利ＥⅠ～Ⅱ
2	J-113 住一括	深鉢	普通	砂粒・褐色礫混入	口縁部～胴部破片	隆帯と沈線により口縁部文様帯を区画する。区画内には縦位沈線を施す。頚部は無文。胴部との境界には横位隆帯を巡らす。	加曽利ＥⅠ
3	J-113 住一括	深鉢	普通	砂粒・灰色礫混入	口縁部破片	隆帯と沈線により口縁部文様帯を長楕円形に区画する。区画内には縦位沈線を施す。頚部以下には縦位条線施文。	加曽利ＥⅠ～Ⅱ
4	J-113 住一括	深鉢	普通	砂粒・白色鉱物混入	口縁部破片	隆帯と沈線により口縁部文様帯を区画する。区画には楕円形・円形が認められ、楕円形区画内には縦位沈線を施す。頚部は遺存部においては無文。	加曽利ＥⅠ～Ⅱ
5	J-113 住 D-2 土	鉢	普通	砂粒混入	口縁部～体部破片	口縁部に並行して横位沈線を巡らす。体部、竹管状工具による円孔文、同工具又は丸棒状工具による渦巻き状・弧状沈線を施す。	加曽利Ｅ併行
6	J-113 住一括	深鉢	普通	砂粒混入	胴部破片	撚り糸施文後、U 字状隆帯を施す。	加曽利ＥⅠ～Ⅱ
7	J-113 住一括	浅鉢	普通	砂粒・灰色礫混入	体部破片	浅鉢の体部上位から中位片。体部上位に隆帯と沈線による文様帯を配す。楕円形と推定される区画には矢羽根状沈線を施す。中位以下、遺存部においては無文。	加曽利ＥⅠ～Ⅱ
8	J-113 住一括	器台	普通	砂粒・灰色礫混入	脚部破片	器台の破片と想定した。孔を施す。外面の孔周囲に高まりが認められる。	加曽利Ｅ

A区J－114号住居址

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
1	J-114 住一括	深鉢	普通	砂粒・白色鉱物混入	胴部破片	半截竹管状工具押し引きによる横位直線状・渦巻き状・弧状等爪形文を施す。爪形文間には短沈線を連続して施文。	諸磯ｂ
2	J-114 住一括	深鉢	普通	砂粒混入	胴部破片	半截竹管状工具押し引きによる横位爪形文を施す。爪形文間には斜位短沈線を連続して施文。	諸磯ｂ
3	J-114 住一括	深鉢	普通	砂粒混入	胴部破片	単節 RL 縄文施文後、横位浮線文を施す。	諸磯ｂ

第302表　二軒在家原田Ⅱ遺跡A区縄文時代住居址出土遺物観察表（66）

A区土坑

A区D－1号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
1	D-1 土	深鉢	普通	砂粒・白色鉱物混入	口縁部破片	単節縄文施文後、口縁部に並行して3条の横位浮線文を施し、遺存部下部には斜位または弧状の浮線文を施文する。	諸磯ｂ

A区D－2号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
1	D-2 土	深鉢	普通	砂粒・褐色礫・白色鉱物混入	口縁部破片	口縁直下に半截竹管状工具押し引きによる4条単位の横位爪形文を施す。また、爪形文間に小穴を穿つ。遺存部下位においては、単節縄文を施した後、同工具による弧状または渦巻き状の爪形文を描く。爪形文間は刻み目を施し、浮線文状を呈す。	諸磯ｂ
2	D-2 土	深鉢	普通	砂粒・白色鉱物混入	口縁部破片	口縁部直下、櫛歯状工具による4条単位の横位平行沈線で区画。区画間に同工具による横位波状文を描く。	諸磯ｂ
3	D-2 土	鉢	普通	砂粒・白色鉱物・褐色礫混入	口縁部～底部 2/3	底の広い、安定感のある器形。体部上位に4単位とみられる円形貼付文、および横位の橋状把手。その他は無文。内・外面とも丁寧なミガキ。	時期不明

A区D－3号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
1	D-3 土	深鉢	良好	砂粒・白色鉱物混入	口縁部破片	口縁端部は粘土紐を貼り付け肥厚させる。口縁部直下、櫛歯状工具による4条単位の横位平行沈線で区画。区画間に同工具による横位波状文を描く。	諸磯ｂ
2	D-3 土	深鉢	良好	砂粒・雲母混入	胴部破片	単節縄文施文。	前期後葉

第303表　二軒在家原田Ⅱ遺跡A区縄文時代土坑出土遺物観察表（1）

A区D－4号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
1	D-4 土	深鉢	普通	砂粒混入	胴部破片	半截竹管状工具押し引きによる横位爪形文を施す。爪形文間には斜位短沈線を連続して施し、浮線文状を呈する。	諸磯ｂ

A区D－5号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
1	D-5 土	深鉢	普通	砂粒・白色鉱物混入	口縁部～胴部1/6	隆帯により口縁部文様帯を楕円形に区画する。区画内には棒状工具による斜位沈線を施す。頚部は無文。胴部、横位隆帯により区画し、区画内に棒状工具による斜位沈線を施す。	加曽利ＥⅠ？

A区D－6号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
1	D-6 土	深鉢	普通	砂粒・白色鉱物混入	口縁部～胴部1/10	端部渦巻き状の隆帯により口縁部文様帯を区画する。区画内には丸棒状工具による刺突文を施す。胴部、同工具による弧状沈線を施す。	加曽利ＥⅡ併行（郷土系？）
2	D-6 土	深鉢	普通	砂粒・白色鉱物混入	胴部破片	丸棒状工具による弧状沈線を全体に施す。1と同一個体と思われる。	加曽利ＥⅡ併行（郷土系？）

A区D－7号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
1	D-7 土	深鉢	普通	砂粒・褐色礫混入	胴部～底部1/6	単節 RL 縄文横転がし。	加曽利Ｅ併行？

A区D－8号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
1	D-8 土	深鉢	普通	砂粒・褐色礫・白色鉱物混入	胴部破片	半截竹管状工具による細い縦位および斜位平行沈線を組み合わせて施す。	諸磯c

A区D－9号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
1	D-9 土	深鉢	普通	砂粒混入	頸部破片	口縁端部を欠損する。遺存部においては無文。	後期？

A区D－10号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
1	D-10 土	深鉢	良好	砂粒・黒色鉱物混入	胴部破片	半截竹管状工具押し引きによる爪形文で区画する。一部区画内に同工具による円形刺突文を配す。	諸磯ｂ
2	D-10 土	深鉢	普通	砂粒混入	口縁部破片	単節縄文施文後、口縁部に並行して3条の横位浮線文を施す。胴部は斜位直線状・弧状浮線文を施文。口端部上面にはX字状を連結したﾓﾁｰﾌを基本とする貼付文を施す。	諸磯ｂ

A区D－11号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
1	D-11 土	深鉢	普通	砂粒混入	胴部破片	半截竹管状工具による縦位および斜位平行沈線で区画した後、遺存部上位に棒状貼付文を施す。	諸磯c

A区D－12号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
1	D-12 土	深鉢	普通	砂粒混入	胴部破片	単節縄文を施した後、横位浮線文を配す。	諸磯ｂ

A区D－13号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
1	D-13 土	深鉢	普通	砂粒混入	胴部破片	棒状工具による縦位平行沈線で区画する。区画内は縄文を充填し、無文部分と交互に配置する。	称名寺

第304表　二軒在家原田Ⅱ遺跡A区縄文時代土坑出土遺物観察表（2）

A区D－14号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
1	D-14 土	深鉢	普通	砂粒・白色鉱物混入	口縁部破片	棒状工具による平行沈線で弧状あるいは渦巻き状に区画。区画内に縄文充填。外面無文部分および内面は丁寧に研磨する。	称名寺

A区D－15号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
1	D-15 土	深鉢	普通	砂粒・褐色礫混入	口縁部破片	口縁部直下に棒状工具による横位沈線を巡らす。以下、同工具により弧状あるいは渦巻き状に区画後、区画内に縄文を充填する。	称名寺
2	D-15 土	深鉢	普通	砂粒・白色鉱物混入	口縁部破片	口縁端部に付された環状突起。棒状工具による沈線で渦巻き状に区画し、内部に縄文を充填する。内面、孔の下部を肥厚させ、沈線を施す。	称名寺
3	D-15 土	深鉢	良好	砂粒・白色鉱物混入	胴部破片	棒状工具による沈線で弧状に区画後、内部に縄文を充填する。	称名寺

A区D－16号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
1	D-16 土	深鉢	普通	砂粒混入	口縁部破片	やや外反する平口縁か。櫛歯状工具による横位直線状・波状沈線を組み合わせて施文。無文部分に竹管文を施す。	諸磯ａ～ｂ
2	D-16 土	深鉢	普通	砂粒・白色鉱物混入	口縁部破片	口端部に1条の鋸歯状貼付文を施し、口縁直下に3条の平行浮線文を巡らす。その下位には弧状・渦巻き状の浮線文を施す。	諸磯ｂ
3	D-16 土	深鉢	普通	砂粒混入	口縁部破片	口縁端部に扁平な粘土紐を巡らせ、肥厚させる。直下は隆帯により楕円形に区画。内部は棒状工具による縦位沈線を施す。	加曽利Ｅ
4	D-16 土	鉢	普通	砂粒混入	口縁部破片	口縁端部は強くなでられ、内面に稜を有する。遺存部においては無文。	後期？

A区D－18号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
1	D-18 土	鉢	普通	砂粒混入	口縁部破片	内外面共に良く研磨され、無文。口縁直下に棒状工具による2条の平行沈線施文。	後期

A区D－21号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
1	D-21 土	深鉢	普通	砂粒・雲母混入	口縁部破片	単節縄文施文後、棒状工具による浅く幅広の沈線で、弧状あるいは懸垂文を描く。	加曽利ＥⅣ？

A区D－22号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
1	D-22 土	浅鉢	良好	砂粒混入	胴部破片	屈曲部以外の遺存部に横位浮線文。器壁は非常に厚い。	諸磯ｂ

A区D－23号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
1	D-23 土	鉢	普通	砂粒・褐色礫混入	口縁部破片	小型品？口縁直下に横位浮線文3条。さらに弧状浮線文を施す。	諸磯ｂ

A区D－24号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
1	D-24 土	深鉢	普通	砂粒混入	胴部破片	遺存部においては縄文を施文した後、横位浮線文を2条めぐらす。磨滅が激しく詳細不明。	諸磯ｂ
2	D-24 土	深鉢	普通	砂粒・褐色礫・白色鉱物混入	口縁部破片	口縁端部は指頭圧痕を施し、刻み目状を呈す。遺存部においては縄文施文。	前期後葉

A区D－25号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
1	D-25 土	深鉢	普通	砂粒・白色鉱物混入	口縁部破片	口縁部は隆帯と棒状工具による沈線で楕円形に区画。区画内は縦位沈線を施す。	加曽利Ｅ

第305表　二軒在家原田Ⅱ遺跡A区縄文時代土坑出土遺物観察表（3）

A区D－26号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
1	D-26 土	深鉢	普通	砂粒・植物繊維混入	胴部破片	頸部以下、単節縄文を羽状に配す。	前期中葉

A区D－27号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
1	D-27 土	鉢	普通	砂粒・褐色礫・白色鉱物混入	口縁部破片	遺存部においては無文。下端で大きく胴が張り出す。	中期後葉？

A区D－28号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
1	D-28 土	深鉢	普通	砂粒混入	口縁部破片	遺存部下位に孔を有し、4単位波状口縁の波頂部下に施された可能性がある。半載竹管状工具押し引きによる爪形文で区画。爪形文間は斜位短沈線を連続して施し、浮線文状を呈する。	諸磯b
2	D-28 土	深鉢	普通	砂粒・白色鉱物混入	胴部破片	単節縄文を施した後、遺存部下位に3条の横位浮線文を配す。	諸磯b

A区D－29号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
1	D-29 土	深鉢	普通	砂粒・白色鉱物混入	胴部破片	遺存部においては棒状工具による沈線でU字状に区画。同工具による刺突列点文を内部に施す。	称名寺

A区D－30号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
1	D-30 土	鉢	普通	砂粒混入	胴部破片	渦巻き状の結節浮線文を施す。	諸磯c

A区D－31号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
1	D-31 土	深鉢	普通	砂粒混入	胴部破片	遺存部においては棒状工具による沈線で直線状に区画。同工具による刺突列点文を内部に施す。	称名寺
2	D-31 土	鉢	普通	砂粒混入	胴部破片	遺存部上半は無文。圧痕・8字状貼付文を伴う縦位隆帯を中央に配し、2条の横位平行沈線で無文部と区画する。沈線直下、貼付文の外側に弧状沈線を重ねる。	堀之内1

A区D－32号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
1	D-32 土	深鉢	普通	砂粒・白色鉱物混入	口縁部破片	口縁直下および遺存部下位に半裁竹管状工具押し引きによる3条の横位爪形文を配す。内側は、同工具による渦巻き状・波状の爪形文で区画する。	諸磯b

A区D－33号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
1	D-33 土	深鉢	普通	砂粒混入	胴部破片	半載竹管状工具にて木葉文を描く。	諸磯a～b
2	D-33 土	鉢	普通	砂粒・褐色礫・白色鉱物混入	口縁部破片	口縁端部は棒状工具による押圧を連続して施し、断面波状を呈す。口縁直下に半載竹管状工具による2条の横位爪形文。爪形文間は斜位短沈線を連続して施し、浮線文状を呈する。下部は同工具による格子目文を配し、交点に円形刺突を行う。	諸磯b
3	D-33 土	鉢	良好	砂粒・白色鉱物混入	口縁部破片	遺存部全体に単節縄文施文後、口縁直下および中位に横位浮線文2条を配す。内側は渦巻き状・入り組み状の浮線文で区画する。口唇部に波状の貼り付け文を施す。	諸磯b
4	D-33 土	深鉢	普通	砂粒・黒色鉱物混入	口縁部破片	波状口縁の端部は短く外反する。口縁に沿って細い2状の隆帯を配す。遺存部下位にも隆帯を配し一部、短い粘土紐により連結する。隆帯間の区画は縄文を疎らに施す。	諸磯b併行

第306表　二軒在家原田Ⅱ遺跡A区縄文時代土坑出土遺物観察表（4）

A区D－34号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
1	D-34 土	深鉢	普通	砂粒・黒色鉱物混入	口縁部破片	4単位波状口縁か。外面口縁際まで単節縄文を施した後、口唇部を挟み込むように耳状貼付文を付す。貼付文頂部に刻み目。	諸磯c
2	D-34 土	深鉢	普通	砂粒混入	口縁部破片	単節縄文施文後、櫛歯状工具による横位沈線を施す。	諸磯c

A区D－35号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
1	D-35 土	深鉢	普通	砂粒・片岩・雲母混入	胴部破片	遺存部においては無文。棒状工具にて等間隔に横位沈線を3条配す。	堀之内2
2	D-35 土	浅鉢	普通	砂粒・片岩・雲母混入	口縁部破片	体部上位、沈線を横位に施し区画。一部の区画内に単節縄文施文する。口縁端部に刻み目。内外面共に無文部は良く研磨する。	堀之内2～加曽利B
3	D-35 土	注口土器	普通	砂粒・雲母混入	注口部破片	遺存部においては無文。	後期前葉

A区D－36号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
1	D-36 土	深鉢	普通	砂粒・褐色礫・角閃石混入	口縁部破片	遺存部においては無文。全体的に厚手で、良く研磨する。	加曽利E

A区D－37号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
1	D-37 土	深鉢	普通	砂粒混入	胴部破片	遺存部においては縄文施文後、弧状浮線文を巡らす。	諸磯b

A区D－38号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
1	D-38 土	深鉢	普通	砂粒混入	胴部破片	遺存部上位は二重の隆帯による楕円形区画を配し、内部に棒状工具による綾杉状沈線を描く。楕円形区画の接続部から、端部が蕨手状となる2重の隆帯を垂下させる。隆帯の左右には斜位沈線を配す。	加曽利E併行
2	D-38 土	深鉢	普通	砂粒混入	胴部破片	遺存部上位、隆帯による口縁部の楕円形区画と思われ、内側は棒状工具で縦位沈線を施す。楕円形区画の接続部から隆帯を垂下させ、左右に綾杉状沈線を配す。	加曽利E併行

A区D－40号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
1	D-40 土	深鉢	普通	砂粒混入	胴部破片	口縁部は隆帯により隅丸長方形状に区画する。一部に渦巻き状モチーフを配置か。区画内に縄文施文。口縁部文様帯下位は単節縄文施文。	加曽利E
2	D-40 土	浅鉢	普通	砂粒混入	口縁部破片	口縁内面端部に粘土紐を貼り付け、肥厚させる。遺存部においては、全面に黒色処理を施した後、良く研磨する。内外面の一部に赤彩。	加曽利E

A区D－41号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
1	D-41 土	深鉢	良好	砂粒・片岩・雲母混入	口縁部破片	ほぼ直立する平口縁か。口縁下に棒状工具による横位沈線2条で区画。内部を同工具による刺突で充填する。	称名寺
2	D-41 土2層	深鉢	良好	砂粒混入	胴部破片	遺存部においては、棒状工具により縦位直線状沈線にて区画する。一部の区画内に楕円状刺突を充填する。内面に半截竹管状工具による三日月状刺突痕が残る。	称名寺
3	D-41 土2層	深鉢	普通	砂粒混入	口縁部破片	胴部上位に圧痕隆帯と沈線を横位に巡らす。隆帯上には8字状貼付文を配す。沈線下部は縄文施文。内面口縁直下に横位沈線。	堀之内2
4	D-41 土3層	鉢	普通	砂粒混入	口縁部破片	遺存部中位に刻み目を施した細い横位隆帯を配す。さらに下部は横位沈線で区画し、内側に縄文を施す。	加曽利B
5	D-41 土2層	深鉢	普通	砂粒混入	胴部破片	遺存部上位に棒状工具による横位平行沈線3条。但し、端部が上向きに角度を変える可能性があり、長方形区画となるか。下部は三角形区画を配し、内側は単節縄文を充填する。	堀之内2
6	D-41 土2層	深鉢	普通	砂粒混入	胴部破片	棒状工具にて幾何学文状に区画し、内部は単節縄文を充填する。	堀之内2
7	D-41 土2層	鉢	普通	砂粒混入	口縁部破片	口唇部に刻み目を施す。遺存部において外面は無文で、棒状工具による横位沈線を2条配す。内面口縁直下にも横位沈線1条。	加曽利B
8	D-41 土	深鉢	普通	砂粒・白色鉱物混入	口縁部破片	波状口縁の波頂部か。外面に円孔文を配し、下部に横位または弧状隆帯を巡らす。	加曽利B

第307表　二軒在家原田Ⅱ遺跡A区縄文時代土坑出土遺物観察表（5）

A区D－42号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
1	D-42 土	深鉢	普通	砂粒・角閃石混入	口縁部破片	遺存部においては無文。下部に横位圧痕隆帯を巡らす。	堀之内1
2	D-42 土	鉢	普通	砂粒・白色鉱物混入	胴部破片	遺存部上位に横位沈線を配し、8の字状貼付文を付す。体部には棒状工具にて重弧線文を描く。	堀之内1
3	D-42 土	深鉢	普通	砂粒・黒色鉱物混入	胴部～底部1/3	遺存部においては無文。外面は良く研磨する。	後期
4	D-42 土	深鉢	普通	砂粒・黒色鉱物混入	胴部～底部1/3	遺存部においては無文。	後期？

A区D－43号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
1	D-43 土	深鉢	普通	砂粒混入	胴部破片	棒状工具にて弧上の区画を施し、画内（外）部に同工具による刺突を行う。	称名寺
2	D-43 土	深鉢	普通	砂粒・白色鉱物混入	胴部破片	棒状工具にて円形状の区画を施し、区画内（外）部に同工具による縦位の刺突を行う。	称名寺
3	D-43 土	深鉢	普通	砂粒混入	胴部破片	棒状工具にてU字状沈線を縦位に施し、下部に横位沈線を巡らす。	後期

A区D－45号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
1	D-45 土	深鉢	普通	砂粒・白色鉱物混入	胴部破片	遺存部においては無文。粗製土器か。	後期

A区D－46号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
1	D-46 土	鉢	普通	砂粒・白色鉱物混入	口縁部破片	横位隆帯と沈線で口縁部文様帯を楕円形に区画する。内側は縦位沈線で充填。外面上位と内面にスス付着。	加曽利E

A区D－47号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
1	D-47 土	深鉢	良好	砂粒混入	口縁部破片	口縁部、環状把手の一部。渦巻き状で、形状に沿って沈線を施す。側面、粘土を肥厚させ指頭圧による円孔を施す。	称名寺
2	D-47 土	無頸壺	良好	砂粒混入	口縁部破片	口縁部に沿って縄文施文。胴部、棒状工具による沈線にてJ字状等に区画し、内側に縄文を施す。	称名寺1

A区D－48号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
1	D-48 土	深鉢	普通	砂粒・褐色礫・白色鉱物混入	口縁部破片	口縁直下に棒状工具による横位沈線を配す。下部は同工具による沈線で、蕨手状や撥形状に区画する。内部に単節縄文充填。	称名寺
2	D-48 土	深鉢	普通	砂粒・白色鉱物混入	口縁部破片	口縁部直下に突出度の低い横位隆帯を配し区画。上部は無文、下部は単節縄文を施文する。	称名寺

A区D－49号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
1	D-49 土	深鉢	普通	砂粒・白色鉱物・角閃石混入	胴部破片	撚り糸施文。	中期？

A区D－50号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
1	D-50 土	深鉢？	良好	砂粒・白色鉱物混入	口縁部破片	遺存部においては無文。口端部は強く内傾する。下端に横位隆帯を配す。内外面ともに良く研磨し、外面に赤彩を施す。	前期後葉
2	D-50 土	深鉢	普通	砂粒混入	口縁部破片	やや内反する平口縁。隆帯と沈線により口縁部文様帯を楕円形に区画する。区画内には単節縄文を施文する。	加曽利E
3	D-50 土＋D-70 土	深鉢	普通	砂粒・白色鉱物・角閃石混入	胴部破片	隆帯と沈線にて口縁部文様帯を楕円形に区画するものと思われる。区画内は縦位沈線を充填する。区画連結部から2条1組の沈線を垂下させ、左右に粗い横位沈線を配す。4と同一個体か。	加曽利E併行
4	D-50 土＋D-70 土	深鉢	普通	砂粒・白色鉱物・角閃石混入	胴部破片	口縁部文様帯を隆帯と沈線により、楕円または半月形に区画する。文様帯連結部から2条1組の沈線を垂下させ胴部を区画し、左右に弧状沈線を描く。	加曽利E併行

第308表　二軒在家原田Ⅱ遺跡A区縄文時代土坑出土遺物観察表（6）

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
5	D-50 土	鉢	普通	砂粒・白色鉱物混入	胴部破片	遺存部全体に単節縄文施文。上位では波状の横位隆帯を巡らせ、さらに縦位隆帯も垂下させる。連結部の一部に円形貼付文を付す。	中期
6	D-50 土	深鉢	普通	砂粒・雲母混入	胴部破片	棒状工具により縦位・斜位直線状に区画。内側に長い刺突文を充填する。	称名寺

A区D－51号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
1	D-51 土	深鉢	普通	砂粒・白色鉱物混入	胴部破片	横位浮線文にて区画。	諸磯ｂ
2	D-51 土	深鉢	普通	砂粒・褐色礫混入	胴部破片	半截竹管状工具による平行沈線を縦位と綾杉状に施した後、縦位棒状貼付文とボタン状貼付文を配す。	諸磯ｃ

A区D－52号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
1	D-52 土	深鉢	普通	砂粒・白色鉱物混入	口縁～胴部 1/5	口縁はほぼ直立する平口縁。直下に棒状工具による横位沈線を配す。沈線より下部に単節縄文施文後、ストロークの長い２条１組の横位波状文を描く。	加曽利Ｅ
2	D-52 土	深鉢	普通	砂粒・白色鉱物・角閃石混入	胴部破片	遺存部においては単節縄文施文。上位に棒状工具による横位平行沈線を３条施文。さらに一部に２条１組の縦位沈線を垂下させる。	加曽利Ｅ

A区D－53号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
1	D-53 土	深鉢	良好	砂粒・黒色鉱物混入	胴部破片	遺存部においては無文。全体的に還元焼成気味。	後期
2	D-53 土	鉢	普通	砂粒混入	底部 2/3	遺存部においては無文。内面は良く研磨する。	後期

A区D－54号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
1	D-54 土	深鉢	良好	砂粒・白色鉱物混入	口縁部破片	口縁直下に横位隆帯を２条配し、文様帯を区画する。区画内は棒状工具による縦位短沈線を施した後、一部に渦巻き状の粘土紐を付し、さらに左右に短い隆帯をブリッジ上に配す。胴部は撚糸施文。	加曽利Ｅ
2	D-54 土	深鉢	普通	砂粒混入	口縁部破片	外面、隆帯と沈線により口縁部文様帯を半円形に区画する。文様帯連結部に渦巻き状の貼付文を配す。区画内及び胴部に単節縄文施文。	加曽利Ｅ

A区D－55号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
1	D-55 土	鉢	普通	砂粒混入	胴部破片	半截竹管状工具による縦位沈線を、疎らに施す。	中期？
2	D-55 土	鉢	普通	砂粒混入	胴部破片	遺存部においては無文。内外面共に良く研磨する。	後期？

A区D－56号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
1	D-56 土	深鉢	良好	砂粒・白色鉱物混入	胴部破片	遺存部においては無文。外面は良く研磨する。	後期？

A区D－57号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
1	D-57 土	深鉢	普通	砂粒・白色鉱物混入	口縁部破片	口縁頂部に小突起を付し、下部に円孔文を配す。外面口縁直下に粘土を肥厚させ、棒状工具にて横位長方形に区画。区画内は同工具による横長刺突を施す。胴部は逆Ｕ字状沈線にて区画。	称名寺
2	D-57 土	深鉢	普通	砂粒・褐色礫混入	口縁部破片	口縁頂部に小突起を付し、下部に円孔文を配す。外面口縁直下に粘土を肥厚させ、棒状工具にて横位長方形に区画。胴部は逆Ｕ字状沈線にて区画か。	称名寺
3	D-57 土	深鉢	普通	砂粒・褐色礫混入	胴部～底部 1/8	胴部中位が遺存する。棒状工具による縦位直線状・Ｕ字状・逆Ｕ字状沈線にて区画する。一部の区画内に縦位に長い楕円状刺突を充填する。	称名寺
4	D-57 土	深鉢	普通	砂粒・褐色礫混入	胴部破片	棒状工具による縦位直線状沈線にて区画する。一部の区画内に縦位に長い楕円状刺突を充填する。	称名寺

第 309 表　二軒在家原田Ⅱ遺跡Ａ区縄文時代土坑出土遺物観察表（7）

A区D－58号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
1	D-58 土	浅鉢	普通	砂粒混入	口縁部破片	遺存部においては無文。外面口縁直下に横位沈線を配す。	後期

A区D－59号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
1	D-59 土	深鉢	普通	砂粒・白色鉱物混入	口縁部破片	遺存部においては無文。	後期

A区D－60号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
1	D-60 土	深鉢	普通	砂粒・白色鉱物混入	胴部破片	縦～斜位の直線・弧線状沈線で区画する。	称名寺

A区D－62号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
1	D-62 土	深鉢	普通	砂粒混入	胴部破片	横位細沈線施文後、渦巻き状結節浮線文を施す。	諸磯ｃ

A区D－63号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
1	D-63 土	深鉢	良好	砂粒・白色鉱物混入	口縁部破片	4単位波状口縁か。外面、突起の両縁は粘土を肥厚させ、断面U字状で反返る形状となる。棒状工具による刺突文を2列配す。胴部は縄文施文後、中位左右に逆U字状の沈線を描く。	加曽利ＥⅤ
2	D-63 土	深鉢	普通	砂粒混入	胴部破片	棒状工具によるU字あるいはJ字状・斜位沈線により区画する。区画内は同工具による刺突文を施す。	称名寺
3	D-63 土	深鉢	普通	砂粒・白色鉱物混入	胴部破片	遺存部上位に横位隆帯を配し、上面に棒状工具にて圧痕を付ける。縦位の圧痕隆帯を垂下させ、接続部には8の字形貼付文を施す。胴部は縦位沈線にて区画。一部区画内に縄文を充填する。	堀之内1

A区D－66号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
1	D-66 土	深鉢	普通	砂粒・白色鉱物混入	口縁部破片	口唇部に刻み目を有す。外面、縄文を疎らに施す。	諸磯ａ

A区D－68号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
1	D-68 土	深鉢	普通	砂粒・角閃石混入	口縁部破片	口縁部文様帯の一部か。隆帯により楕円または半月形に区画し、内部は棒状工具による縦位沈線を施す。	加曽利Ｅ
2	D-68 土	深鉢	普通	砂粒・角閃石混入	胴部破片	2条1組の縦位隆帯で区画し、左右に斜位短沈線を配す。	加曽利Ｅ

A区D－69号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
1	D-69 土	深鉢	普通	砂粒・雲母混入	口縁部破片	口端部は短く「く」の字に屈曲し、縁に沿って細い沈線と三角形印刻文を配す。遺存部中位、横位隆帯を付し一部を三角形に切り取る。下位は縄文施文。	五領ヶ台
2	D-69 土	深鉢	普通	砂粒・雲母混入	胴部破片	遺存部の上下を半載竹管状工具による横位沈線で区画し、内部に縄文を施す。	五領ヶ台
3	D-69 土	耳飾	－	－	3/4 残存	玦状耳飾。蛇紋岩製。	前期後葉？

A区D－72号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
1	D-72 土	深鉢	普通	砂粒混入	胴部破片	隆帯にて口縁部を楕円形に区画するものと思われる。区画内は棒状工具にて縦位沈線を配す。	加曽利Ｅ

第310表　二軒在家原田Ⅱ遺跡Ａ区縄文時代土坑出土遺物観察表（8）

A区D－73号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
1	D-73 土	深鉢	普通	砂粒混入	胴部破片	遺存部においては撚り糸を施し、上位に棒状工具による弧状沈線を配す。	中期？
2	D-73 土	深鉢	普通	砂粒混入	胴部破片	遺存部においては無文	中期？

A区D－74号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
1	D-74 土	深鉢	普通	砂粒・雲母混入	胴部破片	単節縄文施文後、2条1組の縦位隆帯と蛇行する隆帯を等間隔で垂下させ、胴部を区画すると思われる。	加曽利E

A区D－75号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
1	D-75 土	深鉢	普通	砂粒・白色鉱物混入	口縁部破片	波状口縁の直下に、半載竹管状工具押し引きによる横位爪形文を2条配す。爪形文間に浮線文。	諸磯b
2	D-75 土	深鉢	普通	砂粒混入	胴部破片	半載竹管状工具による沈線で弧状あるいは同心円、または渦巻き状のモチーフを描く。	諸磯b～c

A区D－78号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
1	D-78 土	深鉢	普通	砂粒・灰色礫混入	胴部破片	頚部に横位隆帯を巡らす。胴部、2条一組の渦巻き状隆帯を施す。隆帯部以外は沈線施文。一部の沈線は鱗状モチーフをなす。中部高地系。	加曽利E併行
2	D-78 土	深鉢	普通	砂粒・灰色礫混入	胴部破片	頚部に横位隆帯を巡らす。胴部、2条一組の渦巻き状隆帯を施す。隆帯部以外は沈線施文。一部の沈線は鱗状モチーフをなす。1と同一個体か。	加曽利E併行

A区D－79号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
1	D-79 土	深鉢	普通	砂粒混入	胴部破片	単節縄文施文後、隆帯にて口縁部文様帯を区画するものと思われる。	加曽利E
2	D-79 土	深鉢	普通	砂粒混入	胴部破片	遺存部においては単節縄文を施す。	加曽利E

A区D－81号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
1	D-81 土	深鉢	普通	砂粒・白色鉱物混入	口縁部破片	隆帯と沈線にて口縁部文様帯を細長い楕円形状に区画する。区画内および胴部に縄文を施す。	加曽利E
2	D-81 土	深鉢	普通	砂粒混入	口縁部破片	棒状工具による縦位沈線を口縁際まで施した後、直下に横位沈線2条を配す。	中期後葉

A区D－114号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
1	D-114 土	深鉢	普通	砂粒・白色鉱物混入	胴部破片	2条1組の縦位沈線で区画する。区画内には縄文を施し、さらに縦位波状文を配す。	加曽利E
2	D-114 土	深鉢	普通	砂粒混入	胴部破片	並行する横位沈線にて区画した後、一部に縦位短沈線（区切り線）を施す。上位には粘土粒を貼り付ける。	加曽利B

A区D－115号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
1	D-115 土	深鉢	普通	砂粒・白色鉱物混入	口縁～胴部1/3	遺存部においては無文。口縁部に粘土紐接合に伴うヨコナデの凹凸が残る。全体的に薄い器壁。	中期後葉？

A区D－116号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
1	D-116 土	小型深鉢	不良	砂粒・褐色礫混入	口縁～底部2/3	内外ともに無文。	前期後葉？

第311表　二軒在家原田Ⅱ遺跡A区縄文時代土坑出土遺物観察表（9）

A区D－117号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
1	D-117 土	深鉢	普通	砂粒・植物繊維混入	口縁～胴部 1/3	口縁端部に 2 個一対の山形突起を付すが、単位および形態は不明。直下に孔を有する。頸部以上は丸みをもって立ち上がる。単節縄文を施した後、半截竹管状工具押し引きによる横位爪形文で区画し、区画内にさらに斜位・縦位爪形文を施す。	有尾・黒浜
2	D-117 土	深鉢					有尾・黒浜

A区D－118号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
1	D-118 土	深鉢	普通	砂粒・植物繊維混入	胴部破片	遺存部においては単節縄文施文。	有尾・黒浜

A区D－119号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
1	D-119 土	深鉢	普通	砂粒混入	胴部破片	口縁部文様帯を隆帯により区画する。区画内は棒状工具による斜位沈線を施す。	加曽利 E

A区D－120号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
1	D-120 土	深鉢	普通	砂粒混入	胴部破片	単節縄文施文後、竹管文を縦位に施す。	諸磯 a ～ b

A区D－121号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
1	D-121 土	深鉢	普通	砂粒・植物繊維混入	胴部破片	頸部に半載竹管状工具押し引きによる横位爪形文を 2 条配す。単節縄文施文。	有尾・黒浜
2	D-121 土	深鉢	普通	砂粒・植物繊維混入	胴部破片	頸部、半載竹管状工具による横位コンパス文を 3 条配す。	有尾・黒浜

A区D－122号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
1	D-122 土	深鉢	普通	砂粒・白色鉱物混入	口縁部破片	半載竹管状工具による横位平行沈線を施した後、ボタン状貼付文を千鳥状に配す。口縁端部に耳状貼付文。	諸磯 c

A区D－123号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
1	D-123 土	深鉢	普通	砂粒・植物繊維混入	胴部破片	遺存部においては単節縄文施文。	有尾・黒浜

A区D－125号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
1	D-125 土	深鉢	普通	砂粒・雲母混入	口縁部破片	4 単位波状口縁か。各単位の途中に小突起を付す。外面は単節縄文施文後、半載竹管状工具押し引きによる三角形・菱形をモチーフとした区画を施す。	諸磯 b
2	D-125 土	深鉢	普通	砂粒混入	口縁部破片	半載竹管状工具による横位条線を施す。口唇部は強く外反する。	諸磯 b

A区D－126号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
1	D-126 土	深鉢	普通	砂粒混入	底部破片	遺存部においては単節縄文施文。	諸磯

A区D－127号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
1	D-127 土	深鉢	普通	砂粒混入	胴部破片	棒状工具による横位沈線にて区画。内側に縄文施文。	堀之内

A区D－128号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
1	D-128 土	深鉢	普通	砂粒混入	胴部破片	口縁は波状か。直下に横位隆帯と沈線を配し、一部に楕円形貼付文を付す。さらに貼付文から下部に、縦位と弧状の細い隆帯を垂下させる。	堀之内 1

第 312 表　二軒在家原田Ⅱ遺跡A区縄文時代土坑出土遺物観察表（10）

A区D－129号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
1	D-129 土	深鉢	普通	砂粒・褐色礫混入	胴部破片	縄文施文後、横位隆帯を2条配し、さらに下部に横位浮線文を巡らす。	諸磯b
2	D-129 土	深鉢	普通	砂粒・片岩・雲母混入	口縁部破片	遺存部においては単節縄文施文。口縁端部は棒状工具押圧による刻み目を施す。	諸磯

A区D－131号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
1	D-131 土	深鉢	普通	砂粒・植物繊維混入	口縁部破片	遺存部においては付加条縄文を施す。平口縁か。	有尾・黒浜
2	D-131 土	深鉢	普通	砂粒・植物繊維混入	口縁部破片	4単位波状口縁か。遺存部においては半截竹管状工具押し引き文を施す。	有尾・黒浜

A区D－132号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
1	D-132 土	深鉢	普通	砂粒混入	口縁部破片	4単位波状口縁か。棒状工具による入り組み状の沈線で区画し、内側に縄文を充填する。	称名寺？
2	D-132 土	深鉢	普通	砂粒・白色鉱物混入	胴部破片	棒状工具による沈線で区画し、一部の区画内に撚り糸(?)を施す。	称名寺？

A区D－133号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
1	D-133 土	深鉢	普通	砂粒・片岩混入	胴部破片	遺存部においては無文。	後期

A区D－134号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
1	D-134 土	浅鉢	普通	砂粒混入	胴部破片	縄文施文後、棒状工具による弧状沈線を描く。	堀之内
2	D-134 土	浅鉢	普通	砂粒混入	口縁部破片	遺存部においては無文。口唇部は短く外反する。	後期

A区D－135号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
1	D-135 土	深鉢	普通	砂粒・植物繊維混入	胴部破片	半截竹管状工具押し引きによる三角形あるいは菱形文を施す。	有尾・黒浜
2	D-135 土	深鉢	普通	砂粒・植物繊維混入	胴部破片	単節縄文施文。遺存部上位、半截竹管状工具による横位沈線を配し、櫛歯状工具による縦位列点文を巡らす。	有尾・黒浜

A区D－136号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
1	D-136 土	深鉢	普通	砂粒・雲母混入	口縁部破片	波状口縁か。半円状の隆帯を横位に連結させる。	中期
2	D-136 土	深鉢	普通	砂粒混入	胴部破片	棒状工具による縦位沈線を施した後、櫛歯状工具による斜位条線を配す。	中期後葉

A区D－137号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
1	D-137 土	深鉢	普通	砂粒混入	口縁部破片	半截竹管状工具による細い縦位平行沈線を施した後、口縁端部に横位平行沈線を巡らす。	諸磯c
2	D-137 土	深鉢	普通	砂粒混入	胴部破片	半截竹管状工具押し引きによる沈線を連弧文状に施す。	諸磯c
3	D-137 土	浅鉢	普通	砂粒混入	口縁部破片	口縁に沿って4条の平行沈線を配す。遺存部上位右側に2つの小孔あり。	前期後葉

A区D－138号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
1	D-138 土	深鉢	普通	砂粒・植物繊維混入	胴部破片	遺存部においては単節縄文を羽状に配す。	有尾・黒浜
2	D-138 土	深鉢	普通	砂粒混入	胴部破片	遺存部においては横位・斜位に浮線文を施す。	諸磯b

A区D－139号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
1	D-139 土	浅鉢	普通	砂粒混入	胴部破片	口縁部から頸部にかけて隆帯を垂下させる。頸部、棒状工具による横位沈線を配し、隆帯との連結部に8の字貼付文を配す。胴部以下は縦位・弧状の沈線を重ねる。	堀之内1

第313表　二軒在家原田Ⅱ遺跡A区縄文時代土坑出土遺物観察表（11）

A区D－140号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
1	D-140 土	深鉢	普通	砂粒混入	胴部破片	半載竹管状工具押し引きによる横位沈線を2条配し、その間に浮線文を描く。	諸磯b
2	D-140 土	深鉢	普通	砂粒・白色鉱物・角閃石混入	胴部破片	縄文施文後、櫛歯状工具による横位条線を等間隔に配す。	諸磯b

A区D－141号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
1	D-141 土	深鉢	普通	砂粒・角閃石混入	胴部破片	棒状工具による縦位沈線にて区画。区画内は縄文施文。	加曽利E
2	D-141 土	浅鉢	普通	砂粒混入	口縁部破片	遺存部においては無文。細い隆帯を2条､斜位に配す。	堀之内

A区D－142号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
1	D-142 土	深鉢	普通	砂粒混入	胴部破片	棒状工具による2条1組の横位・渦巻き状の沈線にて区画する。	堀之内

A区D－143号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
1	D-143 土	浅鉢	普通	砂粒・白色鉱物混入	口縁部破片	単節縄文を施した後、口縁直下に圧痕隆帯を巡らす。	後期前葉

A区D－144号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
1	D-144 土	深鉢	普通	砂粒混入	胴部破片	横位浮線文を配す。	諸磯b
2	D-144 土	深鉢	普通	砂粒・白色鉱物混入	胴部破片	半載竹管状工具にて斜位・弧状の平行沈線を施す。内面にタール状の付着物あり。	諸磯b

A区D－145号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
1	D-145 土	深鉢	普通	砂粒混入	胴部破片	2条1組の浅い縦位沈線にて区画。うち1本の端部は蕨手状。一部の区画に縄文施文。	加曽利E
2	D-145 土	深鉢	普通	砂粒混入	胴部破片	遺存部においては横位・弧状沈線にて区画。いずれも幾何学文状のモチーフと思われる。 一部区画内に磨消縄文。	堀之内2

A区D－146号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
1	D-146 土	深鉢	普通	砂粒混入	胴部破片	口縁部文様帯を隆帯と沈線により、楕円または半月形に区画。	加曽利E
2	D-146 土	深鉢	良好	砂粒・白色鉱物・石英・角閃石混入	ほぼ完存	平口縁。口縁～胴部に丸棒状工具による横位沈線を施文→沈線間に単節LR縄文を横位施文。無文部は口縁部横位のミガキ、胴部縦位のミガキ。底部木葉痕→網代痕。内面は口縁部に上記手法による沈線で楕円形区画文を施文。口縁部以下は横位のミガキ。	堀之内2
3	D-146 土	深鉢	良好	砂粒・石英・角閃石混入	口縁部～胴部4/5	2単位の波状口縁。口縁部丸棒状工具によるキザミ細隆帯を貼付→波頂部には8の字状のキザミ突起を貼付。同様の手法で渦巻文が付随する三角文を連繋。器面はナデによる長製。内面は横位のナデ・ミガキ。	堀之内2
4	D-146 土	深鉢	普通	砂粒混入	底部破片	底面に網代痕。外面、遺存部においては無文。	後期？

A区D－147号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
1	D-147 土	深鉢	普通	砂粒混入	胴部破片	遺存部においては無文。	後期
2	D-147 土	深鉢	普通	砂粒・角閃石混入	底部破片	底面に網代痕。遺存部においては無文。	後期？

A区D－148号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
1	D-148 土	深鉢	普通	砂粒・白色鉱物混入	口縁部破片	ほぼ直立する平口縁か。遺存部においては無文。	後期

第314表　二軒在家原田Ⅱ遺跡A区縄文時代土坑出土遺物観察表（12）

A区D－149号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
1	D-149 土	深鉢	普通	砂粒混入	胴部破片	半載竹管状工具押し引きによる平行を横位に施した後、間に浮線文を配す。	諸磯b
2	D-149 土	深鉢	普通	砂粒混入	胴部破片	縄文施文後、浮線文を横位・弧状に配す。	諸磯b

A区D－150号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
1	D-150 土	深鉢	普通	砂粒混入	胴部破片	遺存部においては単節縄文施文。	諸磯？

A区D－151号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
1	D-151 土	深鉢	普通	砂粒・褐色礫混入	胴部～底部1/5	全体的に摩滅しており、調整は不明瞭である。外面の一部に沈線・縄文施文の痕跡？底部に木葉痕。	中期後葉？

A区D－153号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
1	D-153 土	深鉢	普通	砂粒混入	口縁部破片	波状口縁か。口縁直下に圧痕隆帯を横位に配す。下部は横位沈線にて区画し、区画内は磨消縄文施文。内面に横位沈線。	堀之内1
2	D-153 土	浅鉢	普通	砂粒混入	口縁部破片	遺存部においては無文。内面口縁端部に刻み目を施す。	堀之内？
3	D-153 土	深鉢	普通	砂粒混入	底部破片	底面に網代痕。遺存部については無文。内面底部にスス付着。	後期

A区D－155号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
1	D-155 土	深鉢	普通	砂粒・白色鉱物混入	胴部破片	棒状工具による沈線にて口縁部文様帯を区画。内側は縄文施文。	加曽利E

A区D－157号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
1	D-157 土	浅鉢	普通	砂粒・白色鉱物混入	胴部破片	遺存部上位、2条1組の横位沈線にて区画。内側に磨消縄文を施す。	堀之内2

A区D－158号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
1	D-158 土	深鉢	普通	砂粒混入	胴部破片	半載竹管状工具押し引きによる横位・弧状沈線を施し、沈線間に浮線文を配す。一部区画内に竹管文施文。	諸磯b

A区D－159号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
1	D-159 土	深鉢	普通	砂粒・褐色礫混入	7/10	単節RL縄文施文後、口縁部に2条一組の波状沈線を巡らす。胴部にもU字状・弧状等沈線が施されるが、摩滅していること、施文技術が低いことから、どのようなﾓﾁｰﾌを意識しているのか不明である。	加曽利E
2	D-159 土	深鉢	普通	砂粒・白色鉱物混入	胴部破片	遺存部下位に縄文施文後、櫛歯状工具による縦位・斜位条線を全面に施す。その後、2条1組の縦位沈線により区画する。	加曽利E
3	D-159 土	深鉢	普通	砂粒・褐色礫混入	胴部破片	櫛歯状工具による縦位・斜位沈線を施した後、渦巻きあるいは蕨手状の隆帯を配す。	加曽利E

A区D－160号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
1	D-160 土	浅鉢	普通	砂粒・白色鉱物混入	胴部破片	棒状工具による沈線にて、三角形状に区画する。一部区画内（外）に磨消縄文。遺存部下位に8の字貼付文と思われる剥離痕が残る。	堀之内2
2	D-160 土	ﾐﾆﾁｭｱ土器	普通	砂粒・片岩混入	胴部～底部1/4	遺存部においては無文。外面は良く研磨する。	後期

第315表　二軒在家原田Ⅱ遺跡A区縄文時代土坑出土遺物観察表（13）

A区D－161号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
1	D-161 土	浅鉢	普通	砂粒混入	口縁部破片	波状口縁か。波頂部には刺突を有する。口縁部文様帯は横位沈線にて区画。口縁部下に横長楕円形区画を上下2段に描き、内側は刺突文で充填する。	中期？
2	D-161 土	深鉢	普通	砂粒・褐色礫・雲母混入	胴部破片	棒状工具による縦位・弧状沈線にて区画する。区画内は単節縄文施文。	加曽利E
3	D-161 土	ミニチュア土器	普通	砂粒・黒色鉱物混入	口縁部～底部1/2	遺存部においては無文。	中期？

A区D－162号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
1	D-162 土	深鉢	普通	砂粒・植物繊維混入	口縁部破片	櫛歯状工具による刺突文を横位・三角形・渦巻き状に施文。間に隆帯を配す。	有尾・黒浜
2	D-162 土	深鉢	普通	砂粒混入	胴部破片	隆帯にて口縁部文様帯を区画。胴部は縄文を施文し、文様帯との連結部から隆帯を波状に垂下させる。	加曽利E

A区D－163号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
1	D-163 土	深鉢	普通	砂粒混入	胴部破片	遺存部においては棒状工具による縦位綾杉状沈線を施す。	加曽利E

A区D－167号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
1	D-167 土	深鉢	良好	砂粒・褐色礫混入	胴部1/4	棒状工具による2条一組の沈線により斜位直線状・弧状・渦巻き状等に区画する。沈線間には同工具による列点状短沈線を施す。	称名寺

A区D－168号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
1	D-168 土	深鉢	普通	砂粒・白色鉱物混入	胴部～底部1/2	棒状工具による2条1組の縦位沈線にて区画。区画内は縦位綾杉状沈線と弧状沈線を施す。	加曽利E

A区D－170号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
1	D-170 土	深鉢	普通	砂粒混入	口縁部破片	波状口縁。口縁端部は棒状工具押圧による刻み目を施す。単節縄文施文後、小孔をあける。	諸磯

A区D－171号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
1	D-171 土	深鉢	普通	砂粒・白色鉱物混入	底部破片	遺存部においては横位浮線文を施す。	諸磯b

A区D－172号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
1	D-172 土	深鉢	普通	砂粒・白色鉱物混入	胴部～底部1/2	撚り糸施文後、2条1組の縦位隆帯および1条の波状隆帯を交互に配し、胴部を区画する。	加曽利E

A区D－174号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
1	D-174 土	深鉢	普通	砂粒混入	口縁部破片	口縁直下は半載竹管状工具押し引きによる横位浮線文3条により区画。下部は縄文を施す。	諸磯b
2	D-174 土	深鉢	普通	砂粒混入	口縁部破片	4単位波状口縁か。隆帯にて口縁部文様帯を区画し、波頂部下に渦巻き文を付す。	加曽利E

A区D－175号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
1	D-175 土	深鉢	普通	砂粒・雲母混入	胴部破片	遺存部上位に横位沈線を3条施す。	後期

第316表　二軒在家原田Ⅱ遺跡A区縄文時代土坑出土遺物観察表（14）

A区D－176号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
1	D-176 土	深鉢	普通	砂粒・白色鉱物混入	胴部破片	撚り糸施文後、2条1組の縦位隆帯にて区画する。	加曽利E

A区D－177号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
1	D-177 土	深鉢	普通	砂粒・雲母混入	胴部破片	縄文施文後、2条1組の縦位隆帯にて区画。	加曽利E
2	D-177 土	深鉢	普通	砂粒混入	胴部破片	遺存部上位、横位沈線にて区画し、内側に磨消縄文を施す。下位は三角形あるいは菱形文を重ねる。内外面共に良く研磨する。	堀之内2

A区D－179号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
1	D-179 土	鉢	普通	砂粒混入	口縁部破片	遺存部においては無文。	後期

A区D－180号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
1	D-180 土	深鉢	普通	砂粒・植物繊維混入	口縁部破片	横位条線にて区画後、内側に櫛歯状工具による刺突文を横位に、口縁端部は縦位に配す。	有尾・黒浜
2	D-180 土	深鉢	普通	砂粒混入	胴部破片	縄文施文後、横位浮線文を配す。	諸磯b

A区D－185号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
1	D-185 土	深鉢	普通	砂粒混入	底部破片	遺存部においては、貝殻腹縁文を横位・斜位に施す。浮島系。	諸磯b併行
2	D-185 土	深鉢	普通	砂粒混入	口縁部破片	沈線と隆帯にて口縁部文様帯を半円形に区画する。区画内は縄文を施す。連結部には渦巻き文を付し、下部に2条1組の隆帯を垂下させる。	加曽利E

A区D－189号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
1	D-189 土	深鉢	普通	砂粒・白色鉱物混入	胴部破片	棒状工具による2条1組の幅広で浅い沈線にて区画後、内側に縄文を施す。	加曽利E

A区D－190号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
1	D-190 土	深鉢	普通	砂粒・植物繊維混入	口縁部破片	遺存部においては単節縄文施文。	有尾・黒浜
2	D-190 土	深鉢	普通	砂粒・植物繊維混入	底部破片	遺存部においては単節縄文施文。	有尾・黒浜

A区D－191号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
1	D-191 土	深鉢	普通	砂粒混入	口縁部破片	口縁端部は粘土帯を貼り付け肥厚させる。口縁部文様帯は沈線にて区画し、内側に縄文を施す。	加曽利E
2	D-191 土	深鉢	普通	砂粒混入	口縁部破片	口縁部文様帯を隆帯と沈線にて区画し、内側に斜位短沈線を配す。	加曽利E

A区D－193号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
1	D-193 土	深鉢	普通	砂粒混入	胴部破片	遺存部においては縄文施文後、2条1組の縦位沈線にて区画する。沈線間は縦ナデ。	加曽利E
2	D-193 土	深鉢	普通	砂粒・雲母混入	胴部破片	2条1組の縦位沈線にて区画した後、内側に綾杉状沈線を施す。	加曽利E

A区D－194号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
1	D-194 土	深鉢	普通	砂粒・褐色礫混入	口縁部破片	4単位波状口縁か。口縁部文様帯は沈線と隆帯にて楕円形に区画するものと思われる。区画内は斜位短沈線を配す。波頂部下に渦巻き文を付す。胴部は圧痕を施した縦位隆帯にて区画し、内側は縦位沈線を描く。	加曽利E
2	D-194 土	深鉢	普通	砂粒・雲母混入	底部1/2	2条1組の縦位沈線にて区画後、内側に斜位短沈線または綾杉状沈線を配す。	加曽利E

第317表　二軒在家原田Ⅱ遺跡A区縄文時代土坑出土遺物観察表（15）

A区D－195号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
1	D-195 土	深鉢	普通	砂粒混入	口縁部破片	遺存部においては撚り糸施文。	中期

A区D－198号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
1	D-198 土	深鉢	普通	砂粒・白色鉱物混入	口縁～胴部1/6	口縁端部は粘土帯貼り付けにより肥厚させる。口縁部文様帯は隆帯により楕円形に区画し、連結部には渦巻き文を付す。区画内は棒状工具による刺突を施す。胴部は「∩」字状沈線にて区画し、内側に縄文施文。	加曽利ＥⅡ
2	D-198 土	小型深鉢	普通	砂粒混入	胴部～底部1/3	2条1組の縦位沈線にて区画し、内側に縄文を施す。	加曽利Ｅ

A区D－199号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
1	D-199 土	深鉢	普通	砂粒混入	胴部破片	蛇行する縦位沈線にて区画後、単節縄文を充填する。	加曽利Ｅ
2	D-199 土	小型深鉢	普通	砂粒混入	胴部～底部1/3	縦位隆帯にて区画後、棒状工具による綾杉状沈線を施す。	加曽利Ｅ

A区D－200号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
1	D-200 土	深鉢	普通	砂粒混入	胴部破片	隆帯にて口縁部を半円形に区画するものと思われる。区画内および胴部は縦位沈線を施す。	加曽利Ｅ

A区D－202号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
1	D-202 土	深鉢	普通	砂粒・片岩混入	胴部破片	遺存部においては半載竹管状工具による斜位・縦位沈線を施した後、横位沈線を配す。	諸磯ｃ
2	D-202 土	深鉢	普通	砂粒混入	胴部破片	縦位隆帯にて区画後、棒状工具による縦位沈線を施す。	加曽利Ｅ

A区D－203号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
1	D-203 土	深鉢	普通	砂粒・褐色礫・灰色礫混入	口縁部～胴部1/4	口縁部に刺突を伴う横位隆帯を巡らす。全体的に薄手の作りで歪みが顕著である。歪みは焼成時のものか。一部に焼成後の孔が認められ、補修痕と考えられる。	後期

A区D－205号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
1	D-205 土	深鉢	普通	砂粒混入	口縁部破片	隆帯と沈線にて口縁部を楕円形・蕨手状に区画し、区画内に単節縄文を施文する。	加曽利ＥⅡ
2	D-205 土	深鉢	普通	砂粒・褐色礫混入	胴部破片	撚り糸施文後、3条以上の蛇行する沈線を縦位に施す。	加曽利Ｅ
3	D-205 土	深鉢	普通	砂粒・褐色礫混入	胴部～底部破片	3条一組の縦位隆帯により、4単位に区画すると想定される。	加曽利Ｅ併行

A区D－206号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
1	D-206 土	深鉢	普通	砂粒・金雲母混入	胴部破片	遺存部上下に横位沈線を配し、内側に縄文施文。	五領ヶ台？

A区D－208号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
1	D-208 土	深鉢	普通	砂粒・白色鉱物混入	口縁部破片	櫛歯状工具にて横位の直線状沈線を施した後、間に波状沈線を配す。	諸磯ｂ
2	D-208 土	深鉢	普通	砂粒混入	胴部破片	遺存部上位、半載竹管状工具にて横位の直線状沈線と波状沈線を交互に配した後、一部に縦位沈線を施し区画する。下位は撚り糸施文か。	諸磯ｂ
3	D-208 土	深鉢	普通	砂粒混入	胴部～底部1/3	撚り糸を斜位に施文。	諸磯ｂ

A区D－209号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
1	D-209 土	深鉢	普通	砂粒・白色鉱物混入	口縁部破片	櫛歯状工具にて横位の直線状沈線を施した後、間に波状沈線を配す。一部、同工具による縦位短沈線を施す。	諸磯ｂ
2	D-209 土	深鉢	普通	砂粒混入	胴部破片	遺存部においては単節縄文を施す。	諸磯ｂ

第318表　二軒在家原田Ⅱ遺跡A区縄文時代土坑出土遺物観察表（16）

A区D－210号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
1	D-210 土	深鉢	普通	砂粒混入	口縁部破片	半載竹管状工具押し引きによる横位爪形文と浮線文を交互に配す。	諸磯ｂ

A区D－211号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
1	D-211 土	鉢	普通	砂粒・金雲母混入	口縁部破片	口端部まで棒状工具による刺突を施す。	前期
2	D-211 土	深鉢	普通	砂粒混入	底部破片	遺存部においては縄文施文。	諸磯

A区D－213号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
1	D-213 土	深鉢	普通	砂粒・白色鉱物混入	胴部破片	棒状工具による縦位沈線にて区画後、区画内に鱗状短沈線を配す。郷土系。	加曽利Ｅ併行

A区D－215号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
1	D-215 土	深鉢	普通	砂粒・植物繊維混入	口縁部破片	波状口縁か。遺存部においては櫛歯状工具による横位・斜位沈線と、平行刺突文を施す。下位に補修痕とみられる小孔あり。	有尾・黒浜
2	D-215 土	深鉢	普通	砂粒混入	胴部破片	遺存部においては縄文施文。	諸磯

A区D－216号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
1	D-216 土	深鉢	普通	砂粒・植物繊維混入	胴部破片	遺存部においては単節縄文施文。下部に櫛歯状工具による横位刺突痕。	有尾・黒浜
2	D-216 土	鉢	普通	砂粒混入	口縁部破片	口縁部文様帯の一部か。隆帯により蕨手状に区画し、内部は棒状工具による放射状沈線を施す。	加曽利Ｅ

A区D－217号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
1	D-217 土	深鉢	普通	砂粒混入	口縁部破片	隆帯と沈線にて口縁部を楕円形に区画するものと思われる。区画内は縦位短沈線を施す。下位に横位隆帯を１条配す。	加曽利Ｅ

A区D－218号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
1	D-218 土	深鉢	普通	砂粒混入	胴部破片	渦巻き状の結節浮線文を施すものと思われる。	諸磯ｃ

A区D－219号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
1	D-219 土	深鉢	普通	砂粒混入	底部破片	浮線文を横位・Ｘ字状・弧状に施す。	諸磯ｂ

A区D－220号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
1	D-220 土	深鉢	普通	砂粒・雲母混入	口縁部破片	半載竹管状工具にて木葉状に区画し、内側に刺突を施す。下部は縄文施文。	諸磯ｂ
2	D-220 土	深鉢	普通	砂粒混入	口縁部破片	櫛歯状工具による横位・波状沈線を施した後、一部縦位に刺突文を配す。	諸磯ｂ
3	D-220 土	深鉢	普通	砂粒混入	口縁部破片	半載竹管状工具押し引きによる爪形文を横位・弧状に施す。	諸磯ｂ
4	D-220 土	深鉢	良好	砂粒・褐色礫・白色鉱物混入	口縁部破片	4単位波状口縁と想定される。半截竹管状工具押し引きによる爪形文を口縁に並行して施す。沈線間及び口端部直下の一部に刺突文施文。	諸磯ｂ
5	D-220 土	深鉢	普通	砂粒混入	口縁部破片	4単位波状口縁か。半載竹管状工具押し引きによる爪形文を弧状に施し、一部に刺突文を配す。波頂部下に小孔を有す。	諸磯ｂ
6	D-220 土	深鉢	普通	砂粒混入	胴部破片	半載竹管状工具押し引きによる爪形文を木葉状や横位に配し、一部区画内に刺突文を施す。下位には末端結節単節縄文施文。	諸磯ｂ
7	D-220 土	深鉢	普通	砂粒・白色鉱物混入	胴部破片	遺存部においては末端結節単節縄文を施す。	諸磯ｂ

第319表　二軒在家原田Ⅱ遺跡Ａ区縄文時代土坑出土遺物観察表（17）

A区D－223号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
1	D-223 土	深鉢	普通	砂粒混入	胴部破片	櫛歯状工具による縦位沈線を施した後、肋骨文を配す。沈線との交点には竹管文を施し、さらに肋骨文の間に列点文を配す。	諸磯a
2	D-223 土	深鉢	普通	砂粒・金雲母混入	口縁部破片	口縁端部に3条の細い平行沈線を施す。下部には横位刺突文と印刻文を配すものと思われる。	五領ヶ台

A区D－224号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
1	D-224 土	深鉢	普通	砂粒・白色鉱物混入	口縁部破片	隆帯と沈線にて口縁部を楕円形に区画し、区画連結部は渦巻き状の隆帯を付す。区画内および胴部は縄文を施す。	加曽利EⅡ～Ⅲ
2	D-224 土	深鉢	普通	砂粒・白色鉱物混入	胴部破片	隆帯と沈線にて口縁部を楕円形に区画し、区画連結部は渦巻き状の隆帯を付し、さらに縦位沈線を垂下させる。区画内および胴部は縄文を施す。1と同一個体か。	加曽利EⅡ～Ⅲ
3	D-224 土	深鉢	普通	砂粒・白色鉱物混入	胴部破片	2条1組の縦位沈線にて胴部を区画する。区画内は単節縄文施文。1・2と同一個体か。	加曽利E

A区D－225号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
1	D-225 土	深鉢	普通	砂粒混入	胴部破片	遺存部においては縦位沈線にて胴部を区画し、内側に縦位綾杉状沈線を施す。	加曽利E
2	D-225 土	深鉢	普通	砂粒混入	口縁部破片	遺存部においては無文。横～斜位のナデを粗く施す。	後期？

A区D－226号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
1	D-226 土	深鉢	普通	砂粒混入	胴部破片	遺存部上下に2条の横位浮線文を配し、内側に縄文施文。	諸磯b
2	D-226 土	鉢	普通	砂粒混入	口縁部破片	口縁部下に渦巻き状の隆帯を付す。	加曽利E

A区D－228号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
1	D-228 土	深鉢	良好	砂粒・白色鉱物混入	口縁部～胴部1/10	胴部上位に4条の横位並行沈線を施す。内面口端部直下に1条の横位沈線を巡らす。	堀之内2

A区D－230号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
1	D-230 土	深鉢	普通	砂粒混入	胴部破片	口縁部文様帯の一部か。圧痕隆帯により区画し、内側に縦位短沈線を施す。	加曽利E

A区D－231号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
1	D-231 土	深鉢	普通	砂粒混入	胴部破片	遺存部においては末端結節単節縄文施文。	加曽利E

A区D－232号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
1	D-232 土	深鉢	普通	砂粒混入	口縁部破片	隆帯と沈線にて口縁部を半月形に区画、連結部には渦巻き状の隆帯を付す。区画内は縦位短沈線を施す。	加曽利EⅡ
2	D-232 土	深鉢	普通	砂粒混入	胴部破片	2条1組の縦位隆帯にて胴部を区画。区画内は縄文を施す。	加曽利E

A区D－233号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
1	D-233 土	深鉢	普通	砂粒混入	口縁～胴部1/6	口縁部下から遺存部中位にかけて幾何学文にて区画し、内側に磨消縄文を施す。	堀之内2
2	D-233 土	深鉢	普通	砂粒・白色鉱物混入	口縁～胴部1/5	遺存部においては無文。	堀之内

第320表　二軒在家原田Ⅱ遺跡A区縄文時代土坑出土遺物観察表（18）

A区D－234号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
1	D-234 土	深鉢	普通	砂粒・雲母混入	胴部～底部 1/10	縦位隆帯により3単位に区画する。区画内に蛇行隆帯を垂下させ、計6単位の区画とする。各区画内には丸棒状工具による綾杉状沈線を施す。	加曽利E併行
2	D-234 土	深鉢	普通	砂粒混入	胴部破片	2条1組の縦位隆帯にて胴部を区画。区画内は棒状工具による縦位綾杉状沈線を施す。	加曽利E

A区D－235号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
1	D-235 土	深鉢	普通	砂粒混入	胴部破片	遺存部上位、櫛歯状工具による横位の平行・波状沈線を配す。下位は縄文施文。	諸磯b

A区D－236号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
1	D-236 土	浅鉢	普通	砂粒混入	胴部破片	遺存部においては無文。内面、口縁直下に棒状工具による横位沈線を巡らす。	後期

A区D－237号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
1	D-237 土	浅鉢	普通	砂粒混入	口縁部破片	口唇部に刻み目を施す。外面は棒状工具による横位平行沈線を巡らす。内面、口縁部下に横位沈線を1条配す。	堀之内～加曽利B1

A区D－238号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
1	D-238 土	深鉢	普通	砂粒・植物繊維混入	口縁部破片	4単位波状口縁か。口端部は櫛歯状工具による縦位刺突を施す。下位は工具を横にずらしながら「ハ」の字状文様を平行して描く。	有尾・黒浜
2	D-238 土	深鉢	普通	砂粒・植物繊維混入	胴部破片	遺存部においては単節縄文を羽状に施す。	有尾・黒浜

A区D－239号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
1	D-239 土	深鉢	普通	砂粒混入	口縁部破片	櫛歯状工具による横位平行沈線と波状沈線を施す。	諸磯b
2	D-239 土	深鉢	普通	砂粒混入	口縁部破片	外面、口縁直下まで単節縄文施文。	諸磯b

A区D－240号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
1	D-240 土	浅鉢	普通	砂粒混入	口縁部破片	口唇部に刻み目を施す。外面、縄文施文後、櫛歯状工具にて横位・弧状に平行沈線を配す。	前期後葉
2	D-240 土	深鉢	普通	砂粒・金雲母混入	胴部破片	遺存部上端、半截竹管状工具による横位沈線を配す。単節縄文施文。	中期初頭

A区D－241号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
1	D-241 土	深鉢	普通	砂粒混入	胴部破片	棒状工具にて楕円形に区画するものと思われる。内側は磨消縄文。	堀之内？

A区D－242号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
1	D-242 土	深鉢	良好	砂粒混入	胴部破片	口縁部文様帯の一部と思われる。遺存部上下は横位沈線にて区画し、内側に同心円状の沈線を描く。一部に「∞」の字状の隆帯を施す。	中期後葉

A区D－243号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
1	D-243 土	深鉢	普通	砂粒混入	口縁部破片	沈線と隆帯にて口縁部文様帯を細長い楕円形に区画すると思われる。区画内は斜位短沈線を施す。下位は無文。口端部に小突起を有す。	加曽利E
2	D-243 土	深鉢	良好	砂粒混入	胴部破片	末端結節単節縄文施文後、2条1組の縦位沈線にて区画する。	加曽利E
3	D-243 土	深鉢	普通	砂粒混入	胴部～底部 2/3	遺存部中位以上に縄文、中～下位に櫛歯状工具による縦位条線を施文後、2条1組の縦位沈線にて胴部を区画する。	加曽利E

第321表　二軒在家原田Ⅱ遺跡A区縄文時代土坑出土遺物観察表（19）

A区D－244号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
1	D-244 土	深鉢	普通	砂粒混入	底部破片	遺存部においては、底部立ち上がりに横位浮線文を3条施す。	諸磯ｂ

A区D－245号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
1	D-245 土	深鉢	普通	砂粒混入	胴部破片	遺存部においては単節縄文を施す。	諸磯ｂ

A区D－246号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
1	D-246 土	深鉢	普通	砂粒混入	口縁部～胴部1/8	やや外反する平口縁と想定される。隆帯と沈線により口縁部文様帯を区画する。半円形の区画内には丸棒状工具による縦位沈線を施す。胴部、縦位隆帯で区画し、区画内には丸棒状工具による綾杉状（一部は鱗状？）沈線を施す。内面の上端部には稜状の隆帯を巡らす。	加曽利Ｅ併行
2	D-246 土	深鉢	普通	砂粒混入	胴部破片	単節縄文施文後、2条1組の縦位沈線と1条の縦位波状沈線にて胴部を区画する。	加曽利Ｅ
3	D-246 土	浅鉢	普通	砂粒混入	口縁部破片	口縁端部は短く屈曲する。頸部以下に棒状工具による沈線で横長楕円形に区画。内側に縄文を施す。	称名寺
4	D-246 土	深鉢	良好	砂粒混入	口縁部破片	口縁の突起部分。左右に円孔文を施し、突起中央の頂部には渦巻き文を配す。内面、縁部に沿って沈線を巡らす。	加曽利B

A区D－247号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
1	D-247 土	深鉢	普通	砂粒・植物繊維混入	口縁部破片	遺存部においては半載竹管状工具押し引きによる弧状爪形文を施す。	有尾・黒浜

A区D－248号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
1	D-248 土	深鉢	普通	砂粒混入	胴部破片	遺存部においては棒状工具による格子状あるいは山形沈線を施す。	堀之内２
2	D-248 土	浅鉢	普通	砂粒混入	口縁部破片	遺存部においては無文。口縁は短く内傾し、内外面に横位沈線を配す。	堀之内

A区D－250号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
1	D-250 土	深鉢	普通	砂粒・白色鉱物混入	口縁部～胴部1/4	口縁部下、圧痕隆帯を横位に配す。	称名寺～堀之内
2	D-250 土	深鉢	普通	砂粒混入	胴部破片	棒状工具にて胴部を剣先形に区画するか。内側は刺突文を施す。	称名寺

A区D－252号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
1	D-252 土	深鉢	普通	砂粒混入	口縁部～胴部1/6	小波状口縁と想定されるが単位は不明。小波状部内外に孔を有する。口端部はやや厚みのある稜状を呈し、一部に棒状工具による沈線を施す。胴部、丸棒状工具による沈線により直線状・Ｊ字状・渦巻き状等に区画する。沈線連結部の一部には刺突を伴うボタン状貼付文を配す。	称名寺Ⅱ
2	D-252 土	浅鉢	普通	砂粒混入	口縁部破片	波状口縁の端部に円柱状の突起を付す。頂部は丸く、下部に2条の沈線を施す。内面は良く研磨される。	称名寺
3	D-252 土	浅鉢	普通	砂粒混入	胴部破片	遺存部上位に横位沈線を1条、さらに楕円形状の区画を下位に施す。中央に把手状の貼付文を付し、中心に刺突を行う。	称名寺

A区D－253号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
1	D-253 土	浅鉢	普通	砂粒混入	口縁部破片	平口縁で遺存部においては無文。	加曽利Ｅ
2	D-253 土	浅鉢	普通	砂粒混入	底部破片	遺存部においては無文。	加曽利Ｅ

第322表　二軒在家原田Ⅱ遺跡A区縄文時代土坑出土遺物観察表（20）

A区D－254号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
1	D-254 土	深鉢	良好	砂粒混入	口縁部破片	遺存部中位に横位隆帯を配す。さらに縦位隆帯を垂下させ胴部を区画する。区画内は縄文施文。	加曽利E
2	D-254 土	深鉢	普通	砂粒・白色鉱物混入	胴部破片	胴部、縦位に2条1組でやや弧状の沈線施し区画する。区画内は縄文施文。	加曽利E

A区D－255号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
1	D-255 土	深鉢	普通	砂粒混入	口縁部～胴部1/5	口縁直下に刻み目を施した横位隆帯を1条。一部に8の字状貼付文を付す。隆帯下位と胴部中位に、2条1組の横位沈線による区画文を配し、内側は磨消縄文を施す。貼付文下のみ、沈線による区画がU字状に曲がる。内面口縁直下に横位沈線1条配す。	堀之内2

A区D－256号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
1	D-256 土	深鉢	普通	砂粒・褐色礫混入	口縁部～胴部1/4	ほぼ直立する平口縁。棒状工具による深めの沈線で弧状・剣先状等に区画する。一部の区画内に同工具による列点状刺突を充填する。	称名寺
2	D-256 土	深鉢	普通	砂粒・白色鉱物混入	口縁部～胴部1/4	やや内傾する平口縁。内外面共にナデ。無文で、口縁下に断面三角～蒲鉾型の横位隆帯を1条配す。	称名寺
3	D-256 土	深鉢	普通	砂粒混入	口縁部破片	口縁端部はやや肥厚し、内傾する。外面口縁下部に稜の鋭い横位隆帯を配す。	称名寺
4	D-256 土	注口土器（浅鉢）	良好	砂粒・白色鉱物・褐色礫混入	口縁部～底部4/5	上面観がおおむね方形を呈する。4単位の波状口縁、波頂部に円環状の突起。突起内面に盲孔。突起の1か所に注口部が設けられる。体部無文、体部上位で顕著に内屈し、口縁部文様帯を形成。丸棒状工具による沈線で枠状区画、内部に同工具による列点刺突文。内面横位、外面口縁部付近で横位、体部外面において縦位のミガキが施される。器体の下位が被熱、外面は器高の約1/2、内面は約1/3の範囲で炭化物が付着。	称名寺
5	D-256 土	鉢	普通	砂粒混入	口縁部破片	口縁部下に横位沈線2条を配し、下部は綾杉状沈線を施す。	後期
6	D-256 土	注口土器？	普通	砂粒混入	底部破片	底面に網代痕。外面は無文で、良く研磨する。	称名寺

A区D－258号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
1	D-258 土	深鉢	普通	砂粒混入	底部破片	遺存部においては縄文施文。底面は良く研磨する。	諸磯b

A区D－259号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
1	D-259 土	深鉢	普通	砂粒混入	胴部破片	遺存部においては縄文施文。	諸磯b

A区D－260号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
1	D-260 土	深鉢	普通	砂粒混入	口縁部～胴部1/4	口縁部上端に幅の狭い無文帯を有する。隆帯と沈線により口縁部文様帯を半月形に区画し、内側に丸棒状工具による縦位沈線を施す。胴部、口縁部文様帯連結部より縦位隆帯を垂下させ区画（4単位？）。さらに、内側を2条の縦位沈線で区画し、綾杉状沈線を施す。	加曽利EⅡ
2	D-260 土	深鉢	普通	砂粒混入	口縁部破片	口縁部上端に幅の狭い無文帯を有し、隆帯と沈線にて口縁部文様帯を半月形に区画する。区画内、丸棒状工具による縦位沈線を施す。胴部、口縁部文様帯連結部より2条の縦位沈線を垂下させ、左右に綾杉状沈線を施す。	加曽利E
3	D-260 土	深鉢	普通	砂粒・褐色礫混入	胴部破片	遺存部上位に幅の狭い口縁部文様帯を区画し、内側は縦位短沈線を施す。胴部は縄文施文後、渦巻き・蕨手状の隆帯を配す。	加曽利E
4	D-260 土	深鉢	普通	砂粒混入	口縁部破片	口縁端直下、稜がやや下向きの隆帯を配し横長半月形に区画する。連結部、頂部が凹んだボタン状の貼付文を付す。胴部は櫛歯状工具による縦位条線を施す。	加曽利E
5	D-260 土	深鉢	普通	砂粒混入	口縁部破片	棒状工具にて懸垂文または弧状に区画し、内側に磨消縄文を施す。	称名寺
6	D-260 土	深鉢	普通	砂粒・黒色鉱物混入	口縁部破片	口縁端部は短く内傾し、一部に小突起を付すと思われる。口縁直下から、沈線にて幾何学的な入り組み文を描き、内側に縄文を充填する。	称名寺
7	D-260 土	注口土器	良好	砂粒・黒色鉱物混入	口縁部破片	注口の上部に三角形状の突起を有す。突起頂部に沈線を配し、さらに両側面は一部、沈線にて区画し内側に縄文を施す。突起と注口の間に円孔を貫通する。	称名寺

第323表　二軒在家原田Ⅱ遺跡A区縄文時代土坑出土遺物観察表（21）

A区D－261号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
1	D-261 土	深鉢	普通	砂粒・褐色礫混入	胴部破片	隆帯により口縁部文様帯を区画する。一部の区画内には刺突文充填。胴部、縦位沈線施文後、斜位沈線を施す。	加曽利E
2	D-261 土	深鉢	普通	砂粒混入	口縁部破片	口縁端部、粘土を折り返し肥厚させる。横位沈線にて口縁部を区画し、各区画内に縦位短沈線、斜位刺突文を施す。	加曽利E
3	D-261 土	深鉢	普通	砂粒・褐色礫混入	胴部 1/10	2条一組の縦位沈線で区画する。8単位に区画すると考えられる。区画内には単節RL縄文施文。	加曽利E
4	D-261 土	深鉢	普通	砂粒・褐色礫混入	口縁部～胴部 4/5	口縁部は無文。口縁部下位に2条の横位沈線を巡らす。胴部、単節LR縄文施文後、縦位沈線により4単位に区画するが、沈線の数は1・2・3本のパターンがあり統一されていない。各区画内には蛇行沈線を垂下させるが、1区画だけ蛇行沈線を施文しない区画がある。さらに、蛇行沈線が区画中央に施されないなど、全体的に施文に統一感がない。	加曽利E

A区D－262号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
1	D-262 土	深鉢	普通	砂粒・白色鉱物混入	口縁部破片	口縁端部は短く内傾する。胴部は棒状沈線にて入り組み状に区画し、内側に縄文を施す。	称名寺
2	D-262 土	鉢	普通	砂粒・白色鉱物混入	口縁部破片	遺存部においては無文。口縁下に隆帯による楕円形区画を、間隔をあけて横位に配す。区画端にはボタン状貼付文を付す。	後期
3	D-262 土	鉢	普通	砂粒混入	口縁部破片	遺存部においては無文。下位に鍵の手状に曲がる隆帯を配す。	後期

A区D－264号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
1	D-264 土	鉢	普通	砂粒・白色鉱物混入	口縁部破片	隆帯と沈線にて口縁部文様帯を楕円形に区画。区画内は中央に横位隆帯を配し、上下に波状の隆帯を充填する。区画連結部上下に渦巻きモチーフの貼付文を付し、編上げ状の隆帯で繋ぐ。胴部は渦巻き状の隆帯と同心円状の沈線を施す。2と同一個体か。	加曽利E併行
2	D-264 土	鉢	普通	砂粒・白色鉱物混入	口縁部破片	隆帯と沈線にて口縁部文様帯を楕円形に区画する。区画内は中央に横位隆帯を配し、上下区画に波状の隆帯を充填する。区画連結部上下に渦巻きモチーフの貼付文を付し、編上げ状の隆帯で繋ぐ。	加曽利E併行

A区D－265号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
1	D-265 土	深鉢	普通	砂粒・白色鉱物混入	口縁部破片	遺存部においては無文。	後期
2	D-265 土	深鉢	普通	砂粒混入	底部破片	底面に網代痕。	後期

A区D－267号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
1	D-267 土	深鉢	普通	砂粒・金雲母混入	口縁部破片	口縁端部は平面的で、細い粘土紐にて縦位・山形状に隆帯を貼り付ける。胴部は無文。	五領ヶ台
2	D-267 土	深鉢	普通	砂粒・金雲母混入	胴部破片	沈線と隆帯にて口縁部文様帯を区画する。区画内は半載竹管状工具押し引きによる横位沈線を施す。胴部は縄文施文後、上位に横位沈線を配す。一部に弧状沈線を描く。	五領ヶ台

A区D－268号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
1	D-268 土	深鉢	普通	砂粒混入	底部破片	底面に網代痕。還元焼成気味。	後期

A区D－270号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
1	D-270 土	深鉢	普通	砂粒・角閃石混入	胴部破片	棒状工具による横位沈線を2条以上配す。沈線は途中から上位にずらされており「区切り線」状を呈す。	加曽利B1

A区D－272号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
1	D-272 土	深鉢	普通	砂粒混入	胴部破片	縄文施文後、2条1組の縦位沈線を配し胴部を区画する。	加曽利E

第324表　二軒在家原田Ⅱ遺跡A区縄文時代土坑出土遺物観察表（22）

A区D－273号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
1	D-273 土	深鉢	普通	砂粒・雲母混入	胴部破片	遺存部においては縄文を施す。	諸磯ｂ

A区D－275号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
1	D-275 土	深鉢	普通	砂粒混入	口縁部破片	遺存部においては縄文を施す。	諸磯ｂ

A区D－276号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
1	D-276 土	深鉢	普通	砂粒混入	胴部破片	横位沈線施文後、渦巻き状の隆帯を配し、その上から半截竹管状工具押し引きによる爪形文を施す。	諸磯ｃ

A区D－277号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
1	D-277 土	深鉢	普通	砂粒・金雲母混入	口縁部破片	口縁端部は波状を呈す。遺存部においては、半截竹管状工具による平行沈線を施す。	五領ヶ台
2	D-277 土	鉢	普通	砂粒・石英混入	口縁部破片	口縁端部から頸部まで無文。頸部は弓なりに屈曲し、横位沈線を配す。遺存部中位に把手状の貼り付けを施した後、横位綾杉状沈線を描く。	中期初頭

A区D－278号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
1	D-278 土＋D-309 土	深鉢	普通	砂粒・ﾁｬｰﾄ・片岩・雲母混入	口縁部～胴部1/10	ほぼ直立する平口縁。口縁部、半截竹管状工具押し引きによる爪形文を横位に4条巡らす。胴部、単節RL縄文（結節）横転がし。	諸磯ｂ
2	D-278 土	深鉢	普通	砂粒混入	口縁部～底部2／3	隆帯と沈線にて口縁部文様帯を横長楕円形に区画し、内側に縦位短沈線を配す。区画連結部には渦巻き状の突起を付す。	加曽利Ｅ

A区D－279号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
1	D-279 土	深鉢	普通	砂粒混入	胴部破片	遺存部においては縄文を施す。	加曽利Ｅ

A区D－281号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
1	D-281 土	鉢	普通	砂粒・白色鉱物混入	口縁部破片	口縁端部は波状を呈す。口縁部文様帯は沈線と隆帯にて楕円形に区画し、内側に刺突文を配す。	後期
2	D-281 土	注口土器？	普通	砂粒混入	口縁部破片	口端部は波状を呈す。外面、波頂部下に孔を穿つ。頸部下、棒状工具による沈線にて区画し、内側に刺突を配す。3と同一個体か。	後期前葉
3	D-281 土	注口土器？	普通	砂粒混入	胴部破片	沈線と細い隆帯を横位・弧状に配し、胴部を区画する。区画内は縄文を施した後、棒状工具により横位に刺突を配す。	後期前葉
4	D-281 土	注口土器？	普通	砂粒・白色鉱物混入	注口部破片	遺存部においては無文。断面は横長楕円形を呈す。	後期初頭

A区D－282号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
1	D-282 土	深鉢	普通	砂粒・白色鉱物混入	胴部～底部2/3	縄文施文後、2条1組の縦位沈線にて胴部を区画。さらに等間隔に縦位波状沈線を配す。	加曽利Ｅ

A区D－283号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
1	D-283 土	深鉢	普通	砂粒・植物繊維混入	胴部破片	遺存部においては格子目状に沈線を配す。	有尾・黒浜
2	D-283 土	深鉢	普通	砂粒混入	胴部破片	2条単位の櫛歯状工具にて横位平行沈線と山形文を交互に配す。	諸磯ｂ
3	D-283 土	深鉢	普通	砂粒混入	胴部破片	縦位沈線にて胴部を区画し、左右に斜位沈線を配す。	加曽利Ｅ

第325表　二軒在家原田Ⅱ遺跡A区縄文時代土坑出土遺物観察表（23）

A区D－284号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
1	D-284 土	深鉢	普通	砂粒混入	胴部破片	縄文施文後、横位・弧状、渦巻き状に浮線文を配す。	諸磯ｂ
2	D-284 土	鉢	普通	砂粒・白色鉱物・褐色礫混入	胴部～底部 4/5	頸部のくびれおよび胴部最大径の部位の屈曲が顕著な器形。口唇部に横位沈線が認められない。くびれ部分から胴部最大径の部位にかけて横位文様帯。隆帯による、6単位の枠状の区画。文様帯下端に横位沈線1条。枠状区画どうしの接する部分に円形刺突文、および横位沈線に伴う渦巻文。外面くびれ部分より上は横位、下は斜位のナデ。内面横位のナデおよび粗いミガキ。	堀之内１

A区D－285号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
1	D-285 土	深鉢	普通	砂粒・金雲母混入	口縁部破片	遺存部においては半載竹管状工具にて縦位平行沈線を施した後、上下に横位沈線を配し口縁部を区画する。一部、中位に横位沈線を配す。	五領ヶ台
2	D-285 土	深鉢	普通	砂粒混入	口縁部破片	口縁直下に隆帯を配し、文様帯を区画する。内側は縦位短沈線を施す。	加曽利Ｅ

A区D－286号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
1	D-286 土	深鉢	良好	砂粒混入	胴部破片	縄文施文後、2条1組の縦位沈線により胴部を区画する。	加曽利Ｅ

A区D－288号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
1	D-288 土	深鉢	普通	砂粒混入	胴部破片	浮線文と半載竹管状工具押し引きによる爪形文を、横位・弧状に配す。一部区画内に竹管文。	諸磯ｂ
2	D-288 土	深鉢	普通	砂粒混入	胴部破片	縄文施文後、横位浮線文を配す。	諸磯ｂ

A区D－289号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
1	D-289 土	深鉢	普通	砂粒混入	胴部破片	縄文施文後、横位浮線文を配す。	諸磯ｂ

A区D－290号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
1	D-290 土	深鉢	普通	砂粒・雲母混入	口縁部破片	口縁端部は波状を呈すか。遺存部上位、2条1組の横位沈線により区画し、下位には幾何学文状の区画を施す。いずれも区画内は縄文施文。	堀之内

A区D－291号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
1	D-291 土	深鉢	普通	砂粒・角閃石混入	口縁部破片	遺存部においては無文。棒状工具による斜位方向ナデの痕跡が明瞭に残る。	後期

A区D－292号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
1	D-292 土	深鉢	普通	砂粒・白色鉱物混入	口縁部破片	沈線と隆帯にて口縁部を区画。下部の隆帯はさらに一部蕨手状に延び、文様帯を区画する。内側は横位綾杉状沈線を配す。胴部は磨滅が激しいが、棒状工具による2条1組の縦位沈線にて区画し、左右に縦位綾杉状沈線を配す。	加曽利Ｅ
2	D-292 土	深鉢	普通	砂粒・白色鉱物混入	口縁部破片	口縁端部は粘土を肥厚させる。沈線と隆帯にて口縁部文様帯を楕円形に区画し、内側に縄文施文。区画連結部には渦巻き状の貼付文を付す。胴部は沈線にて長方形に区画すると思われ、内側に縄文を施す。	加曽利Ｅ
3	D-292 土1層	深鉢	普通	砂粒混入	口縁部破片	口縁部下、沈線と隆帯にて半円形に区画し内側に縄文を施す。区画連結部には円形または渦巻き状の貼付文を付す。胴部は縄文施文後、2条1組の細い縦位沈線によって区画する。	加曽利Ｅ
4	D-292 土1層	深鉢	普通	砂粒混入	口縁部破片	口縁直下に横位沈線を1条配す。頸部に横位沈線を2条配し、内側に刺突を施す。頸部上下に細い縦位沈線を施す。	中期

第326表　二軒在家原田Ⅱ遺跡A区縄文時代土坑出土遺物観察表（24）

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
5	D-292 土 1 層	深鉢	普通	砂粒・黒色鉱物混入	口縁部破片	やや内反する平口縁。隆帯により半月状・蕨手状に区画する。半月状区画内には棒状工具による縦位沈線を施す。5 ～ 6 単位に区画か。胴部、渦巻き状の下位に縦位隆帯を垂下させる。区画内には撚り糸施文。	加曽利ＥⅠ～Ⅱ
6	D-292 土 1 層＋D-199 土	深鉢	普通	砂粒混入	口縁部破片	隆帯にて口縁部を半月状・蕨手状に区画する。区画連結部から 2 条 1 組の隆帯を垂下させる。口縁部区画内および胴部に撚り糸施文。	加曽利Ｅ
7	D-292 土 1 層	深鉢	良好	砂粒混入	口縁部破片	口縁部下に、肥厚させた隆帯により楕円形に区画する。内側は無文。連結部には棒状工具による「S」字状沈線を配す。胴部は撚り糸施文。	加曽利Ｅ
8	D-292 土 No2	深鉢	良好	砂粒混入	口縁部～胴部 1/4	外面、口縁直下に櫛歯状工具による横位条線を配す。さらに、同工具による縦位波状文を遺存部中位まで垂下させる。	中期
9	D-292 土 1 層	深鉢	普通	砂粒・白色鉱物混入	胴部破片	撚り糸施文後、縦位隆帯を配し胴部を区画する。その後、区画内の一部に櫛歯状工具による縦位波状文を描く。	加曽利Ｅ
10	D-292 土 1 層	深鉢	良好	砂粒混入	胴部破片	2 条 1 組の縦位沈線にて胴部を区画し、左右に櫛歯状工具による波状文を施す。内面は良く研磨する。	加曽利Ｅ
11	D-292 土 1 層	深鉢	良好	砂粒・褐色礫・雲母混入	胴部破片	縦位隆帯により区画する。区画内には撚り糸施文。	加曽利ＥⅠ～Ⅱ
12	D-292 土 1 層	深鉢	良好	砂粒・白色鉱物混入	口縁部破片	口縁部直下、隆帯と沈線にて文様帯を区画する。区画内に縄文を施し、一部に形状不明の横長隆帯と沈線を配す。	加曽利Ｅ
13	D-292 土	深鉢	普通	砂粒混入	口縁部破片	口縁部下に横位隆帯を配す。下位に沈線による楕円形区画を描き、口縁部文様帯を構成する。胴部は櫛歯状工具による縦位条線施文。一部、横位隆帯から「∩」字状隆帯を垂下させる。	加曽利Ｅ
14	D-292 土 1 層	浅鉢	普通	砂粒・チャート混入	口縁部破片	口縁端部は短く立ち上がり、外面に半載竹管状工具による刺突を横位に配す。口縁部文様帯は沈線と隆帯にて半円形に区画し、内側に縄文を施す。	加曽利Ｅ
15	D-292 土 1 層	深鉢	普通	砂粒混入	口縁部破片	波状口縁の波頂部に、棒状工具による渦巻き状の沈線を施す。胴部は縄文施文後、縦位の波状・直線状沈線を配す。	中期
16	D-292 土 1 層	深鉢	普通	砂粒混入	口縁部破片	2 条 1 組の細い粘土紐を横位に配し、さらに、短い粘土紐を縦位にかけることで梯子状の口縁部文様帯を構成する。一部、胴部にも同様の粘土紐を垂下させ、左右に斜位沈線を配す。	中期
17	D-292 土 1 層	深鉢	普通	砂粒・黒色鉱物混入	口縁部破片	口縁端部に渦巻き文を施した突起を付す。突起下部には橋状把手と隆帯を配す。	中期
18	D-292 土 1 層	浅鉢？	良好	砂粒混入	口縁部破片	渦巻き状の貼付文を口端部の外面と、内面やや上向きに付す。内面、口縁に沿って沈線 3 条。	中期後葉
19	D-292 土 2 層	深鉢	普通	砂粒・黒色鉱物・白色鉱物混入	口縁部破片	口縁部把手の一部。外面および頂部に、粘土紐と沈線を渦巻き状に配す。	中期後葉（曽利系？）
20	D-292 土 1 層	鉢	普通	砂粒・褐色礫混入	1/4	遺存部においては無文。	加曽利Ｅ
21	D-292 土	深鉢	普通	砂粒混入	口縁部破片	波状口縁の把手部分。円柱状の粘土の三方に稜を付し、頂部に縄文を配す。また、縁部は半載竹管状工具にて刺突を施す。	勝坂
22	D-292 土	深鉢	普通	砂粒混入	口縁部破片	波状口縁の把手部分。稜の頂部は縄文を配し、縁部に半載竹管状工具にて刺突を施す。遺存部下位、渦巻き状に粘土紐を付す。21 と同一個体か。	勝坂
23	D-292 土 1 層	深鉢	普通	砂粒・白色鉱物混入	口縁部破片	波状口縁の突起部分。内面口端部から外面下位まで耳状に粘土を貼り付ける。内外面口端部と側面の一部に刺突を施す。	堀之内 1
24	D-292 土	深鉢	良好	砂粒・石英混入	口縁部～胴部 1/8	沈線により楕円形・半円形・不整形等を組み合わせ区画する。全体を 4 単位に区画していると想定される。一部の区画内には単節 LR 縄文を充填する。内面口端部下位は厚み有し、稜状を呈している。	堀之内 2
25	D-292 土	注口土器	良好	砂粒混入	注口部破片	遺存部においては無文。良く研磨する。	堀之内？
26	D-292 土	ミニチュア土器	普通	砂粒・白色鉱物・片岩混入	ほぼ完存	遺存部中位、棒状工具による細い横位沈線を配し、以下を無文とする。沈線以上は縄文施文後、蕨手状の沈線を横位に 2 段以上描く。	中期？

A区 D － 294 号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
1	D-294 土	深鉢	普通	砂粒混入	胴部破片	2 条 1 組の縦位沈線により胴部を区画し、左右に斜位沈線を配す。	加曽利Ｅ

第 327 表　二軒在家原田Ⅱ遺跡Ａ区縄文時代土坑出土遺物観察表（25）

A区D－295号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
1	D-295 土	深鉢	普通	砂粒・褐色礫混入	口縁部～胴部 1/10	三角形の把手を有する波状口縁。単位は不明。隆帯と沈線により口縁部文様帯を楕円形又は長方形基調に区画する。口縁部は無文。無文帯下部に横位沈線を巡らす。	加曽利ＥⅠ

A区D－296号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
1	D-296 土	深鉢	普通	砂粒混入	胴部破片	隆帯と沈線にて口縁部文様帯を半月形に区画するものと思われる。区画内は縄文施文。胴部は蕨手状・弧状の隆帯を配す。	加曽利Ｅ

A区D－297号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
1	D-297 土	深鉢	普通	砂粒混入	胴部破片	棒状工具による幅広の縦位沈線にて胴部を区画後、一部区画内に縄文を充填する。	加曽利Ｅ

A区D－298号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
1	D-298 土	深鉢	普通	砂粒混入	口縁部破片	隆帯と沈線により、隅丸長方形状に口縁部を区画する。区画内は縦位短沈線を施し、連結部には渦巻き状の隆帯を配す。	加曽利Ｅ

A区D－299号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
1	D-299 土	浅鉢	普通	砂粒・角閃石混入	口縁部破片	口縁は内湾し、胴部上位は鍔状に開く。縄文施文。	加曽利Ｅ

A区D－300号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
1	D-300 土	深鉢	普通	砂粒混入	胴部破片	沈線と隆帯により口縁部文様帯を楕円形に区画し、連結部には渦巻き状の貼付文を付す。胴部は縄文施文。	加曽利Ｅ
2	D-300 土	鉢	普通	砂粒混入	口縁部破片	遺存部においては無文。ミニチュア土器か。	中期

A区D－301号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
1	D-301 土	深鉢	普通	砂粒混入	口縁部破片	隆帯と沈線により口縁部文様帯を楕円形に区画し、内側に刺突を施す。	加曽利Ｅ
2	D-301 土	深鉢	普通	砂粒混入	胴部破片	棒状工具による縦位沈線により胴部を区画し、左右に斜位短沈線を施す。	加曽利Ｅ

A区D－302号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
1	D-302 土	鉢	普通	砂粒混入	胴部破片	頸部、2条の横位隆帯を配し、さらに胴部を区画する2条の縦位隆帯との交点に円形貼付文を付す。胴部は棒状工具による縦位綾杉状沈線を施す。	加曽利Ｅ

A区D－303号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
1	D-303 土	深鉢	良好	砂粒・黒色鉱物・褐色礫混入	口縁部破片	口端部が内屈し、稜状を呈する。口縁部に幅の狭いやや厚みを有する無文帯を巡らす。口縁部、隆帯により隅丸長方形状に区画する。一部に渦巻き状モチーフを配置？区画内には無節Ｌ縄文施文。胴部、口縁部文様帯連結部下位に2条一組の縦位沈線を垂下させて区画する。区画内には無節Ｌ縄文施文。	加曽利ＥⅡ
2	D-303 土	深鉢	良好	砂粒・黒色鉱物混入	胴部破片	遺存部上位に口縁部文様帯を区画する横位隆帯を配す。胴部は縄文施文。	加曽利Ｅ
3	D-303 土	鉢	普通	砂粒・黒色鉱物混入	底部破片	底面に網代痕。	加曽利Ｅ？

第328表　二軒在家原田Ⅱ遺跡A区縄文時代土坑出土遺物観察表（26）

A区D－304号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
1	D-304 土	深鉢	普通	砂粒・白色鉱物混入	胴部破片	縄文施文後、櫛歯状工具による横位平行沈線・斜位沈線を配す。	諸磯b
2	D-304 土	深鉢	普通	砂粒混入	底部破片	外面、櫛歯状工具による縦位条線を施す。	加曽利E
3	D-304 土	深鉢	普通	砂粒混入	口縁部～胴部1/5	遺存部においては無文。	後期

A区D－305号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
1	D-305 土	鉢	普通	砂粒・黒色鉱物混入	胴部破片	口縁部文様帯の一部と思われる。遺存部下位に横位隆帯を配し、区画内に弧状・渦巻き状沈線を描く。	加曽利E

A区D－306号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
1	D-306 土	深鉢	良好	砂粒混入	7/10	胴部上位と中位に横位沈線を巡らし、その間を菱形・三角形に区画する。一部の区画内には単節LR縄文充填。口端部には刻み状短沈線施文。8ヶ所に沈線を伴う凹部を有す。さらに内面最上位に沈線を巡らす。	堀之内2
2	D-306 土	深鉢	普通	砂粒混入	口縁部破片	波状口縁か。口縁下に横位圧痕隆帯を配し、下部に弧状・入り組み状の沈線を施す。	堀之内

A区D－309号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
1	D-309 土	深鉢	普通	砂粒・褐色礫混入	胴部破片	半載竹管状工具押し引きによる爪形文を弧状に配し、一部に浮線文を施す。	諸磯b

A区D－312号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
1	D-312 土	浅鉢	普通	砂粒混入	口縁部破片	遺存部においては無文。外面口端部に横位沈線を巡らす。	後期

A区D－314号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
1	D-314 土	深鉢	普通	砂粒混入	口縁部破片	口端部は短く内傾し、上面に平行沈線を配す。遺存部下位にやや扁平な波状隆帯を付し、上位に斜位沈線を施す。	中期後葉？
2	D-314 土	鉢	普通	砂粒・角閃石混入	口縁部破片	口端部に2条の横位隆帯を配す。胴部は無文。一部口縁に小突起を付し、下部に刺突を2カ所施す。	堀之内
3	D-314 土	鉢	普通	砂粒混入	胴部破片	外面、横位沈線にて区画し、内側に磨消縄文を施す。内面、横位隆帯と棒状工具による押圧のため断面凸凹状を呈す。	加曽利B

A区D－315号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
1	D-315 土	深鉢	普通	砂粒混入	胴部破片	半載竹管状工具押し引きによる横位爪形文と、浮線文を平行して交互に配す。	諸磯b
2	D-315 土	浅鉢	良好	砂粒混入	口縁部破片	遺存部においては無文。口端部はやや肥厚する。	加曽利E

A区D－316号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
1	D-316 土	深鉢	良好	砂粒・雲母混入	口縁部破片	口縁部下、間隔をあけて横位圧痕隆帯を2条配す。一部、円形刺突文を連続して縦位に施し、隆帯を連結する。内面口端部に横位沈線を配す。	堀之内2
2	D-316 土	深鉢	普通	砂粒混入	口縁部破片	口縁部下に横位圧痕隆帯と沈線を配し、一部8の字状貼付文を付す。胴部は縄文施文。内面口端部に横位沈線を配す。	堀之内2
3	D-316 土	注口土器	普通	砂粒混入	胴部破片	櫛歯状工具による横位・弧状条線を配す。外面は良く研磨する。体部下半か。	堀之内2～加曽利B
4	D-316 土	注口土器？	良好	砂粒混入	胴部破片	遺存部上位、頸部に横位隆帯と沈線を配す。胴部は沈線にて渦巻き文を描く。頸部・胴部共に文様を縁取るように、細かい刺突を施す。体部上半か。	堀之内
5	D-316 土	深鉢	普通	砂粒・黒色鉱物混入	底部1/2	底面に網代痕。	後期

第329表　二軒在家原田Ⅱ遺跡A区縄文時代土坑出土遺物観察表（27）

A区D－317号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
1	D-317 土	深鉢	普通	砂粒混入	口縁部破片	隆帯と沈線により口縁部を楕円形に区画し、内側に縄文を施す。	加曽利E
2	D-317 土	深鉢	普通	砂粒混入	胴部破片	縄文施文後、棒状工具による弧状・蕨手状沈線を施す。	加曽利E併行
3	D-317 土	深鉢	普通	砂粒混入	口縁部破片	棒状工具による沈線により胴部を幾何学文状に区画し、内側に縄文を施す。	堀之内2

A区D－318号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
1	D-318 土	鉢	普通	砂粒混入	胴部破片	頸部、横位沈線を2条配し、8の字状貼付文を付す。胴部は弧状あるいは同心円状沈線を配すと思われる。	堀之内2

A区D－320号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
1	D-320 土	深鉢	普通	砂粒・植物繊維混入	胴部破片	遺存部においては羽状縄文を施す。	有尾・黒浜
2	D-320 土	深鉢	普通	砂粒混入	胴部破片	遺存部においては無文。外面は良く研磨し、下位に横位沈線を配す。	後期

A区D－322号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
1	D-322 土	深鉢	良好	砂粒・褐色礫混入	口縁部～胴部1/2	口縁部に横位圧痕隆帯を巡らす。胴部は刺突を伴うU字状・蛇行隆帯、刺突のない蛇行隆帯で3単位に区画する。横方向断面は楕円形である。	称名寺
2	D-322 土	深鉢	普通	砂粒・黒色鉱物混入	口縁部破片	遺存部においては波状口縁端部に突起を有し、渦巻き状の貼付文を付す。波頂部下から口縁に沿って圧痕隆帯を配す。胴部は棒状工具にてJ字状区画を施す。	称名寺
3	D-322 土	深鉢	普通	砂粒混入	胴部1/10	外面全体が摩滅しており、調整が不明瞭な部分がある。沈線により区画する。	称名寺
4	D-322 土	深鉢	普通	砂粒混入	口縁部破片	棒状工具による入り組み状・J字状沈線にて胴部を区画し、内側に縄文を施す。	称名寺
5	D-322 土	深鉢	普通	砂粒混入	口縁部破片	棒状工具による入り組み状沈線にて胴部を区画し、内側に縄文を施す。	称名寺
6	D-322 土	浅鉢	普通	砂粒混入	口縁部破片	口端部は短く外反する。口縁直下、横位隆帯により区画し、内側に棒状工具による刺突を施す。胴部は弧状あるいは同心円状の沈線を描く。一部、口縁部文様帯から胴部にかけて「S」字状の貼付文を付す。	称名寺～堀之内

A区D－323号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
1	D-323 土	深鉢	普通	砂粒・石英・金雲母混入	口縁部破片	口縁部下、半載竹管状工具による横位沈線にて区画し、内側に斜位沈線を施す。一部に橋状貼付文を付す。胴部は沈線により長方形状に区画する。	五領ヶ台
2	D-323 土	深鉢	普通	砂粒・石英・金雲母混入	口縁部破片	遺存部において口縁は波状を呈する。半載竹管状工具による横位沈線にて口縁部文様帯を区画し、内側に斜位沈線を施す。一部に橋状貼付文を付す。	五領ヶ台
3	D-323 土	深鉢	普通	砂粒・白色鉱物混入	口縁～胴部1/3	蕨手文状隆帯を横位に連続させ、口縁部を区画する。区画以下は単節縄文を施文する。	加曽利E

A区D－324号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
1	D-324 土	深鉢	普通	砂粒・角閃石混入	口縁部破片	隆帯と沈線により口縁部文様帯を区画し、内側に縦位短沈線を施す。区画は楕円形か。	加曽利E
2	D-324 土	深鉢	普通	砂粒混入	胴部破片	遺存部、縦位隆帯により胴部を区画。内側に弧状あるいは同心円状の沈線を配す。一部に細い縦位沈線を施す。	加曽利E

第330表　二軒在家原田Ⅱ遺跡A区縄文時代土坑出土遺物観察表（28）

A区D－326号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
1	D-326 土	深鉢	普通	砂粒・白色鉱物・石英・角閃石混入	口縁部～底部 4/5	平口縁。口縁部無文（横位のミガキ）。胴部単節RL縄文を綾杉状に斜位施文→頸部に丸棒状工具による3本1単位の横位沈線→3本一単位の懸垂文を5単位、1本1単位の蛇行懸垂文を4単位施文。懸垂文間は一部雑な磨り消し。底部網代痕→ナデ。内面は横位のナデ・ミガキ。	中期後葉（曽利系）
2	D-326 土	深鉢	普通	砂粒・石英混入	胴部破片	2条1組の縦位隆帯により胴部を区画し、内側に縦位綾杉状沈線を施す。一部区画内に弧状あるいは渦巻き状の隆帯を配す。	加曽利E併行（曽利系？）
3	D-326 土	深鉢	普通	砂粒・石英混入	胴部破片	2条1組の縦位隆帯にて胴部を区画する。区画内は縦位綾杉状沈線を施す。隆帯の一部は蕨手状・弧状を呈す。	加曽利E併行

A区D－327号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
1	D-327 土	深鉢	普通	砂粒混入	口縁部破片	隆帯により口縁部文様帯を楕円形に区画し、内側に縄文を施す。区画連結部は渦巻き状の貼付文を付すものと考えられる。	加曽利E

A区D－329号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
1	D-329 土	小型深鉢	普通	砂粒混入	ほぼ完形	口縁は短く内湾する。外面、縄文施文後、頸部上位まで櫛歯状工具による横位条線を全面に配す。	諸磯b

A区D－331号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
1	D-331 土	深鉢	普通	砂粒・雲母混入	胴部破片	遺存部においては棒状工具により胴部を弧状に区画し、一部区画内に縄文を施す。	称名寺

A区D－332号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
1	D-332 土	深鉢	普通	砂粒混入	口縁部破片	隆帯と沈線により口縁部文様帯を楕円に区画し、内側に縄文を施す。区画連結部は渦巻き状の貼付文を付すものと思われる。	加曽利E
2	D-332 土	浅鉢	普通	砂粒・白色鉱物混入	口縁部破片	遺存部においては無文。内外面の一部に赤彩あり。	加曽利E

A区D－333号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
1	D-333 土	深鉢	普通	砂粒混入	口縁部破片	遺存部中位に横位圧痕隆帯を配す。	堀之内1

第331表　二軒在家原田Ⅱ遺跡A区縄文時代土坑出土遺物観察表（29）

B区住居址

B区J－3号住居址

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
1	J-3 住6区1層・6区ﾍﾞﾙﾄ1層	深鉢	普通	砂粒・褐色礫混入	口縁部破片	やや外反する平口縁と想定される。抉るような深い刺突文を施す。浮島式影響下の土器と考えられる。	諸磯b併行
2	J-3 住6区1層	深鉢	普通	砂粒混入	口縁部破片	棒状工具あるいは爪による刺突文を横位に4段以上配す。	諸磯b併行
3	J-3 住2区2層	深鉢	普通	砂粒・褐色礫混入	胴部破片	抉るような深い刺突文を施す。浮島式影響下の土器と考えられる。1と同一個体か。	諸磯b併行
4	J-3 住7区1層	浅鉢	普通	砂粒混入	口縁部破片	遺存部においては無文。中位に細い隆帯を横位に配す。下部に小孔2カ所。	諸磯b？
5	J-3 住7区1層	深鉢	普通	砂粒・白色鉱物・石英混入	口縁部～胴部 1/4	平口縁。頸部　半截竹管状工具工具による集合沈線（口縁部・胴部上半横位直線文、胴部下半縦位直線文および斜格子文）→口縁部に断面D字状の突起・円形浮文を添付→円形浮文に竹管状工具による刺突。内面は口縁～胴部上半横位のミガキ。胴部下半縦位および横位のミガキ。	諸磯c

第332表　二軒在家原田Ⅱ遺跡B区縄文時代住居址出土遺物観察表（1）

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
6	J-3 住 8 区 1 層	深鉢	良好	砂粒・白色鉱物混入	口縁部破片	胴部上位において外反し、口縁部で顕著に内屈する。半截竹管状工具による平行沈線（半隆起線状）を矢羽根状・横位直線状に施し、耳状・円形貼付文を配す。	諸磯 c
7	J-3 住 7 区 1 層	深鉢	良好	砂粒・白色鉱物・雲母混入	口縁部破片	胴部上位において外反し、口縁部で顕著に内屈する。半截竹管状工具による縦位・横位平行沈線施文後、耳状・棒状・ボタン状貼付文を配す。一部の貼付文は剥落。胴部の平行沈線は縦位直線状・弧状か。	諸磯 c
8	J-3 住 10 区ﾍﾞﾙﾄ 2 層	深鉢	良好	砂粒・白色鉱物・雲母混入	口縁部破片	胴部上位において顕著に内屈する。半截竹管状工具による斜位・横位平行沈線（半隆起線状）施文後、耳状・棒状・円形・ボタン状貼付文を配す。また、口縁部には同工具押し引きによる結節浮線文状貼付文（一部は刺突を伴う隆帯状を呈す）を 4 条施す。	諸磯 c
9	J-3 住 8 区 1 層	深鉢	良好	砂粒・白色鉱物・雲母混入	口縁部破片	胴部上位において外反し、口縁部で顕著に内屈する。半截竹管状工具による横位平行沈線施文後、耳状・棒状・円形貼付文を配す。耳状貼付文両脇には刺突文を施す。さらに、口端部内面には、竹管状工具による円形刺突を伴うボタン状貼付文を配す。	諸磯 c
10	J-3 住 15 区 1 層	深鉢	良好	砂粒・白色鉱物混入	口縁部破片	胴部上位において外反し、口縁部はほぼ直立する。半截竹管状工具による斜位・横位平行沈線（半隆起線状）施文後、耳状・ボタン状・円形貼付文を配す。	諸磯 c
11	J-3 住 1 区 2 層	深鉢	普通	砂粒・ﾁｬｰﾄ・褐色礫混入	口縁部破片	口端部上面から内面に棒状貼付文施文。棒状貼付文間は半截竹管状工具による縦位平行沈線を施す。外面には同工具による平行沈線を横位・斜位・縦位に施す。さらに一部に楕円形貼付文を配す。	諸磯 c
12	J-3 住 8 区 1 層	深鉢	良好	砂粒混入	口縁部破片	三角形の孔を有する橋状把手を施す。把手両端には半截竹管状工具による刺突を施す。把手中間部にも同様の施文による 2 条の棒状貼付文施文。把手両脇には半截竹管状工具による平行沈線施文後、刺突を伴うボタン状貼付文を施す。胴部、横位平行沈線施文後、ボタン状・楕円形（沈線を伴う）貼付文を配す。	諸磯 c
13	J-3 住 14 区ﾍﾞﾙﾄ 1 層	深鉢	良好	砂粒混入	口縁部破片	外反する平口縁と想定される。半截竹管状工具による平行沈線を横位直線状・矢羽根状に施し、棒状・ボタン状貼付文を配す。また口端部と棒状貼付文には、同工具押し引きによる圧痕（結節浮線文状を呈する）を施す。	諸磯 c
14	J-3 住 6 区 2 層	深鉢	良好	砂粒混入	口縁部破片	口端部最上位に半截竹管状工具を左右から刺突することによる文様（列点状楕円形貼付文を呈する）を施す。胴部、同工具による横位平行沈線により区画し、区画内には斜位平行沈線を施す。一部の区画のﾓﾁｰﾌは鋸歯状を呈する。さらに、半截竹管状工具による刺突を伴うボタン状貼付文、また剥落しているが楕円形又は棒状貼付文を配す。	諸磯 c
15	J-3 住 9 区ﾍﾞﾙﾄ 1 層	深鉢	良好	砂粒・白色鉱物・金雲母混入	胴部破片	半截竹管状工具による縦位直線状・弧状平行沈線（半隆起線状を呈する）で区画し、一部の区画内に円形貼付文を配す。17・27 と同一個体と考えられる。	諸磯 c
16	J-3 住 3 区 1 層	深鉢	良好	砂粒・白色鉱物混入	口縁部破片	外反する 4 単位波状口縁と想定される。口縁に並行して 4 条の結節浮線文を巡らす。胴部には同工具による弧状結節浮線文を施す。	諸磯 c
17	J-3 住 10 区 1 層	深鉢	良好	砂粒・白色鉱物・金雲母混入	口縁部破片	4 単位波状口縁と想定される。口縁に並行して 6 条の結節浮線文を巡らす。胴部、縦位・横位直線状、弧状結節浮線文で区画し、一部の区画内に円形貼付文を配す。	諸磯 c
18	J-3 住 10 区 1 層・10 区ﾍﾞﾙﾄ一括	深鉢	良好	砂粒・褐色礫混入	口縁部破片	4 単位波状口縁深鉢。口縁に並行する細沈線施文後、直線状・弧状等結節浮線文により区画する。一部の区画内には円形貼付文を施す。	諸磯 c
19	J-3 住 11 区 1 層	深鉢	普通	砂粒・白色鉱物混入	口縁部破片	4 単位波状口縁の波頂部付近が遺存すると想定される。半截竹管状工具による横位細沈線施文後、結節浮線文を施す。渦巻き状ﾓﾁｰﾌと想定される。	諸磯 c
20	J-3 住 2 区 1 層	深鉢	普通	砂粒混入	口縁部破片	外反する 4 単位波状口縁と想定される。斜位細沈線施文後、口縁に並行して 3 条の短沈線を伴う貼付文を巡らす。胴部には同様の貼付文を弧状に施す。	諸磯 c
21	J-3 住 7 区ﾍﾞﾙﾄ NO1	深鉢	良好	砂粒・白色鉱物混入	口縁部破片	口縁部、半截竹管状工具により口縁に並行して沈線施文後、結節浮線文を巡らす。胴部、同工具により矢羽根状に沈線施文後、縦位・横位に結節浮線文を施す。さらに一部の区画内に円形貼付文を配す。	諸磯 c
22	J-3 住 6 区ﾍﾞﾙﾄ一括	深鉢	良好	砂粒混入	口縁部破片	外反する 4 単位波状口縁と想定される。横位細沈線施文後、口縁に並行して 2 条の結節浮線文を巡らす。さらに、3 条の並行する縦位結節浮線文で区画し、区画内にボタン状貼付文を施す。	諸磯 c

第 333 表　二軒在家原田Ⅱ遺跡 B 区縄文時代住居址出土遺物観察表（2）

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成　②胎土　③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
23	J-3 住 2 区 2 層	深鉢	普通	砂粒・石英混入	口縁部破片	半截竹管状工具により口縁に並行して沈線施文後、結節浮線文を口縁に並行して 2 条巡らす。また、波頂部下位には 3 条の縦位結節浮線文を垂下させる。さらに一部の区画内に 2 個一組の円形貼付文を配す。	諸磯 c
24	J-3 住 2 区 1 層	深鉢	普通	砂粒混入	口縁部破片	4 単位波状口縁の波頂部付近が遺存すると想定される。半截竹管状工具による横位細沈線施文後、波頭部より 3 条の縦位結節浮線文を垂下させる。一部に 2 個一組の円形貼付文を配す。	諸磯 c
25	J-3 住 10 区 1 層	深鉢	良好	砂粒・・金雲母混入	胴部破片	半截竹管状工具による斜位・縦位細沈線施文後、縦位基調の結節浮線文を施す。さらに一部に小さめの円形貼付文を配す。	諸磯 c
26	J-3 住 10 区 1 層	深鉢	良好	砂粒混入	胴部破片	半截竹管状工具により矢羽根状に沈線施文後、縦位・斜位・横位に結節浮線文を施す。さらに一部の区画内に円形貼付文を配す。	諸磯 c
27	J-3 住 10 区 1 層	深鉢	良好	砂粒・白色鉱物・金雲母混入	胴部破片	遺存部上半、弧状・渦巻き状結節浮線文を施す。遺存部下半、半截竹管状工具による縦位直線状・弧状平行沈線（半隆起線状を呈する）で区画し、一部の区画内に 2 個一対の円形貼付文を配す。	諸磯 c
28	J-3 住 14 区 1 層	深鉢	普通	砂粒・褐色礫混入	胴部 1/6	遺存部上半、半截竹管状工具による平行沈線を縦位・斜位・格子目状に施す。遺存部下半、同工具による横位平行沈線を施す。	諸磯 c
29	J-3 住 9 区 1 層	深鉢	普通	砂粒・雲母混入	胴部破片	半截竹管状工具による横位細沈線施文後、弧状（本来は渦巻き状ﾓﾁｰﾌと想定される）結節浮線文を施す。一部に 2 個一組の円形貼付文を配す。	諸磯 c
30	J-3 住 10 区ﾍﾞﾙﾄ一括	深鉢	良好	砂粒・褐色礫混入	胴部破片	横位細沈線施文後、結節浮線文により区画する。遺存部上位は目玉状ﾓﾁｰﾌの一部と考えられる。18 と同一個体と想定される。	諸磯 c
31	J-3 住 3 区 2 層	深鉢	普通	砂粒・白色鉱物・雲母混入	胴部破片	半截竹管状工具による平行沈線（半隆起線状を呈する）で区画する。	諸磯 c
32	J-3 住 6 区 1 層	深鉢	普通	砂粒混入	胴部～底部破片	斜位直線状・弧状結節浮線文により区画する。一部の区画内に円形貼付文を配す。内面に炭化物付着。	諸磯 c
33	J-3 住 14 区 1 層	深鉢	普通	砂粒混入	底部破片	胴部下位から底部にかけて張り出す器形。半截竹管状工具による横位平行沈線（半隆起線状を呈する）を施す。やや上げ底状。	諸磯 c
34	J-3 住 6 区 2 層	深鉢	良好	砂粒・石英混入	口縁部破片	波状口縁と想定される。半截竹管状工具による横位平行沈線施文後、一部に鋸歯状・円形貼付文を配す。貼付文の一部は剥落。大木系か。	諸磯 c 併行
35	J-3 住 10 区ﾍﾞﾙﾄ一括	深鉢	普通	砂粒・白色鉱物混入	胴部破片	単節 RL 縄文施文後、横位に鋸歯状貼付文を施す。	諸磯 c 併行（大木系？）
36	J-3 住 10 区ﾍﾞﾙﾄ 2 層	深鉢	普通	砂粒・白色鉱物・雲母混入	胴部破片	半截竹管状工具による横位平行沈線（半隆起線状呈する）施文。一部に鋸歯状貼付文を施す。	諸磯 c 併行（大木系？）
37	J-3 住 2 区ﾍﾞﾙﾄ 1 層	深鉢	普通	砂粒混入	胴部破片	棒状工具により木葉状に区画し、内側は櫛歯状工具による刺突を施す。	前期末葉
38	J-3 住 7 区ﾍﾞﾙﾄ 1 層	浅鉢	良好	砂粒・白色鉱物・雲母混入	体部破片	諸磯 c 式期浅鉢。体部上位に於いて鋭角に内屈する。遺存部から推定すると体部上面はほぼ」水平か。体部中位外面には沈線状の段差を巡らす。	諸磯 c
39	J-3 住 10 区ﾍﾞﾙﾄ一括・13 区 1 層	浅鉢	良好	砂粒・金雲母混入	口縁部～体部破片	諸磯 c 式期浅鉢。体部上位に於いて鋭角に内屈し、口縁部が立ち上がる。口縁部の立ち上がり付近には円孔を巡らす。	諸磯 c
40	J-3 住 15 区 1 層	浅鉢	良好	砂粒・白色鉱物混入	体部破片	遺存部の上位において内屈すると考えられる。	諸磯 c ？
41	J-3 住 6 区 2 層	深鉢	普通	砂粒混入	口縁部破片	4 単位波状口縁の波底部付近か。口縁部、厚みを有する三角形と三角形印刻文を施す。胴部、半截竹管状工具による平行沈線を横位直線状・鋸歯状、斜位に施し区画する。鋸歯状部分には三角形印刻文を施す。	十三菩提
42	J-3 住 2 区 1 層	深鉢	良好	砂粒混入	胴部破片	半截竹管状工具による平行沈線を弧状に施す。遺存部においては弧状であるが、渦巻き状ﾓﾁｰﾌである可能性がある。また一部には幅広の印刻状沈線を並行させる。	十三菩提
43	J-3 住 6 区 2 層	深鉢	良好	砂粒・白色鉱物混入	胴部破片	半截竹管状工具による平行沈線を横位直線状・弧状、縦位直線状に施し区画する。一部の区画を印刻する。	十三菩提
44	J-3 住 10 区ﾍﾞﾙﾄ一括	深鉢	普通	砂粒混入	胴部破片	半截竹管状工具による横位平行沈線（半隆起線状を呈する）で区画する。区画内に同工具による鋸歯状平行沈線・三角形印刻文を施す。	十三菩提
45	J-3 住 2 区 1 層・5 区 1 層	深鉢	普通	砂粒混入	胴部破片	半截竹管状工具による平行沈線（半隆起線状を呈する）を横位・斜位直線状、弧状等に施し区画する。一部に三角印刻文を配す。	十三菩提
46	J-3 住 1 区 1 層	深鉢	普通	砂粒・白色鉱物・雲母混入	胴部破片	半截竹管状工具による平行沈線（半隆起線状を呈する）を横位・斜位直線状、縦位弧状に施し区画する。一部の区画内に棒状貼付文・印刻（三角形か）を配す。	十三菩提

第 334 表　二軒在家原田Ⅱ遺跡Ｂ区縄文時代住居址出土遺物観察表（３）

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
47	J-3 住 6 区 1 層	深鉢	良好	砂粒混入	胴部～底部破片	半截竹管状工具による結節沈線を弧状・横位直線状に施す。一部に三角形・弧状（?）の印刻文施文。	十三菩提
48	J-3 住 1 区 1 層	深鉢	普通	砂粒・白色鉱物・雲母混入	口縁部破片	外面口端部に圧痕を巡らす。胴部、無節Ｌ縄文施文。	前期後葉～末葉
49	J-3 住 1 区 2 層	人面型土製品	普通	砂粒・白色鉱物混入	ほぼ完存	円形の正面観。目と口を短沈線のようにくぼませ、鼻と眉を粘土の貼り足しにて表現。内・外面ともナデ調整。糸井宮前遺跡 118 号住居跡出土資料（渋川市）に類似。	前期後葉
50	J-3 住 9 区 1 層	土偶	普通	砂粒・白色鉱物・褐色礫混入	脚部破片	内側に細かな刺突を伴う沈線により、渦巻文などが表出される。足首の前後・外側面に 8 の字状貼付文が施される。腰にはキザミを伴う横位隆帯。腰部において、背面はおおむね平坦であるのに対し、正面はわずかにふくらむ。ナデおよびミガキ。	堀之内 2

B区Ｊ－６号住居址

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
1	J-6 住 62 区一括・周辺表採	深鉢	普通	砂粒・白色鉱物・雲母混入	口縁部破片	半截竹管状工具による平行沈線（半隆起線状を呈する）を横位に施文後、斜位に施す。一部は矢羽根状を呈する。口端部上面を中心に、内外面にまたがり棒状貼付文施文。さらに外面にも 2 個一対の棒状貼付文、円形貼付文を配す。	諸磯ｃ
2	J-6 住D -1 土	深鉢	良好	砂粒混入	口縁部破片	半截竹管状工具による平行沈線を外面は横位に、内面上位は斜位に施す。口端部上面に耳状貼付文、外面には棒状貼付文を配す。さらに口端部上面から内面上位にかけ、刺突を伴う横位棒状貼付文を施す。	諸磯ｃ
3	J-6 住埋設土器	深鉢	普通	砂粒・白色鉱物・雲母混入	口縁～胴部破片	口縁はほぼ直立する。半截竹管状工具による平行沈線をジグザグ状に配し、菱形文を形成する。施文後、2 個一対の円形貼付文を配す。	諸磯ｃ？
4	J-6 住D -1 土	深鉢	普通	砂粒混入	胴部破片	半截竹管状工具による縦位平行沈線（半隆起線状を呈する）で区画する。一部の区画内には同工具による横位平行沈線を施す。さらに一部にボタン状貼付文を配す。	諸磯ｃ
5	J-6 住D -1 土	深鉢	良好	砂粒・雲母混入	胴部破片	半截竹管状工具による結節浮線文を弧状に施す（遺存するのは弧状だが、本来は渦巻き状であろう）。	諸磯ｃ
6	J-6 住D -1 土	浅鉢？	普通	砂粒・白色鉱物混入	体部破片	浅鉢の最大径付近か。焼成前の孔を配す。遺存部においては無文。	諸磯ｃ？

B区Ｊ－７号住居址

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
1	J-7 住一括	深鉢	普通	砂粒・白色鉱物・雲母混入	口縁部破片	胴部上位に於いて顕著に内屈する 4 単位波状口縁と想定される。単節 LR 縄文施文後、横位・縦位直線状、弧状・渦巻き状浮線文を施す。口端部上面にはＸ字状モチーフの貼付文施文か（一部剥落）。	諸磯ｂ
2	J-7 住一括	深鉢	普通	砂粒・チャート混入	口縁部破片	外反する 4 単位波状口縁と想定される。横位細沈線施文後、弧状・渦巻き状結節浮線文を施す。	諸磯ｃ
3	J-7 住一括	深鉢	普通	砂粒混入	胴部破片	無節Ｌ縄文施文後、円形貼付文を配す。	諸磯ｃ

第 335 表　二軒在家原田Ⅱ遺跡Ｂ区縄文時代住居址出土遺物観察表（４）

Ｃ区住居址

Ｃ区Ｊ－84 号住居址

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成　②胎土　③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
1	J-84 住 2 区 1 層	深鉢	普通	砂粒・褐色礫・雲母混入	口縁部破片	半截竹管状工具押し引きによる爪形文を施す。	諸磯ｂ
2	J-84 住 2 区 1 層	深鉢	良好	砂粒混入	胴部破片	半截竹管状工具による横位平行沈線を施す。	諸磯ｂ
3	J-84 住 2 区 1 層	深鉢	不良	砂粒・褐色礫混入	底部破片	胴部下位から底部にかけて顕著に張り出す。遺存部最上位に横位沈線を施す。以下は無文か。全体的に摩滅が著しい。	諸磯ｂ

Ｃ区Ｊ－85 号住居址

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成　②胎土　③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
1	J-85 住一括	深鉢	普通	砂粒・褐色礫・植物繊維混入	口縁部破片	4 単位波状口縁と想定される。口端部に半截竹管状工具による縦位短沈線を巡らす。その下位には同工具押し引きによる爪形文を施す。一部の縦位短沈線と爪形文が重複し、ﾓﾁｰﾌが乱れている。	有尾
2	J-85 住一括	深鉢	普通	砂粒・褐色礫・植物繊維混入	口縁部破片	4 単位波状口縁と想定される。口端部に半截竹管状工具による縦位短沈線を巡らす。その下位には同工具押し引きによる爪形文を施す。	有尾
3	J-85 住一括	深鉢	良好	砂粒・褐色礫・植物繊維混入	口縁部破片	4 単位波状口縁と想定される。口端部に半截竹管状工具による縦位短沈線を巡らす。その下位には同工具押し引きによる爪形文を施す。	有尾
4	J-85 住一括	深鉢	普通	砂粒・褐色礫・植物繊維混入	口縁部破片	口端部に半截竹管状工具による縦位短沈線を巡らす。その下位には同工具押し引きによる爪形文を施す。一部の縦位短沈線と爪形文が重複し、ﾓﾁｰﾌが乱れている。	有尾
5	J-85 住一括	深鉢	普通	砂粒・植物繊維混入	口縁部破片	半截竹管状工具による平行沈線施文後、沈線間に同工具による連続刺突文を施す。爪形文を意識か。	有尾・黒浜

Ｃ区Ｊ－86 号住居址

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成　②胎土　③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
1	J-86 住 3 区	深鉢	良好	砂粒・褐色礫・ﾁｬｰﾄ混入	口縁部破片	口端部下位において顕著に内屈する。口縁部に並行して 4 条の結節浮線文、その下位には紐状貼付文・斜位沈線施文。さらに口端部付近の一部に棒状貼付文を施す。	諸磯ｃ
2	J-86 住 3 区	深鉢	良好	砂粒混入	胴部破片	遺存部上半、半截竹管状工具による平行沈線施文。遺存部下半、同工具による縦位・斜位平行沈線施文後、棒状・ボタン状貼付文を配す。	諸磯ｃ
3	J-86 住 3 区	深鉢	普通	砂粒・褐色礫混入	胴部破片	遺存部上半、半截竹管状工具による横位基調平行沈線（一部半隆起線状）施文。遺存部下半、同工具による縦位平行沈線で区画し、区画内には縦位弧状・綾杉状平行沈線施文。さらに刺突を伴う 2 個一対の円形貼付文、棒状貼付文を配す。	諸磯ｃ
4	J-86 住 4 区 1 層	深鉢	普通	砂粒混入	胴部破片	半截竹管状工具による縦位基調平行沈線（一部半隆起線状）で区画する。区画内には斜位・格子目状平行沈線を施す。さらに半截竹管状工具による刺突を伴う円形貼付文、棒状貼付文を配す。	諸磯ｃ
5	J-86 住 3 区	深鉢	普通	砂粒混入	底部破片	半載竹管状工具による横位・斜位平行沈線を施した後、一部にボタン状貼付文を付す。	諸磯ｃ
6	J-86 住 3 区	深鉢	良好	砂粒・褐色礫混入	口縁部破片	4 単位波状口縁と想定される。口縁部に並行して 2 条の結節浮線文を巡らす。口縁部文様帯から胴部にかけては横位直線状・渦巻き状結節浮線文を施す。一部には縦位結節浮線文・円形貼付文を配す。また一部の結節浮線文は、貼付文に対して横方向からの刺突となって乱れている。	諸磯ｃ
7	J-86 住 3 区	深鉢	普通	砂粒・褐色礫混入	口縁部破片	4 単位波状口縁と想定される。口縁部に並行して 2 条の結節浮線文を巡らす。口縁部文様帯には渦巻き状・弧状結節浮線文を施す。	諸磯ｃ
8	J-86 住 3 区	深鉢	良好	砂粒・褐色礫混入	胴部破片	横位細沈線施文後、横位・縦位直線状結節浮線文を施す。遺存部最下位には縦位沈線施文後、2 個一対の円形貼付文施文。6 と同一個体と考えられる。	諸磯ｃ
9	J-86 住 3 区	深鉢	普通	砂粒・褐色礫混入	胴部破片	横位細沈線施文後、横位直線状・渦巻き状結節浮線文を施す。	諸磯ｃ
10	J-86 住 3 区	深鉢	普通	砂粒・褐色礫混入	胴部破片	横位細沈線施文後、縦位直線状・弧状結節浮線文を施す。また一部に円形貼付文を配す。	諸磯ｃ
11	J-86 住 3 区	深鉢	良好	砂粒・雲母混入	胴部破片	棒状工具による刺突文を横位に 2 段以上施す。	諸磯ｃ併行

第 336 表　二軒在家原田Ⅱ遺跡Ｃ区縄文時代住居址出土遺物観察表（１）

D区住居址

D区J－18号住居址

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
1	J-18 住 15 区床	深鉢	普通	砂粒・植物繊維混入	口縁部破片	無節 L 縄文施文後、口縁部に半截竹管状工具による直線状・弧状平行沈線を施す。さらに一部は同工具による縦位平行沈線で区画する。	有尾・黒浜
2	J-18 住 16 区 1 層	深鉢	普通	砂粒・ﾁｬｰﾄ・植物繊維混入	口縁部破片	口端部に櫛歯状工具による縦位列点状刺突を巡らす。胴部、同工具による列点状刺突を横位・縦位・斜位に施し区画する。斜位列点状刺突は、斜位平行沈線施文後に施している。	有尾
3	J-18 住 14 区 1 層	深鉢	良好	砂粒・白色礫・植物繊維混入	口縁部破片	4 単位波状口縁深鉢と想定される。口端部に縦位沈線を施す。沈線下位には、半截竹管状工具押し引きによる爪形文施文。胴部、単節 RL 縄文施文。	有尾
4	J-18 住 13 区 1 層	深鉢	良好	砂粒・植物繊維混入	口縁部破片	口縁部が内反する 4 単位波状口縁深鉢の波底部付近小波状部と想定される。半截竹管状工具押し引きによる爪形文により区画する。	有尾・黒浜
5	J-18 住 7 区 1 層・9 区 1 層・15 区床・周溝一括	深鉢	普通	砂粒・褐色礫・植物繊維混入	胴部破片	単節 RL と LR 縄文横転がし。	有尾・黒浜
6	J-18 住炉	深鉢	普通	砂粒・植物繊維混入	胴部 3/4	単節縄文施文。	有尾・黒浜
7	J-18 住 16 区 1 層	深鉢	普通	砂粒・白色鉱物・白色礫・植物繊維混入	胴部破片	隆帯と櫛歯状工具による弧状刺突により区画する。	有尾
8	J-18 住 16 区 1 層	深鉢	普通	砂粒・植物繊維混入	胴部破片	付加条縄文を施す。	有尾・黒浜
9	J-18 住 15 区 1 層	深鉢	普通	砂粒・褐色礫・植物繊維混入	胴部破片	単節 RL 環付末端縄横転がし。	有尾・黒浜
10	J-18 住 6 区 1 層	深鉢	普通	砂粒・植物繊維混入	胴部破片	付加条縄文を施す。	有尾・黒浜
11	J-18 住 2 区 1 層	深鉢	普通	砂粒・植物繊維混入	胴部破片	単節 LR 環付末端縄横転がし。	有尾・黒浜
12	J-18 住 12 区 1 層	深鉢	良好	砂粒・植物繊維混入	胴部破片	口縁部文様帯から胴部上位が遺存すると想定される。頸部に横位隆帯と櫛歯状工具による列点状刺突を巡らす。口縁部文様帯は列点状刺突による菱形・三角形ﾓﾁｰﾌの区画と考えられる。胴部には単節 RL 縄文施文。	有尾
13	J-18 住 15 区床	深鉢	普通	砂粒・白色鉱物・植物繊維混入	底部破片	単節 LR 縄文施文。底部は上げ底状を呈する。	有尾・黒浜
14	J-18 住 7 区 1 層	深鉢	普通	砂粒・植物繊維混入	底部破片	遺存部においては無文。底部はやや上げ底状を呈す。	有尾・黒浜
15	J-18 住 15 区床・D-1 土	深鉢	普通	砂粒・ﾁｬｰﾄ・褐色礫・植物繊維混入	底部破片	縄文（単節 RL と LR による羽状？）施文。底部はやや上げ底状を呈する。	有尾・黒浜
16	J-18 住 13 区 1 層	深鉢	普通	砂粒・植物繊維混入	底部破片	無節 L 縄文施文。	有尾・黒浜

第 337 表　二軒在家原田Ⅱ遺跡D区縄文時代住居址出土遺物観察表（1）

E区住居址

E区J－28号住居址

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
1	J-28 住 18 区 1 層	深鉢	普通	砂粒混入	口縁部破片	ほぼ直立する平口縁か。口縁部に横位圧痕隆帯を巡らす。	堀之内 1
2	J-28 住 10 区 1 層	深鉢	普通	砂粒・雲母混入	口縁部破片	口縁部が内屈する。口端部には 1 条の沈線を巡らす。胴部には斜位沈線を施す。	堀之内 1
3	J-28 住 8 区 1 層	深鉢	良好	砂粒・白色鉱物・黒色鉱物混入	胴部破片	深鉢の胴部上位片。単節 LR 縄文施文後、横位・斜位沈線で区画する。モチーフは三角形と考えられる。一部の区画内は磨り消し。	堀之内 2
4	J-28 住 1 区 1 層	深鉢	良好	砂粒混入	口縁部破片	口縁部、横位圧痕隆帯を巡らし、一部に 8 の字状貼付文施文。胴部、沈線により横位に区画し、一部の区画内には単節 RL 縄文施文。	堀之内 2
5	J-28 住 9 区ﾍﾞﾙﾄ	深鉢	良好	砂粒・雲母混入	口縁部破片	口縁部、横位隆帯を巡らし、隆帯上には縦位短沈線施文。胴部、沈線により横位に区画し、区画内には半截竹管状工具による縦位基調平行沈線を施す。内面、口端部直下に浅い沈線状の窪みを巡らす。一部に炭化物付着。	堀之内 2

第 338 表　二軒在家原田Ⅱ遺跡E区縄文時代住居址出土遺物観察表（1）

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
6	J-28 住 7 区 1 層	深鉢	普通	砂粒・白色鉱物・雲母混入	胴部破片	横位・斜位沈線により区画する。一部には棒状工具による刺突文を施す。また一部の区画内に縄文施文の可能性があるが不明瞭である。	堀之内 2
7	J-28 住 2 区 1 層	深鉢	良好	砂粒混入	胴部破片	沈線により横位に区画し、区画内に単節 RL 縄文充填。	堀之内 2
8	J-28 住 D-1 土	深鉢	普通	砂粒・褐色礫・雲母混入	口縁部破片	後期の粗製土器。口端部がやや内反する。外面に棒状又は篦状工具による撫でが認められるが、意図的施文かどうかは不明。	後期
9	J-28 住 5 区 1 層	鉢？	普通	砂粒混入	口縁部破片	外面は遺存部においては無文。内面、口端部直下に 2 条の横位沈線を巡らす。丁寧な磨き。	堀之内 2
10	J-28 住炉周辺	深鉢	良好	砂粒・白色鉱物混入	胴部下位～底部 1/8	胴部、遺存部においては無文。底部網代痕。	後期
11	J-28 住 No1	深鉢	良好	砂粒混入	胴部～底部 1/2	遺存部においては無文。底面に網代痕。焼成前底部穿孔。	後期

E区Ｊ－29 号住居址

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
1	J-29 住 2 区床直	深鉢	普通	砂粒・白色鉱物・石英混入	口縁部～胴部 1/2	平口縁。頸部半截竹管状工具による横位の押引文を施文（反時計回り）→単節RL縄文を横位施文→上記工具による集合沈線（口縁部横羽状文、胴部斜格子文→横位直線文）→口縁部に断面D字状の突起・円形浮文を添付→円形浮文に竹管状工具による刺突。内面は口縁～胴部上位横位のミガキ。胴部下位縦位のミガキ。	諸磯 c
2	J-29 住 1 区ﾍﾞﾙﾄ	深鉢	良好	砂粒・白色鉱物・褐色礫混入	胴部破片	深鉢の胴部中位片。半截竹管状工具による平行沈線（半隆起線状）施文後、棒状・ボタン状等貼付文を配す。	諸磯 c
3	J-29 住炉 No1	深鉢	良好	砂粒・チャート混入	胴部破片	半載竹管状工具による斜位・縦位平行沈線を施す。	諸磯 c
4	J-29 住 3 区ﾍﾞﾙﾄ	深鉢	普通	砂粒混入	胴部破片	半截竹管状工具による縦位・斜位・横位平行沈線（半隆起線状を呈する）を施す。	諸磯 c
5	J-29 住 2 区 1 層	深鉢	普通	砂粒混入	胴部破片	半截竹管状工具による縦位平行沈線で区画する。区画内には同工具による斜位直線状平行沈線、弧状平行沈線を施す。	諸磯 c
6	J-29 住 4 区ﾍﾞﾙﾄ	深鉢	普通	砂粒・雲母混入	口縁部破片	緩やかな波状口縁か。半截竹管状工具による斜位平行沈線（綾杉状？）施文後、波頂部より結節浮線文状の縦位棒状貼付文を垂下させる。	諸磯 c
7	J-29 住 D-1 土	深鉢	良好	砂粒・白色鉱物・褐色礫混入	口縁部破片	半截竹管状工具による横位平行沈線施文後、同工具押し引きによる爪形文を縦位に施す（押し引きが弱く列点状刺突となっているところもある）。口端部上面と外面の境界部分は結節浮線文状を呈す。	諸磯 c
8	J-29 住 2 区 1 層	深鉢	普通	砂粒・白色鉱物混入	胴部破片	半截竹管状工具による横位細沈線施文後、弧状結節浮線文を施す。	諸磯 c
9	J-29 住 2 区 1 層	深鉢	普通	砂粒・白色鉱物・雲母混入	胴部破片	胴部下位が遺存する。半截竹管状工具による縦位・斜位・弧状平行沈線を施す。また一部に 2 個一対の円形貼付文を配す。遺存部最上位には結節浮線文施文。	諸磯 c
10	J-29 住床直	深鉢	普通	砂粒混入	底部破片	単節縄文施文。底面および内面にスス付着。	諸磯c
11	J-29 住 2 区 1 層	深鉢	普通	砂粒・雲母混入	口縁部破片	口端部直下に横位隆帯を巡らし、下半を鋸歯状にカットする。単節 RL 縄文横転がし。	前期後葉～末葉？

第 339 表　二軒在家原田Ⅱ遺跡 E 区縄文時代住居址出土遺物観察表（2）

E区土坑

E区Ｄ－65 号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
1	D-65 土	鉢	普通	砂粒・白色鉱物混入	口縁部破片	隆帯と沈線にて口縁部文様帯を楕円形に区画するものと思われる。区画内は縄文施文。	加曽利 E

第 340 表　二軒在家原田Ⅱ遺跡 E 区縄文時代土坑出土遺物観察表（1）

F区住居址

F区J－37号住居址

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
1	J-37 住 12 区 1 層	深鉢	良好	砂粒混入	胴部破片	半截竹管状工具による平行沈線を、遺存部上半は横位に、下半は縦位に施す。さらにボタン状・棒状貼付文を配す。	諸磯 c
2	J-37 住 14 区 2 層	深鉢	普通	砂粒混入	口縁部破片	口縁部内反する。半截竹管状工具による平行沈線を斜位に施し、耳たぶ状・棒状・ボタン状貼付文を施す。胴部、半截竹管状工具による横位平行沈線（半隆起線状）施文後ボタン状貼付文を施す。	諸磯 c
3	J-37 住 15 区 1 層	深鉢	良好	砂粒混入	胴部破片	半截竹管状工具による平行沈線を遺存部上位は横位に、中位から下位は縦位・斜位に施す。さらに刺突を伴うボタン状貼付文・棒状貼付文を施す。	諸磯 c
4	J-37 住 8 区	深鉢	良好	砂粒混入	口縁部破片	4 単位波状口縁と想定される。横位・斜位細沈線施文後、口端部に平行して 4 条の結節浮線文を巡らす。波頂部下位には弧状（全体のモチーフは 2 個一対の渦巻き状と考えられる）結節浮線文施文。	諸磯 c
5	J-37 住 14 区 2 層	深鉢	良好	砂粒・褐色礫混入	口縁部破片	4 単位波状口縁と想定される。口端部に平行して 2 条の結節浮線文を巡らす。半截竹管状工具による横位平行沈線で区画し、区画内には同工具による羽状沈線施文。さらに、2 条の並行する縦位結節浮線文・二個一対の円形貼付文を施す。	諸磯 c
6	J-37 住 15 区 1 層	深鉢	良好	砂粒混入	口縁部破片	口端部に横位結節浮線文を巡らす。半截竹管状工具による羽状平行沈線施文後、3 条の並行する縦位結節浮線文・二個一対の円形貼付文を施す。	諸磯 c
7	J-37 住 2 区 1 層	深鉢	良好	砂粒混入	胴部破片	遺存部左上部は隆帯の剥落か。貝殻腹縁文を斜位直線状・弧状に施す。	興津
8	J-37 住 7 区 1 層・12 区 1 層	深鉢	普通	砂粒・白色鉱物混入	口縁部破片	単節 RL 縄文施文後、鋸歯状貼付文・二個一対の円形貼付文を施す。一部の鋸歯状貼付文は、貼付後さらに縄文施文。	諸磯 c（大木系？）
9	J-37 住 7 区 1 層	深鉢	普通	砂粒・白色鉱物混入	口縁部破片	単節 RL 縄文施文後、鋸歯状貼付文・二個一対の円形貼付文を施す。	諸磯 c（大木系？）
10	J-37 住 14 区 1 層・15 区 1 層	深鉢	普通	砂粒・白色鉱物混入	口縁部破片	単節 RL 縄文施文後、鋸歯状・弧状貼付文、二個一対の円形貼付文を施す。遺存部最上位には撫でを施し、縄文が不明瞭である。8・9 と同一個体と想定される。	諸磯 c（大木系？）
11	J-37 住 D-1 土	深鉢	普通	砂粒・雲母混入	口縁部破片	平口縁口端部に粘土を貼付し、板状工具による切れ込みを入れ、鋸歯状（3 単位か）を呈する把手としている。胴部、単節 RL 縄文施文後、細い竹管による円形刺突文、板状工具による列点状刺突文を施す。把手下位には貼付文施文。貼付文上にも縄文施文。	諸磯
12	J-37 住 7 区 1 層	深鉢	普通	砂粒・雲母混入	胴部破片	外面の剥落が顕著だが、沈線により菱形に区画すると想定される。一部の区画内には貝殻腹縁文施文。	興津
13	J-37 住 12 区 1 層	浅鉢	普通	砂粒混入	口縁部破片	遺存部においては無文。鍔部は口縁より突出する。	前期後葉
14	J-37 住 15 区 1 層	深鉢	普通	砂粒・金雲母混入	胴部破片	弧状（又は渦巻き状）沈線を施す。一部に印刻文・刺突文施文。	十三菩提
15	J-37 住 11 区 1 層	深鉢	普通	砂粒混入	口縁部～胴部 1/4	口縁部やや受け口状。頚部に 2 条一組の沈線を巡らす。沈線間には三角形・楕円形等の印刻文・刺突文等を施す。胴部も同様のモチーフの縦位沈線により、4 単位又は 5 単位に区画する。横位・縦位沈線の両側には、列点状刺突文を並行して巡らす。さらに、縦位沈線上位の口縁部には、棒状工具による縦位沈線を 7 条施す。（37 号住の時期は諸磯 c 式期なので、土坑等の重複か）。	五領ヶ台Ⅱ
16	J-37 住 10 区 1 層	深鉢	普通	砂粒・金雲母混入	口縁部破片	4 単位波状口縁と想定される。口端部上面に列点状短沈線を施す。口縁部は遺存部においては無文。頚部、列点状刺突・横位沈線を施し、一部の沈線上には、さらに刺突文施文。	五領ヶ台Ⅱ
17	J-37 住 10 区 1 層・7 区	深鉢	普通	砂粒・褐色礫混入	口縁部破片	口端部上面に半截竹管状工具による弧状刺突文を列点状に施す。口縁部、同工具による平行沈線で横位に区画し、区画内には格子目状沈線施文。	五領ヶ台Ⅱ
18	J-37 住 7 区 1 層	深鉢	普通	砂粒・金雲母混入	口縁部破片	口縁部、半截竹管状工具による横位平行沈線（半隆起線状）を施す。胴部、単節 RL 縄文施文後、半截竹管状工具による縦位平行沈線施文。内面上部に1条の横位沈線を巡らす。	五領ヶ台Ⅱ
19	J-37 住 2 区 1 層	深鉢	普通	砂粒・金雲母混入	胴部破片	縄文（無節 L 縄文を格子目状に押圧？）施文後、半截竹管状工具による縦位平行沈線（半隆起線状）を施す。	五領ヶ台Ⅱ
20	J-37 住 2 区 1 層	深鉢	普通	砂粒・金雲母混入	胴部破片	頚部が括れる深鉢の括れ部分と想定される。横位沈線により区画し、沈線に並行して列点状刺突文施文。	五領ヶ台Ⅱ

第 341 表　二軒在家原田Ⅱ遺跡 F 区縄文時代住居址出土遺物観察表（1）

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
21	J-37 住 2 区 1 層	深鉢	普通	砂粒・金雲母混入	胴部破片	半截竹管状工具による平行沈線（半隆起線状）で円形・弧状に区画する。	五領ヶ台
22	J-37 住 10 区 2 層	深鉢	普通	砂粒・金雲母混入	胴部破片	縦位沈線により区画する。沈線に並行して列点状刺突を施し、一部の沈線上には、さらに刺突文・Y 字状沈線施文。16 と同一個体と考えられる。	五領ヶ台Ⅱ
23	J-37 住 8 区	深鉢	普通	砂粒・白色鉱物・金雲母混入	胴部破片	半截竹管状工具による平行沈線（半隆起線状）で区画する。	五領ヶ台
24	J-37 住 14 区 1 層	深鉢	普通	砂粒・灰色礫・白色鉱物・雲母混入	口縁部破片	やや外反する平口縁と想定される。口縁部、櫛歯状工具による縦位弧状平行沈線施文。頚部に刺突を伴う横位隆帯を巡らす。胴部、半截竹管状工具による直線状・弧状平行沈線施文。	中期？
25	J-37 住 2 区 1 層＋6 区 1 層	深鉢	普通	砂粒混入	口縁部～底部 1/3	隆帯と沈線により口縁部を楕円形に区画する。区画内は縄文を施し、連結部は渦巻き状の隆帯を配す。胴部は長方形状の沈線により区画し、内側に縄文を施す。	加曽利 E Ⅲ
26	J-37 住 12 区 1 層	深鉢？	普通	砂粒混入	口縁部破片	深鉢口縁の突起か。全体は三角形を呈す。外面頂部に穴をあけた円形貼付文を付し、左右に沈線を施す。内面は頂部および左右に円形貼付文を付す。	称名寺 2 ～堀之内 1

第 342 表　二軒在家原田Ⅱ遺跡 F 区縄文時代住居址出土遺物観察表（2）

G区住居址

G区 J － 52 号住居址

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
1	J-52 住 3 区 1 層	深鉢			ほぼ完存		加曽利 E
2	J-52 住 D-1 土	深鉢	普通	砂粒・白色鉱物混入	胴部破片	断面三角形で突出度の低い縦位隆帯により胴部を区画し、内側に縄文を施す。	加曽利 E
3	J-52 住 4 区 1 層	両耳壺	良好	砂粒・白色鉱物・雲母混入	体部 1/8	口縁部無文。体部上位、隆帯により区画し、一部の区画内に単節 RL 縄文施文。体部下位、縦位条線施文後、丸棒状工具による逆U字状沈線を施す。U字状内部磨り消し。	加曽利 E Ⅲ

第 343 表　二軒在家原田Ⅱ遺跡G区縄文時代住居址出土遺物観察表（1）

H区住居址

H区 J － 45 号住居址

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
1	J-45 住 4 区 1 層	深鉢	普通	砂粒・白色鉱物・褐色礫混入	胴部破片	胴部上位片と想定される。2 条の横位圧痕隆帯を巡らす。	堀之内 2
2	J-45 住 4 区 1 層	鉢	良好	砂粒・白色鉱物・雲母混入	口縁部破片	口端部が内反する鉢と想定される。口端部上端には短沈線を連続して施す。口縁部、2 条の横位並行沈線で区画する。横位沈線間に斜位沈線を施し、三角形の区画とする。さらに単節 LR 縄文を充填（不明瞭）。	堀之内 2
3	J-45 住 4 区 1 層	深鉢	普通	砂粒・白色鉱物混入	胴部破片	弧状等沈線で区画し、一部の区画内に単節 LR 縄文施文。	堀之内 2
4	J-45 住埋設土器	深鉢	良好	砂粒・白色鉱物・黒色鉱物混入	胴部上位～底部 3/5	全体的に薄手の作り。胴部上位、横位沈線により区画し、一部区画内に単節 LR 縄文充填。底部網代痕。	堀之内
5	J-45 住 3 区 1 層	深鉢	普通	砂粒・雲母混入	胴部 1/8	堀之内 2 式期の深鉢と想定される。内面に半截竹管状工具による弧状平行沈線を施す。外面、遺存部においては無文。	堀之内 2
6	J-45 住 P-3	深鉢	良好	砂粒混入	口縁部～胴部 1/10	胴部上位に 2 条の並行する横位沈線で区画する。区画内に格子目状沈線を施す。	加曽利B 1
7	J-45 住 4 区 1 層	深鉢	普通	砂粒・白色鉱物・褐色礫混入	胴部破片	深鉢の胴部上位片と想定される。格子目状に沈線を施す。	堀之内 2 ～加曽利B 1
8	J-45 住 3 区 1 層	深鉢	普通	砂粒・褐色礫・雲母混入	胴部破片	棒状工具による横位沈線で区画し、一部の区画内に無節 L 縄文施文。さらに一部に区切り文を施す。	加曽利B 1
9	J-45 住 4 区 1 層	小型鉢	良好	砂粒・白色鉱物混入	1/4	口縁部に 3 条の横位沈線を巡らす。沈線間に単節 LR 縄文施文。一部に区切り文。底部網代痕。	加曽利B 1
10	J-45 住 4 区 1 層	鉢	良好	砂粒混入	口縁部破片	4 単位又は 3 単位波状口縁の鉢か。外面、口縁部に 4 条の横位並行沈線を巡らす。内面、口端部直下に断面三角形の隆帯を巡らす。その下位には隆帯に並行する 1 条の沈線を施す。口端部上面には列点状短沈線施文。	加曽利B 1
11	J-45 住 3 区 1 層	鉢	良好	砂粒混入	胴部～底部 1/4	遺存部上端、棒状工具による横位沈線にて区画し、内側に斜位短沈線を施す。外面は良く研磨する。底面に網代痕。	加曽利 B

第 344 表　二軒在家原田Ⅱ遺跡H区縄文時代住居址出土遺物観察表（1）

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
12	J-45 住 4 区 1 層	注口土器	良好	砂粒・白色鉱物混入	口縁部～胴部 3/5	2本1組の沈線が文様の基本となる。沈線間にキザミを加えるほか、集合細線を施してから沈線で施文範囲を区画する。個々の文様の交点に「の」の字に近似するモチーフを配す。口唇部に、2 個 1 対とみられる把手。胴部最大径付近に注口部の痕跡。外面および内面上位は丁寧なミガキ、内面中位以下はナデ。	加曽利 B1
13	J-45 住 3 区 1 層	注口土器	良好	砂粒・白色鉱物・褐色礫混入	胴部～底部 2/3	2本1組の沈線が、文様の基本となる。沈線の間にキザミを加えるほか、集合細線を施してから沈線で施文範囲を区画する。個々の文様の交点に「の」の字に近似するモチーフを配する。胴部最大径付近に注口部の痕跡。外面および内面上位は丁寧なミガキ、内面はナデ。	加曽利 B1
14	J-45 住 4 区 1 層	注口土器	良好	砂粒混入	体部破片	注口土器体部片と想定される。遺存部上半、横位・斜位平行沈線を施す。遺存部下半、半截竹管状工具による横位平行沈線で区画する。一部に同工具刺突による鎖状沈線施文。	加曽利B 1
15	J-45 住 4 区 1 層	注口土器	良好	砂粒混入	体部破片	注口土器体部片と想定される。半截竹管状工具による横位平行沈線で区画する。一部に同工具刺突による鎖状沈線施文。	加曽利B 1
16	J-45 住 4 区 1 層	注口土器	良好	砂粒混入	体部破片	注口土器の体部中位片と想定される。斜位平行沈線（X 字状と考えられる）を施す。交点には渦巻き状沈線施文。さらに一部に刺突文を配す。	加曽利B 1
17	J-45 住 3 区 1 層	注口土器	良好	砂粒混入	注口部破片	遺存部下位、棒状工具による 2 条の沈線を巡らせ、間にS字状の文様を配す。	加曽利 B
18	J-45 住 3 区 1 層	注口土器	良好	砂粒混入	注口部破片	遺存部においては無文。良く研磨する。	加曽利 B
19	J-45 住 P-1	深鉢	普通	砂粒・白色鉱物・褐色礫混入	口縁部～胴部 1/10	遺存部においては無文。内面剥落顕著。	後期
20	J-45 住 4 区 1 層	深鉢	普通	砂粒・白色鉱物・雲母混入	胴部破片	後期の大型粗製深鉢と想定される。外面の一部、縦位撫で調整。	後期
21	J-45 住 3 区 1 層・4 区 1 層・一括	深鉢	普通	砂粒・白色鉱物・雲母混入	胴部破片	後期の粗製深鉢と想定される。外面の一部、削り後、撫で・磨き調整。	後期
22	J-45 住 P-4・一括	深鉢	良好	砂粒・褐色礫混入	胴部～底部 1/8	遺存部においては無文。底部網代痕。内面の一部に炭化物付着。	後期
23	J-45 住 3 区 1 層・4 区 1 層	深鉢	良好	砂粒・褐色礫混入	胴部～底部破片	遺存部においては無文。底部網代痕。	後期
24	J-45 住 P-2	深鉢	良好	砂粒・雲母混入	底部破片	遺存部においては無文。内外面共に良く研磨する。底面に網代痕。	後期
25	J-45 住 3 区 1 層	ﾐﾆﾁｭｱ土器	良好	砂粒混入	底部破片	遺存部においては無文。	後期
26	J-45 住 4 区 1 層	土製円板	普通	砂粒混入	胴部片を再利用	沈線により区画。一部に縄文施文。周囲を研磨。	堀之内？

H区 J － 50 号住居址

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
1	J-50 住 3 区 1 層	深鉢	普通	砂粒・白色鉱物・褐色礫混入	口縁部破片	櫛歯状工具による横位平行沈線で区画する。内側には同工具による斜位平行沈線を施す。交互に上下を変えた三角形を組み合わせたモチーフと考えられる。	堀之内 2
2	J-50 住 3 区 1 層・4 区 1 層	深鉢	良好	砂粒・白色鉱物混入	口縁部破片	2 条の並行する横位沈線を 2 段巡らす。区画内は 2 条一組の斜位沈線を施す。交互に上下を変えた三角形を組み合わせたモチーフと考えられるが、施文が稚拙である。内面の口端部直下には横位沈線を巡らす。	堀之内 2
3	J-50 住 1 区 1 層	深鉢	普通	砂粒混入	口縁部破片	平縁深鉢の口縁部と想定される。格子目状沈線を施す。一部に縄文（単節 LR?）が認められるが、意図的施文かは不明。内面の口端部直下に 1 条の横位沈線を巡らす。	堀之内 2 ～加曽利B 1
4	J-50 住 3 区 1 層・4 区 1 層	深鉢	良好	砂粒混入	口縁部～胴部 1/5	平口縁の深鉢と想定される。口縁部、2 条の横位沈線により区画し、区画内に斜位沈線による三角形・平行四辺形のﾓﾁｰﾌを配す。内面口端部直下に 1 条の横位沈線を巡らす。	加曽利 B1
5	J-50 住 3 区 1 層	深鉢	普通	砂粒混入	口縁部～胴部 1/10	外面、3 条の並行する横位沈線を巡らす。沈線間には縄文施文。内面、横位隆帯と沈線を巡らす。不明瞭だが、口端部に短沈線を列点状に施文か。全体的に摩滅が顕著。	加曽利B 1
6	J-50 住 4 区 1 層	深鉢	良好	砂粒混入	口縁部破片	並行する 4 条の横位沈線で区画し、区画内に単節 LR 縄文施文。内面の口端部直下に 1 条の横位沈線を巡らす。	加曽利B 1
7	J-50 住 3 区 1 層	深鉢	良好	砂粒混入	口縁部破片	口端部の一部に鋸歯状小突起を有する。外面、沈線で区画し、一部の区画内に単節 LR 縄文施文。内面、横位隆帯と沈線を巡らす。	堀之内 2 ～加曽利B 1
8	J-50 住 3 区 1 層	深鉢	良好	砂粒混入	口縁部破片	単節 RL 縄文施文後、横位沈線で区画する。一部の区画内磨り消し。	加曽利B 1

第 345 表　二軒在家原田Ⅱ遺跡H区縄文時代住居址出土遺物観察表（2）

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
9	J-50 住 4 区 1 層	鉢	良好	砂粒混入	口縁部破片	鉢と想定される。外面は無文で丁寧な磨きを施す。内面、横位に隆帯・沈線を巡らし区画する。一部の区画内には斜位短沈線を列点状に施文。また、口端部付近には貼付文（モチーフは不明）を施す。	加曽利B 1
10	J-50 住 3 区 1 層	深鉢	良好	砂粒・チャート混入	口縁部破片	口端部の一部に、短沈線を伴う把手状突起を有する。外面、横位沈線で区画する。沈線間の一部に縄文施文か（不明瞭）。内面、口端部直下に 1 条の横位沈線を巡らす。孔（焼成後）が穿たれているが、補修孔の可能性が考えられる。	堀之内 2 ～ 加曽利B 1
11	J-50 住 1 区 1 層	深鉢	良好	砂粒混入	口縁部～胴部 1/6	口縁端部、刻み目を施した隆帯と沈線、一部に 8 の字状貼付文を配す。さらに、円孔文を施した突起を付す。外面､頸部上位と下位に横位鎖状沈線を施す。内外面共に良く研磨する。	加曽利 B1
12	J-50 住 3 区 1 層	注口土器	良好	砂粒混入	体部破片	注口土器の体部片か。頸部下、半截竹管状工具による横位平行沈線を施し、一部に同工具刺突による鎖状沈線を配す。体部、櫛歯状工具にて X 字状の斜位平行沈線を描き、交点に渦巻き状沈線または横位刺突文を施す。	加曽利 B1
13	J-50 住 3 区 1 層	注口土器	良好	砂粒混入	体部破片	注口土器の体部片か。頸部下、半截竹管状工具による横位平行沈線と、同工具刺突による鎖状沈線を施す。体部は櫛歯状工具により横位・弧状平行沈線を描き、一部に渦巻き状沈線を配す。	加曽利 B1
14	J-50 住 3 区 1 層	注口土器	良好	砂粒混入	体部破片	注口土器体部片と想定される。遺存部上位、横位・斜位平行沈線を施す。遺存部中位、半截竹管状工具による横位平行沈線で区画する。一部に同工具刺突による鎖状沈線施文。遺存部下位は無文。全体的に丁寧な磨き。	加曽利B 1
15	J-50 住 3 区 1 層	注口土器	良好	砂粒混入	体部破片	注口土器の体部中位片と想定される。斜位平行沈線を施す。一部に沈線で区画する無文部を配す。	加曽利B 1
16	J-50 住 3 区 1 層	注口土器？	普通	砂粒混入	体部破片	注口の体部中位片と想定した。斜位平行沈線、弧状平行沈線を施す。	堀之内 2 ～ 加曽利B 1 ？
17	J-50 住 1 区 1 層＋ J-46 住 2 区 1 層	注口	良好	砂粒混入	注口部破片	遺存部においては無文。中位が最大径となり、先端はややすぼまる。	加曽利 B
18	J-50 住 3 区 1 層	深鉢	普通	砂粒・白色鉱物・雲母混入	口縁部破片	遺存部においては無文。内外面とも磨き。	後期
19	J-50 住 3 区 1 層	深鉢	良好	砂粒・褐色礫・白色鉱物混入	底部破片	外面、遺存部においては無文。底部網代痕。	後期？
20	J-50 住 3 区 1 層	深鉢	良好	砂粒混入	底部破片	外面、遺存部においては無文。底部網代痕。	後期？
21	J-50 住 3 区 1 層	深鉢	良好	砂粒・雲母混入	底部破片	外面、遺存部においては無文。底部中央に沈線状の窪み。	後期？
22	J-50 住 3 区 1 層	深鉢	普通	砂粒混入	底部破片	遺存部においては無文。底部網代痕。	後期
23	J-50 住 3 区 1 層	深鉢	良好	砂粒混入	胴部下位～底部 1/5	胴部最下位が外側に張り出す器形。胴部、遺存部においては無文。底部網代痕。	後期
24	J-50 住 4 区 1 層	深鉢	普通	砂粒・白色鉱物・金雲母混入	底部破片	遺存部においては無文。底部網代痕。	後期
25	J-50 住 3 区 1 層	小型鉢	良好	砂粒・白色鉱物混入	1/4	遺存部においては無文。底部網代痕。	後期
26	J-50 住 3 区 1 層	注口土器？	良好	砂粒・片岩・雲母混入	底部破片	器形・調整等より注口と想定した。遺存部においては無文。底部網代痕。	後期
27	J-50 住 3 区 1 層	注口土器？	良好	砂粒・雲母混入	底部破片	器形・調整等より注口と想定した。遺存部においては無文。底部網代痕。	後期
28	J-50 住 3 区 1 層	注口	良好	砂粒混入	体部～底部 1/10	形状・調整より、注口と想定される。遺存部においては無文。外面、非常に丁寧な磨き。底部網代痕。	後期
29	J-50 住 4 区 1 層	注口	良好	砂粒混入	体部～底部破片	形状・調整より、注口と想定される。遺存部においては無文。外面、非常に丁寧な磨き。底部網代痕。	後期

H区 J － 53 号住居址

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
1	J-53 住 7 区 1 層	深鉢	良好	砂粒・雲母混入	胴部破片	横位直線状・縦位弧状沈線で区画し、一部の区画内に単節 RL 縄文施文。	堀之内 1
2	J-53 住 6 区 1 層・ 9 区 1 層	深鉢	良好	砂粒・白色鉱物混入	胴部破片	胴部上位の器形変換点付近が遺存する。横位・縦位沈線を施す。一部の沈線両端には刺突文施文。さらに一部の区画内には単節 LR 縄文を施す。	堀之内 1
3	J-53 住 2 区 1 層	深鉢	良好	砂粒・褐色礫混入	胴部破片	弧状・蛇行等沈線を施す。	堀之内 1
4	J-53 住 6 区 1 層	深鉢	良好	砂粒・褐色礫混入	胴部破片	胴部上位の器形変換点下位付近が遺存すると考えられる。器形変換点付近に横位沈線を巡らし、その下位に重弧状沈線・単節 LR 縄文を施す。	堀之内 1
5	J-53 住 13 区 1 層	深鉢	普通	砂粒・褐色礫混入	胴部破片	遺存部最上位に横位隆帯を巡らす。隆帯下位には縦位・斜位等沈線施文。一部に縄文を施すが不明瞭である。	堀之内 1

第 346 表　二軒在家原田Ⅱ遺跡H区縄文時代住居址出土遺物観察表（3）

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成　②胎土　③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
6	J-53 住 6 区 1 層	深鉢	良好	砂粒・褐色礫・雲母混入	胴部破片	横位弧状・直線状沈線を施す。	堀之内 1
7	J-53 住 11 区 1 層	鉢	普通	砂粒・白色鉱物混入	胴部破片	遺存部においては「J」字状の隆帯を付し、中央部に刺突を施す。内側に縄文施文。	堀之内 1
8	J-53 住 9 区 1 層	深鉢	良好	砂粒・褐色礫混入	口縁部破片	口縁部やや外反する。遺存部最下位に篦状工具による沈線状の横位撫でが認められる。	堀之内 2 ？
9	J-53 住 2 区 1 層	深鉢	良好	砂粒・雲母混入	口縁部破片	口端部が内屈する。口縁部に並行して横位圧痕隆帯を巡らす。	堀之内 2
10	J-53 住 5 区 1 層	深鉢	良好	砂粒混入	胴部破片	2 条の横位圧痕隆帯を巡らす。	堀之内 2
11	J-53 住 13 区 1 層	深鉢	良好	砂粒混入	口縁部破片	口縁部ほぼ直立する。口縁部に横位沈線を巡らす。横位沈線下位には斜位直線状・弧状沈線を組み合わせて区画する。さらに一部の区画内に単節 LR 縄文・刺突文を配す。内面口端部直下には、1 条の横位沈線を巡らす。	堀之内 2
12	J-53 住 13 区 1 層	深鉢	良好	砂粒混入	口縁部破片	波状口縁波頂部付近が遺存する。外面、沈線で区画し、一部に単節 LR 縄文を施す。一部に焼成前の円孔文を配す。内面、刺突を伴う隆帯・沈線を施す。	堀之内 2 ？
13	J-53 住 13 区 1 層	深鉢	良好	砂粒混入	口縁部破片	口縁端部の突起。口縁内面との接続部に 3 条の横位沈線を配す。突起の形状は楕円形で頂部に 8 の字貼付文と、左右に円形貼付文を付す。	堀之内 2
14	J-53 住 11 区 1 層	深鉢	良好	砂粒混入	口縁部破片	口縁端部の突起。口縁内面との接続部は、沈線による方形区画を描く。突起の形状は、やや扁平な楕円形を呈す。	堀之内 2
15	J-53 住ベルト一括	深鉢	良好	砂粒・雲母混入	口縁部破片	口縁下に横位圧痕隆帯を 2 条配す。一部、細長い 8 字状貼付文を付し上下の隆帯を繋ぐ。胴部は幾何学文状に区画し、内側に縄文を施す。	堀之内 2
16	J-53 住 11 区 1 層・13 区 1 層	注口土器	良好	砂粒・褐色礫混入	口縁部破片	注口土器口縁から体部中位と想定した。体部最上位に 2 条の横位沈線を巡らし区画する。区画内には途中で向きを変える矢羽根状沈線施文。向きが変わる上位が注口部逆側のｸｸﾘｻﾞﾙ剥落痕か。	堀之内 2
17	J-53 住 5 区 1 層	注口土器	良好	砂粒混入	体部破片	集合沈線・連鎖状文を施す。石神類型か。	堀之内 2
18	J-53 住 11 区 1 層	深鉢	良好	砂粒・褐色礫・雲母混入	口縁部破片	口端部直下に横位隆帯を巡らす。	後期？
19	J-53 住 11 区 1 層	深鉢	普通	砂粒混入	底部破片	外面、遺存部においては無文。底部、単節縄文施文か。	後期？
20	J-53 住 4 区 1 層	深鉢	普通	砂粒混入	底部破片	外面、遺存部においては無文。底部網代痕。	堀之内？

H区 J － 61 号住居址

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成　②胎土　③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
1	J-61 住一括 2 層	深鉢	良好	砂粒混入	口縁部破片	深めの斜位沈線を施す。	称名寺
2	J-61 住一括 2 層	深鉢	普通	砂粒・褐色礫混入	口縁部破片	外面、口縁部に沿って文様帯を配す。楕円形沈線内に円形刺突文を施す。内面、渦巻き状・弧状沈線、円形刺突文等を施す。	称名寺
3	J-61 住一括 2 層	深鉢	普通	砂粒・赤褐色礫混入	胴部破片	弧状・剣先状沈線を施す。	称名寺Ⅱ
4	J-61 住 NO3	深鉢	普通	砂粒・褐色礫混入	口縁部破片	口端部付近がやや内反する。縦位・斜位・横位沈線で区画する。	称名寺～堀之内
5	J-61 住一括	深鉢	普通	砂粒・褐色礫混入	口縁部破片	ほぼ直立する平口縁と想定される。口縁部に 1 条の横位圧痕隆帯を巡らす。胴部に縦位基調の沈線状窪みが認められるが、意図的施文かどうかは疑問である。	称名寺～堀之内
6	J-61 住 NO10・一括 2 層・一括	深鉢	良好	砂粒・褐色礫混入	口縁部破片	ほぼ直立する平口縁と想定される。口縁部に 1 条の横位圧痕隆帯を巡らす。	称名寺～堀之内
7	J-61 住 NO8	深鉢	普通	砂粒・褐色礫・ﾁｬｰﾄ混入	口縁部破片	口端部がやや内湾する平口縁と想定される。口縁部に 1 条の横位圧痕隆帯を巡らす。	称名寺～堀之内
8	J-61 住一括	深鉢	普通	砂粒・褐色礫・ﾁｬｰﾄ・片岩混入	胴部 1/10	遺存部上位に不明瞭な弧状沈線が遺存する。胎土に比較的大きい礫を多めに含む。内面の器壁が荒れている。	称名寺Ⅱ～堀之内 1
9	J-61 住一括 2 層	鉢？	普通	砂粒・褐色礫混入	口縁部破片	鉢の波頂部付近と想定される。波頂部下位には横位に並ぶ 2 個の刺突文を配す。体部、弧状・U 字状等沈線で区画し、一部の区画内に単節 LR 縄文充填。	称名寺～堀之内
10	J-61 住一括 2 層	深鉢	普通	砂粒混入	胴部破片	縦位・斜位沈線で区画する。区画内に無節 L 縄文施文。	堀之内 1
11	J-61 住一括	深鉢	普通	砂粒・褐色礫混入	胴部破片	胴部中位片と想定される。縦位直線状・弧状、横位直線状沈線施文。横位直線状沈線の一部は、端部に円形刺突文を施す。	堀之内 1
12	J-61 住 4 区 1 層	深鉢	普通	砂粒・褐色礫混入	胴部破片	弧状沈線で区画し、一部の区画内に無節 L 縄文を施す。	堀之内 1
13	J-61 住 4 区 1 層	深鉢	普通	砂粒・褐色礫混入	胴部破片	胴部上位の器形変換点付近と想定される。横位直線状・縦位弧状等沈線で区画する。一部に貼付文施文。	堀之内 1
14	J-61 住 4 区 1 層	深鉢	普通	砂粒混入	胴部破片	横位直線状・縦位弧状等沈線で区画する。一部の区画内に無節 L 縄文施文。	堀之内 1

第 347 表　二軒在家原田Ⅱ遺跡H区縄文時代住居址出土遺物観察表（4）

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
15	J-61 住 1 区 1 層	深鉢	普通	砂粒・褐色礫混入	胴部破片	胴部上位の器形変換点付近と想定される。器形変換点下位付近に横位圧痕隆帯を巡らす。圧痕隆帯下位は縦位直線状・弧状等沈線で区画する。一部の区画内に単節 RL 縄文施文。	堀之内 1
16	J-61 住 NO12	鉢？	良好	砂粒・褐色礫・雲母混入	胴部破片	横位弧状・斜位直線状等沈線で区画する。一部の区画内に単節 LR 縄文を施す。	堀之内 1
17	J-61 住 NO1	深鉢	良好	砂粒・白色鉱物混入	胴部上位～底部 1/2	単節 LR 縄文施文後、2 条又は 3 条一組の沈線を縦位に施す。破損部は疑似口縁状を呈している。	堀之内 1
18	J-61 住3区1層	深鉢	良好	砂粒・白色鉱物混入	胴部破片	丸棒状工具による弧状・蛇行沈線を施す。	堀之内 1
19	J-61 住3区1層	深鉢	普通	砂粒・白色鉱物混入	胴部破片	丸棒状工具による沈線で、遺存部最上位において横位に区画していると想定される。その下位は、縦位・斜位沈線を施し区画する。	堀之内 1
20	J-61 住 2 区 1 層	鉢？	普通	砂粒混入	口縁部破片	内外面共に横位直線状・縦位弧状沈線施文。横位直線状沈線端部には刺突文を施す。	堀之内 1
21	J-61 住 4 区 1 層	注口土器	良好	砂粒混入	口縁部破片	遺存部最上位右側にｸｸﾘｻﾞﾙか。外面、口端部に並行して浅い沈線を巡らす。胴部、横位直線状・縦位弧状等沈線で区画し、一部の区画内に単節 LR 縄文施文。内面の口端部上面付近の一部に刺突文を施す。	堀之内 1
22	J-61 住一括 2 層	深鉢	普通	砂粒・褐色礫混入	胴部破片	胴部上位の器形変換点付近と想定される。横位・斜位沈線で区画する。一部の区画内に単節 LR 縄文施文。	堀之内 1
23	J-61 住一括 2 層	深鉢	普通	砂粒混入	胴部破片	斜位直線状・弧状等沈線で区画する。区画内に無節 L 縄文施文。	堀之内 1
24	J-61 住 4 区 1 層	鉢？	良好	砂粒・褐色礫混入	口縁部破片	波状口縁の鉢か。外面、口縁部に並行して微隆帯を巡らす。遺存部下位に貼付文・横位沈線文が僅かに認められる。内面、口端部直下に沈線・円形凹状文を施す。	堀之内 1
25	J-61 住 7 区 1 層	深鉢	普通	砂粒・褐色礫・灰色礫混入	口縁部破片	口端部直下で顕著に内屈する波状口縁と想定される。横位直線状・縦位弧状沈線を施す。	堀之内 1
26	J-61 住 NO4	深鉢	普通	砂粒・褐色礫混入	口縁部破片	ほぼ直立する平口縁と想定される。櫛歯状工具による斜位平行沈線を施す。	堀之内
27	J-61 住 NO6	深鉢	普通	砂粒・褐色礫混入	口縁部破片	ほぼ直立する平口縁と想定される。櫛歯状工具による斜位平行沈線を施す。26 と同一個体。	堀之内
28	J-61 住 4 区 1 層	深鉢	普通	砂粒・褐色礫混入	胴部破片	胴部上位片か。遺存部最上位に横位沈線施文。その下位は格子目状沈線を施す。	堀之内
29	J-61 住 1 区 1 層	深鉢	良好	砂粒混入	胴部破片	沈線で区画し、一部の区画内に単節 RL 縄文を充填。	堀之内
30	J-61 住 1 区 1 層	深鉢	普通	砂粒・雲母混入	口縁部破片	波状口縁と想定される。外面、口端部下位に細めの圧痕隆帯を巡らす。その下位には横位沈線・単節 LRL 縄文施文。内面口端部直下に沈線状の窪みを巡らす。	堀之内
31	J-61 住一括 2 層	深鉢	良好	砂粒混入	口縁部破片	波状口縁と想定される。外面、横位・斜位沈線で三角形に区画すると考えられる。一部の区画内に単節 RL 縄文施文。内面口端部直下に沈線状の窪みを巡らす。	堀之内 2
32	J-61 住 4 区 1 層	深鉢	良好	砂粒・褐色礫混入	口縁部破片	波状口縁と想定される。外面、遺存部においては無文。内面、口端部直下に 1 条の横位沈線を巡らす。	堀之内
33	J-61 住 No2	深鉢	良好	砂粒・白色鉱物混入	胴部～底部 1/2	上位から中位にかけて縄文施文。底部は突出し、上げ底状を呈す。外形は直立気味。	堀之内
34	J-61 住一括 2 層	深鉢	普通	砂粒混入	底部破片	遺存部においては無文。底面に網代痕。	後期
35	J-61 住 3 区 1 層	浅鉢？	良好	砂粒混入	口縁部破片	浅鉢の把手部か。波頂部下位に大きめの円孔文を配す。口端部上面には沈線・刺突文を配す。体部、沈線で区画し、区画内に縄文施文か（不明瞭）。	堀之内？
36	J-61 住 1 区 1 層	注口土器	良好	砂粒混入	注口部破片	遺存部においては無文。	堀之内？
37	J-61 住一括 2 層	不明	良好	砂粒混入	把手	器種不明。棒状の主体部端に目玉状貼付文を施す。	堀之内？
38	J-61 住一括 2 層	ﾐﾆﾁｭｱ土器	良好	砂粒混入	ほぼ完存	無文の手づくね土器。	堀之内？

H区 J － 101 号住居址

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
1	J-101 住一括	浅鉢	普通	砂粒・白色鉱物混入	体部破片	外面無文。内面、2 条の横位平行沈線を巡らし、沈線間に斜位短沈線を連続して施す。	堀之内～加曽利 B
2	J-101 住一括	深鉢	普通	砂粒混入	胴部破片	刺突を伴う横位隆帯を巡らす。隆帯下位には沈線施文。	堀之内？
3	J-101 住一括	小型深鉢	普通	砂粒混入	口縁～体部 2/3	底部を欠損する。外面に 3 条の横位平行沈線を巡らし、沈線間に 3 条単位の山形文を連続して施す。口縁直下に刻み目を入れた横位隆帯を配す。	堀之内～加曽利 B
4	J-101 住一括	深鉢	普通	砂粒混入	胴部破片	深めの沈線を斜位直線状・弧状に施す。	称名寺
5	J-101 住一括	深鉢	良好	砂粒・白色鉱物・石英混入	胴部破片	2 条一組の沈線により横位直線状、弧状等に区画する。区画内には縄文（単節 LR?）充填。	称名寺

第 348 表　二軒在家原田Ⅱ遺跡H区縄文時代住居址出土遺物観察表（5）

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
6	J-101 住一括	深鉢	普通	砂粒・褐色礫・灰色礫・角閃石混入	口縁部破片	遺存部においては無文。	後期？
7	J-101 住一括	深鉢	普通	砂粒・褐色礫混入	口縁部破片	外面は遺存部において無文。内面、口端部直下に横位隆帯状の稜を巡らす。	後期？
8	J-101 住一括	小型深鉢	良好	砂粒・白色鉱物・角閃石混入	底部破片	外面の一部に縄文が認められる。底部は乱れているが網代痕か。	後期？

H区Ｊ－102 号住居址

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
1	J-102 住一括	深鉢	普通	砂粒・褐色礫・灰色礫混入	胴部破片	丸棒状工具による横位・斜位沈線で区画する。一部の区画内には単節 LR 縄文施文。	堀之内 1
2	J-102 住一括	深鉢	良好	砂粒・白色鉱物・雲母混入	胴部破片	丸棒状工具による沈線で区画する。一部の区画内には単節 LR 縄文施文。	堀之内 1
3	J-102 住一括	深鉢	普通	砂粒・褐色礫混入	口縁部	口端部直下に横位圧痕隆帯を巡らす。隆帯上の一部に 8 の字状貼付文。胴部、沈線で区画し、区画内に単節 LR 縄文施文。	堀之内 2
4	J-102 住一括	注口土器？	良好	砂粒・白色鉱物・雲母混入	体部破片	注口土器の体部上位片と想定される。外面は丁寧な磨き。遺存部最上位、沈線により区画し、区画内には細い棒状工具による列点状刺突文を施す。	堀之内 2 ～加曽利 B1
5	J-102 住炉	注口土器か鉢	良好	砂粒・白色鉱物・褐色礫・角閃石混入	胴部～底部 4/5	高台に近似した形状の底部。底面の過半が剥落。底面網代痕、および縁辺に粘土貼り足し。外面横位の丁寧なミガキ。内面横位のナデ。	加曽利 B1
6	J-102 住一括	深鉢	普通	砂粒・白色鉱物混入	底部破片	遺存部においては無文。底部網代痕。	後期？

第 349 表　二軒在家原田Ⅱ遺跡H区縄文時代住居址出土遺物観察表（6）

H区土坑

H区Ｄ－84 号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
1	D-84 土	浅鉢	普通	砂粒混入	口縁部破片	口縁端部は波状か。遺存部においては、隆帯による渦巻き文を描く。口縁内面は大きく外反し、棒状工具による沈線と刺突を施す。	堀之内

H区Ｄ－86 号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
1	D-86 土	深鉢	普通	砂粒・角閃石混入	胴部破片	遺存部においては櫛歯状工具による縦位条線を施し地文とする。	加曽利 E
2	D-86 土	深鉢	普通	砂粒・角閃石混入	胴部～底部 2/3	櫛歯状工具による縦位条線を施し地文とするが、磨滅が激しく詳細不明。	加曽利 E

H区Ｄ－88 号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
1	D-88 土	深鉢	普通	砂粒・黒色鉱物混入	胴部破片	棒状工具による浅い沈線にて、幾何学文状に区画する。内部に縄文施文。	堀之内 2
2	D-88 土	深鉢	普通	砂粒混入	底部 4/5	底面に網代痕。遺存部においては無文。	後期
3	D-88 土	深鉢	普通	砂粒・白色鉱物混入	底部破片	底面に網代痕。内外面共に良く研磨され、器壁は薄い。	後期
4	D-88 土	深鉢	普通	砂粒混入	底部 3/4	底面に網代痕。遺存部においては無文。	後期

H区Ｄ－89 号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
1	D-89 土	鉢	普通	砂粒混入	口縁部破片	遺存部においては無文。外面にスス付着。	後期

H区Ｄ－90 号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
1	D-90 土	浅鉢	普通	砂粒混入	口縁部破片	口縁部下に 2 条の細い横位隆帯を配し、棒状工具にて刺突を行う。内面の口縁端部は短く内傾する。	堀之内
2	D-90 土	深鉢	普通	砂粒・角閃石混入	胴部破片	棒状工具により縦位沈線を施す。一部区画内に縄文施文。	堀之内 1

第 350 表　二軒在家原田Ⅱ遺跡H区縄文時代土坑出土遺物観察表（1）

H区D－93号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
1	D-93 土	鉢	普通	砂粒混入	胴部破片	棒状工具によりU字状に区画し、内側に列点文を施す。	称名寺

H区D－94号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
1	D-94 土	深鉢	普通	砂粒混入	口縁部破片	遺存部上部および中位に、細い圧痕隆帯を横位に配す。一部、隆帯間を繋ぐように細長い8の字文を付す。内外面共に良く研磨する。	堀之内2
2	D-94 土	深鉢	普通	砂粒・黒色鉱物混入	口縁部破片	棒状工具による浅い沈線にて、幾何学文状に区画する。内部に磨消縄文。内外面共に良く研磨する。	堀之内2
3	D-94 土	注口土器？	良好	砂粒混入	胴部破片	櫛歯状工具による弧状あるいは波状文を施す。外面は良く研磨する。	堀之内2
4	D-94 土	深鉢	普通	砂粒・角閃石混入	胴部破片	棒状工具による斜位沈線にて区画し、内部に列点文を施す。	称名寺

H区D－97号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
1	D-97 土	注口土器	良好	砂粒混入	注口部破片	遺存部においては無文。良く研磨する。	堀之内？

H区D－105号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
1	D-105 土	深鉢	普通	砂粒混入	口縁部破片	環状把手の一部か。渦巻きの形状に沿って中心に沈線を配す。	後期初頭

H区D－108号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
1	D-108 土	ﾐﾆﾁｭｱ土器	普通	砂粒・角閃石混入	口縁部破片	遺存部においては無文。	後期？
2	D-108 土	深鉢	普通	砂粒・白色鉱物混入	胴部破片	遺存部においては無文。外面にｽｽ付着。	後期

H区D－110号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
1	D-110 土	深鉢	普通	砂粒混入	口縁部～胴部1/2	ほぼ直立する平口縁。胴部上位に圧痕隆帯と沈線を横位に巡らす。隆帯上には8字状貼付文を施文し、5～6単位に区画する。隆帯と沈線間に縄文（単節RL?）を施文後、2条一組の弧状並行沈線を上下から施す。さらに、一部の区画内は縄文磨り消し。文様帯以外は丁寧な磨き。内面の口端部直下に1条の横位沈線を巡らす。	堀之内2
2	D-110 土	深鉢	良好	砂粒・褐色礫・灰色礫混入	胴部 1/10	遺存部においては無文。	後期？
3	D-110 土	深鉢	良好	砂粒・褐色礫混入	胴部～底部破片	遺存部においては無文。外面丁寧な磨き。底部網代痕。	後期

H区D－111号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
1	D-111 土	深鉢	普通	砂粒混入	口縁部破片	波状口縁の頂部。外面、口端部から橋状に粘土を付け足し、一部に縄文を施す。	加曽利EⅣ～Ⅴ

H区D－112号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
1	D-112 土	鉢	普通	砂粒・角閃石混入	口縁部破片	口縁直下に櫛歯状工具による横位条線を配した後、縦位および波状条線を施す。	堀之内2
2	D-112 土	浅鉢	普通	砂粒混入	口縁部破片	外面は無文。口縁端部に粘土粒を貼り付け、一部刻み目を施す。内面口縁直下に4条以上の横位沈線を配す。	加曽利B

H区D－113号土坑

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
1	D-113 土	深鉢	普通	砂粒混入	胴部破片	口縁部下横位圧痕隆帯の一部と思われる。	堀之内
2	D-113 土	深鉢	普通	砂粒混入	胴部破片	棒状工具による横位沈線にて区画し、区画内に縄文を施す。	加曽利B

第351表　二軒在家原田Ⅱ遺跡H区縄文時代土坑出土遺物観察表（2）

埋設土器

A区D－39号土坑（埋設土器）

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
1	D-39 土	深鉢	不良	砂粒混入	口縁部～胴部1/4	隆帯と沈線により口縁部文様帯を半月形に区画する。区画は6単位。各区画連結部より2条一組の縦位隆帯と1条の蛇行隆帯を垂下させ、胴部も6単位区画とする。区画内撚り糸施文。	加曽利ＥⅠ～Ⅱ
2	D-39 土	深鉢	普通	砂粒・白色鉱物混入	口縁部破片	隆帯と沈線により口縁部文様帯を半月形に区画する。各区画連結部より2条一組の縦位隆帯を垂下させる。区画内は棒状工具による縦位沈線を施す。	加曽利Ｅ

A区D－70号土坑（埋設土器）

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
1	D-70 土	深鉢	良好	砂粒混入	口縁部～胴部1/4	4単位波状口縁と想定される。口端部上面に端部渦巻き状の沈線を施す。胴部、単節RL縄文施文後、端部渦巻き状と縦位直線状沈線を波頂部より垂下させ、4単位に区画する。胴部中位付近に2条一組の横位沈線を巡らす。	加曽利ＥⅠ？
2	D-70 土	深鉢	良好	砂粒混入	胴部～底部1/2	遺存部最上位に横位沈線施文か。単節RL縄文縦転がし。内外面共に表面の剥落部分あり。	加曽利Ｅ併行

A区D－76号土坑（埋設土器）

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
1	D-76 土	深鉢	良好	砂粒・白色鉱物混入	口縁～底部1/2	隆帯と沈線により口縁部文様帯を区画し、区画連結部には渦巻き状隆帯を配す。区画内は単節縄文施文。胴部は単節縄文施文後、丸棒状工具による2条一組の縦位沈線を垂下させる。沈線間磨り消し。	加曽利ＥⅢ

A区D－77号土坑（埋設土器）

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
1	D-77 土	深鉢	普通	砂粒混入	口縁部破片	口端部まで縄文を施した後、棒状工具による2条1組の縦位沈線と「∩」字状沈線を配し、胴部を区画する。	加曽利Ｅ
2	D-77 土	深鉢	普通	砂粒混入	口縁部破片	波状口縁か。隆帯で口縁部文様帯を楕円形に区画し、さらに文様帯連結部から下部に蕨手状の隆帯を垂下させる。	加曽利Ｅ

A区D－83号土坑（埋設土器）

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
1	D-83 土	深鉢	普通	砂粒混入	胴部破片	棒状工具による幅広の沈線でU字状に区画し、内側に縄文を施す。	加曽利Ｅ

A区D－124号土坑（埋設土器）

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
1	D-124 土	深鉢	普通	砂粒混入	胴部1/10	縦位隆帯により区画する。区画は6単位と想定される。区画内には単節RL縄文施文。	加曽利Ｅ
2	D-124 土	深鉢	普通	砂粒・白色鉱物混入	胴部破片	2条1組の縦位沈線にて区画。区画に単節縄文施文。	加曽利Ｅ

A区D－152号土坑（埋設土器）

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
1	D-152 土	深鉢	普通	砂粒・白色鉱物・褐色礫混入	口縁部～底部4/5	4単位の波状口縁。縄文（単節のLR）を地文とし、胴部上半に渦巻状の沈線区画。下半の沈線区画は逆V字状に垂下し、下端は開放される。区画内の縄文を磨り消し。	加曽利ＥⅣ

第352表　二軒在家原田Ⅱ遺跡縄文時代埋設土器観察表（1）

A区D－154号土坑（埋設土器）

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
1	D-154 土	深鉢	普通	砂粒・白色鉱物混入	胴部～底部 2/3	遺存部においては無文。縦方向のナデを施す。	後期

A区D－164号土坑（埋設土器）

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
1	D-164 土	深鉢	良好	砂粒・白色鉱物・褐色礫混入	口縁部～胴部 3/4	口縁部、渦巻文および枠状の区画。区画内に綾杉状の短沈線。頸部に無文帯。胴部6単位の文様。地文として縦位回転押捺による単節縄文RL、3条1組を基本とした沈線による文様。渦巻文、縦位蛇行文。腕骨文に類似する弧状の意匠。内面、横位ないし斜位のナデ。	中期後葉
2	D-164 土	深鉢	普通	砂粒・黒色鉱物混入	底部破片	単節縄文施文後、棒状工具による縦位沈線にて区画する。底面に網代痕。	加曽利E

A区D－165号土坑（埋設土器）

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
1	D-165 土	深鉢	普通	砂粒・白色鉱物混入	口縁～胴部 2/5	外面、口端部に粘土紐を貼り付け、やや屈曲させる。遺存部下位に棒状工具による横位沈線を数条配す。	中期？

A区D－166号土坑（埋設土器）

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
1	D-166 土	深鉢	普通	砂粒・白色鉱物混入	胴部～底部 2/3	遺存部中位以上に縄文施文後、2条1組の縦位沈線で胴部を区画する。	加曽利E

A区D－178号土坑（埋設土器）

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
1	D-178 土	深鉢	普通	砂粒・褐色礫混入	胴部 2/5	隆帯と沈線により口縁部文様帯を区画する。区画は楕円形か。区画内には縄文（直前段反撚り？）施文。胴部、2条一組の縦位沈線により8又は9単位に区画する。区画内には櫛歯状工具による斜位条線を施す。	加曽利E併行
2	D-178 土	深鉢	普通	砂粒混入	口縁部破片	棒状工具による沈線と隆帯にて口縁部文様帯を半円形に区画し、内側に縦位の短沈線を充填する。胴部は2条1組の縦位沈線にて区画し、内側に綾杉文を施す。	加曽利E
3	D-178 土	深鉢	普通	砂粒混入	胴部破片	隆帯と沈線にて口縁部文様帯を区画。胴部は2条1組の縦位沈線にて区画し、内側は単節縄文を充填する。	加曽利E

A区D－181号土坑（埋設土器）

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
1	D-181 土	深鉢	普通	砂粒混入	胴部～底部 2/3	遺存部においては撚り糸施文。底面に網代痕。	加曽利E

A区D－183号土坑（埋設土器）

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
1	D-183 土	深鉢	普通	砂粒・白色鉱物混入	胴部破片	棒状工具による2条1組の縦位沈線で区画する。区画内は同工具による縦位綾杉状沈線を施す。	加曽利E
2	D-183 土	深鉢	普通	砂粒・白色鉱物混入	胴部破片	棒状工具による2条1組の縦位沈線で区画する。区画内は同工具による縦位綾杉状沈線を施す。底面に網代痕。	加曽利E

第353表　二軒在家原田Ⅱ遺跡縄文時代埋設土器観察表（2）

A区D－184号土坑（埋設土器）

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
1	D-184 土	深鉢	良好	砂粒･黒色鉱物･褐色礫混入	口縁部～胴部1/4	口縁部に2単位の把手を有する。各把手は3点の接点により口縁部に接するが、形状については不明。口縁部は無文。胴部上位に丸棒状工具による3条の横位沈線を巡らす。沈線下位には単節RL縄文施文後、弧状・蕨手状・不整形等の沈線を施す。	加曽利ＥⅠ併行（中部高地系？）
2	D-184 土	深鉢	普通	砂粒・褐色礫混入	胴部破片	単節RL縄文施文後、丸棒状工具による2条一組の縦位沈線で区画する。区画内には同工具による3条一組を基本とする渦巻き文を施す。渦巻き文下位からは縦位沈線を垂下させる。	加曽利Ｅ併行
3	D-184 土	深鉢	普通	砂粒・褐色礫混入	胴部～底部1/2	単節RL縄文施文後、丸棒状工具による2条一組の縦位沈線で区画する。区画内には同工具による3条一組を基本とする渦巻き文を施す。渦巻き文下位からは縦位沈線を垂下させる。2と同一個体か。	加曽利Ｅ併行

A区D－192号土坑（埋設土器）

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
1	D-192 土	深鉢	良好	砂粒･黒色鉱物･褐色礫混入	口縁～底部2/3	無文の粗製土器。内外面共にヘラナデ、ヘラケズリを施す。底面に網代痕。	後期

A区D－196号土坑（埋設土器）

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
1	D-196 土	深鉢	普通	砂粒混入	口縁部破片	隆帯により口縁部文様帯を半円形に区画するものと思われる。内側には縄文施文。	加曽利Ｅ
2	D-196 土	深鉢	普通	砂粒混入	胴部～底部3/4	縄文施文後、2条1組の縦位沈線と1条の波状沈線を交互に配し胴部を区画する。	加曽利Ｅ

A区D－197号土坑（埋設土器）

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
1	D-197 土	深鉢	普通	砂粒混入	胴部～底部1/8	胴部下半が遺存する。二重のU字状隆帯により6単位に区画すると考えられる。隆帯間は無文。U字状区画内外には丸棒状工具による綾杉状沈線を施す。	加曽利Ｅ併行

A区D－201号土坑（埋設土器）

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
1	D-201 土	深鉢	普通	砂粒混入	口縁部～胴部1/4	ほぼ直立する平口縁。隆帯により楕円形・蕨手状に区画する。楕円形区画内には棒状工具による横位・斜位沈線を施す。頚部は無文。胴部、弧状・渦巻き状・蛇行等の隆帯により区画する。区画内には丸棒状工具による沈線を施す。一部の沈線は鱗状を呈する。	加曽利Ｅ併行（郷土系？）

A区D－204号土坑（埋設土器）

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
1	D-204 土	深鉢	普通	砂粒・白色鉱物混入	口縁～胴部2/3	やや内反する平口縁。隆帯と沈線により口縁部文様帯を区画する。区画は楕円形を基調とし5単位？区画内には単節縄文施文。楕円形基調の区画連結部には渦巻き状モチーフを配す。胴部、単節RL縄文施文後、2条一組の縦位沈線により11単位に区画。沈線間は磨り消し。	加曽利ＥⅡ

A区D－214号土坑（埋設土器）

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
1	D-214 土	深鉢	普通	砂粒混入	口縁部破片	隆帯と沈線にて口縁部を区画後、区画内に縄文を施す。連結部から縦位沈線を垂下させる。	加曽利ＥⅡ～Ⅲ
2	D-214 土	深鉢	普通	砂粒混入	口縁部破片	口縁は波状あるいは小突起を有するか。口縁直下、隆帯と沈線にて楕円形に区画すると思われる。内側は縦位短沈線を施す。	加曽利Ｅ
3	D-214 土	深鉢	普通	砂粒混入	胴部破片	遺存部においては蛇行する縦位隆帯にて区画後、左右に棒状工具による縦位綾杉状沈線を施す。	加曽利Ｅ
4	D-214 土 NO2	浅鉢	普通	砂粒混入	ほぼ完形	内外面共に無文。外面、口縁部下位に丸棒状工具による横位沈線を巡らす。内面、口端部厚みを有し稜状を呈する。	加曽利ＥⅢ

第354表　二軒在家原田Ⅱ遺跡縄文時代埋設土器観察表（3）

A区D－310号土坑（埋設土器）

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成	②胎土	③残存	④器形・文様等の特徴／備考	時期
1	D-310 土	深鉢	良好	砂粒・白色鉱物・褐色礫混入	口縁部～底部 4/5	微隆起線文による文様表現。口縁部～胴部上半6単位、胴部下半4単位の文様。口縁部付近に渦巻文。縄文施文域と無文域を峻別。縦位回転押捺による無節縄文L。充填縄文。胴部中位、隆帯による横位区画。内面、横位ないし斜位のナデ。	加曽利ＥⅣ
2	D-310 土	深鉢	普通	砂粒・角閃石混入	胴部破片	棒状工具による２条１組の縦位沈線にて胴部を区画し、内側に縄文を充填する。	称名寺
3	D-310 土	深鉢	普通	砂粒混入	胴部破片	２条１組の縦位沈線にて胴部を区画する。	称名寺

出土位置不明（埋設土器）

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成	②胎土	③残存	④器形・文様等の特徴／備考	時期
1	位置不明	深鉢	良好	砂粒・白色鉱物・褐色礫混入	胴部～底部 3/4	地文に縦位を主とする短沈線。口縁部、隆帯による枠状の区画。胴部6単位の文様。胴部上半、２本１組の隆帯による横Ｓ字状文。胴部下半、縦位隆帯による蛇行文と垂下文。内面、胴部上位以上は横位、それより下は縦位ないし斜位のナデ。	郷土
2	位置不明	深鉢	普通	砂粒・褐色礫・白色鉱物混入	胴部 1/10	２条一組の縦位隆帯で７単位に区画する。各区画内に蛇行隆帯を垂下させ、沈線を施す。	加曽利Ｅ併行

第 355 表　二軒在家原田Ⅱ遺跡縄文時代埋設土器観察表（４）

配石墓

A区３号配石墓

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成	②胎土	③残存	④器形・文様等の特徴／備考	時期
1	3 号配石墓	浅鉢	良好	砂粒・白色鉱物・褐色礫混入	4/5 残存	口縁の上面観が隅丸方形に近く、４単位をなす。外面無文。口唇部に密なキザミ。内面上位に円形刺突文、その下には、キザミと縄文が1帯ずつ施された平行沈線文がめぐる。キザミ同様、単節縄文 LR も沈線の前に施される（磨消縄文）。内面単位部分に「の」の字文。内・外面とも、無文部には横位のミガキ。	加曽利 B1

H区４号配石墓

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成	②胎土	③残存	④器形・文様等の特徴／備考	時期
1	4 号配石墓	鉢	普通	砂粒・褐色礫・角閃石混入	口縁部～胴部破片	外面、縄文施文。内面、口縁に沿って横位沈線を巡らす。	後期前葉
2	4 号配石墓	深鉢	良好	砂粒混入	口縁部～胴部破片	口縁部下位に横位圧痕隆帯を施す。隆帯上位は無文。下位は縄文施文。内面最上部に横位沈線施文。	堀之内２
3	4 号配石墓	深鉢	良好	砂粒混入	胴部下位～底部破片	遺存部位においては無文。底部網代痕。	後期
4	4 号配石墓	石製垂飾	―		ほぼ完存	蛇紋岩製。全面をよく研磨し、径約 0.5 ㎝の孔を有す。	後期

H区５号配石墓

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成	②胎土	③残存	④器形・文様等の特徴／備考	時期
1	5 号配石墓	深鉢	良好	砂粒・白色鉱物混入	口縁部破片	口縁端の一部を凹ませ、刻み目を施した縦位隆帯を垂下させる。遺存部下位、同様の横位隆帯を巡らせ、隆帯との交点に円形貼付文を付す。内面、口縁と並行に３条の沈線を配す。内外面共に良く研磨する。	堀之内２

H区６号配石墓

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成	②胎土	③残存	④器形・文様等の特徴／備考	時期
1	6 号配石墓	深鉢	普通	砂粒・白色鉱物・角閃石混入	胴部破片	外面、口縁に沿って刻み目を施した隆帯を巡らせ、一部に８の字状貼付文を付す。外面、縄文施文。補修孔あり。	堀之内１
2	6 号配石墓	深鉢	普通	砂粒・角閃石混入	胴部破片	遺存部上位、棒状工具による横位沈線を２条配す。以下、縦位・∩字状沈線を施す。	堀之内１

第 356 表　二軒在家原田Ⅱ遺跡縄文時代配石墓出土遺物観察表（１）

H区7・8号配石墓

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
1	7・8号配石墓	深鉢	普通	砂粒・白色鉱物混入	口縁部破片	棒状工具による斜格子文を描いた後、口縁近くに横位沈線を1条施し、無文部分と区別する。	堀之内2

A区D－91号土坑（配石墓）

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
1	D-91 土	深鉢	良好	砂粒・白色鉱物混入	口縁部～胴部下位1/5	4単位小波状口縁と想定される。波頂部下位に円形刺突文を配し、刺突文両脇に口縁部に並行する横位沈線を施す。横位沈線の端部は円形又は溝状に深い。内面口端部は厚みを有し、稜状を呈す。	堀之内1
2	D-91 土	深鉢	良好	砂粒混入	胴部破片	2条1組の縦位沈線にて胴部を区画した後、遺存部中位に横位沈線を配す。	堀之内1

H区D－92号土坑（配石墓）

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
1	D-92 土	鉢	普通	砂粒混入	胴部破片	棒状工具による2条の横位沈線にて区画。内部は単節縄文を施す。内外面共に良く研磨する。	加曽利B
2	D-92 土	鉢	普通	砂粒混入	底部破片	遺存部においては無文。底面に網代痕。内面、底部からの立ち上がり付近に稜を有する。	後期

H区D－96号土坑（配石墓）

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
1	D-96 土（配石墓）	深鉢	普通	砂粒混入	胴部破片	遺存部上位において圧痕隆帯を横位に配す。	堀之内

H区D－99号土坑（配石墓）

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
1	D-99 土（配石墓）	深鉢	普通	砂粒混入	胴部破片	棒状工具による沈線にて、幾何学文状に区画する。内部に磨消縄文。	堀之内2
2	D-99 土（配石墓）	鉢	普通	砂粒混入	胴部破片	棒状工具にて横長方形の基調とする区画を連続して描く。区画外（内）に縄文施文。	堀之内

H区D－100号土坑（配石墓）

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
1	D-100 土（配石墓）	浅鉢	良好	砂粒混入	口縁部破片	棒状工具による2条1組の横位沈線で区画した後、内側に単節縄文を施す。内外面共に良く研磨する。	加曽利B

H区D－106号土坑（配石墓）

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
1	D-106 土（配石墓）	浅鉢	良好	砂粒混入	口縁部破片	口唇部に細かい刻み目と沈線を巡らす。外面は縄文施文後、4条以上の櫛歯状工具による横位沈線を配す。条線は途中から、上位にずらして施文されており、「区切り線」状を呈す。	加曽利B

H区D－107号土坑（配石墓）

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
1	D-107 土（配石墓）	深鉢	普通	砂粒混入	口縁部破片	環状把手の一部と思われる。把手の形状に合わせるように渦巻き状の沈線を描き、一部区画内に縄文を施す。	称名寺？
2	D-107 土（配石墓）	深鉢	普通	砂粒・角閃石混入	口縁部破片	遺存部においては無文。	後期

第357表　二軒在家原田Ⅱ遺跡縄文時代配石墓出土遺物観察表（2）

H区D－336号土坑（配石墓）

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
1	D-336 土	深鉢	普通	砂粒混入	口縁部～胴部1/5	器壁は薄く、全体に左上がりのヘラケズリを施した後、口縁近くは横位のケズリを施す。口縁の断面形はやや波状を呈するが、歪みによるものか。	堀之内
2	D-336 土	鉢	普通	砂礫混入	胴部破片	器壁は丁寧にミガキを施す。2条の沈線を用いた幾何学文を配し、沈線間は縄文で埋める。文様間に黒色塗料を塗布か。	堀之内

H区D－339・340号土坑（配石墓）

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
1	D-339・340 土	深鉢	普通	砂粒混入	胴部破片	体部下半は無文。上半は縄文を充填した後、棒状工具による4条の横位沈線をめぐらせる。横線下部に刺突痕あり。	後期
2	D-339・341 土	深鉢	普通	砂粒混入	胴部破片	体部は無文。渦巻き状の沈線を施し、上部は2条以上の平行沈線をめぐらせる。	堀之内？

第358表　二軒在家原田Ⅱ遺跡縄文時代配石墓出土遺物観察表（3）

溝跡

A区M－1号溝

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
1	M-1 溝2区	深鉢	普通	砂粒・白色鉱物混入	口縁部破片	4単位波状口縁か。波頂部下に環状の突起を有す。外面、縄文施文後、半載竹管状工具による平行沈線を横位・斜位・弧状に施す。	諸磯b
2	M-1 溝	深鉢	良好	砂粒混入	口縁部破片	隆帯と沈線により口縁部文様帯を楕円形に区画し、内側に斜位短沈線を施す。内面、口縁下に鈍い稜を有す。	加曽利E
3	M-1 溝	深鉢	普通	砂粒混入	胴部破片	頸部、横位沈線を配す。胴部、棒状工具による平行沈線により扇形等に区画し、内側に縄文を施す。	後期？
4	M-1 溝NO1	深鉢	普通	砂粒・褐色礫混入	胴部～底部1/3	遺存部上半、丸棒状工具による弧状・U字状等沈線を施す。下半は無文。遺存部上半は脆弱である（被熱の影響か？）。	称名寺
5	M-1 溝5区	土製耳飾	普通	砂粒・白色鉱物・褐色礫混入	ほぼ完存	両面とも渦巻文。ナデ。	中期後葉

A区M－2号溝

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
1	M-2 溝1区	深鉢	普通	砂粒・植物繊維混入	口縁部破片	口縁下、半載竹管状工具押し引きによる間隔の広い爪形文を2条配す。遺存部中位以下は縄文施文。	有尾・黒浜
2	M-2 溝1区	深鉢	普通	砂粒・植物繊維混入	口縁部破片	波状口縁か。口縁に沿って縦位短沈線状刺突を施す。以下、縄文施文。	有尾・黒浜
3	M-2 溝1区	深鉢	普通	砂粒混入	胴部破片	縄文施文後、半載竹管状工具にて斜格子文を描く。	諸磯b
4	M-2 溝1区	深鉢	普通	砂粒・白色鉱物混入	胴部破片	波状口縁か。遺存部においては、半載竹管状工具押し引きによる爪形文を弧状・渦巻き状に配す。	諸磯b
5	M-2 溝2区	深鉢	普通	砂粒混入	口縁部破片	口縁端部は波状を呈し、「く」の字に屈曲する。外面は縄文施文後、縦位・横位・渦巻き状に浮線文を配す。	諸磯b
6	M-2 溝1区	深鉢	普通	砂粒・白色鉱物・黒色鉱物混入	胴部破片	縄文施文後、2条あるいは4条単位の横位浮線文を配す。	諸磯b
7	M-2 溝2区	小型深鉢	普通	砂粒混入	口縁部～胴部1/5	口唇部に刻み目を施す。外面、縄文を施した後、口縁下から胴部にかけて1条ないし2条単位の横位浮線文を配す。	諸磯b
8	M-2 溝2区	深鉢	普通	砂粒混入	口縁部破片	口縁下、半載竹管状工具により連弧文状の沈線を施す。以下、横位沈線を配す。	諸磯b
9	M-2 溝3区	深鉢	普通	砂粒・白色鉱物混入	胴部～底部1/3	外面は単節縄文で施文した後、遺存部上部に横位の平行沈線を巡らす。	諸磯？
10	M-2 溝1区	深鉢	普通	砂粒混入	底部破片	外面、縄文施文。底部、焼成後穿孔か。	諸磯？

第359表　二軒在家原田Ⅱ遺跡縄文時代溝跡出土遺物観察表（1）

列石

A区1号列石

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
1	1区一括	鉢	普通	砂粒混入	口縁部破片	口縁下、屈曲部に横位沈線を巡らす。	後期
2	2区一括	深鉢	普通	砂粒混入	胴部破片	櫛歯状工具による縦位・斜位平行沈線を施す。	後期
3	3区一括	深鉢	良好	砂粒・雲母混入	口縁部破片	口端部は強く内傾し、上面は平坦となる。端面に沈線を2条配す。外面、口縁部は斜位沈線を施し、頸部に扁平な横位波状隆帯を巡らす。D-314 土1に酷似する。	中期後葉（曽利系？）
4	4区一括	鉢	普通	砂粒・白色鉱物混入	口縁部破片	口縁下、半截竹管状工具を押圧した横位隆帯と、上下に沈線を配す。頸部、棒状工具による沈線で連弧文状に区画し、一部に縄文を施す。	堀之内？
5	4区一括	浅鉢	良好	砂粒・黒色鉱物混入	口縁部破片	口縁下の無文帯に円孔文を配す。遺存部中位以下、横位沈線により区画し、内側に縄文を施す。	加曽利B
6	4区一括	鉢？	良好	砂粒・黒色鉱物混入	口縁部破片	口縁および胴部は底部から急角度で立ち上がり、屈曲部に稜を有す。内面、遺存部下位に沈線を巡らす。	後期
7	6区一括	鉢	普通	砂粒混入	口縁部破片	外面、口縁下屈曲部に横位沈線を巡らす。胴部、5条以上の横帯文を配し、一部に区切り文を施す。	加曽利B
8	6区一括	鉢	普通	砂粒・角閃石混入	口縁部破片	遺存部中位、棒状工具による横位平行沈線を巡らせた後、一部に同工具による刺突を施す。	加曽利B
9	6区一括	深鉢	普通	砂粒・角閃石混入	口縁部破片	口縁は波状を呈すか。遺存部中位から下位にかけて5条以上の横帯文を配す。内面。口縁に沿って横位沈線を巡らす。	加曽利B
10	7区一括	深鉢	普通	砂粒・雲母混入	口縁部破片	波状口縁の波頂部、断面逆台形の突起を付す。突起の端面は円形で、円孔文を配す。外面、口縁に沿って沈線と、刻み目を施した隆帯を配す。胴部、横位・弧状に沈線を施し区画、連結部にS字状沈線を描く。一部区画内に縄文施文。	加曽利B
11	7区一括	深鉢	普通	砂粒・片岩・雲母混入	口縁部破片	口縁は波状を呈すか。波頂部に円形貼付文を付し、上面は棒状工具による短沈線を施す。胴部、4条以上の横帯文を配し、一部に区切り文を付す。横帯文間は縄文施文。	加曽利B
12	7区一括	深鉢	普通	砂粒・雲母混入	口縁部破片	口縁は「く」の字に内傾し、端部に小突起を有する。外面、2条の沈線にて区画し、内側に縄文を施す。	加曽利B
13	7区一括	深鉢	普通	砂粒混入	口縁部破片	口縁端部は突起を有し、円孔文を施す。	加曽利B
14	7区一括	土偶	良好	砂粒・石英・角閃石混入	顔面破片	隆帯による眉・鼻部表現→爪形文で眼部を表現。表裏面ともにナデ調整。重さ〈13.55〉g。	後期前葉
15	9区一括	深鉢	普通	砂粒・雲母混入	口縁部破片	口唇部に刻み目を施す。外面、横帯文を配し、一部区画内に縄文を施す。横帯文間を繋ぐようにS字状の沈線を描く。内面、口縁部下に横位沈線を巡らす。	加曽利B
16	9区一括	深鉢	普通	砂粒・黒色鉱物混入	口縁部破片	遺存部中位に横位沈線を配し、以下に斜格子文を施す。内面、口縁直下に横位沈線施文。	後期
17	10区一層	深鉢	普通	砂粒混入	口縁部破片	遺存部中位、横位沈線により区画し、内側に縄文を施す。内面、口縁に沿って沈線を巡らす。	堀之内2
18	10区一層	深鉢	良好	砂粒混入	底部破片	遺存部においては無文。底面に網代痕。	後期
19	11区一括	深鉢	普通	砂粒・角閃石混入	口縁部破片	口縁端部は突起を有し、円孔文を施す。外面、円形貼付文を付し、上面に斜位沈線を配す。	加曽利B
20	12区一括	深鉢	普通	砂粒・角閃石混入	胴部破片	棒状工具による沈線にて幾何学文状に胴部を区画し、内側に磨消縄文を施す。	堀之内2
21	12区一括	深鉢	普通	砂粒混入	胴部破片	遺存部上～中位にかけて、棒状工具による斜格子文を施した後、横位沈線を配す。	堀之内
22	12区一括	浅鉢	普通	砂粒・角閃石混入	口縁部破片	外面は無文。内面、口端部に8の字状円孔文を付す。胴部は横帯文を配し、一部に区切り文を施す。	加曽利B
23	12区一括	鉢	普通	砂粒混入	胴部破片	2条1組の縦位隆帯により胴部を区画後、左右に蕨手状の隆帯を付す。	後期？
24	13区一括	鉢	普通	砂粒混入	口縁部破片	口唇部に刻み目を有す。外面、横帯文を施し、一部に区切り文を配す。内面、口縁下の屈曲部に横位刺突文を施す。以下、胴部に横位沈線を配す。	加曽利B
25	13区一括	浅鉢	普通	砂粒・褐色礫混入	口縁部破片	外面、屈曲部と遺存部下位に横位沈線を配す。内面、屈曲部以下に棒状工具による横位沈線を3条以上配す。	加曽利B
26	14区一括	注口土器	普通	砂粒混入	口縁部破片	口端部は刻み目と一部、8の字貼付文を付した稜を有する。胴部は櫛歯状工具による弧状・入り組み状沈線を配す。	加曽利B

第360表　二軒在家原田Ⅱ遺跡縄文時代列石出土遺物観察表（1）

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
27	15 区一括	鉢	普通	砂粒・角閃石混入	口縁部破片	波状口縁の端部に沿って、棒状工具による沈線を施す。沈線は波頂部下にて収束し、さらに円形刺突を配す。胴部は無文。	堀之内
28	16 区一括	鉢	普通	砂粒・黒色鉱物混入	胴部破片	遺存部中位、沈線により半月形に区画し、内側に縄文を施す。	堀之内 2
29	16 区一括	深鉢	普通	砂粒・雲母混入	胴部破片	遺存部上位、刻み目を施した横位隆帯と、上下に沈線を並行して巡らす。以下、沈線による楕円形区画、横位沈線を配す。遺存部下位は縄文施文。内面、上位に横位沈線を配す。	加曽利 B
30	17 区一括	浅鉢	普通	砂粒・雲母混入	口縁部破片	口縁は波状を呈すか。口唇部に刻み目を施す。外面、口端部に弧状隆帯と沈線を配す。遺存部下位は横位平行沈線を施す。内面、屈曲部以下に棒状工具による横位沈線を 4 条以上配す。	加曽利 B
31	17 区一括	鉢	普通	砂粒混入	底部破片	遺存部においては無文。底部は上げ底状を呈し、体部は大きく開く。底面に網代痕。	後期
32	19 区一括	鉢？	良好	砂粒混入	口縁部破片	遺存部中位に稜を有す。稜以上、棒状工具による横位沈線にて区画し、内側に斜位短沈線を施す。稜以下、横位沈線を配し、一部に渦巻き文を施す。	後期前葉
33	一括	深鉢	良好	砂粒混入	口縁部破片	口縁端部および遺存部中位に横位圧痕隆帯を配し、口縁部を区画する。区画内は棒状工具による格子目文を描く。	加曽利 B
34	一括	深鉢	普通	砂粒混入	口縁部破片	遺存部においては無文。内外面口縁直下に横位沈線を 1 条配す。	加曽利 B
35	一括	鉢	普通	砂粒混入	口縁部破片	口端部は短く内傾し、屈曲部と口唇部に刻み目を配す。胴部は棒状工具による横位平行沈線を施す。内面口縁直下に稜を有す。	加曽利 B
36	一括	鉢	普通	砂粒・角閃石混入	口縁部破片	胴部に棒状工具による横帯文を配す。口縁は短く内傾し、屈曲部に横位沈線と刻み目を配す。	加曽利 B
37	一括	鉢	良好	砂粒混入	口縁部破片	口唇部に刻み目を施す。遺存部中位に稜を有し、以下に縄文を施す。外面は良く研磨する。	後期
38	一括	浅鉢	普通	砂粒混入	胴部破片	遺存部上位に横帯文を配し、区画内に縄文を施す。一部、横帯文を跨ぐように S 字状の仕切り線を配す。	加曽利 B
39	一括	深鉢	良好	砂粒混入	口縁部破片	口縁端部の突起。側面および内面に円孔を施す。さらに、S 字文あるいは渦巻き文を描いた貼付文を頂部と外面に付す。	加曽利 B
40	一括	深鉢	普通	砂粒混入	口縁部破片	口縁端部は突起を有し、円孔文を施す。口縁下に S 字状の隆帯と横位沈線を配す。内面、波頂部下に円孔を施し、口縁に沿って 2 条の沈線を巡らす。	加曽利 B
41	一括	鉢	普通	砂粒・角閃石混入	口縁部破片	口端部に円孔文。遺存部においては、胴部に弧状沈線を施す。	加曽利 B

第 361 表　二軒在家原田Ⅱ遺跡縄文時代列石出土遺物観察表（2）

各区一括

A 区

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
1	古墳西サブトレ	深鉢	普通	砂粒・角閃石混入	口縁部破片	隆帯により口縁部文様帯を区画し、内側に棒状工具による刺突を施す。胴部、櫛歯状工具による縦位沈線を配す。	中期
2	A 区遺構外（K-1 号墳西サブトレ	深鉢	良好	砂粒・白色鉱物混入	口縁～胴部 1/2	遺存部は無文。平口縁でやや内傾する。外面にスス付着。	後期

B 区

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
1	一括	深鉢	良好	砂粒混入	胴部破片	棒状工具による横位・縦位沈線により区画し、一部の区画内に単節 RL 縄文充填。内面遺存部最上位に横位沈線を巡らす可能性あり。	加曽利 B1

G 区

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
1	H-3 住ベルト一括	鉢	普通	砂粒混入	胴部破片	棒状工具による J 字状・斜位沈線にて胴部を区画し、内側に縄文を施す。	堀之内 1

第 362 表　二軒在家原田Ⅱ遺跡縄文時代一括遺物観察表（1）

H区

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
1	H-4 住 P-3	鉢	良好	砂粒・雲母混入	胴部破片	外面、良く研磨した後、遺存部中位と下位に刻み目を施した横位隆帯を2条配す。	堀之内 2
2	H-1 住 3 区ﾍﾞﾙﾄ	深鉢	普通	砂粒混入	口縁部破片	遺存部上位､横帯文を配し一部に区切り文を施す。以下、楕円形区画を配し、内側に斜位短沈線を描く。	加曽利 B1
3	H-6 住 2 区1層	鉢	良好	砂粒混入	口縁部破片	口唇部はほぼ水平で、屈曲部に刻み目を施す。外面は良く研磨し、遺存部上位に 5 条の横帯文を配し、区画内に縄文を施す。一部に区切り文を描く。	加曽利 B1
4	H-1 住 1 区 1 層	浅鉢	良好	砂粒・雲母混入	口縁部破片	口縁端部は短く屈曲する。外面、4 条の横帯文を配す。内面、口縁下に刻み目を施した横位隆帯を配し、以下、5 条の横帯文を巡らす。内外面共に良く研磨する。	加曽利 B
5	H-6 住 2 区1層	鉢？	普通	砂粒混入	口縁部破片	頸部下に 3 条 1 組の横位鎖状沈線を配す。	後期
6	H-6 住 2 区1層	深鉢	普通	砂粒混入	胴部破片	遺存部上位から中位、横位沈線を 3 条配し一部に区切り文を施す。区画内に縄文施文。内外面共に遺存部上位にスス付着。	加曽利 B1
7	H-2 住 2 区 2 層	注口土器	良好	砂粒混入	注口部破片	遺存部においては無文。良く研磨する。	後期前葉
8	J-46 住 D-2 土	注口土器	良好	砂粒混入	注口部破片	遺存部下位、ボタン状貼付文と棒状工具による渦巻き状沈線を配す。	後期前葉
9	J-46 住 2 区 1 層	注口土器	良好	砂粒混入	注口部破片	遺存部においては無文。良く研磨する。	後期前葉

調査区一括

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
1	一括	深鉢	普通	砂粒・植物繊維混入	口縁部破片	遺存部、口縁は「几」字状を呈す。口縁形状を縁取るように、加えて X 字状にも撚糸文を施す。	有尾・黒浜
2	一括	深鉢	普通	砂粒・植物繊維混入	口縁部破片	口端部、櫛歯状工具による縦位刺突を巡らせる。遺存部中～下位、同工具による連続刺突を縦位・弧状に配す。	有尾・黒浜
3	一括	深鉢	普通	砂粒・植物繊維混入	口縁部破片	外面、遺存部においては縄文施文後、口縁直下に棒状工具による横位波状文を 4 条配す。内面、口縁部は粘土紐を横位に付し、稜を形成する。	有尾・黒浜
4	一括	深鉢	普通	砂粒・植物繊維混入	胴部破片	遺存部中位から下位にかけて櫛歯状工具による斜位列点状刺突文と、並行して半截竹管状工具押し引きによる爪形文を施す。	有尾・黒浜
5	一括	深鉢	普通	砂粒・植物繊維混入	底部破片	外面、遺存部においては縄文を施す。	有尾・黒浜
6	一括	深鉢	普通	砂粒・雲母混入	胴部破片	半歳竹管状工具押し引きによる爪形文を横位・木葉状などに配し、一部区画内に縄文を施文する。	諸磯 b
7	一括	深鉢	普通	砂粒混入	胴部破片	縄文施文後、弧状・円状に浮線文を施す。	諸磯 b
8	一括	深鉢	良好	砂粒・褐色礫混入	胴部破片	顕著に外反する胴部上位片と想定される。遺存部最上位に於いて若干内屈する。内屈する付近に、半截竹管状工具を横方向へ抉るよう移動させ、隆起部分の反対側を同工具で刺突することによる列点状を呈する刺突文を巡らす。その上下には、半截竹管状工具による横位平行沈線を施す。遺存部下位は、半截竹管状工具による平行沈線を縦位直線状・弧状に施し区画する。区画内には同工具による横位・綾杉状沈線を施す。さらに、一部にボタン状貼付文を配す。	諸磯 c
9	一括	深鉢	普通	砂粒混入	口縁部破片	沈線と隆帯により口縁部文様帯を横長半月形に区画する。区画内は縦位短沈線を配し、区画連結部は渦巻き状の貼付文を付す。	加曽利 E
10	一括	深鉢	普通	砂粒混入	胴部破片	縦位隆帯により胴部を区画後、斜位短沈線を左右に施す。	加曽利 E
11	一括	深鉢	普通	砂粒・角閃石混入	胴部破片	隆帯と沈線により口縁部文様帯を半月形に区画するものと思われる。区画内は縦位沈線施文。胴部、区画連結部から∩字状沈線を垂下させ、左右に斜位短沈線を配す。	加曽利 E
12	一括	深鉢	普通	砂粒混入	胴部破片	遺存部中位、横位の平行沈線を 3 条巡らせ、一部から弧状沈線と刺突文を垂下させる。胴部は縄文施文。	加曽利 E
13	一括	深鉢	普通	砂粒混入	胴部破片	遺存部においては無節縄文を施す。右端に縦位隆帯の剥離痕あり。	加曽利 E
14	一括	深鉢	普通	砂粒混入	胴部破片	遺存部においては撚り糸施文後、弧状・直線状沈線により胴部を十字状に区画する。一部沈線は蕨手状の端部を有す。	中期

第 363 表　二軒在家原田Ⅱ遺跡縄文時代一括遺物観察表（2）

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
15	一括	鉢	普通	砂粒混入	胴部破片	遺存部上位に横位隆帯を巡らせた後、上端に先の尖った棒状工具による刺突を施す。中位から下位にかけて、同工具による刺突を全面に施す。口縁部文様帯の一部か。	中期
16	一括	鉢	普通	砂粒混入	口縁部破片	遺存部上位に横位隆帯を２条巡らせ、間に結節浮線文を施す。中位から下位にかけて斜位短沈線を配し、一部に弧状隆帯を施す。口縁部文様帯の一部か。	中期
17	一括	深鉢	普通	砂粒混入	胴部破片	遺存部においては、２条１組の沈線にて胴部を弧状に区画し、内側に縄文を施す。	加曽利Ｅ～称名寺
18	一括	深鉢	普通	砂粒混入	口縁部破片	遺存部中位に横位圧痕隆帯を配す。	称名寺
19	一括	深鉢	普通	砂粒混入	胴部破片	棒状工具による沈線にて胴部をＵ字状に区画する。	称名寺
20	一括	深鉢	普通	砂粒混入	胴部破片	棒状工具による縦位沈線により胴部を区画し、内側に縦位刺突を施す。	称名寺
21	一括	深鉢	普通	砂粒混入	口縁部破片	沈線により横位・入り組み状に区画した後、一部区画内に縄文を施す。口縁部文様帯の一部か。	堀之内２
22	一括	鉢	普通	砂粒・白色鉱物混入	胴部破片	棒状工具による横位沈線にて胴部を区画し、一部に縄文を施す。遺存部上位に瘤状の貼付文を付す。	後期前葉
23	一括	深鉢	普通	砂粒混入	口縁部破片	把手破片か。側面に斜位沈線を施し、頸部は横位沈線を配す。上端面は渦巻き状沈線を施す。	堀之内

第 364 表　二軒在家原田Ⅱ遺跡縄文時代一括遺物観察表（３）

古墳時代住居址

H区Ｈ－１号住居址

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
1	H-1 住１区１層	鉢	良好	砂粒・白色鉱物・石英・角閃石混入	ほぼ完存	外面、口縁部ヨコミガキ。体部ナナメミガキ。底部ナデ。内面、口縁部～体部中位ヨコミガキ、下位ナナメミガキ。底部器面剥離のため不明。	古墳前期
2	H-1 住１区１層	S 字甕	普通	砂粒・白色鉱物・黒色鉱物・石英混入	口縁部～胴部破片 1/4	外面、口縁部ヨコナデ。頸部タテハケ後ヨコナデ。胴部下半ナナメハケ後、上半タテハケ→ヨコハケ。内面、口縁部ヨコナデ。頸部ヨコハケ。胴部上半タテナデ後ヨコヘラナデ、指頭圧痕。	古墳前期
3	H-1 住３区ﾍﾞﾙﾄ	S 字甕	普通	砂粒混入	口縁部破片	外面、口縁部ヨコナデ。頸部タテハケ後上位にヨコナデ。内面、ヨコナデ後頸部ヨコハケ。	古墳前期
4	H-1 住３区ﾍﾞﾙﾄ	甕	普通	砂粒・白色鉱物混入	口縁部破片	外面、ヨコナデ後頸部以下縦方向ヘラミガキ。内面、ヨコナデ後横方向ヘラミガキ。	古墳前期
5	H-1 住４区１層	甕	良好	砂粒・白色鉱物・角閃石混入	胴部ほぼ全周	外面、頸部から胴部上位、櫛描簾状文の後波状文。胴部ヨコケズリ後ヨコミガキ。底部ケズリ後ミガキ。櫛描は９本１単位。内面、ヨコナデののちヨコミガキ。	古墳前期
6	H-1 住２区ﾍﾞﾙﾄ	甕	普通	砂粒混入	頸部破片	外面、頸部櫛描簾状文を2段に配す。	古墳前期
7	H-1 住１区１層	台付甕	普通	砂粒・白色鉱物・黒色鉱物混入	脚部破片	内外面共にヘラナデ。	古墳前期
8	H-1 住１区１層	鉢？	普通	砂粒混入	胴部破片	中位、棒状工具による横位沈線にて区画。下部に縄文を施す。内面および破面に赤彩あり。混入品	縄文後期中葉

H区Ｈ－２号住居址

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
1	H-2 住４区１層	鉢	良好	砂粒・白色鉱物・黒色鉱物・石英混入	2/3 残存	外面、口縁部ヨコミガキ。体部ヘラナデ後ヨコミガキ。底部ケズリ。内面、口縁部ヨコナデ後ヨコミガキ。体部～底部ヨコ・ナナメ・タテミガキ。	
2	H-2 住４区１層	高坏	普通	砂粒・白色鉱物・石英・角閃石混入	脚部 3/4		
3	H-2 住ベルト	高坏	普通	砂粒・白色鉱物混入	脚部破片	外面、脚部タテミガキ。内面、ナデ後ミガキ。	古墳前期
4	H-2 住３区１層	高坏	普通	砂粒・黒色鉱物混入	脚部破片	外面、脚部タテミガキ。内面、ナデ後ミガキ。	古墳前期
5	H-2 住１区１層	高坏？	普通	砂粒混入	脚部破片？	外面、脚部タテミガキ後、裾端部ヨコミガキ。内面、脚部ヨコ・ナナメヘラナデ、裾端部ヨコナデ。	古墳前期
6	H-2 住４区１層	壺		砂粒・白色鉱物・石英混入	口縁部ほぼ全周	外面、口縁部ヨコナデ後ヨコミガキ。頸部櫛描簾状文。胴部上位ヨコミガキ。櫛描は６本１単位。内面、口縁部ヨコナデ後ヨコミガキ。胴部上位ユビオサエ。	

第 365 表　二軒在家原田Ⅱ遺跡古墳時代住居址出土遺物観察表（１）

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
7	H-2 住 3 区 1 層	甕	良好	砂粒・白色鉱物・角閃石混入	口縁部～胴部 1/2	外面、口縁部ヨコナデ後櫛描波状文を下から上に右回りに施文。頸部櫛描簾状文を右回りに施文。胴部上位タテケズリ後ヨコナデ後櫛描波状文を上から下へ右回りに施文後胴部中位ヨコミガキ。内面、口縁部ヨコナデ後ヨコミガキ。一部摩耗。胴部ヨコナデ後ヨコミガキ。	
8	H-2 住 4 区 1 層	甕	良好	砂粒・白色鉱物・角閃石混入	口縁部～胴部 2/3	外面、口縁部ヨコナデ後櫛描波状文を右回りに施文。頸部櫛描簾状文を右回りに施文。胴部上位櫛描波状文を右回りに施文後ヨコミガキ。内面、口縁部ヨコナデ後ヨコミガキ。胴部ヨコナデ、ミガキ摩耗。	
9	H-2 住 4 区 1 層	甕	普通	砂粒・白色鉱物・石英混入	口縁部～胴部 1/3	外面、口縁部ヨコナデ、輪積み痕明瞭。頸部～胴部上半ナナメハケ。内面、口縁部ヨコハケ。頸部～胴部上半ヨコ・ナナメヘラナデ。	
10	H-2 住 4 区 1 層	甕	普通	砂粒・黒色鉱物混入	口縁～胴部 2/3	内外面共にヘラケズリ後、斜め・横方向ヘラミガキ。外面口縁に粘土紐接合痕。吉ケ谷式の影響か	古墳前期
11	H-2 住ベルト	甕	良好	砂粒混入	口縁部破片	外面、櫛歯状工具による波状文を 3 段以上施す。粘土輪積痕が顕著に残る。内面、横位ミガキ。	古墳前期
12	H-2 住 4 区 1 層	壺？	良好	砂粒・黒色鉱物混入	口縁部破片	内外面共にナデ。口縁端部は折り返す。内面頸部は横方向ヘラミガキ。	古墳前期
13	H-2 住ベルト	甕	普通	砂粒・白色鉱物混入	口縁部破片	外面、口端部粘土紐を付け足し、9 本以上 1 単位の波状文を施す。接合痕を残す。内面、ヨコナデ。	古墳前期
14	H-2 住 3 区 1 層	甕	普通	砂粒・白色鉱物混入	口縁部破片	外面、9 本 1 単位の波状文を 2 段に施す。内面、ヨコナデ。	
15	H-2 住 4 区 1 層	甕？	普通	砂粒・黒色鉱物混入	口縁部破片？	外面、タテミガキ後口端部ヨコミガキ。内面、ヨコミガキ。	
16	H-2 住 4 区 1 層	甕	良好	砂粒混入	頸部破片	外面、上位に櫛歯状工具による簾状文。中位から下位は 3 段以上の波状文を施す。内面、横位ミガキ。	古墳前期
17	H-2 住ベルト	甕	普通	砂粒混入	胴部破片	外面、櫛歯状工具による波状文を下から上方向に 3 段以上配す。内面、ヨコナデ。	
18	H-2 住 1 区 1 層	台付甕	普通	砂粒混入	脚部破片	内外面ともに斜め方向ナデ。	
19	H-2 住 4 区 1 層	ミニチュア土器	普通	砂粒混入	口縁～底部 1/2	手付くねにて成形した後、棒状工具で内外の器壁を整形する。外面にスス付着。縄文の混入品	縄文

H区H－３号住居址

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
1	H-3 住 P-4	高坏	良好	砂粒・白色鉱物・石英・角閃石混入	脚裾部のみ欠損	外面、坏部ナデ後ヨコミガキ。脚部タテナデ。内面、坏部ヨコミガキ。脚部ヨコヘラナデ。	古墳前期
2	H-3 住 8 区 1 層	高坏？	普通	砂粒・黒色鉱物混入	坏部破片	外面、ナデ後ヨコミガキ。内面、ヨコミガキ。	古墳前期
3	H-3 住 8 区 1 層	高坏	普通	砂粒・白色鉱物混入	坏部 1/2	内外面共に横～斜め方向ヘラミガキ。	古墳前期
4	H-3 住 8 区 1 層	壺	普通	砂粒・白色鉱物・角閃石混入	口縁部～肩部 2/3	外面、口縁部タテ・ナナメヘラナデ→ヨコミガキ。胴部上位ナデ→ヨコ・ナナメミガキ。内面、口縁部ヨコナデ→ヨコ・ナナメミガキ。胴部上位ヨコ・ナナメヘラナデ。	古墳前期
5	H-3 住 P-1	甕	普通	砂粒・白色鉱物・石英・角閃石混入	ほぼ完存	外面、口縁～頚部タテ・ナナメハケ→ 8 本歯の櫛歯状工具による 3・4 連止めの簾状文を施文（時計回り）→同様の工具で横位波状文を施文（上→下、時計回り）。胴部ヨコヘラケズリ→タテ・ナナメミガキ。内面、口縁部ヨコ・ナナメミガキ。胴部剥落。	古墳前期
6	H-3 住 P-7	甕	良好	砂粒・白色鉱物・角閃石混入	口縁部～胴部ほぼ全周	外面、口縁部ヨコナデ後、櫛描波状文を下から上に右回りに施文。胴部上位ヨコナデ後、櫛描波状文を上から下に左回りに施文。櫛描は 8 本 1 単位。内面、口縁部ヨコナデ後頸部から胴部上位にかけてヨコミガキ。	古墳前期
7	H-3 住 P-5	甕	良好	砂粒・白色鉱物・角閃石混入	口縁部～胴部ほぼ全周	外面、口縁部ヨコナデ後原体不明の縄文施文。胴部上位ヨコケズリ後中位ヨコミガキ。内面、ヨコナデののちヨコミガキ。	古墳前期
8	H-3 住 P-2	甕	普通	砂粒・白色鉱物・石英混入	口縁部～胴部 1/2	外面、口縁部ヨコナデ、指頭圧痕。胴部ナナメハケ。内面、口縁部ヨコハケ。頸部ヘラナデ。胴部ヨコ・ナナメハケ、一部指頭圧痕。	古墳前期
9	H-3 住 3 区 1 層	台付甕	普通	砂粒・白色鉱物・角閃石混入	脚部破片	外面、縦方向ケズリ後ナデ。内面、ヨコ・ナナメナデ。脚端部横方向ケズリ。	古墳前期
10	H-3 住 8 区 1 層	甕	普通	砂粒・白色鉱物・石英混入	3/4 残存	外面、口縁部はヨコナデ後、櫛描文を下から上へ右回りに施文。胴部上半は縦位櫛描羽状文を右回りに施文、下半はタテミガキ。底部ケズリ。櫛描は 5 本 1 単位。内面、口縁部ヨコミガキ。胴部上位ナナメハケ後ヨコミガキ、中～下位ナナメヘラナデ後。底部ヘラナデ。	弥生中期後半

第 366 表　二軒在家原田Ⅱ遺跡古墳時代住居址出土遺物観察表（２）

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
11	H-3 住 P-3	甕	普通	砂粒・白色鉱物・石英・角閃石混入	上位 1/2	外面、頚部6本歯の櫛歯状工具による3連止めの簾状文を時計回りに施文→口縁・胴部に同様の工具で横位波状文を施文（下→上、反時計回り）。胴部中位はヨコ・ナナメミガキ。口縁部は輪積み痕を残す。内面、口縁部ヨコ・ナナメナデ→口縁～胴部上位ヨコミガキ。胴部中位ナナメミガキ。	弥生後期
12	H-3 住 8 区 1 層	ミニチュア土器	普通	砂粒・黒色鉱物混入	底部破片	手づくね土器。底面ヘラケズリ。	古墳前期
13	H-3 住 5 区 1 層	土製紡錘車	普通	砂粒混入	ほぼ完存	全面ミガキ。重さ 33g	古墳前期
14	H-3 住	磨製石鏃	－		ほぼ完存	凹基無茎。珪質凝片岩製。重さ 2.0 g	
15	H-3 住 8 区 1 層	壺？	良好	砂粒・白色鉱物混入	口縁部破片	口端部、上面平らな突起を付す。突起側面に細かい刺突を横位に施す。混入品	堀之内 2 ～加曽利 B1

H区H－4号住居址

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
1	H-4 住 16 区	鉢	普通	砂粒・白色鉱物・黒色鉱物・石英混入	口縁部と底部の一部欠損	外面、口縁部ヨコナデ。体部ヨコヘラナデ後、上半部ヨコミガキ。内面、口縁部～体部ヨコヘラナデ。甕下半部を製作途中で鉢に変更し、焼成後底部を打ち欠いたもの。	古墳前期
2	H-4 住 16 区	高坏	普通	砂粒・白色鉱物・黒色鉱物・石英混入	坏底部～脚部	外面、脚部ケズリ後タテ・ナナメミガキ、裾部ヨコミガキ。内面、坏底部ミガキ。脚部ヨコ・ナナメヘラナデ、裾部ヨコナデ。	古墳前期
3	H-4 住 16 区	高坏	普通	砂粒・黒色鉱物混入	脚部破片	内外面共にナデ。外面上部に孔を有す。	古墳前期
4	H-4 住 15 区	壺	普通	砂粒・石英・角閃石混入	口縁部～底部 2/3	外面、口縁部タテ・ナナメミガキ後ヨコナデ。胴部タテ・ナナメミガキ。底部ヨコヘラケズリ。内面、口縁部ナナメミガキ。頚～胴部ヨコミガキ。底部付近タテ・ナナメミガキ。	古墳前期
5	H-4 住 13 区	壺	普通	砂粒混入	胴部～底部 2/3	内外面共にナデ後ヘラミガキ。外面上半にスス付着。一部赤彩あり。	古墳前期
6	H-4 住 13 区 D-4 土	甕	良好	砂粒・白色鉱物・角閃石混入	口縁部～胴部 1/4	外面、口縁部ヨコナデ後、櫛描波状文を下から上に右回りに施文。頸部櫛描簾状文を左回りに施文後櫛描波状文を上から下に右回りに施文の後胴部中位タテミガキ。櫛描は 8 本 1 単位。内面、ヨコナデ後ヨコミガキ。	古墳前期
7	H-4 住 13・14 区	甕	良好	砂粒・白色鉱物・黒色鉱物混入	口縁部～頸部破片	外面、ヨコナデ後7本1単位の波状文を下から上方向に3段配す。頸部は簾状文。粘土接合痕が残る。内面、ナデ後横方向ヘラミガキ。	古墳前期
8	H-4 住 12 区	甕	普通	砂粒・白色鉱物・黒色鉱物混入	胴部破片	外面上位から中位、ヨコナデ後 7 本 1 単位の波状文を下から上方向に 3 段配す。内面、ヨコナデ。	古墳前期
9	H-4 住 5 区	甕	普通	砂粒・黒色鉱物混入	胴部破片	外面、ヘラケズリ後、上位から中位ナデ。内面、縦方向ナデ。頸部横方向ミガキ。	古墳前期
10	H-4 住 9 区	台付甕？	普通	砂粒・白色鉱物混入	胴部破片	内外面共にナデ後、内面は横方向、外面は縦方向にヘラミガキ。外面上半に黒斑あり。	古墳前期
11	H-4 住 P-4	台付甕	普通	砂粒・白色鉱物混入	ほぼ完存	内外面共にナデ。外面口縁に粘土紐接合痕が残る。内面に黒斑あり。吉ケ谷式の影響か	古墳前期
12	H-4 住 2 区	台付甕？	普通	砂粒・白色鉱物混入	脚部破片	外面、縦方向ヘラナデ。内面、斜め方向ヘラナデ。	古墳前期
13	H-4 住 13 区	土製紡錘車	良好	砂粒混入	ほぼ完存	全面ミガキ。断面台形。重さ 27 g	古墳前期
14	H-4 住 1 区	土製紡錘車	良好	砂粒・黒色鉱物混入	ほぼ完存	全面ナデ。断面方形。同住居の他の紡錘車と色調（胎土？）が異なる。重さ 27 g	古墳前期
15	H-4 住 14 区	土製紡錘車	良好	砂粒混入	ほぼ完存	全面、特に上面に顕著なナデ。断面方形。重さ 28 g	古墳前期
16	H-4 住 6 区	土製紡錘車	良好	砂粒混入	ほぼ完存	全面ナデ。断面方形。27 g	古墳前期

H区H－5号住居址

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
1	H-5 住 1 区 1 層	鉢	普通	砂粒混入	口縁部～底部 1/4	外面、ナデ後ヘラミガキ。内面、ナデ。	古墳前期
2	H-5 住 1 区 1 層	高坏？	普通	砂粒・黒色鉱物混入	坏部破片	外面、縦方向ヘラケズリ後ナデ。内面、ナデ。	古墳前期
3	H-5 住周溝	甕？	普通	砂粒混入	胴部破片	外面、ヘラミガキ後全面に赤彩。内面、ナデ。	古墳前期
4	H-5 住周溝	注口土器	普通	砂粒混入	注口部破片	遺存部においては無文。	縄文後期

第 367 表　二軒在家原田Ⅱ遺跡古墳時代住居址出土遺物観察表（3）

H区H－6号住居址

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
1	H-6 住 2 区 1 層	深鉢	普通	砂粒・白色鉱物混入	口縁～胴部 1/2	内外面共にミガキ。外面口縁直下に棒状工具による3条の横位平行沈線。口縁はほぼ直立し、端部は同様工具の押圧によりギザギザ状を呈す。内面口縁直下にもやや幅広の横位沈線を2条巡らす。混入品。	堀之内
2	H-6 住 2 区 1 層	鉢	普通	砂粒・白色鉱物混入	口縁～底部 1/2	内外面共に無文。内面口縁直下に棒状工具による横位沈線を配す。混入品。	縄文後期

H区H－7号住居址

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
1	H-7 住 2 区	甕	普通	砂粒・白色鉱物混入	口縁～胴部 1/2	内外面共にナデ後、一部ヘラミガキ。外面口縁端部に明瞭な粘土紐の接合痕を残す。	古墳前期

第 368 表　二軒在家原田Ⅱ遺跡古墳時代住居址出土遺物観察表（4）

古墳

A区K－1号墳

番号	遺構名	器種	成・整形技法の特徴 ①焼成 ②胎土 ③残存			④器形・文様等の特徴／備考	時期
1	K-1 墳周溝 1 区	須恵器甕	良好	－	口縁部破片	外面、格子目タタキ。内面、青海文のタタキ目が残る。頸部に茶褐色の自然釉付着。	古墳後期
2	K-1 墳周溝 3 区	須恵器甕	良好	－	胴部破片	外面、格子目タタキ。内面、青海文のタタキ目が残る。遺存部上位から中位、茶褐色の自然釉付着。	古墳後期

第 369 表　二軒在家原田Ⅱ遺跡古墳出土遺物観察表（1）

西横野中部地区遺跡群

二軒在家原田遺跡・二軒在家原田Ⅱ遺跡
（本文編・第２分冊）

～県営農地整備事業松義中部地区に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書～

発　行　日　　平成29年３月24日
編集・発行　　安中市教育委員会
　　群馬県安中市松井田町新堀245
印　　刷　　上毎印刷工業株式会社
　　群馬県前橋市天川大島町305－１